鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書67

一般国道９号（鳥取西道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅩⅩⅦ

鳥取県鳥取市青谷町

青谷横木遺跡 Ⅱ

AO YA YOKO GI

遺物編

２０１８

鳥取県埋蔵文化財センター

目　次

（Ⅰ：遺構編）

目次
巻頭図版
序
序文
例言
凡例

第１章　調査の経緯
第１節　調査に至る経緯……（濵・坂本）１
第２節　調査の方法と経過……（濵・坂本）２
第３節　調査体制……８

第２章　位置と環境
第１節　地理的環境……（八峠）11
第２節　歴史的環境……（八峠）11

第３章　遺跡の基本層序と概要
第１節　遺跡の地形と古環境……（坂本）15
第２節　基本層序……（坂本）16
第３節　遺跡の概要……（坂本）19

第４章　各調査区の成果
第１節　Ｐ１区の調査……（坂本）27
第２節　10区の調査……（福島・梅村）40
第３節　Ｐ２区の調査……（坂本）49
第４節　９区の調査……（原田）56
第５節　８区・Ｐ３区の調査……（原田）60
第６節　Ｐ４区の調査……（原田）86
第７節　７区・Ｐ５区の調査……（八峠）105
第８節　Ｐ６区の調査……（八峠）126
第９節　６区の調査……（梅村）146
第10節　Ｐ７区の調査……（梅村）149
第11節　Ｐ８区の調査……（梅村）168
第12節　５区の調査……（下江）179
第13節　４区・Ｐ９区の調査……（梅村）187
第14節　Ｐ10区の調査……（坂本）203
第15節　３区の調査……（坂本）231
第16節　２区・Ｐ11区の調査……（坂本）233
第17節　Ｐ12区の調査……（坂本）266
第18節　１区・Ｐ13区の調査……（梅村）294
第19節　Ｐ14区の調査……（原田）310
第20節　Ｐ15区の調査……（下江）324
第21節　Ｐ16区の調査……（下江）344

（Ⅱ：遺物編）

目次
凡例
第５章　出土遺物
第１節　土器・土製品……　……（八峠・梅村）１
第２節　木製祭祀具……（坂本）81
第３節　木製品……（坂本）159
第４節　出土文字資料……（梅村）237
第５節　金属器……（坂本）272
第６節　骨角器……（坂本）276
第７節　玉製品・石器……（坂本）277
遺物観察表……282
報告書抄録

（Ⅲ：自然科学分析・総括編）

目次
凡例
第６章　自然科学分析
第１節　平成25年度放射性炭素年代測定……（株式会社加速器分析研究所）1
第２節　平成25年度放射性炭素年代測定及び樹種同定……（株式会社加速器分析研究所）5
第３節　平成26年度木製品樹種同定……（株式会社吉田生物研究所）23
第４節　平成27年木製品樹種同定……（株式会社東都文化財保存研究所）29
第５節　平成28年度放射性炭素年代測定・樹種・種実同定……（株式会社パレオ・ラボ）30
第６節　平成28年度木製品樹種同定及び塗膜分析……（株式会社東都文化財保存研究所）106
第７節　平成29年度木製品樹種同定及び塗膜･顔料分析（一般社団法人文化財科学研究センター）122
第８節　平成29年度木製祭祀具の放射性炭素年代測定及び樹種同定…（株式会社パレオ・ラボ）137
第９節　土壌分析……（株式会社古環境研究所）151
第10節　青谷横木遺跡出土動物遺存体について　……（門脇隆志）162
第11節　青谷横木遺跡より出土した動物骨のミトコンドリアDNA D-loop領域の塩基配列解析
……（鳥取大学農学部　保坂善真・割田克彦）171
第７章　総　括
第１節　出土土器の検討……（梅村）175
第２節　青谷平野における駅路の構造と特質……（坂本）184
第３節　青谷平野における条里地割の復元……（坂本）206
第４節　木製祭祀具からみた律令祭祀の特徴……（坂本）212
第５節　木簡……（奈良文化財研究所　渡辺晃宏）227
第６節　新発見の女子群像～鳥取・青谷横木遺跡出土の板絵～……（百橋明穂）244
第７節　総　括……（坂本）254
報告書抄録

（Ⅳ：写真図版編）

目次
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第363図　須恵器器種分類図 …… 2
第364図　土師器器種分類図 …… 4
第365図　P１区溝１・Ⅳ層相当層出土土器　5
第366図　P１区Ⅴ～Ⅶ層相当層出土土器 … 6
第367図　10区礫包含層出土土器 …… 7
第368図　10区礫包含層(下層)出土土器 …… 8
第369図　10区礫包含層(下層)・条里１出土土器(３) …… 9
第370図　10区条里２・包含層出土土器 ……10
第371図　P２区Ⅳ層出土土器 ……10
第372図　P２区Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ層相当層出土土器 ……12
第373図　P２区Ⅷ・Ⅸ層相当層出土土器 …13
第374図　９区出土土器 ……14
第375図　P３区・８区出土土器 ……14
第376図　P４区出土土器 ……15
第377図　７区・P５区条里14・15・盛土７出土土器 ……16
第378図　７区・P５区盛土8・溝5出土土器　17
第379図　７区・P５区土坑４出土土器 ……17
第380図　７区・P５区出土土器 ……18
第381図　P６区盛土17・15・11、河道６出土土器 ……19
第382図　P６区盛土18(新・古段階)、包含層出土土器 ……20
第383図　６区出土土器 ……21
第384図　P７区道路１改修土①・改修土②出土土器 ……21
第385図　P７区道路１改修土③、構築当初土出土土器 ……22
第386図　P７区道路１盛土内出土土器 ……23
第387図　P７区道路１側溝出土土器 ……23
第388図　P７区道路１道路外盛土出土土器　24
第389図　P７区溝８出土土器 ……25
第390図　P７区河道８・盛土20・河道６(上層)出土土器 ……26
第391図　P７区河道６(下層)出土土器 ……27
第392図　P７区河道９、包含層(Ⅲ・Ⅳ層)出土土器 ……28
第393図　P７区包含層(Ⅶ・Ⅸ層)出土土器　29
第394図　P８区道路１、道路１道路外盛土、条里22・23出土土器 ……31
第395図　P８区包含層出土土器(１) ……32
第396図　P８区包含層出土土器(２) ……33
第397図　P８区包含層出土土器(３) ……34
第398図　５区出土土器 ……35
第399図　P９区道路１改修土①・②出土土器(１) ……36
第400図　P９区道路１構築当初土出土土器　37
第401図　P９区道路１道路外盛土出土土器　38
第402図　P９区条里25出土土器 ……38
第403図　P９区河道10出土土器 ……39
第404図　P９区河道６出土土器 ……40
第405図　P９区河道11出土土器 ……41
第406図　P９区河道12、包含層出土土器 …42
第407図　P10区第４・５次盛土出土土器 …43
第408図　P10区道路１第２次盛土出土土器(１) ……44
第409図　P10区道路１第２次盛土出土土器(２) ……45
第410図　P10区道路１第１次盛土敷葉・敷粗朶層出土土器 ……46
第411図　P10区道路１第１次盛土出土土器　47
第412図　P10区道路１第１次盛土最下層出土土器 ……48
第413図　P10区道路１盛土内出土土器 ……48
第414図　P10区道路１側溝出土土器 ……49
第415図　P10区道路１道路外盛土出土土器　49
第416図　P10区河道６・13出土土器 ……50
第417図　P10区土坑6、盛土25・26出土土器 50
第418図　P10区土坑７出土土器 ……51
第419図　P10区出土土器 ……52
第420図　P11区道路１第４・５次盛土出土土器 ……54
第421図　P11区道路１第１・３次盛土出土土器 ……55
第422図　P11区道路１側溝出土土器 ……56
第423図　P11区道路１道路外盛土出土土器　56
第424図　P11区条里・盛土遺構出土土器 …56
第425図　P11区河道16出土土器 ……57
第426図　P11区河道14出土土器 ……58
第427図　P11区河道６出土土器(１) ……59

第428図　P11区河道６出土土器（２）　……60
第429図　P11区河道６出土土器（３）　……61
第430図　P11区河道15出土土器　……61
第431図　P11区盛土28出土土器　……62
第432図　P11区包含層出土土器　……63
第433図　２区道路１出土土器　……64
第434図　２区道路１側溝出土土器（１）　……65
第435図　２区道路１側溝出土土器（２）　……66
第436図　２区道路１外盛土出土土器　……66
第437図　２区包含層出土土器　……66
第438図　P12区道路１、道路１第１次、４・５次盛土出土土器　……67
第439図　P12区道路１側溝出土土器　……68
第440図　P12区道路１道路外盛土・条里36出土土器　……68
第441図　P12区河道６上層出土土器　……69
第442図　P12区河道６下層出土土器（１）　…70
第443図　P12区河道６下層出土土器（２）　…71
第444図　P12区河道18・溝12出土土器　……71
第445図　P12区包含層出土土器　……71
第446図　P13区出土土器　……72
第447図　P14区道路１出土土器　……73
第448図　P14区道路１外盛土、河道６出土土器　……74
第449図　P15区盛土32、河道６、丸木舟、包含層出土土器　……75
第450図　P15区包含層出土土器　……76
第451図　P16区出土土器　……76
第452図　P16区包含層出土土器（１）　……77
第453図　P16区包含層出土土器（２）　……77
第454図　製塩土器　……78
第455図　土製品（１）　……79
第456図　土製品（２）　……80
第457図　土製品（３）　……80
第458図　出土木製祭祀具組成　……81
第459図　人形分類図　……83
第460図　馬形分類図　……84
第461図　舟形分類図　……86
第462図　刀形分類図　……86
第463図　斎串分類図　……88
第464図　P1区溝・Ⅳ・Ⅴ層出土木製祭祀具 90
第465図　P1区Ⅳ層出土木製祭祀具　……91
第466図　10区条里１・Ⅳ層出土木製祭祀具 92
第467図　10区条里２出土木製祭祀具　……92
第468図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（１）　……93
第469図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（２）　……94
第470図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（３）　……95
第471図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（４）　……96
第472図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（５）　……97
第473図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（６）　……98
第474図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（７）　……98
第475図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（８）　……99
第476図　P2区Ⅳ層出土木製祭祀具　…… 100
第477図　9区Ⅳ層出土木製祭祀具（１）…… 101
第478図　8区Ⅳ層出土木製祭祀具（２）…… 101
第479図　8区Ⅳ層出土木製祭祀具…… 102
第480図　P3区条里5・条里6・盛土２出土木製祭祀具　…… 103
第481図　P3区条里8・9・10出土木製祭祀具104
第482図　P3区条里8・9出土木製祭祀具 … 105
第483図　P3区Ⅳ層出土木製祭祀具　…… 106
第484図　P3区Ⅴ・Ⅵ層出土木製祭祀具 … 107
第485図　P4区条里12出土木製祭祀具 …… 108
第486図　P4区条里13出土木製祭祀具 …… 109
第487図　Ｐ４区条里11・畦畔8出土木製祭祀具　…… 110
第488図　Ｐ４区Ⅲ・Ⅳ層出土木製祭祀具　111
第489図　Ｐ４区Ⅳ層出土木製祭祀具　…… 112
第490図　Ｐ４区Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層出土木製祭祀具112
第491図　７区条里14・15・盛土6出土木製祭祀具　…… 113
第492図　７区条里14・15、盛土６出土木製祭祀具　…… 114
第493図　７区Ⅳ層出土木製祭祀具　…… 114
第494図　Ｐ５区条里14出土木製祭祀具　… 115
第495図　Ｐ５区条里15出土木製祭祀具　… 115
第496図　Ｐ５区条里14・15出土木製祭祀具 116
第497図　Ｐ５区盛土7・9出土木製祭祀具　117
第498図　Ｐ５区Ⅳ層出土木製祭祀具　…… 117
第499図　Ｐ６区盛土11出土木製祭祀具　… 118
第500図　Ｐ６区条里16出土木製祭祀具　… 119
第501図　Ｐ６区盛土14・15出土木製祭祀具 120
第502図　Ｐ６区盛土17出土木製祭祀具　… 120
第503図　Ｐ６区河道6出土木製祭祀具 …… 120
第504図　Ｐ６区Ⅲ～Ⅳ・Ⅳ・Ⅵ～Ⅴ層出土木製祭祀具　…… 121
第505図　Ｐ６区Ⅴ層出土木製祭祀具　…… 122
第506図　Ｐ７区道路1出土木製祭祀具 …… 123
第507図　Ｐ７区条里20・道路1道路外盛土出土木製祭祀具　…… 124

第508図　Ｐ７区溝８出土木製祭祀具 …… 125
第509図　Ｐ７区盛土20・河道６出土木製祭祀具 …… 126
第510図　Ｐ７区Ⅳ層・Ⅴ層出土木製祭祀具 126
第511図　Ｐ８区道路1出土木製祭祀具 …… 127
第512図　Ｐ８区条里21・22出土木製祭祀具 127
第513図　Ｐ８区溝10出土木製祭祀具 …… 128
第514図　Ｐ８区Ⅳ層出土木製祭祀具 …… 128
第515図　Ｐ８区Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ層出土木製祭祀具128
第516図　5区条里25、Ⅳ～Ⅴ層出土木製祭祀具 …… 129
第517図　Ｐ９区道路1出土木製祭祀具 …… 130
第518図　Ｐ９区道路1道路外盛土出土木製祭祀具 …… 131
第519図　Ｐ９区条里25出土木製祭祀具 … 132
第520図　Ｐ９区河道６出土木製祭祀具 … 132
第521図　P10区道路１出土木製祭祀具 … 133
第522図　P10区道路１第１次盛土敷葉・敷粗朶層出土木製祭祀具 …… 134
第523図　P10区道路1・道路1側溝出土木製祭祀具 …… 134
第524図　P10区道路1・道路1道路外盛土出土木製祭祀具 …… 135
第525図　P10区条里27・28・29出土木製祭祀具 …… 136
第526図　P10区河道６・13・14出土木製祭祀具 …… 137
第527図　P10区河道６出土木製祭祀具 … 138
第528図　P10区Ⅳ層・Ⅴ層出土木製祭祀具 138
第529図　２区出土木製祭祀具 …… 138
第530図　P11区道路１・道路１側溝出土木製祭祀具 …… 139
第531図　P11区道路１・道路外盛土出土木製祭祀具 …… 139
第532図　P11区河道６出土木製祭祀具 … 140
第533図　P11区河道６・14出土木製祭祀具 141
第534図　P11区河道６・14出土木製祭祀具 142
第535図　P11区河道６・14出土木製祭祀具 143
第536図　P11区Ⅴ層以下・山側礫混粘土・包含層出土木製祭祀具 …… 144
第537図　P12区道路１出土木製祭祀具 … 145
第538図　P12区道路１道路外盛土出土木製祭祀具 …… 146
第539図　P12区条里35・36出土木製祭祀具 146
第540図　P12区条里37出土木製祭祀具 … 147
第541図　P12区盛土29・30出土木製祭祀具 147
第542図　P12区河道14出土木製祭祀具 … 148
第543図　P12区河道14出土木製祭祀具 … 149
第544図　P12区河道６出土木製祭祀具 … 149
第545図　P12区Ⅳ層出土木製祭祀具 …… 150
第546図　P12区Ⅴ層出土木製祭祀具 …… 151
第547図　P13区道路１出土木製祭祀具 … 151
第548図　P13区条里38出土木製祭祀具 … 151
第549図　P13区盛土31出土木製祭祀具 … 151
第550図　P13区河道６出土木製祭祀具 … 152
第551図　P13区Ⅳ層出土木製祭祀具 …… 152
第552図　P13区Ⅴ層出土木製祭祀具 …… 152
第553図　P13区出土木製祭祀具 …… 152
第555図　道路１外盛土出土木製祭祀具 … 152
第554図　P14区道路１出土木製祭祀具 … 153
第556図　P14区河道６・14出土木製祭祀具 153
第557図　P14区Ⅲ・Ⅳ層出土木製祭祀具 154
第558図　P15区盛土32・34出土木製祭祀具 154
第559図　P15区河道６出土木製祭祀具 … 155
第563図　P16区土坑10出土木製祭祀具 … 155
第560図　P15区Ⅳ・Ⅴ層出土木製祭祀具 156
第561図　P16区盛土35・道路２・条里45出土木製祭祀具 …… 156
第562図　P16区盛土32出土木製祭祀具 … 157
第564図　P16区Ⅳ層出土木製祭祀具 …… 158
第565図　田下駄分類図 …… 160
第566図　Ｐ１区出土木製品（１） …… 163
第567図　Ｐ１区出土木製品（２） …… 164
第568図　10区出土木製品（１） …… 165
第569図　10区出土木製品（２） …… 166
第570図　Ｐ２区出土木製品 …… 167
第571図　９区出土木製品 …… 168
第572図　８区出土木製品（１） …… 169
第573図　８区出土木製品（２） …… 170
第574図　Ｐ３区出土木製品（１） …… 171
第575図　Ｐ３区出土木製品（２） …… 172
第576図　Ｐ３区出土木製品（３） …… 173
第577図　Ｐ３区出土木製品（４） …… 174
第578図　Ｐ３区出土木製品（５） …… 175
第579図　Ｐ３区出土木製品（６） …… 176
第580図　Ｐ４区出土木製品（１） …… 177
第581図　Ｐ４区出土木製品（２） …… 178
第582図　Ｐ４区出土木製品（３） …… 179
第583図　Ｐ４区出土木製品（４） …… 180
第584図　Ｐ４区出土木製品（５） …… 181

第585図　Ｐ４区出土木製品（６）　…… 182
第586図　Ｐ４区出土木製品（８）　…… 183
第587図　Ｐ４区出土木製品（８）　…… 184
第588図　Ｐ４区出土木製品（９）　…… 185
第589図　Ｐ４区出土木製品(11)　…… 186
第590図　Ｐ４区出土木製品(11)　…… 187
第591図　７区出土木製品　…… 188
第592図　Ｐ５区出土木製品（１）　…… 189
第593図　Ｐ５区出土木製品（２）　…… 190
第594図　Ｐ５区出土木製品（３）　…… 192
第595図　Ｐ５区出土木製品（４）　…… 193
第596図　Ｐ５区出土木製品（５）　…… 194
第597図　Ｐ６区出土木製品（１）　…… 195
第598図　Ｐ６区出土木製品（２）　…… 196
第599図　Ｐ６区出土木製品（３）　…… 197
第600図　Ｐ６区出土木製品（４）　…… 198
第601図　Ｐ６区出土木製品（５）　…… 199
第602図　Ｐ７区出土木製品（１）　…… 200
第603図　Ｐ７区出土木製品（２）　…… 201
第604図　Ｐ８区出土木製品（１）　…… 202
第605図　Ｐ８区出土木製品（２）　…… 203
第606図　５区出土木製品　…… 203
第607図　Ｐ９区出土木製品（１）　…… 204
第608図　Ｐ９区出土木製品（２）　…… 205
第609図　P10区出土木製品（１）　…… 206
第610図　P10区出土木製品（２）　…… 207
第611図　P10区出土木製品（３）　…… 209
第612図　P10区出土木製品（４）　…… 210
第613図　P10区出土木製品（５）　…… 211
第614図　P10区出土木製品（６）　…… 212
第615図　P10区出土木製品（７）　…… 213
第616図　P10区出土木製品（８）　…… 214
第617図　２区出土木製品　…… 215
第618図　P11区出土木製品（１）　…… 216
第619図　P11区出土木製品（２）　…… 217
第620図　P11区出土木製品（３）　…… 218
第621図　P11区出土木製品（４）　…… 219
第622図　P11区出土木製品（５）　…… 220
第623図　P11区出土木製品（６）　…… 221
第624図　P11区出土木製品（７）　…… 222
第625図　P11区出土木製品（８）　…… 223
第626図　P12区出土木製品（１）　…… 224
第627図　P12区出土木製品（２）　…… 225
第628図　P12区出土木製品（３）　…… 226
第629図　P12区出土木製品（４）　…… 227
第630図　P12区出土木製品（５）　…… 228
第631図　P13区出土木製品（１）　…… 229
第632図　P13区出土木製品（２）　…… 230
第633図　P13区出土木製品（３）　…… 231
第634図　P14区出土木製品　…… 232
第635図　P15区出土木製品（１）　…… 233
第636図　P15区出土木製品（２）　…… 234
第637図　P15区出土木製品（３）　…… 235
第638図　P16区出土木製品　…… 236
第639図　木簡（１）　…… 238
第640図　木簡（２）　…… 239
第641図　木簡（３）　…… 240
第642図　木簡（４）　…… 241
第643図　木簡（５）　…… 242
第644図　木簡（６）　…… 244
第645図　木簡（７）　…… 245
第646図　木簡（８）　…… 246
第647図　木簡（９）　…… 248
第648図　木簡(10)　…… 250
第649図　木簡(11)　…… 252
第650図　木簡(12)　…… 254
第651図　木簡(13)　…… 256
第652図　木簡(14)　…… 258
第653図　木簡(15)　…… 260
第654図　木簡(16)　…… 262
第655図　木簡(17)　…… 264
第656図　墨書土器（１）　…… 266
第657図　墨書土器（２）　…… 267
第658図　刻書土器　…… 268
第659図　墨画土器　…… 268
第660図　墨書土器（３）　…… 269
第661図「女子群像」板絵　…… 271
第662図　鉄製品（１）　…… 273
第663図　鉄製品（２）　…… 274
第664図　鞴羽口　…… 275
第665図　銅製品　…… 275
第666図　骨角器　…… 276
第667図　玉製品　…… 277
第668図　石器（１）　…… 279
第669図　石器（２）　…… 280
第670図　石器（３）　…… 281
第671図　石器（４）　…… 281

挿表目次

表４　青谷横木遺跡木製祭祀具集計表 ……82
表５　出土土器観察表（１） …… 282
表６　出土土器観察表（２） …… 283
表７　出土土器観察表（３） …… 284
表８　出土土器観察表（４） …… 285
表９　出土土器観察表（５） …… 286
表10　出土土器観察表（６） …… 287
表11　出土土器観察表（７） …… 288
表12　出土土器観察表（８） …… 289
表13　出土土器観察表（９） …… 290
表14　出土土器観察表(10) …… 291
表15　出土土器観察表(11) …… 292
表16　出土土器観察表(12) …… 293
表17　出土土器観察表(13) …… 294
表18　出土土器観察表(14) …… 295
表19　出土土器観察表(15) …… 296
表20　出土土器観察表(16) …… 297
表21　出土土器観察表(17) …… 298
表22　出土土器観察表(18) …… 299
表23　出土土器観察表(19) …… 300
表24　出土土器観察表(20) …… 301
表25　出土土器観察表(21) …… 302
表26　出土土器観察表(22) …… 303
表27　出土土器観察表(23) …… 304
表28　出土土器観察表(24) …… 305
表29　出土土器観察表(25) …… 306
表30　出土土器観察表(26) …… 307
表31　出土土器観察表(27) …… 308
表32　出土土器観察表(28) …… 309
表33　出土土器観察表(29) …… 310
表34　出土土器観察表(30) …… 311
表35　出土土器観察表(31) …… 312
表36　出土土器観察表(32) …… 313
表37　出土土器観察表(33) …… 314
表38　出土土器観察表(34) …… 315
表39　出土土器観察表(35) …… 316
表40　出土土器観察表(36) …… 317
表41　出土土器観察表(37) …… 318
表42　出土土器観察表(38) …… 319
表43　製塩土器観察表 …… 319
表44　土製品観察表（１） …… 319
表45　土製品観察表（２） …… 320
表46　木製祭祀具観察表（１） …… 321
表47　木製祭祀具観察表（２） …… 322
表48　木製祭祀具観察表（３） …… 323
表49　木製祭祀具観察表（４） …… 324
表50　木製祭祀具観察表（５） …… 325
表51　木製祭祀具観察表（６） …… 326
表52　木製祭祀具観察表（７） …… 327
表53　木製祭祀具観察表（８） …… 328
表54　木製祭祀具観察表（９） …… 329
表55　木製祭祀具観察表(10) …… 330
表56　木製祭祀具観察表(11) …… 331
表57　木製祭祀具観察表(12) …… 332
表58　木製祭祀具観察表(13) …… 333
表59　木製祭祀具観察表(14) …… 334
表60　木製祭祀具観察表(15) …… 335
表61　木製祭祀具観察表(16) …… 336
表62　木製祭祀具観察表(17) …… 337
表63　木製祭祀具観察表(18) …… 338
表64　木製祭祀具観察表(19) …… 339
表65　木製祭祀具観察表(20) …… 340
表66　木製祭祀具観察表(21) …… 341
表67　木製祭祀具観察表(22) …… 342
表68　木製品観察表（１） …… 343
表69　木製品観察表（２） …… 344
表70　木製品観察表（３） …… 345
表71　木製品観察表（４） …… 346
表72　木製品観察表（５） …… 347
表73　木製品観察表（６） …… 348
表74　木製品観察表（７） …… 349
表75　木製品観察表（８） …… 350

表76　木製品観察表（９）　…… 351
表77　木製品観察表(10)　…… 352
表78　木製品観察表(11)　…… 353
表79　木製品観察表(12)　…… 354
表80　木製品観察表(13)　…… 355
表81　木製品観察表(14)　…… 356
表82　木製品観察表(15)　…… 357
表83　木簡観察表（１）　…… 358
表84　木簡観察表（２）　…… 359
表85　木簡観察表（３）　…… 360
表86　木簡観察表（４）　…… 361
表87　木簡観察表（５）　…… 362
表88　木簡観察表（６）　…… 363
表89　木簡観察表（７）　…… 364
表90　木簡観察表（８）　…… 365
表91　木簡観察表（９）　…… 366
表92　木簡観察表(10)　…… 367
表93　木簡観察表(11)　…… 368
表94　木簡観察表(12)　…… 369
表95　墨書・墨画土器観察表…… 370
表96　刻書土器観察表…… 370
表97　鉄製品・鞴羽口観察表…… 371
表98　銅製品観察表…… 371
表99　骨角器観察表…… 371
表100 玉製品・石器・ガラス観察表…… 371

凡　例

1．遺物の注記における遺跡名には「ヨコキ」の略語を用い、その前に調査年度を付すことで「H25ヨコキ１」などと『表記した。また、併せて「遺構名、遺物番号、日付」を記入した。

2．本書における実測図の縮尺については、特殊なものを除き基本的に以下の縮尺としている。

遺物実測図　土器・土製品：1/2・1/4、石器・玉製品：1/1・3/4・1/2・1/3、金属器：１/2、1/3、骨角器：2/3・１/3、木製祭祀具：1/2・1/4、木製品：1/2・1/4・1/6・1/8・1/10、木簡：1/2、1/1

3．本書における遺物番号は算用数字を種別毎に付している。ただし、土器以外の遺物には数字の先頭に以下のアルファベット等を付している。木簡については「１号木簡、２号木簡・・・」などとした。

石器：Ｓ、木製品：Ｗ、鉄製品：Ｆ、銅製品：Ｂｒ、ガラス製品：Ｇ、骨角器：Ｂｏ

4．遺物実測図の断面は須恵器を黒塗り、施釉陶器を灰色（アミかけ60％）とし、それ以外のものは白抜きで示している。遺物実測図におけるトーン及び記号は、各図に凡例を示す以外は下記のとおりである。

遺物実測図　炭化範囲：　赤色顔料範囲：　漆範囲：　墨範囲：

→：ケズリの方向（砂粒の動き）　⟷：石器の使用痕範囲　⟝⟞：石器の側縁の潰れ範囲

回転糸切り：　静止糸切り：　ヘラ削り：　ヘラ切り：

5．遺物観察表の法量記載における※は推定復元値、△は現存値を示す。

6．本報告書における遺構・遺物の時期決定については下記の文献を参照した。

清水真一　1992 「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年－山陽・山陰編－』木耳社
牧本哲雄　1999 「古墳時代の土器について」『長瀬高浜遺跡Ⅷ・園第６遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団
田辺昭三『須恵器大成』角川書店
岡田裕之・土器検討グループ　2010 「出雲地域における古代須恵器の編年」『出雲国の形成と国府成の研究』島根県古代文化センター
岡田裕之・八峠興2014「鳥取における古代から中世前期の土器編年－須恵器と回転台土師器を基に－」『調査研究紀要５』鳥取県埋蔵文化財センター
西弘海1986『土器様式の成立とその背景』真陽社

第5章　出土遺物

第１節　土器・土製品

第１項　出土土器の概要

本遺跡では縄文時代晩期～古代に至る多様な土器が出土した。とくに、古代に属する土器は道路１・道路１道路外盛土等から多量に出土し、豊富な資料が得られている。

第２項　器種分類

本遺跡では古代の土器変遷を明らかにすべく、器種分類を行った。取り上げる器種は須恵器と土師器である。器形や製作技法を基に分類し、器形のあとにアルファベットを付している。付帯する形態の差異により、続いて算用数字を付して分類した。古代以前については器形を基に呼称している。

１．須恵器

蓋、坏、高坏、皿、埦、壺、甕を取り上げる。器種での形態差に着目し、それぞれの器形のあとにアルファベットを順に付した。同一の器種であり、部位により形態が異なるものについては枝番として算用数字を続いて付している。

蓋Ａ１：口縁端部はかえりを有する。天井部は笠状あるいは扁平な形状を呈する。ツマミは擬宝珠状を呈する。

蓋Ａ２：口縁端部はかえりを有する。天井部は丸みを帯びて小型。ツマミは宝珠状を呈する。

蓋Ｂ：口縁端部にかえりを有する。いわゆる輪状ツマミを有する。

蓋Ｃ：口縁端部はかえりを持たない。いわゆる輪状ツマミを有する。

蓋Ｄ：口縁端部はかえりを持たない。擬宝珠状のツマミを有する。

蓋Ｅ：口縁端部にかえりを有する。ツマミはボタン状を呈する。

蓋Ｆ：口縁端部はかえりを有さない。ツマミは扁平で幅の広いボタン状を呈する。

蓋Ｇ：口縁端部にかえりを有さない。ツマミは四角いボタン状を呈する。

坏Ａ１：埦状の坏部をもち、貼り付け高台を有する。

坏Ａ２：浅い皿状の坏部をもち、貼り付け高台を有する。

坏Ｂ１：平底で口縁部に向けて内湾気味に立ち上がる。貼付け高台を有する。

坏Ｂ２：口縁部は上外方にのびる。底部の屈曲部付近に「ハ」字状の貼り付け高台を有する。

坏Ｃ：平底で口縁部に向けて直線的に立ち上がる。貼り付け高台を有する。

坏Ｄ：坏部がバケツ状を呈する。貼り付け高台を有する。

坏Ｅ１：底部から内湾気味に立ち上がり、口縁部は強いナデにより屈曲する。

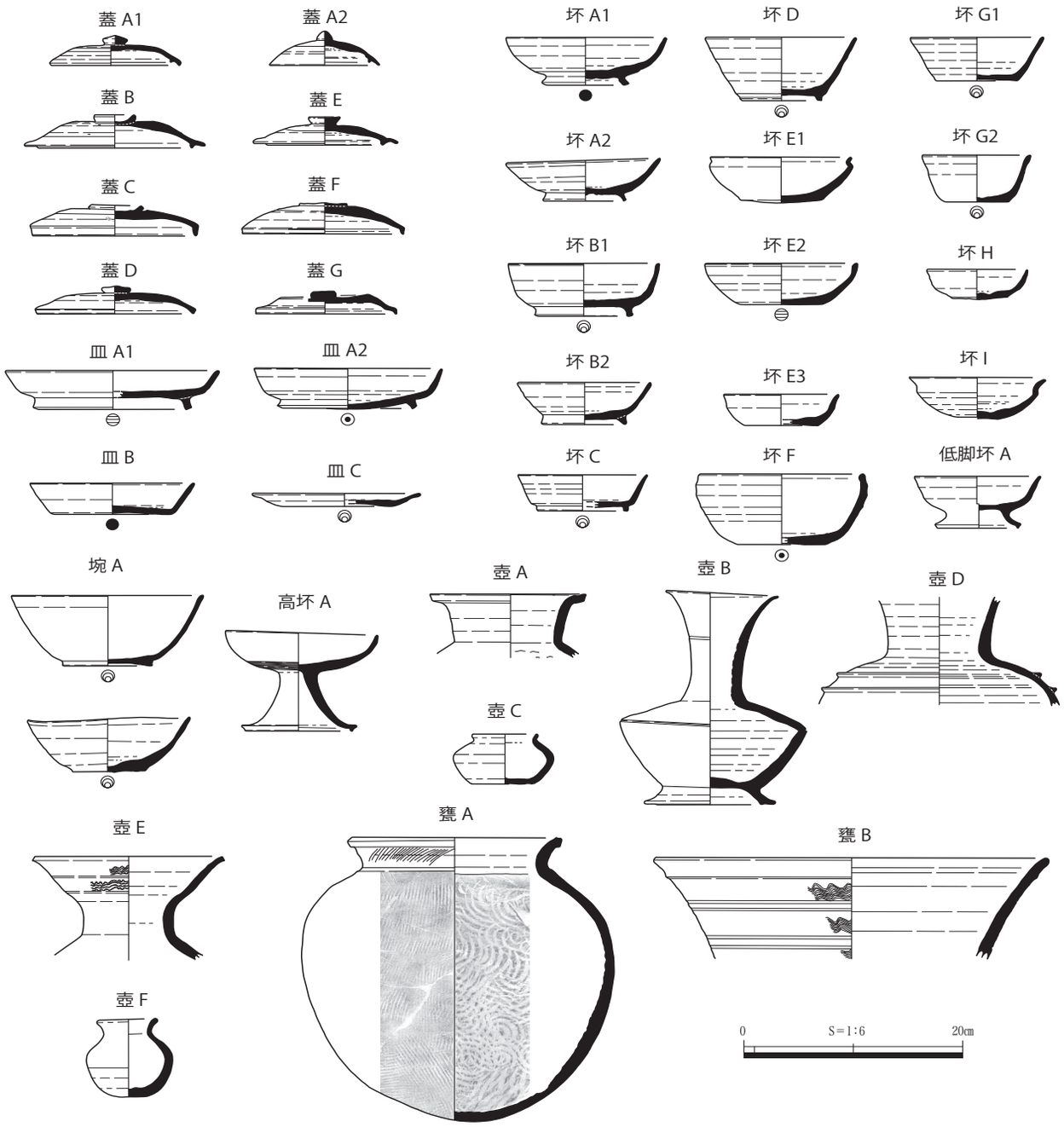
坏Ｅ２：底部から内湾気味に立ち上がり、口縁部端部は肥厚し面取りする。

坏Ｅ３：底部から内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。

坏Ｆ：平底で内湾気味に立ち上がる。深手で大型である。

坏Ｇ１：坏部の形態は坏Ｃに類似し、高台を有さない。

坏Ｇ２：平底で、深手である。口縁部がやや外反する。



第363図　須恵器器種分類図

坏 H：やや丸みを帯びた底部に内湾した口縁部をもつ。

坏 I：坏底部はやや丸く、口縁部は外反する。

低脚坏 A：上外方にのびる口縁部にふん張った脚部をもつ。

皿 A １：平底で直線的に立ち上がる。高台は「ハ」の字状を呈する。

皿 A ２：尖り底に「ハ」の字状の高台を有する。

皿 B：平底で直線的あるいは外反する口縁部をもつ。

皿 C：平底で浅く、外傾した口縁部をもつ。

埦 A：平高台で内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。

高坏 A：坏 A に高坏の脚部がつく。

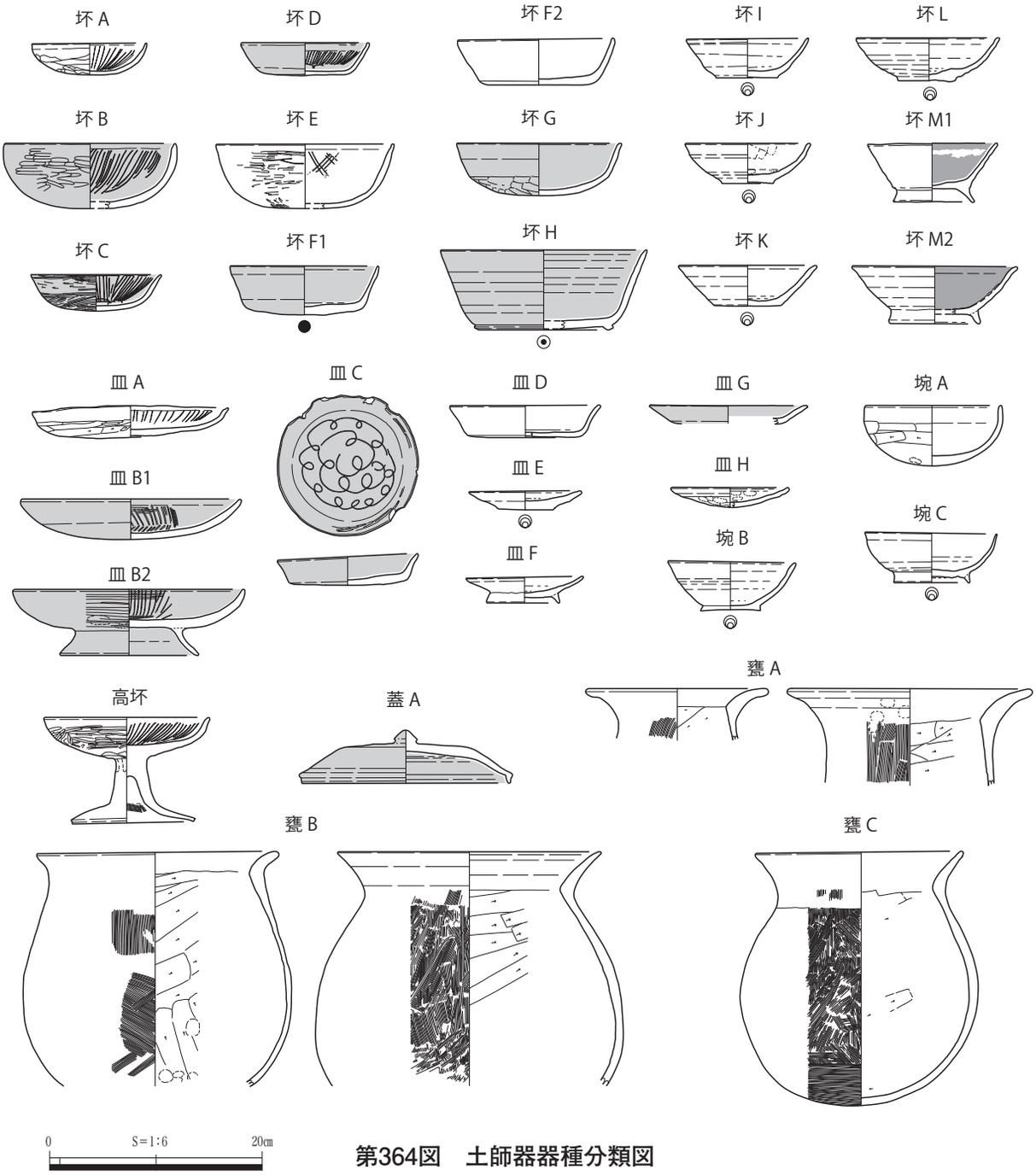
壺 A：頸部が直立したのち、外反する。　　壺 B：長い頸部がラッパ状に広がる。

壺Ｃ：直立した短い頸部をもつ。　壺Ｄ：肩部に突帯をもち、頸部は外反気味にのびる。
壺Ｅ：頸部は直立し、口縁部は外反する。　壺Ｆ：丸みを帯びた胴部に、外反する口縁部がつく。
甕Ａ：頸部はやや短く外反し、口縁部は面をもつものや丸くおさめるものがある。
甕Ｂ：外反する頸部で、口縁部外面に断面三角形の突帯を付ける。

２．土師器

蓋、坏、皿、埦、高坏、甕を取り上げる。器種での形態や製作差に着目し、それぞれの器形のあとにアルファベットを順に付した。部位により形態が異なるものについては、枝番として算用数字を続いて付している。

蓋Ａ：やや厚手で、宝珠状のツマミを有する。かえりは有さない。須恵器蓋Ｄに類似する。
坏Ａ：丸みを帯びた底部で、口縁部は丸くおさめる。
坏Ｂ：やや丸みを帯びた底部で深手である。口縁端部は面取りする。
坏Ｃ：やや丸みを帯びた底部で口縁部は外形あるいは外反する。口縁端部は丸くおさめる。
坏Ｄ：平らな底部で、口縁部端部は肥厚する。
坏Ｅ：やや丸みを帯びた底部で深手である。口縁端部は肥厚する。
坏Ｆ１：ロクロにより成形される。口縁部は外反気味に立ち上がる。
坏Ｆ２：ロクロにより成形される。口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。
坏Ｇ：やや丸みを帯びた底部で、底部外面はヘラ削り調整する。
坏Ｈ：ロクロにより成形され、貼付け高台を有する。須恵器坏Ｃに類似する。
坏Ｉ：ロクロにより成形され、底部は糸切りにより切り離される。平高台で直線的に立ち上がる。
坏Ｊ：ロクロにより成形され、底部は糸切りにより切り離される。平高台で内湾気味に立ち上がる。
坏Ｋ：ロクロにより成形され、逆台形状を呈する。
坏Ｌ：ロクロにより成形され、平底でやや浅い。内湾する口縁部をもつ。
坏Ｍ１：いわゆる足高高台坏である。
坏Ｍ２：外傾した口縁部に「ハ」の字状に開く高台を貼付ける。
皿Ａ：口縁の立ち上がりは短く外傾し、口縁端部に段をもつ。
皿Ｂ１：丸みを帯びた底部で口縁端部は丸くおさめる。
皿Ｂ２：皿Ｂ１に高台が貼付けられる。
皿Ｃ：平らな底部でやや外反する口縁部をもつ。
皿Ｄ：ロクロにより成形される。底部は平らで、口縁部は外反する。須恵器の皿Ｂに類似する。
皿Ｅ：ロクロにより成形され、底部は糸切りにて切り離される。浅手で口縁部は上外方にのびる。
皿Ｆ：皿Ｅに高台が貼付けられる。
皿Ｇ：外傾した口縁部をもち、やや浅い。
皿Ｈ：手ずくねにて成形され、口縁部は横ナデされる。
埦Ａ：丸みを帯びた底部に内湾する口縁部をもつ。
埦Ｂ：ロクロにより成形される。平高台を有する。須恵器埦Ａに類似する。
埦Ｃ：ロクロにより成形される。内湾する口縁部に「ハ」の字状にひろがる高台を有する。
高坏：形態差があり、本報告での細分は行わない。



第364図　土師器器種分類図

甕 A：外反する口縁部で、胴部は口縁部を上回らない。

甕 B：外反する口縁部で、最大胴径を下位にもとめる。

甕 C：外反する口縁部で、口径と胴径はほぼ同じである。最大胴径は中位にもとめる。

【参考文献】

岡田裕之・土器検討グループ 2010「出雲地域における古代須恵器の編年」『出雲国の形成と国府成立の研究』
島根県古代文化センター

岡田裕之・八峠興 2014「鳥取県における古代から中世前期の土器編年―須恵器と回転台土師器を基に―」
『調査研究紀要５』鳥取県埋蔵文化財センター

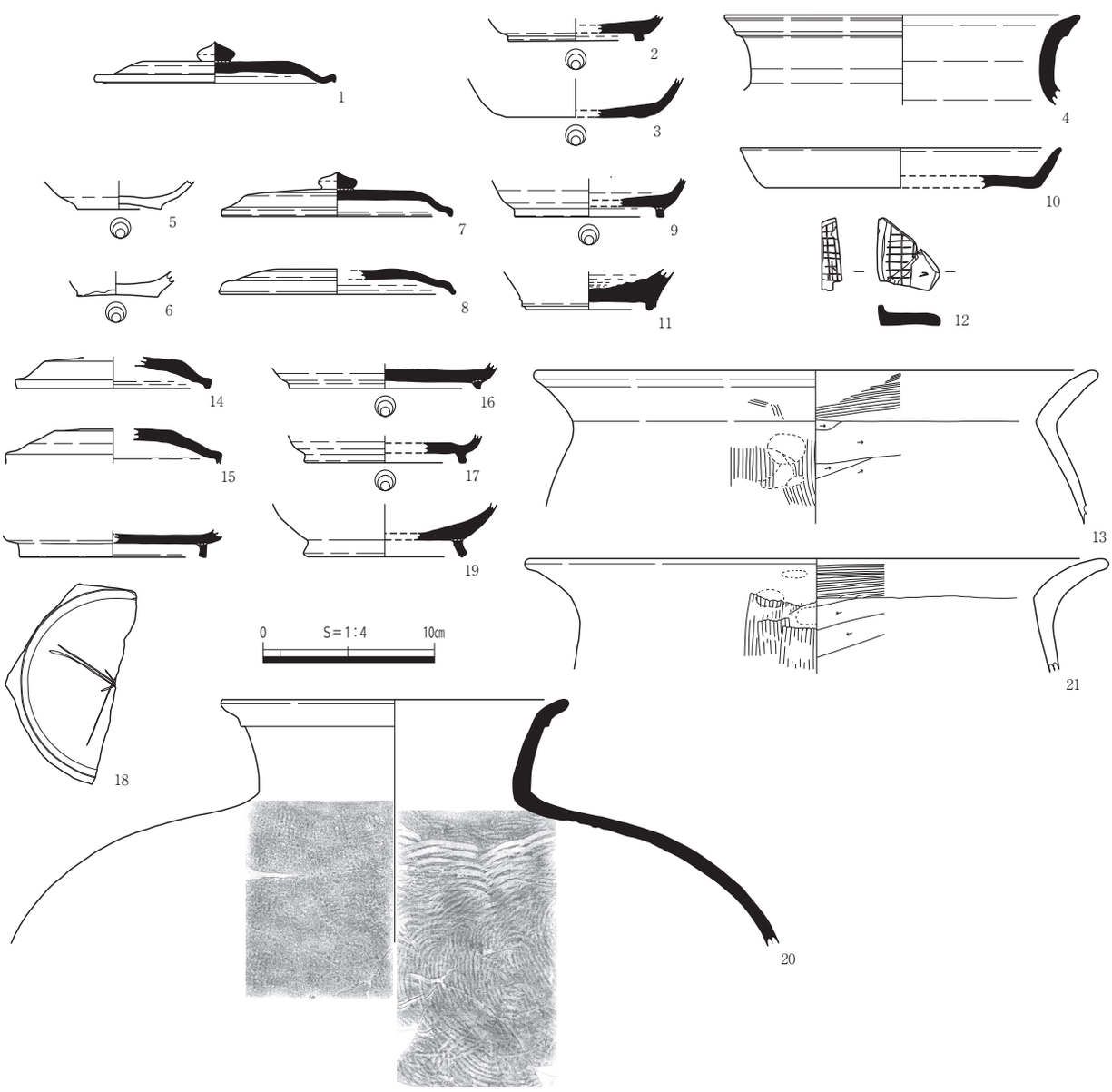
奈良文化財研究所（編）2010「第４部 平城京の研究法 第１章遺物 / 土器類」『図説 平城京事典』

第３項　出土土器

Ｐ１区出土土器（第365 ～ 366図）

１は溝１から出土した須恵器の蓋Dである（第365図）。宝珠状のツマミをもち、口縁端部にかけて水平方向に屈曲したかえりをもつ。岡田・八峠編年のＫⅢ-3期。２～４は溝２から出土した須恵器である（第365図）。２は高台坏の高台部付近。３は坏底部。２・３の底部はいずれも回転糸切りで、岡田・八峠編年のＫⅢ-3期以降と考えられる。４は壺の口縁部である。

５～９・11・12はⅣ層相当層上層から出土した（第365図）。５・６はロクロ土師器の坏の底部で、切り離しは回転糸切り。７～12は須恵器である。７・８は蓋で、７は蓋Dで端部に向けて屈曲する。岡田・八峠編年のＫⅢ-3期。８は端部を明確に折らない。９は高台坏の高台部である。11は壺の底部。12は底面と側面の一部に格子状の溝をもつ卸皿であろう。13は土師器の甕。体部は外側に張り出し、口縁部にかけて屈曲し、端部はやや外反する。底部糸切りの土師器や須恵器の卸皿があることから全体としては岡田・八峠編年のＫＶ期以降に下ると考えられる。

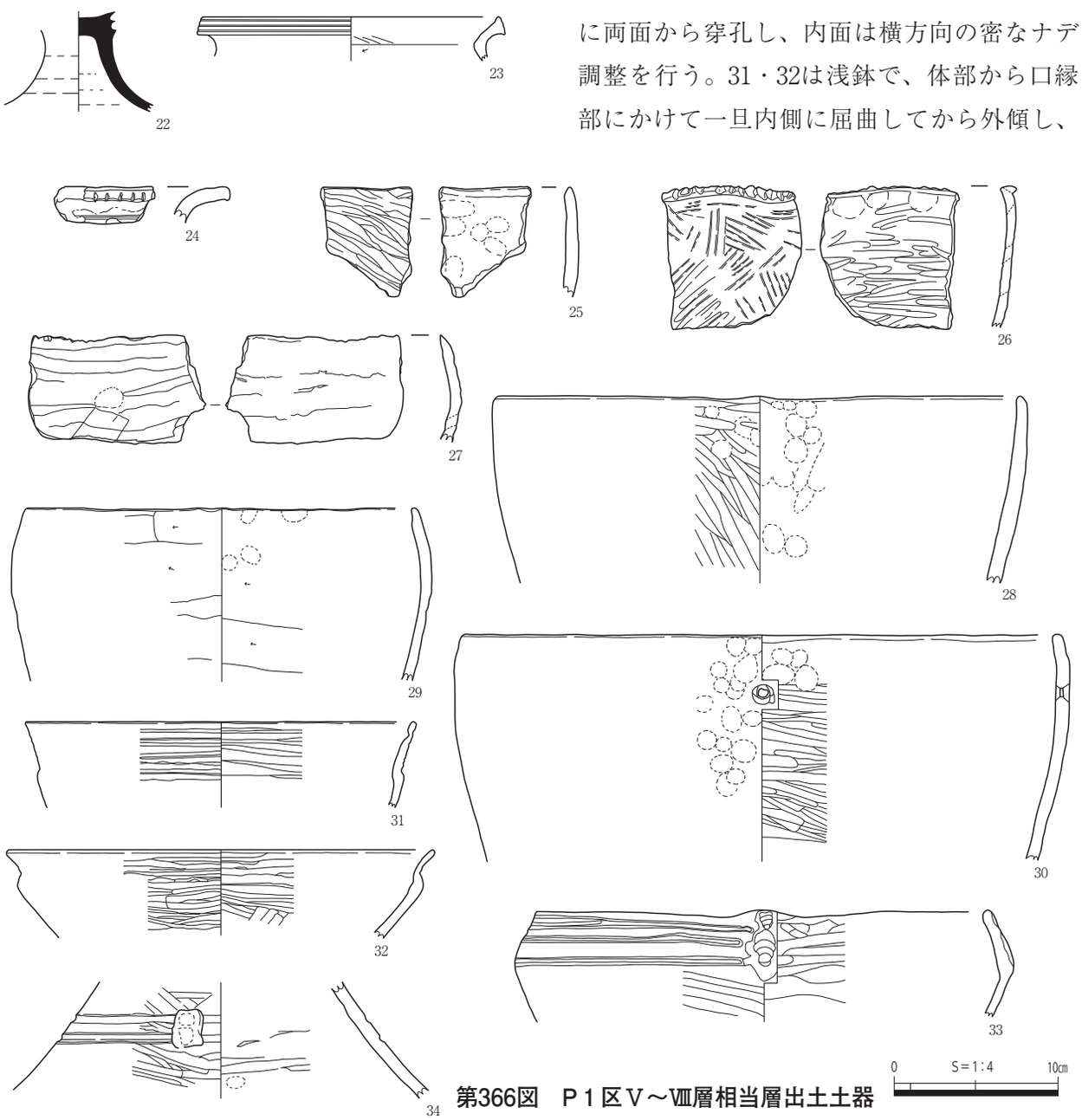


第365図　Ｐ１区溝１・Ⅳ層相当層出土土器

10･14 ～ 21はⅣ層相当下層から出土した（第365図）。10･14 ～ 20は須恵器である。10はⅢBで平底、径は大きく立ち上がりは短く外傾する。岡田・八峠編年のＫⅢ-1期。14・15は蓋で、かえりはない。16 ～ 19は高台坏で、16・17の底部は回転糸切りである。18の高台内には長短の線刻があるものの、意匠は不明。20は須恵器の甕Bである。21は土師器の甕で体部は開かず、屈曲部の器壁は厚く端部にかけて外反する。年代はⅣ層からロクロ土師器の坏が出土することから、岡田・八峠編年のＫⅤ期の範疇と考えられる。

22・23はⅤ層から出土した（第366図）。22は須恵器の高坏脚部、23は弥生土器で第Ⅳ様式の甕口縁部、口縁部に３条の凹線をもつ。

24 ～ 34はⅤ～Ⅷ層相当層から出土した（第366図）。24は弥生土器の甕の口縁端部で端部下端に刻みをもつ。弥生土器第Ⅰ様式で弥生時代前期。26は突帯文土器で、口縁端部に断面三角形状の小さな突帯に細い刻目をもつ。25・27 ～ 30は粗製の深鉢で、体部は砲弾形状となる。27・29の口縁部はやや内湾する。30は口縁部よりやや下の体部に両面から穿孔し、内面は横方向の密なナデ調整を行う。31・32は浅鉢で、体部から口縁部にかけて一旦内側に屈曲してから外傾し、

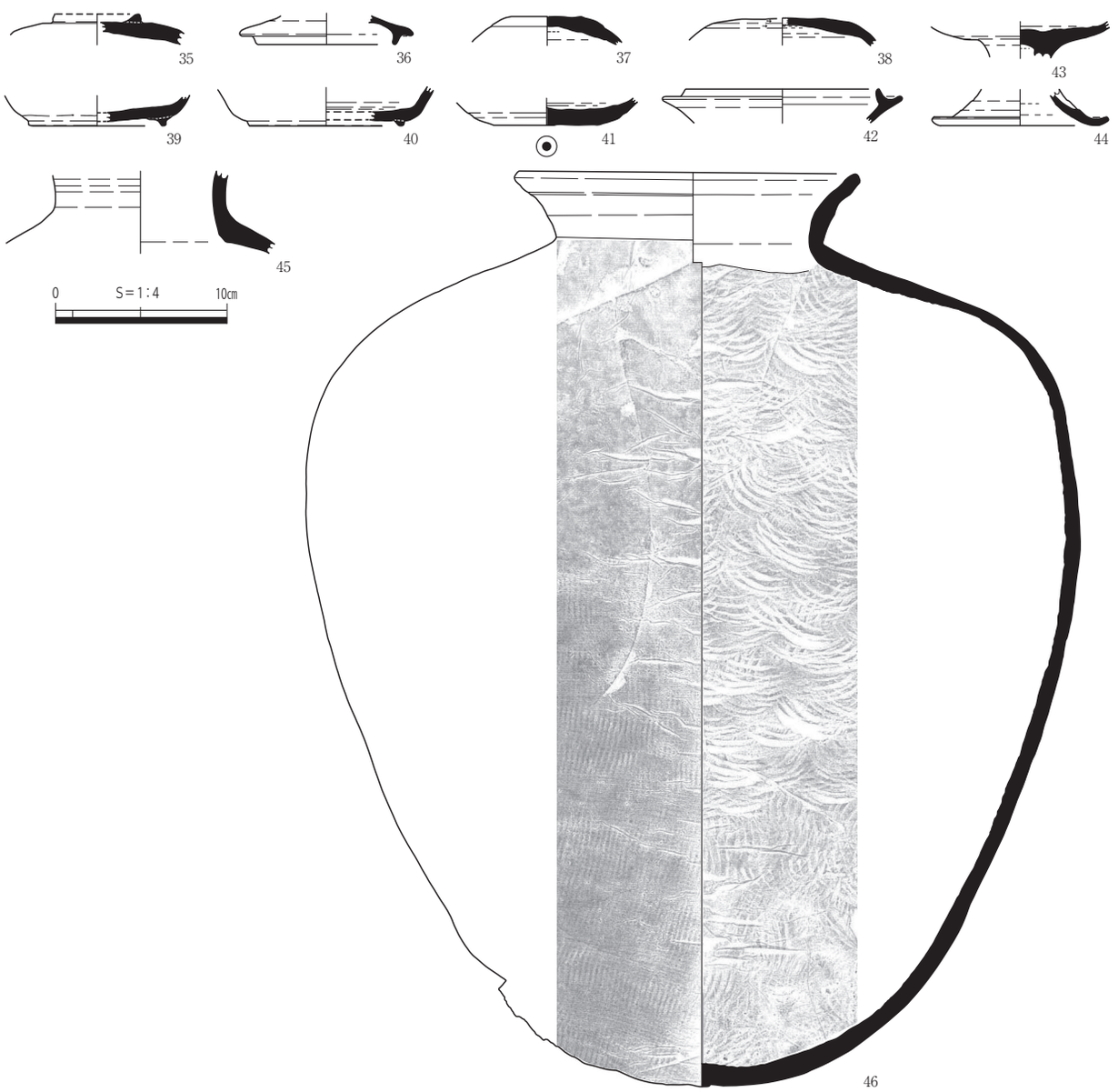


第366図　Ｐ１区Ⅴ～Ⅷ層相当層出土土器

内外面ともに横方向の密なナデを施す。晩期前半。33は浅鉢、34は深鉢の体部である。いずれも内傾する口縁部あるいは体部外面に横方向に３～４条の凹線状の施文、間に巻き貝で押圧を加える。縄文時代後期後葉の所産。他は後期から晩期の粗製の深鉢である。

10区出土土器（第367 ～ 370図）

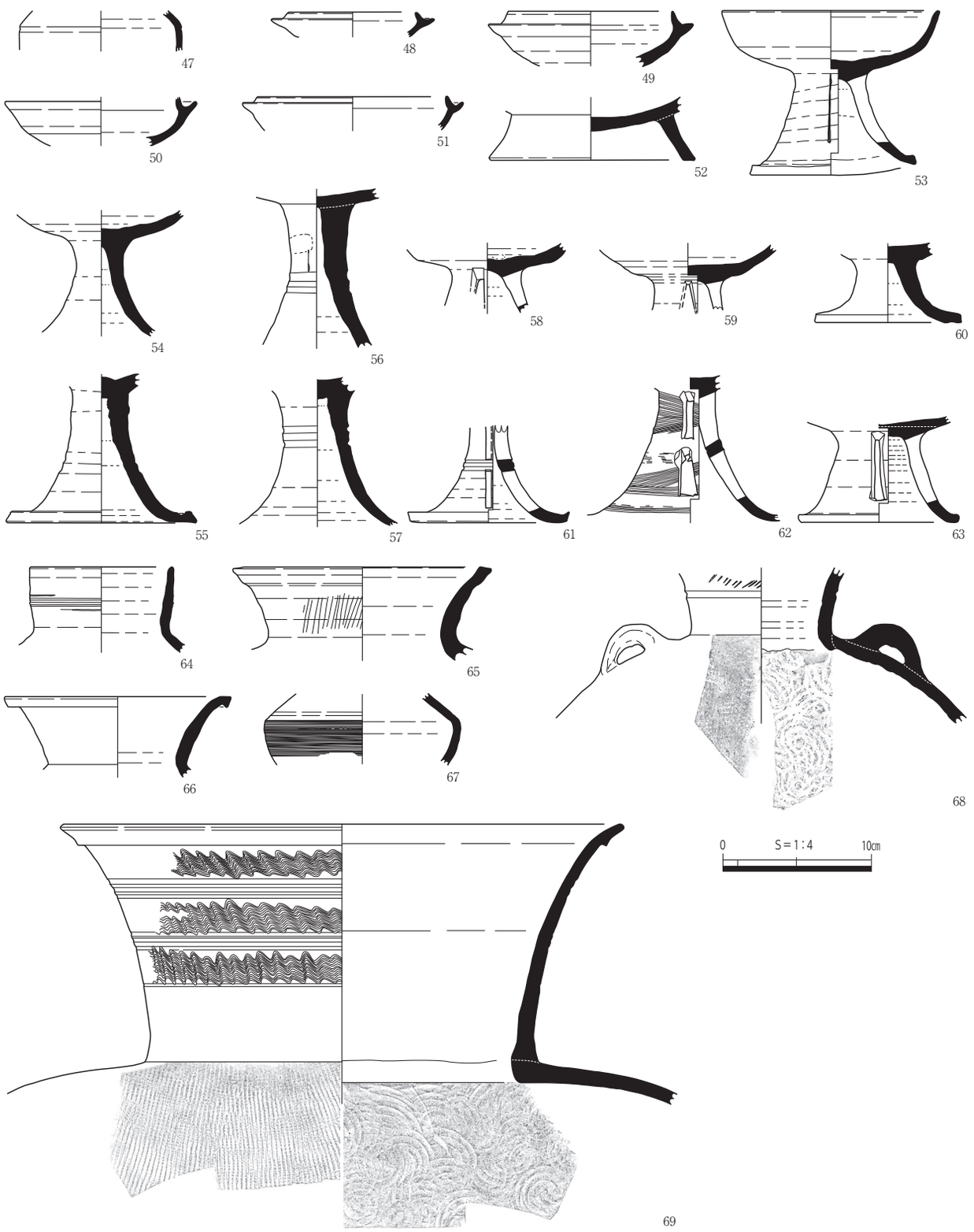
10区では礫包含層を中心に多量の須恵器が出土した。35 ～ 46は礫包含層から出土した須恵器である（第367図）。35は輪状のツマミをもつ蓋、36はかえりをもつ蓋である。37・38は坏蓋とみられる。39･40は高台坏の底部、41は無台坏の底部、42は坏身の口縁部、43･44は高坏、45は壺の頸部である。46はほぼ完存の甕Aである。47 ～ 69は礫包含層（下層）から出土した須恵器（第368図）、70・71は土師器の甕である（第369図）。47は坏蓋、48 ～ 51は坏身である。52は高台坏または壺底部か。53 ～ 63は高坏である。60・63は低脚、他は中から長脚をもつ。61・62は上下二段の透かし、63は一段の長方形状の透かしをもつ。53は切り込み状の一段の透かしで、坏部は丸底から口縁部が外傾する。64・65は



第367図　10区礫包含層出土土器

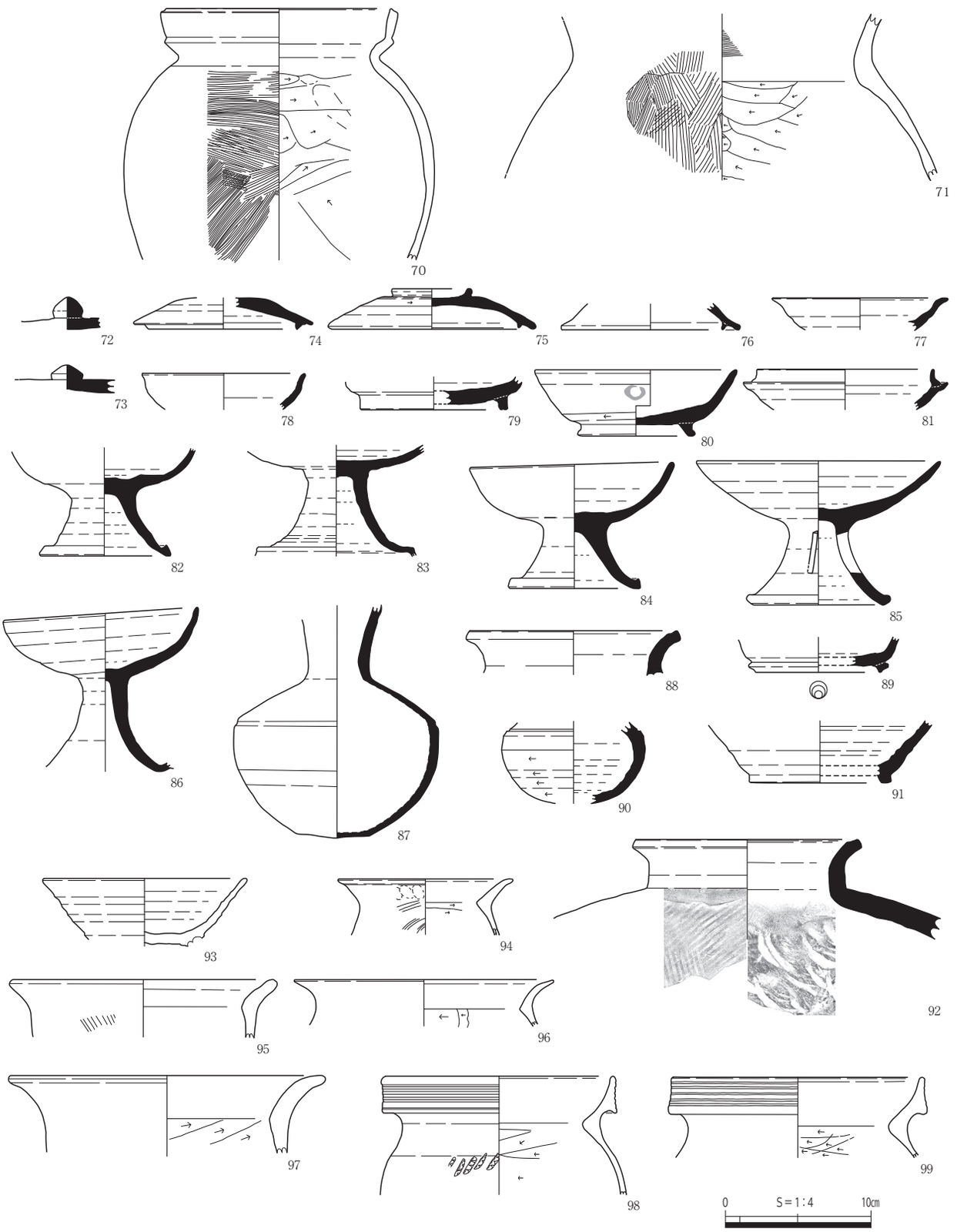
壺の口縁部、66は広口壺の口縁部、67は壺類の体部である。68は提瓶の体部、69は大型の甕Bの口縁部である。甕70は古墳時代中期、71は「く」の字状で体部が広がるものの内面頸部の屈曲が曖昧なことから古墳時代後期のものであろう。

72 ～ 99は条里１から出土した（第369図）。72 ～ 92は須恵器。72・73は擬宝珠状のつまみをもつ蓋である。74 ～ 76はかえりをもつ蓋で、75は蓋Bで輪状のツマミをもつ。77 ～ 80は坏で、80は坏Ｂ２で「ハ」

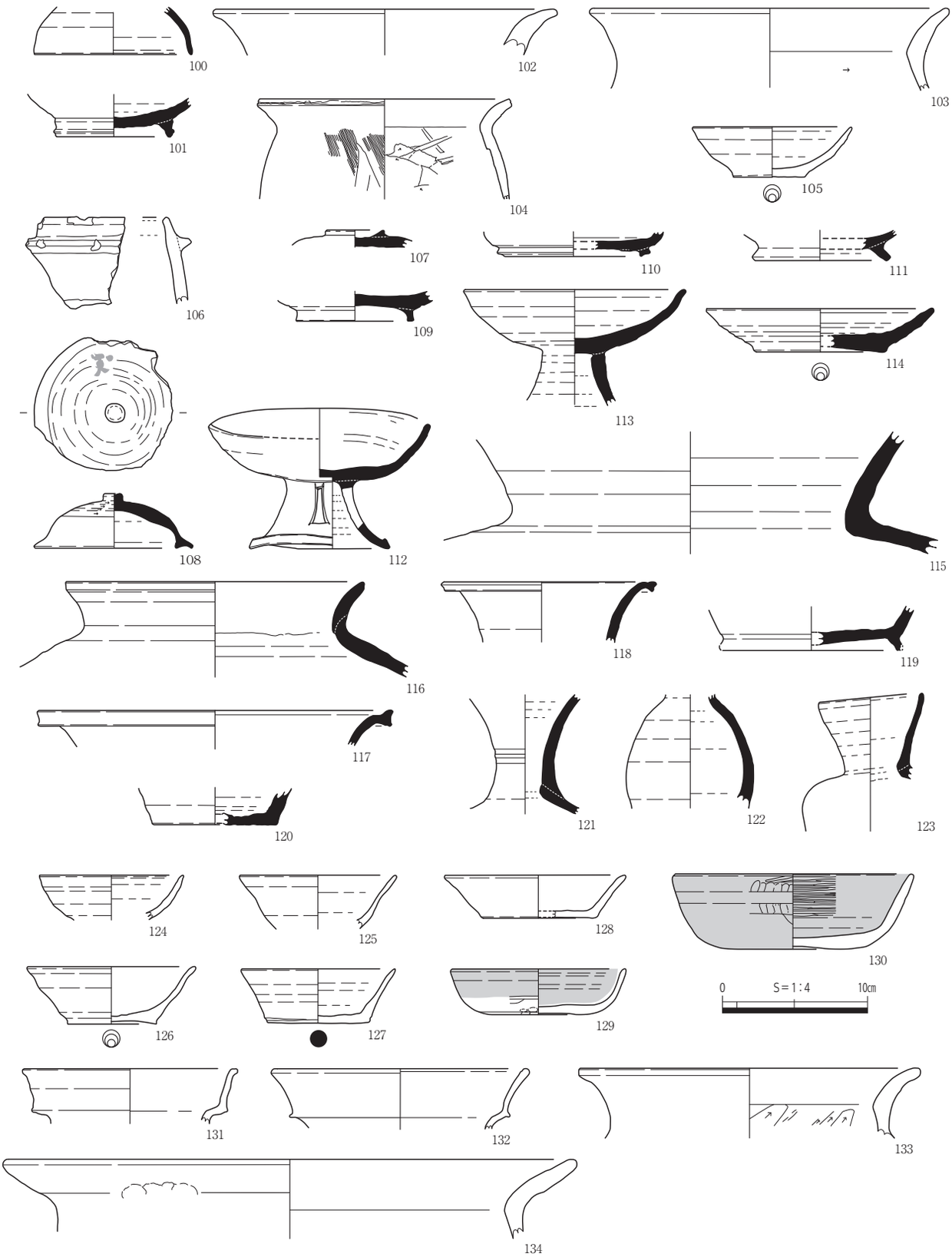


第368図　10区礫包含層（下層）出土土器

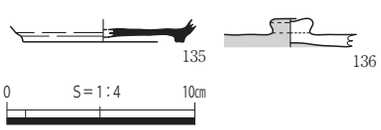
の字状に広がる高台で体部が外傾する。外面体部に漆痕がある。81は坏身で盛土上層から。82 ～ 86は高坏で82･84は低脚、他は中から長脚をもつ。85には一段の長方形状の透かしがある。87は長頸壺。88は壺Aの口縁部。89は壺底部の可能性がある。90は鼈または小型壺の体部か。91は長頸壺の底部。92は横瓶の口縁部である。93 ～ 97は土師器である（第369図）。93はロクロで成形された高台坏で、高台部を欠損するものの逆台形状の体部から岡田・八峠編年のＫⅤ期か。94 ～ 97は甕で、94は小型の



第369図　10区礫包含層（下層）・条里１出土土器



第370図　10区条里2・包含層出土土器（４）



第371図　Ｐ２区Ⅳ層出土土器

もの。94・96の口縁端部は外反して体部は広がるが、95・97は緩く外反し、体部はさほど広がらない。98･99は弥生土器の甕口縁部で、口縁部は上下に拡張して５本程の擬凹線をもつ。弥生土器の第Ⅴ様式で弥生時代後期。

100 ～ 104は条里２の盛土中から出土した土器である（第370図）。100･101は須恵器で、100は坏蓋、101は高台坏で、内湾する底部に「ハ」の字状に広がる高台をもつ。岡田・八峠編年のＫⅡ期。102・103は土師器の甕で古墳時代後期。104は甕で弥生時代中期の所産である。105は集石１から出土したロクロ土師器の坏Jである（第370図）。底面に回転糸切り痕をもち、体部の形状から岡田・八峠編年のＫＶ期にあたる。

106はⅢ層、107 ～ 134はⅣ層から出土した土器である（第370図）。106は瓦質焼成の羽釜。鍔の形骸化から岡田・八峠編年のＣⅣ期以降。107 ～ 123は須恵器で、107は輪状ツマミをもつ蓋、108は蓋Ａ２で、外面に漆記号がある。岡田・八峠編年のＫⅡ期の所産。109 ～ 111は高台坏の高台部。112・113は高坏で112は焼き歪み、低脚で一段の方形透かしをもつ。114は皿で、底面には回転糸切り。口縁部が外傾することから、岡田・八峠編年のＫⅣ期か。115・116は甕の頸から口縁部。117・118は壺Aの口縁部。119・120ともに壺類の底部か。121は壺B、122は小型の瓶、123は平瓶の口縁から肩部。124 ～ 134は土師器で124・125は坏の口縁部、126は坏Iで岡田・八峠編年のＫＶ期、127の坏Ｆ１は底径が小さく器高が高いことから同時期で、底部のケズリ調整も含め東伯耆の形状と共通する。128はロクロ土師器の無台坏である。129･130は坏で､内外面に赤彩を施す。平底から緩く立ち上がること、調整は横方向の磨きからナデが主体になることから、岡田・八峠編年のＫⅢ-２期と考えられる。131 ～ 134は土師器の甕である。131･132は古墳時代前期、133･134は体部がさほど開かないことから岡田･八峠編年のＫⅡ期以降である。

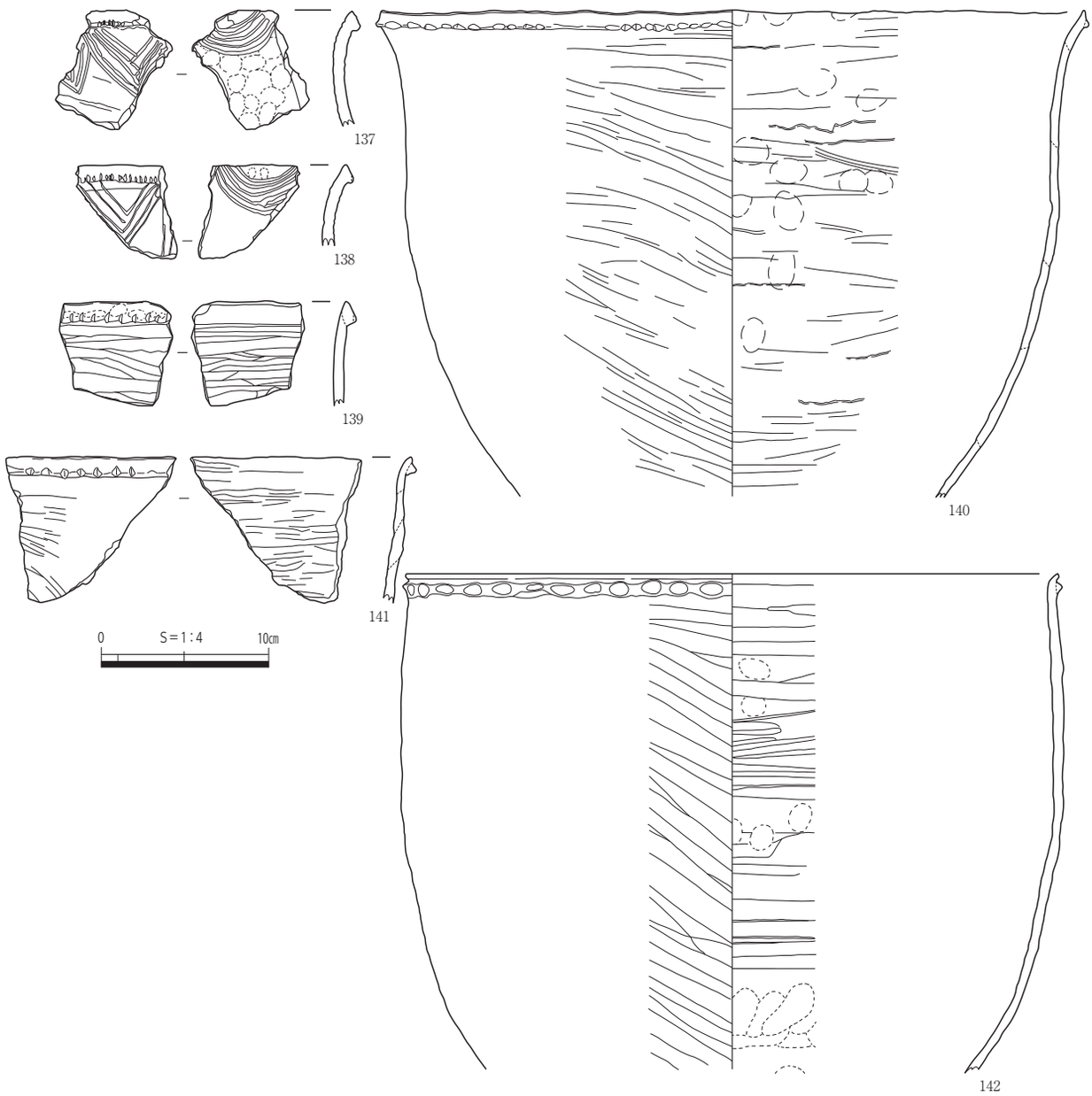
Ｐ２区出土土器（第371 ～ 373図）

135は須恵器の高台坏、136は内外面赤彩された土師器の蓋Aとみられる。いずれもⅣ層から出土した（第371図）。137はⅥ層相当層出土、138 ～ 150はⅧ・Ⅸ層相当から（第372、373図）、151はⅨ層から出土した（第373図）。137 ～ 146は突帯文土器の深鉢である。いずれも突帯下半に刻目をもつ。137・138は口縁部内外面に数条単位の沈線で山形や弧形の文様を入れる。突帯はいずれも断面三角形状で小さい。137 ～ 139が細い刻目、140 ～ 142・144・145には押圧状に刻目を入れた突帯である。143は下さがりのやや大きい突帯で刻目はない。147は浅鉢で他は深鉢である。137・138・140・148は体部にかけて一旦外反してから窄まり、他は砲弾形状の体部となる。146は粗成の深鉢、149・150は底部である。調整は内面が横方向、外面は斜め方向のやや粗いナデを主体に、擦痕やミガキ状の細かなナデや指頭圧痕がある。151は口縁端部にやや大きな刻目をもつ。

９区出土土器（第374図）

152 ～ 159はいずれも包含層から出土した土器である。152 ～ 154はⅢ層から出土した。152は須恵器の甕あるいは鉢の口縁部か。153・154は土師器の坏で153は口縁部、154は底部である。

155 ～ 159はⅣ層から出土した。155は須恵器の坏B類の口縁部である。156 ～ 159は土師器で、156・157は坏、158は小皿、159は小型の甕である。このうち158の小皿は底部回転糸切りで、口径は10㎝弱、立ち上がりは短い。岡田・八峠編年のＣⅡ期であろう。図化し得た遺物は少ないが、Ⅳ層の堆積は周辺地区と同様に中世前期であることを示している。



第372図　Ｐ２区Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ層相当層出土土器

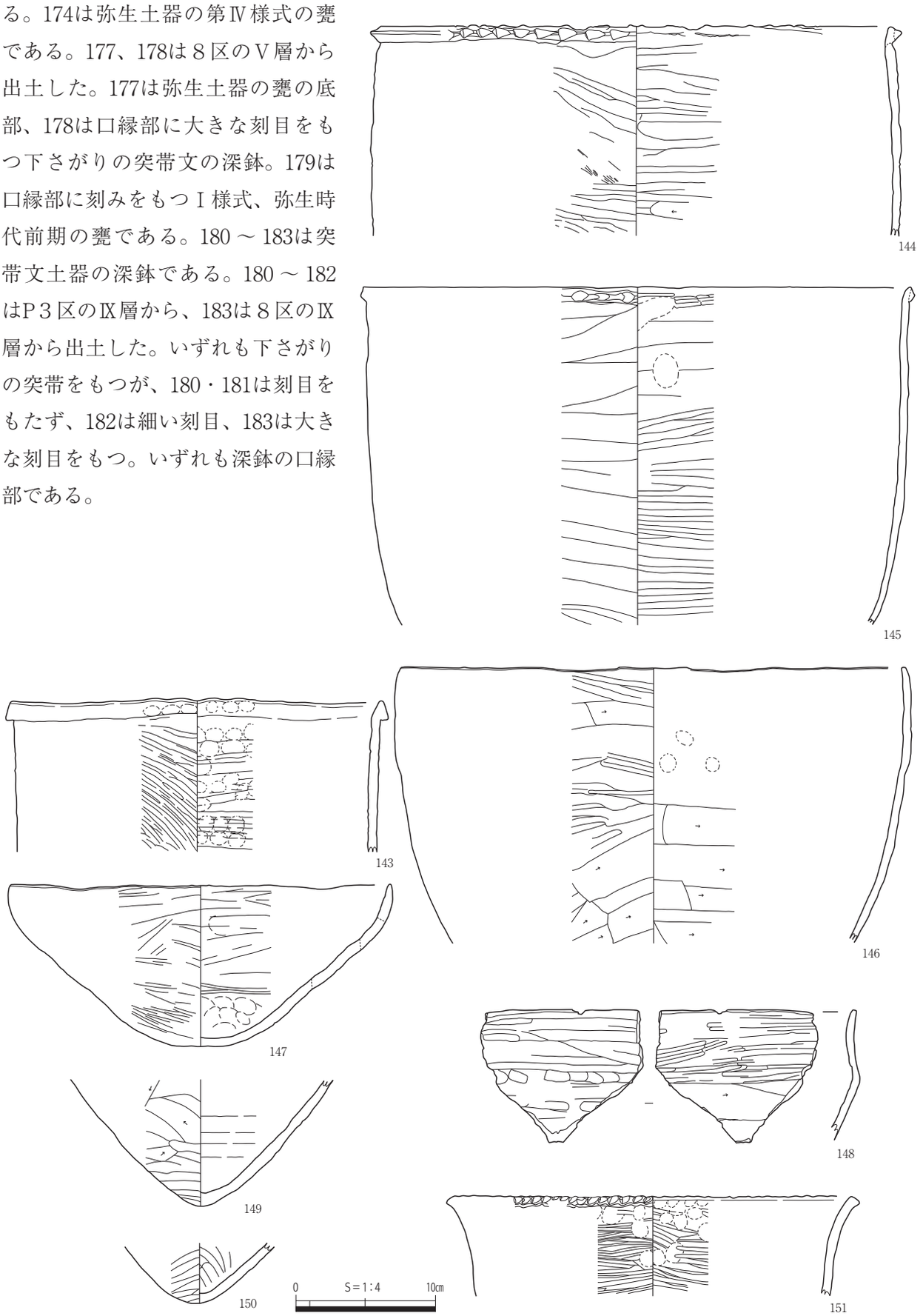
Ｐ３区・８区出土土器（第375図）

Ｐ３区の160は条里６から、161は条里５から出土した。160は須恵器の坏蓋でTK209型式併行期。161は製塩土器で、口縁部のみ遺存する。口縁端部が内傾しており、型に貼り付けた後に工具で口縁部を成形している。短円筒形または逆円錐形状の焼塩土器である。

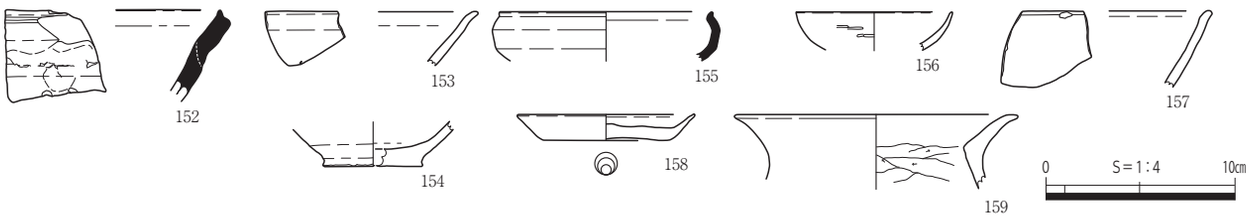
162 ～ 164は盛土４から出土した。いずれも突帯文土器の深鉢である。162は口縁端部に大きな下さがりの突帯をもち、突帯下端に小さな刻目をもつ。163・164は口縁端部に断面三角形の小さな突帯が付き、突帯下端にやや大きな刻目をもつ。

165は８区のⅢ層から出土した。須恵器の無台坏の底部である。166 ～ 169、171 ～ 173、175・176は８区、170はＰ３区のいずれもⅣ層から出土した。166 ～ 170は須恵器で、166は坏Ａ１、167は坏身、168は坏類の口縁部、169・170は甕である。166は「ハ」の字状に広がる高台をもち、体部が内湾するため岡田・八峠編年のＫⅡ期であろう。171 ～ 173は土師器の甕で、171は古墳時代前期、172、173は古墳時代中期。175は高坏、176は内外面赤彩された埦である。173の甕も含め古墳時代後期のものであ

る。174は弥生土器の第Ⅳ様式の甕である。177、178は８区のⅤ層から出土した。177は弥生土器の甕の底部、178は口縁部に大きな刻目をもつ下さがりの突帯文の深鉢。179は口縁部に刻みをもつⅠ様式、弥生時代前期の甕である。180 ～ 183は突帯文土器の深鉢である。180 ～ 182はP３区のⅨ層から、183は８区のⅨ層から出土した。いずれも下さがりの突帯をもつが、180・181は刻目をもたず、182は細い刻目、183は大きな刻目をもつ。いずれも深鉢の口縁部である。



第373図　P２区Ⅷ・Ⅸ層相当層出土土器



第374図　９区出土土器

第375図　Ｐ３区・８区出土土器

Ｐ４区出土土器（第376図）

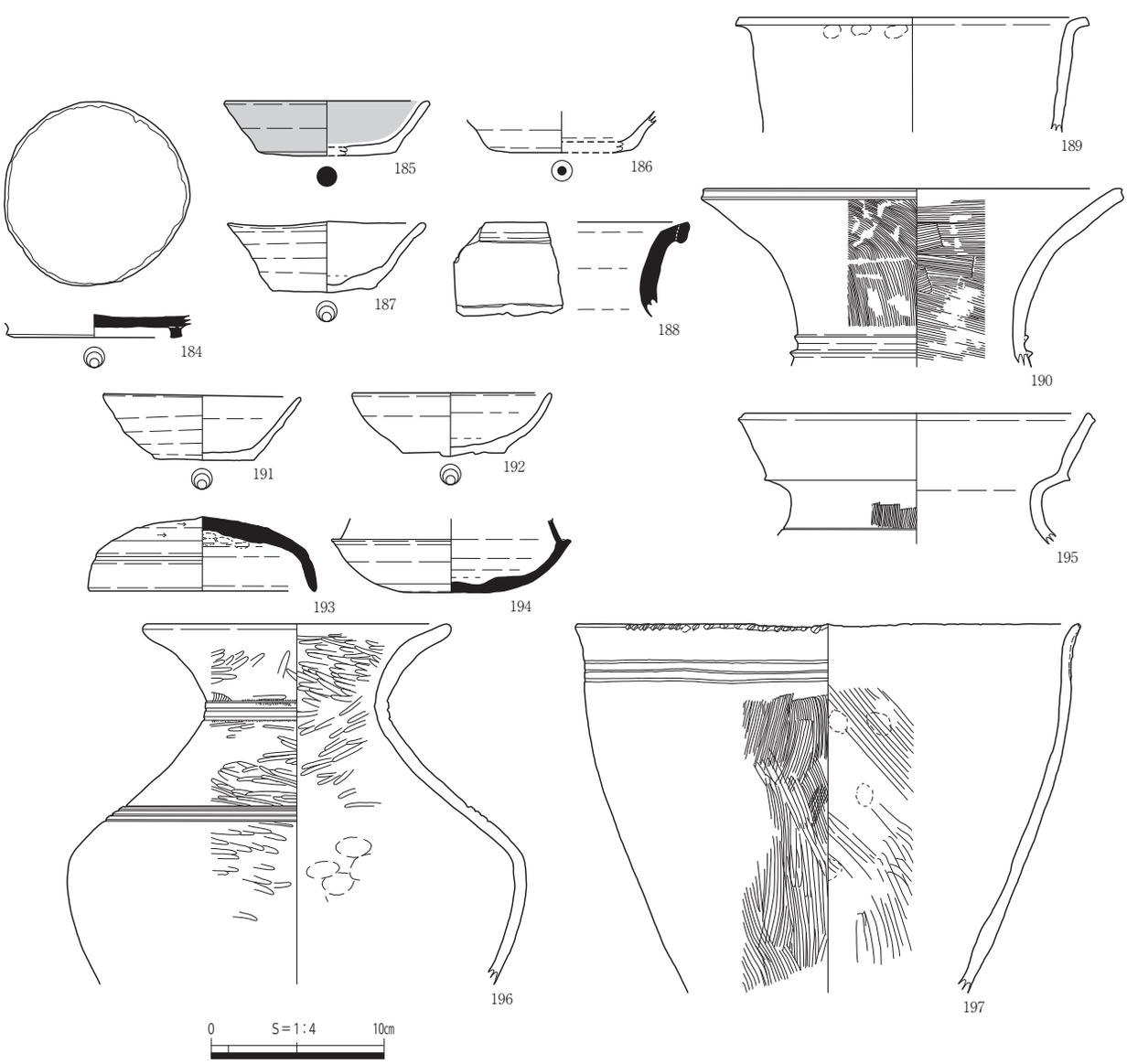
184 ～ 186は条里11から出土。184は須恵器の高台坏で、硯に転用される。185・186はロクロ土師器の坏である。185は内外面赤彩された坏Dである。岡田・八峠編年のＫⅢ-３期。186には回転ヘラ切りによる切り離しで赤彩もないため、185よりも新しい。

188は条里13から出土した須恵器の甕。187は条里12から出土したロクロ土師器の坏Kで、口縁部は

外反する。底面は回転糸切り。岡田・八峠編年のＫⅢ-３期である。

189は河道３から出土した弥生土器。口縁は短く「く」の字状である。弥生時代前期から中期前葉の甕か。190は河道４から出土した弥生土器の壺。口縁部は大きく外反して頸部に２条の貼付突帯をもつ。弥生土器の第Ⅱ様式か。

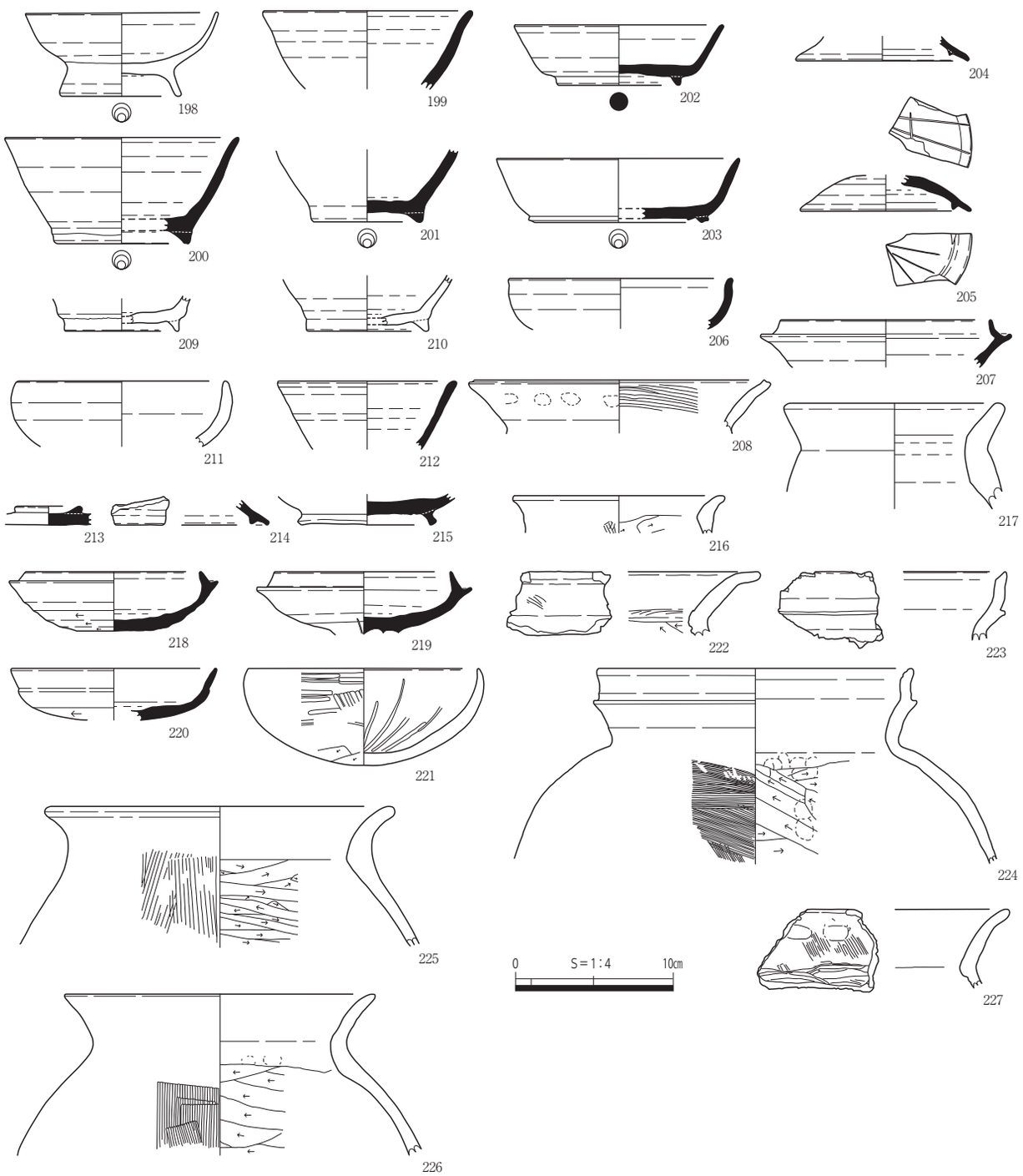
191 ～ 195は包含層から出土した土器。191、192はⅢ層から出土したロクロ土師器の坏で191は坏Kで192は坏Jである。底面はともに回転糸切りで、192はロクロ土師器の坏Iで、底部は回転糸切りにて切り離す。体部は内湾して扁平な器形である。時期は岡田・八峠編年のＣⅠ期である。193・194はⅤ層相当の須恵器。　193は坏蓋、194は坏身で、古墳時代後期のもの。196・197はⅦ・Ⅷ層から出土した。195はⅤ層から出土した土師器の壺である。複合口縁で内外面ともに横ナデ。古墳時代前期から中期のもの。196は弥生土器の壺で、頸部と肩部にヘラ状工具により沈線を３条いれる。内外面ともに密なミガキを施す。197は弥生土器の甕で、口縁部は緩く外反し、端部には刻みがある。内外面ともに丁寧なハケメ調整である。いずれも弥生時代前期の所産である。



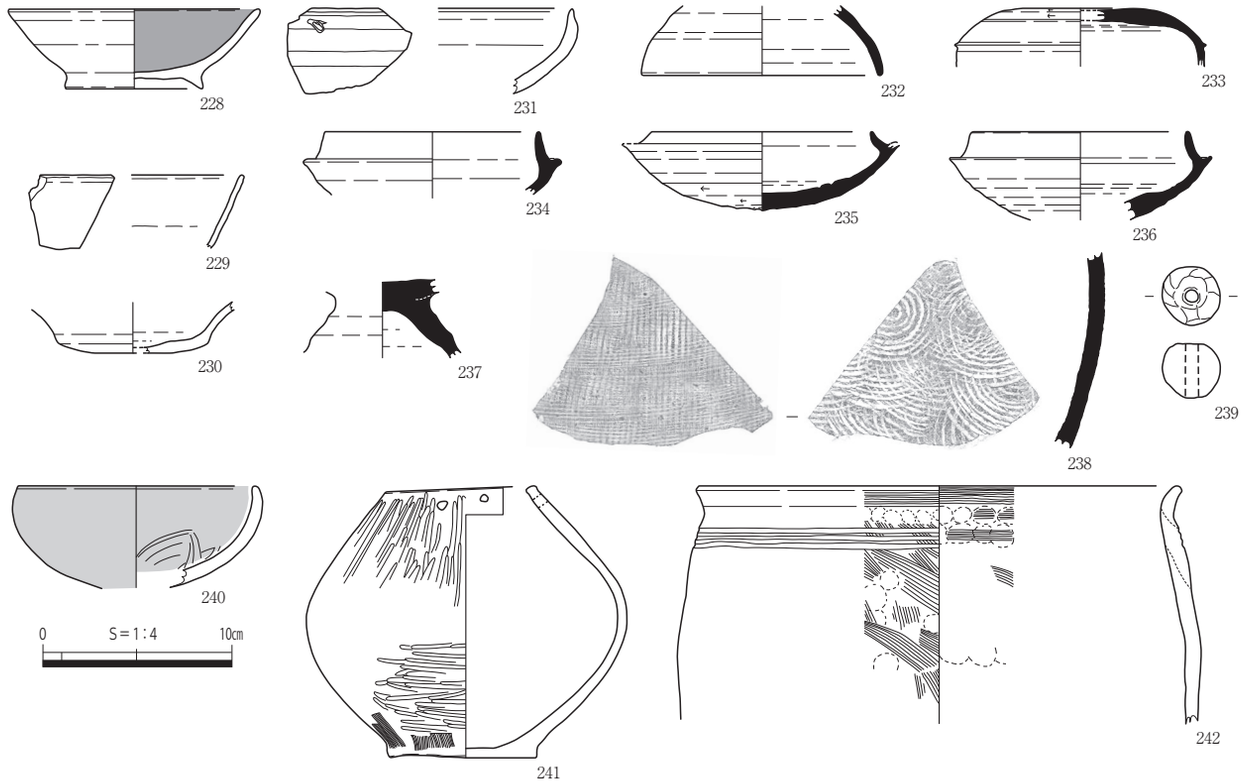
第376図　Ｐ４区出土土器

７区・Ｐ５区出土土器（第377 ～ 380図）

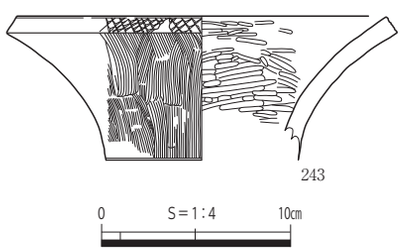
条里遺構の交点周辺にあたるため、交点周辺では帰属する遺構が明らかでない資料がある。遺物の多くは盛土からの出土である。198 ～ 208は条里14、15（第377図）で、このうち198・202・203・206は盛土の交点付近から出土した。199 ～ 203は須恵器高台坏、204、205はかえりをもつ須恵器蓋、206は須恵器坏類、207は須恵器坏身である。208は土師器の甕である。209 ～ 217は条里15から、209・211・212・216は石敷の間から出土した。209 ～ 211、216・217は土師器で、198・209・210は高台坏、211は埦、216・217はやや小型の甕口縁部である。212 ～ 215は須恵器で、212は坏の口縁部、213は輪状ツマミ、214はかえりをもつ蓋、215は高台坏である。盛土内から出土した遺物の時期幅が大きい下



第377図　７区・Ｐ５区条里14・15・盛土7出土土器



第378図　７区・Ｐ５区盛土8・溝5出土土器



第379図　７区・Ｐ５区土坑4出土土器

限を示す土器は198の土師器の坏Ｍ１で、岡田・八峠編年のＫＶ期のうち体部が内湾してやや扁平となること、高台が大きく「ハ」の字状に開くことから10世紀中葉から後半にかけての特徴をもつ。

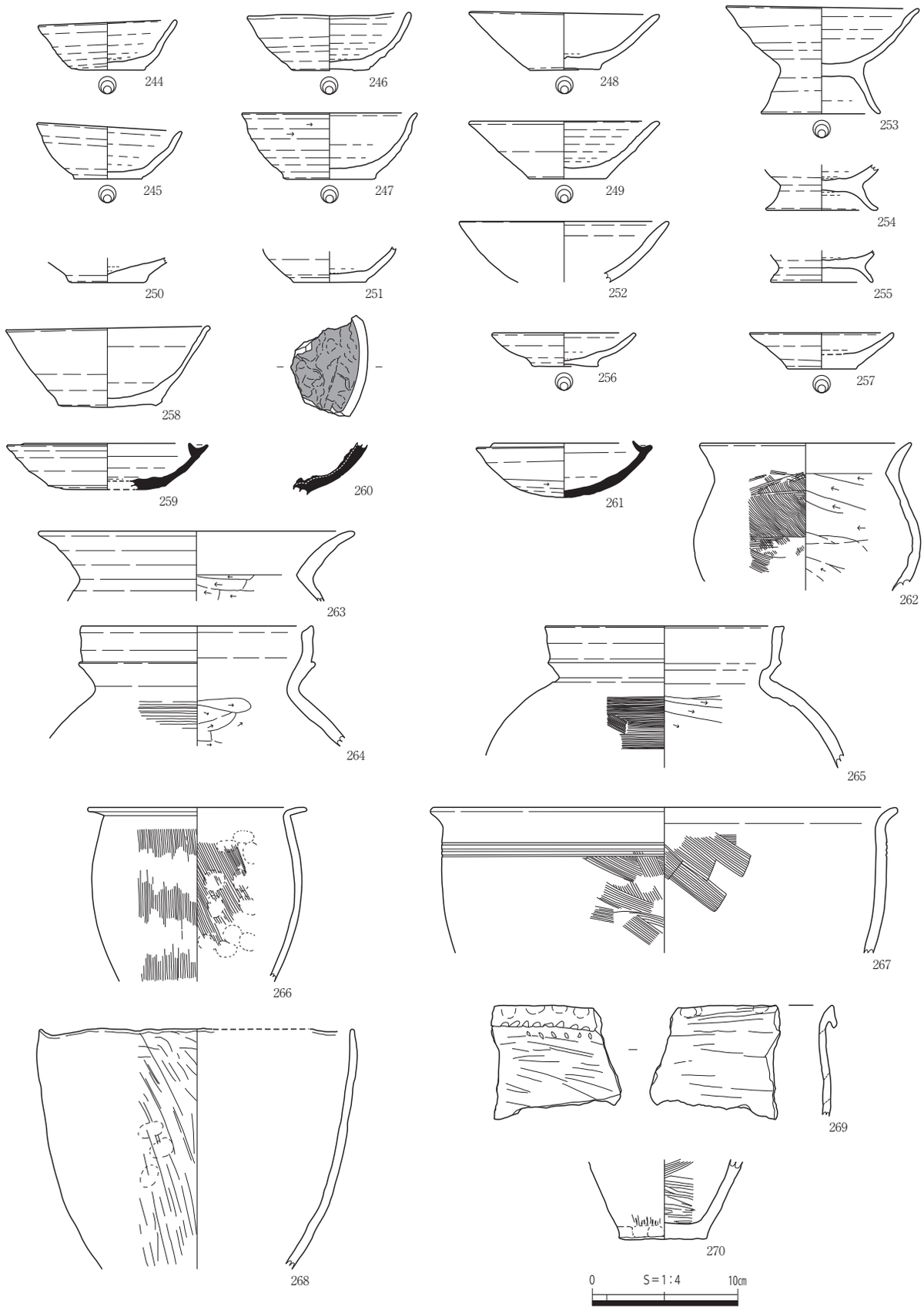
218 ～ 227は盛土７の土器である（第377図）。218は盛土の下層から、ほかは盛土内から出土した。218 ～ 220は須恵器で、218は坏身、219は有蓋高坏、220は無蓋高坏である。221は土師器の埦である。

222 ～ 227は土師器の甕で、223・224は退化した複合口縁部で古墳時代中期。222・225 ～ 227は口縁部が「く」の字状に外傾または外反する甕である。図化し得た遺物の多くは古墳時代後期以前を主体とするが、222・227のように口縁端部付近を外側に屈曲させるものがあることから、古代に下ると考えられる。

228 ～ 239は盛土８から出土した（第378図）。229はⅣ層との境、236は盛土中の砂利層、他は盛土内の出土である。228 ～ 231はロクロ土師器の坏類である。228は坏Ｍ２で、内面に赤色塗彩が残る。229・231は口縁部、231は無台の底部である。232 ～ 238は須恵器で、232・233は坏蓋、234 ～ 236は坏身、237は高坏、238は甕の体部である。239は土玉である。須恵器は古墳時代後期を主体とするが、土師器の228は岡田・八峠編年のKV期まで下がる。

240 ～ 242は溝７の出土土器である（第378図）。240・242は埋土下層、241は底面と下層との間から出土した。240は土師器の埦で古墳時代中期以降、241・242は弥生土器である。241は無頸壺で口縁部に２個一対の孔を２箇所もつ。外面はハケメ調整と細かなミガキを施す。弥生土器の第Ⅲ様式と考える。242は甕で緩く外反し、肩部に３条の櫛描沈線をもつ。調整は内外面ともにハケを主体とする。弥生土器の第Ⅱ様式の甕か。

243は土坑４から出土した（第379図）。弥生土器の壺の口縁部で、口縁部は大きく外反する器形で、



第380図　７区・Ｐ５区出土土器

端部にはヘラ状工具による斜格子文を施す。外面は縦方向のハケメ、内面は横方向の細かなミガキ。弥生土器の第Ⅲ様式、弥生時代中期の所産である。

244 ～ 257はⅢ層から出土した(第380図)。250・251・257のほかはいずれも下位で、Ⅳ層にちかい。

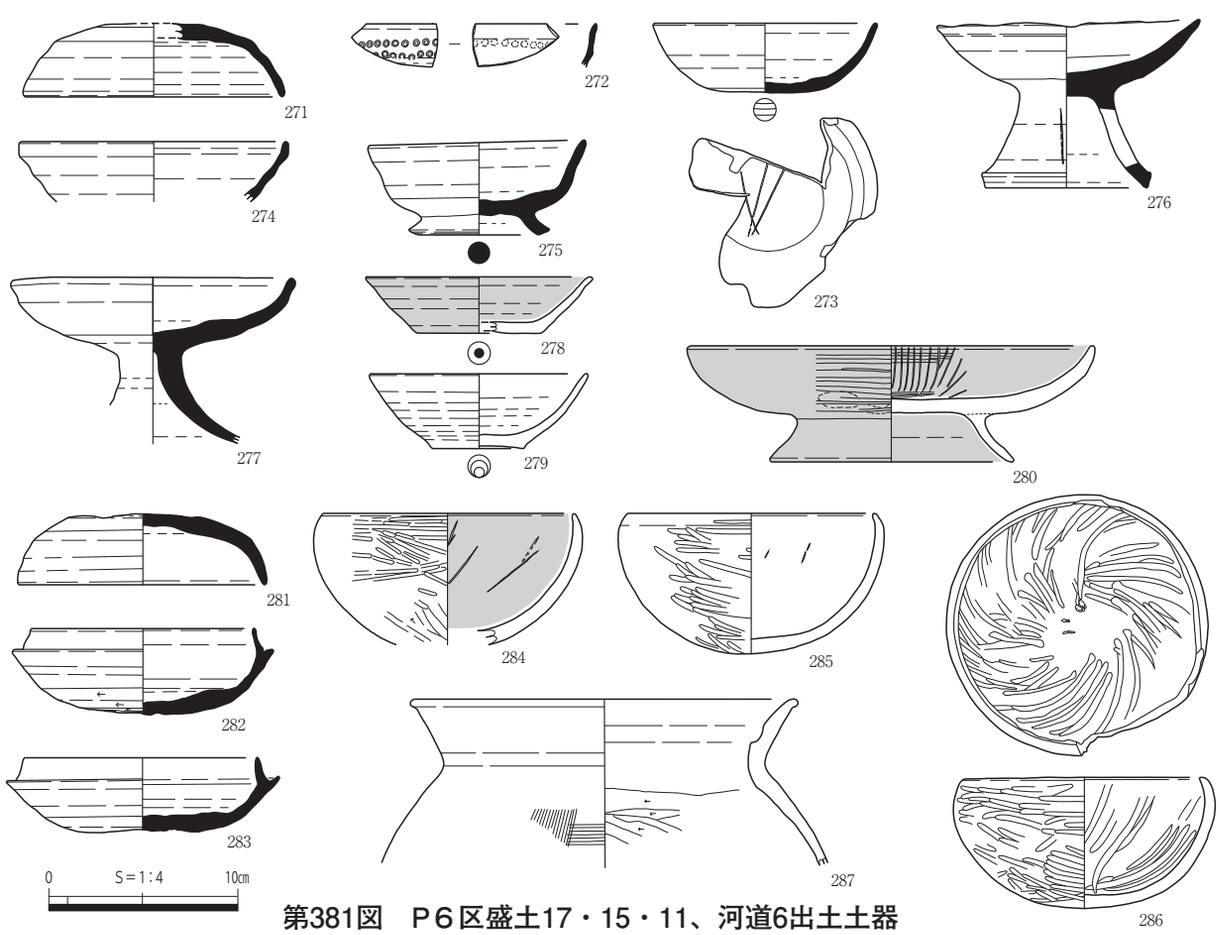
244 ～ 257はロクロ土師器である。244、248は坏I。245 ～ 247は坏J、249は坏Kである。250、251は坏類の底部、252は坏類の口縁部。253 ～ 255は坏M類である。256・257は皿Eである。256は底面から口縁部が内湾しながら広がり、口径も10cm弱でやや大きいことから岡田・八峠編年のＣⅠ期ものである。坏をみても無台の246・247、大きく広がる253も同時期のものである。

258 ～ 263はⅣ層から出土した（第380図）。258・262・263は土師器で、258は坏の口縁部、262・263は甕である。259 ～ 261は須恵器で、259・261は坏身、260は壺類の体部で、内面には漆が付着する。

264・265はⅤ層、266はⅥ層、267はⅦ層、269はⅧ層、268・270はⅨ層から出土した（第380図）。264･265は土師器の甕で、複合口縁部の稜は段状となり口縁部は直立する。266･267は弥生土器の甕。266の口縁部は「く」の字状に屈曲する。弥生土器Ⅲ様式で弥生時代中期。267の口縁部は緩く外反し、肩部には３条の櫛描き沈線か。内外面ともにハケメ。弥生土器の第Ⅱ様式と考える。269は口縁端部にやや大きい下さがりの刻目突帯をもつ。268･270は縄文土器で268は粗製の深鉢､270は平底である。

Ｐ６区出土土器（第381 ～ 382図）

272・273・275 ～ 280は盛土11から出土した。271は盛土17・15から出土した須恵器の坏蓋、274は条里11と盛土17の接合資料である（第381図）。271 ～ 277は須恵器で、272は坏の口縁部で、外面から径５㎜程の円形の文様を並べ、内面の一部には押し出された痕跡がある。口縁部の施文や形状から搬入品の可能性がある。273は坏Ｅ３で、底部に線刻がある。岡田・八峠編年のＫⅡ期。275は低脚坏Aである。276・277は高坏である。278 ～ 280は土師器である。280は土師器皿Ｂ２で、条里16と盛土11との接合資料である。体部は内湾する皿状で、ＫⅢ－１期の所産である。278・279はロクロ成形の坏



第381図　Ｐ６区盛土17・15・11、河道6出土土器

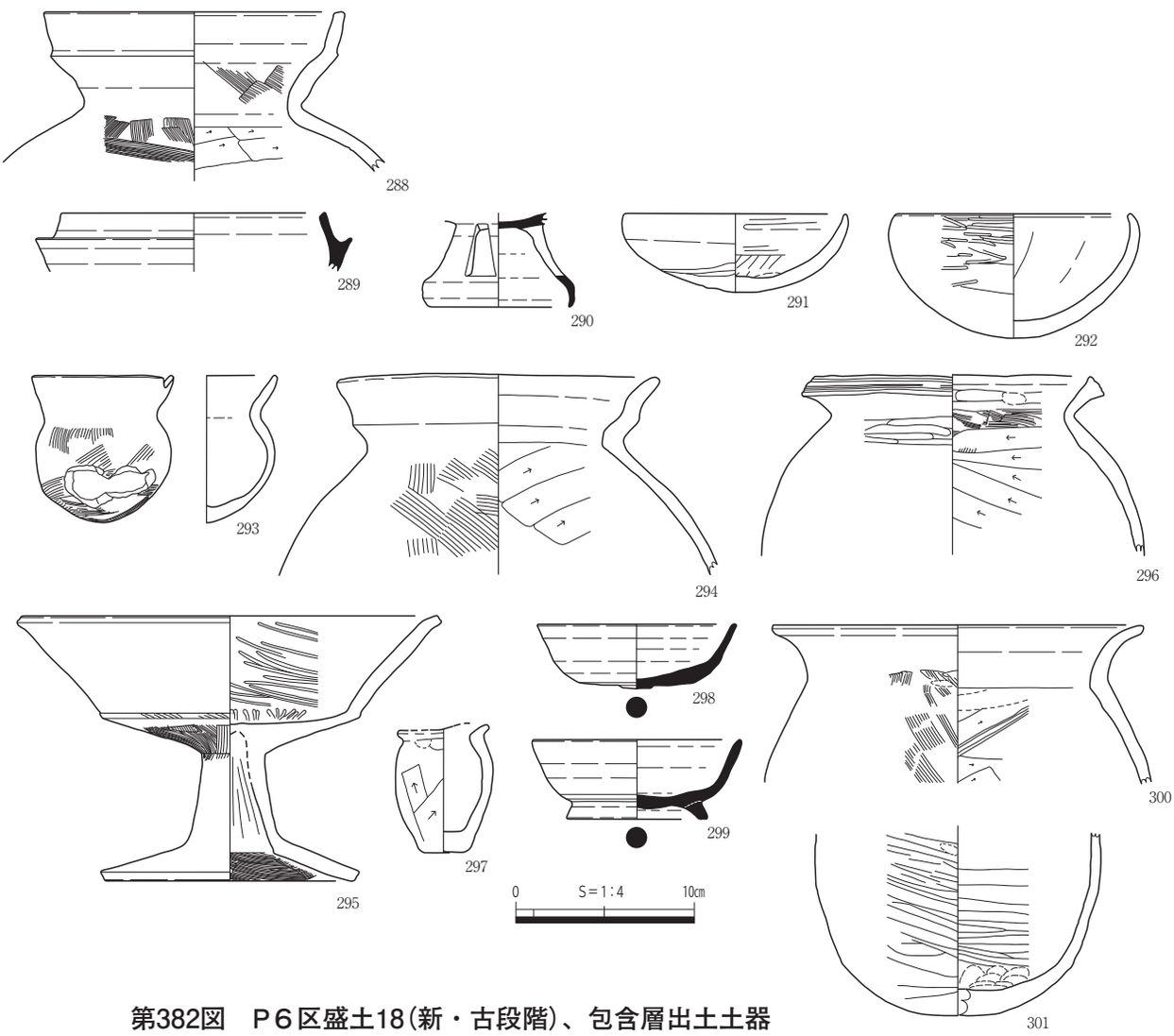
である。岡田・八峠編年のＫＶ期で遺構の年代を示すものと考えられる。

281 ～ 287は河道６から出土した土器である（第381図）。281 ～ 283は須恵器で、281は坏蓋、282・283は坏身である。284 ～ 287は土師器で、284 ～ 287は埦、287は甕である。埦はいずれも半球状で外面は横方向の密な磨き、286の内面は底面から時計回りに立ち上がる渦状のヘラミガキを施す。河道６の年代を参照するならば、岡田・八峠編年のＫⅠ期からＫⅡ期の間となる。

288は盛土18（新段階）、289 ～ 297は盛土18（古段階）から出土した（第382図）。連続する遺構である事から一括して記述する。289・290は須恵器である。289は坏身、290は有蓋高坏の脚部である。TK47 ～ MT15型式併行期である。288・291 ～ 295は土師器で、291、292は埦、293は小型丸底壺、288・294は甕、295は高坏である。293・294は古墳時代中期、288・291・295は古墳時代中期である。291は在地の形状を保つ埦で、自然流路からの落ち込みであろう。296は弥生土器の甕で、第Ⅳ様式、弥生時代中期のもの、297はミニチュア土器で、時期は不詳である。298 ～ 301はＰ６区の包含層から出土した。298は須恵器の坏H、299は須恵器の坏Ｂ２、300は土師器の甕である。301はⅨ層、貝層から出土した縄文土器の底部である（第382図）。内外面とも横方向の粗いナデ調整を施す。

６区出土土器（第383図）

302 ～ 305は６区の包含層から出土した土器である。302は須恵器の坏Ｅ３で、303は坏Dの底部であ



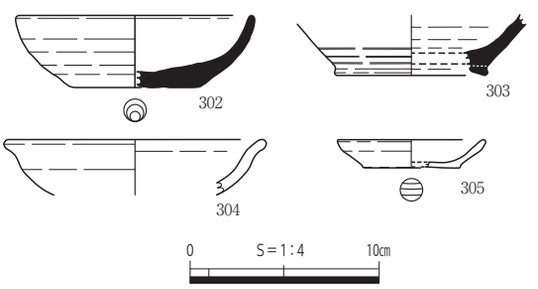
第382図　Ｐ６区盛土18（新・古段階）、包含層出土土器

る。304は土師器の坏で、口縁部は緩やかにに屈曲する。305は土師器の小皿で器壁は薄く、口径も約８㎝で、岡田・八峠編年のＣⅢ期である。

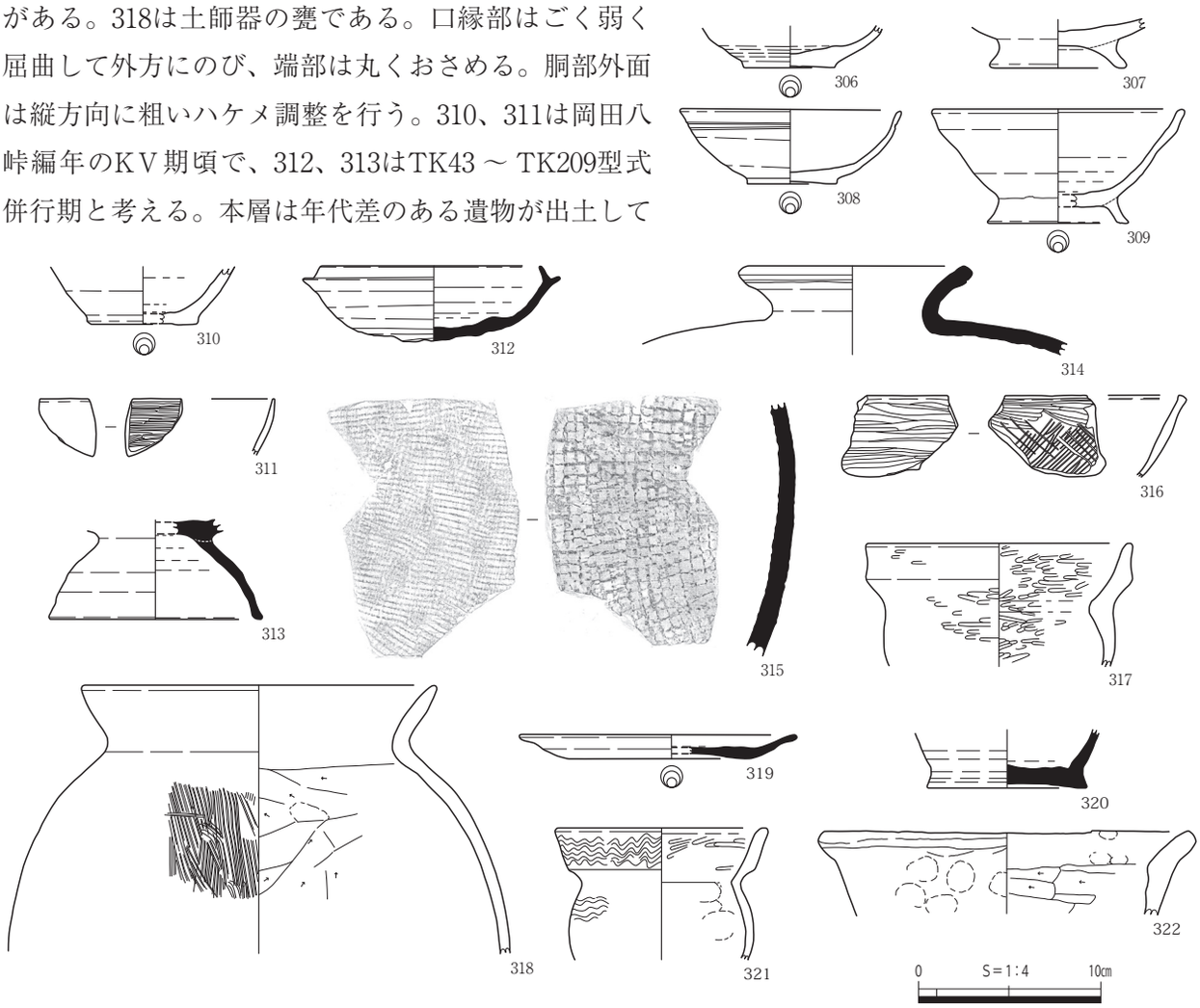
Ｐ７区の出土土器（第384 ～ 393図）

306 ～ 309は道路１の改修土①から出土している（第384図）。306 ～ 309はロクロ土師器である。306･308は土師器の坏Jである。306の外面は底部からの立ち上がりに回転ナデの痕跡を明瞭に認める。308は口縁部付近に２条の沈線がめぐる。制作時に爪等があたり偶発的に付いたものと考える。307・309は土師器の坏Ｍ１である。時期は岡田・八峠編年のＫＶ期と考える。

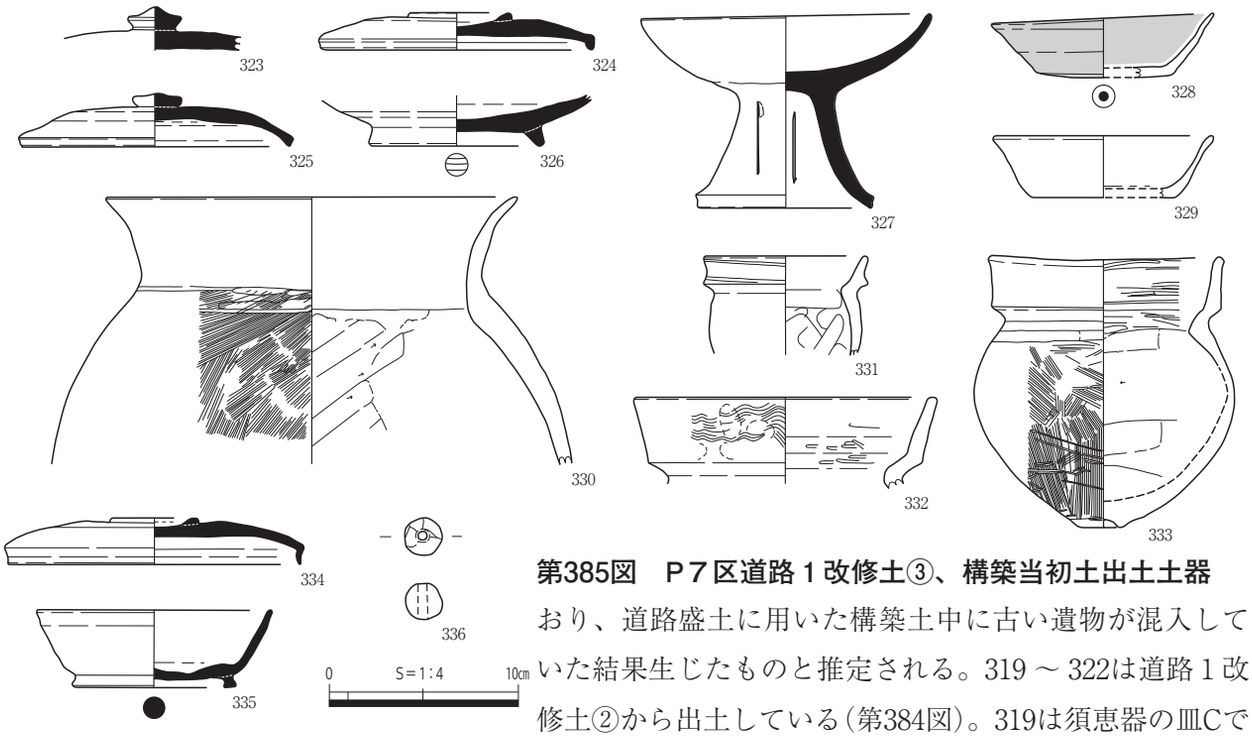
310 ～ 318は道路１の改修土①（粘土・砂質土）から出土している（第384図）。310は土師器坏類の底部である。311は内面を黒色処理した黒色土器の埦である。ロクロではなく手捏ねにより成形をしている。312 ～ 315は須恵器である。312は須恵器の坏身である。313は短脚高坏の脚部である。314の肩部が水平に近く広がることから、横瓶とみられる。315は甕類の胴部である。内面は格子状の当て具を使用している。316は土師器坏Eの口縁部である。口縁端部は内側へ肥厚し、内面には交差した放射暗紋を施す。317は土師器の甕で、形状は小さくミニチュア土器の可能性がある。318は土師器の甕である。口縁部はごく弱く屈曲して外方にのび、端部は丸くおさめる。胴部外面は縦方向に粗いハケメ調整を行う。310、311は岡田八峠編年のＫＶ期頃で、312、313はTK43 ～ TK209型式併行期と考える。本層は年代差のある遺物が出土して



第383図　６区出土土器



第384図　Ｐ７区道路１改修土①・改修土②出土土器



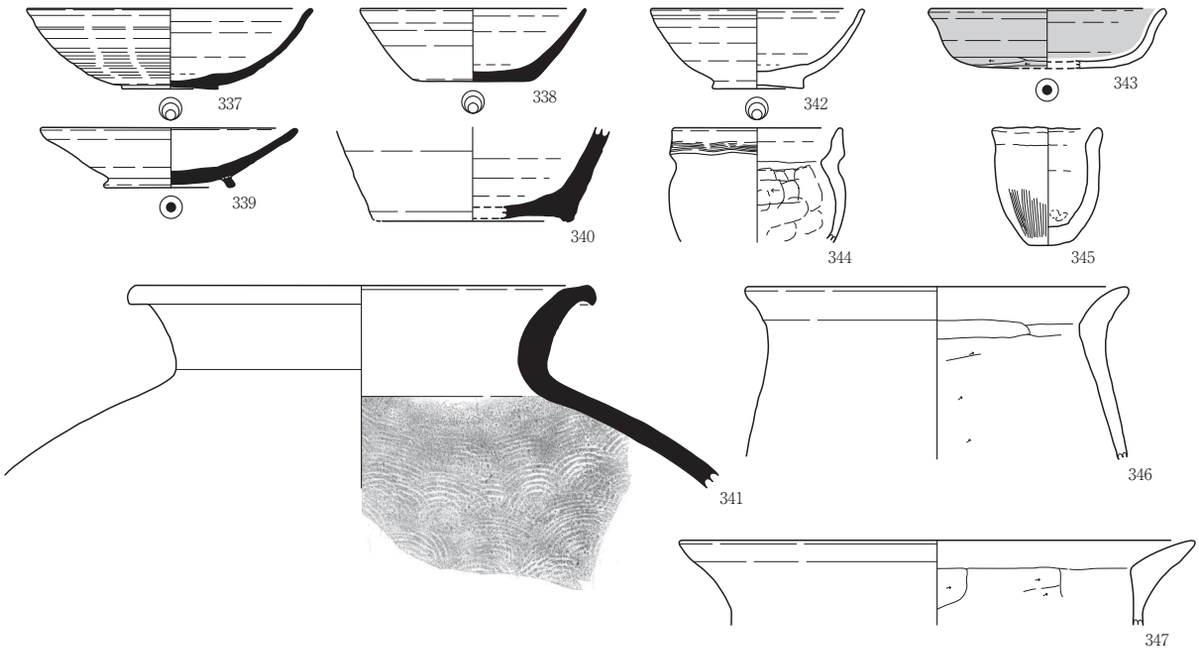
第385図　Ｐ７区道路１改修土③、構築当初土出土土器

おり、道路盛土に用いた構築土中に古い遺物が混入していた結果生じたものと推定される。319 ～ 322は道路１改修土②から出土している（第384図）。319は須恵器のⅢCである。320は須恵器の坏あるいは壺類底部とみられる。底部は平高台の形状を呈する。口縁部内面の見込み部分には沈線状の屈曲が確認できる。321は弥生後期後葉頃の小型の甕である。口縁部外面に波状文がめぐる。内面は横方向のミガキを行う。肩部にも波状文が確認できる。322は土師器の甕口縁部である。319･320は岡田･八峠編年のKⅣ期頃と考える。321・322は構築土中の混入と理解する。

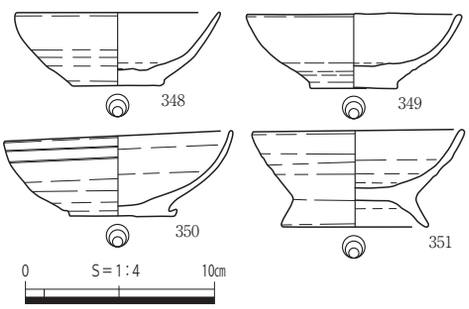
323 ～ 333は道路１の改修土③から出土している（第385図）。323 ～ 327は須恵器である。323は擬宝珠状のツマミを有するが口縁部を欠く。325は蓋Dである。324は蓋Cである。324・325の口縁端部は断面形状が三角形に近い。324の輪状ツマミは扁平で低くなる。326は高台坏の底部である。高台部は「ハ」の字状を呈し、底部には静止糸切りの痕跡を残す。327は高坏Aである。脚部には切り込み状の透かしを二方向から入れる。328・329は土師器の坏Dである。328は外面に赤色塗彩を施す。横ナデにより成形し、底部はヘラ削り調整である。323 ～ 327は岡田・八峠編年のKⅢ-２～３期頃で土師器の坏もこの範疇で収まるものと考えられる。330 ～ 333は甕である。330は頸部から口縁部へ直立気味に立ち上がり、途中で外反する。口縁端部はより丸くおさめる。胴部は右上がりのハケメ調整を行い、右斜め上方向に内面を削る。古墳時代後期頃と推定される。331 ～ 333は複合口縁をもつ甕である。331は小型でありミニチュア土器とみられる。332の口縁部外面には波状文を施す。333の口縁部内面は横方向のヘラミガキをする。肩部付近は不定方向に胴部中ごろから底部にかけては縦方向のハケメ調整を行う。弥生時代後期後葉から古墳時代前期に比定される。

334 ～ 336は道路１の構築当初土から出土している（第385図）。334は須恵器の蓋Cである。口縁部は強いナデにより下方に長く延びる。335は須恵器坏Cである。高台部はやや踏ん張った形状を呈する。336は土玉である。334・335から岡田・八峠編年のKⅢ-１期頃と考える。

337 ～ 347は道路１の盛土中から出土している（第386図）。トレンチや側溝の掘削中に出土したものであり、明確な帰属層位が不明であった。337は須恵器の埦Aである。平高台であり、外面の底部立ち上がりには回転ナデの痕跡を明瞭に残す。口縁部はやや外反し丸くおさめる。338は須恵器の坏G



第386図　Ｐ７区道路１盛土内出土土器



第387図　Ｐ７区道路１側溝出土土器

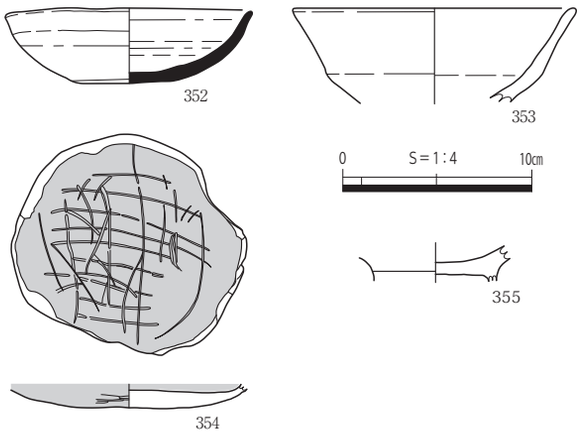
１である。平坦な底部で口縁部はまっすぐのびる。底部は回転糸切りにより切り離す。339は高台付皿である。口縁部はまっすぐにのびて、口縁端部は丸くおさめる。底部は回転ヘラ削りにより切り離される。340は壺類の底部とみられる。341は須恵器の甕Aである。342は土師器の坏Jである。343は土師器の坏Dであり、両面に赤色塗彩を施す。344、345は土師器のミニチュア土器である。346､347は土師器の甕である。346は口縁部が短く外方へのびる。347も口縁部は短く外方にのびるものの、内面は「く」の字状に屈曲する。時期は344・345を除き、岡田・八峠編年のKⅢ-３期～ＫＶ期頃に比定される。

348 ～ 351は道路１側溝から出土している（第387図）。348 ～ 350は土師器の坏Jである。351は土師器の坏Ｍ１である。時期は岡田・八峠編年のＣＩ期頃と考える。

352 ～ 354は道路１道路外盛土から出土している（第388図）。352は須恵器の坏である。底部は回転ヘラ切りである。353は土師器の坏類であり、底部を欠損する。口縁部から底部にかけて、弱い稜を有する。354も土師器の坏類で､内外面に赤色塗彩を施す。見込み部には格子状のミガキを施している。底部外面は不定方向の粗いミガキである。時期は352、354が７世紀後半以降、353が岡田・八峠編年のＫＶ～ CI期頃に比定できる。

355は条里20から出土した土師器の底部である（第388図）。坏部と高台部端を欠損する。詳細な時期は不明だが10世紀代以降と考えられる。

356 ～ 391は溝８から出土している（第389図）。356 ～ 363は須恵器蓋である。口径により大小二つの法量が確認できる。口径の小さいグループは356 ～ 360、大きいグループは361 ～ 363である。356は須恵器の蓋Ａ１である。擬宝珠状のツマミを貼り付ける。口縁端部のかえりは短い。357 ～ 361は須恵器の蓋Bである。357の天井部はやや扁平でかえりも垂直に下方へのびる。362は蓋Eである。ツマミは扁平なボタン状を呈する。363も須恵器蓋とみられるが、焼け歪みが著しい。天井部に漆にて

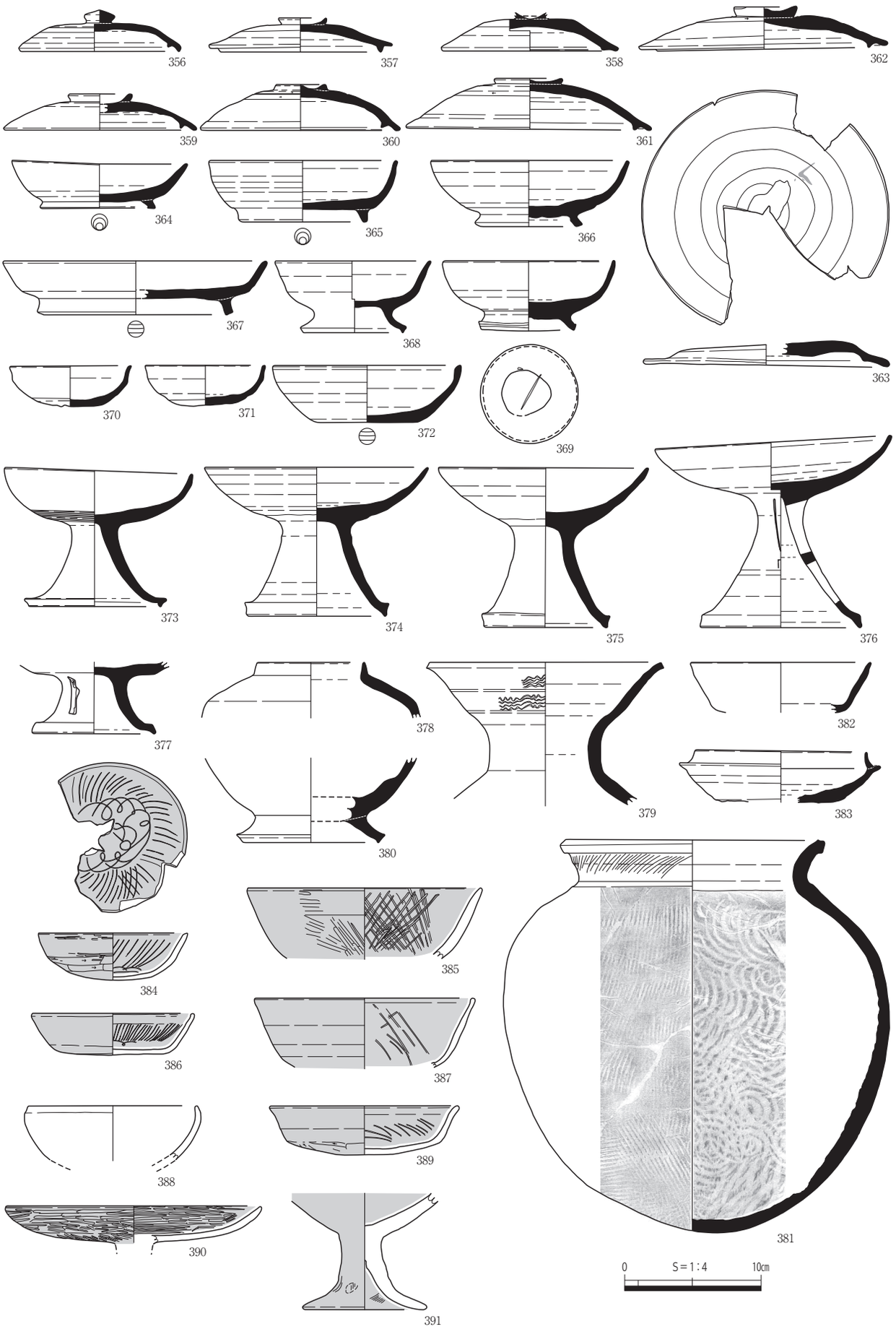


第388図　Ｐ７区道路１道路外盛土出土土器

記号が付される。364 ～ 366は須恵器の坏類である。364は坏A類である。坏部は比較的浅く、高台は「ハ」の字状に張っている。365は坏Ｂ１である。回転糸切りの底部に「ハ」の字状の高台を貼り付ける。口縁部へは屈曲して水平気味に立ち上がる。366は坏Ａ１である。高台は踏ん張った形状をし、坏部は坏蓋を逆転したような形状を呈する。367は皿Ａ１である。平らな底部で口縁部はまっすぐにのびる。368は低脚坏Aである。脚部はやや踏ん張った形状を呈し、脚端部は下方へ折り返す。369は坏Ａ１である。脚部は「ハ」の字状にのび、脚端部は面取りする。369は坏Ａ１としたが、低脚坏Aと中間的な様相をもつ。外面底部にヘラ記号を付す。370、371は坏Hである。372は坏Ｅ２であり、口縁端部は肥厚する。373 ～ 376は須恵器高坏Aである。373は坏部の外面底部にカキメ調整を施す。376は上下２段に二方向透かし孔をいれる。上段は切り込み状で、下段は長方形を呈する。377も須恵器の高坏脚部と推定されるが、坏部を欠く。378は壺Cである。379は広口壺である。口縁部には沈線にて画した２箇所に波状文を施す。この壺の形状は類例が見当たらない。380は長頸壺類の底部である。381は須恵器の甕Aである。頸部にはヘラ状の工具により斜文を施す。溝８の帰属にしたが、破片は道路１の構築当初土、下層下面においても接合がみられた。382は須恵器の坏G類である。383は須恵器の坏身である。384 ～ 387は土師器の坏類である。外面はヘラミガキし、内面は放射暗文と見込みに螺旋文を施す。384は小型の坏Cである。外面底部は丸く、不定方向の静止ヘラ削りあるいは、ヘラ状工具によるナデ調整をしたのち、ヘラミガキを行う。口縁端部をナデて面取りする。385は外面がヘラミガキ、内面は粗い放射暗文を交差させる。口縁端部は横ナデにより丸くおさめる。386は坏Dである。外面は摩滅が著しく詳細は不明であった。内面は放射暗文と螺旋文を施す。口縁端部は肥厚する。387は土師器坏Eである。口縁端部は肥厚し、比較的深手である。摩滅が著しく詳細な調整は不明であるが、内面に交差した放射暗文を施す。388は土師器の埦Aである。底部を欠損する。口縁部は強いナデにより弱い段ができる。摩滅が著しく詳細は不明であるが暗文等は行われていなかった可能性が高い。389は底部を欠損しており、高坏か坏類かの特定はできなかった。390は土師器の高坏である。390は皿状に立ち上がり、内外面は横方向のヘラミガキを施す。391は土師器高坏の脚柱部である。上下層から若干の混入はあるものの、時期は岡田・八峠編年のKⅡ期と考える。

392は河道８から出土した（第390図）。ミニチュア土器である。393 ～ 398は盛土20から出土している（第390図）。盛土20の構築は下層にある河道６の埋土を用いたと理解されており、出土した土器は本来は、河道６に帰属する可能性の高い遺物である。393は須恵器の坏Hである。394 ～ 398は土師器である。394は坏Bである。外面が横方向のヘラミガキを、内面には放射暗文を施す。395は坏Bとみられるが、摩滅が著しく詳細な調整は不明である。396は皿Ｂ１である。397、398は土師器の甕である。397は甕Bである。胴部上半は縦方向、下半は斜め方向のハケメ調整を行う、最大胴径は胴部下半にみとめる。398は「く」の字状に屈曲し短く外反してのびる。時期は岡田・八峠編年のKⅡ期と考える。

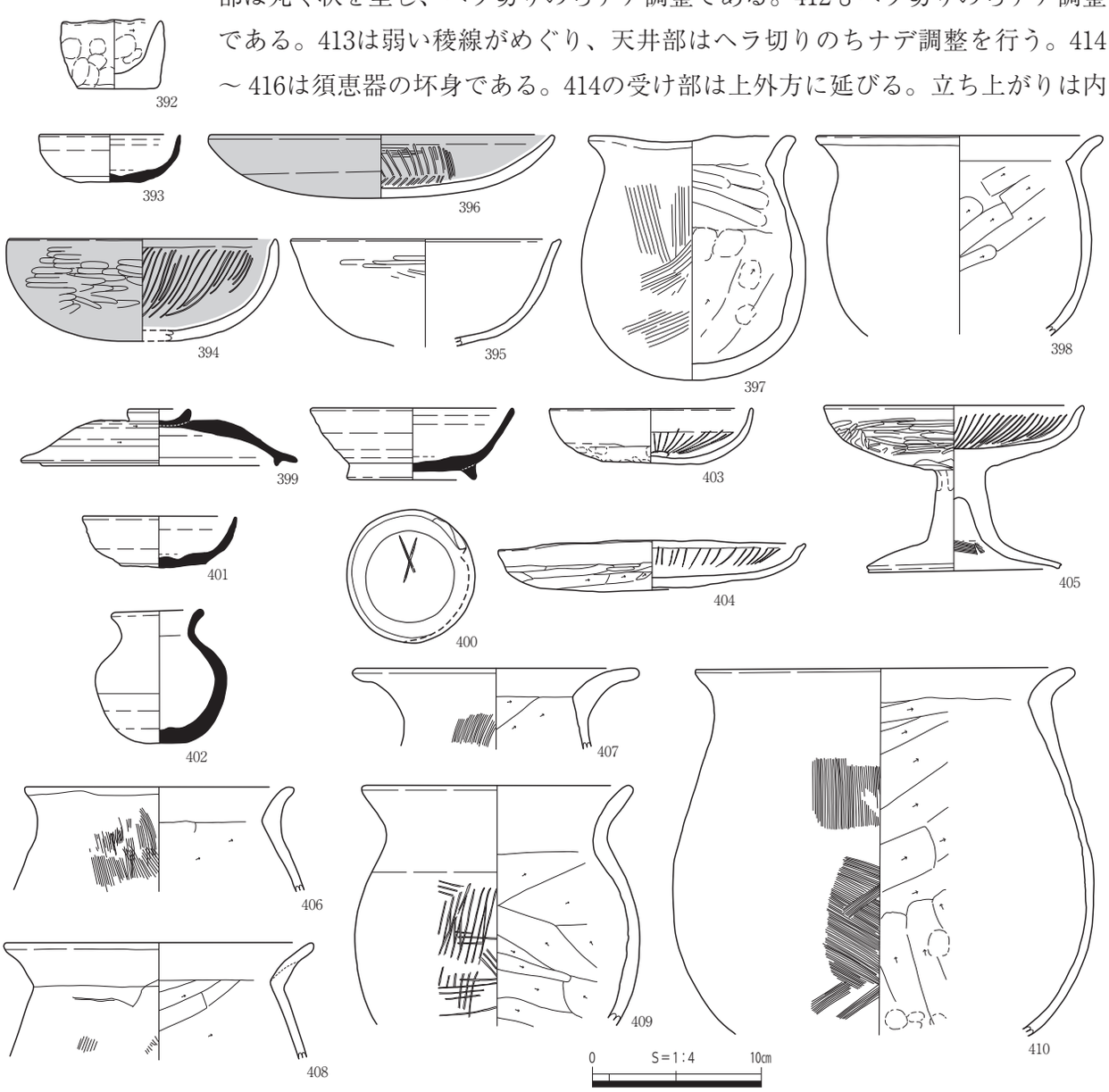
399 ～ 410は河道６上層から出土している（第390図）。399 ～ 402は須恵器である。399は蓋Bである。400は坏Ｂ３である。底部外面にヘラ記号を付ける。401は坏Hである。402は小型の壺Fである。403



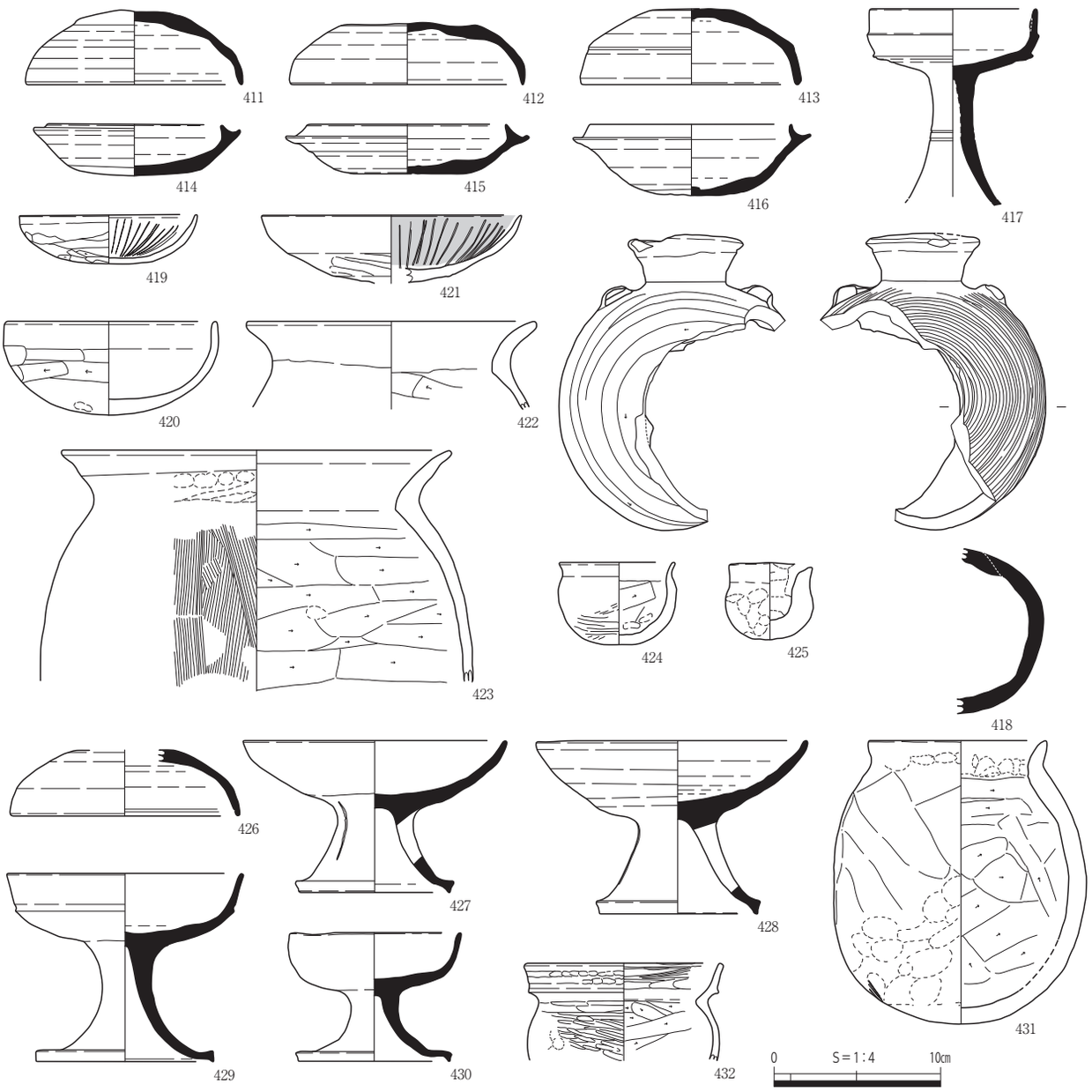
第389図　Ｐ７区溝８出土土器

～ 410は土師器である。403は坏Aである。底部外面は指おさえの痕跡が残る。口縁部は横方向になで、口縁端部は丸くおさめる。内面は放射暗文と螺旋文を施す。404は皿Aである。底部外面はヘラ削りのちナデ調整を行っている。内面には放射暗文を施す。口縁端部は強いナデにより段を形成する。405は高坏である。埦状の坏部で外面には横方向のヘラミガキを施す。内面は放射状のヘラミガキが確認できる。406 ～ 410は土師器の甕類である。406、407は口縁部がやや厚手の甕で、肩部は縦方向のハケメ調整を行う。406の口縁部は短く上外方に延びる。407は口縁部が外反して延び、頸部内面は強く屈曲し、「く」の字状を呈する。408は頸部から弱く屈曲して外反する。409は上外方にやや長めの口縁部が延びる。胴部上半は縦方向の粗いハケメ調整を行う。内面上方は右斜め上に、下方は横方向に近い削りを行う。410は甕Bである。短い口縁部が外方に延びる。内面は407と同様に「く」の字状を呈する。最大胴径は胴部下半に求められる。胴部上半は縦方向のハケメ調整、下方は左上がりのハケメ調整を行う。内面はヘラ削りを行う。399 ～ 410の時期は岡田・八峠編年のKⅡ期と考える。

411 ～ 425は河道６下層から出土している（第391図）。411 ～ 413は須恵器の坏蓋である。411の天井部は丸く状を呈し、ヘラ切りのちナデ調整である。412もヘラ切りのちナデ調整である。413は弱い稜線がめぐり、天井部はヘラ切りのちナデ調整を行う。414 ～ 416は須恵器の坏身である。414の受け部は上外方に延びる。立ち上がりは内



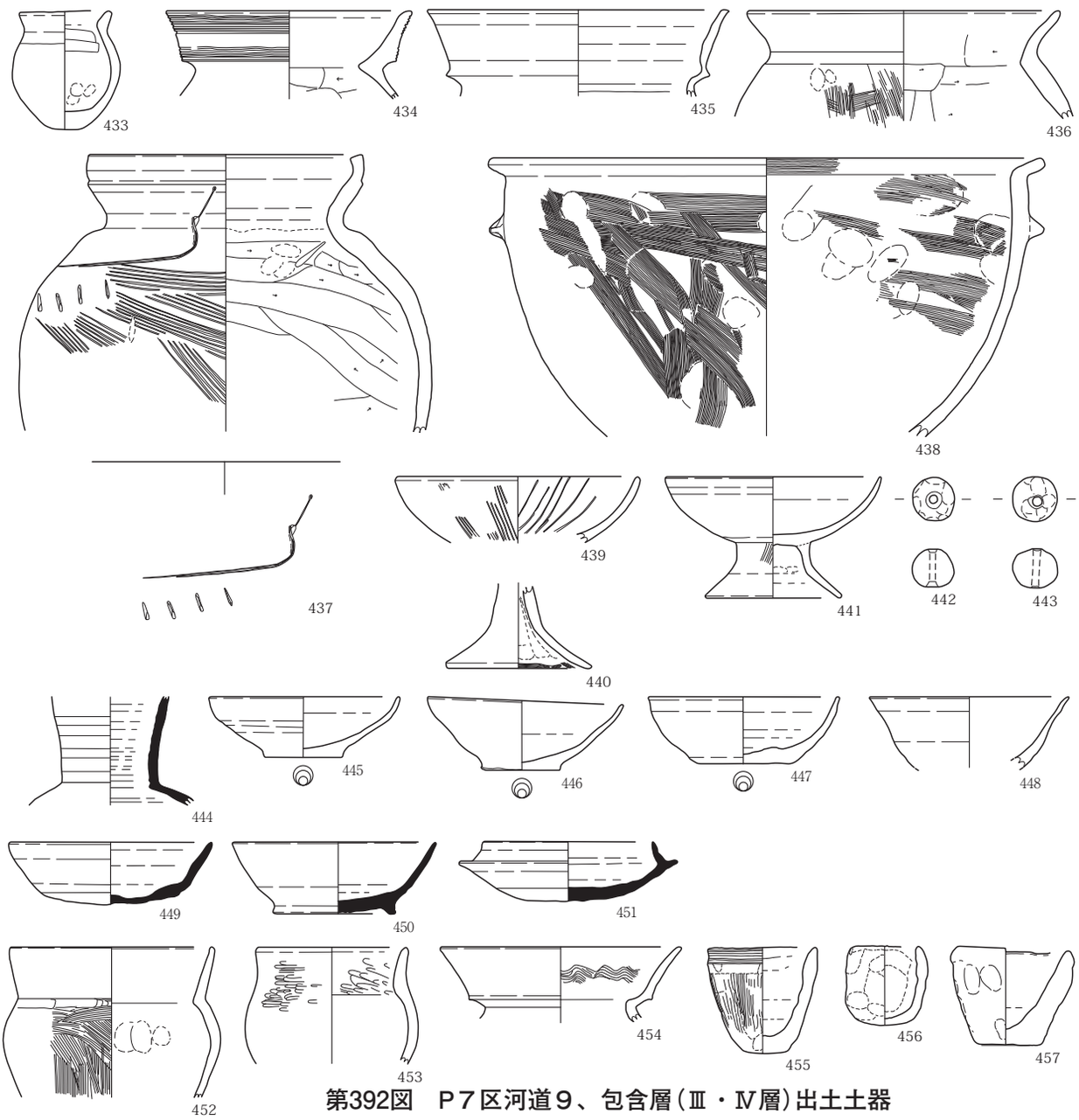
第390図　Ｐ７区河道８・盛土20・河道６（上層）出土土器



第391図　Ｐ７区河道６（下層）出土土器

傾し短い。415の受け部は沈線状にへこむ。扁平な形状で底部は平らに近い。416はやや深手で、受け部は水平に延びる。立ち上がりは短く内傾する。底部調整は414 ～ 416ともにヘラ切りである。415、416はヘラ切りのち不定方向のナデ調整を行う。417は須恵器の無蓋高坏である。418は須恵器の提瓶である。肩部にはボタン状の突起を貼付する。胴部上面はカキメ調整、下面はヘラ削りを行う。上半断面には閉塞した状況が確認できる。419は土師器の坏Aである。口縁部は強い横ナデを行い、口縁端部は丸くおさめる。外面は摩滅しており詳細は不明ながら、ヘラ状工具による削り、あるいはナデによる痕跡が残る。内面は放射状のヘラミガキを施すが、螺旋暗文は見受けられない。420は土師器の埦Aである。421は剝離の状況から土師器の高坏とみられる。内面には赤色塗彩の痕跡が残る。422、423は土師器の甕である。423は土師器の甕で口縁部は弱く屈曲しながら外方にのびる。外面は縦方向のハケメ調整を行う。424、425はミニチュア土器である。須恵器の坏身、坏蓋からTK209 ～ TK217型式併行期と考えられ、６世紀末～７世紀前半代と推定される。

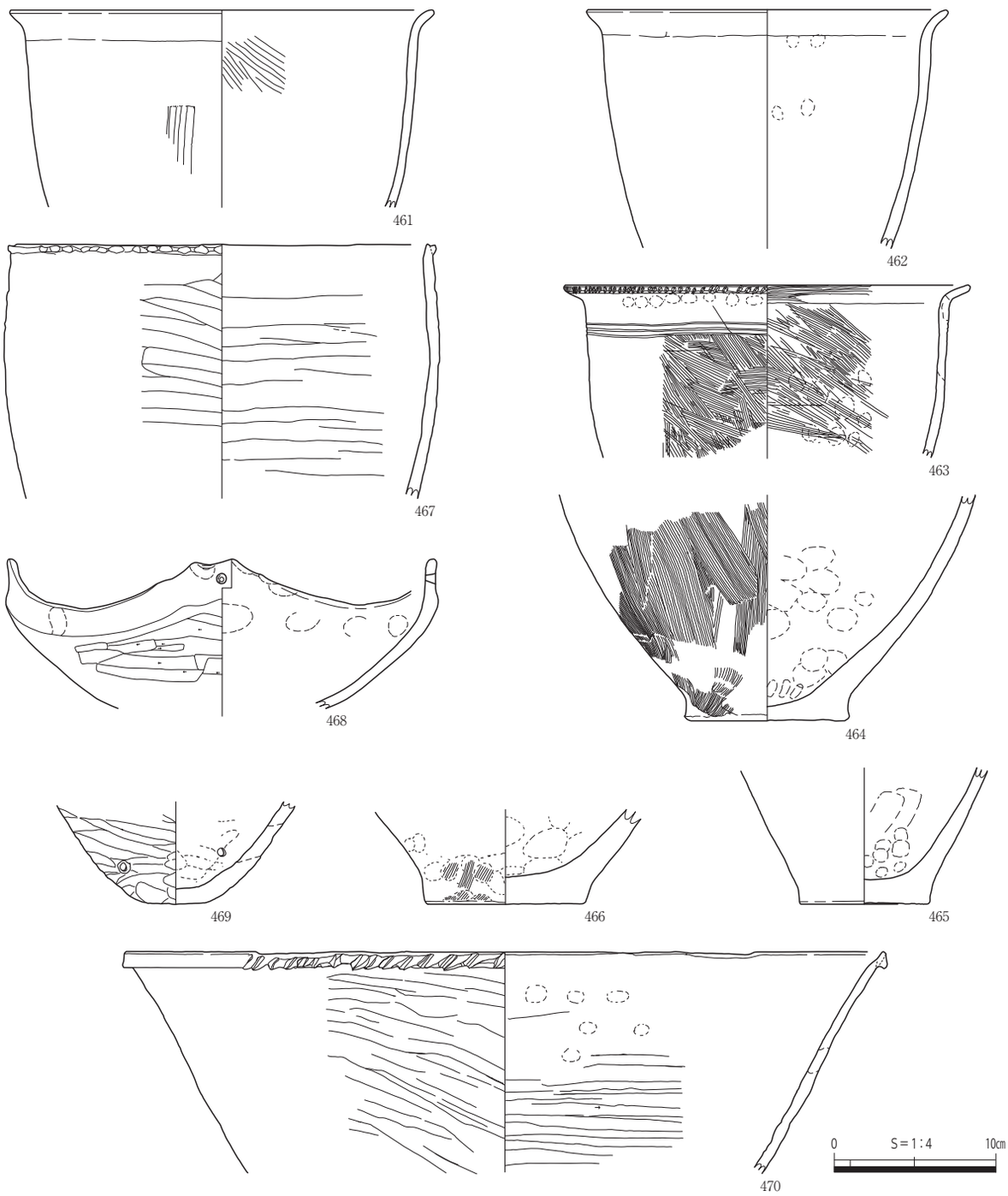
426 ～ 432は河道６から出土している（第391図）。トレンチや排水溝の掘削時に出土したため明瞭な



第392図　Ｐ７区河道９、包含層（Ⅲ・Ⅳ層）出土土器

帰属層位が不明だったものである。426は須恵器の坏蓋である。口縁部は内面に沈線が巡る。TK209 ～ TK217型式併行期。427 ～ 430は須恵器の高坏である。427、428は高坏Aであり、岡田・八峠編年のKⅡ～ KⅢ-１期頃と考える。429は長脚無蓋高杯である。坏部には沈線にて稜を表現する。430は低脚の無蓋高坏であり、TK209型式～ TK217型式併行期と考える。431は土師器の甕である。口縁部は短く上方にのびる。432は複合口縁をもつ小型の甕である。

433 ～ 443は河道９から出土している（第392図）。433は土師器の小型壺である。口縁部は横ナデし、内面は指オサエが残る。434、435は複合口縁の甕である。434の口縁部には多条沈線がめぐる。436は土師器の甕である。口縁部は屈曲して外方に延びる。437は土師器の甕である。直立する口縁部はやや内傾しする。肩部にヘラ描きの絵画がある。何を表現したかは不明である。438は土師器の鉢とみられる。短く外反した口縁部をもち、胴部にツマミ状の突起が貼付される。外面上半は横方向の



第393図　Ｐ７区包含層（Ⅶ・Ⅸ層）出土土器

ハケメ調整を、下半は斜めを基調にした不定方向のハケメ調整を行う。439、440は土師器の高坏である。441は土師器の低脚坏である。442、443は土玉である。434は弥生時代後期～古墳時代初頭頃とみられ、435は古墳時代前期頃と推定される。436は布留系甕と考えるが口縁部は退化した様相が窺える。437は内傾した口縁部で厚手になっていることから、古墳時代中期でも後半頃と考えられる。よって、河道９の遺物は弥生時代後期～古墳時代前期と古墳時代中期～後期の２時期に分かれそうである。

444 ～ 451は包含層（Ⅲ、Ⅳ層）から出土している（第392図）。444 ～ 448はⅢ層から出土している。444は須恵器の平瓶とみられる。445 ～ 447は土師器の坏Jである。448は土師器の坏であるが底部を欠損する。449 ～ 451はⅣ層出土としたものの多くは、道路１道路外盛土に帰属すると推測される。449は須恵器の坏である。450は須恵器の坏Ｂ２である。451は須恵器の坏身である。452 ～ 460は包含層（Ⅵ

層）から出土している（第392図）。452、453は土師器の甕とみられる。454は複合口縁の土師器甕である。口縁部内面に波状文を施す。455 ～ 467はミニチュア土器である。458 ～ 460は土玉である。時期を明瞭に示す土器は少ないが454から古墳時代前期頃と考えておきたい。461 ～ 470は包含層（Ⅶ、Ⅸ層）から出土している（第393図）。461 ～ 463は甕である。僅かに「く」の字状に外反する口縁部をもつ。463は口縁部に刻目をもち、肩部にヘラ描沈線を施す。461 ～ 463の時期は弥生第Ⅰ様式に比定される。464 ～ 466は甕の底部とみられ、平底を呈する。464の外面には縦方向のハケメ調整を行う。464 ～ 466ともに内面に指押さえの痕跡が残る。467は縄文晩期の深鉢である。やや内湾した口縁部に刻目突帯をもつ。胴部の内外面は粗雑な擦痕が残る。468は波状口縁の浅鉢である。波頂部には穿孔をする。胴部は指あるいは工具を用いたナデとみられる。469は深鉢の底部である。丸底であり、底部付近に穿孔が確認できる。470はⅨ層から出土した、刻目突帯をもつ深鉢である。

Ｐ８区出土土器（第394 ～ 396図）

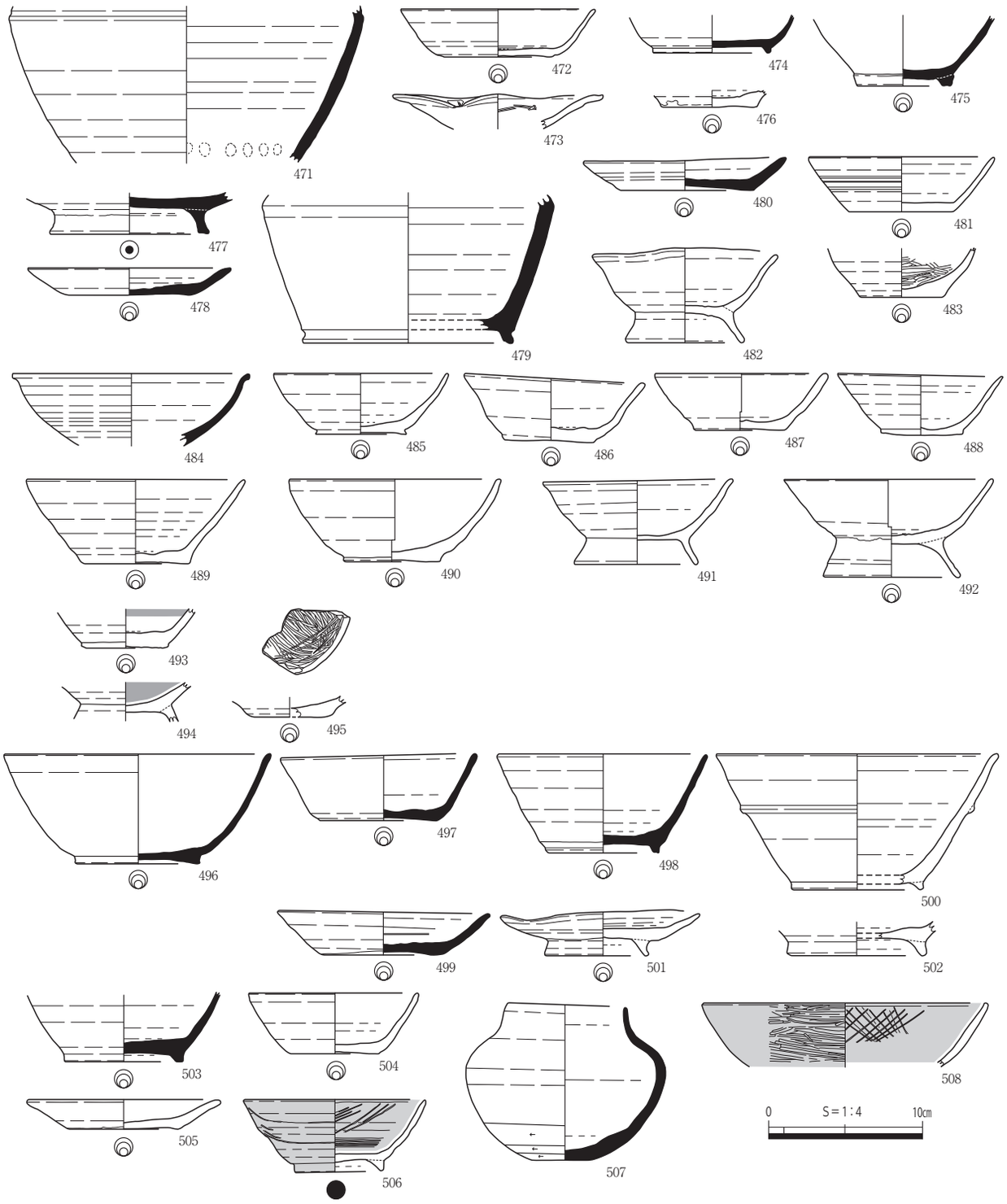
471 ～ 473は道路１改修土①から出土している（第394図）。471は須恵器の壺類の胴部である。472は土師器の坏Kである。岡田・八峠編年のKⅢ-３期～ KⅣ期頃と考える。473は土師器のⅢHである。口縁部端部は僅かであるがつまみ上げている。口縁部は二段にナデている。10世紀後半～ 11世紀前半頃と考える。474 ～ 476は道路１改修土②から出土している（第394図）。474、475は須恵器の坏Cとみられる。岡田・八峠編年のKⅣ期頃と考える。476は土師器の坏類の底部である。477 ～ 479は道路１構築当初土から出土している（第394図）。477 ～ 479は須恵器である。477はⅢＡ１の高台とみられる。478はⅢCである。479は壺類の胴部で内面に漆が付着している。477、479の詳細な時期の特定はしがたいが、７世紀後半～８世紀代と考える。478は岡田･八峠編年のKⅢ-３期～ KⅣ期頃と考える。480 ～ 483は道路1側溝から出土している。480は須恵器のⅢCであり、KⅢ-３期～ KⅣ期頃と考える。481は土師器の坏Kであり、岡田・八峠編年のKⅣ～Ⅴ期頃と考える。482は土師器の坏Ｍ１である。時期は岡田･八峠編年のＫⅤ期と考える。483は黒色土器の底部である。ロクロにより成形されており、底部は糸切りにより切り離される。

484 ～ 495は道路１道路外盛土から出土している（第394図）。484は須恵器の埦Aである。485 ～ 492はロクロ土師器の坏である。ロクロにより成形されており、底部は糸切りによって切り離される。485 ～ 488は坏Iである。489は坏Kである。490は坏Jである。491、492は坏Ｍ１である。493、494は土師器坏類であるが、内面に漆が付着する。495はロクロにより成形された黒色土器である。これらの時期は岡田・八峠編年のＫⅤ期と考える。

496 ～ 502は条里22から出土している（第394図）。496 ～ 499は須恵器である。496は平底高台をした埦Aである。497は坏Ｇ１である。498は坏Dである。499はやや浅手化したⅢBである。500は焼成から土師器としたが、器形は突帯付の須恵器坏Dである。501は土師器のⅢFである。高台は高くやや踏ん張った形状をなす。Ⅲ部分も比較的深手である。502は土師器の高台坏である。内外面が黒色を呈している。498、499、500から岡田・八峠編年のKⅣ期と考える。

503 ～ 506は条里23から出土している（第394図）。503は須恵器の坏Dである。504は土師器の坏Kである。505は土師器のⅢであるが、器形は須恵器と近似する。506は土師器の坏Ｍ２である。高台の断面は三角形に近い。内外面に赤色塗彩の痕跡が残る。これらの時期は岡田･八峠編年のKⅣ期と考える。

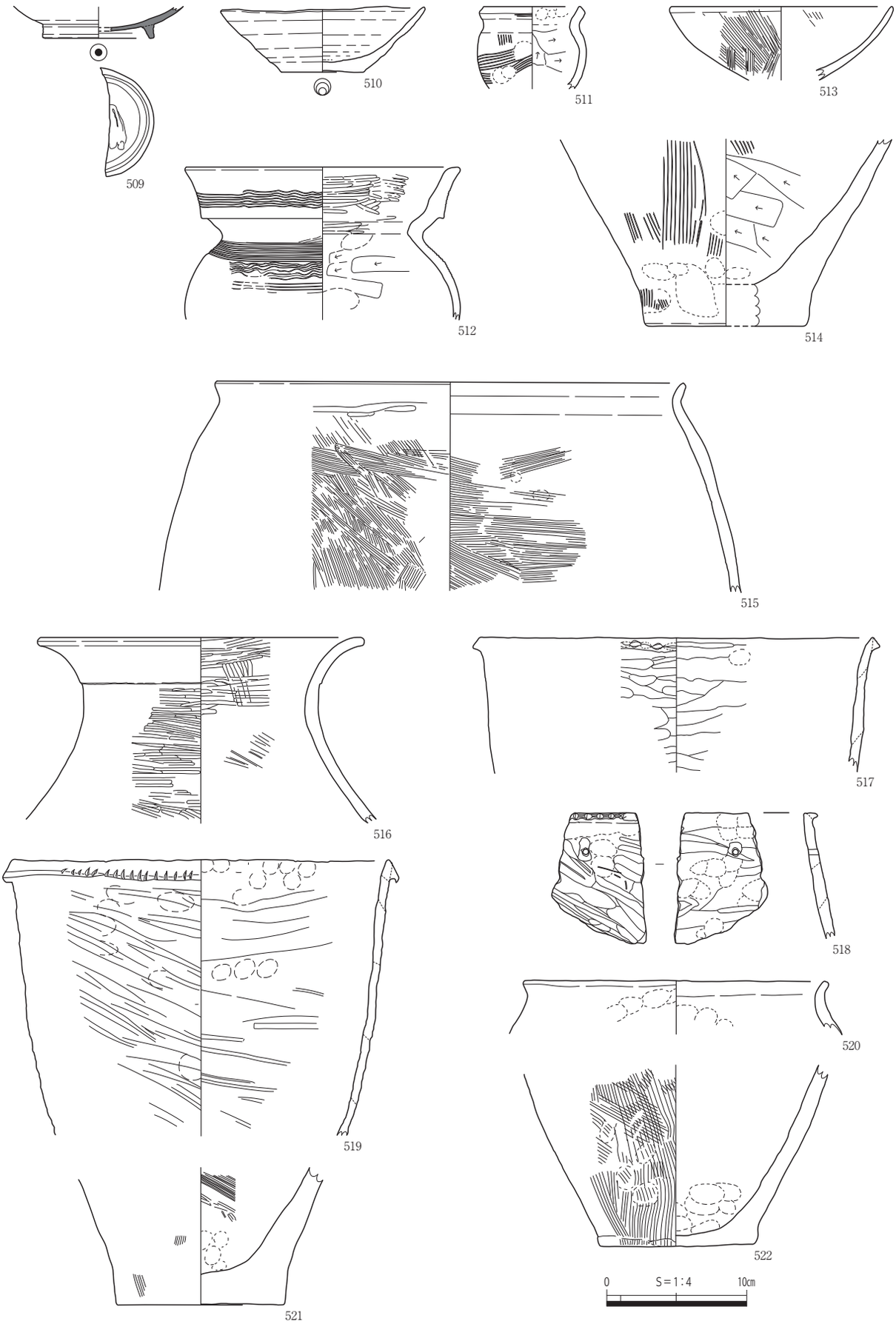
507、508は溝10から出土している（第394図）。507は須恵器の壺Cである。還元焼成が充分ではなく



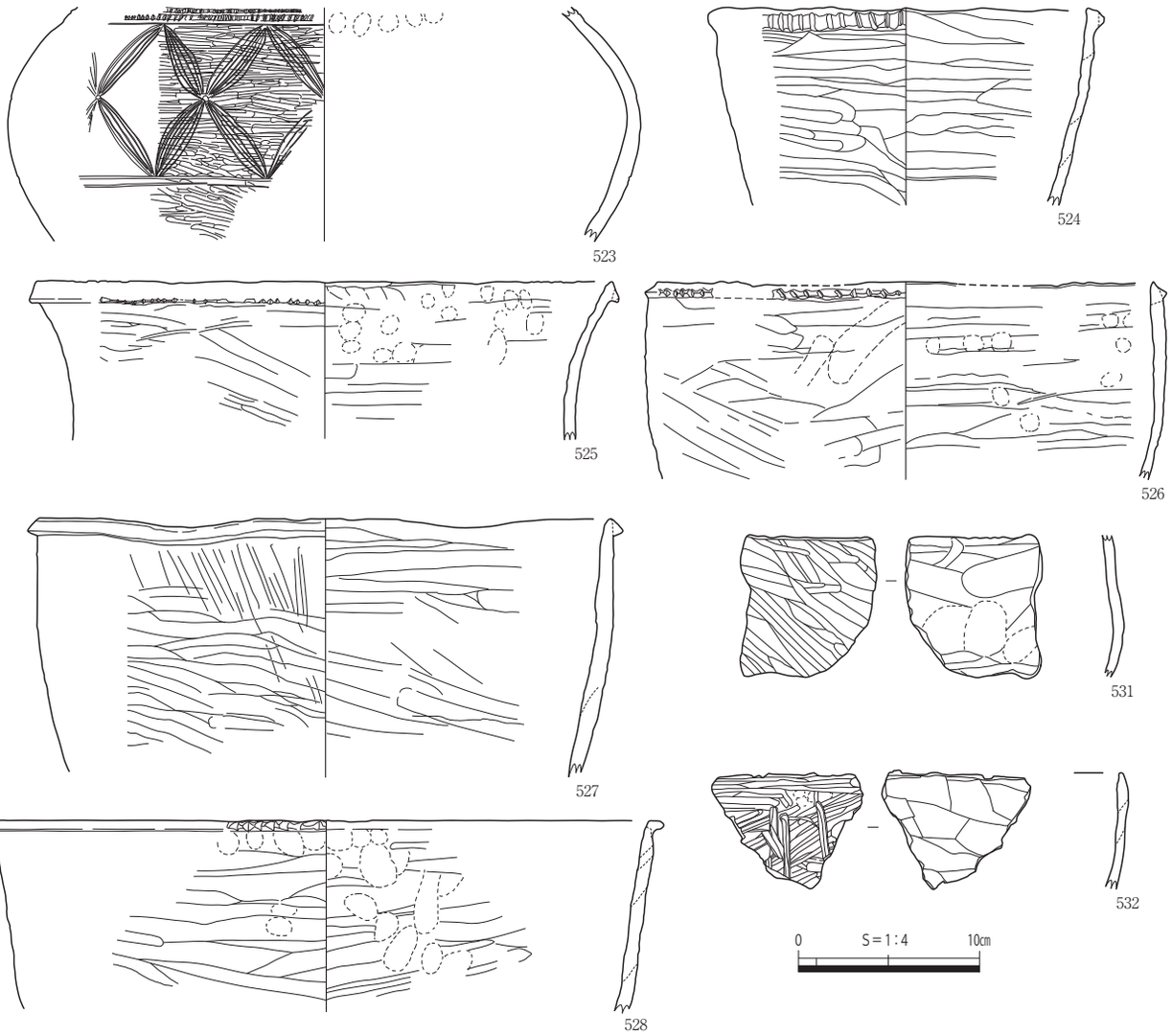
第394図　Ｐ８区道路１、道路１道路外盛土、条里22・23出土土器

橙色を呈するが焼き締まって堅緻である。508は土師器の坏Eである。口縁部は肥厚しており、内面には交差する放射暗文を施す。時期の決定根拠に欠けるが、岡田・八峠編年のＫⅡ期～ＫⅢ-1期頃としておきたい。

509～532はＰ８区の包含層から出土した（第395、396図）。509、510はⅢ層下面から出土した。509は京都産の緑釉陶器の椀である。510は土師器の坏Kである。511はⅤ層相当から出土している。ミニチュア土器とみられる。512、513はⅥ層相当から出土した。512は複合口縁をもつ甕で、口縁部と肩部に擬凹線を施す。また、肩部の下半には波状文を施す。513は高坏の坏部である。内外面にハケ

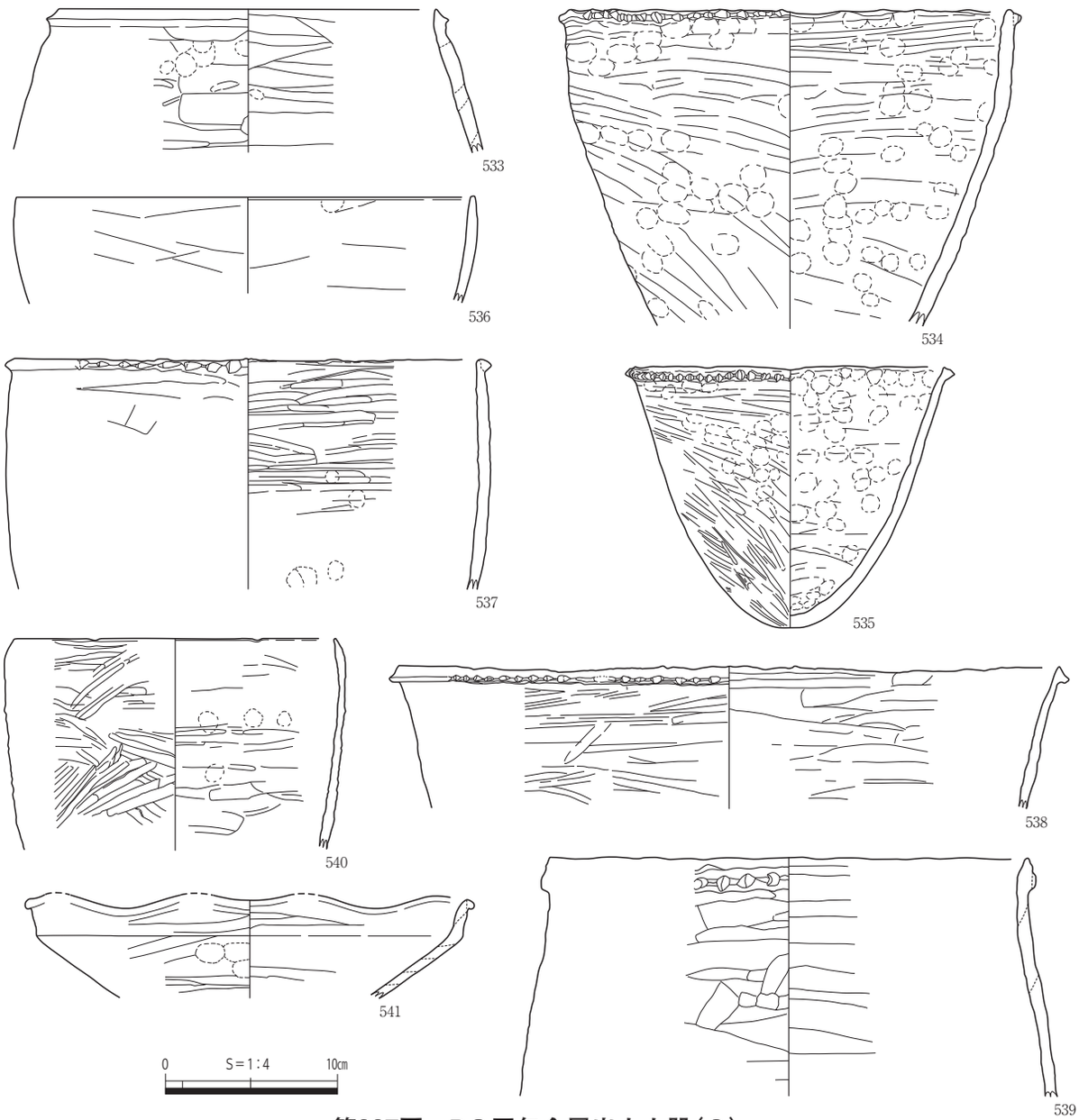


第395図　Ｐ８区包含層出土土器（１）



第396図　Ｐ８区包含層出土土器（２）

メ調整を行う。512は古墳時代初頭頃、513は古墳時代後期頃と考えられる。514、515はⅦ-１層から出土した（第395図）。514は甕あるいは壺の底部である。515は甕とみられる。胴部から肩部に向けて窄まり、口縁部は短く上外方に延びる。内外面はハケメ調整を行う。517～522はⅦ-２層から出土している。516はトレンチ掘削中に出土しており、Ⅶ-１かⅦ-２どちらに帰属するか明確にし得なかった。516は遠賀川式土器の壺である。頸部は削り出しにより段を形成し、横方向のヘラミガキを行う。517～518は刻目突帯をもつ深鉢である。520は515と類似した特徴をもつ甕の口縁部である。521、522は甕あるいは壺の底部である。これらの時期は弥生時代前期（Ⅰ-２～３様式）と考える。523



第397図　Ｐ８区包含層出土土器（３）

～ 532はⅧ層から出土している（第396図）。523は遠賀川式土器の壺胴部である。頸部との境には段を二条形成し、刻目を入れる。胴部は密にヘラミガキをしたのち、木葉紋を施す。524 ～ 530は刻目突帯文土器の深鉢である。外面は粗雑な擦痕が入り、内面はナデ調整である。531、532は刻目突帯をもたない深鉢あるいは浅鉢の口縁部である。これらの時期は縄文時代晩期～弥生時代前期と考える。533 ～ 541はⅨ層から出土した土器である（第397図）。533 ～ 536はⅨ層上面で出土した。533 ～ 535は突帯文をもつ深鉢である。外面は粗雑な擦痕が残り、内面はナデ調整を行う。533はやや内傾した口縁部に刻目のない突帯をもつ。534、535は刻目突帯文をもつ。535は丸底の底部をもつやや小型の深鉢である。536は突帯をもたない深鉢か浅鉢の口縁部である。537 ～ 541は貝が密集した層にて出土した。537 ～ 539は刻目突帯を持つ深鉢である。539はやや内傾したのち直立する口縁部である。540は筒型を呈する深鉢とみられる。541は波状口縁の浅鉢である。これらの時期は縄文時代晩期頃と考えられる。

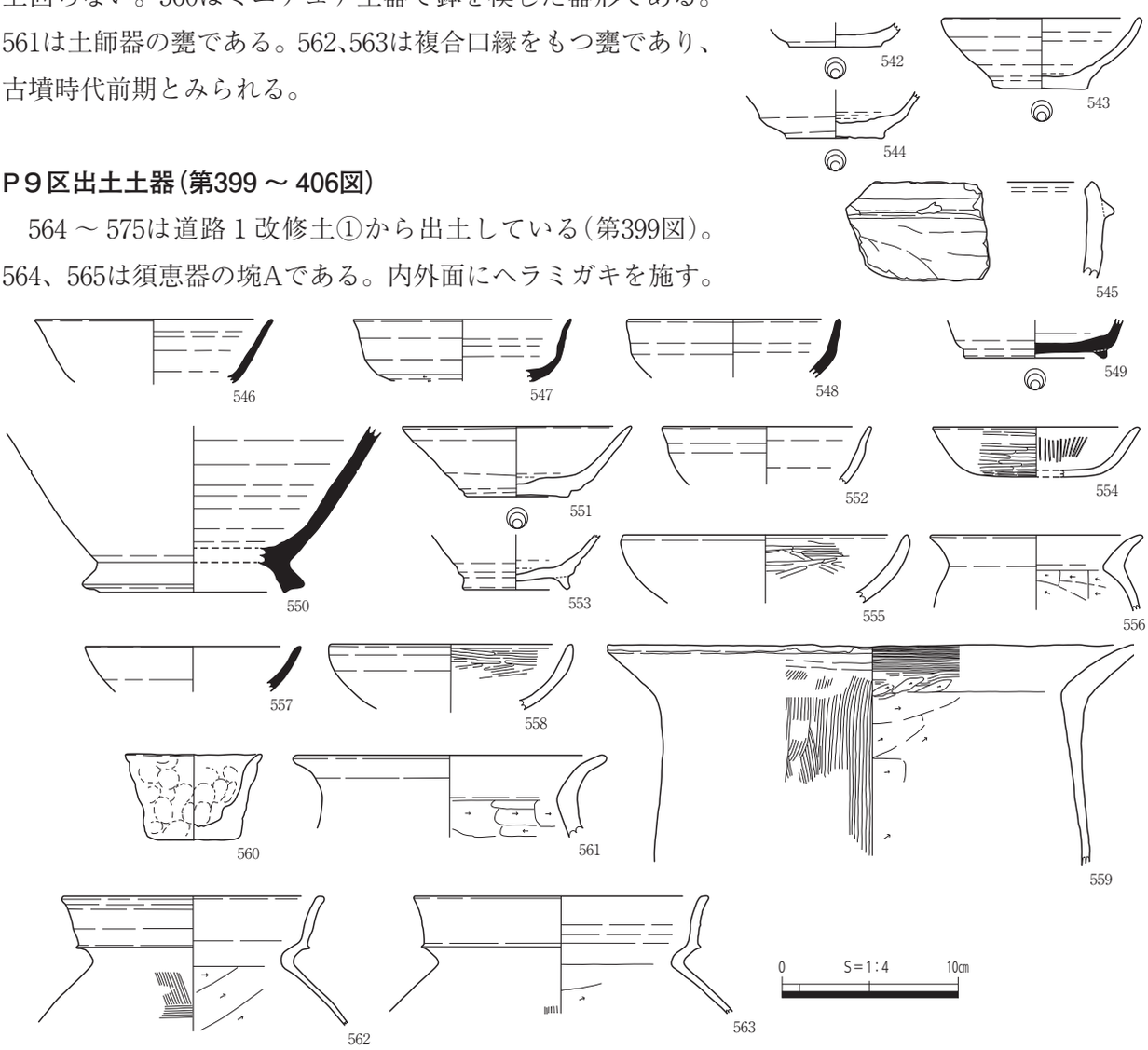
５区出土土器（第398図）

542～544は条里25から出土している。542～544ともにロクロ土師器の坏である。543は坏Iである。時期は岡田・八峠編年のＫＶ期と考える。

545～563は５区の包含層から出土している。545はⅢ層から出土した瓦質羽釜の口縁部である。詳細な年代は不明であるが13世紀以降と考えられる。546～556はⅣ層から出土している。546～550は須恵器である。546～548は坏類である。詳細な時期は不明ながら８世紀以降と推定できる。549は坏Cあるいは坏Dの高台部である。546～550の時期は岡田・八峠編年のＫⅢ～ＫⅣ期頃と考える。550は脚付壺の底部である。551～553はロクロ土師器の坏類である。551は坏Iである。552は口縁部のみで詳細は不明である。553は高台を貼付し、須恵器の坏Dと形状が近似する。551～552は岡田・八峠編年のＫＶ～CI期頃と考える。554は土師器の坏Cである。外面はヘラミガキを施し、内面は放射暗文を施す。岡田･八峠編年ＫⅡ～ＫⅢ-１期頃と推定する。555は埦あるいは高坏の坏部と推定される。556は土師器の甕である。口縁部は上外方にやや長めに延び、内面は「く」の字状を呈する。557～563はＶ層から出土している。557は須恵器の坏類である。558は土師器の埦あるいは高坏と考えられる。559は土師器の甕Aである。口縁部は外方に長く延び、内面は「く」の字状を呈する。胴部径は口径を上回らない。560はミニチュア土器で鉢を模した器形である。561は土師器の甕である。562､563は複合口縁をもつ甕であり、古墳時代前期とみられる。

Ｐ９区出土土器（第399～406図）

564～575は道路１改修土①から出土している（第399図）。564、565は須恵器の埦Aである。内外面にヘラミガキを施す。

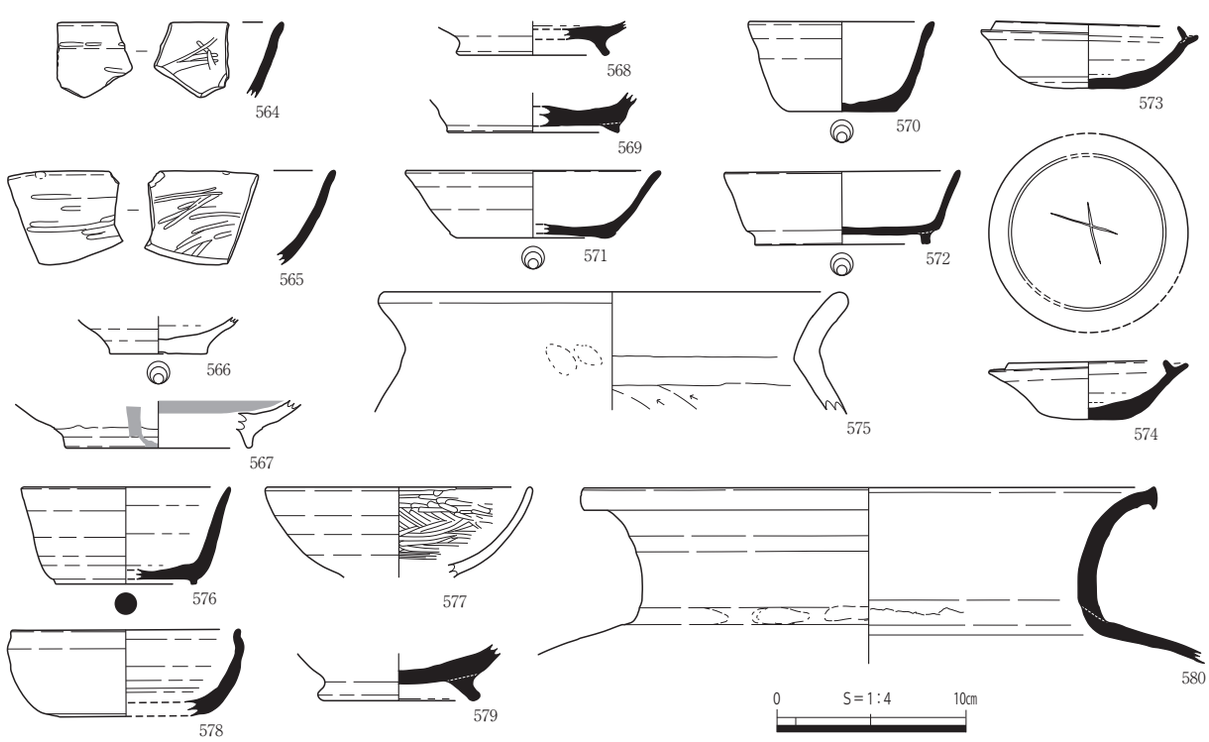


第398図　５区出土土器

566、567はロクロ土師器の坏類である。時期は岡田・八峠編年のＫⅤ期～ CI期頃とみられる。568 ～ 574は須恵器である。568､569は高台をもつ坏Dとみられる。570は坏Ｇ２である。571は坏Ｇ１である。568 ～ 571は岡田・八峠編年のＫⅣ期と考える。572は坏Cであり、時期は岡田・八峠編年のＫⅢ-３期と考える。573、574は坏身である。574の内面にはヘラ記号が付けられる。573，574の坏身は７世紀後半頃と推定される。575は土師器の甕である。道路１上層からは四時期の土器が確認できる。573、574の須恵器は道路構築当初の年代、あるいはそれより若干古い。８～９世紀代の土器類は、それぞれの改修土に伴った可能性が高く、10 ～ 11世紀時の最終的な改修時に盛土が再移動した結果と考えられる。576 ～ 580は道路１改修②から出土した（第399図）。576は須恵器の坏Hである。577はロクロにより成形された黒色土器である。時期は岡田・八峠編年のＫⅣ期頃に比定される。578は須恵器の坏Ｅ１、579は須恵器の高台坏の高台部である。580は須恵器の甕Aである。

581 ～ 596は道路１構築当初土から出土している（第400図）。581、582の取上げは改修土中となっていたが、後の検討で構築当初土と理解したためこちらに含めて記述する。581は須恵器の蓋Bである。582は須恵器の坏Ａ１である。583 ～ 593は須恵器である。583は蓋Ａ２である。天井部は丸く、ツマミは宝珠状を呈する。かえりは短い。この器形は飛鳥・藤原地域の器種分類における坏G蓋に類似した特徴をもつ。584は蓋Ａ１である。585はやや大型の蓋Bである。586は坏身である。587 ～ 590は坏B類である。591は坏Iである。口縁部は「く」の字状を呈する。592は坏類の底部であり、高台は低く坏部は椀状を呈する。593は長頸壺の底部とみられる。高台の端部は下方へつまみ出した形状を呈する。594は土師器の皿Cである。表面の摩滅が著しいが、内外面に赤色塗彩の痕跡を残す。内面には放射暗文と螺旋暗文を施している。595はミニチュアの甕と推定される。外面底部はヘラ削りにより整形する。596は土製支脚の一部とみられる。581 ～ 586の時期は岡田・八峠編年のＫⅡ期～ ＫⅢ-１期と考える。

597 ～ 601は道路１側溝から出土している（第400図）。597、598は緑釉陶器である。597の高台は削



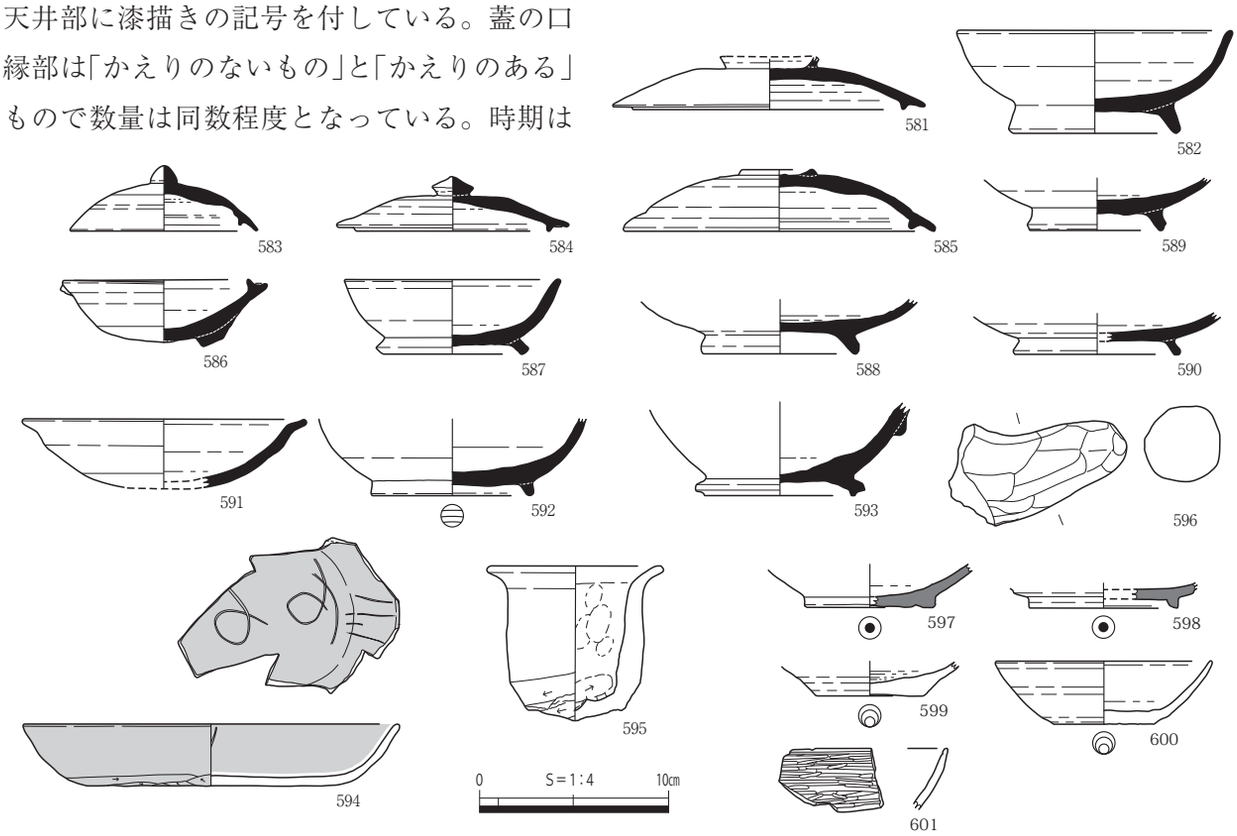
第399図　Ｐ９区道路１改修土①・②出土土器

り出しによる蛇目高台、598は削り出しの輪高台である。597・598ともに京都産とみられる。時期は９世紀末～ 10世紀前半頃と考える。599は土師器坏の底部である。600は土師器の坏Kである。601は黒色土器あるいは瓦器椀の口縁部である。これらの時期は岡田･八峠編年のＫⅤ期～CI期頃と考える。

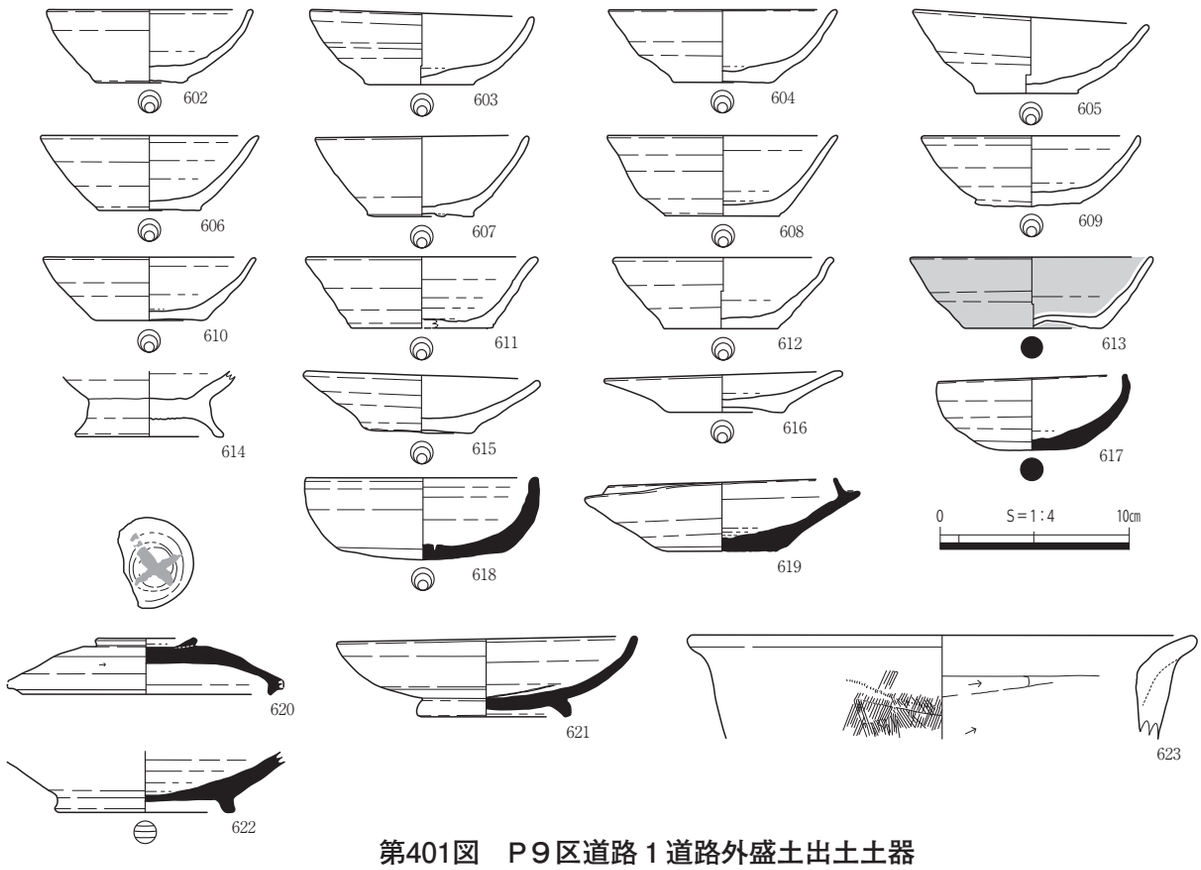
602 ～ 619は道路１道路外盛土から出土している（第401図）。602 ～ 616はロクロ土師器である。602 ～ 606は坏Jである。607 ～ 609は坏Iである。610、611は坏Kである。612は坏Jである。613は坏F１で底部調整はヘラ削りである。614は坏M類の脚部である。615、616は皿Eである。602 ～ 616は岡田・八峠編年のＫⅤ期と考える。617 ～ 619は須恵器の坏類である。617、618は坏E類で、619は坏身である。須恵器と土師器では年代に隔たりがあり、617 ～ 619は下層からの混入と考えられる。620 ～ 623は道路１道路外盛土の下層として取り上げた（第401図）。しかし、道路外盛土下層とした埋土は道路１構築当初土、河道10の埋土であるとの認識になった。どちらの遺構に帰属するかは決めがたい状況であることから、ひとまず本層にて記述しておきたい。620は蓋Bである。口縁部を一部欠損する。輪状ツマミの内側には漆記号を付している。記号は「×」あるいは「＋」である。621は坏Ａ１である。坏部は浅い埦状を呈する。622は坏の底部である。623は土師器の甕で口縁部は短く上外方にのびる。胴部外面は縦方向のハケメ調整、内面は右上がりのヘラ削りをしている。これらの時期は岡田・八峠編年のＫⅢ-１期頃と考える。

624 ～ 627は条里25から出土している（第402図）。624は須恵器の坏類である。625は坏Cあるいは坏Dの高台部分とみられる。626は須恵器の小型の平瓶である。627は土師器の低脚坏である。詳細な時期は不明確ながら岡田・八峠編年のＫⅣ～ＫⅤ期頃と考えられる。

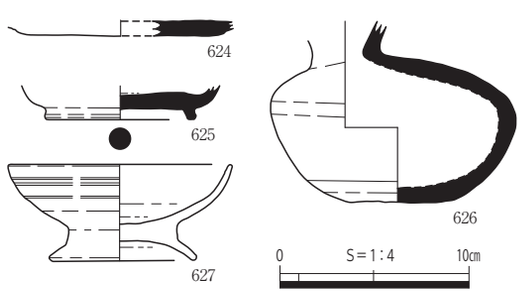
628 ～ 646は河道10から出土している（第403図）。河道10は出土状況からも祭祀行為が想定されている。器種は須恵器を主体に蓋坏と高坏、長頸壺で構成される。蓋と坏では蓋類の出土が多く、外面天井部に漆描きの記号を付している。蓋の口縁部は「かえりのないもの」と「かえりのある」もので数量は同数程度となっている。時期は



第400図　Ｐ９区道路１構築当初土・道路１側溝出土土器



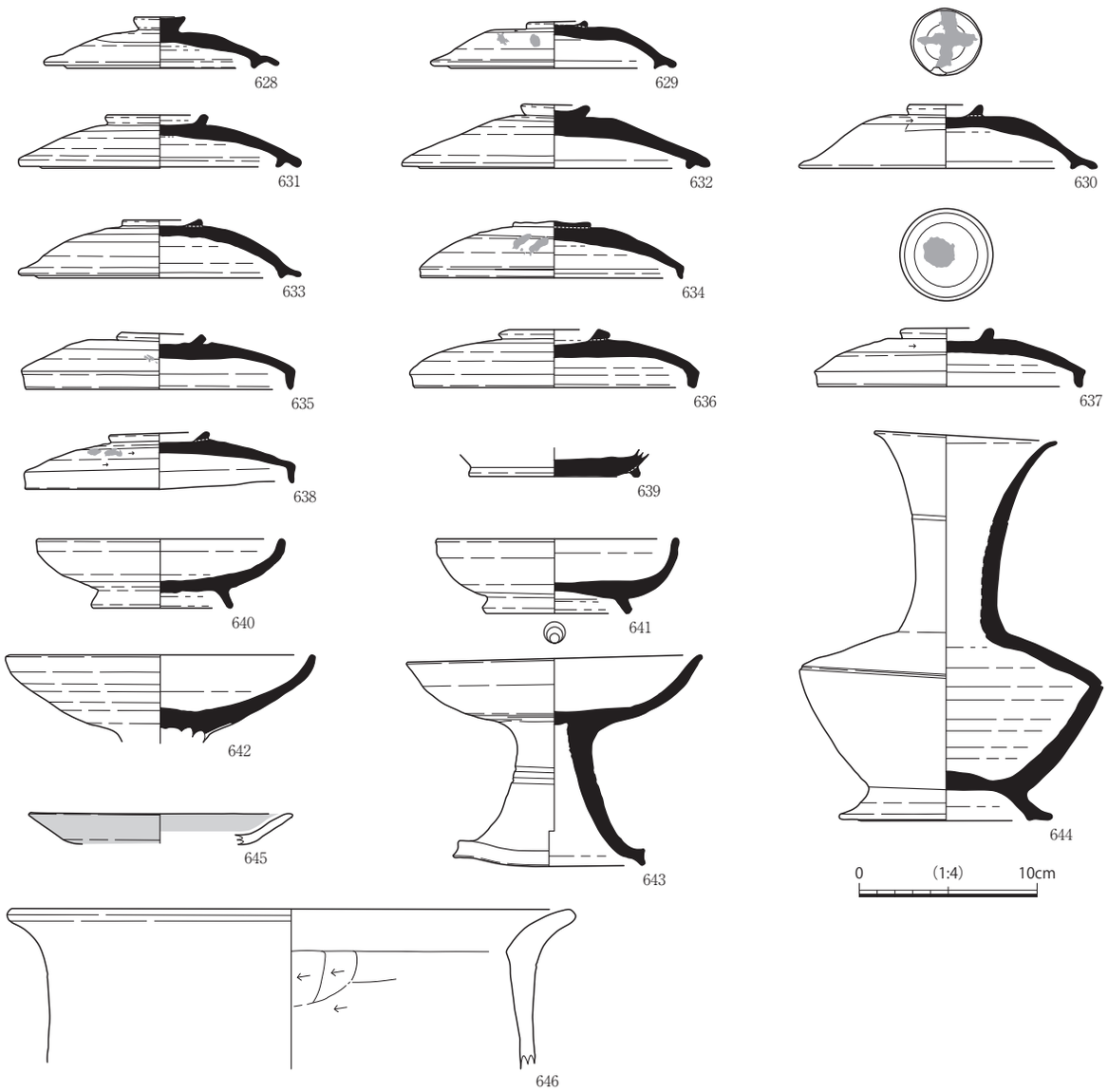
第401図　Ｐ９区道路１道路外盛土出土土器



第402図　Ｐ９区条里25出土土器

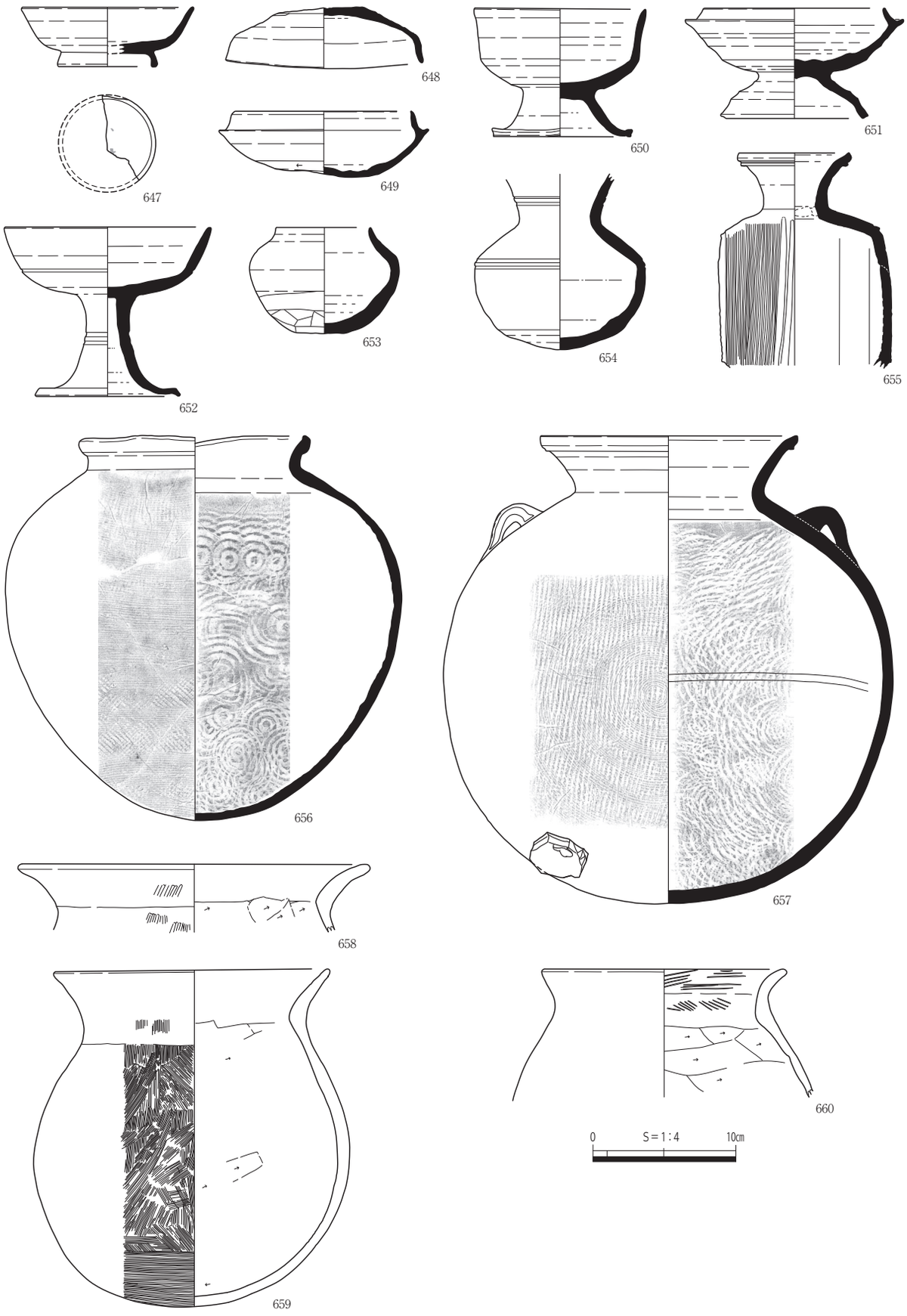
岡田・八峠編年のKⅢ-１期と考える。628 ～ 644は須恵器である。628は須恵器の蓋Eである。天井部はやや扁平な形状を呈する。頂部にはボタン状のやや高さのあるツマミを貼付している。629 ～ 633は蓋Bである。629は天井部に、630のツマミ内側に漆描きをする。632の輪状ツマミはやや小ぶりである。634は蓋Fである。かえりのない口縁端部で、内外面からナデて下方へのばす。天井部は幅の広いボタン状を呈し、内面をナデて僅かに凹ませる。635 ～ 638は蓋Cである。635 ～ 638ともにかえりのない口縁端部は長く、内外面からナデて下方へのばす。639は坏とみられるが、高台が短いこと等から壺底部や他器種の可能性は残る。640、641は坏Ａ１である。高台は「ハ」の字状にのびる。640の坏部はやや浅く、口縁部は上方にのばしている。642は高坏の坏部である。二方向から切り込んで透かしをいれる。643は高坏である。脚柱部の中央には沈線を２条めぐらせる。644は壺Bである。脚部は「ハ」の字状を呈する。肩部の屈曲は強く、弱い沈線がめぐる。頸部から口縁部は上外方へのばし、口縁端部は丸くおさめる。口縁部には沈線が１条めぐる。645は土師器の皿Gである。内外面に赤色塗彩の痕跡が僅かに残る。表面の剝離が著しく、詳細な調整は確認できない。646は土師器の甕である。口縁部は外方にのびる。内面は「く」の字状を呈する。口縁端部は横なでにより面をもつ。胴部の形状から最大胴径は口径より狭い可能性が高い。

647 ～ 660は河道６から出土している（第404図）。647 ～ 657は須恵器である。647は坏Ｂ２である。高台内側に墨痕あるいは漆の痕跡が残る。時期は岡田・八峠編年のKⅡ期～ KⅢ-１期頃である。648は坏蓋である。外面の稜は消失しており、天井部はヘラ切りのち不定方向にナデている。649は坏身



第403図　Ｐ９区河道10出土土器

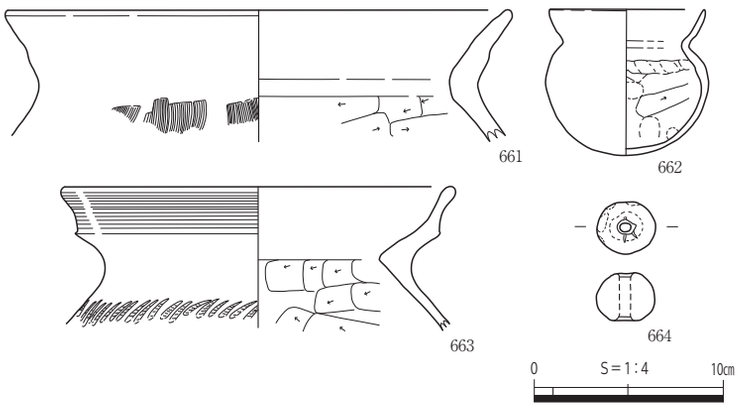
である。坏部はやや深手である。立ち上がりは屈曲しながら上方へのばし、端部付近は強くナデている。650は低脚の無蓋高坏であるが、坏部の形状は埦に近い。651は低脚有蓋高坏である。脚部は踏ん張った形状を呈し、脚端部は横ナデにより面をつくる。652は長脚の無蓋高坏である。口縁部と底部には沈線で表現した稜がめぐる。653は短頸壺である。胴部から肩部の屈曲は丸い。口縁部は短く上方へのびる。底部は静止ヘラ削りをおこなう。654は壺である。肩部と口縁部に２条の沈線がめぐる。655は樽形提瓶である。656、657は甕である。656は甕Aで口縁部端部は強いナデにより内面に折り返す。胴部外面を格子状の叩き具で成形したのち、部分的なカキメを施す。内面は同心円状の当て具痕を残す。657は甕Bで両肩部に把手を有する。胴部は平行目の叩き具で成形したのち、カキメを胴部最大径から同心円状に施す。これは瓶類に類似する製作方法であるが、胴部の形状は片側が扁平になることはなく形状からは甕体部である。したがって、提瓶に類似した特徴をもつ甕と理解した。内面は薄い筋状の痕跡を認めたが、内容物の痕跡であるか、母材の粘土に起因するかは特定できなかった。648 ～ 657の時期はTK43 ～ TK209型式併行期と考える。658 ～ 660は土師器の甕である。658、659は口縁部を上外方へのばし、口縁端部は丸くおさめる。659は甕Cである。胴部は上半を縦方向に、下半は横方向のハケメ調整をおこなう。内面は右上がりのヘラ削りを行う。659の胴部最大径は、中



第404図　Ｐ９区河道６出土土器

央より下半に位置し口径を上回る。660の口縁部はほぼ垂直にのびた後、外反している。口縁端部は丸くおさめる。口縁部内面はハケメ調整で、胴部内面は横方向のヘラ削りを行う。

661 ～ 664は河道11から出土している（第405図）。661の口縁部は屈曲して上外方にのびる。662は小型丸底壺である。661、662は古墳時代中期に比定される。663は甕である。口縁部には多条沈線を、肩部は刺突列点文を施す。時期は弥生時代後期後葉頃とみられる。664は土玉である。



第405図　Ｐ９区河道11出土土器

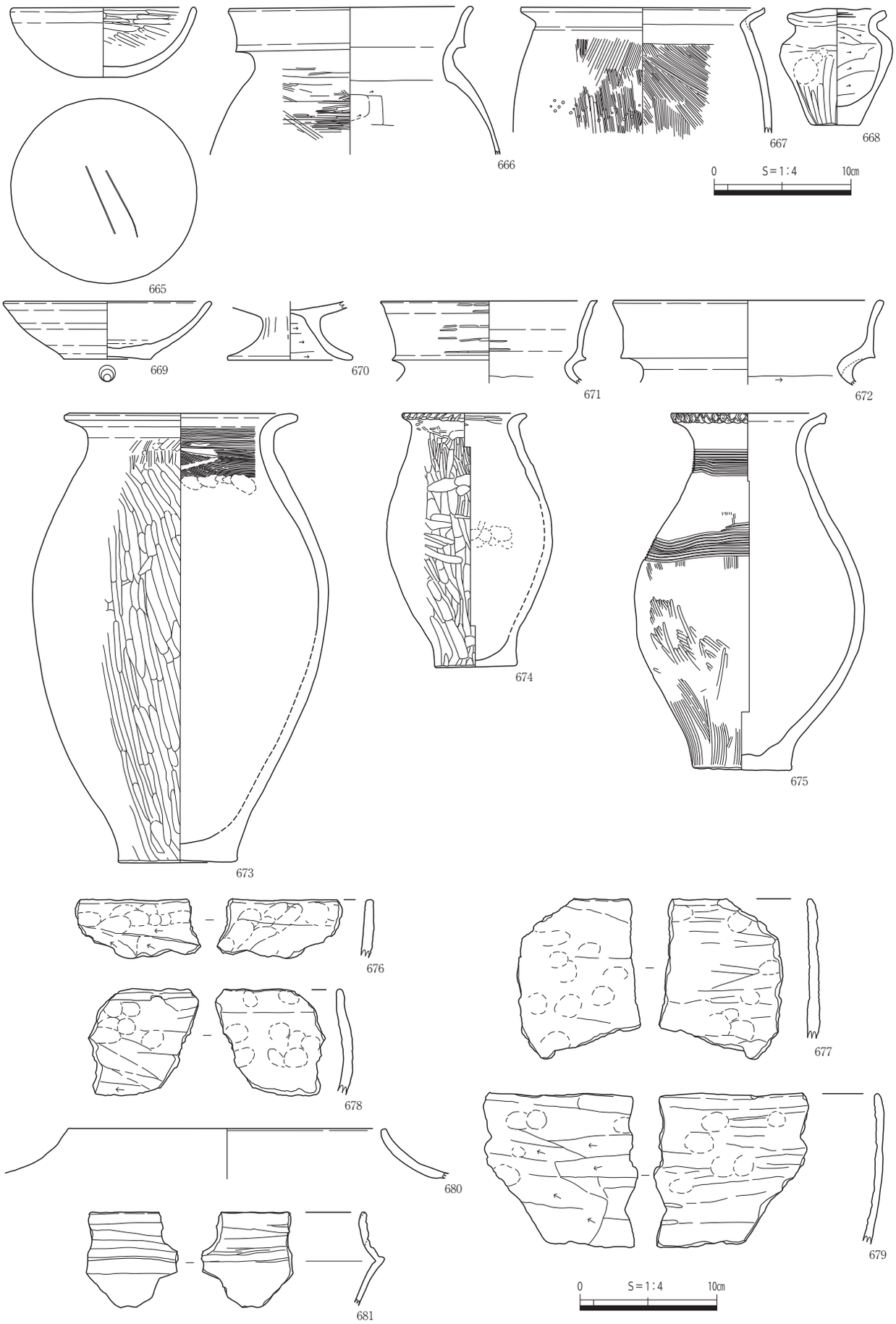
665 ～ 668は河道12から出土している（第406図）。665は土師器の埦である。底部外面にはヘラによる直線が２条確認できる。666は土師器の甕である。665は古墳時代前期～中期、666は古墳時代前期頃と考える。667は甕である。口縁部は外方にのび、口縁端部は僅かにハネ上げる。胴部は内外面ともにハケメ調整を行う。時期は弥生第Ⅲ～Ⅳ様式頃に比定される。668はミニチュア土器の甕である。

669 ～ 681はＰ９区包含層から出土している（第406図）。669はⅣ層から出土した土師器坏Ｌである。時期はＫⅤ期～Ｃ１期と考える。670はⅤ相当層から出土した低脚坏の脚部である。古墳時代前期～中期頃と推定される。671、672はⅥ層から出土した複合口縁の甕である。古墳時代前期頃と考える。673はⅦ層から出土した。甕である。口縁部は短く外反し、胴部は長胴化している。底部は平底である。外面は肩部から底部にかけて幅の広いヘラミガキ、あるいはヘラ状工具によるナデと思われる調整を行う。頸部はハケメ調整で、頸部内面は横方向のハケメ調整である。詳細な時期は不明ながら弥生時代中期前葉～中葉頃と考える。674、675はⅧ層から出土している。674の口縁部は短く外反し、口縁端部には刻目が施される。口縁内面はヘラミガキを施す。胴部は幅広のヘラミガキあるいはヘラ状工具によるナデを行っている。675は口縁部を横ナデにより整形した後、交差した刻目を入れている。頸部と肩部には櫛描直線文を施す。胴部はヘラミガキを施し、底部からの立ち上がりにはハケメ調整を行う。674、675の時期は第Ⅱ様式頃と考えられる。676 ～ 681はⅨ層から出土している。676 ～ 679は内湾気味の口縁部をもつ深鉢とみられる。内外面はヘラ状工具によるナデ調整を行う。680、681は浅鉢である。胴部にて鋭く屈曲し、内傾する口縁をもつ。676 ～ 681の時期は縄文晩期と考える。

P10区出土土器（第407 ～ 419図）

682 ～ 688は道路１第５次盛土の路面から出土している（第407図）。682 ～ 684は土師器である。682は坏の底部で内面には焼成前の線刻が確認できる。683は坏Ｍ１であり、高台端部を欠損する。684はⅢHである。口縁部は二段ナデで口縁端部は丸くおさめる。682 ～ 684の時期は岡田・八峠編年のＫⅤ～Ｃ１期と考える。685 ～ 687は緑釉陶器である。685は稜椀である。686、687の高台は削り出しにて成形する。685 ～ 687ともに京都産とみられる。時期は９世紀末～ 10世紀前葉頃である。688は須恵器坏Cであり、下層からの混入とみられ、時期は岡田・八峠編年のＫⅢ-２～３期と考える。

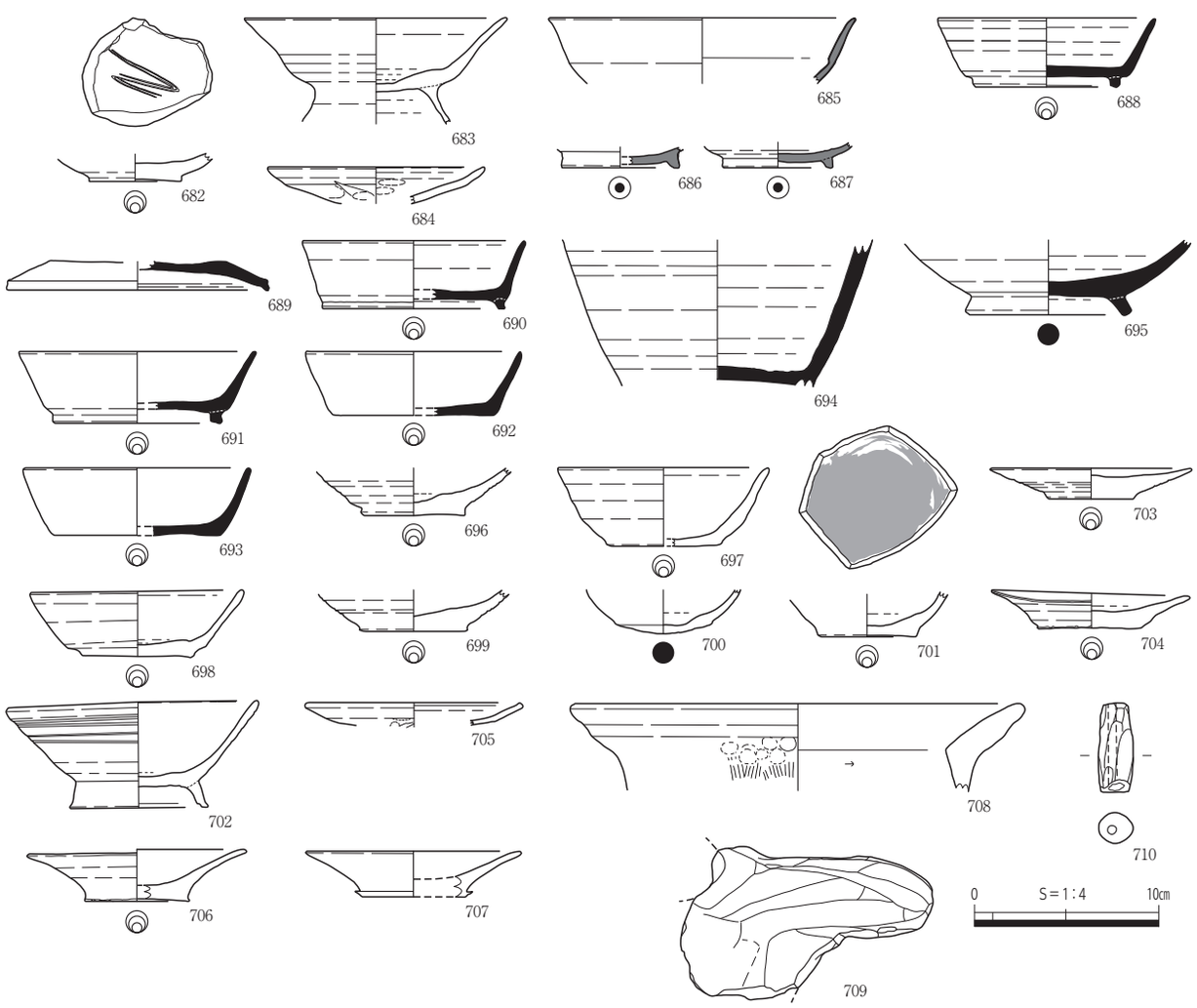
689 ～ 710は道路１第４・５次盛土から出土している（第407図）。689 ～ 695はそれ以前の道路盛土に伴う資料である。689～695は須恵器である。689は蓋である。天井部は扁平で低い。口縁端部は短く、



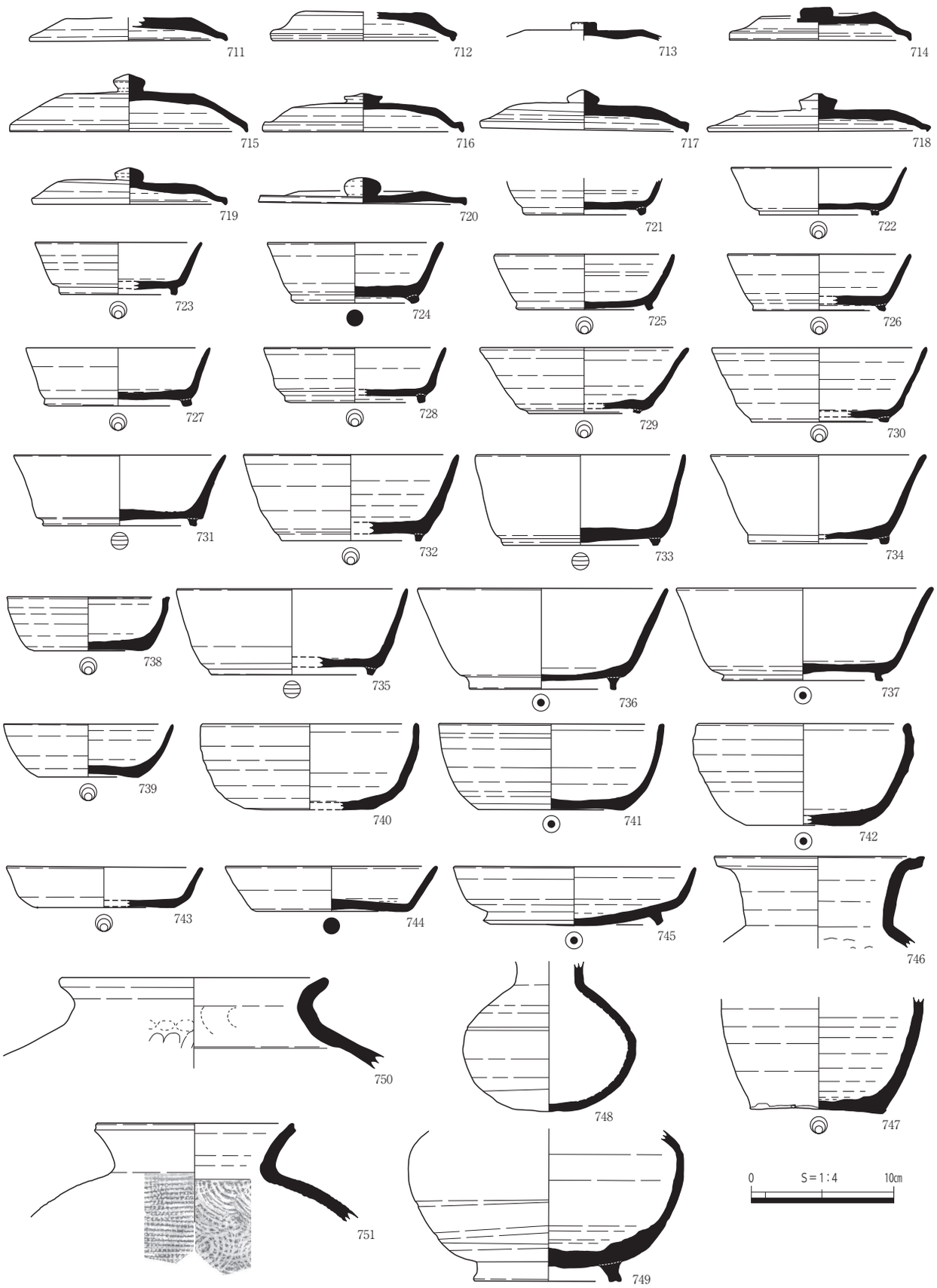
第406図　Ｐ９区河道12、包含層出土土器

外面をナデ押して屈曲させる。690、691は坏Cである。692、693は坏G１である。694は壺の底部から胴部とみられる。695は坏類の底部である。689 ～ 693は岡田・八峠編年のKⅢ-２～３期、694、695の詳細な時期は不明ながら７世紀末～８世紀代と考える。696 ～ 702はロクロ土師器の坏類である。696は底部から立ち上がり部分のロクロ目が顕著である。697、698は坏Iである。699は平高台を呈する。700の底部はヘラ切りのちナデ調整である。701の内面には漆が付着する。702は坏M1である。703 ～ 707は土師器の皿である。703、704，706，707は皿E、705は皿Hである。これらの時期は岡田・八峠編年のKＶ期と考える。708は土師器の甕、709は土製支脚、710は土錘である。

711 ～ 769は道路１第２次盛土から出土している（第408 ～ 409図）。711 ～ 751は須恵器である（第408図）。711 ～ 720は蓋である。蓋は平坦な天井部に擬宝珠状（715）、ボタン状（713）のツマミを貼付ける。天井部から口縁部にかけて強いナデにより屈曲させる。711 ～ 720の蓋口縁部は、短い口縁端部を外面から押し出すように作っている。711、712は蓋の口縁から天井部にかけてである。頂部のツマミは欠損している。713、714は蓋Gである。四角いボタン状のツマミを付す。715 ～ 719は蓋Dであり口径はやや大きい一群である。720は蓋Dとみられる。器高はかなり低く扁平で、ツマミは肥大化して丸くなっている。721 ～ 737は坏Cである。平坦な底部に輪高台を貼付け、口縁部は直線的にのびる。口縁部は丸くおさめる。口径から、721 ～ 727を小（11 ～ 13cm代）、729 ～ 734を中（14 ～ 16cm代）、735 ～ 737を大（17 ～ 18cm以上）とする三法量に分化する。738 ～ 742は高台の付かない

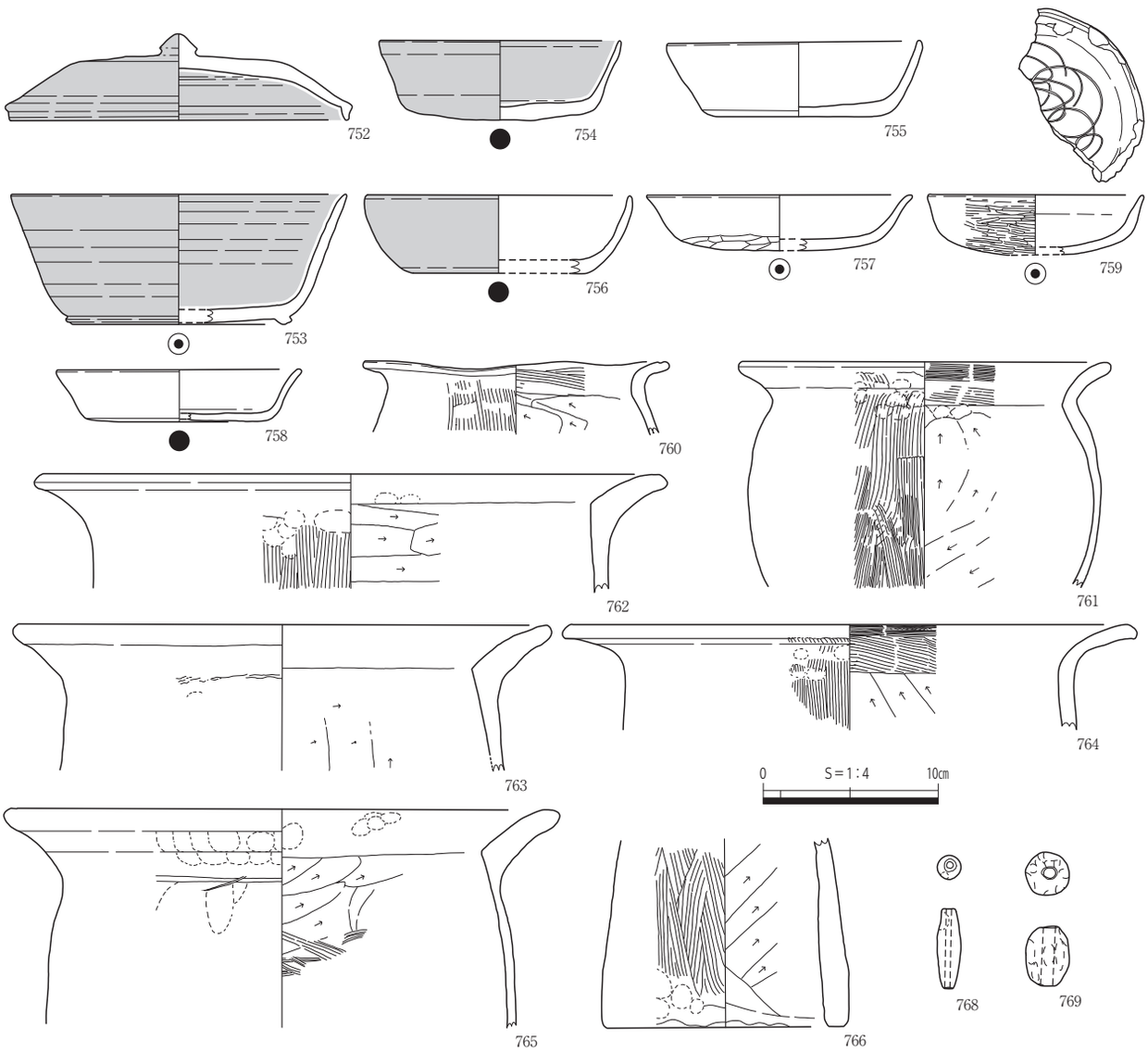


第407図　P10区道路１第４・５次盛土出土土器



第408図　P10区道路１第２次盛土出土土器（１）

坏EおよびF類である。738、739は坏E３である。737の口縁端部はナデにより面取りし、浅い沈線がめぐる。739の口縁端部は丸くおさめる。740 ～ 742は坏Fである。740の口縁端部は丸くおさめる。741･742は口縁部を横ナデして面取りをする。口径から738、739を小、740 ～ 742を大とし、二法量に

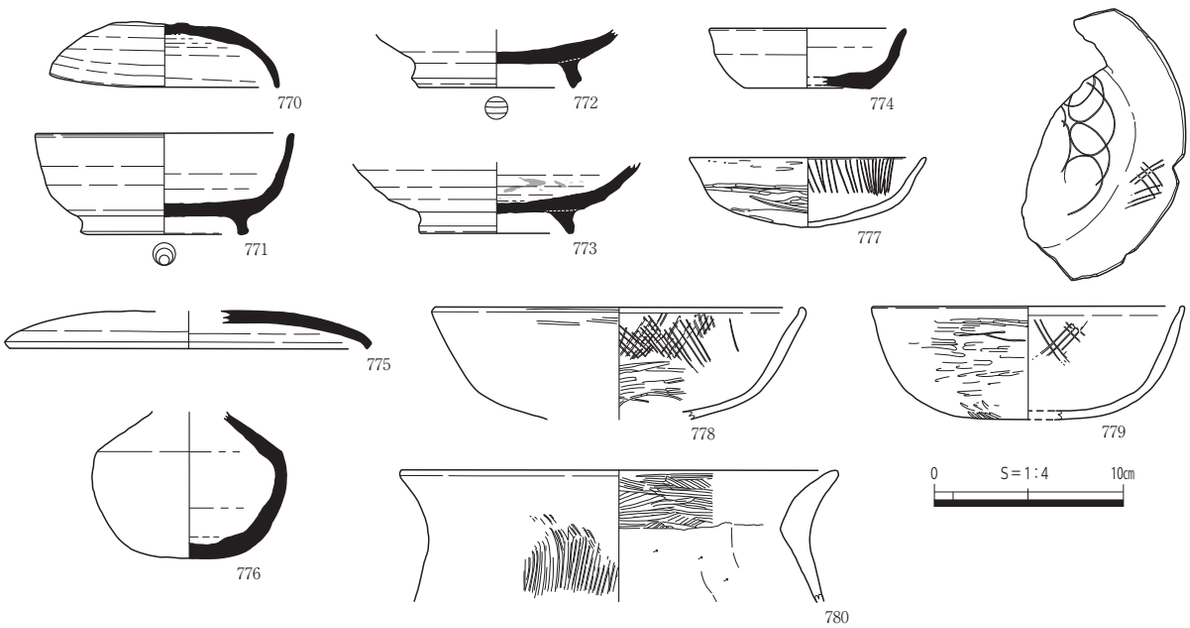


第409図　P10区道路１第２次盛土出土土器（２）

分化するようである。743～744は皿Bである。745は皿A２である。底部は回転ヘラ削りを行う。底部の最も低い位置は高台とほぼ同じ高さとなる。これらの須恵器の年代は岡田・八峠編年のKⅢ-２～３期と考えられる。746は壺A、747は壺底部とみられる。748は壺で肩部に沈線がめぐる。749は長頸壺の底部である。748、749は若干古相であり、下層から混入した可能性がある。

750、751は甕Aである。

752～758はロクロ土師器である（第409図）。ロクロにより成形されているが、須恵器とは異なり底部の切り離しはヘラ切りによる。752は蓋Aである。口縁部は内外面からナデて整形している。753は坏Hである。高台は低く、口縁部は上外方にのびる。754は坏F１、755、756は坏F２である。757、758は皿Dで口縁部は外反してのびる。759は皿Cである。非ロクロで成形され、外面は横方向のヘラ



第410図　P10区道路１第１次盛土敷葉・敷粗朶層出土土器

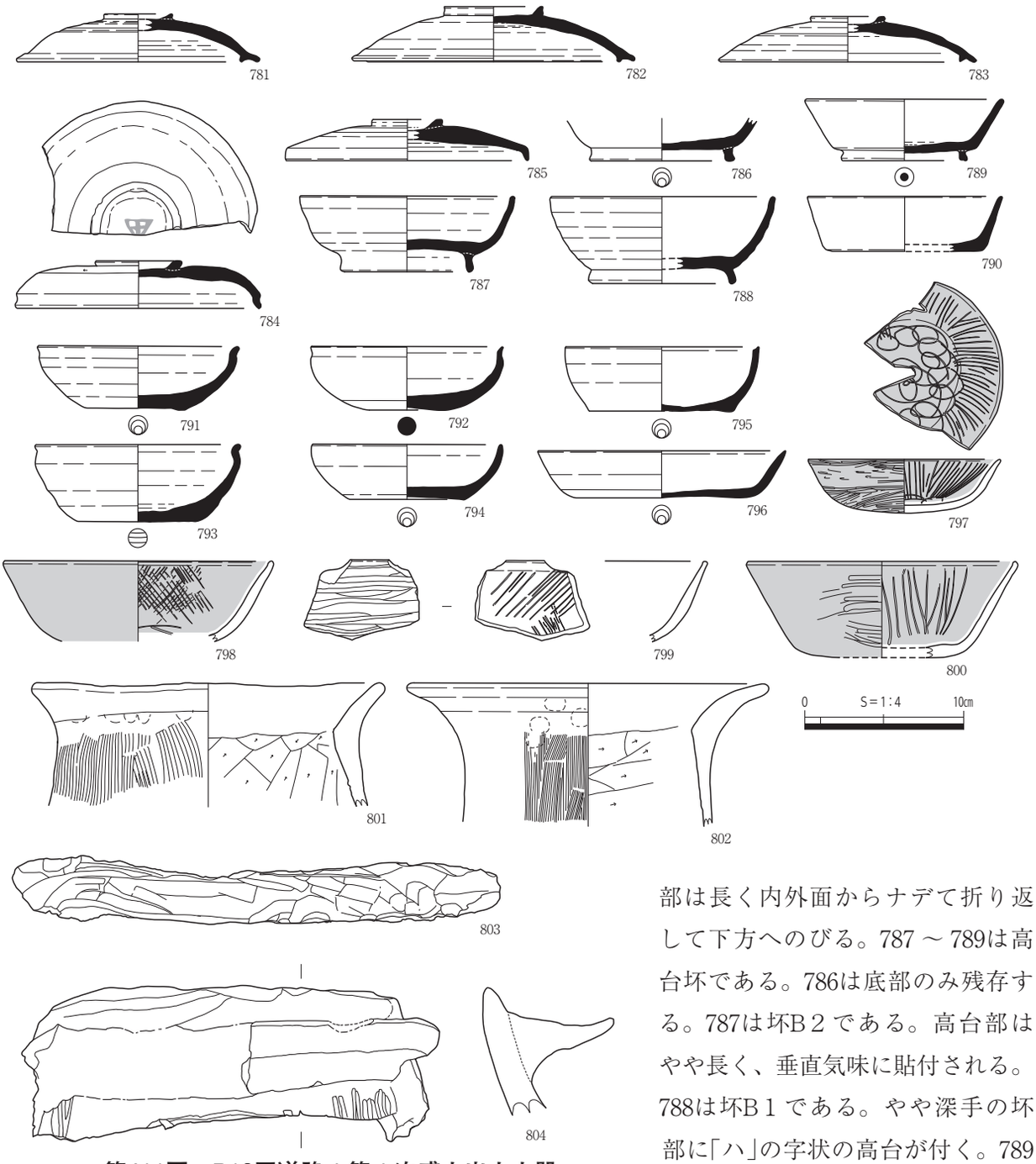
ミガキ、内面は螺旋暗紋を施す。760 ～ 765は土師器の甕である。762、763、765は「く」の字状の口縁部を呈する。766､767は土製支脚である。767の土製支脚は中空になっている。768､769は土錘である。これらの時期は岡田・八峠編年のKⅢ-２期と考える。

752（土師器蓋A）は715（須恵器蓋D）と、753（土師器坏D）は736（須恵器坏C）と、758（土師器皿D）は744（須恵器皿B）と類似した特徴を持つことから、互換性のある器種とみることができる。

第２次盛土の資料は同一器種の法量分化と、互換性をもつことがわかり、官衙や公の機能を帯びた遺跡にみられる特徴を示す。

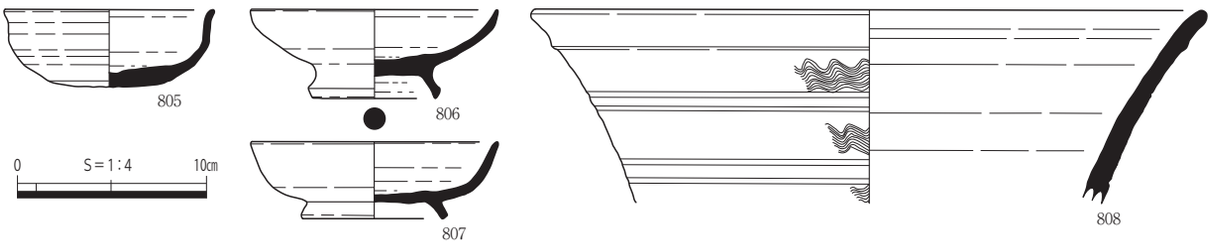
770 ～ 780は道路１第１次盛土敷葉・敷粗朶層から出土している（第410図）。770 ～ 776は須恵器である。770は坏蓋である。天井部はヘラ切り後不調整である。口縁部は大きく焼け歪む。771は坏B１類である。高台は垂直気味に貼付する。772、773は坏類の底部である。772の高台端部は横ナデにより稜をもたせる。773はやや踏ん張る高台を「ハ」の字状に貼付する。高台と立ち上がりの形状から坏Aの可能性が高い。内面には漆が点々と付着する。774は坏E３類である。口縁端部は丸くおさめる。775は蓋である。口縁端部は断面三角形に近く、天井部は扁平である。口縁端部の特徴からもやや新相を示し、時期はKⅢ-２～３期頃で上層からの混入と理解できる。776は壺の胴部である。肩部の張り出しはなく、球形を呈する。詳細な時期は不明ながら、古墳時代後期（TK43 ～ TK209型式併行期）とみられることからも混入の可能性が高い。777 ～ 780は土師器である。777は坏Cである。底部は丸みを帯び、口縁部は上外方にのびる。外面は横方向のヘラミガキを施す。内面は放射暗文で見込みに螺旋文を施す。778、779は坏Eである。深手であり、口縁端部は内面に肥厚する。外面はヘラミガキを施し､内面は交差する放射暗文と螺旋文が確認できる。780は甕である。緩やかに上外方にのびる。胴部外面は縦方向のハケメ調整を施す。口縁部内面はヘラミガキ調整である。これらの年代は岡田・八峠編年のKⅡ期～ KⅢ-１期とみられる。

781 ～ 804は道路１第１次盛土から出土している（第411図）。781 ～ 796は須恵器である。781 ～ 783は蓋Bである。784、785は蓋Cである。784の天井部ツマミ内側に漆記号が確認できる。当初は文字の可能性を考えたが、墨書ではなく下半も欠損することから一先ず記号と理解しておく。785の口縁端

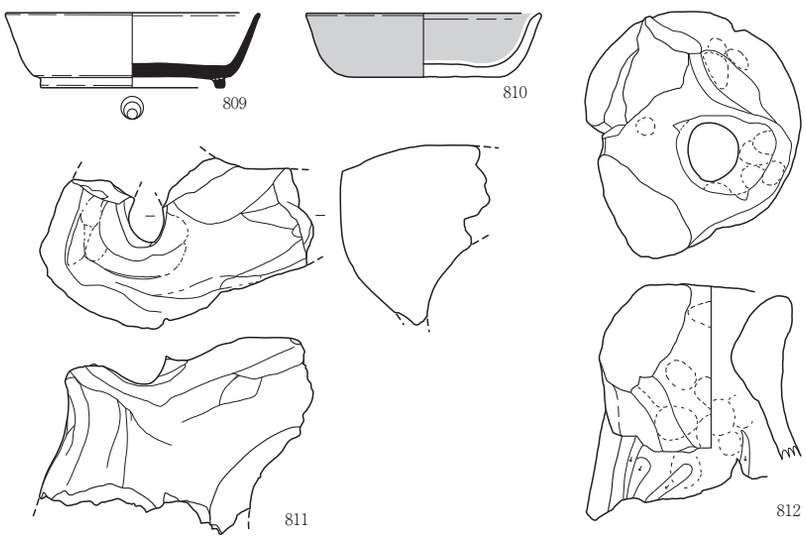


第411図　P10区道路１第１次盛土出土土器

部は長く内外面からナデて折り返して下方へのびる。787 ～ 789は高台坏である。786は底部のみ残存する。787は坏Ｂ２である。高台部はやや長く、垂直気味に貼付される。788は坏Ｂ１である。やや深手の坏部に「ハ」の字状の高台が付く。789は坏Cである。790は坏Ｇ１である。789、790は若干新相であることから混入の可能性が高い。791 ～ 796は無高台坏である。791 ～ 793は坏Ｅ１である。794、795は口縁部に屈曲はない。794は内湾して端部は丸くおさめる。795は口縁端部に面をもち、弱い沈線が入る。796は皿Bである。797は土師器の坏Cである。798 ～ 800は土師器の坏Eである。798、800は内外面に赤色塗彩を施す。798は内面に交差する放射暗文と見込みに螺旋文が確認できる。799は小破片のため詳細は不明ながら、口縁端部は内側に肥厚し、放射暗文を施す。800は粗雑な放射暗文を施す。801、802は土師器の甕である。801の口縁部は緩やかに外反して上外方にのびる。口縁部は横ナデで、端部は丸くおさめる。胴部外面は縦方向のハケメ調整、内面は上方へのヘラ削りを行う。802は口縁部内面が「く」の字状を呈し、外反して長くのびる。胴部最大径は口径を上回らない。803､804は土製品で､移動式竈である。803は焚き口である。804は竈部で庇がつく。



第412図　P10区道路１第１次盛土最下層出土土器



第413図　P10区道路１盛土内出土土器

これらの時期は岡田・八峠編年のＫⅡ期～ＫⅢ-１期と考えられるが、789、790、794 ～ 796は上層が混入した可能性が高く、岡田・八峠編年のＫⅢ-２期頃である。

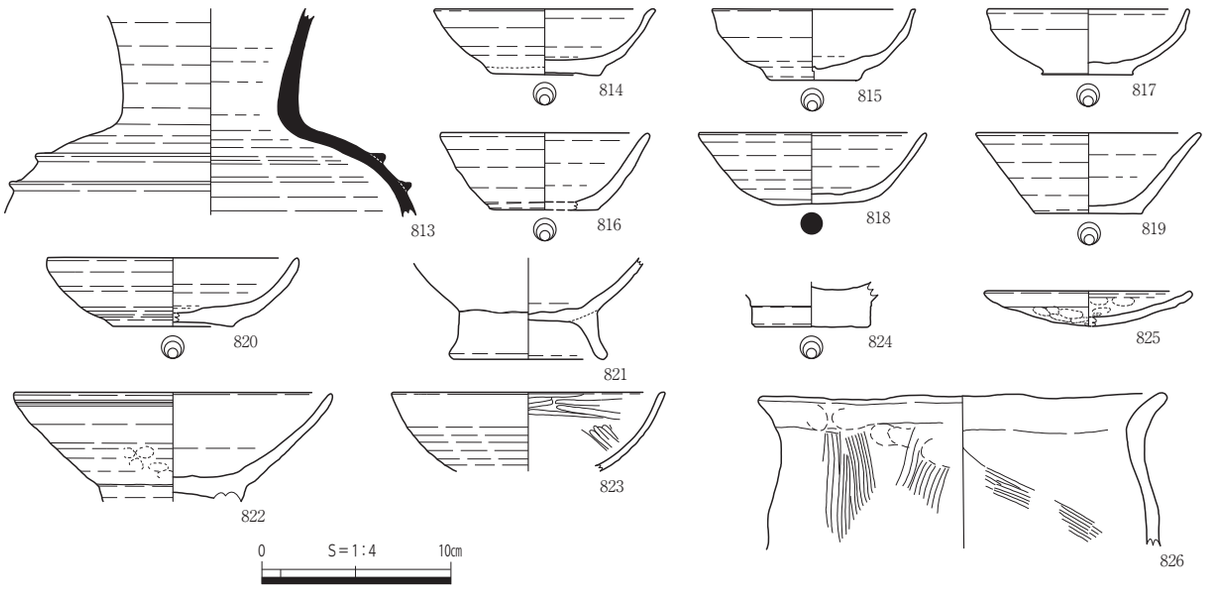
805 ～ 808は第１次盛土最下層から出土している（第412図）。805は須恵器坏Dである。806、807は須恵器坏Aである。806はやや浅手の坏部に、内湾気味に立ち上がる口縁部をもつ。高台は長く「ハ」の字状にのび、端部は面をとる。低脚坏との中間的な様相を呈する。807の高台は「ハ」の字状を呈し、端部は面取りする。808は須恵器甕Bの口縁部である。口縁部は沈線にて区画をつくり、波状文を施す。805 ～ 807の時期は岡田・八峠編年のＫⅡ期～ＫⅢ-１期頃である。808は古墳時代後期頃と考えられる。

809 ～ 812は道路１の盛土内から出土した（第413図）。トレンチからの出土であり、帰属する層位を明確にし得なかった。809は須恵器の坏Cである。810は土師器坏Gである。809、810は岡田・八峠編年のＫⅢ-２期頃と推定できる。811、812は土製支脚である。

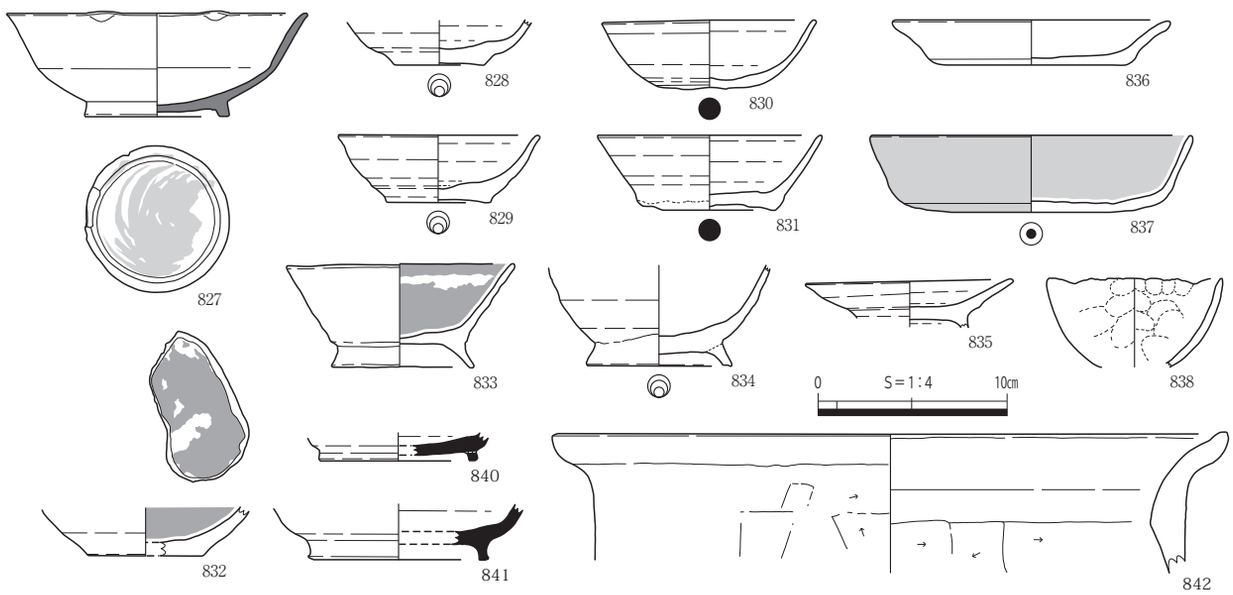
813 ～ 826は道路１側溝から出土している（第414図）。813は須恵器の壺Dである。肩部に２条の突帯を貼り付ける。814 ～ 826は土師器である。814・815・817は坏Jである。816は坏Iである。818は底部の切り離しがヘラ切りで、坏F類か。819は坏Kである。820は坏Lである。821、822は坏M類である。823はロクロにて成形した黒色土器の椀である。824は柱状高台の底部とみられる。825は土師器皿Hである。826は甕である。口縁部は緩やかに外反しやや短い。これらの時期は岡田・八峠編年のC１期と考える。

827 ～ 838は道路１道路外盛土から出土している（第415図）。827は緑釉陶器の輪花椀である。P11区道路１第５次盛土と接合している。底部と口縁部には弱い稜が確認できる。底部は削り出し高台で、高台の内側には一部釉薬を塗る。時期は９世紀末～ 10世紀前半頃と理解される。828 ～ 837は土師器である。828は坏IあるいはJの底部とみられる。829は坏Iである。830は底部の切り離しがヘラ切りである。831は坏Ｆ１であるが、底部の切り離しはヘラ切りである。832は坏の底部で内面には漆が付着する。833、834は坏M類である。833の内面全体に漆が付着する。835は皿Fである。836は土師器皿Dで内外面に赤色塗彩を施す。837は土師器坏Gである。836、837は混入とみられる。

840、841ともに小破片である。840は条里27から出土した須恵器の高台坏である。841は条里29から



第414図　P10区道路１側溝出土土器溝

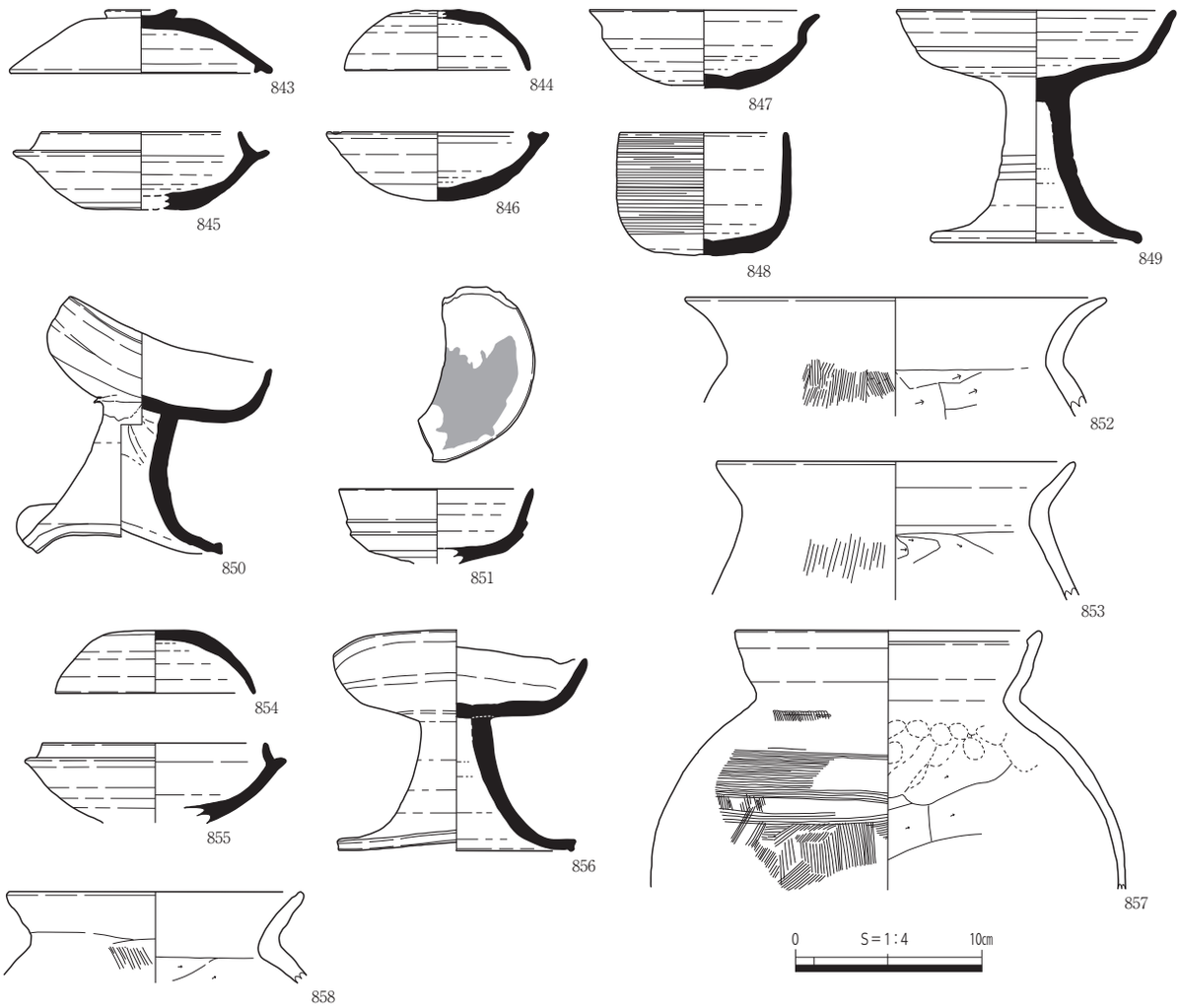


第415図　P10区道路１道路外盛土出土土器

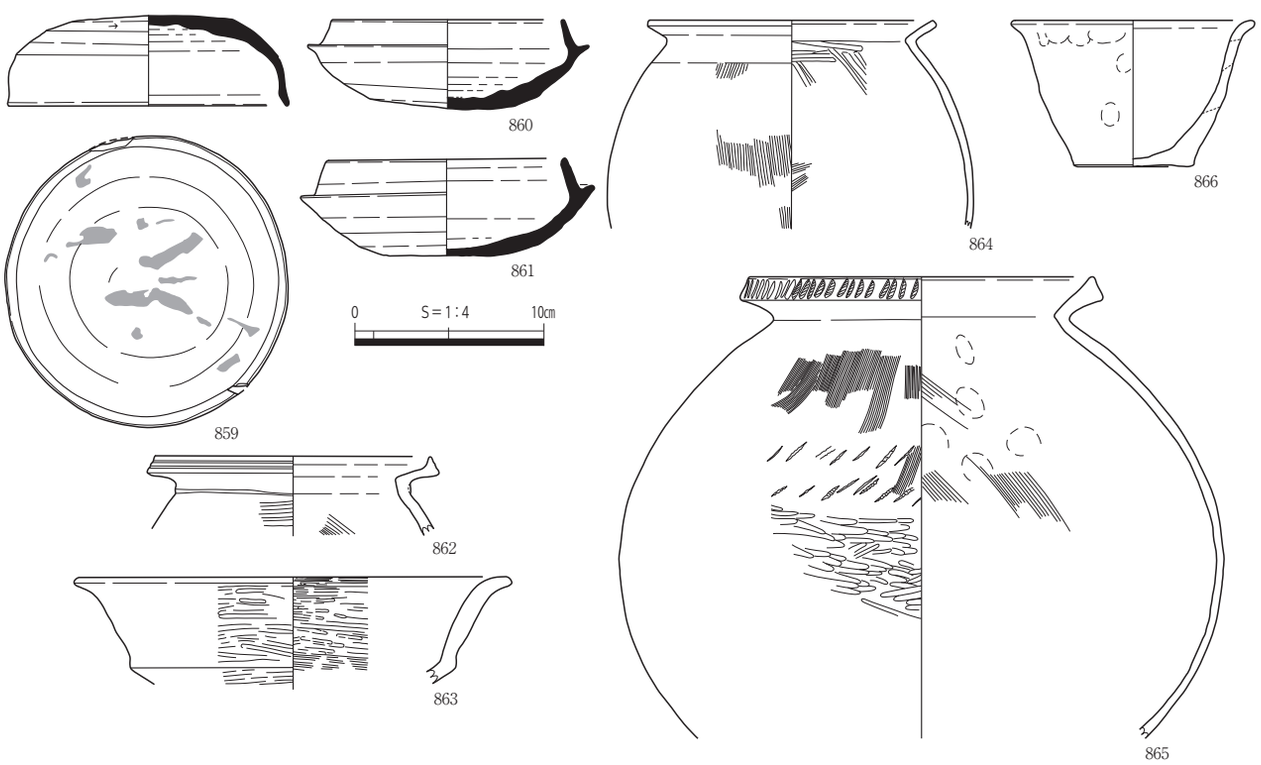
出土した須恵器の高台坏である。時期は岡田・八峠編年のKⅢ～KⅣ期頃と推定される。842は条里28から出土した土師器の甕である。840、841の時期は想定される条里の年代より古い。

843～853は河道13､14から出土している（第416図）。843～851は須恵器である。843は蓋Bである。天井部は笠状を呈する。844は坏蓋である。口径は矮小化している。845、846は坏身である。845の受け部は水平にのび、立ち上がりは内傾して直線的に立ち上がる。底部はやや平坦になる。846は立ち上がりが短く、口縁端部は摩耗している。847は坏Iである。口縁部は外反してのび、底部との境では明瞭に屈曲がある。848は埦である。口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、カキメ調整を行っている。口縁端部は丸くおさめる。849～851は無蓋高坏である。849の坏部はやや扁平で、口縁部は外反する。坏部の稜線は沈線にて表現する。脚柱部には２条の沈線がめぐる。850の坏部は上方へと立ち上がる。焼け歪みが著しい。851の坏部は稜線が２条めぐる。内面には漆が付着する。852、853は土師器の甕である。843～853の年代は岡田・八峠編年のKⅡ期と考える。

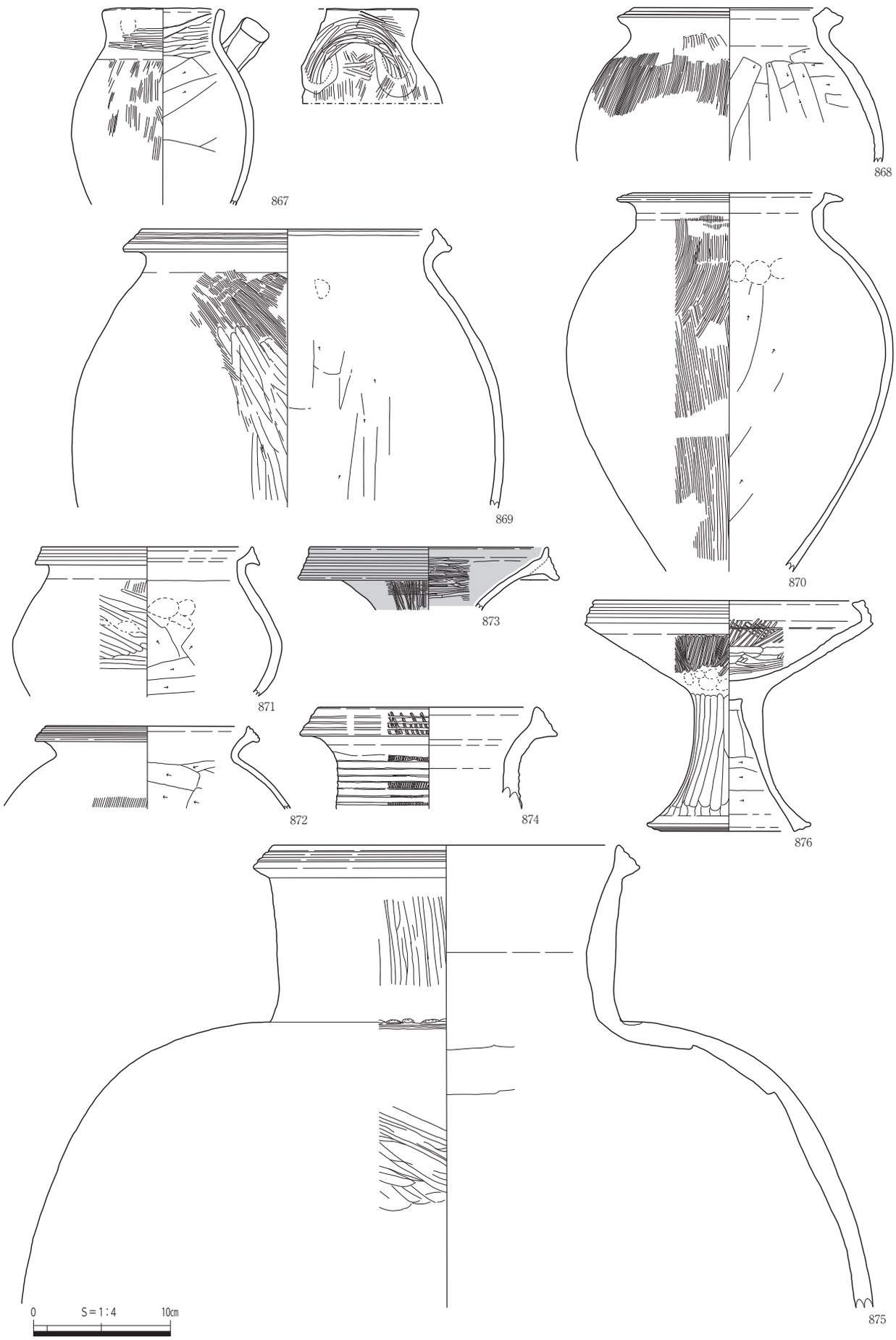
854～858は河道６から出土している（第416図）。854～856は須恵器である。854は蓋坏である。



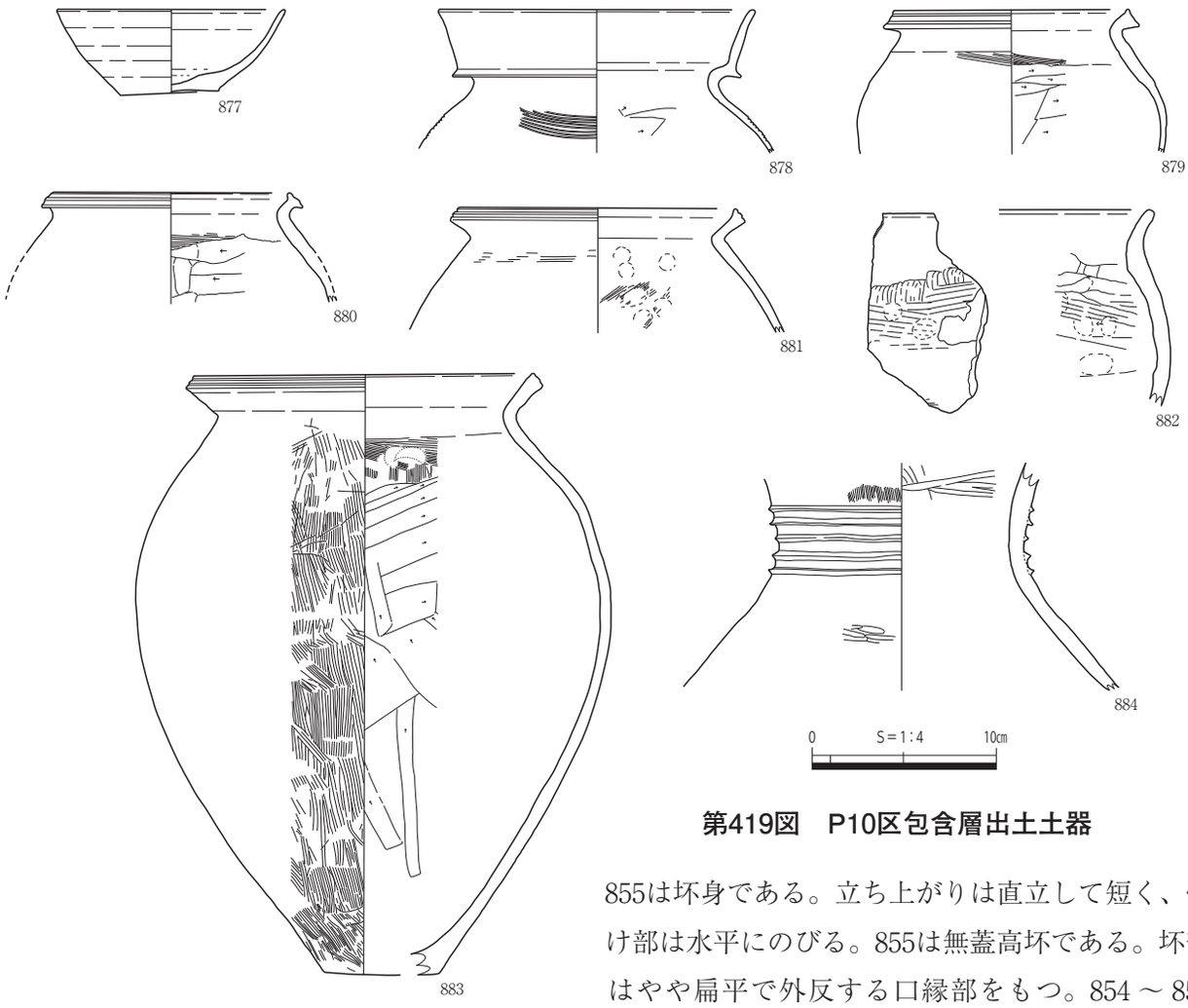
第416図　P10区河道６・13出土土器



第417図　P10区土坑６、盛土25・26出土土器



第418図　P10区土坑７出土土器



第419図　P10区包含層出土土器

855は坏身である。立ち上がりは直立して短く、受け部は水平にのびる。855は無蓋高坏である。坏部はやや扁平で外反する口縁部をもつ。854 ～ 856は岡田・八峠編年のＫⅠ期と考える。857、858は土師器の甕である。857は口縁端部を横ナデする。胴部は肩部を横方向のハケメ調整、下半は縦方向のハケメ調整を行う。時期は古墳時代中期～後期頃に比定される。

859 ～ 861は土坑６から出土している（第417図）。859は坏蓋である。外面の稜は僅かに確認できる。天井部はヘラ削りを行う。内面には付着物の痕跡を留めるが、詳細は不明であった。860、861は須恵器の坏身である。これらの時期はTK43型式併行期と考える。

862、863は盛土25から出土している（第417図）。862は甕の口縁部で口縁部外面には擬凹線がめぐる。863は高坏である。口縁部は横方向のヘラミガキを施す。時期は弥生時代後期（第Ⅴ様式）と考えられる。

864 ～ 866は盛土26から出土している（第417図）。864は「く」の字状の口縁部をもつ甕である。865も甕である。口縁部はヘラ状工具により刺突文を入れる。胴部にも最大径付近に刺突文を二段に入れる。外面は上半をハケメ調整、下半は横方向のヘラミガキを行う。866は鉢とみられる。864 ～ 866の時期は弥生第Ⅲ様式頃と考える。

867 ～ 876は土坑７から出土している（第418図）。867は水差形土器である。口縁部は垂直に立ち上がり、ヘラミガキを施す。胴部は縦方向のハケメ調整である。868 ～ 872は甕である。口縁部は凹線が入る。868の口縁部端部は内側に肥厚し、菱形に近い形状になる。外面は縦方向のハケメ調整、内面はヘラ削りである。869は肩部を左上がりのハケメ調整、下半はヘラミガキを施す。870の口縁部は

外方にのびる。外面は縦方向のハケメ調整を行う。871の胴部は外面をヘラミガキあるいはヘラ状の工具によりナデたような痕跡を留める。873 ～ 875は壺である。873は広口壺の口縁部とみられる。垂下する口縁部に凹線を入れる。頸部から口縁部の内外面にヘラミガキを施す。874は広口壺で口縁部にはヘラ状工具で刺突文を入れる。頸部は縦方向のハケメ調整の後、指か棒状の工具で凹線を入れる。875は大型の壺である。摩滅が著しく詳細は不明であるが、外面はヘラミガキを施す。871は高坏である。口縁部は内側に折れて凹線で飾る。坏部は縦方向のヘラミガキを施す。脚柱部はヘラミガキあるいはヘラ状工具によるナデである。これらの時期は弥生時代中期後葉の、Ⅳ-２～３様式に比定できる。

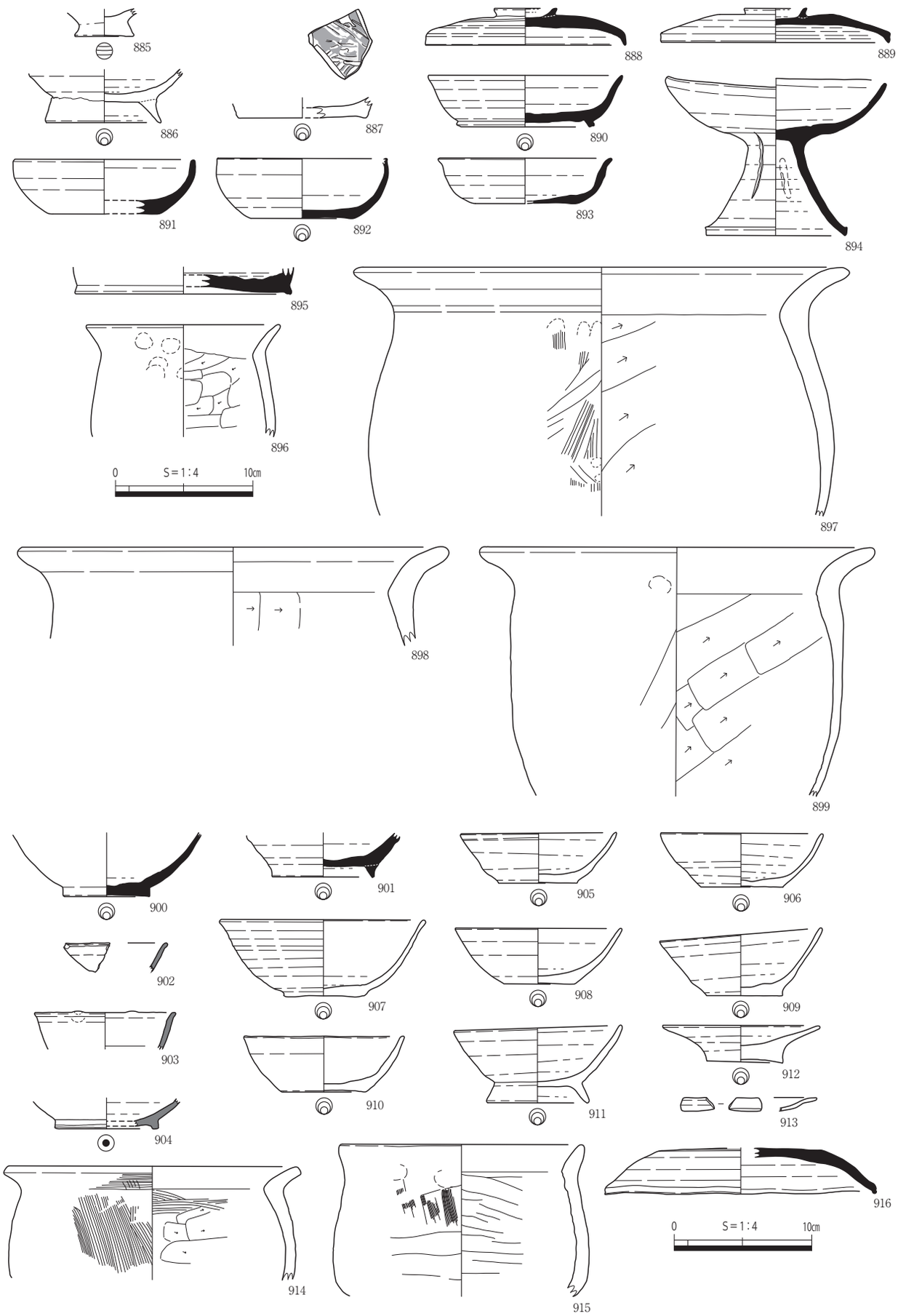
877 ～ 884はP10区の包含層から出土している（第419図）。877は土師器の坏Jであり、岡田・八峠編年のＫⅤ期～ CI期頃と考える。878はⅦ層から出土した複合口縁の甕である。古墳時代前期頃に比定される。879はⅤ層以下で出土した弥生土器の甕である。880、881はⅦ層以下にて出土した弥生土器の甕である。882はⅦ層から出土した弥生土器の壺である。883はⅤ層以下で出土した弥生土器の甕である。879 ～ 883は弥生時代中期後葉の範疇と考えられる。884はⅧ層相当にて出土した。壺の頸部に突帯を５条貼り付けている。時期は弥生時代第Ⅱ様式頃と推定される。

P11区出土土器（第420 ～ 432図）

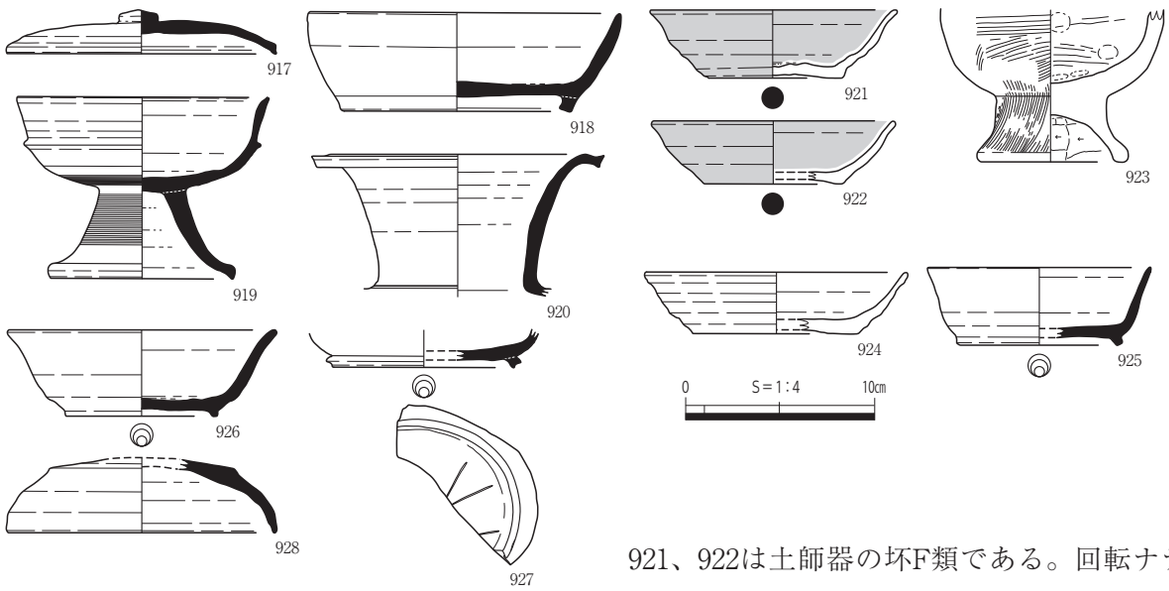
885 ～ 899は道路１第５次盛土路面から出土している（第420図）。885 ～ 887は土師器である。885は柱状高台である。886は坏M類である。887は坏類の底部であるが、内面は漆が付着する。885 ～ 887は岡田・八峠編年のＣⅠ期と考える。888 ～ 895は須恵器である。888、889は蓋Cである。889の口縁端部は断面三角形に近く短い。890は坏Cである。高台は「ハ」の字状で短い。891 ～ 893は高台の付かない坏である。891は坏Ｅ３である。892は坏Fとみられるが、口縁端部の一部を欠損する。893は坏G類である。口縁部はやや外反しながらのびる。895は壺類の底部と考える。888 ～ 895は岡田・八峠編年のＫⅢ-１～２期に比定できる。896 ～ 899は土師器の甕である。896は小型の甕である。ゆるやかな「く」の字状を呈し、口縁端部は丸くおさめる。897 ～ 899は内面が「く」の字状を呈し、口縁部は外方にのびる。本層の年代はＣⅠ期とみられ、888 ～ 895は混入の可能性が残る。

900 ～ 916は道路１第４・５次盛土から出土している（第420図）。900、901は須恵器である。900は須恵器埦Aとみられる。901は高台坏であるが、上半を欠損するため詳細は不明である。高台の断面形状は三角に近い。902 ～ 904は緑釉陶器である。902は椀の口縁部である。903は輪花椀の口縁部である。904は削り出し高台である。902 ～ 904の緑釉陶器は京都産の可能性が高い。時期は９世紀末～10世紀前半である。905 ～ 911は土師器の坏類である。905・906・908は坏Jである。907は埦Bである。909は坏Iである。910は坏Kである。911は坏Ｍ１である。912、913は土師器の皿である。912は皿E、913は皿Hである。905 ～ 912の年代は岡田・八峠編年のＫⅤ期～ＣⅠ期と考える。914、915は土師器の甕である。914の口縁は「く」の字状を呈し、外方に短くのびる。915の口縁部はやや直立して短く上方にのびる。914、915の時期は不明確ながら、岡田・八峠編年のＫⅤ期～ＣⅠ期と推定する。916は須恵器の蓋Dである。転用硯の可能性が高く、内面には墨痕が残る。

917 ～ 923は道路１の盛土内から出土している（第421図）。917 ～ 920は須恵器である。917は蓋Dである。ツマミは宝珠形を呈し、口縁端部は外面をナデて整形している。918は坏Cである。口縁部はやや内傾して、端部は丸くおさめる。917、918は岡田・八峠編年のＫⅢ-２期に比定される。919は須恵器の無蓋高坏である。時期はTK47 ～ MT15型式併行期と考える。920は壺Aの口縁部である。



第420図　P11区道路１第４・５次盛土出土土器



第421図　P11区道路１第１・３次盛土出土土器

921、922は土師器の坏F類である。回転ナデにより成形し、底部の切り離しはヘラ削りである。内外面を赤色塗彩する。921、922の年代は岡田・八峠編年のKⅢ-２～３期に比定される。923は時期不明の低脚坏である。

924、925は道路１第３次盛土から出土している（第421図）。924は土師器の坏F類である。925は須恵器の坏Cである。岡田・八峠編年のKⅣ期と考える。

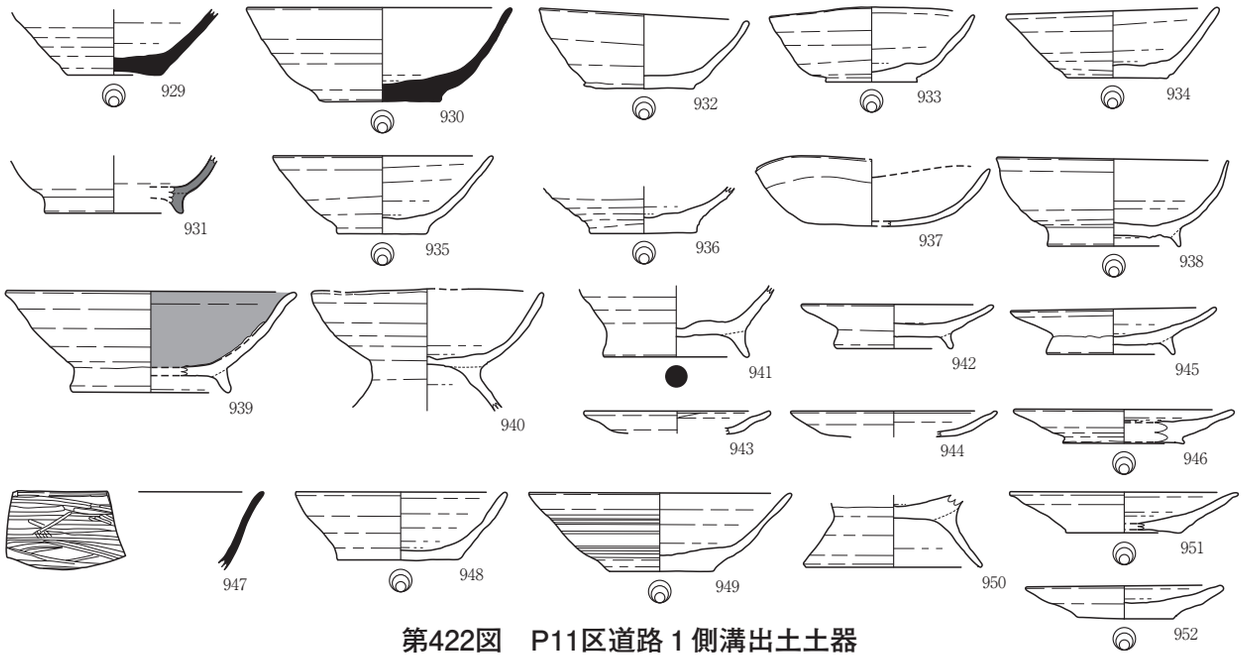
926 ～ 928は道路１第１次盛土から出土している（第421図）。926は須恵器の坏Cである。高台は低く、口縁部は外反しながらのびる。927は高台坏の底部である。高台の内側にヘラ記号を付けている。926、927は岡田・八峠編年のKⅢ-３～ KⅣ期頃で混入と考えられる。928は須恵器の蓋坏であり、TK209型式併行期に比定される。

929 ～ 946は道路１側溝から出土している（第422図）。929、930は須恵器である。929は無高台坏あるいは埦の底部である。930は埦Aである。931は緑釉陶器の椀である。貼付け高台とみられ、釉調は濃緑色を呈する。近江産の可能性が高く、10世紀代に比定される。932 ～ 946はロクロ土師器である。932、933は坏Jである。934、935は坏Iである。936は坏Iあるいは坏Jの底部で、底部からの立ち上がりにロクロ目が明瞭に残る。937は坏Gである。938 ～ 941は坏M類である。938、939、941の高台は短く、「ハ」の字状に貼付される。939の内面は漆が付着する。940は足高高台である。高台端部は欠損する。942 ～ 946は土師器皿である。942、945は土師器皿Fである。943、944は皿Hである。946は皿Eである。これらの時期は岡田・八峠編年のCI期に比定される。

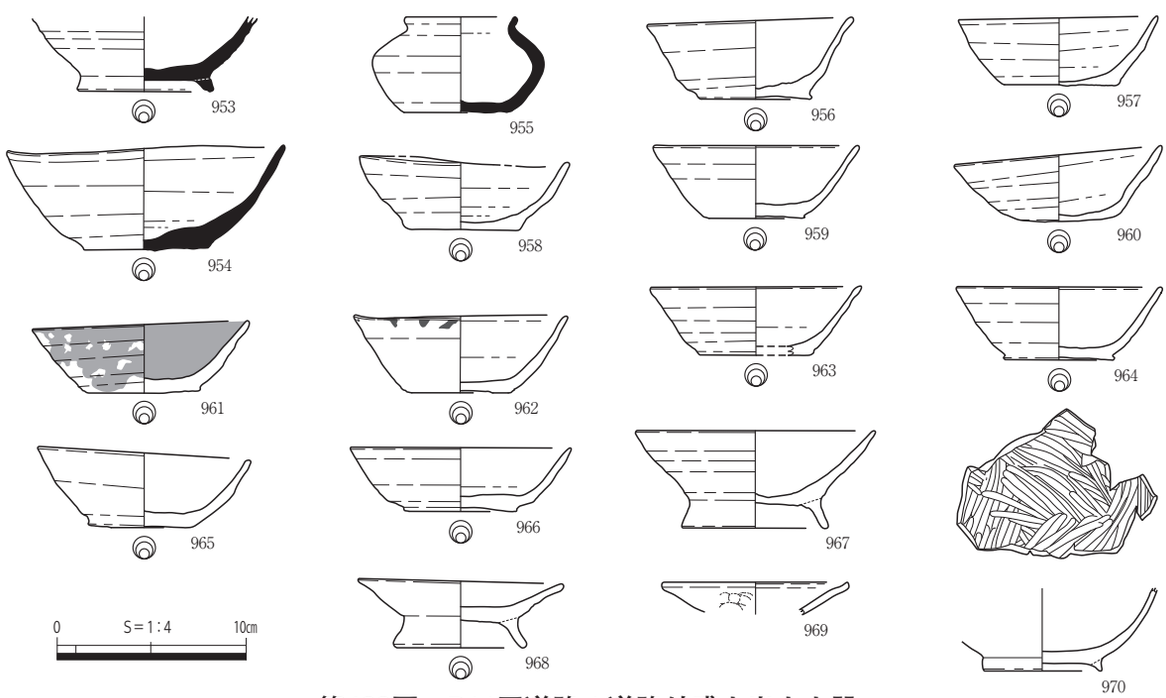
947 ～ 952は道路１古側溝から出土している（第422図）。947は須恵器の坏あるいは椀Aの口縁部である。内面にヘラミガキを施す。948 ～ 952はロクロ土師器である。948は坏Kである。949は坏Lである。950は坏M類の底部である。951、952は皿Eである。これらの時期は岡田・八峠編年のC１期と考える。

953 ～ 970は道路１道路外盛土から出土している（第423図）。953 ～ 955は須恵器である。953は須恵器坏D類の底部とみられる。954は埦Aである。955は短頸壺である。956 ～ 968はロクロ土師器である。956、957、959 ～ 965は坏Jである。958は坏Jである。966は坏Jである。967は坏M１である。968は皿F、969は皿Hである。970は内黒の黒色土器である。これらの時期は岡田・八峠編年のKＶ期と考える。

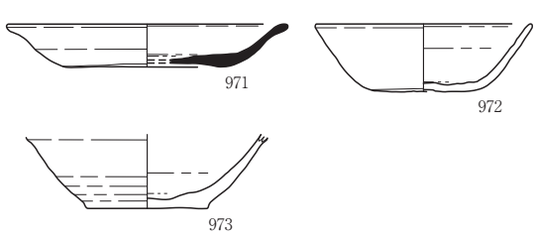
971 ～ 973は条里あるいは盛土遺構から出土している（第424図）。971は条里33と盛土27で接合関係がみられた。須恵器の皿Cである。972は条里33から出土した、土師器の坏である。973は条里30と条



第422図　P11区道路１側溝出土土器



第423図　P11区道路１道路外盛土出土土器



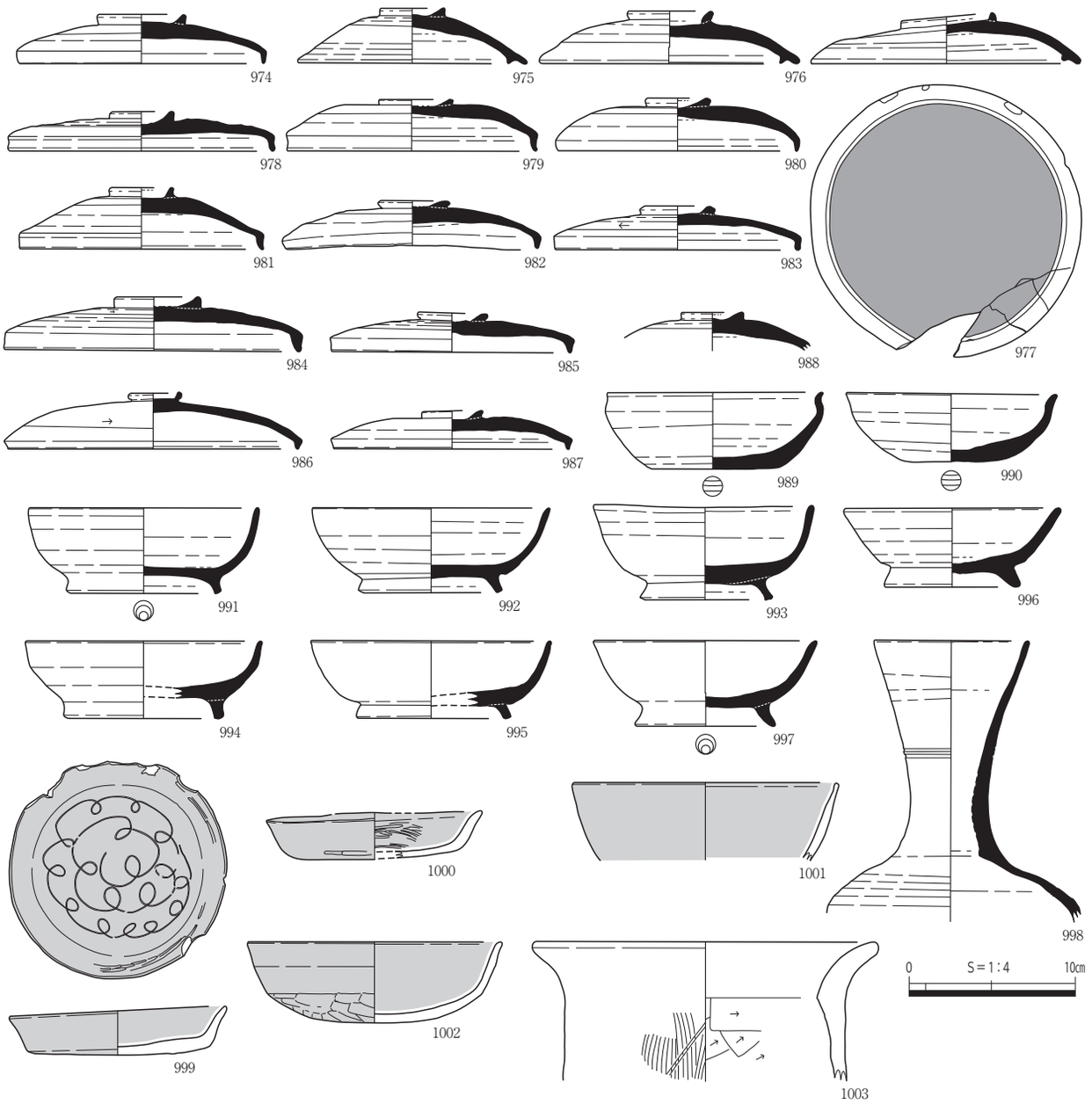
第424図　P11区条里・盛土遺構出土土器

里33で接合関係がみれれた。土師器の坏JあるいはIの底部である。

974 ～ 1003は河道16から出土している（第425図）。974 ～ 998は須恵器である。974は蓋Cである。口縁部は内外面からナデて下方にのばす。975 ～ 977は蓋Bである。977の内面には墨痕が確認できる。978 ～ 987は蓋Cである。蓋Cの口縁端部の形状に着目すると、内外面からナデて下方にのびるもの（978 ～ 984）と、外面をナデて、断面が三角形に近い形状を呈するもの（985 ～ 987）に分類できる。989は坏Ｅ１である。口縁部の屈曲は明瞭で、肩部も張り出す。990は坏Ｅ２である。口縁部の屈曲は緩やかで口縁端部は肥厚し面取りを行う。991 ～ 993は

坏Ｂ１である。高台は「ハ」の字状に貼付け、端部は面取りをする。994、995、997は坏Ａ１である。994の高台は垂直気味に貼り付ける。995、997の高台は「ハ」の字状に貼付する。996は坏Ｂ２である。高台はやや踏ん張った形状を呈する。998は長頸壺である。999 ～ 1003は土師器である。999、1000は皿Cである。999は内面の口縁部に横方向のヘラミガキ、見込みに螺旋文を施す。1000は内外面にヘラミガキを施すが、表面の剝離が著しく不明瞭である。1001は坏Eである。口縁部内面を強くナデ口縁端部は肥厚させる。内面の放射暗文は確認できなかった。1002は土師器の坏Gである。999 ～ 1002は赤色塗彩を施す。1003は土師器の甕である。内面が「く」の字状の口縁部であり、胴部外面は縦方向のハケメ調整を行う。これらの土器の時期は岡田・八峠編年のKⅢ-１期と考える。

1004 ～ 1013は河道14から出土している（第426図）。1004 ～ 1010は須恵器である。1004、1005は須恵器の蓋Bである。1006、1008は坏Ａ２である。1007は坏Ｂ１である。1009は坏Ａ１である。1006 ～ 1009の高台は「ハ」の字状を呈しており、端部は面取りを行う。1010は坏Ｅ１である。口縁部の屈曲は強く、肩部は張り出している。1011、1012は土師器の甕である。1012は甕Bで内面が「く」の字状の口

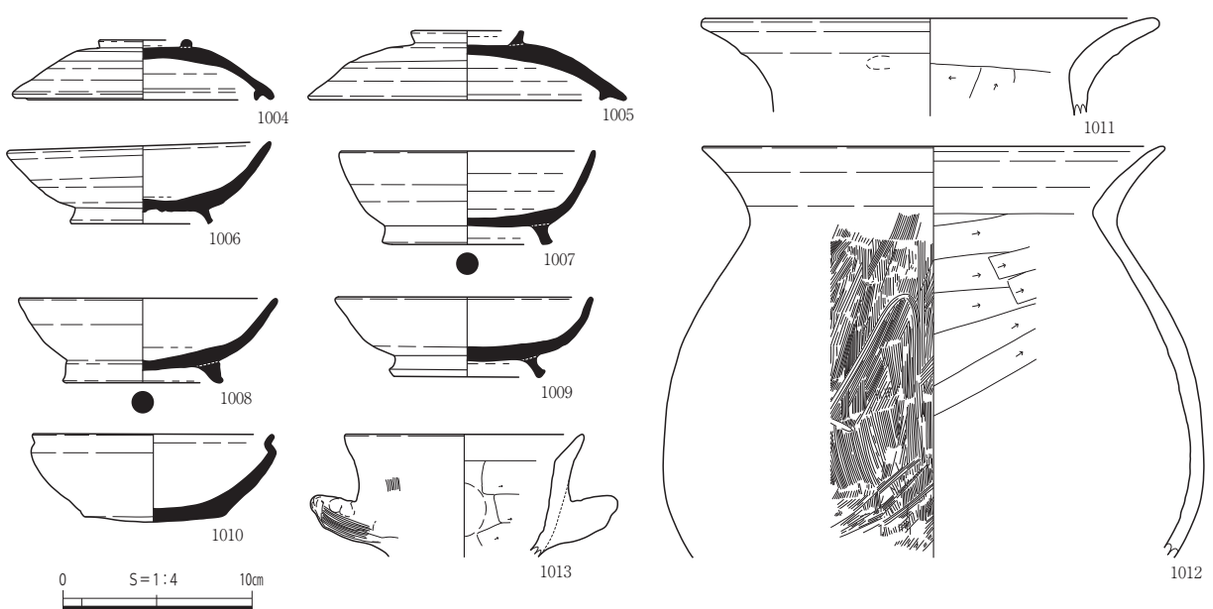


第425図　P11区河道16出土土器

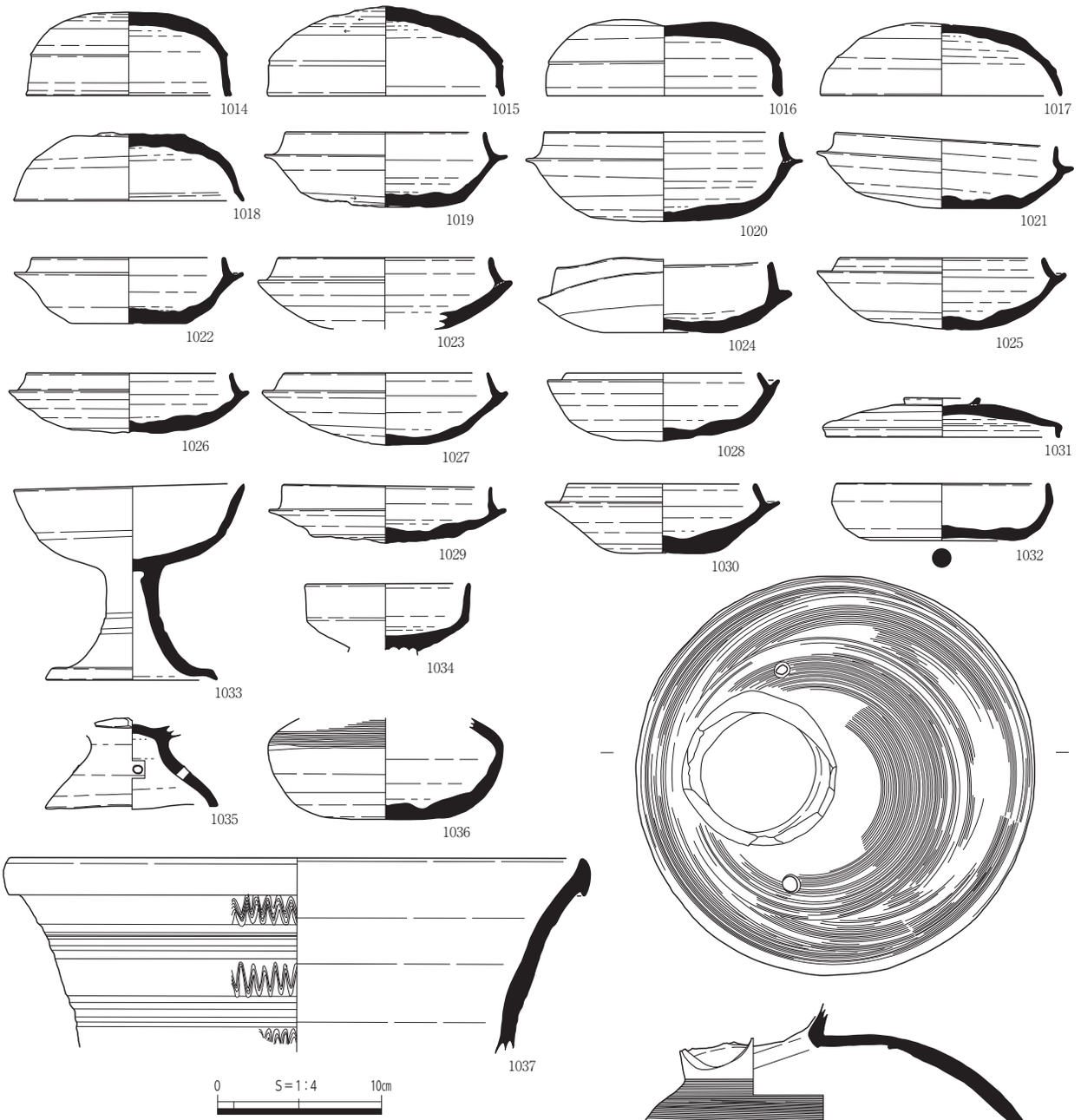
縁で、外方に長くのびる。胴部外面は縦方向のハケメ調整を行う。最大胴径は中心より下方に求められる。胴部内面は右上がりのヘラ削りを行う。1013は小型の甑である。これらの時期は岡田・八峠編年のKⅡ期と考える。

1014 ～ 1055は河道14から出土している（第427 ～ 429図）。1014 ～ 1038は須恵器である（第427図）。1014 ～ 1018は坏蓋である。1014の稜線は鋭く突出し、天井部は丸みを帯び、ヘラ削りは天井部の1/2程度を行う。1015は稜線の突出は鈍く、凹線にて表現される。口縁端部は面をもち凹線がめぐる。天井部のヘラ削りは1/3程度である。1016は焼け歪みにて天井部が扁平である。稜の突出は鈍い。1017、1018は稜線の表現がほぼ無くなり、全体的に笠状の形態になる。天井部はヘラ切りである。1019 ～ 1030は須恵器の坏身である。1031は蓋Cである。1032は坏Ｅ２である。1033、1034は無蓋高坏である。1033の坏部は深手であり、外面は稜線を凹線状に表現する。1034は小型であり、口縁部は垂直気味に立ち上がる。1035は短脚高坏の脚部である。円形の小ぶりな透かし孔を穿つ。1036は壺類の底部とみられる。肩部にカキメ調整を施す。1037は甕の口縁部である。口縁部には波状文を施す。1038は平瓶である。口縁部を欠損する。肩部にはボタン状の突起を貼付する。肩部から胴部中ほどまでカキメ調整を施し、内面上半には閉塞した痕跡が確認できる。時期は1014がTK47併行期、1015、1016、1019、1021がMT15 ～ TK10型式併行期、1017、1018、1022 ～ 1030、1033 ～ 1035がTK43 ～ TK209型式併行期と考える。1036 ～ 1038は詳細な時期特定は難しいが、TK43 ～ TK209型式併行期の範疇と考えておきたい。

1039 ～ 1055は土師器である（第428・429図）。1039 ～ 1049は甕である。1039、1040は複合口縁をもつ甕である。1039の底部は平底である。外面の底部付近は左上がりのハケメ調整、内面はヘラ削りを行う。1039、1040の時期は古墳時代前期と考える。1041、1042は直立した口縁部に凹線にて段を表現する。1041の口縁端部は内湾する。1042の口縁端部は面取りを行う。1043の口縁部は外面を横ナデし端部を上方へつまみ出す。外面肩部はハケメ調整を行う。1044の口縁部は緩やかに屈曲し、口縁端部の外面はナデにより面取りする。外面の肩部は縦方向のハケメ調整を行う。内面は横方向のヘラ削りを行う。1043、1044の時期は古墳時代中期前葉頃と考える。1045 ～ 1047は口縁内面が「く」の字状を呈する甕である。1045の口縁部は上外方にのびて端部は丸くおさめる。1046の口縁部は上外方にの



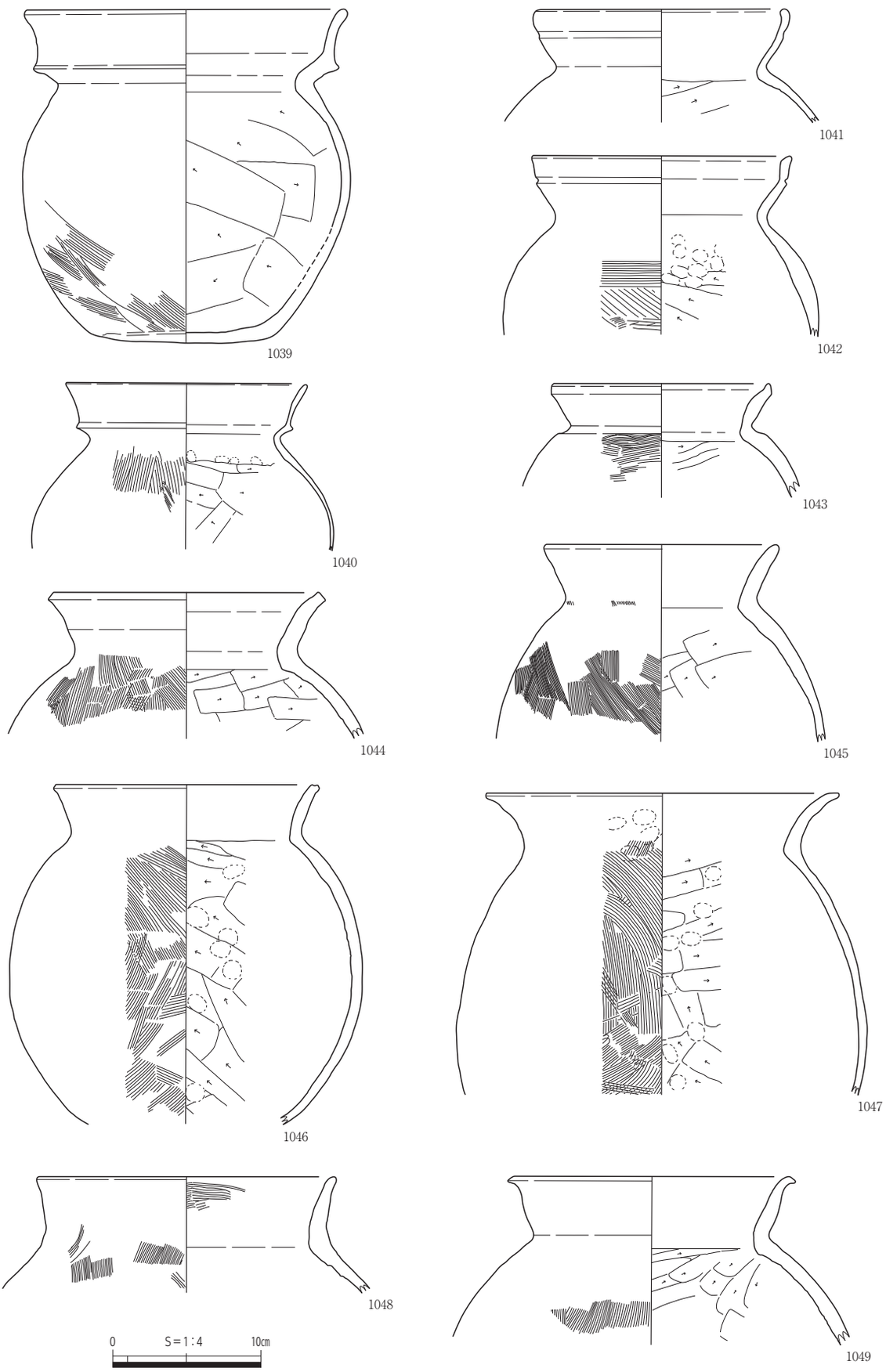
第426図　P11区河道14出土土器



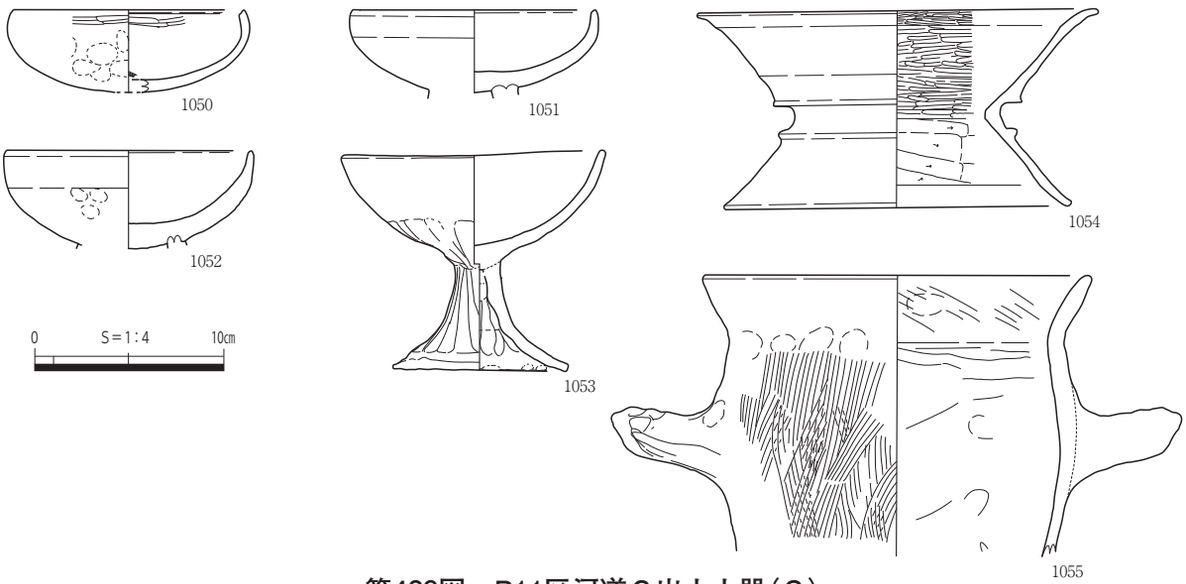
第427図　P11区河道６出土土器（１）

びて端部は面取りをし、弱い凹線がめぐる。1047の口縁部は緩やかに外反し、端部は水平にのびる。1048の口縁部は直立して、端部は丸くおさめる。1049の口縁部は緩やかに屈曲し、口縁端部は僅かに垂下させる。1045 ～ 1049の時期は古墳時代中期中葉～後葉頃と考える。1050は埦である。口縁部は内湾させ、端部は面取りを行う。1051 ～ 1053は高坏である。1051、1052は坏部のみで脚部は欠損する。1053は高坏である。1051､1052と比して口縁部の内傾は強くない。1050 ～ 1053の時期は古墳時代後期と考える。1054は鼓形器台であり、古墳時代前期と考える。1055は甑である。外方に張り出す把手を貼付けている。口縁部は緩やかに「く」の字状を呈する。詳細な時期は不明であるが古墳時代後期頃と考える。

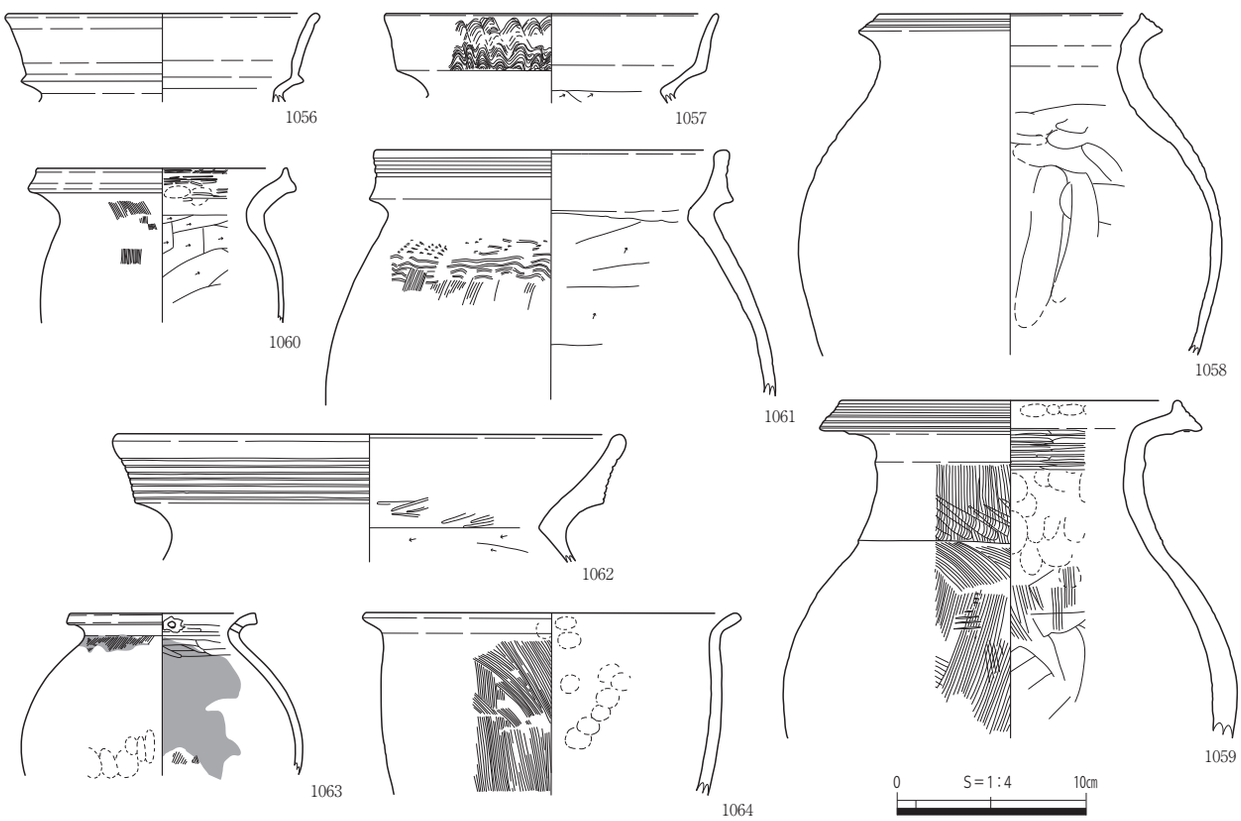
1056 ～ 1064は河道15から出土している（第430図）。1056、1057は複合口縁の甕である。1057は口



第428図　P11区河道６出土土器（２）

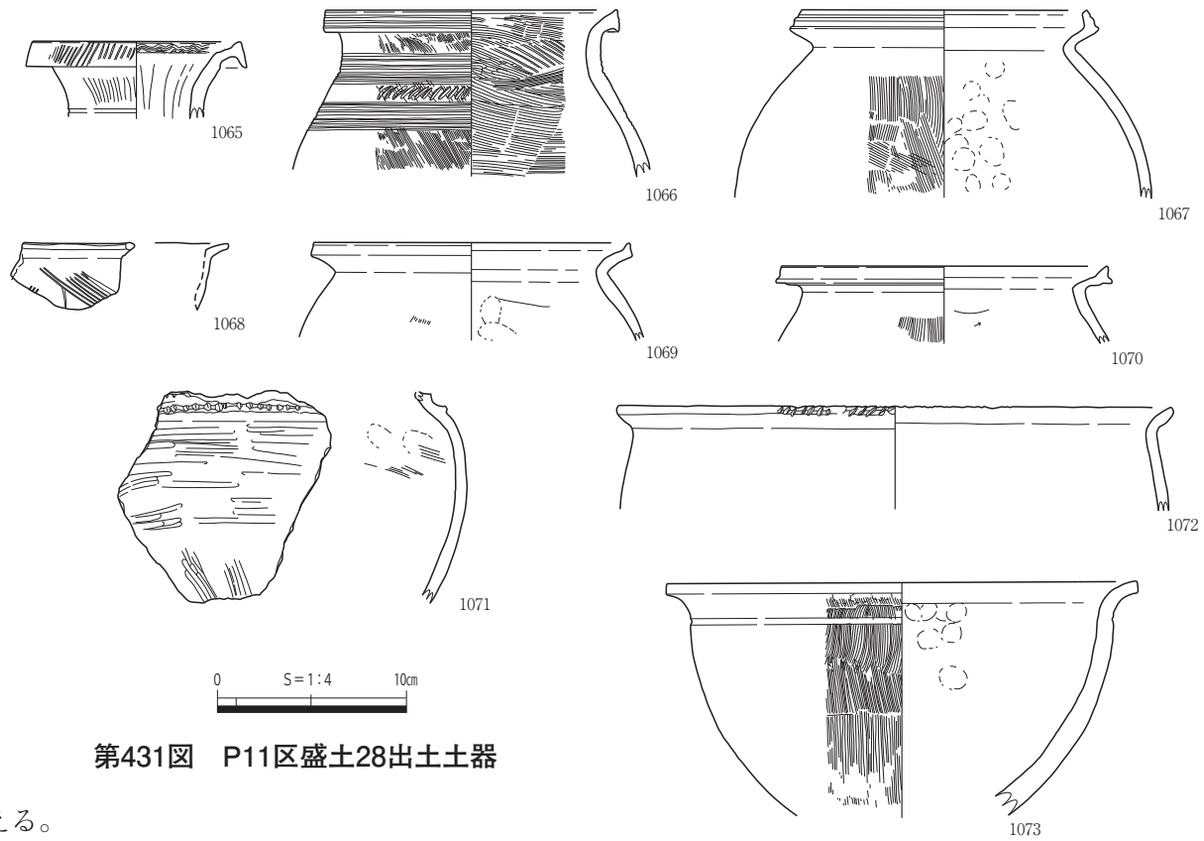


第429図　P11区河道６出土土器（３）



第430図　P11区河道15出土土器

縁部外面を波状文で飾る。時期は弥生時代後期～古墳時代前期と考える。1058、1059は壺である。1058の口縁部端部は面を持ち擬凹線がめぐる。1059の口縁端部は上下に肥厚させて、擬凹線を施す。頸部は大型のハケ状工具による連続刺突文の後、縦方向のハケメ調整を施す。内面の頸部には横方向のヘラミガキを行う。1060は口縁部外面をナデ、端部を上方へつまみ上げる。1061、1062は複合口縁をもつ甕である。1061は口縁部上方に擬凹線をめぐらせる。1062は口縁部下方に擬凹線をめぐらせる。1058 ～ 1062は弥生時代後期（Ⅴ様式）と考える。1063の口縁部は短く外反し、外面からの刺突による穿孔が確認できる。時期は弥生時代中期中葉～後葉頃と思われる。1064は緩やかな「く」の字状の口縁をした甕である。口縁部は横ナデで、胴部は縦方向のハケメ調整である。時期は弥生時代前期頃と考

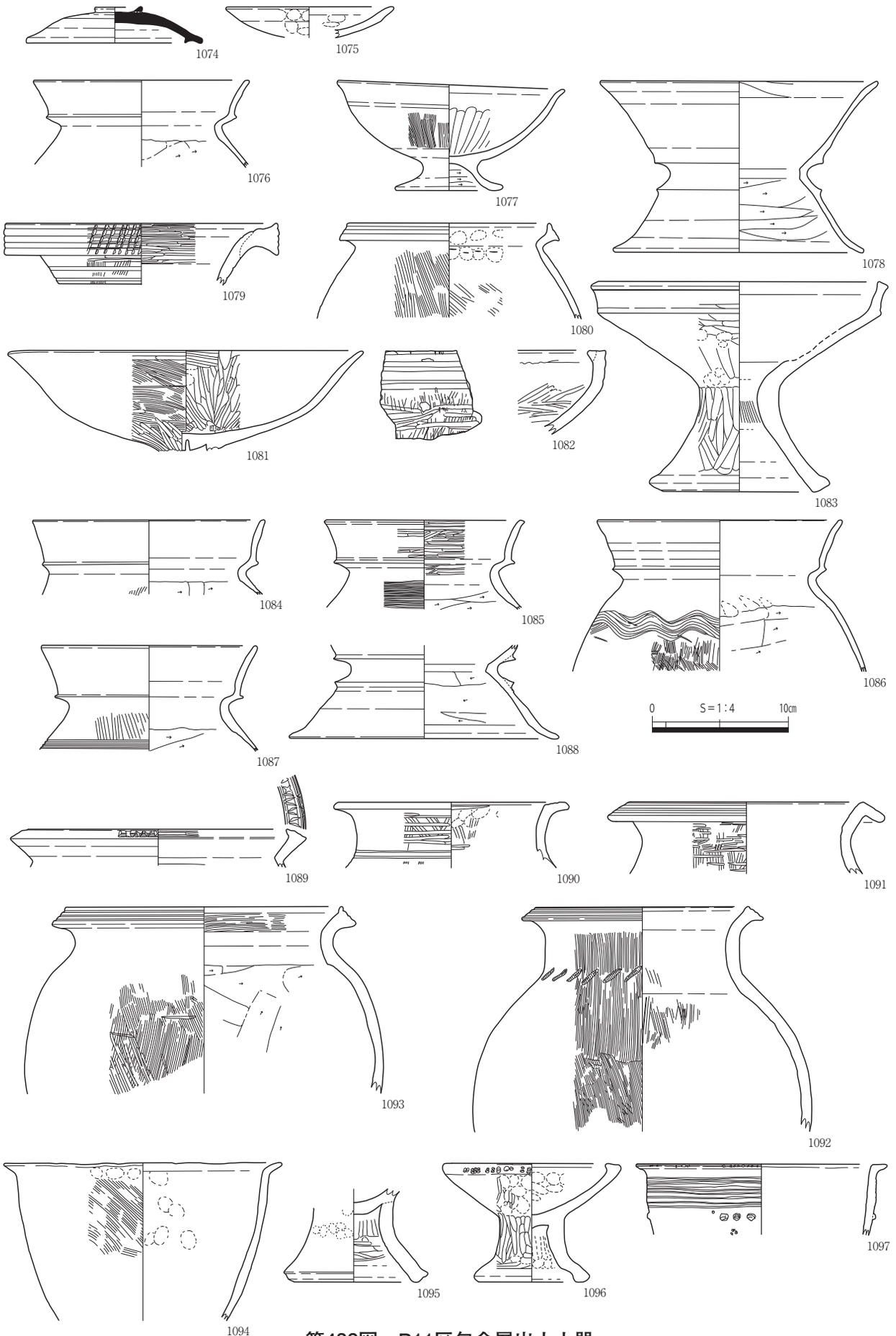


第431図　P11区盛土28出土土器

える。

1065 ～ 1073は盛土28から出土している（第431図）。1065、1066は壺である。1065は口縁部外周にヘラ状工具による刺突文、内面は波状文で飾る。頸部には凹線が１条確認できる。1066は口縁部に３条、頸部はハケメ調整のち８条、肩部に７条の凹線文を施す。頸部と肩部との間には刺突文を入れる。内面はハケメ調整である。1067、1069、1070は甕である。1067は口縁部に２条の凹線を入れる。1069は口縁端部を上方につまみ上げる。1070は口縁部の上下を僅かに肥厚させる。1065 ～ 1070の時期は弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）と考える。1071は壺胴部である。1072は甕で、口縁部に刻目を入れる。1071、1072は弥生時代前期とみられ混入の可能性が高い。1073は鉢である。

1074 ～ 1097はP11区の包含層から出土している（第432図）。1074はⅢ～Ⅳ層から出土した須恵器蓋Bである。1075は土師器皿Hである。1076 ～ 1088はⅥ層から出土した。1076は土師器の複合口縁をもつ甕である。1077は低脚坏である。1078は鼓形器台である。時期は古墳時代初頭頃と考える。1079は壺の口縁部で口縁部外面に刺突文を入れたのち、凹線文を施す。1080は甕である。1081は高坏の坏部である。1083､1084は口縁部が僅かに外反する高坏である。1083は閉塞部が剝離したものと考える。弥生時代中期後葉（第Ⅳ様式）に比定される。1084 ～ 1087は複合口縁の甕である。1088は鼓形器台の底部である。時期は古墳時代初頭頃と考える。1089 ～ 1096はⅧ層から出土している。1089 ～ 1092は壺である。1089は口縁端部に凹線を入れ、刺突による鋸歯文を施している。1090は壺で、口縁部は外方にのびる。頸部に２条の凹線がめぐる。1091は口縁部が下方に垂下し、凹線がめぐる。外面頸部はハケメ調整のちヘラミガキを施す。1092はハケメ調整のち頸部に刺突文を施す。1093は甕である。1089 ～ 1092は弥生時代中期後葉に比定される。1094は甕である。1095、1096は小型の高坏である。1097はⅨ層から出土した弥生時代前期の甕である。

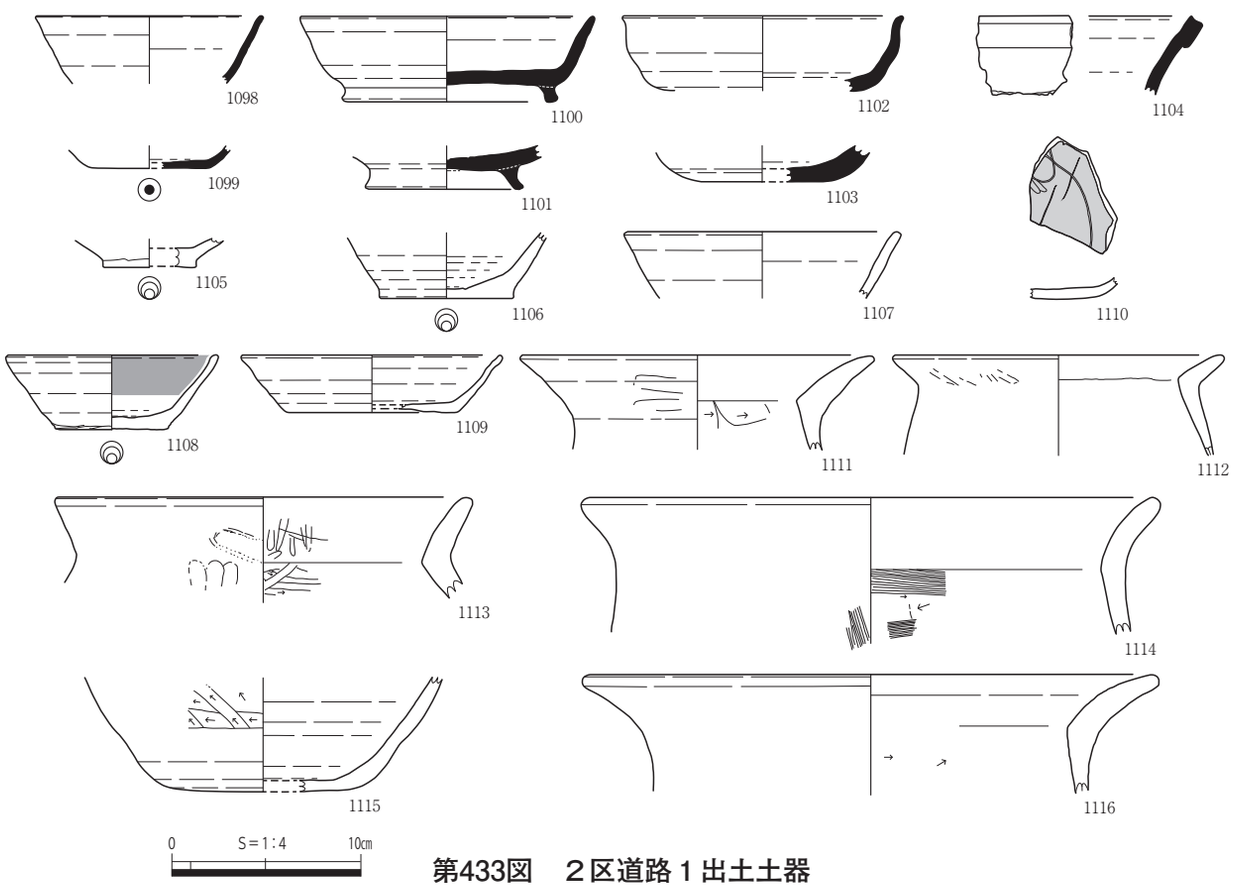


第432図　P11区包含層出土土器

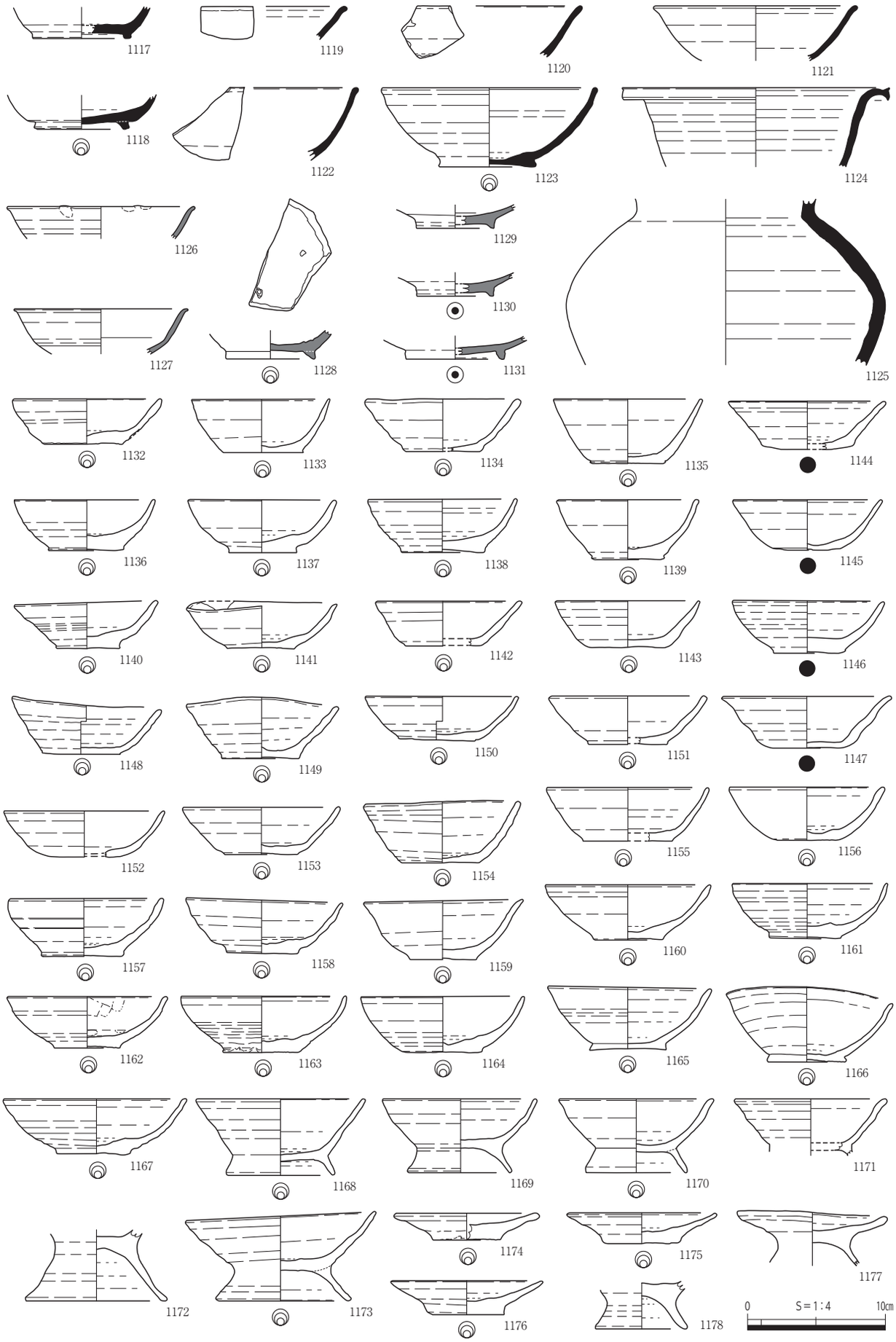
２区出土の土器（第433 ～ 437図）

1098 ～ 1116は道路１から出土している（第433図）。1098 ～ 1104は須恵器である。1098は須恵器の坏あるいは埦の口縁部である。1099は無高台坏の底部である。1098、1099は岡田・八峠編年のKⅣ～Ⅴ期頃と推定される。1100は須恵器の坏Cである。1101は高台坏の底部である。1102は坏E１である。1103は無高台坏の底部とみられる。1104は広口壺の口縁部である。1100 ～ 1103は岡田・八峠編年のKⅢ期の範疇と考える。1105 ～ 1116は土師器である。1105は柱状高台である。1106は坏類の底部である。1107は坏類の口縁部である。1108は坏Kであり、口縁部内面に赤色塗彩を施す。1109は坏Gである。1106は岡田・八峠編年のCI期、1107 ～ 1109は岡田・八峠編年のKⅤ期に比定される。1111 ～ 1116は甕である。1111は口縁部内面が「く」の字状を呈する。1112、1113の口縁部は短く上外方にのびる。1114は緩やかに上外方にのびる。1115は甕の底部と推定される。1116の口縁部は緩やかに外反しながらのびる。

1117 ～ 1182は道路１側溝から出土している（第434、435図）。1117 ～ 1125は須恵器である。1117、1118は坏Dの底部とみられる。1119 ～ 1123は埦Aである。1124は壺Aの口縁部、1125は壺類の胴部である。1126 ～ 1131は緑釉陶器である。1126は輪花椀の口縁部である。1127も椀の口縁部である。口縁部と底部に弱い稜が確認できる。1128は椀の底部である。内面に三叉トチンの痕跡がある。貼付け高台で釉調も濃緑色を呈することから近江産の可能性が高い。1129は椀、1130、1131は皿とみられる。削り出し高台と釉調から京都産の可能性が高い。1132 ～ 1178はロクロ土師器である。1132 ～ 1166は高台の付かない坏類である。口径の大小から10cm ～ 11cmを１群、11 ～ 12cmを２群として区分した。１群は1132 ～ 1145が該当する。1132 ～ 1135は坏Iである。1136 ～ 1141は坏Jである。1142、1143は坏Kである。1144はF１、1145はF２で、底部はヘラ切りにて切り離される。２群は1146 ～ 1164である。



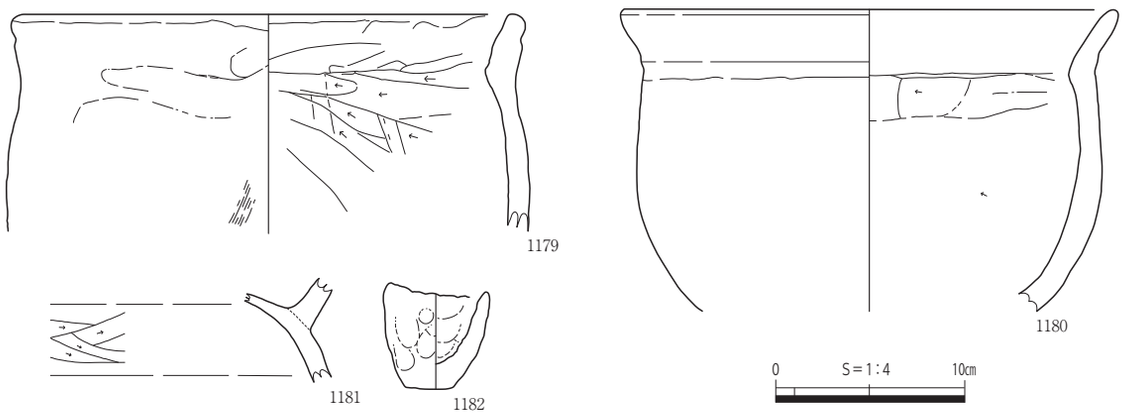
第433図　２区道路１出土土器



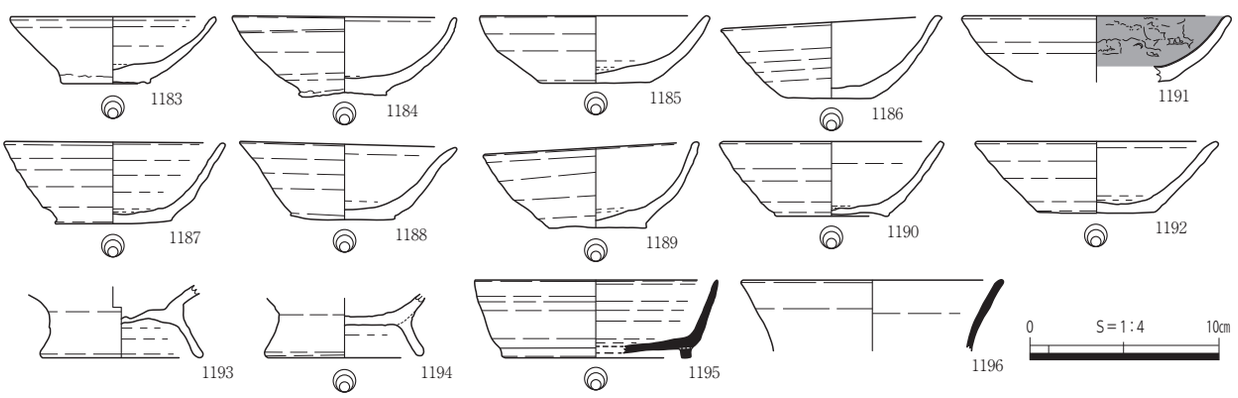
第434図　２区道路１側溝出土土器（１）

1146、1147の底部はヘラ切りである。1148 ～ 1155は坏Iである。1156 ～ 1164は坏Jである。1165、1166は埦Bである。1167は坏Lである。1168 ～ 1173は坏Ｍ１である。1174 ～ 1176は皿Eで、1177は皿Fである。1178は皿の高台部分とみられる。ロクロ土師器の時期は岡田･八峠編年のＣⅠ期と考える。1179、1180は甕である。1179の口縁は直立気味に立ち上がる。1180の口縁部は短く、緩やかに外反する。1181は瓦質羽釜である。1182はミニチュア土器である。

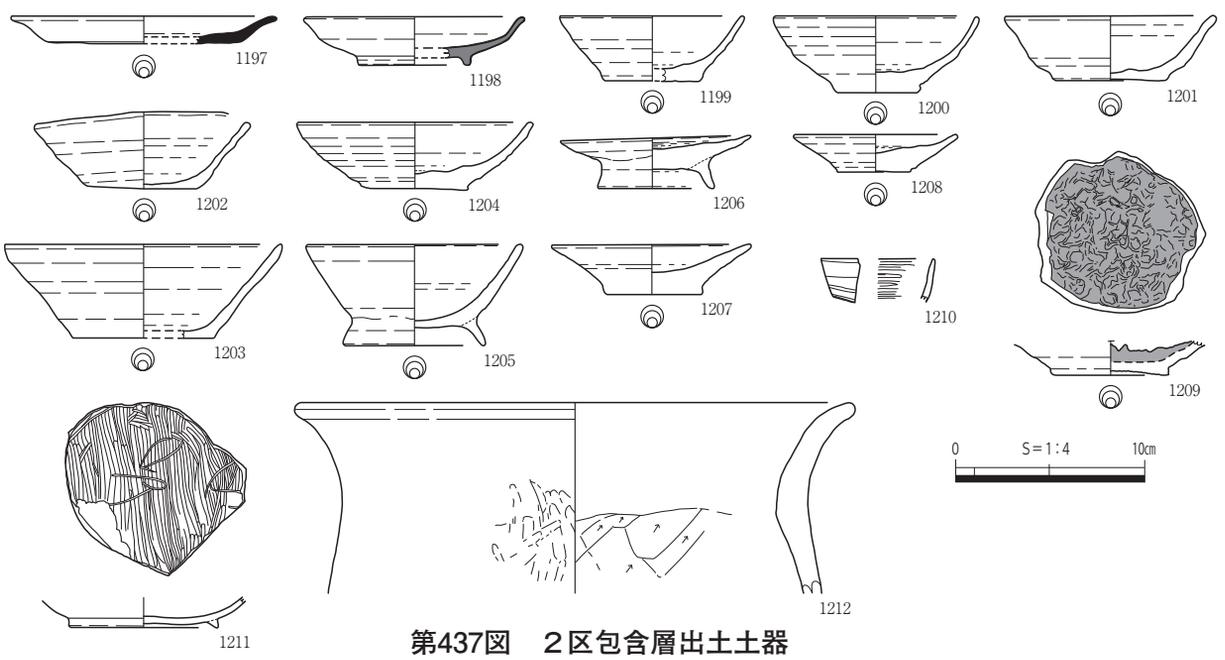
1183 ～ 1196は道路１道路外盛土から出土している（第436図）。1183 ～ 1194はロクロ土師器である。



第435図　２区道路１側溝出土土器（２）



第436図　２区道路１道路外盛土出土土器



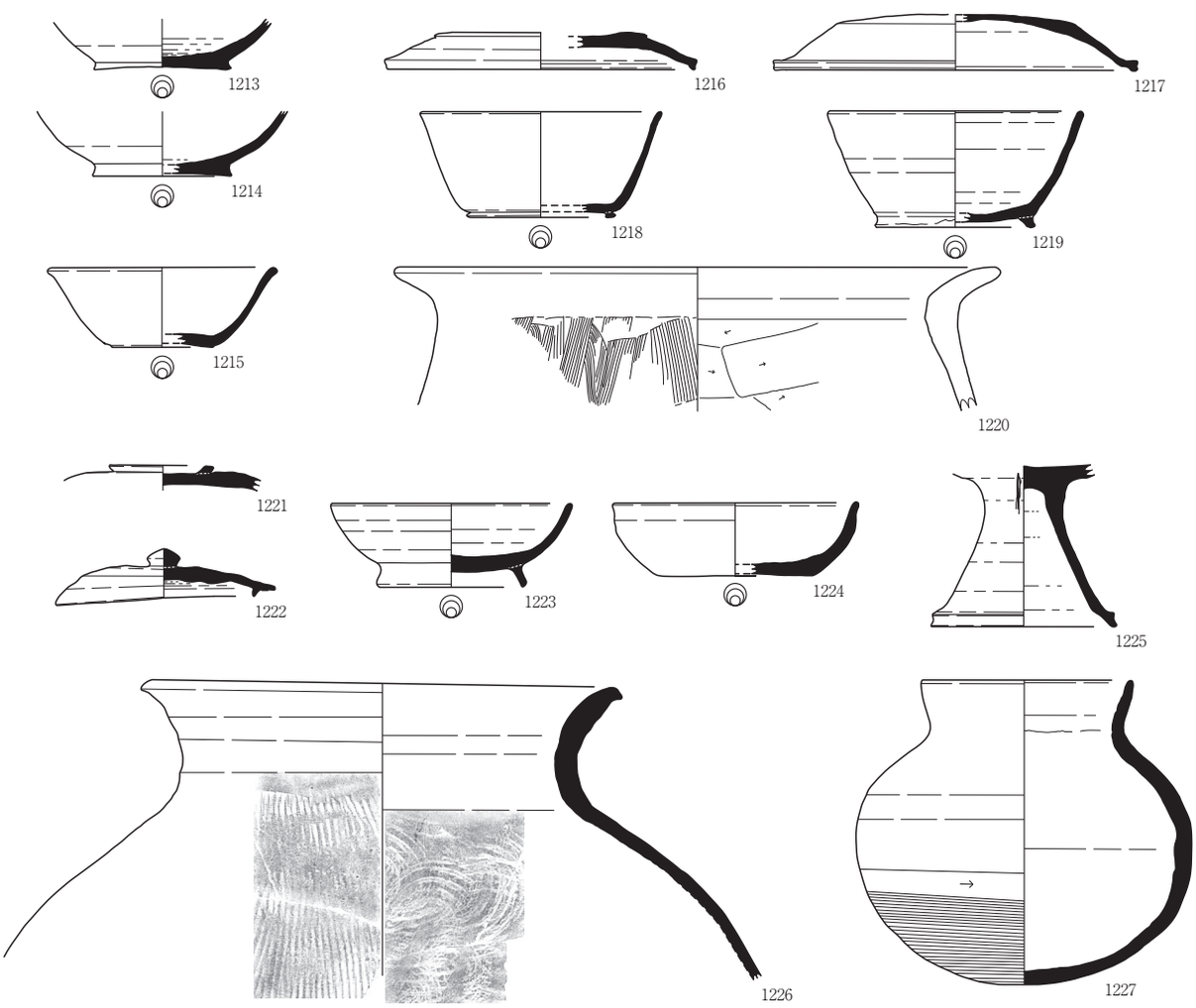
第437図　２区包含層出土土器

1183は坏Iである。1184 ～ 1190は坏Jである。1191は内面に漆が付着している。1192は坏Kである。1193、1194は坏M類である。1183 ～ 1194の時期は岡田・八峠編年のＫⅤ期と考える。1195、1196は須恵器である。1195は坏C、1196は坏類の口縁部とみられる。時期は８世紀代とみられ、混入の可能性が高い。

1197 ～ 1212は２区の包含層（Ⅲ層）から出土している（第437図）。1197は須恵器皿Cである。1198は緑釉陶器の皿である。1199 ～ 1207はロクロ土師器である。1199は坏Jである。1200、1201は坏Iである。1202、1203は坏Kである。1204は坏Lである。1205は坏Mである。1206は皿Fである。1208、1209は皿Eである。1210は瓦器椀の口縁部とみられる。1209はロクロ土師器の坏内面に漆が付着している。1211は黒色土器の椀あるいは瓦器椀の底部とみられる。1210、1211は搬入品の可能性が高い。1212は土師器の甕である。やや時期幅があるものの、概ね10世紀後半以降に比定できる。

P12区出土土器（第438 ～ 445図）

1213 ～ 1220は道路１第４・５次盛土から出土している（第438図）。1213 ～ 1219は須恵器である。1213、1214は須恵器埦Aの底部とみられる。1213、1214は搬入品の可能性のある埦である。1215は坏G２である。口縁部はやや外反して丸くおさめる。1216、1217は須恵器の蓋である。1216、1217ともにツマミは欠損する。1216の口縁端部は外面からのナデで押し出すように作る。



第438図　P12区道路１、道路１第１次盛土出土土器

1217の口縁部は強いナデで屈曲し、端部の断面は四角い形状となる。1218、1219は坏Dである。1218の高台は短く、口縁部はまっすぐ上外方にのびる。1219は「ハ」の字状に高台を貼付ける。口縁部は内湾気味に上外方にのびる。1220は土師器の甕である。1216 ～ 1220の時期は岡田・八峠編年のKⅣ期と考える。

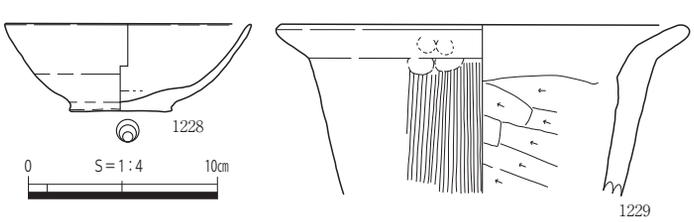
1221 ～ 1227は道路１第１次盛土から出土している（第438図）。1221 ～ 1227は須恵器である。1221は輪状ツマミを有する蓋である。1222は蓋Ａ１である。1223は坏Ａ１である。坏部はやや浅く、高台は「ハ」の字状に貼り付け、高台端部は面取りする。1224は坏Ｅ１である。口縁部の屈曲は弱い。1225は高坏の脚部である。1226は甕である。1227は壺である。肩部の張り出しはなく、胴部は球形を呈する。胴部下半はヘラ削りのちカキメ調整を施す。口縁端部は若干内湾させて丸くおさめる。1221 ～ 1227の時期は岡田・八峠編年のKⅡ～ KⅢ-１期と考える。

1228、1229は道路１側溝から出土している（第439図）。1228は土師器坏Jである。1229は土師器の甕である。口縁部は外反してのびる。胴部外面は縦方向の粗雑なハケメ調整である。これらの時期は岡田・八峠編年のＣⅠ期と考える。

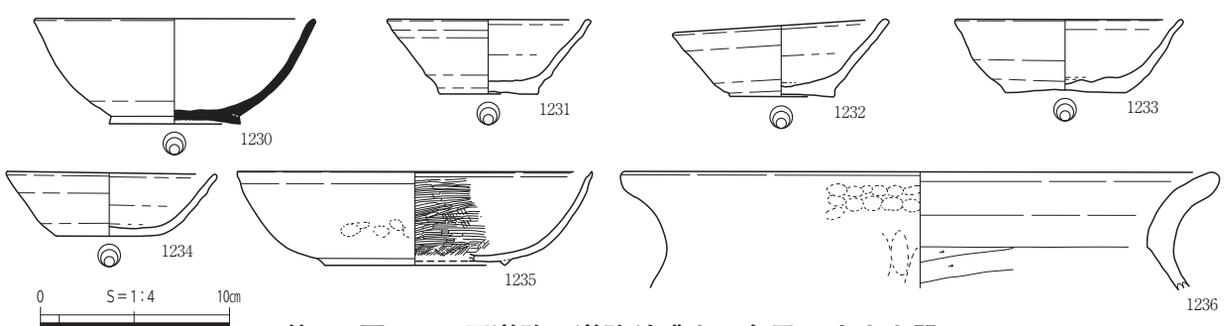
1230 ～ 1236は道路１道路外盛土から出土している（第440図）。1230は須恵器の埦Aである。他地域からの搬入品の可能性がある。1231 ～ 1234は土師器である。1231、1232は坏Iである。1233、1234は坏Kである。1235は内黒の黒色土器埦とみられる。口縁部は内湾し、端部には弱い凹線が入る。手捏ねにより成形しており、在地の製品と製作方法が異なることから搬入品の可能性が高い。1230 ～ 1235は岡田・八峠編年のＫＶ期と考える。

1236は条里36から出土した土師器の甕である（第440図）。

1237～1244は河道６から出土している（第441図）。1237～1239は須恵器である。1237は坏身である。受け部は上外方にのび、口縁部は内傾して短い。1238は高坏である。坏部には凹線にて稜を表現する。1239は長頸壺である。胴部は下半に最大径があり、上下が逆転した形状を呈する。底部に閉塞の痕跡が確認できる。両肩部にはボタン状の突起を一対貼り付ける。時期は岡田・八峠編年のＫⅠ～ KⅡ期頃と考える。1240は土師器の坏とみられる。口縁部は横ナデにより屈曲をもたせる。1241は土師器の甕である。口縁部は直立して端部は面取りを行う。口縁下半の稜は外方に突出する。肩部にはヘラ状工具による刺突羽状文をいれる。1242は土師器の甕である。口縁部は緩やかに上外方にのびる。口縁部の内外面はハケメ調整を施す。胴部は筒状であり、最大胴径は口径を上まらない。1243は口縁部が



第439図　P12区道路１側溝出土土器



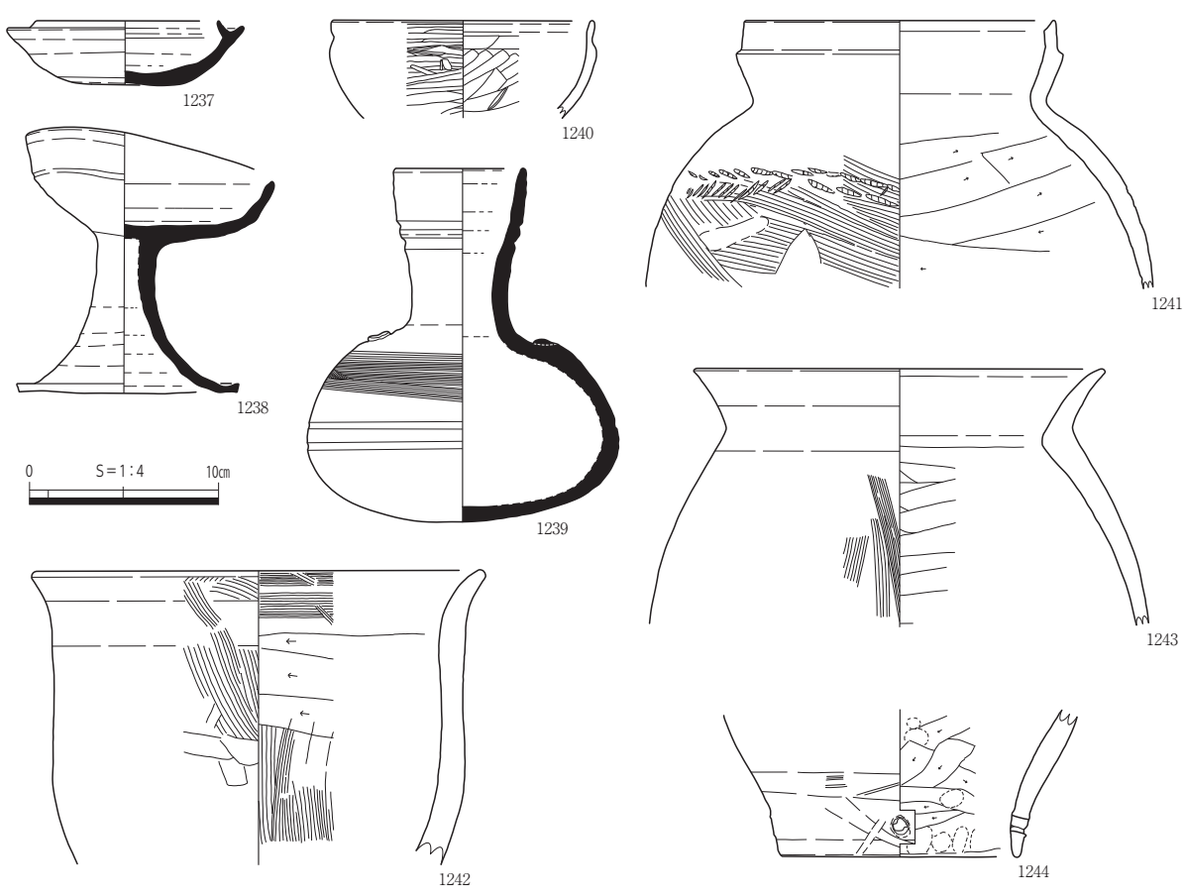
第440図　P12区道路１道路外盛土・条里36出土土器

「く」の字状を呈する甕である。1244は甑の底部である。1241は古墳時代中期、1242 ～ 1244は古墳時代後期と考える。

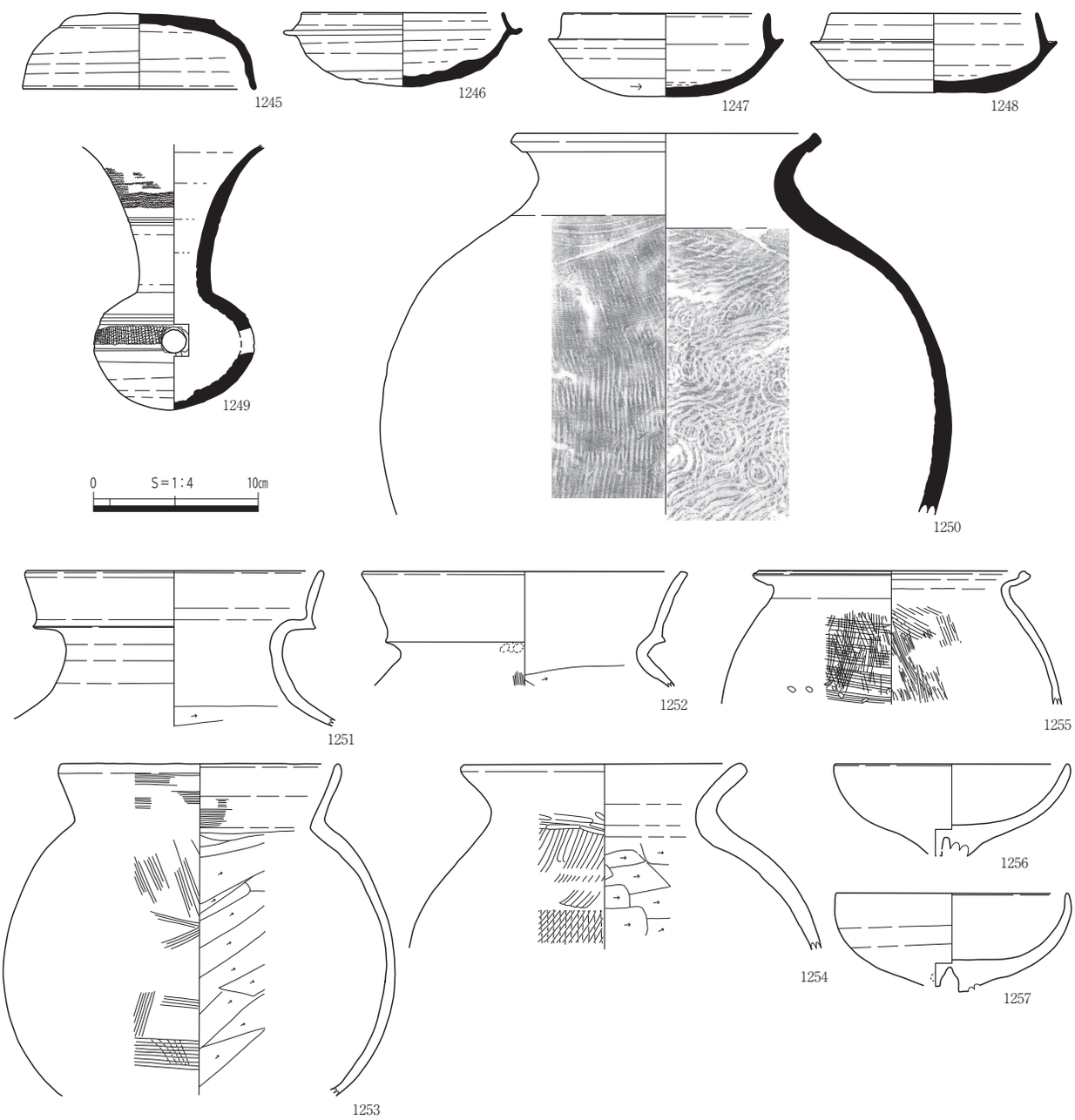
1245 ～ 1257は河道18から出土している（第442図）。1245 ～ 1250は須恵器である。1245は坏蓋であり、天井部はヘラ切り未調整である。1246 ～ 1248は坏身である。1246の立ち上がりは内傾し、縮小化の傾向をみせる。稜はほぼ退化している。1247、1248の立ち上がりは直立気味である。1249は𤭯である。長頸化しており、胴部は球形を呈する。外面頸部に起伏の少ない波状文を施す。胴部は肩部に２条の凹線を入れ、胴部最大径付近に刺突文を施す。1250は須恵器の甕である。口縁部は肥厚する。1245 ～ 1250の時期はTK43 ～ TK209型式併行期と考える。1251 ～ 1257は土師器である。1251は土師器の複合口縁をもった壺である。1252は複合口縁の甕である。1253、1254は外反する単純な口縁をもつ甕である。1255は弥生時代中期頃の甕であり混入の可能性が高い。1256、1257は高坏で、坏部は内湾する。1251、1252は古墳時代前期頃、1253、1254、1256、1257は古墳時代中期頃に比定される。

1258、1259は河道18下層から出土している（第443図）。1258は弥生土器の壺である。外反する口縁部に、垂下する口縁部をもつ。口縁外周には凹線を施す。頸部はナデのち刺突文を入れる。時期は弥生時代中期後葉（第Ⅳ様式）である。1259は弥生土器の高坏である。坏部の口縁部は外反してのびる。口縁端部は擬凹線をめぐらせる。坏部外面の底部は幅広のヘラミガキを施す。坏部内面は横方向のヘラミガキを施す。脚柱部は擬凹線により飾る。縦方向のヘラミガキが看取されるが、表面が摩滅しており詳細は不明である。時期は弥生時代後期（Ⅴ様式）の範疇と考える。

1260 ～ 1262は河道19から出土している（第444図）。1260は弥生土器の甕である。口縁端部は横ナデにより面取りし、口縁端部は僅かに肥厚する。1261は弥生土器の甕である。口縁部に刻目をいれる。



第441図　P12区河道６上層出土土器



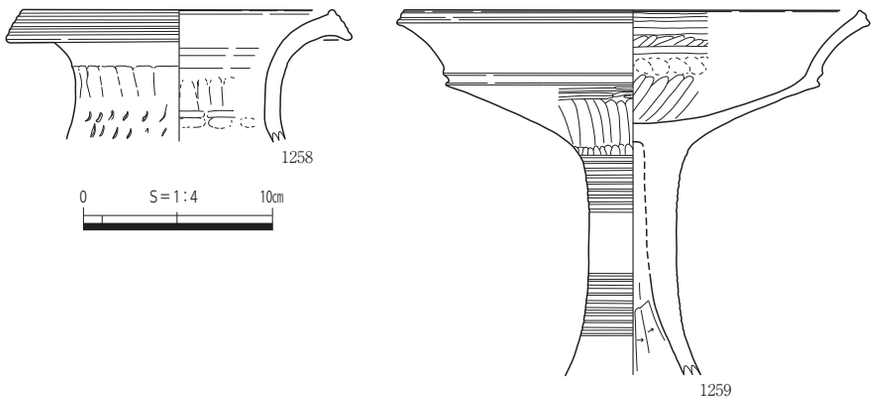
第442図　P12区河道６下層出土土器（１）

胴部は縦方向のハケメ調整、内面は左上がりのハケメ調整である。1262は水差形土器である。頸部から口縁にかけて凹線文をめぐらせる。口縁端部は横ナデにより平坦にする。把手は差し込んで成形する。胴部は横方向のヘラミガキが確認できる。1260、1262は弥生時代中期中葉頃と考える。1261は弥生時代前期（第Ⅰ様式）とみられる。

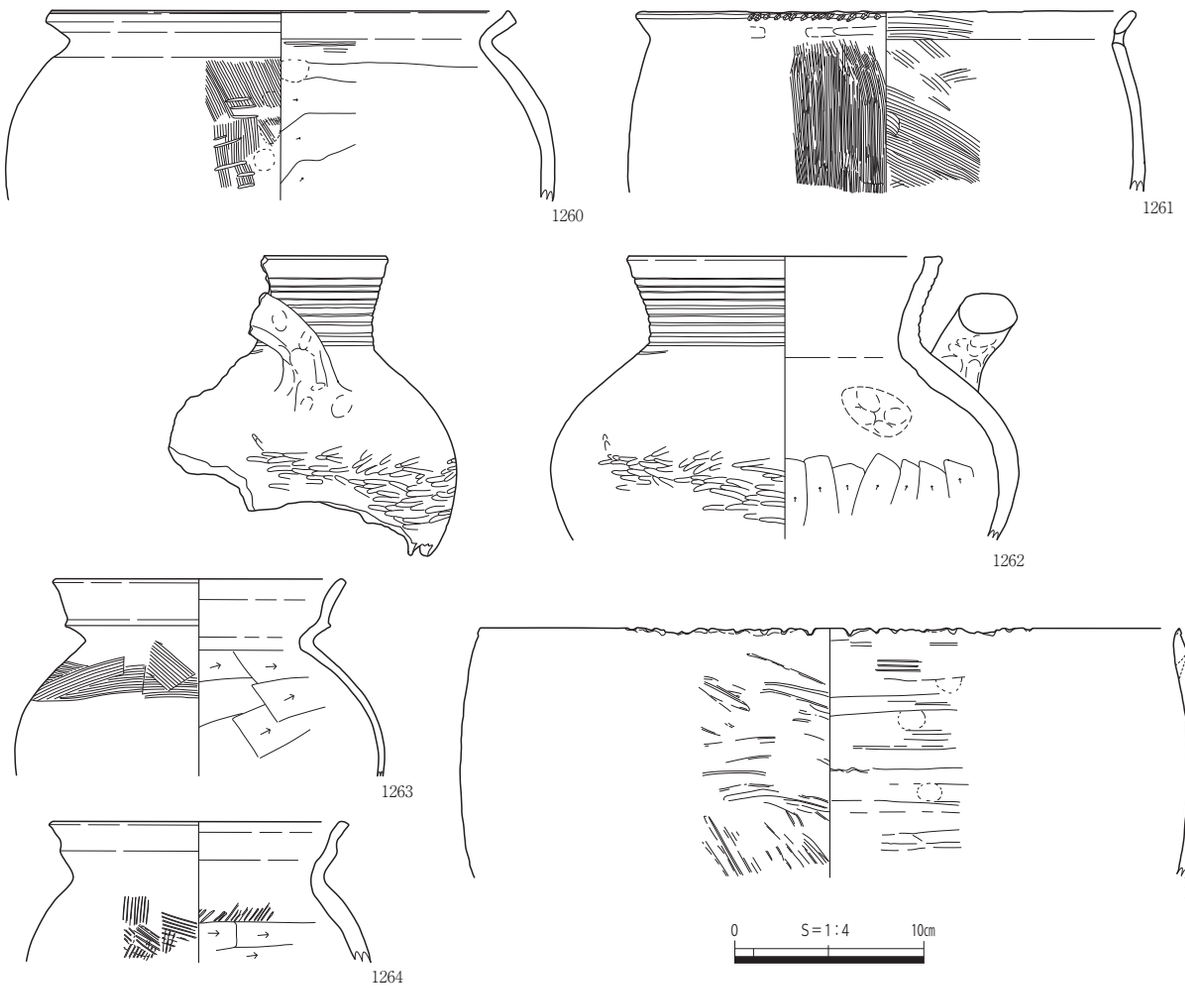
1263、1264は溝12から出土している（第444図）。1263は複合口縁の甕、1264は布留系の甕である。1263が遺構の時期を示すと考えられる。

1265は河道20から出土した縄文晩期の深鉢である。口縁部に刻目はないものの、凹凸が目立つ。胴部外面は粗雑な擦痕が確認である。内面は横ナデ調整を行う。

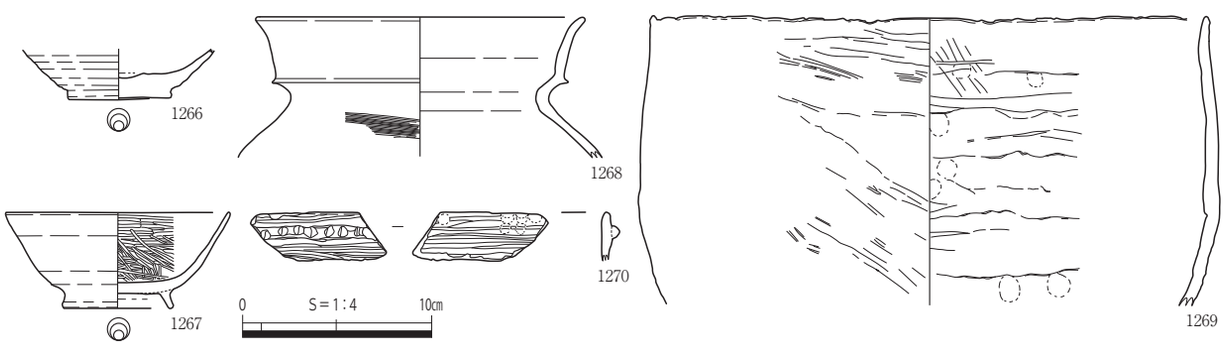
1266 ～ 1270はP12区の包含層から出土した土器である（第445図）。1266はⅢ層から出土した土師器の坏である。1267はⅣ層から出土した黒色土器である。ロクロにて成形されている。1268は複合口縁



第443図　P12区河道６下層出土土器（２）



第444図　P12区河道18・20溝12出土土器



第445図　P12区包含層出土土器

の甕である。1269、1270はⅨ層から出土した。1269は直立した口縁部をもつ深鉢である。1270は刻目突帯をもつ鉢である。時期は縄文時代晩期と考える。

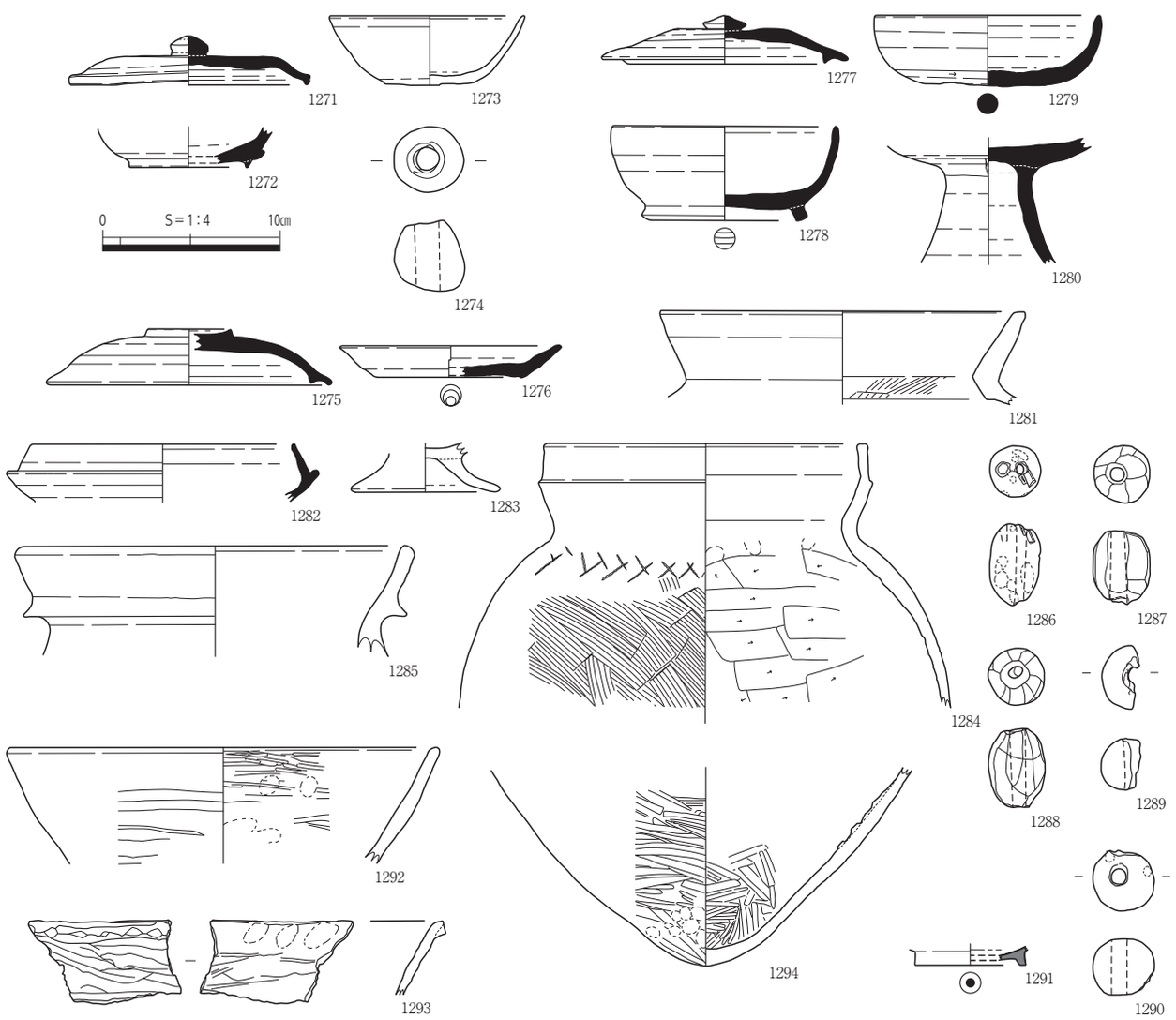
Ｐ13区出土土器（第446図）

1271 ～ 1281は道路１から出土した土器である。1271 ～ 1274は盛土内から、1275 ～ 1281は構築当初土から出土した。1271は須恵器の蓋で宝珠状のツマミでかえりはない。1272は須恵器の高台坏、1273は土師器の無台坏。1274は土錘である。1275は須恵器の輪状ツマミとかえりをもつ蓋、皿は回転糸切りであることからやや時期は下がる。下層は1277 ～ 1280が須恵器で、1277は宝珠状のツマミとかえりをもつ蓋、1278が高台坏、1279が無台坏で、いずれも体部は内湾する。岡田・八峠編年のＫⅡ期の所産。1280は高坏である。1281は土師器の「く」の字口縁部をもつ甕である。

1282 ～ 1285は河道６から出土した。1282は須恵器の坏身、古墳時代後期。1283は低脚坏の脚部、1284は複合口縁をもつ甕である。いずれも古墳時代中期の所産。1285は弥生時代後期の甕である。

1286 ～ 1290は溝13から出土した土製品である。1286 ～ 1288は土錘、1289・1290は土玉である。

1291 ～ 1294は包含層から出土した土器である。1291はⅢ層から出土した緑釉陶器の皿底部で削り出し高台。京都産とみられ、10世紀代に比定される。1292 ～ 1294はⅨ層から出土した。1292は縄文土器の浅鉢、1294は鉢の尖底部。1293は刻目突帯文土器の鉢で、断面三角形の突帯に、押圧状のやや



第446図　P13区出土土器

大きな刻目をもつ。

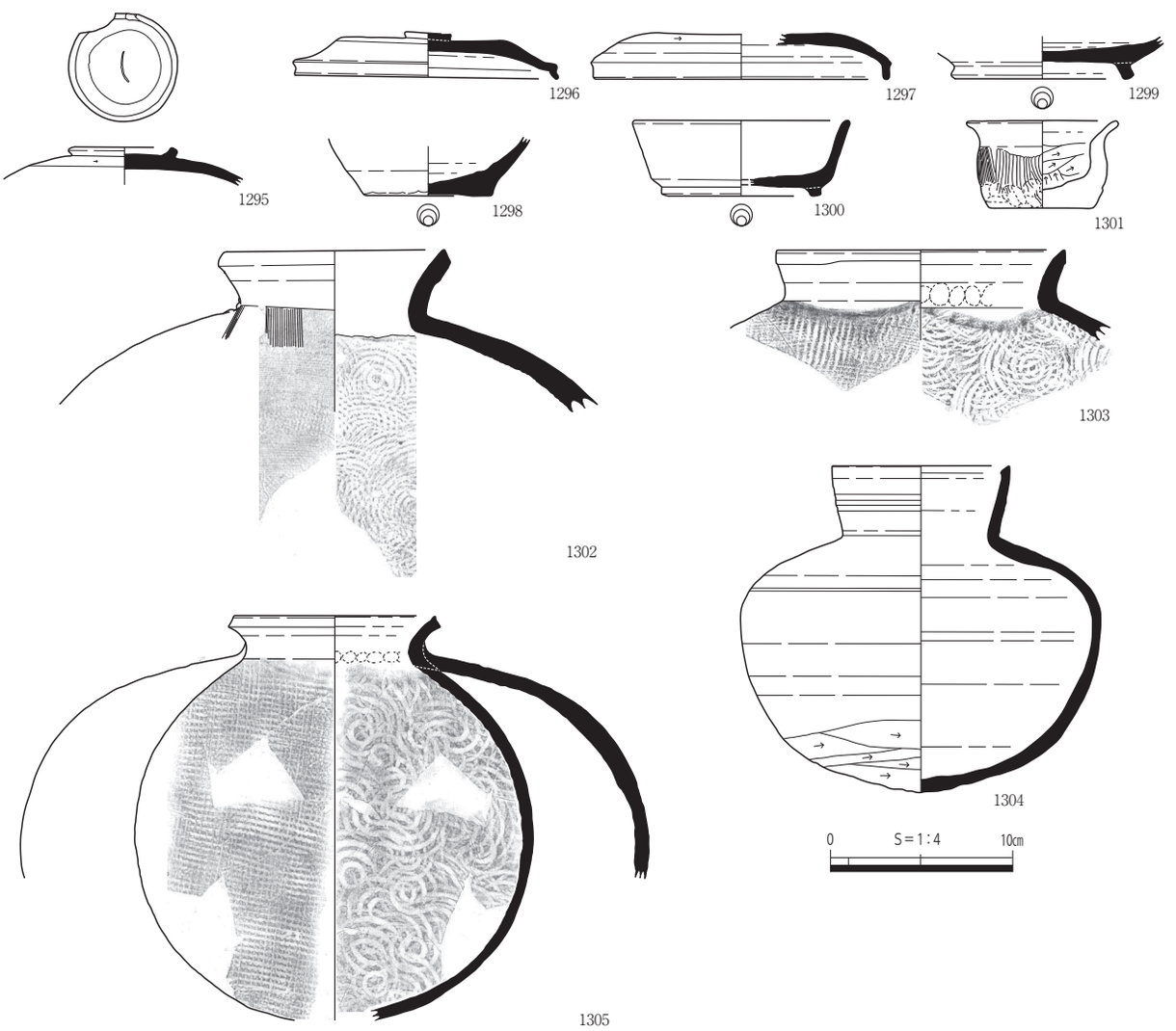
Ｐ14区出土土器（第447、448図）

1295 ～ 1305は道路１から出土した土器である（第447図）。1295 ～ 1297は須恵器の蓋である。1295は輪状のツマミを持ち、内側にヘラ記号を有する。1296はボタン状のつまみをもつ蓋Gである。口縁部の屈曲は強く外面からナデる。1297は天井部を欠損する蓋である。口縁部は内外面からナデて、下方にのばす。1298 ～ 1300は須恵器の坏類である。1298は無台坏、1299は高台坏で、坏Aあるいは坏B類の底部とみられる。1300は坏Cである。1301は手捏ねの土器である。1302 ～ 1305は須恵器の貯蔵具で、1302・1303は甕、1304は壺、1305は横瓶である。1295・1297・1299は岡田・八峠編年のＫⅢ-１期、1296・1300はＫⅢ-２期である。

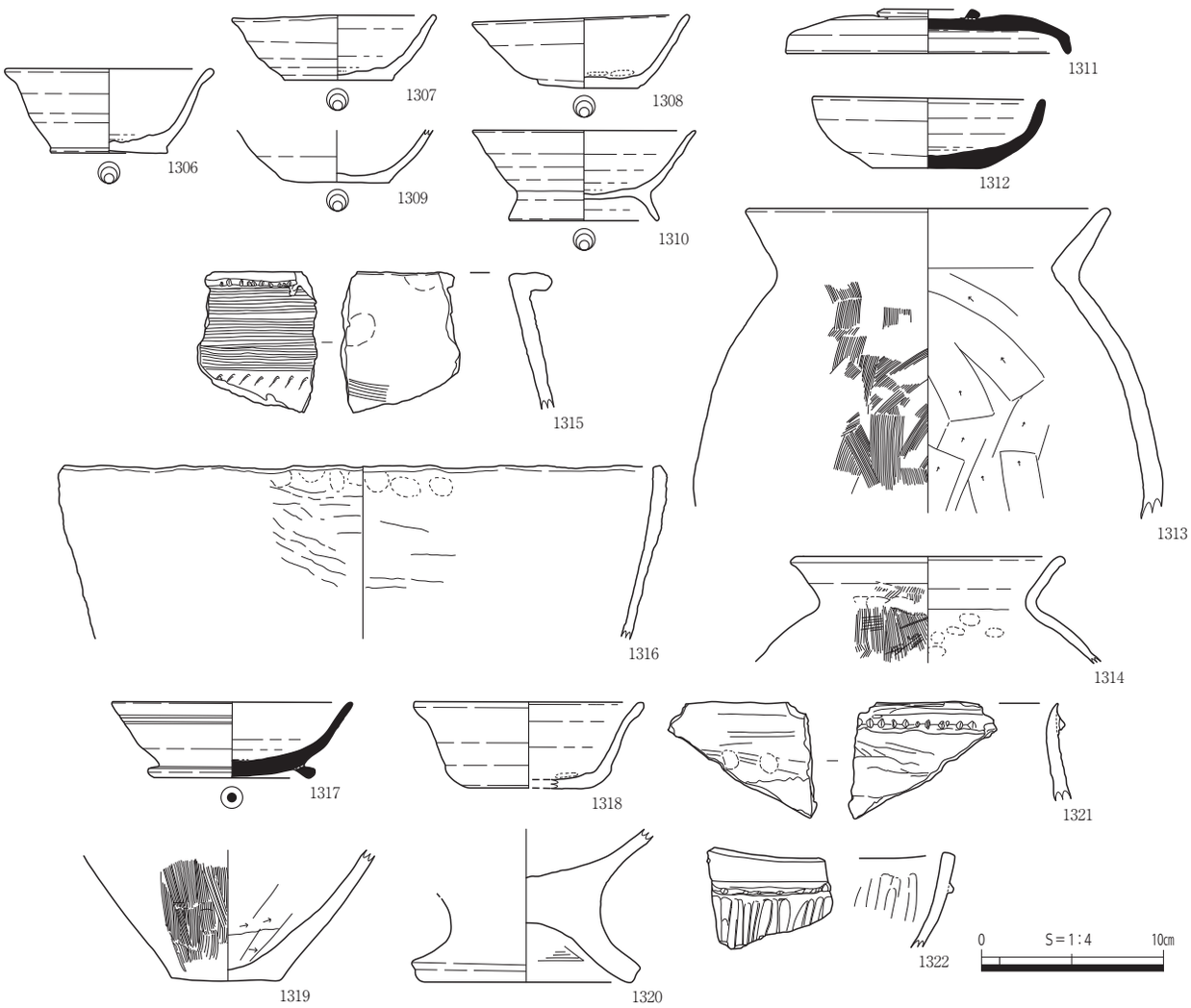
1306は道路１道路外盛土から出土した（第448図）。ロクロ土師器の無台坏である。器高が高く口縁部はやや外反する。器形は須恵器の坏G類に類似する。時期は岡田・八峠編年のＫⅣ期にあたる。

1307 ～ 1310は条里41から出土したロクロ土師器の坏である。いずれも体部が扁平で、やや内湾することから岡田・八峠編年のＫＶ期からＣⅠ期まで下る。

1311 ～ 1314は河道６から出土した土器である（第448図）。1311･1312は須恵器で、1311は蓋Cである。



第447図　Ｐ14区道路１出土土器



第448図　P14区道路１道路外盛土、河道６出土土器

1312は坏Dである。いずれも岡田・八峠編年のＫⅢ-１期。1313・1314は土師器の甕で、口縁部は「く」の字状、1314は単純な口縁部である。

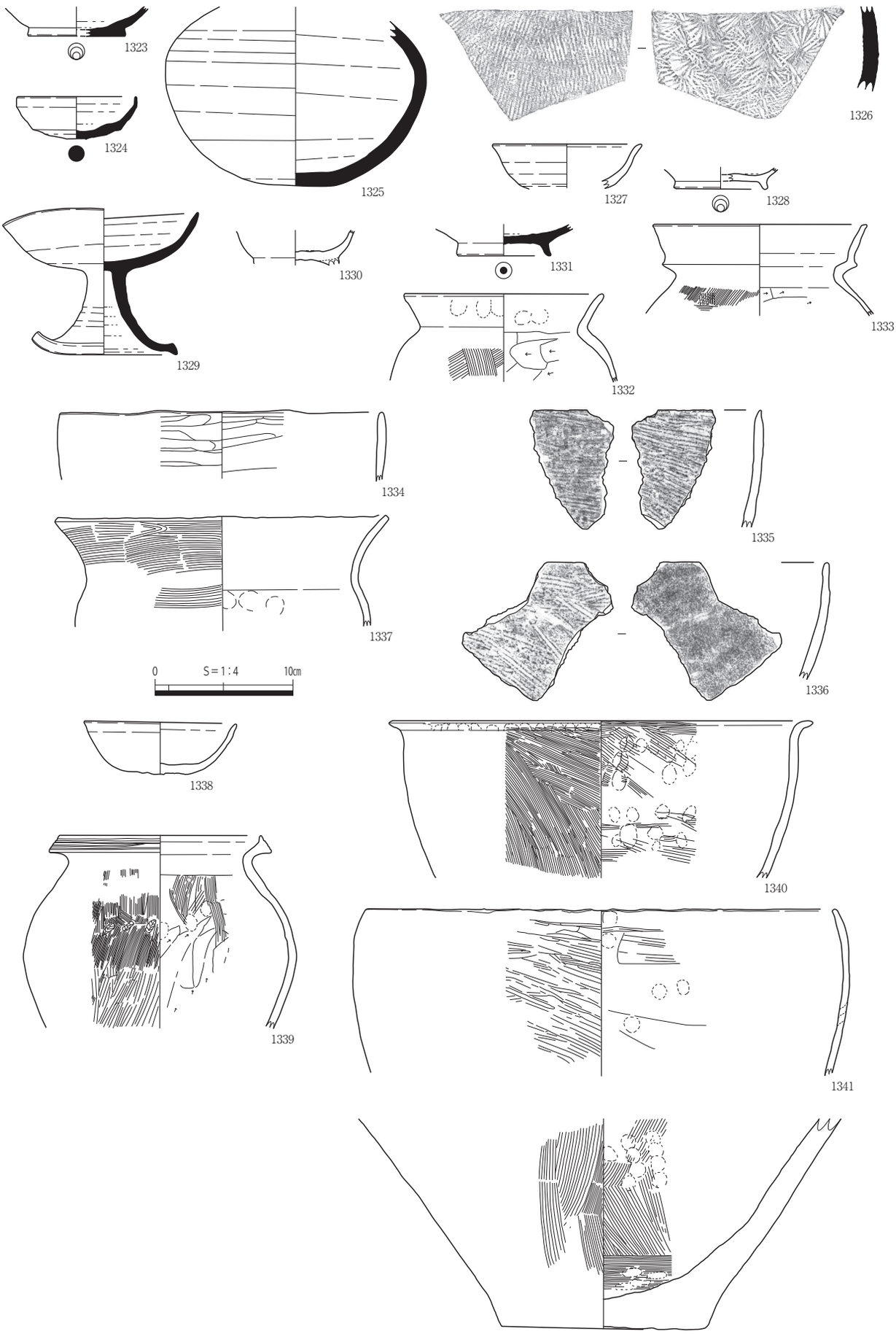
1315・1316は杭群11から出土した（第448図）。1315は弥生土器の甕で第Ⅱ様式。逆Ｌ字状の口縁端部下に刻目、頸部には櫛描直線文をもつ。1316は縄文土器の粗製の深鉢である。

1317 ～ 1322は包含層（Ⅳ～Ⅸ層）から出土した（第448図）。1317は須恵器の高台坏。1318は土師器の無台坏、1319・1320は弥生土器で1319は甕の底部、1320は脚台付の甕である。1321は突帯文土器で、口縁端部から下がった位置に断面三角形状の小さな刻目突帯をもつ。1322は土師器焼成の鉢で排水溝掘削段階の転落であろう。

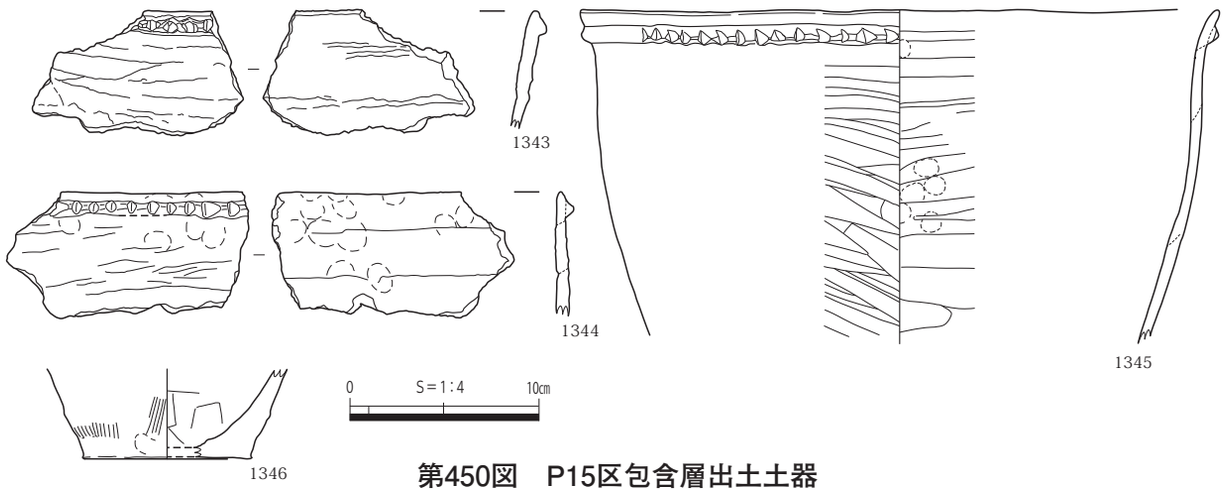
Ｐ15区出土土器（第449 ～ 450図）

1323 ～ 1326は盛土32から出土した（第449図）。いずれも須恵器である。1323は埦Aの底部、1324は坏Hである。1325は壺の胴部で、肩部は張らずに球形を呈する。1326の内面は車輪状の当て具痕である。1327、1328は盛土33から出土した（第449図）。1327は土師器の坏である。1328は土師器の高台坏である。1329は道路２と思われる礫層から出土した須恵器の高坏である。1330は道路２から出土した土師器の高台坏である（第449図）。

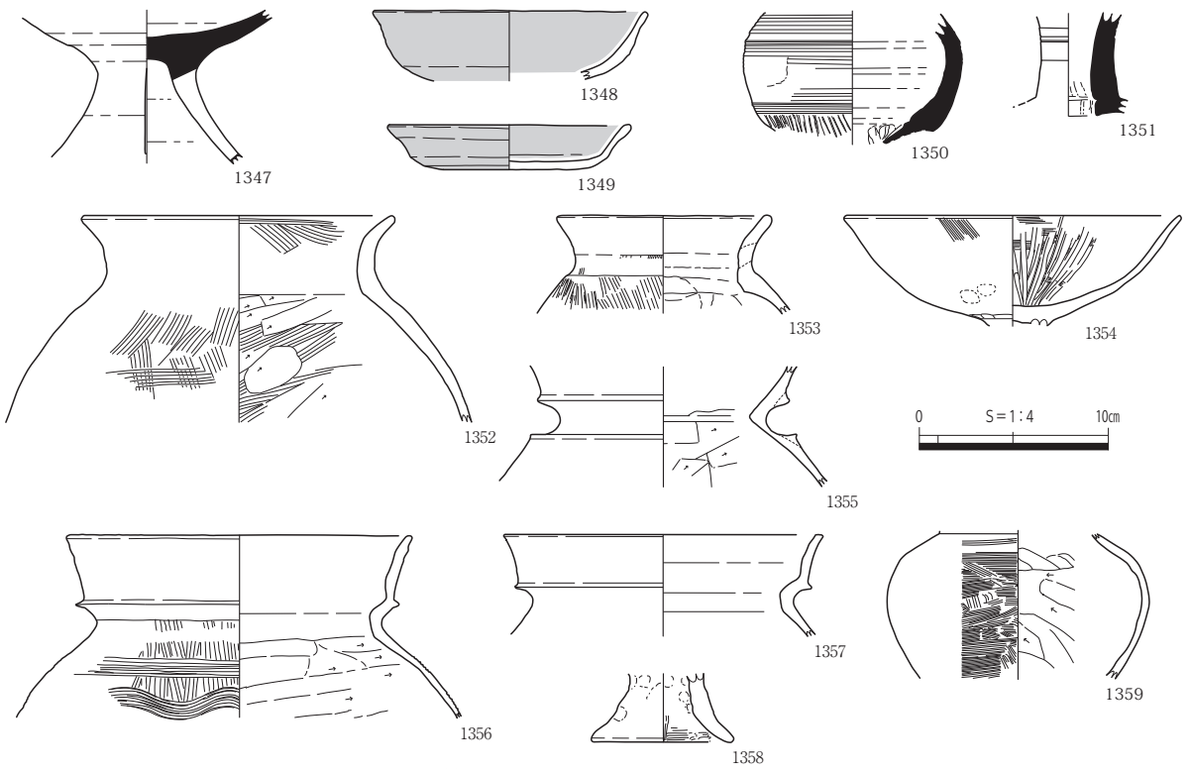
1331は河道６から出土した須恵器の高台坏である（第449図）。1332・1333は集石４から出土した土



第449図　P15区盛土32、河道６、丸木舟内、包含層出土土器



第450図　P15区包含層出土土器

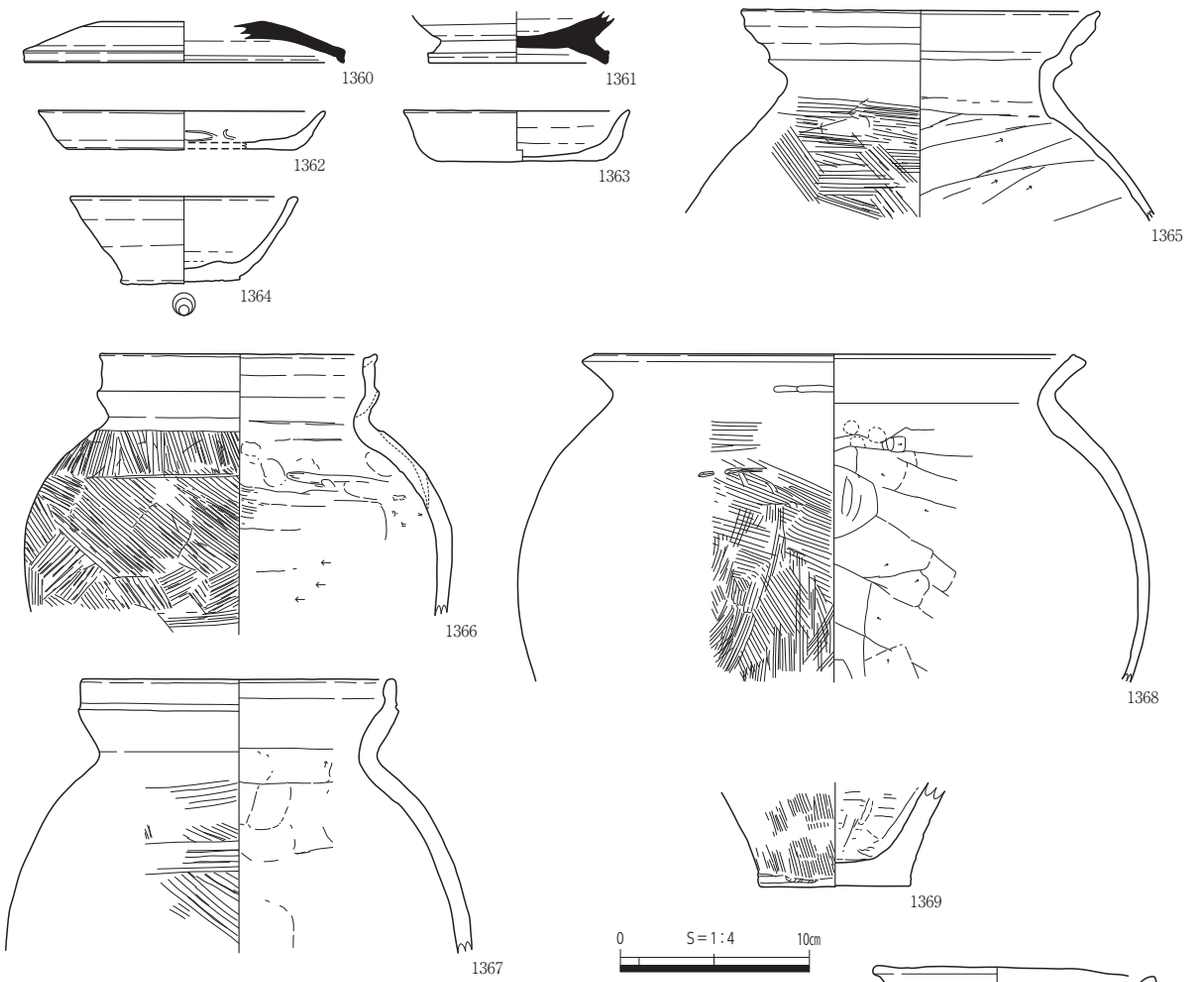


第451図　P16区出土土器

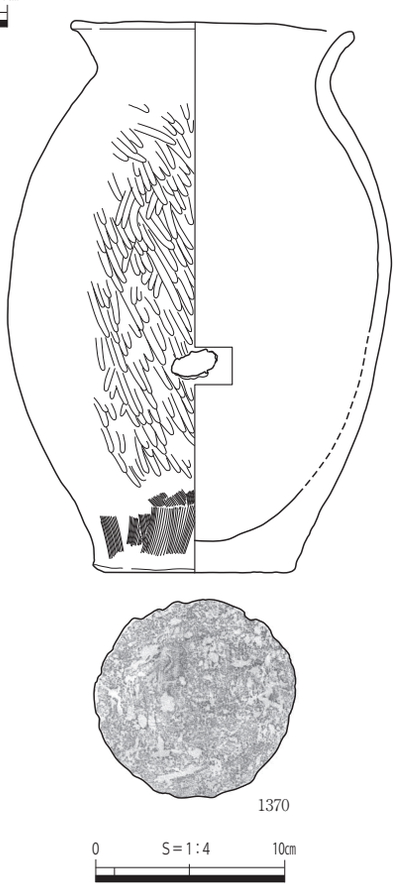
師器の甕で、1332は単純な口縁部で古墳時代中期、1333は複合口縁をもつ古墳時代前期である。

1334 ～ 1337はⅨ層の丸木舟上面から出土した縄文土器である（第449図）。1334 ～ 1336は砲弾形状の深鉢で、1334は内外面に粗い擦痕が残る。1335・1336は条痕またはハケメ状の条痕による調整で、縄文時代後期から晩期。1337は頸部がくびれ、体部から口縁部が外反する。外面にはハケメ状の条痕、内面頸部下には指頭圧痕がある。縄文時代晩期前半の所産である。

1338 ～ 1346は包含層から出土した（第449、450図）。1338はⅣ層から出土した土師器の坏K、1339 Ⅶ層から出土した弥生土器で、第Ⅴ様式の甕である。1340 ～ 1342はⅧ層から出土した。1340は弥生時代前期の甕である。1342は弥生土器の底部、1341は縄文土器で粗製の深鉢である。1343 ～ 1346はⅨ層から出土した。1343 ～ 1345は突帯文土器で口縁端部やや下に大きな刻目をもつ突帯があり、内外面ともに粗いナデによる調整をする。1346は平底部である。



第452図　P16区包含層出土土器（１）



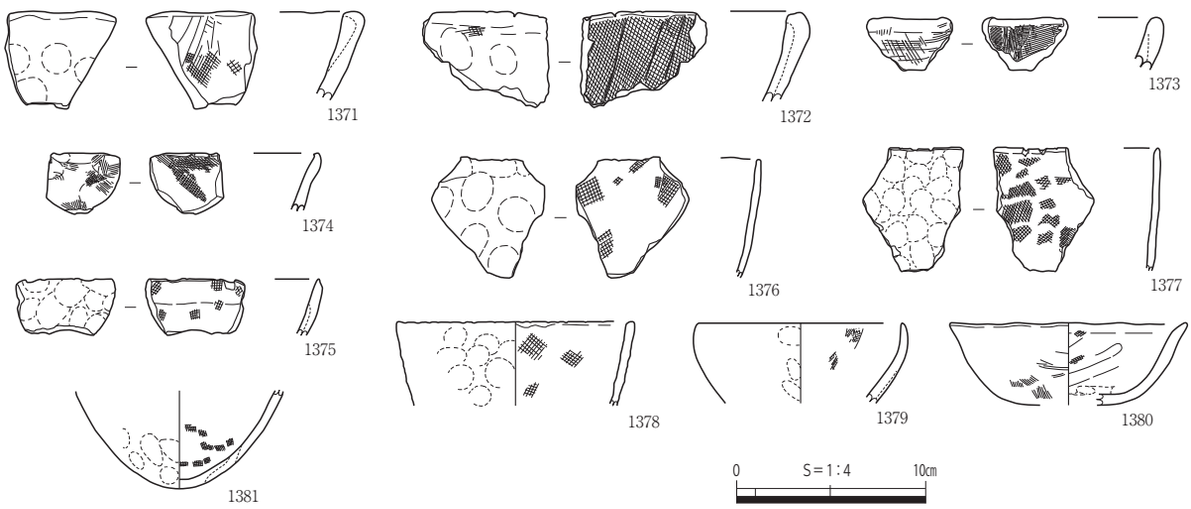
第453図　P16区包含層出土土器（２）

Ｐ16区の出土土器（第451 ～ 453図）

1347は盛土32の須恵器の高坏である。1348・1349は土坑10から出土し、1348は内外面を赤彩された坏G、1349は外面が赤彩された皿Cである。1350はⅣ層出土の須恵器鼈、1351は道路２の須恵器の壺頸部である。1352 ～ 1355は河道６から出土した土師器で、1352・1353は古墳時代後期の甕、1354・1355は古墳時代前期の高坏と器台である。1356 ～ 1358は集石８から出土した土師器である。1356･1357は複合口縁を持つ甕で、古墳時代前期。1358は手捏ねの土器。

1359は杭列31付近から出土した土師器の小型丸底壺である。

1360 ～ 1370は包含層の土器である（第452、453図）。1360 ～ 1365はⅣ層から出土した。1360はかえりのない須恵器の蓋、1361は須恵器の高台坏。1362 ～ 1365は土師器で、1362は皿、1363・1364は坏、1365は甕である。1366 ～ 1368はⅤ層から出土した。1366･1367は土師器の甕で、いずれも古墳時代中期の所産。1368・1369は弥生土器の甕と底部。1369・1370はⅦ層から出土。胴部外面は縦方向のヘラミガキ、底部はハケメ調整である底面



第454図　製塩土器

には籾の圧痕が認められる。弥生時代前期から中期頃と考える。

製塩土器（第454図）

調査区のＰ１・２・10～12区ほかで製塩土器が出土した。鳥取県東部では岩吉遺跡や良田平田遺跡、因幡国府等で出土が確認されている。当遺跡では器壁がやや厚く内湾する埦形、器壁がやや薄く体部にかけて窄まる逆円錐形または浅埦形、器壁が薄く体部が直立する円筒形がある。

埦形：1371・1372はＰ１区から出土した。1371の器壁はやや厚く口縁端部は丸い。内面には僅かに布目、外面には指頭圧痕がある。1372は端部はやや肥厚して内面には折り返された布目がある。1373はP10区の１道路第２次盛土のもの。小片であるが内外面に布目痕がある。いずも埦形で内型による成形である。時期は９世紀前半の所産であろう。

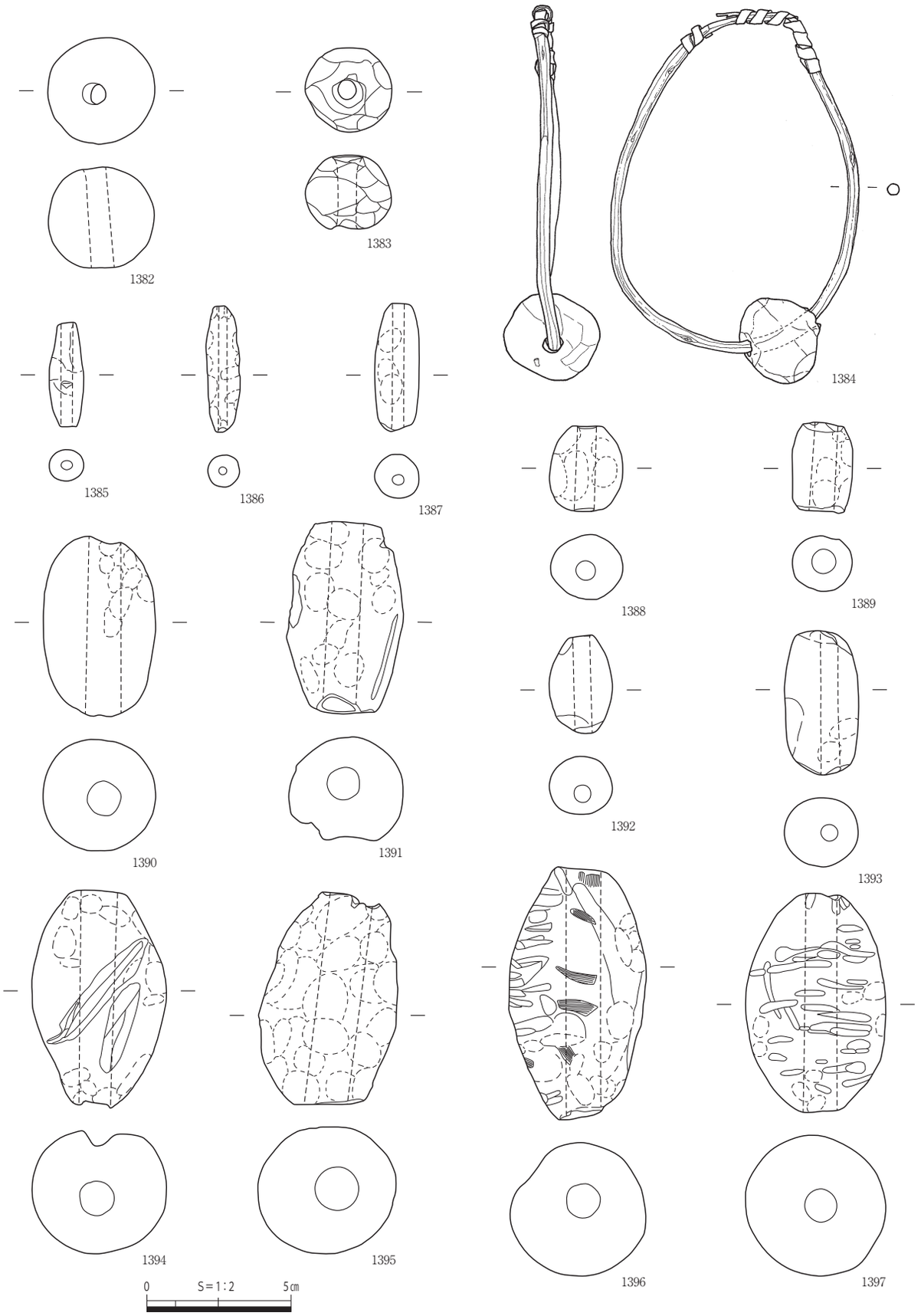
逆円錐形または浅埦形：1374・1375はＰ12区から出土した。1374は端部が内側に折り返され、内外面に布目、1375は内湾して内面に布目の痕跡が認められる。いずれも逆円錐形の口縁部。1379はＰ２区のⅣ層相当層で、口縁端部が内湾して内面に僅かに布目がある。1381はＰ11区の道路１で、内面には布目、外面には指頭圧痕がある。逆円錐形状の底部である。いずれも８世紀後半の所産であろう。1380はＰ10区の河道13から出土した。口縁部は外反して平底になる浅埦状で、内外面に僅かに布目をもつ。円筒形：1376～1378はＰ12区のⅣ層から出土した。器壁は薄く体部は直立し、内面に布目をもつ。

製塩土器の出土量はさほど多くない。煎熬に該当するような土器もないことから立地は優れているものの生産遺跡である可能性は低い。調査区内の出土傾向をみると、東側の山際であるＰ１・２区では、９～10世紀の埦形が多い。中心的な地区となるＰ10～12区では８～９世紀の逆円錐形を主体としており、時期差が認められる。

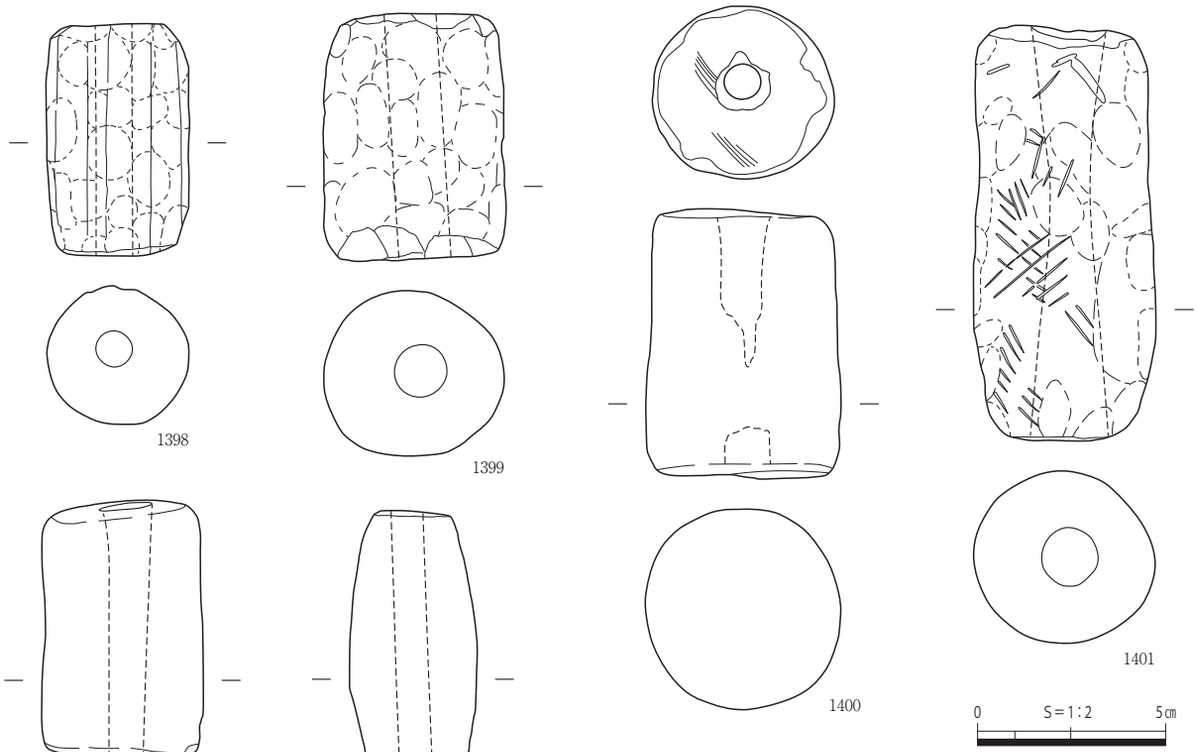
第４項　土製品

１　土玉（第455図）

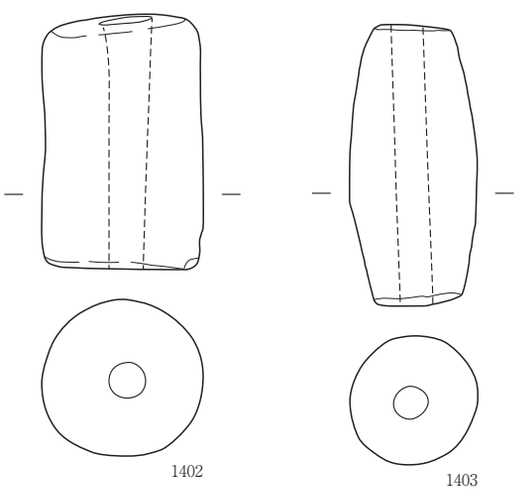
1382～1384は土玉である。1382・1384はＰ10区で、1382は盛土26の盛土中、1384はⅦ層から、1383はＰ11の河道15から出土した。1384は土玉に細枝を通して輪状とし、樹皮を巻いて緊縛した土玉

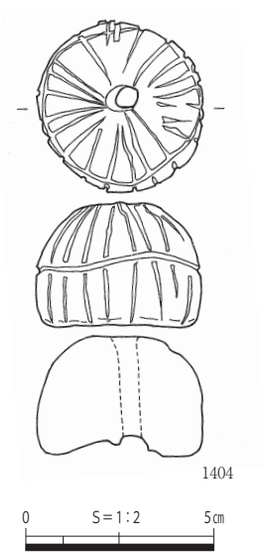

1382
1383
1384
1385
1386
1387
1388
1389
1390
1391
1392
1393
1394
1395
1396
1397
0　S=1:2　5cm

第455図　土製品（１）



第456図　土製品（２）





第457図　権衡

で、青谷上寺地遺跡からも同様の有孔土玉が出土している。弥生時代前期から中期のものである。

２　土錘（第455、456図）

Ｐ６、10 ～ 12、16区ほかで土錘が出土した。いずれも漁に関する土製品である。形状には天地の窄まる紡錘形、体部と天地の差が少ない円筒形がある。

1385 ～ 1387は小型の細円筒形状。いずれも道路１周辺から出土。1393はＰ12区の河道６から出土した一回り太い円筒形状である。

1388・1392は小型の太い紡錘形状で、道路１第１次盛土から出土。1389は小型の太い円筒形状で、道路１敷葉・敷粗朶層から出土した。

1390・1391は中型、1394 ～ 1397・1403は大型の太い紡錘形状である。1391・1394 ～ 1397はＰ11区の道路１関係の遺構から、1403はＰ16区の２畦直上から、1390は包含層から出土した。1398 ～ 1400、1402は中型の太い円筒形状である。いずれもＰ12区の道路１から出土した。1400は孔が貫通していない錘としては未製品であるため、別の用途か。1401は大型の太い円筒形状で、Ｐ12区の道路１から出土した。

３　権衡（第457図）

権衡は律令期の度量衡に関する、重さの基準となる錘（おもり）で、天秤用の銅製品、棹秤用の石製品や土製品がある。1404は須恵焼成の土製品で、重量は28gを測る。形状は半球状で、二十数本の縦方向の溝と体部中位に横方向の溝一本があり、花弁を意図したものか。一般的には奈良期までは銅製品を模倣するが平安期以降は次第に単純化する傾向があり、1404はこの過程とみられる。

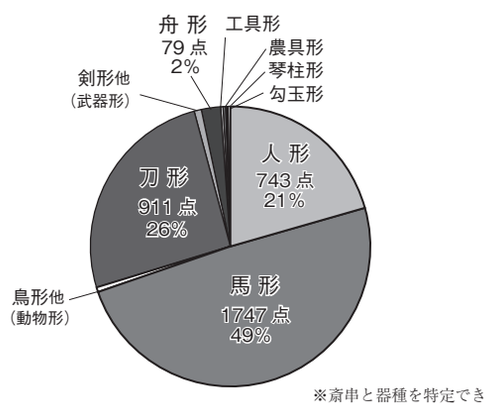
第２節　木製祭祀具

第１項　概　要（第458図）

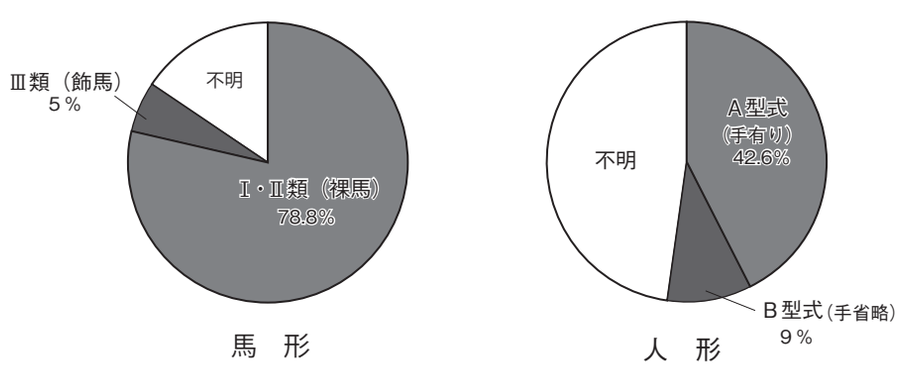
青谷横木遺跡では約22,500点に上る古代の木製祭祀具が出土している。木製祭祀具は人形、動物形（馬形・牛形・鳥形）、舟形、武器形（刀形・剣形・鏃形）、工具形（刀子形・斧形）、農具形（エブリ形・鎌柄形）、琴柱形、勾玉形、斎串で構成される。多種多様な木製祭祀具が一通り揃い、遺跡内、またはその周辺で大規模な律令的祭祀が執り行われたことが窺える。本遺跡は質・量ともに兵庫県袴狭遺跡群などと並び国内有数の祭祀遺跡と評価できる。

数量組成では、斎串が半数以上を占め最も多いが、それに次いで多いのが馬形である（第458図）。馬形は1,747点を数え、人形が743点であることから人形の約2.35倍となる。一般的な古代の祭祀遺跡では人形と馬形の出土比率は１：１に近いとされ、馬形の多さは本遺跡の木製祭祀具における最大の特徴である。もう一つの特徴として、舟形を挙げることができる。舟形は79点と決して多いとはいえないが、一遺跡の出土量としては看過できない数量であり、形態もバラエティーに富む。

次に、出土遺構や層位をみると、大きく２つに大別される。一つは道路遺構や条里遺構などの盛土で、もう一つが河道や溝である。前者は他の出土遺物にも共通する点であるが、まとまった出土状況にはなく、道路１第１次盛土敷葉・敷粗朶層を除き、盛土内に意図的に埋納されたと考えられるものは少ない。そのため、前者から出土した木製祭祀具の多くは二次的な混入とみてよい。それに対し、後者はP11区の河道14、16などに代表されるようにまとまった出土状況が窺え、完形に近い土器が多く共伴するなど、河道や溝の傍やその周囲で、祭祀行為（祓）が行われたことが窺える。前者の多くも



器種組成



馬　形　　人　形

第458図　木製祭祀具出土組成

表４　青谷横木遺跡木製祭祀具集計表

P１～16区（平成27年度）

調査区	調査年度	人形	動物形			武器形			舟形	工具	農具	琴柱形	勾玉形	斎串	その他					不明	計
			馬形	鳥形	その他	刀形	剣形	その他							人形／斎串	刀形／斎串	刀形／馬形	人形／刀形	馬形／斎串		
P１区	H27	21	29	0	0	16	0	0	0	0	1	1	0	417	1	7	4	0	0	10	507
P２区	H27	12	36	0	1	13	0	0	0	0	0	0	0	244	0	4	7	0	0	6	323
P３区	H27	44	112	0	1	44	3	0	14	0	2	0	0	1049	3	1	7	3	0	24	1307
P４区	H27	45	158	1	0	50	0	0	9	0	1	0	0	1127	7	5	11	0	0	38	1452
P５区	H27	38	53	0	0	3	0	0	2	0	0	0	0	209	5	2	4	0	0	5	321
P６区	H27	32	90	0	0	104	1	8	4	1	1	1	0	758	12	5	8	0	0	11	1036
P７区	H27	39	134	2	1	48	2	3	2	0	1	0	0	803	2	9	10	0	0	9	1065
P８区	H27	40	47	1	1	17	3	0	1	0	1	0	0	326	0	2	4	0	0	7	450
P９区	H27	31	80	0	0	30	0	0	8	0	0	0	1	591	6	1	3	0	0	6	757
P10区	H27	33	75	0	0	65	1	0	4	0	0	8	1	937	6	6	2	0	0	48	1186
P11区	H27	49	156	3	2	103	3	1	6	1	1	0	0	1801	21	22	9	0	2	56	2236
P12区	H26～27	35	100	1	0	114	4	1	4	1	3	0	1	1160	7	7	3	0	0	8	1449
P13区	H26	12	55	2	0	17	0	0	0	0	1	0	0	316	2	13	3	0	0	7	428
P14区	H26	22	93	0	0	27	2	0	2	0	0	0	0	477	10	8	19	0	0	13	673
P15区	H26	20	82	1	0	69	1	0	1	0	2	0	0	732	3	12	7	0	0	9	939
P16区	H26	36	71	0	0	27	0	1	3	0	2	0	0	250	7	2	6	0	0	5	410
調査区一括	H25～27	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	5
計		509	1373	11	6	747	20	14	60	3	16	10	3	11200	92	106	107	3	2	267	14544

１～10区（H25年度）

調査区	調査年度	人形	動物形			武器形			舟形	工具	農具	琴柱形	勾玉形	斎串	その他	不明	計
			馬形	鳥形	その他	刀形	剣形	その他									
1区	H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		1
2区	H25	4	8	0	0	4	0	0	3	0	0	0	0	115	120	36	290
3区	H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
4区	H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
5区	H25	3	28	0	0	5	0	0	2	0	0	0	0	189	3	4	234
6区	H25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	5
7区	H25	35	58	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	520	332	36	998
8区	H25	18	50	0	0	11	0	0	3	0	0	0	0	359	591	104	1136
9区	H25	5	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	11	4	45
10区	H25	169	222	5	0	45	1	0	11	0	0	0	0	1855	2626	372	5306
計		234	374	5	0	82	1	0	19	0	0	0	0	3059	3684	557	8015

遺跡全体計	743	1747	16	6	911	21	14	79	3	16	10	3	14259	3992	824	22559

河道や溝の上部に構築されていることから、本来、多くが下層の河道や溝に帰属する可能性が高い。その他に古墳時代の包含層であるⅤ層から出土した資料もあるが、すべてａ層からの出土であり、古代に帰属する資料である。

出土分布は、遺跡全体で満遍なく出土するものの、とくにＰ１～４区、10区とＰ10～12区にかけて集中する傾向が窺える。遺構として祭祀場（祓所）を検出していないが、その位置を示唆するものと評価できよう。木製祭祀具の時期は共伴する土器やその形態から７世紀後半から10世紀前半にかけてと考えられ、長期間に亘り連綿と祭祀が執り行われた様子が窺われる。本遺跡で執り行われた祭祀の実態や性格については第7章第４節で詳細な検討を加える。

本書には出土した全木製祭祀具のうち1,068点（0.05％）を抽出し掲載した。そのうち59点については樹種同定を行った。樹種はすべてスギである。木製祭祀具の分類整理にあたっては、まず、出土した木製品全点の中から木製祭祀具を抽出し、器種分類を行った。その上で、律令的祭祀を代表する人形と本遺跡を特徴付ける馬形については属性毎に詳細観察を行ったが、それ以外については時間的制約等から遺構・層位毎の雑駁なカウントに留まっている。また、分類については整理をしていく中で、判断基準が構築されていった部分も多く、すべての分類を斉一的な基準を用いて行えていない。今後、より詳細な分類整理が必要と考える。

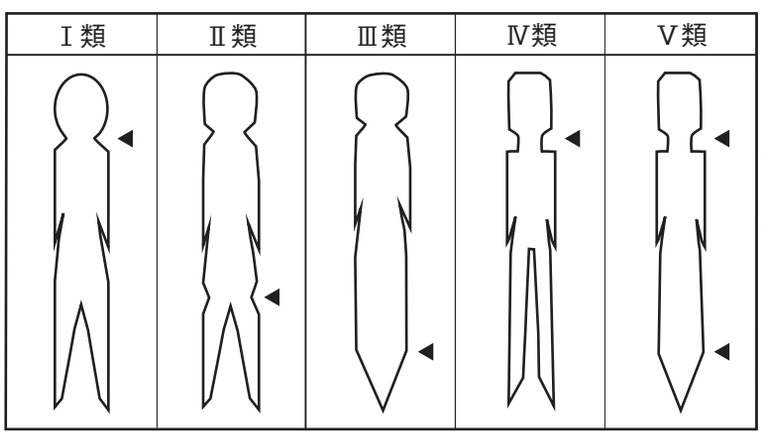
なお、古墳時代以前の木製祭祀具も僅かながら出土しているが、それについては次節の木製品で述べることとする。

第２項　各木製祭祀具の分類と特徴（第459～463図）

本項では各木製祭祀具の分類を行い、その特徴を整理する。木製祭祀具の分類にあたっては人形を中心とした数多くの先行研究に依拠する部分が大きい（金子1980、大平1993・1995・2008等）。ただし、本遺跡では従来にはない知見が数多く得られていることから、ひとまず、本遺跡における分類案を提示する。

人　形（第459図）

人形はまず、平面人形、側面人形、立体人形に大別される。そのうち、大半を占める平面人形（以下、とくに断りが無い場合の人形は平面人形を指す）について分類を行う。人形は頸と腰の有無を基準にⅠ～Ⅳ類に分類し、手の形状により、手を切り込みでつくるもの（Ａ型式）、手を切り欠きでつく



第459図　人形分類図

るもの(Ｂ型式)、手の表現が無いもの(Ｃ型式)に細分する。次に、Ⅰ～Ⅲ類については肩部の形状(切り欠き)により、なで肩(ａ種)、下がり肩(ｂ種)、怒り肩(ｃ種)、切り欠き無し(ｄ種)にさらに細分することとする。名称はⅠＡａ型式、ⅢＡ型式･･･などとする。

人形Ⅰ類：独立した頸をつくり出さない頭(顔と頸の境が明確では無い)もの。

人形Ⅱ類：独立した頸を持たず、腰に切り欠きを持つもの。

人形Ⅲ類：独立した頸を持たず一本脚で、先端を剣先状に尖らせるもの。

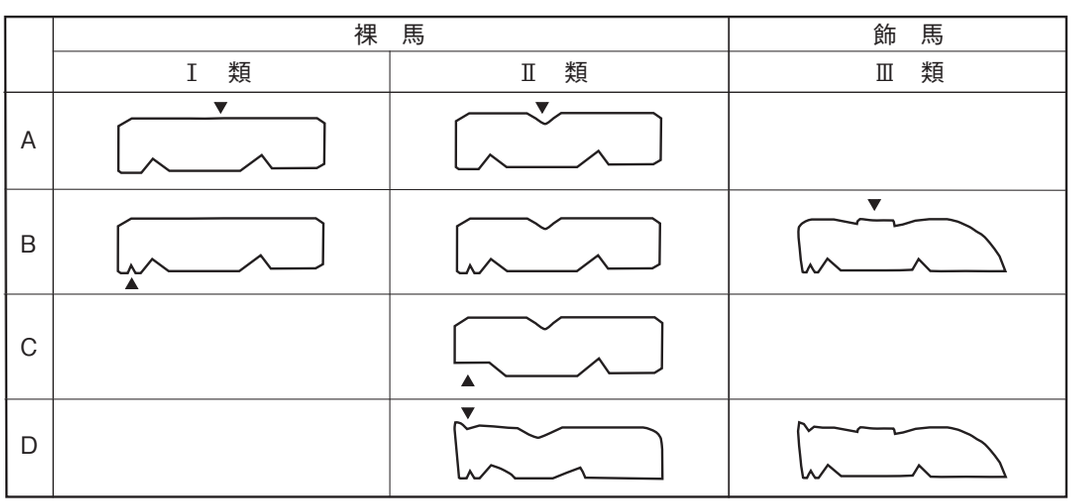
人形Ⅳ類：頸を作り出す(頭部と頸の境が明確な)もの。怒り肩で、肩部の切り欠きは下方が水平で、上方を弧状に切り欠くことで頸をつくり出す。細長い頭部をもつものが多い。

人形Ⅴ類：Ⅳ類と同じく頸を持つが、剣先状の一本脚を持つもの。

本遺跡における人形の最大の特徴は、頸をつくり出すⅣ類の設定であり、出土量も最も多い。頸と判断した根拠は墨書で描かれた顔表現における顎の位置などでも首肯できる。肩部の切り欠き形状だけをみれば、Ⅰ類の怒り肩との識別が難しい資料があるが、Ⅰ類はⅣ類のように内湾する弧状ではなく、外湾する弧状を呈する(頸ではなく顎を表現している)ことから識別できる。その一方で、Ⅰ類の怒り肩の中にも上方の切り欠きが内湾する弧状を呈する資料も散見されるが、その場合は、切り欠きが顔の中程や頭部(上端)まで達することから、Ⅳ類とは異なる。

出土量はⅣ類に次いでⅠ類が多く、Ⅱ類も一定量確認できる。一本脚を持つⅢ類は少なく、鳥取市大桝遺跡や良田平田遺跡などに類例がある。因幡地方を中心に出土例が増加しているタイプである。手の有無でみると、手を持つものが４割を占め、手を持たないものにも１割にも満たず、前者が圧倒的に多い。法量は10cm以下から70cmを越えるものまでさまざまであるが、30cm以下の小型品が多い。顔を墨書や刃物による刻み、刺突で表現したものが一定量みられ、頭部は墨書に加え、髷状の髪形や被り物をかたどる写実的なものも散見される。それに対して、衣服を表現したものは少ない。僅かではあるが、髪形や服装などから女性や仏を表現したと考えられる資料もある。全体としては写実的なものが少ない傾向が窺える。

頸や胴、脚部には刃物により切断痕が見られる資料が散見され、刃物で切り込んだ後に、折り曲げる、折り取られたと考えられる。その性格は不明ながら、馬形や斎串などでも一定数確認され、祭祀行為の一つとして位置付けられる。



第460図　馬形分類図

馬　形（第460図）

馬形はすでに分類案を提示しているが（山枡・濵・岩垣2014）、整理過程であったため、その後の出土資料の増加に伴い、さらに詳細な分類が可能となった。鞍の有無に加え、裸馬を背の有無でⅠ～Ⅲ類に大別し、口と耳の有無を加えることで以下の通り細分した。また、後脚や尾の有無や形状により、尾が尻部から独立せず、一体であるもの（ａ型式）、後脚は無く、尾のみつくり出すもの（ｂ型式）、後脚と尾をつくり出すもの（c型式）、尾を複雑化したもの（下辺に加え、上辺からも切り欠くもの）（ｄ型式）の４型式を設定した。名称はＩＡａ型式、ⅡＢｃ型式･･･などとする。

馬形Ⅰ類：裸馬で、背の切り欠きが無いもの。

ⅠＡ類：背の切り欠きが無く、口と耳を切り欠きで表現しないもの。

ⅠＢ類：背の切り欠きが無く、口に三角形の切り欠きをもつもの。

馬形Ⅱ類：裸馬で、背の切り欠きを持つもの。

ⅡＡ類：背の切り欠きを持ち、口と耳を切り欠きで表現しないもの。

ⅡＢ類：背の切り欠きを持ち、口に三角形の切り欠きをもつもの。

ⅡＣ類：背の切り欠きを持ち、口にＬ字形を切り欠きを持つもの。

ⅡＤ類：背の切り欠きを持ち、口と耳を切り欠きで表現するもの。

馬形Ⅲ類：飾馬で、鞍の表現があるもの。

ⅢＢ類：飾馬で、口に三角形の切り欠きを持つもの。

ⅢＤ類：飾馬で、口と耳を切り欠きで表現するもの。

出土した馬形は裸馬のⅠ・Ⅱ類が約８割を占めており圧倒的に多い。裸馬では背を持つⅡ類が大半を占め、Ⅰ類は僅かしかない。墨書や刻みによる目や鞍、手綱などが表現された資料も僅かで、飾馬に施される傾向にある。また、人形や斎串と同様に、胴部を中心に刃物による切断痕を持つ資料が散見されるが、人形や斎串に比べると圧倒的に少ない。

馬形は細棒を差し込み自立させたと考えられ、大部分の資料に棒孔がみられる。棒孔が無いものはごく僅かしかない。細棒は厚さ１～２㎜程度で、棒自体が遺存するものも多い。棒孔は下腹中央の下辺に１ヶ所、もしくは側面に２ヶ所ずつ、計４ヶ所のものが主体である。まれに下腹部の下辺に４ヶ所持つものや、側面に１ヶ所ずつ、計２ヶ所のものもみられる。１本のものが大半を占め、４本のものはⅠ・Ⅱ類でみられ、Ⅲ類ではほとんど確認できない。

牛　形

牛形としたものが僅かにあるが、判然としない。馬形との区別が難しく、ひとまず、上辺の切り欠きが無く、寸詰まりのものを牛形とした。

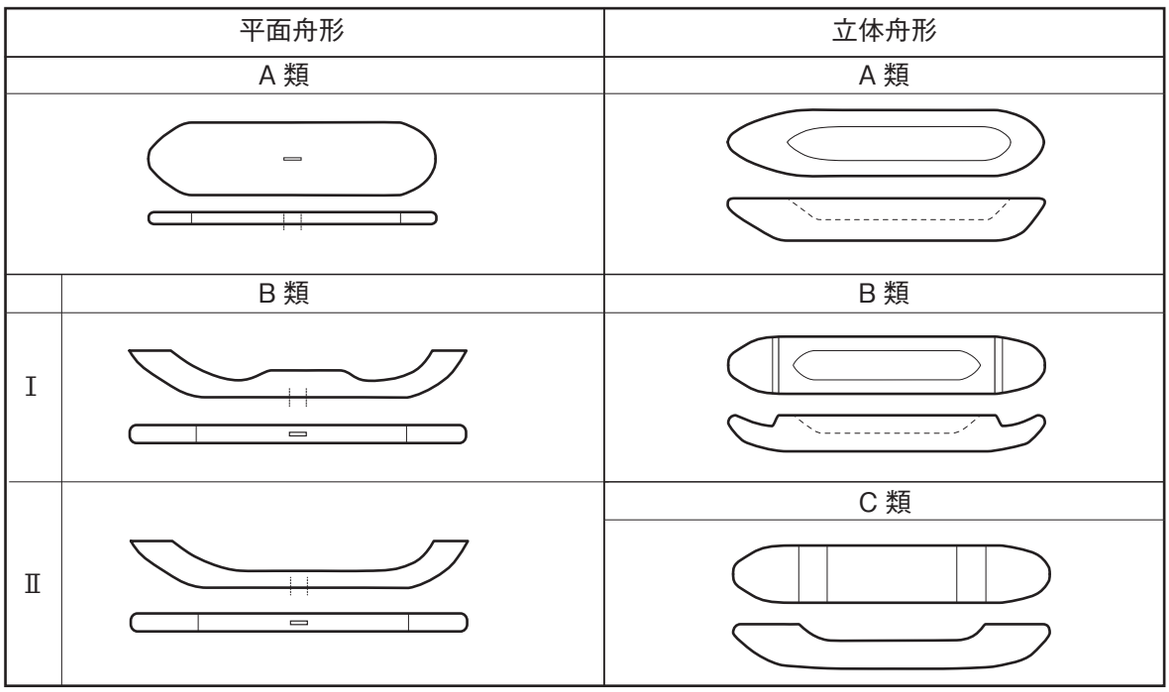
鳥　形

鳥形は上面観と側面観を表現したものに大別できる。いずれも棒孔があり、細棒を差し込み立てて使用されたことが分かる。

舟　形（第461図）

通有の立体的な舟形に加え、本遺跡では板状を呈し、舟の平面観や上面観のみを表現する舟形を確認することができる。そこで、前者を「立体舟形」、後者を「平面舟形」とし、さらに形態的特徴や製作技法から以下の通り細分する。

立体舟形Ａ類：船槽のみを刳り込むもの。船首や船尾の形状で、細分することが可能である。



第461図　舟形分類図

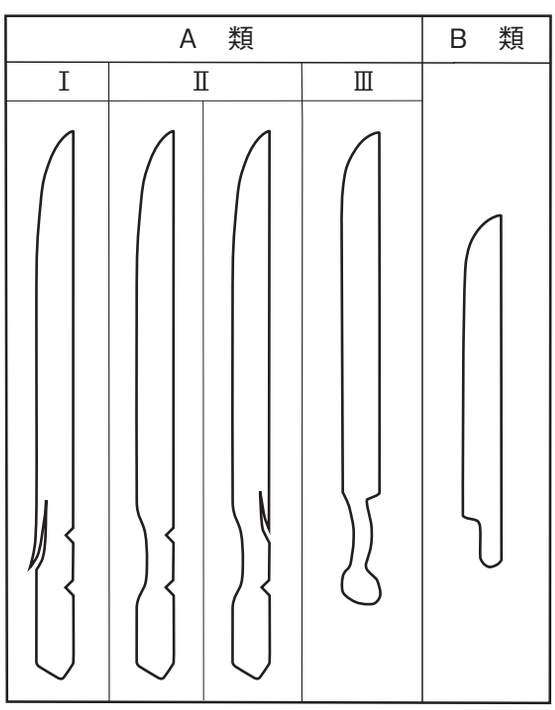
立体舟形Ｂ類：船槽の刳り込みに加え、船首や船尾を彫り込み、溝や段差をつくるもの。
溝や段差は竪板を填め込むための造作で、いわゆる準構造船を摸したもの。

立体舟形Ｃ類：舟槽を持たず、中央を削り込み、船首と船尾を一段高くつくり出すもの。

平面舟形Ａ類：薄板の両端に船首と船尾をつくり出し、上面観を表現したもの。

平面舟形Ｂ類：薄板の上辺に弧状の切り欠きを入れ、側面観を表現したもの。中央に一段高い平坦部をつくるもの**(平面舟形ＢⅠ類)**とつくらないもの**(平面舟形ＢⅡ類)**がある。

立体舟形が主体であるが、平面舟形も一定量確認できる。立体舟形ではＡ類が最も多く、Ｃ類は少ない。



第462図　刀形分類図

いずれのタイプにも棒孔が開けられたものがある。棒孔は２種類あり、ひとつは船底や舷側などの外面に開けられたものと船首や船尾、舷側の上面に開けられたものである。前者は船底中央に１孔開けられ、馬形と同じく細棒を差し込んで自立させ使用されていたと考えられる。平面舟形に多く、平面舟形を抽出できた根拠にもなっている。立体舟形では舷側外面に差し込まれた４本の細棒で支えられたものもみられる。後者の性格は特定しえないが、基本的に船首と船尾の四隅に配置され、４孔一対となる。位置から帆が立てられていたとは考えにくく、むしろ、船首や船尾の形状に沿って弧状に開けられている資料があり（W206など）、細棒に用いることで舷側板などの部材が組み合わされていた可能性がある。ただし、すべての資料にみられるわけではなく、組み合う部材を確認していな

い点は否定的な要素である。仮に、部材とすれば、立体舟形のうち、とくにＡ類は一般的に丸木舟を摸したとされるが、準構造船も含まれる可能性が生じる。

船首と船尾に刻みや墨書により目が表現されたものが僅かにみられる。

刀　形（第462図）

刀形は把の有無で大別し、把の形状や切り欠き、切り込みの有無で分類する。

刀形Ａ類：刀身と把を表現するもの。

ＡⅠ類：細長い把頭を持ち、一側縁を弧状に切り込み、他方に切り欠きを２カ所入れるもの。

ＡⅡ類：細長い把頭を持ち、一側縁を弧状に切り欠き、他方に切り欠きを２ヶ所入れるもの。上部の切り欠きが切り込みとなるものがある。

ＡⅢ類：短い把頭を持ち、屈曲する把間をつくり出すもの。

刀形Ｂ類：刀身と茎のみを表現するもの。

出土数はＡ類が圧倒的に多く、Ｂ類はごく僅かである。Ａ類のうち、ＡⅠ、ＡⅡ類は薄板のものが多いのに対して、ＡⅢ類はやや立体的な資料が多い。Ａ類は把の弧状の切り欠き側に刃を持つのが一般的だが、反対につけられたものも散見される。

剣形・鏃形・槍形（矛形）

剣形は剣先を欠く資料がほとんどで明確ではないが､関を削り込み､茎をつくり出す点で識別した。槍形（矛形）は鏃よりも長い身を持ち、長い柄を表現した資料を分類した。鏃形は鏃身のみで柳葉形を呈するものなどがある。

工具形

刀子形と斧形がある。斧形はいずれも平面形から有肩鉄斧を摸したと考えられる。棒孔が開けられたものもみられる。

農具形

エブリ形と鎌柄形がある。台形状の薄板の下辺に切り欠きを入れ、鋸歯状の刃を表現している。切り欠き数はさまざまで、切り欠きの無いいものもある。中央には柄を差し込む孔がみられ、柄が遺存するものも散見される｡平面形は斎串Ａ類のうち､側縁に連続する切り欠きを持つものに類似するが、基本的に柄孔の有無で識別した。

琴柱形

両側面の途中から垂直に断ち落とし、平面形が六角形を呈するものと断ち落としがほとんどなく、台形を呈するものがみられる。前者は金子裕之氏の分類（金子1980）で琴柱形Ａ、後者は琴柱形Ｂにあたる。下辺の切り欠きは三角形、台形、弧状のものがある。弦受けの溝も有無がある。

勾玉形

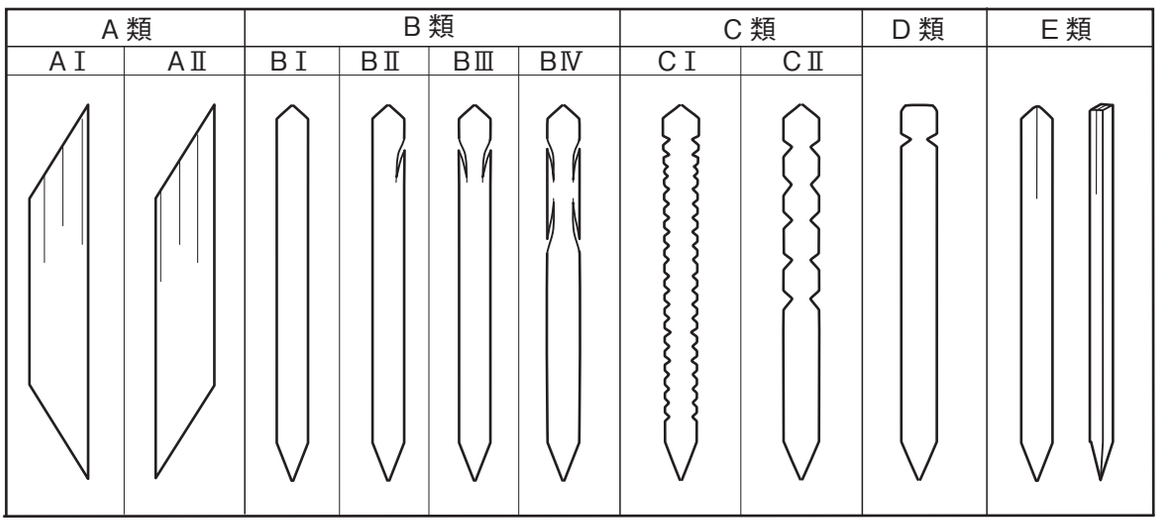
穿孔の有るものと無いものがある。

斎　串（第463図）

斎串の形態は多種多様であることから、ここでは主要なものの分類に留まる。形態や切り込みや切り欠きを基準に以下のとおり分類した。

斎串Ａ類：幅の広い薄板の両端を斜めに切り落とすもの。上端、もしくは下端に切り込みをもつものが多い。まれに側縁に連続する切り欠きをもつものがある。

ＡⅠ類：平面形が台形を呈するもの。



第463図　斎串分類図

ＡⅡ類：平面径が平行四辺形を呈するもの。

斎串Ｂ類：細長い薄板の下端を尖らせるもの。上方の両側縁、もしくは片側縁に切り込みを持つものが大半で、切り込み数により細分する。上端は圭頭となるものが多い。

ＢⅠ類：切り込みを持たないもの。

ＢⅡ類：切り込みを片側縁に１ヶ所持つもの。

ＢⅢ類：切り欠きを側縁に１ヶ所ずつ、２ヶ所持つもの。

ＢⅣ類：切り欠きを側縁に２ヶ所ずつ、４ヶ所持つもの。切り欠きは上下から行う。

斎串Ｃ類：細長い板の下端を尖らせ両側、もしくは片側縁に連続する切り欠きを入れるもの。上端は圭頭となるものが多い。

ＣⅠ類：切り欠きが小さいもの。

ＣⅡ類：切り欠き大きく、深いもの。

斎串Ｄ類：細長い板の下端を尖らせ、上方の両側縁に切り欠きを１ヶ所ずつ入れるもの。荷札木簡の形状に類似する。文字が無いこと、通有の木簡に比べ幅が狭いことなどを根拠に識別する。

斎串Ｅ類：上端中央に割り裂くように深い切り込みを入れるもの。板状のものと棒状のものがある。上端は平坦なものと圭頭のものが大半を占める。

破片資料が多く分類できない資料も多いが、Ａ、Ｂ類が主体で、Ｅ類が一定量占める。Ｃ、Ｄ類は少ない。人形や馬形と同様、刃物による切断痕をもつものが比較的多く確認される。

【参考文献】
大平茂1993「木製人形年代考（上）」『古代文化談叢』第30集　九州古文化研究会
大平茂1995「木製人形年代考（下）」『古代文化談叢』第35集　九州古文化研究会
大平茂2008『祭祀考古学の研究』雄山閣
金子裕之1980「古代の木製模造品」『奈良国立文化財研究所研究論集』Ⅵ
山枡雅美・濵隆造・岩垣命「青谷平野における律令祭祀-因幡国-」『古代文化』第66巻第３号

第３項　各調査区の出土木製祭祀具

Ｐ１区出土木製祭祀具（第464、465図）

第464図は溝２やⅣ層相当層から出土した資料である。Ｗ１～４は人形である。Ｗ１は人形ⅣＡ型式で、全長が40㎝を超える大型のものである。手と脚が欠損する。Ｗ２は大型の資料で、線刻による顔の表現があり、頭部には髷、または被り物がつくり出されている。Ｗ４も大型で、頭と脚を欠くが、手を持ち、股はコの字形を呈する。Ｗ５～11は馬形で、Ｗ５～８が裸馬で、Ｗ９～11が飾馬である。Ｗ５は顔がＬ字を呈する馬形ⅡＣ類で、下半身を欠く。Ｗ６は頭部の上端が僅かに抉られ、耳を意識している可能性がある。Ｗ７は後端面の下側が斜めに切り落とされている。Ｗ８は流線形で、写実的なつくりである。耳、後脚、尾がつくり出され、後脚は半円形を呈する。W11は馬形ⅢDb類で、後脚はつくり出されない。刻みによる目の表現がある。W12～14は刀形で、W12は把に墨書がみられる。W15は農具形のエブリ形で、曲物の板を転用している。W16は琴柱形で、下辺が三股となる特異なタイプである。W17～20は斎串である。W17、18は中程に刀子による切れ目が入り、使用後に切断されたと考えられる。W19は上端が二股となり、さらに股の付け根から切り込みが入る特異な形態である。

第465図はⅣ層相当層から出土した資料である。W21は人形で方形を呈する頭部が大きく、刻みによる顔の表現がみられる。W22は斎串で、両側面に小さな切り欠きが連続するもので、上端は山型を呈する。

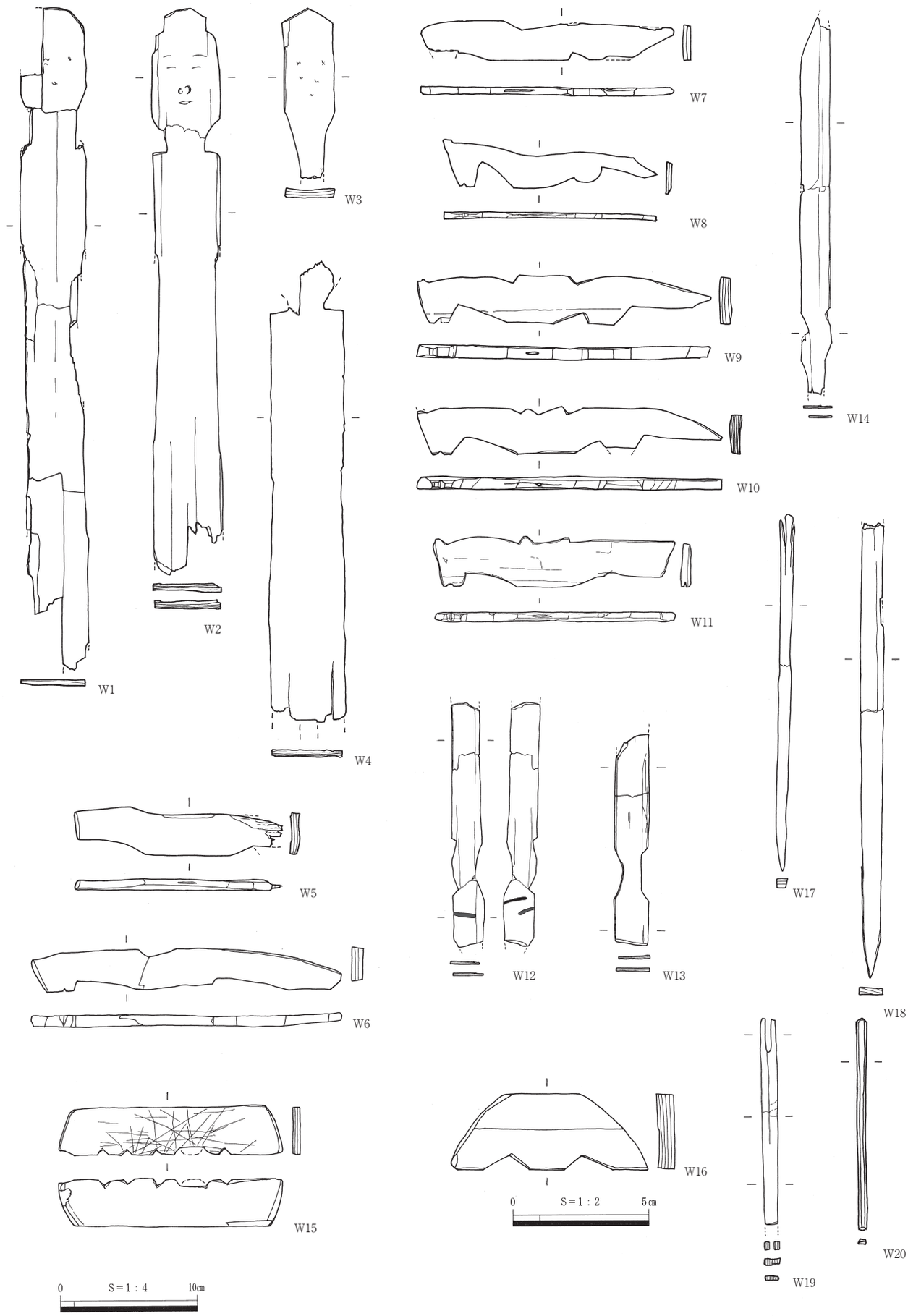
10区出土木製祭祀具（第466～475図）

第466図は条里１から出土した資料である。W23～29は人形である。W23～26は頭部破片で、W23は墨書により眉毛や目、鼻、口、口髭が写実的に描かれる。W27は細長い耳がつくり出される。W28は人形IA型式で、怒り肩を持ち、頸の切り欠きは顔の中程まで達する。W29は大型の側面人形である。被り物や鼻、後頭部の形状が写実的につくり出されている。脚は欠損し、手の表現も判然としない。

第467図は条里２から出土した資料である。W36は両舷側の外面に前後２ヶ所に切り込みがあり、舟形も細棒により立てられていたことが窺える。

第468図は10区からＰ１区にかけて堆積する礫層から出土した資料で、Ⅳ層に相当する。W38～44は人形で、W38、39は下がり肩を持つ。W41は小型の側面人形で、被り物や鼻、口、顎がつくり出される。W42、43は頸を持つ、人形ⅣＡ型式で、40㎝を越える資料である。W42は長く延びた頸を持ち、平坦な頭頂部を持つ。両側とも肩部から手にかけて欠損する。W44は一本脚の人形ＶB型式で、頸を持つ。目・鼻・口が墨書により写実的に描かれる。W45は馬形で、胴部中央に切断痕とみられる切れ目が入る。

第469～475図はⅣ層、またはⅣ層相当層から出土した資料である。W46～79は人形である。W49、52は柳葉形の頭部を持つ。W58は非常に細長い首を持ち、菱形の頭部を持つが、墨書で丸い顔の輪郭が描かれている。W59、64、74は墨書で顔の表現とともに頸に三道（頸の皺）が表現され、W64、74には衣服も描かれている。W74は頸を持ち、一本脚の人形ＶB型式で、長方形の頭部を持つ。W76は側面人形の小型品で、顔の表現がある。W78は人形ⅣB型式で、手が省略されている。W79は全長61.6㎝の人形ⅡB型式で、腰は切り欠きではなく、脚のかたどりと一体となる。そのため、胴部幅が

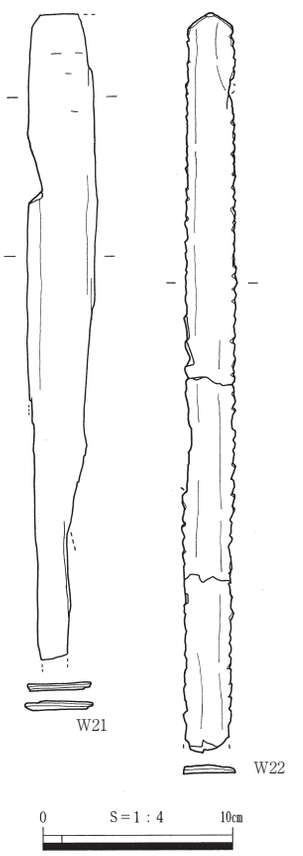


第464図　P1区溝・Ⅳ・Ⅴ層出土木製祭祀具

脚部に比べて広い。脚部は写実的に整形され、外側に開く足もつくり出される。肩部はなで形で、丸く整形される。

W80 ～ 100は馬形である。W92はⅢBc型式の典型資料で、頭部は斜めに切り落とされている。W94は墨書により目や鞍、手綱が写実的に描かれている。後脚は欠損する。W96は上辺の尻と尾の境を切り欠きにより表現している。W100は大きく反り上がる細長い尾がつくり出される。

W101 ～ 105は舟形である。W104は僅かに舟槽が削り出されているため、立体舟形とするが、平面舟形に近い。船首と船尾は幅をやや減じるものの、方形を呈する。W106 ～ 108は斎串である。W107は立体的な資料で、下半が茎風に作り出される。左側縁の中央に連続する切り欠きがみられるため斎串としたが、柄を持つとすれば、他の用途を考えるべきかもしれない。



第465図　P1区Ⅳ層出土木製祭祀具

Ｐ２区出土木製祭祀具（第476図）

第476図はすべてⅣ層から出土した資料である。W115 ～ 118は人形で、小型のものである。W115、116はナデ肩を持つ人形IA型式である。W118は下がり肩で、腰から脚にかけて抉られ、幅が狭まる。W119 ～ 126は馬形で、すべて裸馬である。W119は平面形がM字形を呈し、頭部と尻部が丸みを帯びる。W121は上辺の後端が斜めに切り取られ、細長い尻部となる。W123は刺突により目が表現されている。W126は分厚いⅡAb類で、木取りが柾目である。W127、128は舟形で、W127は船首と船尾が識別でき、左端が船首、右端が船尾である。いすれも船底から大きく反り上がった形状をなす。船内には舷側からその上端にかけて４カ所に、細棒を差し込む孔がみられる。W129は大型品で、船底は平坦である。船首と船尾の上端に２孔一対とみられる棒孔がみられる。W129 ～ 131は斎串で、上端部が山型を呈し、中央に切り込みが入る。132は剣形であろうか。立体的で、剣身の断面が菱形を呈する。

９区出土木製祭祀具（第477図）

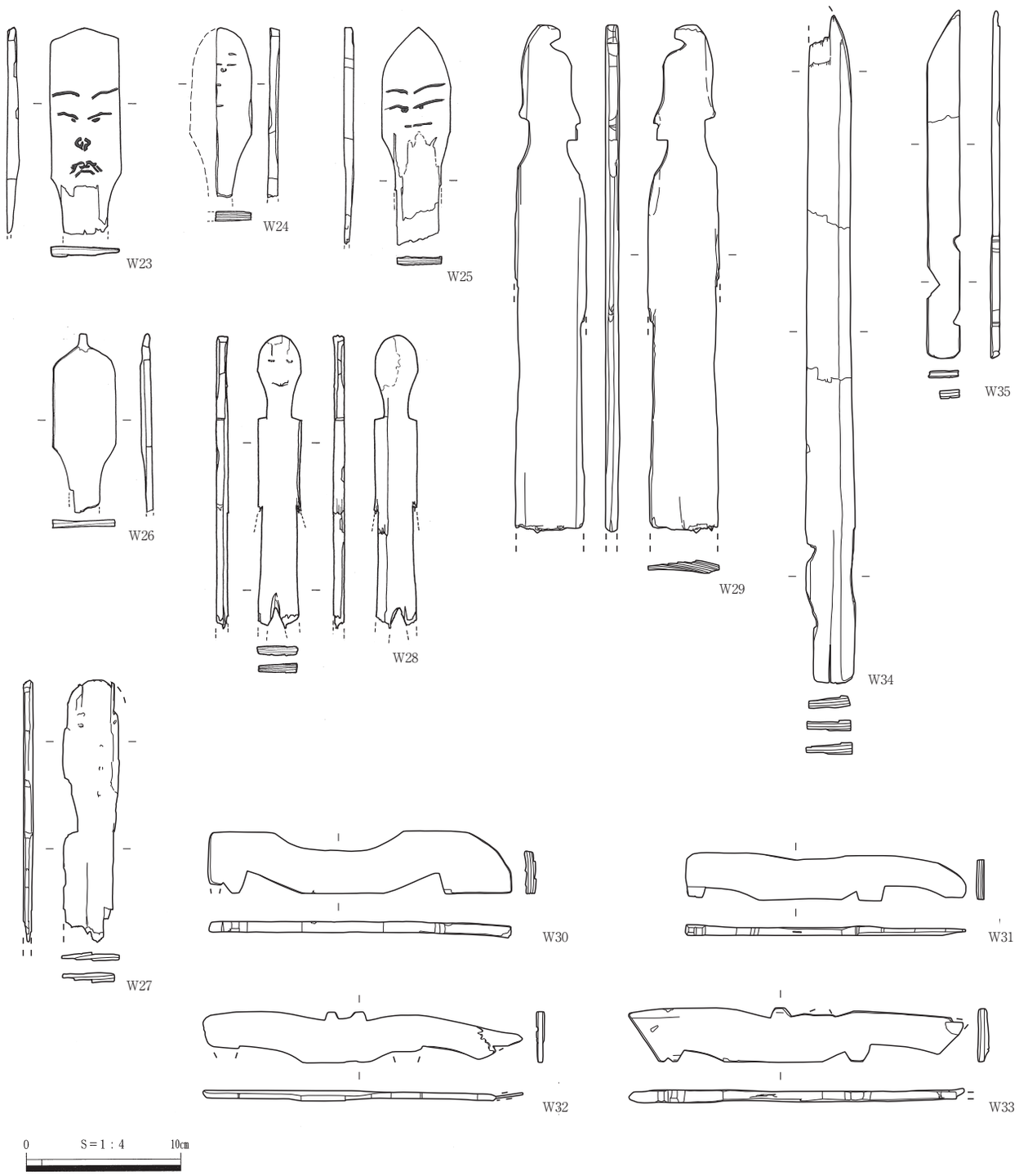
Ⅳ層以下から出土した資料である。W133は怒り肩の人形ＩA型式で、全長が54.5㎝と大型である。股は折り取ることでつくられ、コの字形となる。

８区出土木製祭祀具（第478 ～ 479図）

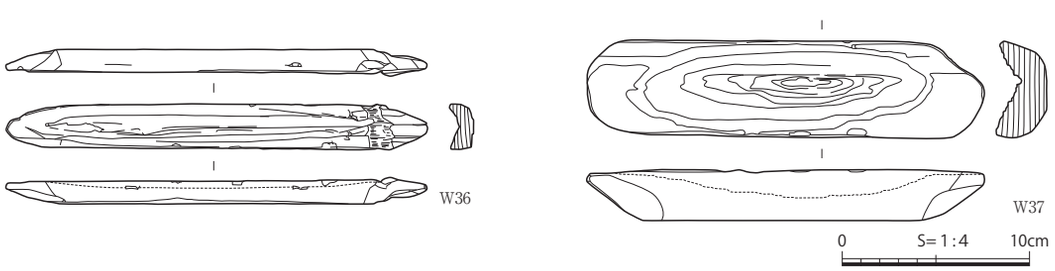
Ⅳ層から出土した資料である。W156 ～ 158は舟形で、W156、158は細長い形状を呈する。W156は右側が船首とみられる。W137は大型の馬形で、IAa型式である。頭部の下端は尖り、側面の４ヶ所に棒孔が切り込まれる。

Ｐ３区出土木製祭祀具（第480 ～ 484図）

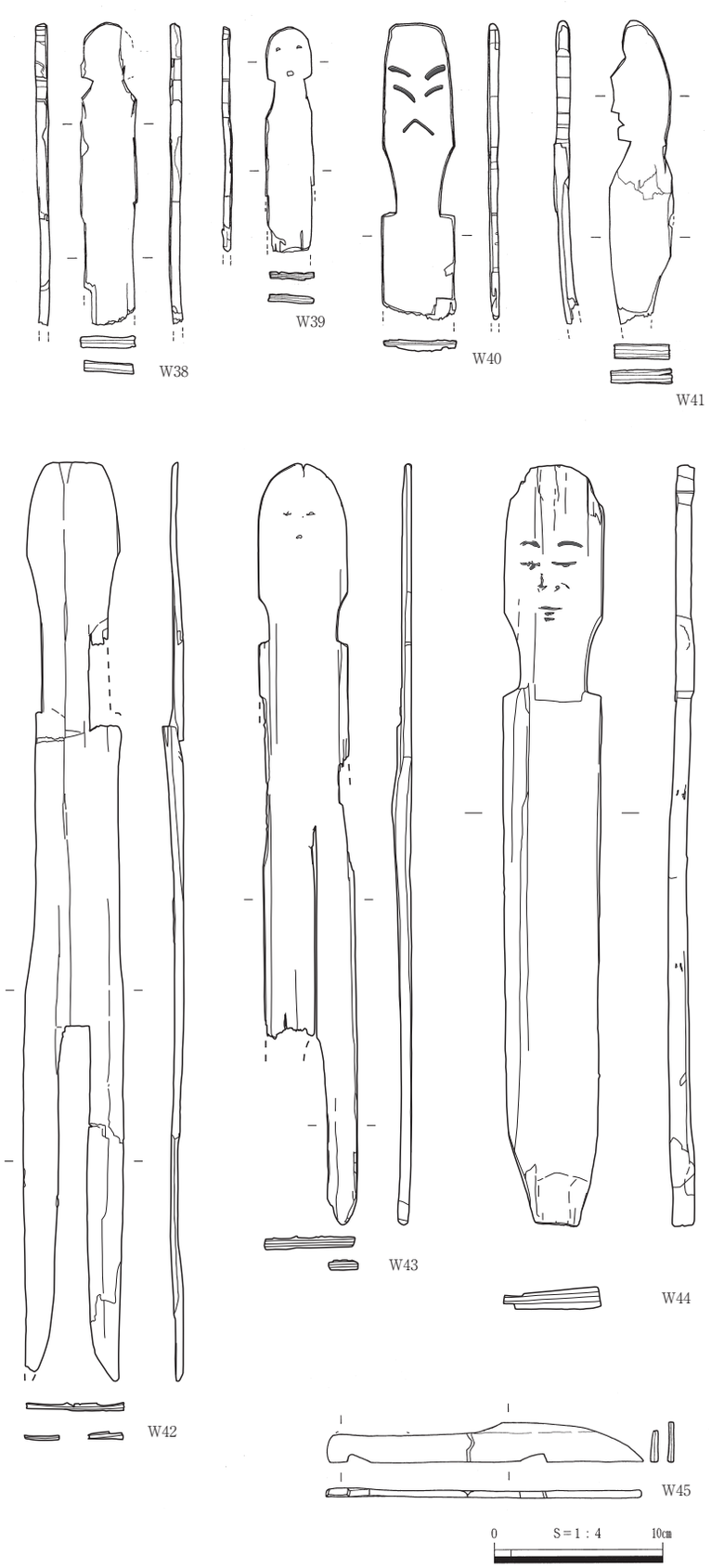
第480図は条里５・６、盛土２から出土した資料である。W159 ～ 165は人形である。W162は怒り



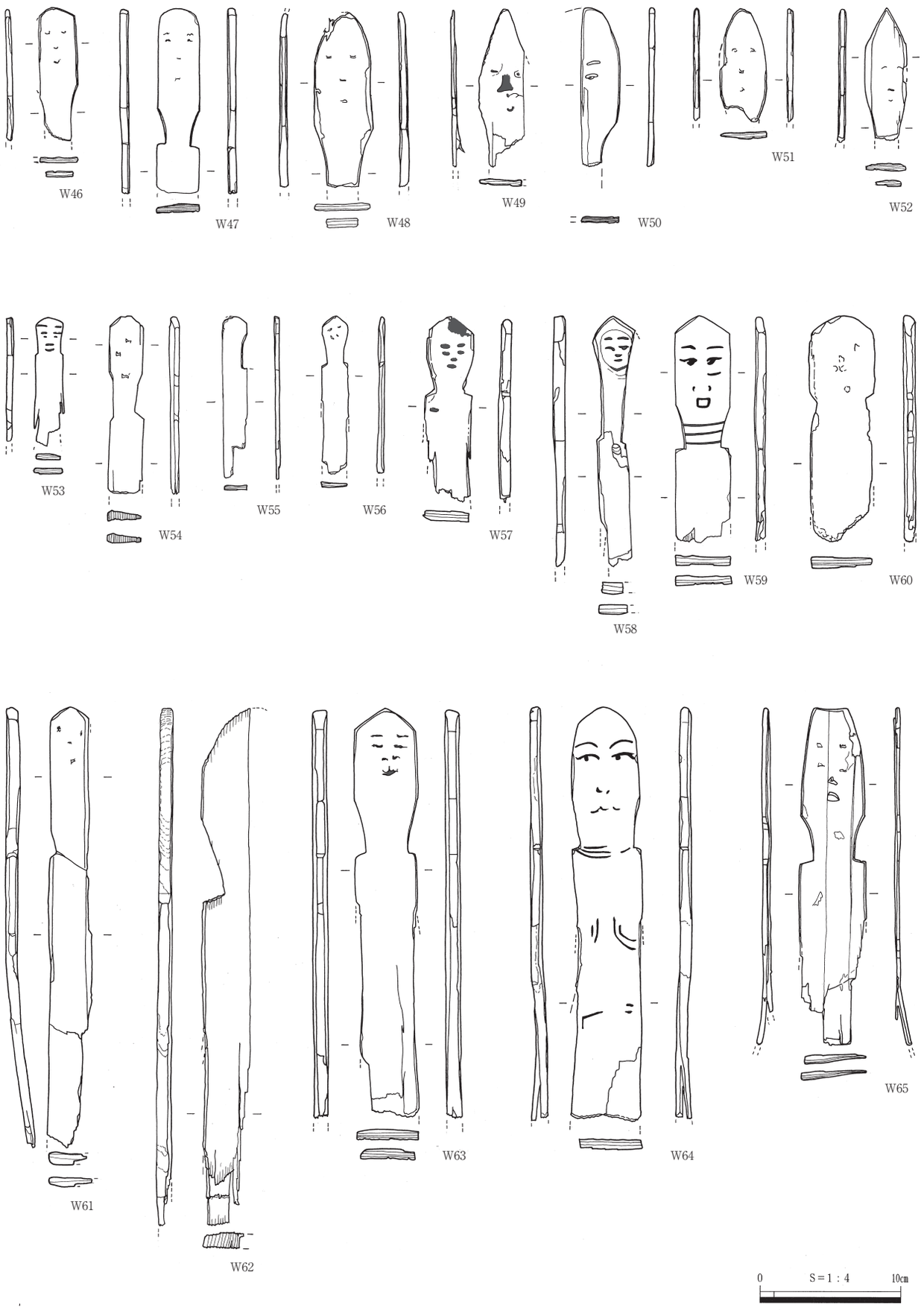
第466図　10区条里1・Ⅳ層出土木製祭祀具



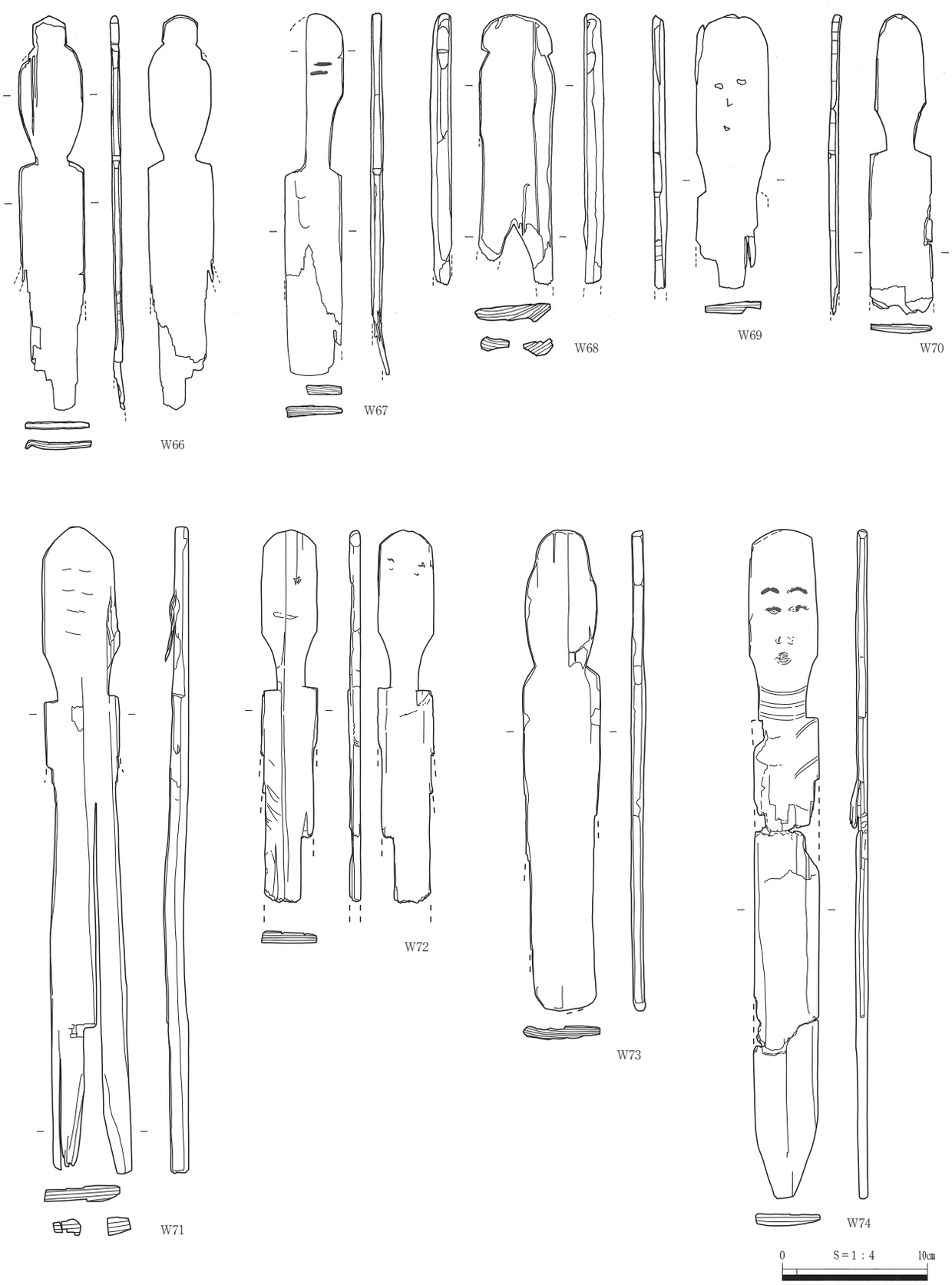
第467図　10区条里２出土木製祭祀具



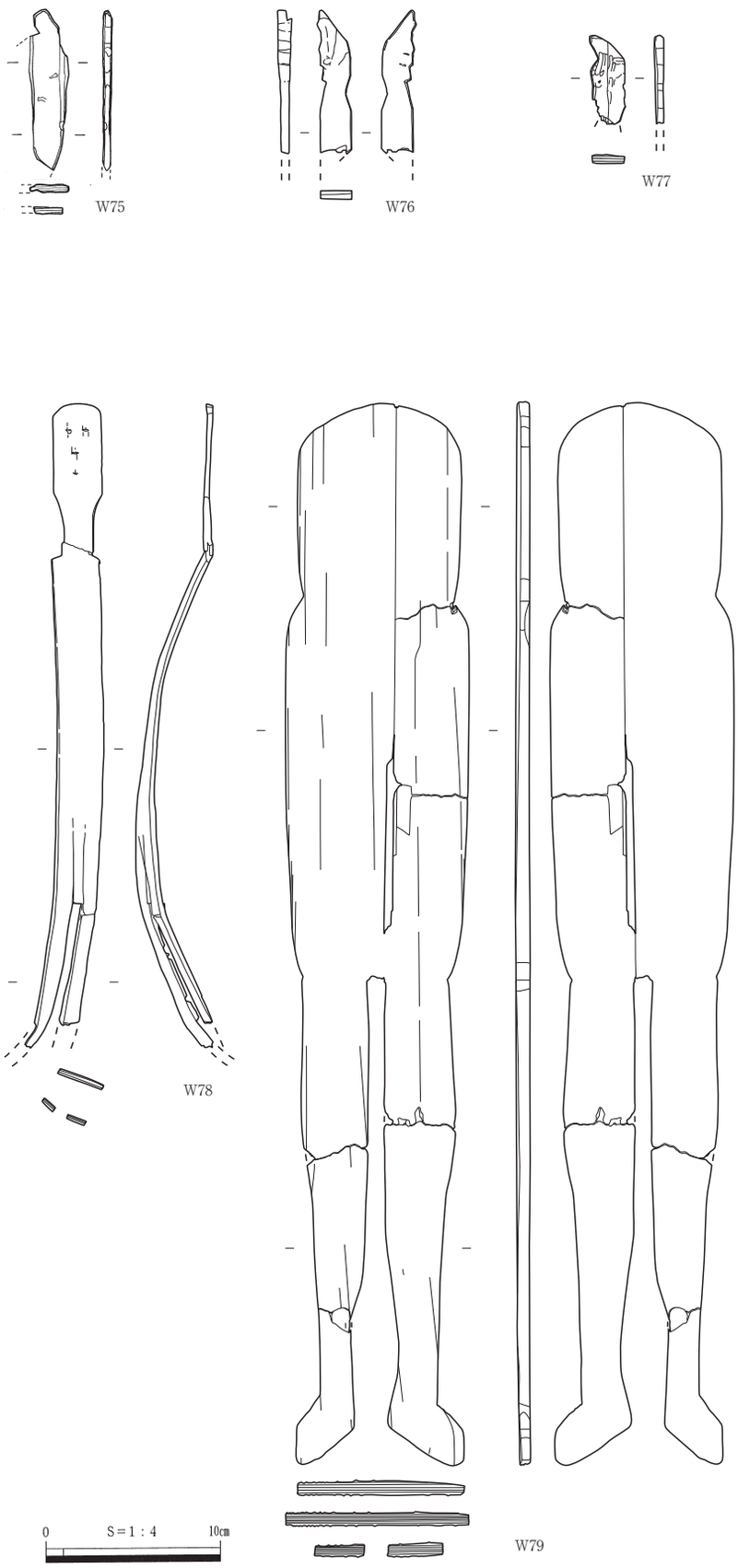
第468図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（１）



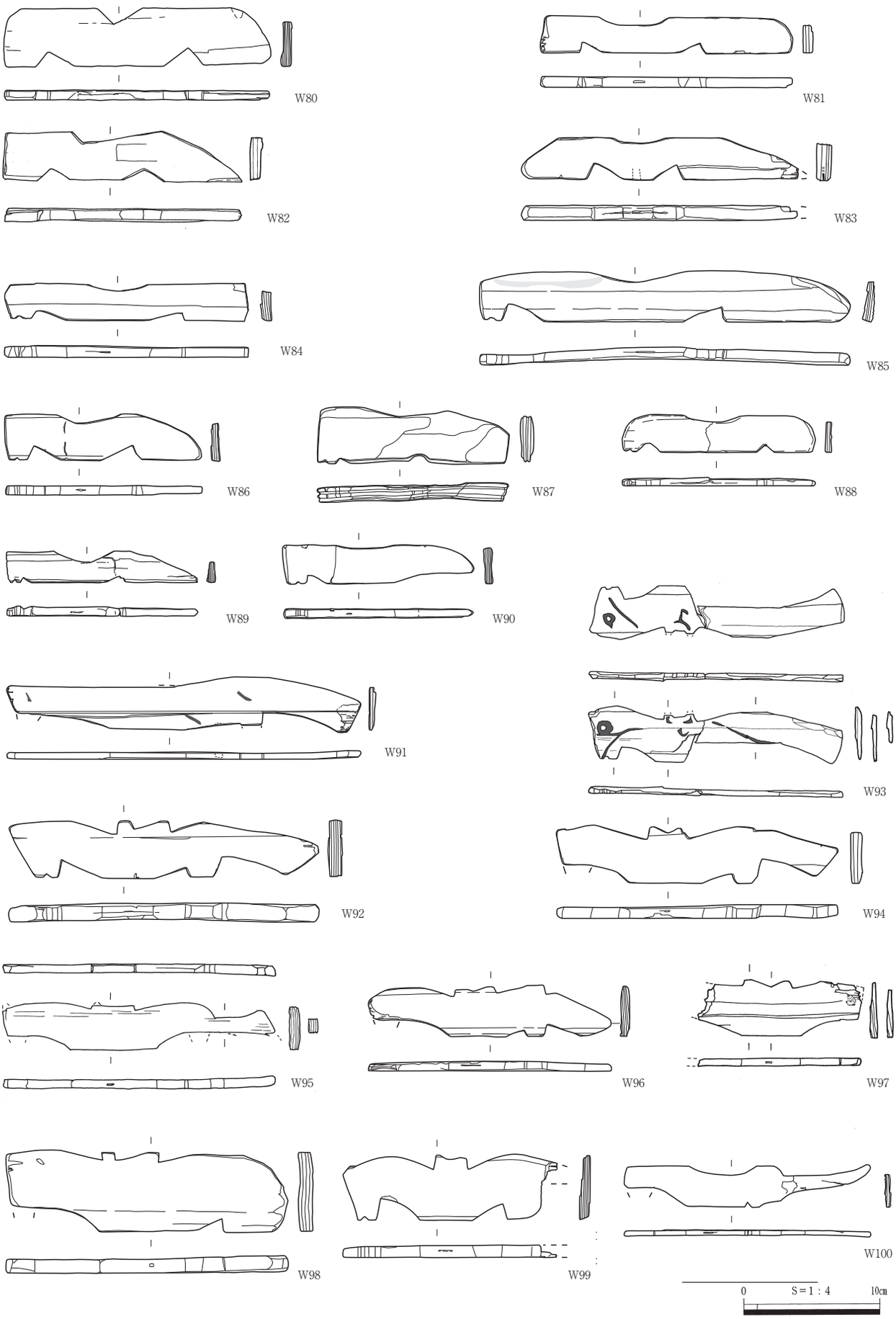
第469図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（２）



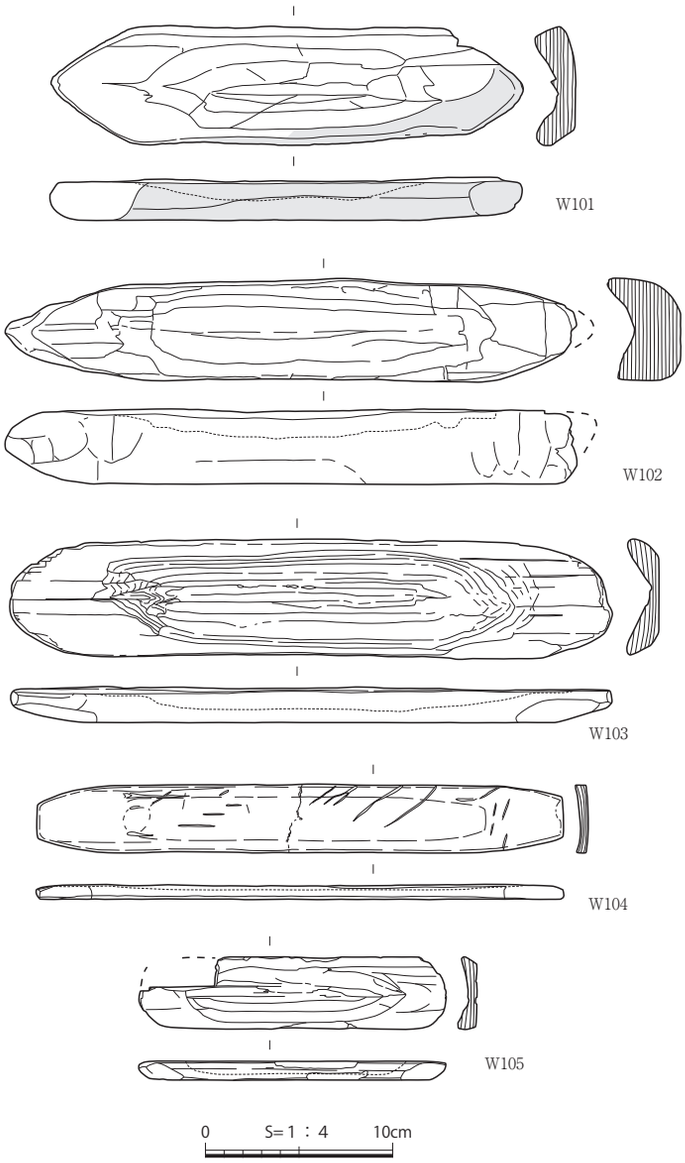
第470図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（３）



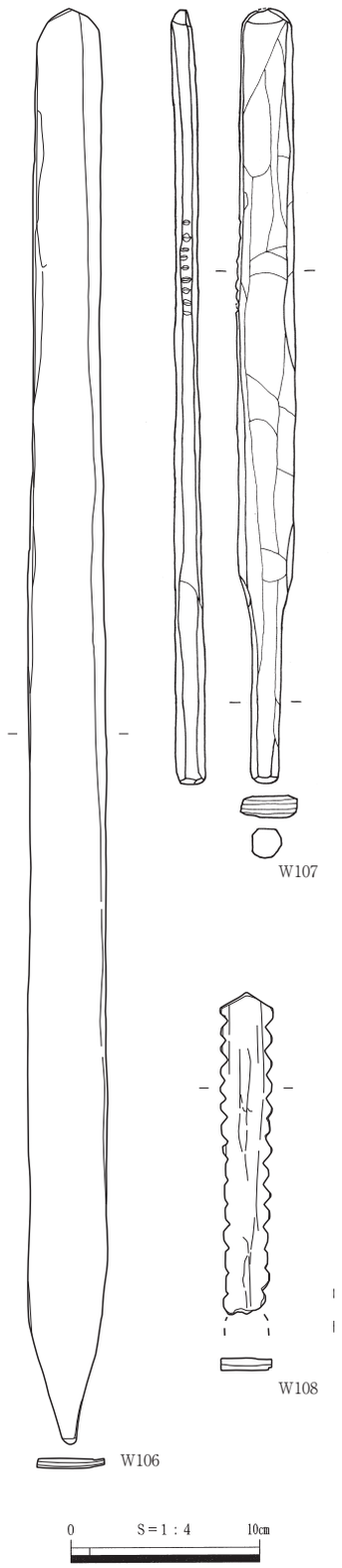
第471図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（４）



第472図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（５）



第473図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（６）



第474図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（７）

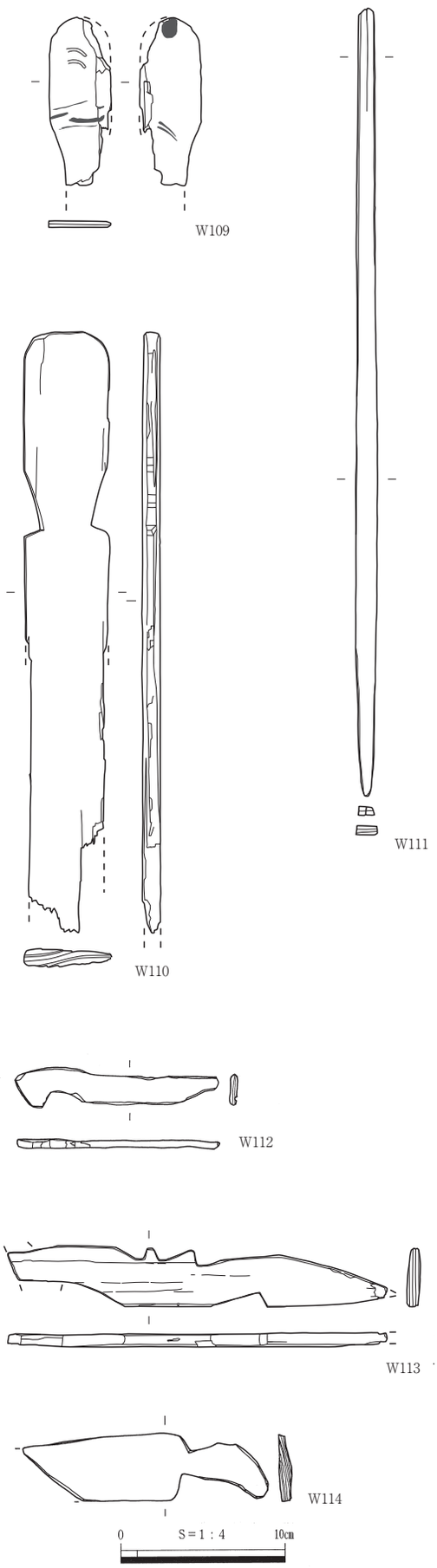
肩の人形で、肩部の切り欠きが頭部まで抜け、扁平な頭部となる。W164は長楕円形の頭部を持ち、手は持たない。W165は墨書による顔表現があり、肩部には２本の線が描かれている。W166 ～ 170は馬形で、W168のみが飾馬である。W167は馬形ⅡAc型式、もしくはⅡBc型式で、後脚が小さく三角形を呈する。背の抉りは半円形で、頭部の上辺沿いは表裏面から削られ、薄く仕上げられている。耳を意識的につくり出したと考えられる。W170は小型で、下腹部に挿入された細棒が残る。171 ～ 174は斎串で、W174は横断面が方形を呈し、厚みがある。W175は不明品で、祭祀具ではない可能性がある。

第481、482図は条里８～ 10から出土した資料である。W176

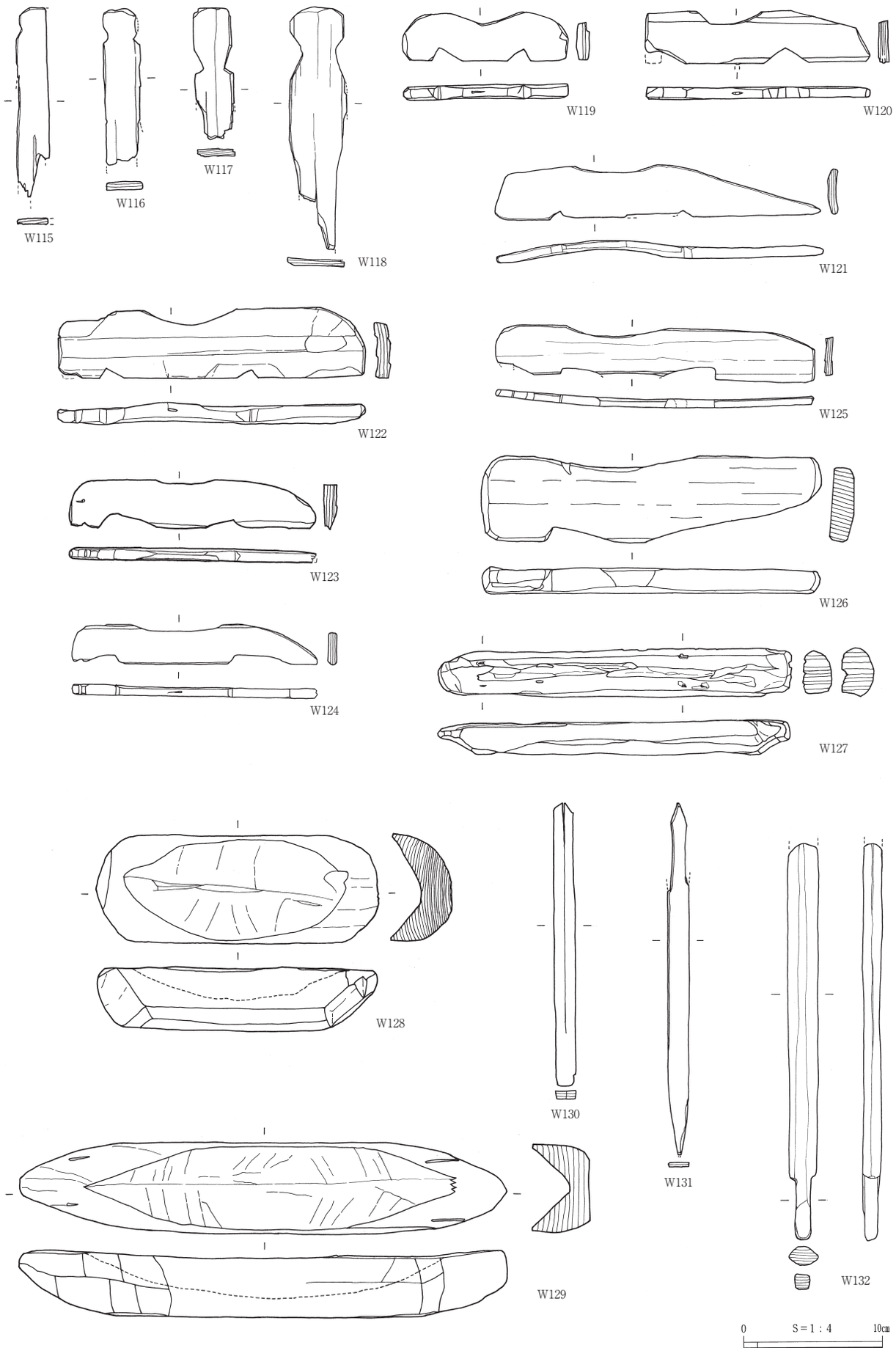
は全長55cmを測る大型の人形で、Ⅱｂ型式に属するが、やや特異な資料である。目鼻は孔により表現され、目は貫通するが、鼻は貫通しない。下がり肩で、切り欠きによる手と長い脚をもつ。W178は眉毛や目、鼻が刻みにより表現されている。W179 ～ 194は馬形で、裸馬である。W182はやや厚みのある馬形ⅡAa型式で、棒孔が下腹部の前後２カ所開けられている。W183は本遺跡の中でも最も大型の部類で、立体的な馬形である。長さ37cm、厚さが3.9cmを測る。両側面の4カ所に切り込みがあり、差し込まれた板状の細棒が遺存する。背の部分は多面的に整形されている。W188は上下逆にすると側面観の舟形BI類と同形となる。下腹部の棒孔のより識別できる。W192は耳がつくり出され、尾の先端が尖っている。W195は牛形と考える。耳を有し、下辺の抉りは前側のみである。W196 ～ 198は斎串であるが、W196は人形の頭部の可能性もあるか。W199 ～ 206は舟形で、W199、200が側面観を表現する平面舟形で、W201 ～ 206が立体舟形である。W200は上辺の前後がアーチ状の抉りがあり、中央は平坦となる。棒孔は下辺中央及び上辺の前後の抉りにも１カ所ずつ確認できる。W204は準構造船を模した立体舟形B類で、長細い形態をなす。船首と船尾には竪板を填め込む段がつくり出されている。W200は本遺跡で最も大型の舟形で、全長は61.6cmを測る。船首と船尾の上面には棒孔が弧状に４～５ヶ所配され、棒孔は舷側上端にも確認される。精巧な作りである。

第483図はⅣ層から出土した資料である。W207 ～ 210は人形で、W208は尖った頭部を持ち、下がり肩のものである。W210は腰を切り欠きで表現し、股は逆Ｖ字形を呈する。W211、212は舟形で、W211は船首と船尾に竪板を填め込む段がつくり出される。W213 ～ 217は馬形で、W215は飾馬である。W216は馬形としたが、特異な形状で、やや判然としない。W217は下半身の破片で、両側面から細棒が斜めに差し込まれている。

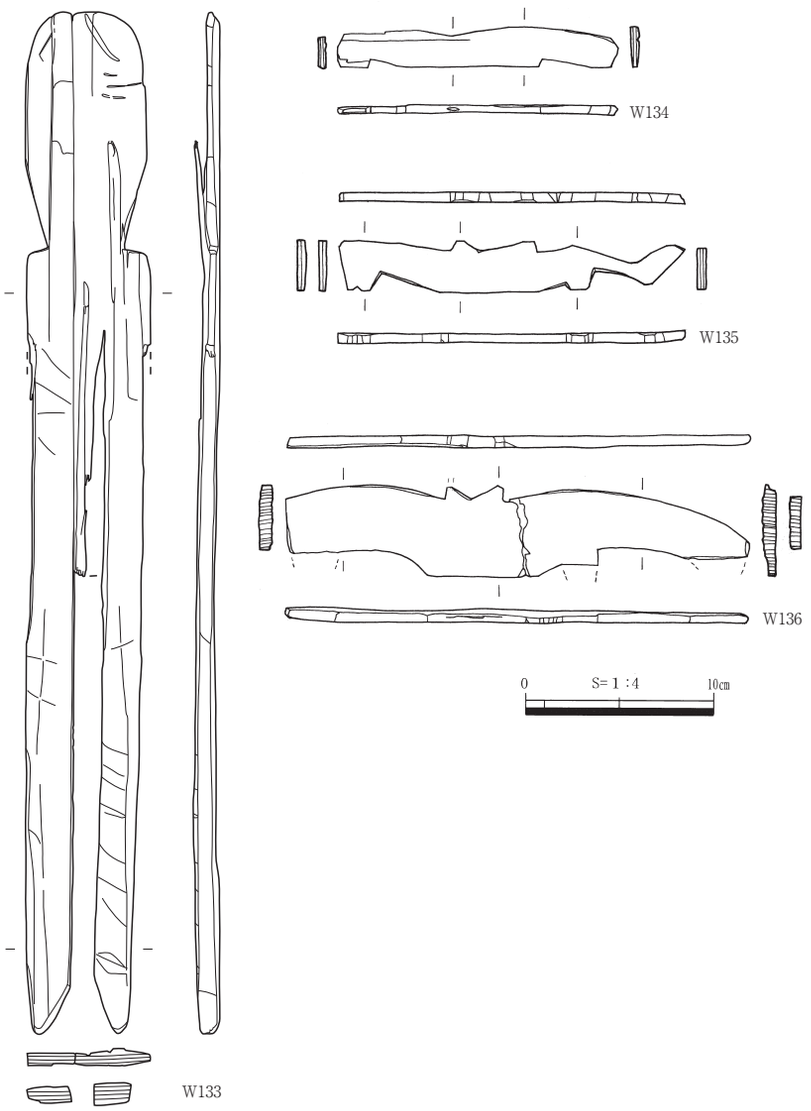
第484図はＶ～Ⅵ層から出土した資料である。W220、221は人形で、W221は手を持たない短小な人形で、胸の上部中央に孔を穿つ。W222 ～ 224は馬形で、W222はやや厚みがあり、細棒を差し込む切り込みが４



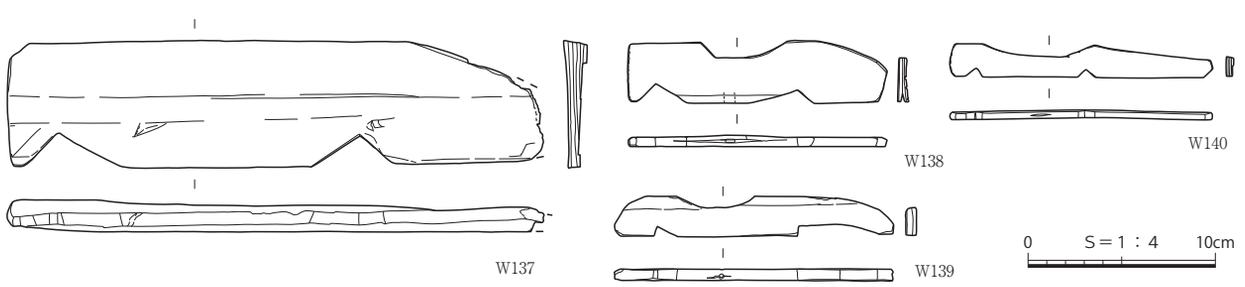
第475図　10区Ⅳ層出土木製祭祀具（８）



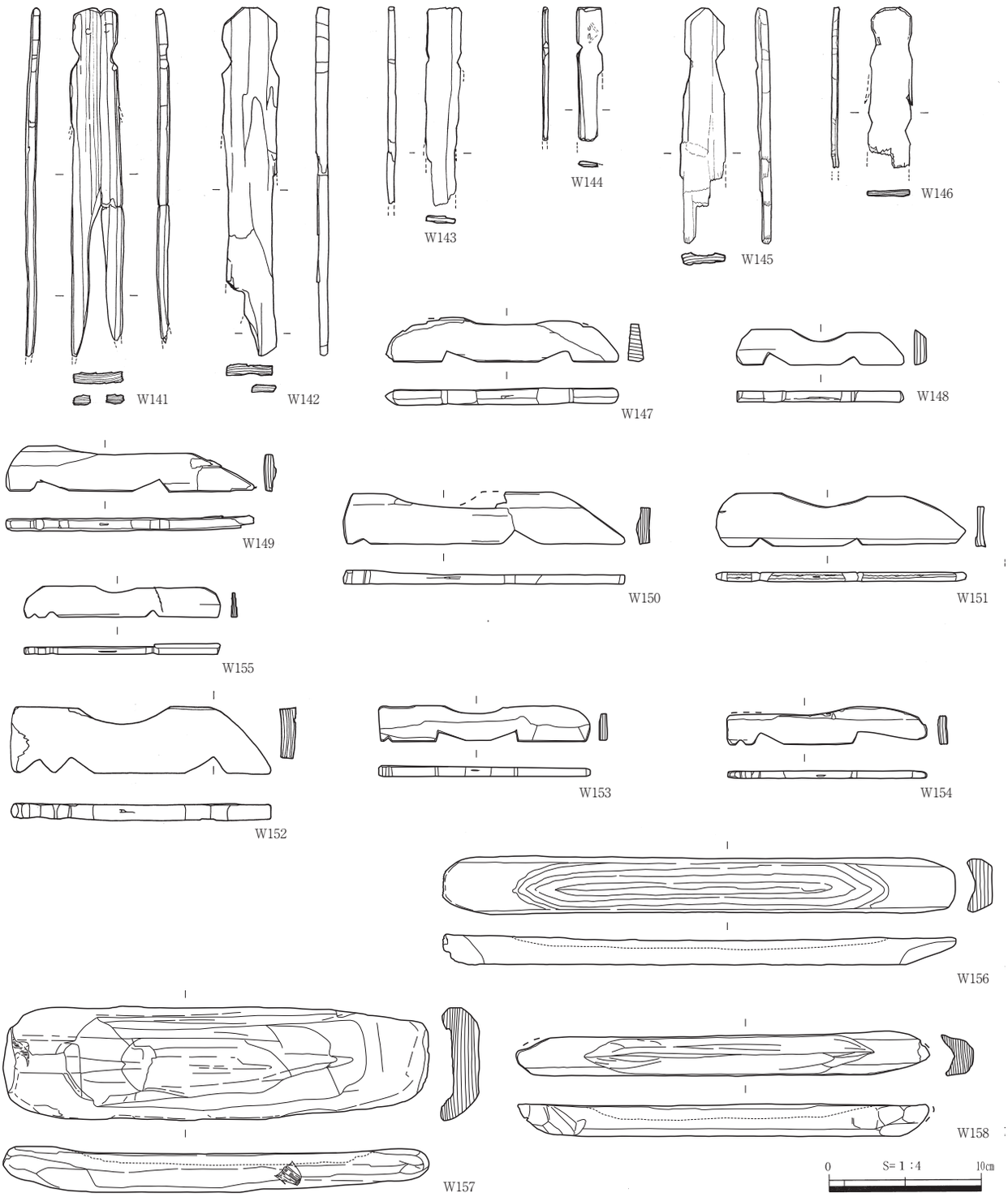
第476図　P2区Ⅳ層出土木製祭祀具



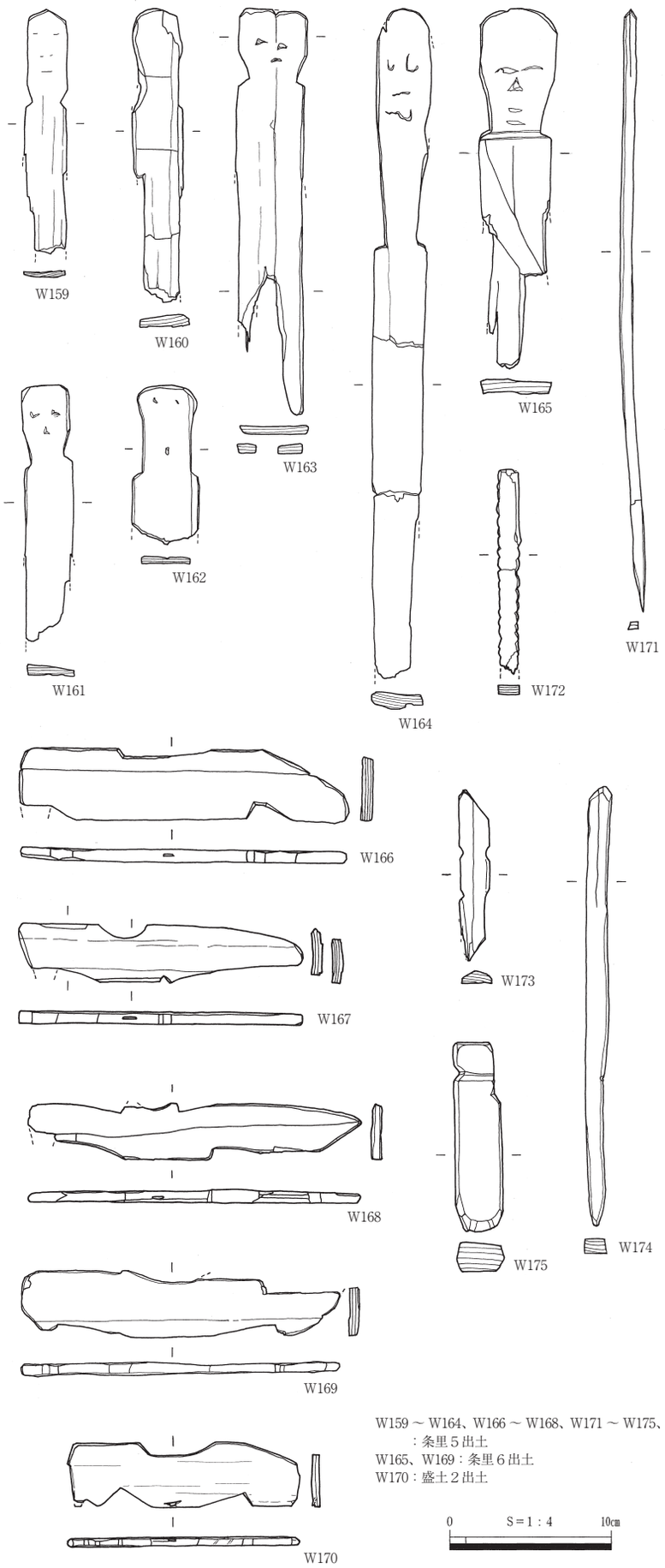
第477図　9区Ⅳ層出土木製祭祀具



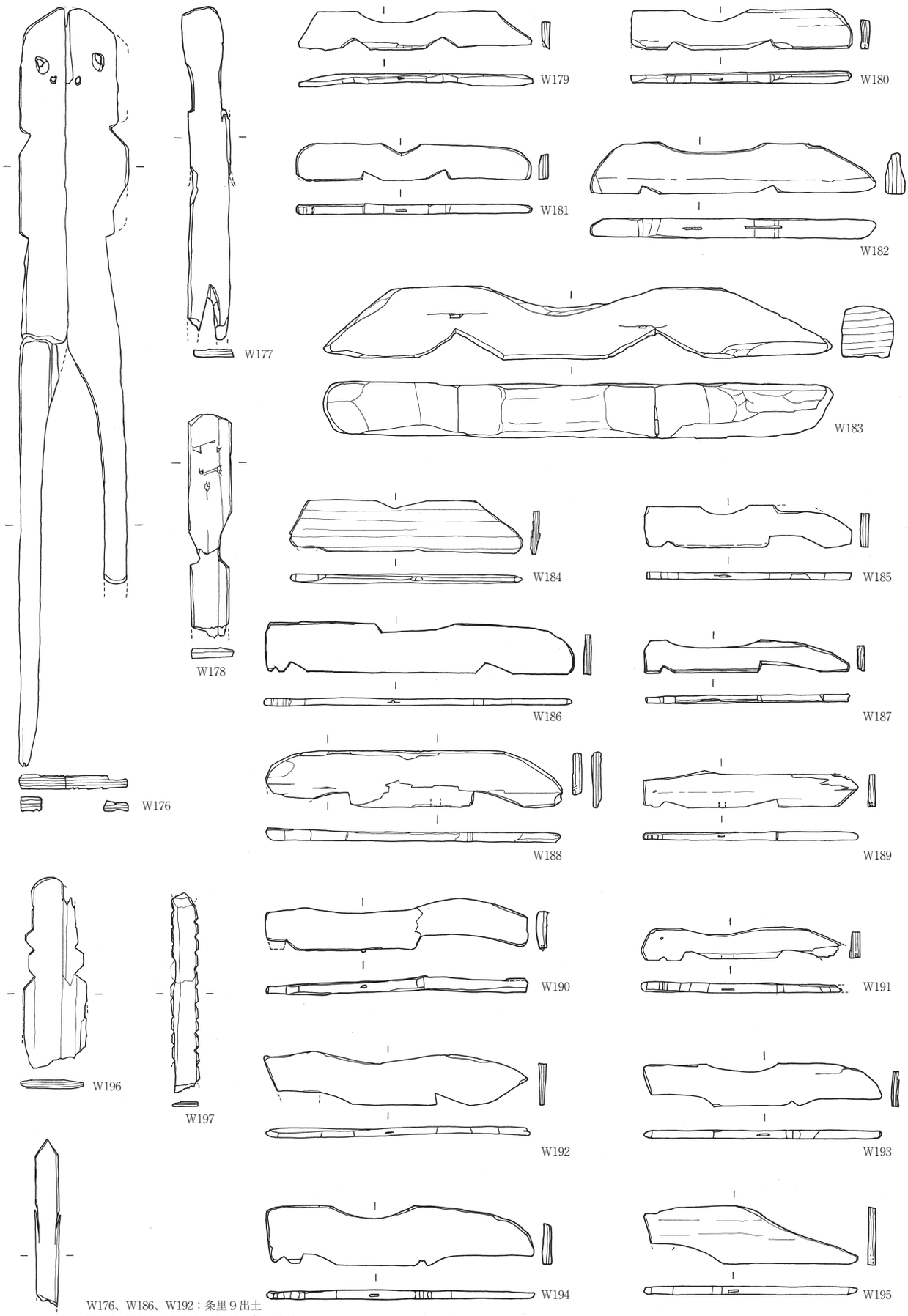
第478図　8区Ⅳ層出土木製祭祀具（１）



第479図　8区Ⅳ層出土木製祭祀具（２）

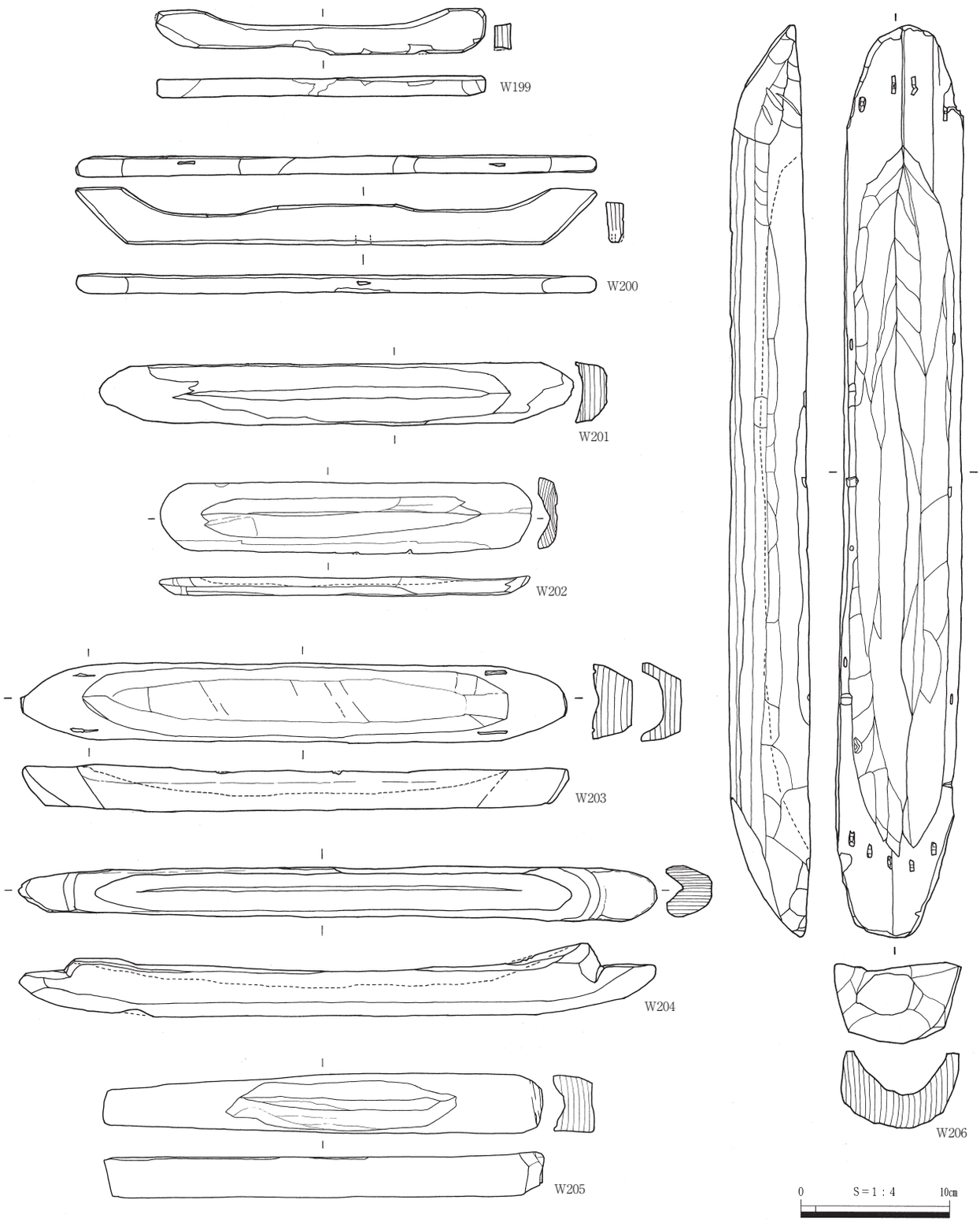


第480図　P3区条里5・6・盛土2出土木製祭祀具

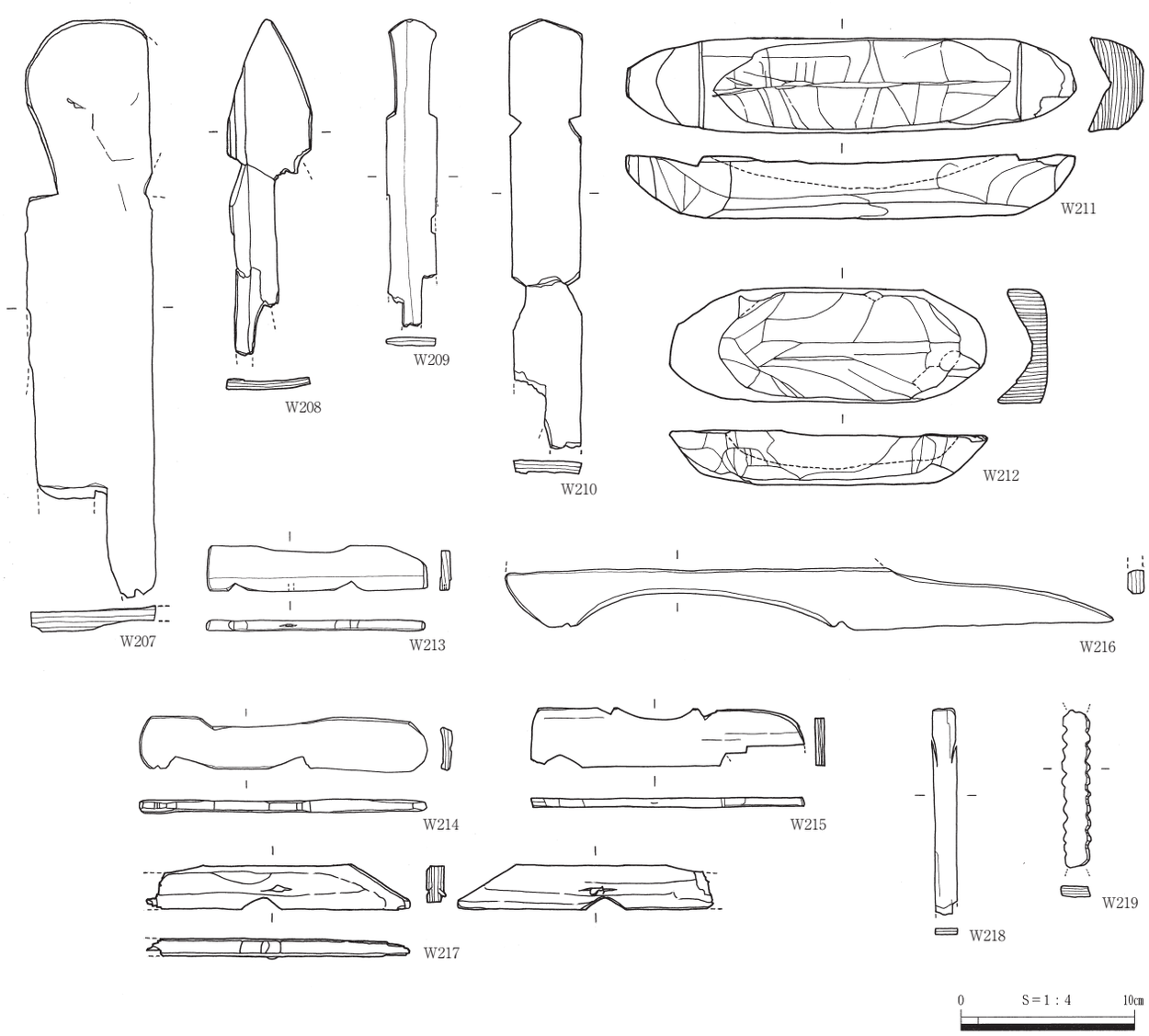


W176、W186、W192：条里９出土
W182、W189 ～ W191、W193：条里10出土
W177 ～ W181、W183 ～ W185、W187 ～ W188、W194 ～ W198：条里８出土

第481図　P3区条里8・9・10出土木製祭祀具



第482図　P3区条里8・9出土木製祭祀具

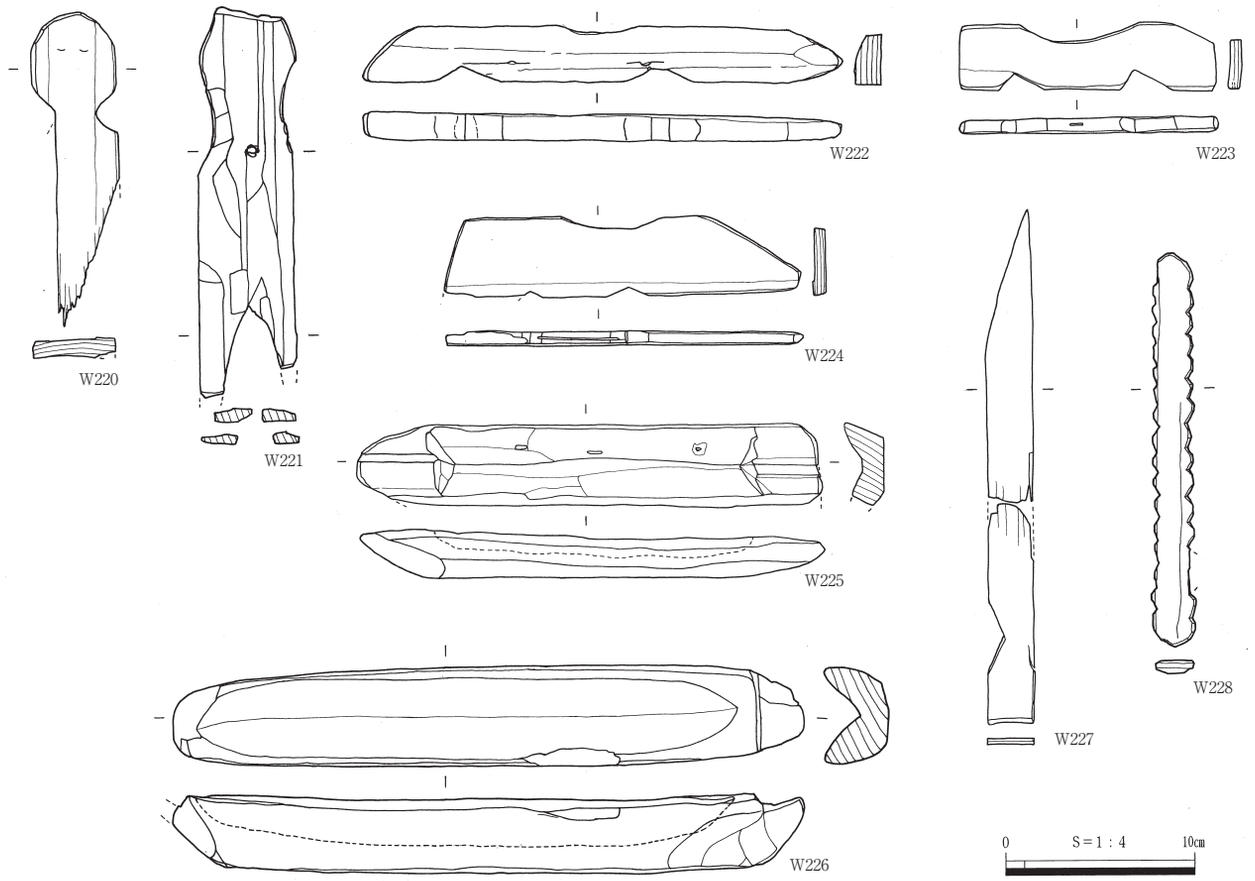


第483図　P3区Ⅳ層出土木製祭祀具

カ所みられる。W225、226は舟形である。W225は船首が弧状をなすのに対して、船尾は直線的に収める。内部の刳り抜きは長方形を呈する。W226は準構造船で、竪板を填め込む段がつくられ、船首（船尾）の立ち上がりは急である。W227は刀形で、把が切り欠きのみで表現される。

Ｐ４区出土木製祭祀具（第485 ～ 490図）

第485図は条里12から出土した資料である。W229 ～ 233は人形で、W229、230はなで肩、W233は怒り肩である。W234 ～ 245は馬形で、W246のみ飾馬である。W244は馬形ⅡBb型式で、背の切り欠きが半円形を呈する。W247は鳥形と考える。上面観を表現した平面的なもので、切り欠きで頭部をつくり出す。胴部中央に細棒を差し込む孔が開けられ、細棒自体も遺存する。W248 、249は舟形で、W248は扁平で、内部の刳り込みも浅い。



W220、W222 ～ W228：Ⅴ層出土
W221：Ⅵ層出土

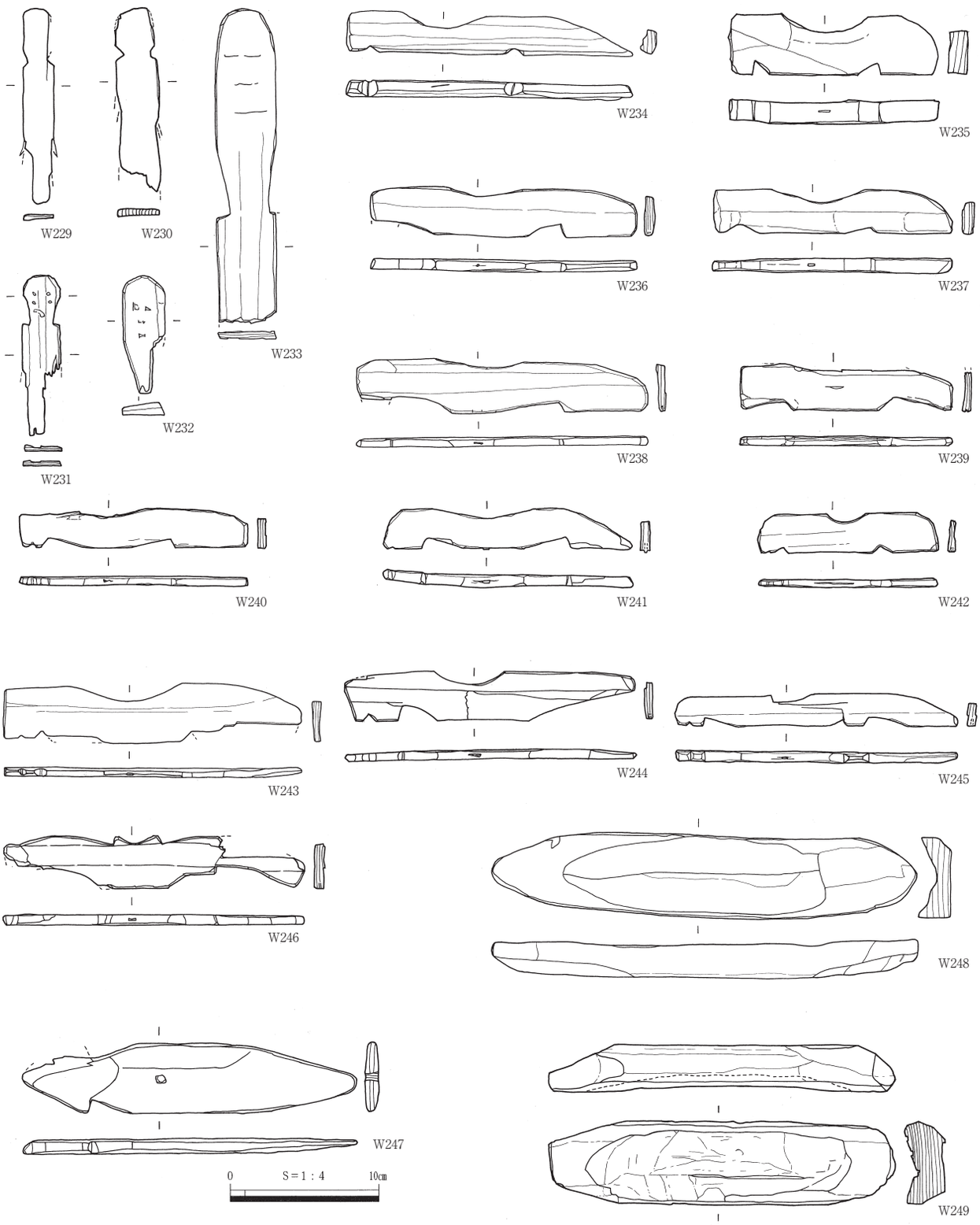
第484図　P3区Ⅴ・Ⅵ層出土木製祭祀具

第486図は条里13から出土した資料である。W251は馬形ⅡC類で、頭部の下辺がＬ字に切り取られる。W255、256は斎串で、W256は厚みのある資料で、抉りにより上端が有頭状となる。

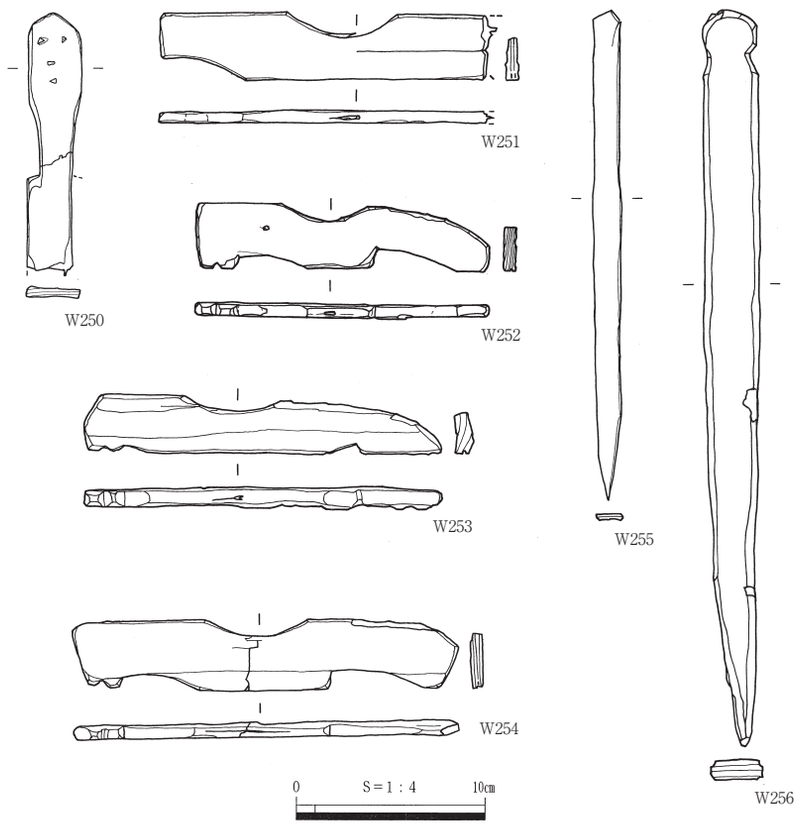
第487図は条里11から出土した資料である。W257 ～ 260は人形である。W257はなで肩の人形ＩＡ型式で、横長の頭部を持つ。刻みによる顔の表現がある。W259は胴長で、脚が短く、股は逆Ｖ字形を呈する。W260は細長い頸を持ち、手が無い。W261 ～ 265は馬形で、いずれも裸馬である。W261は寸胴で、下辺の前端が切り欠きにより尖っている。W265は上辺に切り欠きを持たない馬形ＩAa型式であるが、上辺の前後が削られ、左右対称となる。頭尾の判別はできない。下腹部に細棒が残る。W226、267は舟形で、W267は船首の上端に細棒を差し込む孔がみられる。

第488、489図はⅢ～Ⅳ層から出土した資料である。W269 ～ 275は人形である。W271は短小な人形で、手は持たない。なで肩で、刻みにより目と口の表現がある。W273の木取りは柾目であるが、本遺跡ではごく少ない。W274は腰の切り欠きをもつ人形ⅡA型式で、なで肩である。W275は大型で、怒り肩で、楕円形の頭部がつくり出される。刺突による顔の表現があるが、胴部中心にも刺突が列状に施される。

W276 ～ 289は馬形で、W276 ～ 286が裸馬、W287 ～ 289が飾馬である。W277は厚みがあり、下腹部の棒孔が下辺の切り込み中央に４ヶ所配置され、棒も遺存する。このタイプは本遺跡では他にはな



第485図　P4区条里12出土木製祭祀具



第486図　P4区条里13出土木製祭祀具

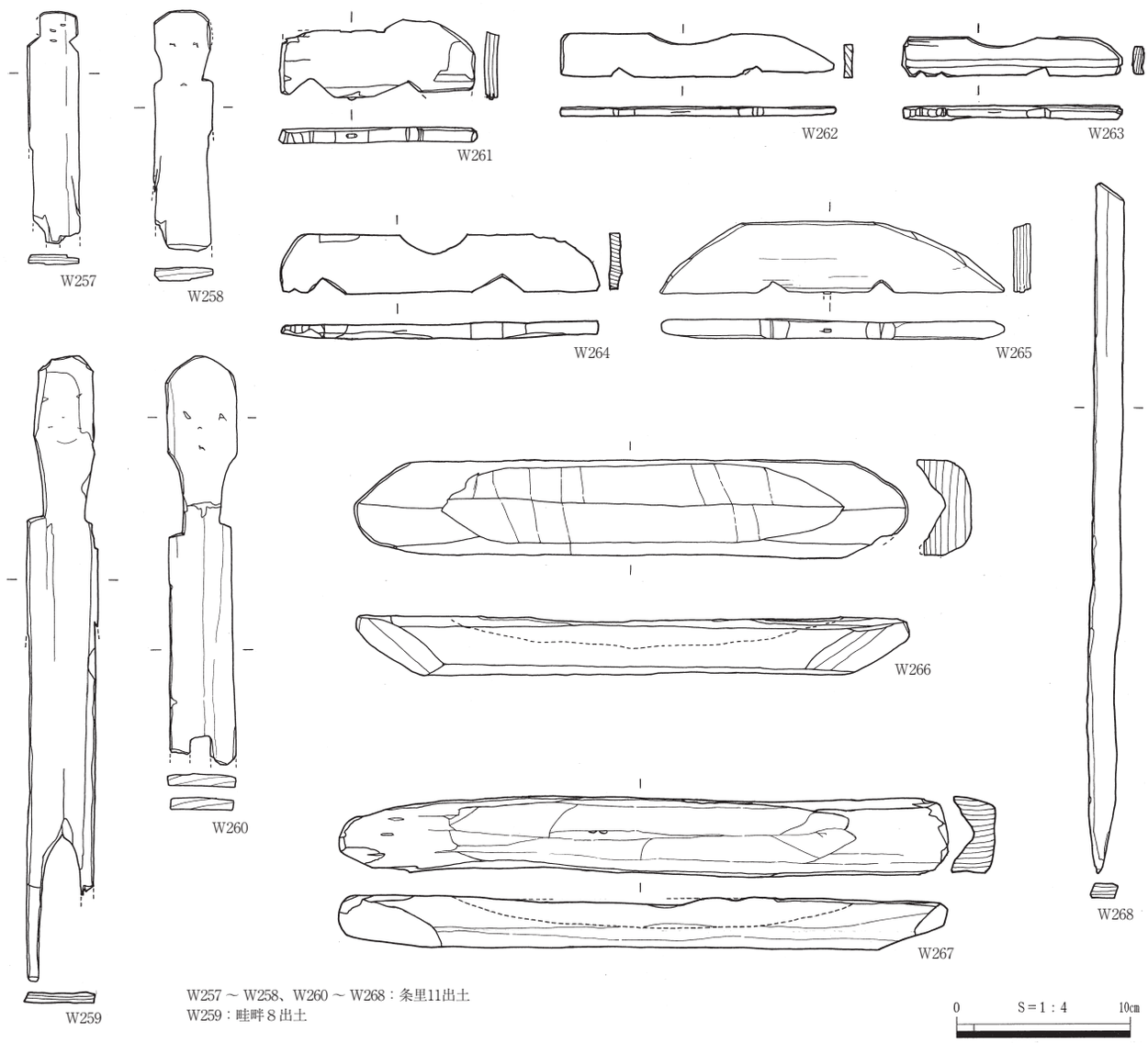
い。W280は2.3cmの厚みをもつ、立体的な馬形である。角の大部分は面取りされている。尻部は上下から削られ、尖り気味となる。両側面の切り込みには差し込まれた細棒が残る。W282は下辺の切り欠きが前方に１ヶ所のみで、尻部には切り欠きがみられる。W285は馬形ⅡDc型式で、耳が前方へ突出する。尾の先端は尖る。W287は飾馬で後脚や尾がつくり出されない馬形ⅢBa型式である。中央が長い弧状を呈する特徴的な鞍を持つ。

W290・291・294は斎串である。W290は立体的な大型品で、長さは61.1cmを測る。表面には面取り整形された際の加工痕が良く残る。W292は鎌柄形で、上端に刃部をとりつける切り込みが入れられている。W293は全形が不明ながら、両側縁に細かい切り欠きを連続して入れる。W294は棒状品で、斎串以外の可能性もある。下方の両側縁には切り欠きが１ヶ所みられる。

第490図はⅤ～Ⅵ層から出土した資料である。W303、304は舟形である。W303は扁平で、内部の彫り込みは長方形を呈する。W304は舟形で、準構造船を模したものである。船首と船尾には竪板を填め込んだ溝が掘られ、溝よりも内側の上端面には２孔一対の切り込みが入れられる。W305は農具形のエブリ形である。細長い板の下辺に細かい切り欠きが連続し、中心に柄を差し込んだとみられる棒孔が開けられている。

７区出土木製祭祀具（第491 ～ 493図）

第491、492図は条里14・15、盛土６から出土した資料である。W313は腰に切り欠きを持つ人形Ⅱ



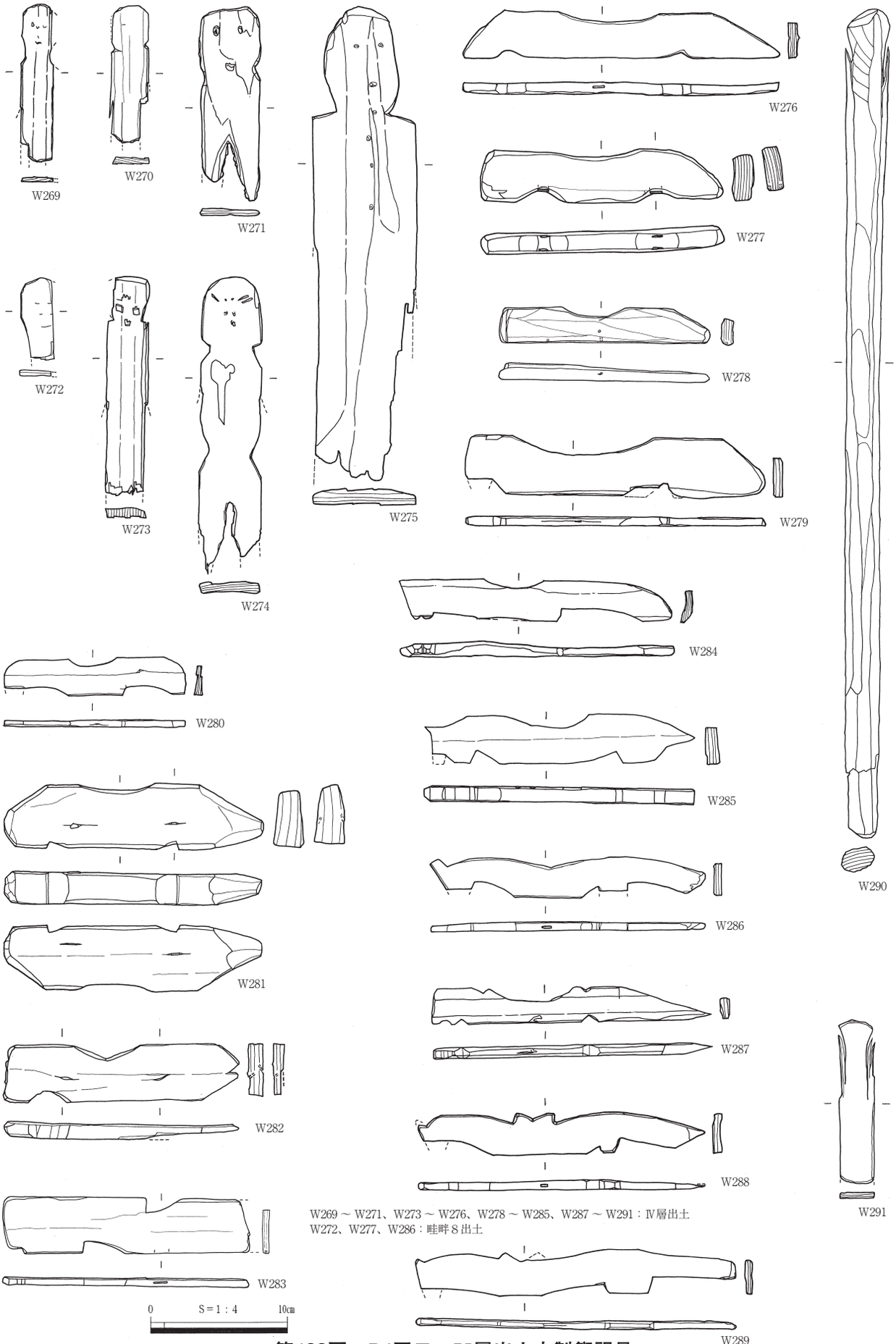
第487図　P4区条里11・畦畔８出土木製祭祀具

A型式で、方形の頭部を持つ。手が長く、脚は短い。W317は一本脚の人形で、大型の資料である。頸を持つVB型式である。W318は小型の飾馬で、反り上がる尾が尻の中央からつくり出されている。W320は馬形ⅠAb型式で、背の切り欠きを持たないが、尾をつくり出す。このタイプは本資料のみである。W325、326は人形の脚部破片とみられ、墨書に波状の文様が描かれる。服装を表現したのであろうか。

第493図はⅣ層から出土した資料である。W333、334は頭部の下辺が斜めに削られ、先端を丸く収める太い尾を持つ。両者は形態が類似するが、W334は鞍を持つ。

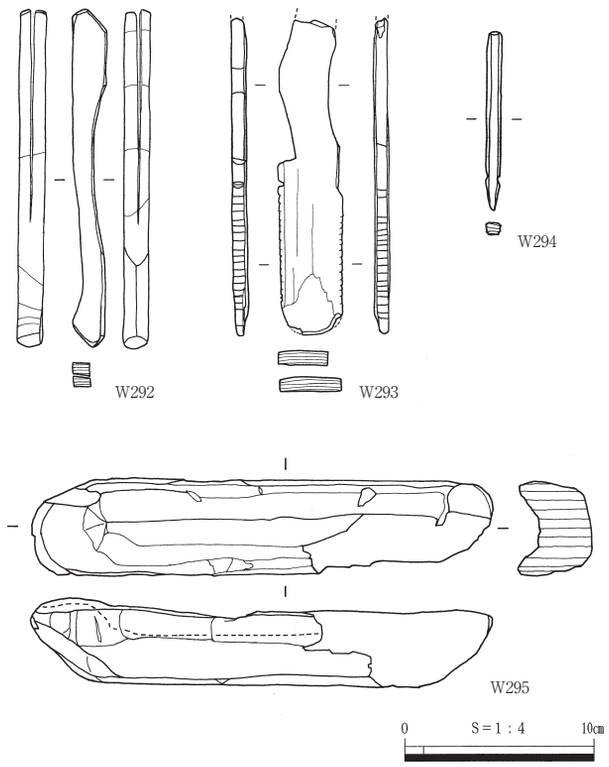
Ｐ５区出土木製祭祀具（第494 ～ 498図）

第494図は条里14から出土した資料である。W335 ～ 339は人形で、いずれも墨書や刻みによる顔表現がある。W335は頭部に角状の突起が２つつくり出され、墨書も施され、結い上げた髷状の髪形を

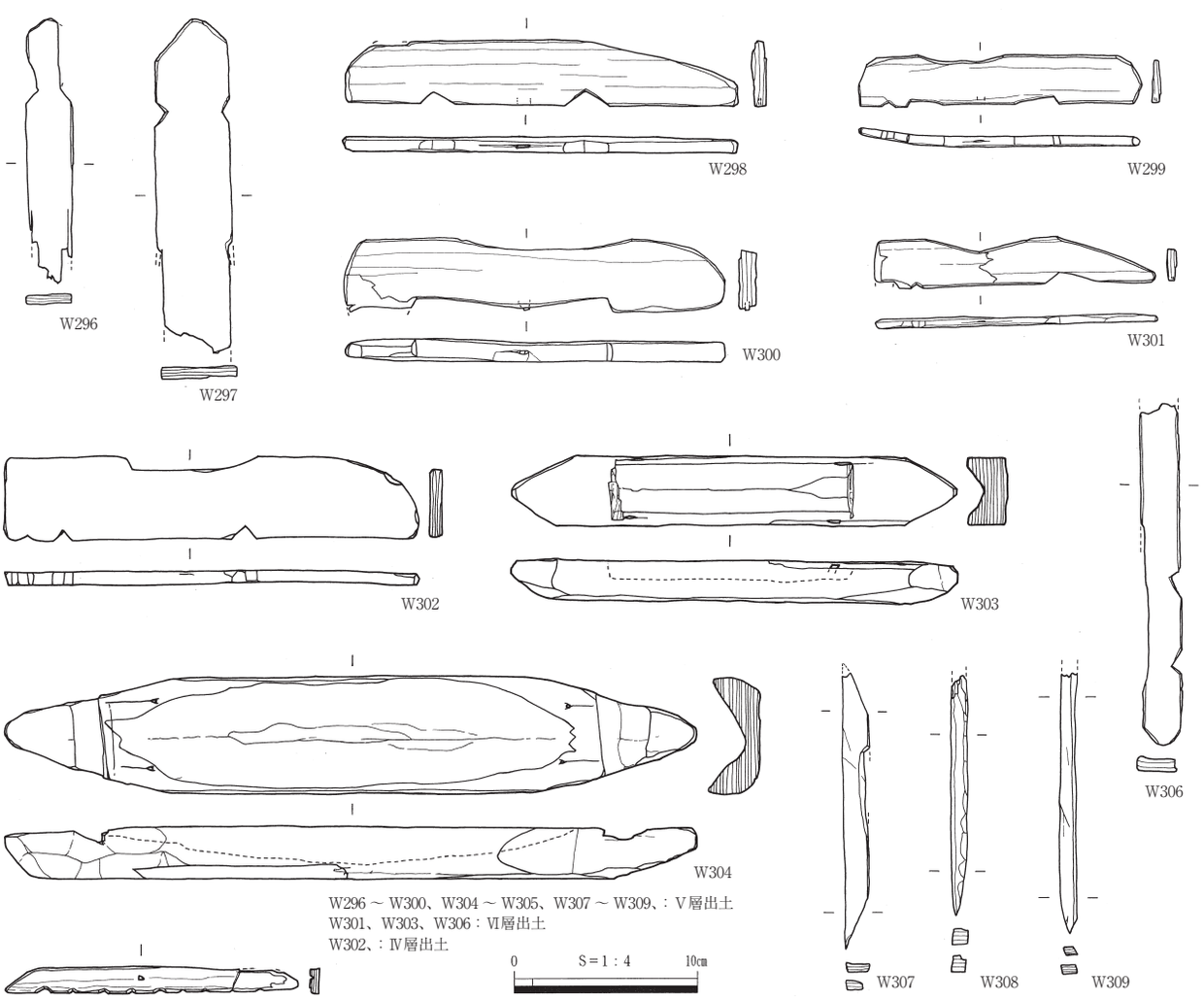


W269～W271、W273～W276、W278～W285、W287～W291：Ⅳ層出土
W272、W277、W286：畦畔８出土

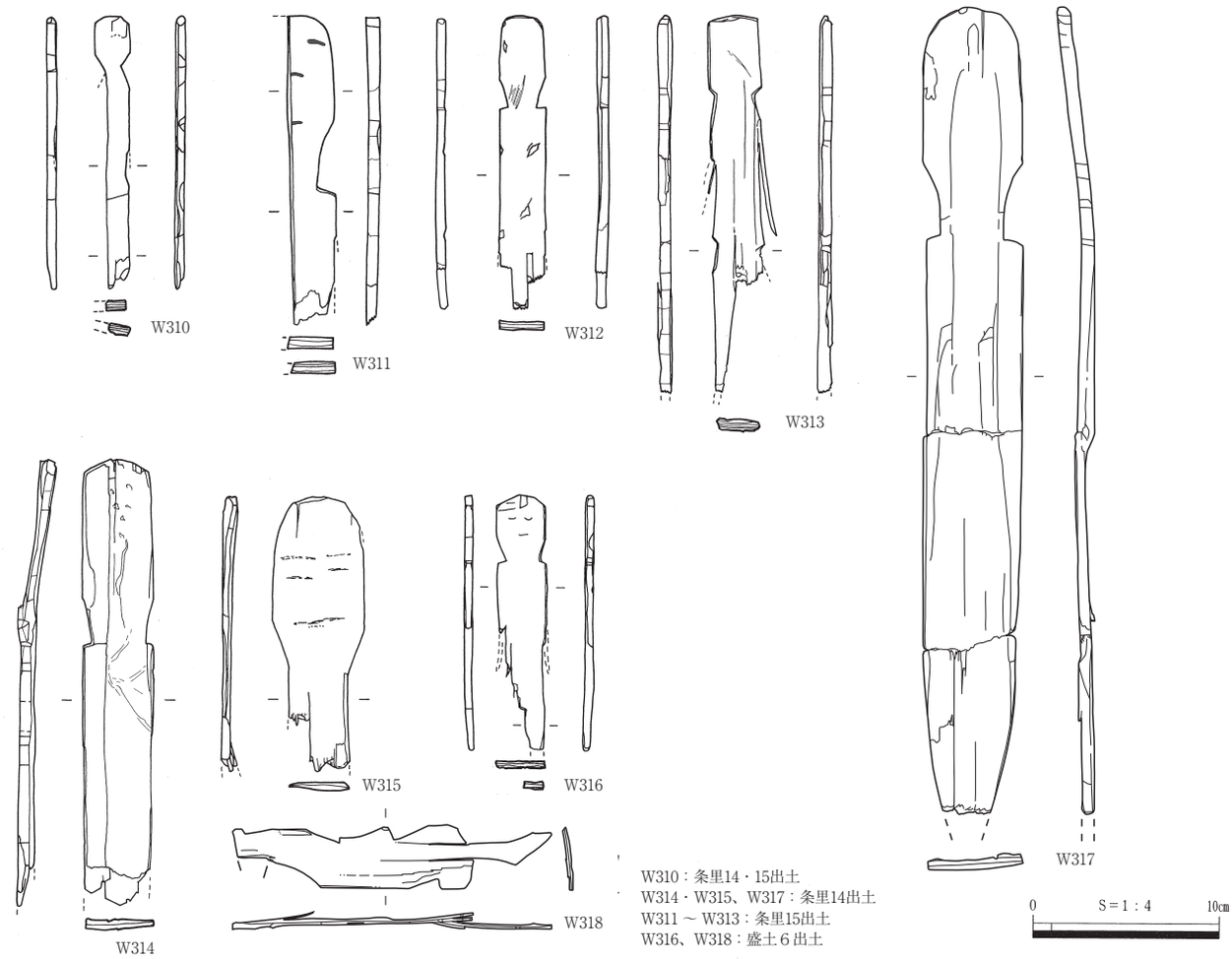
第488図　P4区Ⅲ・Ⅳ層出土木製祭祀具



第489図　P4区Ⅳ層出土木製祭祀具



第490図　P4区Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層出土木製祭祀具

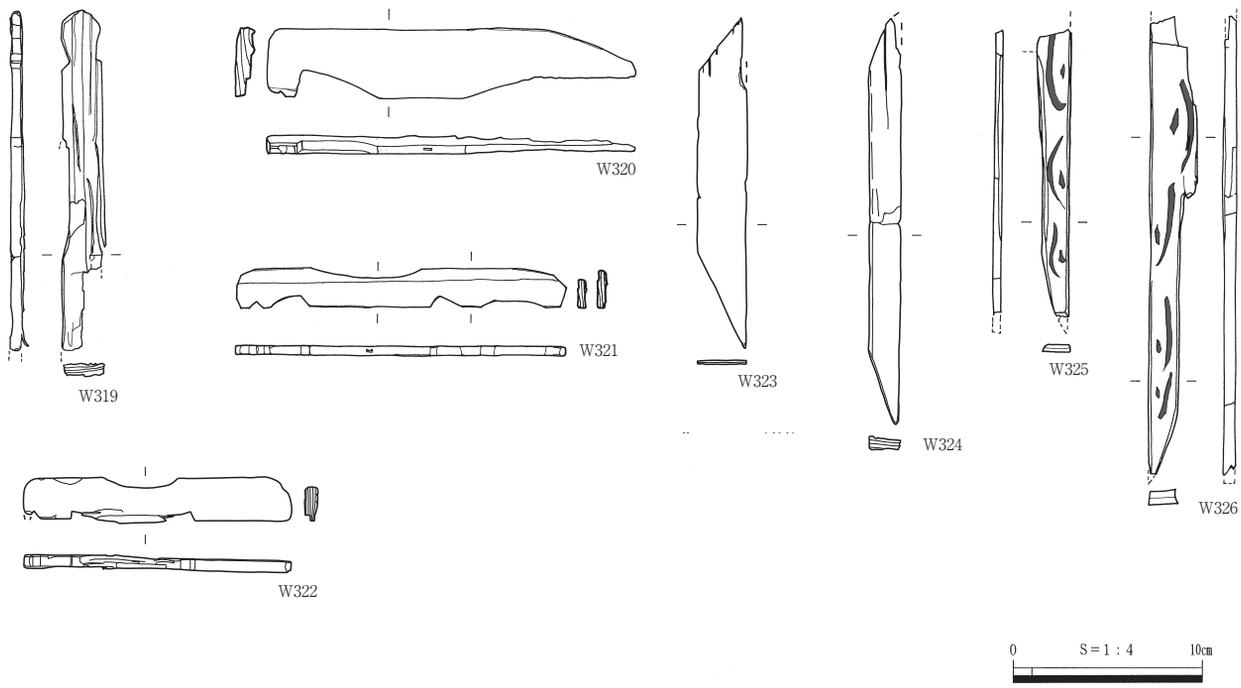


第491図　７区条里14・15・盛土6出土木製祭祀具

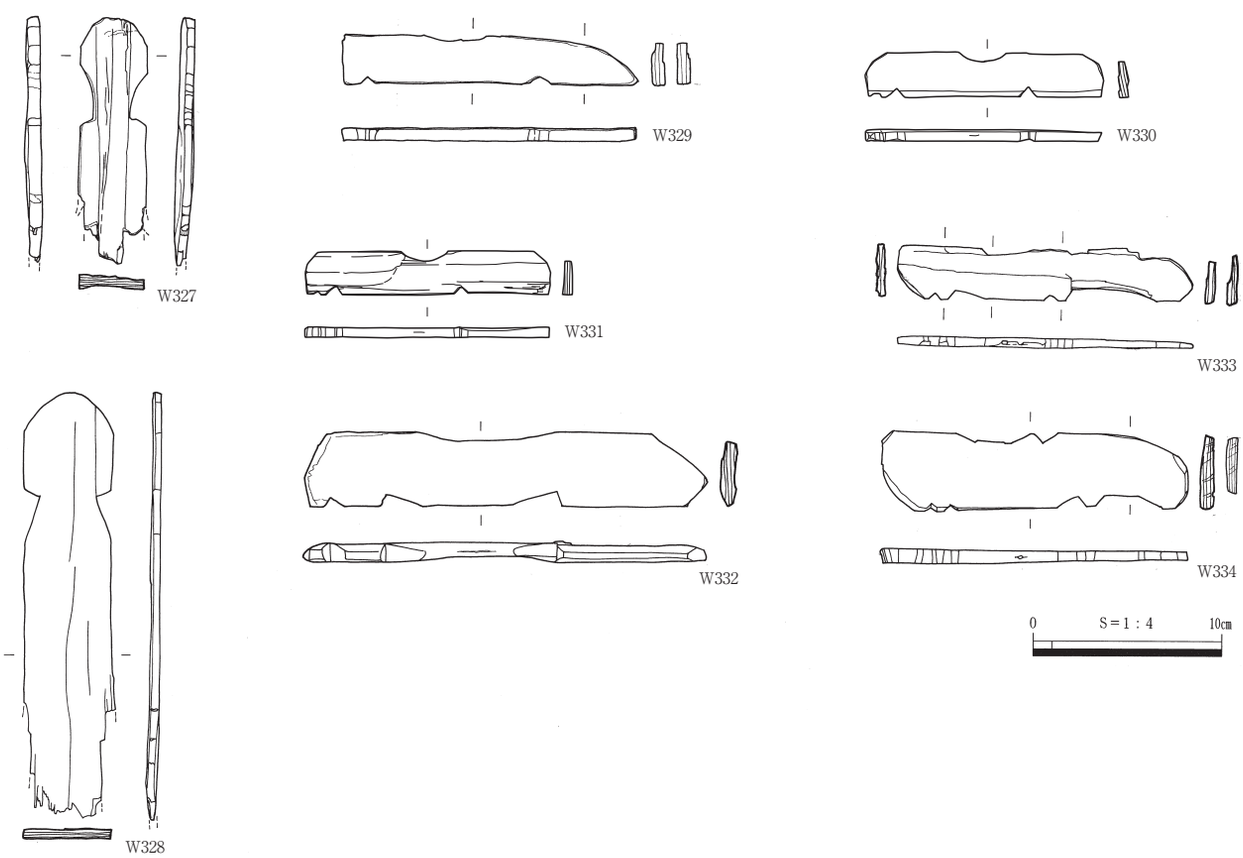
表現しているとみられ、女性像と考えられる。脚の形態は不明である。W337も頭部に縦縞状の墨書があり、髪、または被り物が表現されている。W340 ～ 343は馬形である。W342は目を刻みで表現し、尻部が流線形をなす。W343は馬形としたが、背に抉りがなく、下腹部の棒孔もみられないことから明確ではない。W343は扁平な舟形で、内部の刳り込みは行わない。ただし、上面はやや凹状となる。上面には５ヶ所に棒孔がみられ、中央の孔は自立させるためのもので、棒も遺存している。それに対して、四隅の棒孔は上部に取り付けられた何らかの付属物とみられる。

第495図は条里15から出土した資料である。W345 ～ 348は人形で、W346は楕円形の頭部に耳がつくり出されている。顔は刻みと墨書により眉毛や目、鼻、口もしくは髭が写実的に描かれている。W349、350は馬形である。W350は小型の飾馬ⅢDc型式で、下辺の後端を斜めに切り落とすことで後脚と尾を表現している。

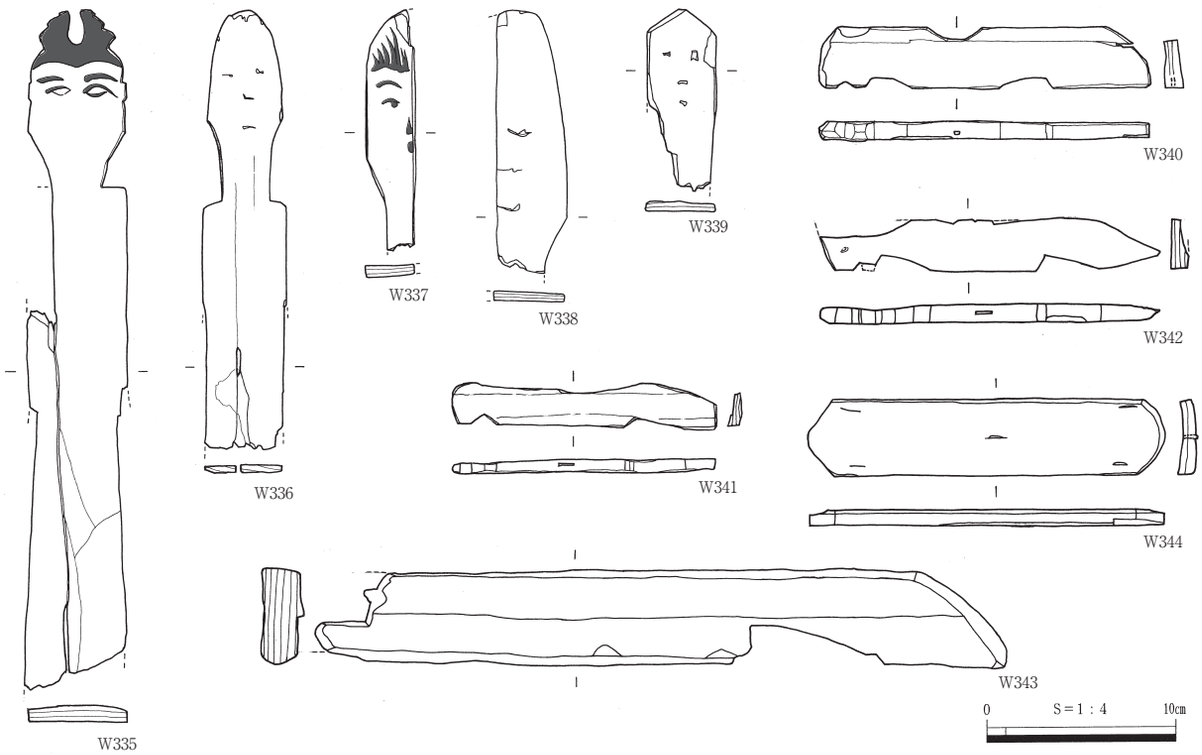
第496図は条里14、もしくは条里15から出土した資料で、両条里の交点から出土した資料である。W351 ～ 358は人形である。W351はなで肩で、楕円形の頭部を持つ。胴部には表面に整形時の加工痕が明瞭に残る。W354は手を省略した人形ⅣB類で面取り整形され、やや立体的となる。下半身は欠損するが、股はコの字形となる。W359 ～ 363は馬形である。W359は耳を持ち、刻みによる目の表現がある。尻部は上下から弧状に削られ、丸みを帯びる。W360は馬形ⅠAa型式で、大型品である。細



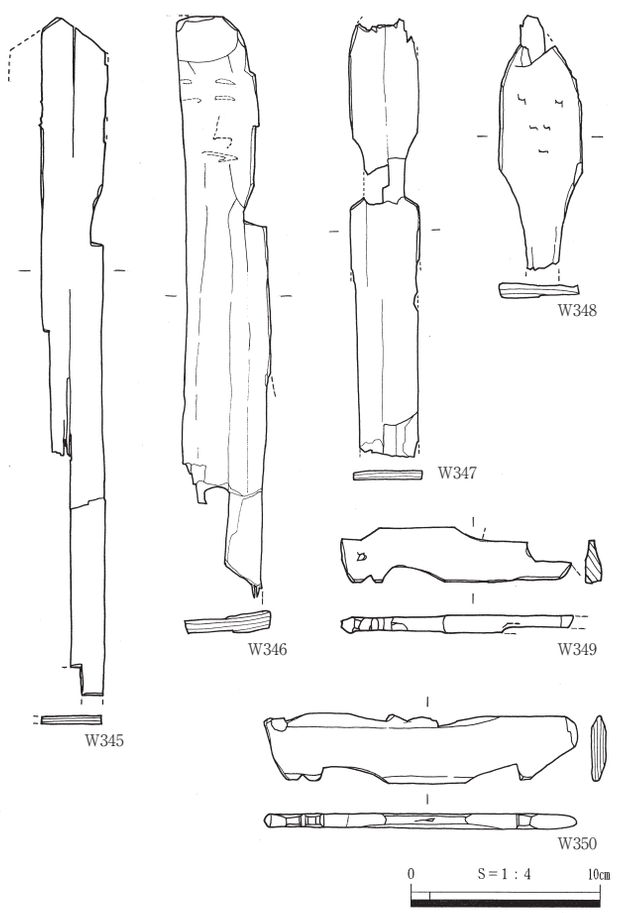
第492図　７区条里14・15、盛土６出土木製祭祀具



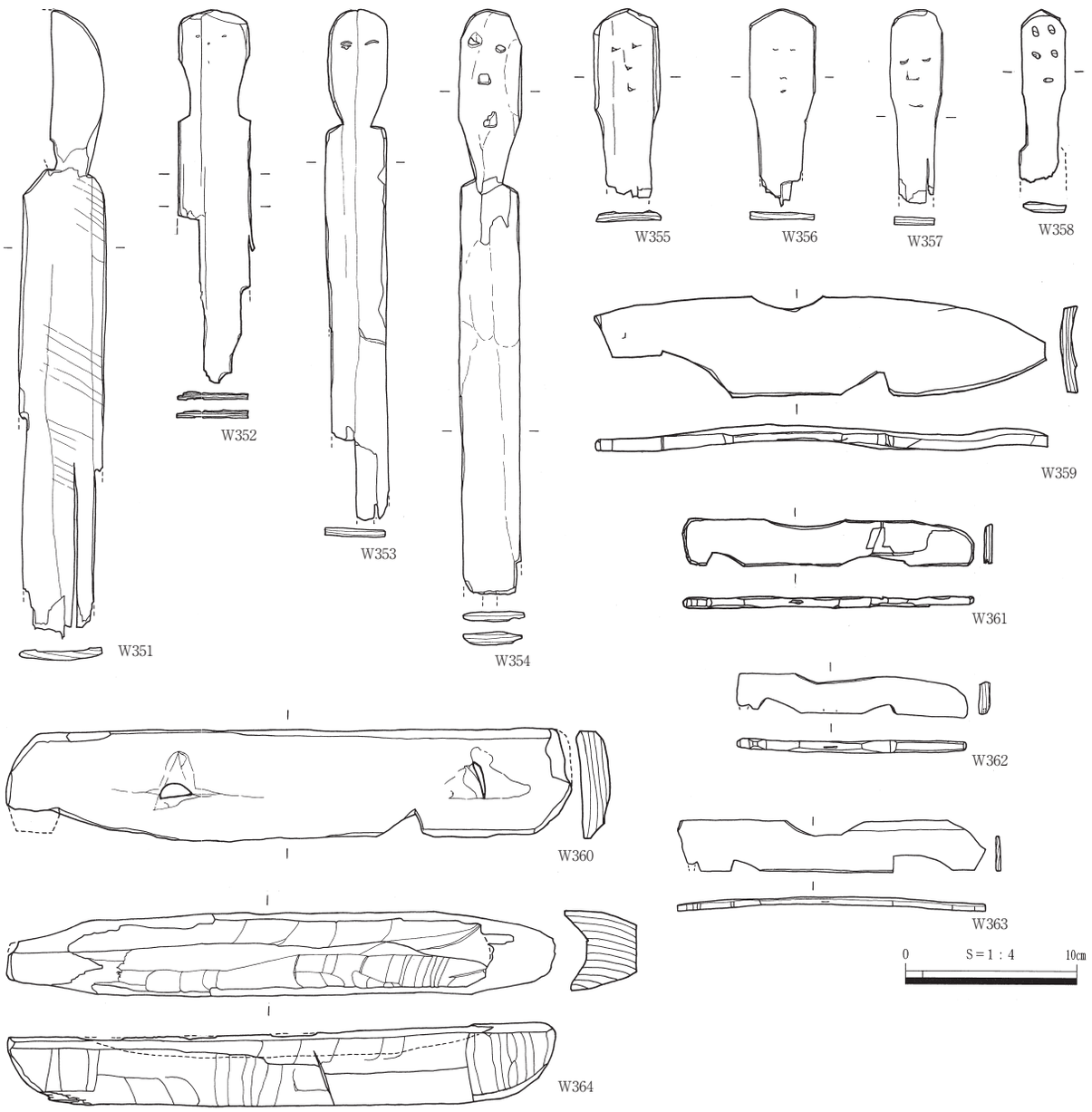
第493図　７区Ⅳ層出土木製祭祀具



第494図　P5区条里14出土木製祭祀具



第495図　P5区条里15出土木製祭祀具



第496図　P5区条里14・15出土木製祭祀具

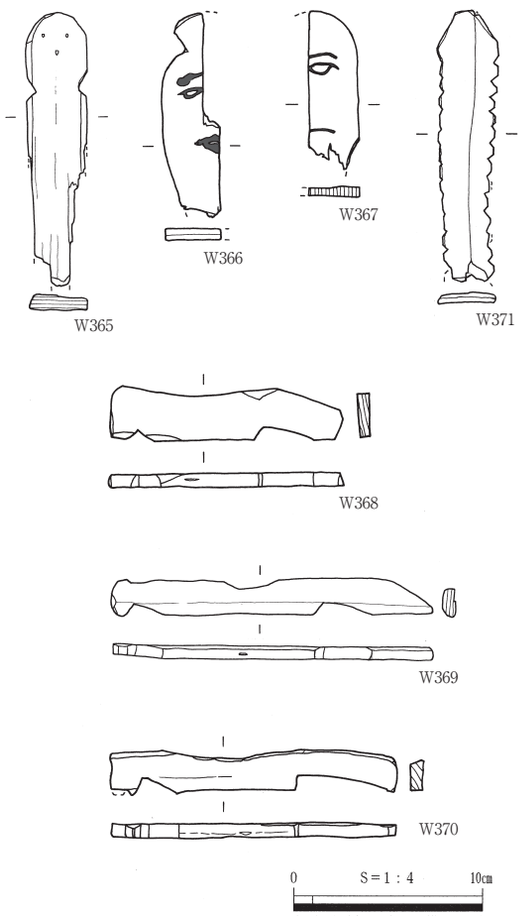
棒が差し込まれた切り込みが側面の４ヶ所に残る。

第497図は盛土７・９から出土した資料である。W365 ～ 367は人形で、いずれも顔表現がある。W366は頭部に扇状の突出部がつくり出され、髷、もしくは被り物の表現とみられる。W368 ～ 370は馬形で、W369は耳がつくり出されて可能性もあるが、判然としない。

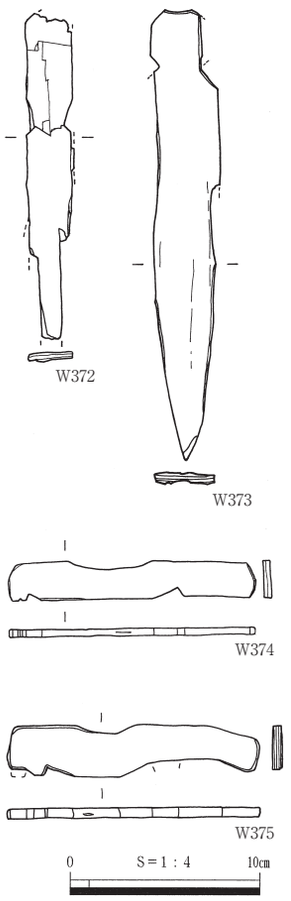
第498図はⅣ層から出土した資料である。W373は人形ⅢA型式で、剣先状の脚を持つ。小品の、なで肩をもつ資料である。

Ｐ６区出土木製祭祀具（第499 ～ 505図）

第499図は盛土11から出土した資料である。W376 ～ 380は人形で、W376 ～ 378は全長70㎝を越える大型のものである。３点は重なった状態で出土しており、束ねられていた可能性を持つ。いずれも



第497図　P5区盛土7・9出土木製祭祀具



第498図　P5区Ⅳ層出土木製祭祀具

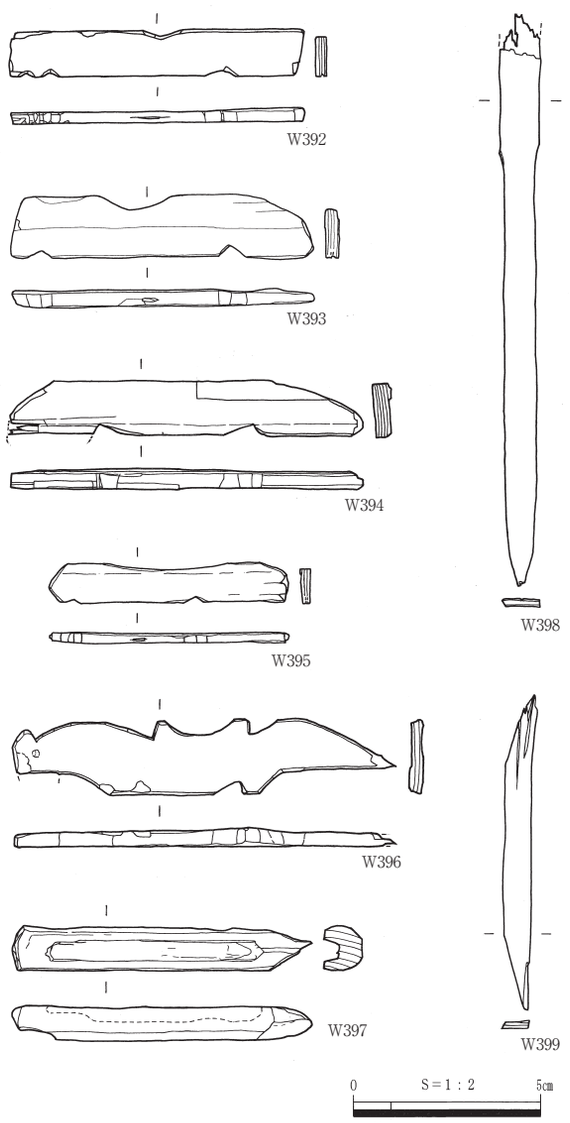
怒り肩で、頸を持つ人形ⅣA型式である。頭部は両側から削り込まれ、股は平行する切り込みを２本入れ、中央を折り取ることでつくり出す。脚の下端は内側を斜めに切り落としている。W381 ～ 384は馬形である。W381は墨書により目以外に胴部に波状の表現がある。手綱の可能性もあるが、２本描かれていることから判然としない。W385は平面舟形で、上面には中央、及び四隅に棒孔がみられる。W387は刀形で、上下２ヶ所に切断痕とみられる切れ目が入る。W388 ～ 390は斎串で、W390は側面の片側のみ切り欠きがみられる。下半は把状の形態をなす。

第500図は条里16から出土した資料である。W397は小型の舟形で、形状から右側が船首、左側が船尾であろう。W398は斎串で、下半は両側縁から削り込まれ、幅が狭められている。上端は欠損する。

第501図は盛土14・15から出土した資料である。W400、401は人形である。W401は棒状の立体人形であろうか。W404、405は馬形である。W405は上辺の頭部に切り込みがみられる。兵庫県の袴狭遺跡群などに類例があり、たてがみを表現している可能性もあるが、本遺跡で本資料のみであるため、躊躇される。目は貫通孔で表現されている。W402は斎串としたが、刀形の可能性もあるか。下端に小孔が開けられている。

第503図は河道６から出土した資料である。W407は、408は人形である。W407は人形ⅠA型式で、円形の頭部を持ち、なで肩である。W408は上半身のみで、大型品である。頭部は圭頭で、下がり肩を持つ。深く彫り窪められることで目と口が表現されている。W410は農具形で、エブリを模したも

第499図　P6区盛土11出土木製祭祀具



第500図　P6区条里16出土木製祭祀具

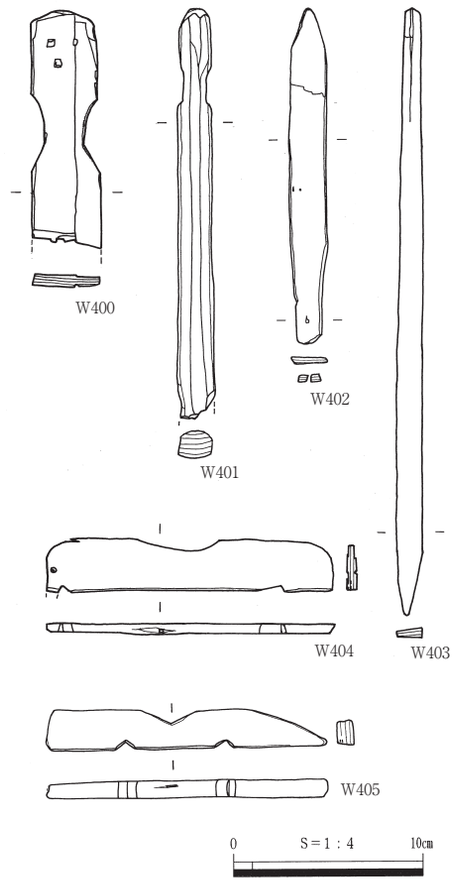
のである。中央には柄を差し込む大きめの棒孔が開けられている。W411は武器形で、槍、もしく矛を摸したものと考える。

第504図はⅢ～Ⅳ層から出土した資料である。W418は舟形で、準構造船を摸したもので、船首(船尾)に幅広い彫り込みがある。舟槽の彫り込みは浅い。W419は工具形と考えられ、有肩鉄斧を摸したものと考える。中央に棒孔が開けられている。W420 ～ 424は斎串で、W420は側縁の切り欠きの大きさが左右で異なる。

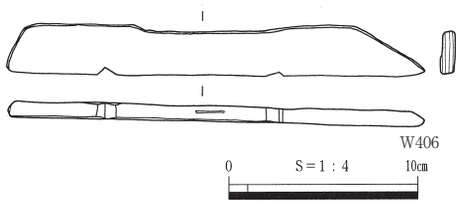
第505図はＶ層から出土した資料である。W425は人形ＩＡ型式で、なで肩である。W427はやや立体的な斎串で、下端は片側からのみ切り落とされている可能性が高い。

Ｐ７区出土木製祭祀具(第506 ～ 510図)

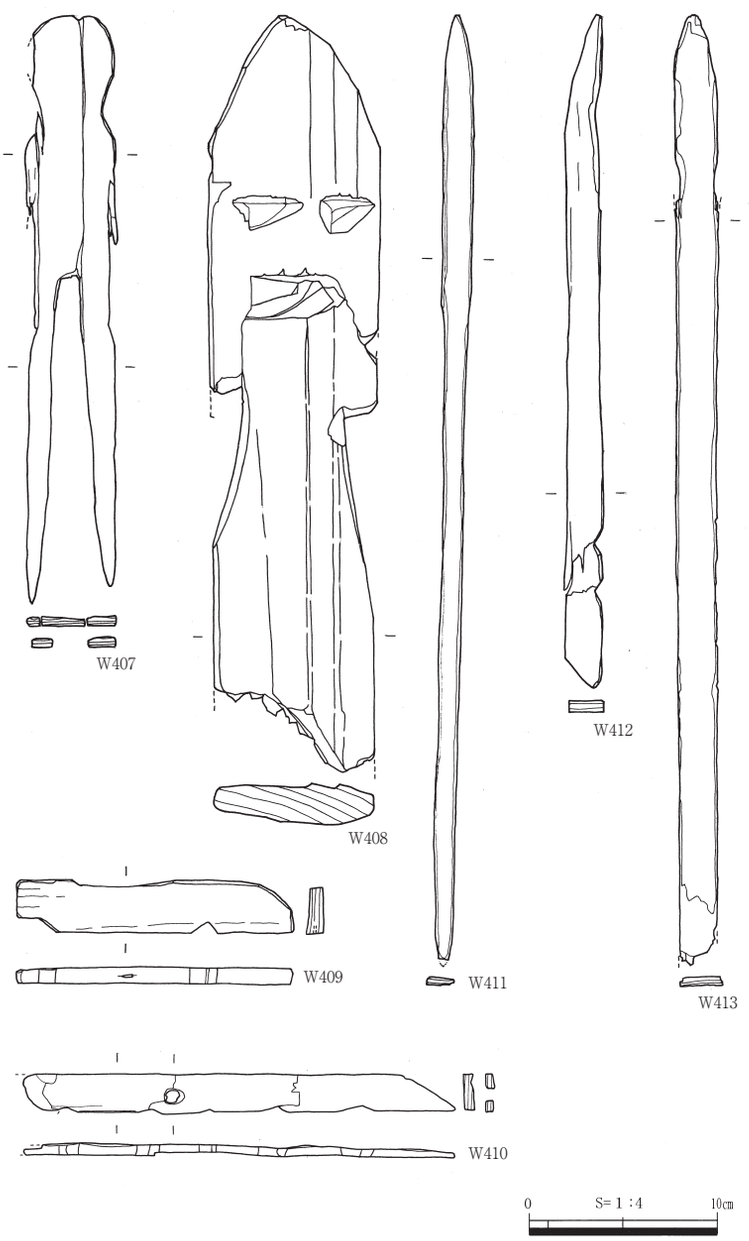
第506図は道路１から出土した資料である。W430 ～ 432は人形である。W430、431は手を持たない可能性が高い。W432は半欠品で、頭部に宝珠状のものがつくり出され、股は逆Ｖ字形である。肩の形状は不明である。W433は算盤玉のような頭部を持つ。怒り肩で、肩部の切り欠きが顔の中程に



第501図　P6区盛土14・15出土木製祭祀具



第502図　P6区盛土17出土木製祭祀具

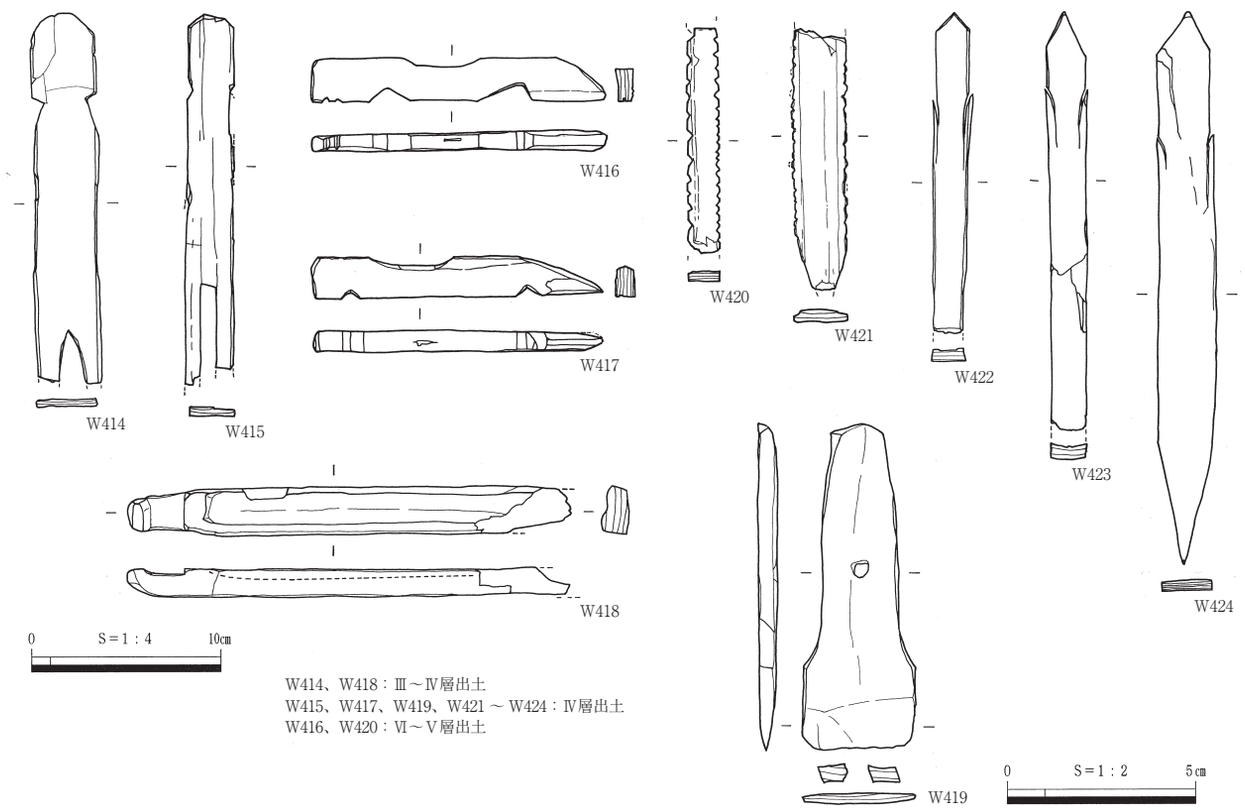


第503図　P6区河道6出土木製祭祀具

達している。手の有無は不明である。W434 ～ 440は馬形で、W440のみ飾馬である。W439は口の切り欠きが片寄り、顎が大きい。W436は馬形ⅡBc型式で、細長い尾を持つ。W440は後脚がつくり出されるが、尾がない。飾馬で尾のないタイプは本資料のみである。W441は鳥形と考える。前端に段を作り出し、顔を表現する。胴部は丸く、尾は短く上方に突出する。下腹部に棒孔が開けられる。W442 ～ 443は武器形で、槍、もしくは矛であろう。

第507図は道路１の道路外盛土と条里20から出土した資料である。W447は馬形で、典型的なⅢBd型式である。大きく反り上がる尾をもつ。鞍の中央に切り欠きを持たない。W448は祭祀具に含めたが、性格不明である。

第508図は溝８から出土した資料である。ただし、上層の道路１の改修盛土や道路外盛土に本来帰属する資料も含んでいる。W447 ～ 457は人形で、W449 ～ 451は人形ⅠA型式で、W449は股が逆V



第504図　P6区Ⅲ～Ⅳ・Ⅳ・Ⅵ～Ⅴ層出土木製祭祀具

字形であるのに対してW450はコの字形となる。W452は小型品で、肩の切り欠きや手は持たない。短小な脚のみがつくり出されている。W458 ～ 462は馬形、W463は舟形である。W463は船首と船尾が一段高くつくり出されている。

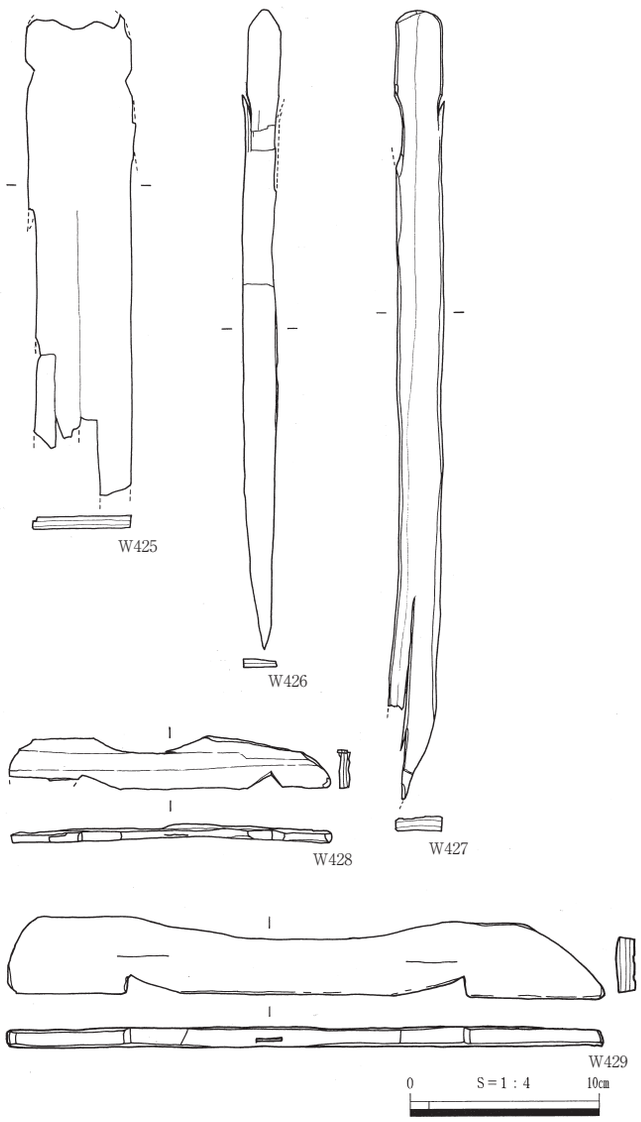
第509図は河道６と盛土20から出土した資料である。W466は下がり肩をもつ人形であるが、肩の切り欠きが腰まで達している。頭部は砲弾形を呈し、刺突により目と鼻が表現されている。W469・471は斎串で、W469は頭部が圭頭で、両側から切り込みを均等に入れる。W470は中程に刀子による切れ目が入り、切断痕とみられる。W471は扁平な舟形で、舟槽の切り込みもごく浅い。船首と船尾、舷側の上端に小孔がみられる。

第510図はⅣ～Ⅴ層から出土した資料である。W479は形状から蛇形の可能性があるが、断定はできない。W480はエブリ形で、柄が差し込まれた状態で残る。W482は形態がエブリ形と同じであるが、柄の棒孔がみられないことから斎串に分類した。

Ｐ８区出土木製祭祀具（第511 ～ 515図）

第511図は道路１から出土した資料である。W483 ～ 490は人形である。W484 ～ 489は頭部破片で、W488を除き、墨書や刻みによる顔の表現がある。W485は髪、または被り物や顎髭が写実的に描かれている。W491は牛形と考える。尻部の上辺が盛り上がる。下辺の切り欠きは２カ所である。

第512図は条里21・22から出土した資料である。W496は人形の胴部、もしくは脚部破片と考えられる。墨書により円弧のような文様がみられ、服を表現したものであろうか。W495は馬形で、幅が広い。口を欠いているが、ⅢBa型式で、側面に切り込みが４ヶ所ある。



第505図　P6区Ⅴ層出土木製祭祀具

第513図は溝10から出土した資料である。ただし、上層の道路１の改修盛土や道路外盛土に本来帰属する資料も含んでいる。W501は馬形で、ⅢＤａ型式で、耳と口を欠損する。尻部の後端は直線的に切り落としたままである。W502は舟形で、舟槽を彫り窪め、船首と船尾を一段高くつくる。W499は斎串で、両側縁の切り欠きは上下両方から施される。

第514図はⅣ層から出土した資料である。W503は人形ⅡＡ型式で、平坦な頭部を持ち、肩部はナデ肩を呈する。W506は側面人形の上半身で、頭部には被り物、鼻がつくり出される。被り物は墨書でも表現されている。W508は斎串で、切り込みにより、上端が菱形を呈する。

第515図はⅤ～Ⅶ層にかけて出土した資料である。W509は一本脚の人形ⅢＡ類で、なで肩の小型品である。W514はエブリ形で、棒孔は切り込みとなる。

５区出土木製品（第516図）

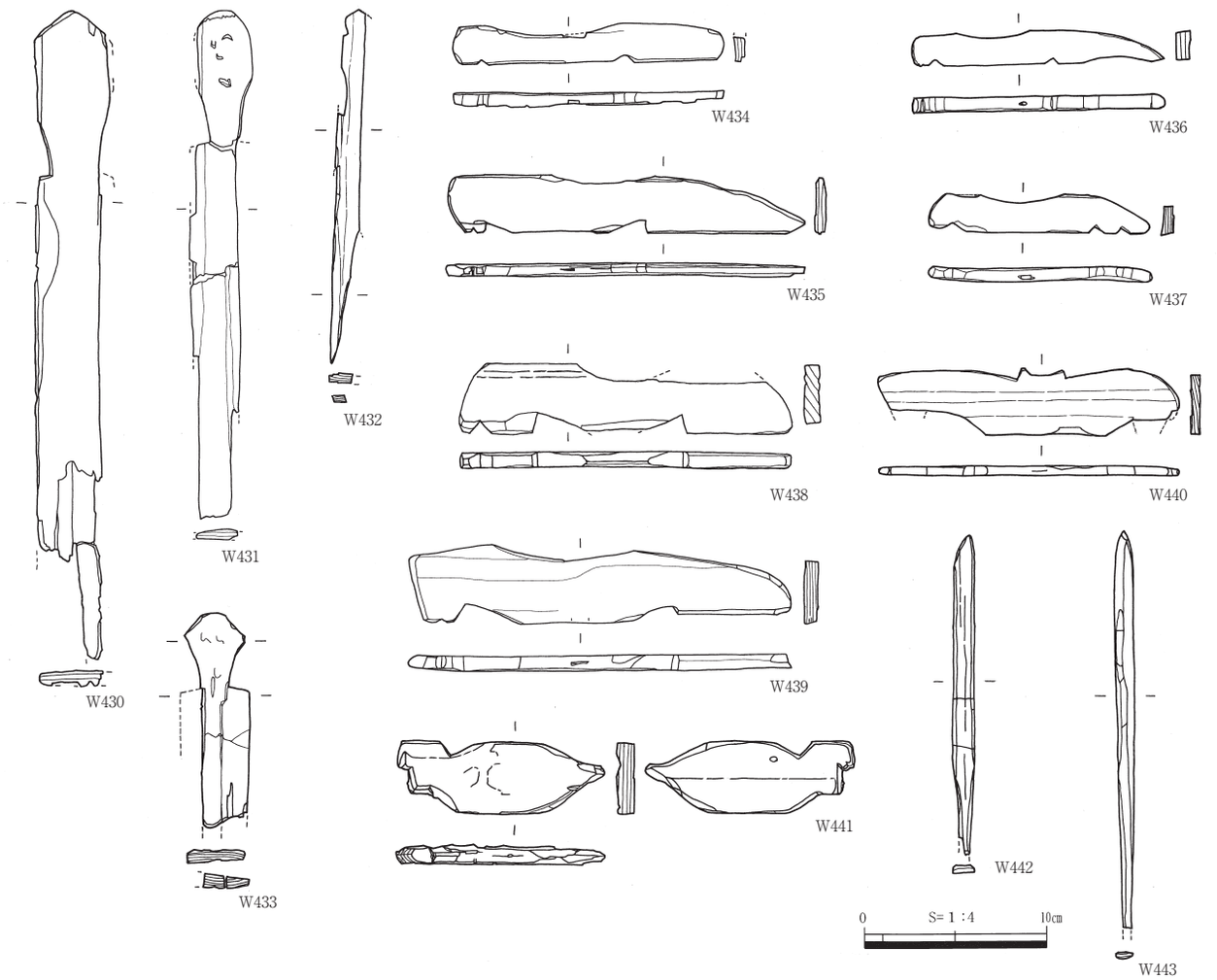
W517が条里25、その他はⅣ～Ⅴ層から出土した資料である。W518は馬形ⅡBc型式で、尾が水平につくり出され、先端が尖っている。疾走する姿が想起される。W527は切り込み付近の表面に溝状の切断痕がみられる。

Ｐ９区出土木製祭祀具（第517～520図）

第517図は道路１から出土した資料である。W531、532は長方形の板に切り欠きを入れたのみの馬形である。W533は馬形ⅢＤａ型式で、尻尾の端部を丸く仕上げる。下辺前側の切り欠きが曲線的で、頸を意識している。W536は勾玉形である。W541は刀形と考える。刀身のみをかたどり、短い茎を持つ。W542は剣形の可能性があるが、刃は付けられていない。

第518図は道路１の道路外盛土から出土した資料である。W543～545は人形である。W543は頭部を山形につくり、顔が非常に長細い。刻みによる顔表現と形状が一致しない。

W544はやや右を向いた姿を墨書で表現した特殊な人形である。髪や眉毛、鼻、目、顎、服装が流れるような筆使いで写実的に描かれている。頸には仏に特徴的な三道が描かれ、目は上まぶたを強く、下まぶたを弱く描く。鼻翼は内側へ丸め、左耳は長く垂れ下がる。衣装は大雑把に描かれているが、偏袒右肩を表現しているとみられる。人形としての形態は肩部にのみ僅かに切り欠きを入れたシンプ



第506図　P7区道路1出土木製祭祀具

ルなもので、脚の形状は欠損により不明である。腰付近には刀子などによる切り込みがみられ、切断痕とみられる。描写の諸特徴から仏(如来像)を描いていると考えられる[1)]。

W555 ～ 557は舟形で、W555は扁平で、舟槽を僅かに削り込む。W557、556は四隅に棒孔が開けられ、挿入された細棒も遺存する。W557は本遺跡で最も小型の部類であるが、立体的につくられている。

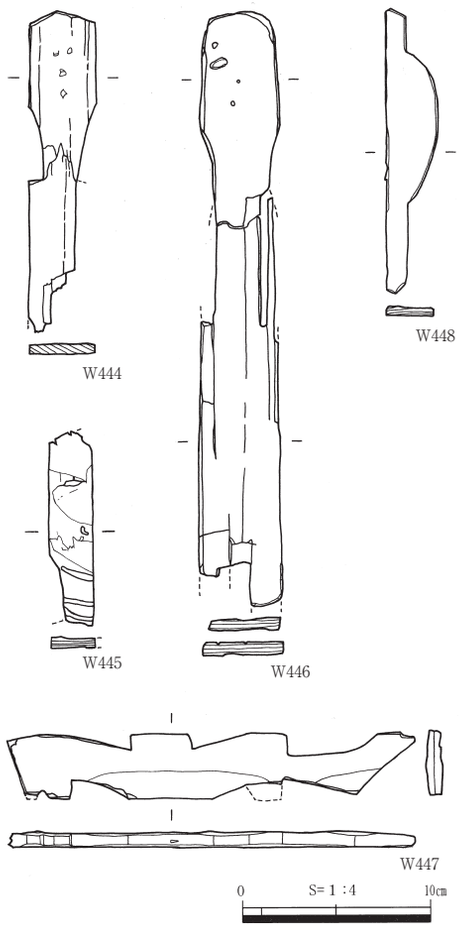
第520図は河道６から出土した資料である。W562 ～ 566は人形で、W562、563は人形ⅣA型式で、小型のものである。W564 ～ 567は腰の切り欠きをもつ人形ⅡA型式である。いずれもなで肩で、脚が短く、股の形状は逆Ｖ字形とみられる。W566は顔の目とみられる墨書がみられる。W571は側面観のみを表現する平面舟形ⅡB類である。

【註】

1)百橋明穂氏のご教示による。

Ｐ10区出土木製祭祀具(第521 ～ 528図)

第521、522図は道路１第１次盛土の敷葉・敷粗朶層から出土した資料で、時期は７世紀後葉から８世紀初頭である。出土した資料はW622の舟形を除き、他の遺構出土資料の比べ、小型で、厚さも薄



第507図　P7区条里20・道路1道路外盛土出土木製祭祀具

い。W577 ～ 587は人形で、なで肩をもつＩＡ型式と怒り肩で、頸をつくり出すⅣＡ型式が出土する。W577 ～ 579、581、584はⅣＡ型式で、楕円形の頭部にコの字形の股を持つ。両脚の先端は内側を斜めに切り落とす。W580は異形で、肩や手がなく、脚部のみである。脚は中程に切断痕がみられる。未成品の可能性もあろうか。W586、587は刻みによる顔表現がある。

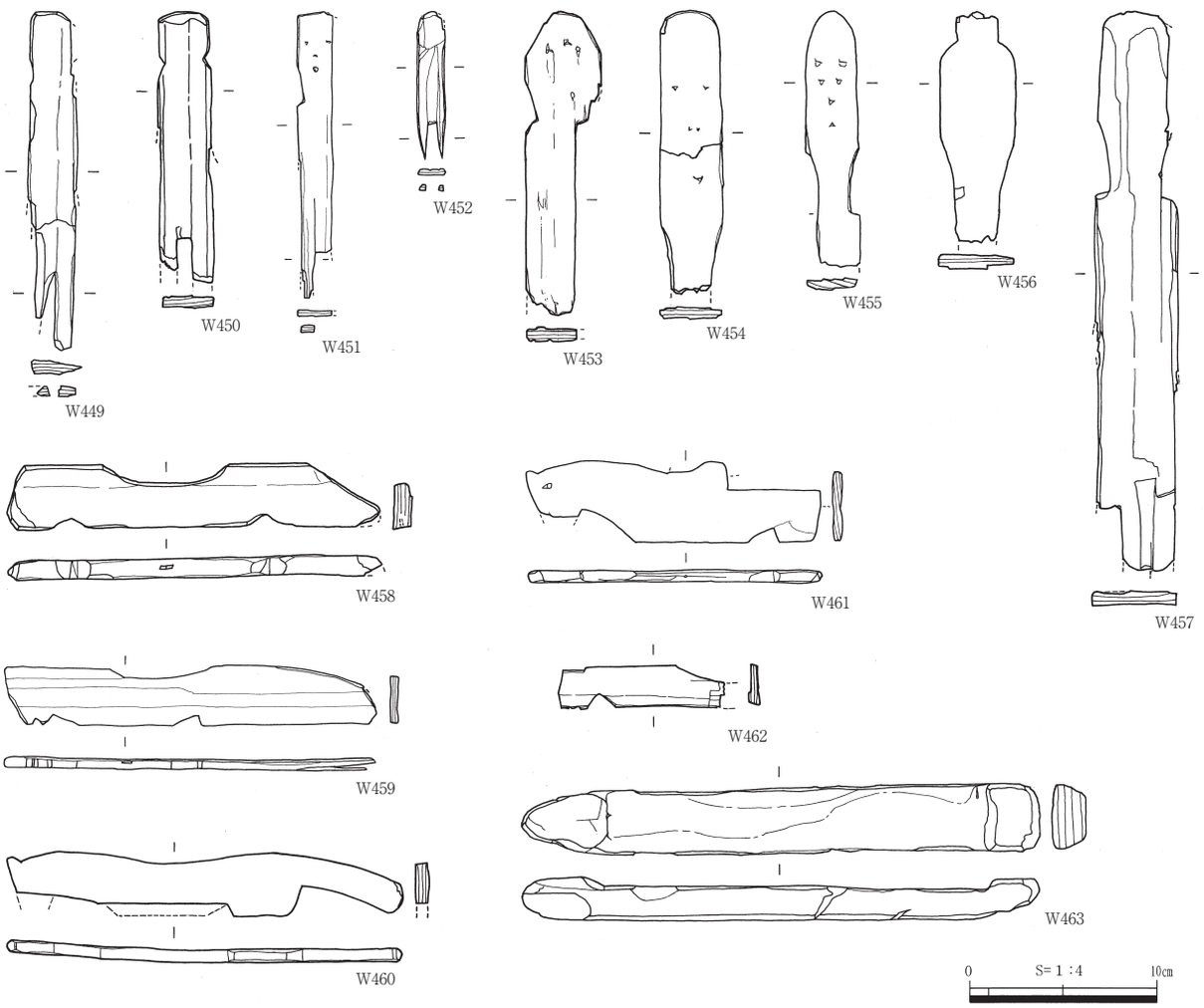
W588 ～ 601は馬形で、口の切り欠きを持たないⅡBa型式が主体で、ⅡAa型式を僅かに含む。W588 ～ 595、597は形態、法量が類似する。W600は上辺の切り欠きがなく、下辺も後方の切り欠きが明瞭でない。W602 ～ 604は刀形で、把の腹側が切り込みのみのAI類である。W605 ～ 620は斎串である。W605は中程に刃物による切断痕がみられる。W609は両端の中央に切り込みを入れる資料で、片側は斜めに切り落とされている。W622、623は舟形で、W622は準構造船を摸した立体舟形B類で、精巧な作りである。W623は平面舟形で、上面の４ヶ所に切り込みが確認できる。W624 ～ 631は琴柱形で、下辺の切り欠きが三角形のものや、台形のもの、弧状のものがある。W628は弦受けの溝がみられない。

第523図は道路１の盛土内、または側溝から出土した資料である。W635は勾玉形であるが、穿孔はない。W640は端部にＶ字に切り欠いたうえで、切り込みを入れている。W641は小型の人形で、立体人形とすべきか。両側面には僅かに手の痕跡とみられる段が確認できる。

第524図は道路１の道路外盛土から出土した資料である。W641は頭部が丸みのある台形を呈し、手は持たない。W643はなで肩のⅡＡ型式で、短い脚に逆Ｖ字形の股を持つ。W647は馬形で、ⅢDc型式の典型的資料である。

第525図は条里27 ～ 29から出土した資料である。W653は扇形の髪形、または被り物がつくり出され、墨書により眉毛や目、鼻、口に加え、顎の皺まで写実的に描かれている。

第526、527図は河道13・14から出土した資料で、時期は７世紀後葉から８世紀前葉と考えられる。W657 ～ 661は人形で、W658は下がり肩のＩＡ型式で、長い手を持つ。W659は山形の頭部を持ち、肩や手の切り欠きを持たない。W667 ～ 671は刀形で、W671は角材を利用した、立体的な資料である。把は片側を弧状に削り込むことで、整形している。W672 ～ 686は斎串である。W672は上半をやや幅広くつくり出すタイプで、本遺跡での出土数は少ない。W685は棒状を呈し、上端部を切り欠きにより有頭状につくる。



第508図　P7区溝８出土木製祭祀具

２区出土木製祭祀具（第529図）

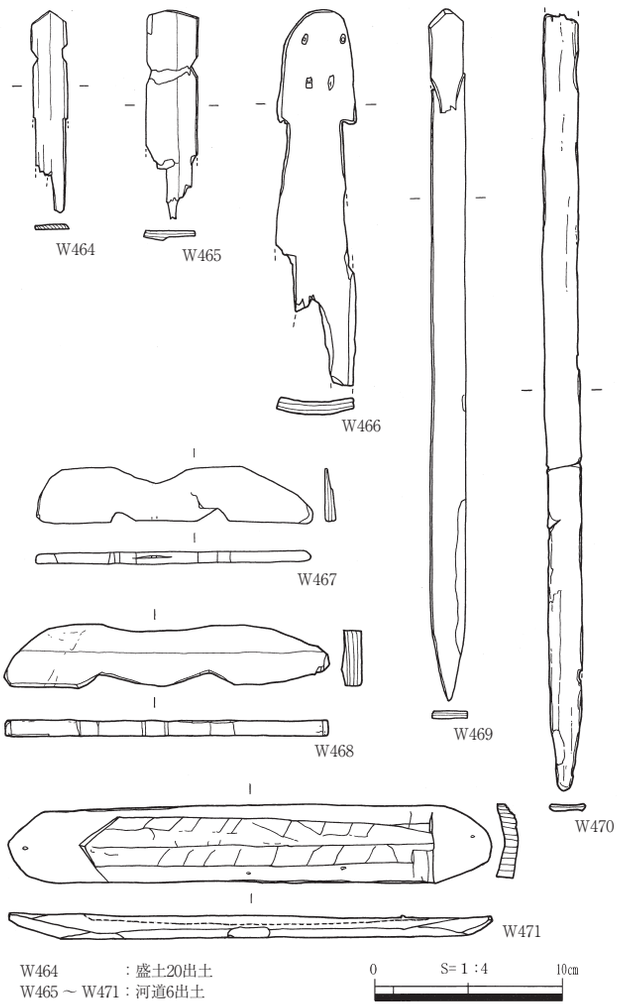
道路１道路外盛土、もしくはⅣ層から出土した資料と考えられる。W694は方形の頭部を呈し、肩部の切り欠きは上端まで抜ける。W696は斎串BⅢ類で、上端が山形に尖る。表面には３ヶ所に切断痕とみられる切れ目が入る。

P11区出土木製祭祀具（第530 ～ 536図）

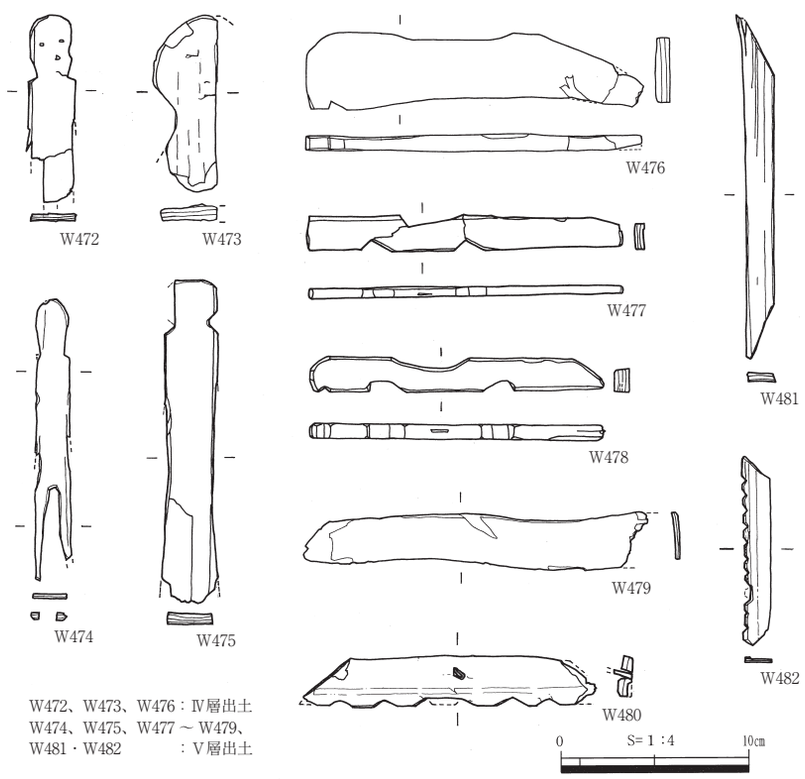
第530図は道路１の道路盛土、及び側溝から出土した資料である。W697は角棒の１側面に切り欠きが連続する。先端が尖っておらず、斎串ではない可能性がある。W701は棒状で、小型の人形である。菱形の頭部を持ち、手も有する。脚部は欠損するため不明である。W703は鳥形で、目も彫り込まれており、写実的である。下腹部に棒孔がみられる。

第531図は道路１の道路外盛土から出土した資料である。W704は粗朶層から出土した立体人形で、10世紀前半の資料と考えられる。被り物や眉毛、目、口が彫り込まれている。２面が被熱により炭化している。W707は舟形の粗製品で、船底の中央に棒孔が開けられている。

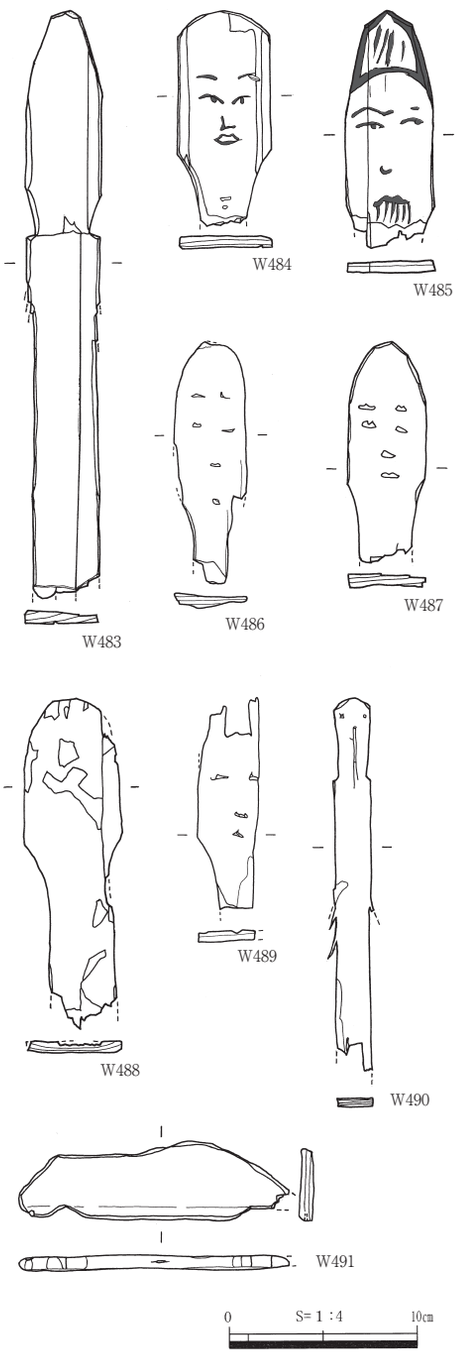
第532図は河道16から出土した資料で、時期は共伴土器から７世紀後葉から８世紀前葉と考えられる。W712 ～ 717は人形で、いずれも小型である。W712、713は人形ＩA型式で、なで肩を持ち、頭



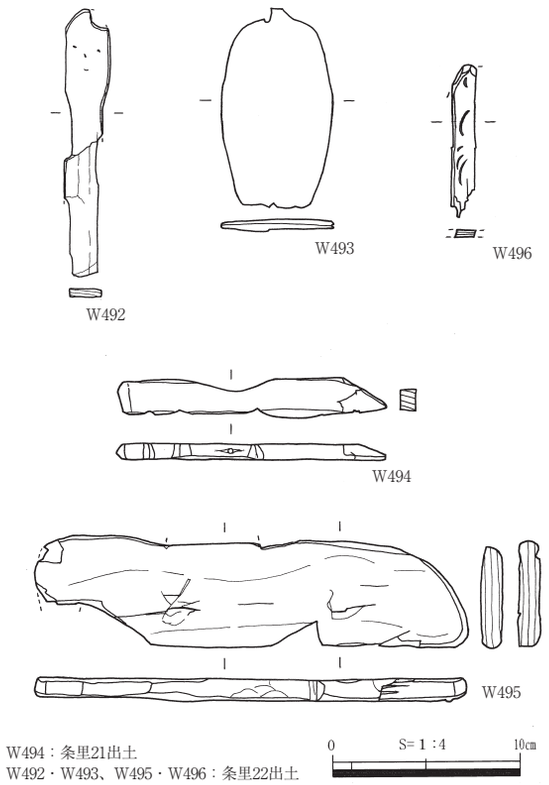
第509図　P7区盛土20・河道６出土木製祭祀具



第510図　P7区Ⅳ・Ⅴ層出土木製祭祀具



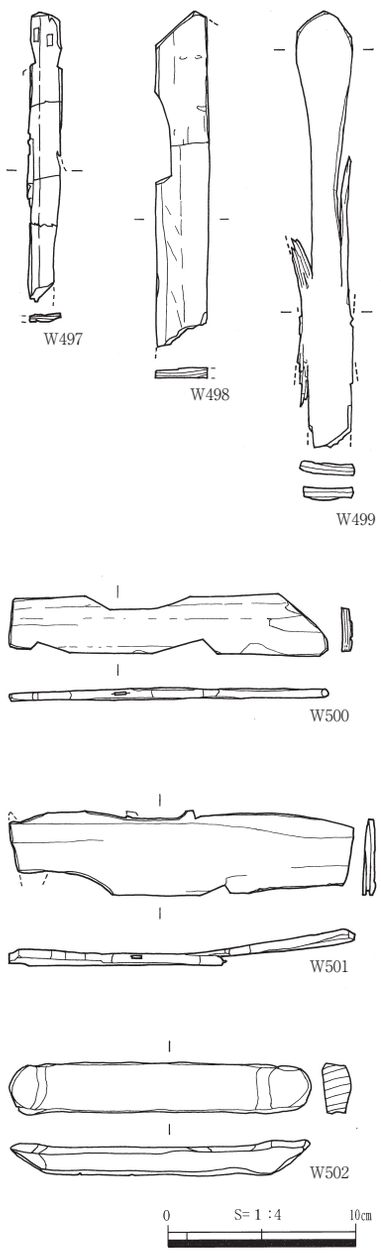
第511図　P8区道路1出土木製祭祀具



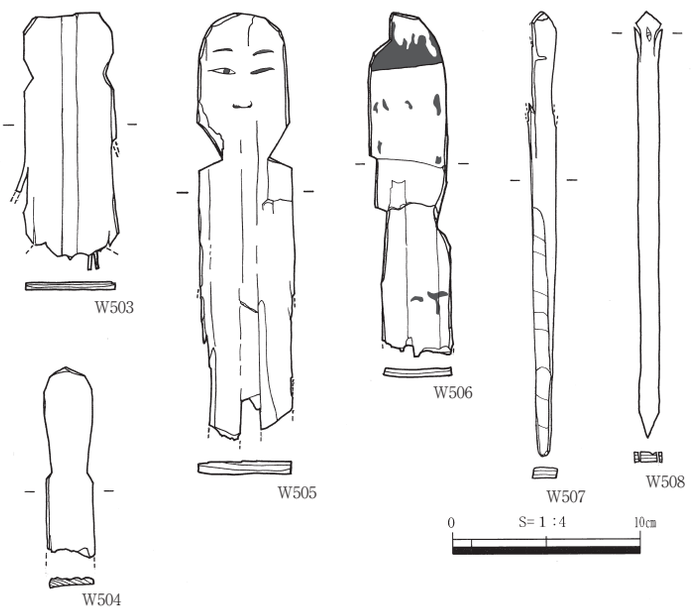
第512図　P8区条里21・22出土木製祭祀具

部はやや方形を呈する。股はコの字形である。W714 ～ 716はⅣA型式で、頭部は両角を切り落として面長となる。W717はⅡA型式で、下がり肩である。W718 ～ 725は馬形で、すべて馬形ⅡBa類である。人形と同じく小型で、厚さも薄い資料が大半を占める。W726は工具形で、斧形と考える。刃がつくり出されている。W727は小型の刀形である。頭椎風の把頭を持ち、把は短い。

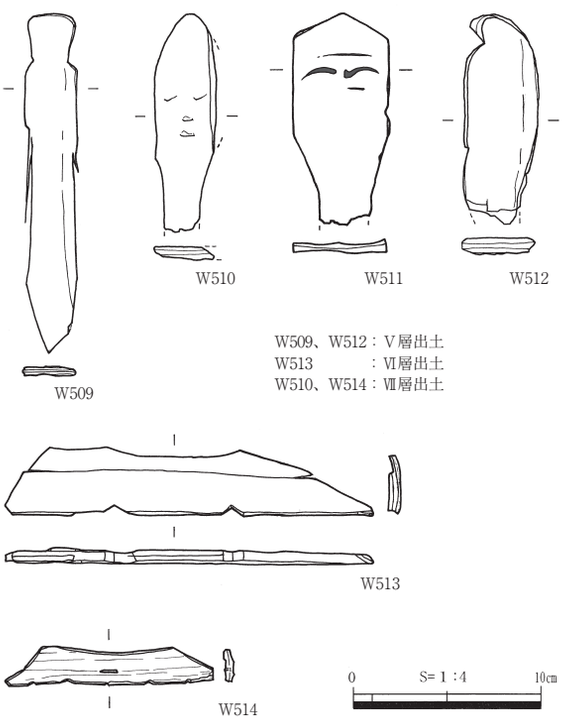
第533 ～ 535図は河道14から出土した資料で、時期は共伴土器から７世紀後葉から８世紀前葉と考えられる。W733 ～ 744は人形である。W733 ～ 735はなで肩を持つＩA型式で、W733は胴が非常に長く、脚が短い。脚部に切り込みがみられるが、何を表現するかは不明である。W736は下がり肩のＩA型式で、頭部が大きい。W740 、741は手を持たない資料で、本遺構ではこの２点のみである。



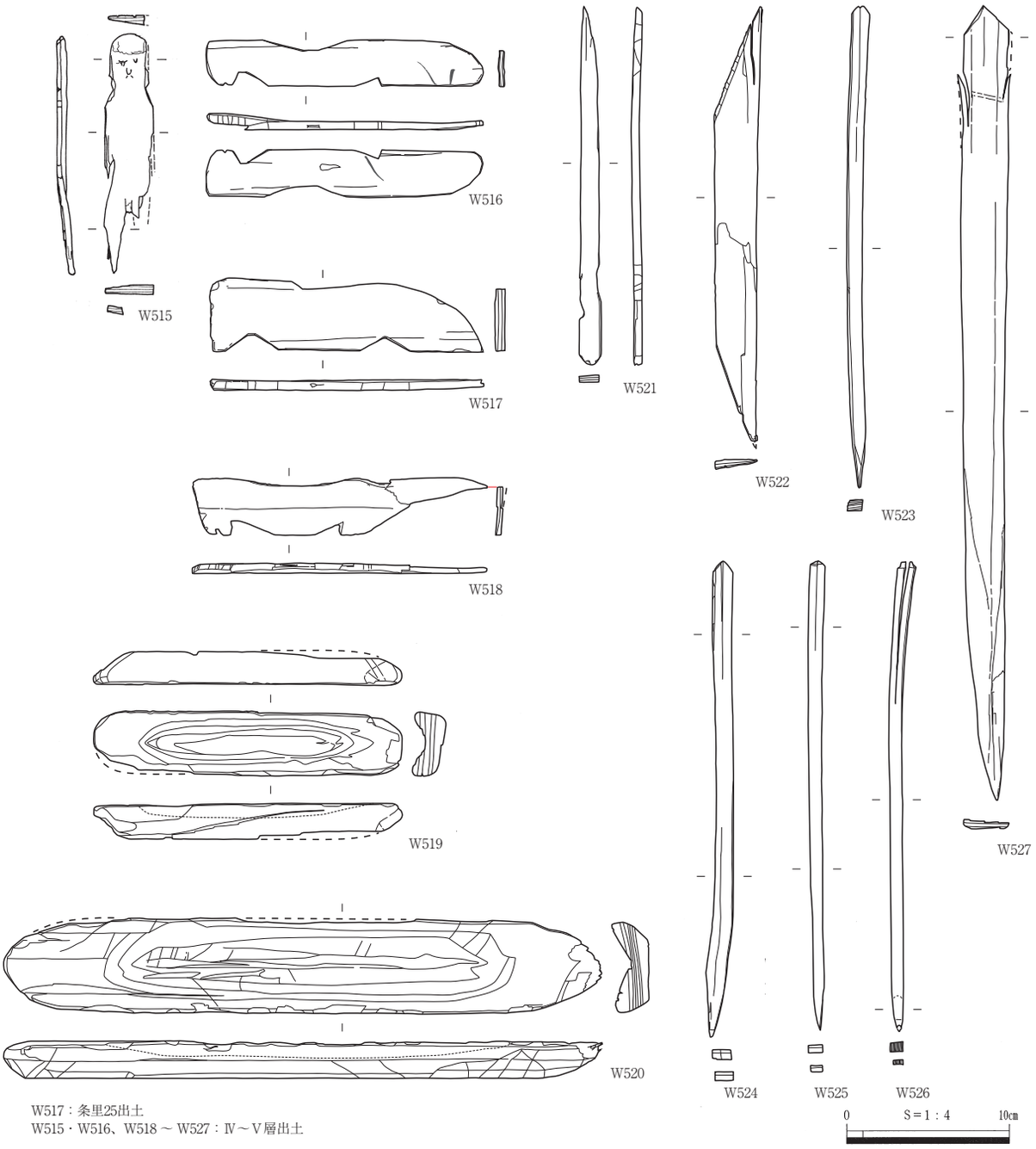
第513図　P8区溝10出土木製祭祀具



第514図　P8区Ⅳ層出土木製祭祀具

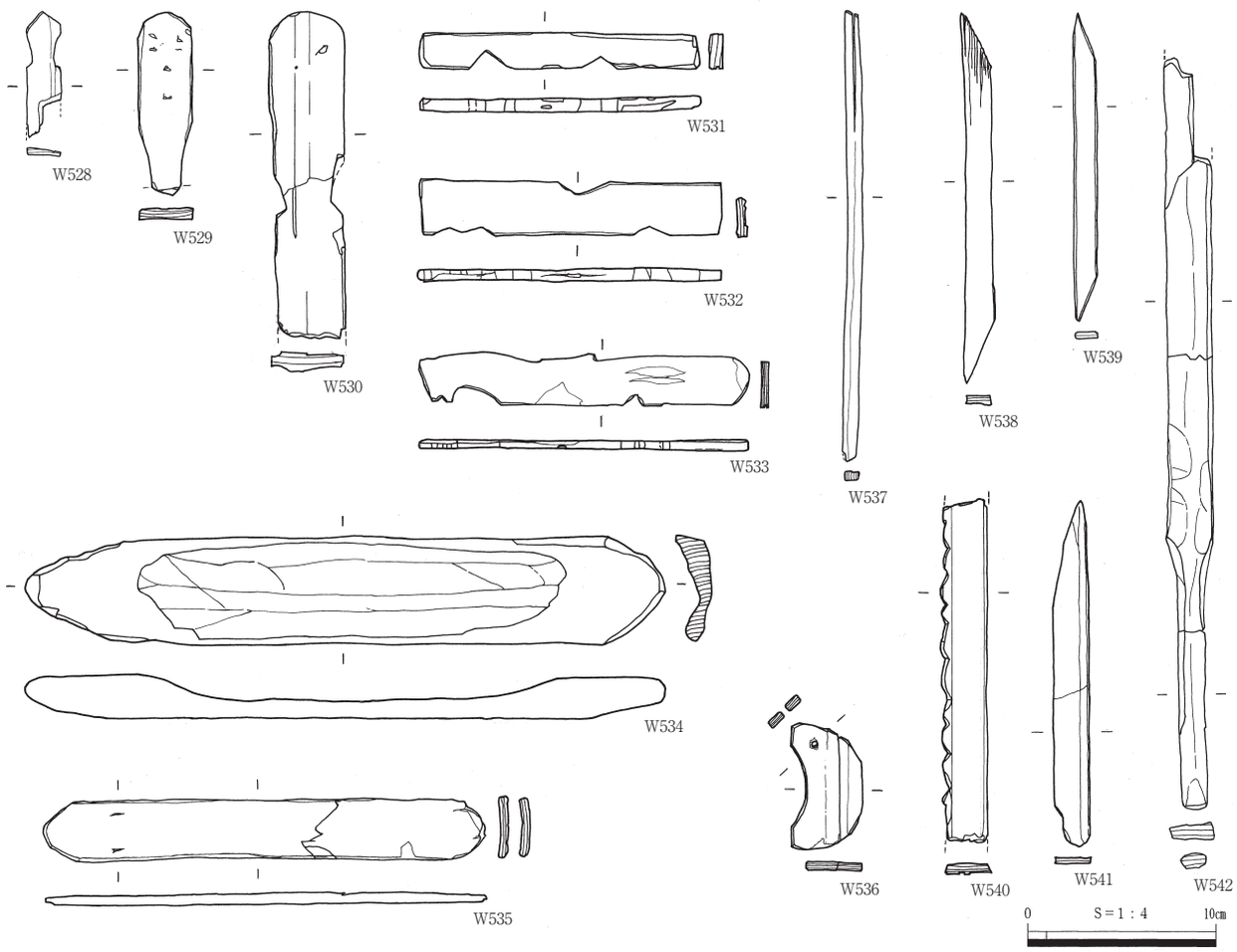


第515図　P8区Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ層出土木製祭祀具



W517：条里25出土
W515・W516、W518 ～ W527：Ⅳ～Ⅴ層出土

第516図　5区条里25、Ⅳ～Ⅴ層出土木製祭祀具

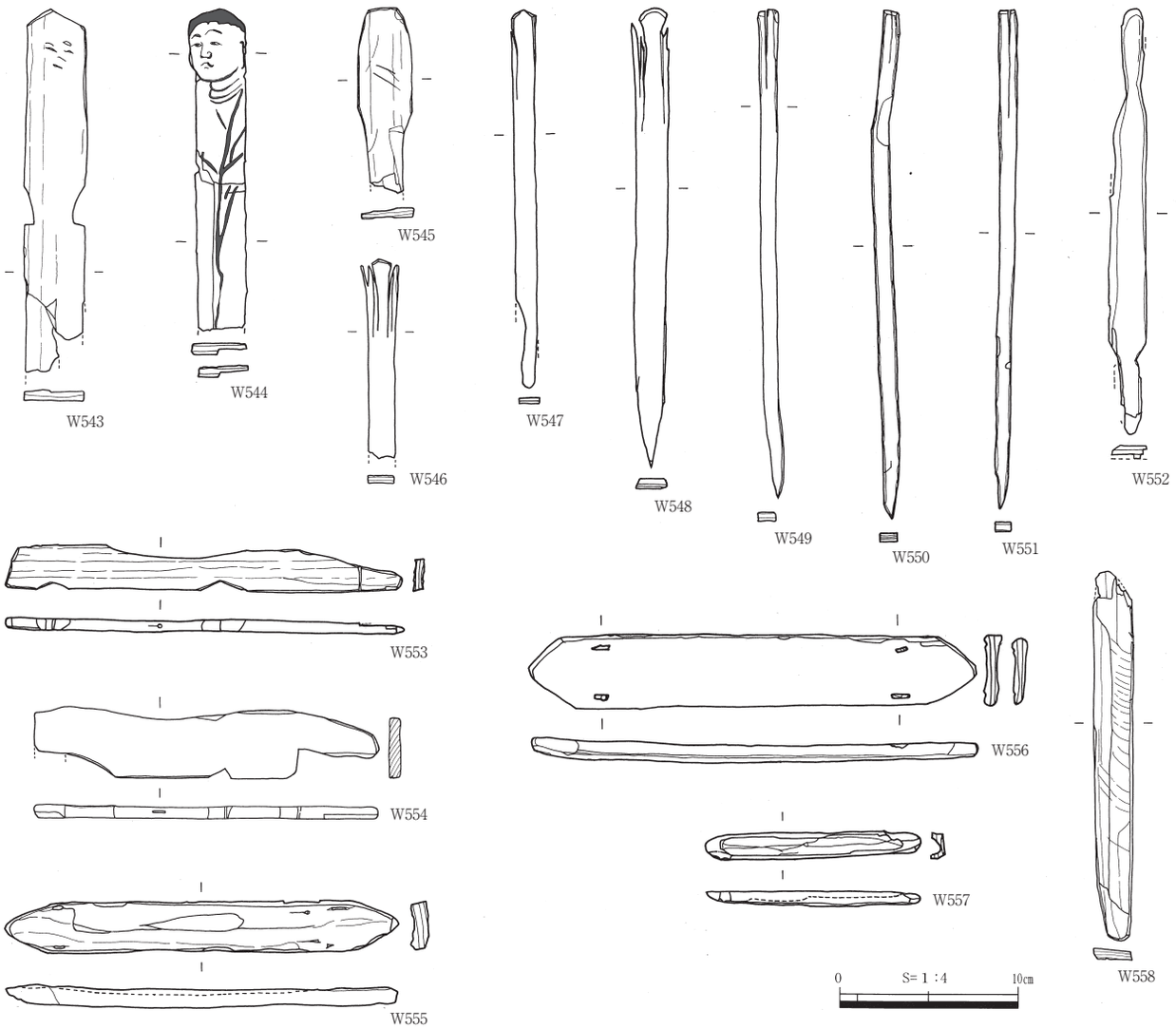


第517図　P9区道路1出土木製祭祀具

W740は円形の頭部を持ち、なで肩である。W741は手が段で表現され、下がり肩である。W737 ～ 739、W742 ～ 744は小型のⅣA型式で、W738は刻みにより顔の表現がある。脚部の形状が分かる資料はないが、W739 、742は股がコの字形を呈する。

W745 ～ 768は馬形で、飾馬は出土していない。後脚や尾を持たないⅡAa型式とⅡBa型式が大部分を占める。W745 ～ 748は形態が酷似し、法量もほぼ同じである。W763、764は尾を意識した形で、W763は後端の下辺側が斜めに切り落とされて先端が尖る。W765 ～ 767は尾を持つもので、W765は細長い尾を持つ。W768のみ後脚をもつⅡBc型式で、頭部が大きく、太い尾を持つタイプである。

W769は蛇形とするが、明確ではない。W770 ～ 772は舟形で、W771 は平面舟形で、側面観を表現する。上辺の中央が弧状に削り込まれ、船首と船尾が高い形となる。W772 は船首と船尾が平坦で、整形はほとんど施されていない。W773は鳥形の頭部から頸部破片と考える。W774 ～ 786は武器形で、W774、W775は槍、もしくは矛形、W776 ～ 786は刀形である。W776が把側を欠損するが、大型の資料である。片面に鎬を通して、刃がつけられている。W782は刃が把とは逆の方向につけられている資料である。W784、785は短い把頭を持つもので、W785は把頭が斜めに切り落とされ、尖っている。W787はエブリ形と考えるが、下辺に歯の切り欠きを持たない。W788 ～ 808は斎串である。W802は



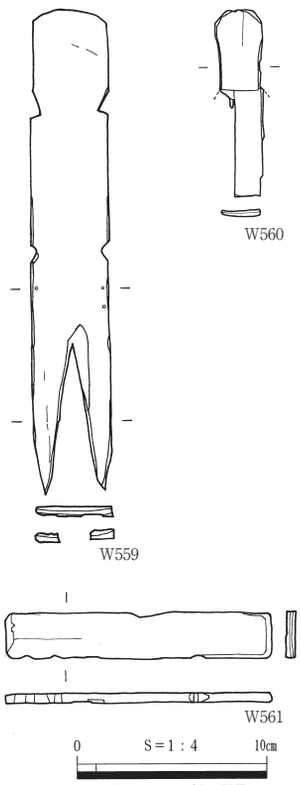
第518図　P9区道路1道路外盛土出土木製祭祀具

上端中央に切り込みを持つE類であるが、直交する方向にも浅い切り欠きを持つ。W809は片側のみ３ヶ所の切り欠きが施される。

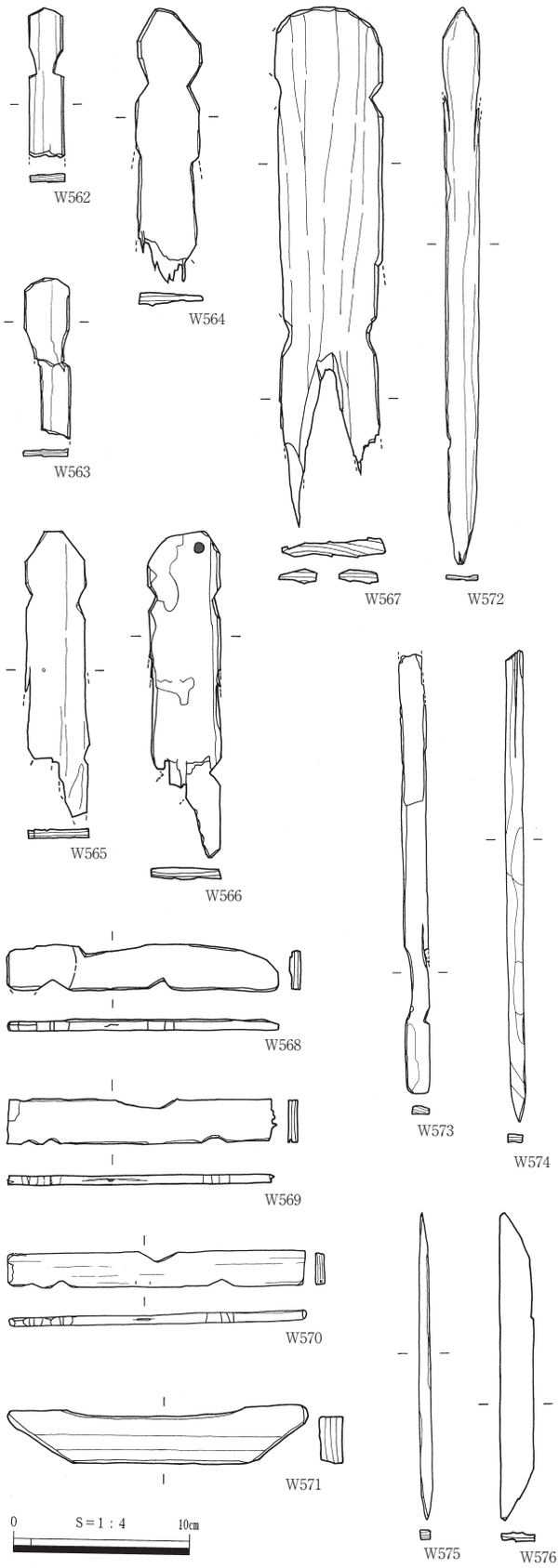
第536図は条里30、及び包含層から出土した資料である。W816は非常に細長い頸を持ち、刺突により顔表現がある。W818は琴柱形で、弦受けの溝はみられない。斜辺は弧状をなし、辺に沿って細かな面取りが施されている。

P12区出土木製祭祀具（第537 ～ 546図）

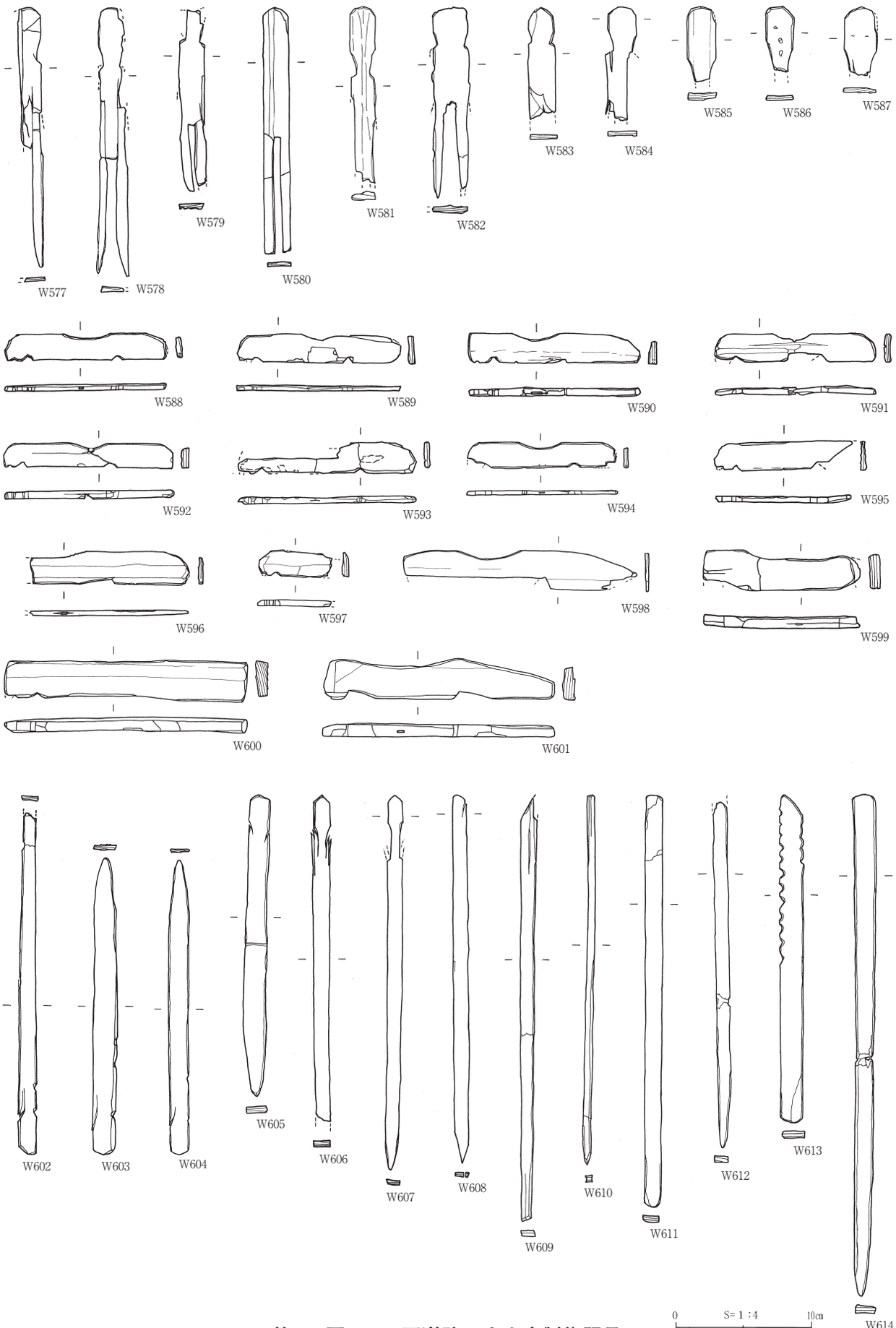
第537図は道路１から出土した資料である。W819 ～ W821は人形で、W819、820は第１次盛土出土で、７世紀末から８世紀初頭に比定される。W819は頸を持つⅣA型式で、刻みによる顔表現がある。W821は第４次盛土出土で、９世紀から10世紀の資料である。上半は欠損するが、大形の資料で、腰の切り欠きを持つ。W822 ～ 827は第１次盛土から出土した馬形で、ⅡAa、ⅡBa型式が主体を占める。W822はⅠAa形式で、背の切り欠きが無い。W823は下辺の切り欠きが前方のみで、このタイプは本



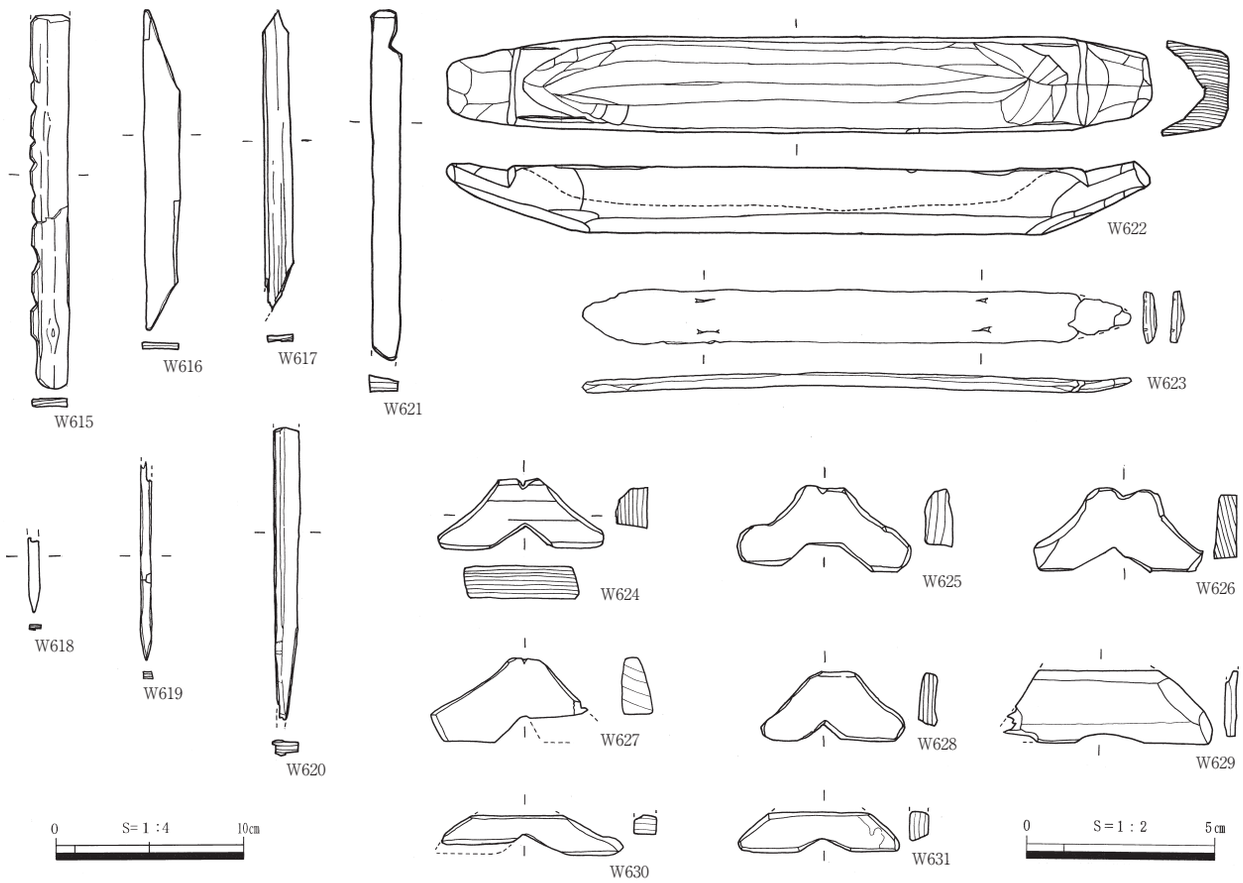
第519図　P9区条里25出土木製祭祀具



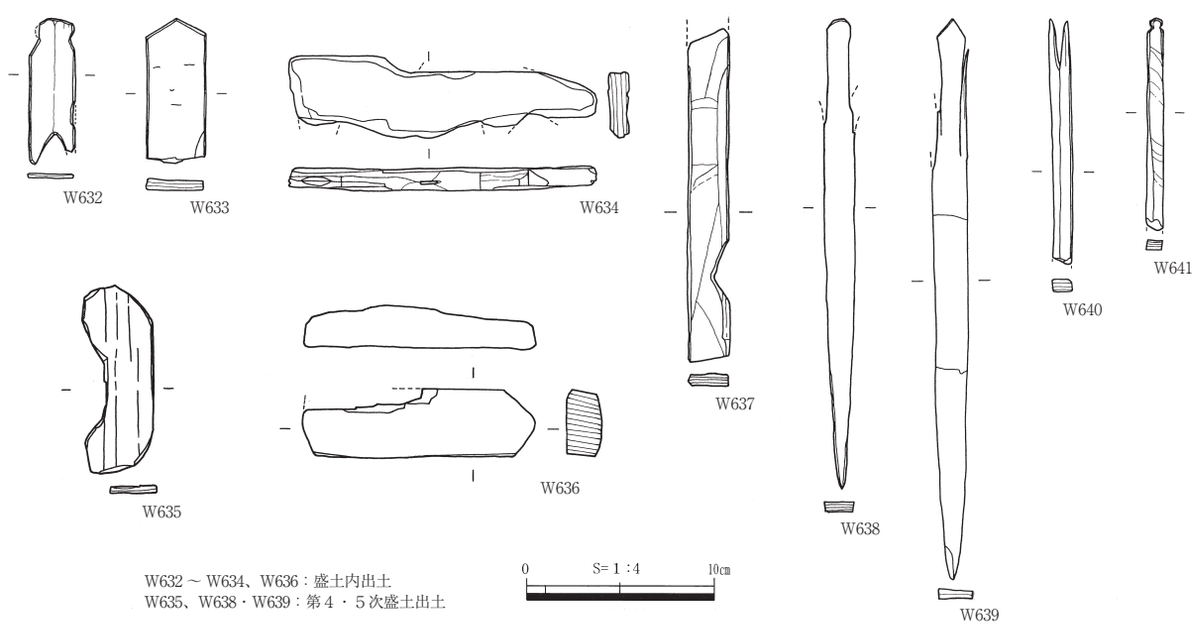
第520図　P9区河道６出土木製祭祀具



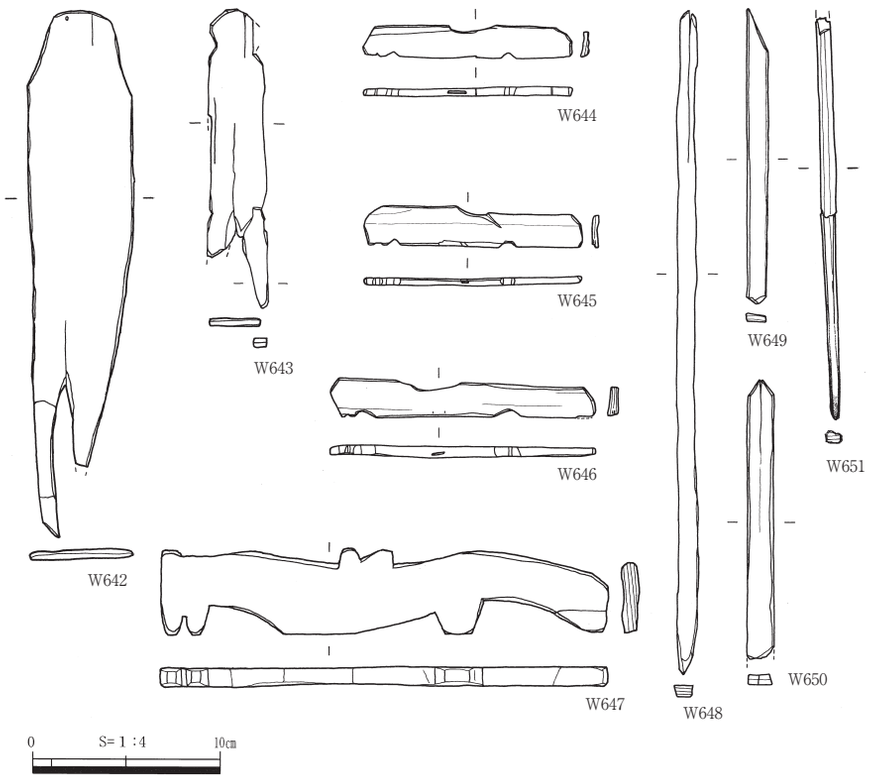
第521図　P10区道路１出土木製祭祀具



第522図　P10区道路１第１次盛土敷葉・敷粗朶層出土木製祭祀具



第523図　P10区道路1・道路1側溝出土木製祭祀具



第524図　P10区道路1・道路1道路外盛土出土木製祭祀具

遺跡ではごく僅かしかない。W828は盛土内の出土位置は特定できないが、改修盛土から出土した資料であろう。

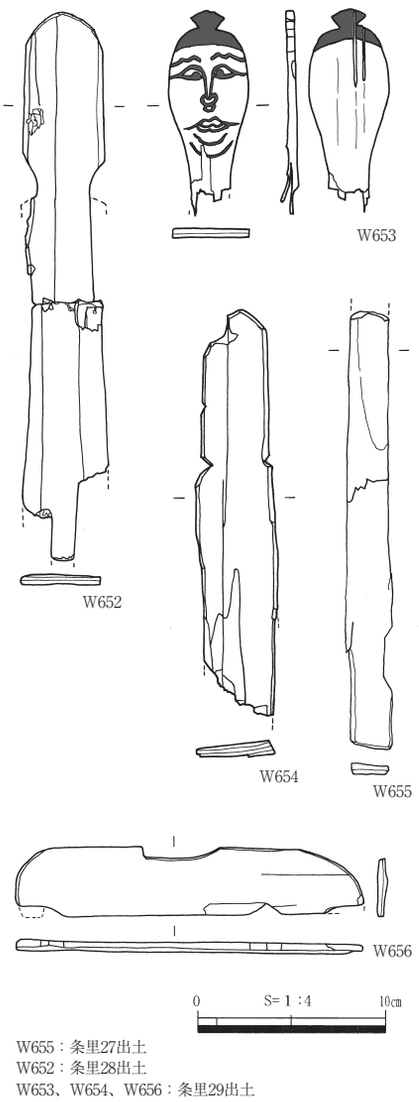
第538図は道路１の道路外盛土から出土した資料である。W834は厚みのある斎串で、切り込みはみられない。

第539図は条里35・36から出土した資料である。W838は馬形の可能性がるが、断定できない。W840は方形の頭部を持ち、肩部からの切り欠きが上端まで抜ける。

第540図は条里37から出土した資料である。W841、842は人形で、W841はなで肩、手を持たない。W845は馬形ⅢＤｄ型式で、尾の先端が撥形に開く。W846はエブリ形で、棒孔が中央に開けられる。

第541図は盛土29、30から出土した資料である。W847は人形ＩＡ型式で、下がり肩を持つ。W848は刀子形と考える。両関で長い茎部を持つ。刃がつくり出され立体的な資料である。W852は馬形ⅡCa型式で、下辺前方の切り欠きが左端まで抜ける。

第542 ～ 544図は河道14から出土した資料で、第542・543図が上層、第544図が下層から出土した資料である。W855 ～ 857は人形で、やや特異なタイプである。W855は三角形の頭部に円形の胴部をもつ。下がり肩で、腰の切り欠きをもつ。W858 ～ 868は馬形で、いずれも裸馬でⅡBa型式が大部分を占める。尾や後脚を持つものはW865、867の２点のみしか出土していない。W864は長さ30㎝越える資料で、側面の４ヶ所には切り込みがみられ、差し込まれた細棒も残る。W866も大型で、厚さも2.4㎝と分厚い。下辺が両側から斜めに切り落とされる。ⅡAa型式であるが、尾を意識し、馬の疾走する姿をよく示す。細棒は両側面の４ヶ所に挿入されたまま、遺存する。W865はⅡAb型式で、口の



W655：条里27出土
W652：条里28出土
W653、W654、W656：条里29出土

第525図　P10区条里27・28・29
出土木製祭祀具

切り欠きが無く、細長い尾がつくり出されている。W868は上辺が丸く整形され、馬以外の動物を摸している可能性もある。W869 ～ 876は斎串で、W868 ～ 871はいずれも刃物による切断痕がみられる。W876は角棒を利用した立体的な斎串で、2辺に細かい切り欠きが連続する。W877は勾玉形で、穿孔は無い。W878は鏃形で、柳葉形を呈する。W879 ～ 884は刀形である。W879 は長さ60㎝の資料で、やや厚みがあるが、刃はつくり出されていない。W880は３ヶ所に切断痕がみられる。W882、884は把頭を短くつくり、刀身と把の間に切り込みは持たないタイプである。

W885 ～ 887は人形ＩA型式で、なで肩を持つ。頭部はW855、887が円形を呈するのに対して、W886はやや方形を呈する。股はいずれも逆V字形である。

第545図は第Ⅳ層から出土した資料である。W903 ～ 905は舟形で、W903は左が船首、右が船尾となる。W904は船首と船尾の側面４ヶ所に墨書で目が描かれている。立体舟形C類で、船首と船尾を一段高くつくる。出土した舟形の中でも精巧な作りである。W905は平面舟形で、船底が面取り整形され、丸みを帯びる。W906は刀形の大型品で、鎬作りで、刃がつけられている。W907は斎串AI類で、両面に墨書がみられる。

第546図はＶ層から出土した資料である。W912は馬形ではなく、牛形の可能性もある。W915も棒状の斎串としたが、題籤軸の軸部分とも考えられる。

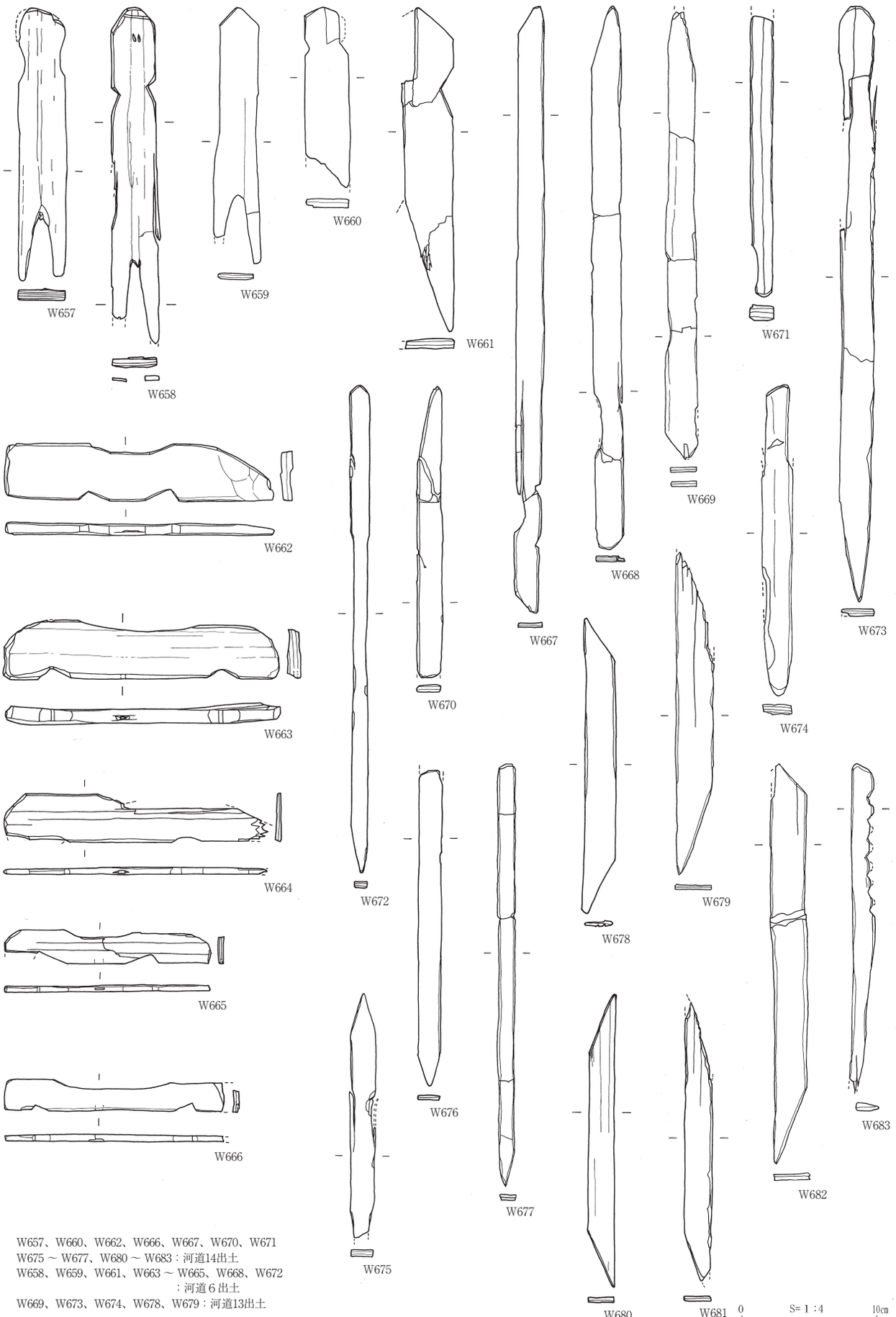
Ｐ13区出土木製祭祀具（第547 ～ 553図）

第547図は道路１から出土した資料である。916は垂髪を表現しており、女性像とみられる。手、または腰は切り欠きとなる。W920は細長い頭部と胴部を持ち、鳥形としておく。

第548図は条里38から出土した資料である。W923、924は人形で、W923は頸部を持ち、頭頂部は山形となる。目鼻が４点の刺突により表現される。胸部にも同様の刺突がみられるが、その性格は不明である。W924 は肩部の切り欠きが顔の中程まで達し、頭頂部を丸く収める。W929は棒孔が確認できないが、形状からエブリ形と考える。

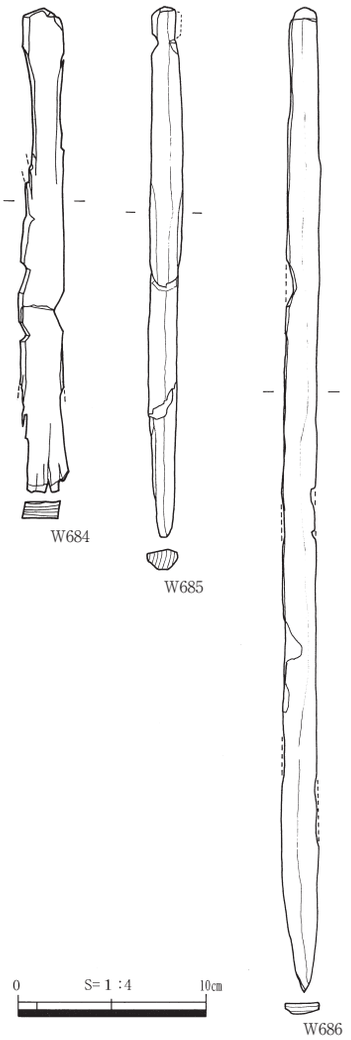
第549図は盛土31から出土した資料である。W930、931は人形である。W930は人形ⅡA型式で、腰に切り欠持ち、脚部には足がつくり出される。W931は方形の頭部を持ち、脚部を欠く。刺突による顔表現があるが、口が胸の位置にくる。W933、934は馬形で、表面に加工痕が明瞭に残る。

第550図は河道６から出土した資料である。W936は斎串で、中央に孔が開けられている。

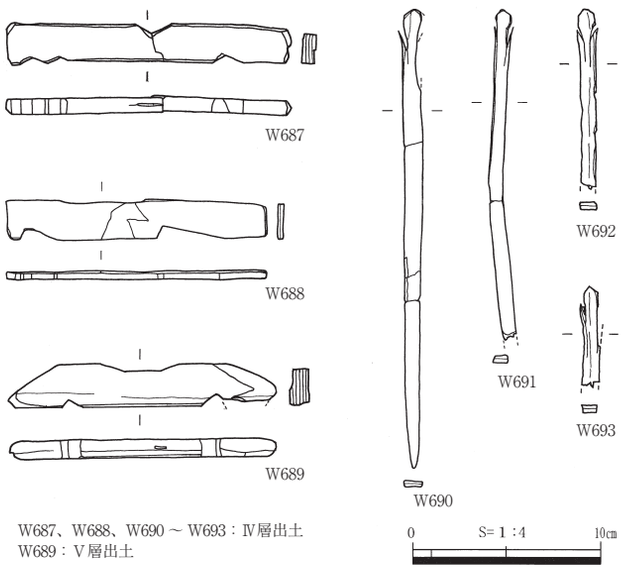


W657、W660、W662、W666、W667、W670、W671
W675 ～ W677、W680 ～ W683：河道14出土
W658、W659、W661、W663 ～ W665、W668、W672
：河道６出土
W669、W673、W674、W678、W679：河道13出土

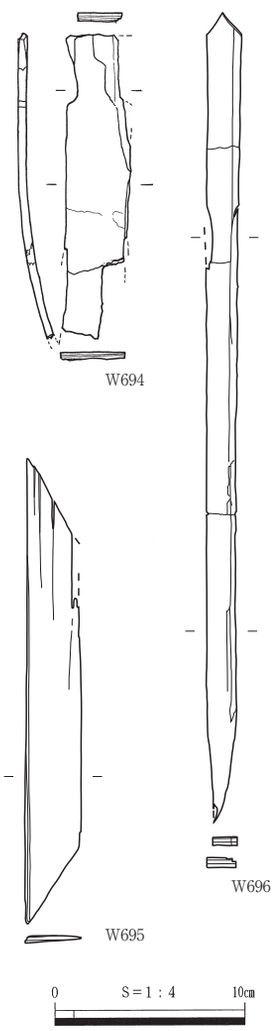
第526図　P10区河道６・13・14出土木製祭祀具



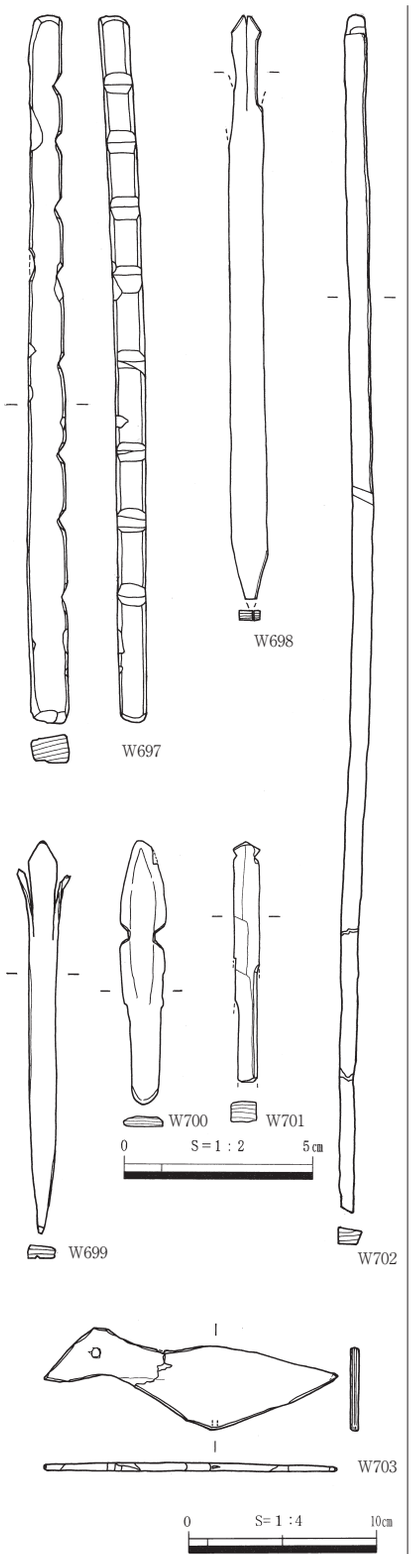
第527図　P10区河道６出土木製祭祀具



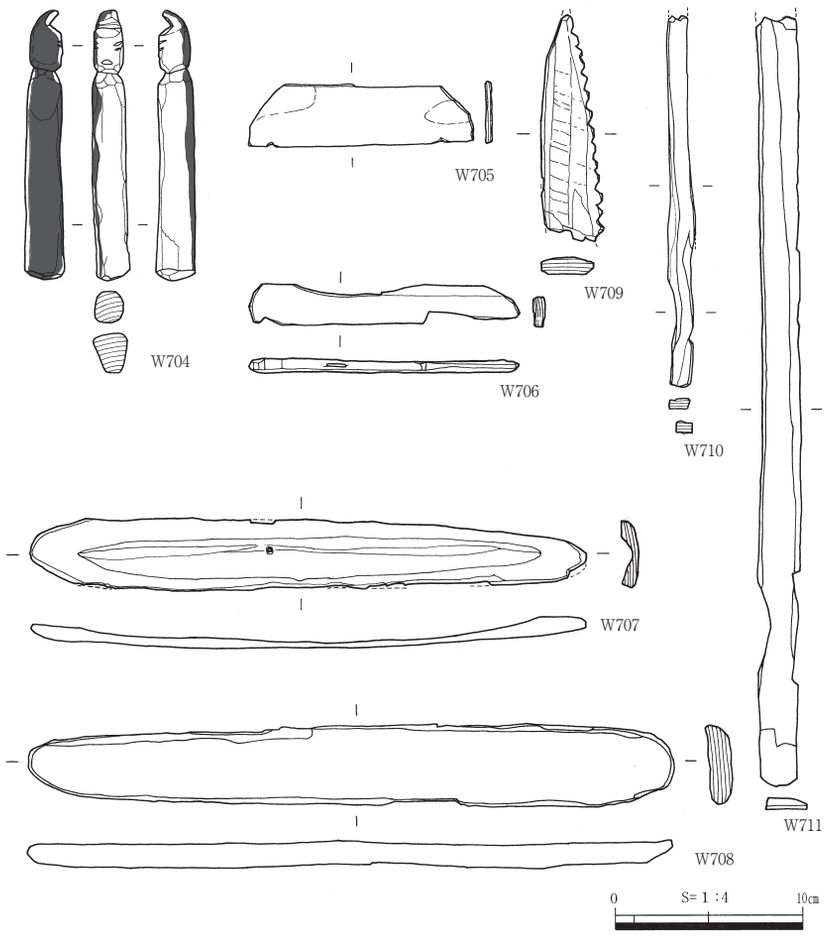
第528図　P10区Ⅳ・Ⅴ層出土木製祭祀具



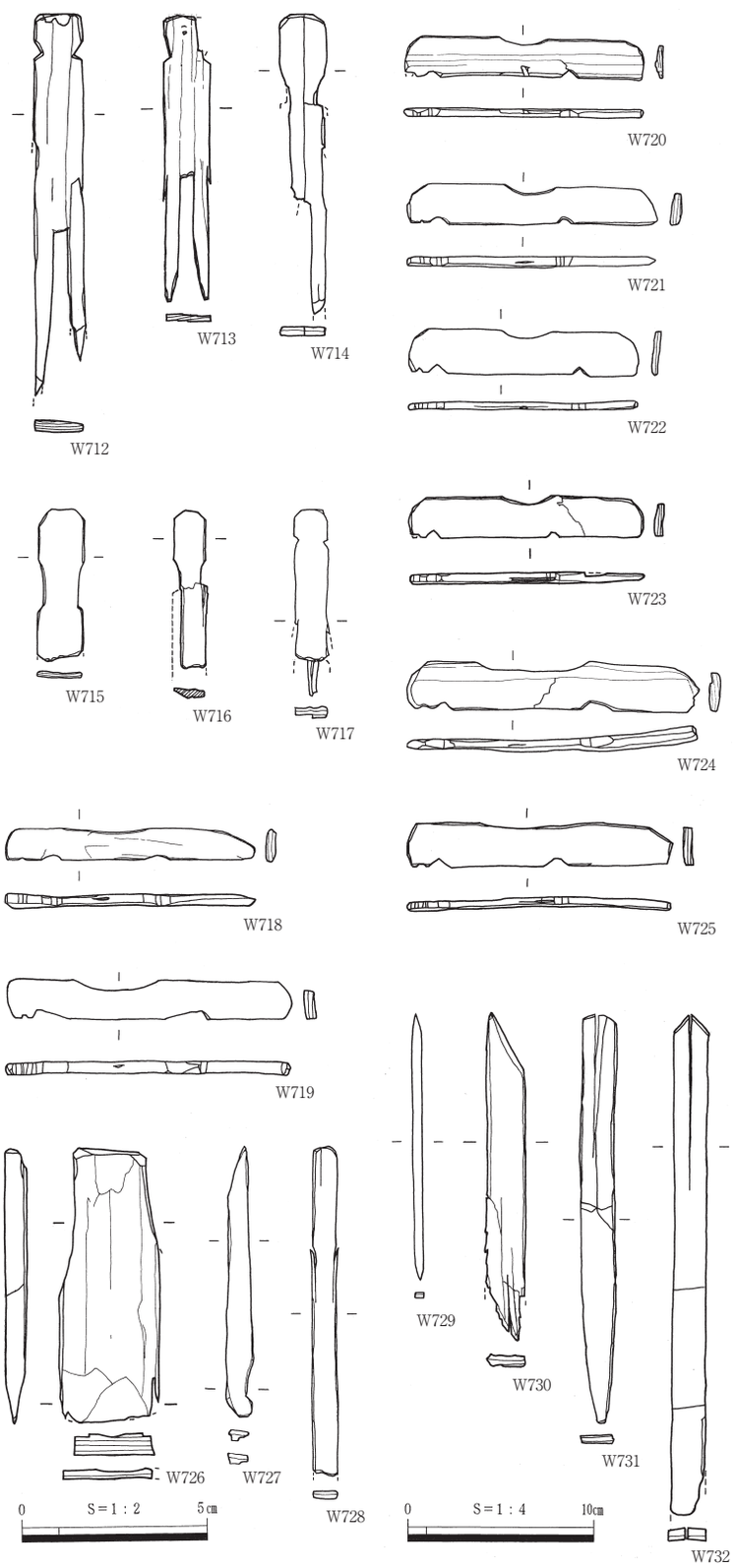
第529図　２区出土木製祭祀具



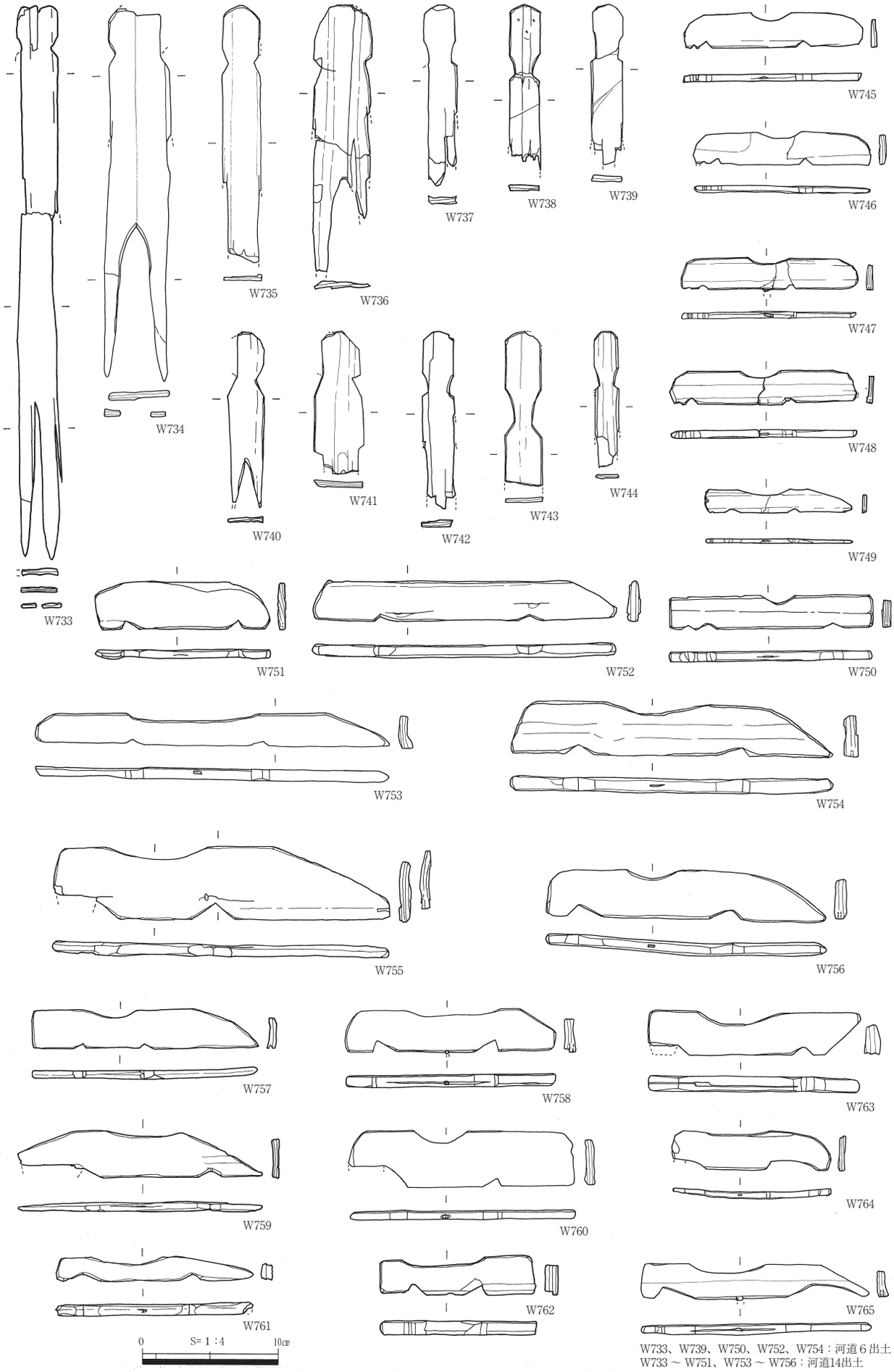
第530図　P11区道路1・道路1側溝出土木製祭祀具



第531図　P11区道路1道路外盛土出土木製祭祀具

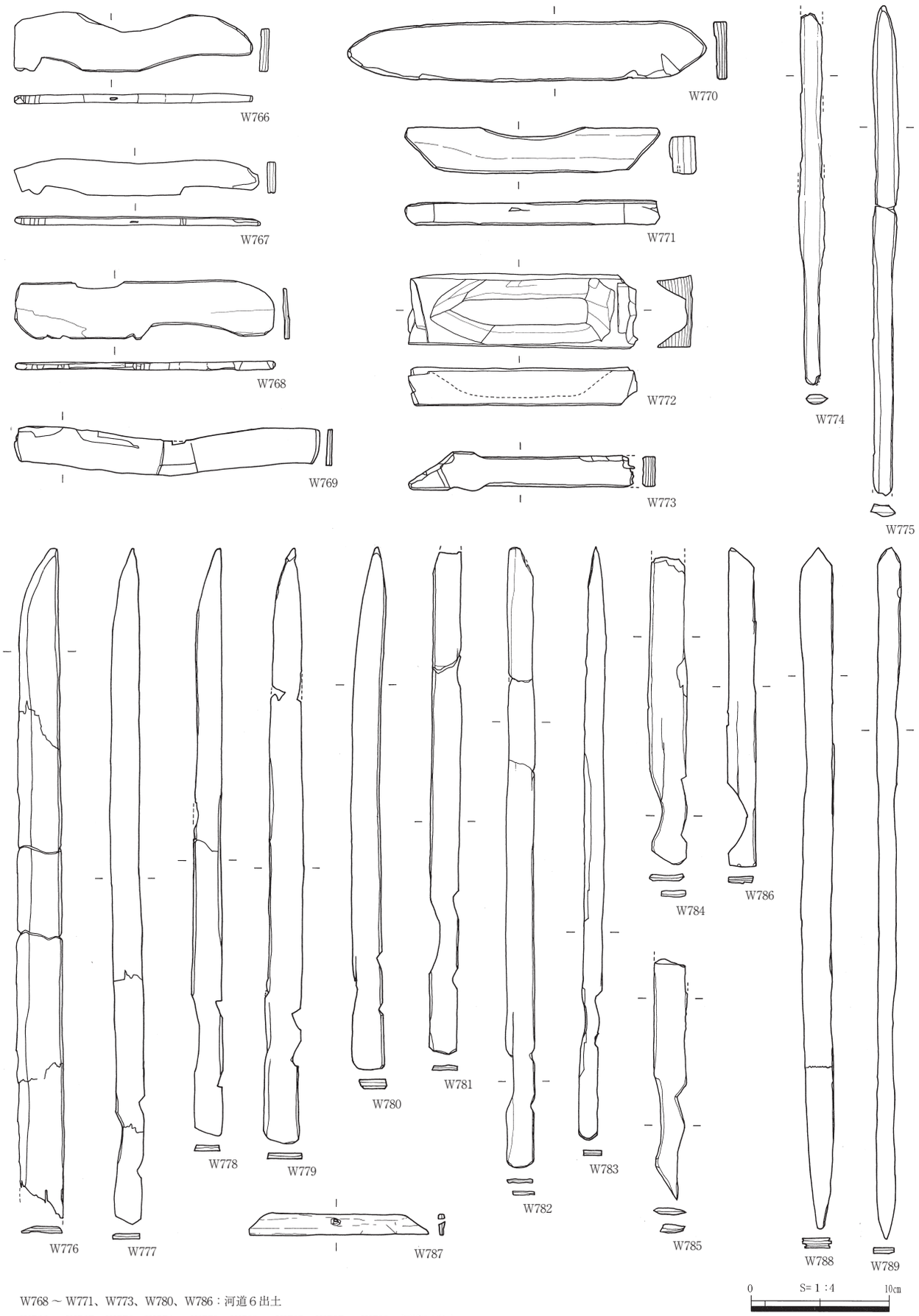


第532図　P11区河道６出土木製祭祀具



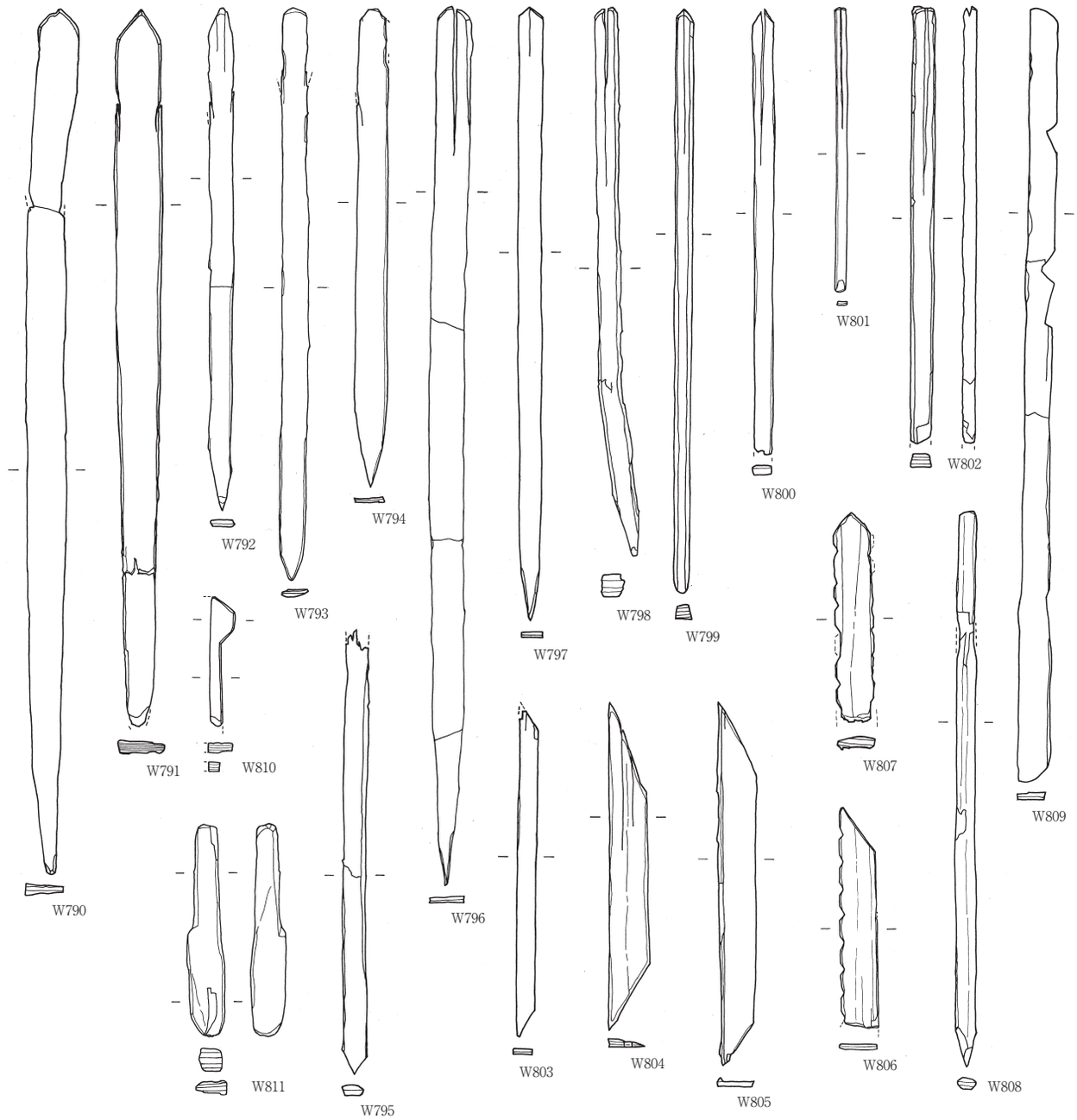
W733、W739、W750、W752、W754：河道６出土
W733 ～ W751、W753 ～ W756：河道14出土

第533図　P11区河道6・14出土木製祭祀具（１）



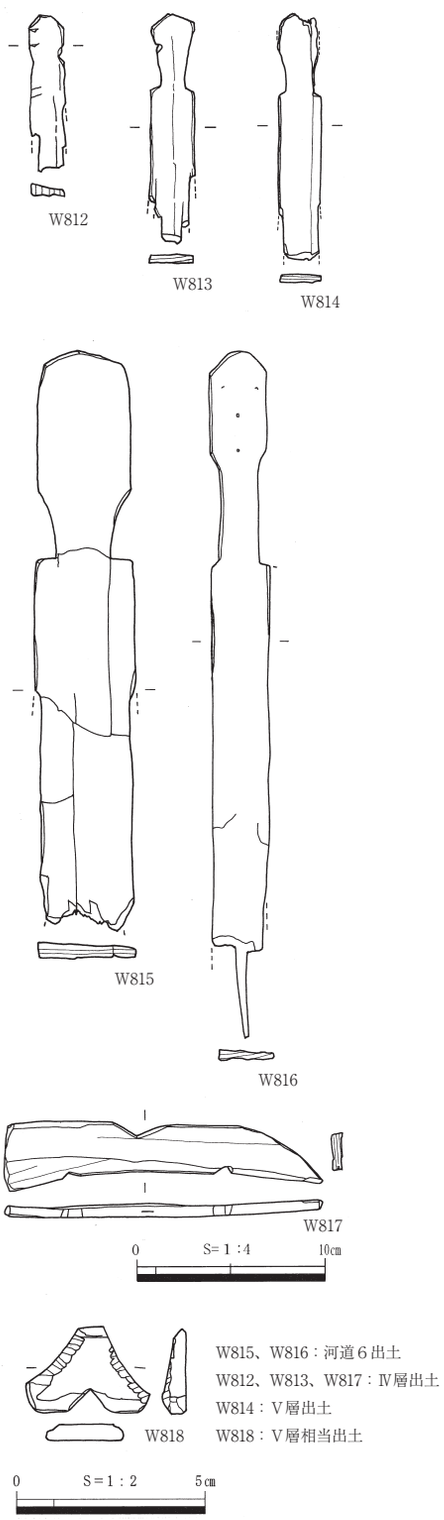
W768 ～ W771、W773、W780、W786：河道６出土
W766 ～ W767、W772、W774 ～ W779、W781 ～ W785、W787 ～ W789：河道14出土

第534図　P11区河道6・14出土木製祭祀具（２）



W795、W796、W808、W811：河道６出土
W790 ～ W794、W797 ～ W807、W809、W810：河道14出土

第535図　P11区河道6・14出土木製祭祀具（３）



第536図　P11区河道６・包含層出土木製祭祀具

第551図はⅣ層から出土した資料である。W938は側面人形で、ほぼ完形である。頭部には被り物と鼻がかたどられ、肩部は両側とも切り欠きがあり、なで肩、もしくは下がり肩である。

手は背側のみ切り欠きで表現される。脚は下端を浅い切り欠くことで表現する。W939は馬形ⅡDa型式の可能性があり、前傾するりっぱな耳がつくり出されている。W940は鳥形で、ふっくらした胴部がつくり出されている。

第552図はⅤ層から出土した資料である。W942は寸詰まりの馬形で、丸い尻尾を持つ。

P14区出土木製祭祀具（第554 ～ 557図）

第554図は道路１から出土した資料である。W946 ～ 954は人形で、W946 ～ 950はナデ肩をもつ。W954は頭頂に角状の突起が２つかたどられ、髷状の髪形が表現されている。女性像であろう。W955 ～ 960は馬形である。W956は下辺前側の切り欠きがＬ字形を呈するⅡである。

W955、959は胴部中央に刀子による切断痕がみられる。W961 ～ 964は斎串で、W962 ～ 964は両側縁に浅い切り欠きが連続するＣⅠ類で、上端は山形となる。W964は下半を欠損するが、全長が70㎝を越える長大な資料である。

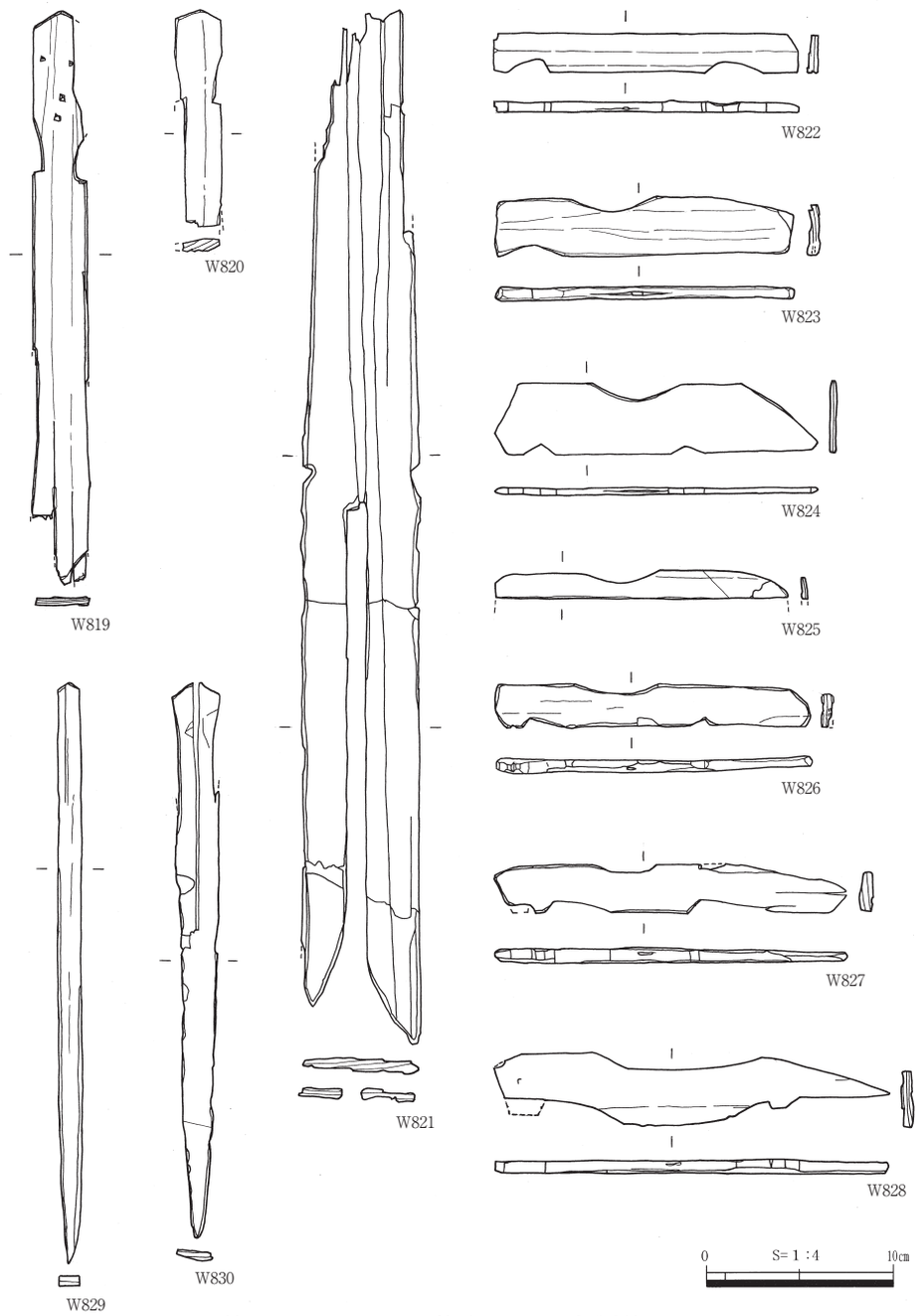
第555図は道路１道路外盛土から出土した資料である。W965は側面人形で、被り物と鼻がつくり出され、額付近がやや突出する。柾目材である。

第556図は河道６から出土した資料である。W969は斎串で、下端は刀身状となる。

第557図はⅣ層から出土した資料である。W971は異形の人形で、胴部が省略されたような形をなす。円形の頭部に、逆Ｖ字形の股をもつ。W974は平面舟形で、側面観のみを表現する。大きく反り上がる船首と船尾を持つ。船首には穿孔があり、目を表現していると考える。船底中央には棒孔がみられる。

P15区出土木製祭祀具（第558 ～ 560図）

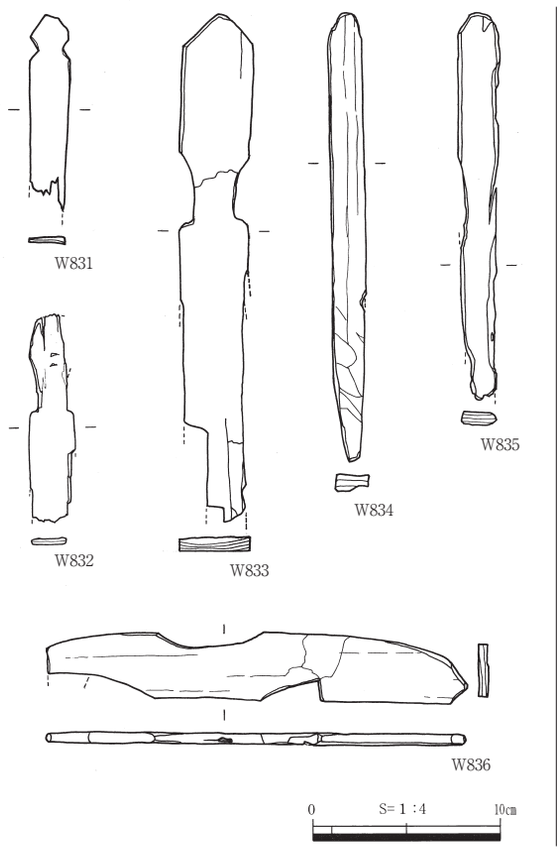
第558図は盛土32・34から出土した資料である。W978は馬形で、頭部と尻部が丸い形状をなす。口



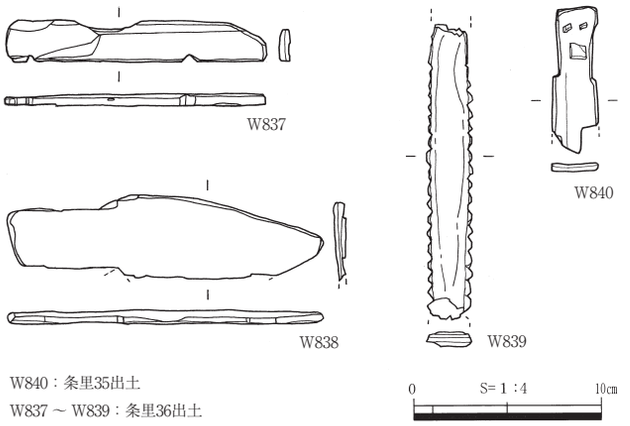
第537図　P12区道路１出土木製祭祀具

の切り欠きは２つある。下腹部の切り込みは中央を垂直に切り込み、外側から弧状に大きく切り欠く。W979は両側縁の切り込みとともに山形の上端部中央にも切り込みが入る。W983・W984は人形で、W984は細長い頸を持つ。

第559図は河道６から出土した資料である。W985、986は人形である。W985は人形ＩA型式で、四角い頭部を持ち、下がり肩である。脚が極端に短い。W986は異形の人形で、胴部の部分がほとんどない。切り欠きにより菱形の頭部がつくり出される。W987~992は馬形で、いずれも裸馬である。W988は胴部中央に縦に切断痕が入れられる。W989は厚みのある馬形で、側面の４ヶ所には棒孔が切り込まれ、細棒が斜めに挿入されている。W994、995はエブリ形で、W994は下辺の切り欠きは２ヶ所



第538図　P12区道路１外盛土出土木製祭祀具



第539図　P12区条里35・36出土木製祭祀具

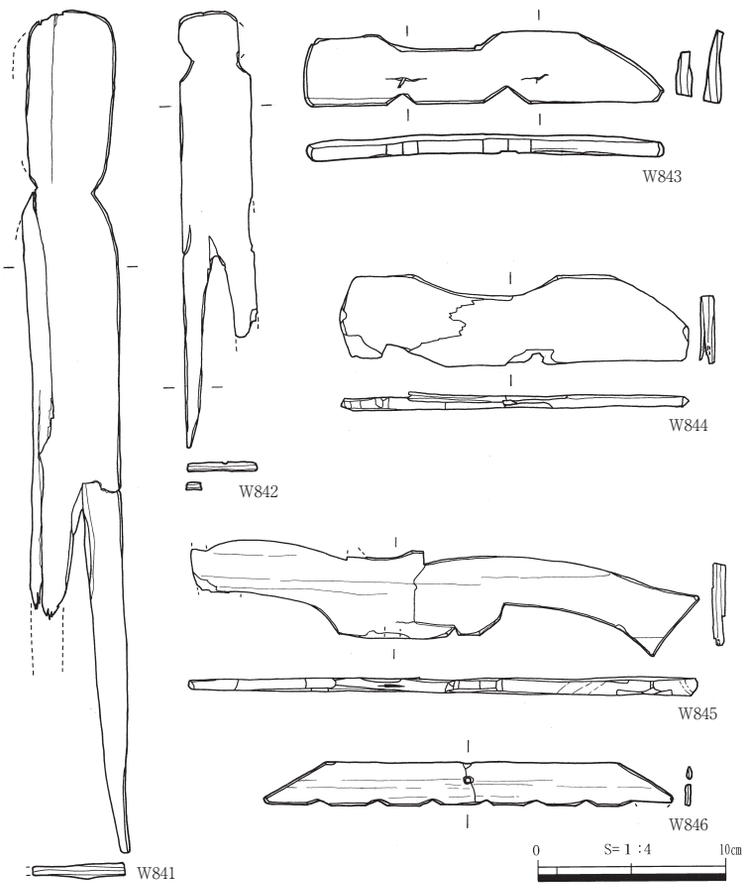
のみで、中央に円孔が開けられる。W995は柄を差し込む棒孔がみられないので、斎串の可能性もあるが、両側縁がやや弧状にかたどられていることからエブリとした。

第560図はⅣ～Ⅴ層から出土した資料である。W999 ～ 1002は人形で、W1002は一本脚の人形で、方形の頭部にナデ肩を持つ。W1003 ～ 1011は馬形である。W1007は下半身側に溝状の切断痕がみられ、その部分から下半身側が切り裂かれてやや反り上がっている。W1007はⅡAb類とするが、前端部の上方が僅かに突出しており、耳を意識している可能性がある。やや立体的なつくりである。W1004は小型の馬形であるが、４本の棒を挿入し立てられている。W1012 ～ 1014は斎串で、W1012は上端に複数の切り込みが入れられる。W1013は両側縁に切り欠きが連続するＣⅠ類で、表面に加工痕が明瞭に残る。W1015は刀子形と考える。W1016は祭祀具としたが、不明品である。

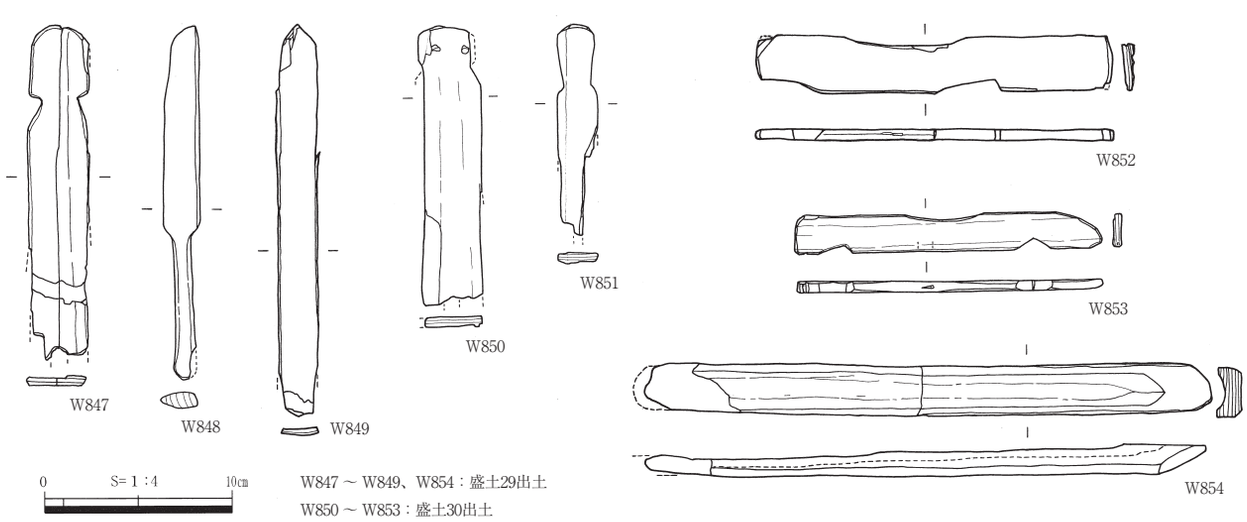
Ｐ16区出土木製祭祀具（第561 ～ 564図）

第561図は道路２、条里45、盛土35から出土した資料である。W1018は小型の側面人形で、被り物と鼻がつくり出され、目が刺突で表現される。W1022は馬形ⅡDc類で、細長い尾が尻部の高い位置からつくり出されている。W1016は舟形で、長方形が平面形をなし、船尾（船首）の上端に棒孔がみられる。

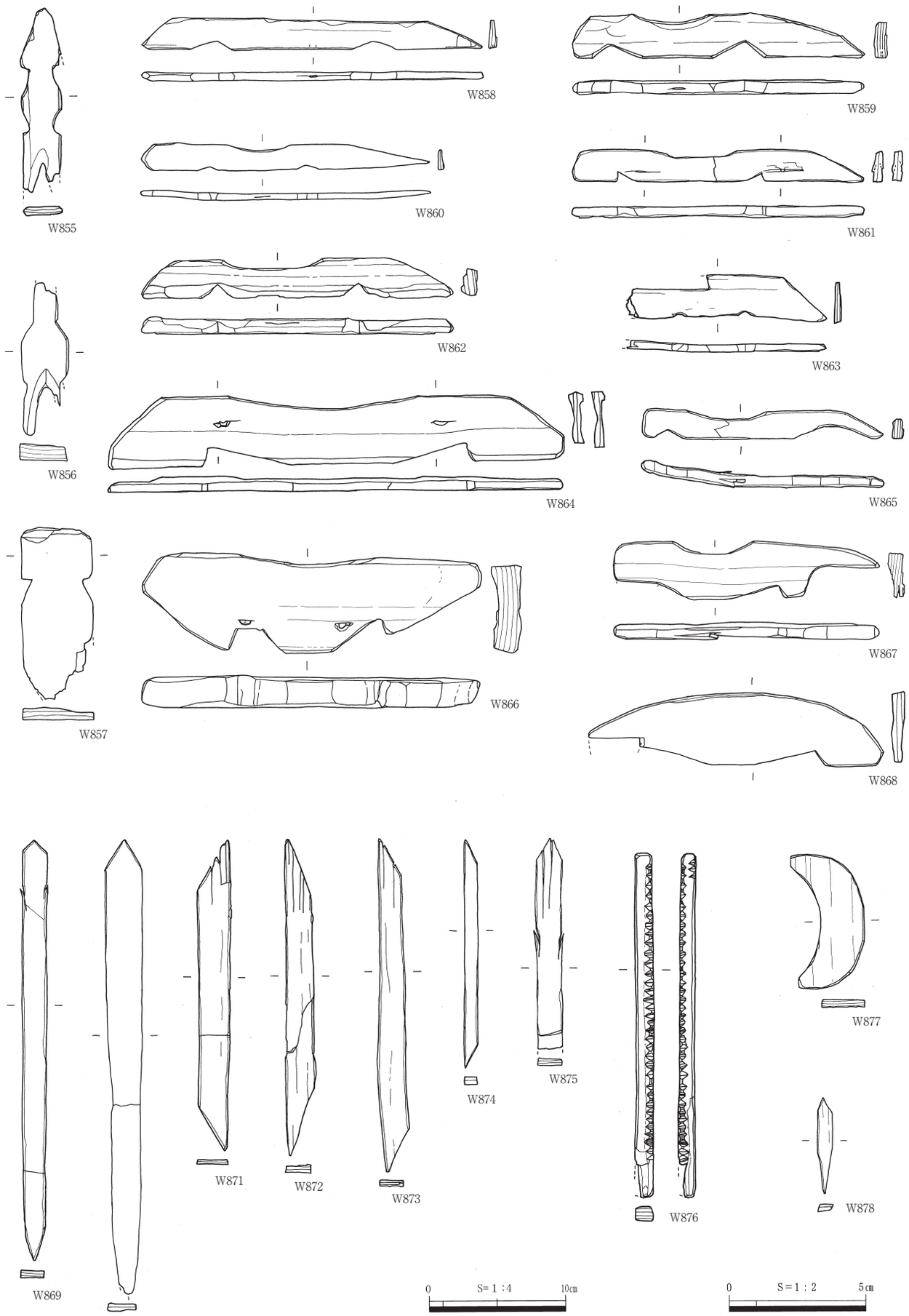
第562図は盛土32から出土した資料である。W1023 ～ 1034は人形で、W1034は大型品で、胴部中央に刀子などによる切れ目があり、切断痕とみられる。W1039は斎串の上端破片としたが、刺突と方形の孔がみられ、人形の頭部である可能性もある。W1045は不明品である。長方形の板の上下辺の中央に切り欠きを持つ。



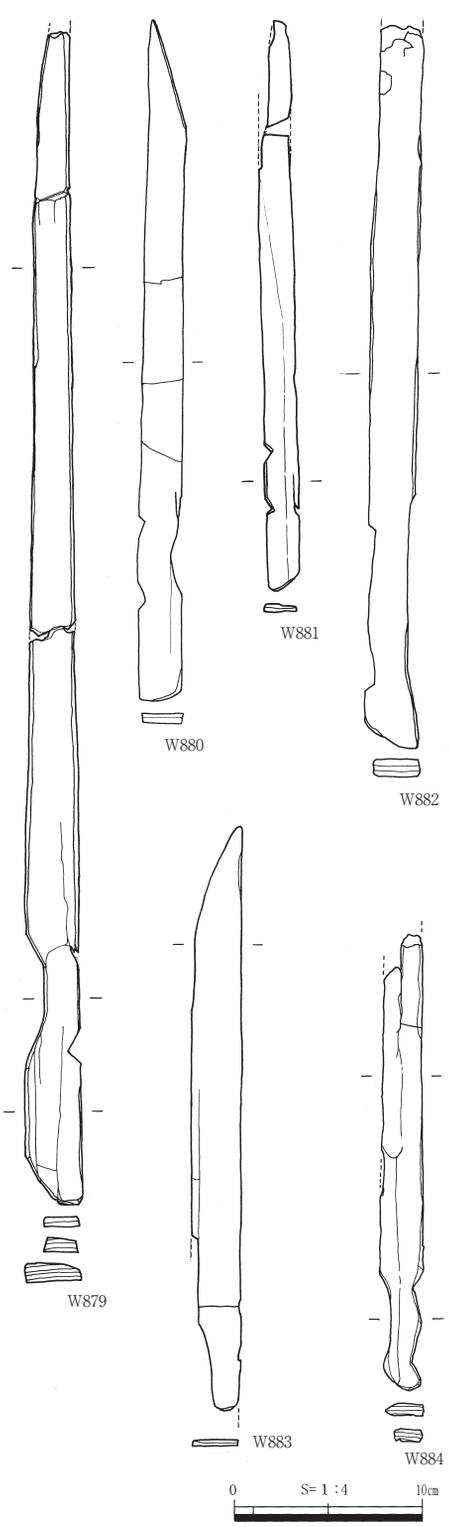
第540図　P12区条里37出土木製祭祀具



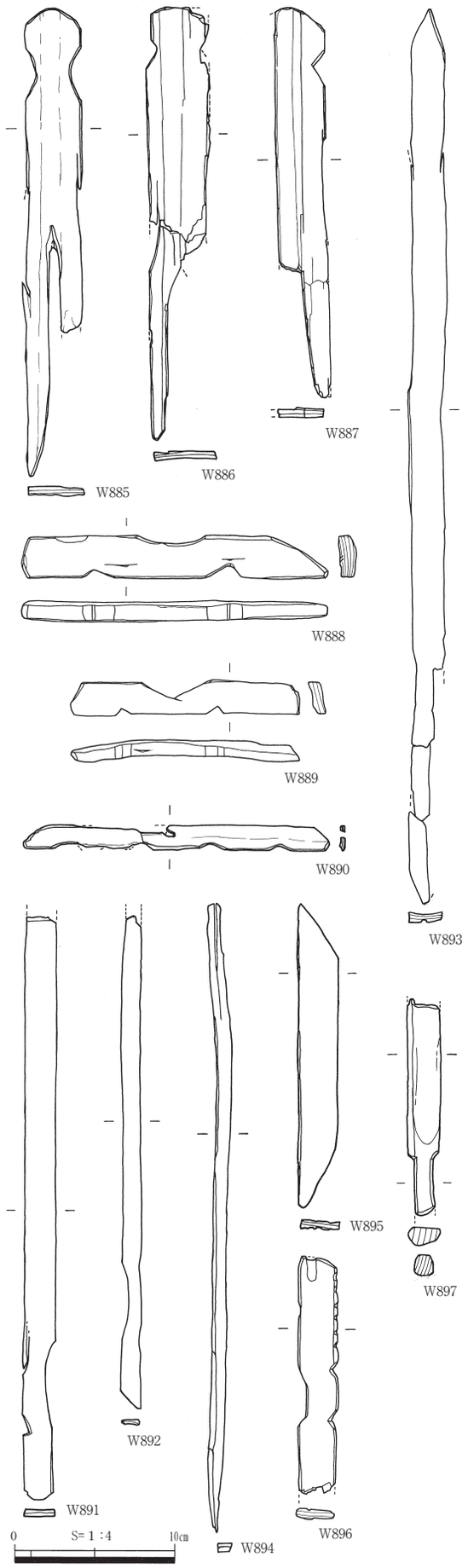
第541図　P12区盛土29・30出土木製祭祀具



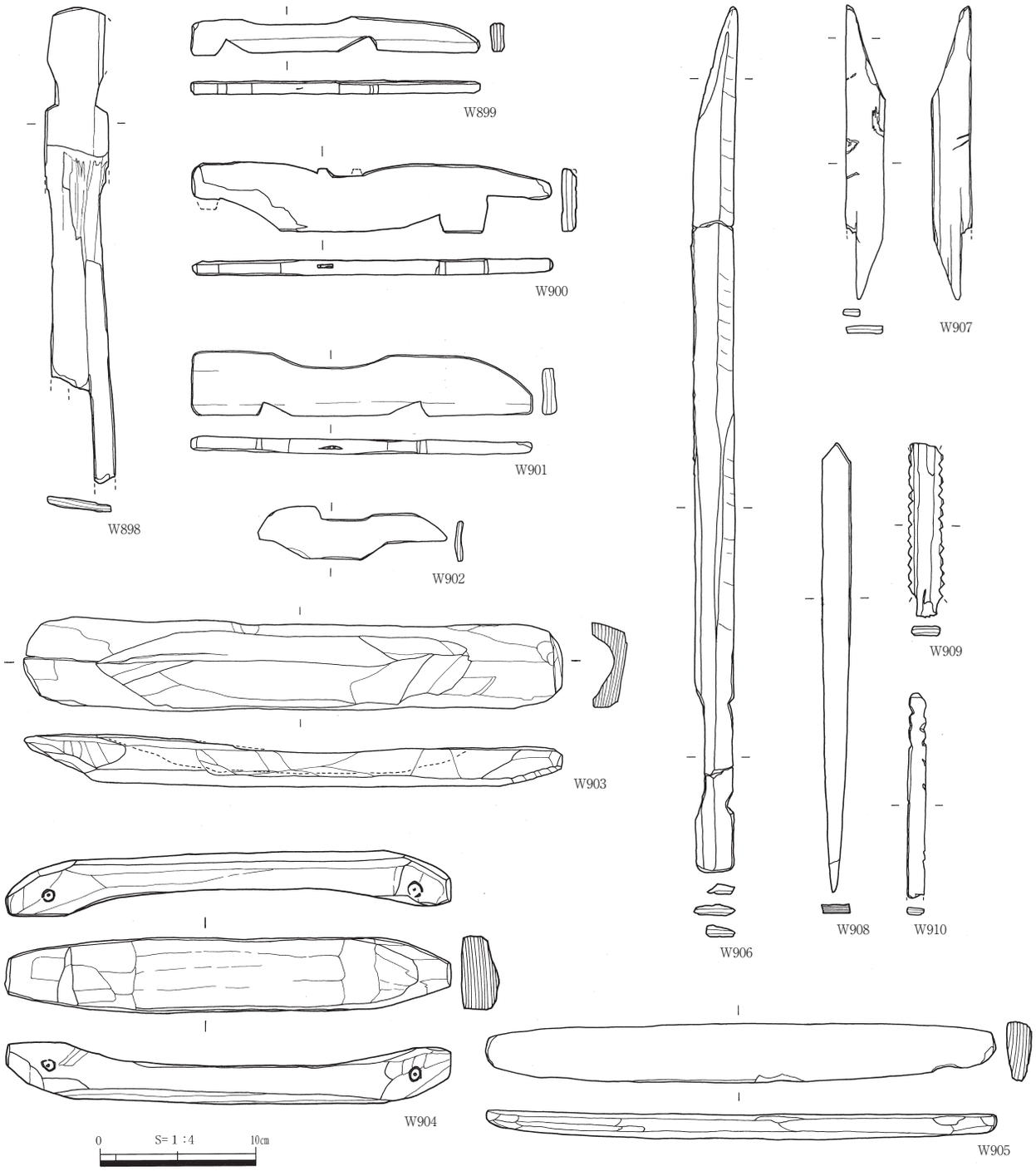
第542図　P12区河道14出土木製祭祀具（１）



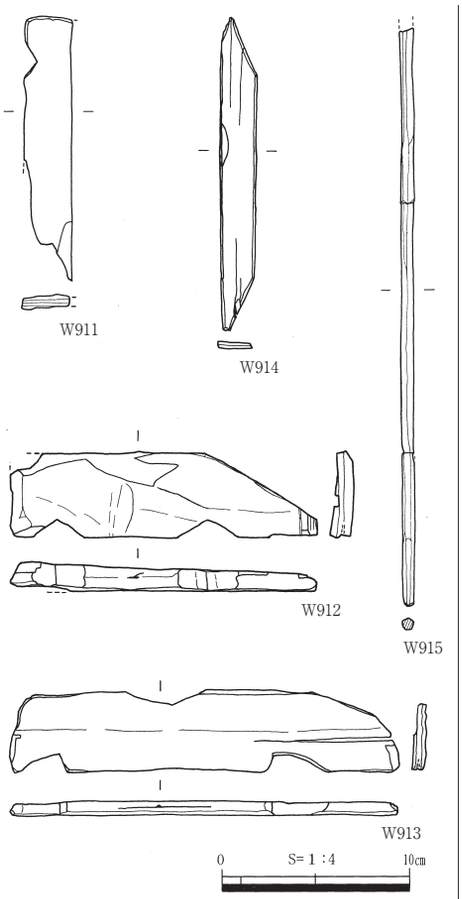
第543図　P12区河道14出土木製祭祀具（２）



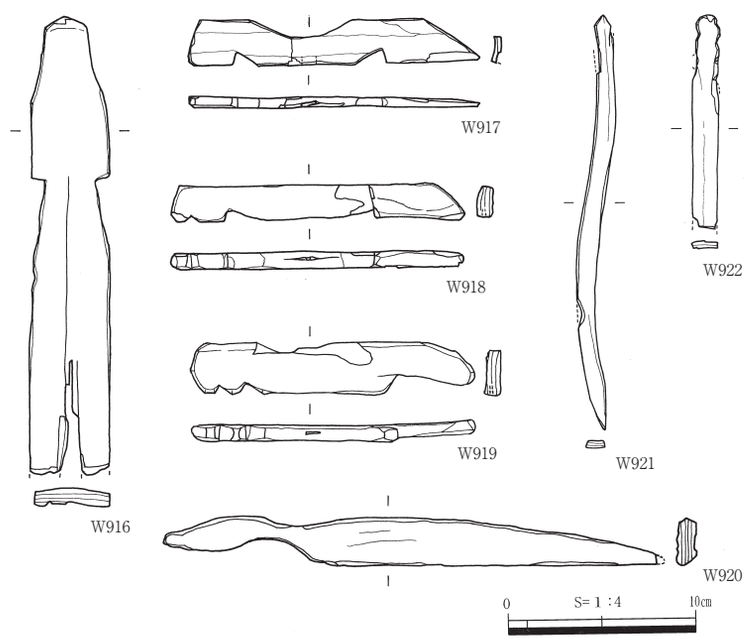
第544図　P12区河道６出土木製祭祀具



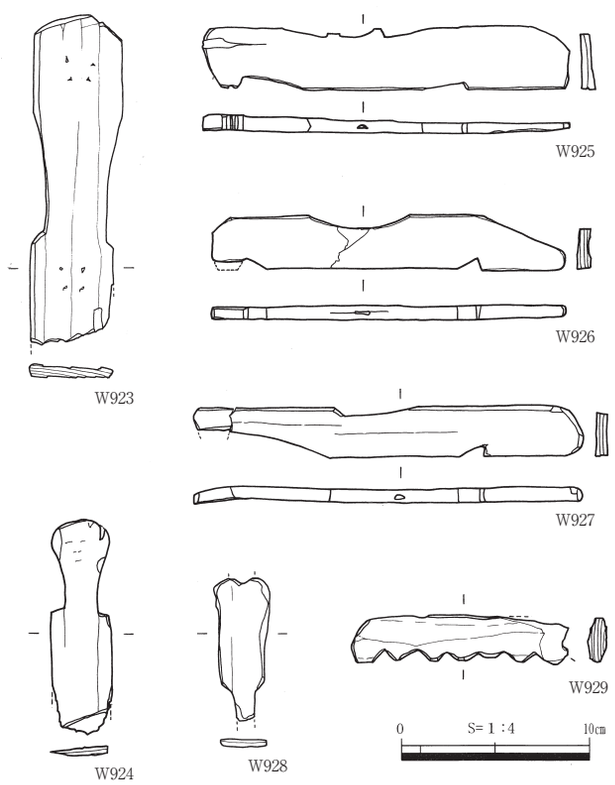
第545図　P12区Ⅳ層出土木製祭祀具



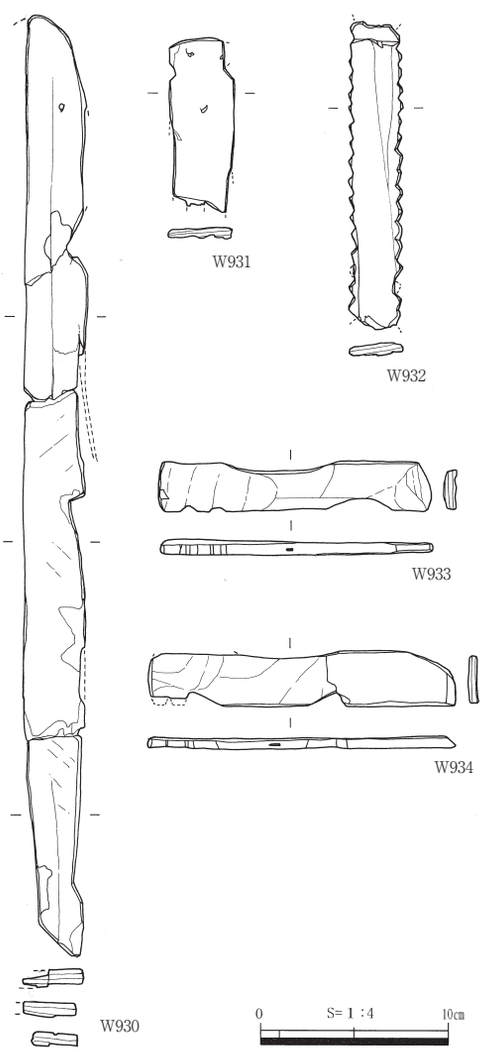
第546図　P12区Ⅴ層出土木製祭祀具



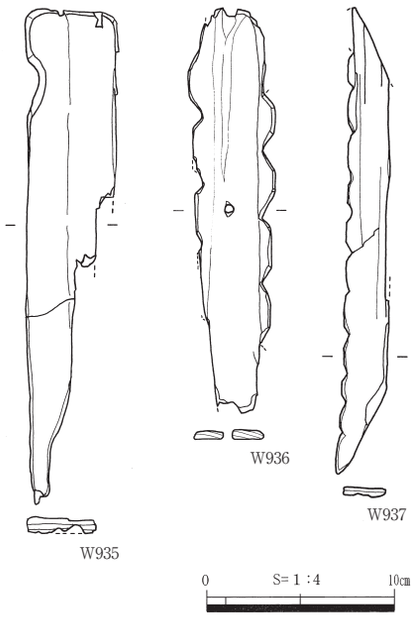
第547図　P13区道路１出土木製祭祀具



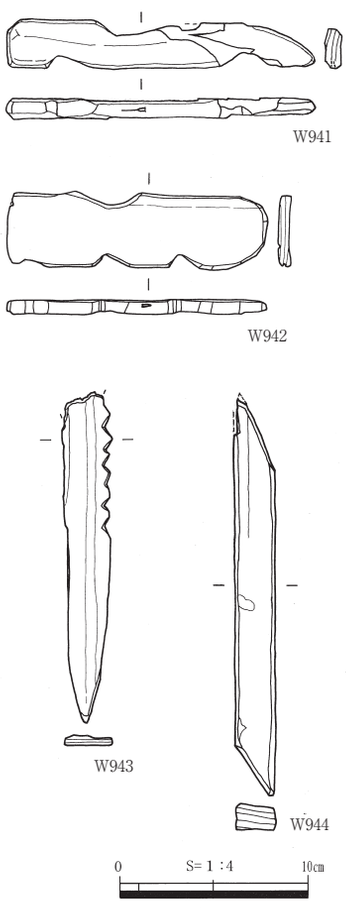
第548図　P13区条里38出土木製祭祀具



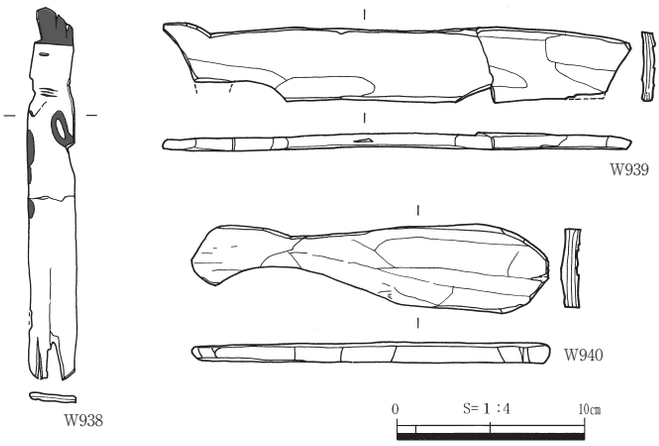
第549図　P13区盛土31出土木製祭祀具



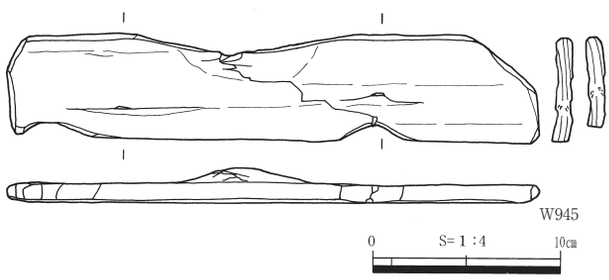
第550図　P13区河道６出土木製祭祀具



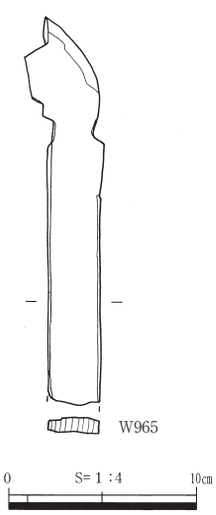
第552図　P13区Ⅴ層出土木製祭祀具



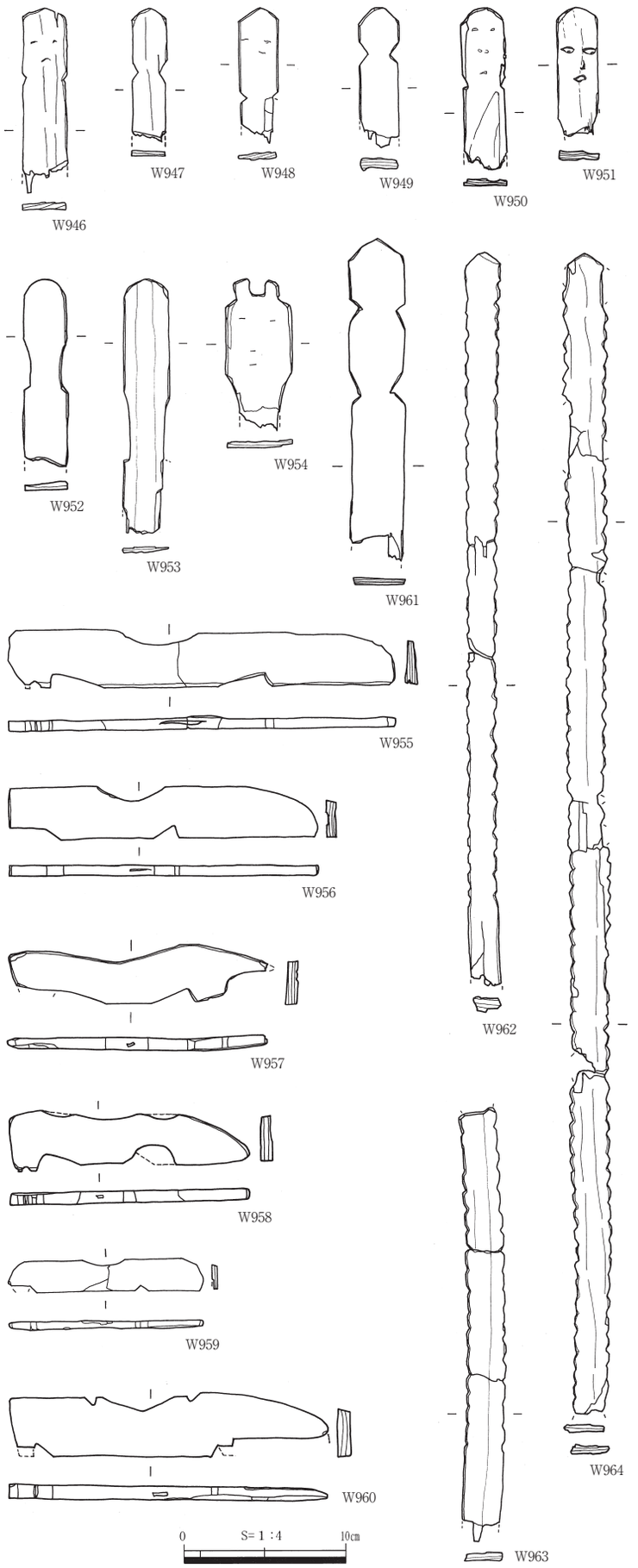
第551図　P13区Ⅳ層出土木製祭祀具



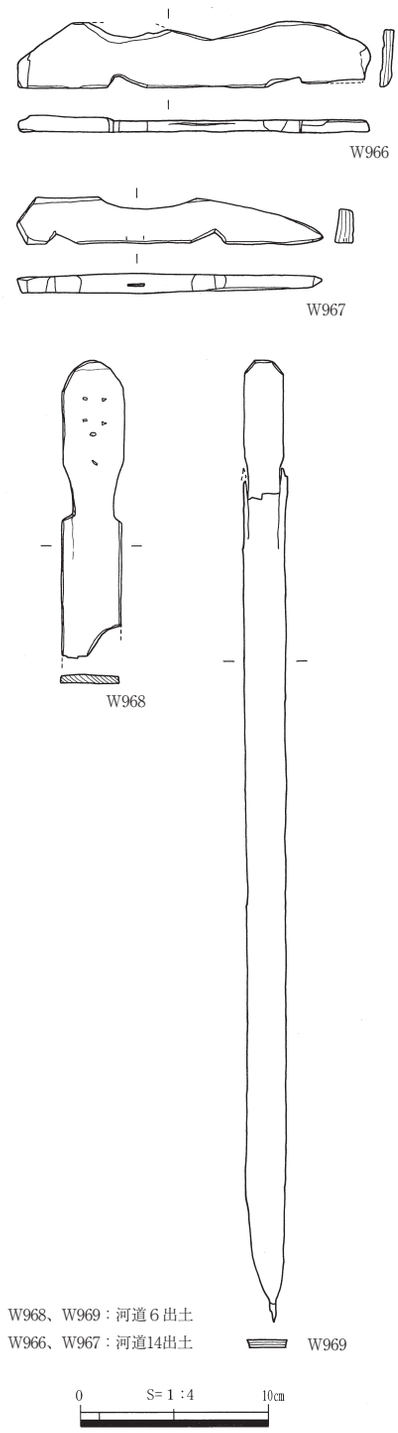
第553図　P13区出土木製祭祀具



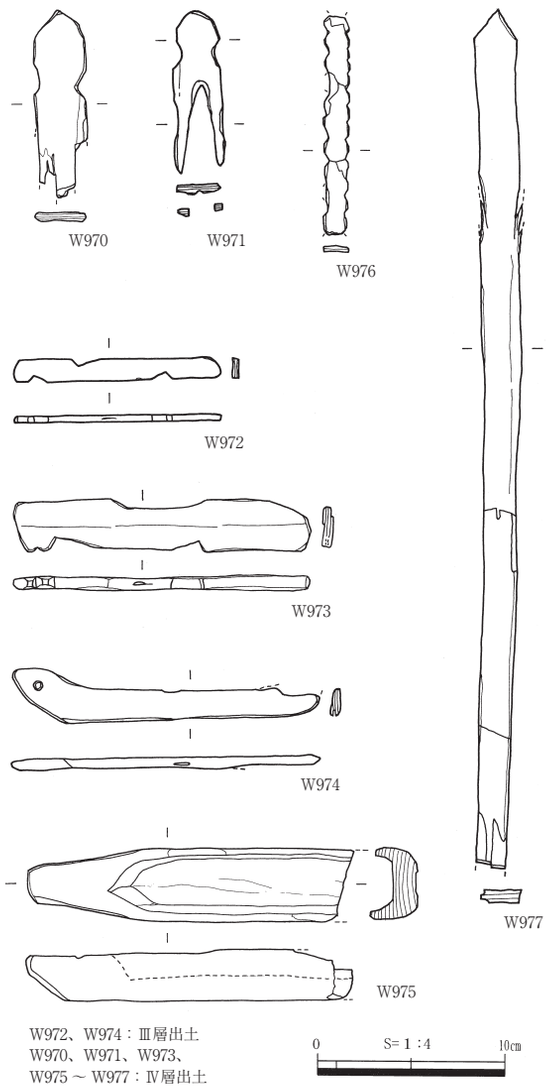
第555図　道路1外盛土出土木製祭祀具



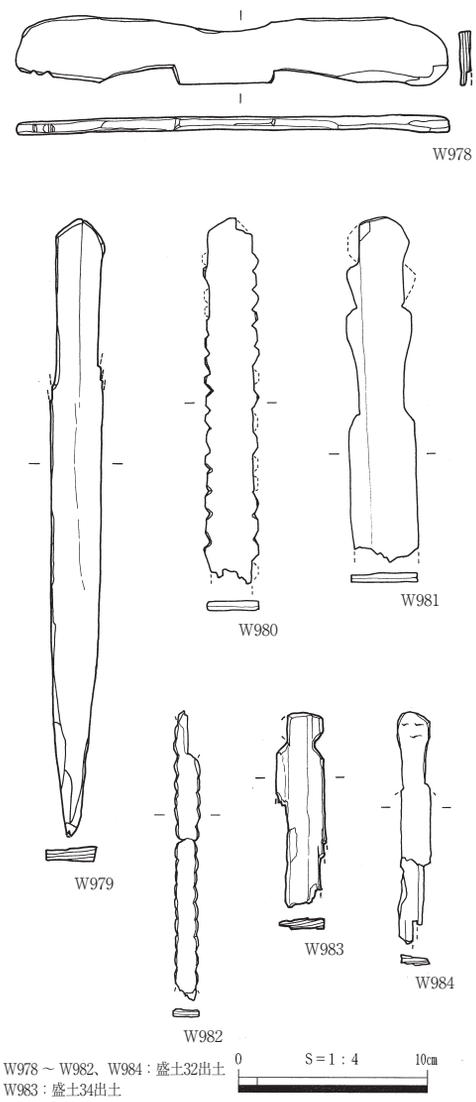
第554図　P14区道路1出土木製祭祀具



第556図　P14区河道6・14出土木製祭祀具



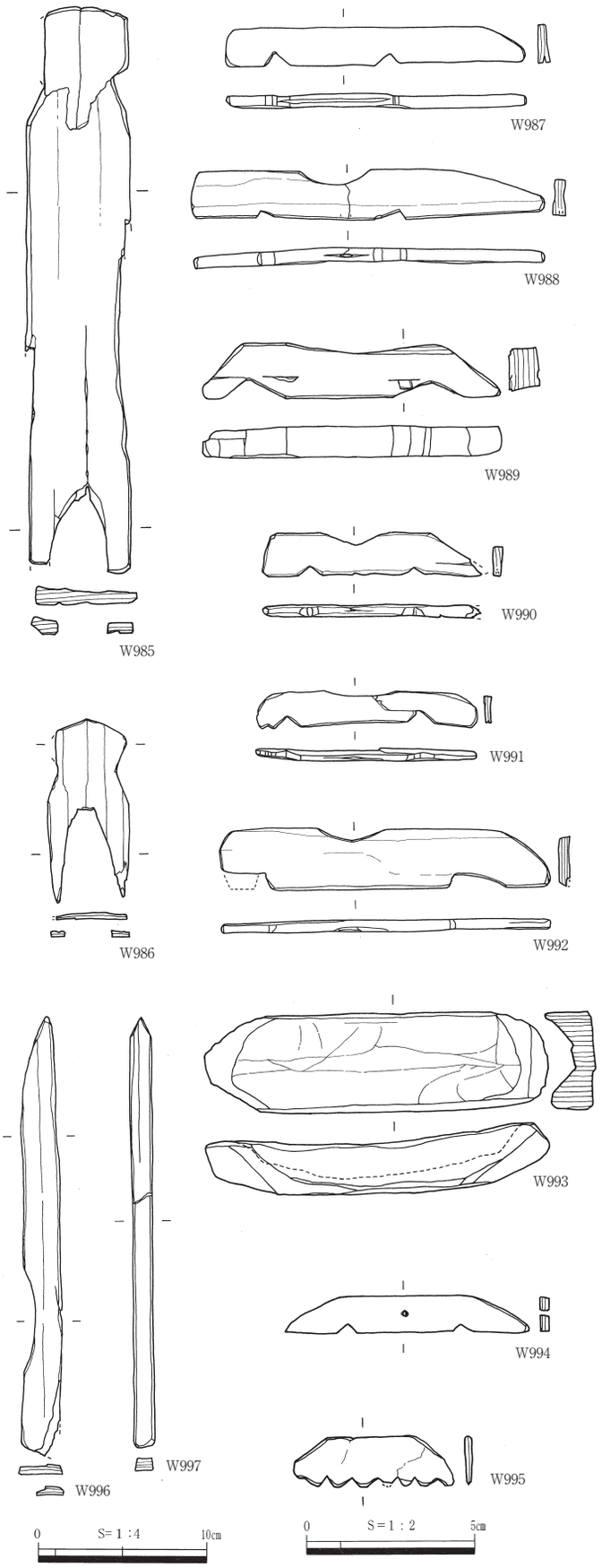
第557図　P14区Ⅲ・Ⅳ層出土木製祭祀具



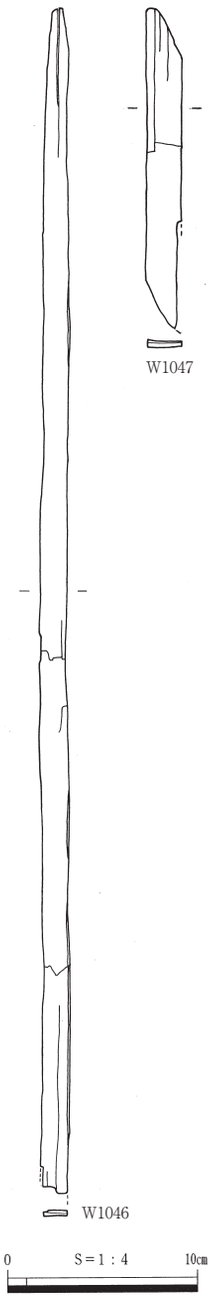
第558図　P15区盛土32・34出土木製祭祀具

第563図は土坑９から出土した資料である。W1046、1047は斎串で、W1047には中央に切断痕がみられる。

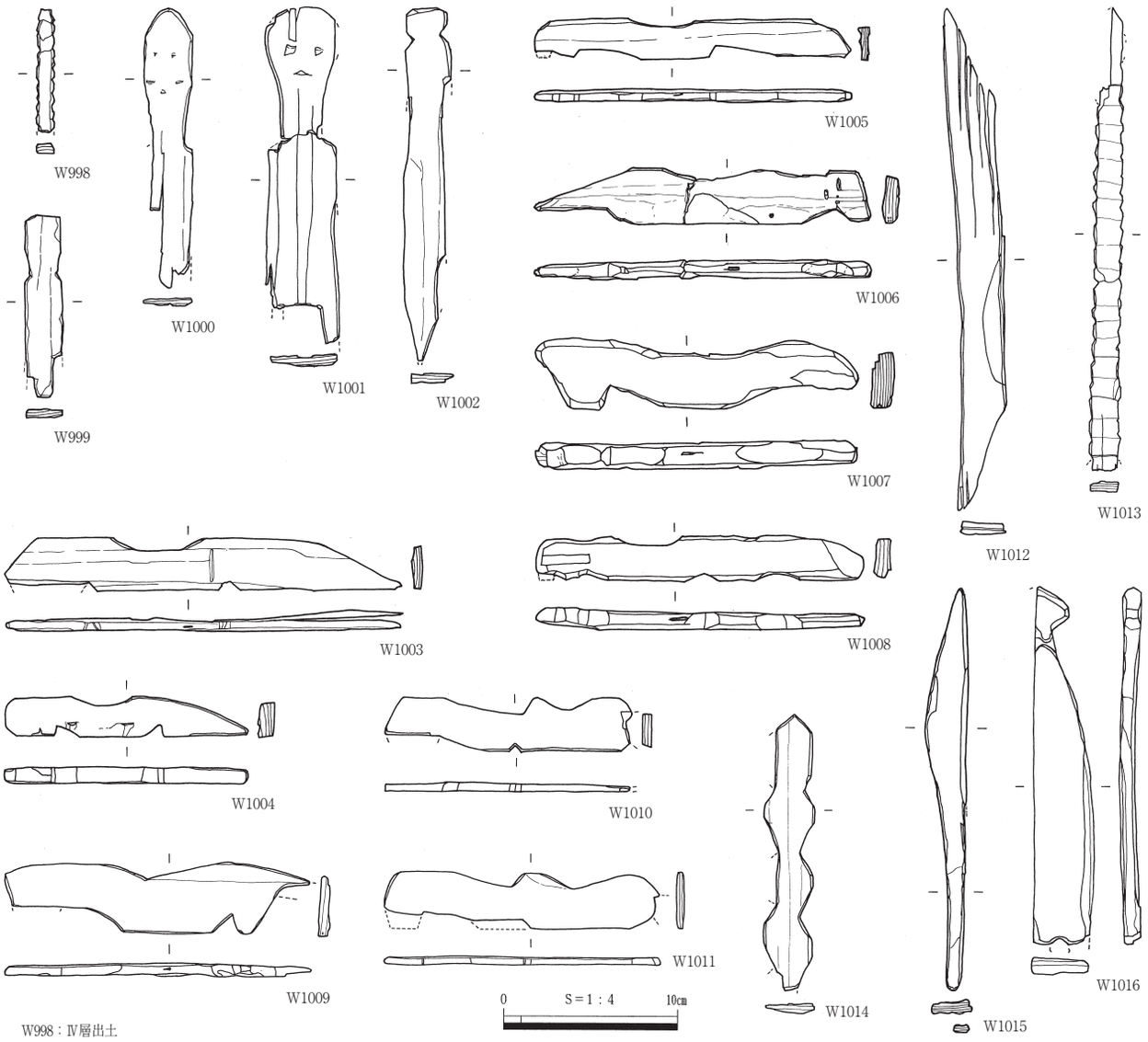
第564図はⅣ層から出土した資料である。W1052 ～ 1058は馬形で、W1054は背の切り込みがなく、尻尾を丸く仕上げる。W1057は小型の馬形で、ⅢDa型式である。写実的な形態となす。W1055は舟形の半欠品で、右側が船底から大きく反り上がっており、船首となる。舟槽の横断面形は逆台形となり、舷側立ち上がりは極めて緩やかとなる。舷側の上端近くには孔が２ヶ所開けられている。この孔は外側に向かい斜め下方に開けられていることから舷側板の綴じ孔とは考えにくい。櫂を差し込み、固定するための孔である可能性を指摘しておきたい。W1060、1061はエブリ形で、W1060は棒孔が方形を呈する。W1061は柄となる角棒が挿入されたままで遺存する。下辺の切り欠きは少ない。W1062 ～ 1064は刀形で、W1062は厚みがあり、面取り整形され、やや立体的に仕上げられる。欠損するが、背側には切り込みをもつとみられる。W1066は斎串で、上下逆の可能性が高い。



第559図　P15区河道６出土木製祭祀具

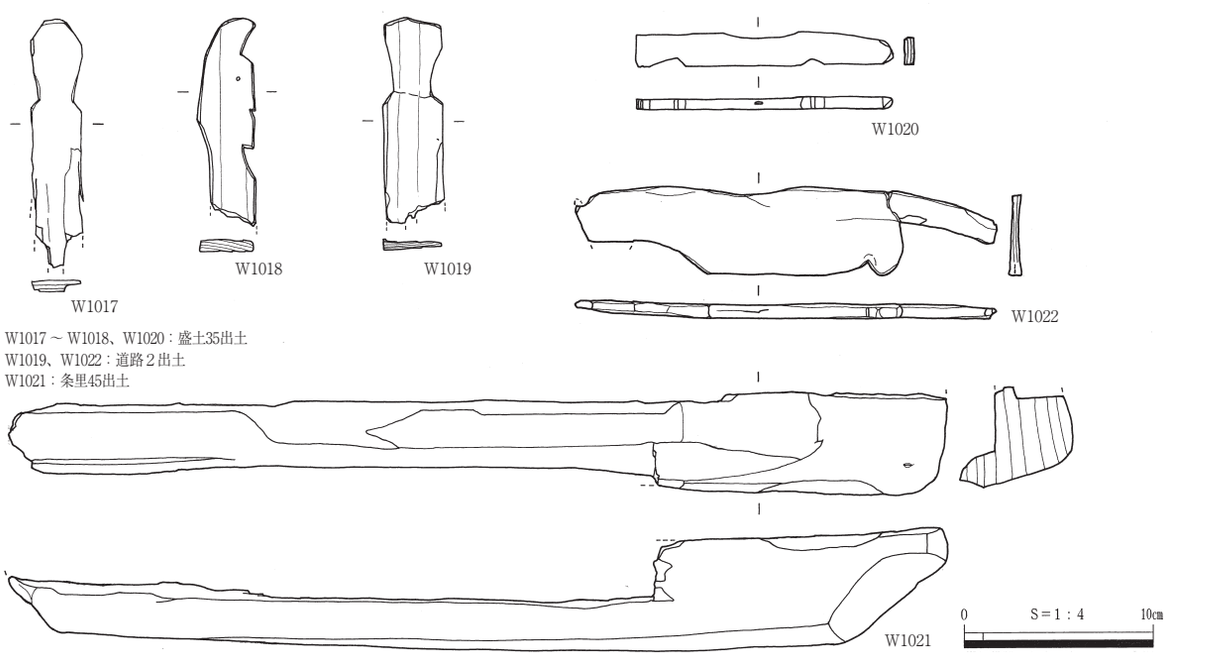


第563図　P16区土坑10
出土木製祭祀具



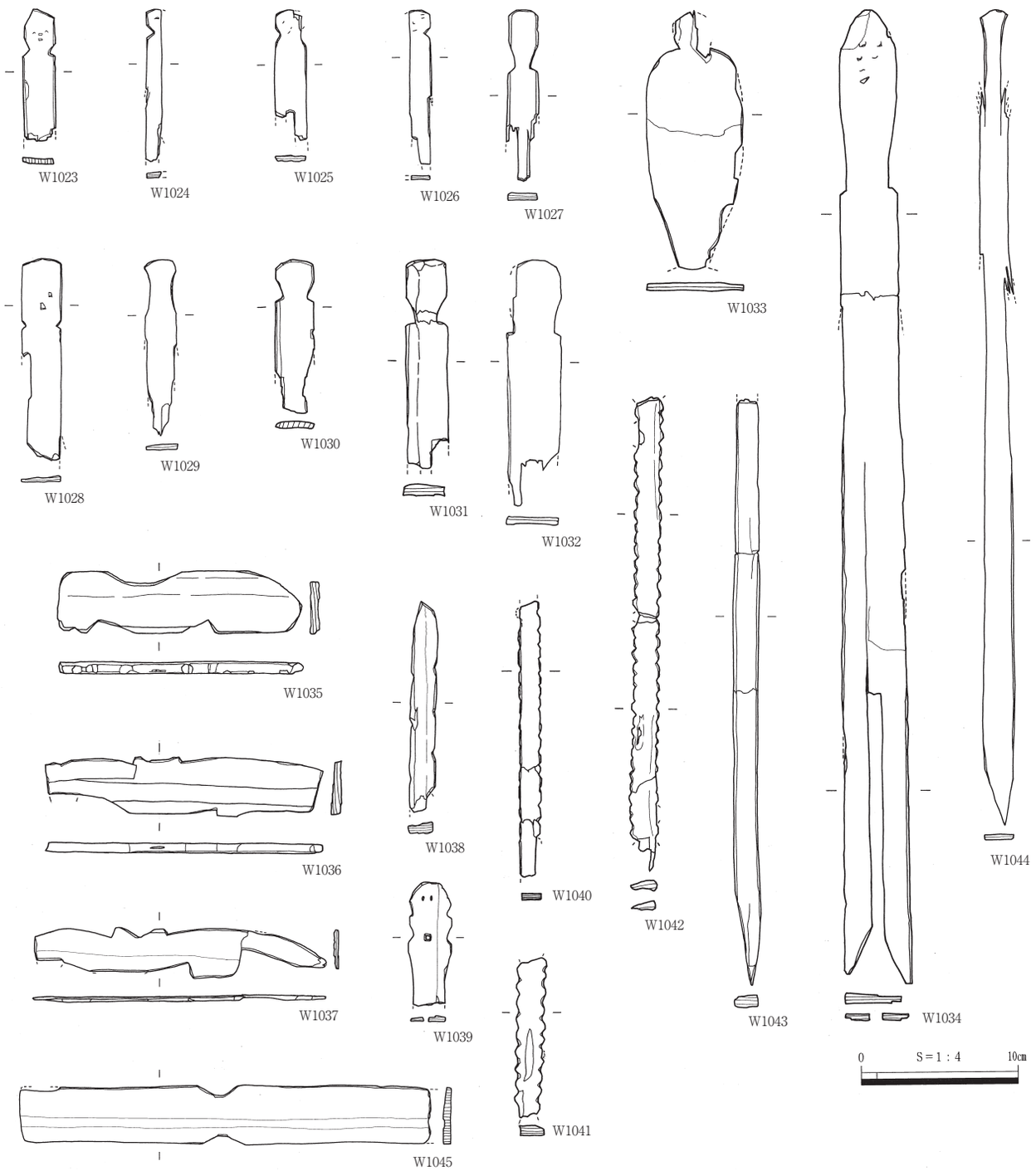
W998：Ⅳ層出土
W999 ～ W1016：Ⅴ層出土

第560図　P15区Ⅳ・Ⅴ層出土木製祭祀具

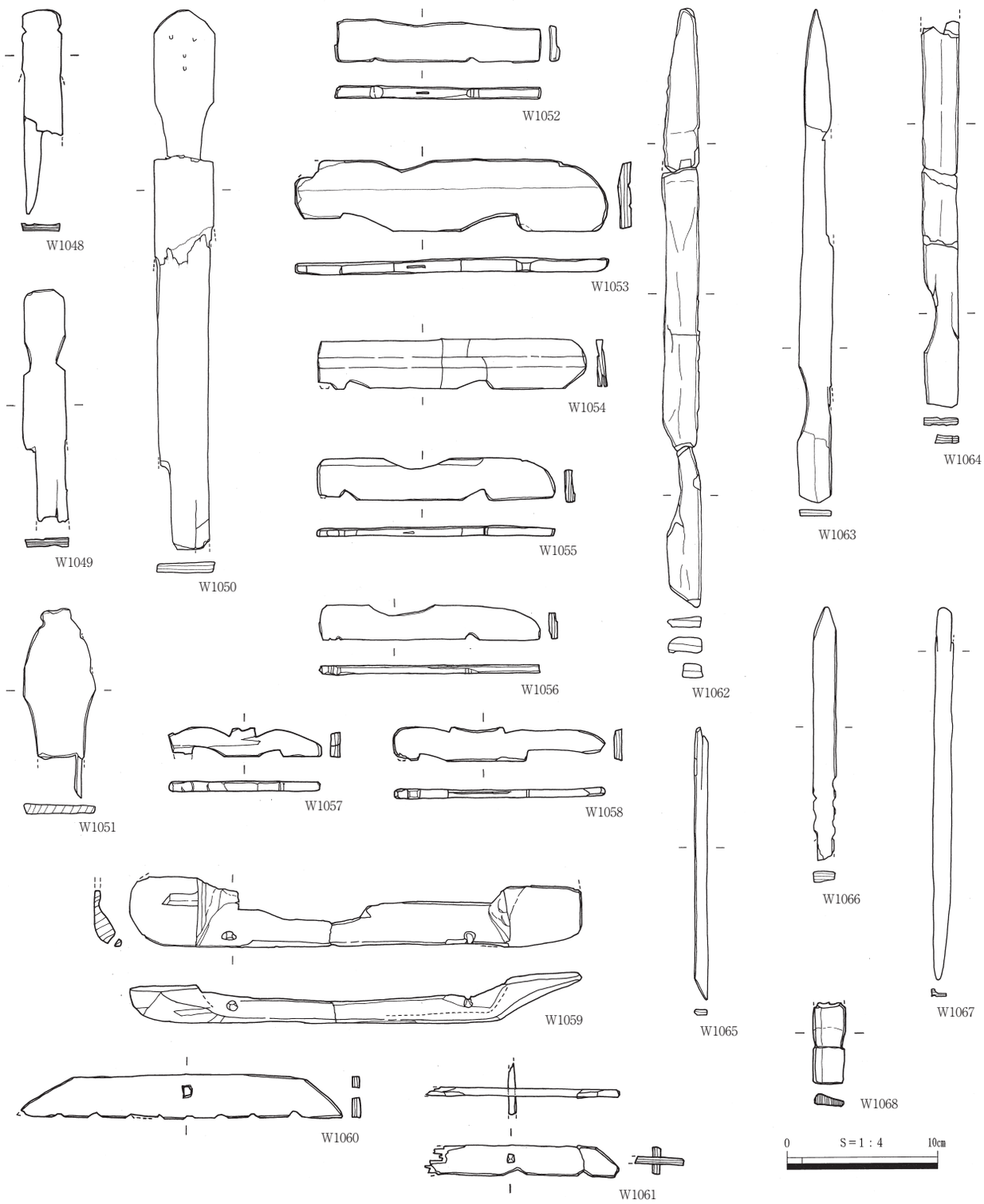


W1017 ～ W1018、W1020：盛土35出土
W1019、W1022：道路２出土
W1021：条里45出土

第561図　P16区盛土35・道路2・条里45出土木製祭祀具



第562図　P16区盛土32出土木製祭祀具



第564図　P16区Ⅳ層出土木製祭祀具

第３節　木製品

第１項　概　要

青谷横木遺跡では数万点に上る木製品が出土している。内訳は農工具や漁撈具、紡織具、服飾具、容器、食事具、武器、祭祀具、木簡、建築部材など多種多様である。時期は７世紀後半から11世紀の古代を中心とするが、縄文時代晩期から中世に至る幅広い資料が出土している。主体となる古代の木製品では80点を超える木簡や２万点以上に及ぶ木製祭祀具、国宝高松塚古墳壁画に類似する『女子群像』が描かれた板絵、木とんぼが特筆される。

本節では、木製祭祀具や木簡以外の木製品について報告する。木製祭祀具については第２節で、木簡については板絵を含め、第４節で詳述することとする。ただし、木製祭祀具でも古墳時代以前のものについては本節で取り扱う。

木製品は全点持ち帰り整理を行ったが、出土量が膨大であることや時間的制約から祭祀具以外の木製品については詳細な分類や数量の正確なカウントはできていない。ここでは、遺跡や遺構を評価するうえで必要な698点を抽出し掲載した。そのうち、108点については樹種同定も併せて実施している。掲載数は限定され、建築部材など大型品の掲載数が少ない点は否めないが、本遺跡の出土傾向や特徴を概ね示すことはできたと考える。

なお、掲載資料の器種分類や名称については、主に奈良国立文化財研究所1985『木器集成図録』近畿古代篇を参考にした。

第２項　古代における木製品の分類と特徴

本項では、遺跡を特徴付ける古代の木製品について分類や出土傾向についてその概略を示す。木製祭祀具や木簡以外の木製品も多量に出土し、農工具や漁撈具、紡織具、容器、食事具、武器などで構成される。一般集落ではあまりみられない漆器や檜扇、横櫛、漆塗りの弓などの奢侈品が器種構成として成り立ち官衙的様相を示す点が特徴として挙げられる。出土分布をみると、Ｐ１～４区周辺とＰ10～12区周辺の２ヶ所に集中する傾向が窺える。樹種は漆器や下駄などの特定の器種以外はスギが多用されている。

工　具

錐や刀子(柄)、鑢、篦、木針などで構成される。出土量は少ない。

農　具

田下駄や横槌、木錘、竪杵、橇(そり)、穂摘具などで構成される。器種組成で一定量を占める。その中でも田下駄が大部分を占め、古代の木製品の中でも曲物と並び最も出土数が多い。今後、詳細な分類が可能であると考えるが、ここでは先行研究に基づき大まかな分類に留めた。

田下駄は板型田下駄、枠型田下駄、高足型田下駄に大別される。本遺跡の特徴として高足型田下駄が、前二者に比べて少ないものの、一定量を占める点が挙げられる。

板型田下駄は足板のみのもので、穿孔式と抉り式に細分される。穿孔式の緒孔は基本的に３孔である。抉り式の抉りは４カ所が大部分を占める。

枠型田下駄は足板に枠を取り付けたものである。足板のみの出土では枠の特定は困難であるため、いわゆる「輪樏型」と呼ばれる円形の棒枠を取り付けたものも枠型田下駄に含めた。枠との固定方法か

ら穿孔式と抉り式に細分される。さらに穿孔式には木釘で固定するもの(孔が小さな円孔を呈するもの)、紐で緊縛するもの(円形、または方形を呈し、大きめの孔を開けるもの)に分類が可能である。前者は前述した「輪樏型」とは考えにくい。枠の縦木や横木も出土しており、用途不明とした部材のうち、枘孔が連続して開けられた資料には縦木が含まれている可能性が高い。

高足型田下駄は２枚の台形状の枠歯を立て、枠歯間を縦木で固定したうえで、足板を乗せ木釘で固定するもので、「足駄型」などとも呼ばれる。枠の連結方法や緒孔の配置などにより細分することが可能である。

田下駄の樹種は同定した資料すべてスギである。

紡織具

製糸具である杵(支え木)や製織具である糸枠、地機の部材(経巻具)などで構成される。糸枠の出土が目立つが、織機は複数の部材が組み合わせることから部材のみの出土では認識できない場合が多い。したがって、用途不明とした木製品の中にも地機などの部材が含まれている可能性が高い。当該期の紡錘車は出土せず、製糸工程がやや不明瞭ながら、製糸から製織まで一連の工程が遺跡周辺で行われていた可能性が高い。樹種は同定した資料はすべてスギである。なお、紡織具の分類や名称については東村純子2011『考古学からみた古代日本の紡織』に準拠した。

漁撈具

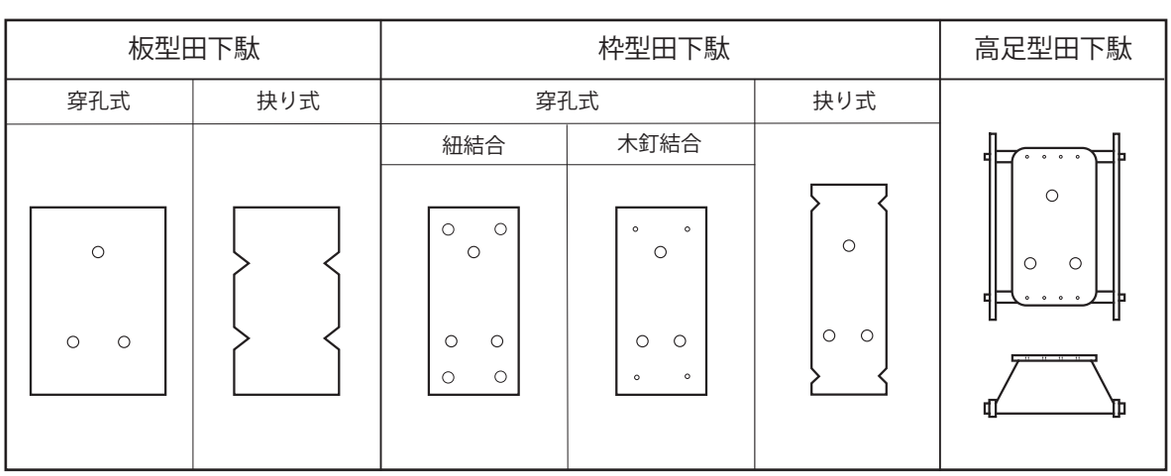
アカ取りやヤス、船などで構成され、出土はＰ３・４区に集中する傾向が窺える。出土数は多いとはいえないが、アカ取りは器種構成として一定量を占める。それに対して、その他の器種は判然とせず、とくにヤスは木針や簪などとの識別が難しい。

アカ取りは基本的に一木を刳り抜いたもので、形態にはバラエティーがある。側面の立ち上がりが低いものについては農具の「もみすくい」とする説がある。本遺跡でも側面が欠損した状態で再加工され、使用されたものがあり、水を汲み出す以外の用途を考える必要がある。櫂など他の漁撈具の少なさもそれを示唆する可能性がある。樹種を同定した資料はすべてスギである。

服飾具

檜扇や櫛、下駄で構成される。檜扇はスギ製、横櫛にはイノスキが用いられている。

下駄は、田下駄や曲物などとともに一定量の割合を占める。下駄はすべて台と歯を一木でつくる連歯下駄で、平面形は小判形を呈するものが主体である。歯は消耗し磨り減っているものが大半で、当



第565図　田下駄分類図

初の形状を留めるものは少ないが、台と同じ幅で、縦断面形が方形、もしくは逆台形を呈するものや、下辺幅が台の幅より広く、縦断面形が台形を呈するものなどがみられる。樹種はクリやスギ、カヤ、スダジイなどがあり、多様な材が選択されたことが窺える。

容　器

挽物や刳物、円形曲物、楕円形曲物、方形曲物、蓋板、栓で構成される。挽物と刳物、曲物が一定量を占めており、なかでも円形曲物の出土量が最も多い。

挽物はほとんどが漆塗りで、白木作りのものはごく少ない。底部の破片資料が多いが、高台付きの皿、杯、椀、合子などがある。樹種はケヤキ、カエデ、モクレンなどが用いられている。

刳物はほとんどが白木作りである。円形を呈するものもあるが、長方形や方形を呈するものが主体である。鉢や槽、盤などがあり、法量に大小がみられる。

円形曲物は側板を樺皮紐で綴じる樺皮結合曲物と木釘で固定する釘結合曲物がある。数量比を示せないが、一方に偏る傾向は窺われない。このことは樺皮結合が蓋、釘結合が身で、セット関係にあるとされていることと矛盾しない。樺皮結合は板の周縁に低い段を巡らせない樺皮結合曲物Ｂのみである。法量には大小があり、径10cm以下の小型のものから径40cmを越える大型ものまでみられる。径15cm前後のものが最も多い。径40cmを越える大型のものは樺皮結合で、釘結合のものはみられず、底板であった可能性が高い。

楕円形曲物は折敷と呼ばれるものである。僅かしか出土していない。樺皮結合のみであるが、周縁に低い段を巡らせ、側板を合わせ樺皮紐で緊縛する樺皮結合曲物Ｂも確認できる。

方形曲物も折敷であり、少量出土している。樺皮結合曲物Ｂのみである。基本的に長辺が45 ～ 70cmを測る大型のものである。

本遺跡出土の曲物は漆塗りのものが多く、とくに円形曲物の大型品や、方形曲物はその傾向が顕著である。樹種は基本的にスギが用いられている。

食事具

杓子や俎の可能性がある資料が少量出土している。ただし、用途不明品とした棒状品の中に箸が多く含まれている可能性がある。杓子は身の先縁を円形につくるもので、周縁を薄く仕上げている。樹種は同定した資料はスギである。

その他（武器・雑具・遊戯具・雑具など）

木とんぼや木鏃、弓、火鑽臼、木樋などが出土している。

【参考文献】
伊藤隆夫・山田昌久編2012『木の考古学　出土木製品用材データベース』海青社
財団法人東大阪市文化財協会1987『鬼虎川の木質遺物－第７次発掘調査報告書　第４冊－』
鳥取県埋蔵文化財センター 2005『木製容器・かご』青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告１
鳥取県埋蔵文化財センター 2012『木製農工具・漁撈具』青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告８
東村純子2011『考古学からみた古代日本の紡織』六一書房
奈良国立文化財研究所1985『木器集成図録』近畿古代篇
奈良国立文化財研究所1993『木器集成図録』近畿原始篇

第３項　各調査区の出土木製品

Ｐ１区出土木製品（第566、567図）

掲載資料はすべて古代の木製品である。

W1069 ～ 1070は連歯下駄で、いずれも鼻緒孔の前壺は片側に寄る。W1069は歯が著しく磨り減っており、ほぼ消失している。W1070は後壺が２対あり、足の成長に合わせて開け直されたのであろうか。W1071 ～ 1072は小型の円形曲物で、釘結合曲物の可能性もあるが、釘孔が確認できない。W1073 は小型の蓋で、頂部にはつまみが付くが欠損している。つまみからは放射状に広がる装飾が彫り出されている。下半部は径が小さく、容器本体に填め込む栓蓋である。W1074は刳物で、円形を呈する椀で、内外面には粗い加工痕が残る。W1075 ～ 1081は挽物の漆器である。W1075は高台付きの杯で、口縁部が外反し、体部中位に稜を持つ。W1080は高台付きの皿で、底部外面に斜格子状の線刻が施される。W1081は漆器の合子と考えられる。直立する体部に上げ底風の底を持ち、体部外面には上下２段に２条一対となる突帯が巡っている。内外面とも漆が丁寧に塗られる。W1084、1086 ～ 1087は付け木で、古代の所産である。古代の付け木はＰ１区以外ではほとんど出土しない。W1091は楔とみられ、転用材である。

10区出土木製品（第568、569図）

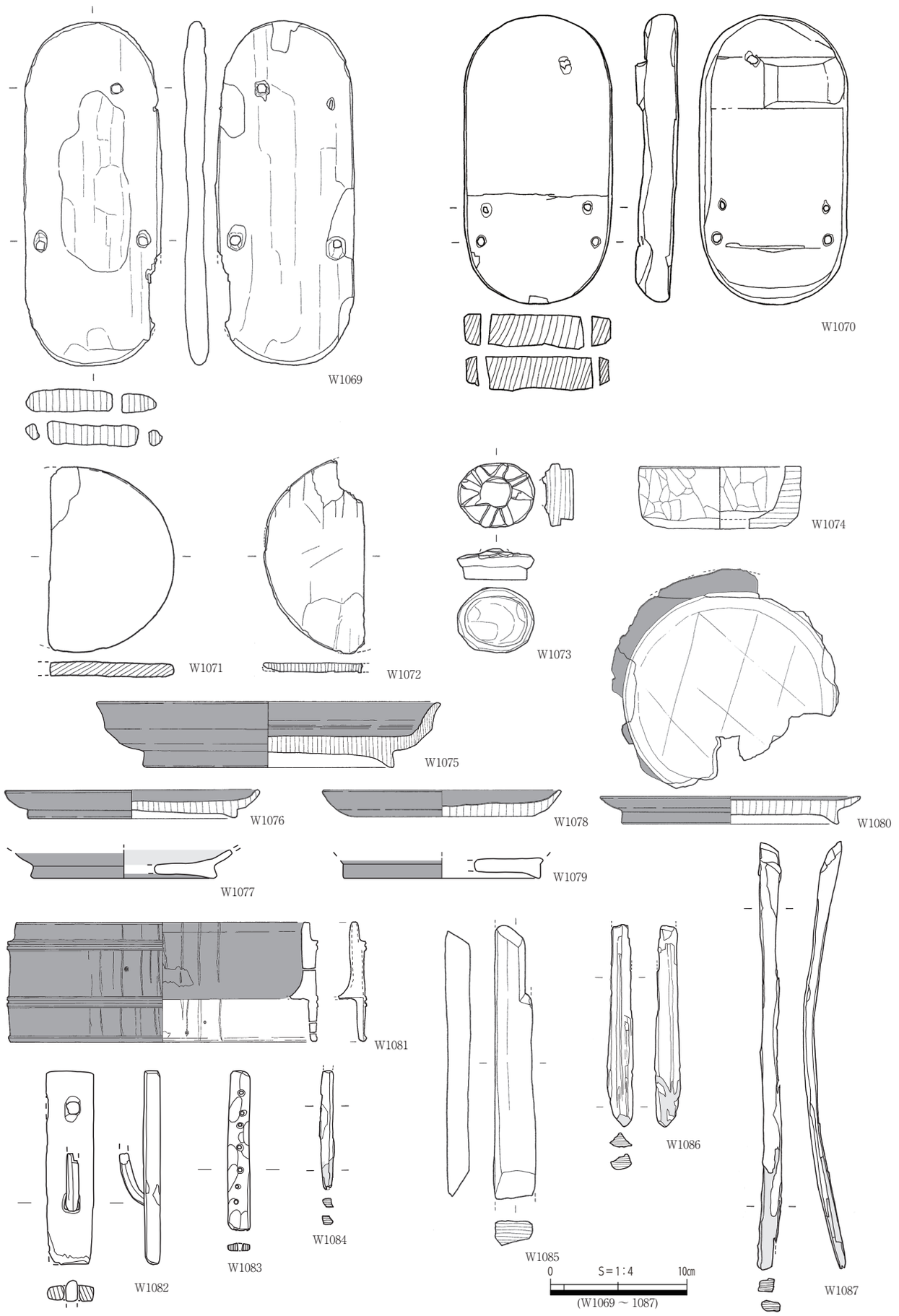
掲載資料はすべて古代の木製品である。

W1092 は木錘で、中央に向かって円錐状に削り込んでいる。W1093は糸枠の枠木で、横木を填め込む枘孔は円形を呈する。腹面は枘孔を除く部分が刳り込まれる。W1094は長方形の横櫛、W1095は紡織具で、地機の経巻具とみられる。軸棒の断面は円形を呈する。W1096 ～ 1098は連歯下駄である。W1097は鼻緒孔が方形を呈し、台の上には足跡が明瞭に残る。前壺は左右に二つあり、左右を履き替えたものと考えられる。W1099は弓で、完形品である。両端は両側から削り込むことで枘状の弭が造り出されている。弓幹は樹皮がはぎ取られているが、加工は部分的にしか施されておらず、粗製品である。W1100は円形曲物で、径約44cmの大型品である。樺皮結合曲物で、側板とは６カ所で結合されている。内外面ともには無数の刃物痕がみられる。W1101は刳物の槽または盤で、長方形を呈し、底部内面は船底状となる。W1102は合子の栓蓋で、つまみを欠く。W1103 ～W1105は挽物の漆器で、W1103は台付碗の口縁部であろうか。W1105は平底で円筒形を呈する小型の鉢で、内外面とも轆轤目が残る。W1110は小型の鏝とみられ、上面中央には握り柄がつくり出される。下面の反りは弱い。

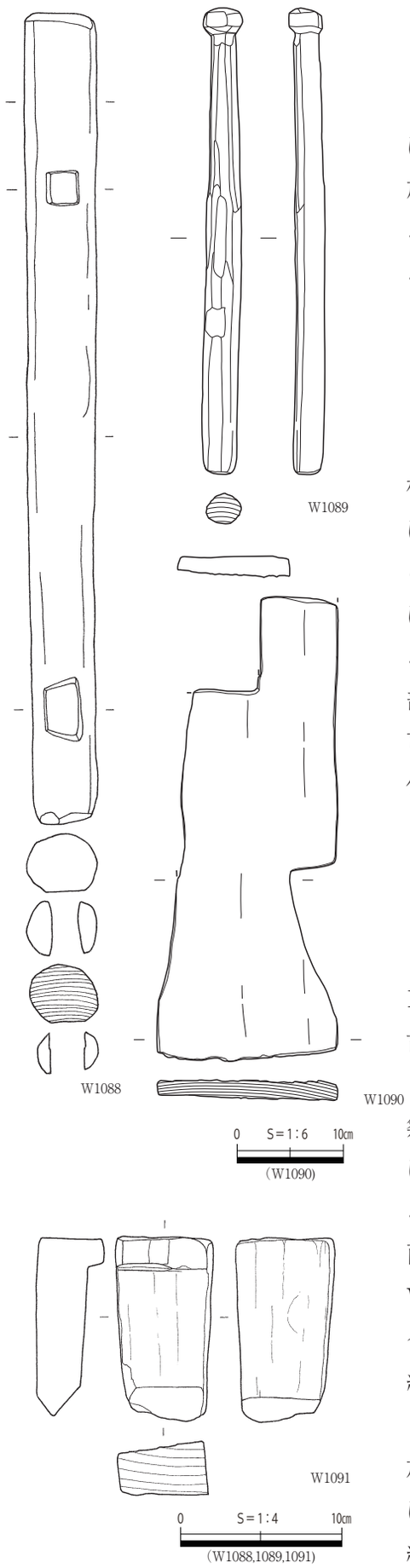
Ｐ２区出土木製品（第570図）

掲載資料はW1124のみが弥生時代、それ以外は古代の資料である。

W1112 ～ 1115は紡織具である。W1112は経巻具の可能性があるが、W1237などと比べると板が小さく躊躇される。W1113、1114は小型の糸枠で、W1113が横木、W1114が枠木である。W1114は枘孔に填め込んだ横木を固定するための釘孔がみられる。腹面は枘穴付近を台座状に残し、刳り込まれる。W1116、1117は檜扇で、要の孔が開けられている。W1116の本にかけて側面が削られ、幅が狭められている。W1119は把手が付く大型の容器とみられ、運搬具の可能性がある。W1120は樺皮結合曲物、W1121は釘結合曲物で、釘孔は４箇所とみられる。W1123 ～ 1127は部材や用途不明品で、W1123は断面が菱形を呈する棒状品で、端部に枘がつくり出されている。本遺跡では類似資料の出土が目立つ。



第566図　Ｐ１区出土木製品（１）



第567図　Ｐ１区出土木製品（２）

９区出土木製品（第571図）

掲載資料はすべて古代の木製品である。

W1128は刳物の槽、または盤で、長方形を呈する。W1130は用途不明品で、両端が有頭状を呈し、加工が比較的丁寧に施される。W1131は木樋と考えられ、角材が刳り抜かれている。上端の小口面には加工痕が残り、意図的に切断されている。出土状況も原位置を留めない。

８区出土木製品（第572、573図）

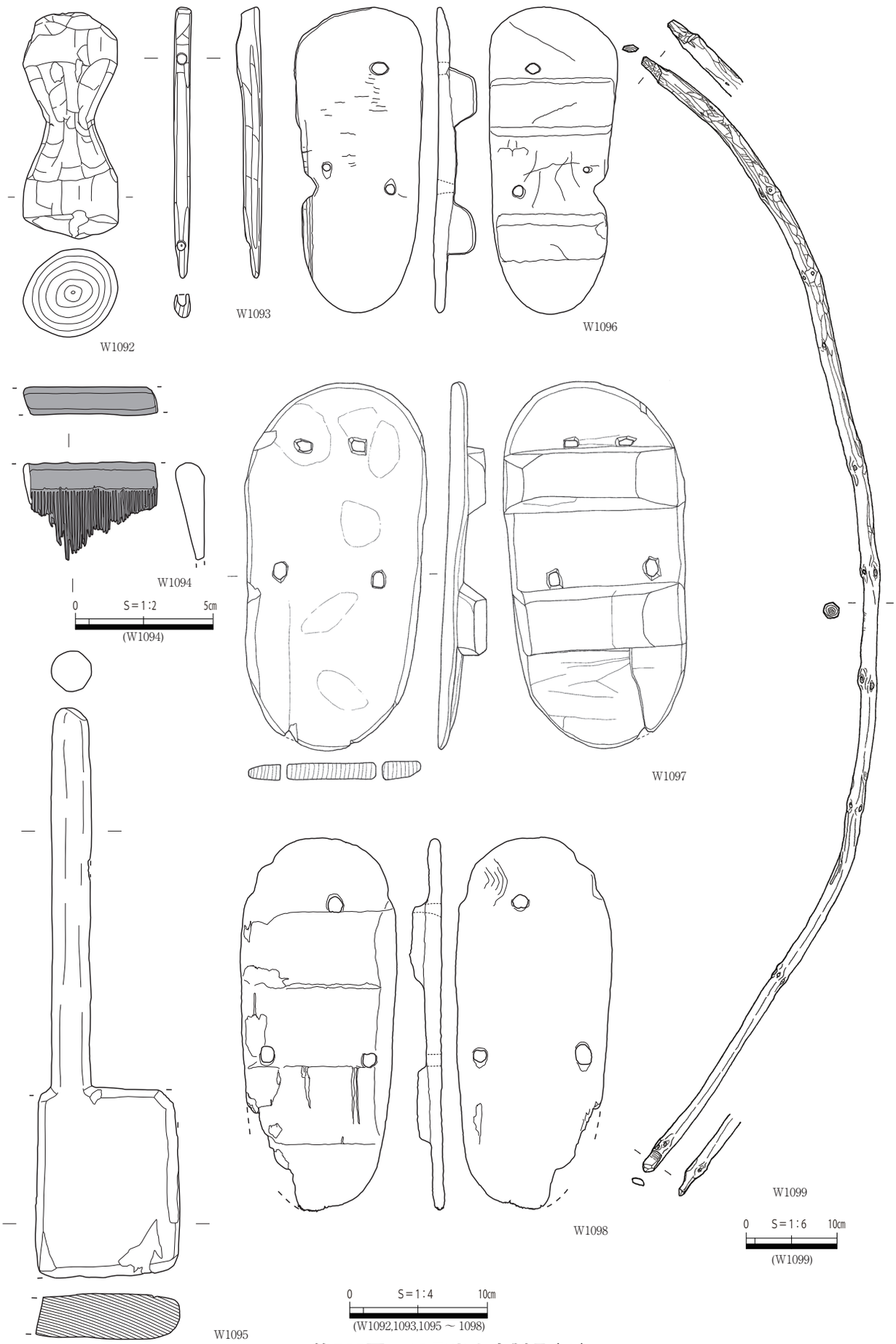
掲載資料はすべて古代の木製品である。

W1132は高足型田下駄である。２枚の台形状の枠歯を立て、枠歯間を縦木で固定し、足板を乗せ木釘で固定する。本資料は足板を欠く。枠歯の上端近くにも左右に２つの孔がみられ、この部分にも縦木が入れられていた可能性が高い。本遺跡ではＰ４区出土のW1230と枠が組合った状態で２点出土している。W1133は刳物で、円形を呈する椀、または槽である。体部下半が椀状をなす。W1134は漆器の皿で、W1135は木鍬の可能性がある。W1136は刳物の匙で、柄は短く、水平に取り付く。粗製品である。W1138は回転することで機能する部材とみられ、紡織具などの部材である可能性もあろうか。

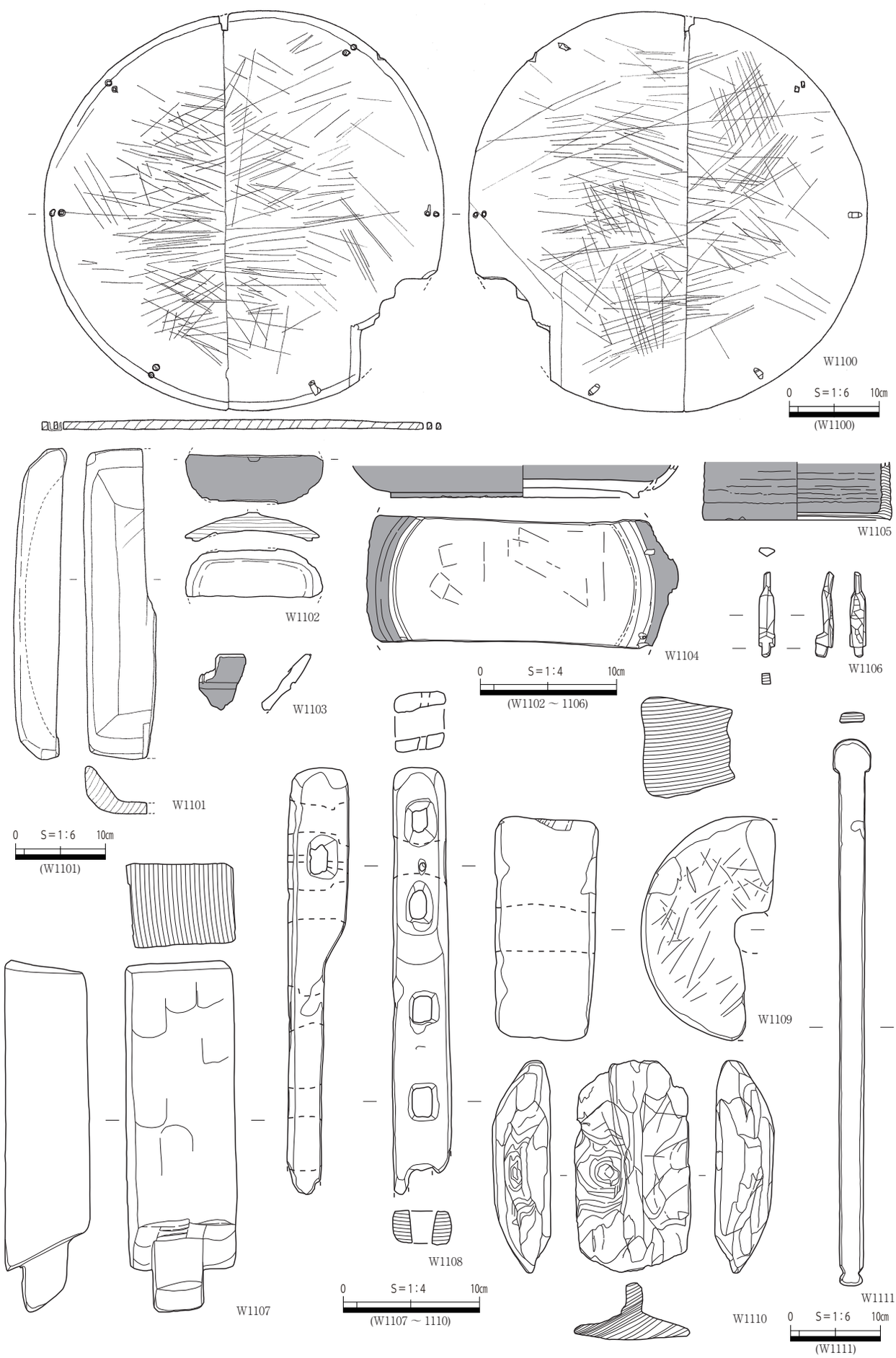
Ｐ３区出土木製品（第574 ～ 579図）

掲載資料はW1173が縄文時代晩期、W1142、1161、1162、1164 ～ 1166、1170、1175、1179、1182、1194、1200が弥生～古墳時代、それ以外は古代の木製品である。

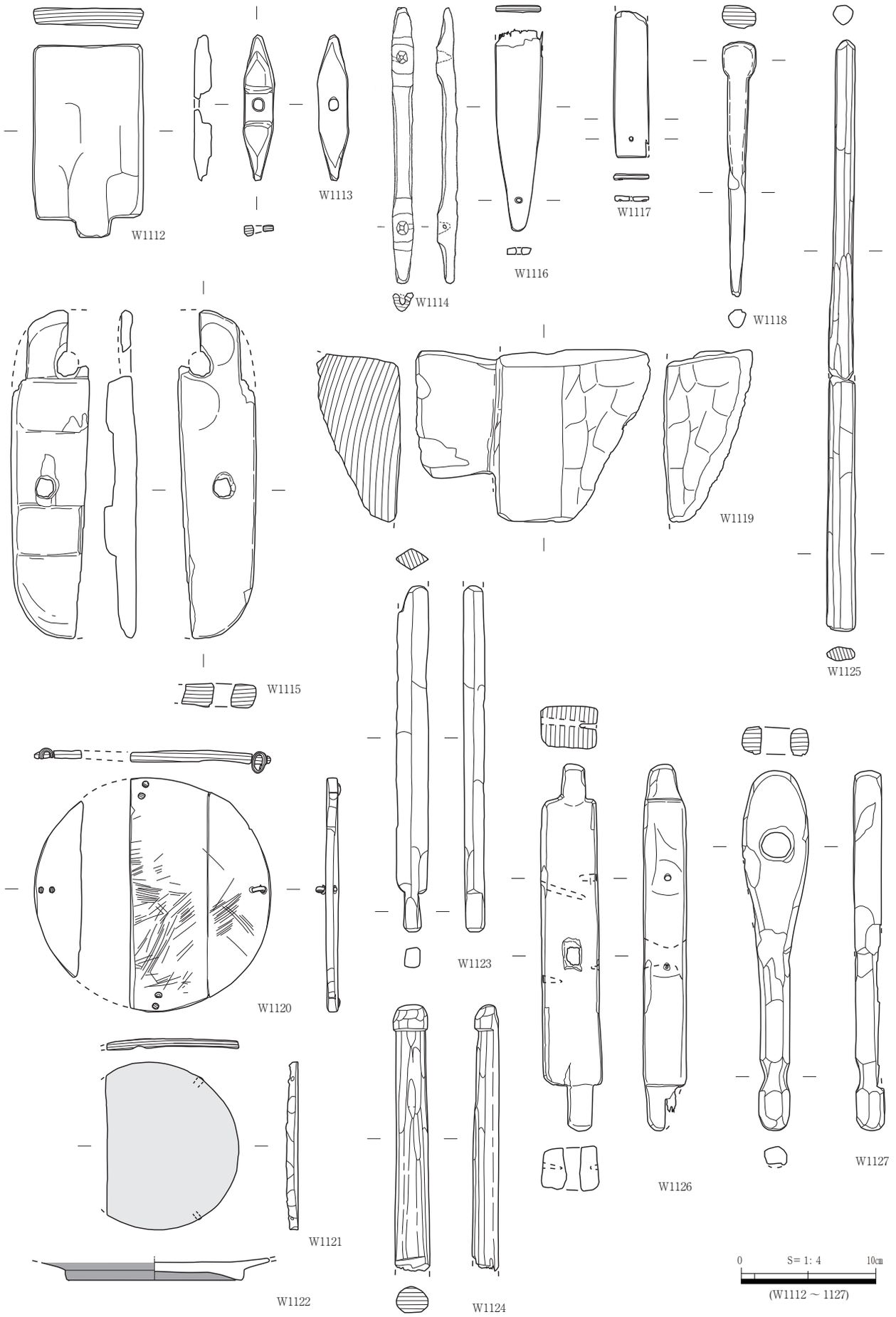
W1140は箆で、柄の端部が丸く成形される。小型品で、木製祭祀具の斧形の可能性もある。W1141は鎌柄で、柄尻の腹面に滑り止めの突起が丁寧につくり出される。上端部は欠損するが、刃の装着孔が残る。W1142は櫂の水かきとみられ、断面形は菱形を呈する。W1143 ～W1157は田下駄で、W1143、W1145 ～ 1147が枠型、W1144、1148 ～ 1151が板型、W1152 ～ 1157が高足型である。W1143は小型で、子ども用であろう。緒孔３孔以外にも側面中央に抉りがみられる。W1144は分厚く、緒孔が方形を呈する。W1145・1146は表裏面とも丁寧な加工が施され、転用材が用いられた可能性がある。W1145には枠に固定した際の緊縛痕が明瞭に残る。W1186は抉り式で、結緒の圧痕が４本程度確認できる。W1150、1151は枠の横木で、縦木を差し込む孔が４カ所開けられている。W1152 ～



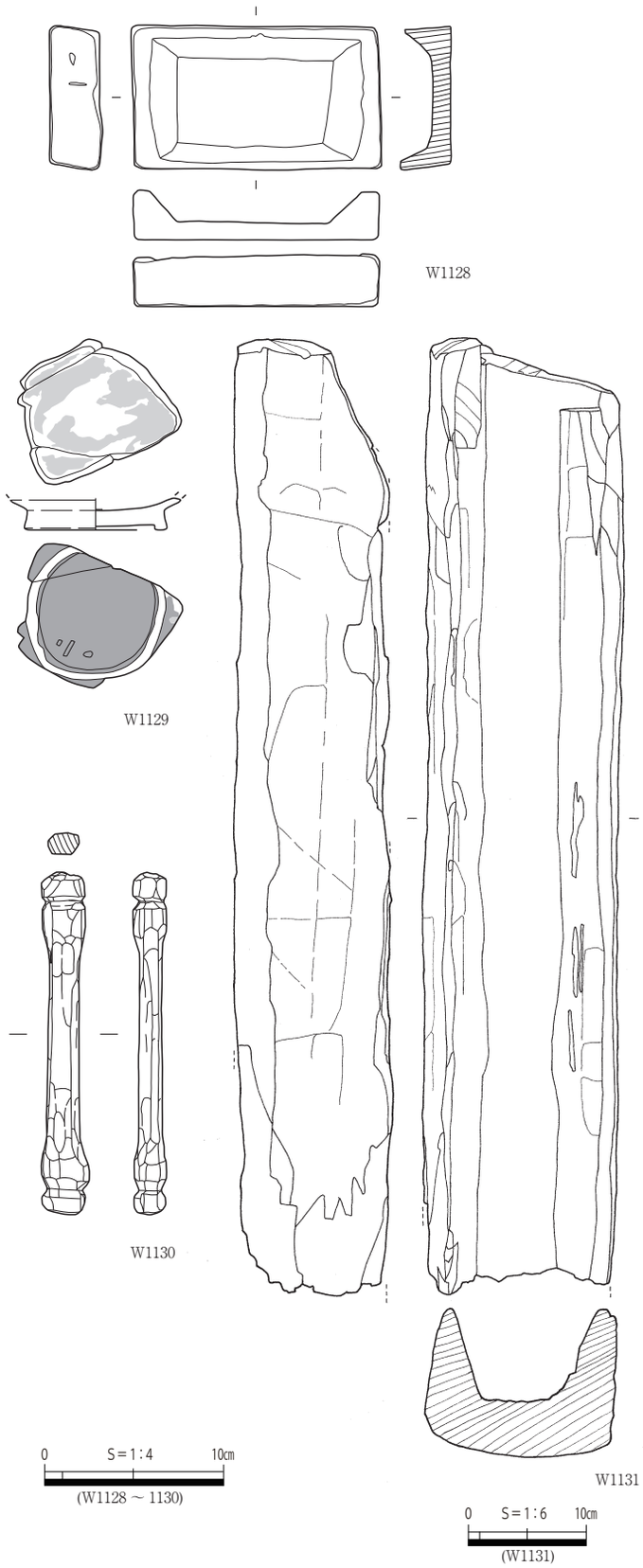
第568図　10区出土木製品（１）



第569図　10区出土木製品（２）



第570図　Ｐ２区出土木製品

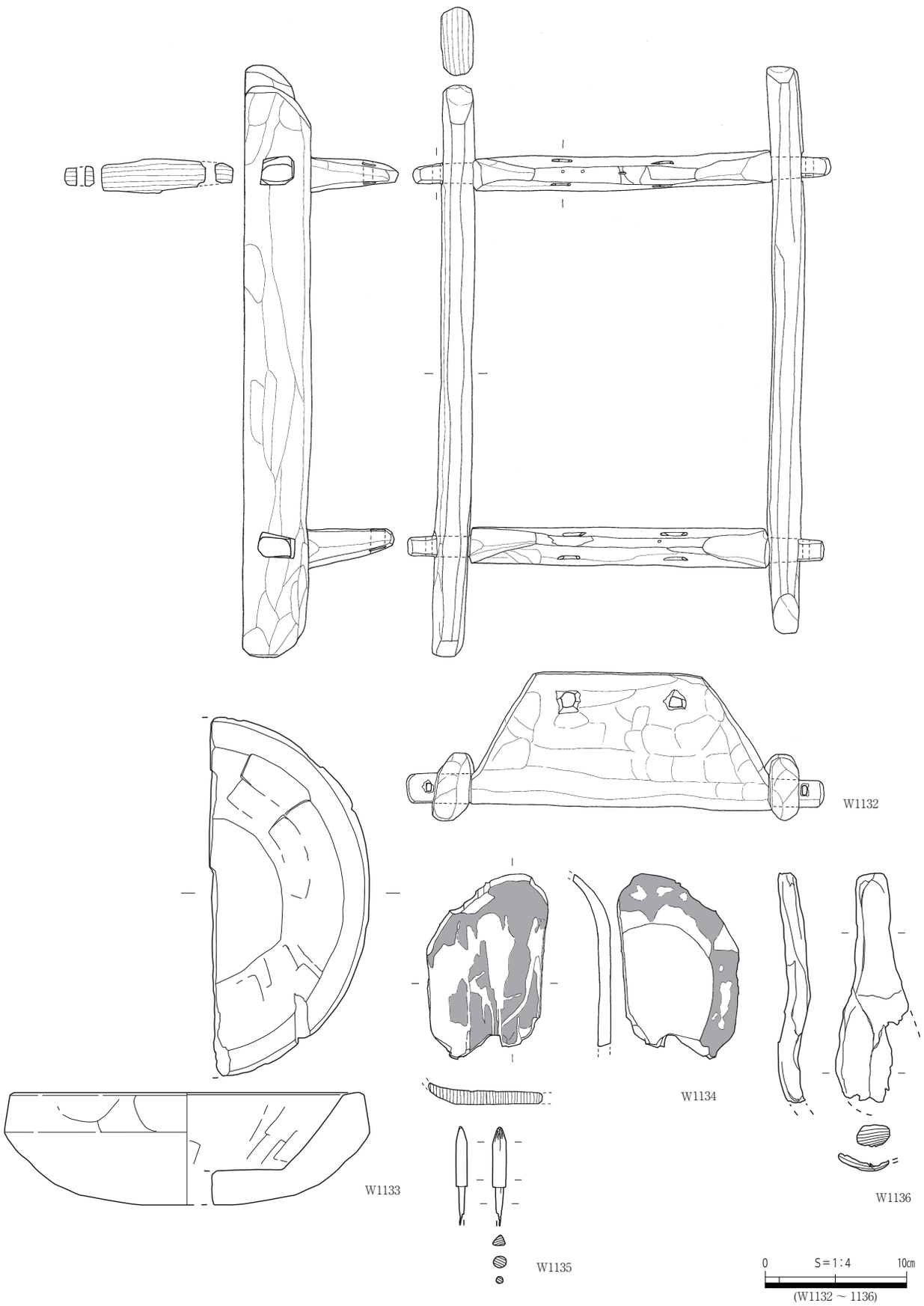


第571図　９区出土木製品

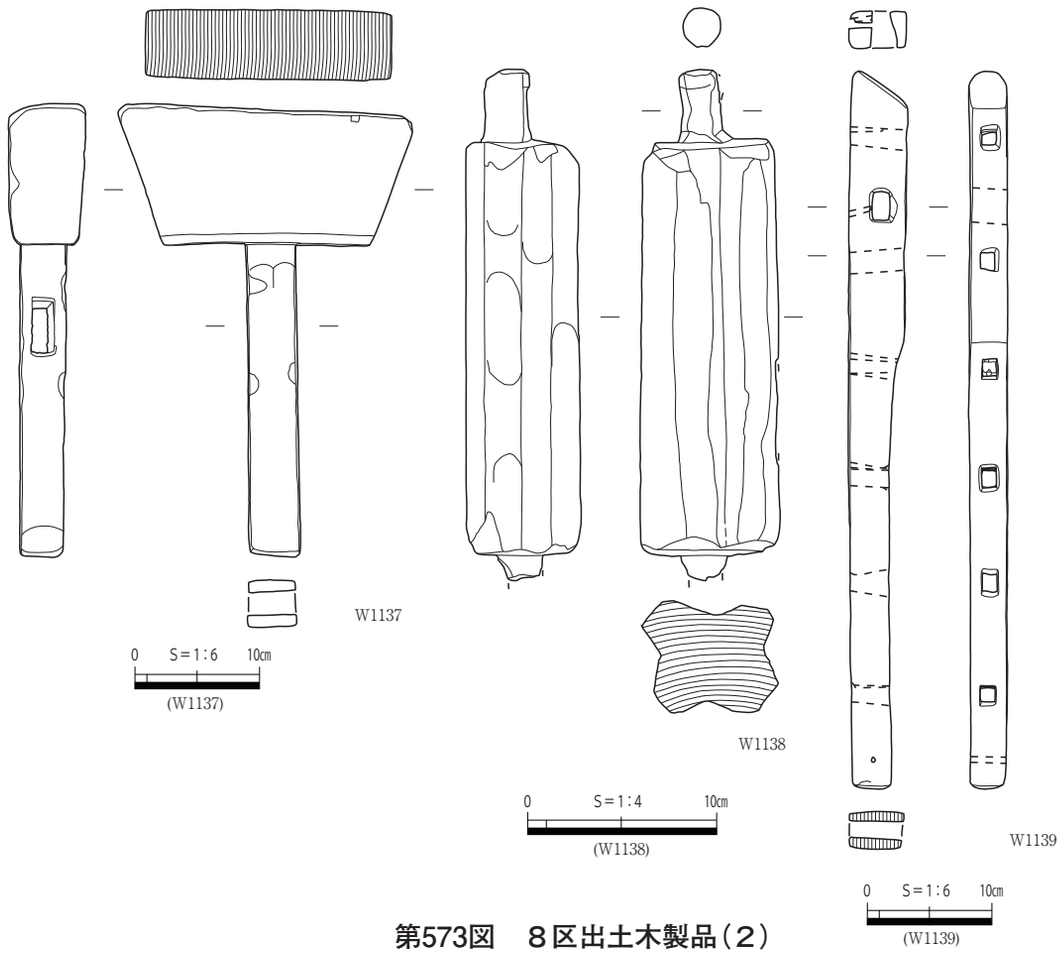
1154は枠歯で、いずれも足板とは木釘で結合され、W1153の上端には釘が数多く打ち込まれている。足板が何度か補修されたようすが窺える。W1154は平面形が五角形を呈し、両側に縦木と結合する枘がつくり出されている。W1155 ～W1157は枠の縦木とみられ、バリエーションがある。

W1158 ～ 1160は紡織具である。W1158は経巻具とみられるが、下端面が生きており断定できない。W1159 は杵の支え木の可能性がある。W1160は下辺にアーチ状の刳り込みがあり、輪状式原始機の経送具の可能性がある。W1164 ～ 1166は両端を尖らせており、ヤスの可能性がある。W1168 ～ 1169はアカ取りである。W1169は柄が上端面の延長で延び、外底面との間に段差を持つタイプである。整形が粗い。W1168は柄が外底面の延長で延びるタイプで、上端面との間に段差が生じている。加工が丁寧で、柄の端部には滑り止めの突起がつくり出されている。両側面は欠損しているが、その破面を再加工し、側面のない状態でも使用されている。したがって、最終的には水以外のものを掬う用途に用いられたとみるべきだろう。W1172、W1174は下駄で、W1172は子ども用で歯がなく、田下駄とみるべきか。W1174は歯の消耗が著しく、足跡も明瞭でかなり使い込まれている。左足用である。

W1173はイヌガヤ製の丸木弓で、全長123㎝の完形品である。精巧なつくりで、全面漆塗りとなる。弓幹には10箇所に樺皮が巻かれているが、直接巻くのではなく、有機物の下地を巻いた上に施されている。弭は上端が枘状となるが、下端は有頭状である。W1175 ～ 1178は刳物の容器で、W1177は底部外面に「×」記号が線刻されている。W1178は脚付きの槽、または盤である。



第572図　８区出土木製品（１）



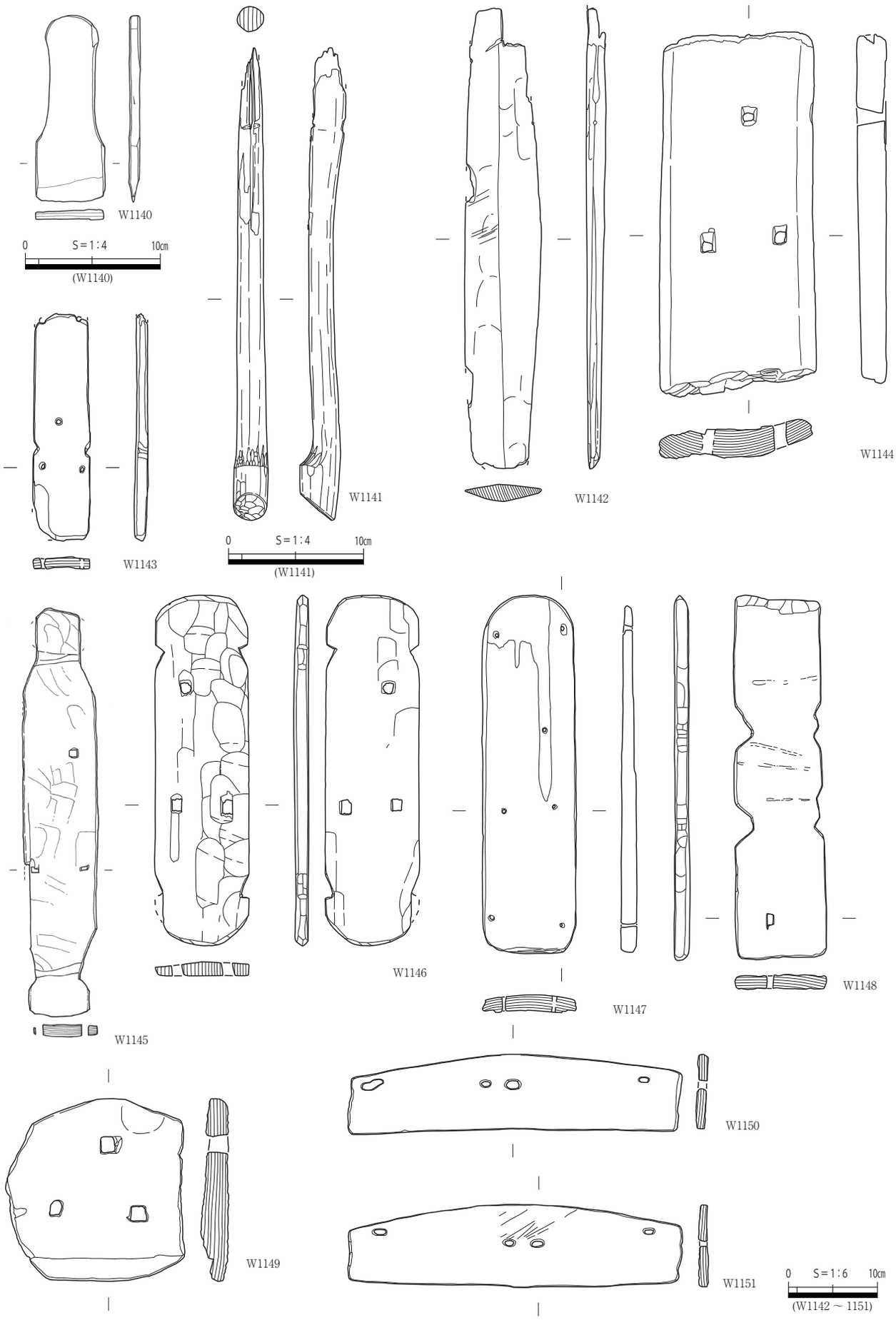
第573図　８区出土木製品（２）

長方形を呈し、短辺の器壁は外反ぎみに立ち上がる。W1182 ～ 1200は用途不明品や建築部材などの部材で、W1184は角材の直交する２面に枘孔が開けられ、一方に短い栓が木釘によって結合されている。W1191は全長176㎝の建築部材で、中央に長大な貫通孔を持つ。W1195は柿の支え木の可能性がある。W1201はスギ製の木とんぼである。左端が欠損し、表面の一部が炭化している。羽は表裏面とも対角線に削り落とされ、プロペラ状に仕上げられている。差し込まれた軸棒は径１㎝程で、かなり太い。時期は７世紀末から11世紀に収まると考えられる。平安時代以前の資料としては平城宮長屋王邸跡に類例がある。

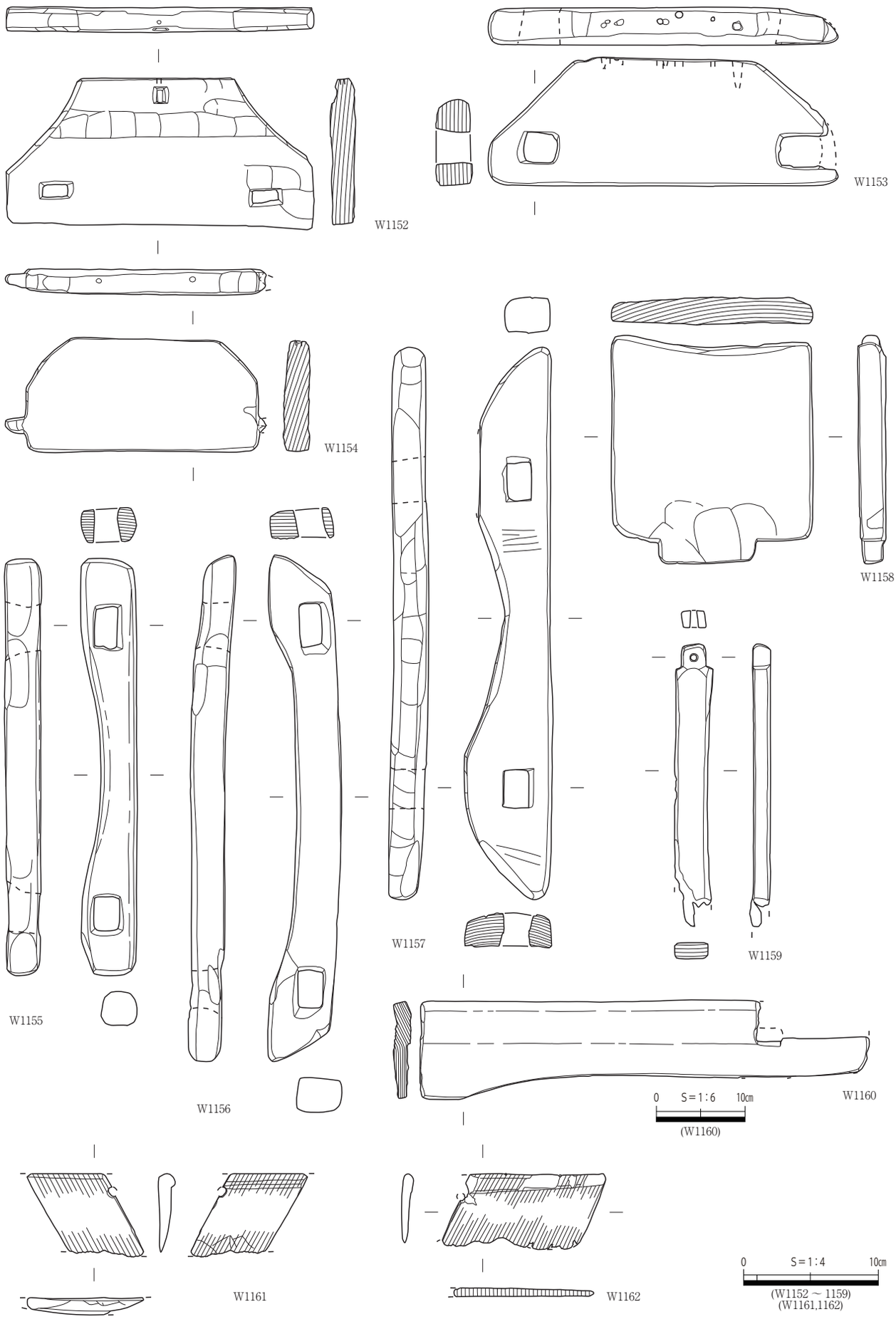
Ｐ４区出土木製品（第580 ～ 590図）

掲載資料はW1258が縄文晩期、W1203、1207 ～ 1212、1214、1223 ～ 1229、1231、1232、1234、1239、1241、1242、1248 ～ 1250、1259、1260、1263、1272 ～ 1274、1278、1279，1284、1287が弥生～古墳時代、それ以外は古代の木製品である。

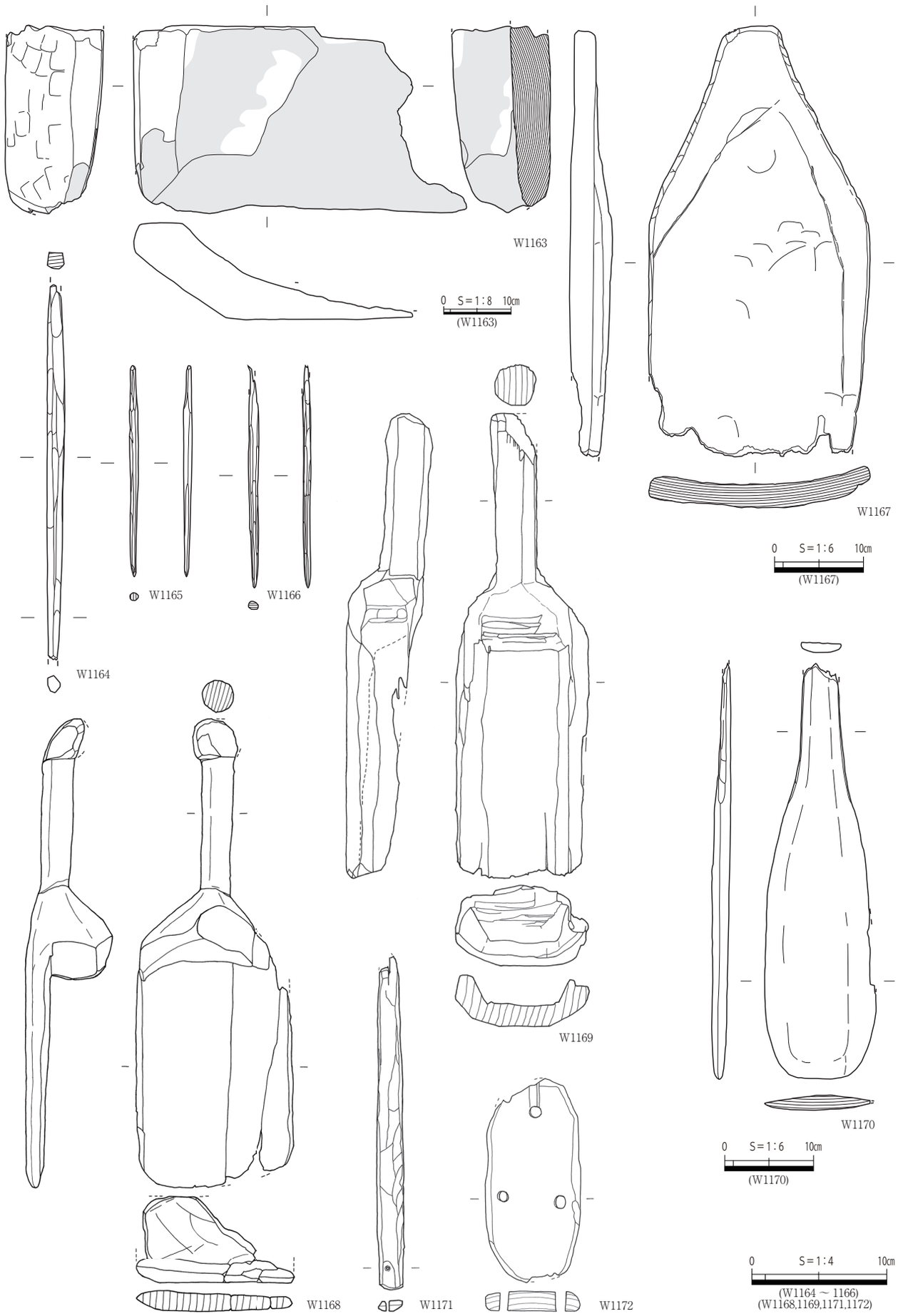
W1202は杓子、W1203、1204は漁撈具のヤスの可能性がある。W1205、1206は鋤柄で、後者は加工痕が明瞭に残る。W1207 ～ 1212は板型田下駄で、緒孔は３孔と４孔がある。W1207 ～ 1212は横長のものである。W1208は４孔以外に穿孔が１箇所みられるが、その性格は不明である。W1210は緒孔部分で割れた後に破面を調整し、そのまま利用されている。W1211は３孔の板型田下駄で、このタイプのものは本遺跡ではほとんど出土しない。古墳時代の所産とみられる。W1213 ～ 1220は枠型田下駄である。　W1217、1219、1220は大型の曲物を転用した資料である。W1219は両端に抉りを入れた上



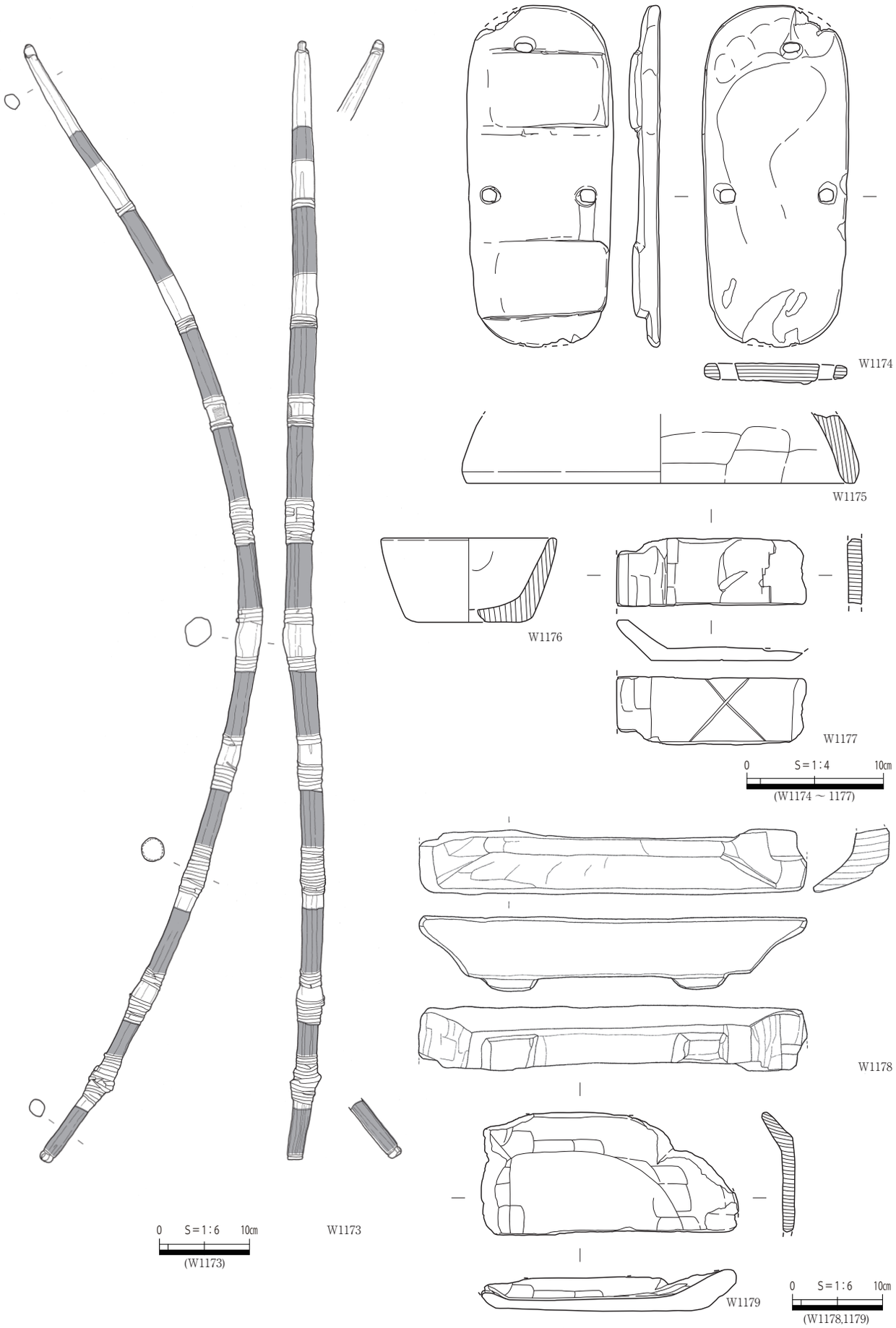
第574図　Ｐ３区出土木製品（１）



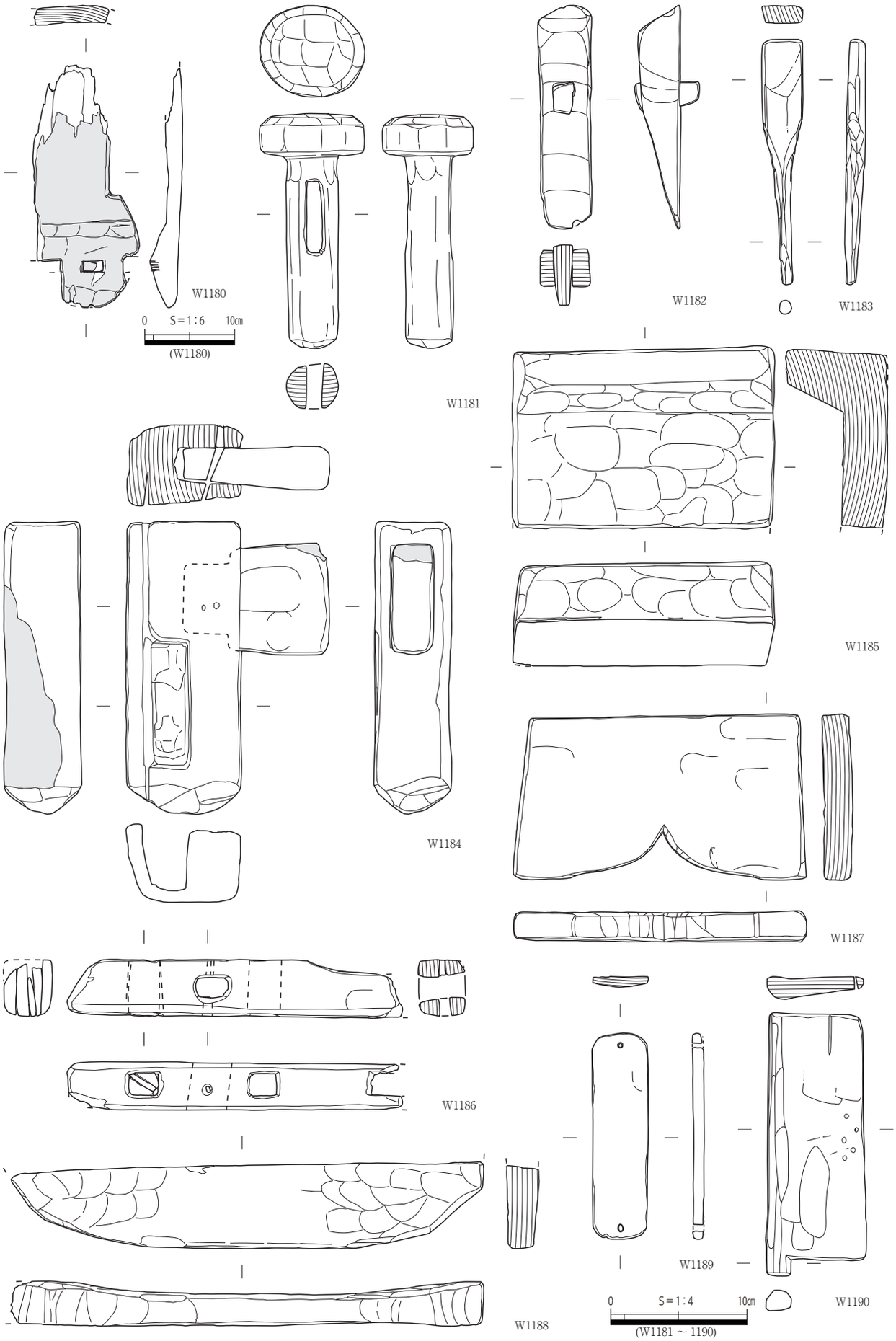
第575図　Ｐ３区出土木製品（２）



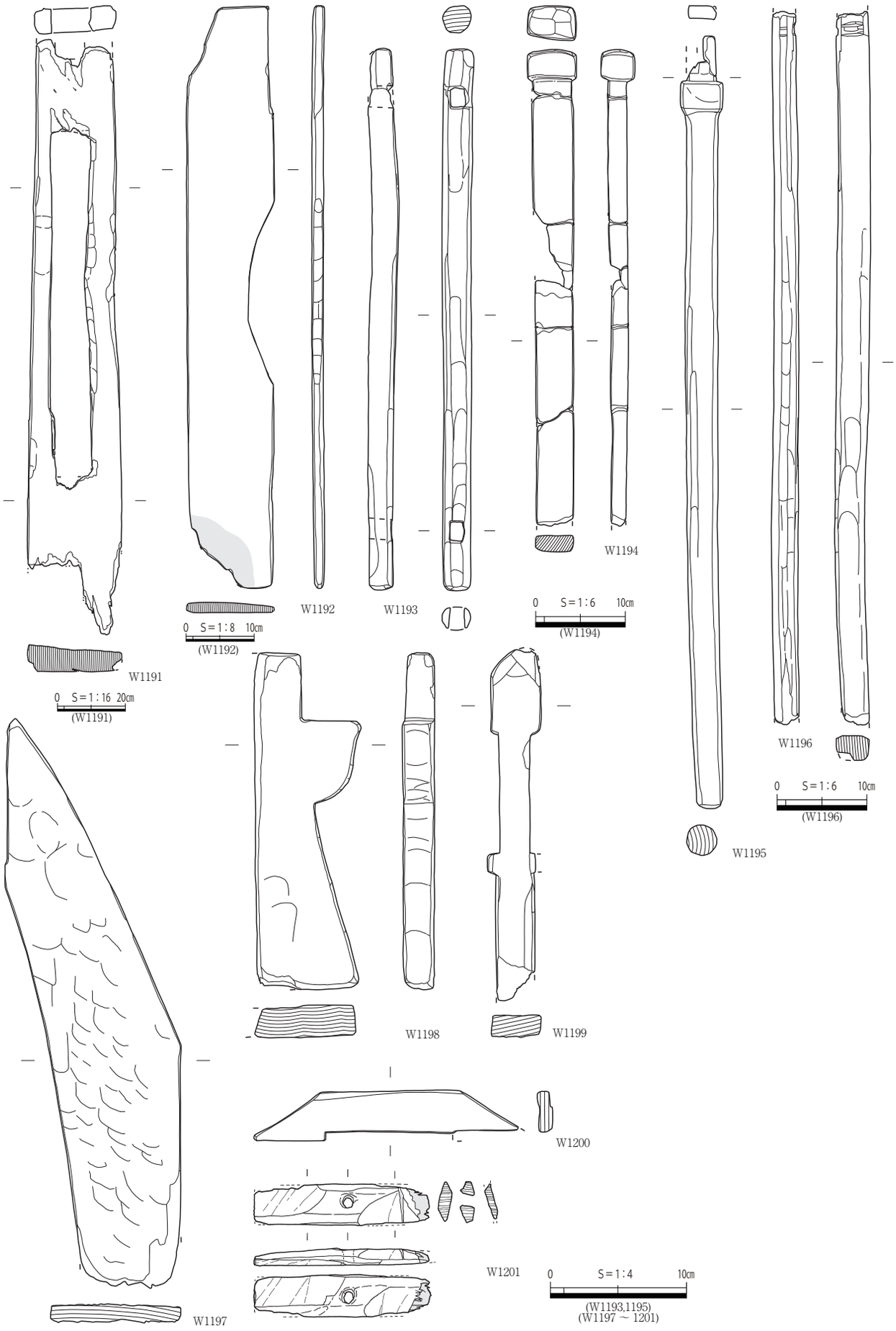
第576図　Ｐ３区出土木製品（３）



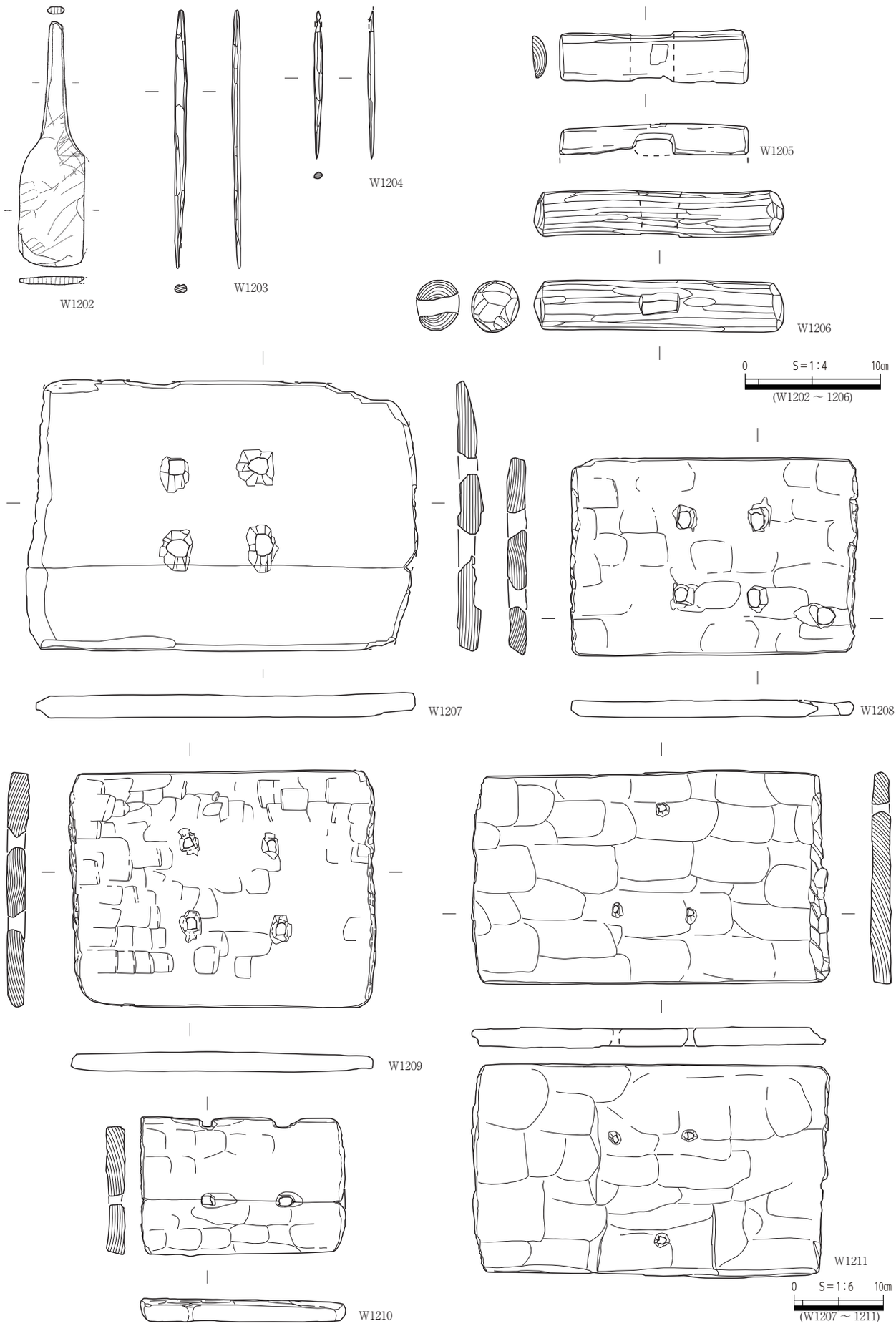
第577図　Ｐ３区出土木製品（４）



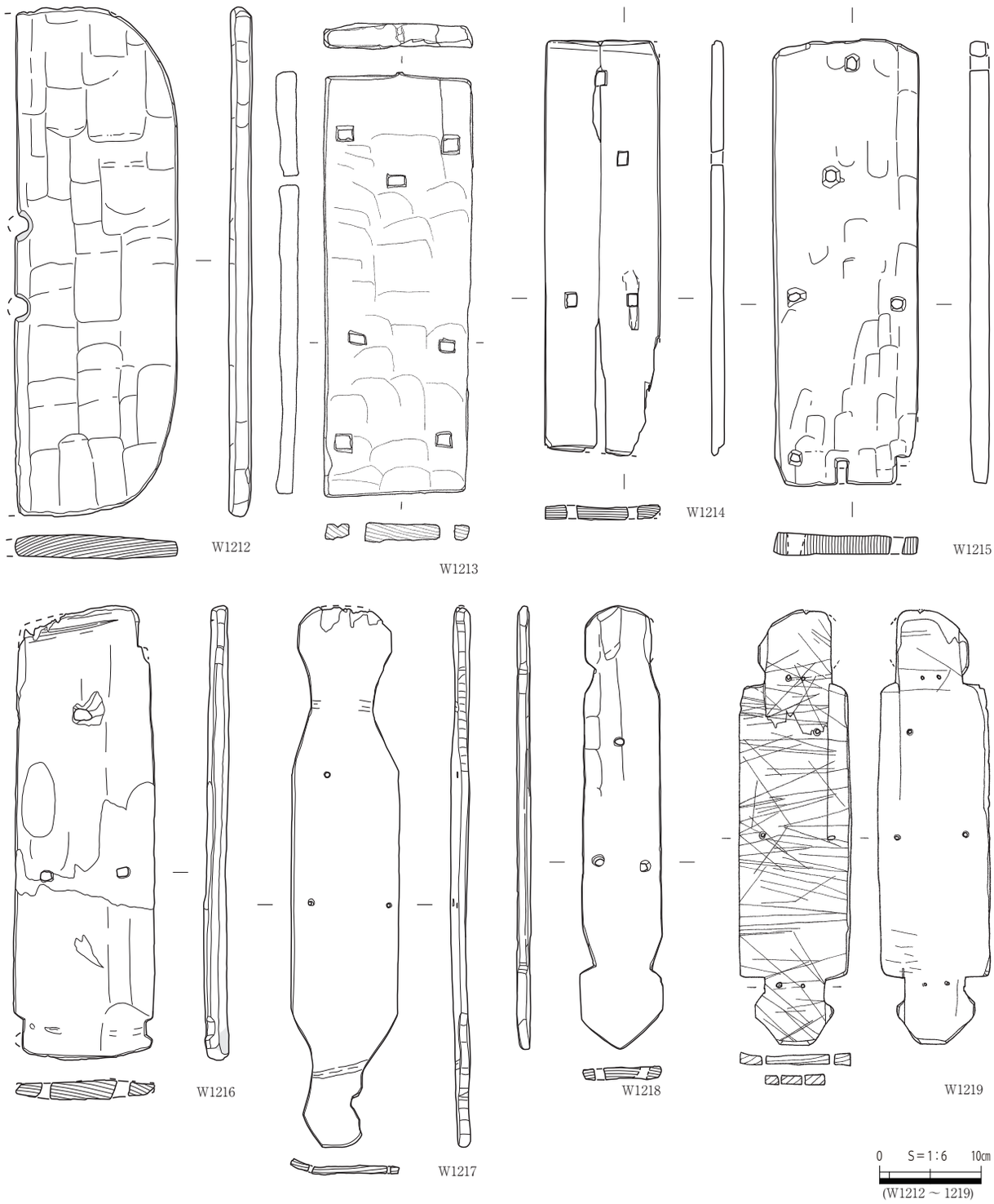
第578図　Ｐ３区出土木製品（５）



第579図　Ｐ３区出土木製品（６）

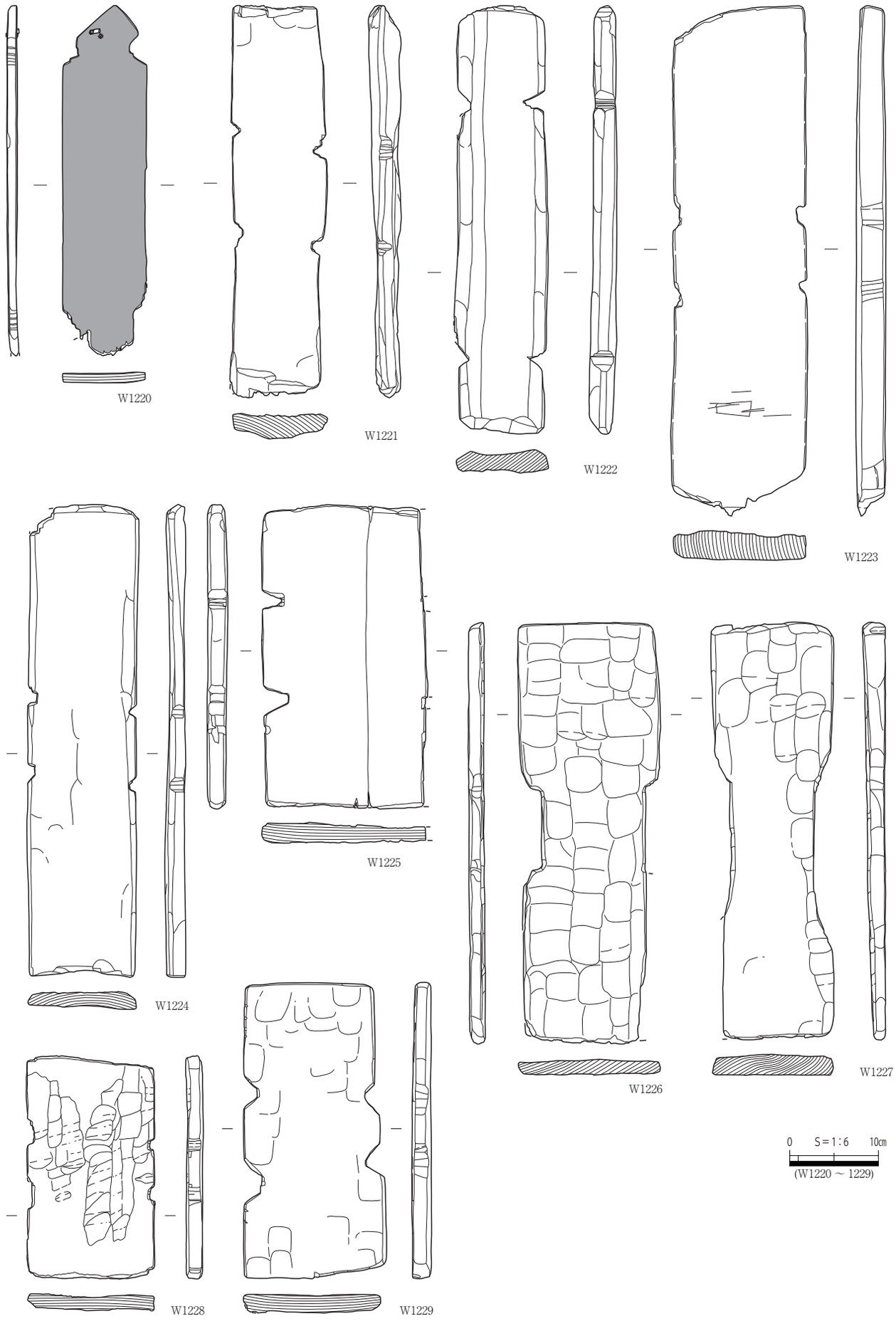


第580図　Ｐ４区出土木製品（１）

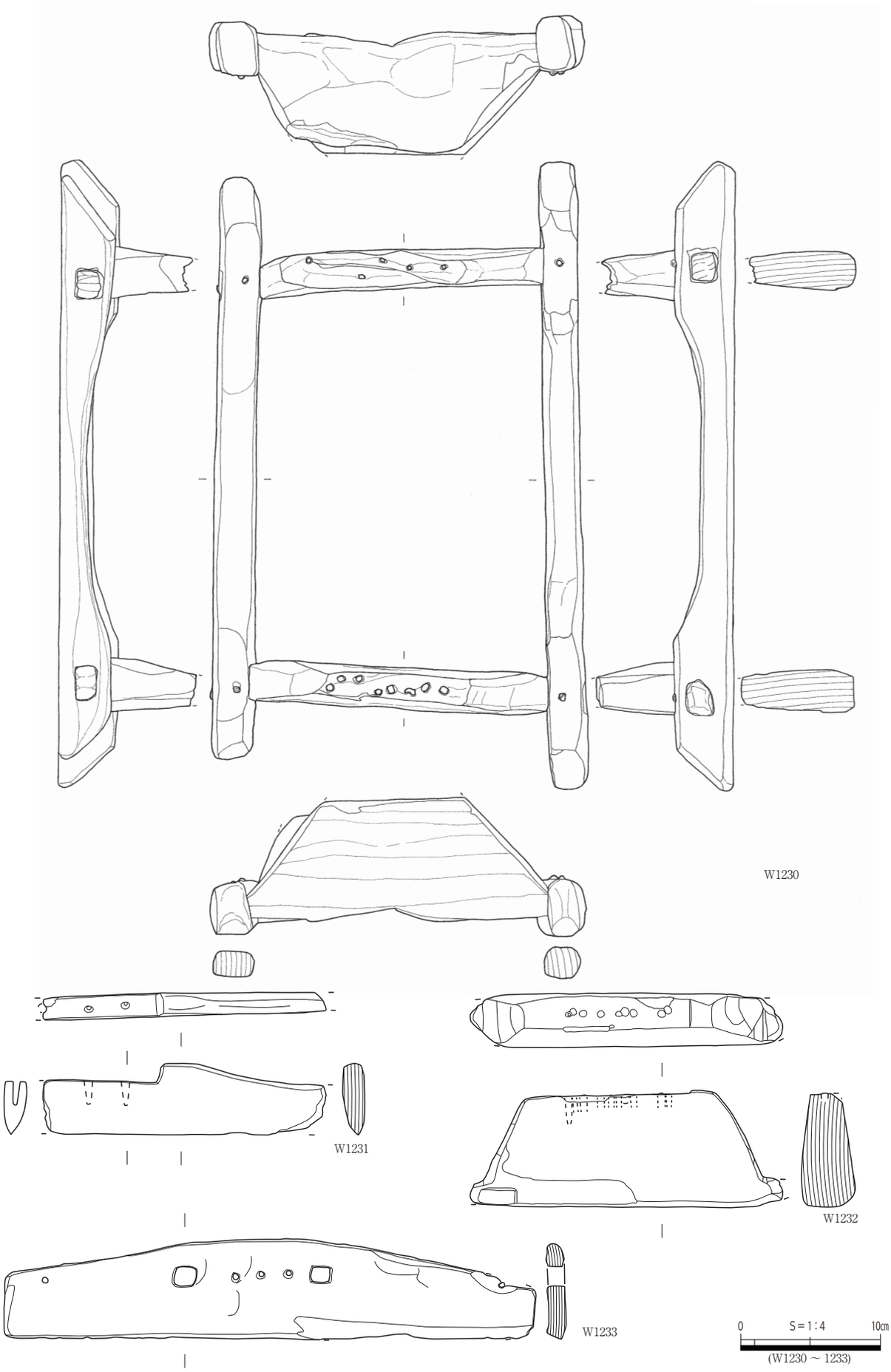


第581図　Ｐ４区出土木製品（２）

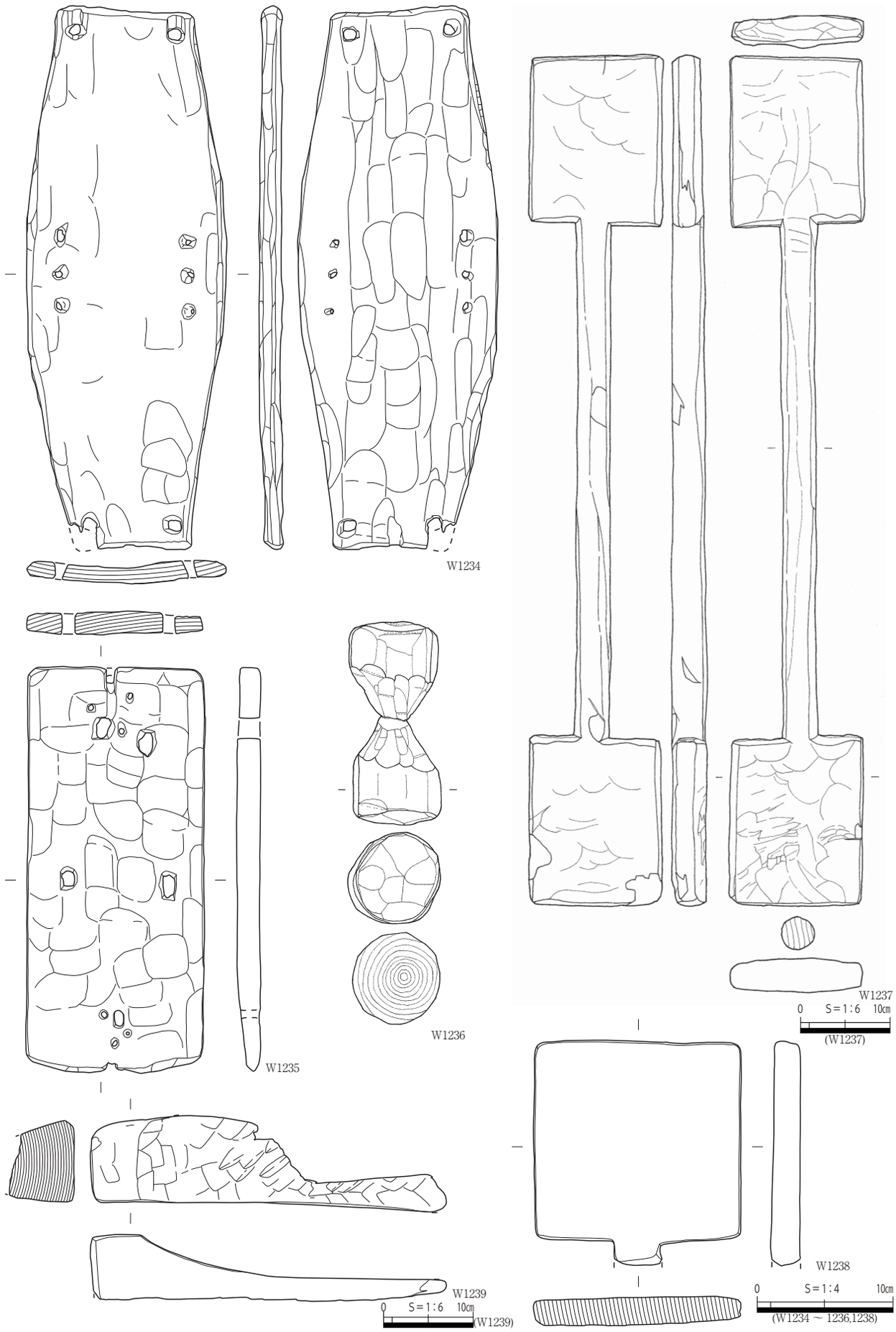
に、木釘孔が開けられている。表面には曲物時の刃物痕が密に残る。W1220も曲物時の漆塗りや樺皮紐が残る。W1221 ～ 1229は抉り式の板型田下駄で、W1226、1227は側面中央に幅の広い刳り込みを１ヵ所ずつ持つ特異な形態をなす。出土層位も同じで、セット関係にある可能性が高い。古墳時代の所産である。W1230、1232、124、1235は高足型田下駄で、W1230は８区出土のW1132と同じく、足板以外は組み合った状態出土している。枠歯の上端には足板を固定した木釘が複数残る。スギ製である。W1234、1235は足板である。W1234は紡錘形を呈し、緒孔が左右に３孔が対になって穿かれている。W1231、1233は枠型田下駄の横木で、前者は足板を乗せる部分が一段低く刳り込まれている。W1236



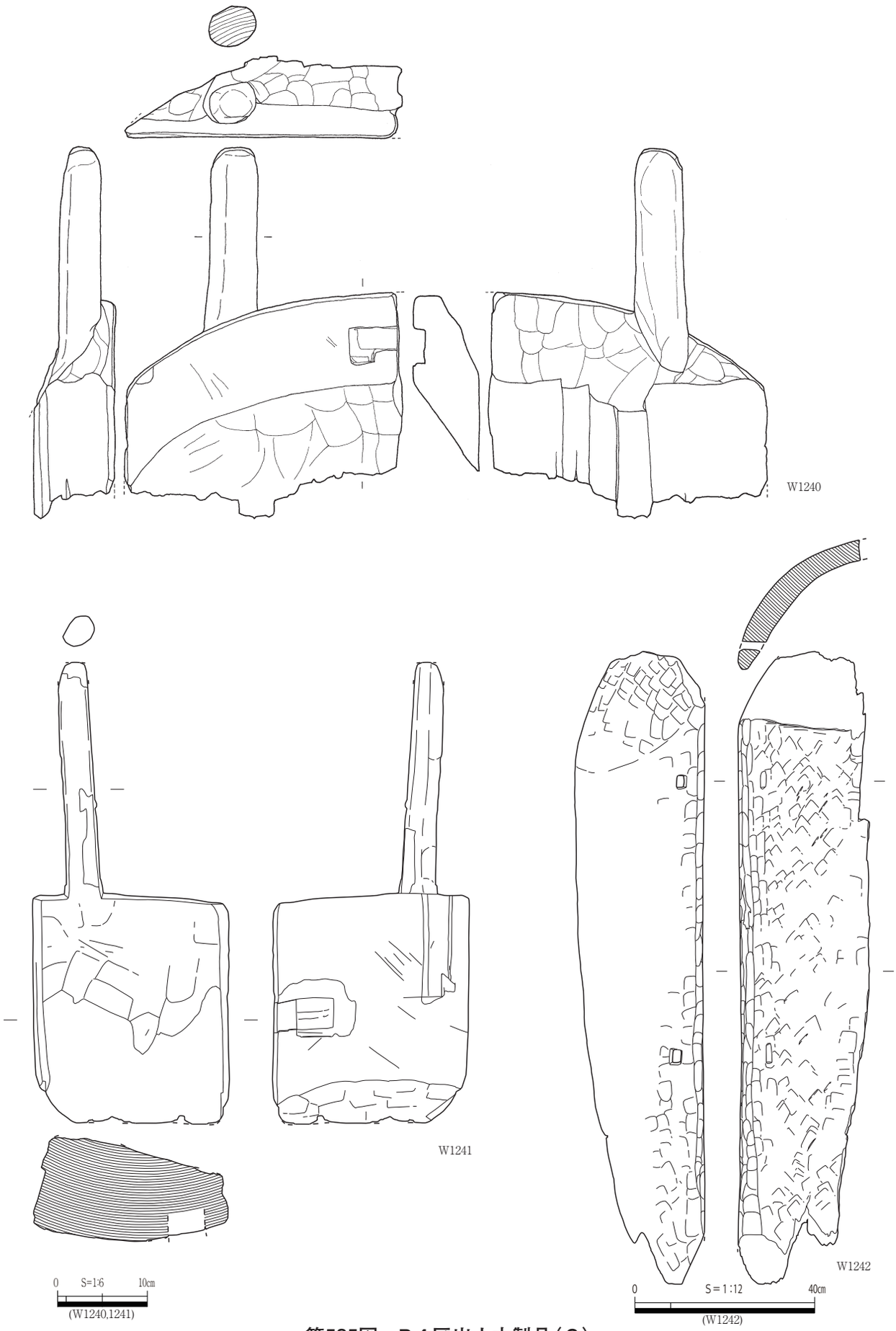
第582図　Ｐ４区出土木製品（３）



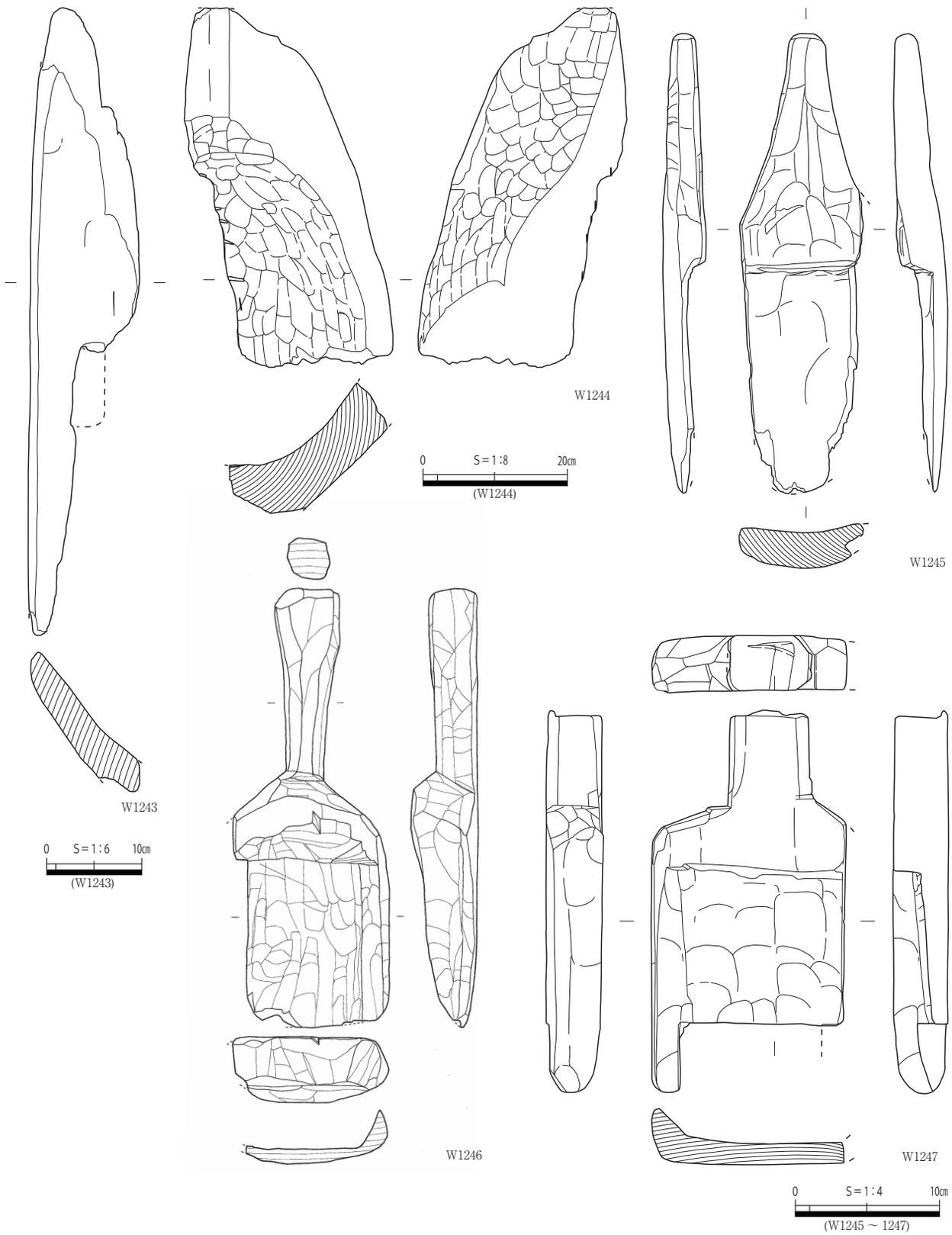
第583図　Ｐ４区出土木製品（４）



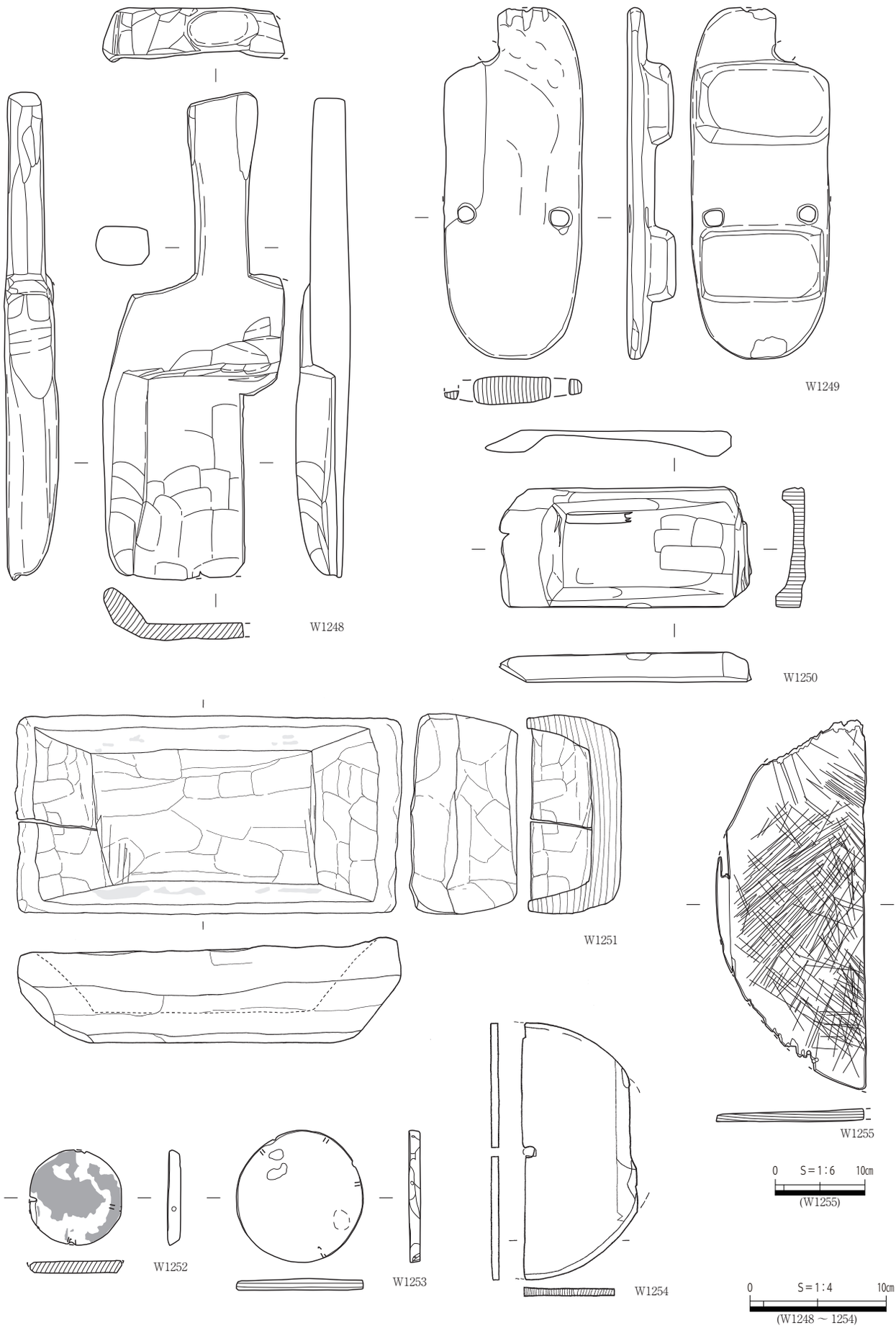
第584図　Ｐ４区出土木製品（５）



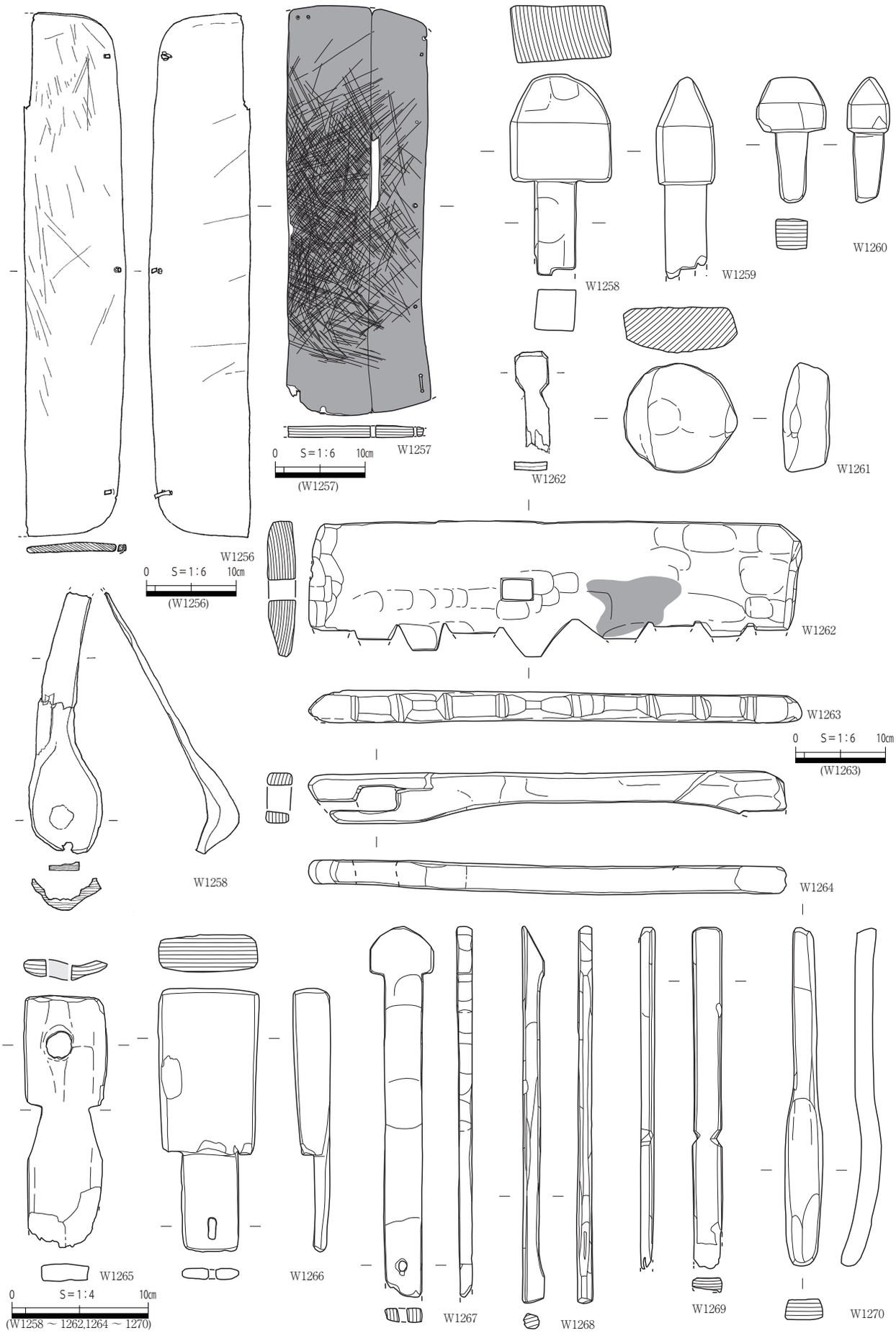
第585図　Ｐ４区出土木製品（６）



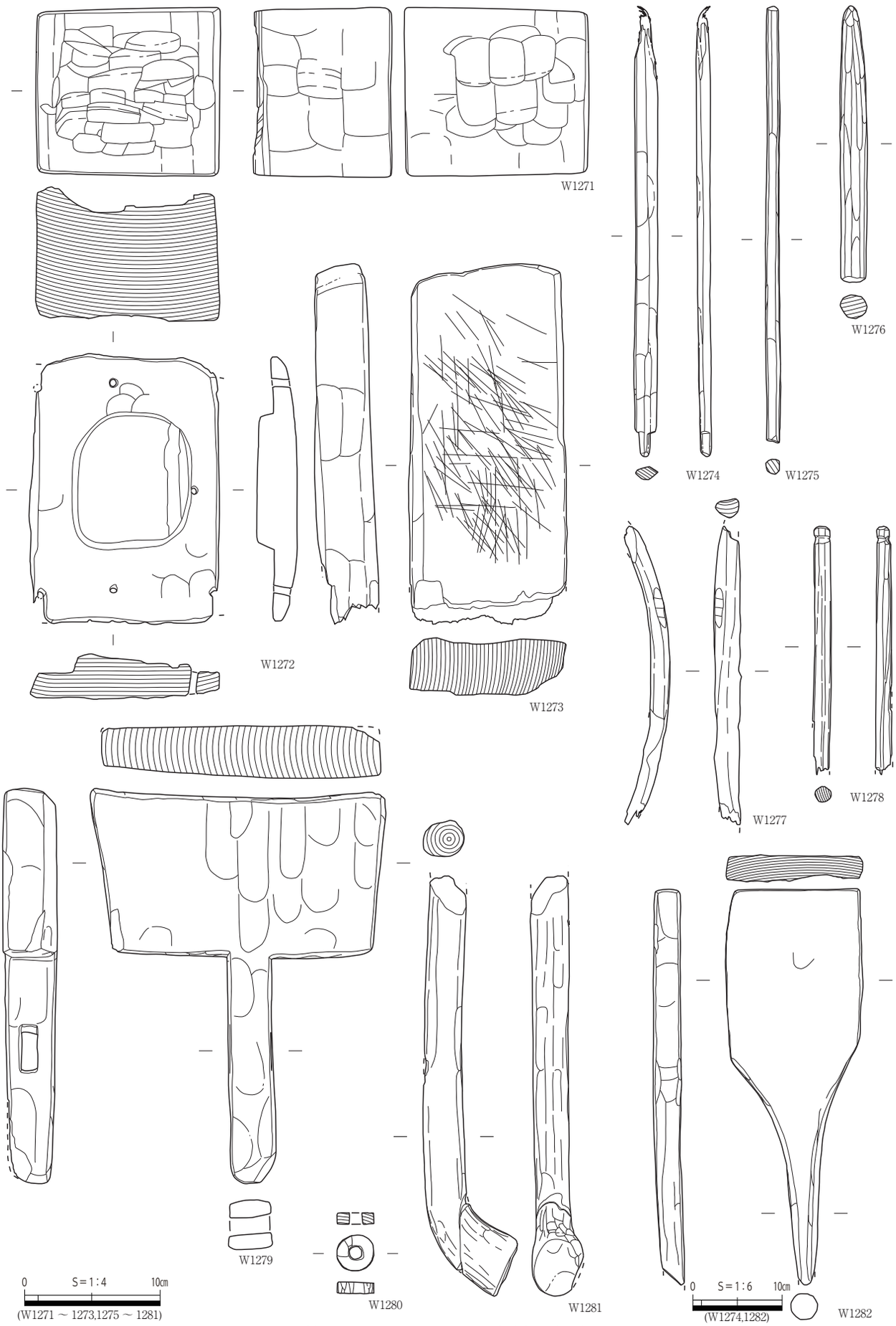
第586図　Ｐ４区出土木製品（８）



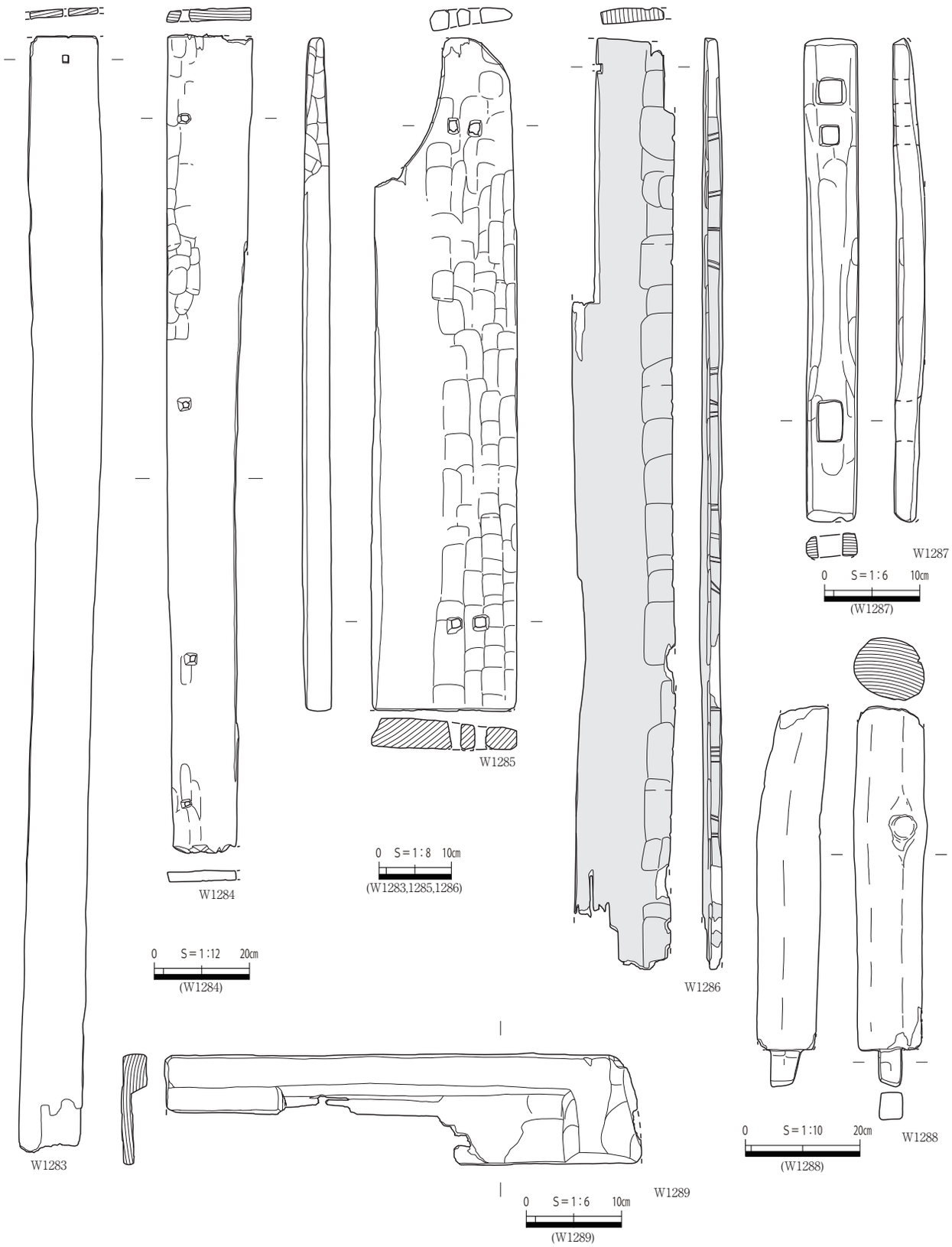
第587図　Ｐ４区出土木製品（８）



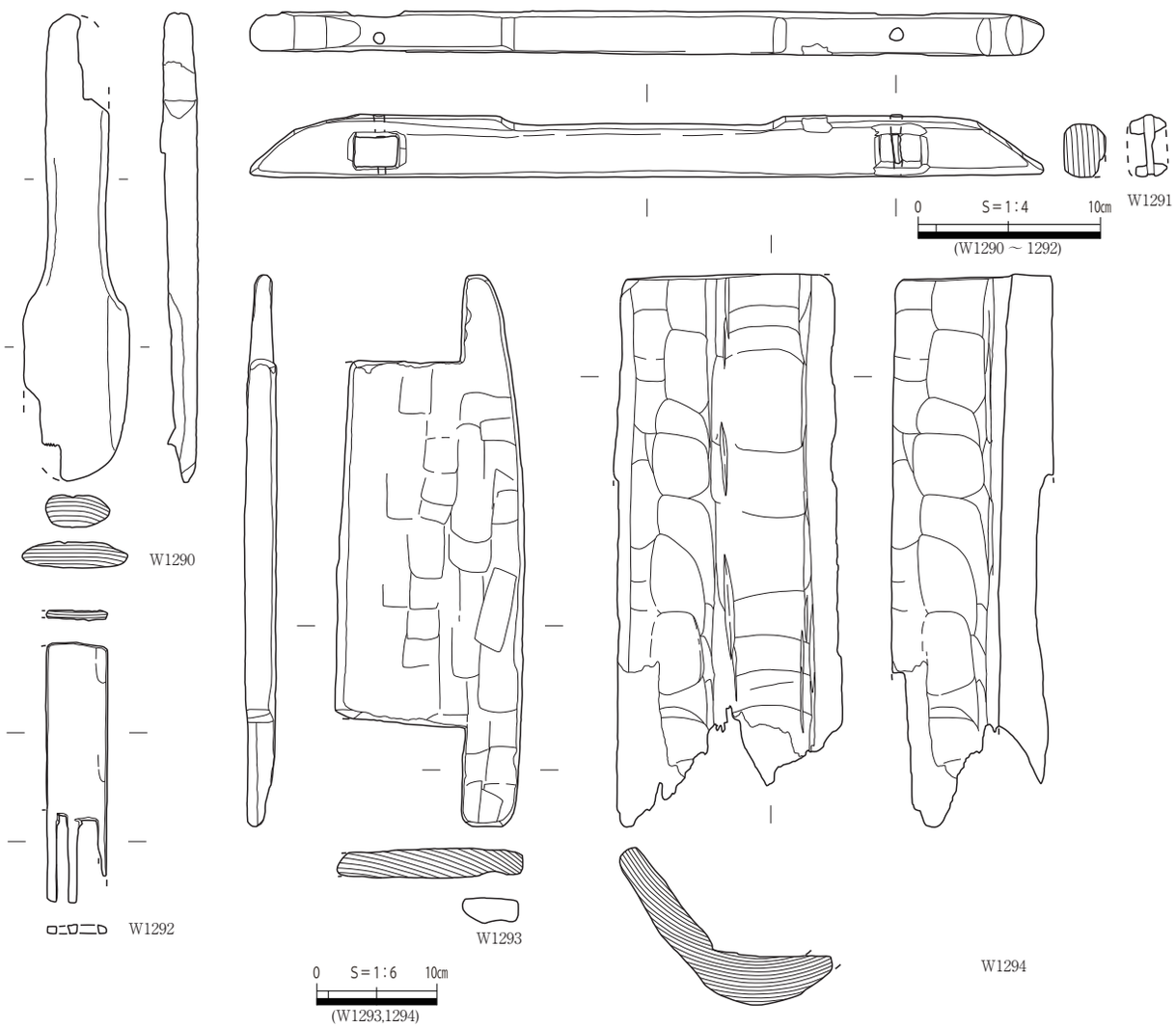
第588図　Ｐ４区出土木製品（９）



第589図　Ｐ４区出土木製品(11)



第590図　Ｐ４区出土木製品（11）

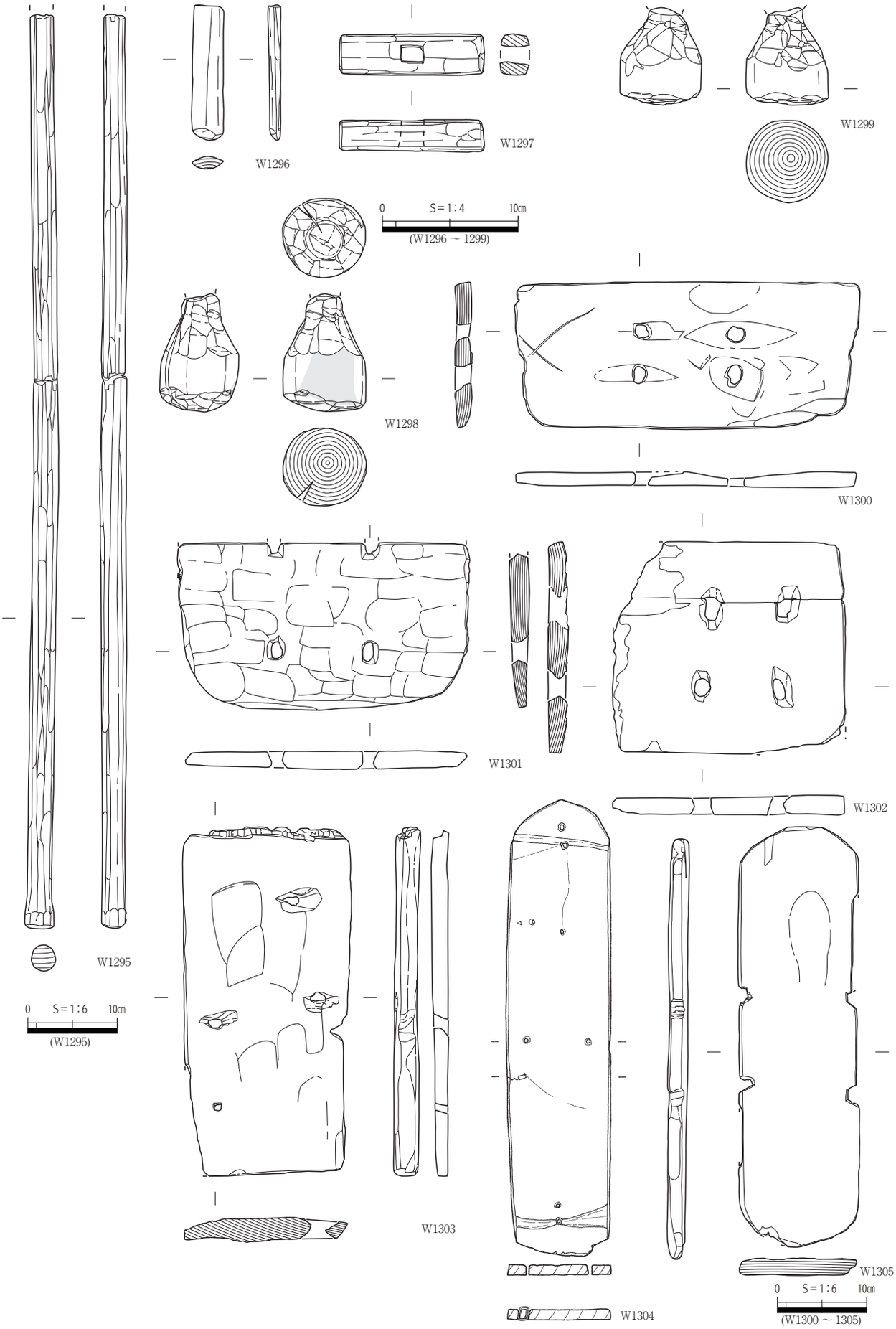


第591図　７区出土木製品

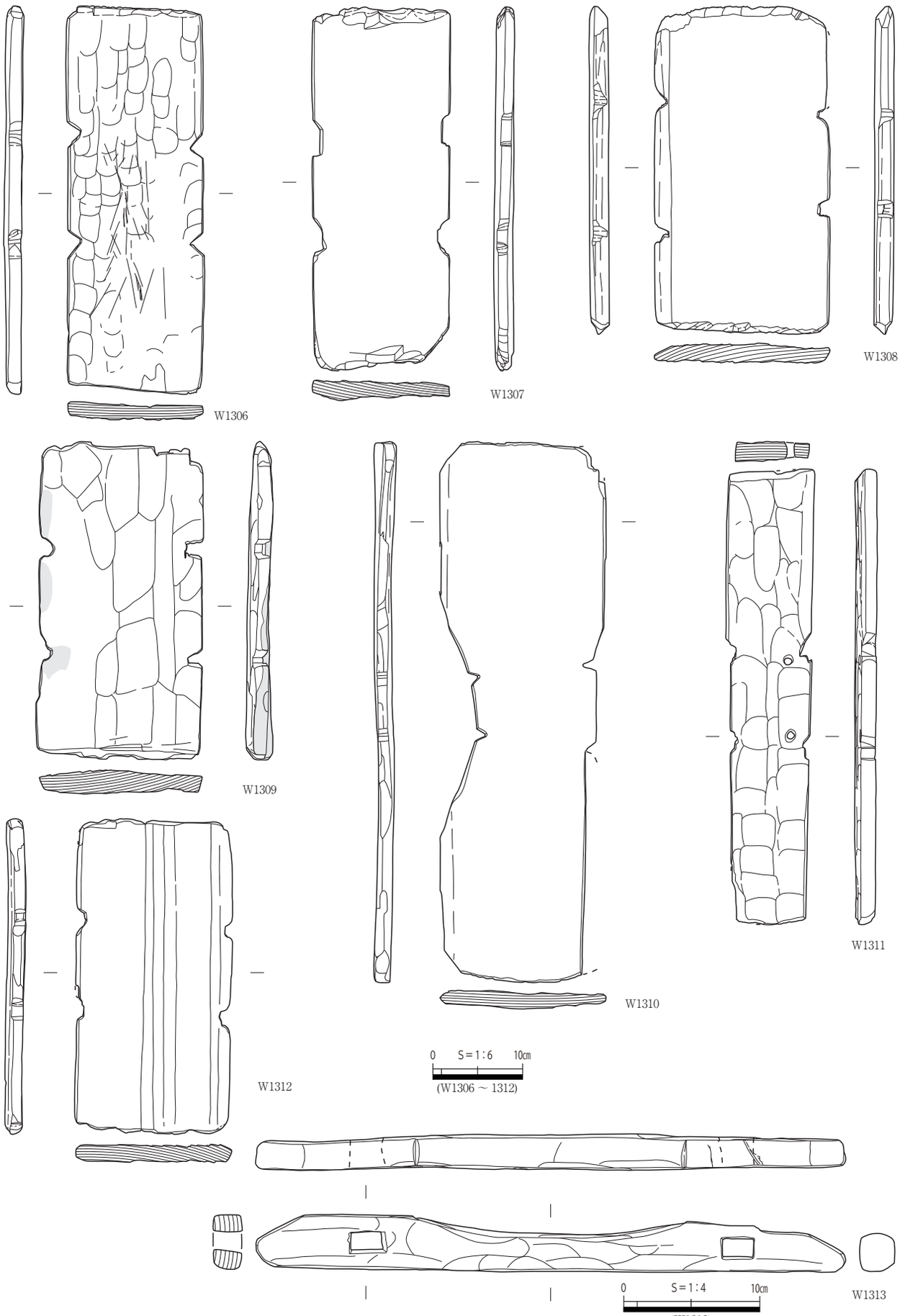
はヤブツバキ製の木錘で、中央に向かって円錐状に削り込まれている。

W1237、1238は地機の経巻具である。W1237は長さ95.5㎝の完形で、スギ製である。一木で、軸棒の両端に方形の板がつくり出される。経が巻き取られた軸棒は断面が円形で、長さは57㎝である。時期は７世紀末から10世紀後半と考えられる。滋賀県斗西遺跡、静岡県瀬名遺跡などに類例がある。W1240、1241は大型の槽とみられ、長方形を呈し、短辺に２つの把手が付くとみられる。担架のように使用する運搬具と考えられる。いずれも上端面に枘孔がみられるが、その性格は不明である。W1242 ～ 1244は船で、W1242は船底から舷側にかけての破片で、舷側上端に沿って方形の孔がみられる。W124は舷側、W1244は船首の破片である。W1244は船底中央付近に小さな楔が４箇所打ち込まれている。楔は破面に沿って列状をなすことから船底の割れを補修するためのものであったと考えられる。W1245～1248はアカ取りである。W1245は柄と本体の境が明瞭ではなく、扁平な形態をなす。柄は端部に向かって先細りとなる。身の側面はなく、水以外のもの掬う機能が考えられる。W1247は身の先端がコの字にカットされ使用されている。W1248はW1245や1247と同じく、柄が外面底部と上端面の延長で延びる資料である。

W1250、1251は刳物の槽盤類で、いずれも短辺の器壁の方が厚く、内面の立ち上がりが緩やかであ



第592図　Ｐ５区出土木製品（１）



第593図　Ｐ５区出土木製品（２）

る。W1251はスギ製である。W1252 ～ 1255、1257は円形曲物である。W1252、1253は釘結合の小型品である。W1254は蓋板で、中央に孔が１ヵ所開けられる。W1255、1257は径40cmを越える大型品で、いずれも表面に刃物痕が無数にみられる。W1257は樺皮結合で、内面漆塗りである。右側の破面沿いには補修時の綴じ孔がみられる。W1256は方形曲物の折敷で、長辺は58cmを測る。W1258は粗製の匙で、柄が鈍角をもって取り付いている。W1261は栓であろうか。W1273は上面に刃物痕が密集し、俎の可能性がある。W1283 ～ 1288は建築部材で、W1286は右側の側面にごく浅い切り込みが16ヶ所みられる。W1288は丸太材で、小口に枘がつくり出されている。

７区出土木製品（第591図）

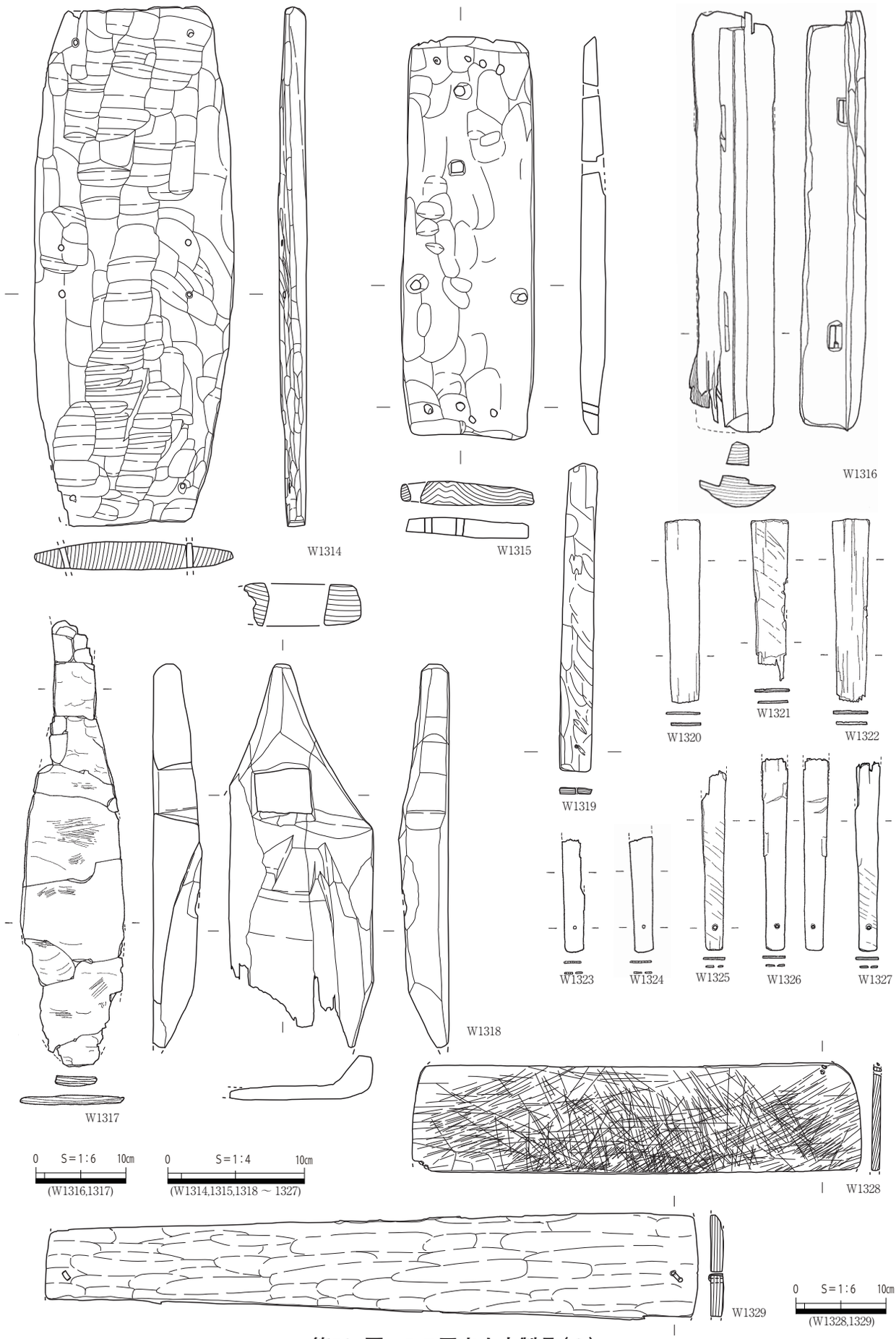
掲載資料はすべて古代の木製品である。W1290は杓子、W1291は高足型田下駄の縦枠で、枠歯を填める孔に木釘が残る。W1294は用途不明で、刳り貫かれた内面全体が炭化している。

Ｐ５区出土木製品（第592 ～ 596図）

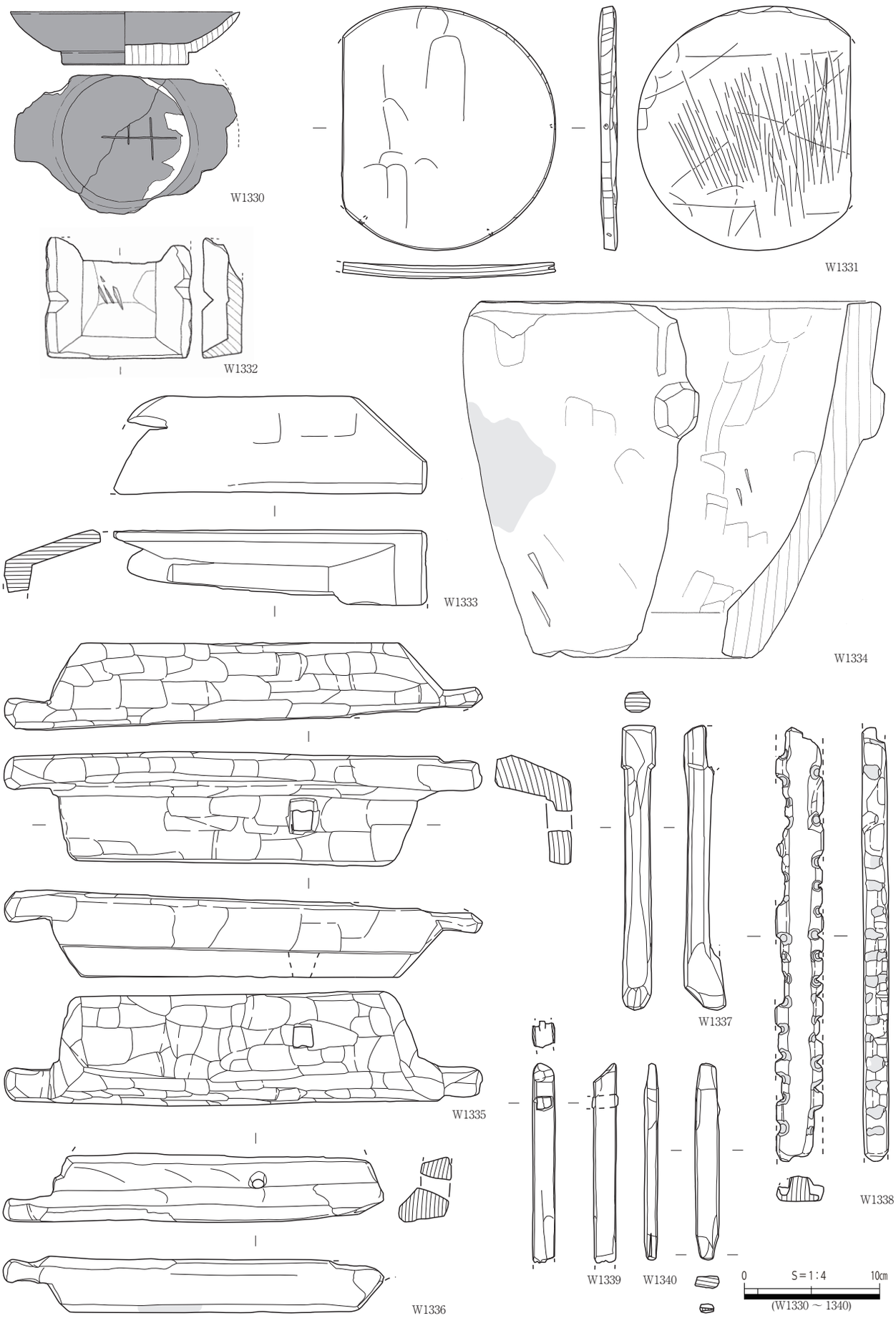
掲載資料はW1300 ～ 1302、1306、1308、1317が弥生時代から古墳時代、それ以外は古代の木製品である。

W1295は農工具の柄とみられ、長さは１ｍ以上を測る。W1300 ～ 1315は田下駄である。W1300 ～ 1302は４孔式で、横長の板型田下駄である。W1304は長方形曲物を転用した枠型田下駄で、樺皮紐が残る。鼻緒孔の前壺は中央に開けられ、両端には枠に取り付けた紐の圧痕が明瞭である。W1305 ～ 1311は抉り式で、W1305は両端が丸く成形されている。W1310は左側面の抉り部分がアーチ状に大きく括れており、転用材の可能性がある。W1311は細長く、抉りに対応する位置に孔が２つ開けられている。W1313 ～ 1315は高足型で、W1314は平面形が紡錘形で丁寧な加工が施される。緒孔が左右に４箇所開けられ、木釘も遺存する。

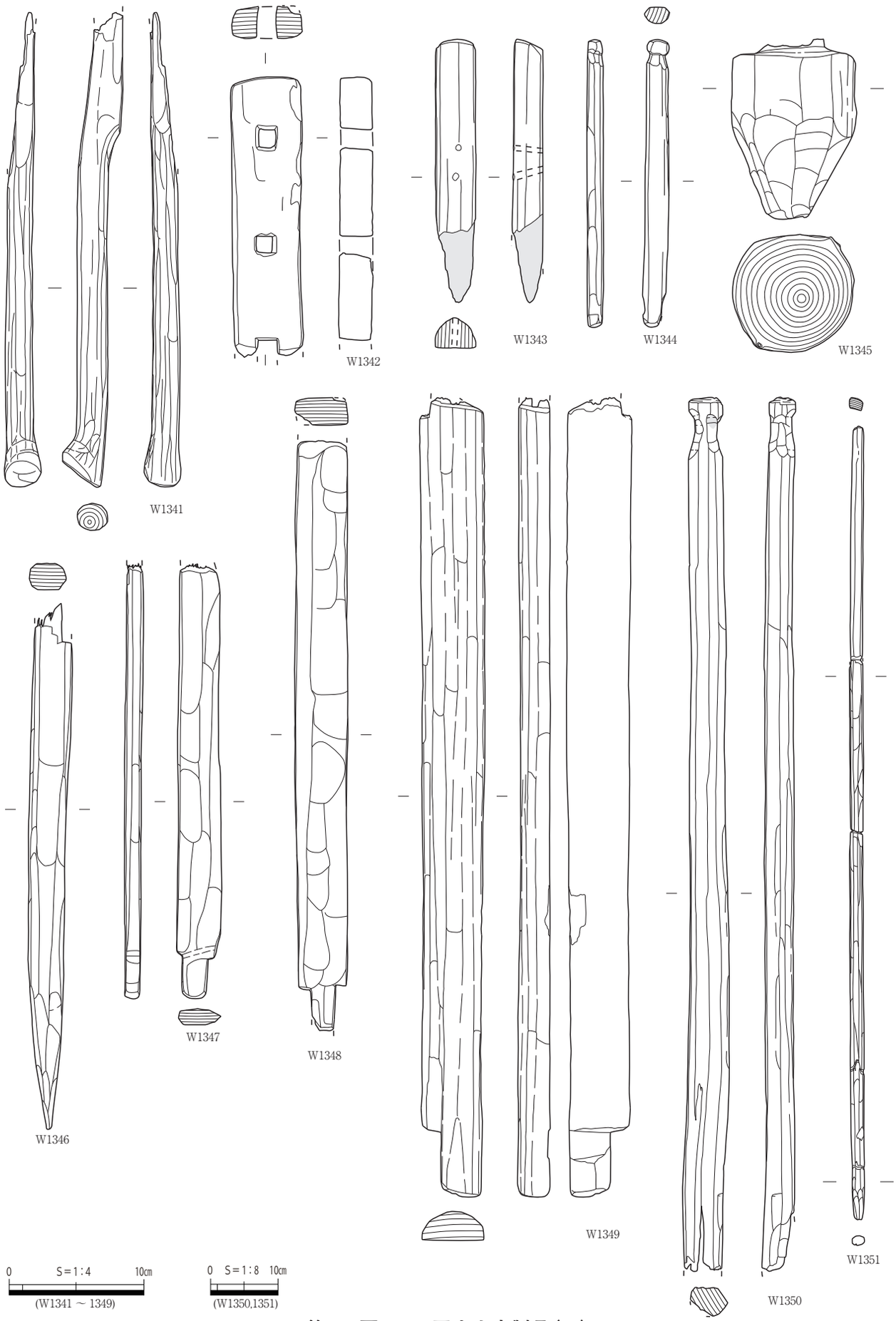
W1316は橇（そり）で、スギ製である。下面は船底状を呈し、隆起には横桟を挿入するための枘孔が２箇所開けられている。滑板下面は曲面を呈する。上端の小口面は二次的に切断されている可能性がある。W1318はアカ取りで、柄が短い。柄の付け根に方形の貫通孔がみられる。W1319 ～ 1327は檜扇で、1323 ～ 1327はスギ製である。W1319は厚さがあり、本と末の幅はほぼ同じであるのに対して、W1320 ～ 1327は末の幅が広い。W1326は墨書がみられる。W1328は円形曲物の大型品で、刃物痕が密集する。1329は長辺72cmの方形曲物で、本遺跡でも最も法量が大きい部類である。W1330は挽物の漆器杯で、高台内は刳り抜かない。底部に線刻による記号がみられる。ケヤキ製である。W1332 ～ 1334は刳物である。W1332は角鉢で、小型品である。対応する２辺の口縁部にはＶ字の切り欠きがみられ、意図的な造作と考えられる。W1334は槽で、円盤状の把手が付く。W1335は容器などを構成する部材であろうか。Ｌ字状の形態をなし、両端に枘がつくり出されている。W1336もW1335と類似する資料で、一辺の中央に円形の孔が開けられている。W1338は発火具の火鑽臼で、角材を利用しているが、火鑽孔付近がＬ字にカットされている。W1341は鎌の柄で、装着孔で割れている。基部には滑り止めの突起があり、装着孔付近の上面は平坦に加工されている。W1350は建築部材で、垂木であろうか。



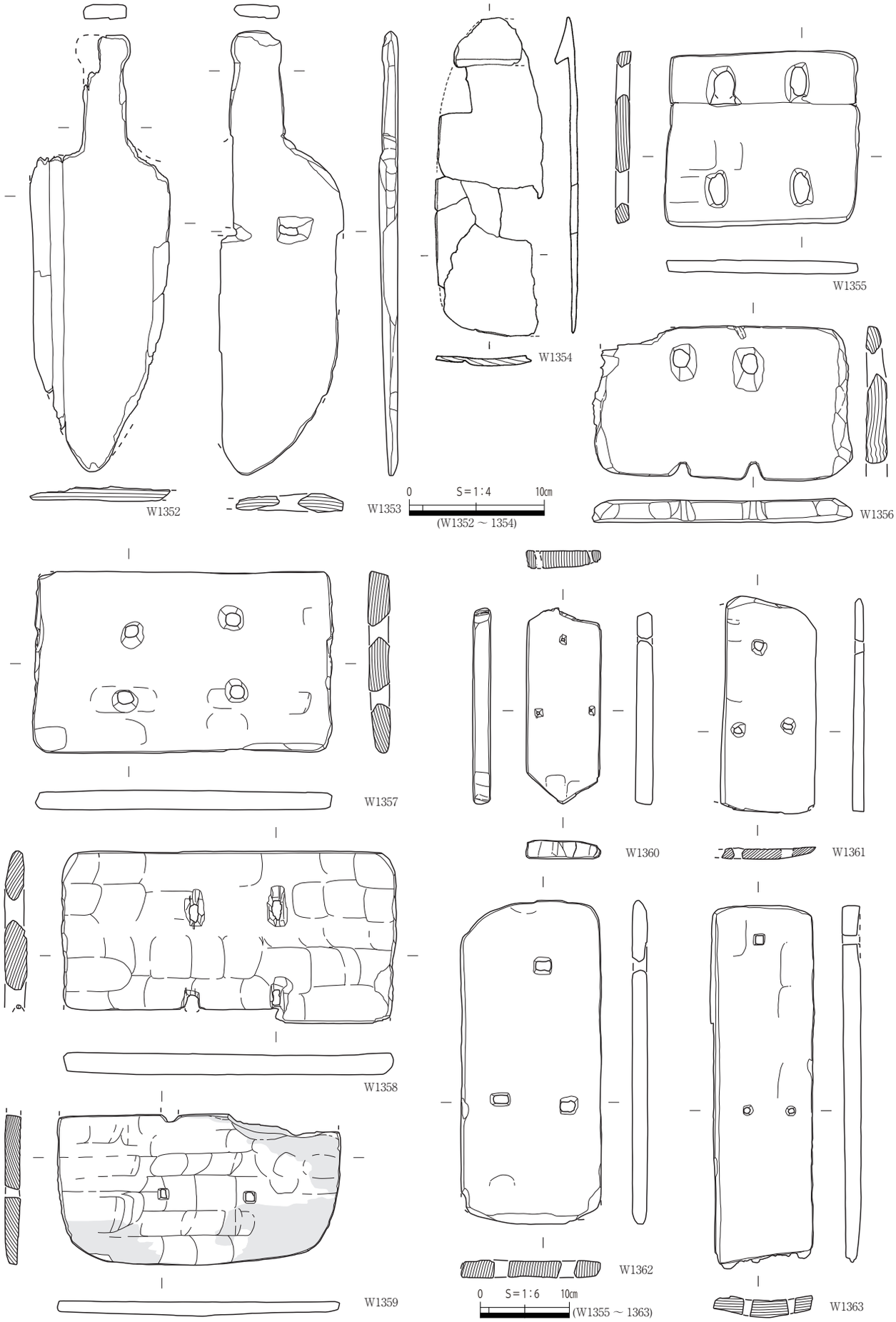
第594図　Ｐ５区出土木製品（３）



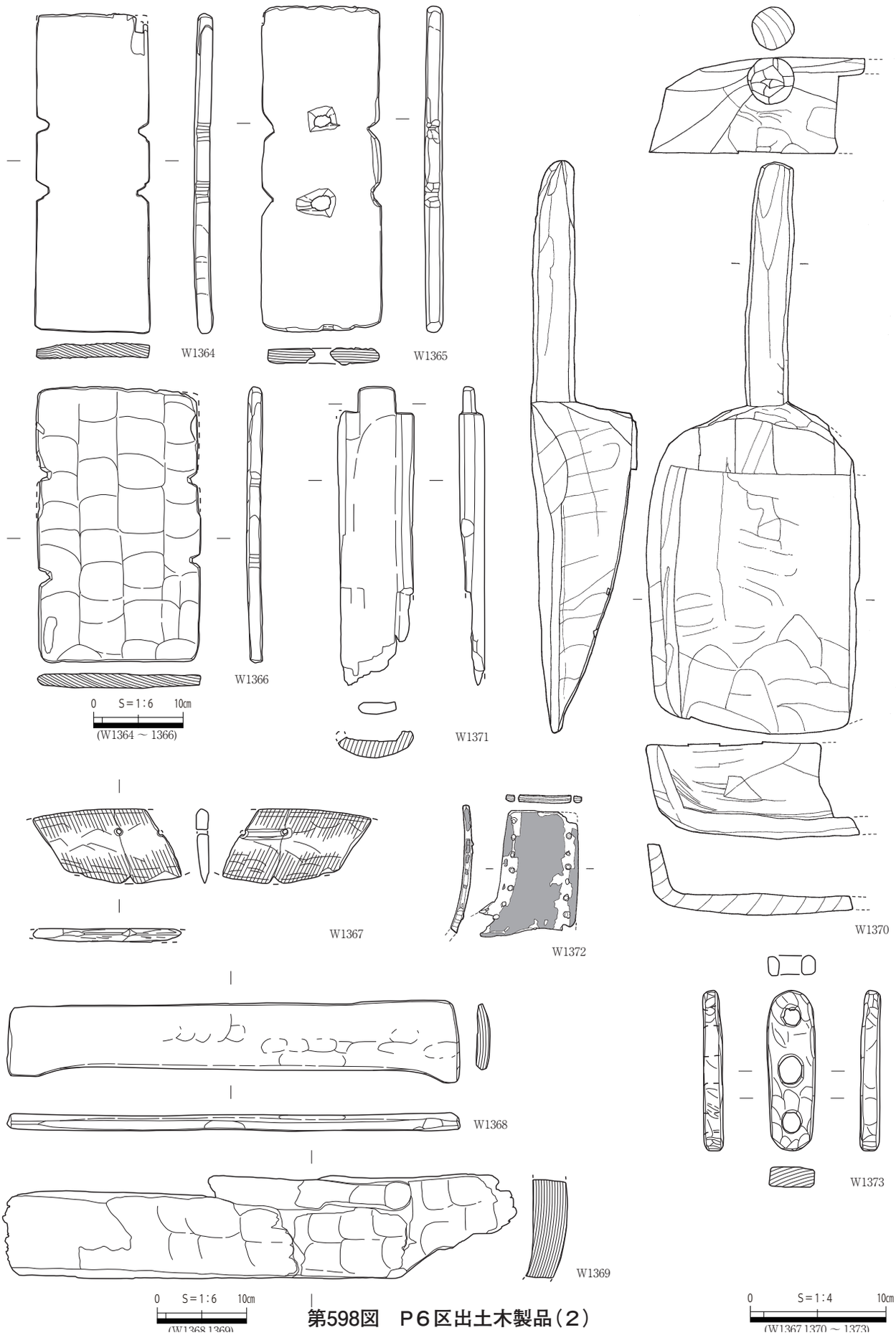
第595図　Ｐ５区出土木製品（４）



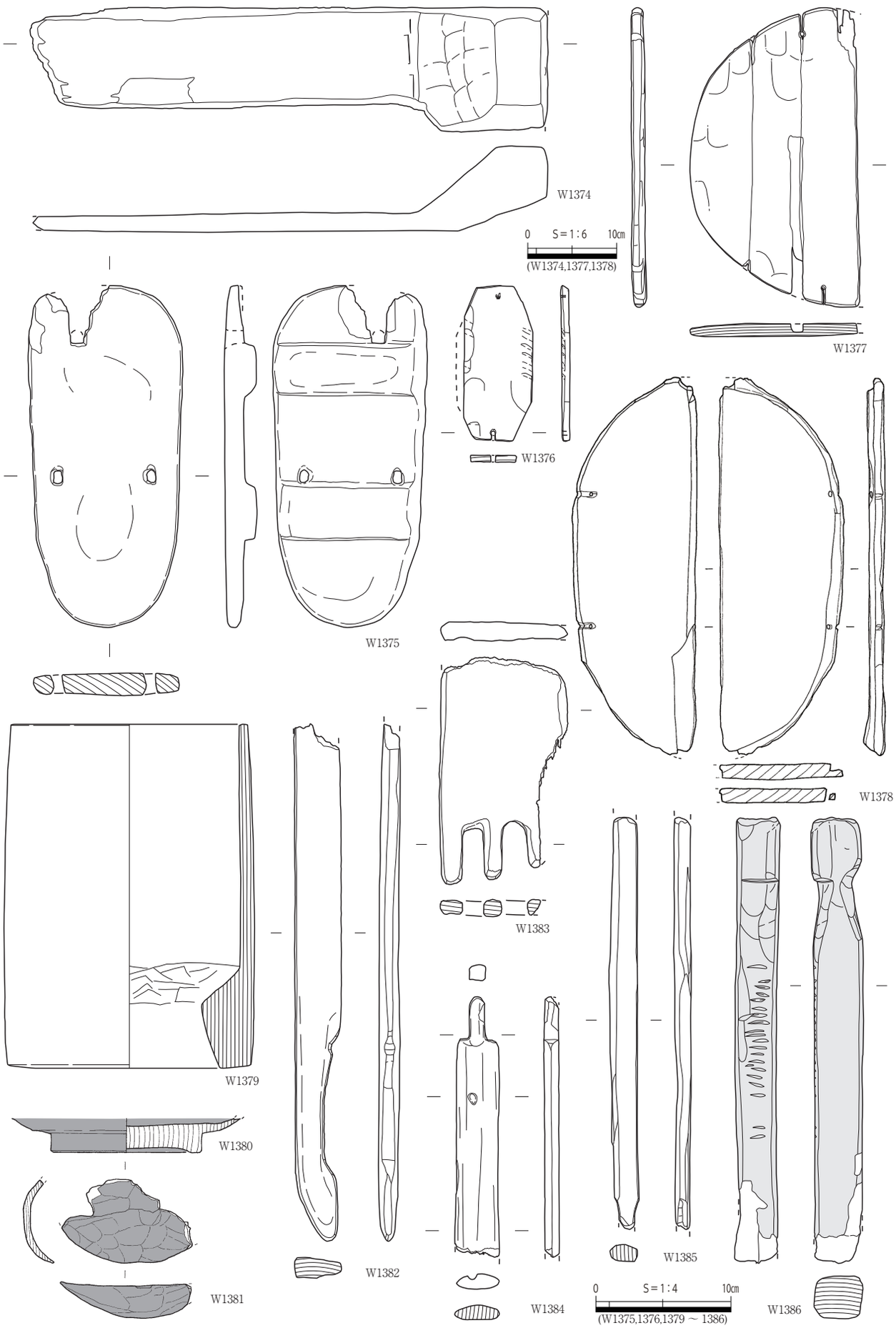
第596図　Ｐ５区出土木製品（５）



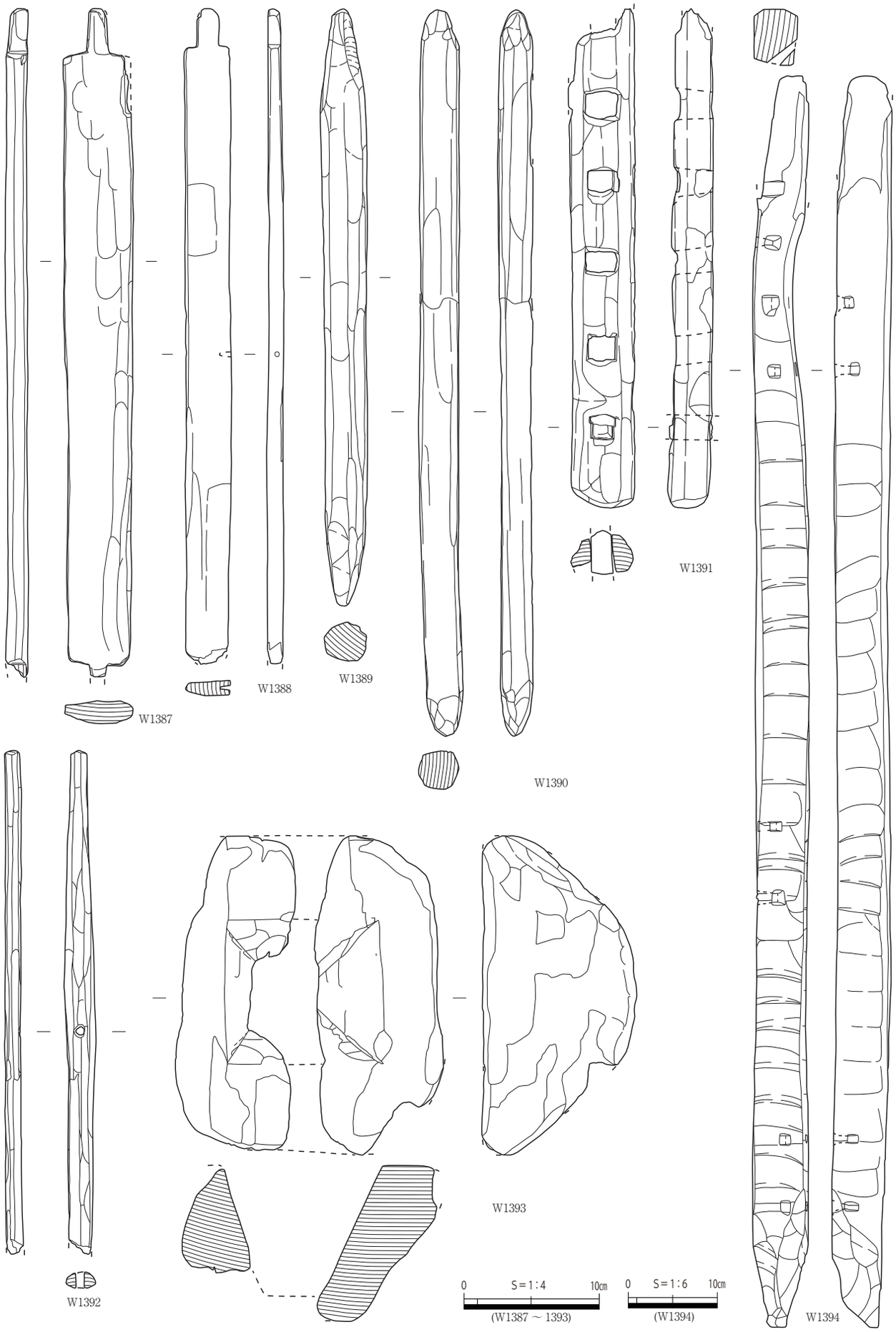
第597図　Ｐ６区出土木製品（１）



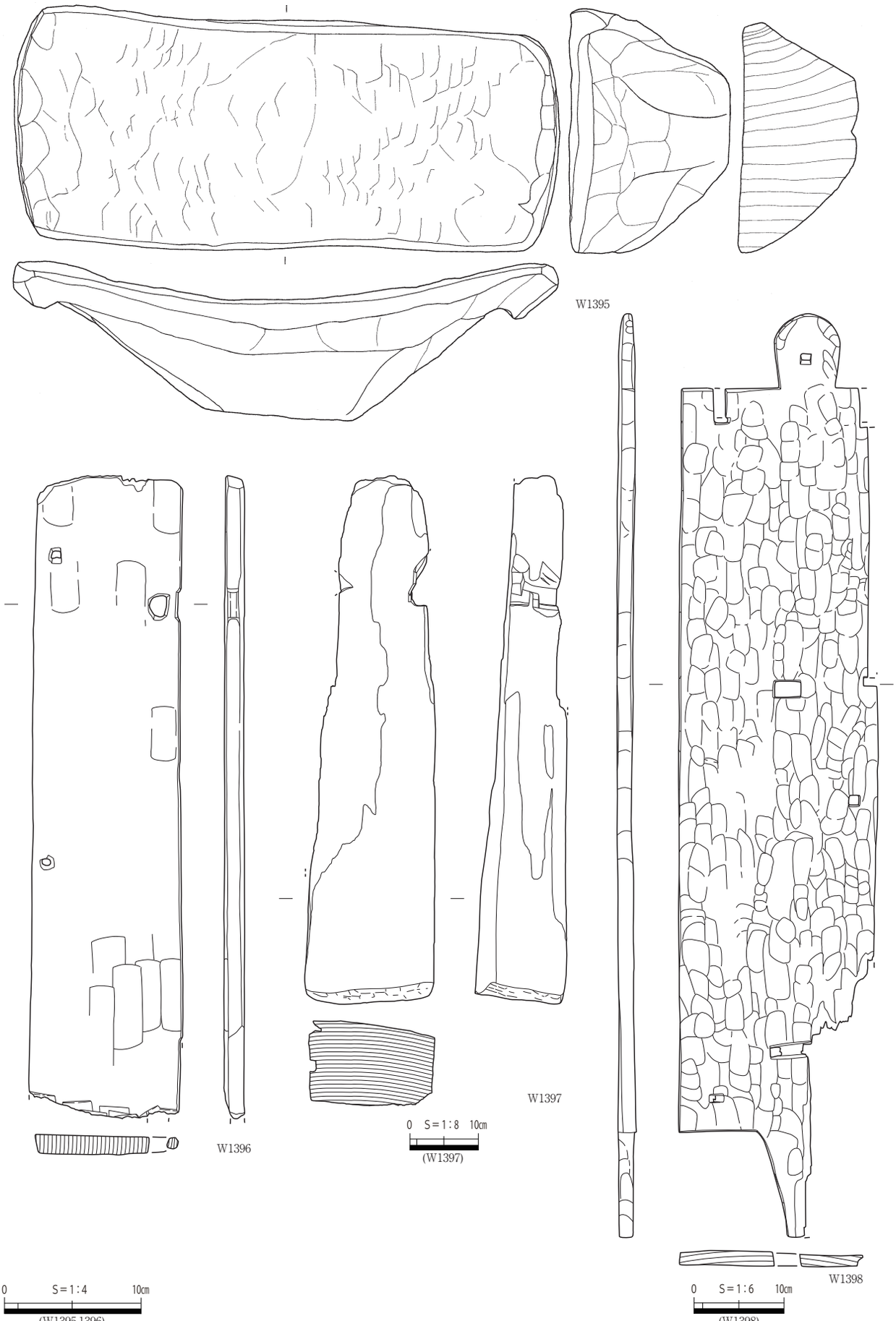
第598図　Ｐ６区出土木製品（２）



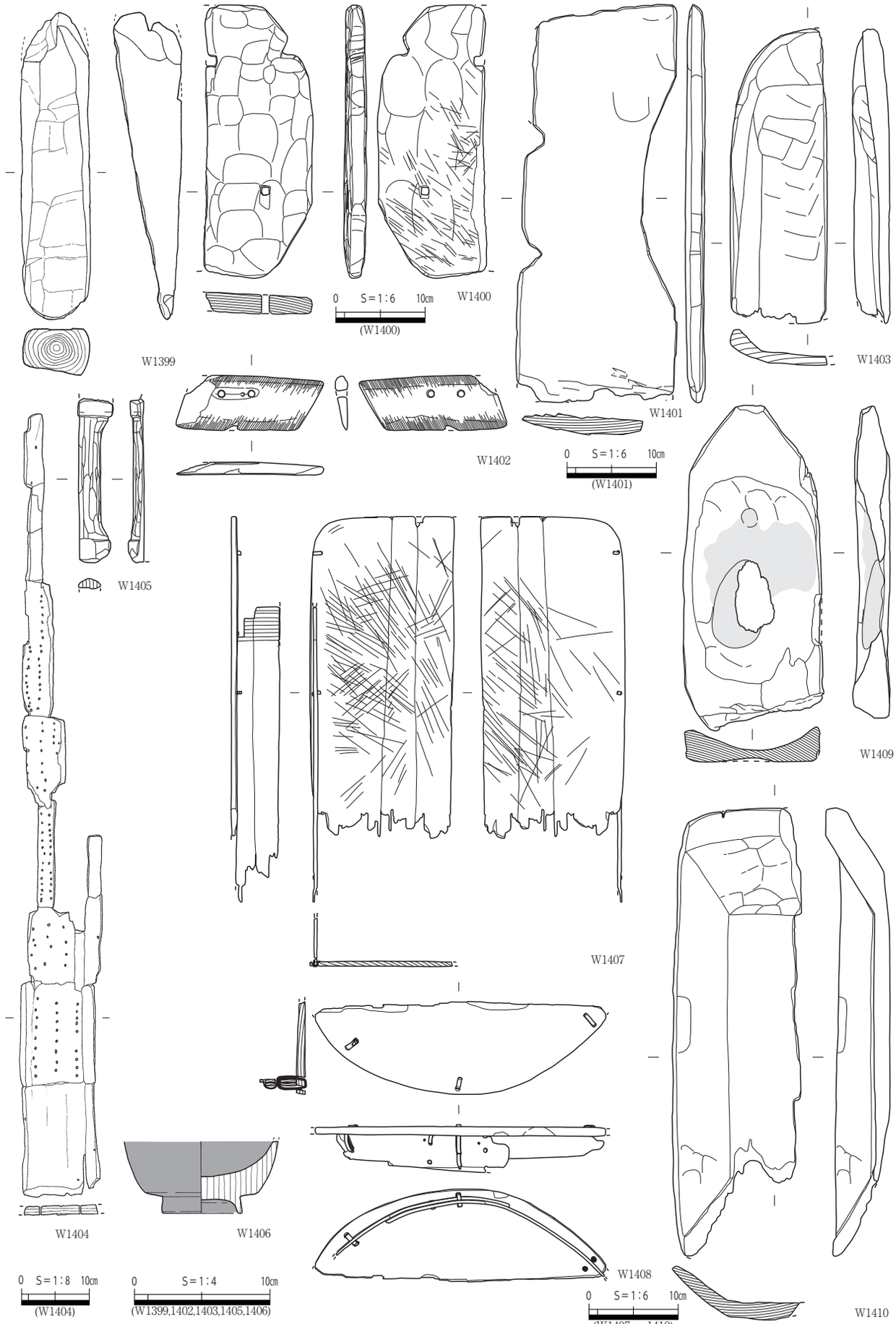
第599図　Ｐ６区出土木製品（３）



第600図　Ｐ６区出土木製品（４）



第601図　Ｐ６区出土木製品（５）

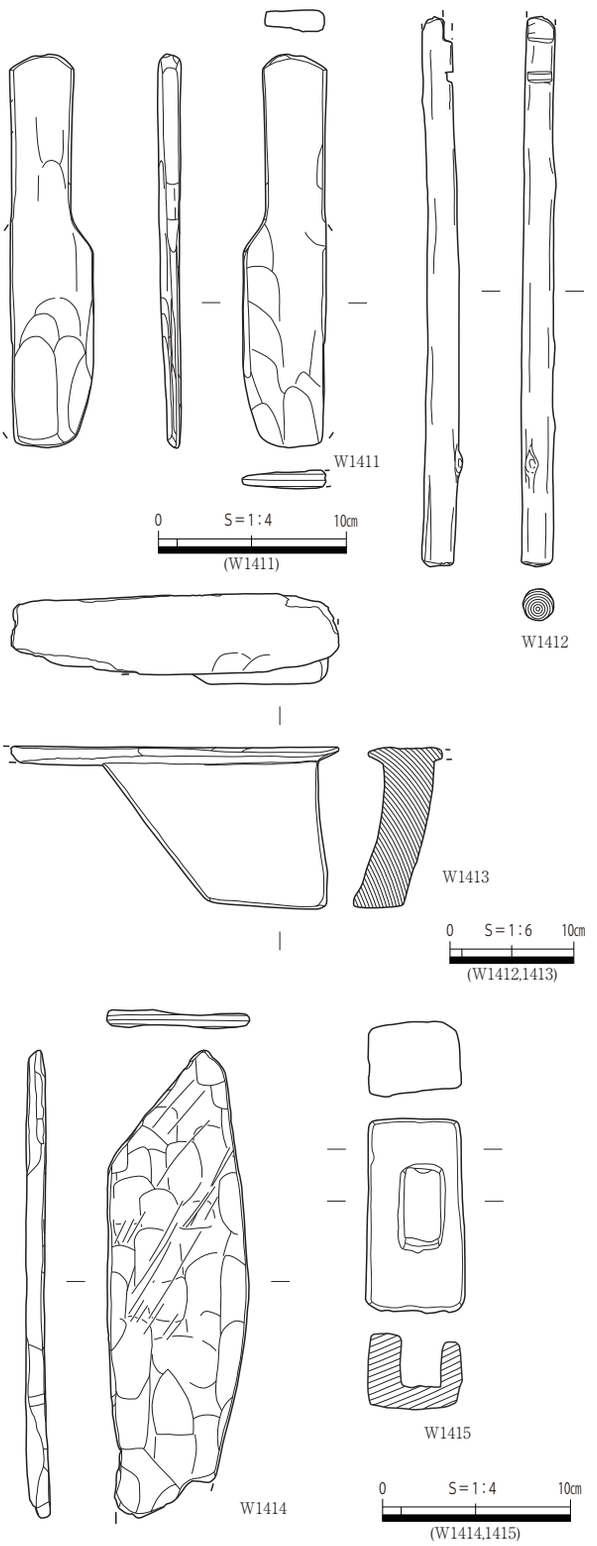


第602図　Ｐ７区出土木製品（１）

Ｐ６区出土木製品（第597 ～ 601図）

掲載資料のうち、W1352 ～ 1359、1361、1365 ～ 1372、1379、1381 ～ 1383、1387、1388、1391、1392、1394 ～ 1396、1398が弥生～古墳時代、それ以外は古代の木製品である。

W1352、1353は組合せ平鋤で、後者は身の上部に方形の孔を２孔穿つ。W1354は直柄平鍬であろうか。W1355 ～ 1363は田下駄である。W1355 ～ 1359は横長の板型田下駄で、W1356外は４孔式である。W1356は２孔と抉り２カ所を組み合わせたものである。W1360 ～ 1363は縦長で、３孔式である。W1360、1361は小型品で、いずれも緒孔の前壺は中央に開けられている。W1372は短甲の肩部破片で、漆塗りである。ヤマグワ製である。W1376は蓋板で、平面形が八角形を呈し、２孔一対の孔がみられる。W1378は楕円形曲物で、いわゆる折敷である。樺皮結合であるが、側縁に低い段を巡らせ、側板を結合する。本遺跡ではこのタイプはほとんど出土していない。長軸の両端部に僅かな突起部がつくり出される。W1384、1387、1388は両端に枘がつくり出される部材で、本遺跡での出土数は多く、大小がある。W1394 は建築部材を転用した杭で、接する２面を貫通する孔が互い違いに開けられている。W1395は腰掛けと考えられ、スギ製である。底面が平坦ではなく破面となる可能性もある。上面観は長方形を呈し、端辺側の両側部には把手がつくり出されている。W1396 ～ 1398は建築部材で、1397は柱材で、上半部に両側部から抉りが入れられている。1398は壁板であろうか。

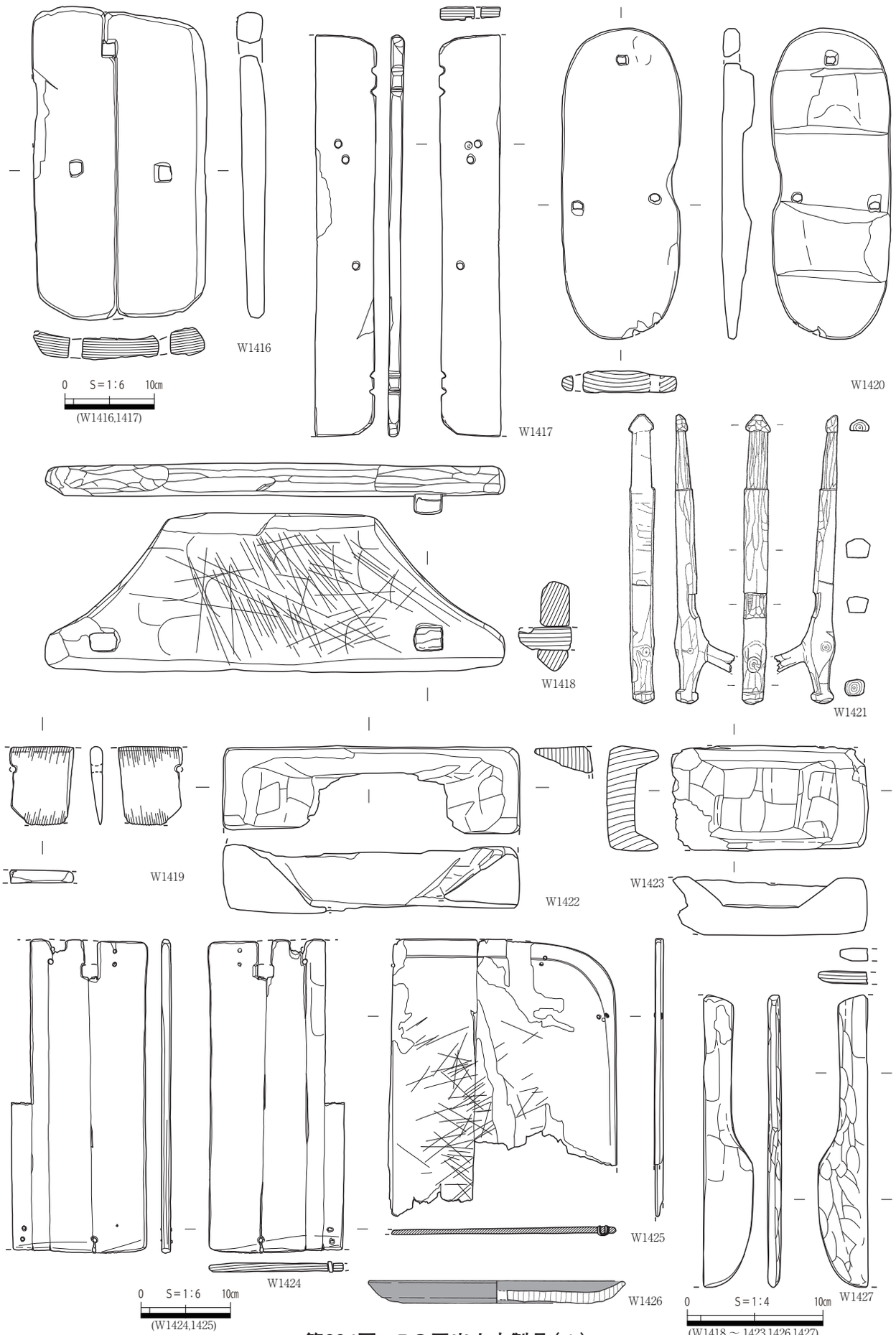


第603図　Ｐ７区出土木製品（２）

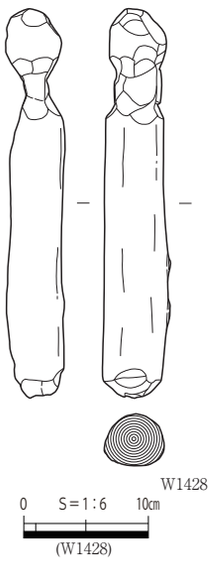
Ｐ７区出土木製品（第602、603図）

掲載資料はW1399、1401、1404、1405、1409、1412、1413が弥生～古墳時代、それ以外は古代の木製品である。

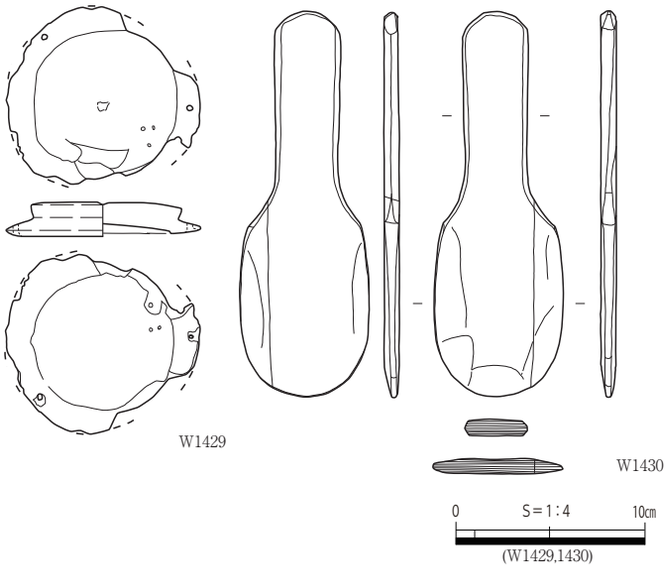
W1399は斧膝柄で、先端に向けて窄まる袋状鉄斧用である。W1400は田下駄で、平面形は楕円形に近く、四隅がカットされている。３孔式で、上端のみ側面に抉りがある。丁寧な加工が施され、刃物痕がみられることから転用材とみられる。W1401も転用田下駄で、左側部は２カ所の抉りがあるのに



第604図　Ｐ８区出土木製品（１）



第605図　Ｐ８区出土木製品（２）



第606図　５区出土木製品

対して、右側面は弧状の刳り込みとなる。W1402は穂積具で、平行四辺形を呈する。紐孔は浅い溝で結ばれる。W1404は全長１ｍを超える盾で、紐綴孔が列状にみられる。W1405は刀形木製品の把で、精巧な作りである。W1406は挽物の漆器で、高台付きの椀である。カエデ製である。W1407は方形曲物で、側板が遺存する。側板内面の隅付近には縦平行線のケビキが入れられる。樺皮結合で、底板の内面には刃物痕が密集する。W1408は円形曲物で、側板は1ヶ所で綴じられている。W1409、1910は刳物の容器で、W1409は粗製品で、上端が尖頭状を呈することから舟形木製品の可能性もある。W1410は槽、もしくは盤で、短辺の厚みがかなり厚い。

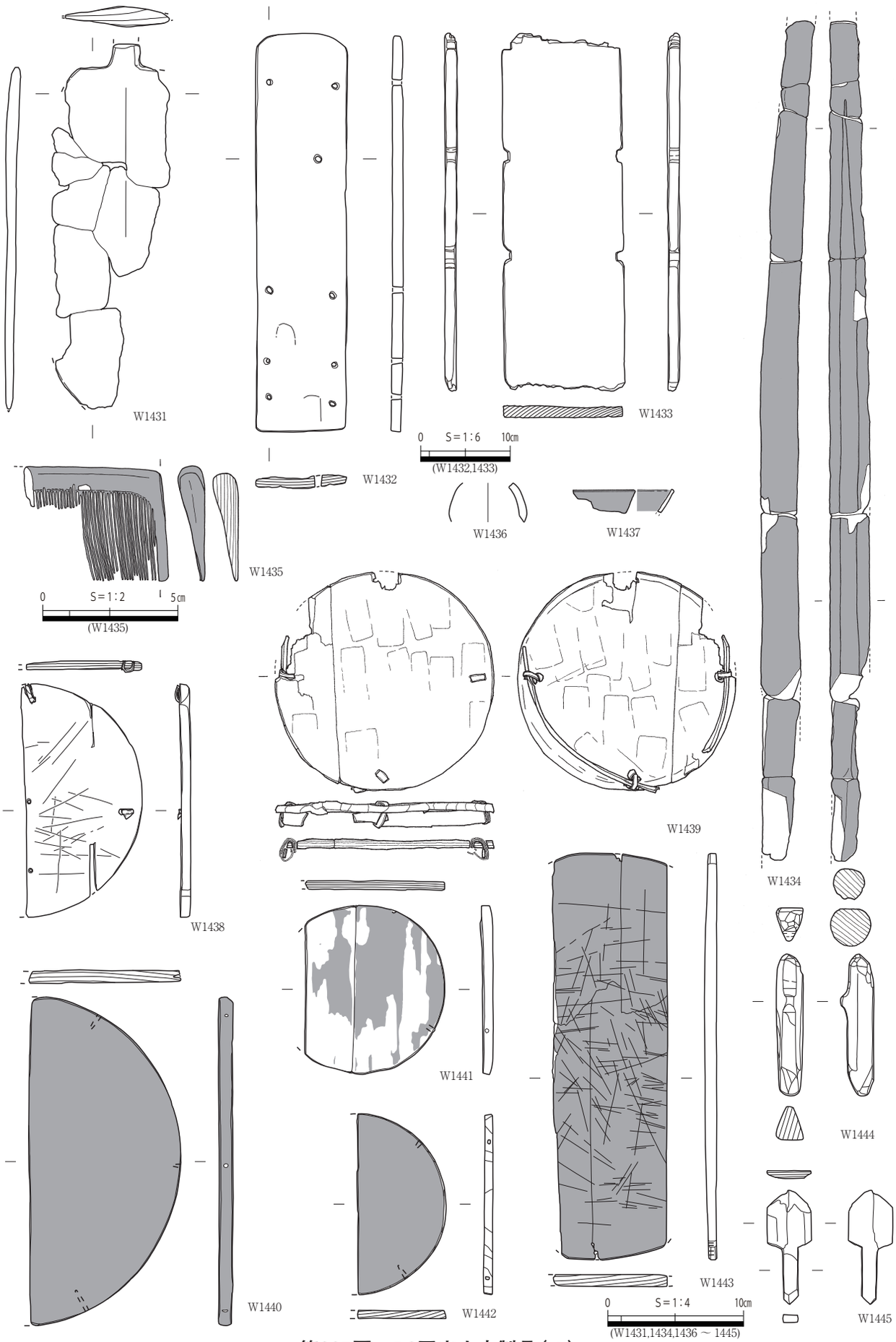
Ｐ８区出土木製品（第604、605図）

掲載資料はW1418、1419、1421、1423、1424が弥生～古墳時代、それ以外古代の木製品である。W1416は３孔式の板型田下駄で、緒孔の前壺は中央に配置される。W1417は枠型田下駄の半欠品で、緒孔は３孔とみられるが、前壺が近接する位置に２カ所ある。両端には枠と紐で固定させるための抉りが４カ所ずつ施されている。W1418は高足型田下駄の枠歯で、台形状を呈する。表面には刃物痕がみられ、転用材であろうか。W1420は連歯下駄で、鼻緒孔の前壺が中央に開けられている。歯の消耗が著しい。W1421は衣笠とみられるが、腕木の張り出し一方向にしかない。イヌガヤ製である。W1422、1423は刳物の槽、もしくは盤で、W1424、1425は方形曲物である。W1424は隅がほぼ直角で、側板を固定する綴孔以外に方形の孔が１カ所開けられている。W1425は角が隅丸で、周縁に側板に位置を決める刻線が２本入れられている。W1427は杓子で、身が楕円形を呈する。

５区出土木製品（第606図）

掲載資料は古代の木製品である。

W1429は挽物の蓋で、口縁部が庇状に突出する。組合う容器と固定するための紐孔がみられる。W1430は杓子の完形品で、身が楕円形を呈する。

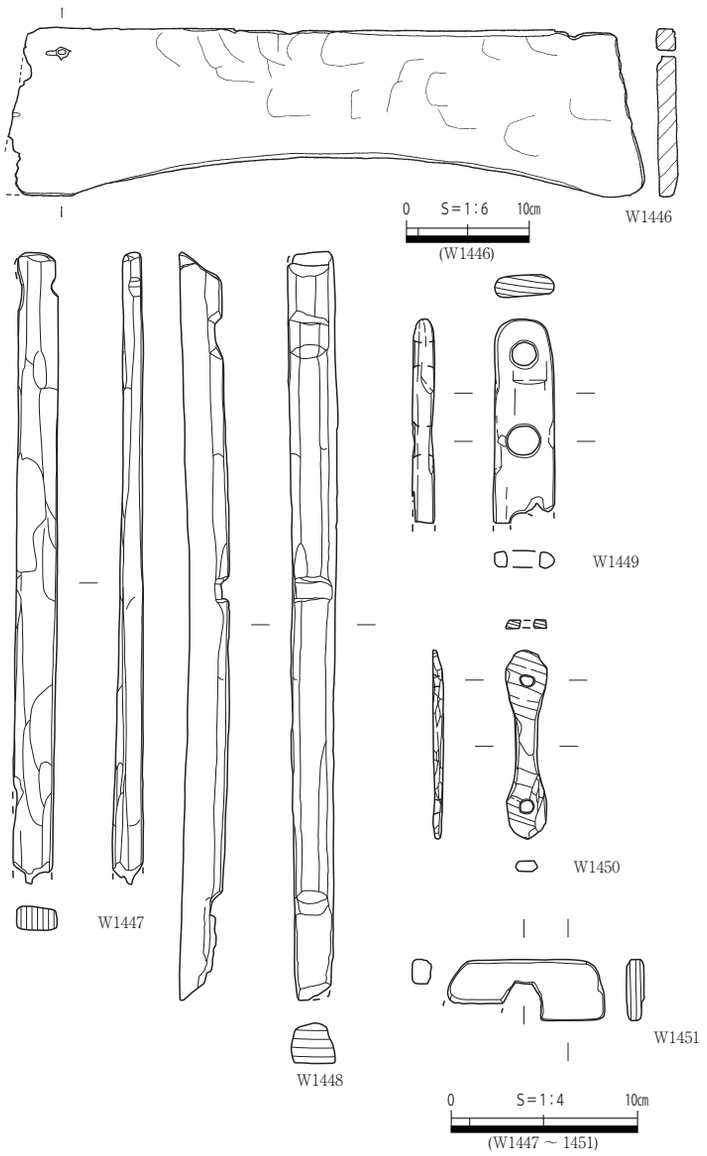


第607図　P9区出土木製品（１）

Ｐ９区出土木製品（第607、608図）

掲載資料はW1431、1433、1446、1448、1450が弥生～古墳時代、それ以外は古代の木製品である。

W1431は櫂とみられ、身の中央に鎬状の稜をもつ。W1434は弓で、弓幹の中央付近の破片とみられる。片面は掘り窪められ、紡錘形の平坦面がつくり出されている。全面漆塗りで、ケヤキ製の精製品であり、儀礼用と考えられる。７世紀末から８世紀の資料である。W1435は漆塗りの横櫛で、イスノキ製である。背の肩部はやや丸みを帯びる。W1438 ～ 1443は円形曲物で、W1438、1439、1443は樺皮結合で、その他は釘結合である。W1439は側板が残り、蓋板を４等分する位置に結合孔が配置され、側板が取り付けられる。蓋板の内外面とも刃物痕はほとんどみられない。W1440 ～ 1442は内外面及び側面すべて漆塗りで、W1443は刃物痕が顕著である。W1446は紡織具の経送具と考えられるが、長さが51cmほどと他遺跡の出土例と比べるとやや短い。下辺にアーチ状の抉りを入れる。上辺には孔があり、補修孔の可能性がある。

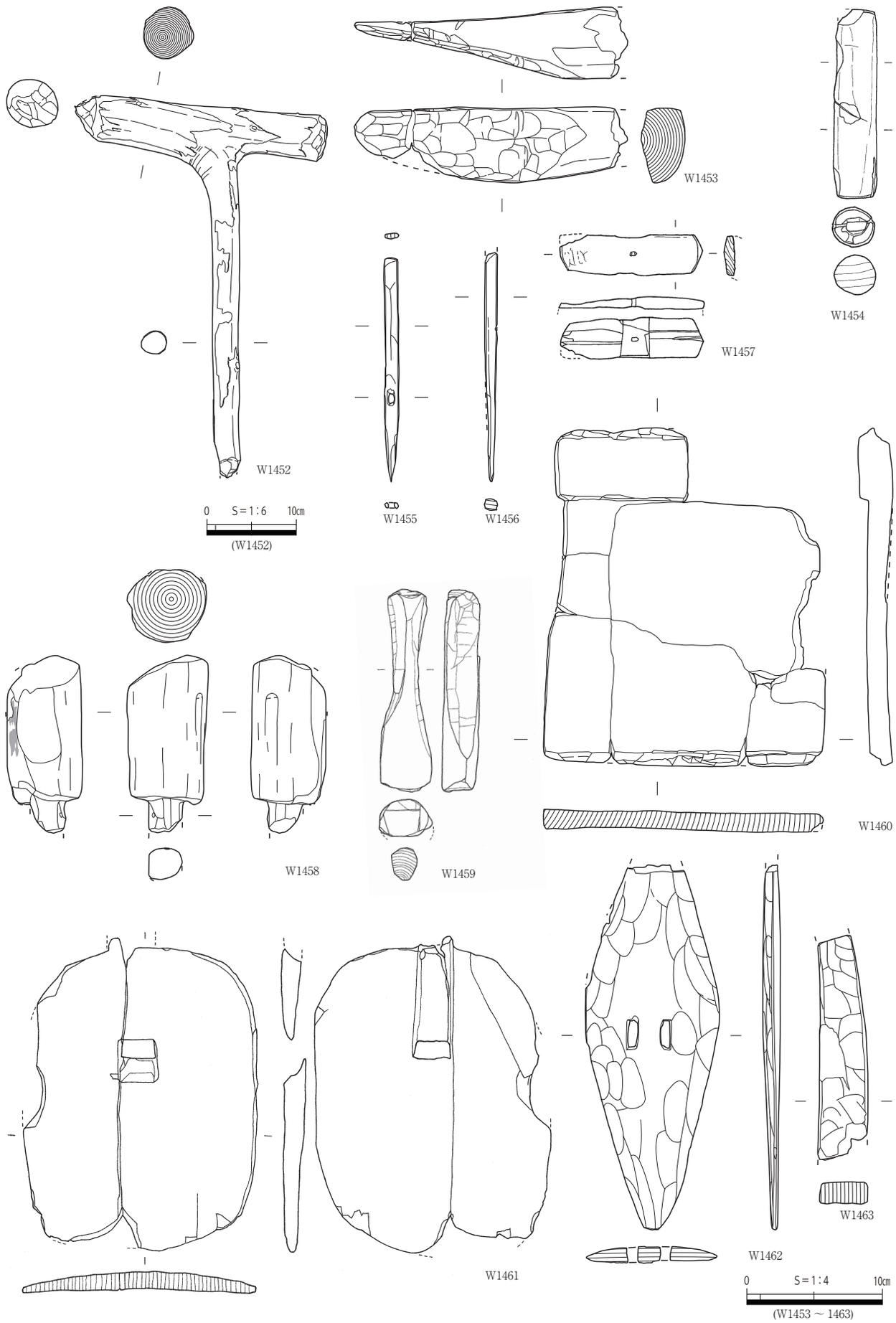


第608図　P9区出土木製品（２）

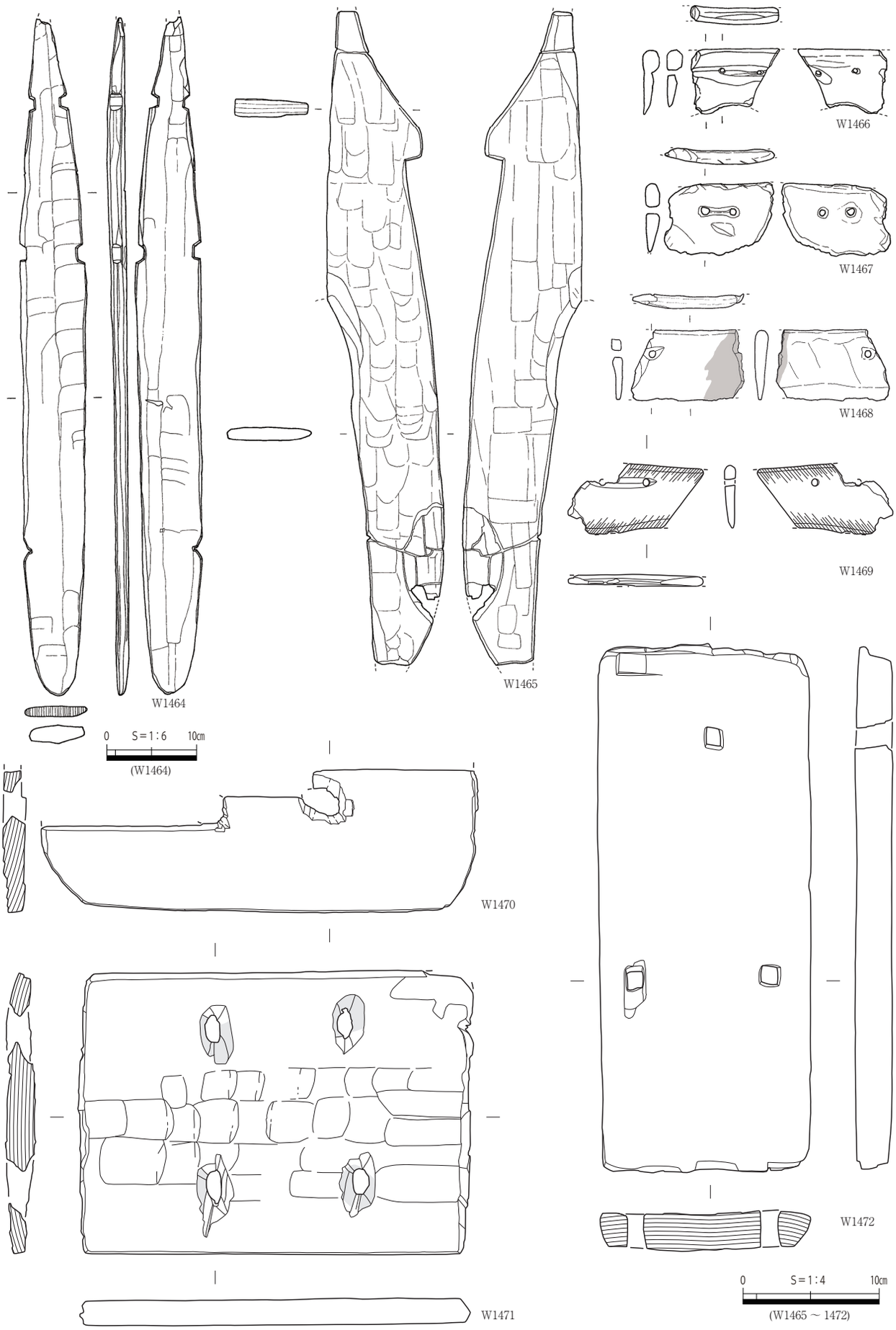
Ｐ10区出土木製品（第609 ～ 616図）

掲載資料はW1453、1456、1457、1460 ～ 1471、1476 ～ 1478、1483 ～ 1487、1504、1505，1508、1509、1514、1517、1519、152 ～ 1523、1526 ～ 1530、1532、1537 ～ 1542が弥生～古墳時代、それ以外は古代の木製品である。

W1451は斧膝柄の未成品で、表面には樹皮が残り、ほとんど整形されていない。W1453は斧台の破片、横斧である。W1454は工具の柄で、アカガシ製である。小口は茎孔がみられ、はめ込まれた鉄身は断面長方形を呈することが分かる。W1455は木針で、下半に方形の孔が開けられている。W1458は横槌、W1459は小型の竪杵、もしくは木錘である。W1460は直柄又鍬の未成品である。W1461、1462は組合せ平鋤である。W1461はヤマグワ製で、W1462は平面形が柳葉形を呈し、身の中央に長方形の孔が２孔一対となって穿かれる。W1464は曲柄平鍬と考えるが、明確にしえない。上半の両側部には切り込みが２カ所ずつ入れられ、柄と緊縛したことが窺える。W1465はいわゆる「ナスビ形」の曲柄又鍬で、幅の広い２本の歯を持つ。アカガシ製である。W1466 ～ 1469は穂摘具で、W1466、1467がヤ



第609図　P10区出土木製品（１）



第610図　P10区出土木製品（２）

マグワ製、W1468がケヤキ製である。W1476は紡錘車で、本遺跡ではほとんど出土しない。紡錘車は鳥取市の調査で滑石製で鋸歯文が施された資料が１点出土している。W1477はヤブツバキ製の木錘で、中央に多角形を呈する軸棒がつくり出されている。

W1479、W1480は連歯下駄で、W1479は出土資料の中でも最も歯の残りが良い。歯は台形を呈し、同じ幅からつくり出すが、下辺は台よりかなり幅広となる。スダジイ製である。W1481、1482は檜扇で、いずれも要の孔に木釘が残る。W1482は木釘に楔が打ち込まれている。W1485 ～ 1487は高杯である。

W1485はいわゆる水平口縁の高杯で、ヤマグワ製である。W1486は脚部で、底面周縁に円形の突起をつくり出している。外面には４方向に透かしが入れられる。ケヤキ製である。W1487は赤色塗彩された脚部で、切り込みにより脚端部は分割されているが、その数や形状は明らかにしえない。

W1489は台付鼈で、漆塗りの精製品である。ほぼ完形で、底板及び頸部の一部を欠く。須恵器の器形と類似し、本体と底板とからなる。樹種は本体がヤマグワ、底板がスギである。胴部には円孔が３方向に穿かれ、出土時はそのうち２孔に栓が填め込まれていた。残り１孔は孔の壁面が細かな破面となっており、管が挿入された際に、その管に合わせて広げられたと考えられる。胴部から脚部内面の加工は粗い。漆は底板や栓も含めた外面全面、及び内面の口縁部から頸部にかけて施される。道路１からの出土で、７世紀末から８世紀初頭の所産である。周辺では鳥取市常松大谷遺跡、会下・郡家遺跡に類例がみられる。

W1494 ～ 1497は樺皮結合の円形曲物である。W1494は蓋で、中央には孔が１カ所開けられ、上面及び側面は漆塗りとなる。W1498 ～ 1501は釘結合の円形曲物である。W1499、1501はいずれも側板の一部が遺存し、W1501は釘孔が不均等に配置される。W1499の高さは4.1㎝である。W1502は径29.6㎝の大型品で、８カ所に側板を結合した木釘が残る。W1503は楕円形曲物の大型品である。側板を結合した孔以外にも中央の破面に沿って孔が数カ所あり補修孔であろうか。W1529は小型の脚付き台とみられ、粗製品である。W1540、1541は断面が「工」字形を呈する用途不明品である。表面の加工から未成品と考えにくい。弥生時代中期後葉から古墳時代前期初頭の所産である。W1542は長さ２ｍを越える建築部材で、柱材とみられる。

２区出土木製品（第617図）

掲載資料はすべて古代の木製品である。

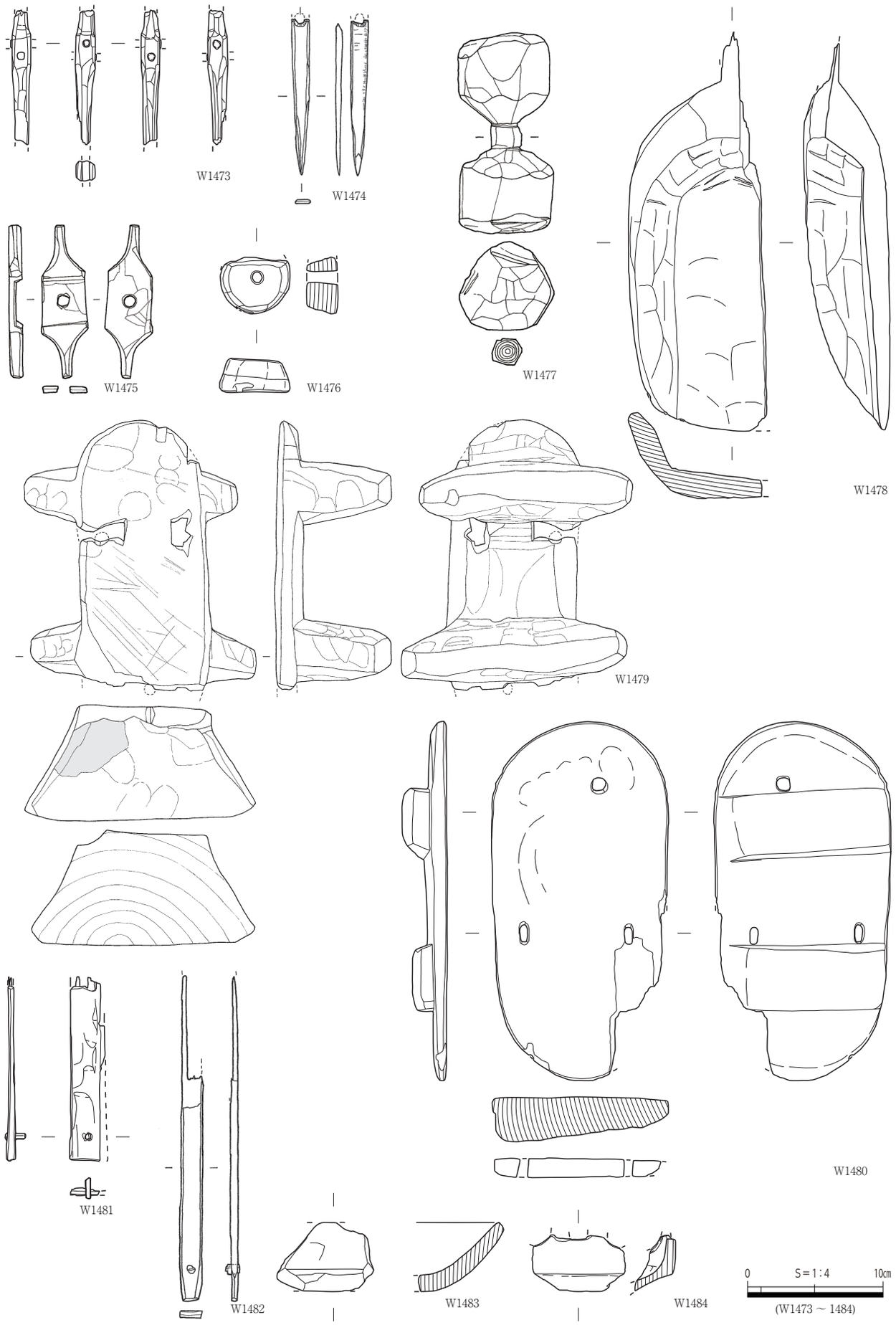
W1543は小型の木錘で、円錐を連結したような形状をなす。W1544は糸枠の枠木で、スギ製である。腹面には抉りが入れられ、両端は斜めに削られる。W1545 ～ 1547は檜扇で、いずれもスギ製である。

W1545は全長28.7㎝で、本末ともやや丸く収める。

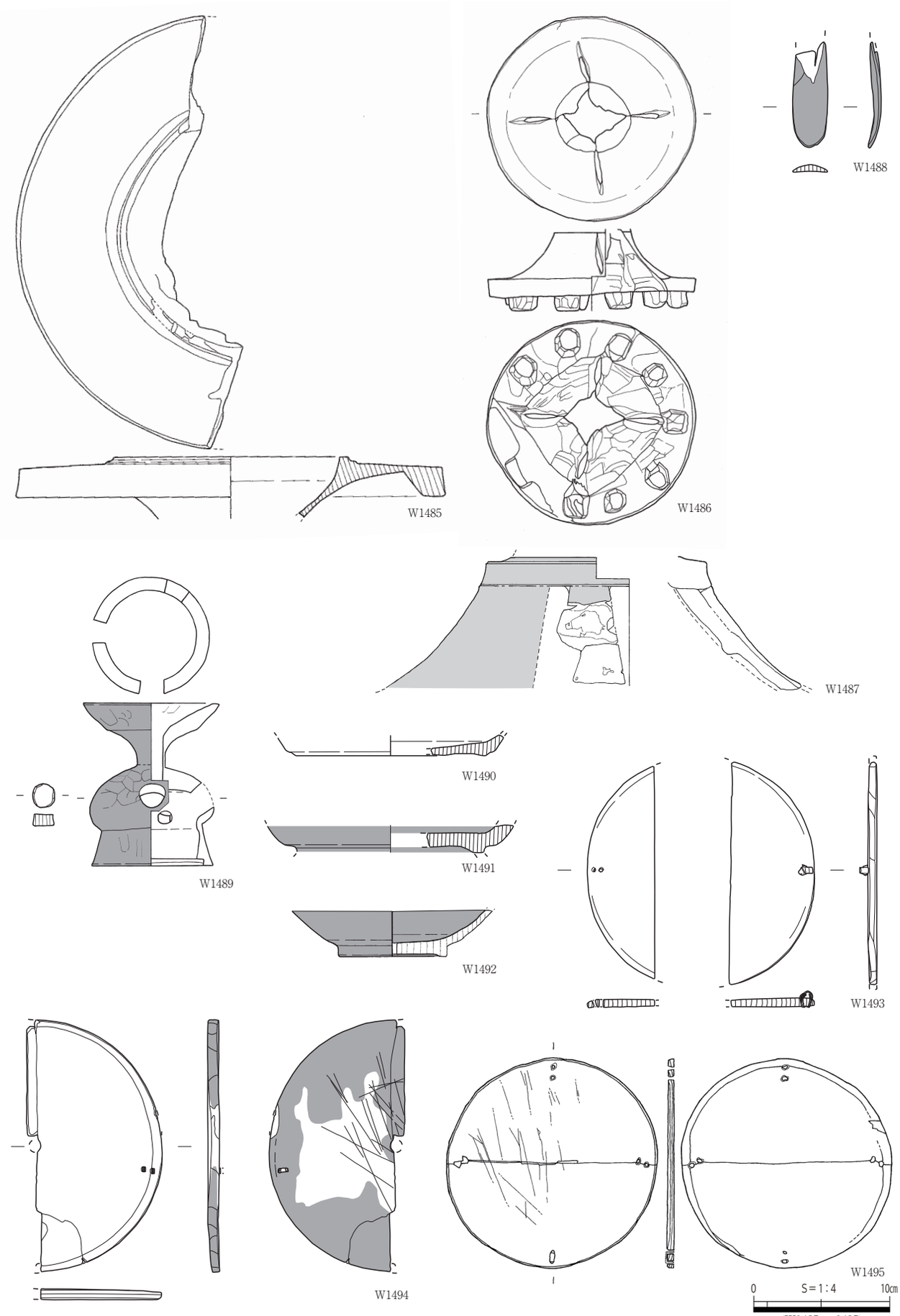
Ｐ11区出土木製品（第618 ～ 625図）

掲載資料はW1548、1557、1558、1560、1561、1570 ～ 1572、1588 ～ 1590、1610、1618 ～ 1623、1632、1635、1637、1641 ～ 1646が弥生～古墳時代、それ以外は古代の木製品である。

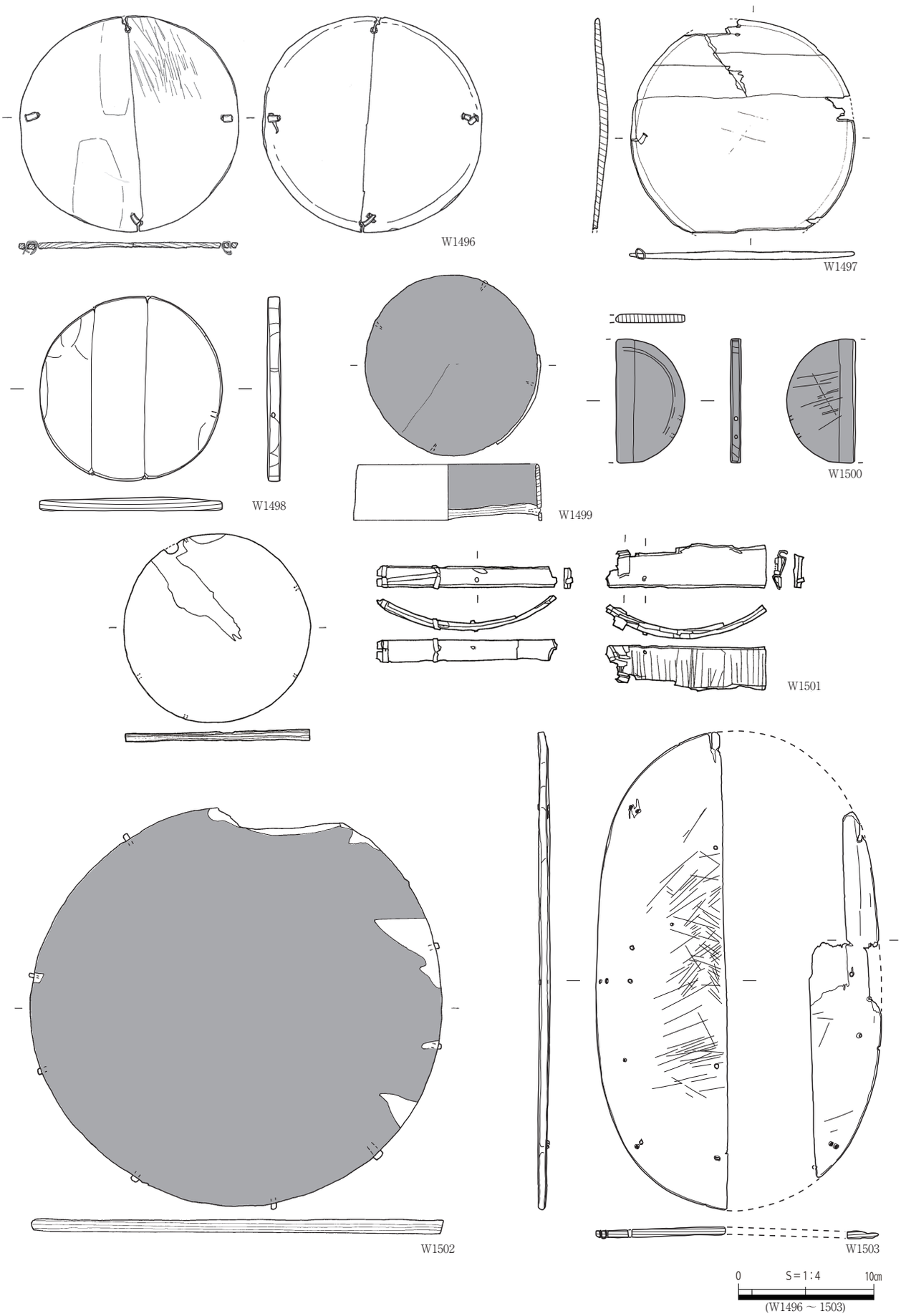
W1548は斧膝柄で、縦斧である。W1550は工具の柄で、円錐形の小口に茎孔が開けられ、上端まで貫通する。茎孔は円形で、挿入された鉄身は錐などであろうか。アオキ製である。W1552は横槌で、ヤブツバキ製である。身と握りの径の差は小さい。精製品である。W1558は組合せ平鋤で、アカガシ製である。柄は身に対して斜めに差し込まれ、刃部は中央に抉りをもち、二股となる。W1560は鋤と



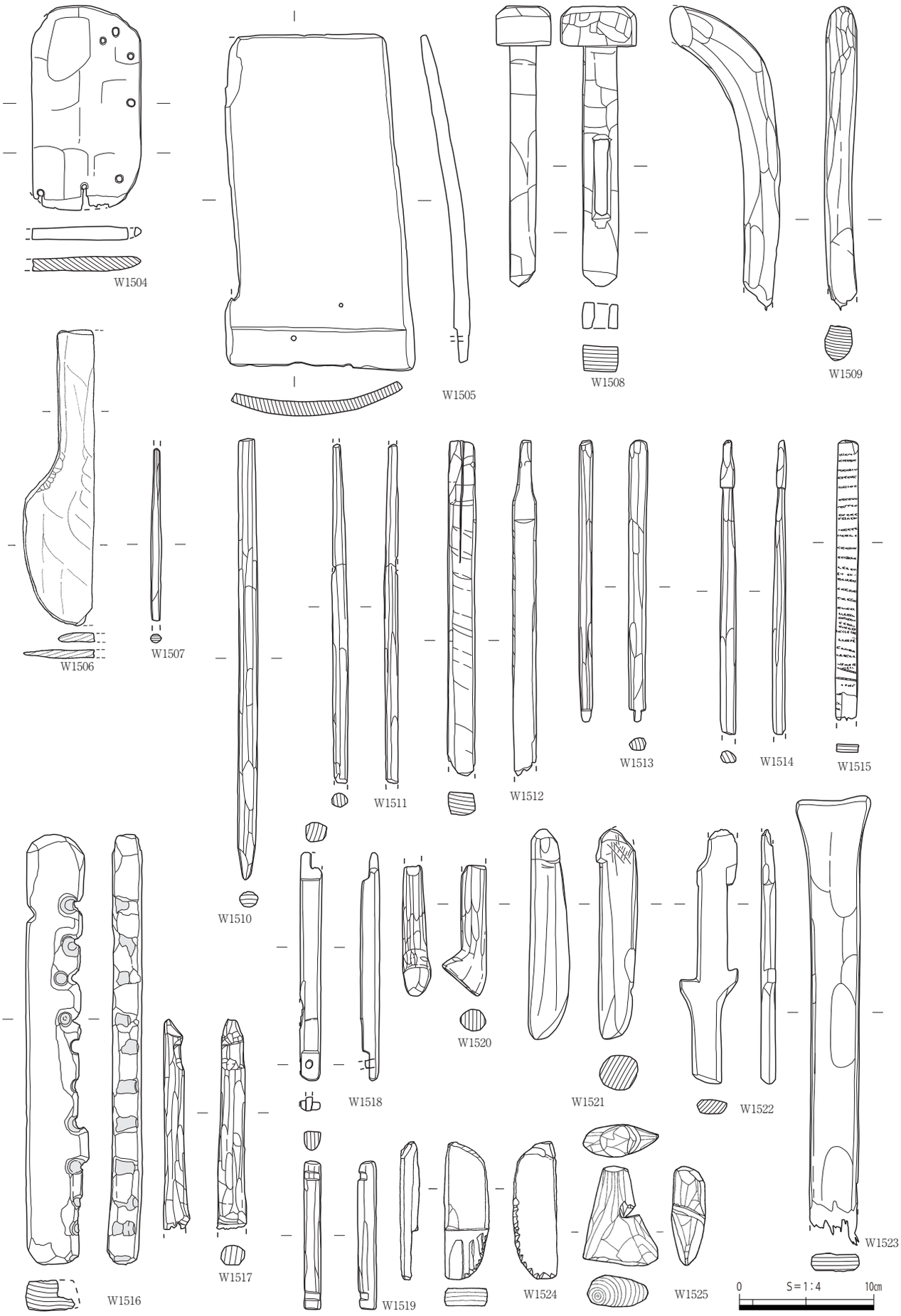
第611図　P10区出土木製品（３）



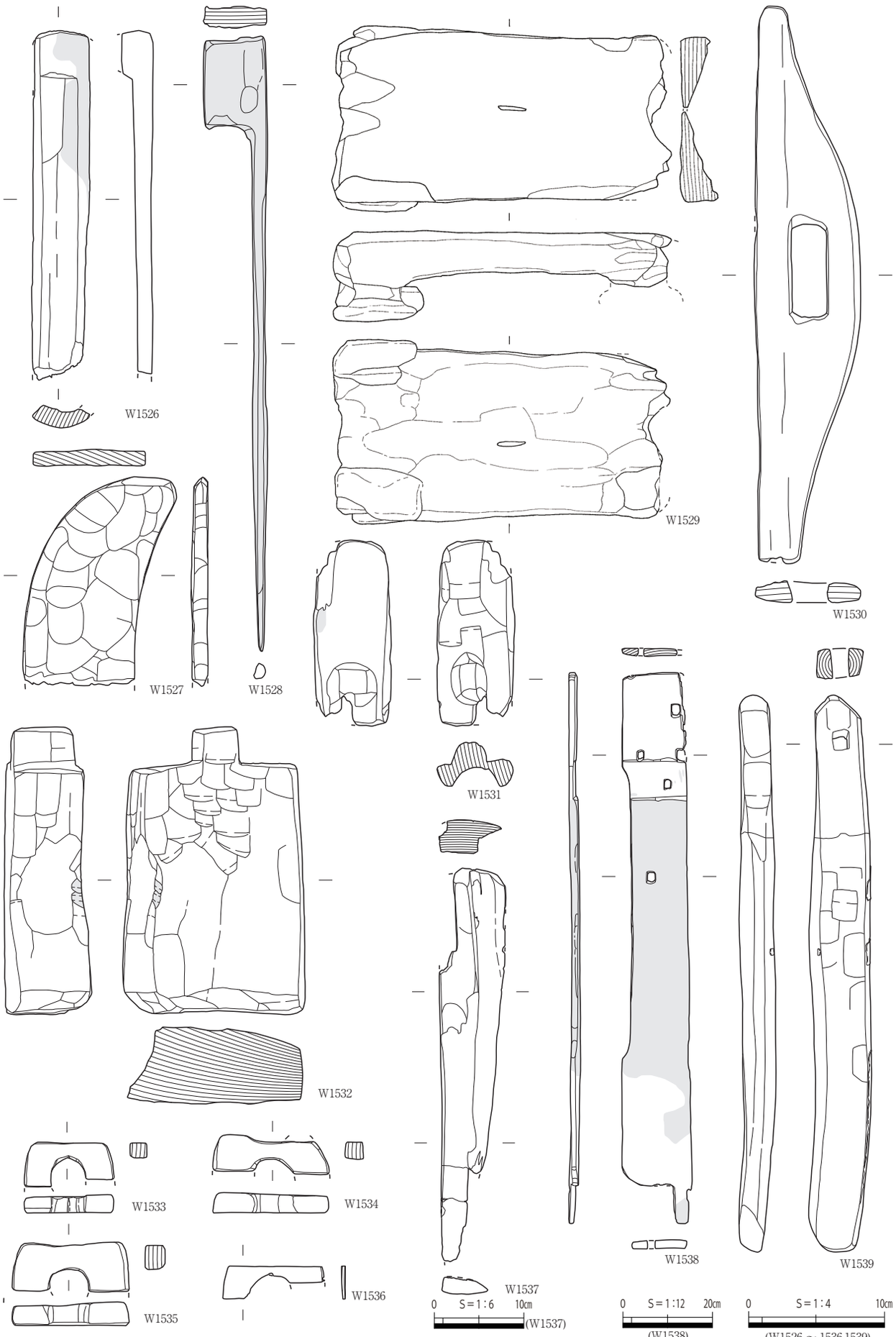
第612図　P10区出土木製品（４）



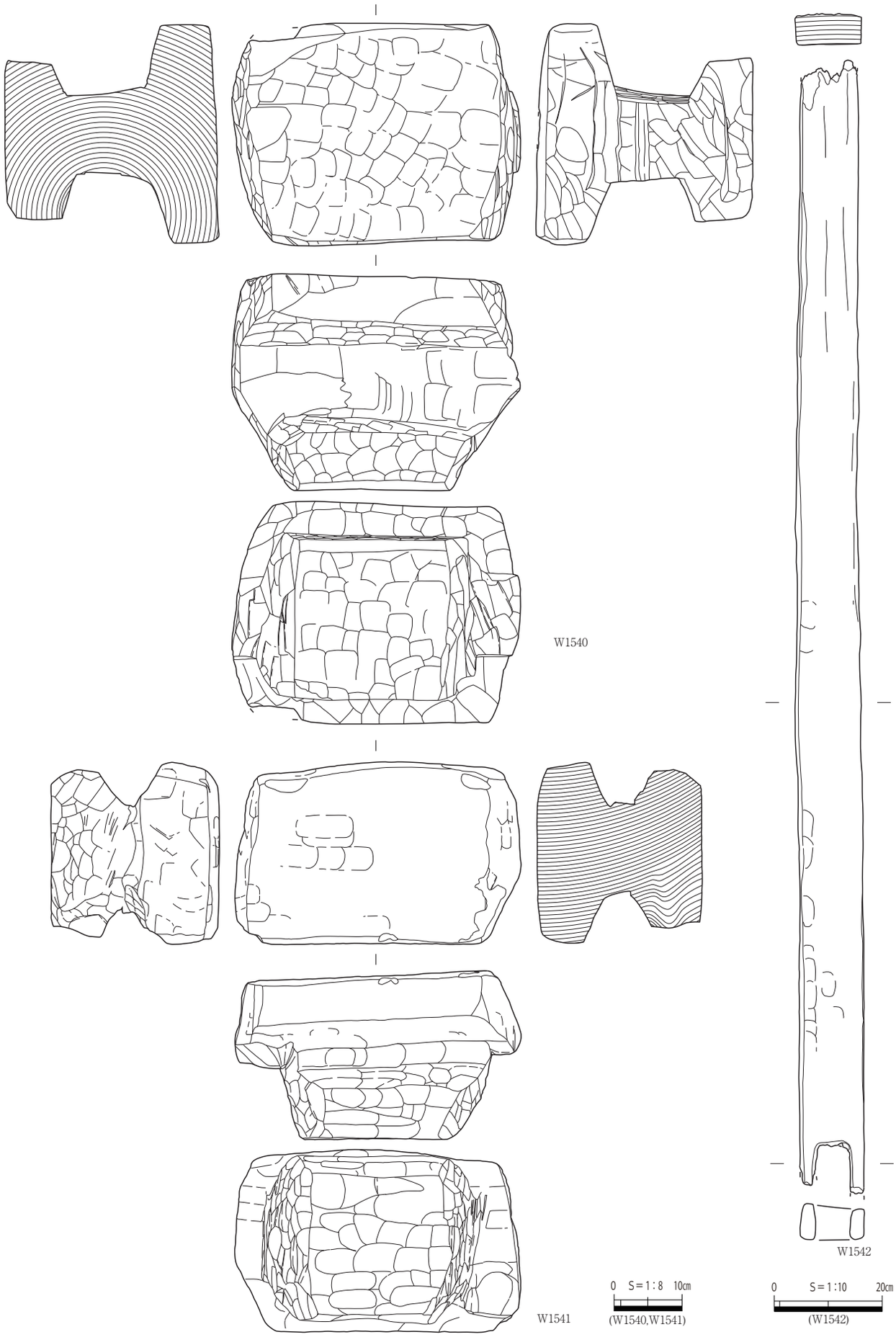
第613図　P10区出土木製品（５）



第614図　P10区出土木製品（６）



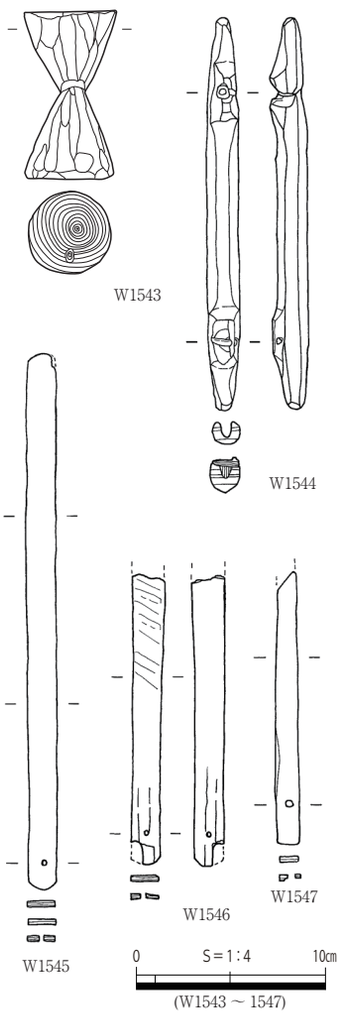
第615図　P10区出土木製品（７）



第616図　P10区出土木製品（８）

みられる。身は楕円形を呈し、柄に身に対して斜めにつくり出されている。スギ製である。W1562は鋤柄で、挿入された棒状の柄には楔が打ち込まれている。W1563は臼の脚部であろうか。W1564は横槌で、ヤブツバキ製である。W1552とは異なり、身と握りの径の差が大きい。W1565は小型の縦杵で、つくりは粗い。W1570はケヤキ製の櫂で、非常に細長い水かき部を持つ。W1572は刀形木製品で、切先側を欠く。短い把を持ち、把頭は腹側に突出する。アカガシ製である。古墳時代の所産である。

W1573 ～ 1575が連歯下駄である。W1573は歯が台形状を呈し、歯の下辺幅が台の幅よりも広い。鼻緒孔の後壺間に緒の圧痕が残る。W1574は台裏面の周縁が面取りされている。鼻緒孔の前壺は中央に開けられている。W1575は平面が長方形を呈し、分厚い歯を持つ。左足用である。W1576 ～ 1586は檜扇である。W1576 ～ 1579は長さ30㎝前後であるが、W1575は幅が2.5㎝と広い。W1575は片面が平坦であるが、もう片面は丸みを帯びる。要の孔は方形を呈する。W1580は綴じ合わせの孔が１カ所みられる。W1585は樹種がスギである。W1590は刳物の桶で、台形状の把手を持つ。W1591 ～ 1605は円形曲物で、W1591、1592は樺皮結合、それ以外は釘結合とみられる。ただし、W1595、W1598などは明確な釘孔は確認できない。W1606 ～ 1608は方形曲物の折敷で、長辺が50㎝ほどの大型品である。W1606は四隅の湾曲が強い。いずれも樺皮結合で、底板の周縁には側板の位置を決める刻線が巡り、内面には刃物痕が顕著である。W1607はスギ製である。W1610は匙で、イヌガヤ製の大型品である。身は紡錘形をなし、内面には細かな加工痕がみられる。



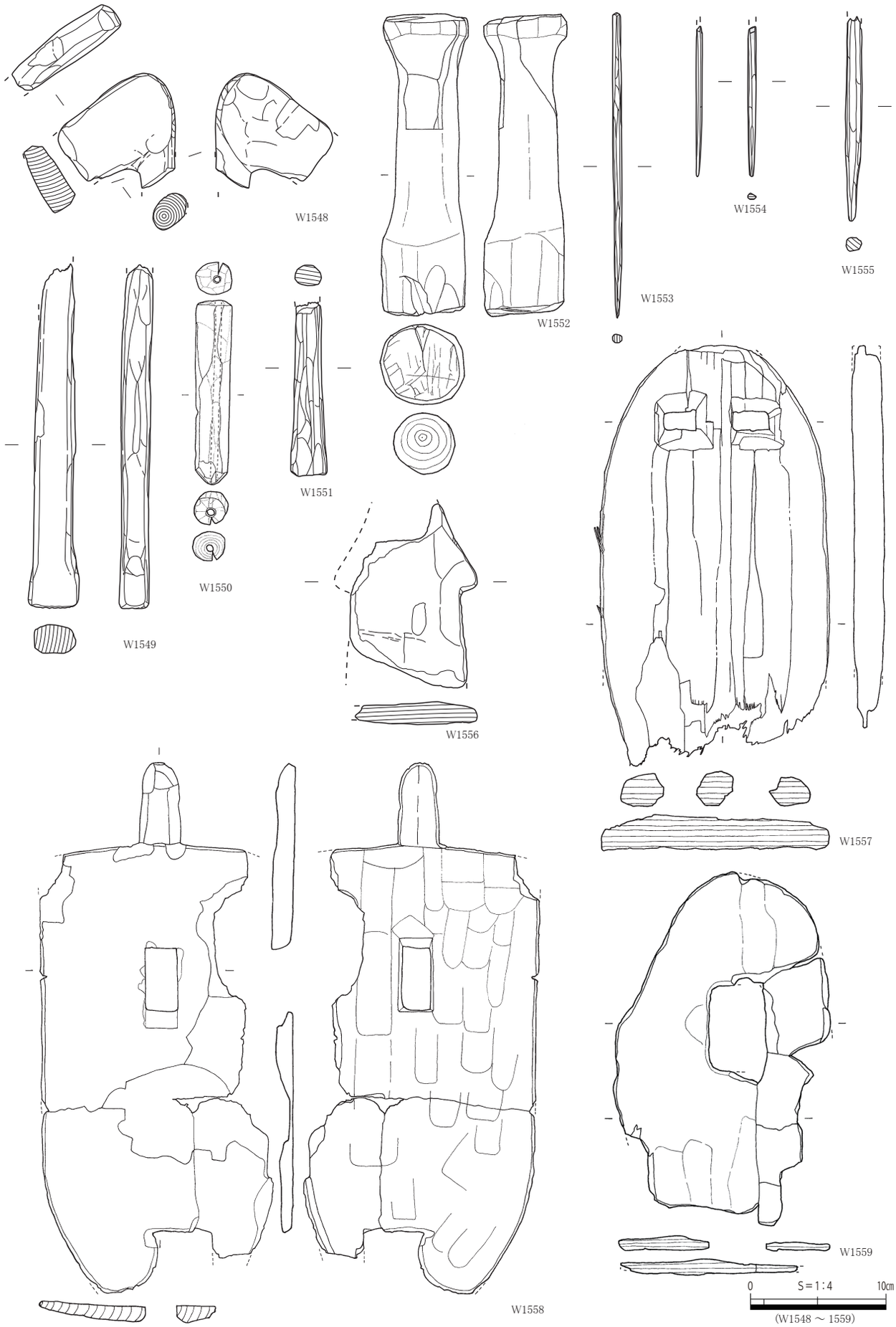
第617図　２区出土木製品

W1618 ～ 1622は河道15を中心に出土した付け木である。河道15内では弥生時代中期から古墳時代前期の多量の付け木が出土している。W1639はＰ10区出土W1540、1541と同じく、断面形が「工」字形を呈する木製品である。W1641はミカン割り材で、農工具の未成品、もしくは素材とみられる。W1642、1643は杭に転用された柱である。いずれも断面が蒲鉾形を呈し、表面は丁寧に整形されている。下半にＬ字に貫通する小孔が穿かれており、W1643は上端に貫孔が開けられている。W1644は屋根材の垂木である。W1645は建築部材、もしくは船の舷側板の可能性がある。断面はやや湾曲し、把手状の方形を呈する突起がつくり出されている。片側の側縁に沿って方形の孔が開けられ、孔間は浅い溝によって連結されている。木造構造物の部材として転用されており、両端部の加工及び大型で、方形を呈する孔は転用後のものと考えられる。

Ｐ12区出土木製品（第626 ～ 630図）

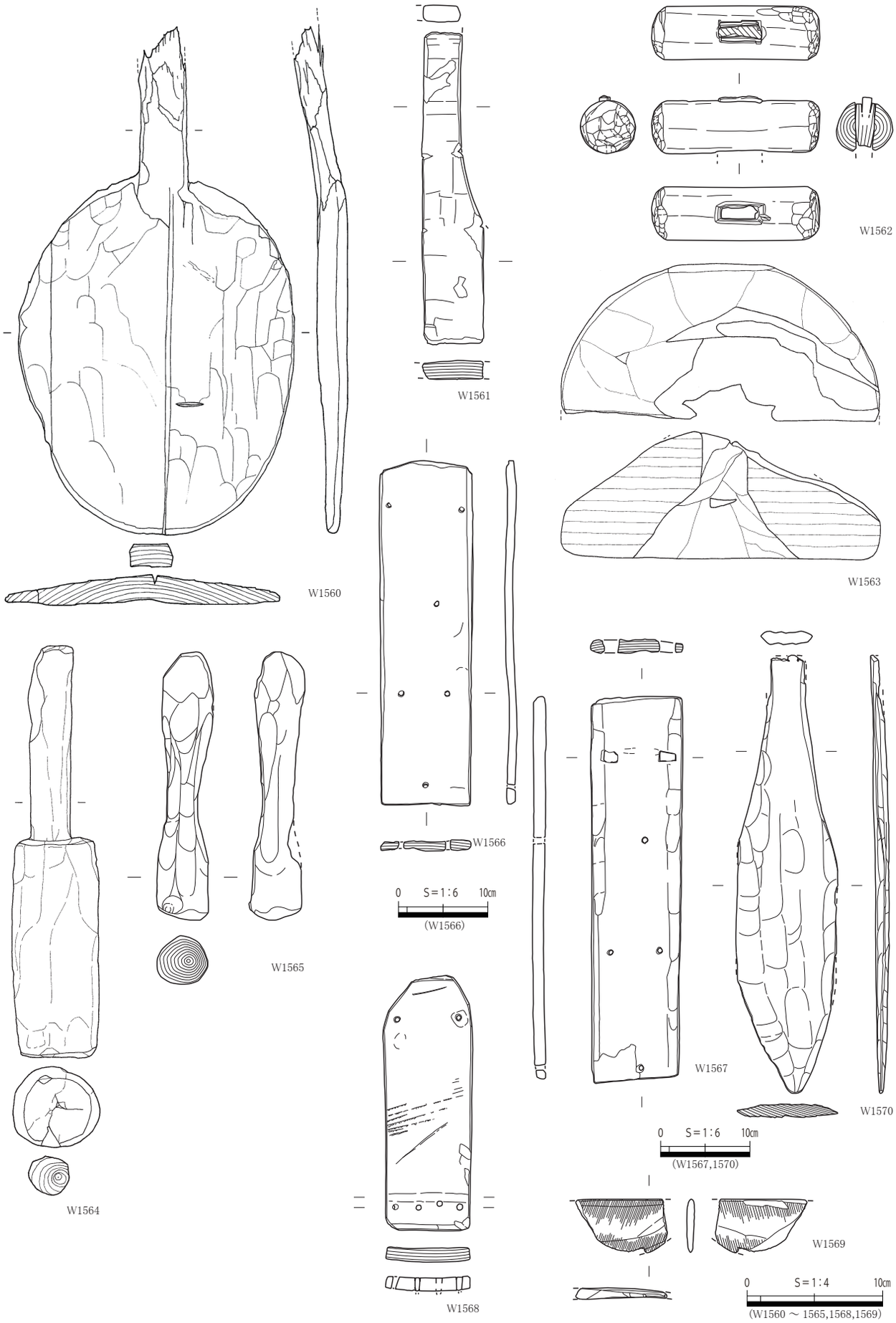
掲載資料はW1648、1651、1653 ～ 1659、1662、1663、1665、1667、1668、1680、1685、1693 ～ 1696が弥生～古墳時代、それ以外が古代の木製品である。

W1648、1649は木針と考えたが、それ以外の可能性もある。W1650は小型の横槌、もしくは木錘で

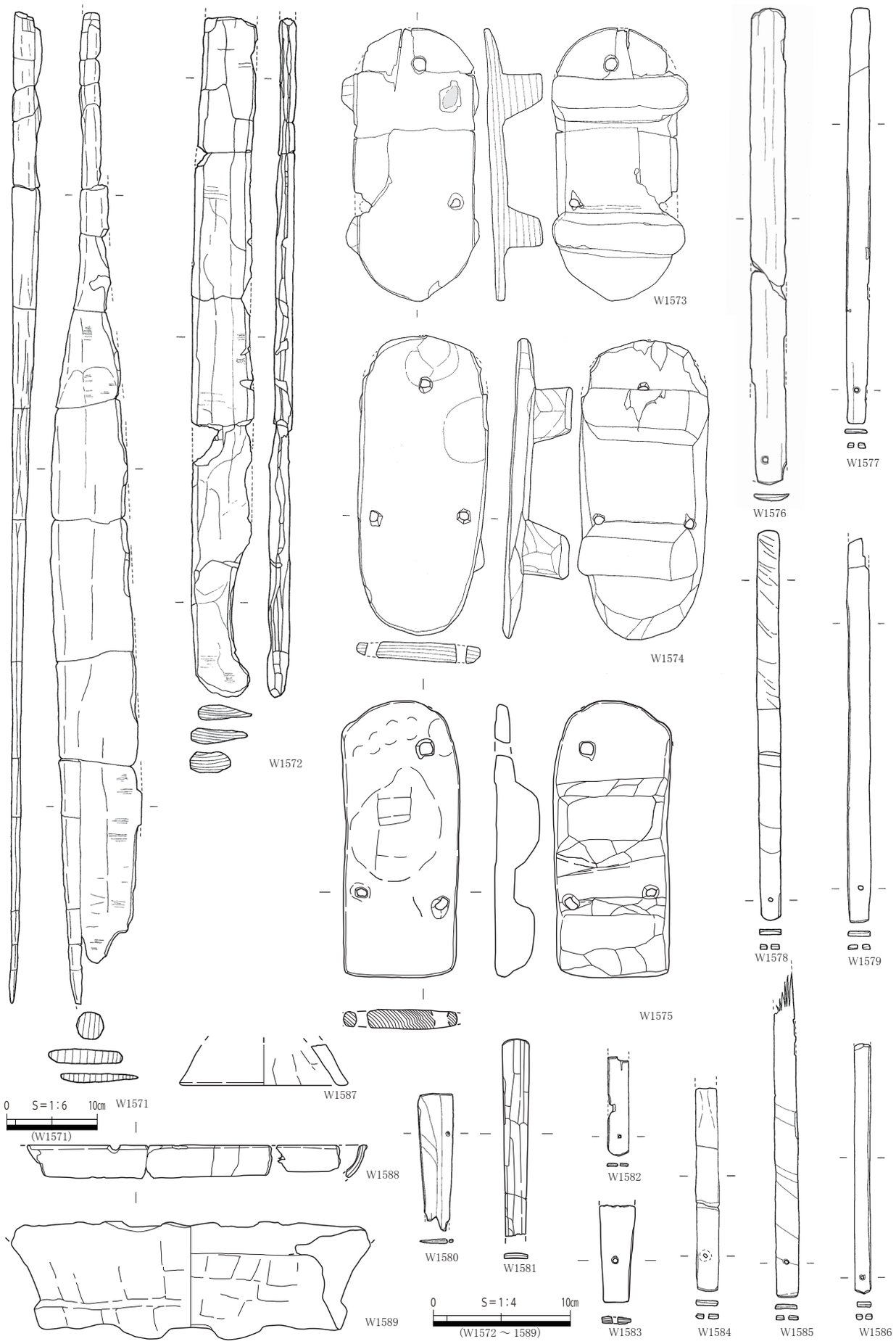


(W1548 ～ 1559)

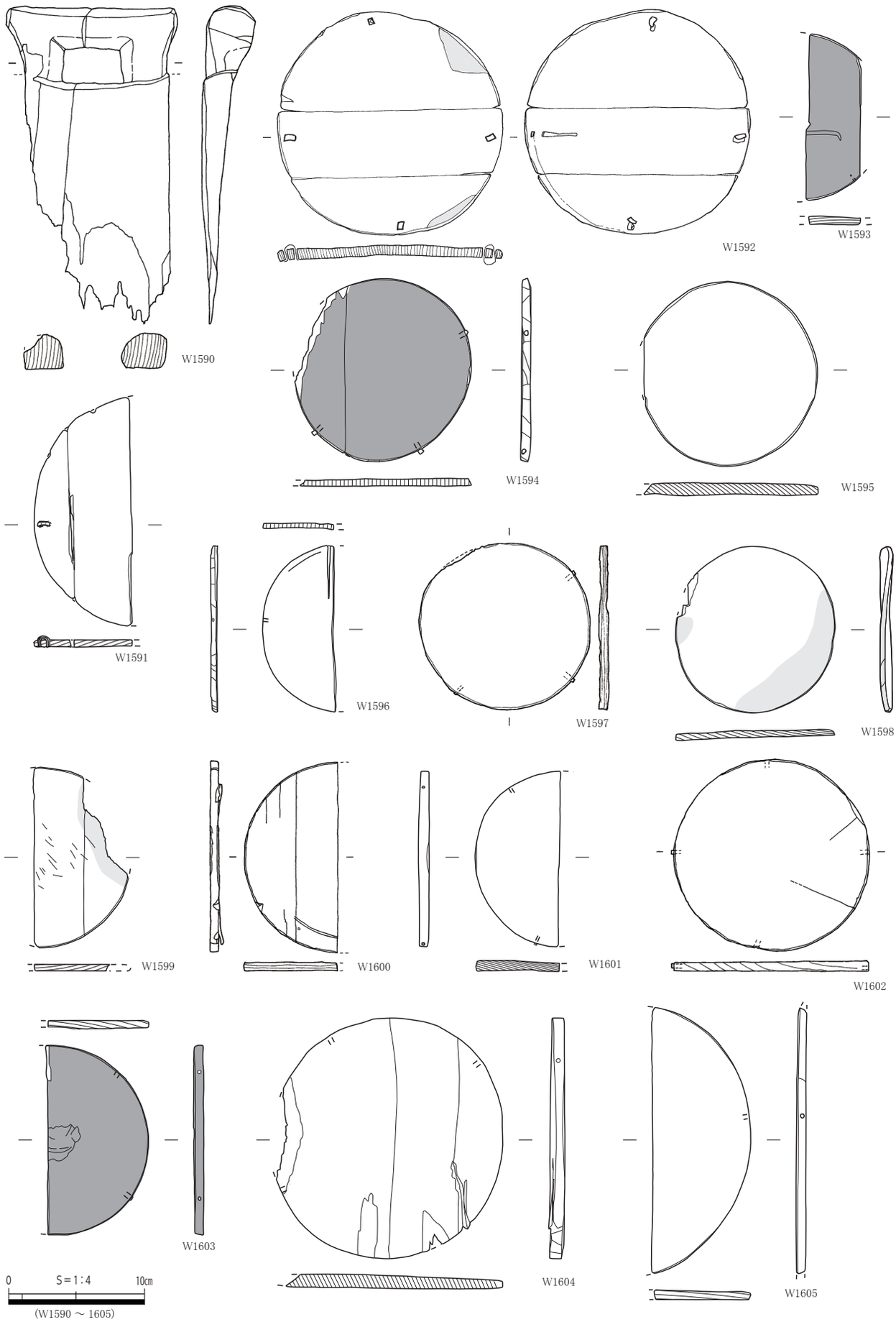
第618図　P11区出土木製品（１）



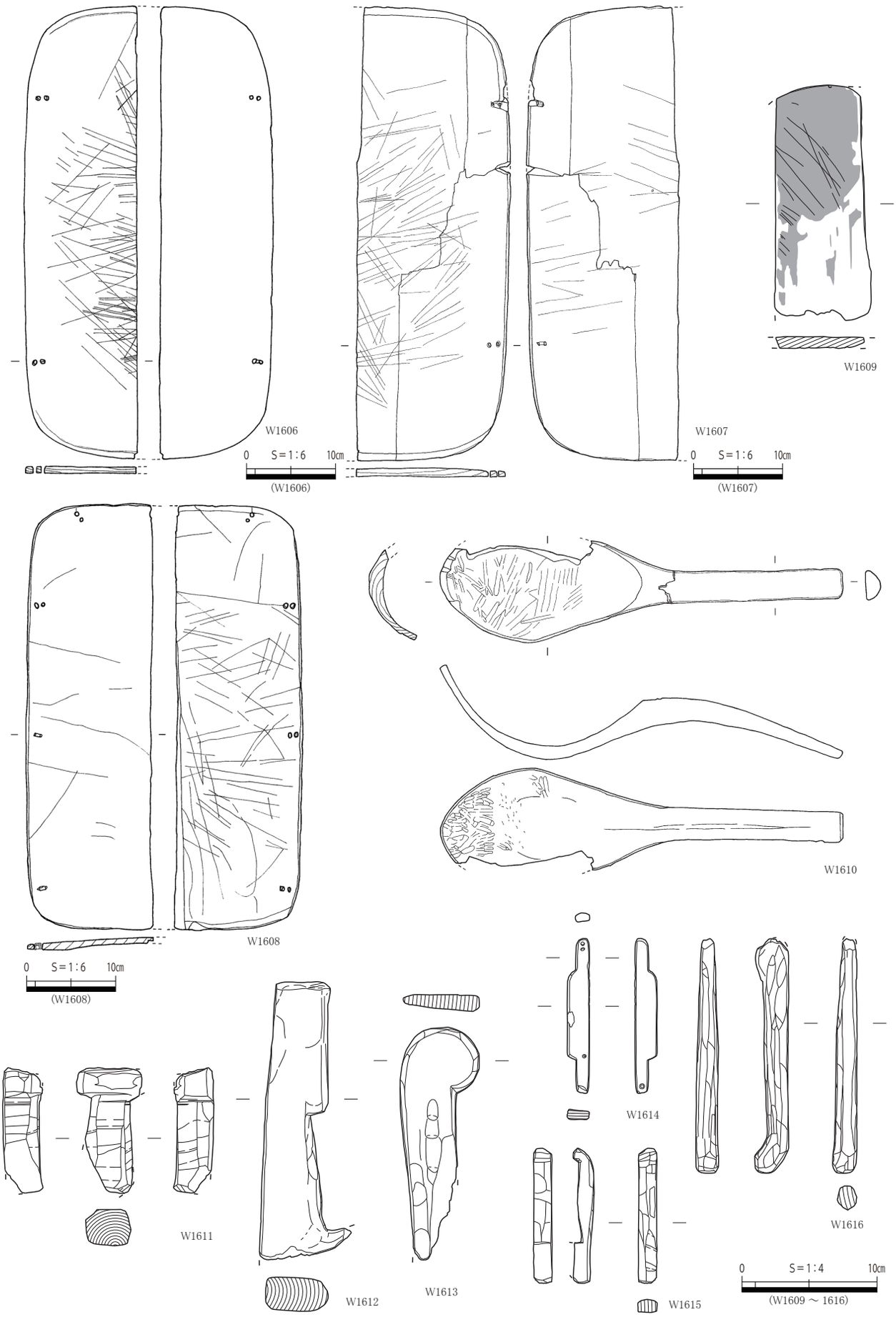
第619図　P11区出土木製品（２）



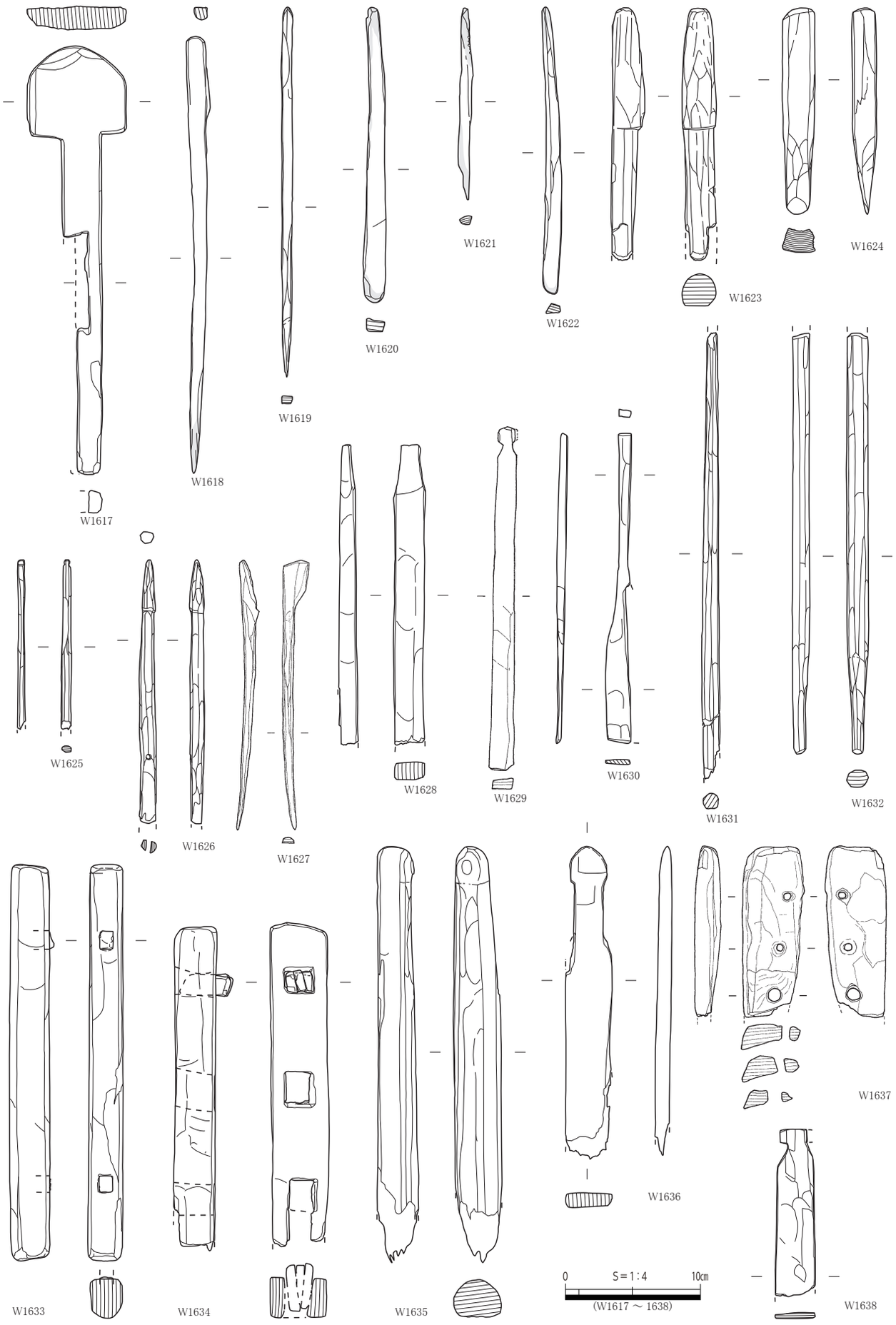
第620図　P11区出土木製品（３）



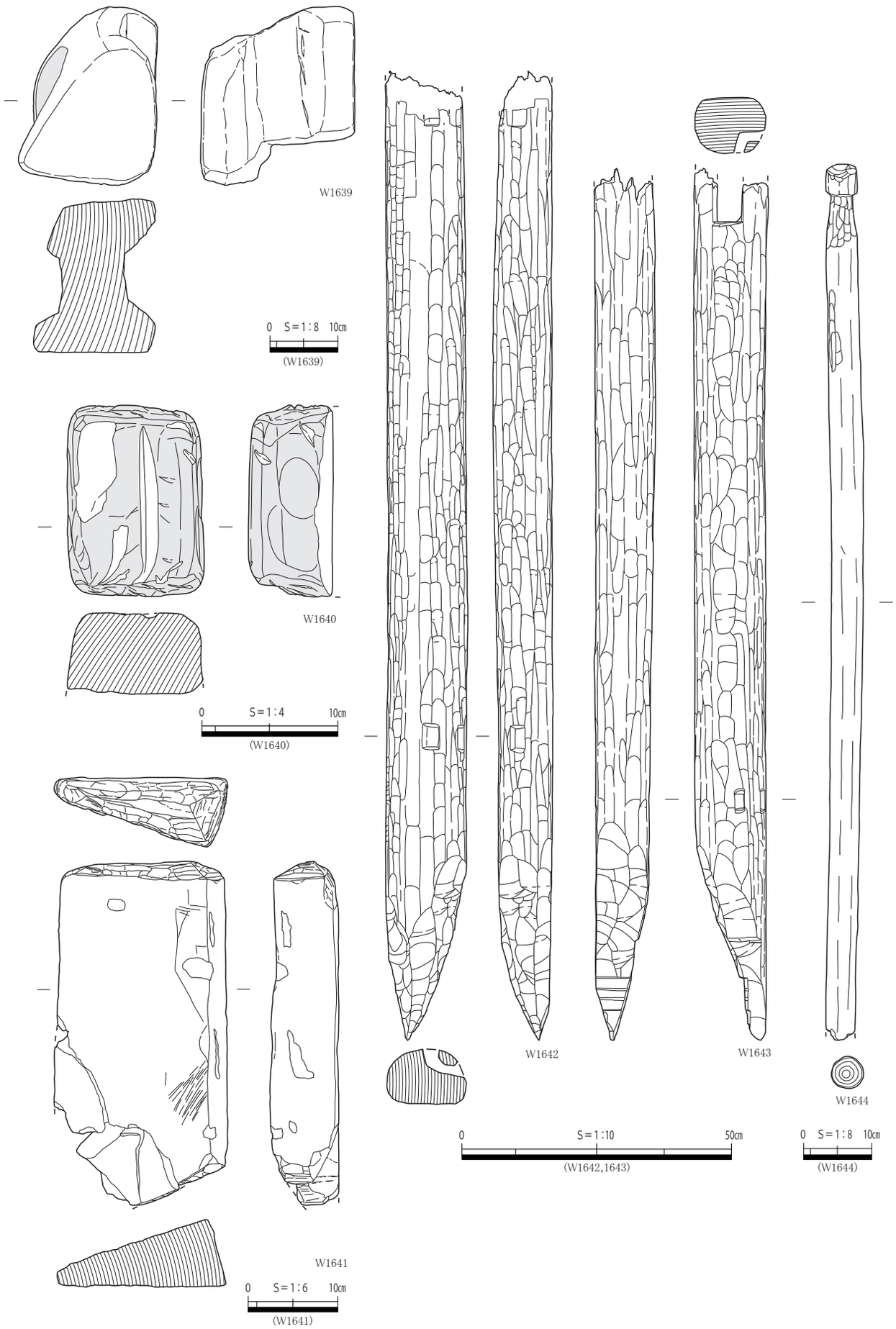
第621図　P11区出土木製品（４）



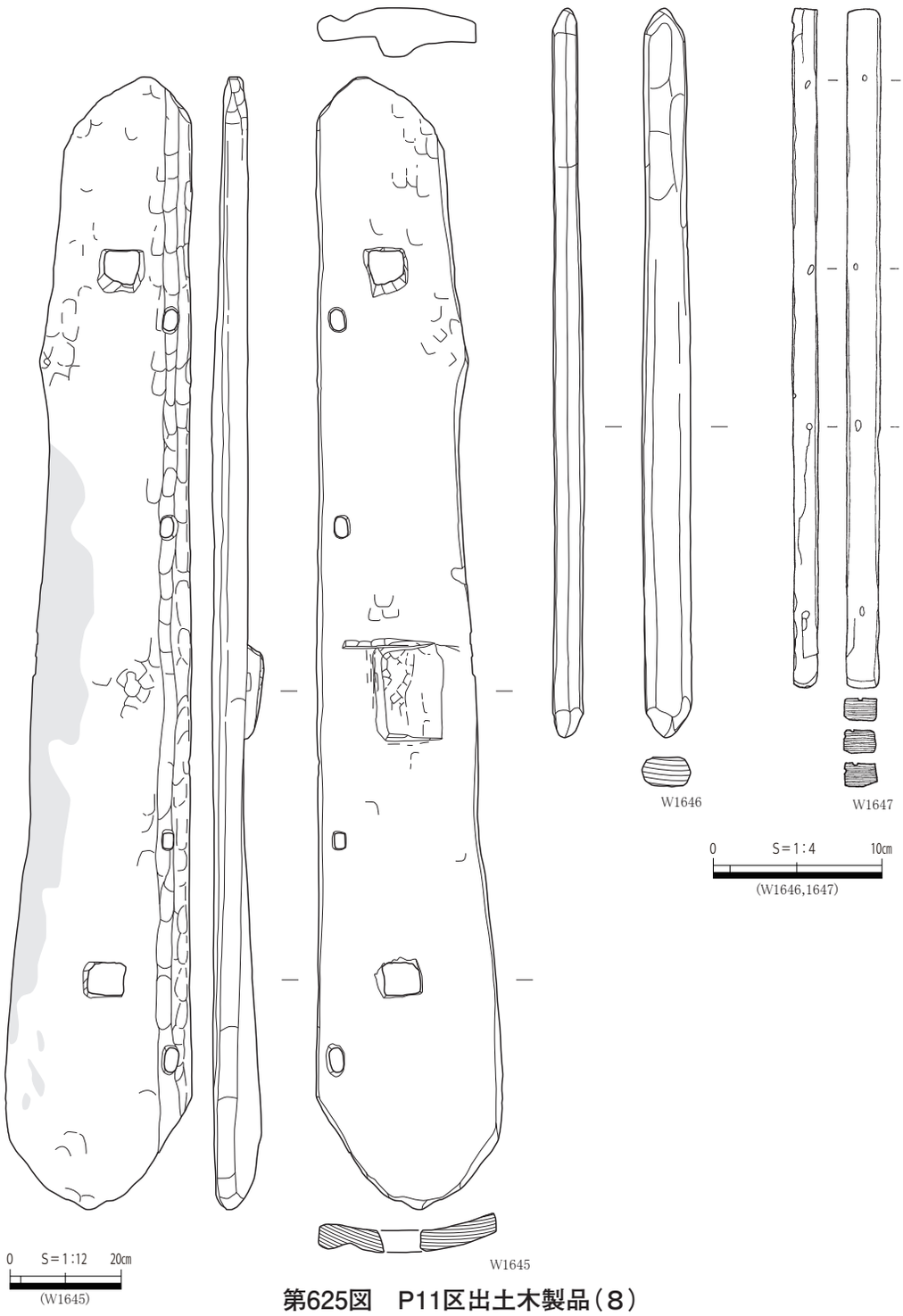
第622図　P11区出土木製品（５）



第623図　P11区出土木製品（６）

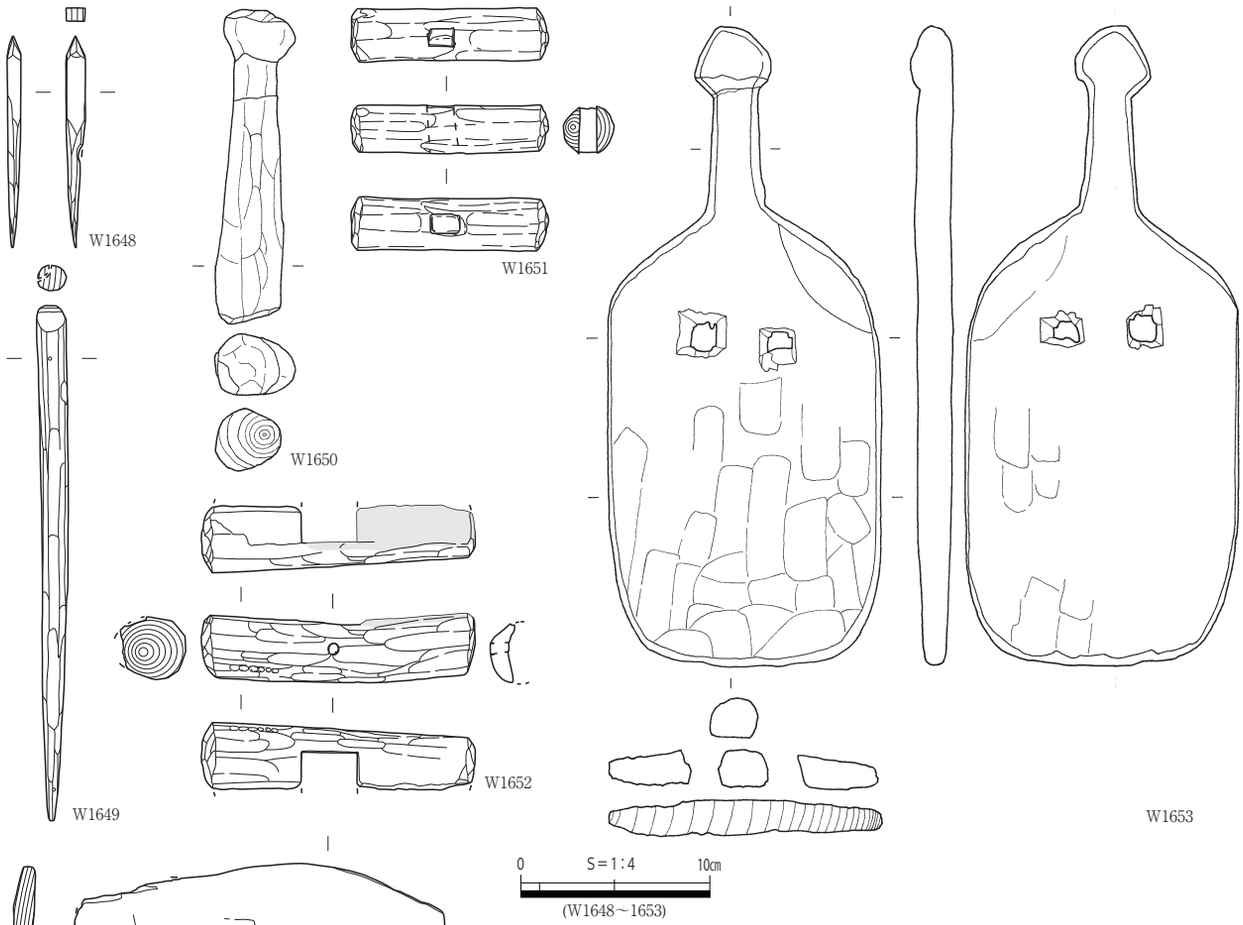


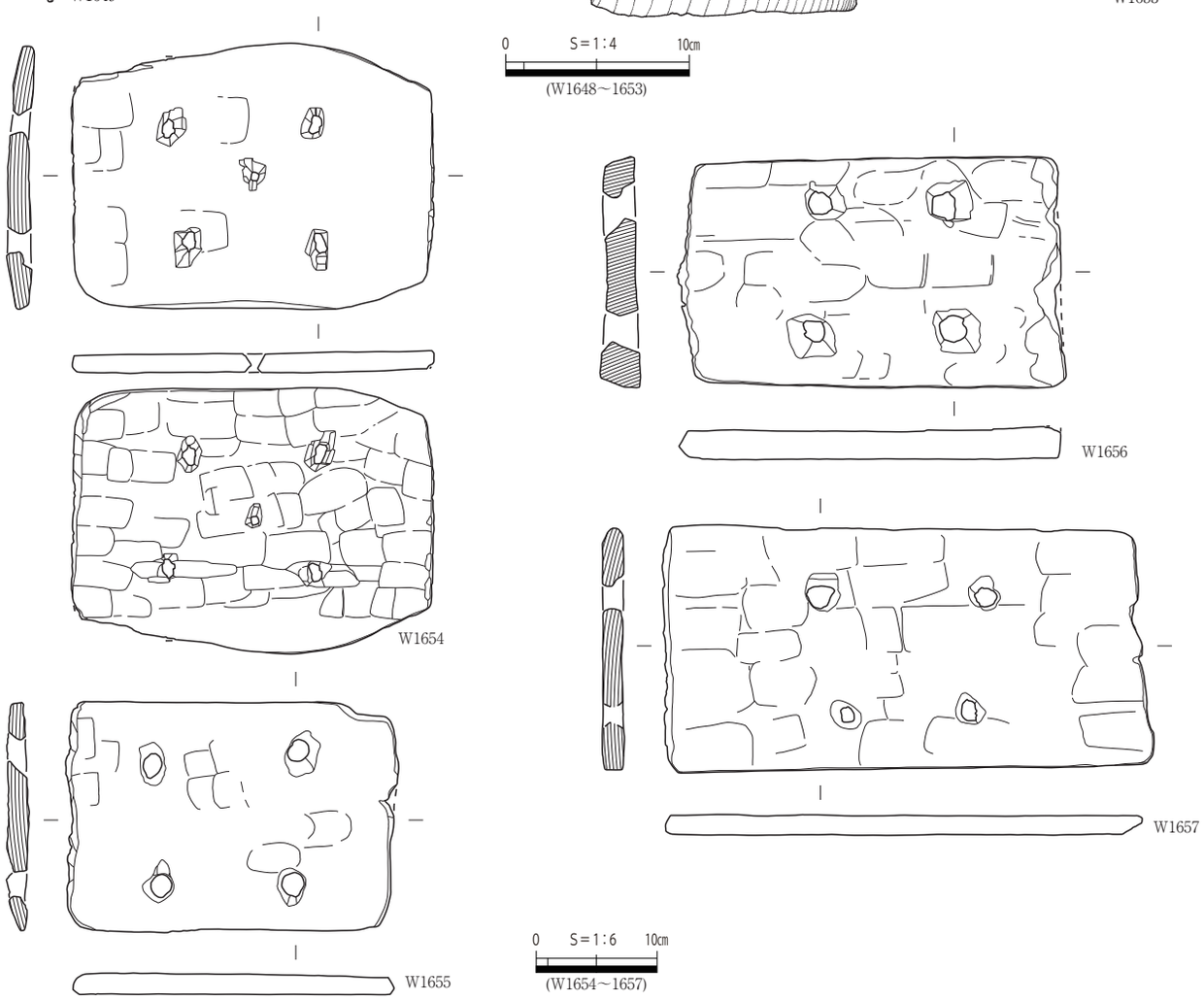
第624図　P11区出土木製品（7）



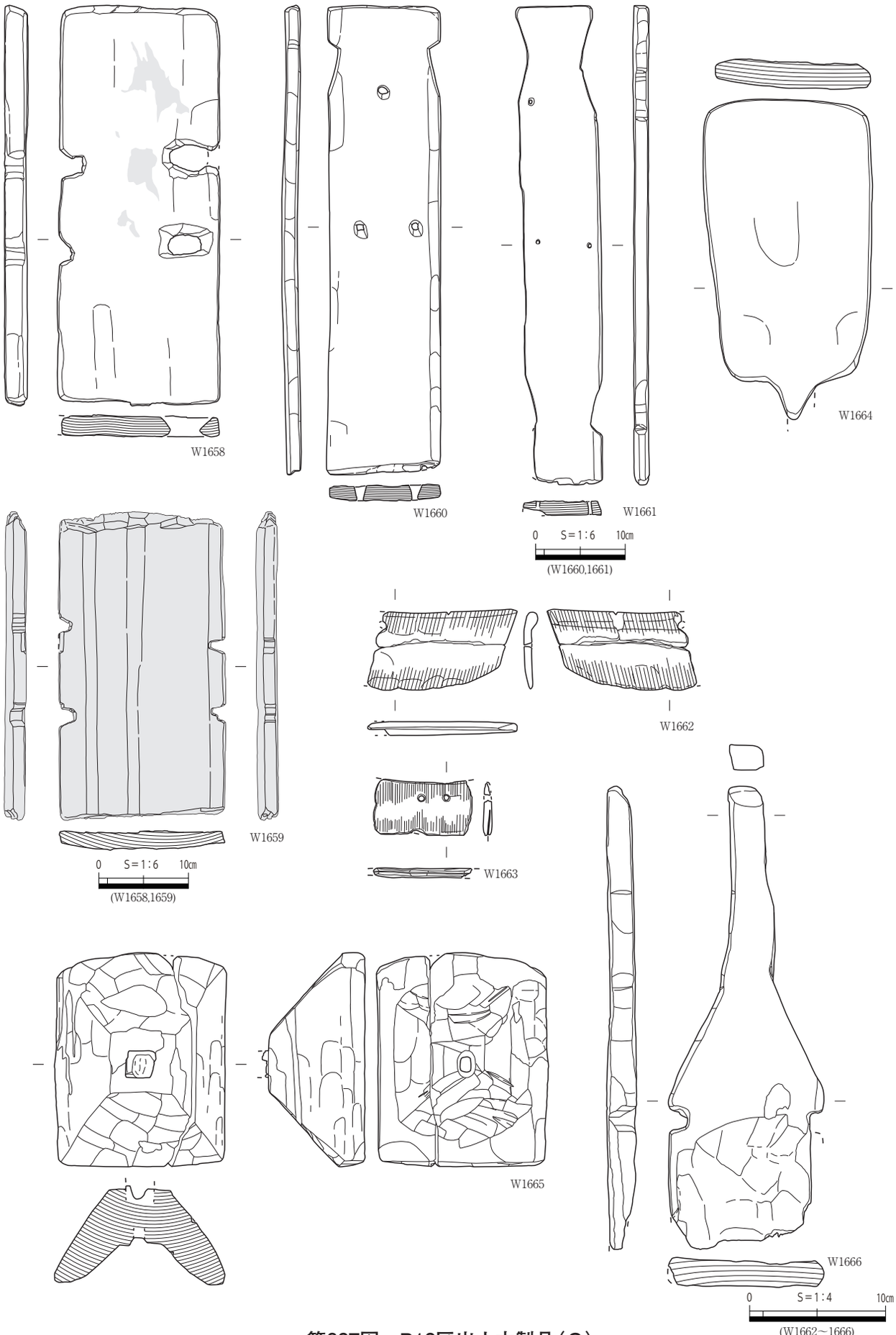
第625図　P11区出土木製品（８）

ある。上端部が有頭状を呈する。W1651､1652は鋤柄である。W1651には差し込まれた棒材が遺存し、W1652には柄を固定するための木釘が打ち込まれている。W1653は組合せ平鋤で、スギ製である。身は楕円形を呈し、上部中央に方形の孔が開けられるが、位置がややずれる。W1653 ～ 1658は板型田下駄の４孔式で、W1654は４孔以外に中央に１孔が開けられている。W1658は穿孔と抉りを組み合わせた資料である。W1660、1661は枠型田下駄で、W1660は前端のみに抉りがある。W1661は緒孔が左側部にかなり寄っている。W1662、1663は穂摘具で、W1663は鉄製の刃を挿入するタイプである。古墳時代の資料である。W1664は紡織具の経巻具の可能性がある。W1665は惴の台で、側面観は台形状を呈し、底面には刳り込みが入る。上面中央には1.8㎝角の方形孔を穿ち、挿入された柱材が遺存し

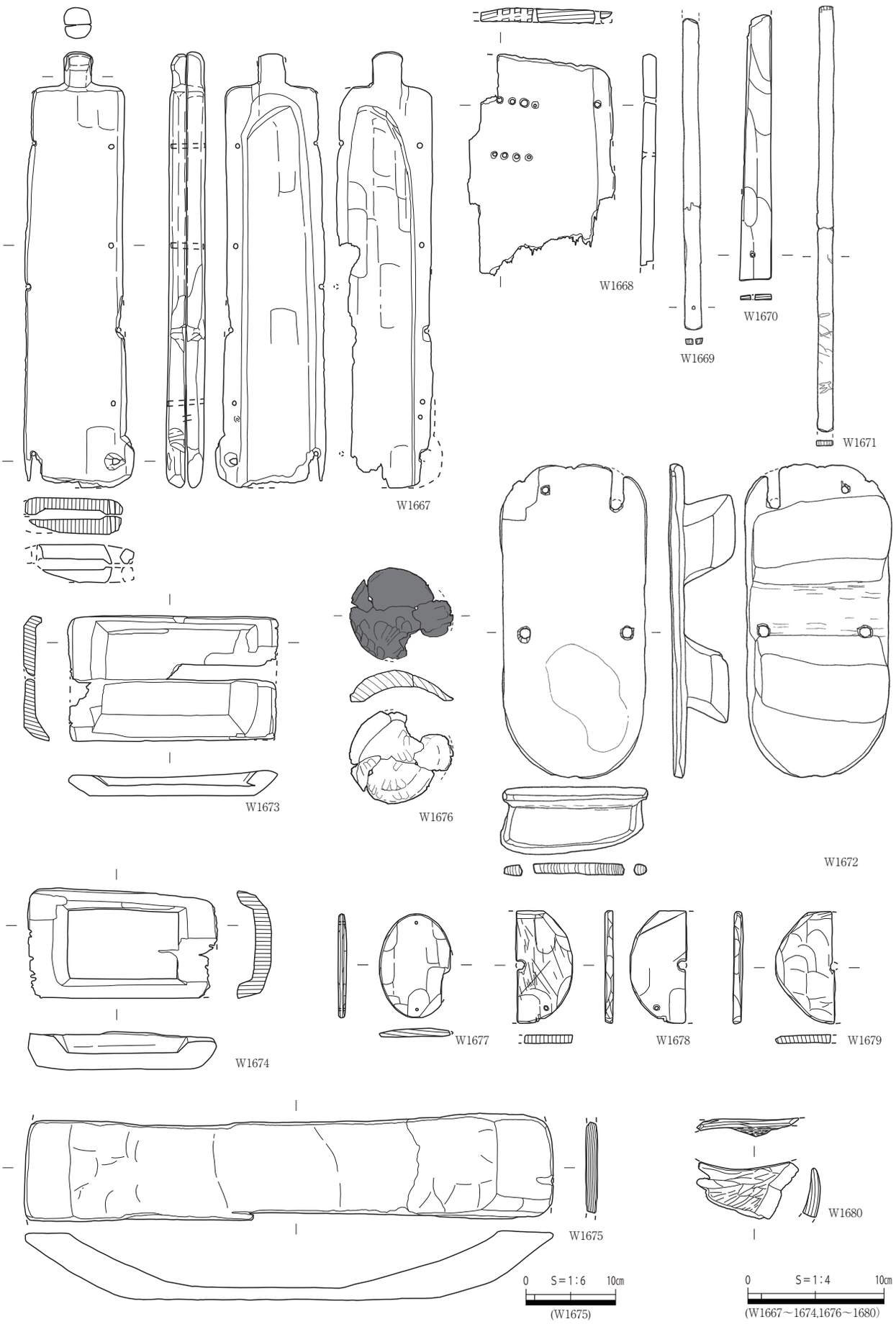




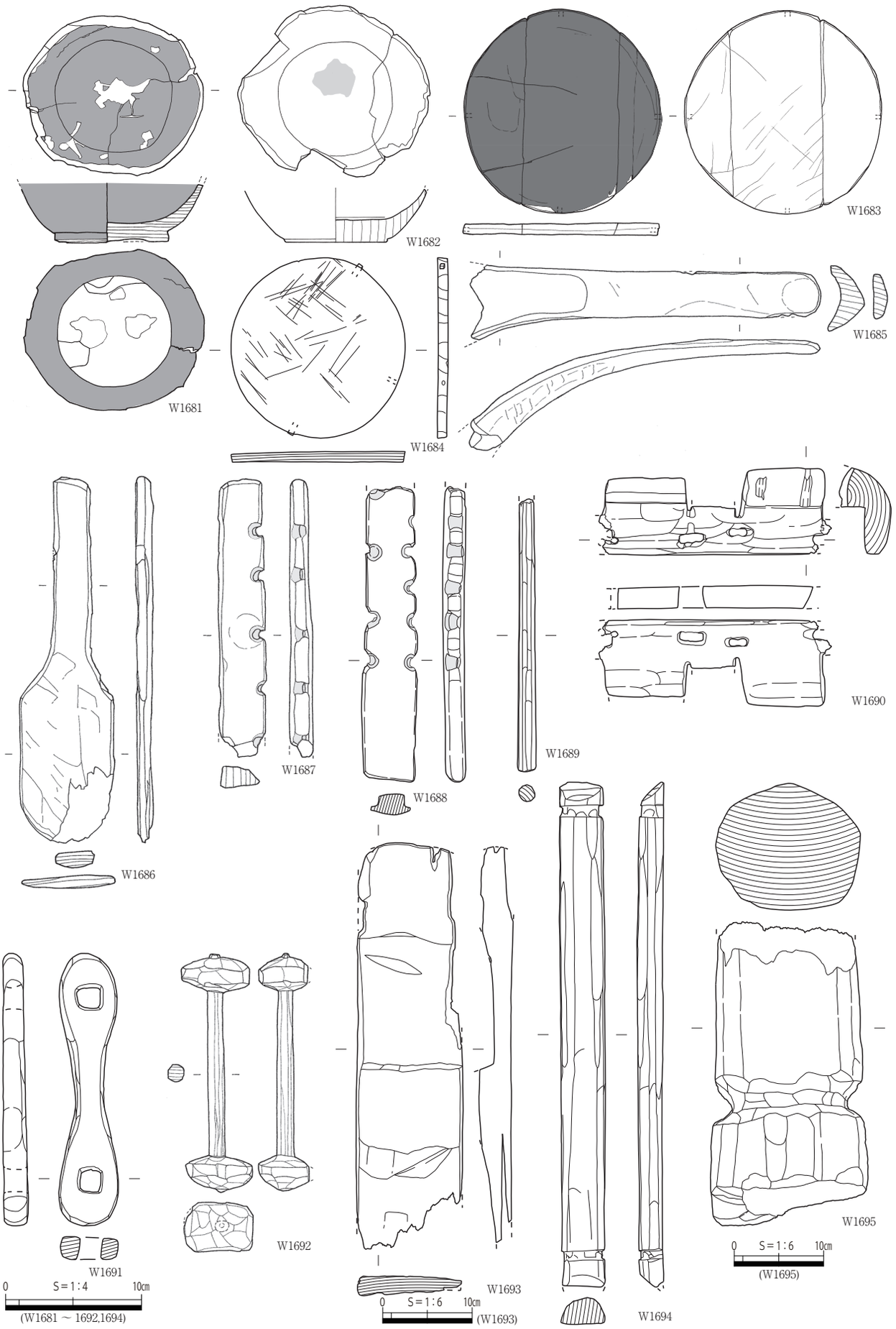
第626図　P12区出土木製品（１）



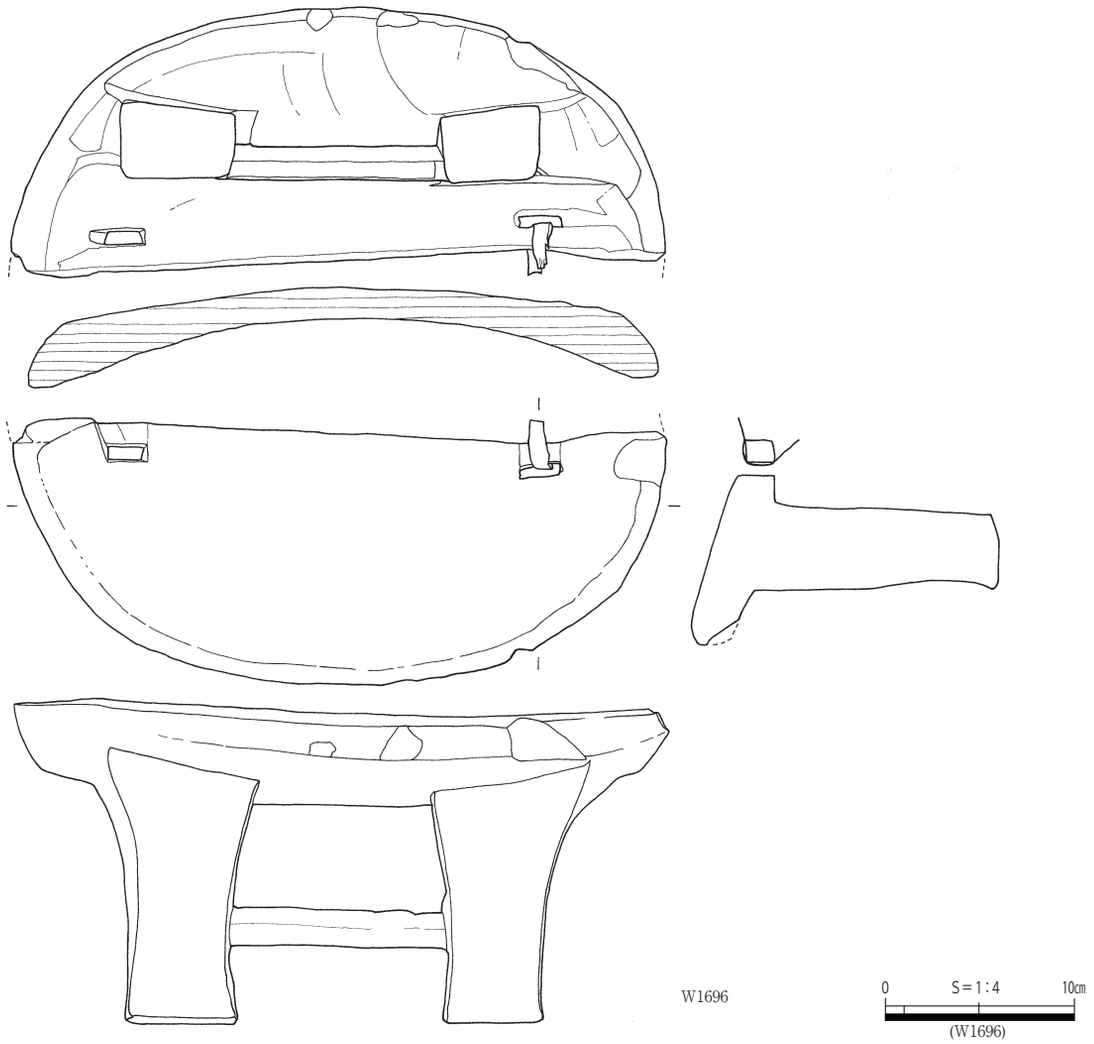
第627図　P12区出土木製品（２）



第628図　P12区出土木製品（３）



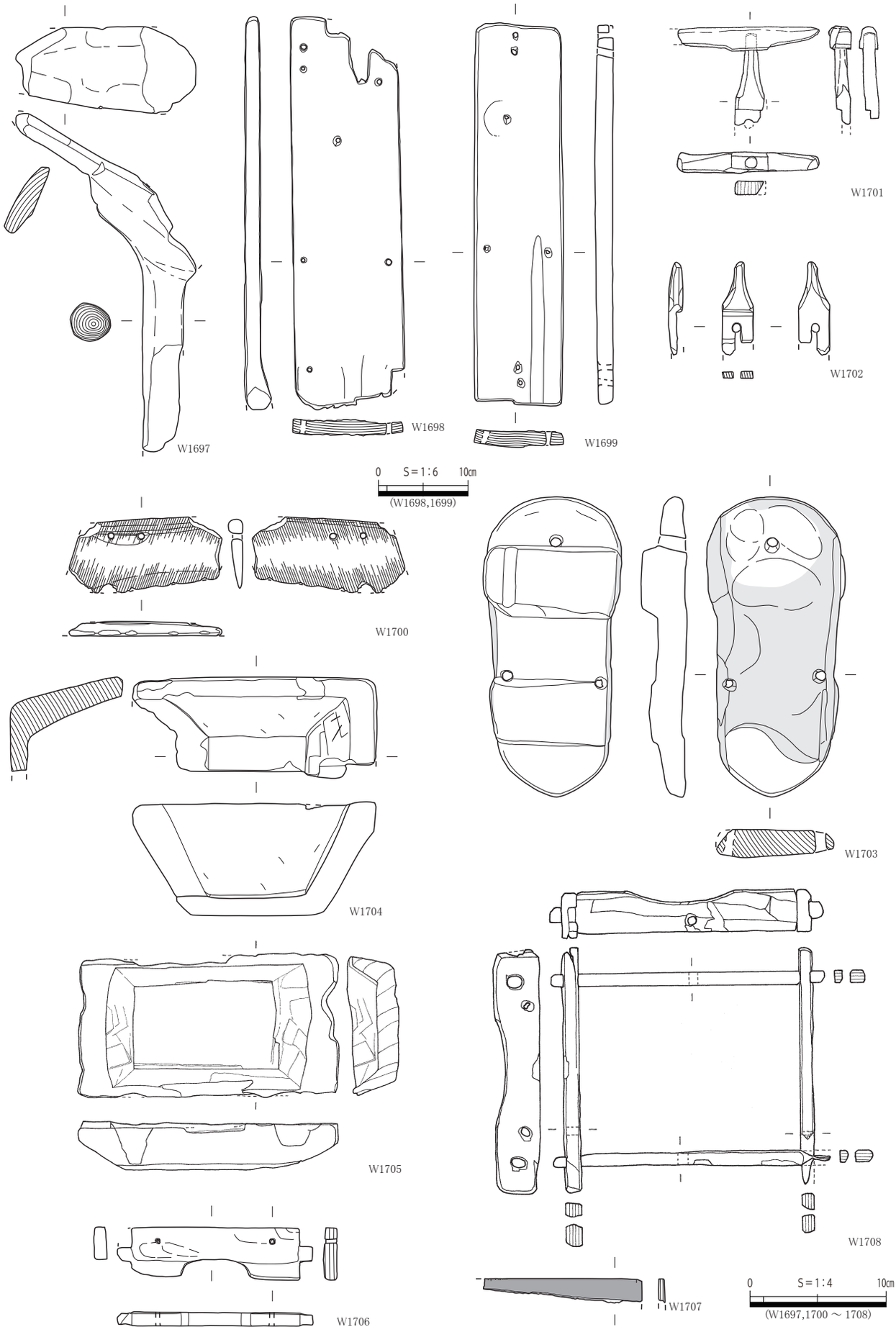
第629図　P12区出土木製品（４）



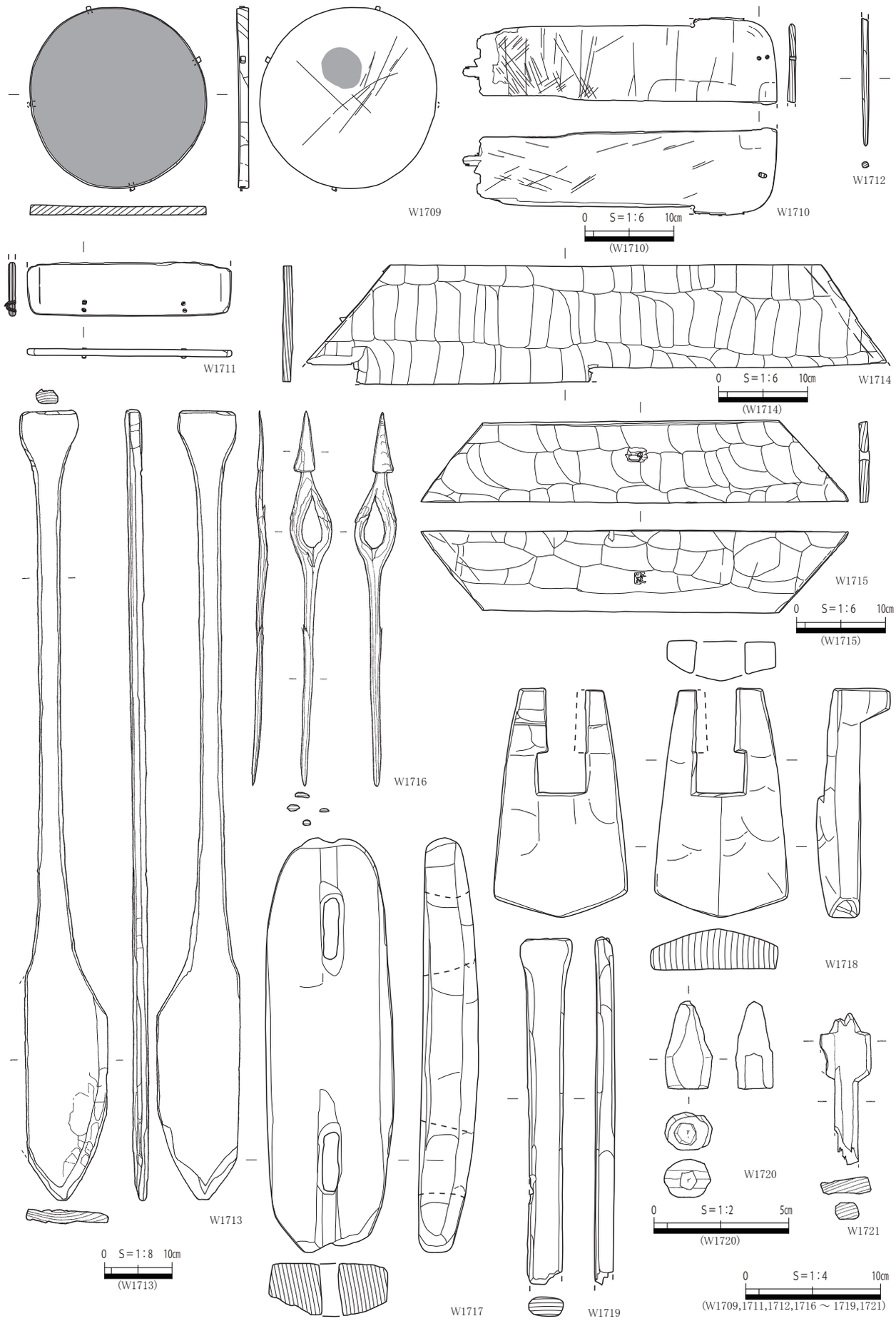
第630図　P12区出土木製品（５）

ている。この孔は底面側からみると、孔は一回り小さくなっており、柱の下端には枘が造り出されている可能性が高い。出土層位から古墳時代前期から後期の資料である。W1666はアカ取りとみられるが、他の資料に比べ枘が長い。身も浅く、身の上部側面に刳り込みがみられる。両側面や前内側面は別の部材を組み合わせる可能性もあり水以外のものを掬う用途を考えるべきであろうか。

W1667は刀の鞘で、佩表と佩裏が組み合った状態で出土している。佩表と佩裏は木釘で綴じ合わさり、端部に有頭状の枘をつくり出し、鞘尻装具をはめ込む。鞘口は腹側につくり出された突起部分に孔が開けられており、紐を通し把に固定したと考えられる。内面の刳り抜きは粗く、佩表裏で形状が異なる。W1668は盾で、４孔一対の紐綴じ孔がみられる。W1669 ～ 1671は檜扇で、W1670は本が方頭を呈し、末よりやや幅広となる。W1672は連歯下駄で、歯の残りが良く、使用頻度が低い。歯は台のやや内側からつくり出され、前後とも外開きぎみとなる。鼻緒孔の前壺が左右に開けられ、左右両足に使われている。台の裏面には後壺間に鼻緒の圧痕が残る。W1675は大型の槽とみられ、田舟の可能性もある。W1676 ～ 1678は蓋で、W1676は刳物の蓋で、ドーム形を呈する。W1677 ～ 1679は円形を呈する蓋板で、板の中心に孔が１カ所開けられている。W1681、1682は挽物の漆器椀で、前者がケヤキ製、後者がモクレン製である。いずれも高台内は刳り抜かない。W1685は匙の把手で、ヤマグワ



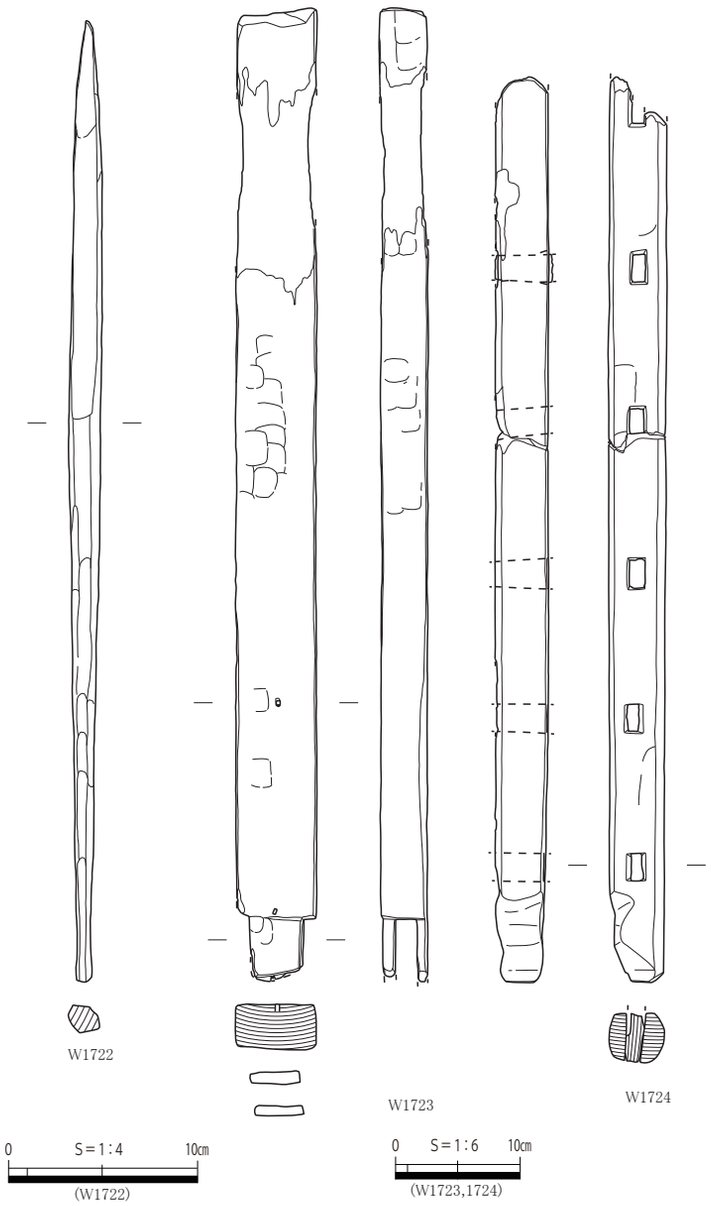
第631図　P13区出土木製品（１）



第632図　P13区出土木製品（２）

製である。精巧な大型品である。W1687、1688は火きり臼で、接合資料である。W1692は用途不明品で、一木でつくられ、精巧なつくりである。回転して機能する部材である。W1693は梯子、W1695は径17.5㎝の柱材で、下端には抉りが巡る。

W1696は腰掛けである。モミ製の精製品である。上面観は楕円形を呈し、座面は曲面をなす。高い脚を持ち、脚間が断面菱形の横材で繋がっている。座面の中央に方形孔が２孔みられ、樺皮紐が残る。孔は補修孔で、半分に割れた後、樺皮紐で緊縛することで補修されたと考えられる。補修後は強度が劣るため、腰掛け以外の用途も考える必要があろう。

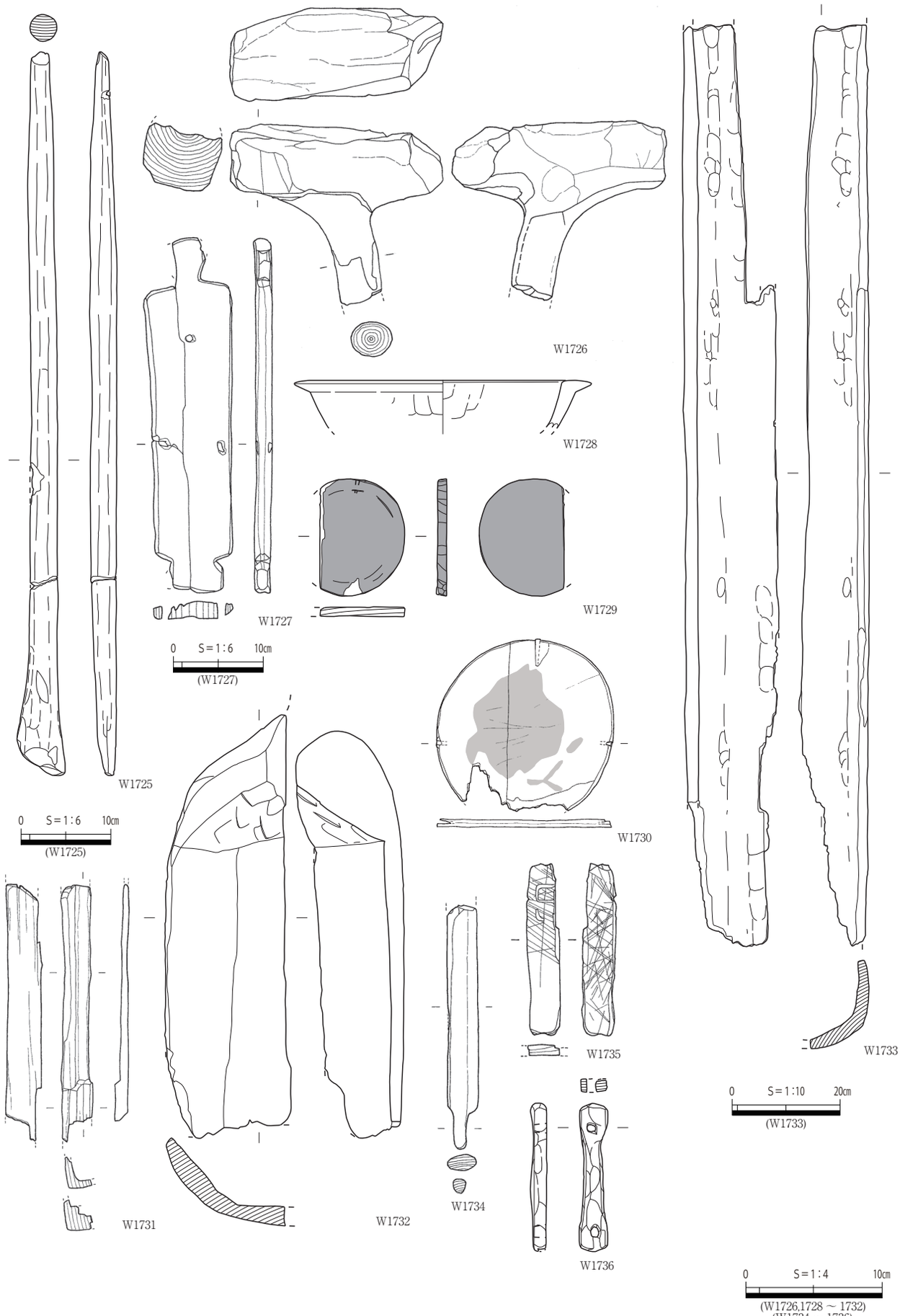


第633図　P13区出土木製品（３）

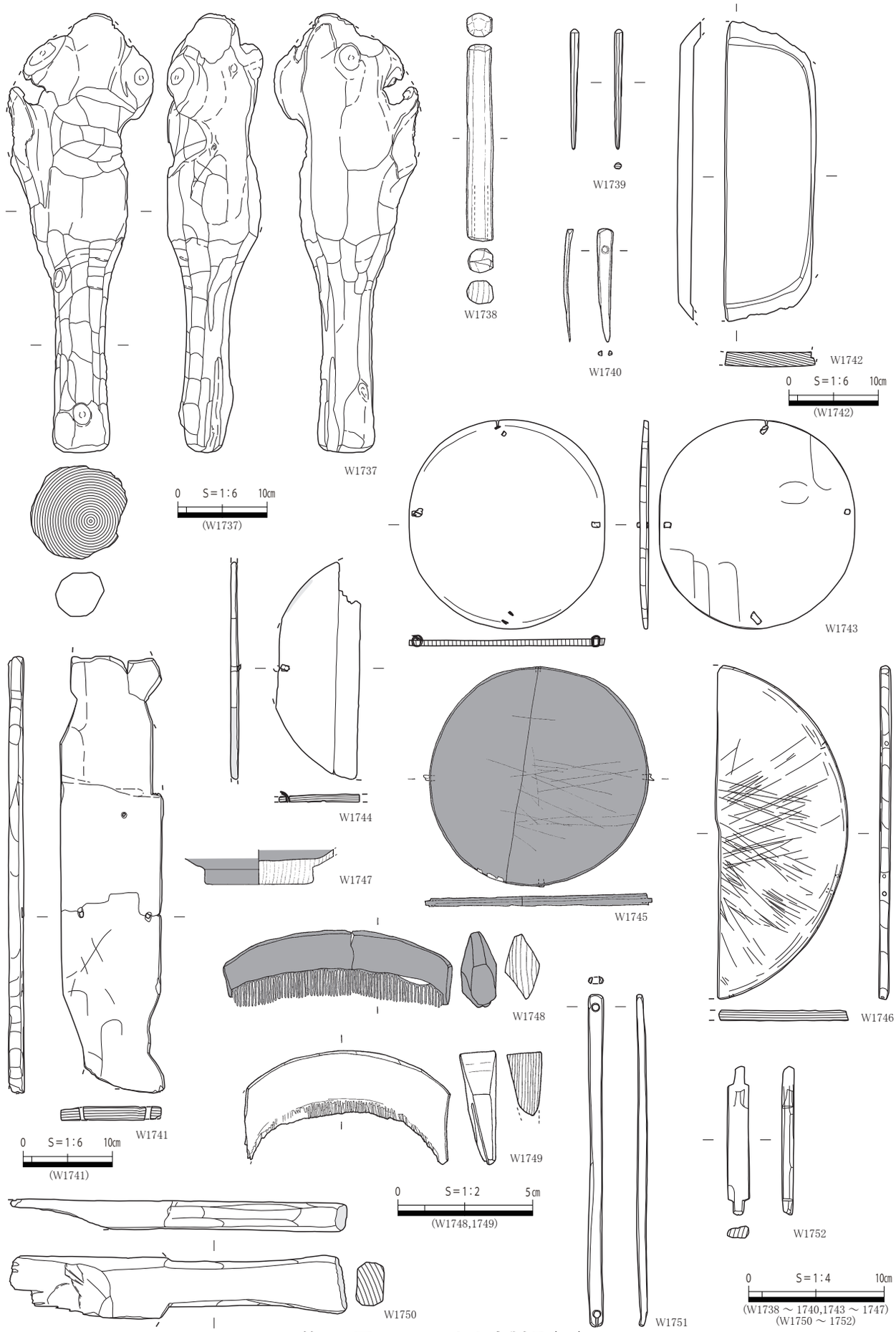
Ｐ13区出土木製品（第631 ～ 633図）

掲載資料はW1716が縄文時代晩期、W1697、1700、1713 ～ 1715、1722、1723が弥生～古墳時代、それ以外は古代の木製品である。

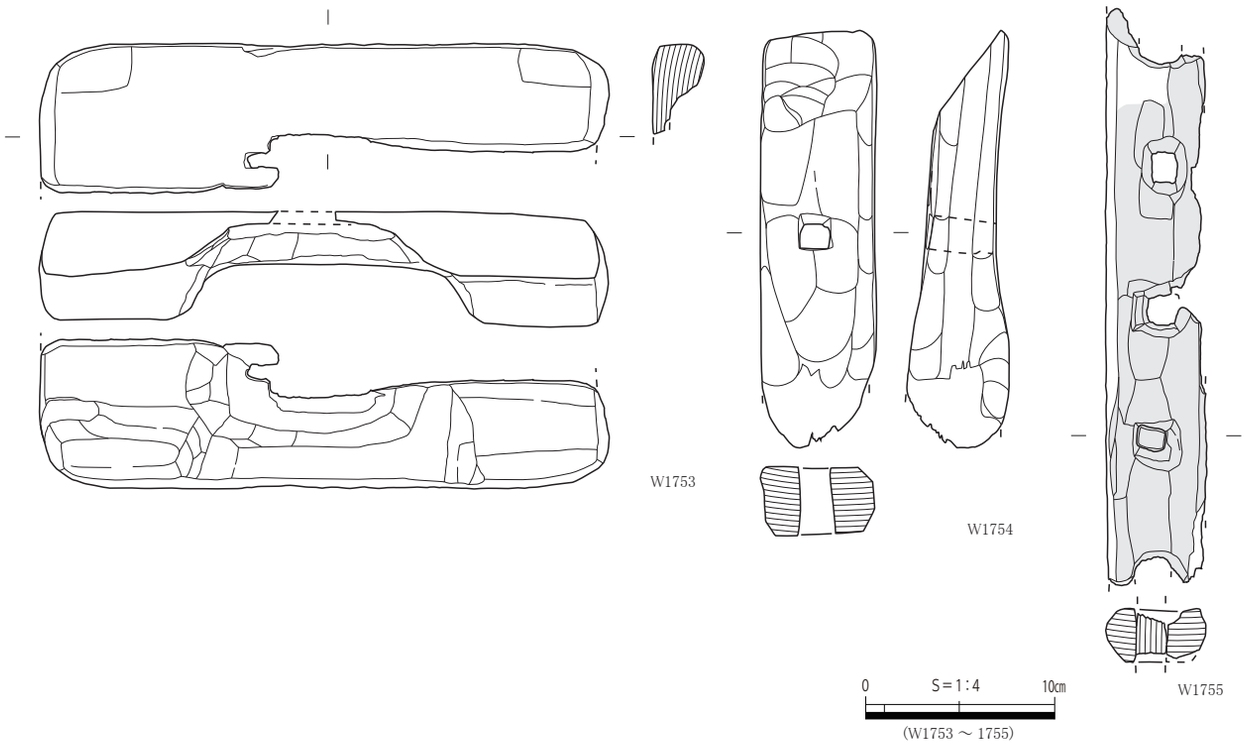
W1697は斧膝柄で、袋状鉄斧用である。斧台の後面は平滑であるが、前面に段を持つ。柄は欠損しているが、湾曲するものである可能性が高い。W1701、1702は糸枠で、W1701は枠木と横木が装着された状態で出土している。実測図は出土した状態で掲載したが、本来の位置からは90°ずれている。枠木は腹面に刳り込みを入れ、端部を尖らせる。W1703は連歯下駄で、鼻緒孔の前壺を中央に持つタイプである。足跡も明瞭で、右足用である。W1704 は刳物の鉢で、方形を呈する。底面積が小さく、側面観が逆台形を呈する。W1705は槽、もしくは盤で、つくりが粗い。W1706、1708は指物とみられ、W1708は４辺とも底辺をアーチ状に刳り込みを入れている。W1709は円形曲物で、内面は漆塗りである。釘結合で、釘孔が４カ所あり、いずれにも釘が遺存している。W1710、1711は方形曲物で、W1710 は本遺跡ではほんどみられない小型品である。W1713は櫂で、長さ1.18mのスギ製である。僅かに水かき部を欠いている。逆三角形の把手を持ち、水かき部の平面形は柳葉形で、周縁がやや尖る。W1714、1715は妻壁板で、別々に掲載したが、接合資料である。W1715がW1714の上部に接合する。W1715は棟に近い部分とみられ、中央には方形の孔が１カ所開けられている。斜辺の角度はW1714で58°である。W1716は用途不明品で、スギ製である。先端部が三角形を呈し、節を刳り抜き輪状に加工された部分がみられる。簪の可能性もあるが、粗製品である。W1722は槍状を呈するが、用途は不



第634図　P14区出土木製品



第635図　P15区出土木製品（１）



第636図　P15区出土木製品（２）

明である。W1723は建築部材で、下端に方形の貫通孔がみられ、下半部には木釘が１カ所打ち込まれている。

Ｐ14区出土木製品（第634図）

掲載資料はW1725、1726、1728、1733、1734が弥生～古墳時代、それ以外は古代の木製品である。

W1725は農工具の柄とみられるが、上下が逆の可能性もある。W1726は斧膝柄で、斧台はわずかに成形された程度であり、未成品である。W1727は枠型田下駄で、子ども用である。前端は突起部をつくり出し、突起部に抉りを入れている。W1728は高杯の杯部とみられ、口縁端部は鍔状に突出する。W1729、1730は釘結合の円形曲物で、W1729は表裏、側面とも漆塗りである。内面には周縁に刻線が巡る。W1733は丸木舟の舷側部分で、方形の孔が１カ所開けられている。W1735は曲物の破片とみられ、焼印が押されている。W1736は棒軸の両端を有頭状につくり出し、孔を穿つ部材である。一定の出土量があり、大小がある。

Ｐ15区出土木製品（第635 ～ 637図）

掲載資料はW1756が縄文時代晩期、W1737、1739、1750、1751、1754 ～ 1755が弥生～古墳時代、それ以外は古代の木製品である。

W1737は掛矢で、全長は49㎝である。粗製で、握りが断面多角形に整形される。使用による著しい凹みがみられる。W1738は刀子の柄で、断面六角形に整形される。断面三角形の茎孔が開けられている。W1739、1740は木針で、後者は基部に孔をもつ。W1743 ～ 1746は円形曲物である。W17423、1744が樺皮結合で、前者は板の円周を４等分して結合孔を配置する。W1745、1746は釘結合で、前者は釘孔を均等に４カ所に配置するが、後者は不均等である。W1748、1749は漆塗りの横櫛である。W1748はイスノキ製で、歯が66本を数える。断面形が柳葉形を呈する。W1749は背三日月状を呈し、W

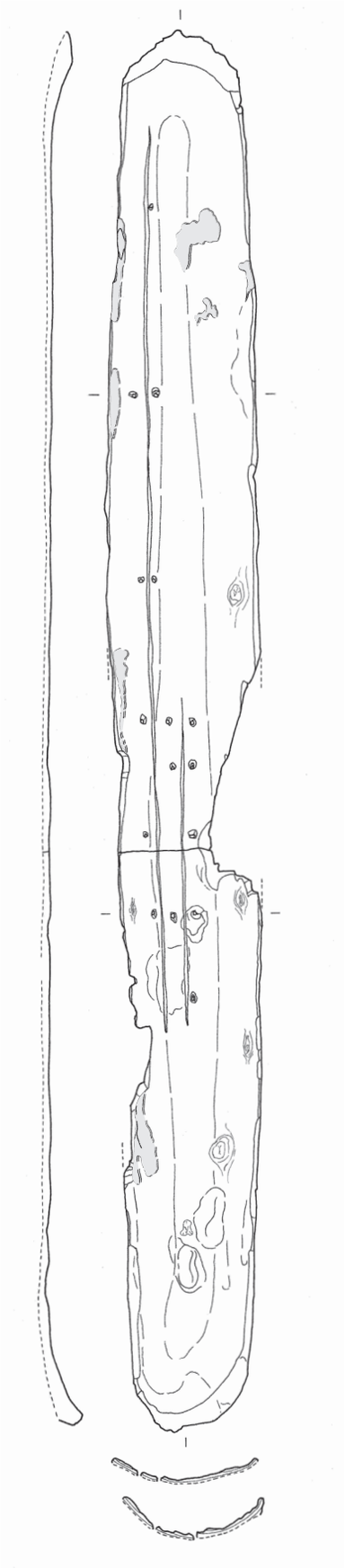
1748に比べ弧が強い。

W1756は縄文時代晩期の刳船で、いわゆる丸木舟である。スギ製である。全長は6.3mの一般的なサイズで、幅は68㎝、厚みは11㎝ほどで、比較的薄仕上げられている。船首と船尾の上面は破面となり、舷側の上面も細かな破面に覆われている。船首と船尾の識別はできない。船首と船尾は舷側に比べやや厚みがあり、船底の反り上がりは緩やかである。原木を半裁し、表面を焦がしながら刳り抜いており、所々に炭化した部分が残る。船底には割れが２列確認され、この割れ目の両側には２孔一対となる小孔が開けられている。このことから小孔は補修孔とみられ、船底の割れを樺皮紐等で緊縛し、補修したと考えられる。小孔１孔には有機物が詰まっている。

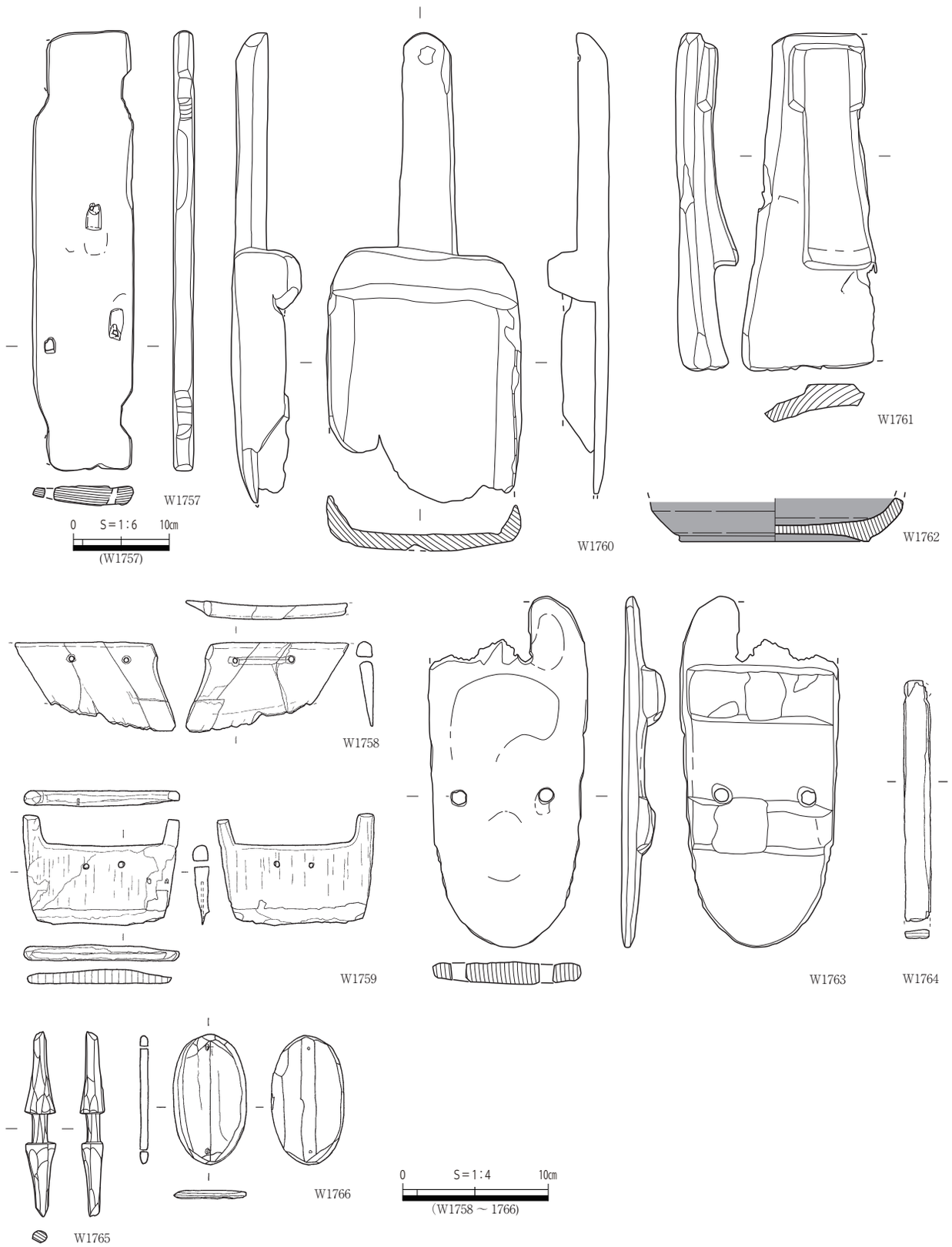
Ｐ16区出土木製品（第638図）

掲載資料はW1758を除き、古代の木製品である。

W1758、1759は穂摘具で、W1758は左側の側縁に僅かな抉りが施されている。W1759は鉄製の刃が装着された資料で、アカガシ製である。平面形はやや逆台形状で、２孔一対の紐孔を持ち、背の両端に角状の突起がある。時期は７世紀末から10世紀後半に収まる。鳥取市本高弓ノ木遺跡に古墳時代中期の類例がある。W1760はアカ取りで、外底面の延長で柄が延びるもので、柄がやや扁平となる。W1761は刳物の桶で、Ｔ字の把手がつくり出されている。W1762は挽物の漆器で、高台付きの椀である。高台は擬高台で、高台内が僅かに窪む。W1766は小判形を呈する小型の蓋板である。



第637図　Ｐ15区出土木製品（３）



第638図　P16区出土木製品

第４節　出土文字資料

第１項　木　簡

概　要

青谷横木遺跡では75点の木簡が見つかり、鳥取市の試掘調査分６点を含めると81点の木簡が出土している。これは山陰地方でも有数の出土数となっている。出土した遺構は、道路(23点)、道路１外盛土(12点)、条里・盛土(11点)、溝(２点)、旧河道(１点)であり、包含層(26点)を確認した。木簡の内容は多様であり、古代の地域史を検討するうえで重要な情報が得られている。詳細な検討については渡辺氏の論考を参照されたい(第７章第５節)。

出土文字資料の釈文と解釈は独立行政法人奈良文化財研究所史料研究室による調査指導と共同研究の成果に基づいている。樹種同定は木簡の状態を加味し、可能なものは薄切片プレパラートを作成し顕微鏡下での観察を行った。なお、釈文に加えた符号や木簡の形態を示す型式番号は『木簡研究』(木簡学会編)の記載様式、分類に準じた。釈文の漢字はおおむね現行常用字体に改め、異体字はマ(部)のみ使用した。記述は木簡番号と法量、型式番号、(樹種同定により判明したもののみ)樹種、木取りを記載し、次行に釈文をのせた。

一～五号木簡はＰ１区から出土している。一、二号木簡はⅣ層相当層からの出土である。Ⅳ層は出土した土器から10世紀代には堆積していたと推定されている。

一号木簡　(95)×33×９　(019型式)　スギ　板目

・「八月廿四日　　(合点)
　　□
・「(合点)□
　(合点)□

上端と左右はケズリ、下端部は切断された後に焼損している。オモテ面は八月廿四日の日付のあとに、合点が記される。二行目にも墨痕が確認できる。ウラ面は合点が二箇所確認できた。日付から書き出される帳簿状の木簡である。

二号木簡　　(191)×(14)×４　(081型式)　ヒノキ科　柾目

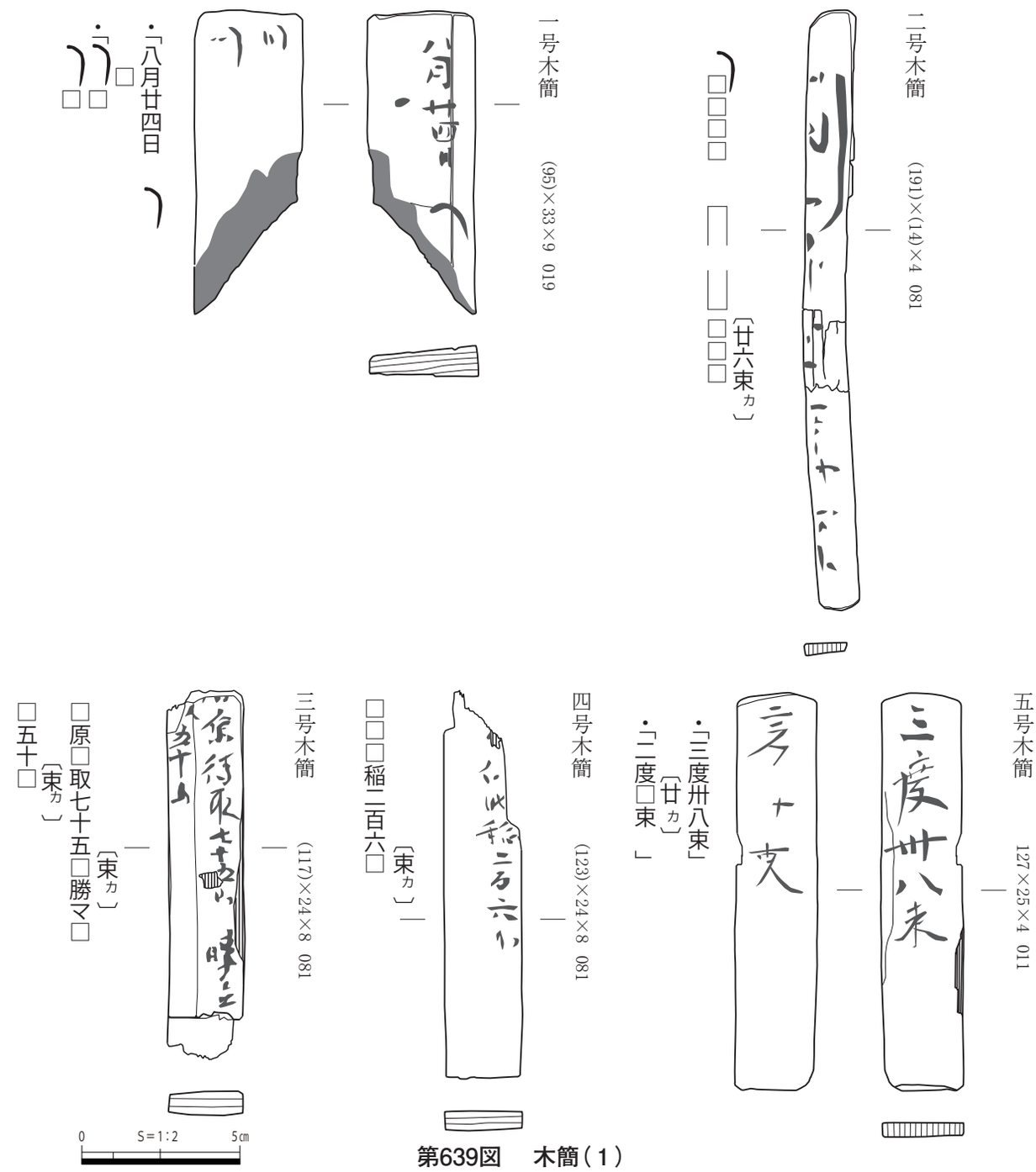
〔廿六束カ〕
(合点)□□□□□□□□□

上下両端は折れ。左右両辺も折れている。現状は「合点」から始まり、複数文字が確認できる。文字については判読できなかった。下の三文字は字形から「廿六束」の可能性がある。一号木簡と同様に合点を含んだ帳簿状の木簡と考えられる。

三、四号木簡は溝２から出土している。両者は木材が類似しており、本来一つの木簡であった可能性がある。

三号木簡　　(117)×24×８　　(081型式)　スギ　板目

〔束カ〕
□原□取七十五□勝マ□
〔束カ〕
□五十□



第639図　木簡（１）

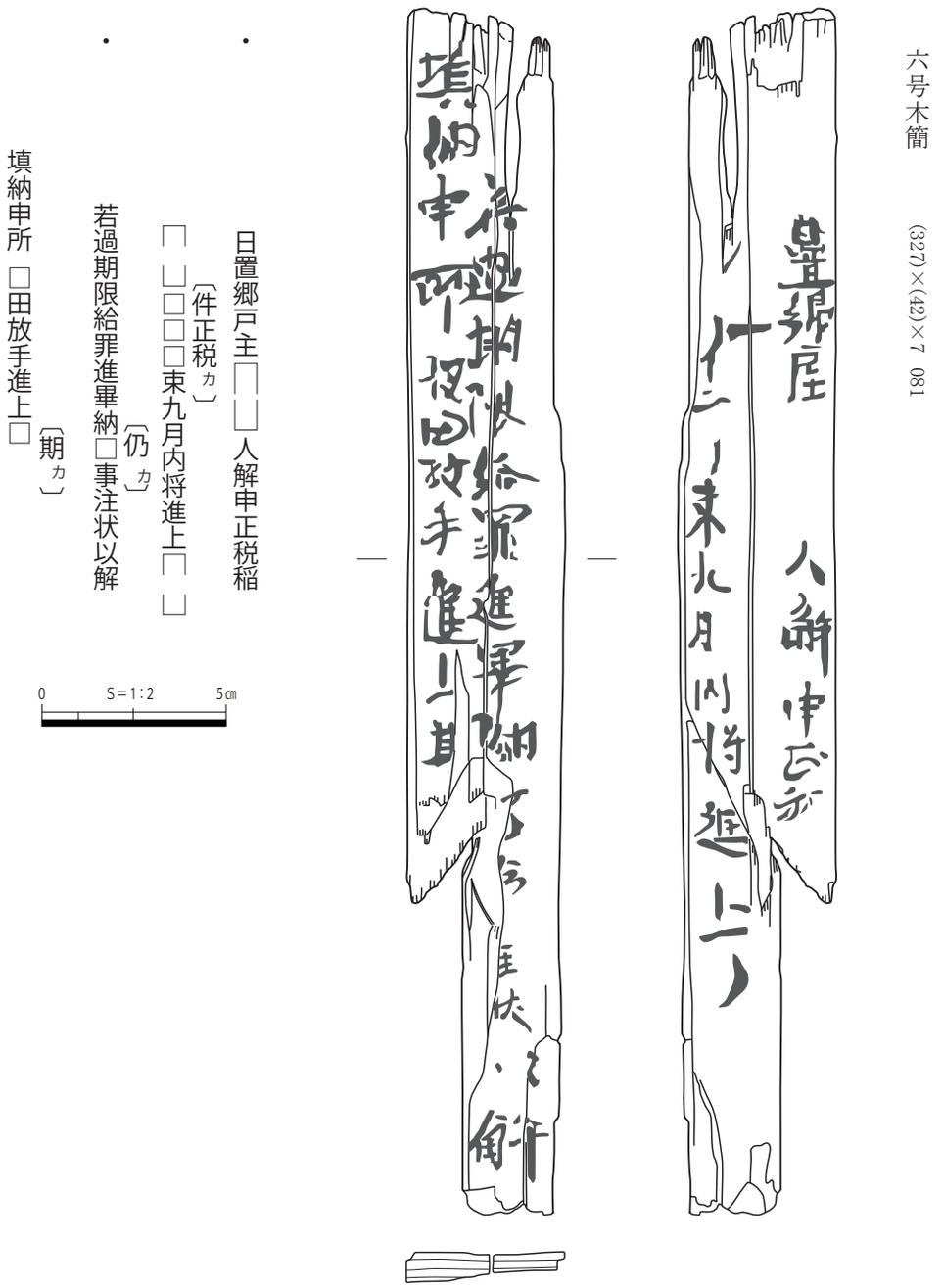
上端は折れ。下端は直線的な切り線が確認できることから、下端部は刃物を入れたのち折ったと考える。左右両辺はケズリ。表面には平面的に削った痕跡を留める。一行目の三文字目は「待」「得」といった文字が考えられるが判読できない。一行目の「七十五」、二行目の「五十」の数詞のあとは「束」の可能性がある。

四号木簡　（123）×24×８　（081型式）　スギ　板目

〔束カ〕

□□□稲二百六□

上下両端とも折れ、右辺上部の一部を欠損している。左辺はケズリ。「稲」の上三文字は木材が欠損しており判読できない。「二百六」の後は「束」の可能性がある。三号木簡と同様に稲の数量を記載した記録とみられる。



第640図　木簡（２）

五号木簡　127×25×４　（011型式）　スギ　柾目

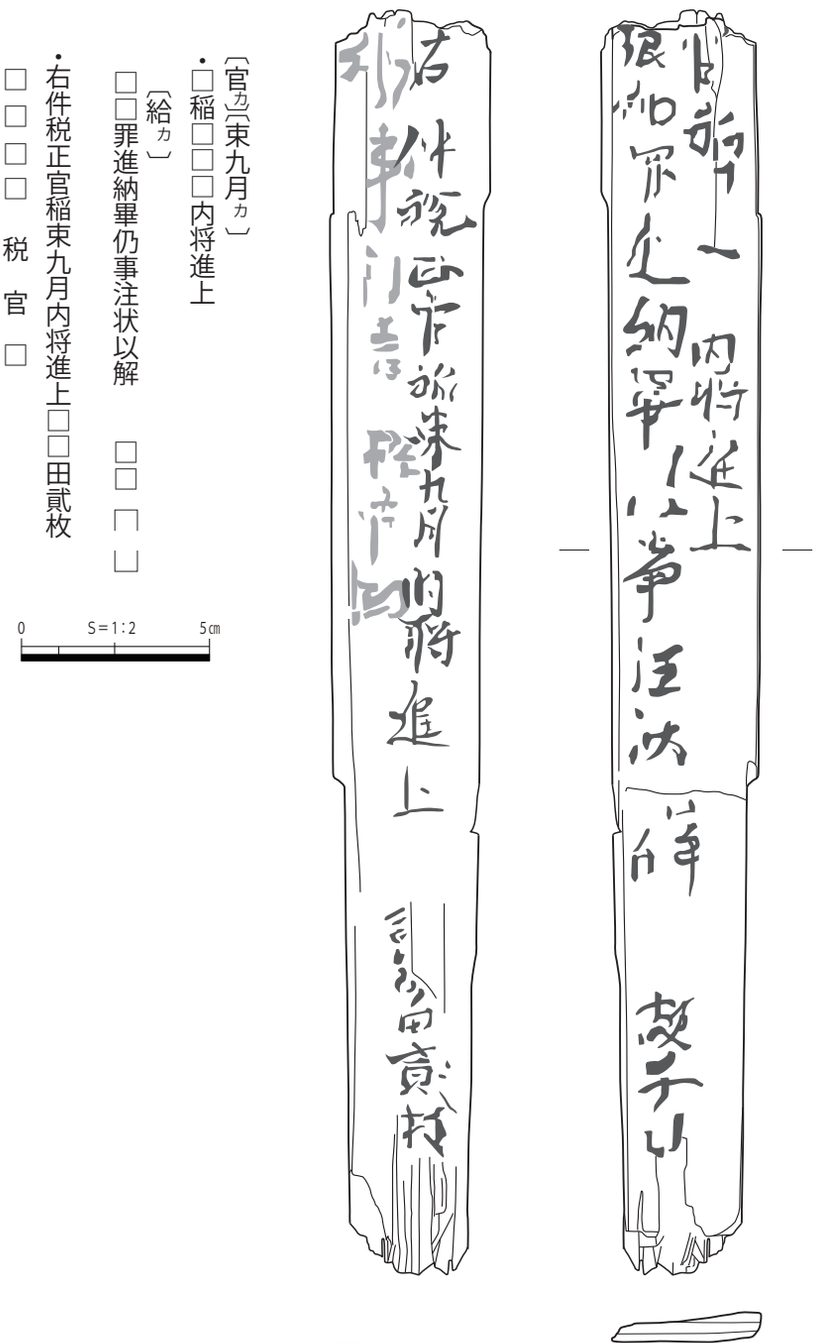
・「三度卅八束」

〔廿カ〕

・「二度□束　」

Ⅳ層相当層下層から出土した。Ⅳ層相当層下層は８世紀代と推定されている。四周は削り、上端は左右から削る。表面の「卅八束」は稲の数量、裏面の三文字目は「廿」の可能性があり、これも数量を示すと考えられる。「度」は収穫・収納などに関連する次数を示すと考えられる。

六～一四号木簡は10区から出土した。六号、七号木簡は10区の条里２から出土している。条里２の年代は８世紀から10世紀頃とやや幅がある。



第641図　木簡（３）

六号木簡　（327）×（42）×７　（081型式）　スギ　板目

・　日置郷戸主□　□人解申正税稲

〔件正税カ〕

□　□□□□束九月内将進上□　□

〔仍カ〕

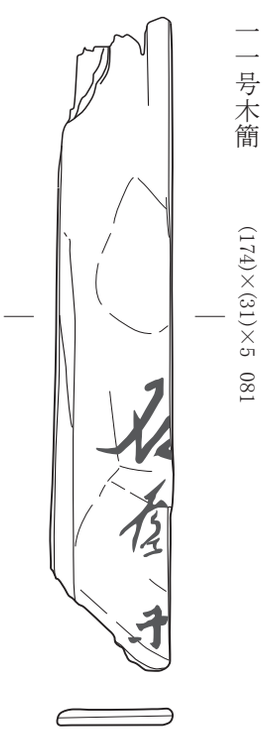
・　若過期限給罪進畢納□事注状以解

〔期カ〕

填納申所□田放手進上□

上端、下端ともに折れ。左右両辺は割れている。右辺の下部を欠損する。墨書の残存も良好ではない。オモテとウラについては決めがたいが、「日置郷戸主」と記された面をオモテとし、これに準じ

第642図　木簡（４）



てウラ面も決定した。「日置郷戸主」が提出する「解」の書式として記している。「正税」は郡家に設けられた正倉に収納される官稲の一つで、出挙の元手となるイネである。その進上とは出挙の元利の返納を指すとみられる。裏面一行目では（返納の）期限を過ぎた場合は罪を給わること、二行目では「填納」、「田放手進上」から（耕作する）田を手放し補填して進上する事が記される。

七号木簡　（234）×43×７　（081型式）　スギ　板目

〔官カ〕〔束九月カ〕

・□稲□□□内将進上

〔給カ〕

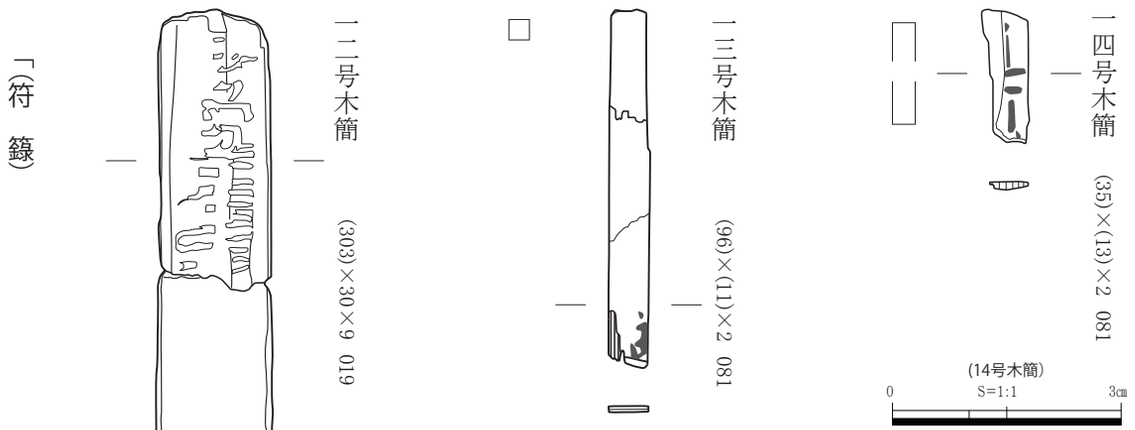
□□罪進納畢仍事注状解　　□□匚冂

・右件税正官稲束九月内将進上□□田貳枚

□　□　□　□　税　官　□

上下両端ともに折れ、左右両辺も割れている。オモテ面の一文字目は「官」の可能性がある。二文字目以降の三字は表面が荒れており、詳細な観察ができない。ウラ面の「税正」は「正税」の転倒であろう。

六号木簡と七号木簡は同一の遺構から出土し、木材の状況からみて同一木簡の断片である可能性がある。その場合の位置関係について明確にはし得ないが、原形は地方木簡に多い二尺の長さ持つ木簡であった可能性がある。記載から実際に使用する木簡ではなく、下書きあるいは習書したものであ



第643図　木簡（５）

る可能性が高い。内容は正税出挙の返納に関する念書に相当するもので、出挙事務手続きの実態について示唆的である。

八～一四号木簡は10区のⅣ層から出土している。

八号木簡　（153）×（16）×５　（081型式）　スギ　板目

〔界カ〕

・□人□□无上三□　」

・□无量□聖　　」

上端は折れ、下端は削りである。左辺は割れており、右辺は削りである。表面には平面的に削っており、斜めに筋状の痕跡が残る。「无上三」の下は、「界」の可能性がある。上の一文字目と三、四文字目は墨痕が残るものの判読はできない。記載から仏教関連の内容とみられる。

九号木簡　200×32×８　（033型式）スギ　板目

「＜黒稲一石」

10区のⅣ層から出土している。上部左辺を欠損する。上端の左右に切り込みをもつ。左右両辺は削りで下端は尖らせる。「黒稲」の付札木簡である。「黒稲」の数量は「一石」で表されている。本遺跡で類例の多い種子札と考える。

一〇号木簡　（117）×（32）×５　（081型式）　スギ　板目

〔納カ〕

□期限過由□

上端、下端は折れている。左辺は割れ、右辺は削りである。墨書は楷書の丁寧な文字でやや大ぶりに書かれる。何らかの期限に関連する内容の文書木簡であった可能性が高い。

一一号木簡　（174）×（31）×５　（081型式）　スギ　板目

石□□

上下端ともに折れている。右辺は割れで、左辺は削りである。表面は平面的に削った痕跡を留める。三文字分を確認した。右辺を大きく欠損するため、内容については不明である。一文字目は石と理解したが、二文字目、三文字目は判然としなかった。

一二号木簡　（303）×30×９　（019型式）　スギ　板目

「（符籙）

上端は方頭状を呈する。下端は折れて欠損している。左右両辺は削り。墨痕は残っておらず、浮き上がりにて確認できる。符籙が記されていたようで、呪符木簡と推定される。

一三号木簡　（96）×（11）×２　（081型式）　板目

□

上下両端は折れ、左右両辺が割れである。木材の下端右側に墨痕が確認できた。文字は判読できなかった。

一四号木簡　（35）×（13）×２　（081型式）　ヒノキ科　柾目

□　□

本木簡は元々の木簡から剝離したような状態である。小破片であることから字数や文字の判読はできなかった。

一五号木簡　（149）×35×５　（081型式）　スギ　板目

〔比カ〕

嶋□子三月廿三日

８区のⅣ層から出土している。上端は欠損している。下端は二次的に切断している。左右両辺は削りである。表面には平面的に削っている。二文字目は「比」あるいは「丸」の可能性がある。「三月」の「三」の字は重ね書きにより訂正している。「嶋□子」のあとに日付が記載される。「嶋□子」についての詳細は不明ながらも、青谷横木遺跡に類例の多い稲の品種に関する名称の可能性があり、三月廿三日に行った何らかの農作業（播種か）の記録と推測できる。

一六号木簡　193×22×６　（051型式）　スギ　板目

「勝部郷保長吉継」

Ｐ３区の盛土２から出土している。盛土２はＰ３区の北東隅に位置し、平成25年度調査の８区より延びている。上端は切断したままである。左右両辺は削りで、下端は尖らせる。「継」の字付近で二片に割れていた。「勝部郷」は『和名抄』にみえる因幡国気多郡勝部郷である。郷名と人名が記される。何らかの収納に関わる木簡と推定される。

一七号木簡　（81）×22×２　（019型式）　スギ　板目

「角子

Ｐ３区の条里５から出土している。上端は削り、下端は折れている。左右両辺は削りである。右辺の上部は一部欠損する。墨書は若干の浮き上がりが確認できる。用途不明である。「角子」を稲の品種とみると、品種名のみの種子札と推定されよう。

一八号木簡　250×30×５　（033型式）　スギ　板目

「＜赤尾木」

Ｐ３区のⅣ層から出土している。上端は削りで、上部は左右からの切り込みがある。左右両辺は削りで下部は左右両辺から削って尖らせる。表面には平面的に削った痕跡が確認できる。墨痕は消失しており、浮き上がりにて文字が確認できることから長期間、表出していた可能性が高い。「赤尾木」は稲の品種の可能性があり、種子札とみられる。

一七号木簡　(81)×22×2　019

「角子

一六号木簡　193×22×6　051

「勝部郷保長吉継」

一五号木簡　(149)×35×5　081

〔比カ〕
嶋□子三月廿三日

二〇号木簡　(98)×23×3　081

□□

一九号木簡　(226)×29×9　019

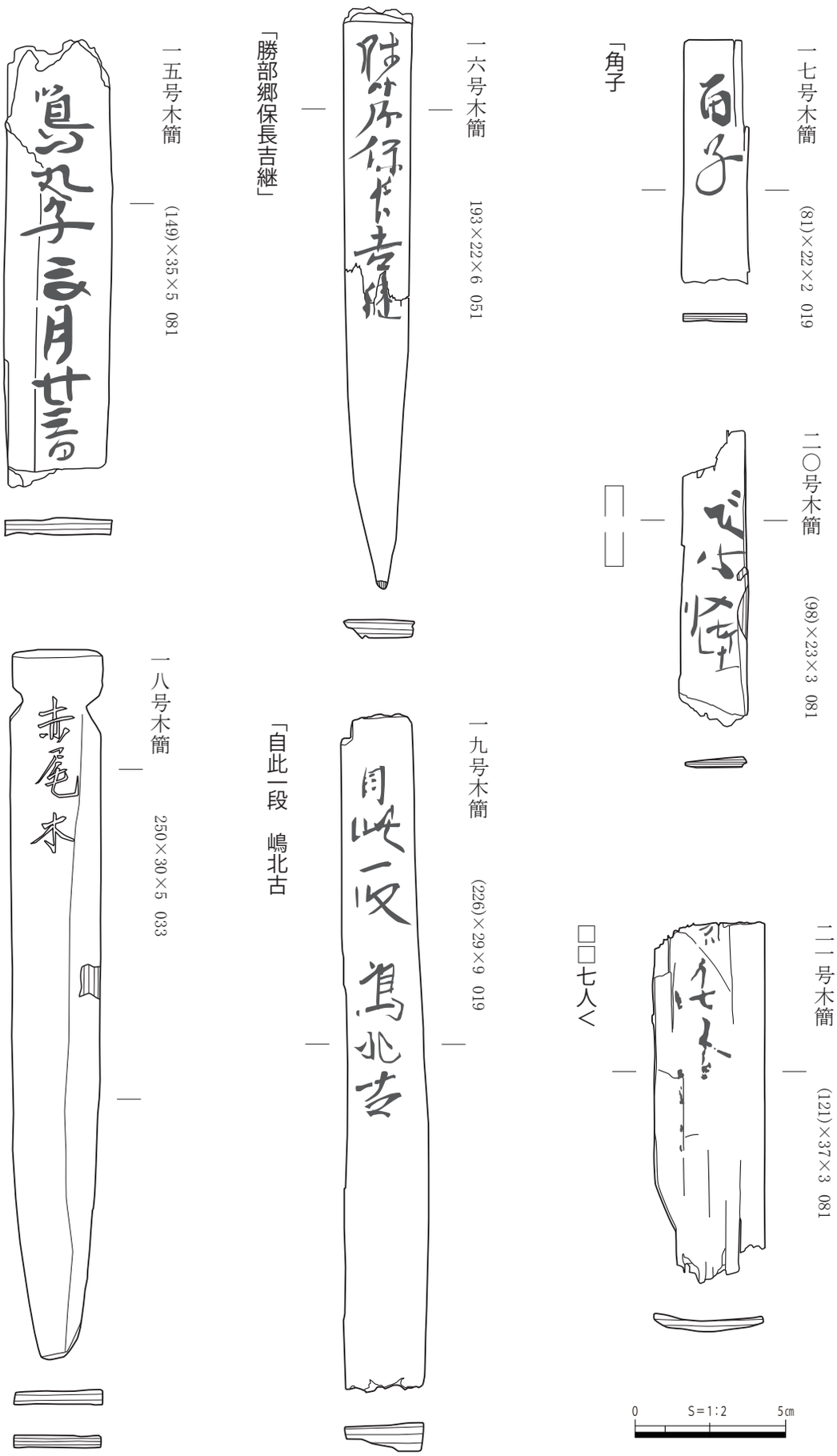
「自此一段　嶋北古

二一号木簡　(121)×37×3　081

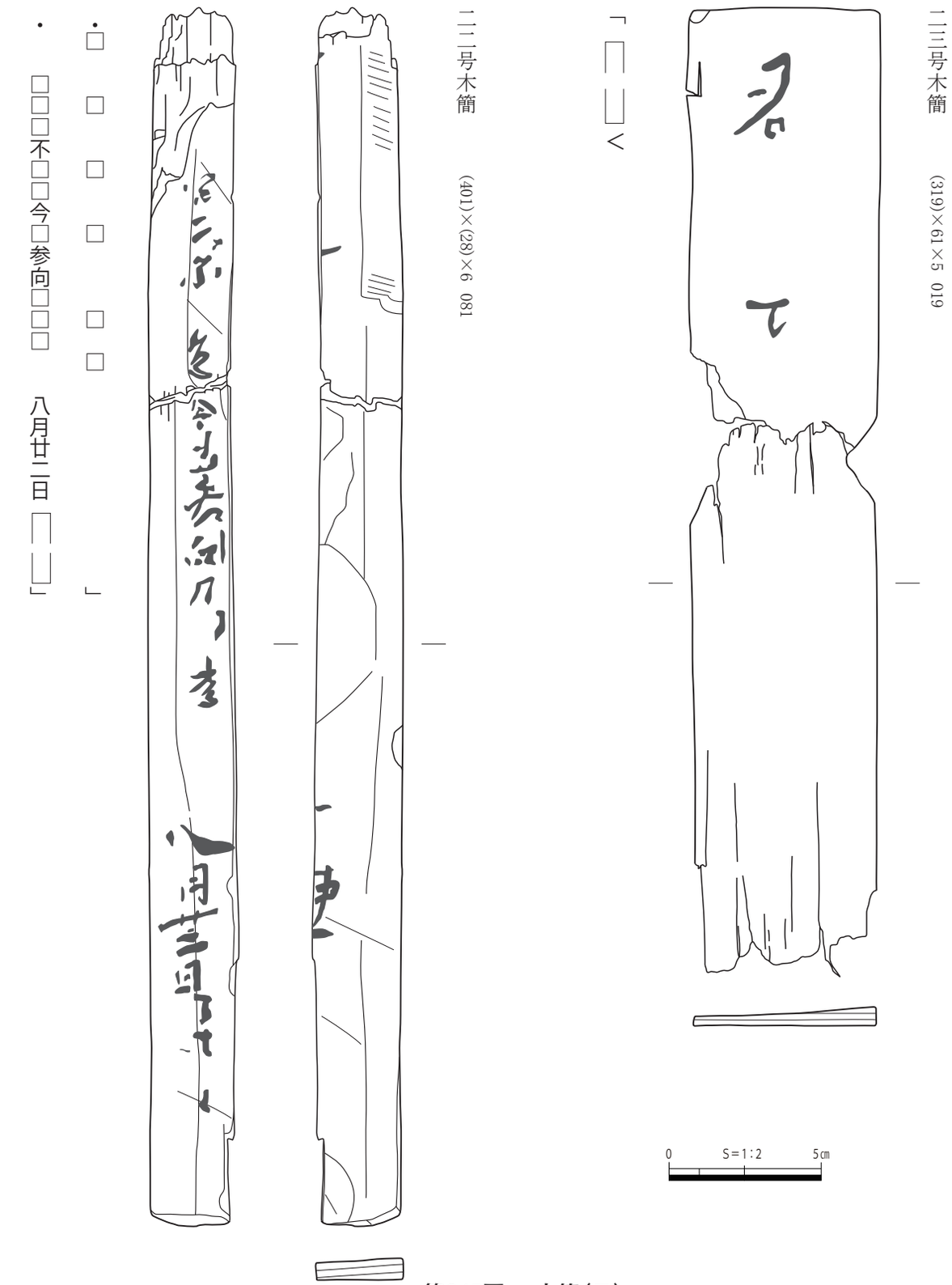
□□七人ヘ

一八号木簡　250×30×5　033

「ヘ赤尾木」



第644図　木簡（６）

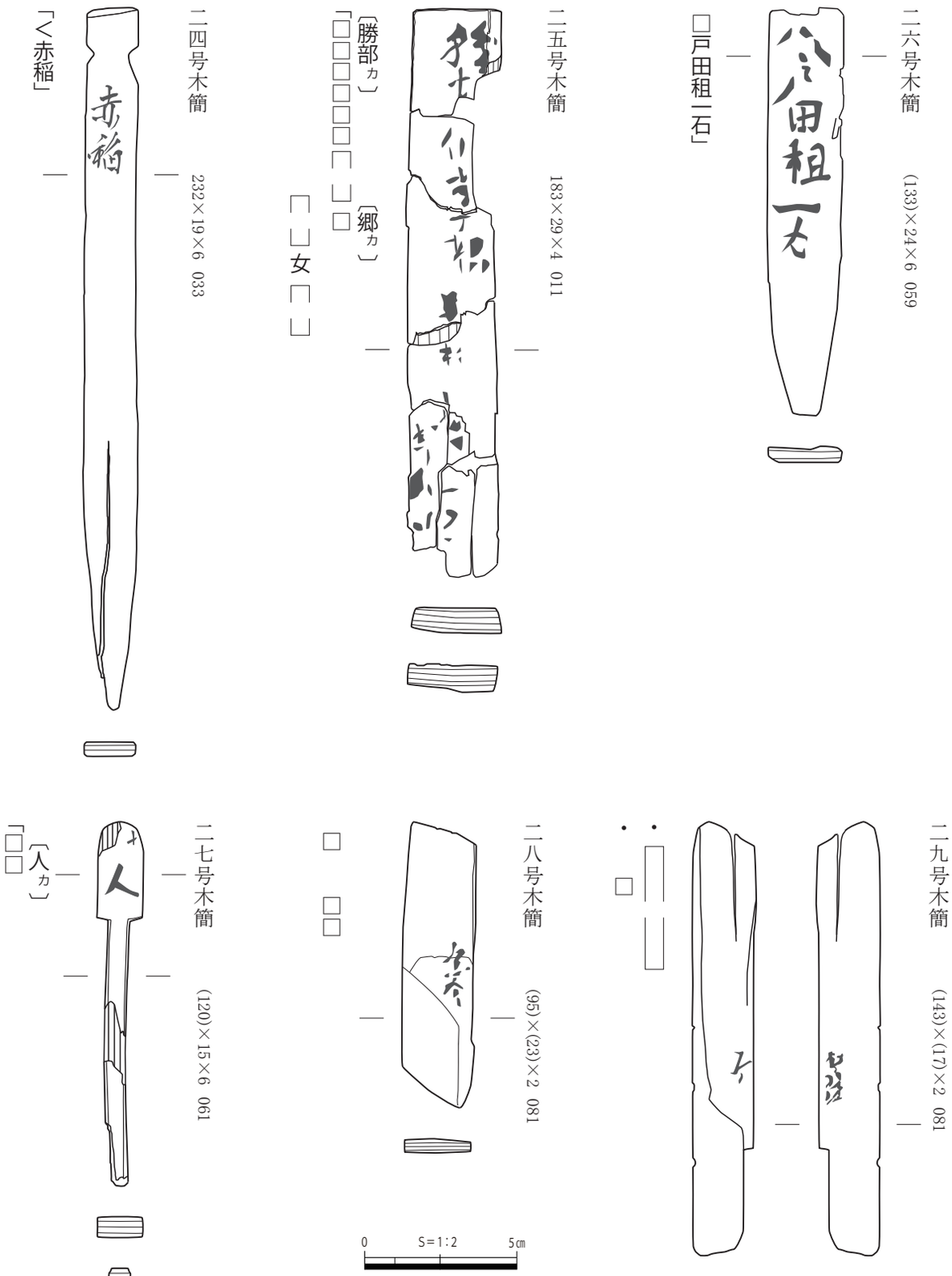


第645図　木簡（７）

一九号木簡(226)×29×９　（019型式）　ヒノキ科　板目

「自此一段　嶋北古

７区の条里14・15交点付近から出土している。上端は切断である。下端は折れである。左右両辺は削り、左辺上端の一部を欠損する。墨書部分は浮き上がりが確認できる。「一段」については特定の範囲を示すと理解すると、牓示木簡の可能性が高い。「一段」が水田を示していたとすると、「嶋北古」は



第646図　木簡（８）

そこに作付けされていた作物に関連する可能性がある。

二〇号木簡(98)×23×３　　(081型式)　スギ　板目

□　□

Ｐ５区の条里14・15の交点付近から出土している。上下両端ともに折れ。左右両辺も折れている。墨痕は複数字が確認できるが判読できなかった。

二一号木簡　（121）×37×３　（081型式）　スギ　板目

□□七人＜

７区のⅣ層から出土している。上下両端ともに折れ、左右両辺は削り。左辺の下部に切り込みの痕跡が残る。右辺の下部には左辺に対応する切り込みは確認できない。墨痕は四文字程度が確認できた。上から二文字分の判読はできなかった。

二二号木簡　（401）×（28）×６　（081型式）　スギ　板目

・□　□　□　□　　□　□　　」

・　　□□□不□□今□参向□□□　　八月廿二日□　□」

７区のⅣ層から出土している。二片が接続した。上端は折れ、下端部は削り。右辺は削り、左辺は割れている。オモテ、ウラ面ともに平面的に削った痕跡が残る。オモテ面の左辺には点々と墨痕が残り、原形は現状の二倍を超える６cm ～７cmの幅を持つ大型の文書木簡であった可能性が高い。オモテ面は一行書きで、ウラ面は二行書きになっていたものと推定される。オモテ面の判読は困難であるが、ウラ面の書き止め部分には「八月廿三日」の日付が記されている。ウラ面中ほどには「参向」の文字があり、召文と推定できる。木簡の書式や木材の大きさ、記載内容から郡符木簡であった可能性がある。

二三号木簡　（319）×61×５　（019型式）　スギ　板目

「□　□<

７区のⅣ層から出土している。左右両辺に入っている深めの切り込みにより二片に分離していた。上端は削り、下端は折れている。左右両辺は削りである。切り込みより上部に一行分の墨痕を確認したが判読はできなかった。

二四号木簡　232×19×６　（033型式）　スギ　板目

「＜赤稲」

Ｐ６区の盛土14から出土している。上端は削り、下端部は左右両辺から削って尖らせている。左右両辺は削りである。上端は左右から切り込みが入る。左辺下端部から亀裂が入っているものの、ほぼ完形の付札木簡である。墨痕には若干の浮き上がりが確認できる。「赤稲」は平成25年度調査の２区出土の六七号木簡「赤稲一石」がある。赤稲も黒稲と同様に稲の品種を示している可能性が高く、種子札と理解される。

二五号木簡　183×29×４　（011型式）　スギ　板目

〔勝部カ〕　　〔郷カ〕

「□□□□□□□　□□□　□

　　□　□女□　□」

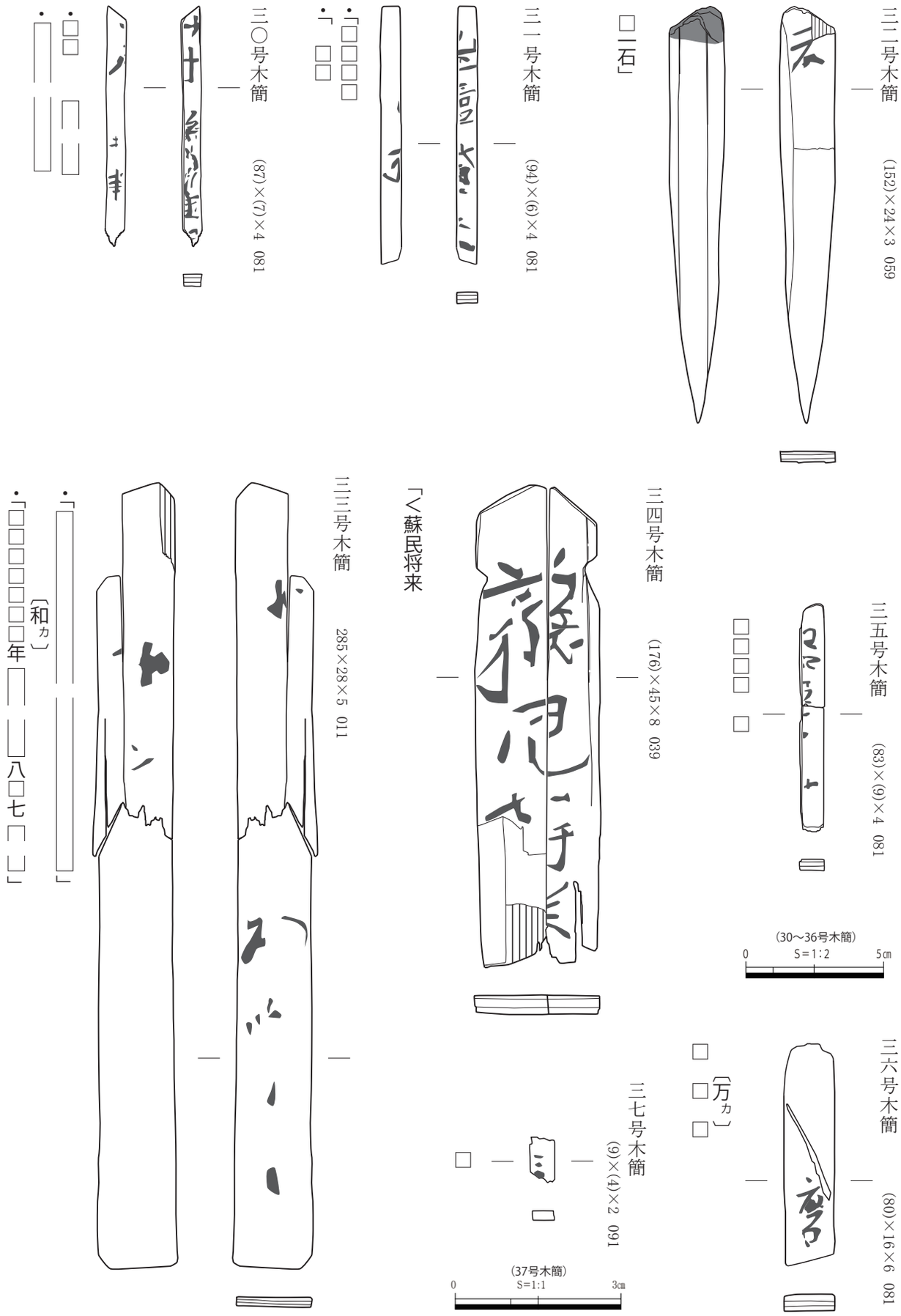
Ｐ７区の道路１道路外盛土から出土している。上端と左右両辺は削り。下端部は欠損があるものの、一部削りが確認できる。八片に分離しており、右辺の一部を欠損する。墨痕の残存状態は悪い。上から二文字分は「勝部」の可能性がある。日置郷の西側に位置する郷名、あるいは氏族名と推定される。

何文字分かの墨痕があり「郷」の可能性を持つ文字がくる。書き出し部分を郷名と推定すると、いくつかの郷名を列挙していた可能性が考えられる。

二六号木簡　（133）×24×６　（059型式）　スギ　板目

□戸田租一石」

５区のⅣ層から出土している。上端は折れている。左右両辺は削っており、下端部は尖らせている。


三二号木簡
(152)×24×3 059
□一石」
三一号木簡
(94)×(6)×4 081
・「□□□□
・「□□
三〇号木簡
(87)×(7)×4 081
・□□□□
・□□□
三五号木簡
(83)×(9)×4 081
□□□□□
(30～36号木簡)
0 S=1:2 5㎝
三四号木簡
(176)×45×8 039
「V蘇民将来
三三号木簡
285×28×5 011
・「□□□□□□□年□□八□七□□」
〔和ヵ〕
三六号木簡
(80)×16×6 081
〔万ヵ〕
三七号木簡
(9)×(4)×2 091
(37号木簡)
0 S=1:1 3㎝

第647図　木簡（９）

上端部が欠損しており、一文字目は不詳である。「戸田租一石」と記されており、「田租」の付札と理解される木簡である。田租に関わる木簡として静岡県郡遺跡、京都府遠所遺跡での出土が知られる。田租は郡家の正倉に納められるもので、単位の「一石」は貢進単位との整合性はないものとみられる。

二七号木簡　（120）×15×６　（061型式）　スギ　板目

〔人カ〕

「□□

５区のⅣ層から出土している。題籤軸とみられる。本遺跡出土の他の題籤部とは形状が異なっており、上端が丸く、やや小ぶりなのが特徴である。軸部の下端部は折れている。題籤部の右上端は一部剝離する。墨痕は二文字分確認できた。二文字目は「人」の可能性が高く、一文字目の判読はできなかった。

二八号、二九号木簡はＰ９区の道路１道路外盛土から出土している。道路外盛土は10世紀後半頃の構築と推定されている。

二八号木簡　（95）×（23）×２　（081型式）　スギ　板目

□　□□

上端は折れ、下端部は二次的に削る。左右両辺は割れ。表面は平面的に削った痕跡を留める。墨痕は確認できるが判読は困難であった。二文字目は「粒」、「租」の可能性がある。

二九号木簡　（143）×（17）×２　（081型式）　スギ　板目

・□□

・　□

Ｐ９区の道路１道路外盛土から出土している。上下両端は折れ、左右両辺は割れている。墨痕はオモテ、ウラ確認したが、判読はできなかった。

三〇～三四号木簡はP10区の道路１の道路改修土から出土している。ともに出土している土器の年代観から10世紀代後半頃に比定されている。

三〇号木簡　（87）×（７）×４　（081型式）　スギ　板目

・□□　□□

・□□

上端は二次的切断の可能性がある。下端部は折れ、左右両辺は割れている。両面に墨痕を確認した。左右両辺が割れており、文字の判読はできなかった。

三一号木簡　（94）×（６）×４　（081型式）　スギ　板目

・「□□□□

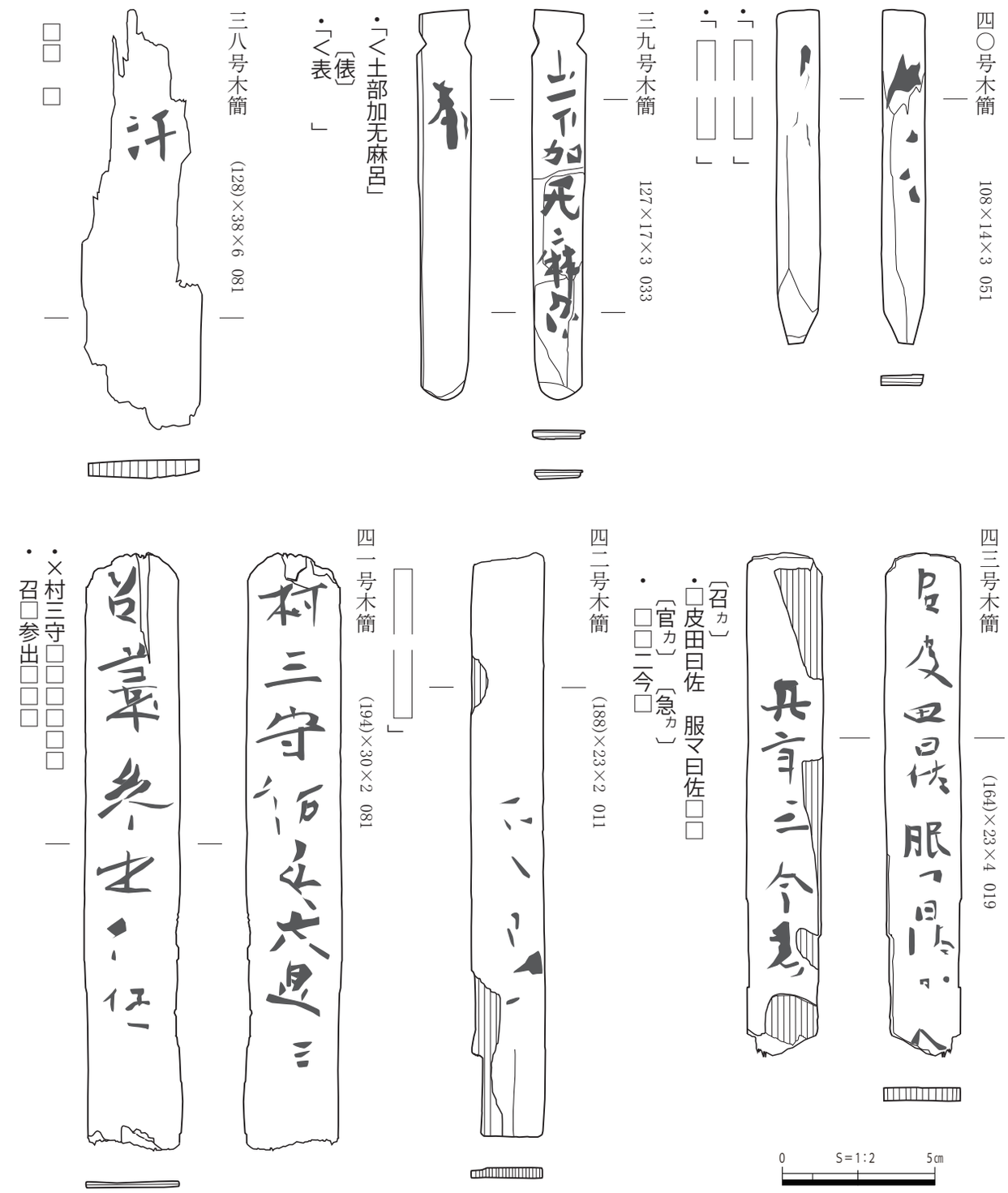
・「　□□

上端は二次的切断の可能性がある。下端部は折れており、左右両辺は割れている。木材は三〇号木簡と類似しているが、直接接合せず上下である可能性は残る。両面に墨痕を確認したが判読はできなかった。

三二号木簡　（152）×24×３　（059型式）　スギ　板目

□一石」

上端は二次的切断の可能性がある。左右両辺は削りで、下端部は尖らせる。表面には平面的に削った痕跡が残る。ウラ面の上端部は焼損しており、木簡として利用された後に付け木等として再利用し



第648図　木簡（10）

たと推測される。

木簡の形状や「一石」といった数量を記す単位であることから、籾の付札である可能性が高い。

三三号木簡　　285×28×5　　（011型式）　スギ　板目

・「□□」

〔和カ〕

・「□□□□□□□年□　□八□七□　□」

上下両端は削りで、上部左辺は欠損している。左右両辺は削りで、左辺の中央付近には左上がりの切れ目が入る。両面に墨痕が認められるものの、明確に判読はできなかった。

三四号木簡　（176）×45×８　（039型式）　スギ　板目

「＜蘇民将来

木簡の真ん中付近でタテ二片に分離する。上端部は左右から削りやや尖らせた形状になる。下端部は折れており、部分的に剝離が確認できる。左右両辺は削り。上端部は左右から切り込みが入る。右辺側の切り込みはやや深めに切り込みが入っている。いわゆる「蘇民将来札」とみられる。墨書は大きめの書体で書かれる。墨痕は一部浮き上がりが確認される。切り込み周辺の墨痕は良好に残存する。切り込みに縄をかけて結び付けた事により当箇所周辺の墨書の残存に影響した可能性がある。「蘇」は艹下の「魚」と「禾」の位置が入れ替わった逆字とみられる。「民」はP16区にて出土した字体とも類似する。

三五号木簡　（83）×（９）×４　（081型式）　スギ　板目

□□□□　□

P10区の道路１第２次盛土から出土している。道路１第２次盛土は８世紀後半に比定されている。上下両端ともに折れ、左右両辺は割れである。五文字程度の墨痕が確認できるが判読はできなかった。

三六号木簡　（80）×16×６　（081型式）　スギ　板目

〔万カ〕

□　□　□

P10区の道路１から出土している。上下両端は折れている。左右両辺は削りである。三文字程度墨痕が確認できる。二文字目は「万」の可能性がある。

三七号～四四号木簡まではP10区道路１第１次盛土の敷葉・敷粗朶層から出土している。木簡は敷葉・敷粗朶層に利用された枝類とともに出土した。本層は出土した土器の年代と放射性炭素年代測定から７世紀末～８世紀初頭頃と理解されている。７世紀代と推定される本簡は、鳥取県内で倉吉市大御堂廃寺、鳥取市良田平田遺跡にて出土している。

三七号木簡　（９）×（４）×２　（091型式）　不明広葉樹

□

小片であり詳細は不明である。小さく墨痕が確認できる。

三八号木簡　（128）×38×６　（081型式）　スギ　柾目

□□　□

上下両端は折れ、左右両辺は削りである。三文字程度の墨痕を確認したが、判読はできなかった。一文字目は「許」「計」「評」等の可能性がある。

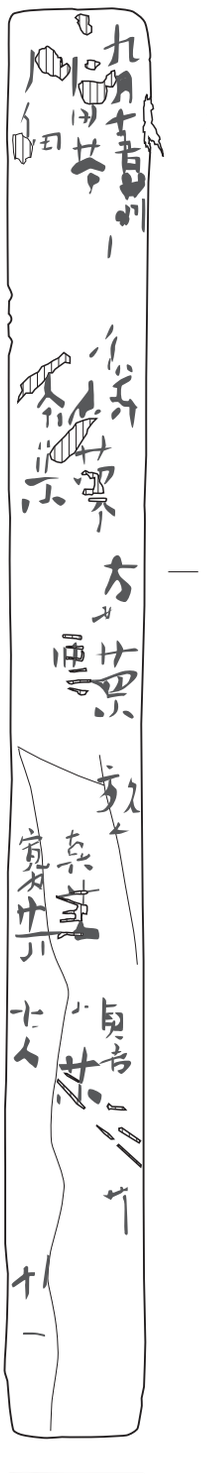
三九号木簡　127×17×３　（033型式）　スギ　板目

「＜土マ加无麻呂」

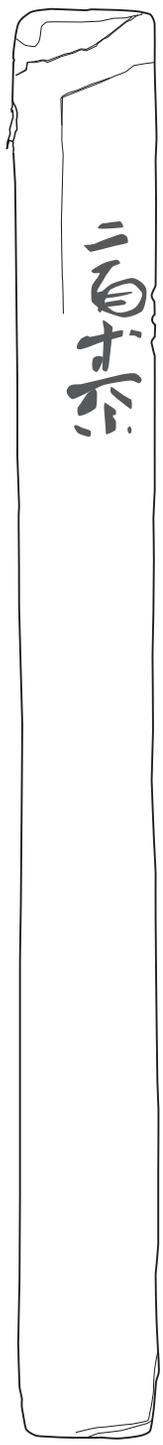
〔俵〕

「＜表　　」

四周削りで完形である。オモテ面の表面には平面的に削った痕跡がある。オモテ面は人名である。ウラ面の「表」は「俵」を意図したもので、亻の無い「表」は平城京第316次調査のSD3825A出土木簡に類例がある。米俵の荷札と考えられる。



四六号木簡　380×35×5　011

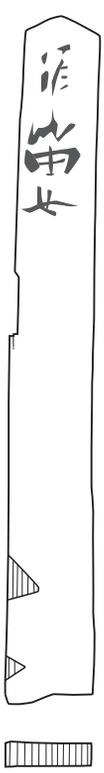


二百十六束

・「九月十五日苅　□□　□□廿四束　殿□〔料カ〕　貞吉卅二束　□□」
・「　二百十六束　」

四四号木簡　(103)×38×5　019

「別□此〔為カ〕」



四五号木簡　(184)×24×6　019

「須留女

四八号木簡　(63)×23×6　061

・「□□」
・「□□」

四七号木簡　(60)×25×9　061

「□□

0　S=1:2　5cm

第649図　木簡(11)

四〇号木簡　　108×14×３　　（051型式）　スギ　板目

・「□　□」

・「□　□」

四周削りである。下端部は左右両辺から削り、尖らせる。オモテ、ウラに墨痕が残るが判読はできなかった。

四一号木簡　　（194）×30×２　（081型式）　スギ　板目

×村三守□□□□□□

　召□参出□□□

上下両端は折れる。左右両辺は削りである。オモテ、ウラの判断はウラ面とした面の一文字目「召」は文意からみて木簡の書き出しではなく、召文の書き止め部分とみられること、オモテ面の「村三守」は人名の一部であり、被召喚者を示す記載とみられることによる。オモテ面の下から二文字目は「持」の可能性がある。ウラ面の二文字目は墨痕が明瞭に残っているものの適当な文字が見当たらない。「率」等の可能性がある。

四二号木簡　　（188）×23×２　　（011型式）　スギ　柾目

□　□」

上端は二次的切断とみられる。下端と左右両辺は削り。左辺の下端部を一部欠損する。下部に墨痕を確認したが判読できない。

四三号木簡　　（164）×23×４　　（019型式）　スギ　柾目

〔召カ〕

・□皮田曰佐　服マ曰佐□□

　〔官カ〕　〔急カ〕

・□□　二今□

上端は二次的切断とみられる。下端部は折れる。左右両辺は削りである。ウラ面の右辺を中心に表面の剝離が確認できる。オモテ面の一文字目は「召」の可能性が高く、召文と推定される。オモテ面は人名の列記とみられる。オモテ面の「皮」は氵をいれ「波」と考え、下字を含めて「波田（ハタ）」とする。

四四号木簡　　（103）×38×５　　（019型式）　スギ　板目

〔為カ〕

「別□此

上端は削り、下端部は刃物を入れたのち折っている。左右両辺は削り。墨痕は三文字分が確認できる。二文字目は「為」の可能性がある。

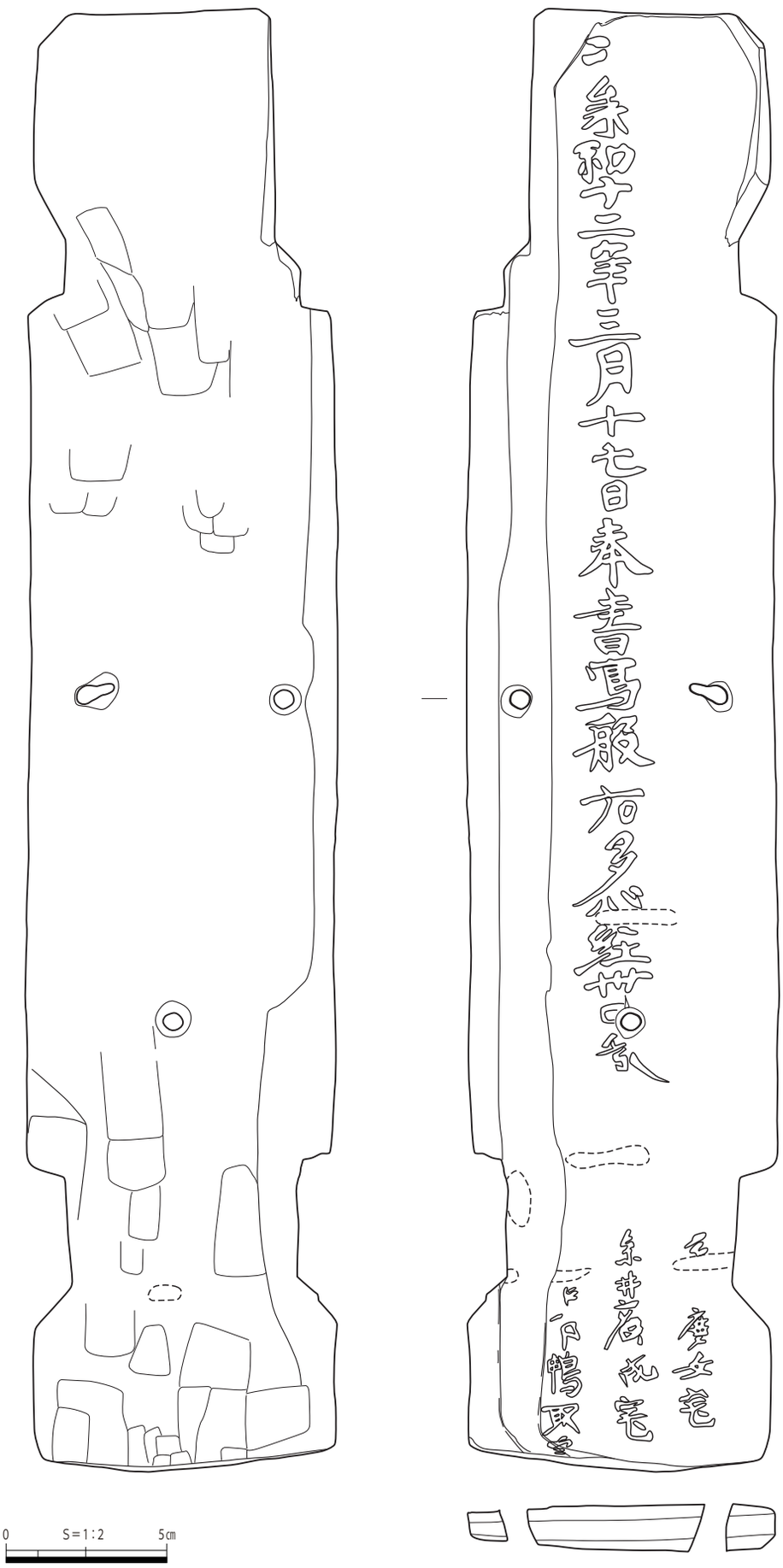
四五号木簡　　（184）×24×６　　（019型式）　スギ　柾目

「須留女

P10区の条里28から出土している。上端は左右両辺から削り圭頭状を呈する。左右両辺は削り。下端部は折れている。墨痕が失われ浮き上がりにて確認できる部分もある。種子札と理解される。「須留女」の類例は、石川県西念・南新保遺跡、石川県畝田ナベタ遺跡が知られ、奈良県下田東遺跡出土木簡には「小須流女」がある。

四六号木簡から四八号木簡はP10区の道路１外盛土から出土している。道路１外盛土の年代は出土した土器の年代観と放射性炭素年代測定により10世紀後半代とみられる。

四九号木簡　457×96×14　061



「
□　承和十二年三月十七日奉書写般若多心経卅四巻

〔糸カ〕
□□廣女宅
糸井廣成宅
□□□□□
〔部鴨取宅カ〕

第650図　木簡（12）

四六号木簡　380×35×５　（011型式）　スギ　板目

〔料カ〕

・「九月十五日苅　□□　　□□廿四束　殿□　　貞吉卅二束□ □

〔供カ〕　　〔安カ〕

□田廿七　　□□廿四束　□□卅束　　真廿□□　　□廿束

□□田　　人□廿一束　　寛丸廿一束　□人[　]　　□[　]」

・「　　二百十六束　　」

四周削りである。オモテ面の表面には平面的に削った痕跡が残る。オモテ・ウラ面に墨書が確認できる。「九月十五日苅」とあることから稲の収穫作業に伴う帳簿状の木簡である。オモテ面第一段二行目と三行目は田の呼称で、第二行の「廿七」は条里の坪付を示す数詞の可能性がある。また、第一段三行目の二文字目は人偏の文字の可能性がある。第二段目以降は姓のない人名と束数が記される。「束」は「小」のような簡略な字形で書かれる。人名と数量では墨色が異なり、数量を追記した可能性もある。ウラ面は「二百十六束」とありオモテ面の各人の作業量の合計とみて矛盾はない。

四七号木簡　（60）×25×９　（061型式）　スギ　板目

「□□

題籤軸の題籤部である。上端と左右両辺は削りで軸部は欠損する。墨痕は二文字分を確認しているが判読はできなかった。

四八号木簡　（63）×23×６　（061型式）　スギ　板目

「□ □

「□ □

題籤軸の題籤部である。上端と左右両辺は削り。軸部は欠損する。墨書はオモテ、ウラ面に確認できたが判読はできなかった。

四九号木簡　457×96×14　（061型式）　スギ　板目

〔糸カ〕

□□廣女宅

「□　承和十二年三月十七日奉書写般若多心経卅四巻　　糸井廣成宅

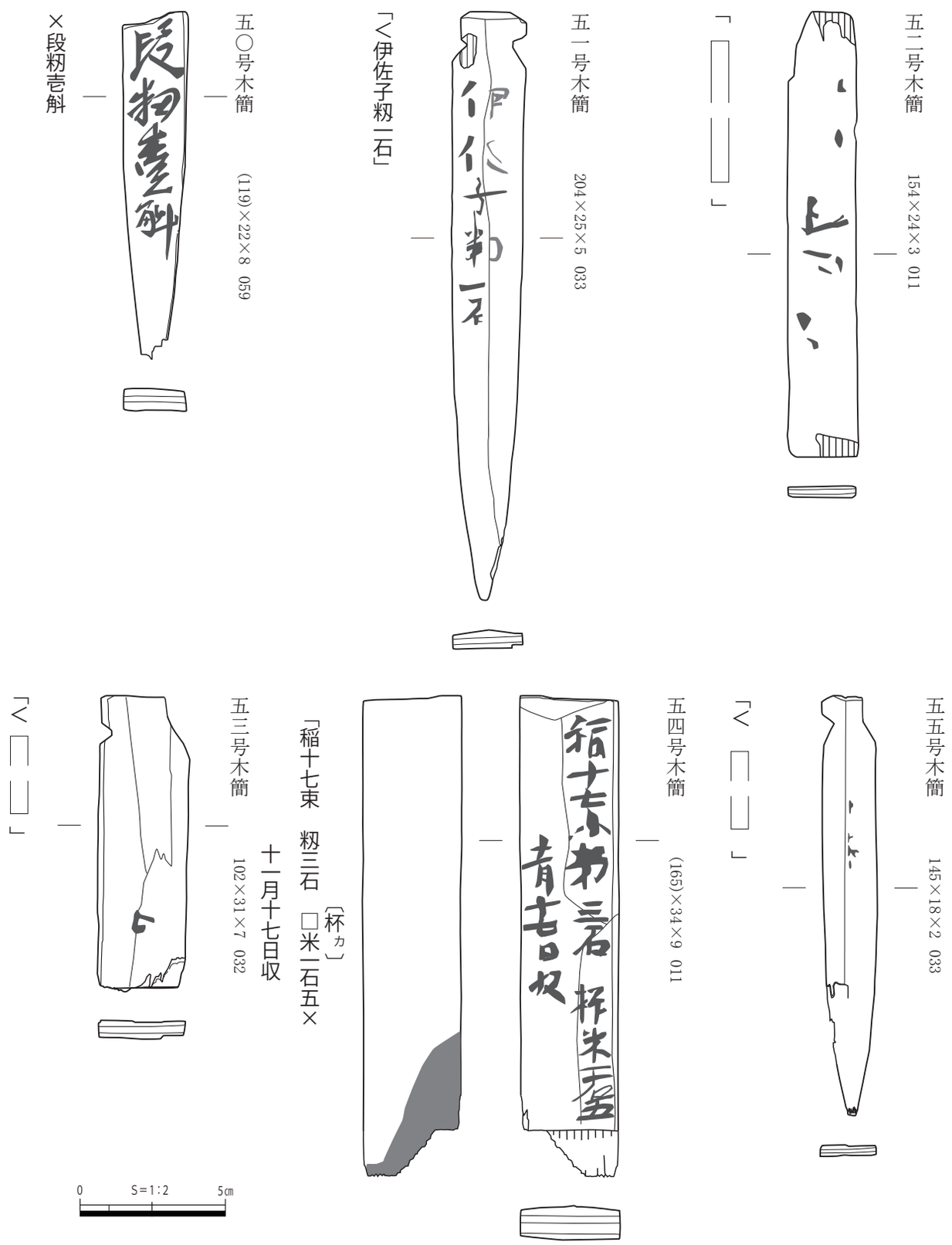
□□□□□

〔部鴨取宅カ〕

P10区の条里28から出土している。条里28は道路外盛土に接続しており、10世紀後半の構築と推定されている。四周削りであるが、左辺上部を欠損する。田下駄として再利用されている。緒孔が三箇所に穿たれており、文字の一部と重複している。「承和十二年」は845年である。内容は「般若多心経」を三家で分担して「書写」した記録である。一文字目の□は、呪符や転読札などの冒頭にみられる「〆」の左半か。発願主とみられる下三行は書き出しの高さを揃えていたとみられる。中央は「糸井」姓であり、右行の一文字目も「糸」の可能性がある。左行は一文字目が遺存しないが、高さを揃えていることからすると、三文字姓の可能性がある。人名の最後は「宅」で終わっている。

五〇号～六一号木簡はP11区からの出土である。

五〇号～五二号木簡は道路１から出土している。五二号木簡は道路１第４・５次盛土からの出土である。道路１第４・５次盛土は10世紀代に行われたと推定されている。



第651図　木簡(13)

五〇号木簡　(119)×22×8　　(059型式)　スギ　板目

×段籾壱斛

上端は折れ、左右両辺は削りであり、下端部に向けて尖らす。下端部は若干の折れがある。「籾壱斛」との記載から籾の付札と推定される。一文字目の「段」の上部が欠損するため、具体的な内容については不明である。

五一号木簡　204×25×５　（033型式）　スギ　板目

「＜伊佐子籾一石」

上端部は削りで、左右両辺から切り込みが入る。左右両辺は削りで、下端部に向けて尖らせる。表面右側には平面的な削りの痕跡があり、墨書の残存度も悪い。「籾一石」から籾の付札と判断できる。「伊佐子」がイネの品種と推定されるため、「品種名+一石」で表す種子札と考える。

五二号木簡　　154×24×３　（011型式）　スギ　板目

「□　□」

上下両端部は削りで、左右両辺も削りである。左上端部を欠損している。複数文字分の墨痕を確認するが判読はできなかった。

五三号、五四号木簡は道路１側溝から出土している。道路１の最終的な埋没は11世紀代と推定されている。

五三号木簡　　102×31×７　（032型式）　スギ　板目

「＜□　□」

上端は削り、下端部は切断のままである。左右両辺は削り。上端部の左側には切り込みが入る。左辺も同様に切り込みが入っていたと推定されるが、右辺の一部は欠損する。表面には平面的に削った痕跡が残る。墨痕は下方に確認したが判読はできなかった。

五四号木簡　（165）×34×９　（011型式）　スギ　板目

〔杯カ〕

「稲十七束　籾三石　□米一石五×

十一月十七日収

上端は削り、下端部は刃物を入れた後折っている。左右両辺は削り。ウラ面の右辺下部から下端部にかけて焼損する。付け木等として再利用された可能性がある。「稲十七束」と「籾一石」が書かれる。二行目に「十一月十七日収」とあることから、稲と籾の収納に関する記録とみられる。上から八文字目は「杯」の可能性がある。「杯米」は「つきごめ」と読めるから、「舂米」「搗米」（＝白米）に通じる。

五五号～五九号木簡は道路１道路外盛土から出土した。道路外盛土は出土した土器の年代と放射性炭素年代測定により10世紀後半頃に比定されている。

五五号木簡　　145×18×２　（033型式）　スギ　板目

「＜□　□」

上端と左右両辺は削りで、下端は左右から削って尖らせる。右辺の切り込み部分の上辺は欠損する。片面に三、四文字分の墨痕があるが、判読はできない。

五六号木簡　（230）×32×５　（081型式）　ヒノキ　板目

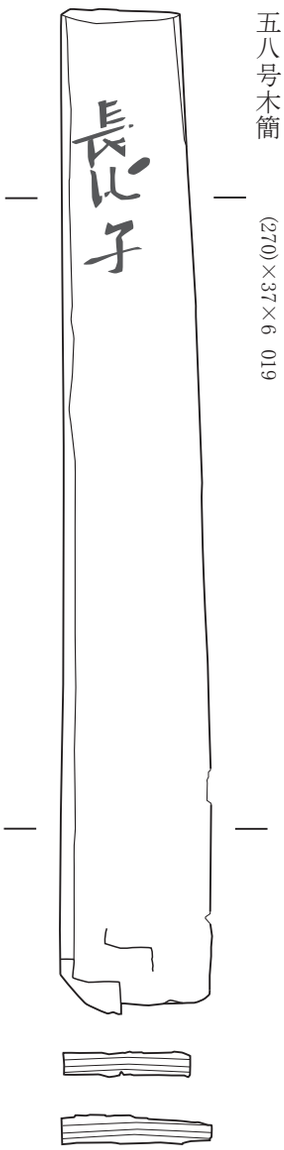
九月十八日前員七十一束　　辻七十束

廿六横木田　　穂一束四把　　食料一束

上下両端折れ。左右両辺は削り。表面は平面的な削りの痕跡が残る。「九月十八日」の農事に関する記録とみられる。「廿六横木田」は遺跡名となった小字名「横木」が平安時代まで遡る可能性を示す。「廿六」は条里坪付を示す数詞の可能性がある。

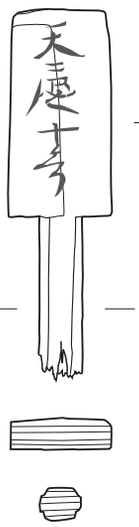
五八号木簡　(270)×37×6　019

「長比子



五七号木簡　(96)×24×7　061

「天慶十年



五九号木簡　124×25×3　081

「□□□」

五六号木簡　(230)×32×5　081

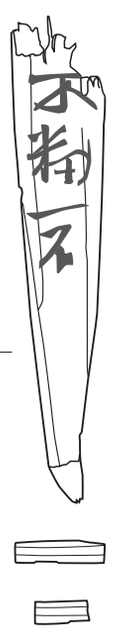
九月十八日前員七十一束　辻七十束

廿六横木田　穂十束四把　食料一束

六一号木簡　(128)×24×4　059

〔木カ〕

□籾一石」



六〇号木簡　(93)×13×3　081

□□□□□

0　S=1:2　5cm

第652図　木簡（14）

五七号木簡　（96）×24×７　（061型式）　スギ　板目

「天慶十年

道路１道路外盛土の粗朶層内から出土した。題籤軸である。上端と左右両辺は削り、軸部の下端部は折れ。ウラ面の上四分の三は腐蝕して表面が残らない。「天慶十年」は947年で四月に天暦に改元されている。鳥取市の試掘調査では「天暦元年」の題籤軸が出土している。

五八号木簡　（270）×37×６　（019型式）　スギ　板目

「長比子

上端と左右両辺削り、下端は折れまたは二次的切断とみられる。上方に向かって幅を減じており、原形は051型式のような形状をしていたとみられる。「長比子」はイネの品種の一つ「ながひこ」であり、種子札と考えられる。福島県矢玉遺跡にて「＜長非子一石」の類例が知られる。

五九号木簡　124×25×３　（081型式）　スギ　板目

「□　□」

上端と左右両辺は削り、右辺の下端部は欠損するものの一部削りが確認できる。左辺の上端部から欠損がある。墨痕を確認したが判読はできなかった。

六〇号木簡　（93）×13×３　（081型式）　スギ　板目

□□□□□

河道６から出土している。上下両端は折れ、左右両辺は削りである。墨痕は五文字程度を確認するが、判読はできなかった。木簡の幅が13mmと狭く、下方に向かって幅を減じていることから斎串の一種である可能性が残る。

六一号木簡　（128）×24×４　（059型式）　スギ　板目

〔木カ〕

□籾一石」

Ⅳ層から出土している。上端は折れ、左右両辺は削りで下方に向けて尖らせる。一文字目は「木」の可能性がある。「籾一石」から籾の付札と推定される。

六二号～六八号木簡は２区から出土している。

六二号木簡　（98）×27×６　（019型式）　スギ　板目

〔勝カ〕

「勝郷戸主□マ大麻呂

道路１から出土している。上端は丸く削り、圭頭状を呈する。下端部は折れ、左右両辺は削りである。「勝郷」で表せる郷名は因幡国気多郡内には「勝部郷」と「勝見郷」の二郷あり、省略表示であれば「勝郷」では区別がつかない。ただ、本遺跡の所在する西隣が「勝部郷」であり、「勝」で「かちべ」と読ませたか、あるいは単なる脱字の可能性がある。郷名と個人名を記すが用途は明瞭ではない。何らかの物品への付札と考えておきたい。

六三号木簡　188×30×７　（033型式）　スギ　板目

〔籾カ〕

「＜□□子□九斗五升

道路１から出土している。上端は削り、下端部は切断である。下部は左右両辺から緩やかに削って

六四号木簡　(131)×22×5　061

「□」

六三号木簡　188×30×7　033

〔籾カ〕
「∨□□子□九斗五升

六二号木簡　(98)×27×6　019

〔勝カ〕
「勝郷戸主□マ大麻呂

六五号木簡　147×138×8　061

殖女八人
西殿三人　徳谷一人　今位三人
即一人
男三人
少子一人
今位宅帰路師
男四人少子一人　預一人
〔×大〕　目代二人
已上十七人
少子二人大十五人

六六号木簡　152×22×5　033

「∨籾一石」

0　S=1:2　5cm

第653図　木簡（15）

細く尖らせている。下端は粗く切断したままであるが、二次的切断ではなく原形を保つとみられる。墨書の残存が悪く充分には判読できない。一文字目は小ぶりの文字で「凡」「片」など、二文字目は肉月の文字で「勝」の可能性がある。三文字目は「子」とみられる。四文字目は「籾」の可能性がある。本遺跡内でみられる（五一号木簡、六九号木簡）種子名＋籾＋数量で示す種子札と考える。他の種子札での数量は「一石」であるが五升引かれた数字である点は注意が必要である。

六四号木簡　（131）×22×５　（061型式）　スギ　板目

「□ □

道路１側溝から出土している。道路１側溝の最終埋没は11世紀代と推定されている。題籤軸である。上端は削りで圭頭状を呈する。左右両辺は削り。軸部は折れている。墨痕は片面に残存するが判読できない。

六五号～六六号木簡の出土は当初Ⅳ層と考えていたが、調査区が重複するP11区の調査成果から道路１道路外盛土の出土であると理解している。

六五号木簡　（長径）147×（短径）138×（厚）８　（061型式）　スギ　板目

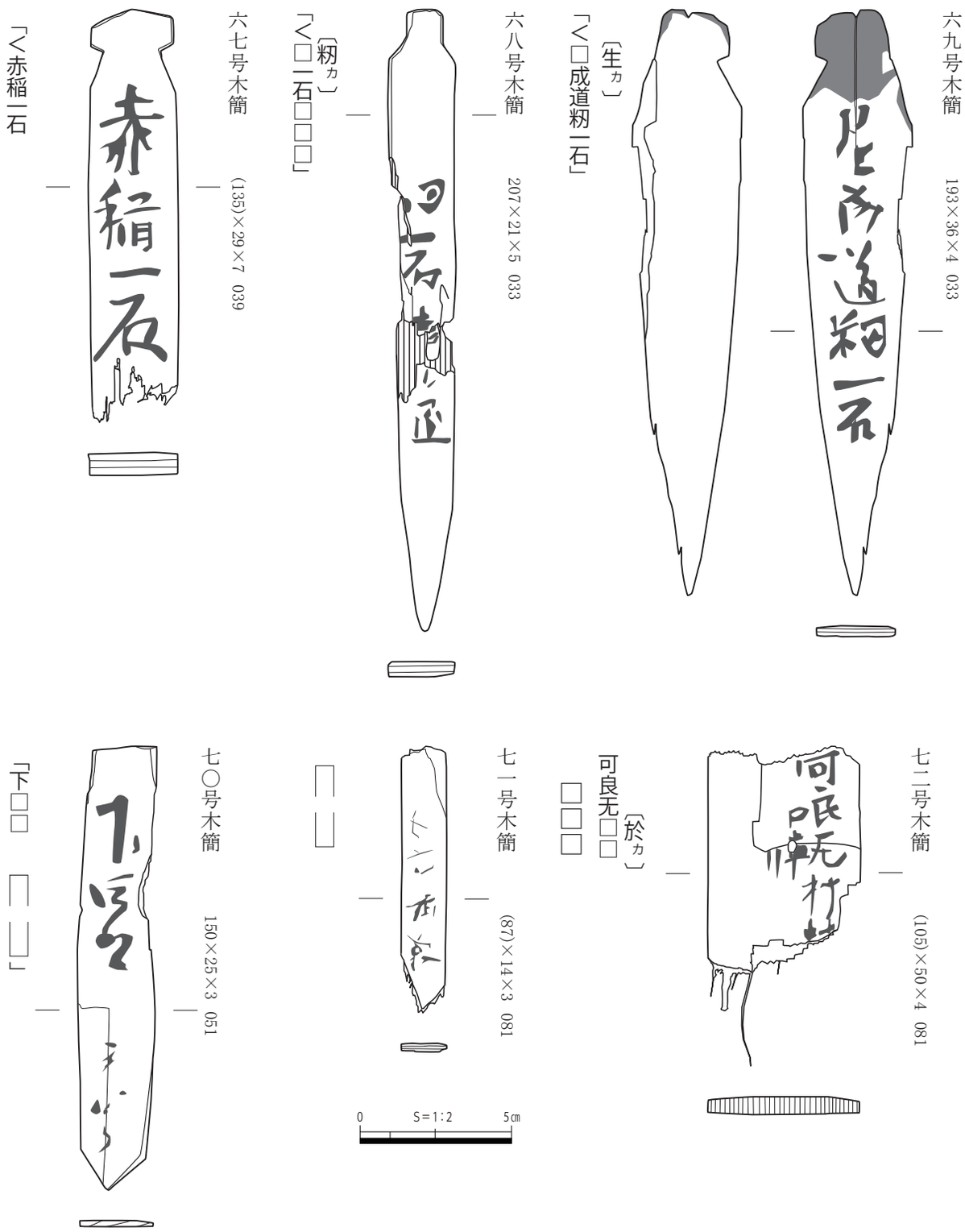
「殖女八人
　西殿三人　徳谷一人　今位三人
　　即一人
　男三人
　少子一人
今位宅帰路師　　預一人
　男四人　少子一人　　目代二人
已上十七人
〔×大〕
少子二人大十五人」

やや楕円形を呈する曲げ物の底板外面に記される。文字は木目の方向に記されているが、曲物長径方向は木目とは無関係の向きにある。ウラ面に墨痕はない。

何らかの労働力編成を記した帳簿状の木簡。「殖女」は播種あるいは田植えに従事した女性を指すとみられる。「西殿」「徳谷」「今位」「即」の人数の合計と合致するから、「西殿」以下「即」までは殖女八人の内訳であろう。このうち、「徳谷」は地名とみられ、「今位」も後段に「今位宅」とあることから地名とみるのが妥当であると考える。そうであれば、「西殿」も建物ではなく地名と解釈した方がよいかもしれない。「即」は不詳である。

続く「男二人」「少子一人」は見出しがないことからみると、「殖」の内訳の可能性がある。その場合、「殖」が「男」と「少子」にかかることになるので、「殖女」は「殖、女八人」と読むことになる。

「今位宅」は「今位」という場所の「たく（やけ）」で、活動拠点を示し、本遺跡に所在したとみられる拠点的機能に関連した施設とみるのが無難であろう。「帰路師」は不詳である。「今位宅帰路師」はこれに続く「男一人」「少子一人」の見出しと考えるべきである。すなわち、「殖」が女八人、男二人、少子二人の計十二人、「今位宅帰路師」が男四人、少子一人で計五人、その合計が「已上十七人」にあたり、その内訳が「少子二人」「大十五人」となる。「已上十七人」は、はじめ「大」と書いた文字に上書きして「十」に訂正している。



第654図　木簡（16）

なお、「預一人」「目代一人」は労働力を管理する立場にある人物と理解される。「少子一人」に続く割書きのような位置にあるが、合計人数に加えられていないことから考えて、最後に余白に書き加えられた記載とみられる。

六六号木簡　　152×22×5　　（033型式）　スギ　板目

「＜籾一石」

上下端は削り、切り込みが入る。左側の上端部を欠損する。左右も削りであるが、左辺は中央付近

から欠損がある。籾の付札である。籾一石の付札は徳島県観音寺遺跡、兵庫県柴遺跡、福岡県延永ヤヨミ園遺跡などに類例がある。

六七号木簡　（135）×29×７　（039型式）　スギ　板目

「＜赤稲一石

Ⅲ層下面～Ⅳ層上面にて出土している。上端と左右両辺は削り、下端は折れ。上端の左右に切り込みを持つ。赤稲はイネの品種とみられ、種子札と考えられる。「赤稲」は二四号木簡についで２例目となる。

六八号木簡　207×21×５　（033型式）　スギ　板目

〔籾カ〕

「＜□一石□□□」

Ⅲ層から出土している。上下端は削り。左右両辺も削りであるが、木簡の中央で二片に分かれ、接続部分も大きく剝離する。左辺の切り込み部分は割れ。一文字目は「籾」の可能性がある。「一石」の下三文字について判読は困難であった。末尾の文字は「進」などの可能性がある。

六九号木簡　193×36×４　（033型式）　スギ　板目

〔生カ〕

「＜□成道籾一石」

P12区の道路１道路外盛土から出土した。道路外盛土の構築は10世紀後半頃と推定されている。木簡は上端を焼損している。下端は左右から削って尖らせる。左辺は削り、右辺は割れ。右辺の切り込みより上部は欠損する。一字目は「生」の可能性がある。籾の付札とみられる。上から三文字目までをイネの品種と推定すると、品種＋籾＋一石で表す種子札の可能性がある。

七〇～七一号木簡はP13区から出土した。

七〇号木簡　150×25×３　（051型式）　スギ　板目

「下□□　□□」

Ⅳ層上面から出土している。上端は切断のままである。下端部は左右から削って尖らせる。

二文字目は「四」、くずし字の「聞」の可能性がある。

七一号木簡　（87）×14×３　（081型式）　スギ　板目

□□

Ⅳ層から出土している。上端は折れ、左右両辺削り。下端は尖らせる。墨痕は確認できるが、判読はできなかった。用途は不明である。

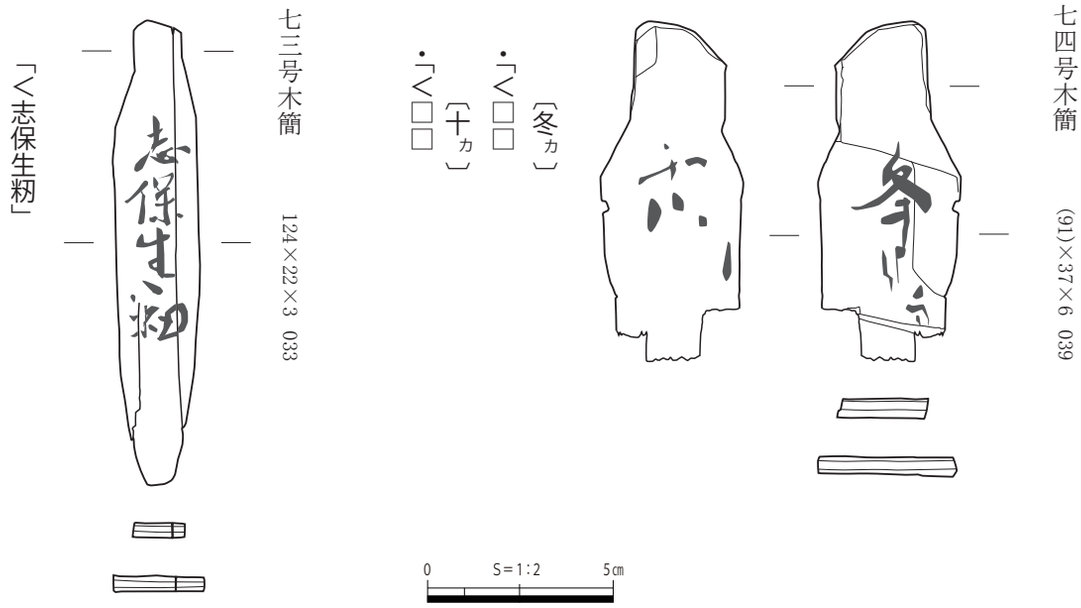
七二号木簡　（105）×50×４　（081型式）　スギ　柾目

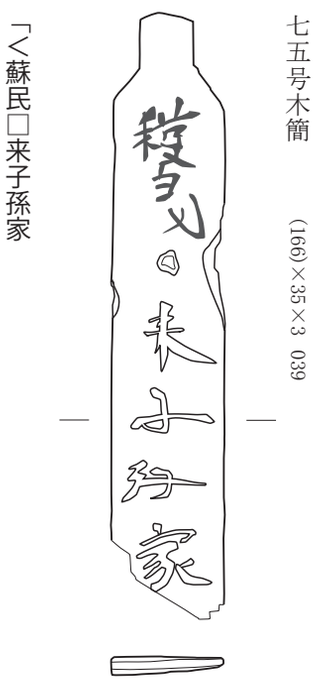
〔於カ〕

可良无□□

□□□

P14区の条里41から出土している。上下両端は折れ、二片に分離していた。左右両辺は削り。中央付近に穿孔がある。四文字目は「於」の可能性がある。一字一音で「からむ」と表記する。





第655図　木簡（15）

七三号～七四号木簡はP15区から出土している。

七三号木簡　　124×22×３　　（033型式）　スギ　板目

「＜志保生籾」

盛土32から出土している。四周削り。タテに二片分離する。下端は左右両辺から削って尖らせる。切り込み部分上半左右とも欠損する。墨痕は僅かに浮き上がりが確認できる。「志保」あるいは「志保生」はイネの品種で種子札の可能性がある。品種名の後に数量は記載されていない。

七四号木簡　　(91)×37×６　　（039型式）　スギ　板目

〔冬カ〕

・「＜□□

〔十カ〕

・「＜□□

Ⅳ層下面から出土している。上端と左右両辺は削り。切り込み部分左右上半は欠損する。右辺は二次的に加工を行っている。下端は二次的に切断する。墨痕は両面に確認できる。オモテ面とした一文字目の「冬」は下を日にする異体字とみられる。ウラ面は「十」の可能性がある。

七五号木簡　　(166)×35×３　　（039型式）　スギ　板目

「＜蘇民□来子孫家

P16区のⅣ層から出土している。上端と左右両辺は削り。下端部は二次的に切断する。いわゆる「蘇民将来札」である。本遺跡では三四号木簡についで二例目である。墨痕は浮き上がりが確認できる。「蘇」はノ木偏の「穫」に近く、「孫」は「孖」の字形を用いている。

第２項　墨書土器・刻書・墨画土器

概　要

墨痕が確認できた土器で文字と判断し、図示したものは22点である。このうち須恵器は18点、土師器が３点、黒色土器が１点である。墨書位置は内面が６点、外面が16点であった。外面は全て底部あるいは高台内側に墨書する。内面は見込みに３点、蓋の口縁部付近に３点墨書する。

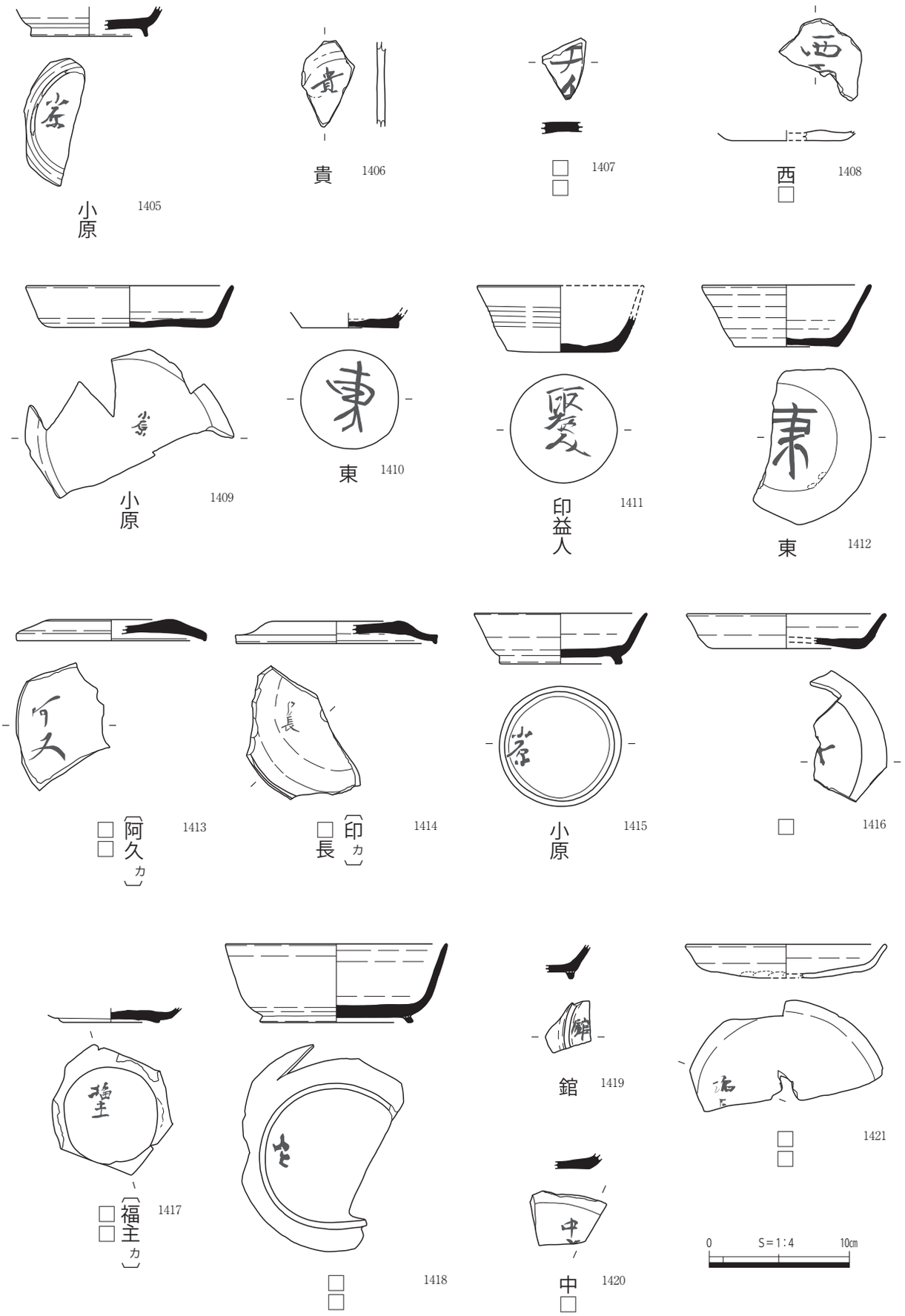
時期は岡田・八峠編年のKⅢ期～ KⅣ期（８～９世紀代）に比定される。

なお、文字と思われるが判読できなかったものについては、□を使用し、可能性のある文字については〔　カ〕として図内に記載した。

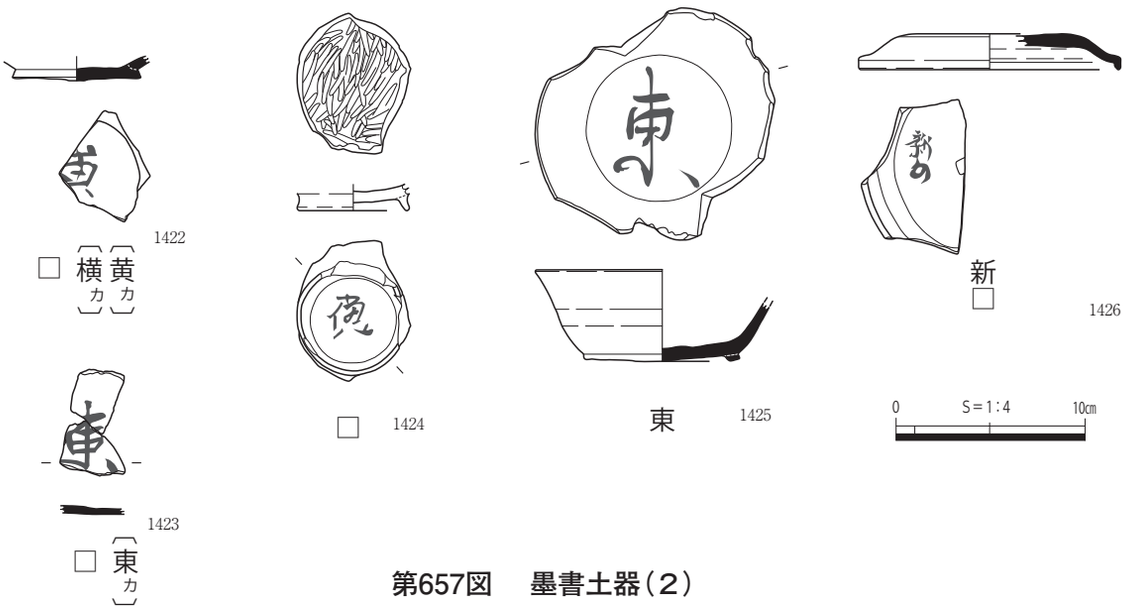
墨書土器（第656、657図）

1405はＰ１区のⅠ層から出土した。須恵器の高台坏である。高台内側に「小原」と墨書される。「小原」は1409、1415でも確認できる。地名の可能性が想定されるが、現在、周辺の地名では見受けられない。

時期は岡田・八峠編年のKⅢ－３頃と考える。1406、1407は10区からの出土である。1406は土師器の坏とみられる。坏類の底部に墨書があり「貴」とよめる。1407は須恵器の坏類であり、外面底部に墨書される。文字は判読できない。1408はＰ４区の条里12から出土した。土師器の坏である。底部の調整はヘラ削りである。墨書は内面見込み部分に墨書される。墨痕から二文字以上が想定できるが一字しか残存しない。「西□」とみえる。1409は須恵器の皿である。外面底部に墨書され「小原」とみえる。須恵器は岡田・八峠編年のKⅢ－２～３期と考える。1410 ～ 1412はＰ８区から出土している。1410は道路１から出土した。須恵器の坏である。墨書は「東」とよめる。「東」も本遺跡内での出土事例が多く、1412、1425、可能性があるものとして1423がある。1410は屈曲して立ち上がる。須恵器の坏類でも新相の特徴を示すことからKⅣ期頃と考える。1411・1412は条里22から出土した。1411は須恵器の坏である。底部外面に墨書され、「印益人」とみえる。印は印鑑、「益」は「鎰」の略字とみると「鎰＝鑰」となり、印と鑰（かぎ）を携えた人物となる。遺跡の性格を考える上で重要な遺物と考えられる。時期は岡田・八峠編年のKⅣ期頃と考える。1412は条里22の下層から出土している。1412は須恵器の坏である。底部外面に墨書され「東」とよめる。文字の一部を欠損しているが、底径と文字の大きさから一文字だけであった可能性が高い。時期は岡田・八峠編年のKⅢ－３期頃と考える。1413 ～ 1421はP10区から出土している。1413 ～ 1416は道路１の第２次盛土から出土した。1413は須恵器蓋で天井部の一部とツマミが欠損する。平たく扁平であり、口縁端部の折り返しは僅かである。墨書は内面に確認できた。「□□」で判然としないが「阿久」の可能性がある。1414は須恵器同じく須恵器の蓋である。天井部は平坦に近く、口縁部への屈曲がやや強い。内面の口縁部付近に墨書し、「□長」とよめる。一文字目は記号に近くみえるが「印」の可能性がある。1415は須恵器の高台坏である。高台内側に「小原」と記す。1416は須恵器の皿である。墨書の運筆から文字と推定したが判然としない。1417は道路１から出土した。須恵器の坏底部である。底部外面に墨書される。二文字確認できるが判読はできなかった。「福主」の可能性がある。1418は道路１の第５次盛土から出土した須恵器の坏Cである。高台より内側に墨書が確認できたが判読はできなかった。高台内面の墨書は「小原」が多く一文字目は「小」の可能性がある。時期は岡田・八峠編年のKⅢ－２～ 3期と考える。1419は道路１第１次盛土敷葉・敷粗朶層から出土している。「舘」とよめる。「舘」は「館」を意図したのか、氏族名の「舘氏」であるのか決めがたい。時期は小破片のため詳細な時期は不明であるものの、岡田・八峠編年のKⅢ期頃と考える。遺構の年代とはやや齟齬があるものの、上層改修土からの混入とみれば問題はない。1420は道路１側溝から出土してい


小原 1405
貴 1406
□ 1407
□
西 1408
□
小原 1409
東 1410
印益人 1411
東 1412
□〔阿久カ〕 1413
□
□長〔印カ〕 1414
小原 1415
□ 1416
□〔福主カ〕 1417
□
□ 1418
□
館 1419
中□ 1420
□ 1421
□
0 S=1:4 10cm

第656図　墨書土器（１）

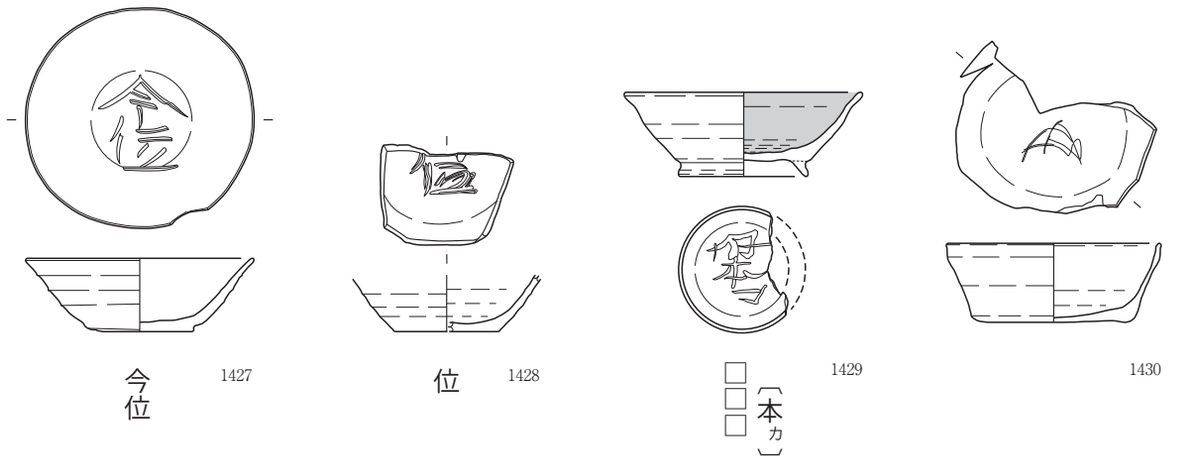


第657図　墨書土器（２）

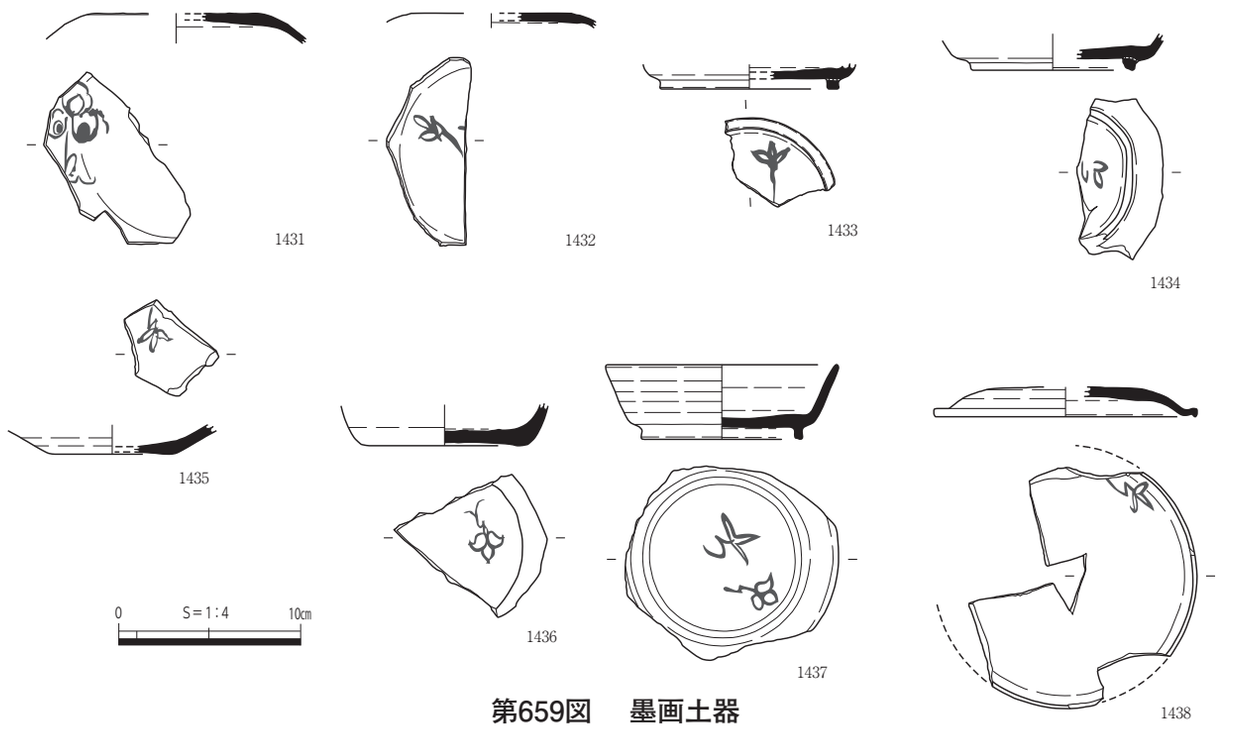
る。須恵器の坏あるいは皿の底部とみられる。墨書は外面に確認できた。二文字分の墨書がみえ、「中□」とよめる。二文字目の大部分は欠損しており不明である。小片のため詳細な時期は不明である。９世紀代と考えておきたい。1421は道路１道路外盛土から出土している。土師器の皿である。横ナデにより成形されている。底部外面に墨書される。「□□」で二文字分が残存するものの判読はできなかった。時期は岡田・八峠編年のKⅢ期に比定される。遺構の年代と若干の齟齬があり、混入の可能性が高い。1422 ～ 1424はP12区から出土している。1422・1424は道路１側溝から出土した。1422は須恵器の坏あるいは椀の底部で平高台である。墨書は旁のみである。「□」で「横」あるいは「黄」と推定される。1424は黒色土器の椀である。回転台により成形されている。内面のみ黒色処理が行われ、墨書は高台内側に確認できる。墨痕は明瞭であるものの、適当な文字が見当たらなかった。1423は須恵器の坏類あるいは皿類の底部である。外面に墨書が残り、「東」の可能性がある。1425はP15区の盛土32から出土している。須恵器の坏である。墨書は内面見込み部に確認できた。「東」とよめる。時期は岡田・八峠編年のKⅢ－３～KⅣ期と考える。1426はP16区のⅣ層から出土している。須恵器の蓋である。内面の口縁部付近に墨書が確認できる。「新□」で二文字目は平仮名の「の」に近い。時期は岡田八峠編年のKⅢ-２～３期と考える。

刻書土器（第658図）

1427 ～ 1429は刻書土器である。1430は棒状の工具で図像が描かれている。1427はP４区の条里12から出土している。土師器の坏Jである。見込み部に焼成前に刻書する。「今位」とよめる。「今位」は六五号木簡に「今位」「今位宅」とあり、地名の可能性が指摘されている。1428はP７区の道路１から出土した。1427と同様に見込み部に焼成前に刻書している。文字が崩れ気味であるが「位」とよめる。墨書位置からしてもう一字あった可能性は残る。1429はP９区の道路１上層から出土した。土師器の坏Mである。高台より内側に焼成後刻書される。文字は判然せず、二文字目は「本」の可能性がある。1430はP８区の条里22から出土した。土師器の坏である。見込み部分に線刻が確認できた。線刻は焼成前にされたもので、水面を飛び交う魚のようにみえる。1427・1428は岡田・八峠編年のKⅤ～CⅠ期に比定される。1429は岡田・八峠編年のKⅣ期と考えられる。



第658図　刻書土器

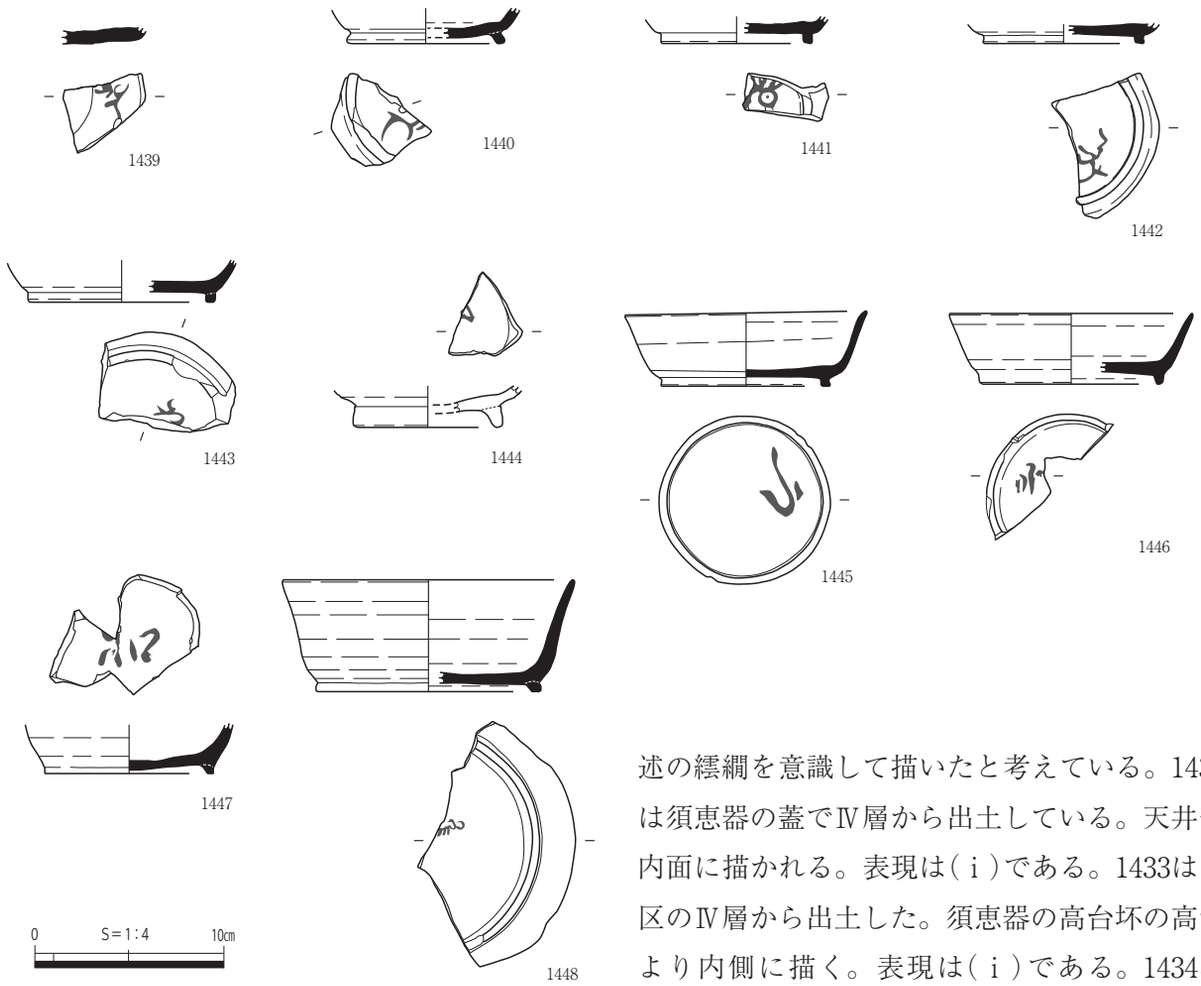


第659図　墨画土器

墨画土器（第659図）

文字ではなく画であるため、墨画とした。見つかったのは全て須恵器であり、８点を図示した。時期は岡田・八峠編年のKⅢ-２、３期の範疇に収まる。画には共通性があり、上部を三葉あるいは三花を一対とし、下部は茎部分表現している。葉あるいは花部分は一筆描きではない。1436のようにやや鋭く葉あるいは花弁を表現するもの（ⅰ）と、1437のように葉あるいは花弁に丸みを帯びたもの（ⅱ）の二者がある。下部の茎の表現は強く屈曲させて一筆で描く。これらは周辺にあった草木や花ではなく既に図像化されたものを描いた可能性が高い。可能性の一つとして側視形蓮華紋や蓮蕾紋があげられるが、特定には至れなかった。画は土器の内面あるいは外面でも底部に描かれており模様を意図したものとは考えにくい。1431は花弁あるいは葉の内部を墨の濃淡で表現しようしたと推測でき、繧繝の表現とみられる。こういった描き方は、仏教絵画に素養があった集団によるものと理解できる[1)]。よって、これらの画題を知る人物達により、習書あるいは落書を意図して描いたものか、何らかの祭祀行為に用いられたのかは判然としない。

1431 ～ 1432はＰ１区から出土した。1431はⅣ層相当層下層から出土した。須恵器蓋の内面に、前



第660図　墨書土器（３）

述の繧繝を意識して描いたと考えている。1432は須恵器の蓋でⅣ層から出土している。天井部内面に描かれる。表現は（ｉ）である。1433は７区のⅣ層から出土した。須恵器の高台坏の高台より内側に描く。表現は（ｉ）である。1434、1435はＰ５区の条里14・15から出土した。1433と同様の位置に描く。表現は（ｉ）とみられる。1435は須恵器坏の内面に描く。表現は（ｉ）である。1436 ～ 1438はP10区の道路１第２次盛土から出土した。1436は須恵器の坏で底部外面に描かれる。表現は（ⅱ）である。茎も二股に分かれている。1437は須恵器の高台坏で高台より内側に（ｉ）（ⅱ）両者が描かれている。両者が同時に描かれることから（ｉ）⇒（ⅱ）といった変遷ではなく、両者が共存して描かれた可能性が高い。1438は須恵器の蓋で内面の口縁部付近に描かれる。表現は（ｉ）である。

墨書土器（その他）（第660図）

墨書土器の中で文字や画とは見なしがたい一群があった。墨痕の形状は様々であり、記号あるいは習書と推定される。1439 ～ 1443はＰ１区で、Ⅳ層から出土している。全て須恵器で底部外面に墨痕が確認できた。時期は岡田・八峠編年のＫⅢ-２～３期頃と考える。1444はＰ８区の道路１から出土している。土師器の高台坏である。墨痕は内面見込み部分に確認した。時期は岡田・八峠編年のＫⅣ～ＫＶ期頃と考える。1445はＰ９区の道路１道路外盛土から出土している。須恵器の高台坏である。高台より内側にて墨痕が確認できた。時期は岡田・八峠編年のＫⅢ-１～２期頃と考える。1446 ～ 1448はP10区から出土している。いずれも文字の可能性があるものの判然としない。時期は1446が岡田・八峠編年のＫⅢ-２～３期頃、1447がＫⅢ-３～ ＫⅣ期頃、1448がＫⅢ-２～３期頃と考える。

註
1）百橋明穂氏のご教示による

第３項　板　絵　（第661図,PL153）

板絵は、Ｐ９区の７世紀末から８世紀初頭に築かれた道路１と10世紀後半に築かれた条里25の交点付近から出土している。道路１の盛土裾に重複する位置に条里25の盛土が築かれ、そのちょうど境目から出土していることから、どちらの盛土に帰属するか明確に特定できていない。ただし、本遺跡で検出された条里遺構や同じ時期に築かれた道路外盛土から出土する遺物の多くが、本来、下層の遺構に帰属する資料であることを考慮すると、板絵は道路１に帰属する可能性がより高いと考える。

板絵は板１～５の５片からなる。板２と板３、板４と板５は接合するが、それ以外は接合関係にはない。ただし、描かれた絵の対応関係などから全体の形状を復元することが可能である。復元された規模は長さ70.5㎝、幅15.5㎝である。厚さは６㎜前後であるが、均質ではない。表面は丁寧に加工されず、右上方には節による大きな窪みがみられる。平面形は長方形であるが、左右の短辺はやや斜めに切り落とされており、上辺が下辺よりやや長い。上辺中央に近い破断面には径0.5 ～ 0.7㎜の小孔を確認することができる。穿孔位置から見て、左側に対となる孔が存在した可能性がある。その場合、板絵は釘で留める、もしくは紐により何かに掛けられていたと考えられる。板２と板３、板４と板５の接合面は意図的に分割したと考えられ､裏面には部分的に炭化した範囲がみられる｡このことから、焼損後に分割され、廃棄されたと考えられる。

材の木取りは板目で、樹種はスギである。本資料の時期は７世紀末から８世紀初頭と推定される。放射性炭素年代測定では214-338calAD（94.9％）という値を示しており、考古学的な年代観との齟齬が大きい。ただし、最終形成年輪が残っておらず、古木効果が大きいこと、同時に行った木製祭祀具の測定でも考古学的な年代観とは同じ程度の齟齬が認められたことを考慮する必要がある。

板の表面には墨書により人物が６名描かれている。蛍光X線分析では顔料は検出されていない。墨は僅かに残る程度であり、頭部などを除き肉眼での観察は難しい。

６名が列をなし、向かって右から左にゆっくりと歩を進める、行列図が描かれている。人物は服装や髪形からすべて女性と考えられる（人物１～６）。人物１～３は裳のみ確認でき、人物３は僅かに裳の裾から沓先が覗いている。人物４は長くゆったりとした裳が描かれ、縦縞の切り替え模様を明確に確認することができる｡裳の裾からはやや尖った沓先が覗いている｡人物５は髪を髷状に結い上げて、さらにその先を後ろでまとめている。目や鼻、口などの顔の表現は確認できない。上衣は筒袖風の袖で、襟元はゆったりとしている。人物６は小さく描かれていることから侍女とみられ、先端に房状の物がついた棹を持ち、前方の人物５に掲げている。

こうした女子群像の類例は、国内では奈良県高松塚古墳壁画しかなく、むしろ、唐の永泰公主墓壁画、高句麗の水山里古墳壁画など大陸に求められる。その意味で、板絵は本遺跡を評価するうえで欠かすことのできない重要な資料である。板絵の歴史的、美術史的意義については第７章第６節で考察する。

第661図　「女子群像」板絵

第５節　金属器

第１項　鉄製品・鍛冶関連遺物（第662、663図　PL169,170）

鉄製品の出土は少なく、古墳時代から中世に比定される20点を掲載した。錆の付着が少なく、遺存状態が良好な資料が多い。なお、穂摘具でも、鉄刃が木製台に装着された資料（W1759）は木製品で取り扱うこととする。

Ｆ１は鉄鏃で、方頭斧箭式である。刃部は僅かしか遺存していない。Ｐ10区の道路１の第２次盛土から出土し、時期は８世紀後半と考えられる。Ｆ２は穂摘具の刃部である。W1759と同様に木製台に填め込まれ使用されたと考えられる。刃縁は細かい破面が連続する。Ⅳ層からの出土で、古代に帰属する資料である。Ｆ３、４は鎌の刃部で、いずれも古代に帰属する資料である。いずれも基部の折り返しが長く、山形を呈する。Ｆ４は長16.3㎝で、刃部の研ぎ減りが進んでいるためが、直線的な平面形をもつ。刃縁は細かな破面が連続する。Ｆ５、６は袋状鉄斧で、いずれもほぼ完形の資料である。Ｆ５は刃部が袋部よりやや幅広い形態をなす。袋部は断面形が円形を呈し、中央で丁寧に密着されている。Ｆ６は有肩鉄斧で、小型品である。平面形は細長い長方形を呈し、肩部の張り出しは小さい。袋部は丁寧に折り返され、中央で密着するが、基部側の端部がやや離れる。袋部の断面形は長方形を呈する。刃部は使用によりやや片減りしている。Ｆ７は刀子の茎部破片である。表面には柄の木質が遺存する。背側に関をもつ可能性があるが、明確ではない。Ｆ８～10はU字形を呈する鋤先である。F10はほぼ完形品で、精巧なつくりである。長さ22.3㎝、幅12.9㎝で、細長い平面形を持ち、刃部幅が基部幅に比べてやや広い。身を挿入する樋の中央付近が4.8㎝ほどの範囲で欠損する。樋は断面Ｖ字形で、樋の深さは最大でも８㎜ほどと浅い。刃部は最大1.6㎝ほどの幅で、両刃に研ぎ出されている。刃部の表面は使用により摩耗している。ただし、刃部はきれいな左右対称をなし、片減りもみられないことから使用頻度は高くないと考えられる。Ｐ５区の条里14からの出土で、盛土内に埋納された可能性が高い資料である。時期は出土層位から10世紀代と考えられる。

Ｆ11～Ｆ15は鉄釘で、Ｐ15区の阿古山24号墳の石室内から出土した資料である。小型の皆折釘で、断面形は方形を呈する。いずれも木質が付着しており、木棺に使用されていたものと考えられる。Ｆ16、17は馬鍬の歯である。いずれもⅢ層から出土し、中世に帰属する資料である。Ｆ16は木製の柄に差し込まれた資料で、鉄歯の長さはX線画像から23.6㎝と推定される。鉄歯の断面形は長方形である。木製の柄は断面形が方形で、基部に向かい先細りとなる。材は芯持ち材で、樹種はマツである。Ｆ18、19は不明品で、F18は鋳造品とみられる。

F20は鉄鍋で、五十川分類の鍋Aにあたる（五十川1992）。ほぼ完形に復元され、口径が20.1㎝の小型品である。P13区のⅢ層から出土している。口縁の受け口は短く、口縁端部は外方へ僅かに突出する。胴部から底部にかけては緩やかな弧状をなし、境は明瞭ではない。底部には湯口の突起が残る。胴部と底部の境には瘤状の突起が１ヶ所みられるが、意図的なものかは不明である。形態から13世紀後半から14世紀の製品と考えられる。

1449、1450は鞴羽口である（第664図）。1449は10区から出土し、古代の資料である。先端部破片で、黒色ガラス質に滓化している。通風孔径は３㎝前後か。1550はP10区道路１の第２次盛土から出土し、８世紀後半の資料である。先端部から体部にかけての破片で、通風孔の壁面は遺存していない。先端部から基部に掛けてラッパ状に大きく開く形態と考えられる。先端部の外径は７～８㎝前後か。体部

第662図　鉄製品（１）

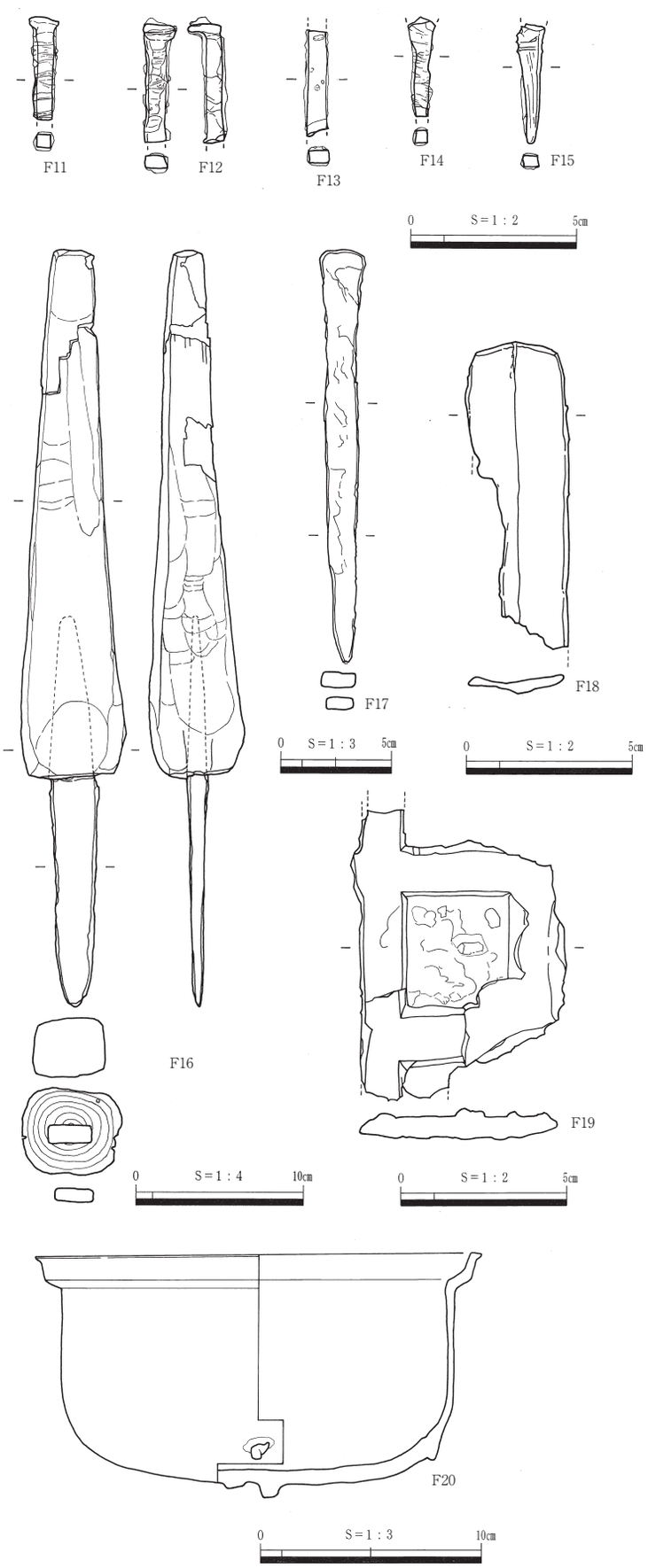
外面は指頭圧痕が多くみられる。先端部の表皮は剥離している。胎土は石英を多く含む粗い粘土質で、スサはほとんど含まない。

第２項　銅製品（第665図　PL170）

銅製品は弥生時代青銅鏡３点、銅板１点、銅鉸具１点が出土している。

Ｂｒ１～３は青銅鏡である[1)]。Br１は内行花文鏡で、Ｐ３区のＶ層から出土した資料である。中国鏡である。全体の３分１程度の破片資料で、中央に径４㎜程度の楕円形の孔が開けられている。破断面や孔の摩滅が著しく、破鏡としてかなり使い込んでいる。Br２は重圏文鏡で、Ｐ７区の河道６から出土した資料である。仿製鏡である。粗い櫛歯文が施され、紐孔は長方形を呈し、紐ずれは少ない。孔が１ヶ所みられるが、意図的に穿孔したものではない。厚さは１㎜と薄く、全体的に歪んでいる。紐孔の形状などから古墳時代前期初頭の所産と考えられる。Br３は放射状区画珠文鏡で、道路１の第１次盛土から出土している。和鏡で、破断面は平滑ではなく、破鏡ではない。青谷上寺地遺跡に類例があるが、列島内でも出土例はごく少ない。時期は類例から古墳時代前期末と推定される。

Br４は山岳文様が打ち出された銅板である。小破片で、全体を復元することはできない。道路１の第１次盛土から出土し、時期は７世紀末から８世紀初頭と考えられる。厚さは0.05㎜で、非常に薄く鍛金されている。上辺のみが生きており、その他の３辺は引きちぎられたような破面となる。破面の端部は表面側に反り返る、もしくは折り曲がった部分がみられる。生きている上辺は直線的で、端

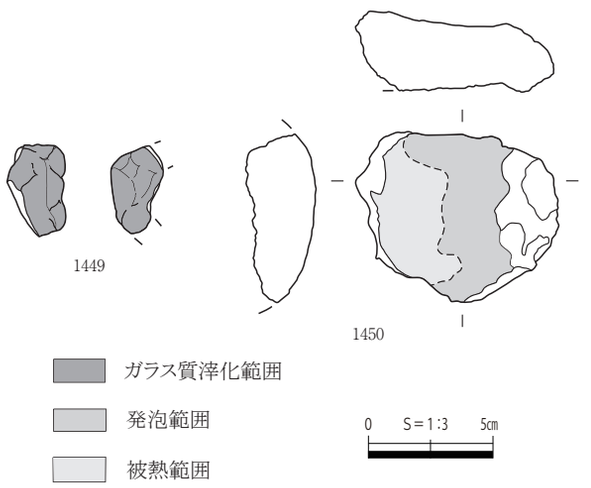


第663図　鉄製品（２）

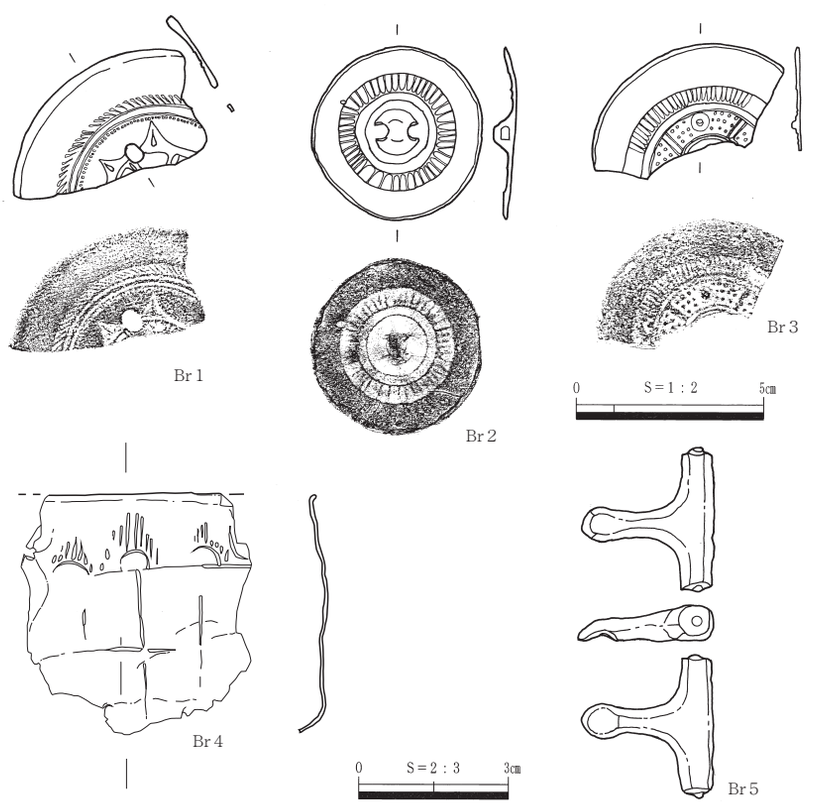
部が裏面側に小さく湾曲する。表面には鏨と槌による彫金技法により山岳文様が描かれている。まず、地平線とみられる直線を毛彫し、その上に山である半円を等間隔で３つ彫る。次に、その半円から派生するように一つにつき８～10本の直線を彫り、木々を表現する。枝葉は表現されていない。連なる山々に樹木が生い茂るようすを抽象的な表現で描いている。山岳文様の下側にも縦に３本、横に１本の毛彫線がみられるが、何を表すかは不明である。蛍光Ｘ線による成分分析では錫や鉛を含まない銅が主成分と判明している。僅かに含まれる元素として銀、ビスマス、金、ヒ素が検出されている[2)]。

本資料は、文様等からみて厨子等に飾られた押出仏の一部と考えられる。山岳文様の類例としては、百済の陵山里王陵群棺金具、扶余窺岩面出土の山水文塼、陵寺出土金銅製香炉の須弥山文様、高句麗薬水里古墳壁画の狩猟図などが挙げられる[3)]。

Br５は銅鋲具の刺金である。P11区道路１の道路外盛土から出土した資料で、時期は７世紀末から10世紀前半の範疇で捉えられる。Ｔ字形を呈し、精巧な作りである。先端部は丸みを持ち、縁金にかかる部分は弧状に窪んでいる。軸金の両端には縁金に填め込む円形の突起が鋳出されている。



第664図　鞴羽口



第665図　銅製品

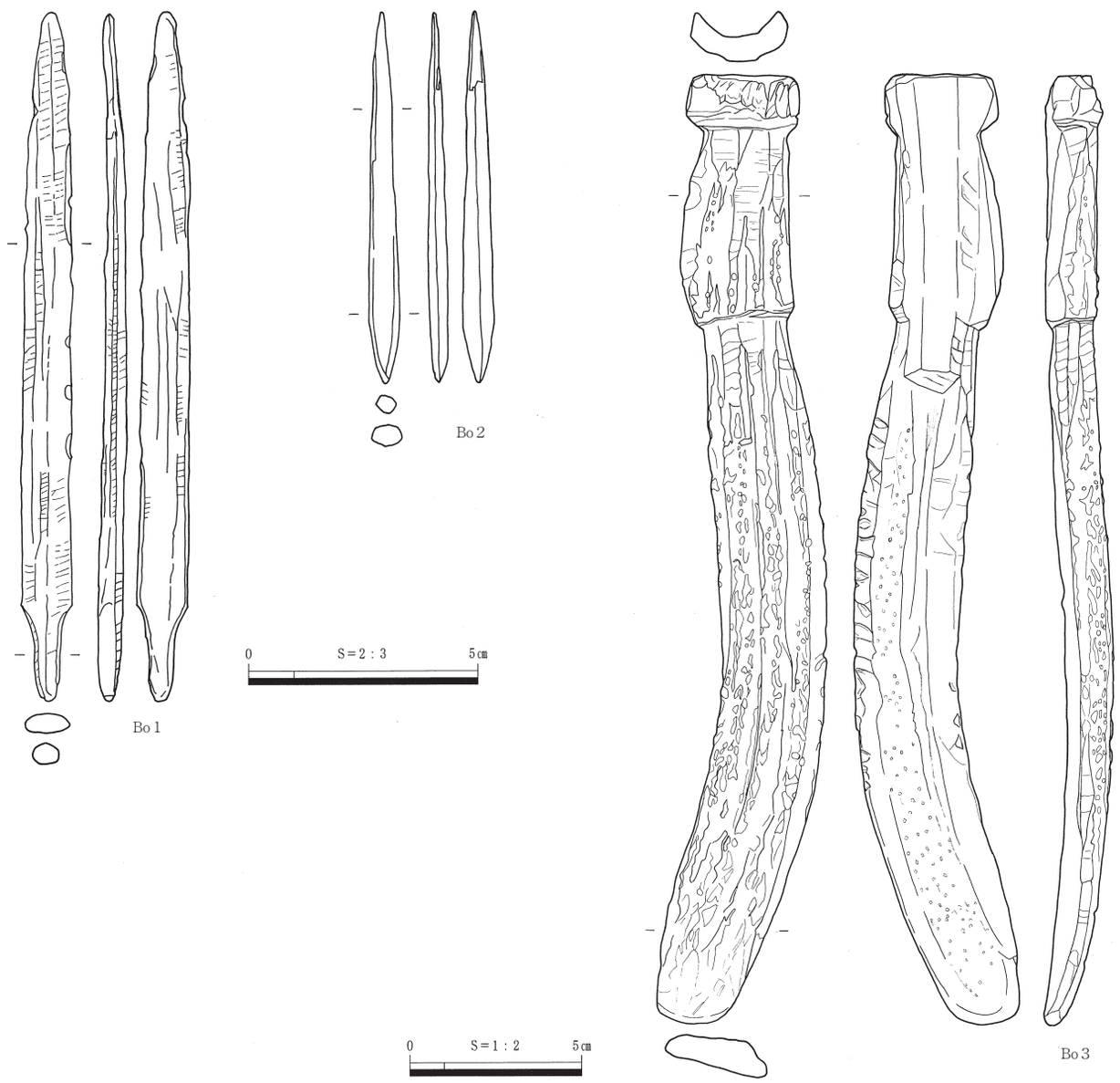
【註】
１）青銅鏡については九州大学田尻義了氏に実見していただき、ご指導いただいた。
２）銅板の蛍光X線分析は京都国立博物館降幡順子氏にお願いし、分析結果についてもご教示いただいた。
３）猪熊兼勝氏、百橋明穂氏のご教示による。

【参考文献】
五十川伸矢1992「古代・中世の鋳鉄鋳物」『国立歴史博物館研究報告第46集』国立歴史民俗博物館
前田博行1999「放射状区画をもつ珠文・乳文鏡について」『森北古墳群』創価大学・会津坂下町教育委員会

第６節　骨角器

骨角器は３点出土し、いずれもＰ11区から出土している（第666図,PL171）。包含層や河道からの二次的な出土状況ではあるが、弥生時代から古墳時代前期の資料と考えられる。

Bo１は骨鏃である。柳葉形で、細長い身を持つ。全面が丁寧に研磨され精巧に仕上げられている。Bo２はヤス状骨角器、もしくは骨鏃と考えられる。明確な関は持たないが、茎部は意識的に成形されている。Bo３は鹿角製のアワビオコシ、またはヘラ状骨角器である。縦に裁断した鹿角の先端をヘラ状に成形している。先端は使用により摩耗している。精巧に作られた柄を持ち、柄頭には滑り止めの突起がつくり出されている。柄の裏面は髄が丁寧に刳り抜かれ、柄の断面形が三日月形を呈する。握った際の手の引っ掛かりを良くするための造作とも考えられるが、むしろ、棒状のものを填め込み、緊縛することで組み合わせの柄とした可能性がある。後者とすれば、柄頭の突起や柄上端の身との段差もそのための造作と理解できる。



第666図　出土骨角器

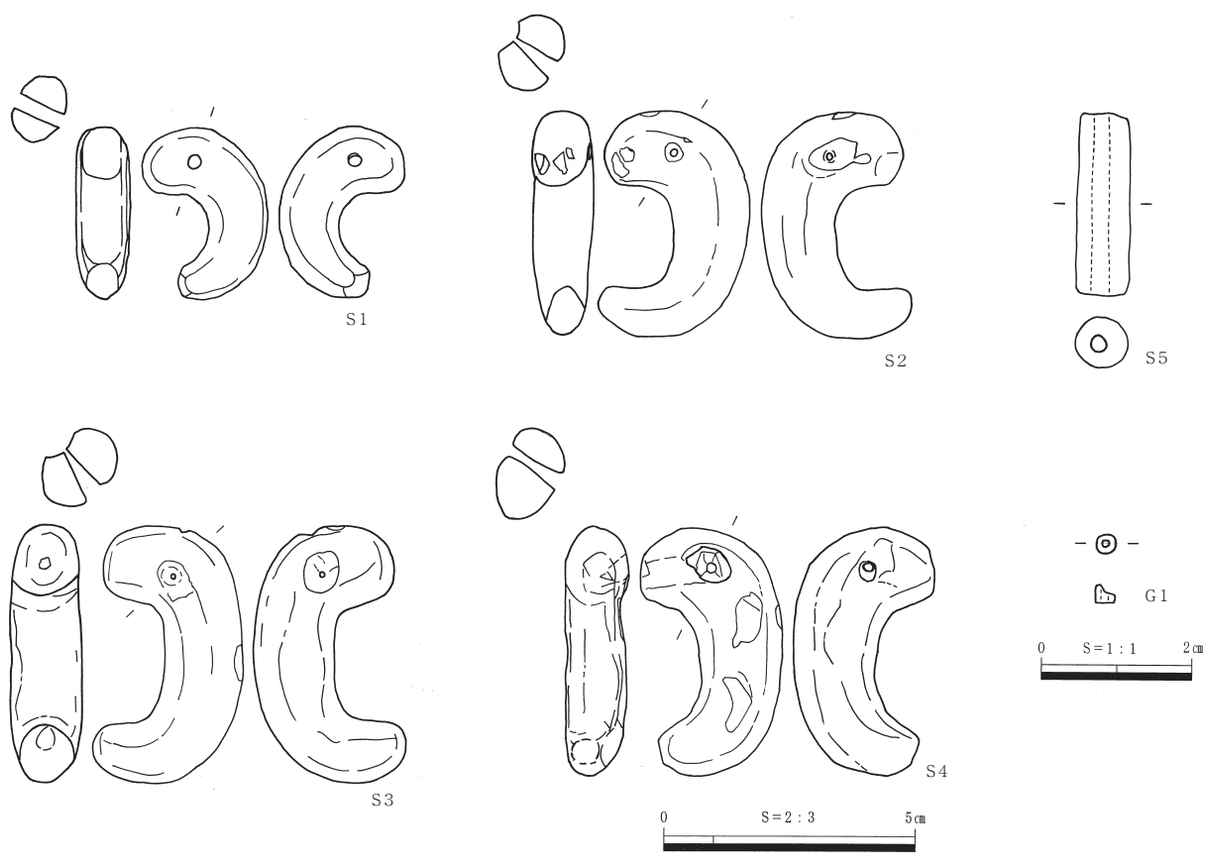
第７節　玉製品・石器

第１項　玉製品（第667図,PL171）

勾玉３点、管玉１点、小玉１点が出土している。

Ｓ１は滑石製の勾玉である。Ｐ６区の盛土18から出土し、古墳時代前期後半から中期の資料である。孔は両面穿孔で、断面形は楕円形を呈する。表面は丁寧に研磨されている。Ｓ２～４は瑪瑙製の大型品である[1)]。Ｐ７区の河道６から出土した資料で、出土位置が近いことからセットである可能性が高い。平面形はコの字形を呈し、いずれも鉄針による片面穿孔である。終孔部には割れ円錐が生じるが、研磨は施されていない。Ｓ２・３は丁寧に研磨され、光沢があるのに対して、Ｓ４は研磨が雑で、稜線や研磨痕が残る。瑪瑙は花仙山産で、いずれも古墳時代後期後半の資料と考えられる。Ｓ５は蛇紋岩製の管玉で、石針による両面穿孔である。Ｇ１はガラス製の小玉で、色調は淡青色である。上面に歪みがあり、突出部がある。Ｐ10区の道路１第１次盛土敷葉・敷粗朶層の土壌の水洗選別により回収された資料で、混入品であろう。

【註】
1）Ｓ２～４の瑪瑙製勾玉については米田克彦氏にご教示いただいた。



第667図　出土玉製品

第２項　石　器（第667 ～ 671図,PL171）

石器の出土数は少ない。ここでは石鏃３点、石核３点、火打石３点、磨石１点、磨製石斧３点、石剣１点、石包丁２点、砥石３点、碁石２点、環石１点を掲載した。石材は肉眼観察による。

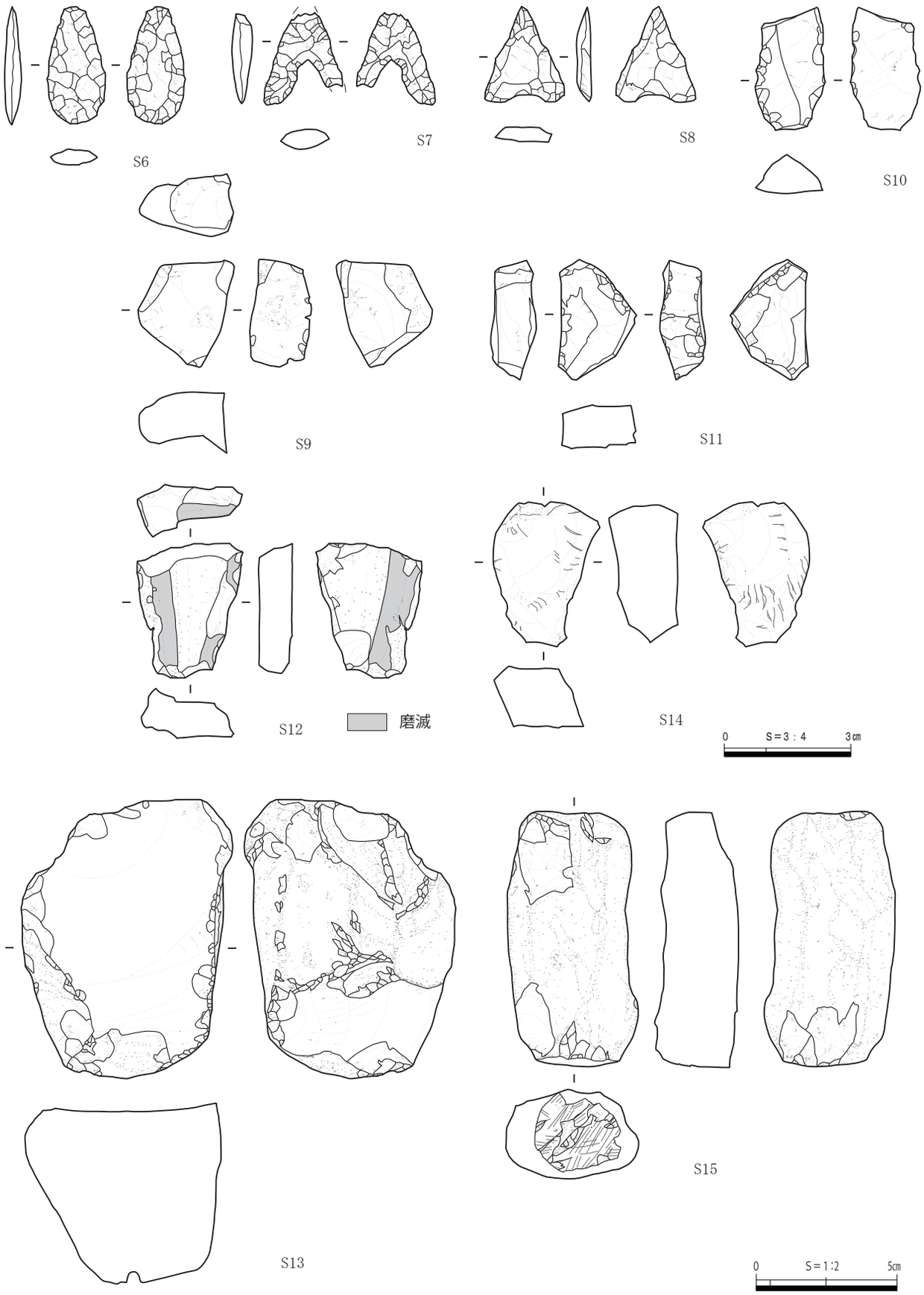
Ｓ６～８は石鏃である。Ｓ６はサヌカイト製の円基式石鏃である。両面を押圧で丁寧に仕上げていて、先端をおそらく使用によってわずかに欠く。Ｓ７は黒曜石製の石鏃で、長い脚部をもつ。先端と脚部の欠損は埋没後のものである。Ｓ８はサヌカイト製の石鏃である。横形剥片を素材に用い、素材の折れ面を一部に残す。調整は粗く形態も不整形である。

Ｓ９は玉髄製の石核である。板状の６面体で、１面の礫面と５面の単剥離面で構成される。2.5㎝程度までの剥片しか取られていないので、石鏃等の石器素材を剥離したものとは考えにくい。未使用の火打石である可能性がある。S10は玉髄製の火打石である。打面部を折損した縦長の剥片の両側縁に、主剥離面側からの細かな剥離が多数認められる。S11は玉髄製の火打石で、平面が二等辺三角形を呈する板状のもの。ほぼすべての稜線上に細かな潰れ状の剥離面があり、繰り返し打ち付けられたことがわかる。

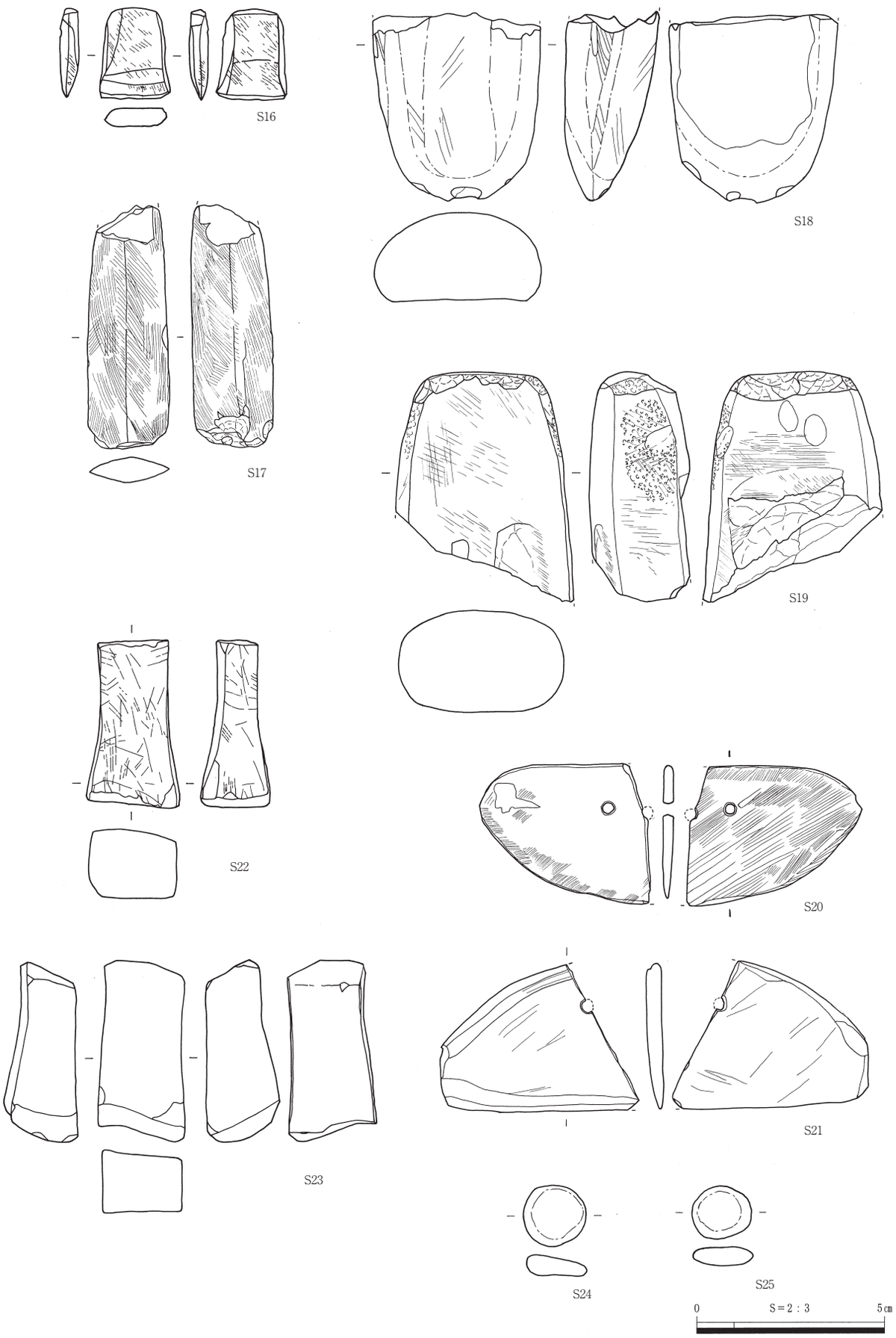
S12は黒曜石の石核である。平面台形の板状で、４側面のうち１面は礫面で、他の３面は細かな剥離面で構成される。表裏２面の平坦面は、一見そのほとんどが研磨されているように見えるが、実際は自然に形成された素材礫の裂溝内部の面であり、裂溝を利用して板状の石核素材を割り取ったものと考えられる。折れ面上を中心に軽度の磨滅が認められる。石器の素材を生産するための石核としては小さく、形態的にもほとんど生産性をもたない。黒曜石は脆いため火打石には不向きと考えられるが、形態と、角を中心に細かな剥離面があることからは火打石の可能性が捨てきれない。S13は黒曜石の石核である。厚みがある角礫から１枚の板状の剥片を取っただけのものである。剥離後に転磨を受けている。S14は玉髄製の火打石である。厚みのある板状を呈し、１辺に表裏両方向への貝殻状の小剥離面が集中している。

S15は安山岩の磨石である。六角柱状の角礫の一端に顕著な研磨面と細かな線状痕がある。研磨面の角と、もう一方の端部を中心に剥離面が複数存在することから、敲石としても利用されたことがわかる。硬い安山岩を用いていることも考慮すると、鉱物や顔料などの比較的硬い対象物を砕きながら粉末にする作業に用いられたものと推定される。

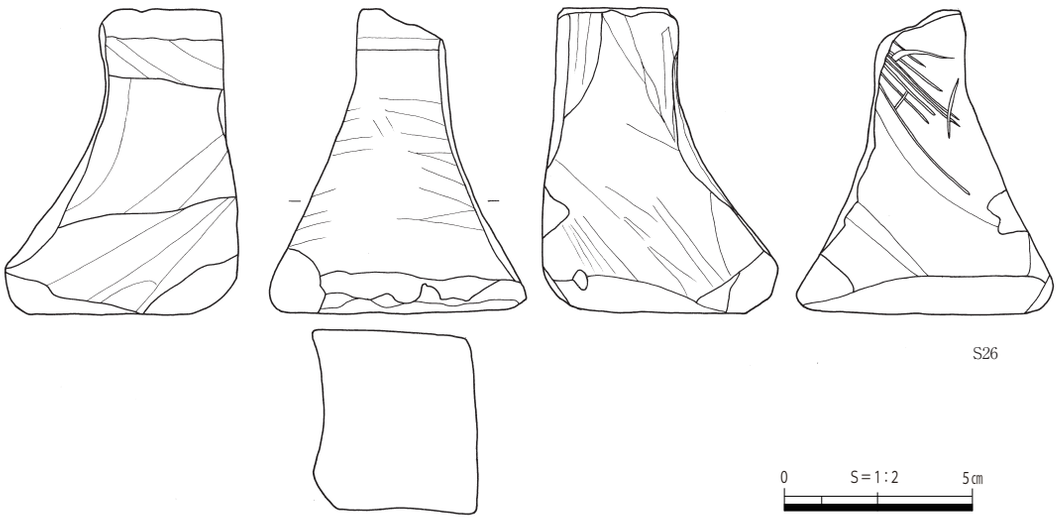
Ｓ16は磨製片刃石斧で、鑿状片刃石斧とも呼ばれる小型品である（河合2015）。Ｐ11区の盛土28から出土し、弥生時代中期の資料である。石材は蛇紋岩で、非常に丁寧に研磨され精巧なつくりである。Ｓ17は磨製石剣で、剣先を欠く。丁寧に研磨され、鎬が明瞭につくり出されている。石材は粘板岩である。Ｓ18・19は太型蛤刃石斧である。石材はＳ18が閃緑岩、Ｓ19が玄武岩である。Ｓ20・21は石包丁で、いずれも結晶片岩である。Ｓ20は背が直線的で、刃部が外湾するタイプで、孔は両面穿孔である。Ｓ21は背が外湾、刃部が直線をし、孔は両面穿孔である。Ｐ10区の盛土25から出土し、時期は弥生時代中期後葉から古墳時代前期初頭である。Ｓ24・25は碁石で、Ｓ15は道路１の第１次盛土から出土している。いずれもの古代の資料である。Ｓ22・23・26は砥石で、いずれも角柱状を呈する。Ｓ22は古墳時代、その他は古代の資料である。Ｓ26は使用による砥面の減りが４面とも著しい。石材はＳ22・23が花崗岩、Ｓ26が凝灰岩である。Ｓ27は環状石斧に似た石器で、環石と呼ばれ、青谷上寺地遺跡に類例がある。ドーナツ状を呈し、中央の孔は両面穿孔である。表面は面取りされ、研磨痕が残る。石材は珪岩である。



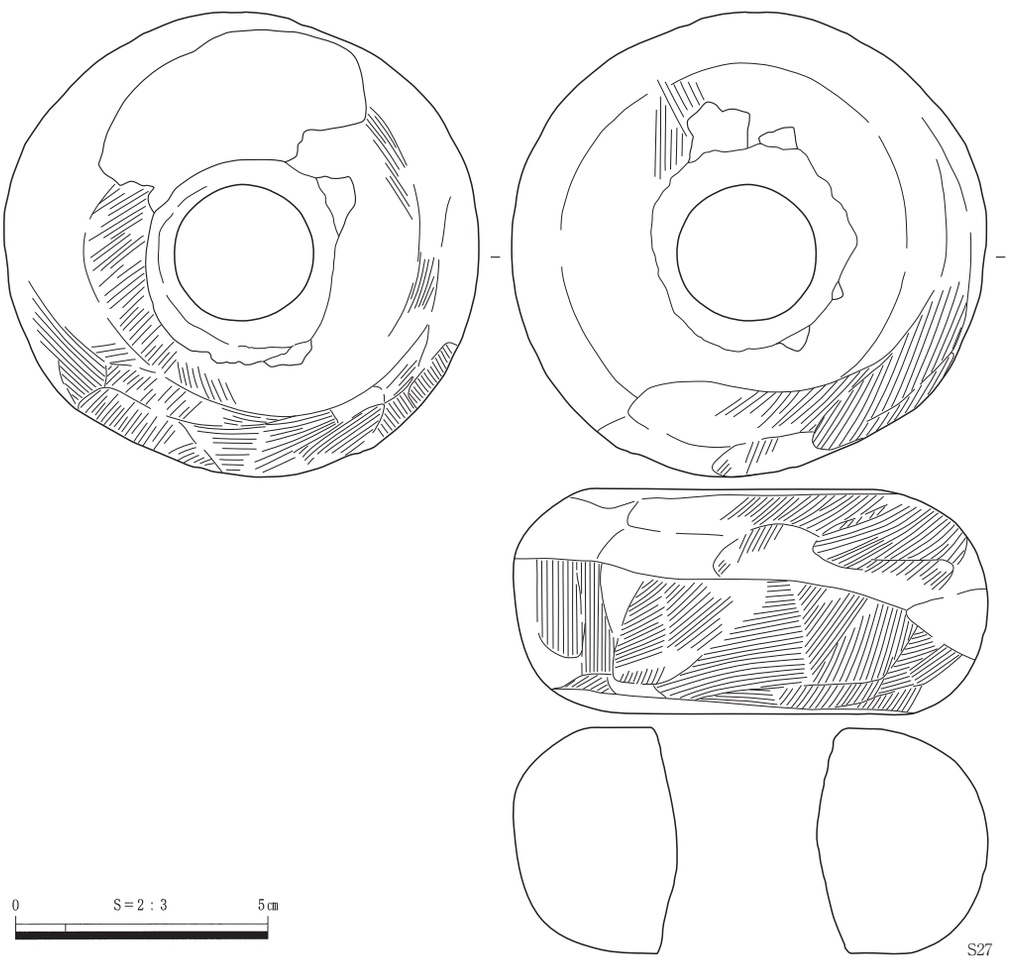
第668図　石器（１）



第669図　石器（２）



第670図　石器（３）



第671図　石器（４）

【参考文献】
河合章行編2015『石器（１）』青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告10　鳥取県埋蔵文化財センター

表５　出土土器観察表（１）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
1	365図	P1区	476 494 496	－	溝１	須恵器 蓋	※14.2	－	2.4	回転ナデ、天井部回転ケズリ後ツマミ貼付	内外面　灰白色	
2	365図	P1区	521	－	溝２	須恵器 高台坏	－	※8.0	△1.4	回転ナデ、外底面回転糸切り一部ヘラケズリ後高台貼付	内面　灰色～黒褐色 外面　灰色～オリーブ褐色	
3	365図	P1区	525	－	溝２	須恵器 坏	－	※8.0	△2.3	回転ナデ、外底面回転糸切り	内面　浅黄色 外面　灰白色～灰色	
4	365図	P1区	551 637	－	溝２	須恵器 甕 口縁部	※20.6	－	△5.3	回転ナデ	内外面　灰白色	自然釉付着
5	365図	P1区	341	Ⅳ層相当層	－	土師器 坏	－	※5.0	△1.6	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　にぶい橙色	
6	365図	P1区	341	Ⅳ層相当層	－	土師器 坏	－	※4.7	△1.5	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　橙色	
7	365図	P1区	252 253	Ⅳ層相当層	－	須恵器 蓋	※13.4	－	2.6	回転ナデ、天井部回転ケズリ後ツマミ貼付	内外面　灰色	内面中央に磨り面
8	365図	P1区	484	Ⅳ層相当層	－	須恵器 蓋口縁部	※13.8	－	△1.5	回転ナデ、天井部回転糸切り周縁部ケズリ	内面　灰白色～黄褐色 外面　灰～黄褐色	
9	365図	P1区	465	Ⅳ層相当層（下層）	－	須恵器 高台坏	－	※8.8	△2.3	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付	内外面　灰色～黄褐色	
10	365図	P1区	215 242	Ⅳ層相当層	－	須恵器 皿	※18.8	※16.0	2.3	回転ナデ、外底面回転糸切り後周縁部ケズリ後ナデ	内面　灰黄色 外面　黄灰色	
11	365図	P1区	750	Ⅳ層相当層	－	須恵器 壺 底部	－	※7.2	△2.4	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付	内面　灰白色 外面　灰色	
12	365図	P1区	311	Ⅳ層相当層	－	須恵器 卸皿口縁部	－	－	△1.2	内面ナデ、内面に格子状の卸目、外面ナデ、一部に格子状の線	内外面　灰色	
13	365図	P1区	787	Ⅳ層相当層	－	土師器 甕 口縁部	※32.8	－	△9.0	内面口縁部横ハケ、頸部以下ケズリ、外面縦ハケ、口縁部付近ハケ後横ナデ	内外面　にぶい褐色	
14	365図	P1区	359	Ⅳ層相当層下層	－	須恵器 蓋 口縁部	※11.0	－	△1.8	回転ナデ、天井部回転ケズリ	内面　灰色 外面　灰白色	
15	365図	P1区	783	Ⅳ層相当層下層	－	須恵器 蓋 口縁部	※6.9	－	△2.0	回転ナデ	内外面　灰白色	外面に煤付着
16	365図	P1区	268	Ⅳ層相当層下層	－	須恵器 高台坏	－	※11.2	△1.5	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付	内外面　灰色	
17	365図	P1区	757	Ⅳ層相当層下層	－	須恵器 高台坏	－	※9.2	△1.6	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付	内面　灰白色 外面　灰色	
18	365図	P1区	316 318	Ⅳ層相当層下層	－	須恵器 高台坏	－	※11.0	△1.6	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り後高台貼付	内外面　黄灰色	外底面に長短の線で刻画
19	365図	P1区	770	Ⅳ層相当層下層	－	須恵器 高台坏	－	※9.0	△3.2	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り後ナデ後高台貼付	内外面　灰色	
20	365図	P1区	291 308 309 320 702	Ⅳ層相当層下層	－	須恵器 甕	※20.3	－	△14.5	口縁部内外面ナデ、体部外面平行タタキ、体部内面青海波当て具	内面　褐灰色 外面　灰白色	
21	365図	P1区	785	Ⅳ層相当層下層	－	土師器 甕 口縁部	※33.6	－	△6.7	内面口縁部横ハケ、頸部以下ケズリ゛、外面縦ハケ、口縁部横ナデ、指頭圧痕	内外面　にぶい黄橙色	外面に煤付着
22	366図	P1区	704	Ⅴ層	－	須恵器 高坏 脚部	－	－	△6.1	回転ナデ、坏内面ナデ、坏外面回転糸切り後脚部貼付	内外面　灰白色	
23	366図	P1区	698	Ⅴ層	－	弥生土器 甕 口縁部	※18.2	－	△2.7	内面口縁部横ナデ、工具痕、外面横ナデ、３条の凹線文	内面　にぶい黄色 外面　にぶい橙色	
24	366図	P1区	727	Ⅸ層相当層	－	弥生土器 甕口縁部	－	－	△2.2	内面ナデ、指頭圧痕、外面ナデ、口縁端部下半に刻み	内面　にぶい黄橙色 外面　褐色	
25	366図	P1区	795	Ⅸ層相当層	－	縄文土器 深鉢口縁部	－	－	△6.8	内面端部内面押さえる、指頭圧痕、外面斜め方向の粗いナデ	内外面　にぶい黄橙色	
26	366図	P1区	792	Ⅸ層相当層	－	縄文土器 深鉢口縁部	－	－	△8.8	内外面擦痕または粗いナデ、外面口縁端部に突帯貼付後刻目	内外面　黒色	
27	366図	P1区	745	Ⅸ層相当層	－	縄文土器 深鉢口縁部	－	－	△6.6	内外面横方向の粗いナデ	内外面　暗灰黄色	
28	366図	P1区	743	Ⅸ層相当層	－	縄文土器 深鉢	※32.0	－	△11.5	内面ナデ、指頭圧痕、外面斜め方向の粗いナデ	内外面　灰褐色	
29	366図	P1区	746	Ⅸ層相当層	－	縄文土器 深鉢	※23.8	－	△10.6	内外面横方向の粗いナデ、指頭圧痕、口縁部付近ナデ	内面　橙色～にぶい黄橙色 外面　にぶい黄橙色～黄褐色	
30	366図	P1区	792 797	Ⅸ層相当層	－	縄文土器 深鉢	※36.4	－	△14.0	内外面横方向の粗いナデ、外面体部ナデ、指頭圧痕	内外面　灰黄色	
31	366図	P1区	797	Ⅸ層相当層	－	縄文土器 浅鉢口縁部	※23.6	－	△5.3	内外面横方向の細いナデ、外面口縁部６条の凹線	内面　黄灰色～黒褐色 外面　黄灰色～黒色	
32	366図	P1区	745	Ⅸ層相当層	－	縄文 浅鉢口縁部	※26.0	－	△5.5	内外面横方向の細いナデ、外面口縁部２条の凹線	内外面　黄灰色	
33	366図	P1区	742	Ⅸ層相当層	－	縄文土器 浅鉢	※27.6	－	△6.6	内外面横方向の粗いナデ、外面口縁部に３条の凹線と巻き貝の押圧	内外面　浅黄橙色	
34	366図	P1区	746	Ⅸ層相当層	－	縄文土器 深鉢	－	－	△7.1	内外面横方向の粗いナデ、外面体部に２条の凹線、巻き貝の押圧	内面　灰黄色～灰白色 外面　明褐灰色～にぶい橙色	
35	367図	10区	10-259	礫包含層	－	須恵器 蓋	－	－	△1.8	回転ナデ、天井部回転ケズリ後、摘み貼付	内外面　灰色	
36	367図	10区	10-259	礫包含層	－	須恵器 坏蓋	※8.0	－	△1.8	回転ナデ	内外面　灰色	最大径10.2cm 受部径9.0cm
37	367図	10区	10-153	礫包含層	－	須恵器 坏蓋	－	－	△1.7	回転ナデ、外面天井部回転ケズリ後「×」ヘラ記号	内外面　灰色	
38	367図	10区	10-259	礫包含層	－	須恵器 坏蓋	－	－	△1.7	回転ナデ、外面天井部回転ケズリ	内外面　にぶい黄橙色～灰色	
39	367図	10区	10-152	礫包含層	－	須恵器 高台坏	－	※7.6	△1.8	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付け	内外面　灰色	

表６　出土土器観察表（２）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
40	367図	10区	10-274	礫包含層	－	須恵器 高台坏	－	※9.1	△2.3	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付け	内面　黄灰色 外面　灰色～黄灰色	
41	367図	10区	10-259	礫包含層	－	須恵器 坏	－	6.2	△1.6	回転ナデ、外底面に回転ケズリ、ナデ後「－」ヘラ記号	内外面　灰色	
42	367図	10区	10-259	礫包含層	－	須恵器 坏身	※11.4	－	△2.0	回転ナデ	内面　灰色～オリーブ灰色 外面　灰色	最大径 14.2cm 受部径 12.7cm
43	367図	10区	10-206	礫包含層	－	須恵器 高坏	－	－	△2.2	回転ナデ、坏底部中央に粘土を充填	内外面　灰色	
44	367図	10区	10-259	礫包含層	－	須恵器 高坏	－	※9.4	△2.1	回転ナデ、外面脚部に切り込み状の透かし	内外面　灰色	
45	367図	10区	10-274	礫包含層	－	須恵器 壺	－	－	△4.8	回転ナデ	内外面　青灰色	
46	367図 PL97	10区	287　288 291～299	礫包含層	－	須恵器 甕	△19.9	－	53.7	内外面ナデ、外面体部平行タタキ、内面体部青海波の当て具	内外面　灰色	
47	368図	10区	10-261	礫包含層	－	須恵器 坏蓋	－	－	△2.8	回転ナデ	内面　灰色 外面　暗灰色～灰白色	
48	368図	10区	10-261	礫包含層	－	須恵器 坏身	△8.6	－	△1.7	回転ナデ	内外面　灰色	最大径 11.1cm 受部径 10.1cm
49	368図	10区	10-261	礫包含層	－	須恵器 坏身	※11.2	－	△3.7	回転ナデ	内外面　灰色	最大径 14.0cm 受部径 12.5cm
50	368図	10区	10-273	礫包含層	－	須恵器 坏身	－	－	△2.7	回転ナデ	内外面　灰色	最大径 13.4cm 受部径 12.2cm
51	368図	10区	10-276	礫包含層	－	須恵器 坏身	△12.8	－	△2.3	回転ナデ	内外面　黄灰色	最大径 15.0cm 受部径 14.0cm
52	368図	10区	10-271	礫包含層	－	須恵器 高台坏	－	13.8	△4.3	回転ナデ、外底面回転ケズリ後高台貼付け	内外面　灰色	
53	368図	10区	10-276	礫包含層	－	須恵器 高坏	△14.7	11.2	11.2	回転ナデ、坏底部回転ヘラ切り、脚部２方向に切目状の透かし	内外面　灰色	
54	368図	10区	10-283	礫包含層	－	須恵器 高坏	－	－	△8.5	回転ナデ、内面坏底部中央を強く押圧	内外面　黄灰色～灰白色	
55	368図	10区	10-273	礫包含層	－	須恵器 高坏 脚部	－	12.8	△10.1	回転ナデ、外面柱上部に段、中位に２条の凹線状の段	内面　灰色～灰オリーブ色 外面　灰色	
56	368図	10区	10-273	礫包含層	－	須恵器 高坏 脚部	－	－	△10.7	回転ナデ、外面柱部中位に２条の凹線	内外面　灰色	
57	368図	10区	10-272	礫包含層	－	須恵器 高坏 脚部	－	－	△10.0	回転ナデ、外面柱部中位に２条の凹線、坏底面に指頭圧痕	内面　黒色～褐灰色 外面　灰色～暗褐色	
58	368図	10区	10-283	礫包含層	－	須恵器 高坏	－	－	△4.7	内外面　回転ナデ、坏底部回転ヘラ切り、脚部接合部まで２方向の透かし	内外面　黄灰色	
59	368図	10区	10-238	礫包含層	－	須恵器 高坏	－	－	△4.5	回転ナデ、坏底部内面布目痕、脚部接合部まで２方向の透かし	内外面　灰色	
60	368図	10区	10-270	礫包含層	－	須恵器 高坏 脚部	－	9.9	△5.4	回転ナデ、坏内底部ナデ	内面　灰白色 外面　灰色	
61	368図	10区	10-277	礫包含層	－	須恵器 高坏 脚部	－	※10.6	△6.6	回転ナデ、外面脚部中位に２条の凹線、２段２方向の方形透かし	内面　灰白色 外面　灰色	
62	368図	10区	10-271	礫包含層	－	須恵器 高坏 脚部	－	－	△9.9	回転ナデ、外面柱部カキメ、２段２方向の方形透かし	内外面　灰色～浅黄色	
63	368図	10区	10-272	礫包含層	－	須恵器 高坏 脚部	－	※10.3	△7.2	回転ナデ、外面脚部中位２方向の方形透かし	内外面　灰白色～灰色	
64	368図	10区	10-261	礫包含層	－	須恵器 壺 口縁部	※9.6	－	△5.8	回転ナデ、外面口縁部中位に横方向のカキメ後ハケ状工具でナデ上げ	内面　灰白色～灰色 外面　暗灰色～灰白色	
65	368図	10区	10-283	礫包含層	－	須恵器 壺 口縁部	※16.2	－	△6.3	内面ナデ、外面ハケ状工具でナデ上げ	内外面　灰白色～灰色	
66	368図	10区	10-262	礫包含層	－	須恵器 広口壺	※15.4	－	△5.5	回転ナデ	内外面　灰色	
67	368図	10区	10-283	礫包含層	－	須恵器 壺	－	－	△4.9	回転ナデ、外面体部中位以下に横方向のカキメ	内外面　青灰色	
68	368図	10区	10-300	礫包含層	－	須恵器 提瓶 頸部～体部	－	－	△10.6	内面ナデ、頸部以下青海波当て具、外面口縁部ナデ、ハケ状工具でナデ上げ、体部平行タタキ	内外面　灰色～灰白色	
69	368図	10区	10-270 10-277 10-300	礫包含層	－	須恵器 甕	△38.4	－	△19.0	内面ナデ、頸部以下青海波当て具、外面口縁部３・２・１条の凹線、間に15条単位の波状文、体部平行タタキ	内外面　灰色～灰白色	
70	369図	10区	10-283 10-289	礫包含層	－	土師器 甕	※15.5	－	△17.4	内外面複合口縁部横ナデ、体部外面横・斜めハケ、内面斜めケズリ	内面　にぶい黄褐色～黒褐色 外面　にぶい黄橙色～黒色	
71	369図	10区	10-270	礫包含層	－	土師器 甕	－	－	△11.5	内面口縁部ハケ、頸部以下ケズリ、外面口縁部ナデ、体部縦ハケ	内外面　灰褐色	
72	369図	10区	10-95	盛土内	条里1	須恵器 坏蓋	－	－	△2.2	内面天井部ナデ、外面ツマミ貼付け	内面　灰色 外面　黒色～にぶい黄色～灰白色	
73	369図	10区	10-228	盛土内	条里1	須恵器 坏蓋	－	－	△1.9	内面回転ナデ、外面回転ケズリ後ツマミ貼付け	内外面　灰色	

表７　出土土器観察表（３）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量（cm）			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
74	369図	10区	10-230	盛土内	条里1	須恵器 坏蓋	※10.2	－	△2.0	回転ナデ	内面　灰色 外面　オリーブ黒色	最大径 12.5cm 受部径 11.6cm
75	369図	10区	10-82 10-117	盛土内	条里1	須恵器 坏蓋	※12.1	－	2.8	回転ナデ、天井部回転ケズリ後ツマミ貼付け	内面　灰白色～褐灰色 外面　灰色	最大径 14.4cm 受部径 12.6cm
76	369図	10区	10-285	盛土内	条里1	須恵器 坏蓋	△10.0	－	△1.8	回転ナデ	内外面　灰色	最大径 12.4cm 受部径 10.8cm
77	369図	10区	10-230	盛土内	条里1	須恵器 坏	※12.0	－	△2.2	回転ナデ	内外面　オリーブ黒色	
78	369図	10区	10-285	盛土内	条里1	須恵器 坏	※11.2	－	△2.5	回転ナデ	内外面　灰色	
79	369図	10区	10-230	盛土内	条里1	須恵器 高台坏	－	※10.0	△2.3	回転ナデ、内底面ナデ、外底面回転ヘラ切り後高台貼付け	内面　灰色 外面　灰白色～灰色	
80	369図	10区	10-122	盛土内	条里1	須恵器 高台坏	※13.8	8.2	4.6	回転ナデ、外底面回転ケズリ後高台貼付け	内面　灰色～褐灰色 外面　灰色	漆付着
81	369図	10区	10-285	盛土内	条里1	須恵器 坏身	△12.2	－	△2.8	回転ナデ	内外面　灰色	最大径 14.2cm 受部径 13.2cm
82	369図	10区	10-144	盛土内	条里1	須恵器 高坏	－	9.0	7.4	回転ナデ、坏底部中央強いナデで窪む	内外面　灰黄褐色～灰色	
83	369図	10区	10-231	盛土内	条里1	須恵器 高坏	－	－	△7.7	回転ナデ	内外面　灰色	
84	369図	10区	10-165	盛土内	条里1	須恵器 高坏	△14.0	9.0	8.8	回転ナデ、坏底部中央強いナデで窪む	内外面　灰色	
85	369図	10区	10－121（他）	盛土内	条里1	須恵器 高坏	※16.8	※8.8	10.0	回転ナデ、脚部１段２方向の方形透かし	内外面　灰色	
86	369図	10区	10-94 10-96 10-97 10-98	遺構面直上 盛土 盛土 Ⅳ層	条里1 条里1 条里1 条里1	須恵器 高坏	△13.4	－	△11.4	回転ナデ、外面坏上部凹線状に窪む、下半に横方向のカキメ	内面　灰色 外面　灰色～暗オリーブ灰色	
87	369図	10区	10-123	盛土内	条里1	須恵器 長頸壺	－	－	△16.2	外面回転ナデ、頸部２条以上、体部１条の凹線、体部下半回転ケズリ	内外面　灰色	
88	369図	10区	10-211	盛土内	条里1	須恵器 壺	※14.4	－	△3.1	回転ナデ、口縁端部内面に凹線状の窪み	内外面　灰色	
89	369図	10区	10-204	盛土内	条里1 ？	須恵器 壺類 底部	－	※8.5	△2.4	回転ナデ、外底部回転糸切り後高台貼付け	内外面　灰色	
90	369図	10区	10-176	盛土内	条里1	須恵器 甕	－	－	△5.7	回転ナデ、外面体部上に１条の凹線、下半回転ケズリ	内外面　灰色	
91	369図	10区	10-211	盛土内	条里1	須恵器 長頸壺底部	－	9.0	△4.3	回転ナデ、外底部高台貼付け	内外面　灰色	
92	369図	10区	10-229	盛土内	条里1	須恵器 横瓶	※15.3	－	△6.9	口縁部ナデ、体部外面格子状に平行タタキ、内面青海波の当て具	内外面　灰色	
93	369図	10区	10-204	盛土内	条里1 ？	土師器 高台坏	※14.2	－	△4.7	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付け	内面　灰黄色 外面　灰黄色～暗灰黄色	
94	369図	10区	10-301	盛土内	条里1	土師器 甕 口縁部	※11.4	－	△3.9	内外面口縁部横ナデ、内面頸部以下ケズリ、外面体部以下縦ハケ	内外面　灰黄色	
95	369図	10区	10-191	盛土内	条里1	土師器 甕	△17.8	－	△4.0	内外面口縁部横ナデ、内面頸部以下ケズリ、外面体部以下縦ハケ	内面　オリーブ黒色～暗灰黄色 外面　黒色～黄灰色	
96	369図	10区	10-221	盛土内	条里1	土師器 甕	△17.8	－	△3.2	内外面口縁部横ナデ、内面頸部以下ケズリ	内外面　褐灰色	
97	369図	10区	10-145	盛土内	条里1	土師器 甕 口縁部	※21.6	－	△5.4	内外面口縁部横ナデ、内面頸部以下ケズリ	内面　にぶい黄色 外面　暗灰黄色	
98	369図	10区	10-155（他）	Ⅳ層 盛土中 盛土内	条里1	弥生土器 甕	△15.8	－	△8.2	内面口縁部横ナデ、頸部以下ケズリ、外面口縁部に５条の凹線、頸部ナデ、肩部に刺突	内外面　明褐色	
99	369図	10区	10-210	盛土内	条里1	弥生土器 甕	※17.2	－	△5.6	内面口縁部横ナデ、頸部以下ケズリ、外面口縁部に５条の凹線、頸部ナデ	内外面　にぶい赤褐色	
100	370図	10区	10-257	盛土内	条里2	須恵器 坏蓋	△10.8	－	△3.3	回転ナデ	内面　灰色 外面　青灰色	
101	370図	10区	10-251	盛土内	条里2	須恵器 高台坏	－	7.8	△2.9	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り後高台貼付け	内外面　灰色	
102	370図	10区	10-254	盛土内	条里2	土師器 甕	△23.4	－	△3.2	口縁部横ナデ	内面　灰色 外面　暗褐色	
103	370図	10区	10-258	盛土内	条里2	土師器 甕	△24.8	－	△5.7	内外面口縁部横ナデ、内面頸部以下ケズリ、外面頸部ナデ	内面　灰黄色 外面　黒褐色	
104	370図	10区	10-247	盛土内	条里2	弥生土器 甕	※17.4	－	△7.0	内外面口縁部横ナデ、内面頸部以下ケズリ、外面頸部以下縦ハケ	内外面　灰黄色	
105	370図	10区	10-131	－	集石1	土師器 坏	△11.0	5.0	3.5	回転ナデ、外底面回転糸切り	内面　にぶい橙色 外面　にぶい橙色～灰黄褐色	
106	370図	10区	10-136	Ⅲ層下	－	瓦質羽釜	－	－	△6.0	内面ナデ、外面ナデ、鍔貼付け、指頭圧痕	内面　灰黄褐色～黒色 外面　黒色	
107	370図	10区	10-137	Ⅳ層（砂）	－	須恵器 蓋	－	－	△1.3	内面不定方向ナデ、外面回転ケズリ後摘み貼付け	内面　灰白色 外面　灰色	

表８　出土土器観察表（４）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量（cm）			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
108	370図	10区	10-7	Ⅳ層	－	須恵器 坏蓋	△8.6	－	3.8	内外面回転ナデ、外面回転ケズリ後ツマミ貼付け	内外面　灰色	漆付着 最大径 11.1cm 受部径 10.1cm
109	370図	10区	10-47	Ⅳ層	－	須恵器 高台坏	－	7.8	△2.2	回転ナデ、外底面回転糸切り後周縁部ナデ、高台貼付け	内外面　灰色	
110	370図	10区	10-48	Ⅳ層		須恵器 高台坏	－	※9.2	△1.8	回転ナデ、外底面回転ケズリ後高台貼付け	内外面　灰色	
111	370図	10区	10-164	Ⅳ層	－	須恵器 高台坏	－	9.0	△2.2	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付け	内外面　灰色	
112	370図	10区	10-102 10-106	Ⅳ層	－	須恵器 高坏	△15.1	9.6	9.8	回転ナデ、脚部１段方形１と切り目状１の透かし	内外面　灰色	
113	370図	10区	10-75 10-85 10-86	Ⅳ層	－	須恵器 高坏	△15.2	－	△8.0	回転ナデ	内外面　灰色～灰白色	
114	370図	10区	10-141	Ⅳ層 砂質再堆積土	－	須恵器 皿	※15.7	9.0	△3.0	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　灰白色	
115	370図	10区	10-137 10-159	Ⅳ層（砂） Ⅳ層（砂混）	－	須恵器 甕 頸部	－	－	△8.5	内外面口縁部ナデ、体部外面平行タタキ、体部内面青海波の当て具	内外面　灰色	
116	370図	10区	10-181	Ⅳ層 （砂混）	－	須恵器 甕 口縁部	※20.6	－	△6.6	内外面口縁部ナデ、体部外面平行タタキ、体部内面当て具後ナデ	内外面　黒褐色～灰白色	
117	370図	10区	10-115	Ⅳ層	－	須恵器 壺 口縁	△24.6	－	△2.5	回転ナデ	内外面　灰色	
118	370図	10区	10-59	Ⅳ層	－	須恵器 広口壺	※14.7	－	△4.2	回転ナデ	内外面　灰色	
119	370図	10区	10-35	Ⅳ層	－	須恵器 壺類か	－	※12.4	△3.1	内外面ナデ、外面底部高台貼付け	内外面　灰色	
120	370図	10区	10-69	Ⅳ層	－	須恵器 壺	－	※8.5	△2.6	回転ナデ、外底面回転糸切り	内面　灰白色 外面　灰色	
121	370図	10区	10-183	Ⅳ層 （砂混）	－	須恵器 長頸壺	－	－	△8.3	内外面回転ナデ、外面頸部に２条の凹線	内面　灰色～灰白色 外面　灰色	
122	370図	10区	10-60	Ⅳ層	－	須恵器 瓶	－	－	△7.9	回転ナデ	内外面　灰色	
123	370図	10区	10-20・ 66・70	Ⅳ層	－	須恵器 平瓶 口縁～肩部	△7.2	－	△9.6	内外面ナデ、口縁部回転ナデ、体部内外面ナデ	内外面　灰白色～灰色	
124	370図	10区	10-279	Ⅳ層	－	土師器 坏	※9.9	－	△3.1	回転ナデ	内面　にぶい橙色～橙色 外面　にぶい橙色	
125	370図	10区	10-105	Ⅳ層	－	土師器 坏	※10.8	－	△3.7	回転ナデ	内外面　灰黄色	
126	370図	10区	10-21	Ⅳ層	－	土師器 坏	※11.8	6.2	4.0	回転ナデ、外底面回転糸切り	内面　灰黄褐色 外面　にぶい黄橙色	
127	370図	10区	10-24	Ⅳ層	－	土師器 坏	※10.6	※7.2	3.8	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り・板目	内外面　にぶい黄色	
128	370図	10区	10-135	Ⅳ層（砂）	－	土師器 坏	※12.5	※7.8	3.0	回転ナデ、外底面回転ケズリ	内面　浅黄色 外面　灰黄色	
129	370図	10区	10-49 10-164 10-241	Ⅳ層以下 Ⅳ層（砂） Ⅳ層（砂層）	－	土師器 坏	※11.9	※6.8	3.2	回転ナデ、外底面回ケズリ後ミガキ	内外面　灰白色	
130	370図	10区	10－40 （他）	Ⅳ層	－	土師器 坏	△16.5	8.4	5.3	回転ナデ、外底面回転ケズリ後ナデ、内面横方向ミガキ、外面押圧	内外面　橙色～灰色	
131	370図	10区	10-134	Ⅳ層 （砂）	－	土師器 甕	△14.8	－	△3.8	内外面複合口縁部横ナデ	内外面　灰白色	
132	370図	10区	10－112	Ⅳ層		土師器 甕	△17.6	－	△4.2	内外面複合口縁部横ナデ	内外面　褐灰色	
133	370図	10区	10-58	Ⅳ層	－	土師器 甕	△23.6	－	4.9	内外面口縁部横ナデ、内面頸部以下ケズリ	内外面　灰黄色	
134	370図	10区	10-129	Ⅳ層 （砂層）	－	土師器 甕	△39.2	－	△5.5	内外面口縁部横ナデ、内面頸部以下ケズリ	内外面　灰黄褐色	
135	371図	P2区	2	Ⅳ層	－	須恵器 高台坏	－	※8.6	△1.2	内外面回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付け	内面　青灰色 外面　紫黒色	
136	371図	P2区	43	Ⅳ層	－	土師器 蓋	－	－	△1.6	回転ナデ、天井部ミガキ後ツマミ貼付け	内面　明褐灰色 外面　橙色～灰黄色	両面赤彩 紐径 2.3cm
137	372図 PL98	P2区	513	Ⅵ層相当層	－	縄文土器 深鉢口縁部	－	－	△7.2	内外面粗いナデ後刻目突帯貼付け、体部内外面に施文	内面　にぶい黄褐色 外面　オリーブ黒色	
138	372図 PL98	P2区	437	Ⅷ・Ⅸ層 相当層	－	縄文土器 深鉢口縁部	－	－	△4.9	内外面粗いナデ後口縁端部に刻目突帯貼付け、体部内外面に施文	内面　黒褐色 外面　黒色	
139	372図	P2区	593	Ⅷ・Ⅸ層 相当層	－	縄文土器 深鉢口縁部	－	－	△6.3	内外面横方向の粗いナデ後口縁端部に刻目突帯貼付け	内外面　黄褐色～黒褐色	
140	372図 PL97	P2区	429④	Ⅷ・Ⅸ層 相当層	－	縄文土器 深鉢	※42.4	－	△29.3	内外面横・斜め方向の粗いナデ、指頭圧痕後口縁端部に押圧状の刻目突帯貼付け	内面　オリーブ褐色 外面　灰黄褐色	
141	372図	P2区	493	Ⅷ・Ⅸ層 相当層	－	縄文土器 深鉢口縁部	－	－	△8.3	内外面横方向の粗いナデ後口縁端部に押圧状の刻目突帯貼付け	内面　褐色 外面　暗褐色	
142	372図	P2区	427⑧	Ⅷ・Ⅸ層 相当層	－	縄文土器 深鉢	※39.2	－	△30.1	内外面横・斜め方向の粗いナデ、指頭圧痕後口縁端部に押圧状の刻目突帯貼付け	内外面　褐灰色	
143	373図	P2区	458 460 481（他）	Ⅷ・Ⅸ層 相当層	－	縄文土器 深鉢	※26.7	－	△11.1	内外面横・斜め方向の粗いナデ、指頭圧痕後口縁端部に突帯貼付け	内外面　にぶい黄橙色	

表９　出土土器観察表（５）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量（cm）			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
144	373図 PL98	P2区	429⑥	Ⅷ・Ⅸ層 相当層	－	縄文土器 深鉢	※37.0	－	△15.2	内外面横方向の条痕または擦痕 外面口縁端部に押圧状の刻目	内面　灰褐色～黒褐色 外面　褐色～黒褐色	
145	373図	P2区	427⑧	Ⅷ・Ⅸ層 相当層	－	縄文土器 深鉢	※39.4	－	△24.4	内外面横・斜め方向の粗いナデ後口縁端部に押圧状の刻目突帯貼付け	内外面　灰黄褐色	
146	373図	P2区	531	Ⅷ・Ⅸ層 相当層	－	縄文土器 深鉢	※37.2	－	△19.0	内外面横方向の粗いナデ後口縁端部に押圧状の刻目突帯貼付け	内外面　暗赤褐色～にぶい赤褐色	
147	373図 PL97	P2区	428	Ⅷ・Ⅸ層 相当層	－	縄文土器 浅鉢	※27.8	－	11.7	内外面横・斜め方向の粗いナデ	内外面　灰黄褐色	
148	373図	P2区	642	Ⅷ・Ⅸ層 相当層	－	縄文土器 浅鉢口縁部	－	－	△9.4	内外面横・斜め方向の粗いナデ 内底面付近に指頭圧痕	内面　黒褐色 外面　黒褐色～明赤褐色	
149	373図 PL98	P2区	512	Ⅷ・Ⅸ層 相当層	－	縄文土器 深鉢 底部	－	－	△9.1	内面横方向の粗いナデ、外面　口縁部横方向のミガキ、屈曲部以下粗いナデ	内面　暗褐色 外面　灰褐色～褐色	
150	373図	P2区	519	Ⅷ・Ⅸ層 相当層	－	縄文土器 深鉢 底部	－	－	△4.3	内面粗いナデ、外面尖底部付近ナデ	内面　浅黄橙色～黒褐色 外面　灰黄褐色～灰白色	
151	373図	P2区	618	Ⅸ層	－	縄文土器 深鉢口縁部	※28.8	－	△7.2	内面粗いナデ、外面尖底部付近ナデ	内外面　にぶい黄褐色	
152	374図	9区	9-11	Ⅲ層	－	須恵器 甕？ 口縁部	－	－	△4.9	内外面ナデ、外面に指頭圧痕	内面　明黄褐色～灰色 外面　灰白色～オリーブ黒色	
153	374図	9区	9-12	Ⅲ層	－	土師器 坏 口縁部	－	－	△2.9	回転ナデ	内外面　灰褐色	
154	374図	9区	9-10	Ⅲ層	－	土師器 坏 底部	－	※5.1	△2.4	回転ナデ、外底面回転糸切り	内面　灰黄褐色 外面　にぶい黄褐色	
155	374図	9区	9-15	Ⅳ層上面	－	須恵器 坏身	※11.4	-	△2.6	回転ナデ	内面　灰色 外面　灰黄色～灰色	
156	374図	9区	9-13	Ⅳ層上面	－	土師器 坏 口縁部	※8.3	－	△2.1	回転ナデ	内外面　明赤褐色	
157	374図	9区	9-1	Ⅳ層上層	－	土師器 坏 口縁部	－	－	△4.1	回転ナデ	内外面　灰色	
158	374図	9区	9-2	Ⅳ層	－	土師器 小皿	※9.4	※6.6	1.4	回転ナデ、外底面回転糸切り	内面　にぶい黄橙色 外面　灰黄褐色	
159	374図	9区	9-16	Ⅳ層上面	－	土師器 甕 口縁部	※14.7	－	△4.0	内外面口縁部横ナデ、内面頸部以下ケズリ	内外面　灰黄褐色～黒褐色	
160	375図	P3区	150 159	盛土内 Ⅳa層	条里６	須恵器 坏蓋	※11.3	－	△3.6	回転ナデ、天井部回転ケズリ	内外面　灰色	
161	375図	P3区	101	盛土内	条里５	製塩土器 口縁部	－	－	△3.4	内面僅かに布目、外面ナデ、口縁端部ケズリ	内面　にぶい黄橙色 外面　灰褐色	
162	375図	P3区	232～240 243 245	盛土内	盛土４	縄文土器 深鉢	※33.4	－	△22.8	内外面横・斜め方向の粗いナデ・指頭圧痕、口縁端部に刻目突帯貼付け	内面　灰黄色～黒褐色 外面　橙色～黒褐色	
163	375図	P3区	209	盛土内	盛土４	縄文土器 深鉢口縁部	－	－	△6.1	内面粗いナデ、外面　擦痕後口縁端部に押圧状の刻目突帯貼付け	内外面　灰黄色	
164	375図	P3区	211	盛土内	盛土４	縄文土器 深鉢口縁部	－	－	△6.1	内外面横方向の粗いナデ、口縁端部に押圧状の刻目突帯貼付け	内面　にぶい黄橙色 外面　明黄褐色～灰白色	
165	375図	８区	8-80	Ⅲ層	－	須恵器 坏 底部	－	－	△1.7	回転ナデ	内面　灰色 外面　灰白色～暗オリーブ灰色	
166	375図	８区	8-13 8-26 8-27 8-28	Ⅳ層以下 Ⅳ-２・３層 Ⅳ-２・３層	－	須恵器 高台坏	※13.8	※9.0	4.6	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付	内外面　灰色	
167	375図	８区	8-15	Ⅳ層	－	須恵器 坏身	－	－	△2.9	回転ナデ	内面　にぶい赤褐色 外面　褐灰色	最大径 13.8cm 受部径 12.8cm
168	375図	８区	8-1	Ⅳ層	－	須恵器 坏 口縁部	※9.9	－	△2.4	回転ナデ	内外面　灰色	
169	375図	８区	8-1	Ⅳ層		須恵器 甕	－	－	△5.6	内面青海波当て具、外面平行タタキ	内面　灰オリーブ色～灰色 外面　灰白色～灰色	
170	375図	P3区	37 40 41 68 93	Ⅳb層	－	須恵器 甕 口縁部	※14.0	－	△13.4	内外面口縁部横ナデ	内外面　黄灰色	
171	375図	８区	8-16	Ⅳ層	－	土師器 甕 口縁部	－	－	△3.5	内外面口縁部横ナデ	内外面　灰白色	
172	375図	８区	8-4	Ⅳ層	－	土師器 甕 口縁部	※15.8	－	△4.1	内外面口縁部横ナデ	内面　灰黄色～暗灰黄色 外面　浅黄色～黒色	
173	375図	８区	8-41	Ⅳ-３層	－	土師器 甕 口縁部	－	－	△4.0	内面ナデ、頸部以下ケズリ、外面ナデ	内外面　暗灰黄色	
174	375図	８区	8-50	Ⅴ層	－	土師器 甕 口縁部	－	－	△5.4	内面頸部以下ケズリ、外面口縁端部に４条の凹線、体部縦ハケ一部ミガキ	内面　にぶい黄褐色 外面　にぶい黄橙色	
175	375図	８区	8-27	Ⅳ-２・３層	－	土師器 高坏	△14.6	－	△6.1	内外面坏部横ミガキ、外面接合部付近縦ハケ、指頭圧痕	内面　明褐色～褐色 外面　灰黄色	
176	375図	８区	8-19 8-31	Ⅳ層 Ⅳ-２・３層	－	土師器 埦or高坏	※15.0	－	△6.1	内外面横方向のミガキ	内面　にぶい褐色～黒色 外面　橙色～にぶい赤褐色	
177	375図	８区	8-65	Ⅴ-２層	－	弥生土器 甕 底部	－	※6.0	△3.4	内外面ナデ、内底面指頭圧痕	内面　黒褐色 外面　にぶい黄褐色	
178	375図	８区	8-64	Ⅴ-２層	－	縄文土器 深鉢	－	－	△4.0	内外面横方向の粗いナデ、口縁端部に押圧状の刻目突帯貼付け	内面　黒褐色 外面　黒色	
179	375図	８区	8-43	Ⅸ層	－	弥生土器 甕	※23.4	－	△6.8	内面ナデ、ミガキ、指頭圧痕、外面口縁端部に刻目、頸部に２条の凹線	内面　黒褐色～にぶい黄褐色 外面　黒色～にぶい黄褐色	
180	375図	P3区	173	Ⅸ層	－	縄文 深鉢口縁部	－	－	△4.5	内外面横方向の粗いナデ、口縁端部に突帯貼付け	内外面　黒色	

表10　出土土器観察表（6）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
181	375図	P3区	203	Ⅸ層	－	縄文深鉢口縁部	－	－	△6.3	内外面横方向の粗いナデ、口縁端部に突帯貼付け	内面　灰白色 外面　灰色	
182	375図	P3区	205	Ⅸ層	－	縄文深鉢口縁部	－	－	△4.6	内外面横方向の粗いナデ、口縁端部に細い刻目突帯貼付け	内面　灰褐色 外面　黒色	
183	375図	8区	8-62	Ⅸ層	－	縄文土器深鉢口縁部	－	－	△3.0	内外面横方向の粗いナデ、口縁端部に押圧状の刻目突帯貼付け	内面　黄灰色 外面　灰黄色	
184	376図	P4区	193	盛土内	条里11	須恵器高台坏	－	※9.0	△1.3	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付	内外面　灰色	
185	376図	P4区	192	盛土内	条里11	土師器坏	※11.8	※8.0	3.2	内外面ナデ、外面に一部工具によるナデ上げ	内面　にぶい黄橙色 外面　灰白色	両面赤彩
186	376図	P4区	－	盛土内	条里11	土師器坏	－	※8.6	△2.4	回転ナデ、外底面回転ケズリ	内面　にぶい橙色～浅黄色 外面　にぶい橙色	
187	376図	P4区	202	盛土内	条里12	土師器坏	※11.1	※6.1	4.1	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
188	376図	P4区	188	盛土内	条里13	須恵器甕口縁部	－	－	△5.5	内外面ナデ、外面に一部工具によるナデ上げ	内外面　灰色	
189	376図	P4区	306	－	河道3	弥生土器甕 口縁部	※20.4	－	△6.7	内外面ナデ、指頭圧痕	内面　にぶい橙色 外面　にぶい黄橙色	
190	376図	P4区	316 318 322	－	河道4	弥生土器壺 口縁部	※24.0	－	△10.4	内外面横方向のハケ、外面頸部に2条の突帯	内外面　にぶい黄橙色	
191	376図	P4区	5	Ⅲ層下面	－	土師器坏	※11.5	※5.9	3.7	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　灰黄褐色	
192	376図	P4区	14 20 49 51	Ⅲ層・Ⅳ-1層・Ⅳ-2層	－	土師器坏	※11.5	※6.0	3.7	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	外面赤彩痕
193	376図	P4区	194 267	Ⅳ-3層 Ⅴ層	－	須恵器坏蓋	※13.1	－	4.3	回転ナデ、天井部回転ヘラ切り	内面　灰白色 外面　灰色～灰白色	
194	376図	P4区	34	Ⅴ層相当	－	須恵器坏身	－	－	△4.3	回転ナデ、底部回転ヘラ切り	内面　灰色 外面　暗オリーブ灰色	最大径14.0cm 受部径13.1cm
195	376図	P4区	270 277 278	Ⅴ層	－	土師器壺 口縁部	※20.0	－	△7.6	内外面口縁部横ナデ・ナデ、外面頸部縦ハケ	内外面　灰黄色	
196	376図 PL97	P4区	309	Ⅶ層	－	弥生土器壺	※17.4	－	△21.0	内外面ミガキ、指頭圧痕、外面頸部に2条、体部上位に3条の凹線	内面　灰黄色 外面　灰色～灰黄褐色	
197	376図 PL97	P4区	228 229 297 311 316	Ⅶ層・Ⅷ層	－	弥生土器甕	※29.3	－	△21.5	内外面縦ハケ、外面口縁端部に刻み、頸部に3条の凹線	内外面　にぶい黄橙色～灰白色～灰黄褐色	
198	377図 PL97	P5区	116 164	盛土内	条里14・15	土師器足高高台坏	△12.2	7.4	5.4	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付け	内面　にぶい橙色～灰黄褐色 外面　橙～灰黄褐色	
199	377図	7区	7-336	盛土内	条里14	須恵器坏	※13.4	－	△5.0	回転ナデ	内外面　灰色	
200	377図	P5区	229	盛土内	条里14	須恵器高台坏	※14.8	※8.4	6.8	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付け	内面　灰色～オリーブ褐色 外面　灰色～暗灰黄色	
201	377図 PL99	7区	7-324	盛土内	条里14	須恵器高台坏	－	※6.8	△4.6	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付け	内面　灰オリーブ色 外面　灰色	
202	377図	P5区	277	盛土内	条里14・15	須恵器高台坏	※13.2	※7.7	3.9	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り後高台貼付け	内外面　灰色	転用硯
203	377図	P5区	318	盛土内	条里14・15	須恵器高台坏	※15.4	※10.6	4.1	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付け	内面　灰白色 外面　灰色	
204	377図	7区	7-217	盛土内	条里14	須恵器蓋 口縁部	※11.0	－	△1.5	回転ナデ	内外面　黒色	
205	377図	P5区	314	盛土内	条里14・15	須恵器坏蓋	※8.6	－	△2.3	回転ナデ後放射状の線刻	内外面　灰色	最大径11.0cm 受部径9.4cm
206	377図	P5区	333	盛土内	条里14・15	須恵器坏	※14.2	－	△3.3	回転ナデ、外底面高台貼付け	内外面　灰色	
207	377図	7区	7-286	5層	条里14	須恵器坏身	※13.5	－	△3.0	回転ナデ	内面　灰黄褐色 外面　灰色	最大径16.2cm 受部径15.2cm
208	377図	7区	7-348	Ⅳ層～盛土	条里14	土師器甕 口縁部	※18.6	－	△3.4	内面横ハケ、外面ナデ、指頭圧痕	内外面　灰褐色	
209	377図	7区	7-224	盛土内	条里15	土師器高台底部	－	※7.2	△2.2	回転ナデ、外底面ヘラ切り後高台貼付け	内面　灰黄褐色～にぶい黄褐色 外面　にぶい黄橙色	
210	377図	7区	7-381	盛土内	条里15	土師器高台 底部	－	※7.8	△3.6	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り後高台貼付け	内面　灰黄褐色～にぶい黄橙色 外面　にぶい黄橙色	
211	377図	7区	7-168	盛土内	条里15	土師器埦 口縁部	※13.2	－	△4.2	内外面ナデ	内外面　にぶい橙色	
212	377図	7区	7-172	Ⅳ層～盛土内	条里15	須恵器甕 口縁部	※11.3	－	△4.3	回転ナデ	内外面　灰白色	
213	377図	7区	7-200	Ⅳ層～盛土内	条里15 盛土8	須恵器蓋	－	－	△1.2	天井部ナデ後ツマミ貼付け	内外面　灰色	
214	377図	7区	7-309	Ⅳ層～盛土内	条里15 盛土8	須恵器坏蓋	－	－	△1.6	回転ナデ	内面　灰白色～灰色 外面　灰色	
215	377図	P5区	297	盛土内	条里15	須恵器高台坏	－	※8.2	△2.0	回転ナデ、外底面高台貼付け	内面　青灰色 外面　青灰色～灰白色	
216	377図	7区	7-157	Ⅳ層～盛土内	条里15	土師器甕	※13.4	－	△2.4	内外面縁部ヨコナデ、内面頸部以下ケズリ	内面　灰黄褐色 外面　にぶい褐色	
217	377図	7区	7-256	Ⅳ層～盛土内	条里15	土師器甕	※13.2	－	△6.8	内外面口縁部横ナデ、内面頸部以下ケズリ	内外面　灰黄色	

表11　出土土器観察表（7）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
218	377図	7区	7-441	盛土下層	盛土7	須恵器 坏身	※11.2	－	3.8	回転ナデ、天井部回転ケズリ	内面　灰オリーブ色 外面　灰色	最大径 13.4cm 受部径 12.4cm
219	377図	P5区	204	盛土内	盛土7	須恵器 高坏 坏部	△11.2	－	△4.0	内外面回転ナデ、外面柱接合部２方向に透かし	内外面　灰色	最大径 13.8cm 受部径 12.8cm
220	377図	7区	7-423	盛土内	盛土7	須恵器 無蓋高坏	※13.0	－	△3.3	回転ナデ	内外面　灰色	
221	377図 PL98	P5区	347	盛土内	盛土7	土師器 埦	△13.8	－	8.0	内面放射状のミガキ、外面横方向のミガキ、底部不定方向のケズリ	内外面　にぶい橙色	
222	377図	7区	7-364	盛土内	盛土7	土師器 甕 口縁部	－	－	△4.0	内面横ナデ・ハケ、頸部以下ケズリ、外面横ナデ、一部ハケ	内面　にぶい黄橙色～黒色 外面　灰褐色～黒色	
223	377図	7区	7-357	盛土内	盛土7	土師器 甕 口縁部	－	－	△4.3	内外面口縁部横ナデ	内面　にぶい黄橙色 外面　にぶい黄橙色～灰黄橙色	
224	377図	7区	7-203 7-229 7-326 7-360 7-361 7-375 7-376	不明 Ⅳ層～盛土 盛土 盛土 盛土 Ⅳ層 Ⅳ層	盛土７ 盛土７ 盛土７ - -	土師器 甕	※20.0	－	△12.5	内外面口縁部横ナデ、外面体部横・斜めハケ、内面頸部以下ケズリ	内面　灰黄色～浅黄橙色 外面　にぶい黄橙色	
225	377図	7区	7-205	盛土内	盛土7	土師器 甕	※21.5	－	△9.0	内外面口縁部横ナデ、外面体部縦ハケ、内面頸部以下ケズリ	内面　にぶい黄橙色～灰黄褐色 外面　にぶい橙色	
226	377図	P5区	227	盛土内	盛土7	土師器 甕 口縁部	※19.4	－	△9.9	内外面口縁部横ナデ、外面体部縦ハケ、内面頸部以下ケズリ	内外面　にぶい黄橙色	
227	377図	7区	7-246	盛土内	盛土7	土師器 甕 口縁部	－	－	△5.0	内面横ハケ、頸部以下ケズリ、外面ナデ、指頭圧痕	内面　にぶい黄褐色～灰黄褐色 外面　にぶい黄褐色	
228	378図 PL98	7区	7-323	盛土内	盛土８	土師器 高台坏	※13.3	※7.2	4.2	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り後高台貼付け	内面　にぶい橙色～にぶい黄橙色 外面　灰白色～灰黄色	赤彩？
229	378図	7区	7-122	盛土内	盛土8	土師器 坏 口縁部	－	－	△3.9	回転ナデ	内面　にぶい黄褐色 外面　灰黄色～にぶい橙色	
230	378図	7区	7-155	盛土内	盛土8	土師器 坏	－	－	△2.7	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り・周縁部ナデ	内外面　灰黄褐色	
231	378図	7区	7-275	盛土内	盛土8	土師器 埦	－	－	△4.6	内外面ナデ	内面　にぶい赤褐色～黒褐色 外面　にぶい黄橙色～黒褐色	
232	378図	7区	7-403	盛土内	盛土8	須恵器 蓋	※12.6	－	△3.7	回転ナデ	内外面　灰色	
233	378図	7区	7-235	盛土内	盛土8	須恵器 坏蓋	－	－	△3.1	回転ナデ、外底部回転ヘラ切り	内面　暗褐黄色～灰色 外面　黄灰色～灰色	
234	378図	7区	7-328	盛土内	盛土8	須恵器 坏身	※11.4	－	△3.4	回転ナデ	内外面　灰色	最大径 13.9cm 受部径 12.9cm
235	378図	7区	7-134	盛土内	盛土8	須恵器 坏身	△11.8	－	4.2	回転ナデ、外底部回転ケズリ	内外面　灰色	受部径 13.5cm
236	378図	7区	7-236	盛土内	盛土8	須恵器 坏身	※11.4	－	△4.7	回転ナデ、外底部回転ケズリ	内外面　灰色	最大径 14.0cm 受部径 13.0cm
237	378図	7区	7-69	盛土内	盛土8	須恵器 高坏	－	－	△4.1	回転ナデ	内外面　灰色	
238	378図	7区	7-318	盛土内	盛土8	須恵器 体部(破片)	－	－	△10.4	内面青海波当て具、外面平行タタキ	内外面　青灰色	
240	378図 PL99	P5区	329	下層	溝7	土師器 埦	△12.6	－	△5.4	内外面口縁部付近ミガキ、内底面工具によるナデ、外面底部付近ケズリ	内面　灰黄褐色 外面　褐色	外面赤彩
241	378図 PL99	P5区	338	埋土中	溝7	弥生土器 無頸壺	△8.4	7.7	14.5	内面ナデ、外面縦・横方向のミガキ、底部付近ハケ、口縁部に２個二組の孔	内面　黒褐色 外面　灰白色～褐灰色	
242	378図	P5区	355 359	Ⅴ層以下	溝7	弥生土器 甕 口縁部	※25.4	－	△12.5	外面ハケ、頸部に３条の凹線、内面口縁部ハケ、体部以下ケズリ後ナデ	内外面　明褐灰色	
243	379図	P5区	362	埋土中	土坑4	弥生土器 壺 口縁部	※19.8	－	△7.7	内面ミガキ、外面口縁部縦ハケ、端部格子状の施文	内面　褐灰色 外面　明黄褐色～褐灰色	
244	380図	7区	7-160	Ⅳ層上面	－	土師器 坏	△9.4	5.0	3.5	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　灰黄褐色	
245	380図	7区	7-159	Ⅲ－２層 ～盛土上面	－	土師器 坏	△9.7	4.7	3.9	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　にぶい赤褐色	
246	380図	7区	7-159	Ⅲ－２層 ～盛土上面	－	土師器 坏	△11.1	5.2	4.0	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　にぶい黄褐色～黒色	
247	380図	7区	7-36	Ⅲ層	－	土師器 坏	※12.0	※6.0	4.6	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　にぶい黄褐色	
248	380図	7区	7-264 7-283 7-284	Ⅲ層 Ⅲ－２層 Ⅲ－２層 Ⅳ層上面	－	土師器 坏	△12.9	4.8	4.1	回転ナデ、外底面回転糸切り	内面　褐灰色～黒色 外面　灰黄褐色～黒色	
249	380図 PL99	7区	7-139	Ⅲ－２層	－	土師器 坏	△12.8	5.3	4.0	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　黒褐色	
250	380図	7区	7-111	Ⅲ層	－	土師器 坏	－	5.0	△1.7	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　明赤褐色	

表12　出土土器観察表（8）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量（cm）			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
251	380図	7区	7-136	Ⅲ層	－	土師器 坏	－	5.0	△2.4	回転ナデ、外底面回転糸切り	内面　灰黄褐色 外面　にぶい黄橙色	
252	380図	7区	7-263	Ⅳ層上面	－	土師器 坏	※14.4	－	△4.2	回転ナデ	内面　にぶい褐色 外面　黒色	
253	380図 PL99	7区	7-104	Ⅲ－２層～盛土上面	－	土師器 足高高台坏	△13.2	8.2	7.5	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付	内外面　灰黄色	
254	380図	7区	7-107	Ⅲ－３層	－	土師器 足高高台坏	－	※7.5	△3.1	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付	内外面　にぶい黄褐色	
255	380図	7区	7-110	Ⅲ－２層	－	土師器 高台坏	－	7.0	△2.2	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付	内外面　灰黄色	
256	380図	7区	7-285	Ⅲ－２層	－	土師器 皿	△9.6	4.7	2.3	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
257	380図	7区	7-11	Ⅲ層中	－	土師器 皿	△9.8	4.7	2.5	回転ナデ、外底面回転糸切り	内面　灰黄色～暗灰黄色 外面　灰黄色	
258	380図	7区	7-38	Ⅳ層	－	土師器 坏	※12.4	－	△4.0	回転ナデ	内面　　にぶい黄褐色 外面　　にぶい黄色～灰黄色	
259	380図	7区	7-61	Ⅳ層（礫層中）	－	須恵器 坏身	※11.4	－	3.2	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り	内外面　灰白色	最大径14.0cm 受部径12.4cm
260	380図	7区	7-266	Ⅳ-３層上面	－	須恵器 長頸壺？	－	－	△3.5	回転ナデ	内面　明黄褐色～黒色 外面　灰色	内面　漆付着
261	380図	7区	7-188 189・304	Ⅳ層	－	須恵器 坏身	△9.7	－	3.9	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り	内面　灰色～褐灰色 外面　灰白色～灰色	最大径12.2cm 受部径10.8cm
262	380図	7区	7-192 7-194 7-195 7-303	Ⅳ層	－	土師器 甕	△14.5	－	△10.2	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、体部内面頸部以下ケズリ	内面　にぶい黄橙色～灰黄褐色 外面　にぶい黄橙色～黒色	
263	380図	7区	7-61	Ⅳ層（礫層中）	－	土師器 甕 口縁部	※21.4	－	△4.8	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、体部内面頸部以下ケズリ	内外面　にぶい橙色	
264	380図	7区	7-428	Ⅴ層	－	土師器 甕	※16.0	－	△8.3	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、体部内面頸部以下ケズリ	内外面　にぶい黄橙色	
265	380図	7区	7-289	Ⅴ層		土師器 甕	※16.3	－	△9.8	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、体部内面頸部以下ケズリ	内面　にぶい黄褐色～灰色 外面　灰白色～灰色	
266	380図	P5区	334	Ⅵ層	－	弥生土器 甕	※15.0	－	△12.1	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、体部内面ハケ、指頭圧痕	内面　オリーブ褐色 外面　黒褐色	
267	380図	P5区	364	Ⅶ層	－	弥生土器 甕	※32.0	－	△10.1	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、頸部下に３条の凹線、体部内面ハケ	内面　灰黄色 外面　にぶい黄褐色	
268	380図	P5区	361	Ⅸ層	－	縄文土器 深鉢	※21.6	－	△16.7	内面ナデ、外面縦・斜め方向の粗いナデ	内面　浅黄色～オリーブ黒色 外面　灰色～淡黄色	
269	380図	P5区	340	Ⅷ層	－	縄文土器 深鉢口縁部	－	－	△7.7	内外面横方向の粗いナデ、外面口縁部下端に刻目をもつ突帯貼付け	内面　暗灰黄色 外面　黒褐色	
270	380図	P5区	363	Ⅸ層	－	縄文土器 底部	－	5.7	△5.6	内面横方向の条痕または擦痕、外面ナデ、指頭圧痕	内面　黒褐色～灰黄褐色 外面　黄橙色～灰白色～黄褐色	
271	381図	P6区	194	盛土内	盛土17・15	須恵器 坏蓋	※13.7	－	△3.9	回転ナデ、外底面回転ケズリ	内面　灰白色 外面　灰色	
272	381図	P6区	186	盛土内	盛土11	須恵器 坏 口縁部	－	－	△2.3	回転ナデ、外面口縁部に連続する二段以上の「○」	内面　灰黄色 外面　灰黄色～にぶい黄橙色	
273	381図	P6区	25 34 111	盛土内	盛土11	須恵器 坏	※11.8	－	3.7	回転ナデ、外底面回転ケズリ後線刻	内外面　灰白色	
274	381図	P6区	77 137	盛土内	条里16 盛土17	須恵器 坏 口縁部	※14.0	－	△3.2	回転ナデ	内外面　灰色	
275	381図	P6区	181 185	盛土内	盛土11	須恵器 高台坏	△11.5	※6.5	5.1	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り	内外面　灰白色	
276	381図	P6区	121	盛土内	盛土11	須恵器 高坏	※13.8	※8.5	9.0	回転ナデ、外面柱部に１段２方向の切り目状の透かし	内外面　灰色	
277	381図	P6区	181 184	盛土内	盛土11	須恵器 高坏	△14.9	－	△8.8	回転ナデ	内外面　灰色	
278	381図 PL98	P6区	79 111 129 134	盛土内	盛土11	土師器 坏	※11.8	※6.6	3.0	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り・押圧	内外面　灰白色	両面　赤彩
279	381図 PL99	P6区	108 109 127 145 152 153 171	盛土内	盛土11	土師器 坏	△11.6	4.9	4.0	回転ナデ、外底面回転糸切り	内面　橙色～にぶい橙色 外面　にぶい橙色	
280	381図 PL99	P6区	155 158 168	盛土内	盛土11 条里16	土師器 脚付皿	※21.4	※12.8	6.2	内面坏部放射状のミガキ、口縁端部付近横方向のミガキ、外面坏部横方向のミガキ、脚部内外面回転ナデ	内外面　赤褐色～にぶい黄橙色	両面　赤彩
281	381図 PL100	P6区	249	埋土中	河道6	須恵器 坏蓋	△13.2	－	3.8	回転ナデ、天井部回転ケズリ	内外面　灰白色	
282	381図	P6区	293	埋土中	河道6	須恵器 坏身	△11.9	－	4.6	回転ナデ、外底面回転ケズリ	内面　黄灰色 外面　灰色	最大径14.0cm 受部径13.0cm
283	381図 PL100	P6区	299	埋土中	河道6	須恵器 坏身	△12.4	－	4.0	回転ナデ、外底面回転ケズリ	内外面　灰色	最大径14.6cm 受部径13.6cm
284	381図 PL100	P6区	287 288	埋土中	河道6	土師器 埦	△13.5	－	△7.0	内外面口縁部横ナデ、体部外面縦ハケ、体部内面肩部以下ケズリ	内面　橙色 外面　にぶい黄橙色	内面　赤彩

表13　出土土器観察表（９）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
285	381図 PL100	P6区	269 277	埋土中	河道6	土師器 埦	△13.2	－	7.5	内面放射状ミガキ・ナデ、外面横・斜め方向ミガキ	内外面　明赤褐色	
286	381図 PL100	P6区	295	埋土中	河道6	土師器 埦	△12.7	－	7.0	内面放射状ミガキ・ナデ、外面横・斜め方向ミガキ	内面　橙色～明赤褐色 外面　橙色	
287	381図	P6区	253	埋土中	河道6	土師器 甕 口縁部	※20.2	－	△8.9	内面渦状ミガキ、外面横・斜め方向ミガキ	内外面　灰白色	
288	382図	P6区	428	盛土内	盛土18	土師器 壺	△16.8	－	△9.0	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、内面頸部ハケ、以下ケズリ	内面　にぶい黄色～明赤褐色 外面　灰黄褐色	
289	382図	P6区	327	盛土内	盛土18	須恵器 坏身	※14.8	－	△3.3	回転ナデ	内面　灰黄褐色 外面　灰色	最大径 17.8cm 受部径 16.6cm
290	382図	P6区	358 366	盛土内	盛土18	須恵器 高坏 脚部	－	7.8	△5.3	回転ナデ、１段３方向の方形透かし	内外面　灰色	
291	382図	P6区	334 372	盛土内	盛土18	土師器 埦	△12.4	－	4.5	内面放射状・横方向のミガキ、外面横・斜め方向のミガキ・ナデ	内外面　灰白色	
292	382図	P6区	308 342 343	盛土内	盛土18	土師器 埦	△13.2	－	7.0	内面ナデ、外面横・斜め方向のミガキ・ナデ	内外面　橙色	
293	382図 PL99	P6区	360	盛土内	盛土18	土師器 小型丸底壺	△7.8	－	8.3	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、内面ケズリ・ナデ	内面　にぶい黄色 外面　灰黄色	
294	382図	P6区	355	盛土内	盛土18	土師器 甕	△17.7	－	△11.4	内面口縁部横ナデ、以下ハケ・ケズリ、外面口縁端部３条の凹線、肩部ミガキ	内外面　にぶい褐色	
295	382図 PL100	P6区	344	盛土内	盛土18	土師器 高坏	※23.4	※14.0	15.0	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、内面頸部以下ケズリ	内面　灰白色 外面　淡黄色	
296	382図	P6区	368 372	盛土内	盛土18	弥生土器 甕	※15.5	－	△10.2	内面坏部ミガキ、脚部ハケ・ナデ、外面坏部・脚部ナデ、接合部付近縦ハケ	内外面　にぶい黄橙色	
297	382図	P6区	401	盛土内	盛土18	弥生土器 手づくね甕	△5.0	2.4	7.2	内面ナデ、外面ケズリ、ナデ	内外面　にぶい黄色	
298	382図	P6区	80　85 161	Ⅳ層 Ⅳ層下層	－	須恵器 坏身	※11.1	－	3.7	回転ナデ、外底面回転ケズリ	内外面　灰色	
299	382図	P6区	45 89	Ⅳ層	－	須恵器 高台坏	△11.8	7.8	4.6	回転ナデ、外底面　回転ケズリ後高台貼付け	内面　灰白色～暗灰黄色 外面　灰白色	
300	382図	P6区	223	Ⅲ－Ⅳ層	－	土師器 甕	※20.8	－	△8.9	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、頸部下にケズリ、一部ハケ	内面　褐灰色 外面　褐灰色～にぶい黄橙色	
301	382図	P6区	411	Ⅸ層	－	縄文土器 底部	－	－	△10.3	内外面横方向の粗いナデ、内底面に指頭圧痕	内外面　灰白色	
302	383図	６区	6-8	Ⅳ層以下	－	須恵器 坏身	※12.4	※7.0	3.9	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り・周縁部ケズリ	内面　褐灰色～黒褐色 外面　灰色	
303	383図	６区	6-1	Ⅲ層	－	須恵器 高台坏	－	※8.0	△3.2	回転ナデ、外底面高台貼付け	内外面　灰白色	
304	383図	６区	6-9	Ⅲ層	－	青磁碗	※13.7	－	△3.0	回転ナデ、施釉	内外面　オリーブ灰色	
305	383図	６区	6-2	Ⅲ層	－	土師器 小皿	※7.8	※5.2	1.5	回転ナデ、外底面回転糸切り	内面　にぶい橙色 外面　淡橙色	
306	384図	P7区	119	改修土①	道路1	土師器 坏	－	5.0	△2.1	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
307	384図	P7区	118	改修土①	道路1	土師器 高台坏	※9.2	※7.0	△3.2	回転ナデのち貼付け高台	内面　にぶい黄色 外面　にぶい黄橙色	
308	384図	P7区	135	改修土①	道路1	土師器 坏	△12.2	5.0	4.2	回転ナデ、底部回転糸切り 外面2条の沈線	内外面　にぶい黄橙色	
309	384図	P7区	97 352	改修土①	道路1	土師器 高台坏	※13.8	※7.8	6.3	回転ナデ、貼付け高台 高台に弱い沈線入る	内面　にぶい黄褐色 外面　にぶい橙色	
310	384図	P7区	169	改修土① (粘質土)	道路1	土師器 坏	－	※6.0	△3.2	回転ナデ、底部糸切り	内面　黒色 外面　にぶい黄橙色	
311	384図	P7区	169	改修土① (粘質土)	道路1	黒色土器 埦 口縁部	－	－	3.2	口縁部横ナデ、内面黒色処理 内面密なヘラミガキ	内外面　黒色 (胎土)にぶい橙色	
312	384図	P7区	184	改修土① (砂質土)	道路1	須恵器 坏身	△12.2	－	4.2	回転ナデ、底部ヘラ切り未調整	内外面　灰色	最大径 14.3cm 受部径 13.2cm
313	384図	P7区	177	改修土① (砂質土)	道路1	須恵器 高坏 脚部	－	※11.8	△5.5	回転ナデ	内外面　灰色	
314	384図	P7区	173	改修土① (砂質土)	道路1	須恵器 横瓶	※12.1	－	△4.8	口縁部回転ナデ成形、体部は叩き具の痕跡あり	内面　灰白～浅黄色 外面　灰白色	
315	384図	P7区	187	改修土① (砂質土)	道路1	須恵器 甕	－	－	△14.0	外面平行目、内面同心円文	内面　灰色 外面　灰白色～青灰色	
316	384図	P7区	176	改修土① (砂質土)	道路1	土師器 坏	－	－	△4.9	横ナデ、口縁部は肥厚する 内面に格子状の放射暗文	内面　橙～にぶい橙色 外面　赤～にぶい橙色	
317	384図	P7区	190	改修土① (砂質土)	道路1	土師器 甕	※14.6	－	△6.8	横ナデ、内外面は横方向のヘラミガキ	内面　にぶい黄褐色 外面　にぶい褐色	
318	384図	P7区	191	改修土① (砂質土)	道路1	土師器 甕	※19.5	－	△14.9	口縁部～頸部横ナデ 胴部は縦ハケメ、内面ケズリ	内面　浅黄色 外面　にぶい黄橙色	
319	384図	P7区	134 186	改修土②	道路1	須恵器 Ⅲ	※15.0	※10.0	1.4	回転ナデ、底部糸切り	内外面　灰白色	
320	384図	P7区	132	改修土②	道路1	須恵器 坏	－	※8.7	△2.2	回転ナデ、底部糸切り 平高台	内外面　灰色	
321	384図	P7区	157	改修土②	道路1	弥生土器 甕	※11.6	－	△7.3	口縁部～頸部横ナデのち波状文 胴部ナデのち波状文	内外面　にぶい黄褐色	
322	384図	P7区	141	改修土②	道路1	土師器 甕	※20.2	－	△4.7	口縁部横ナデ、頸部～体部指オサエ、体部内面横ヘラ削り	内面　橙色 外面　にぶい橙色	

表14　出土土器観察表(10)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
323	385図	P7区	212	改修土③	道路1	須恵器蓋	－	－	△2.3	回転ナデ	内外面　灰白色	
324	385図	P7区	183　185 211	改修土③	道路1	須恵器坏蓋	△14.3	－	2.0	回転ナデ、輪状ツマミを貼付け	内外面　青灰色	
325	385図	P7区	192	改修土③	道路1	須恵器坏蓋	△14.3	－	2.8	回転ナデ、宝珠状ツマミを貼付け	内外面　灰色	
326	385図	P7区	193	改修土③	道路1	須恵器高台坏	－	9.2	△2.7	回転ナデ、貼付け高台 底部静止糸切り	内外面　褐灰色	
327	385図 PL102	P7区	172	改修土③	道路1	須恵器高坏	△15.5	9.1	10.4	回転ナデ、脚部に切りこみ透かし	内面　灰白色 外面　灰色	
328	385図	P7区	195	改修土③	道路1	土師器坏	△11.8	※7.2	3.9	横ナデ、底部はヘラ切りか	内外面　橙色～にぶい橙色	両面赤彩
329	385図	P7区	195	改修土③	道路1	土師器坏	※11.6	※7.6	△3.3	横ナデ	内面　灰黄褐色 外面　黒褐色	
330	385図	P7区	245	改修土③	道路1	土師器甕	※21.9	－	△14.3	口縁部を横ナデ、肩部～胴部は右上がりハケメ、内面ケズリ	内外面　にぶい黄橙色	
331	385図	P7区	178	改修土③	道路1	弥生土器ミニチュア土器甕	※8.6	－	△5.2	外面、口縁部～胴部横ナデ 内面、ケズリ	内外面　にぶい黄褐色	
332	385図	P7区	180	改修土③	道路1	弥生土器甕	※16.2	－	△4.8	外面、口縁部横ナデのち波状文 内面、口縁部付近ヘラミガキ	内面　褐色 外面　にぶい黄褐色	
333	385図	P7区	199	改修土③	道路1	弥生土器甕	△12.2	2.0	14.4	外面、口縁部横ナデ、胴部不定方向のハケメ調整、内面、ケズリ	内面　にぶい黄橙色 外面　にぶい褐色	
334	385図 PL102	P7区	238	構築当初土	道路1	須恵器蓋	△15.6	－	2.5	回転ナデ、輪状ツマミを貼付け	内外面　灰色	
335	385図 PL102	P7区	242	構築当初土	道路1	須恵器高台坏	※12.4	※8.6	4.2	回転ナデ、貼付け高台 底部ヘラ削りのち横方向ナデ	内面　灰白色 外面　黄灰色	
337	386図	P7区	96 169	－	道路1	須恵器垸	※15.2	5.1	4.3	回転ナデ、底部回転糸切り 平高台	内面　黄灰色 外面　灰色	
338	386図	P7区	78	－	道路1	須恵器坏	△12.0	5.6	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい褐色～黒褐色 外面　にぶい黄橙色～黒褐色	
339	386図 PL100	P7区	117	－	道路1	須恵器高台付皿	※13.8	6.7	3.2	回転ナデ、高台貼り付け	内外面　灰黄色	
340	386図	P7区	6	－	道路1	須恵器壺底部	－	※10.8	△5.0	回転ナデ、高台欠損	内外面　黒色	
341	386図	P7区	66 335	－	溝8 道路1	須恵器甕	※24.3	－	△10.8	口縁部、回転ナデ 胴部、平行叩き具、内面同心円文	内面　青灰色 外面　青灰色～灰白色	
342	386図	P7区	7	－	道路1	土師器坏	△11.3	4.8	4.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄褐色	
343	386図	P7区	8	－	道路1	土師器坏	※12.5	－	3.2	横ナデ、底部不定方向のヘラ削りのちナデ調整	内外面　明褐色	両面赤彩
344	386図	P7区	631	－	道路1	土師器壺	※9.0	－	△6.1	口縁部横ナデのち沈線 胴部内面ナデ後ヘラ削り	内外面　にぶい黄橙色	
345	386図	P7区	120	－	道路1	土師器ミニチュア甕	△5.7	2.2	6.3	外面ナデのち胴部縦ハケメ調整	内面　淡黄色 外面　にぶい黄橙色～黒色	
346	386図	P7区	68	－	道路1	土師器甕	※20.3	－	△9.2	口縁部、横ナデ 胴部、横ナデ、内面ヘラ削り	内面　にぶい黄橙色 外面　黒色	
347	386図	P7区	19	－	道路1	土師器甕	※27.4	－	△4.5	口縁部横ナデ	内面　にぶい褐色 外面　黒色	
348	387図 PL100	P7区	57	埋土中	道路1側溝	土師器坏	△10.8	4.9	4.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　黄橙色	
349	387図	P7区	65	埋土中	道路1側溝	土師器坏	※11.4	※4.0	4.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄褐色～褐灰色	
350	387図	P7区	57	埋土中	道路1側溝	土師器坏	△12.2	5.4	4.6	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
351	387図	P7区	58	埋土中	道路1側溝	土師器足高高台坏	△10.8	7.7	5.2	回転ナデ、底部回転糸切り 貼付け高台	内外面　にぶい黄橙色	
352	388図	P7区	94	盛土内	道路1外盛土	須恵器坏	△13.0	－	4.0	回転ナデ、底部ヘラおこし後ナデ	内外面　灰色	
353	388図	P7区	261	盛土内	道路1外盛土	土師器坏	※15.0	－	△5.0	回転ナデ	内面　にぶい黄橙色 外面　淡黄色	
354	388図 PL101	P7区	680	盛土内	道路1外盛土	土師器坏	－	－	△1.3	外面底部不定方向のヘラミガキ 内面格子状のヘラミガキ	内面　にぶい橙色 外面　にぶい赤褐色	両面赤彩
355	388図	P7区	103	盛土内	条里20	土師器高台坏	－	－	△1.2	回転ナデ、高台、坏部欠損	内外面　オリーブ黒色	
356	389図 PL100	P7区	288 334	粗砂層	溝8	須恵器坏蓋	※10.1	－	3.1	回転ナデ、宝珠状ツマミを貼付け	内外面　灰色	最大径 12.0cm 受部径 10.8cm
357	389図 PL100	P7区	294　371 430	上層	溝8	須恵器坏蓋	△11.9	－	2.5	回転ナデ、輪状ツマミを貼付け	内外面　灰色	最大径 13.6cm 受部径 12.4cm
358	389図	P7区	314	上層	溝8	須恵器坏蓋	△11.0	－	△2.8	回転ナデ、ツマミ部分を一部欠損	内外面　灰白色	最大径 13.1cm 受部径 11.6cm
359	389図	P7区	324	上層	溝8	須恵器坏蓋	△12.0	－	2.7	回転ナデ、輪状ツマミを貼付け	内面　灰～灰白色 外面　灰色	最大径 14.3cm 受部径 12.6cm

表15　出土土器観察表（11）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量（cm）			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
360	389図	P7区	426　315 387	上層、下層	溝8	須恵器 坏蓋	△11.8	－	3.4	回転ナデ、輪状ツマミを貼付け	内外面　灰色	最大径 14.5cm 受部径 13.0cm
361	389図	P7区	538	下層	溝8	須恵器 坏蓋	※15.4	－	3.8	回転ナデ、輪状ツマミを貼付け	内外面　黄灰色	最大径 18.0cm 受部径 17.4cm
362	389図 PL100	P7区	518	下層	溝8	須恵器 坏蓋	△15.6	－	3.1	回転ナデ、ボタン状ツマミを貼付け	内外面　灰色	最大径 18.4cm 受部径 16.5cm
363	389図	P7区	323	上層	溝8	須恵器 坏蓋	△17.8	－	△2.1	回転ナデ、天井部一部欠損	内外面　灰色	漆記号あり 最大径 18.2cm 受部径 15.0cm
364	389図	P7区	709	－	溝8	須恵器 高台坏	△13.0	8.5	3.6	回転ナデ、貼付け高台 高台内側に爪あとあり	内面　黄灰色 外面　暗灰色～オリーブ黒色	
365	389図 PL101	P7区	400	下層	溝8	須恵器 高台坏	△13.8	9.0	4.5	回転ナデ、貼付け高台 底部、回転糸切り	内面　黄灰色 外面　緑灰色	
366	389図	P7区	338	上層	溝8	須恵器 高台坏	※14.6	7.2	4.9	回転ナデ、貼付け高台 底部、ヘラ削りか	内面　灰黄褐色 外面　灰色	
367	389図	P7区	299	上層	溝8	須恵器 皿	※19.4	※13.5	3.9	回転ナデ、貼付け高台 底部、静止糸切り	内外面　黄灰色	
368	389図 PL101	P7区	332　278 288	上層	溝8	須恵器 低脚坏	※11.8	7.6	5.3	回転ナデ	内外面　灰色	
369	389図 PL101	P7区	337 356	上層	溝8	須恵器 高台坏	※12.8	7.0	5.2	回転ナデ、貼付け高台 高台内側にヘラ記号あり	内面　灰黄色 外面　灰色	
370	389図 PL101	P7区	277　295 391	－	溝8	須恵器 坏	△8.9	－	3.0	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ調整	内面　青灰～灰オリーブ色 外面　青灰色	
371	389図	P7区	370	下層	溝8	須恵器 坏	△8.8	－	3.1	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ調整	内面　灰色 外面　青灰色～灰色	
372	389図 PL102	P7区	398	下層	溝8	須恵器 坏	△13.9	7.4	4.2	回転ナデ、底部静止糸切り	内面　灰白色～明黄褐色 外面　灰白色～にぶい黄色	
373	389図	P7区	295　312 388　341	粗砂層	溝8	須恵器 高坏	△14.0	9.6	10.3	回転ナデ、坏部外面にカキメ	内外面　灰色	
374	389図	P7区	345	上層	溝8	須恵器 高坏	※16.4	※8.1	11.0	回転ナデ	内外面　灰色	
375	389図	P7区	432（他）	－	盛土20 溝8	須恵器 高坏	△15.6	9.0	11.2	回転ナデ	内面　灰色 外面　灰色～暗灰色	
376	389図 PL102	P7区	364	下層	溝8	須恵器 高坏	△18.0	9.8	14.0	回転ナデ、脚部に２段透かし	内面　灰白色～明黄褐色 外面　灰白色～黄灰色	
377	389図	P7区	376	下層	溝8	須恵器 高坏 脚部	－	9.0	△5.2	回転ナデ	内外面　灰色	
378	389図	P7区	396 404	下層	溝8	須恵器 短頸壺	※8.0	－	△4.1	回転ナデ	内外面　灰色	
379	389図	P7区	305	上層	溝8	須恵器 壺	△17.2	－	△10.5	回転ナデ、口縁部に波状文	内面　灰色～オリーブ黄色 外面　灰色	
380	389図	P7区	290 361	下層　上層	溝8	須恵器 脚付長頸壺	－	※10.0	△6.3	回転ナデのち貼付け高台	内面　明オリーブ灰色 外面　灰色	
381	389図 PL102	P7区	353（他）	上層 下層(砂質土) 下層下面	溝8 道路1	須恵器 甕	△18.8	－	29.1	口縁部、回転ナデのち斜線文 底部平行叩き痕のちナデ	内面　淡黄色 外面　灰色	
382	389図 PL101	P7区	382	下層	溝8	須恵器 坏	※13.2	－	△3.7	回転ナデ、口縁部付近強い横ナデ	内外面　灰色	
383	389図	P7区	291　304 405	粗砂層	溝8	須恵器 坏身	△12.6	－	4.9	回転ナデ、立ち上がりは貼付け	内面　青灰色 外面　青灰色～灰白色	最大径 14.9cm 受部径 13.9cm
384	389図 PL101	P7区	328	上層	溝8	土師器 坏	△10.9	－	3.5	横ナデ、口縁端部は面取り 内面放射暗文、螺旋暗文	内外面　赤褐色	両面赤彩
385	389図	P7区	351 356	上層	溝8	土師器 坏	※17.2	－	△5.2	横ナデ、外面ヘラミガキ 内面格子状放射暗文	内外面　赤褐色	両面赤彩
386	389図	P7区	419	－	溝8	土師器 坏	△11.9	6.5	3.1	横ナデ、口縁端部肥厚する、平底、内面放射暗文、螺旋文	内外面　橙色	両面赤彩
387	389図	P7区	308	上層	溝8	土師器 坏	※16.1	－	△5.1	横ナデ、口縁端部肥厚する 内面格子状の放射暗文	内外面　橙色	両面赤彩
388	389図	P7区	291	粗砂層	溝8	土師器 埦	※12.6	－	△4.0	口縁部は強い横ナデ 磨滅が著しい	内面　橙色 外面　明褐色	
389	389図	P7区	399	下層	溝8	土師器 坏？	※16.1	－	△3.6	口縁部横ナデ、底部外面はヘラ削りのちナデ、内面放射暗文	内外面　橙色	両面赤彩
390	389図 PL101	P7区	311	上層	溝8	土師器 高坏	△18.8	－	△2.7	横ナデのち横方向のヘラミガキ	内外面　灰白色	両面赤彩
391	389図	P7区	289 531	粗砂層	溝8	土師器 高坏	－	8.8	△8.6	脚部ハケメ調整、円形の透かしを穿つ	内面　にぶい黄橙色 外面　橙色	両面赤彩
392	390図	P7区	410	－	河道8	土師器 ミニチュア 土器甕	△5.８	4.6	4.1	手づくねのち口縁部を横ナデ 内外面に指オサエが残る	内外面　にぶい黄橙色	
393	390図 PL101	P7区	364 413	－	溝8 盛土20	須恵器 坏	△8.4	－	3.0	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	

表16　出土土器観察表(12)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
394	390図 PL101	P7区	413	−	盛土20	土師器 坏	△15.0	−	△5.8	口縁端部を面取り、外面横方向のミガキ、内面は放射状ヘラミガキ	内外面　橙色	両面赤彩
395	390図	P7区	428 432	−	盛土20	土師器 坏？	※16.0	−	△6.4	口縁端部を面取り、外面横方向のヘラミガキ	内面　にぶい橙色 外面　橙色	両面赤彩
396	390図 PL101	P7区	434	−	盛土20	土師器 皿	△20.6	−	3.8	横ナデ、のち内面ミガキ	内外面　明褐灰色	両面赤彩
397	390図 PL102	P7区	413　449 483　493	−	盛土20 河道6	土師器 甕	△12.2	−	14.6	口縁部横ナデ、胴部外面ハケメ調整、内面ナデのちケズリ	内面　浅黄色 外面　淡黄色	
398	390図	P7区	454	−	盛土20	土師器 甕	※17.0	−	△11.9	口縁部横ナデ、胴部内面、右上がりヘラ削り	内外面　にぶい黄橙色	
399	390図 PL102	P7区	425	上層	河道6	須恵器 坏蓋	△14.0	−	3.4	回転ナデ、輪状ツマミを貼付け	内外面　灰色	最大径16.6cm 受部径14.8cm
400	390図	P7区	429	上層	河道6	須恵器 高台坏	△11.9	7.6	4.3	回転ナデ、底部ヘラ削りのち、貼付け高台	内外面　灰白色	ヘラ記号(外底面)
401	390図	P7区	415	上層	河道6	須恵器 坏	△9.2	−	3.0	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	
402	390図	P7区	687	上層	河道6	須恵器 小型壺	△5.1	−	8.1	回転ナデ、底部外面回転ヘラ削り	内面　灰色 外面　灰白色～灰色	
403	390図	P7区	236	上層	河道6	土師器 坏	△12.0	−	3.3	口縁部横ナデ、底部外面指オサエのちナデ、内面放射暗文、螺旋文	内外面　橙色	
404	390図	P7区	443 486	上層	河道6	土師器 皿	△18.5	−	3.0	口縁部弱い沈線、外面底部ヘラ削りのちナデ、内面放射暗文	内面　橙～にぶい橙色 外面　橙色	
405	390図 PL101	P7区	685	上層	河道6	土師器 高坏	△15.4	11.5	10.0	坏部外面横方向ヘラミガキ、内面放射状ヘラミガキ	内外面　にぶい黄橙色	
406	390図	P7区	436	上層	河道6	土師器 甕	※15.8	−	△6.2	口縁部横ナデ、肩部外面縦方向のハケメ、内面はケズリ	内外面　にぶい橙色	
407	390図	P7区	547	上層	河道6	土師器 甕	※16.7	−	△4.8	口縁部横ナデ、胴部縦ハケメ 胴部内面ケズリ	内面　にぶい橙色 外面　にぶい黄褐色	
408	390図	P7区	436	上層	河道6	土師器 甕	※18.4	−	△7.0	口縁部横ナデ、体部ハケメ調整 内面ヘラ削り	内面　にぶい黄橙色 外面　黒色	
409	390図	P7区	192	上層	河道6	土師器 甕	※16.1	−	△14.3	口縁部横ナデ、胴部外面粗いハケメ調整、内面ヘラ削り	内外面　にぶい黄橙色	
410	390図 PL103	P7区	449 537	上層	河道6	土師器 甕	△22.6	−	△22.0	口縁部横ナデ、胴部ハケメ調整 内面ヘラ削り	内外面　にぶい黄橙色～明黄褐色	
411	391図	P7区	542	上層	河道6	須恵器 坏蓋	△13.1	−	4.6	回転ナデ、天井部ヘラ切りのちナデ調整	内面　灰白色～橙色 外面　灰白色～にぶい赤褐色	
412	391図	P7区	529	下層	河道6	須恵器 坏蓋	△13.9	−	3.6	回転ナデ、天井部ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	
413	391図	P7区	465	下層	河道6	須恵器 坏蓋	△13.4	−	4.6	回転ナデ、天井部ヘラ切りのちナデ調整、弱い稜線	内面　黄灰色～暗灰黄色 外面　黄灰色～褐灰色	
414	391図 PL101	P7区	445	下層	河道6	須恵器 坏身	△10.6	−	3.1	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ	内外面　黄色	最大径12.5cm 受部径11.7cm
415	391図	P7区	501	下層	河道6	須恵器 坏身	※12.0	−	3.0	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ	内面　灰白色 外面　灰白色～灰色	最大径14.8cm 受部径14.0cm
416	391図 PL102	P7区	466	下層	河道6	須恵器 坏身	△12.2	−	4.3	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ	内外面　灰白色	最大径14.4cm 受部径13.4cm
417	391図 PL103	P7区	457	下層	河道6	須恵器 無蓋高坏	△10.0	−	△11.4	回転ナデ、坏部外面に２条稜線 脚柱部に２条の沈線	内外面　灰色	
418	391図	P7区	503	下層	河道6	須恵器 提瓶	△6.4	−	18.0	口縁部、回転ナデ 胴部外面はカキメ、ヘラ削り調整	内外面　灰色	
419	391図 PL103	P7区	438 448	下層	河道6	土師器 坏	△10.8	−	3.0	横ナデ、外面は幅広のヘラミガキか、内面は放射暗文	内外面　橙色～にぶい褐色	
420	391図 PL103	P7区	694	下層	河道6	土師器 埦	△12.6	−	5.7	横ナデ、底部ヘラ削りかナデ	内外面　橙色	
421	391図	P7区	462　463	下層	河道6	土師器 坏or高坏	※15.7	−	△4.1	横ナデ、内面放射暗文	内面　橙色～にぶい黄橙色 外面　橙色	内面赤彩
422	391図	P7区	485　450 487	下層	河道6	土師器 甕	※17.5	−	△5.3	口縁部横ナデ、肩部内面ヘラ削り	内外面　にぶい黄橙色	
423	391図	P7区	545	下層	河道6	土師器 甕	※23.5	−	△14.5	口縁部横ナデ、頸部付近に指オサエ、胴部外面ハケメ調整、内面ケズリ	内外面　黄橙色	
424	391図 PL103	P7区	447	下層	河道6	土師器 ミニチュア土器甕	△7.0	−	5.0	口縁部横ナデ、胴部ナデのちハケメ調整、内面ケズリ	内外面　浅黄色	
425	391図 PL103	P7区	534	下層	河道6	土師器 ミニチュア土器甕	△4.9	−	4.7	口縁部横ナデ、胴部外面指オサエ	内外面　にぶい黄橙色	
426	391図	P7区	274	−	河道6	須恵器 坏蓋	※13.8	−	△4.0	回転ナデ、口縁部内面に僅かに沈線	内外面　灰色	
427	391図	P7区	273	−	河道6	須恵器 高坏	△16.0	※9.0	9.2	回転ナデ、脚柱部に切りこみ状透かし	内面　暗オリーブ灰色 外面　灰色	
428	391図	P7区	537	−	河道6	須恵器 高坏	△16.4	9.6	10.4	回転ナデ、脚柱部に切りこみ状透かし	内外面　黄灰色	

表17　出土土器観察表(13)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
429	391図	P7区	264	－	河道6	須恵器 無蓋高坏	※14.2	10.7	11.4	回転ナデ、坏部外面に稜線	内外面　灰色	
430	391図	P7区	266	－	河道6	須恵器 高坏	△15.7	9.2	7.8	回転ナデ	内面　オリーブ黒色 外面　暗灰色	
431	391図 PL103	P7区	265	－	河道6	土師器 甕	△10.6	－	17.2	口縁部横ナデ、胴部外面はナデ、底部付近は指オサエが残る、内面ヘラ削り	内外面　にぶい赤褐色	
432	391図	P7区	575	－	河道6	土師器 甕	※11.8	－	△5.9	口縁部横ナデ後ヘラミガキ、胴部外面もヘラミガキ	内面　明黄褐色～褐灰色 外面　黄褐色～黒褐色	
433	392図	P7区	650	－	河道9	土師器 小型壺	△5.5	2.0	7.3	横ナデ、内面指オサエ	内外面　灰色	
434	392図	P7区	500	－	河道9	土師器 甕	※15.0	－	△5.4	口縁部横ナデのち多条沈線 内面胴部、ヘラ削り	内外面　にぶい黄橙色	
435	392図	P7区	568	－	河道9	土師器 甕	△18.4	－	△5.4	口縁部横ナデ、口縁端部は面取り	内面　灰白色～灰オリーブ色 外面　灰白色～オリーブ色	
436	392図	P7区	619	－	河道9	土師器 甕	※18.9	－	△6.6	口縁部横ナデ、肩部外面不定方向のハケメ調整	内面　黒褐色 外面　黒色	
437	392図 PL103	P7区	707	－	河道9	土師器 甕	※16.8	－	△17.0	口縁部横ナデ、胴部は横方向のハケメ調整のち線刻にて表現あり	内外面　にぶい黄橙色	
438	392図	P7区	716　714 718	－	河道9	土師器 鉢	※33.4	－	△17.0	口縁部横ナデ、胴部に把手状の突起 外面不定方向のハケメ、内面ハケメ	内面　浅黄色～黒色 外面　灰黄色	
439	392図	P7区	549 558	－	河道9	土師器 高坏	※14.7	－	△4.0	坏部横ナデのち外面はハケメ調整、 内面は放射状のヘラミガキ	内面　赤色 外面　赤褐色	両面赤彩
440	392図	P7区	570	－	河道9	土師器 高坏	－	※8.8	△5.2	脚部横ナデ、脚端部内面ハケメ調整	内面　灰白色 外面　橙色	外面赤彩
441	392図	P7区	700	－	河道9	土師器 低脚坏	△13.6	※8.1	7.4	坏部横ナデ、脚柱部ハケメ調整	内外面　明褐灰色	両面赤彩
444	392図	P7区	22	Ⅲ層	－	須恵器 平瓶	－	－	△6.6	回転ナデ	内面　灰白色 外面　オリーブ灰色	
445	392図	P7区	12	Ⅲ層	－	土師器 坏	△11.6	4.7	3.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　橙色	
446	392図	P7区	12	Ⅲ層	－	土師器 坏	△12.0	4.6	4.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　橙色 外面　明赤褐色～褐色	
447	392図	P7区	21	Ⅲ層	－	土師器 坏	※11.3	5.6	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄色	
448	392図	P7区	17	Ⅲ層	－	土師器 坏	※12.1	－	△3.6	回転ナデ	内外面　橙色	
449	392図	P7区	46	Ⅳ層	－	須恵器 坏	△12.4	－	3.4	回転ナデ、底部は回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　褐灰色	
450	392図	P7区	74	Ⅳ層下面	－	須恵器 高台坏	※12.3	7.1	4.4	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰色	ヘラ記号（底部）
451	392図	P7区	181	Ⅳ層	―	須恵器 坏身	△10.4	－	3.7	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	内外面　褐灰色	最大径13.4cm 受部径12.0cm
452	392図	P7区	669	Ⅵ層	－	土師器 甕	△12.3	－	△9.2	口縁部横ナデ、頸部はやや強い横ナデ 胴部外面不定方向のハケメ調整	内面　明赤褐色 外面　にぶい赤褐色	
453	392図	P7区	611	Ⅵ層	－	土師器 甕	※9.0	－	7.1	口縁部横ナデのちヘラミガキ 胴部横ナデ	内外面　にぶい赤褐色～黒褐色	
454	392図	P7区	581	Ⅵ層	－	土師器 甕	※14.6	－	△4.6	口縁部横ナデ、内面に波状文	内外面　にぶい黄橙色	
455	392図	P7区	603	Ⅵ層	－	土師器 ミニチュア土器	△6.5	－	6.5	手ずくね成形のち口縁部横ナデ 胴部外面粗いハケメ調整	内外面　明褐色	
456	392図	P7区	598	Ⅵ層	－	土師器 ミニチュア土器甕	△4.0	－	5.4	手ずくね成形のち口縁部は弱く横ナデ	内外面　灰白色	
457	392図	P7区	581	Ⅵ層	－	土師器 ミニチュア土器	△6.7	3.7	6.1	口縁部横ナデ、胴部指オサエ痕	内外面　にぶい黄橙色	
461	393図	P7区	718	Ⅶ層下面	－	弥生土器 甕	※26.8	－	△12.3	口縁部横ナデ、体部は縦方向のハケメ調整	内面　明黄褐色 外面　にぶい黄色	
462	393図	P7区	714　713 718	Ⅶ層下面	－	弥生土器 甕	△22.4	－	△14.9	口縁部横ナデ 僅かにハケメの痕跡がのこる	内外面　にぶい黄橙色	
463	393図	P7区	713	Ⅶ層上面	－	弥生土器 甕	※25.2	－	△10.8	口縁部横ナデのち刻目、肩部には３条のヘラ描き沈線、胴部はハケメ調整	内外面　にぶい黄橙色	
464	393図	P7区	714	Ⅶ層上面	－	弥生土器 甕？底部	－	※9.6	△14.1	底部は平底、底部外面は縦方向のハケメ調整	内外面　灰黄色	
465	393図	P7区	714	Ⅶ層下面	－	弥生土器 甕？底部	－	8.0	△8.5	底部は平底、ナデ調整 内面指オサエ残る	内外面　浅黄色	
466	393図	P7区	714	Ⅶ層上面	－	弥生土器 甕？底部	－	10.0	△5.9	底部平底、外面ハケメ調整	内外面　浅黄色	
467	393図	P7区	481	Ⅶ層相当	－	縄文土器 深鉢	△25.8	－	△15.9	貼付け突帯に大き目の刻目、外面擦痕状のナデ、内面横ナデ	内面　明黄褐色 外面　浅黄色	
468	393図	P7区	563	Ⅶ層相当	－	縄文土器 浅鉢	※26.6	－	△10.3	波状口縁、口縁部横ナデ、外面ヘラ削り、 内面ナデ調整	内外面　黄褐色～黒色	
469	393図	P7区	714	Ⅶ層下面	－	縄文土器 深鉢	－	－	△6.4	底部丸底、外面ナデ調整、 内面指オサエ	内外面　灰白色	
470	393図	P7区	721	Ⅸ層	－	縄文土器 深鉢	※47.3	－	△13.8	口縁部に刻目突帯、外面擦痕状のナデ 内面ナデ、所々に指さえ残る	内面　淡黄色～黄褐色 外面　浅黄色～灰色～オリーブ黄色	
471	394図	P8区	139	改修土①	道路1	須恵器 壺 胴部	－	－	△10.3	回転ナデ、底部内面に指オサエ	内外面　灰色	
472	394図	P8区	139	改修土①	道路1	土師器 坏	※12.7	※7.0	3.2	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄褐色	

表18　出土土器観察表(14)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
473	394図	P8区	10 30	改修土①	道路1	土師器 皿	※13.8	－	△2.8	手ずくね、口縁部二段ナデ、口縁端部はややつまみあげる	内外面　にぶい黄橙色	
474	394図	P8区	149	改修土②	道路1	須恵器 高台坏	－	7.6	△2.5	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰色 (断面)灰白色	
475	394図	P8区	146 150	改修土②	道路1	須恵器 高台坏	－	6.6	△4.6	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰白色	
476	394図	P8区	151	改修土②	道路1	土師器 坏 底部	－	6.4	△1.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　明褐灰色	
477	394図	P8区	169	構築当初土	道路1	須恵器 皿	－	※10.3	△2.7	回転ナデ、貼付け高台 底部回転ヘラ削り	内外面　灰色	
478	394図	P8区	169	構築当初土	道路1	須恵器 皿	※13.4	※7.8	1.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　暗灰黄色 外面　黒褐色	
479	394図	P8区	165	構築当初土	道路1	須恵器 壺 胴部	－	※13.8	△9.7	回転ナデ	内面　灰白色 外面　灰色	内面 漆？
480	394図	P8区	47　44 57	埋土中	道路1側溝	須恵器 皿	△13.1	8.8	2.2	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄褐色	
481	394図	P8区	49	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△12.0	3.4	3.3	回転ナデ、底部糸切り	内面　褐灰色～黒色 外面　にぶい黄橙色～黒色	
482	394図	P8区	38　42 45　46 89	埋土中	道路1側溝	土師器 足高高台坏	△12.0	※7.8	6.2	回転ナデ、貼付け高台	内外面　にぶい黄橙色	
483	394図	P8区	48	埋土中	道路1側溝	黒色土器 埦？	－	※5.4	△3.2	回転ナデ、内面黒色処理のちヘラミガキ	内面　黒色 外面　にぶい褐色	
484	394図	P8区	7 277	Ⅳ層上面	道路1外盛土	須恵器 埦	※15.2	－	△4.7	回転ナデ、口縁部は強い横ナデ 底部欠損	内面　灰白色～オリーブ褐色 外面　灰黄色～黒褐色	
485	394図	P8区	153	Ⅳ層下面	道路1外盛土	土師器 坏	△11.4	5.8	4.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい橙色～橙色 外面　灰白色～橙色	
486	394図	P8区	7	Ⅳ層上面	道路1外盛土	土師器 坏	△11.6	5.8	4.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい橙色	
487	394図 PL104	P8区	7	Ⅳ層上面	道路1外盛土	土師器 坏	△11.2	5.8	3.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい橙色	
488	394図	P8区	7	Ⅳ層上面	道路1外盛土	土師器 坏	※10.8	5.4	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰白色	
489	394図 PL104	P8区	10 12	Ⅳ層上面	道路1外盛土	土師器 坏	※14.2	7.0	5.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
490	394図	P8区	4	Ⅳ層上面	道路1外盛土	土師器 坏	△13.8	6.2	5.4	回転ナデ、底部糸切り 平高台	内面　にぶい黄橙色 外面　にぶい黄橙色～にぶい橙色	
491	394図 PL104	P8区	357	Ⅳ層	道路1外盛土	土師器 足高高台坏	△12.5	8.0	5.6	回転ナデ、貼付け高台	内外面　浅黄橙色	
492	394図	P8区	1	Ⅳ層上面	道路1外盛土	土師器 足高高台坏	※13.9	8.2	6.8	回転ナデ、貼付け高台	内面　にぶい褐色 外面　浅黄橙色～橙色	
493	394図	P8区	12	Ⅳ層上面	道路1外盛土	土師器 坏	－	5.6	△2.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄褐色	外面スス 内面漆付着
494	394図	P8区	7	Ⅳ層上面	道路1外盛土	土師器 坏	－	－	△2.5	回転ナデ、貼付け高台欠損	内面　黒色 外面　灰色	漆付着
495	394図	P8区	7	Ⅳ層上面	道路1外盛土	黒色土器 坏？	－	※4.8	△1.3	回転ナデ、底部回転糸切り 内面黒色処理のちヘラミガキ	内面　黒色 外面　にぶい橙色	
496	394図 PL104	P8区	6　24 63　157	盛土内	条里22	須恵器 埦	△17.4	8.1	7.2	回転ナデ、底部回転糸切り 平高台	内外面　黄灰色	
497	394図 PL104	P8区	65	盛土内	条里22	須恵器 坏	△12.2	7.0	4.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄褐色	
498	394図 PL104	P8区	64　60 120	盛土内	条里22	須恵器 高台坏	△13.2	7.6	6.5	回転ナデ、底部回転糸切り 貼付け高台	内面　灰白色～オリーブ褐色 外面　黄灰色～黒色	
499	394図 PL104	P8区	66	盛土内	条里22	須恵器 皿	△13.6	8.0	2.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰白色	
500	394図 PL104	P8区	109	盛土内	条里22	土師器 高台坏	※18.5	※8.2	8.9	回転ナデ、貼付け突帯 焼成不良の須恵器の可能性あり	内外面　橙色	
501	394図 PL104	P8区	111	盛土内	条里22	土師器 高台付皿	△12.9	6.5	3.0	回転ナデ、底部回転糸切り 貼付け高台	内外面　黄灰色	
502	394図	P8区	60	盛土内	条里22	土師器 高台坏	－	※8.6	△2.2	回転ナデ、貼付け高台 外面が黒色を呈する	内面　暗褐色 外面　褐灰色～黒色	
503	394図	P8区	80	盛土内	条里23	須恵器 高台坏	－	7.8	△4.4	回転ナデ、底部回転糸切り 貼付け高台	内面　灰白色～浅黄色 外面　灰白色～灰黄色	
504	394図 PL104	P8区	75	盛土内	条里23	土師器 坏	※11.0	5.8	4.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　橙色 外面　黄橙色	
505	394図	P8区	79	盛土内	条里23	土師器 皿	※12.4	※7.2	2.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　黒褐色～灰赤色	
506	394図	P8区	78	盛土内	条里23	土師器 高台坏	△11.8	※6.0	4.8	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ 貼付け高台	内外面　灰黄色	両面赤彩
507	394図 PL104	P8区	234	埋土中	溝10	須恵器 短頸壺	△7.8	－	10.3	回転ナデ、底部ヘラ削り	内面　橙色～褐灰色 外面　浅黄色～橙色	
508	394図	P8区	279 283　319	下層	溝10	土師器 坏	※18.5	－	△4.2	横ナデ、外面横方向のミガキ 内面格子状の放射暗文	内外面　橙色	両面赤彩
509	395図	P8区	103 152	Ⅲ層下層	－	緑釉陶器 椀	－	※7.7	△2.3	回転ナデ、ケズリ出し高台	釉薬　暗オリーブ黒色 露胎　浅黄色	京都産か
510	395図	P8区	121	Ⅲ層下層	－	土師器 坏	△14.6	5.9	5.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　橙色～浅黄橙色 外面　浅黄橙色	
511	395図	P8区	192	Ⅴ層上面	－	土師器 ミニチュア 土器 壺	△7.5	－	△6.9	口縁部横ナデ、胴部不定方向のハケメ 内面ケズリ	内外面　橙色	

表19　出土土器観察表(15)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
512	395図	P8区	191 273　302	Ⅵ層相当～Ⅴ～Ⅵ層	－	弥生土器 甕	※19.6	－	△11.0	口縁部横ナデ、外面：口縁部波状文 肩部～胴部ハケメ後多条沈線、波状文	内面　にぶい黄褐色 外面　黒色	
513	395図	P8区	313	Ⅵ層	－	土師器 坏	△15.8	－	△5.3	坏部外面ハケメ調整	内外面　にぶい黄橙色	
514	395図	P8区	317	Ⅶ-Ⅰ層	－	弥生土器 甕？底部	－	11.0	△13.5	底部平底、外面ハケメ調整 内面ケズリ調整	内外面　にぶい黄橙色	
515	395図	P8区	292　127 290	Ⅶ-Ⅰ層	－	土師器 甕	△33.7	－	△15.1	口縁部横ナデ、外面不定方向ハケメ 内面ハケメ調整	内外面　にぶい橙色	
516	395図 PL105	P8区	255	Ⅶ-Ⅱ層	－	弥生土器 壺	※23.1	－	△13.4	口縁部横ナデ、頸部ケズリ出し後ミガキ、 内面ミガキ	内外面　褐色	
517	395図	P8区	335	Ⅶ-Ⅱ層	－	縄文土器 深鉢	※28.2	－	△9.7	刻目突帯文、内外面ナデ調整	内外面　にぶい黄橙色	
518	395図	P8区	356	Ⅶ-Ⅱ層	－	縄文土器 深鉢	－	－	△9.0	刻目突帯文、内外面ナデ調整 穿孔あり	内外面　オリーブ黄色	
519	395図	P8区	353	Ⅶ-Ⅱ層	－	縄文土器 深鉢	※27.0	－	△19.7	垂下する刻目突帯文 外面：擦痕状のナデ、内面ナデ	内面　灰白色～灰黄色 外面　灰黄色	
520	395図	P8区	329	Ⅶ-Ⅱ層	－	弥生土器 甕　口縁部	※21.4	－	△3.9	口縁部ナデ、内外面指オサエ残る	内外面　にぶい橙色	
521	395図	P8区	330	Ⅶ-Ⅱ層	－	弥生土器 甕？底部	－	11.9	△9.9	底部平底、外面ハケメ調整 内面ナデのちハケメ調整	内外面　にぶい橙色	
522	395図	P8区	335　355 373	Ⅶ-Ⅱ層	－	弥生土器 甕？底部	－	11.2	△12.1	底部平底、外面ハケメ調整 内面指オサエ残る	内外面　灰黄色	
523	396図 PL105	P8区	377	Ⅷ層	－	弥生土器 壺	－	－	△13.0	上部に刻目突帯 胴部ナデのちヘラミガキ、木葉文	内外面　浅黄色～黒褐色	
524	396図	P8区	373	Ⅷ層	－	縄文土器 深鉢	※20.2	－	△11.0	刻目突帯文、外面擦痕状のナデ 内面横ナデ	内外面　明褐灰色	
525	396図	P8区	372	Ⅷ層	－	縄文土器 深鉢	△32.0	－	△8.1	垂下する刻目突帯文 外面：擦痕状のナデ	内外面　明褐灰色～黒褐色	
526	396図	P8区	380	Ⅷ層	－	縄文土器 深鉢	※27.5	－	△11.0	刻目突帯文、外面擦痕状のナデ 内面横ナデ	内外面　橙色～にぶい黄橙色	
527	396図	P8区	373　335	Ⅷ層	－	縄文土器 深鉢	※31.7	－	△14.4	無刻目突帯文、外面縦方向のナデと横方向 の擦痕状のナデ、内面横ナデ	内外面　褐灰色	
528	396図	P8区	373	Ⅷ層	－	縄文土器 深鉢	△36.0	－	△10.6	刻目突帯文、外面擦痕状のナデ	内外面　にぶい黄色	
529	396図 PL105	P8区	429	Ⅷ層	－	縄文土器 深鉢	※26.4	－	△19.1	刻目突帯文、外面左上がりのナデ 指オサエ残る	内外面　灰黄色	
530	396図	P8区	373	Ⅷ層	－	縄文土器 深鉢	※36.8	－	△8.0	刻目突帯文、外面左上がりのナデ 内面横ナデ	内面　　浅黄色 外面　　灰白色	
531	396図	P8区	380	Ⅷ層	－	縄文土器 深鉢	－	－	△7.8	外面擦痕状のナデ、内面ナデと指オサエが 残る	内面　にぶい黄橙色～暗褐色 外面　灰黄褐色～黒褐色	
532	396図	P8区	373	Ⅷ層	－	縄文土器 深鉢	－	－	△6.5	外面、棒状工具による縦方向ナデ 内面横ナデ	内面　黄褐色～黒褐色 外面　にぶい黄色～黒褐色	
533	397図	P8区	374	Ⅸ層	－	縄文土器 深鉢	※24.2	－	△8.2	無刻目の突帯、内外面ナデ調整	内外面　明褐灰色	
534	397図	P8区	374	Ⅸ層	－	縄文土器 深鉢	※27.0	－	△18.6	刻目突帯文、内外面ナデ調整 指オサエの痕跡が残る	内面　灰黄色～黄灰色 外面　浅黄色～黄灰色	
535	397図 PL105	P8区	392	Ⅸ層上面	－	縄文土器 深鉢	※19.2	－	15.4	刻目突帯文、外面擦痕状のナデ 内面ナデ調整、指オサエの痕跡残る	内面　灰白色～黄灰色 外面　灰黄色～浅黄色～黒褐色	
536	397図 PL105	P8区	419	Ⅸ層	－	縄文土器 浅鉢？	※27.0	－	△5.6	内外面ナデ調整	内外面　灰黄色	
537	397図	P8区	414	Ⅸ層	－	縄文土器 深鉢	※27.3	－	△13.8	刻目突帯文 内面擦痕状のナデ調整	内面　白色～灰黄色 外面　灰色～にぶい黄橙色	
538	397図	P8区	405	Ⅸ層	－	縄文土器 深鉢	※38.8	－	△8.3	刻目突帯文 内外面ナデ調整	内外面　灰白色	
539	397図	P8区	422	Ⅸ層	－	縄文土器 深鉢	※28.0	－	△14.0	刻目突帯文 外面擦痕状のナデ、内面ナデ調整	内面　明黄褐色 外面　灰黄色	
540	397図 PL105	P8区	404	Ⅸ層上面	－	縄文土器 深鉢	※18.8	－	△13.4	外面擦痕状のナデ、内面ナデ 外面棒状の工具痕	内外面　浅黄色～にぶい黄橙色	
541	397図	P8区	420	Ⅸ層	－	縄文土器 浅鉢	※25.0	－	△6.2	波状口縁 口縁部横ナデ、外面ナデ調整	内外面　黄褐色	
542	398図	5区	5-72 5-73	盛土上 盛土内	条里25	土師器 坏	－	※5.2	△1.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄褐色	
543	398図	5区	5-74・ 75・61	Ⅳ-２層	条里25	土師器 坏	△11.2	5.3	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
544	398図	5区	5-6	盛土内	条里25	土師器 坏	－	5.6	△2.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　橙色	
545	398図	5区	5-8	Ⅲ層	－	瓦質羽釜	－	－	△5.5	横ナデ、貼付け突帯	内面　灰白色～灰色 外面　灰色	
546	398図	5区	5-46	Ⅳ層下面	－	須恵器 坏	※13.6	－	△3.6	回転ナデ	内外面　灰色	
547	398図	5区	5-25	Ⅳ-５層	－	須恵器 坏	※12.4	－	△3.5	回転ナデ	内外面　にぶい黄橙色	
548	398図	5区	5-44	Ⅳ-２層	－	須恵器 坏	※12.1	－	△3.4	回転ナデ	内面　オリーブ灰色～灰色 外面　灰色	
549	398図	5区	5-51	Ⅳ層下面	－	須恵器 高台坏	－	※8.0	△2.2	回転ナデ、貼付け高台	内外面　褐灰色	
550	398図	5区	5-23	Ⅳ-１層	－	須恵器 壺(底部)	－	※10.6	△9.5	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰色	
551	398図	5区	5-27	Ⅳ～Ⅴ層	－	土師器 坏	※13.1	5.8	4.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色～にぶい黄褐色 外面　灰黄褐色	

表20　出土土器観察表(16)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図 PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
552	398図	5区	5-16	Ⅳ層	−	土師器 坏	※11.7	−	△3.3	回転ナデ	内外面　明赤褐色	
553	398図	5区	5-77	Ⅳ-2層	−	土師器 高台坏	−	※6.0	△3.1	回転ナデ	内外面　灰色	
554	398図	5区	5-32 5-35 5-36 5-59	Ⅳ～5層 Ⅳ～5層 Ⅳ～1層 Ⅳ～2層	−	土師器 坏	※11.8	−	3.4	横ナデ、外面横方向ヘラミガキ 内面放射暗文	内外面　橙色	
555	398図	5区	5-65	Ⅳ-2層	−	土師器 坏	※16.3	−	△3.9	横ナデ、内面横方向のミガキ	内外面　にぶい黄色～にぶい赤褐色	
556	398図	5区	5-26	Ⅳ～Ⅴ層	−	土師器 甕	※12.0	−	△4.2	口縁部横ナデ 胴部内面ヘラ削り	内面　灰黄褐色 外面　褐灰色	
557	398図	5区	5-12	Ⅴ層	−	須恵器 高坏 坏部	※12.3	−	△2.6	回転ナデ	内外面　灰色	
558	398図	5区	5-97	Ⅴ層直上	−	土師器 坏	※13.8	−	△3.7	横ナデ、内面ヘラミガキ	内外面　橙色	
559	398図	5区	5-88 5-93	Ⅴ層	−	土師器 甕	※30.2	−	△12.6	口縁部内面ハケメ調整 胴部外面縦方向のハケメ調整	内面　灰黄褐色 外面　にぶい黄褐色～黒色	
560	398図	5区	5-62	Ⅴ層	−	土師器 ミニチュア土器　鉢	△7.6	4.4	4.9	手ずくね成形、口縁部横ナデ	内面　にぶい黄橙色～褐灰色 外面　にぶい黄橙色	
561	398図	5区	5-97	Ⅴ-2層～砂層	−	土師器 甕	※17.4	−	△4.7	口縁部横ナデ、胴部内面ヘラ削り	内面　灰黄色 外面　黒色	
562	398図	5区	5-80	Ⅴ層	−	土師器 甕	※14.8	−	7.4	口縁部横ナデ、肩部外面ハケメ調整 内面ヘラ削り	内外面　にぶい黄橙色	
563	398図	5区	5-58 5-81	Ⅴ層下 Ⅴ層	−	土師器 甕	※16.8	−	△6.7	口縁部横ナデ、胴部外面ハケメ調整	内外面　にぶい黄橙色	
564	399図	P9区	345	改修土①	道路1	須恵器 埦 口縁部	−	−	△4.0	回転ナデ、口縁部不定方向ヘラミガキ	内外面　灰色	
565	399図	P9区	180	改修土①	道路1	須恵器 埦 口縁部	−	−	△5.0	回転ナデ、口縁部不定方向ヘラミガキ	内外面　灰色	
566	399図	P9区	303	改修土①	道路1	土師器 坏 底部	−	5.3	△2.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい橙色～黒褐色 外面　橙色～黒褐色	一部スス付着
567	399図	P9区	306	改修土①	道路1	土師器 高台坏	−	※9.8	△2.5	回転ナデ、貼付け高台	内面　黒色 外面　にぶい橙色	内面漆付着
568	399図	P9区	37	改修土①	道路1	須恵器 高台坏	−	※7.8	△1.8	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰白色	
569	399図	P9区	41	改修土①	道路1	須恵器 高台坏	−	※4.5	△2.0	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　灰黄色	
570	399図	P9区	342	改修土①	道路1	須恵器 坏身	※9.8	※5.8	4.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰白色	
571	399図	P9区	382　388 401	改修土①	道路1	須恵器 無台坏	※13.5	※8.1	3.6	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　褐色 外面　明褐灰色	
572	399図	P9区	348	改修土①	道路1	須恵器 高台坏	※12.4	※9.2	3.9	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　灰色	
573	399図	P9区	481	改修土①	条里25 道路1	須恵器 坏身	△9.8	−	3.4	回転ナデ、立ち上がりは貼付け 回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　黒色	最大径 11.6cm 受部径 10.5cm
574	399図	P9区	301	改修土①	道路1	須恵器 坏身	△8.4	−	3.2	回転ナデ、内面見込みにヘラ記号 外面全体に自然釉付着	内面　灰黄色 外面　灰オリーブ色	最大径 10.6cm 受部径 9.2cm
575	399図	P9区	294	改修土①	道路1	土師器 甕	△24.2	−	△6.2	口縁部横ナデ 肩部内面ヘラ削り	内外面　橙色	
576	399図 PL106	P9区	205　316 238　232 211	改修土②	道路1 道路1道路外盛土	須恵器 高台坏	※11.0	※7.5	5.2	回転ナデ、貼付け高台 底部ヘラ切り	内外面　灰色	
577	399図	P9区	107 325	改修土②	条里25 道路1	黒色土器 埦	※14.0	−	△4.9	回転ナデ、内面黒色処理のちミガキ	内面　黒色 外面　にぶい黄橙色	
578	399図	P9区	392	改修土②	道路1下層	須恵器 坏	※12.1	−	△4.5	回転ナデ、口縁部に強い横ナデ 底部に糸切り痕	内外面　灰色	
579	399図	P9区	354	改修土②	道路1	須恵器 高台坏	−	※8.0	△3.0	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰色	
580	399図	P9区	332	改修土②	道路1	須恵器 甕	※30.4	−	△9.4	口縁部回転ナデ 胴部叩き具痕	内面　黒褐色 外面　灰白色	
581	400図	P9区	94	構築当初土	道路1	須恵器 蓋	14.4	−	△2.8	回転ナデ、輪状ツマミを貼付け ツマミ一部欠損	内面　黄灰色 外面　オリーブ色	最大径 16.7cm 受部径 14.8cm
582	400図	P9区	94	構築当初土	道路1	須恵器 高台坏	※14.6	※8.6	5.5	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰色	
583	400図 PL106	P9区	206	構築当初土	道路1	須恵器 蓋	※8.0	−	3.5	回転ナデ、宝珠状ツマミを貼付け かえりは短い	内外面　灰色	最大径 10.0cm 受部径 8.4cm
584	400図	P9区	435	構築当初土	道路1	須恵器 坏蓋	△10.2	−	2.9	回転ナデ、宝珠状ツマミを貼付け かえりは直立し、やや長い	内外面　灰白色	最大径 12.4cm 受部径 11.2cm

表21　出土土器観察表（17）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量（cm）			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
585	400図 PL106	P9区	328	構築当初土	道路1	須恵器 蓋	※14.0	－	3.3	回転ナデ、輪状ツマミ	内外面　灰色	最大径 16.6cm 受部径 15.0cm
586	400図	P9区	526	構築当初土	道路1	須恵器 坏身	△8.9	－	3.3	回転ナデ、立ち上がりは短い 外面全体に自然釉付着	内面　灰白色 外面　オリーブ灰色	最大径 11.0cm 受部径 10.0cm
587	400図 PL106	P9区	363	構築当初土	道路1	須恵器 高台坏	※11.4	※7.4	4.0	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰色	
588	400図	P9区	338	構築当初土	道路1	須恵器 高台坏	－	8.2	△2.9	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰白色 （断面）にぶい褐色	
589	400図	P9区	338	構築当初土	道路1	須恵器 高台坏	－	7.1	△2.8	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰色	
590	400図	P9区	263 441	構築当初土	条里25 道路1	須恵器 高台坏	－	※8.8	△2.2	回転ナデ、貼付け高台	内外面　黄灰色	
591	400図	P9区	372 501	構築当初土	道路1	須恵器 坏	※15.0	－	△3.6	回転ナデ、口縁部に強い横ナデ	内外面　灰色	
592	400図	P9区	439	構築当初土	道路1	須恵器 高台坏	－	8.4	△4.1	回転ナデ、貼付け高台 静止糸切り	内外面　黄灰色	
593	400図	P9区	503	構築当初土	道路1	須恵器 脚付長頸壺	－	※8.0	△5.0	回転ナデ、貼付け高台	内外面　黄灰色	
594	400図	P9区	435 505	構築当初土	道路1 河道6	土師器 皿	△19.8	12.5	3.3	横ナデ、底部外面ヘラ削りのちナデ 内面放射暗文と螺旋文	内面　明赤褐色 外面　明赤褐色～淡橙色	両面赤彩
595	400図	P9区	395	構築当初土	道路1	土師器 ミニチュア 甕	※9.4	－	8.2	口縁部横ナデ、胴部ナデ調整 底部外面はヘラ状工具によるナデ	内外面　にぶい黄橙色	
597	400図	P9区	73	埋土中	道路1側溝	緑釉陶器 椀	－	※6.6	△2.3	回転ナデ、削り出し高台	釉調　暗オリーブ灰色 露胎　にぶい黄褐色～灰色	
598	400図	P9区	100	埋土中	道路1側溝	緑釉陶器 碗	－	※7.9	△1.4	回転ナデ、削り出し高台	釉調　オリーブ灰色 露胎　灰白色	
599	400図	P9区	162	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	－	※5.6	△1.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄褐色	
600	400図	P9区	99	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※11.4	※5.4	3.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい褐色	
601	400図	P9区	97 494	埋土中	道路1側溝	黒色土器 埦	－	－	△3.3	横ナデ、口縁部端部僅かに沈線 内面黒色処理のちヘラミガキ	内面　黒褐色 外面　暗灰黄色～黄灰色	
602	401図	P9区	155	－	道路1外盛土	土師器 坏	※10.8	5.6	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色 外面　灰黄褐色	
603	401図 PL106	P9区	169	埋土	道路1外盛土	土師器 坏	△12.0	5.5	4.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄褐色	
604	401図	P9区	260	粗朶混じり粘土	道路1外盛土	土師器 坏	△12.1	5.2	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　浅黄橙色	
605	401図	P9区	412	埋土	道路1外盛土	土師器 坏	△12.6	5.3	4.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　暗オリーブ褐色 外面　暗褐色	
606	401図 PL106	P9区	227　228 221	黄褐色細砂層	道路1外盛土	土師器 坏	△11.4	5.6	3.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい橙色	
607	401図 PL106	P9区	191	黄褐色細砂層	道路1外盛土	土師器 坏	※11.4	6.2	4.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　明褐灰色～橙色	
608	401図	P9区	165	埋土中層	道路1外盛土	土師器 坏	△11.2	5.4	4.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄色	
609	401図	P9区	191	上層（黄褐色細砂層）	道路1外盛土	土師器 坏	△12.0	6.2	4.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色～橙色	
610	401図	P9区	459	粗朶混じり粘土	道路1外盛土	土師器 坏	△11.2	6.2	3.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰白色	
611	401図	P9区	25	Ⅳ層（遺構埋土）	道路1外盛土	土師器 坏	※12.1	※7.4	3.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
612	401図	P9区	459	粗朶混じり粘土	道路1外盛土	土師器 坏	△11.6	6.0	3.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
613	401図	P9区	220 221	－	道路1外盛土	土師器 坏	△12.8	7.2	3.8	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ調整	内外面　にぶい橙色	両面赤彩？
614	401図	P9区	26	Ⅳ層	道路1外盛土	土師器 低脚坏	－	7.6	△3.4	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰白色	
615	401図	P9区	218 227	黄褐色細砂層	道路1外盛土	土師器 皿	△12.3	5.7	2.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄色	
616	401図 PL106	P9区	219 223	埋土上層 黄褐色細砂層	道路1外盛土	土師器 皿	△12.6	6.2	2.2	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰色	
617	401図	P9区	240 241	中層（細砂層②）	道路1外盛土	須恵器 坏	△10.0	－	4.0	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ調整	内面　黒褐色 外面　灰色	
618	401図	P9区	231 241	黄褐色細砂層	道路1外盛土	須恵器 坏	△12.1	8.0	4.4	回転ナデ、底部内面に未貫通穿孔	内外面　褐灰色	
619	401図	P9区	269	粗砂層	道路1外盛土	須恵器 坏身	△12.2	－	4.0	回転ナデ、回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	最大径 14.8cm 受部径 13.2cm
620	401図	P9区	250	下層（粗朶混じり細砂層）	道路1外盛土	須恵器 蓋	△13.2	－	3.0	回転ナデ、輪状ツマミを貼付け	内外面　灰色	漆描きあり

表22　出土土器観察表(18)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
621	401図	P9区	210　283 255　175	埋土下層 粗朶混じり細砂	道路1外盛土	須恵器 高台坏	△15.8	7.8	4.3	回転ナデ、底部糸切り	内外面　灰色	
622	401図	P9区	149	下層	道路1外盛土	須恵器 坏？	－	9.3	△3.3	回転ナデ、底部静止糸切り	内外面　灰色	
623	401図	P9区	468	下層	道路1外盛土	土師器 甕	※26.6	－	△5.5	口縁部横ナデ、胴部ハケメ調整	内面　灰褐色 外面　灰褐色～にぶい橙色	
624	402図	P9区	132	埋土	条里25	須恵器 坏？	－	※10.2	△0.8	回転ナデ、底部不定方向のナデ	内外面　青灰色	
625	402図	P9区	481	盛土内	条里25 道路1	須恵器 高台坏	－	7.8	△1.8	回転ナデ、底部回転ヘラ切り	内面　灰色～暗オリーブ褐色 外面　灰色～黒色	
626	402図 PL106	P9区	297	盛土内	条里25	須恵器 平瓶	－	－	△9.7	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	内外面　黄灰色	
627	402図	P9区	478	盛土内	条里25	土師器 足高高台坏	△15.8	7.5	5.2	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰黄褐色	
628	403図 PL106	P9区	419 451	粗朶混じり細砂層	河道10	須恵器 蓋	△10.5	－	2.8	回転ナデ、ボタン状ツマミ貼付け	内外面　灰色	最大径 13.2cm 受部径 11.9cm
629	403図 PL106	P9区	264　255 416	粗朶混じり細砂層	河道10	須恵器 蓋	△11.4	－	2.7	回転ナデ、輪状ツマミ貼付け	内外面　青灰色	外面　漆付着 最大径 13.8cm 受部径 12.6cm
630	403図	P9区	244 423	下層 (粗朶混じり細砂層)	河道10	須恵器 蓋	△14.0	－	3.6	回転ナデ、輪状ツマミ貼付け	内外面　灰色	漆付着 最大径 17.0cm 受部径 15.4cm
631	403図 PL106	P9区	417 428　432	粗朶混じり細砂層	河道10	須恵器 蓋	△13.2	－	3.0	回転ナデ、輪状ツマミ貼付け	内面　灰色～暗灰黄色 外面　灰白色～灰色	最大径 15.9cm 受部径 14.2cm
632	403図 PL106	P9区	251(他)	下層 (粗朶混じり細砂層)	河道10	須恵器 蓋	※15.0	－	3.6	回転ナデ、輪状ツマミ貼付け	内外面　黄灰色	最大径 17.3cm 受部径 15.8cm
633	403図 PL106	P9区	253	下層 (粗朶混じり細砂層)	河道10	須恵器 蓋	△13.6	－	3.3	回転ナデ、輪状ツマミ貼付け	内外面　灰色	最大径 15.8cm 受部径 14.3cm
634	403図 PL107	P9区	429	粗朶混じり細砂層	河道10	須恵器 蓋	△14.9	－	3.2	回転ナデ、輪状ツマミ貼付け	内外面　灰色～灰オリーブ色	外面漆付着
635	403図	P9区	252 427	下層 (粗朶混じり細砂層)	河道10	須恵器 蓋	△14.2	－	3.2	回転ナデ、幅広のボタン状ツマミ貼付け	内外面　灰色	外面漆付着
636	403図 PL107	P9区	403　265 443　447	粗朶混じり細砂層	河道10	須恵器 蓋	△15.6	－	3.3	回転ナデ、輪状ツマミ貼付け	内外面　灰色	
637	403図 PL107	P9区	413 432	粗朶混じり細砂層	河道10	須恵器 蓋	※14.9	－	3.3	回転ナデ、輪状ツマミ貼付け	内外面　灰色	漆付着 (つまみ部)
638	403図 PL107	P9区	418　216 432	粗朶混じり細砂層	河道10	須恵器 蓋	△15.0	－	3.3	回転ナデ、輪状ツマミ貼付け	内外面　灰色	漆付着 (外)
639	403図	P9区	360	粗朶混じり粗砂層	河道10	須恵器 高台坏 底部	－	※9.5	△1.5	回転ナデ	内外面　灰色	
640	403図	P9区	270　242 377	下層 (粗朶混じり細砂層)	河道10	須恵器 高台坏	※13.6	7.8	3.9	回転ナデ、底部回転ヘラ切り	内外面　灰色	
641	403図	P9区	415 447	粗朶混じり細砂層	河道10	須恵器 高台坏	※13.8	7.8	4.2	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　灰色～灰オリーブ色	漆付着 (高台内側)
642	403図 PL107	P9区	470 474	粗朶混じり細砂	河道10 河道6	須恵器 高坏坏部	※17.0	－	△4.9	回転ナデ 透かし状の切り込みあり	内外面　灰色	
643	403図 PL107	P9区	466　470 474	下層 (粗朶混じり細砂)	河道10	須恵器 無蓋高坏	△16.6	10.8	11.9	回転ナデ、坏底部にカキメ調整 脚柱部に２条の沈線	内外面　灰色	
644	403図 PL107	P9区	242　449 510	下層 (粗朶混じり細砂層)	河道10	須恵器 長頸壺	※10.1	9.5	21.3	回転ナデ、肩部に沈線 貼付け高台	内外面　青灰色	
645	403図	P9区	360	粗朶混じり粗砂層	河道10	土師器 皿	※14.6	－	△1.8	横ナデ	内外面　橙色	赤彩あり
646	403図	P9区	433 447	粗朶混じり細砂層	河道10	土師器 甕	※31.4	－	△9.0	口縁部横ナデ、胴部外面ナデ調整 内面ケズリ調整	内面　灰白色 外面　黒色	
647	404図	P9区	564	粗砂層 (最下層)	河道6	須恵器 高台坏	※12.0	※6.8	4.2	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰色	底部漆付着

表23　出土土器観察表（19）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量（cm）			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
648	404図	P9区	544	粗砂層	河道6	須恵器 坏蓋	△13.7	－	4.4	回転ナデ、回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	
649	404図	P9区	245 497	古段階	河道6	須恵器 坏身	△12.4	－	4.7	回転ナデ、回転ヘラ削り	内外面　青灰色	最大径 14.8cm 受部径 14.0cm
650	404図	P9区	533 574	細砂層	河道6	須恵器 無蓋高坏	△12.0	9.7	9.1	回転ナデ	内外面　灰白色～灰色	
651	404図	P9区	522 576	最上層	河道6	須恵器 有蓋高坏	※12.6	※9.6	7.8	回転ナデ	内面　灰色 外面　灰色～黒色	最大径 15.4cm 受部径 14.4cm
652	404図 PL107	P9区	269 648	粗砂層	河道6	須恵器 無蓋高坏	△14.4	※10.0	12.0	回転ナデ、脚柱部に２条の沈線	内外面　灰白色	
653	404図 PL107	P9区	562	粗砂層 (最下層)	河道6	須恵器 短頸壺	△6.6	－	7.5	回転ナデのち静止ヘラ削り	内外面　明褐灰色	
654	404図	P9区	690 694	粗砂～細砂層	河道6	須恵器 壺	－	－	△12.4	回転ナデ、頸部に２条沈線 胴部に２条の沈線、底部回転ヘラ削り	内面　暗灰色 外面　黒色	
655	404図	P9区	545 546	粗砂層	河道6	須恵器 樽形提瓶	※7.7	－	△15.2	口縁部回転ナデ、肩部側面カキメ調整	内外面　灰白色	
656	404図	P9区	540（他）	粗砂層	河道6	須恵器 甕	△16.0	－	27.1	回転ナデ、外面平行叩き目のちカキメ 内面同心円状の当て具痕	内面　灰白色 外面　灰色	
657	404図	P9区	458	粗砂層	河道6	須恵器 甕	△18.2	－	33.1	口縁部回転ナデ、外面平行叩き目、内面同心円文の当て具、外面カキメ	内面　灰色 外面　灰色～オリーブ黄色	
658	404図	P9区	516 580	最上層	河道6	土師器 甕	※24.3	－	△4.8	口縁部横ナデ、頸部～肩部ハケメ調整	内面　にぶい黄橙色 外面　黒色（煤）	
659	404図	P9区	522 528	最上層 粗砂層	河道6	土師器 甕	△19.4	－	23.8	口縁部横ナデ、胴部は不定方向、底部は横方向のハケメ調整	内外面　にぶい黄橙色	
660	404図	P9区	550	粗砂層	河道6	土師器 甕	△16.8	－	△9.0	口縁部横ナデのちハケメ調整 内面ヘラ削り	内面　にぶい黄橙色～黒褐色 外面　にぶい黄橙色～褐灰色	
661	405図	P9区	694	埋土中	河道11	土師器 甕	※26.8	－	△7.0	口縁部横ナデ、肩部外面ハケメ調整 内面ヘラ削り	内面　灰オリーブ色 外面　灰黄色	
662	405図	P9区	593	埋土中	河道11	土師器 小型丸底壺	※8.3	－	7.8	口縁部横ナデ、肩部内面はナデ上げ、胴部はヘラ削り	内外面　褐色	
663	405図	P9区	698	埋土中	河道11	弥生土器 甕	※20.6	－	△7.7	口縁部横ナデのち擬凹線 肩部に刺突文、内面ヘラ削り	内外面　灰白色～黄褐色	
665	406図	P9区	610	埋土中	河道12	土師器 埦	△13.4	－	5.2	内外面横ナデ、底部外面にヘラ記号	内外面　明黄褐色	
666	406図	P9区	615 652	埋土中	河道12	土師器 甕	△17.8	－	△10.9	口縁部横ナデ、肩部外面擬凹線	内外面　灰黄褐色	
667	406図	P9区	613	埋土中	河道12	土師器 甕	※17.9	－	△12.0	口縁部横ナデ、口縁端部つまみ上げ 外面ハケメ調整のち刺突文	内外面　灰オリーブ色	
668	406図	P9区	637	埋土中	河道12	土師器 ミニチュア 甕	△6.8	3.5	8.6	口縁部横ナデ、手ずくね成形 外面ナデ、内面ヘラ削り	内外面　にぶい黄橙色	
669	406図	P9区	19 20	Ⅳ層	－	土師器 坏	※15.0	※6.4	4.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
670	406図	P9区	558	Ⅴ層相当	－	土師器 低脚坏	－	9.1	△4.3	脚部横ナデ、内面横方向のヘラ削り	内面　灰黄色 外面　にぶい黄色	
671	406図	P9区	590	Ⅵ層 (黒色層)	－	土師器 甕	△15.8	－	△6.3	口縁部横ナデのちヘラミガキ	内面　黄灰色～オリーブ褐色 外面　灰黄色～黄褐色	
672	406図	P9区	595	Ⅵ層	－	土師器 甕	△19.6	－	△6.4	口縁部横ナデのちヘラミガキ	内面　にぶい黄橙色～にぶい黄褐色 外面　にぶい黄橙色～黒褐色	
673	406図	P9区	479	Ⅶ層	－	弥生土器 甕	※16.5	8.4	33.2	口縁部横ナデ、外面ヘラミガキあるいはナデ、内面頸部ハケメ調整	内外面　明黄褐色	
674	406図	P9区	640	Ⅷ層	－	弥生土器 壺	△8.8	6.0	18.8	口縁部に刻目、外面頸部～底部までヘラミガキあるいはナデ	内外面　にぶい黄橙色	
675	406図	P9区	639	Ⅷ層	－	弥生土器 壺	△11.2	7.0	25.8	口縁部交差刻目、外面頸、肩部櫛描文、胴部ヘラミガキ、底部ハケメ調整	内面　黄灰色～黒褐色 外面　暗灰黄色～黒色	
676	406図	P9区	656	Ⅸ層	－	縄文土器 深鉢	－	－	△4.3	口縁端部横ナデ、指オサエのこる	内外面　黄褐色	
677	406図	P9区	662	Ⅸ層	－	縄文土器 深鉢	－	－	△10.5	口縁部横ナデ、外面擦痕状のナデ 内面横ナデ	内外面　にぶい黄色～黄灰色	
678	406図	P9区	655	Ⅸ層	－	縄文土器 深鉢	－	－	△7.9	外面擦痕状のナデ、内面指オサエ残る	内外面　にぶい黄色	
679	406図	P9区	671	Ⅸ層	－	縄文土器 深鉢	－	－	△11.1	外面ヘラ削り、内面横ナデ	内面　淡黄色～灰色 外面　明黄褐色～灰色	
680	406図	P9区	660	Ⅸ層	－	縄文土器 浅鉢	※23.3	－	△3.7	内外面ナデ調整	内面　淡黄色～明黄褐色 外面　にぶい橙色	
681	406図	P9区	678	Ⅸ層	－	縄文土器 浅鉢	－	－	△6.9	口縁部、擦痕状のナデ	内外面　黒色～明黄褐色	
682	407図	P10区	275	第5次盛土路面	道路1	土師器 坏 底部	－	※5.0	△1.5	回転ナデ、底部回転糸切り 見込みにヘラ描きあり	内外面　灰白色	底面ヘラ記号
683	407図	P10区	383	第5次盛土路面	道路1	土師器 足高高台坏	※14.2	－	△5.7	回転ナデ、貼付け高台 高台の一部欠損	内外面　にぶい黄橙色	
684	407図	P10区	198	第5次盛土路面	道路1 上面	土師器 皿	※11.8	－	△2.0	手ずくねのち横ナデ 口縁部二段ナデ	内面　灰黄褐色 外面　褐灰色	
685	407図	P10区	376	第5次盛土路面	道路1	緑釉陶器 椀	※16.6	－	△3.6	回転ナデ	釉薬　暗オリーブ灰色 露胎　黄灰色	
686	407図	P10区	376	第5次盛土路面	道路1	緑釉陶器 椀	－	※6.4	△1.1	削り出し高台	釉薬　浅黄色 露胎　淡黄色	

表24　出土土器観察表(20)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
687	407図	P10区	712	第5次盛土 路面	道路1	緑釉陶器 椀	－	※5.8	△1.4	削り出し高台	釉薬　オリーブ灰色 露胎　にぶい黄橙色	
688	407図	P10区	385	第5次盛土 路面	道路1	須恵器 高台坏	△11.8	8.0	3.8	回転ナデ、底部回転糸切り 貼付け高台	内面　灰色～オリーブ色 外面　灰色	
689	407図 PL96	P10区	628	第4・5次盛土 路面	道路1	須恵器 蓋	※14.2	－	△1.6	回転ナデ、天井部は回転糸切り	内外面　灰白色	
690	407図	P10区	627	第4・5次盛土 路面	道路1	須恵器 高台坏	△12.0	10.0	3.7	回転ナデ、底部回転糸切り 貼付け高台	内面　黄褐色～暗灰黄色 外面　黄褐色～黒褐色	
691	407図	P10区	635	第4・5次盛土 路面	道路1	須恵器 高台坏	※12.8	※9.0	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り 貼付け高台	内外面　灰黄色	
692	407図	P10区	619 635	第4・5次盛土 路面	道路1	須恵器 坏	※11.6	※8.8	3.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
693	407図	P10区	625	第4・5次盛土 路面	道路1	須恵器 坏	※12.2	※9.2	3.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　褐灰色	
694	407図	P10区	420 621	第4・5次盛土 路面	道路1	須恵器 壺底部	－	－	△8.1	回転ナデ	内外面　黄灰色	
695	407図	P10区	644	第4・5次盛土 路面	道路1	須恵器 高台坏	－	8.4	△3.9	回転ナデ、貼付け高台	内面　灰色～オリーブ褐色 外面　灰色	
696	407図	P10区	430	第4・5次盛土 路面	道路1	土師器 坏	－	5.2	△2.6	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄色	
697	407図	P10区	413	第4・5次盛土 路面	道路1	土師器 坏	※11.4	5.6	4.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
698	407図	P10区	479	第4・5次盛土 路面	道路1	土師器 坏	△11.5	5.9	3.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　浅黄色	
699	407図	P10区	426	第4・5次盛土 路面	道路1	土師器 坏	－	※5.6	△2.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄色	
700	407図	P10区	428	第4・5次盛土 路面	道路1	土師器 坏	－	※5.0	△2.4	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ調整	内外面　にぶい黄橙色	
701	407図	P10区	433	第4・5次盛土 路面	道路1	土師器 坏	－	5.2	△2.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	内面　漆付着
702	407図 PL109	P10区	419 436	第4・5次盛土 路面	道路1	土師器 足高高台坏	△13.6	※7.5	5.8	回転ナデ、貼付け高台	内面　浅黄橙色～にぶい黄褐色 外面　浅黄橙色	
703	407図	P10区	429	第4・5次盛土 路面	道路1	土師器 皿	※10.8	※4.6	2.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄色	
704	407図	P10区	404 416	第4・5次盛土 路面	道路1	土師器 皿	△10.9	5.3	1.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
705	407図	P10区	416	第4・5次盛土 路面	道路1	土師器 皿	△11.7	5.7	2.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
706	407図 PL109	P10区	396 419	第4・5次盛土 路面	道路1	土師器 皿	※11.6	※5.6	2.5	回転ナデ	内面　にぶい黄色 外面　にぶい黄橙色	
707	407図	P10区	394	第4・5次盛土 路面	道路1	土師器 皿	※11.8	－	1.2	手ずくねのち横ナデ 口縁部端部僅かに摘み上げる	内面　にぶい黄橙色 外面　灰黄褐色	
708	407図	P10区	628 644	第4・5次盛土 路面	道路1	土師器 甕	※24.2	－	△4.8	口縁部横ナデ、肩部外面縦ハケメ、内面ケズリ	内面　黒褐色 外面　にぶい黄橙色～褐灰色	内面、炭化物付着
711	408図 PL109	P10区	571　575 611　612	第2次盛土	道路1	須恵器 蓋	※13.8	－	△1.6	回転ナデ、ツマミ欠損	内外面　灰白色	
712	408図 PL96・109	P10区	557 577	第2次盛土	道路1	須恵器 蓋	△13.0	－	△2.1	回転ナデ、ツマミ欠損	内面　灰白色～灰色 外面　灰白色～オリーブ黒色	
713	408図	P10区	507 553	第2次盛土	道路1	須恵器 蓋	－	－	△1.3	回転ナデ、方形のツマミ 天井部回転糸切り	内外面　灰色	
714	408図 PL96・109	P10区	508 735	第2次盛土	道路1	須恵器 蓋	△12.8	－	2.3	回転ナデ、方形のツマミ	内外面　灰色	
715	408図	P10区	629	第2次盛土	道路1	須恵器 蓋	※16.4	－	4.1	回転ナデ、天井部回転ヘラ削り 擬宝珠状ツマミ	内外面　灰白色	
716	408図	P10区	683	第2次盛土	道路1	須恵器 蓋	△14.0	－	2.7	回転ナデ、天井部回転ヘラ切り 擬宝珠状ツマミ	内面　灰白色 外面　褐灰色	
717	408図 PL109	P10区	681	第2次盛土	道路1	須恵器 蓋	△14.6	－	3.0	回転ナデ、天井部回転ヘラ切りのち ナデ	内外面　黄灰色	
718	408図 PL96・109	P10区	551	第2次盛土	道路1	須恵器 蓋	△15.5	－	2.7	回転ナデ、宝珠状ツマミを貼付け 天井部は静止糸切り痕残す	内外面　灰白色～灰色	
719	408図 PL109	P10区	659	第2次盛土	道路1	須恵器 蓋	△13.5	－	2.6	回転ナデ、天井部回転糸切り	内外面　灰色	
720	408図	P10区	629	第2次盛土	道路1	須恵器 蓋	△14.5	－	1.8	回転ナデ、肥大した方形ツマミか	内外面　灰色	
721	408図 PL96	P10区	781 637	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	－	※8.8	△2.6	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　黄灰色	
722	408図	P10区	597	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※12.3	※8.3	3.4	回転ナデ、貼付け高台 見込み不定方向ナデ	内外面　灰色	
723	408図	P10区	739	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※11.7	※8.2	3.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰色	
724	408図	P10区	812	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※12.4	※8.0	4.3	回転ナデ、貼付け高台 底部回転ヘラ切り	内面　灰黄褐色～暗褐色 外面　褐灰色～黒褐色	
725	408図	P10区	588	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	△12.4	9.2	3.9	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　灰色	
726	408図	P10区	1102	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※12.8	※9.2	4.1	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　灰白色	
727	408図	P10区	637	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※12.9	※9.6	4.1	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内面　灰白色 外面　灰色	
728	408図	P10区	602 612	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※12.8	※9.6	3.9	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　灰色～オリーブ色	

表25　出土土器観察表(21)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
729	408図	P10区	520	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	14.6	7.9	4.7	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内面　青灰色 外面　青灰色～灰白色	
730	408図	P10区	556 564	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※14.9	※9.6	5.3	回転ナデ、貼付け高台	内面　灰色 外面　灰白色	
731	408図	P10区	688　684 691	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※14.9	※10.7	5.0	回転ナデ、貼付け高台 底部静止糸切り	内面　灰白色～にぶい黄色 外面　灰色	
732	408図	P10区	720	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※15.0	※9.6	6.1	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　灰白色	
733	408図	P10区	738 1102	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※14.6	※10.9	6.5	回転ナデ、貼付け高台 底部静止糸切り	内外面　灰色	
734	408図	P10区	690 691	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※16.2	※11.4	6.1	回転ナデ、貼付け高台	内面　灰白色 外面　灰色	
735	408図 PL96・110	P10区	645	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※15.4	※9.7	6.1	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰白色～灰色	
736	408図 PL96・110	P10区	6　496 497	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	17.4	10.2	7.2	回転ナデ、貼付け高台 底部回転ヘラ削り	内外面　褐灰色	
737	408図	P10区	508 1102 1103	第2次盛土	道路1	須恵器 高台坏	18.0	11.3	6.6	回転ナデ、貼付け高台 底部回転ヘラ削り	内面　オリーブ灰色 外面　暗緑灰色～オリーブ灰色	
738	408図	P10区	503 515	第2次盛土	道路1	須恵器 坏	※11.4	※8.2	3.7	回転ナデ、底部回転糸切り 口縁端部に僅かに沈線	内外面　灰黄色	
739	408図	P10区	586	第2次盛土	道路1	須恵器 坏	※11.9	※7.0	3.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　灰色 外面　灰白色～灰色	
740	408図	P10区	587　566	第2次盛土	道路1	須恵器 坏	※15.0	※9.0	6.1	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　青灰色	
741	408図 PL110	P10区	568　738	第2次盛土	道路1	須恵器 坏	15.8	10.2	6.1	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	内外面　灰色	
742	408図	P10区	527(他)	第2次盛土	道路1	須恵器 坏	※14.8	※8.0	7.3	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	内面　にぶい赤褐色 外面　にぶい赤褐色～褐灰色	
743	408図	P10区	594	第2次盛土	道路1	須恵器 皿	※13.7	※9.8	2.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰白色	
744	408図 PL96	P10区	734	第2次盛土	道路1	須恵器 皿	※14.8	※10.0	3.2	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ	内外面　灰白色～灰色	
745	408図 PL110	P10区	729　732 655	第2次盛土	道路1	須恵器 皿	17.0	12.7	4.1	回転ナデ、貼付け高台 底部回転ヘラ削り	内外面　灰白色	
746	408図 PL96	P10区	640　642	第2次盛土	道路1	須恵器 広口壺	※14.8	－	△6.4	口縁部回転ナデ	内外面　灰色	
747	408図	P10区	632	第2次盛土	道路1	須恵器 壺 底部	－	※9.3	△8.2	回転ナデ	内面　灰色 外面　灰白色～灰色	
748	408図	P10区	555	第2次盛土	道路1	須恵器 壺	－	－	△10.6	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	内外面　褐灰色	
749	408図 PL96	P10区	733　738 745	第2次盛土	道路1	須恵器 長頸壺底部	－	※10.4	△10.7	回転ナデ、貼付け高台	内外面　褐灰色	
750	408図	P10区	538　543 612　642	第2次盛土	道路1	須恵器 甕	※18.4	－	△6.4	口縁部回転ナデ、胴部外面叩き痕 内面同心円文の当て具痕	内面　褐灰色 外面　灰白色	
751	408図	P10区	562　563 611	第2次盛土	道路1	須恵器 甕	※13.8	－	△6.9	口縁部回転ナデ、胴部外面格子状叩き目、 内面同心円文の当て具痕	内外面　灰色	
752	409図 PL110	P10区	542　564 640	第2次盛土	道路1	土師器 蓋	19.6	－	5.0	回転ナデ、天井部回転ヘラ削り	内面　淡橙～赤褐色 外面　淡橙～明赤褐色	両面赤彩
753	409図 PL110	P10区	687(他)	第2次盛土	道路1	土師器 高台坏	※19.2	※12.1	7.5	回転ナデ、貼付け高台 底部回転ヘラ削り	内面　橙色～暗赤褐色～灰白色 外面　橙色～灰白色	両面赤彩
754	409図 PL110	P10区	533　550 732	第2次盛土	道路1	土師器 坏	※13.8	9.6	4.6	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ調整	内面　にぶい橙～橙色 外面　橙色	
755	409図 PL110	P10区	687	第2次盛土	道路1	土師器 坏	14.4	9.4	4.4	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ調整	内外面　明赤褐色	
756	409図	P10区	544　564	第2次盛土	道路1	土師器 坏	※15.1	－	4.5	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ調整	内外面　橙色	外面赤彩
757	409図	P10区	490 498	第2次盛土	道路1	土師器 皿	※14.6	※8.0	2.8	回転ナデ、底部静止ヘラ削り	内外面　にぶい黄橙色	
758	409図 PL110	P10区	4　18 9　721	第2次盛土	道路1	土師器 皿	※13.8	※8.6	3.0	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ調整	内外面　橙色	両面赤彩
759	409図 PL96	P10区	651	第2次盛土	道路1	土師器 皿	※12.4	－	△3.5	横ナデ、外面横方向のヘラミガキ 内面見込み螺旋暗文	内外面　橙色	両面赤彩
760	409図	P10区	733	第2次盛土	道路1	土師器 甕	16.8	－	△4.2	口縁部横ナデ、胴部外面縦方向のハケメ、 内面左上がりのケズリ	内面　浅黄橙色～黒色 外面　浅黄橙色	
761	409図	P10区	517　568 589　738	第2次盛土	道路1	土師器 甕	※21.0	－	△13.0	口縁部横ナデのちハケメ調整、胴部外面縦 ハケメ、内面ケズリ	内面　にぶい黄橙色 外面　淡橙色～にぶい黄橙色	外面煤付着
762	409図	P10区	687	第2次盛土	道路1	土師器 甕	※35.5	－	△6.8	口縁部横ナデ、胴部外面縦方向のハケメ調 整、内面ケズリ	内面　にぶい黄橙色～黒褐色 外面　オリーブ黒色	
763	409図	P10区	578	第2次盛土	道路1	土師器 甕	※30.3	－	△8.3	口縁部横ナデ	内面　にぶい赤褐色～黒色 外面　褐灰色	
764	409図	P10区	499(他)	第2次盛土	道路1	土師器 甕	※32.0	－	△6.0	口縁部横ナデ、胴部外面縦方向のハケメ、 内面左上がりのケズリ	内面　にぶい橙色 外面　黒褐色	
765	409図 PL110	P10区	545	第2次盛土	道路1	土師器 甕	※30.4	－	△12.6	口縁部横ナデ、胴部外面ハケメ調整、内面 ケズリ、僅かにハケメ調整	内外面　灰黄褐色	
770	410図 PL110	P10区	920	第1次盛土敷葉 ・敷粗朶層	道路1	須恵器 坏蓋	12.2	－	3.5	回転ナデ、天井部回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	

表26　出土土器観察表(22)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
771	410図	P10区	934	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	道路1	須恵器高台坏	※13.7	※8.0	5.4	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　灰色	
772	410図	P10区	846	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	道路1	須恵器高台坏	－	※8.2	△3.1	回転ナデ、貼付け高台 底部静止糸切りのちナデ	内外面　灰色	
773	410図 PL109・110	P10区	912	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	道路1	須恵器高台坏	－	※8.1	△3.7	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰色	内面漆か？
774	410図 PL109・110	P10区	817	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	道路1	須恵器坏	※10.2	6.8	3.2	回転ナデ、底部ナデ調整	内外面　灰色	
775	410図	P10区	818　825 830	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	道路1	須恵器蓋	※19.0	－	△2.0	回転ナデ	内外面　灰白色	
776	410図 PL111	P10区	936 990	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	道路1	須恵器壺	－	－	△7.8	回転ナデ	内外面　灰色	
777	410図	P10区	813	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	道路1	土師器坏	12.6	－	3.7	口縁部横ナデ、外面横方向のヘラミガキ 内面左傾の放射暗文、見込み螺旋文	内外面　橙色	両面赤彩
778	410図 PL111	P10区	816	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	道路1	土師器坏	※19.5	－	△6.0	口縁端部は内側に肥厚する、内面格子状の放射暗文、見込みに螺旋文	内外面　橙色	外面赤彩
779	410図 PL111	P10区	885(他)	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	道路1	土師器坏	16.6	－	6.0	口縁端部は内側に僅かに肥厚する 内面は格子状の放射暗文と螺旋文	内面　にぶい橙色 外面　明赤褐色	
780	410図	P10区	817 831	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	道路1	土師器甕	※23.2	－	△7.0	口縁部横ナデのち内側ハケメ調整 胴部外面縦方向のハケメ調整	内外面　にぶい橙色	
781	411図	P10区	674 825	第1次盛土	道路1	須恵器蓋	13.0	－	3.1	回転ナデ、天井部輪状のツマミを貼付け	内面　青灰色 外面　灰白色	最大径15.2cm 受部径14.0cm
782	411図 PL111	P10区	756	第1次盛土	道路1	須恵器蓋	※16.0	－	3.6	回転ナデ、天井部輪状のツマミを貼付け	内面　青灰色 外面　灰色	
783	411図 PL109	P10区	1113 1114	第1次盛土	道路1	須恵器蓋	※14.2	－	2.9	回転ナデ、天井部輪状のツマミを貼付け	内外面　青灰色	最大径16.4cm 受部径15.0cm
784	411図 PL109	P10区	599	第1次盛土	道路1	須恵器蓋	15.4	－	3.0	回転ナデ、天井部輪状のツマミを貼付け	内外面　灰色	ツマミ内側漆描き
785	411図	P10区	667	第1次盛土	道路1	須恵器蓋	15.3	－	2.6	回転ナデ、天井部輪状のツマミを貼付け	内外面　褐灰色	
786	411図	P10区	754	第1次盛土	道路1	須恵器高台坏	－	※9.0	△2.7	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　灰色	
787	411図 PL111	P10区	750	第1次盛土	道路1	須恵器高台坏	※13.3	※7.7	4.8	回転ナデ、貼付け高台 底部静止糸切り	内外面　灰色	
788	411図	P10区	600	第1次盛土	道路1	須恵器高台坏	※14.0	※8.8	5.5	回転ナデ、貼付け高台 底部ナデ調整	内外面　灰色	
789	411図	P10区	660	第1次盛土	道路1	須恵器高台坏	※12.4	※7.8	3.9	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰色	
790	411図	P10区	1122	第1次盛土	道路1	須恵器坏	※12.3	※9.2	3.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　灰白色 外面　灰黄褐色	
791	411図	P10区	761 762	第1次盛土	道路1	須恵器坏	※12.5	6.2	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り 口縁部は強い横ナデ	内面　青灰色 外面　灰色	
792	411図	P10区	1114	第1次盛土	道路1	須恵器坏	※12.1	※4.8	4.0	回転ナデ、底部ヘラ切り 口縁部は強い横ナデ	内面　灰色 外面　灰～青灰色	
793	411図 PL111	P10区	758 748	第1次盛土	道路1	須恵器坏	※12.8	※7.6	4.9	回転ナデ、底部静止糸切り 口縁部は強い横ナデ	内外面　褐灰色	
794	411図	P10区	672	第1次盛土	道路1	須恵器坏	※12.0	※7.2	3.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄褐色	
795	411図	P10区	671	第1次盛土	道路1	須恵器坏	※12.2	※9.0	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り 口縁端部に沈線	内外面　にぶい黄橙色	
796	411図	P10区	671 672	第1次盛土	道路1	須恵器皿	※15.6	10.8	3.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄色～黒褐色 外面　暗オリーブ褐色～黒色	
797	411図 PL109	P10区	705　817 673　885	第1次盛土	道路1	土師器坏	※12.2	－	3.4	横ナデ、外面はヘラミガキ、内面は放射暗文、見込みに螺旋文	内外面　赤褐色	両面赤彩
798	411図	P10区	780	第1次盛土	道路1	土師器坏	※16.9	－	△5.1	口縁部内側に肥厚、内面は格子状の放射暗文、見込みは螺旋文	内外面　橙色	両面赤彩
799	411図	P10区	780	第1次盛土	道路1	土師器坏	－	－	△5.1	口縁部内側に肥厚、内面は格子状の放射暗文か	内外面　にぶい赤褐色	両面赤彩
800	411図	P10区	752 891	第1次盛土	道路1	土師器坏	※16.9	－	△6.1	口縁部内側に肥厚、外面横方向のヘラミガキ、内面放射暗文	内面　橙色 外面　明赤褐色	両面赤彩
801	411図	P10区	757	第1次盛土	道路1	土師器甕	21.8	－	△7.8	口縁部横ナデ、胴部は縦方向のハケメ調整、外面はヘラ削り	内面　灰黄色 外面　黒色	
802	411図	P10区	666	第1次盛土	道路1	土師器甕	※22.6	－	△9.1	口縁部横ナデ、胴部は縦方向のハケメ調整、外面はヘラ削り	内面　にぶい黄橙色 外面　明黄褐色	
805	412図	P10区	955	第1次盛土最下層	道路1	須恵器坏	※11.0	－	4.1	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	
806	412図	P10区	958(他)	第1次盛土最下層	道路1	須恵器高台坏	※13.0	7.5	4.8	回転ナデ、貼付け高台 底部ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	
807	412図	P10区	966	第1次盛土最下層	道路1	須恵器高台坏	※13.0	7.8	4.1	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰色	
808	412図	P10区	962　673 881	第1次盛土最下層	道路1	須恵器甕	※35.4	－	△10.3	口縁部回転ナデ、口縁部に波状文	内外面　灰色	
809	413図	P10区	717	盛土内	道路1	須恵器高台坏	※13.4	※9.4	4.0	回転ナデ、貼付け高台 底部は回転糸切り	内外面　灰色	

表27　出土土器観察表(23)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
810	413図	P10区	670	盛土内	道路1	土師器 坏	※12.4	※8.4	3.4	口縁部横ナデ、底部はナデ調整	内外面　橙色	両面赤彩
813	414図 PL111	P10区	160 63	新側溝	道路1	須恵器 壺	－	－	△11.1	回転ナデ、貼付け突帯を２条	内外面　黄灰色	
814	414図 PL112	P10区	253	古側溝	道路1	土師器 坏	△11.6	5.9	3.6	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
815	414図	P10区	95　104 452	新側溝	道路1	土師器 坏	※10.8	4.6	3.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　橙色 外面　にぶい橙色	
816	414図 PL112	P10区	81 115	新側溝	道路1	土師器 坏	※10.6	※4.6	3.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい橙色 外面　橙色	
817	414図	P10区	81	新側溝	道路1	土師器 坏	※11.0	※5.6	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰褐色	
818	414図	P10区	158	新側溝	道路1	土師器 坏	△12.0	5.8	3.8	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ調整	内外面　にぶい黄色～黄灰色	
819	414図	P10区	121	新側溝	道路1	土師器 坏	※11.8	6.0	4.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい橙色 外面　明褐灰色	両面赤彩
820	414図	P10区	142 143	新側溝	道路1	土師器 坏	※13.4	※6.3	3.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　黄褐色 外面　黒色	
821	414図	P10区	110	新側溝	道路1	土師器 足高高台坏	－	※8.0	△5.4	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰黄色	
822	414図	P10区	134	新側溝	道路1	土師器 高台坏	※16.8	－	△5.8	回転ナデ	内外面　にぶい橙色～橙色	
823	414図	P10区	82 132	新側溝	道路1	黒色土器 埦	※14.5	－	△4.2	回転ナデ、内面は黒色処理のち不定方向のヘラミガキ	内面　黒色 外面　灰黄色～黒色	
824	414図 PL112	P10区	148	新側溝	道路1	土師器 坏 底部	－	6.3	△2.3	底部回転糸切り 平高台	内外面　灰褐色	
825	414図	P10区	82	新側溝	道路1	土師器 皿	※10.8	－	1.9	手ずくねのちナデ調整 口縁部は二段ナデ	内外面　褐灰色	
826	414図	P10区	127 128	新側溝	道路1	土師器 甕	※21.4	－	△8.2	口縁部は横ナデ、胴部ハケメ調整 内面ハケメ調整	内面　黒褐色 外面　暗褐色	
827	415図	P10区	P10-11 12　229 240　728 P11-376 631	盛土内	道路1 外盛土	緑釉陶器 輪花椀	△16.1	7.5	5.5	回転ナデ、削り出し高台	釉調　暗オリーブ灰色 露胎　黄灰色	
828	415図	P10区	463	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏	－	※4.8	△2.4	回転ナデ、回転糸切り	内外面　橙色	
829	415図	P10区	353	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏	△10.4	5.6	3.6	回転ナデ、回転糸切り	内面　橙色 外面　にぶい黄橙色	
830	415図	P10区	352	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏	△11.2	4.9	3.8	回転ナデ、底部ナデ調整	内外面　にぶい黄橙色	
831	415図	P10区	444	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏	※11.8	7.4	4.0	回転ナデ、底部押圧技法	内面　にぶい黄橙色～明黄褐色 外面　にぶい黄橙色	
832	415図	P10区	437	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏	－	※6.0	△2.6	回転ナデ、底部調整は磨滅のため不明	内外面　灰黄褐色	内面漆付着
833	415図	P10区	456	盛土内	道路1 外盛土	土師器 高台坏	△12.1	7.6	5.5	回転ナデ、貼付け高台	浅黄色	内面漆付着
834	415図	P10区	457	盛土内	道路1 外盛土	土師器 高台坏	－	※7.6	△5.4	回転ナデ、貼付け高台	内面　黒褐色 外面　にぶい黄橙色	内面漆付着？
835	415図	P10区	306	盛土内	道路1 外盛土	土師器 高台付皿	△11.0	－	△2.6	回転ナデ、貼付け高台	内面　にぶい黄橙色～褐色 外面　にぶい黄橙色～灰黄褐色	
836	415図	P10区	445	盛土内	道路1 外盛土	土師器 皿	※14.6	※9.5	2.4	回転ナデ	内面　にぶい橙色 外面　灰白色～にぶい橙色	
837	415図	P10区	183(他)	外盛土	道路1 外盛土	土師器 坏	※17.0	※8.6	4.1	回転ナデ、底部静止ヘラ削り	内外面　にぶい橙色	両面赤彩
838	415図	P10区	484	盛土内	道路1 外盛土	土師器 製塩土器	△9.2	－	△4.8	内外面に指オサエ多く残る	内外面　灰黄褐色	
840	415図	P10区	699	盛土内	条里27	須恵器 高台坏	－	※8.2	△1.5	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰色	
841	415図	P10区	217	盛土内	条里29	須恵器 高台坏	－	※9.0	△3.0	回転ナデ、貼付け高台	内面　灰色～灰白色 外面　灰色	
842	415図	P10区	214	盛土内	条里28	土師器 甕	※35.2	－	△7.4	口縁部横ナデ、内外面ケズリか	内外面　灰黄褐色～黒褐色	
843	416図	P10区	663 674	埋土中	河道13	須恵器 蓋	※12.3	－	3.5	回転ナデ、天井部輪状ツマミを添付	内外面　明褐灰色	最大径 14.2cm 受部径 13.0cm
844	416図	P10区	1093	埋土中	河道13	須恵器 坏蓋	※9.8	－	3.8	回転ナデ、天井部回転ヘラ切りのち ナデ調整	内面　黒褐色 外面　灰色	
845	416図	P10区	1157	埋土中	河道13	須恵器 坏身	※10.8	－	4.2	回転ナデ、回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	最大径 13.8cm 受部径 12.6cm
846	416図	P10区	914	埋土中	河道13	須恵器 坏身	※10.2	－	△3.7	回転ナデ、立ち上がりが摩耗する 底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	最大径 12.0cm 受部径 11.0cm
847	416図 PL112	P10区	900	埋土中	河道13	須恵器 坏	※12.2	－	4.1	回転ナデ	内外面　灰色	
848	416図 PL112	P10区	662 799	埋土中	河道13	須恵器 盌	※9.0	－	6.6	回転ナデ、口縁部外面カキメ調整 底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	

表28　出土土器観察表(24)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図 PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
849	416図	P10区	661 892	−	河道13	須恵器 無蓋高坏	※14.8	11.4	12.6	回転ナデ	内外面　灰白色	
850	416図 PL112	P10区	804	−	河道13	須恵器 無蓋高坏	△11.6	10.0	10.0	回転ナデ、焼け歪みが著しい	内面　灰色～灰白色 外面　灰色	
851	416図	P10区	902	−	河道13	須恵器 無蓋高坏	※10.5	−	△4.1	回転ナデ、坏部に稜線が二条めぐる	内面　黒色 外面　暗オリーブ灰色	
852	416図	P10区	878	−	河道13	土師器 甕	※22.7	−	△5.4	口縁部横ナデ、胴部外面縦方向のハケメ調整、内面ケズリ	内外面　にぶい黄橙色～にぶい黄褐色～黒色	
853	416図	P10区	675	上層	河道13	土師器 甕	※19.3	−	△7.4	口縁部横ナデ、胴部外面ハケメ調整	内外面　橙色～黒色	煤付着
854	416図	P10区	189	粗砂層上層	河道6	須恵器 坏蓋	※10.6	−	3.4	回転ナデ、天井部回転ヘラ削りのち ナデ調整	内面　灰白色 外面　灰色	
855	416図	P10区	1158	粗砂層以下	河道6	須恵器 坏身	※12.0	−	△4.3	回転ナデ	内外面　褐灰色	最大径 14.0cm 受部径 13.0cm
856	416図	P10区	787	Ⅴ層以下	河道6	須恵器 無蓋高坏	△13.8	12.5	11.9	口縁部横ナデ、肩部外面横ナデ、胴部はハケメ調整、内面指オサエ、ヘラ削り	内外面　灰色	
857	416図	P10区	1032	下面	河道6	土師器 甕	※16.2	−	△13.1	口縁部横ナデ	内外面　にぶい黄色	
858	416図	P10区	1030	下面	河道6	土師器 甕	※15.8	−	△4.9	口縁部横ナデ、胴部外面縦ハケメ 内面ケズリ	内面　褐灰色 外面　褐色	
859	417図	P10区	898	埋土中	土坑６	須恵器 坏蓋	△14.9	−	4.8	回転ナデ、天井部回転ヘラ削り	内面　橙～浅黄橙色 外面　橙～淡橙色	
860	417図	P10区	897	埋土中	土坑６	須恵器 坏身	※12.4	−	4.8	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	内面　黄橙色 外面　橙色	最大径 15.0cm 受部径 13.9cm
861	417図	P10区	899	埋土中	土坑６	須恵器 坏身	△12.6	−	5.2	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	内外面　灰色	最大径 15.7cm 受部径 14.4cm
862	417図	P10区	1035	−	盛土25	弥生土器 甕 口縁部	※14.7	−	△4.2	口縁部に２条の凹線、胴部ハケメ調整	内外面　黒色～にぶい黄褐色	
863	417図 PL112	P10区	1144	盛土内	盛土25	弥生土器 高坏坏部	※22.8	−	△5.7	口縁部横ナデのち内外面横方向のヘラミガキ	内外面　にぶい黄橙色	
864	417図	P10区	1089	盛土内	盛土26	弥生土器 甕	※15.1	−	△11.1	口縁部横ナデ、胴部外面ハケメ調整 頸部内面ヘラミガキ	内面　灰オリーブ～オリーブ黒色 外面　灰オリーブ～黒色	
865	417図	P10区	1137	盛土内	盛土26	弥生土器 甕	※18.4	−	△24.6	口縁部に刺突文、胴部外面上部はハケメのち刺突文を上下２段、下半はヘラミガキ	内面　灰黄色～灰黄褐色 外面　黄褐色	
866	417図	P10区	1125	盛土内	盛土26	弥生土器 鉢	※12.6	※6.0	7.8	口縁部横ナデ、頸部付近に指オサエの痕跡、底部平底	内面　暗褐色 外面　灰白色	
867	418図	P10区	1057	埋土中	土坑7	弥生土器 水差形土器	△8.2	−	△14.5	口縁部外面はヘラミガキ、胴部はハケメ調整、把手を張り付けのちヘラミガキ	内外面　灰黄褐色	
868	418図	P10区	1022 1033	埋土中	土坑7	弥生土器 甕	※14.2	−	△11.3	口縁部に２条の凹線文、胴部外面は縦方向のハケメ調整、内面ヘラ削り	内面　にぶい黄橙色～黒褐色 外面　にぶい黄橙色	
869	418図	P10区	988 1046	Ⅶ層以下	土坑7	弥生土器 甕	△21.6	−	△20.5	口縁部に３条の凹線文、胴部外面は上半をハケメ調整、下半はヘラミガキ	内面　にぶい黄橙色 外面　にぶい黄橙色～黒色	
870	418図 PL112	P10区	1040	埋土中	土坑7	弥生土器 甕	※12.2	−	△27.8	口縁部に２条の凹線文、胴部外面は縦方向のハケメ調整、内面はヘラ削り	内外面　灰黄褐色	
871	418図	P10区	1166	埋土中	土坑7	弥生土器 甕	※15.4	−	△11.0	口縁部に２条の凹線文、胴部外面はヘラミガキ、内面はヘラ削り	内外面　灰白色	
872	418図	P10区	1172 1166	埋土中	土坑7	弥生土器 甕	※14.8	−	△5.9	口縁部に４条の凹線文、外面ハケメ調整 内面ヘラ削り	内面　にぶい黄色 外面　浅黄色	
873	418図	P10区	1021	埋土中	土坑7	弥生土器 広口壺	※17.4	−	△4.6	口縁部に４条の凹線文、外面頸部ナデのちヘラミガキ、内面横方向のヘラミガキ	内外面　明褐色	両面赤彩
874	418図	P10区	1038 1057	埋土中	土坑7	弥生土器 広口壺	※16.0	−	△7.3	口縁部３条の凹線文のち刺突文、頸部ハケメのち５条の凹線文	内外面　にぶい黄橙色	
875	418図	P10区	1039 1045	埋土中	土坑7	弥生土器 壺	※25.4	−	△34.0	口縁部に３条の凹線文、頸部と胴部は粗いヘラミガキ	内外面　にぶい黄橙色	
876	418図 PL112	P10区	1047	埋土中	土坑7	弥生土器 高坏	△19.6	9.8	17.0	口縁部横ナデのち３条の凹線文、外面ヘラミガキ、脚端部も２条のヘラミガキ 内面坏部ヘラミガキ、脚柱部に絞り痕、脚裾部は横方向のヘラ削り	内面　黄褐色～暗オリーブ褐色 外面　灰黄色～黒褐色	
877	419図	P10区	67	Ⅳ層	−	土師器 坏	※12.2	5.3	4.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄褐色	
878	419図	P10区	1014	Ⅶ-１・２層	−	土師器 甕	※17.2	−	△7.8	口縁部横ナデ、肩部外面に櫛描平行沈線 内面ヘラ削り	内外面　灰黄色	
879	419図	P10区	793	Ⅴ層以下	−	弥生土器 甕	※12.8	−	△7.9	口縁部に２条の凹線文、胴部内面ヘラ削り	内面　にぶい黄色～黒褐色 外面　黄褐色～黒褐色	
880	419図	P10区	981	Ⅶ層以下	−	弥生土器 甕	※13.0	−	△6.0	口縁部に２条の凹線文、胴部内面ヘラ削り	内面　にぶい黄褐色 外面　黒褐色	
881	419図	P10区	980 1038	Ⅶ層以下	−	弥生土器 甕	※15.0	−	△6.7	口縁部に２条の凹線文、表面が磨滅し詳細不明	内面　浅黄色～黒褐色 外面　淡黄色～黒褐色	
882	419図	P10区	1011	Ⅶ-１層	−	弥生土器 壺	−	−	△11.0	口縁部横ナデ、胴部外面ナデのち粗いハケメ調整、内面ヘラ削り	内面　にぶい黄橙色 外面　黒褐色	
883	419図	P10区	794	Ⅴ層以下	−	弥生土器 甕	△18.6	※6.3	32.9	口縁部に２条の凹線文、胴部外面縦方向のハケメ調整、内面肩部ハケメ、胴部ケズリ	外面　灰黄褐色	
884	419図	P10区	1159	Ⅷ層相当	−	弥生土器 壺 頸部	−	−	△12.4	頸部に４条の貼付け突帯、口縁部はハケメ調整、肩部外面はヘラミガキ	内外面　にぶい黄色	
885	420図	P11区	867	第5次盛土路面	道路1	土師器 柱状高台	−	4.2	△2.0	回転ナデ、底部静止糸切り	内外面　明黄褐色	

表29　出土土器観察表(25)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
886	420図	P11区	705	第5次盛土路面	道路1柱列	土師器 足高高台坏	－	8.4	△3.9	回転ナデ、貼付け高台	内外面　浅黄橙色	
887	420図	P11区	323	第5次盛土路面	道路1	土師器 坏 底部	－	※9.4	△1.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色～黒色 外面　にぶい黄橙色～橙色	
888	420図	P11区	178	第5次盛土路面	道路1	須恵器 蓋	△14.7	－	2.7	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内面　灰色～オリーブ色 外面　灰白色～灰色	
889	420図	P11区	434	第5次盛土路面	道路1	須恵器 蓋	※16.7	－	2.5	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内外面　灰白色	
890	420図	P11区	567	第5次盛土路面	道路1	須恵器 高台坏	△14.2	9.4	3.8	回転ナデ、貼付け高台 底部回転ヘラ切りのちナデ	内外面　灰白色～オリーブ褐色	
891	420図	P11区	660	第5次盛土路面	道路1	須恵器 坏	※13.1	※8.0	4.0	回転ナデ、底部ナデ調整	内面　オリーブ灰色 外面　緑灰色	
892	420図	P11区	697	第5次盛土路面	道路1	須恵器 坏	△12.3	※7.6	3.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰色～黄褐色	
893	420図	P11区	457 599	第5次盛土路面	道路1	須恵器 坏	※12.6	※7.3	3.3	回転ナデ	内外面　褐灰色	
894	420図	P11区	679	第5次盛土路面	道路1	須恵器 高坏	△16.0	10.1	11.6	回転ナデ、切り込み状の透かし	内外面　灰白色	
895	420図	P11区	173	第5次盛土路面	道路1	須恵器 坏？	－	※15.7	△2.0	回転ナデ、貼付け高台	内面　灰白色 外面　灰色	
896	420図	P11区	435	第5次盛土路面	道路1	土師器 甕	※14.0	－	△8.2	口縁部横ナデ、胴部内面ヘラ削り	内面　にぶい黄橙色 外面　にぶい黄橙色～にぶい橙色	
897	420図	P11区	553	第5次盛土路面	道路1	土師器 甕	※35.0	－	△18.2	口縁部横ナデ、胴部外面ハケメ調整 胴部内面ヘラ削り	内外面　浅黄色	
898	420図	P11区	550	第5次盛土路面	道路1	土師器 甕	※31.0	－	△7.2	口縁部横ナデ、胴部内面ヘラ削り	内外面　にぶい黄橙色	
899	420図	P11区	701 670	第5次盛土路面	道路1	土師器 甕	※28.6	－	△18.2	口縁部横ナデ、胴部内面ヘラ削り	内面　にぶい黄橙色～にぶい橙色 外面　にぶい黄橙色	
900	420図 PL113	P11区	510　514 515	第4・5次盛土	道路1	須恵器 埦	－	※6.2	△4.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　灰黄色 外面　黄灰色	
901	420図	P11区	695	第4・5次盛土	道路1	須恵器 高台坏	－	※7.4	△3.2	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　灰色	
902	420図	P11区	749	第4・5次盛土	道路1	緑釉陶器 椀	－	－	△2.1	回転ナデ	釉薬　オリーブ灰色 露胎　灰白色	
903	420図	P11区	694 2-187	第4・5次盛土	道路1	緑釉陶器 輪花椀	※10.3	－	△2.7	回転ナデ	釉調　暗オリーブ灰色 露胎　灰色	
904	420図	P11区	500	第4・5次盛土	道路1	緑釉陶器 椀	－	※6.8	△2.2	回転ナデ、削り出し高台	釉薬　オリーブ灰色 露胎　灰白色	
905	420図	P11区	644	第4・5次盛土	道路1	土師器 坏	△11.4	5.8	3.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色～褐灰色 外面　明褐灰色～灰黄褐色	
906	420図	P11区	601 529	第4・5次盛土	道路1	土師器 坏	△11.9	6.1	4.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　黄灰色～黄褐色 外面　灰白色～明黄褐色	
907	420図	P11区	516　531 637　647	第4・5次盛土	道路1	土師器 埦	※14.8	5.7	5.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　黒色～灰色	須恵器の可能性あり
908	420図	P11区	537	第4・5次盛土	道路1	土師器 坏	※12.1	※5.2	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　浅黄色	
909	420図 PL113	P11区	720	第4・5次盛土	道路1	土師器 坏	△11.8	5.5	5.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　浅黄橙色～灰黄褐色 外面　灰白色～褐灰色	
910	420図	P11区	630	第4・5次盛土	道路1	土師器 坏	※11.6	※6.0	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
911	420図 PL113	P11区	645 643 649	第4・5次盛土	道路1	土師器 高台坏	△12.2	7.3	5.7	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　にぶい橙色	
912	420図	P11区	536	第4・5次盛土	道路1	土師器 皿	△11.4	5.6	2.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい橙色	
913	420図	P11区	521	第4・5次盛土	道路1	土師器 皿	－	－	△1.0	手ずくねのちナデ調整 口縁部は二段ナデ	内外面　浅黄色	
914	420図	P11区	491	第4・5次盛土	道路1	土師器 甕	※21.0	－	△8.2	口縁部横ナデのちハケメ調整 胴部外面縦方向のハケメ、内面ヘラ削り	内面　褐色 外面　にぶい黄褐色	
915	420図	P11区	630	第4・5次盛土	道路1	土師器 甕	※17.6	－	△11.1	口縁部横ナデ、胴部外面ハケメ調整 胴部内面ナデ調整	内外面　灰黄色～黒色	
916	420図	P11区	505 736	第4・5次盛土	道路1	須恵器 蓋	※19.6	－	△3.2	回転ナデ、天井部欠損 内面転用	内外面　灰白色	転用墨付着
917	421図	P11区	827	盛土内	道路1	須恵器 蓋	△14.3	－	2.3	回転ナデ、宝珠状のツマミ貼付け 内面転用	内外面　灰色	転用墨付着
918	421図	P11区	828　830 849	盛土内	道路1	須恵器 高台坏	△16.5	12.1	5.2	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内面　暗青灰色～暗赤灰色 外面　明青灰色～青灰色	
919	421図	P11区	148	盛土内	道路1	須恵器 無蓋高坏	※12.4	9.2	9.9	回転ナデ、坏部に稜線 坏部外面、脚部外面カキメ調整	内面　灰色 外面　にぶい赤褐色	
920	421図	P11区	8	盛土内	道路1	須恵器 広口壺	※15.6	－	△7.3	回転ナデ	内面　青灰色 外面　青灰色～明青灰色	
921	421図	P11区	826	盛土内	道路1	土師器 坏	※13.0	7.2	3.6	回転ナデ、底部ヘラ切り	内外面　灰白色～にぶい赤褐色	両面赤彩
922	421図	P11区	826	盛土内	道路1	土師器 坏	※12.8	※7.4	3.8	回転ナデ、底部ヘラ切り	内外面　にぶい黄橙色	両面赤彩
923	421図	P11区	161	盛土内	道路1	土師器 低脚坏	－	※7.6	△8.1	外面ハケメ調整 内面ナデのちハケメ調整	内面　黄褐色～浅黄色 外面　にぶい黄橙色	
924	421図	P11区	825	第3次盛土	道路1	土師器 坏	※14.0	※8.8	3.3	回転ナデ、底部剥離のため詳細不明	内面　明褐色 外面　明赤褐色	両面赤彩
925	421図	P11区	825	第3次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※11.8	※9.0	4.2	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内面　灰色～オリーブ褐色 外面　灰色～黄褐色	

表30　出土土器観察表(26)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
926	421図	P11区	811	第1次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※14.2	※8.0	4.6	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内面　灰色 外面　灰白色～灰色	
927	421図	P11区	808	第1次盛土	道路1	須恵器 高台坏	－	※9.6	△2.0	回転ナデ、貼付け高台 高台内側にヘラ記号	内外面　灰色	
928	421図	P11区	834 903	第1次盛土	道路1	須恵器 坏蓋	※14.2	－	△3.9	回転ナデ、天井部ヘラ切りナデ調整	内面　オリーブ灰色 外面　青灰色	
929	422図	P11区	118	新側溝	道路1	須恵器 坏	－	5.0	△3.6	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰白色	土師器の可能性あり
930	422図	P11区	856	新側溝	道路1	須恵器 埦	※14.0	6.4	5.0	回転ナデ、底部回転糸切り 平高台	内面　灰色 外面　灰色～暗灰色	
931	422図	P11区	126	側溝	道路1	緑釉陶器 椀	－	※7.3	△3.1	回転ナデ、貼付け高台	釉調　暗オリーブ色 露胎　灰白色	
932	422図 PL113	P11区	128	新側溝	道路1	土師器 坏	△11.0	5.6	4.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
933	422図	P11区	81 66	新側溝	道路1	土師器 坏	△10.8	4.8	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り 平高台に近い	内外面　橙色	
934	422図	P11区	117	新側溝	道路1	土師器 坏	△11.2	5.3	3.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　灰黄色～暗灰黄色 外面　灰黄色～明褐色	
935	422図	P11区	103	新側溝	道路1	土師器 坏	△11.6	5.0	4.2	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色～橙色 外面　灰黄色～橙色	
936	422図	P11区	855	新側溝	道路1	土師器 坏 底部	－	5.7	△2.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
937	422図	P11区	116 129	新側溝	道路1	土師器 坏	△12.4	－	3.1	回転ナデ、底部ナデ調整	内外面　にぶい黄橙色	
938	422図	P11区	121　81 124	新側溝	道路1	土師器 高台坏	△12.2	※7.0	4.6	回転ナデ、貼付け高台 底部糸切り	内面　にぶい黄橙色 外面　にぶい橙色～にぶい黄橙色	
939	422図 PL113	P11区	105　321 413	新側溝 古側溝	道路1	土師器 高台坏	※15.3	※8.4	5.0	回転ナデ、内面漆付着	内面　にぶい橙色 外面　橙色～にぶい橙色	
940	422図	P11区	101	新側溝	道路1	土師器 足高高台坏	△12.1	－	△6.3	回転ナデ、貼付け高台	内外面　にぶい黄橙色～橙色	
941	422図	P11区	127	新側溝	道路1	土師器 高台坏	－	※7.6	△3.8	回転ナデ、貼付け高台	内面　にぶい黄橙色 外面　にぶい黄橙色～にぶい褐色	
942	422図	P11区	110　129	新側溝	道路1	土師器 高台付皿	※10.1	6.1	2.4	回転ナデ、貼付け高台	内面　橙色 外面　橙色～にぶい黄橙色	
943	422図	P11区	85	新側溝	道路1	土師器 皿	△9.9	－	1.2	手ずくねのちナデ調整 口縁部は二段ナデ	内外面　灰黄褐色	
944	422図	P11区	90	新側溝	道路1	土師器 皿	△11.0	－	1.4	手ずくねのちナデ調整 口縁部は僅かに肥厚する	内外面　灰白色	
945	422図 PL113	P11区	90　123 129	新側溝	道路1	土師器 高台付皿	△10.8	6.7	2.5	回転ナデ、貼付け高台	内外面　橙色～浅黄橙色	
946	422図	P11区	115	新側溝	道路1	土師器 皿	※11.4	※6.4	1.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄色	
947	422図	P11区	475	古側溝	道路1	須恵器 埦	－	－	△4.2	回転ナデ、内面はヘラミガキ	内外面　灰色	
948	422図	P11区	873	古側溝	道路1	土師器 坏	△11.0	6.5	3.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　橙色	
949	422図	P11区	414	古側溝	道路1	土師器 坏	△13.8	5.6	4.2	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　浅黄色～暗灰黄色 外面　灰黄色～黄褐色	
950	422図	P11区	870	古側溝	道路1	土師器 坏 脚部	－	9.4	△4.0	回転ナデ、坏部欠損	内外面　にぶい黄橙色	
951	422図	P11区	420	古側溝	道路1	土師器 皿	※12.1	※6.1	2.2	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　浅黄色	
952	422図	P11区	869	古側溝	道路1	土師器 皿	△10.3	5.1	1.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色 外面　浅黄色	
953	423図	P11区	498	盛土内	道路1 外盛土	須恵器 高台坏	－	7.0	△4.0	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内面　灰黄褐色 外面　灰色	
954	423図 PL113	P11区	359 361	盛土内	道路1 外盛土	須恵器 埦	△14.8	6.6	5.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰色	
955	423図	P11区	508 651 680	盛土内	道路1 外盛土	須恵器 短頸壺	△5.9	5.5	5.2	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　明褐灰色	
956	423図	P11区	541	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏	△10.8	5.8	4.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色 外面　灰黄色～にぶい橙色	
957	423図	P11区	603	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏	△10.6	6.0	3.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色～黒褐色 外面　にぶい黄橙色～灰黄褐色	
958	423図	P11区	428	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏	△10.9	5.6	3.6	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　浅黄橙色～にぶい黄橙色 外面　灰白色	
959	423図	P11区	462 463	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏	△10.8	5.0	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　灰黄褐色～橙色 外面　灰黄色	
960	423図	P11区	633 641	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏身	△11.0	5.5	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色～黒褐色 外面　にぶい黄橙色～にぶい黄褐色	
961	423図 PL113	P11区	883 888	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏	△11.4	6.0	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　黒色 外面　灰黄褐色～橙色	両面　漆付着
962	423図	P11区	530 531	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏	△11.2	5.4	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り 口縁外面のみスス付着	内外面　浅黄橙色	
963	423図	P11区	28	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏	△11.2	6.0	3.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰白色～暗オリーブ色	
964	423図	P11区	378　379 405	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏	※10.8	※5.8	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい橙色 外面　にぶい黄橙色	

表31　出土土器観察表（27）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量（cm）			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
965	423図 PL113	P11区	367	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏	△11.1	5.4	4.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
966	423図	P11区	531	盛土内	道路1 外盛土	土師器 坏	※11.8	※6.0	3.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい橙色	
967	423図 PL113	P11区	620	盛土内	道路1 外盛土	土師器 高台坏	※12.6	※7.6	5.2	回転ナデ、貼付け高台	内外面　橙色	
968	423図 PL113	P11区	621	盛土内	道路1 外盛土	土師器 脚付皿	△10.8	6.7	3.7	回転ナデ、貼付け高台	内面　浅黄色 外面　にぶい黄橙色	
969	423図	P11区	356	敷粗朶	道路1 外盛土	土師器 皿	△10	－	1.7	手ずくねのちナデ調整 口縁部は僅かに肥厚する	内面　浅黄色 外面　にぶい黄橙色	
970	423図	P11区	344　306 311　316	盛土内	道路1 外盛土	黒色土器 埦	－	6.2	△4.4	回転ナデ、貼付け高台 内面黒色処理のちヘラミガキ	内面　黒色 外面　にぶい黄橙色	
971	424図	P11区	235　247 268	盛土内	条里33 盛土27	須恵器 皿	※14.8	※9.0	△2.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　灰白色 外面　灰白色～灰色	
972	424図	P11区	217	盛土内	条里33	土師器 坏	△11.5	5.2	3.6	回転ナデ、底部回転ヘラ削りのちナデ調整	内面　浅黄色 外面　にぶい黄色	
973	424図	P11区	859	盛土内	条里33	土師器 坏	－	※6.5	△4.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　浅黄橙色 外面　灰白色	
974	425図	P11区	1625 1626	埋土中	河道16	須恵器 蓋	※14.8	－	3.0	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内面　灰色 外面　灰色～灰白色	紐径 5.2cm
975	425図	P11区	1626	埋土中	河道16	須恵器 蓋	※11.6	－	3.4	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内外面　灰色	最大径 13.9cm 受部径 12.6cm
976	425図	P11区	249（他）	埋土中	河道16	須恵器 蓋	△13.4	－	3.2	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内外面　灰色	最大径 15.8cm 受部径 14.4cm
977	425図	P11区	933　962	埋土中	河道16	須恵器 蓋	△14.2	－	3.1	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け 内面転用墨付着	内外面　灰色	最大径 16.4cm 受部径 15.0cm
978	425図	P11区	933（他）	埋土中	河道16 河道6	須恵器 蓋	※16.0	－	2.4	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内面　灰色 外面　灰色～灰白色	紐径 3.9cm
979	425図 PL113	P11区	1009	埋土中	河道16	須恵器 蓋	△15.0	－	3.1	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内面　黄灰色～黄褐色 外面　黄灰色～灰白色	紐径 4.4cm
980	425図	P11区	960　961 970 1006	埋土中	河道16	須恵器 蓋	※14.4	－	3.2	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内面　灰色～黄褐色 外面　灰白色～黄褐色	紐径 3.6cm
981	425図	P11区	1013 1048 1028	埋土中	河道16	須恵器 蓋	※14.7	－	3.7	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内外面　灰白色	紐径 3.8cm
982	425図	P11区	970 1011 1052	埋土中	河道16	須恵器 蓋	△15.2	－	3.0	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内面　灰色 外面　灰白色	
983	425図	P11区	1626	埋土中	河道16	須恵器 蓋	※14.8	－	3.7	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内面　明赤灰色～灰赤色 外面　明赤灰色	紐径 4.0cm
984	425図 PL113	P11区	970　980 933 1008	埋土中	河道16	須恵器 蓋	△17.8	－	3.8	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内外面　灰白色	紐径 5.3cm
985	425図 PL114	P11区	970 1007	埋土中	河道16	須恵器 蓋	△14.5	－	2.5	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内外面　灰色	紐径 4.2cm
986	425図 PL114	P11区	927　933 1052	埋土中	河道16	須恵器 蓋	△17.4	－	3.6	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内外面　灰白色	紐径 3.0cm
987	425図 PL114	P11区	1626	埋土中	河道16	須恵器 蓋	※14.3	－	2.3	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内面　褐灰色 外面　灰白色	紐径 3.5cm
988	425図	P11区	1626	埋土中	河道16	須恵器 蓋	－	－	△2.4	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内面　灰色～黄褐色 外面　灰色	紐径 3.8cm
989	425図 PL114	P11区	1026	埋土中	河道16	須恵器 坏	△13.1	7.7	4.7	回転ナデ、底部静止糸切り 口縁部は強い横ナデ	内外面　灰色	
990	425図 PL114	P11区	1628	埋土中	河道16	須恵器 坏	※12.8	－	4.2	回転ナデ、底部静止糸切り	内外面　灰色	
991	425図 PL114	P11区	1634・ 957 964・973	埋土中	河道16	須恵器 高台坏	※13.8	※8.8	5.2	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内面　灰白色～黄褐色 外面　灰白色～灰色	
992	425図 PL114	P11区	1626 1627	埋土中	河道16	須恵器 高台坏	△14.2	8.1	5.2	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内面　灰白色 外面　褐灰色～灰白色	
993	425図	P11区	933 1625 1629	埋土中	河道16	須恵器 高台坏	△13.3	7.3	5.6	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　灰色	
994	425図	P11区	1626	埋土中	河道16	須恵器 高台坏	※14.2	※9.0	4.7	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切りか	内外面　黄灰色	
995	425図 PL114	P11区	1625 1633	埋土中	河道16	須恵器 高台坏	※14.4	8.9	4.7	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　灰色	
996	425図 PL114	P11区	1023	埋土中	河道16	須恵器 高台坏	※13.0	※8.0	4.8	回転ナデ、貼付け高台 底部回転ヘラ切りのちナデ	内面　灰白色 外面　灰色	
997	425図	P11区	1024	埋土中	河道16	須恵器 高台坏	※13.6	8.3	5.2	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　灰色	
998	425図	P11区	973 1017 1029	埋土中	河道16	須恵器 長頸壺	※9.3	－	△17.0	回転ナデ	内外面　灰色	

表32　出土土器観察表(28)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
999	425図 PL114	P11区	16	砂層	河道16	土師器 皿	△13.0	－	3.0	横ナデ、底部ナデ調整 内面見込みに螺旋暗文	内外面　明黄褐色	赤彩あり
1000	425図 PL114	P11区	23	砂質シルト	河道16	土師器 皿	△12.9	－	△3.0	口縁部横ナデ、内外面ヘラミガキ	内面　橙色 外面　にぶい橙色～橙色	両面赤彩
1001	425図	P11区	933 970	埋土中	河道16	土師器 坏	※15.9	－	△4.7	口縁部内側に肥厚する 外面ヘラミガキ、内面磨滅のため詳細不明	内外面　橙色	両面赤彩
1002	425図 PL114	P11区	1626	埋土中	河道16	土師器 坏	※15.5	－	4.9	口縁部横ナデ、底部ヘラ削りのちナデ調整	内面　淡橙色～にぶい赤褐色 外面　灰白色～橙色	両面赤彩
1003	425図	P11区	1625	埋土中	河道16	土師器 甕	※20.4	－	△8.4	口縁部横ナデ、胴部外面ハケメ調整、内面ヘラ削り	内面　灰黄褐色 外面　黒色	
1004	426図	P11区	863	埋土中	河道14	須恵器 蓋	※12.1	－	3.2	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内外面　灰色	最大径13.9cm 受部径12.8cm
1005	426図 PL114	P11区	791	埋土中	河道14	須恵器 蓋	△14.2	－	3.7	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内外面　灰色	最大径17.0cm 受部径15.2cm
1006	426図 PL115	P11区	862	埋土中	河道14	須恵器 高台坏	△14.0	※7.3	4.4	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰色	
1007	426図	P11区	865	埋土中	河道14	須恵器 高台坏	※13.6	8.2	5.0	回転ナデ、貼付け高台 底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内面　灰色～暗オリーブ色 外面　灰白色～オリーブ黒色	
1008	426図 PL115	P11区	783	埋土中	河道14	須恵器 高台坏	※13.6	※8.1	4.5	回転ナデ、貼付け高台	内面　明オリーブ灰色 外面　灰白色	
1009	426図 PL115	P11区	787	埋土中	河道14	須恵器 高台坏	※13.5	7.8	4.3	回転ナデ、貼付け高台	内面　灰色 外面　灰色～暗青灰色	
1010	426図 PL115	P11区	864	埋土中	河道14	須恵器 坏	△12.7	7.0	4.7	回転ナデ	内外面　灰色	
1011	426図	P11区	779	埋土中	河道14	土師器 甕 口縁部	※24.0	－	△5.2	口縁部横ナデ、胴部内面ヘラ削り	内面　にぶい黄橙色 外面　にぶい黄褐色	
1012	426図	P11区	1093 1114	埋土中	河道14	土師器 甕	※24.6	－	△21.9	口縁部横ナデ、胴部外面ハケメ調整 内面右上がりのヘラ削り	内外面　橙色	
1013	426図	P11区	989	埋土中	河道14	土師器 甑	※12.6	－	△6.5	口縁部横ナデ、把手を貼付けたのちハケメ調整、内面ヘラ削り	内外面　灰白色	
1014	427図	P11区	1287	上層	河道6	須恵器 坏蓋	※11.8	－	5.2	回転ナデ、天井部回転ヘラ削り	内外面　灰色	
1015	427図	P11区	1402	上層 粗砂層③	河道6	須恵器 坏蓋	※14.5	－	5.5	回転ナデ、天井部回転ヘラ削り	内外面　青灰色	
1016	427図	P11区	1170	－	河道6	須恵器 坏蓋	△14.2	－	4.7	回転ナデ、天井部回転ヘラ切りのちナデ調整	内面　灰色～黄褐色 外面　灰白色～灰色	
1017	427図	P11区	1145 1158	上層 粗砂層②	河道6	須恵器 坏蓋	△14.7	－	4.5	回転ナデ、天井部回転ヘラ切りのちナデ調整	内面　灰黄褐色～黄褐色 外面　灰色～黄褐色	
1018	427図 PL115	P11区	1084 1411	上層 粗砂層③	河道6	須恵器 坏蓋	△14.0	－	4.2	回転ナデ、天井部回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	
1019	427図	P11区	1085	上層 肩部シルト層	河道6	須恵器 坏身	※12.2	－	4.6	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	内外面　灰色	最大径14.8cm 受部径14.0cm
1020	427図	P11区	1205	上層	河道6	須恵器 坏身	△14.5	－	5.5	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	内外面　黄灰色	最大径17.0cm 受部径15.9cm
1021	427図	P11区	1188	上層 粗砂層③	河道6	須恵器 坏身	△13.5	－	4.7	回転ナデ、底部回転ヘラ切り	内面　浅黄色 外面　灰色	最大径15.9cm 受部径14.9cm
1022	427図	P11区	1227	上層 粗砂層③	河道6	須恵器 坏身	※11.8	－	4.1	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内面　灰黄褐色 外面　黄灰色	最大径14.0cm 受部径13.0cm
1023	427図	P11区	1214	上層 粗砂層③	河道6	須恵器 坏身	※13.1	－	△4.4	回転ナデ、底部欠損	内外面　浅黄橙色	最大径15.6cm 受部径14.8cm
1024	427図	P11区	1288	上層 粗砂層③	河道6	須恵器 坏身	△13.2	－	4.3	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	内面　オリーブ灰色～灰黄褐色 外面　オリーブ灰色	
1025	427図 PL115	P11区	1390	上層 粗砂層②	河道6	須恵器 坏身	△12.5	－	4.4	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	最大径15.3cm 受部径14.2cm
1026	427図	P11区	1273	－	河道6	須恵器 坏身	△12.6	－	3.7	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	最大径14.8cm 受部径14.0cm
1027	427図	P11区	1091 1424 1444	上層 肩部シルト層	河道6	須恵器 坏身	△12.5	－	4.5	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内面　灰白色 外面　灰色～灰白色	最大径15.1cm 受部径14.3cm
1028	427図	P11区	1153	上層 粗砂層②	河道6	須恵器 坏身	△12.0	－	4.2	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	最大径14.2cm 受部径13.2cm

表33　出土土器観察表(29)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
1029	427図	P11区	1226	上層 粗砂層③	河道6	須恵器 坏身	△12.8	－	3.6	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内面　黄灰色 外面　黒色	最大径 14.6cm 受部径 13.6cm
1030	427図	P11区	1124	－	河道6	須恵器 坏身	※11.4	－	4.3	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	最大径 14.4cm 受部径 13.2cm
1031	427図	P11区	859　866	－	河道6 条里30・33	須恵器 蓋	※14.2	－	2.4	回転ナデ、天井部輪状ツマミ貼付け	内外面　灰色	
1032	427図	P11区	1280	上層(粗砂層 ③)	河道6	須恵器 坏	※13.0	※8.8	3.5	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内面　オリーブ黒色 外面　灰色	
1033	427図 PL115	P11区	907	粗砂層	河道6	須恵器 高坏	△14.0	10.4	12.1	回転ナデ、坏部に弱い稜線、脚柱部2条の沈線	内面　灰白色～灰色 外面　灰色～暗青灰色	
1034	427図	P11区	1247	上層 粗砂層③	河道6	須恵器 無蓋高坏	※9.9	－	△4.1	回転ナデ	内外面　オリーブ黒色	
1035	427図	P11区	1196	上層 粗砂層③	河道6	須恵器 短脚有蓋高坏	－	9.6	△5.6	回転ナデ、脚部に円形透かし	内外面　黒色	
1036	427図	P11区	1414	上層 粗砂層③	河道6	須恵器 壺or横瓶	－	－	△6.2	回転ナデ、肩部にカキメ調整	内面　黒褐色～明黄褐色 外面　暗赤褐色～暗赤灰色	
1037	427図	P11区	1290	上層 粗砂層③	河道6	須恵器 甕 口縁部	※36.1	－	△12.0	口縁部回転ナデ、波状文を３段に施文	内外面　灰色	
1038	427図	P11区	979	最上層 粗砂層①	河道6	須恵器 平瓶	－	－	△20.7	口縁部回転ナデ、外面肩部から胴部は回転ナデのちカキメ調整、胴部下半には叩き成形のち不定方向のカキメ、内面閉塞痕、下半部同心円文の当て具痕残る	内面　黄灰色～褐色 外面　灰色	胴部最大径24.5cm 胴部最大高18.7cm
1039	428図	P11区	1310(他)	上層 山側礫混シルト	河道6	土師器 甕	※21.6	－	22.7	口縁部横ナデ、胴部外面下半ハケメ調整 胴部内面ヘラ削り	内面　にぶい黄橙色～暗褐色 外面　にぶい黄橙色	
1040	428図	P11区	1632	－	河道6	土師器 甕	△16.2	－	△11.3	口縁部横ナデ、胴部外面ハケメ調整 胴部内面ヘラ削り	内面　暗灰黄色～浅黄色 外面　黒色	
1041	428図	P11区	1394	上層 粗砂層③	河道6	土師器 甕	※16.8	－	△8.3	口縁部横ナデ 胴部内面ヘラ削り	内面　灰黄褐色 外面　にぶい橙色	
1042	428図	P11区	1204	上層 粗砂層③	河道6	土師器 壺	※17.9	－	△12.2	口縁部横ナデ、胴部粗いハケメ調整 内面ナデのちヘラ削り	内面　浅黄色 外面　にぶい黄色	
1043	428図	P11区	1212	上層 粗砂層③	河道6	土師器 甕	※14.7	－	△7.7	口縁部横ナデ、口縁端部摘み上げる 胴部波状文、内面ヘラ削り	内外面　にぶい黄橙色	
1044	428図	P11区	1391	上層 粗砂層③	河道6	土師器 甕	※18.0	－	△9.9	口縁端部面取り、肩部外面ハケメ調整 内面ヘラ削り	内外面　にぶい黄橙色	
1045	428図	P11区	1222	上層 粗砂層③	河道6	土師器 甕	※15.6	－	△13.4	口縁部横ナデ、胴部縦方向のハケメ調整、内面ヘラ削り	内面　にぶい黄色 外面　灰黄色	
1046	428図	P11区	1261 1286	上層 粗砂層③	河道6	土師器 甕	※17.4	－	△23.1	口縁部横ナデ、胴部不定方向のハケメ調整、内面ヘラ削り	内面　明黄褐色 外面　橙色	
1047	428図 PL116	P11区	1062	上層 粗砂層②	河道6	土師器 甕	※23.3	－	△20.5	口縁部横ナデ、胴部外面縦方向のハケメ調整、内面ヘラ削り	内外面　にぶい黄橙色	
1048	428図	P11区	1393	上層 粗砂層②	河道6	土師器 甕	※20.0	－	△7.9	口縁部横ナデのち内面ハケメ調整、肩部外面ハケメ調整、内面ナデ調整	内面　にぶい黄橙色～オリーブ黒色 外面　にぶい橙色～オリーブ黒色	
1049	428図	P11区	1220	上層 粗砂層③	河道6	土師器 甕	※18.6	－	△11.4	口縁部横ナデ、胴部ハケメ調整 内面ヘラ削り	内面　灰黄色 外面　黄灰色	
1050	429図	P11区	1214	粗砂層③	河道6	土師器 埦	※12.3	－	4.4	口縁端部面取り、口縁部横方向ヘラミガキ 内面僅かにヘラミガキ痕残る	内外面　橙色	
1051	429図 PL115	P11区	1217	上層 粗砂層③	河道6	土師器 高坏坏部	※13.0	－	△4.4	口縁部横ナデ、脚部剥離し欠損	内面　にぶい橙色 外面　橙色	
1052	429図	P11区	1214 1230	上層 粗砂層③	河道6	土師器 高坏坏部	※13.1	－	△5.2	横ナデ、脚部剥離し欠損	内面　橙色 外面　明褐色	
1053	429図 PL115	P11区	1100	上層 肩部シルト層	河道6	土師器 高坏	△13.6	9.2	11.8	口縁部横ナデ、坏部工具によるナデ、脚部ヘラミガキ	内面　明赤褐色～にぶい橙色 外面　明赤褐色	外面赤彩
1054	429図 PL115	P11区	1632	－	河道6	土師器 器台	※20.8	18.2	10.7	受部内面横方向のヘラミガキ、脚部ヘラ削り	内外面　浅黄色	
1055	429図	P11区	1413	上層 粗砂層③	河道6	土師器 甑	△20.4	－	△15.0	口縁部横ナデのちハケメ調整、胴部縦方向のハケメ調整、内面ナデ調整	内面　暗灰黄色 外面　にぶい黄橙色	
1056	430図	P11区	1453	灰色砂層	河道15	土師器 甕	※16.4	－	△4.7	口縁部横ナデ	内面　にぶい黄橙色 外面　暗褐色	
1057	430図	P11区	1465	灰色砂層	河道15	弥生土器 甕 口縁部	※17.6	－	△4.7	口縁部横ナデのち波状文	内面　にぶい黄橙色 外面　(黒色)	
1058	430図	P11区	1471	下層	河道15	弥生土器 壺	※14.0	－	△18.2	口縁部に２条凹線文、磨滅が著しく詳細不明	内面　浅黄色～黄褐色 外面　黄褐色	
1059	430図	P11区	1479 1568	下層 山側礫混砂層	河道15	弥生土器 壺	※17.8	－	△18.0	口縁部に５条凹線文、頸部ハケメのち刺突文、内面下半ヘラ削りのちハケメ	内外面　灰黄褐色	
1060	430図	P11区	1502	－	河道15	土師器 甕	※13.2	－	△8.2	口縁部内面ヘラミガキ、外面ハケメ、内面ヘラ削り	内外面　灰色	
1061	430図	P11区	1492	下層 (粘土層)	河道15	弥生土器 甕	※18.6	－	△13.1	口縁部外面に擬凹線、胴部外面波状文および連続刺突文	内面　にぶい黄橙色 外面　黒褐色～(黒色)	
1062	430図	P11区	1477 1505 1648 1485	下層 灰色砂層	河道15	弥生土器 甕	※26.8	－	△6.8	口縁部外面に擬凹線文	内外面　灰黄色～にぶい褐色	
1063	430図	P11区	1503	－	河道15	土師器 甕	※9.8	－	△8.7	口縁部横ナデ、円形の穿孔あり 外面ハケメ調整	内外面　灰黄色	両面　漆付着
1064	430図	P11区	1422	－	河道15	弥生土器 甕	※19.5	－	△9.7	口縁部横ナデ、胴部外面縦方向のハケメ調整	内面　黄褐色 外面　黄褐色～黒色	

表34　出土土器観察表(30)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
1065	431図	P11区	1600	盛土内	盛土28	弥生土器 壺	※11.0	－	△4.1	口縁部外面連続刺突文、内面波状文 頸部外面ハケメ調整	内面　褐灰色～明黄褐色 外面　黄灰色	
1066	431図	P11区	1578 1580 1582 1591	盛土内	盛土28 河道15	弥生土器 甕	※15.5	－	△8.9	口縁部、頸部、肩部に凹線文、刺突文 内面ハケメ調整	内外面　灰白色	
1067	431図	P11区	1590	盛土内	盛土28	弥生土器 甕	※15.2	－	△10.0	口縁部に２条凹線文、胴部外面縦方向のハケメ調整、内面指オサエ残る	内面　にぶい黄色 外面　オリーブ褐色	
1068	431図	P11区	1589	盛土内	盛土28	弥生土器 甕	－	－	△3.6	口縁部横ナデ、胴部ハケメ調整	内面　明黄褐色～黄灰色 外面　にぶい黄色～黒褐色	
1069	431図	P11区	1607	盛土内	盛土28	弥生土器 甕	※16.8	－	△5.2	口縁部ナデ調整	内面　黒褐色～にぶい褐色 外面　黒褐色	
1070	431図	P11区	1609	盛土内	盛土28	弥生土器 甕	※17.3	－	△4.1	口縁部ナデ調整、肩部ハケメ調整、内面ヘラ削り	内面　黒褐色 外面　黒色(煤)	
1071	431図	P11区	1605	盛土内	盛土28	弥生土器 壺	－	－	△11.2	胴部外面２条の刻目突帯、横方向のヘラミガキ	内面　褐灰色～にぶい黄橙色 外面　褐灰色～灰白色	
1072	431図	P11区	1585	盛土内	盛土28	弥生土器 甕	※29.4	－	△5.5	口縁部横ナデのち刻目	内面　にぶい黄橙色 外面　褐灰色～(黒色)	
1073	431図	P11区	1601 1602	盛土内	盛土28	弥生土器 鉢	※25.0	－	△12.4	口縁部ナデ調整、胴部外面縦方向のハケメ	内外面　浅黄色	
1074	432図	P11区	732 743 742	Ⅲ～Ⅳ層	－	須恵器 蓋	△10.5	－	2.6	回転ナデ、天井部輪状ツマミ	内外面　灰色	最大径 13.1cm 受部径 11.4cm
1075	432図	P11区	56	Ⅲ層	－	土師器 皿	※12.4	－	2.3	手ずくねのち口縁部横ナデ	内外面　にぶい橙色	
1076	432図	P11区	1190	Ⅵ層相当	－	土師器 甕	※15.9	－	△6.4	口縁部横ナデ、胴部内面ヘラ削り	内面　灰黄褐色～(黒色) 外面　にぶい黄橙色～(黒色)	
1077	432図 PL115	P11区	1323	Ⅵ層相当	－	土師器 低脚坏	△16.8	8.0	8.2	口縁部横ナデ、坏部外面ハケメ調整 内面縦方向のヘラミガキ	内面　にぶい黄橙色～にぶい黄褐色 外面　明赤褐色～黒褐色	
1078	432図	P11区	1209 1314 1330	Ⅵ層相当	－	土師器 器台	※20.2	18.3	12.8	脚部内面ヘラ削り	内面　淡黄色～灰黄色 外面　淡黄色	
1079	432図	P11区	1533	Ⅵ層相当	－	弥生土器 壺	※20.0	－	△4.6	口縁部外面４条の凹線文のち連続刺突文 内面横方向のヘラミガキ	内外面　灰黄褐色	
1080	432図	P11区	1579	Ⅵ層相当	－	弥生土器 甕	※14.8	－	△7.1	口縁部２条の凹線文、胴部外面ハケメ調整	内外面　にぶい黄橙色	
1081	432図	P11区	1320	Ⅵ層相当	－	土師器 高坏坏部	△26.2	－	△7.5	坏部外面ハケメ調整、内面ヘラミガキ	内外面　にぶい黄橙色	
1082	432図	P11区	1544	Ⅵ層相当	－	弥生土器 高坏	－	－	△6.2	口縁部外面３条の凹線、ハケメ調整 内面ヘラミガキ	内面　暗灰黄色 外面　灰黄色～灰色	
1083	432図	P11区	1533 1548	Ⅵ層相当	－	弥生土器 高坏	※20.8	11.2	15.6	口縁部横ナデ、ヘラミガキ 内面一部剥離	内外面　灰白色	
1084	432図	P11区	1359	Ⅵ層相当	－	土師器 甕	△17.1	－	△5.5	口縁部横ナデ	内面　淡黄色～にぶい褐色 外面　灰白色～黒褐色	
1085	432図	P11区	1363	Ⅵ層相当	－	土師器 甕	※14.6	－	△6.7	口縁部内面横方向のヘラミガキ 胴部外面ハケメ調整	内面　黄褐色 外面　暗褐黄色～(黒色)	
1086	432図	P11区	1399 1378	Ⅵ層相当	－	土師器 甕	※18.0	－	△11.2	口縁部横ナデ、肩部外面波状文、胴部ハケメ調整、内面ヘラ削り	内外面　淡黄色	
1087	432図	P11区	1460	Ⅵ層相当	－	土師器 甕	※15.8	－	△7.8	口縁部横ナデ、肩部ハケメのち３条の沈線	内外面　にぶい黄橙色	
1088	432図	P11区	1460	Ⅵ層相当	－	土師器 器台	－	※19.8	△6.9	脚部内面ヘラ削り	内面　にぶい黄橙色～灰白色 外面　灰色～浅黄色	
1089	432図	P11区	1566	Ⅶ層相当	－	弥生土器 甕	※19.2	－	△2.8	横ナデ、口縁部に刺突による鋸歯文	内面　灰黄色～暗灰黄色 外面　灰黄色～黒褐色	
1090	432図	P11区	1571	Ⅶ層相当	－	弥生土器 壺	※16.8	－	△4.8	口縁部３条の凹線文、頸部縦のち横方向のヘラミガキ、２条の凹線	内外面　明褐灰色	
1091	432図	P11区	1521	Ⅶ層相当	－	弥生土器 壺	※17.2	－	△5.3	口縁部３条の凹線文、頸部縦のち横方向のヘラミガキ	内外面　灰黄褐色	
1092	432図	P11区	1519	Ⅶ層相当	－	弥生土器 壺	※20.4	－	△13.8	口縁部外面３条の凹線文、内面ハケメ調整 胴部外面ハケメ調整、内面ヘラ削り	内面　橙色～にぶい黄橙色 外面　にぶい橙色～黒色	
1093	432図	P11区	1574 1577	Ⅶ層相当	－	弥生土器 甕	※15.8	－	△16.6	口縁部３条の凹線文、頸部～胴部は縦方向のハケメ調整、内面ハケメ調整	内面　にぶい黄橙色 外面　にぶい黄橙色～明青灰色	
1094	432図	P11区	1564	Ⅶ層相当	－	弥生土器 甕	※20.4	－	△11.7	口縁部横ナデ、一部指オサエが残る 胴部外面ハケメ調整	内面　にぶい黄橙色 外面　にぶい黄褐色	
1095	432図	P11区	1569	Ⅶ層相当	－	弥生土器 高坏 脚部	－	9.4	△6.9	外面は表面剥離のため詳細不明 内面絞り目、ヘラ削り痕	内面　にぶい黄色 外面　明褐灰色	
1096	432図	P11区	1570	Ⅶ層相当	－	弥生土器 高坏	※12.8	※7.4	8.8	口縁部竹管文、坏部～脚部ヘラミガキ	内外面　オリーブ黒色	
1097	432図	P11区	1512	Ⅸ層	－	弥生土器 甕	※18.4	－	△5.3	口縁端部刻目、肩部外面ヘラ描き沈線 内面ナデ調整	内面　灰黄色 外面　黒色	
1098	433図	２区	2-8	下砂利	道路1	須恵器 埦 口縁部	※12.0	－	△3.6	回転ナデ	内外面　灰色	
1099	433図	２区	2-11	上砂利	道路1	須恵器 坏	－	※6.3	△1.2	回転ナデ、底部ヘラ切り	内外面　灰白色	
1100	433図	２区	2-13	下砂利	道路1	須恵器 高台坏	△15.6	11.2	4.6	回転ナデ、貼付け高台	内面　灰白色 外面　灰白色～灰色	
1101	433図	２区	2-8	下砂利	道路1	須恵器 高台坏	－	8.1	△2.3	回転ナデ、貼付け高台	内外面　灰色	
1102	433図	２区	2-82	上砂利以下	道路1	須恵器 坏 口縁部	※14.8	－	△4.0	回転ナデ、口縁部に強い横ナデ	内外面　灰色	

表35　出土土器観察表(31)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
1103	433図	２区	2-13	下砂利	道路1	須恵器 坏底部	－	－	△1.9	回転ナデ	内面　灰色 外面　黒色	
1104	433図	２区	2-113	上砂利～下砂利	道路1	須恵器 広口壺	－	－	△4.2	回転ナデ	内外面　灰色	
1105	433図	２区	2-11	上砂利	道路1	土師器 柱状高台	－	※4.8	△1.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい橙色	
1106	433図	２区	2-13	下砂利	道路1	土師器 坏	－	※7.0	△3.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色 外面　灰黄色	
1107	433図	２区	2-170	下砂利	道路1	土師器 坏	※14.5	－	△3.6	回転ナデ	内面　黒色 外面　浅黄色	
1108	433図	２区	2-170 2-211	下砂利	道路1	土師器 坏	※11.1	※6.0	4.0	回転ナデ、内面漆付着	内外面　にぶい黄橙色～黒色	
1109	433図	２区	2-210	下砂利	道路1	土師器 坏	※13.8	※9.2	3.1	横ナデ、底部ナデ調整	内外面　灰白色	
1110	433図	２区	2-11	上砂利	道路1	土師器 坏	－	－	△1.1	ナデ調整、外面ヘラミガキ 内面螺旋暗文	内面　橙色 外面　にぶい橙色～褐灰色	
1111	433図	２区	2-11	上砂利	道路1	土師器 甕 口縁部	※18.8	－	△5.0	口縁部横ナデ、胴部内面ヘラ削り	内面　灰黄褐色～にぶい黄褐色 外面　灰黄褐色～黒褐色	
1112	433図	２区	2-82	上砂利以下	道路1	土師器 甕 口縁部	※17.5	－	△5.3	口縁部横ナデ、胴部外面ハケメ調整 内面不定方向のハケメ調整	内面　灰黄褐色～褐灰色 外面　灰白色～橙色	
1113	433図	２区	2-11	上砂利	道路1	土師器 甕 口縁部	※21.9	－	△5.4	口縁部横ナデ	内面　にぶい橙色～灰褐色 外面　にぶい褐色～灰褐色	
1114	433図	２区	2-8	下砂利	道路1	土師器 甕 口縁部	※30.0	－	△7.2	口縁部横ナデ、胴部外面ハケメ調整 内面ハケメのちヘラ削り	内面　にぶい黄褐色～にぶい黄橙色 外面　黒褐色～暗褐色	
1115	433図	２区	2-11	上砂利	道路1	土師器 甕底部	－	－	△6.1	外面横ナデのちヘラ削り 内面横ナデ	内面　灰色 外面　灰オリーブ色	
1116	433図	２区	2-11	上砂利	道路1	土師器 甕　口縁	※29.9	－	△6.3	口縁部横ナデ、外面胴部ハケメ調整 口縁部内面ハケメ調整	内面　にぶい橙色～橙色 外面　褐灰色～橙色	
1117	434図	２区	2-84	黒褐色土層	道路1側溝	須恵器 高台坏	－	※7.2	△2.3	回転ナデ、貼付け高台	内面　灰色 外面　暗オリーブ灰色～灰色	
1118	434図	２区	2-77	黒褐色土層	道路1側溝	須恵器 高台坏	－	※6.4	△2.5	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　灰色～黄灰色	
1119	434図	２区	2-44	黒褐色土層	道路1側溝	須恵器 埦 口縁部	－	－	△2.4	回転ナデ	内外面　灰色	
1120	434図	２区	2-77	黒褐色土層	道路1側溝	須恵器 埦	－	－	△3.7	回転ナデ	内面　灰白色 外面　灰色	
1121	434図	２区	2-77	黒褐色土層	道路1側溝	須恵器 埦 口縁部	※14.6	－	△4.0	回転ナデ	内外面　灰色	
1122	434図	２区	2-63	黒褐色土層	道路1側溝	須恵器 埦	-	－	△5.3	回転ナデ	内面　灰白色 外面　灰白色～灰色	
1123	434図	２区	2-63	黒褐色土層	道路1側溝	須恵器 坏	※15.6	7.0	5.8	回転ナデ、底部回転糸切り 平高台	内外面　灰白色	
1124	434図	２区	2-33	黒褐色土層	道路1側溝	須恵器 広口壺	※19.6	－	△5.8	回転ナデ	内外面　灰色～灰白色	
1125	434図	２区	2-99	黒褐色土層	道路1側溝	須恵器 壺	－	－	△12.1	回転ナデ	内外面　灰色	
1126	434図	２区	2-188	埋土中	道路1側溝	緑釉陶器 輪花椀	※13.6	－	△2.4	回転ナデ	釉調　灰色～オリーブ灰色 露胎　灰色	
1127	434図	２区	2-46 2-85	埋土中	道路1側溝	緑釉陶器 椀	※12.4	－	△3.3	回転ナデ	釉調　オリーブ灰色 露胎　灰色	
1128	434図	２区	2-44	埋土中	道路1側溝	緑釉陶器 椀	－	6.4	△2.1	回転ナデ、貼付け高台	釉調　暗緑色 露胎　浅黄色	有段高台
1129	434図	２区	2-30	埋土中	道路1側溝	緑釉陶器 碗	－	※5.6	△1.7	回転ナデ、削り出し高台	釉調　オリーブ灰色 露胎　灰白色～浅黄橙色	
1130	434図	２区	2-30	埋土中	道路1側溝	緑釉陶器 皿	－	※5.6	△1.7	回転ナデ、削り出し高台	釉調　緑灰色 露胎　浅黄色	
1131	434図	２区	2-60	埋土中	道路1側溝	緑釉陶器 高台皿	－	※7.2	△1.6	回転ナデ、削り出し高台	釉調　緑灰色 露胎　浅黄色	
1132	434図	２区	2-44	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△10.5	5.7	3.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　灰黄色～暗灰黄色 外面　灰黄色～黒褐色	
1133	434図	２区	2-48	埋土中	道路1側溝	土師器 碗	△10.1	5.8	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　灰黄褐色～にぶい黄橙色 外面　にぶい黄橙色	
1134	434図	２区	2-195	埋土中	道路1側溝	土師器 坏身	※11.0	※5.4	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色～にぶい橙色	
1135	434図	２区	2-70	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※10.8	※5.2	4.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　灰黄色～暗灰黄色 外面　にぶい黄橙色～橙色	
1136	434図	２区	2-29	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※10.2	※5.6	3.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　灰黄色～暗灰黄色 外面　にぶい黄橙色～橙色	
1137	434図	２区	2-35	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△10.5	4.9	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　橙色～にぶい橙色	
1138	434図	２区	2-35	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※10.8	6.0	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色 外面　黄灰色	
1139	434図	２区	2-93	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※10.0	4.8	4.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄色	
1140	434図	２区	2-193	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△10.4	4.6	3.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　橙色 外面　橙色～にぶい橙色	
1141	434図	２区	2-29 2-30	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△11.0	4.9	3.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい橙色 外面　橙色～明褐灰色	
1142	434図	２区	2-37	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※10.4	※5.6	3.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい褐色 外面　にぶい黄褐色	

表36　出土土器観察表(32)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
1143	434図	2区	2-41	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△10.2	5.6	3.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい褐色	
1144	434図	2区	2-63	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※11.2	－	△3.5	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ	内面　灰黄色～暗灰黄色 外面　にぶい黄褐色～黒褐色	
1145	434図	2区	2-44④	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※10.8	－	3.7	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ	内外面　にぶい黄橙色	
1146	434図	2区	2-30 2-33	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△11.0	5.2	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　灰オリーブ色 外面　灰白色	
1147	434図	2区	2-180	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※12.2	※5.0	3.8	回転ナデ、底部ヘラ切りのちナデ	内外面　灰黄褐色	
1148	434図	2区	2-86	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△11.0	5.7	4.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰白色	
1149	434図	2区	2-68	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△11.0	5.6	4.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　橙色	
1150	434図	2区	2-53	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△11.0	5.6	3.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄褐色 外面　にぶい橙色～にぶい黄橙色	
1151	434図	2区	2-70	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※11.2	※5.6	3.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄色	スス付着
1152	434図	2区	2-30	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※11.8	-	3.4	回転ナデ	内外面　にぶい黄橙色	
1153	434図	2区	2-70	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※11.4	※5.2	3.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
1154	434図	2区	2-101	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△11.0	5.6	4.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色～橙色	
1155	434図	2区	2-37	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※11.8	※6.4	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
1156	434図	2区	2-70	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※11.3	※4.4	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色～褐灰色 外面　褐灰色～灰黄褐色	
1157	434図	2区	2-56	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△11.2	5.8	4.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　浅灰色 外面　灰色	
1158	434図	2区	2-41	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△11.4	5.2	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい橙色	
1159	434図	2区	2-79	埋土中	道路1側溝	土師器 埦	△11.5	4.9	4.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄色 外面　灰白色	
1160	434図	2区	2-33	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※12.0	※5.0	4.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい橙色 外面　にぶい黄褐色	
1161	434図	2区	2-46	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※11.2	5.1	4.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　黄褐色	
1162	434図	2区	2-37 2-44	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※11.5	※4.8	3.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色～黒色 外面　にぶい黄橙色	
1163	434図	2区	2-37 2-93	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※12.0	※5.5	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　暗灰黄色 外面　灰黄色	
1164	434図	2区	2-45	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△11.9	5.8	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄褐色	
1165	434図	2区	2-38	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△11.8	5.6	4.7	回転ナデ、底部回転糸切り 平高台	内外面　にぶい黄褐色～灰黄色	
1166	434図	2区	2-47	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△12.1	5.6	5.5	回転ナデ、底部回転糸切り 平高台	外面　黄褐色	
1167	434図	2区	2-29	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	△13.2	5.4	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
1168	434図	2区	2-54	埋土中	道路1側溝	土師器 足高高台坏	※12.2	※7.6	5.6	回転ナデ、貼付け高台	内面　にぶい黄橙色～にぶい黄褐色 外面　灰黄褐色～にぶい黄褐色	
1169	434図	2区	2-78	埋土中	道路1側溝	土師器 足高高台坏	△11.2	7.4	5.4	回転ナデ、貼付け高台	内外面　にぶい黄橙色	
1170	434図	2区	2-41	埋土中	道路1側溝	土師器 足高高台坏	※11.2	※7.4	5.4	回転ナデ、貼付け高台	内面　暗灰黄色 外面　灰黄色～暗灰色	
1171	434図	2区	2-179	埋土中	道路1側溝	土師器 高台坏	※11.0	－	△4.2	回転ナデ、高台欠損	内外面　灰黄色	
1172	434図	2区	2-89	埋土中	道路1側溝	土師器 足高高台坏	－	10.3	5.2	回転ナデ、坏部欠損	内外面　橙色	
1173	434図	2区	2-66	埋土中	道路1側溝	土師器 足高高台坏	△13.8	9.5	6.6	回転ナデ、貼付け高台	内外面　橙色	
1174	434図	2区	2-70	埋土中	道路1側溝	土師器 皿	※10.4	※4.9	2.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
1175	434図	2区	2-30	埋土中	道路1側溝	土師器 皿	※10.7	※5.5	2.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　灰オリーブ色 外面　灰オリーブ色～灰色	
1176	434図	2区	2-41	埋土中	道路1側溝	土師器 皿	△10.9	5.2	2.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色～明褐色 外面　灰黄色～にぶい黄褐色	
1177	434図	2区	2-33	埋土中	道路1側溝	土師器 高台皿	△10.7	－	△4.0	回転ナデ、貼付け高台 高台一部欠損	内面　にぶい橙色 外面　橙色	
1178	434図	2区	2-63	埋土中	道路1側溝	土師器 皿高台	－	※6.6	△3.5	回転ナデ、坏部欠損	内外面　にぶい黄色	
1179	435図	2区	2-69 2-189	埋土中	道路1側溝	土師器 甕	※25.7	－	△11.6	口縁部横ナデ、胴部ナデ一部ハケメ調整 内面ヘラ削り	内面　にぶい黄褐色 外面　暗灰色	
1180	435図	2区	2-44 2-63 2-126 2-127 2-180	埋土中	道路1側溝	土師器 甕	※26.2	－	△16.1	口縁部横ナデ、胴部不定方向のナデ	内外面　黒色	

表37　出土土器観察表(33)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
1181	435図	２区	2-29	埋土中	道路1側溝	瓦質土器 羽釜	－	－	△5.5	横ナデ、貼付け鍔 内面ヘラ削り	内面　暗灰黄色 外面　黒色	
1182	435図	２区	2-88	埋土中	道路1側溝	土師器 ミニチュア土器	△5.2	2.5	5.7	手ずくね成形、口縁部横ナデ 指オサエ残る	内外面　灰黄褐色	
1183	436図	２区	2-14	盛土内	道路1外盛土	土師器 高台坏	△10.9	4.5	3.6	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　灰白色～灰黄色 外面　灰白色～浅黄色	
1184	436図	２区	2-131	盛土内	道路1外盛土	土師器 坏	※11.8	4.6	4.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　橙色 外面　橙色～明褐色	
1185	436図	２区	2-129	盛土内	道路1外盛土	土師器 坏	△12.0	5.9	3.6	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰色	
1186	436図	２区	2-132	盛土内	道路1外盛土	土師器 坏	△11.5	4.5	4.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄色	
1187	436図	２区	2-100	盛土内	道路1外盛土	土師器 坏	△11.6	6.2	4.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄色～橙色	
1188	436図	２区	2-25	盛土内	道路1外盛土	土師器 坏	△11.3	5.2	4.2	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰白色	
1189	436図	２区	2-98	盛土内	道路1外盛土	土師器 坏	△11.3	5.2	4.6	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰褐色	
1190	436図	２区	2-102	盛土内	道路1外盛土	土師器 坏	※11.6	6.0	4.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい橙色	
1191	436図	２区	2-132	盛土内	道路1外盛土	土師器 坏	※14.1	-	△3.5	回転ナデ	内外面　にぶい橙色～橙色	漆付着
1192	436図	２区	2-14	盛土内	道路1外盛土	土師器 坏	※12.8	※6.1	3.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰黄色	
1193	436図	２区	2-108	盛土内	道路1外盛土	土師器 足高高台坏	－	8.4	△3.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　暗灰黄色 外面　灰色～黒色	
1194	436図	２区	2-15	盛土内	道路1外盛土	土師器 足高高台坏 脚部	－	8.0	△3.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　灰白色 外面　灰白色	
1195	436図	２区	2-14	盛土内	道路1外盛土	須恵器 高台坏	※12.9	※9.8	4.2	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内面　灰色 外面　緑灰色～灰白色	
1196	436図	２区	2-14	盛土内	道路1外盛土	須恵器 坏 口縁部	※13.9	－	△3.8	回転ナデ	内外面　灰白色	
1197	437図	２区	2-21	Ⅲ層	道路1外盛土	須恵器 皿	※13.9	※10.4	1.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　青灰色 外面　青灰色～灰色	
1198	437図	２区	2－19	Ⅲ層	道路1外盛土	緑釉陶器 皿	※11.6	※5.8	2.7	回転ナデ、削り出し高台	釉調　にぶい黄褐色 胎土　暗灰色	
1199	437図	２区	2-21	Ⅲ層	道路1外盛土	土師器 坏	※9.8	※5.0	3.5	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　褐色	
1200	437図	２区	2-31	Ⅲ層	道路1外盛土	土師器 坏	※10.8	4.2	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい橙色	
1201	437図	２区	2-9	Ⅲ層	道路1外盛土	土師器 坏	※11.2	※5.8	3.4	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
1202	437図	２区	2-26 2-32 2-33	Ⅲ層	道路1外盛土	土師器 坏	△11.4	5.9	4.1	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄褐色～明黄褐色 外面　褐色～黄褐色	
1203	437図	２区	2-19	Ⅲ層	道路1外盛土	土師器 坏	※14.8	※7.6	5.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　灰黄色～黄褐色～黒褐色 外面　灰黄褐色～灰黄色	
1204	437図	２区	2-21	Ⅲ層	道路1外盛土	土師器 坏	※12.4	5.7	3.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　褐灰色～灰黄褐色 外面　にぶい黄褐色～灰黄褐色	
1205	437図	２区	2-16	Ⅲ層	道路1外盛土	土師器 足高高台坏	※11.4	※7.4	5.4	回転ナデ、貼付け高台	内外面　にぶい黄橙色	
1206	437図	２区	2-17	Ⅲ層	道路1外盛土	土師器 脚付皿	※10.0	6.2	2.8	回転ナデ、貼付け高台	内外面　にぶい褐色～暗灰黄色	
1207	437図	２区	2-7	Ⅲ層	道路1外盛土	土師器 皿？	△10.6	5.0	2.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色～灰黄褐色	
1208	437図	２区	2-21	Ⅲ層	道路1外盛土	土師器 皿	△8.5	4.2	2.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
1209	437図	２区	2-22	Ⅲ層	道路1外盛土	土師器 坏身	－	6.0	△1.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　明褐色 外面　にぶい黄橙色～黒褐色	内面漆付着
1210	437図	２区	2-96	Ⅲ層	道路1外盛土	黒色土器 瓦器椀	－	－	△2.3	口縁部横ナデ、内面黒色処理 ヘラミガキ	内面　黒色 外面　にぶい浅橙色	
1211	437図	２区	2-27	Ⅲ層	道路1外盛土	黒色土器 or瓦器 椀	－	7.8	△1.6	横ナデ、貼付け高台 内面黒色処理、ヘラミガキ	内面　黒色～灰色 外面　にぶい褐色	
1212	437図	２区	2-6	Ⅲ層	道路1外盛土	土師器 甕 口縁部	△29.2	－	△10.7	口縁部横ナデ、内面ヘラ削り	内面　にぶい黄橙色 外面　にぶい黄橙色～にぶい橙色	
1213	438図	P12区	177	検出面	道路1	須恵器 塊底部	－	7.2	△2.7	回転ナデ、底部回転糸切り 平高台	内面　灰色～灰黄色 外面　灰白色	
1214	438図	P12区	216	第4・5次盛土	道路1	須恵器 塊底部	－	※7.4	△3.5	回転ナデ、底部回転糸切り 平高台	内面　明オリーブ灰色～暗灰黄色 外面　黒褐色	
1215	438図	P12区	256 262 269	盛土内	道路1	須恵器 坏	※12.0	※5.4	4.3	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　褐灰色	

表38　出土土器観察表(34)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
1216	438図	P12区	252	盛土内	道路1	須恵器 蓋	※16.4	－	2.0	回転ナデ、天井部欠損	内外面　灰色	
1217	438図	P12区	236 243 256	第4・5次盛土	道路1	須恵器 蓋	※19.2	－	△3.0	回転ナデ、天井部欠損	内面　灰白色～灰色 外面　灰白色	
1218	438図	P12区	235	第4・5次盛土	道路1	須恵器 高台付坏	※12.8	※7.6	5.7	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内外面　灰色	
1219	438図	P12区	234	第4・5次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※13.6	※8.5	6.3	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内面　にぶい黄褐色 外面　灰白色～褐灰色	
1220	438図	P12区	352	盛土内	道路1	土師器 甕 口縁部	※32.0	－	△7.7	口縁部横ナデのちハケメ調整、外面胴部縦ハケメ、内面ケズリ	内面　にぶい黄褐色 外面　灰黄褐色	
1221	438図	P12区	202	第１次盛土	道路1	須恵器 蓋	－	－	△1.4	回転ナデ、天井部に輪状ツマミ	内外面　灰白色	
1222	438図	P12区	12	第１次盛土	道路1	須恵器 坏蓋	△9.2	－	3.6	回転ナデ、宝珠状のツマミ貼付け	内外面　灰色	最大径11.8cm 受部径10.2cm
1223	438図	P12区	264	第１次盛土	道路1	須恵器 高台坏	※12.8	※7.8	4.5	回転ナデ、貼付け高台 底部回転糸切り	内面　暗灰黄色 外面　黄灰色	
1224	438図	P12区	291	第１次盛土	道路1	須恵器 坏	※13.2	※8.5	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り 口縁部は強い横ナデ	内外面　オリーブ灰色	
1225	438図	P12区	271	第１次盛土	道路1	須恵器 高坏	－	※9.7	△8.7	回転ナデ 透かし状の切り込みあり	内外面　灰色	
1226	438図	P12区	296 367 426 430 442 446 510	－	道路1	須恵器 甕	△24.8	－	△15.9	口縁部回転ナデ 胴部外面平行目の叩き具、内面同心円の当て具痕、口縁部に自然釉付着	内面　灰色 外面　褐灰色	
1227	438図	P12区	379 382 422(他)	下面 粗砂層上層	道路1 10溝	須恵器 短頸壺	※11.2	－	16.4	回転ナデ、胴部下半は回転ヘラ削りのちカキメ調整	内外面　灰白色	
1228	439図	P12区	337	埋土中	道路1側溝	土師器 坏	※13.0	5.5	4.7	回転ナデ、底部回転糸切り 平高台	内面　黒色 外面　にぶい黄橙色	
1229	439図	P12区	102	埋土中	道路1側溝	土師器 甕口縁部	※21.0	－	△9.1	口縁部横ナデ、胴部縦方向のハケメ調整	内外面　赤褐色	
1230	440図 PL116	P12区	81 135 137 198	盛土内・Ⅳ層上面・Ⅳ層・Ⅳ-1層	道路1外盛土	須恵器 埦	※14.8	※7.0	5.6	回転ナデ、底部回転糸切り 平高台	内面　暗オリーブ褐色 外面　灰色～暗オリーブ褐色	
1231	440図	P12区	341	盛土内	道路1外盛土	土師器 坏	※10.5	※5.2	4.0	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　灰白色	
1232	440図	P12区	351	盛土内	道路1外盛土	土師器 坏	※11.2	5.6	4.2	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
1233	440図	P12区	165	盛土上面	道路1外盛土	土師器 坏	※12.0	6.4	3.9	回転ナデ、底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色 外面　にぶい黄橙色～黒褐色	
1234	440図	P12区	200	盛土内	道路1外盛土	土師器 坏	△11.2	5.7	3.8	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　浅黄色	
1235	440図	P12区	199	盛土内	道路1外盛土	黒色土器 埦	※18.9	※9.6	5.0	手ずくねのち横ナデ、口縁部は段を有する 内面黒色処理のちヘラミガキ 貼付け高台	内面　黒色 外面　にぶい橙色～にぶい黄橙色	
1236	440図	P12区	150	盛土内	条里36	土師器 甕 口縁部	※31.2	－	△6.2	口縁部横ナデ、内面ヘラ削り	内面　灰黄色～黄灰色 外面　灰黄色～黒褐色	
1237	441図 PL116	P12区	594～596	粗砂層上層	河道6	須恵器 坏身	△9.7	－	3.3	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内外面　灰色	最大径12.6cm 受部径11.2cm
1238	441図 PL116	P12区	487 488	粗砂層上層	河道6	須恵器 高坏	△13.2	※11.6	11.2	回転ナデ	内面　明青灰色 外面　暗青灰色～灰白色	
1239	441図	P12区	376 513	粗砂層上層 粗砂層	河道6	須恵器 長頸壺	※6.8	－	18.8	回転ナデ、胴部閉塞技法、下半部はカキメ調整	内面　灰色 外面　褐灰色	
1240	441図 PL116	P12区	494 515	粗砂層上層	河道6	土師器 坏	※13.8	－	△5.2	口縁部横ナデ、胴部外面ヘラミガキ、内面幅広の工具痕	内面　にぶい橙色 外面　明褐灰色	
1241	441図	P12区	519 522	粗砂層上層	河道6	土師器 甕	※16.4	－	△14.3	口縁部横ナデ、胴部ハケメ調整のち刺突羽状文	内面　灰白色 外面　にぶい橙色	
1242	441図	P12区	525 526 536 539 541 424	粗砂層上層	河道6 道路1	土師器 甕	※23.6	－	△15.7	口縁部横ナデのち縦方向のハケメ調整 内面口縁部ハケメ、胴部上半ケズリ、下半ハケメ調整	内面　にぶい黄橙色 外面　明黄褐色	
1243	441図	P12区	530	粗砂層上層	河道6	土師器 甕 口縁部	※21.5	－	△13.7	口縁部横ナデ、胴部外面縦ハケメ 胴部内面右上がりのヘラ削り	内外面　にぶい橙色	
1245	442図 PL116	P12区	500	粗砂層下層	河道6	須恵器 坏蓋	△14.0	－	4.7	回転ナデ、天井部ヘラ起こしのちナデ調整	内外面　オリーブ灰色	
1246	442図	P12区	521	下層 （粘土層）	河道6	須恵器 坏身	△12.3	－	4.5	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内面　にぶい黄橙色 外面　黄灰色	最大径14.6cm 受部径13.8cm
1247	442図	P12区	479	粗砂層下層	河道6	須恵器 坏身	※12.6	－	5.1	回転ナデ、底部回転ヘラ切りのちナデ調整	内面　淡黄色 外面　灰白色	最大径14.4cm 受部径13.4cm
1248	442図	P12区	691	粗砂層下層	河道6	須恵器 坏身	※12.6	－	4.8	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	内面　暗灰黄色～黄褐色 外面　灰色	最大径15.0cm 受部径14.0cm

表39　出土土器観察表(35)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
1249	442図PL116	P12区	480	粗砂層下層	河道6	須恵器 甕	－	－	△16.3	回転ナデ、胴部穿孔 口縁部に波状文、胴部に連続する刺突文	内外面　灰色	
1250	442図	P12区	467 506 516 518 531 534 547 549 550 551	粗砂層上面下層(砂礫層)	河道6	須恵器 甕	※18.2	－	△23.3	口縁部回転ナデ、胴部外面平行目の叩き具内面は同心円の当て具痕	内外面　灰色	
1251	442図	P12区	588	下層(砂礫層)	河道6	土師器 甕	※17.8	－	△9.6	口縁部横ナデ、磨滅が著しく詳細不明	内外面　灰白色	
1252	442図	P12区	720	下層(砂礫層)	河道6	土師器 甕口縁部	※19.4	－	△7.1	口縁部横ナデ、胴部ナデ調整	内外面　にぶい黄色	
1253	442図	P12区	600	下層(砂礫層)	河道6	土師器 甕	※16.8	－	△20.3	口縁部横ナデのちハケメ調整、胴部外面不定方向のハケメ、内面ヘラ削り	内外面　黄褐色	
1254	442図	P12区	665	下層(砂礫層 砂層)	河道6	土師器 甕	17.0	－	△11.3	口縁部横ナデ、胴部外面ハケメ調整 内面ハケメのちヘラ削り	内外面　明黄褐色	
1255	442図	P12区	818	下層(中層)	河道6	弥生土器 甕	※16.2	－	△8.1	口縁部僅かに凹線、胴部外面不定方向のハケメのち刺突文、内面ハケメ調整	内面　灰白色 外面　灰白色～黄灰色	
1256	442図	P12区	664	下層(砂層)	河道6	土師器 高坏 坏部	△14.2	－	△5.5	口縁部横ナデ、脚部欠損	内面　褐色～黒色 外面　にぶい黄色～黄褐色	
1257	442図	P12区	587	下層(砂礫層)	河道6	土師器 高坏 坏部	△14.0	－	△6.0	口縁部横ナデ、脚部欠損	内面　橙色～褐灰色 外面　にぶい橙色～橙色	
1258	443図	P12区	363	－	河道6	弥生土器 壺	※16.5	－	△7.0	口縁部に４条の凹線文、頸部に指頭圧痕貼付突帯	内面　にぶい黄橙色～橙色 外面　淡黄色	
1259	443図PL116	P12区	362 364	－	河道6	弥生土器 高坏	※24.2	－	△19.4	口縁部、坏部、脚柱部に凹線文 坏部は内外面ヘラミガキ	内面　にぶい黄橙色～褐色 外面　にぶい黄橙色～黒色	
1260	444図	P12区	766	最下層・砂層	河道18	弥生土器 甕	※24.4	－	△10.1	口縁部横ナデ、胴部外面ハケメ調整	内外面　浅黄色	
1261	444図	P12区	748	最下層・砂層	河道18	弥生土器 甕	※26.2	－	△9.6	口縁端部に刻目、胴部外面は縦方向のハケメ調整、内面口縁部～胴部ハケメ調整	内面　淡黄色～暗オリーブ灰色 外面　黄灰色	
1262	444図PL116	P12区	767	最下層・砂層	河道18	弥生土器 水差形土器	※16.6	－	△15.1	口縁部に８条の凹線文、把手は差し込み 胴部外面はヘラミガキ	内面　褐灰色 外面	
1263	444図	P12区	688 694	上層	溝12	土師器 甕	△15.2	－	△10.5	口縁部は横ナデ、肩部外面は横方向のハケメ調整、内面横方向のヘラ削り	内面　灰黄褐色～黒褐色 外面　黒色	
1264	444図	P12区	683	最上層	溝12	土師器 甕	※15.5	－	△7.5	口縁部横ナデ、胴部外面不定方向のハケメ調整、内面はハケメのちヘラ削り	内面　にぶい橙色 外面　にぶい褐色	
1265	444図	P12区	800	粗砂層下層	河道20	縄文土器 深鉢	※37.3	－	△13.3	口縁端部に刻目、胴部外面擦痕状のナデ調整、内面横ナデ調整	内面　黄褐色～褐灰色 外面　黄褐色	
1266	445図	P12区	19	Ⅲ層	－	土師器 坏	－	5.4	△2.7	回転ナデ、底部回転糸切り	内外面　浅黄色	
1267	445図	P12区	126 127	Ⅳ-2層	－	黒色土器 高台付坏	※11.8	※5.8	5.2	回転ナデ、貼付け高台 内面黒色処理のちヘラミガキ	内面　黒色 外面　にぶい黄橙色～黒色	
1268	445図	P12区	335	Ⅴ層	－	土師器 甕	※17.4	－	△7.5	口縁部横ナデ、肩部外面横方向のハケメ、内面はヘラ削りか	内外面　灰黄褐色	
1269	445図	P12区	824	Ⅸ層(上)	－	縄文土器 深鉢	※29.5	－	△15.4	口縁部横ナデ、胴部外面は擦痕状のナデ調整、内面は横ナデ	内面　明黄褐色～灰白色 外面　煤付着	
1270	445図	P12区	825	Ⅸ層内(上)	杭群8	縄文土器 鉢口縁部	－	－	△3.1	口縁部刻目突帯、ナデ調整	内外面　灰色	
1271	446図	P13区	56	山際礫層	道路1	須恵器 蓋	※13.4	－	2.8	回転ナデ、天井部回転ケズリ後ツマミ貼付け	内外面　灰色	紐径2.2cm
1272	445図	P13区	92 116	盛土中	道路1	須恵器 高台坏	－	6.6	△2.3	内外面回転ナデ、外底部回転糸切り後高台貼付け	内外面　灰白色	
1273	445図PL117	P13区	93	盛土中	道路1	土師器 坏	※11.0	5.1	4.0	回転ナデ、外底部回転ヘラ切り	内外面　にぶい褐色	
1275	445図	P13区	112 127	構築当初土	道路1	須恵器 蓋	※13.8	－	△3.2	回転ナデ、天井部回転ナデ後ツマミ貼付け	内外面　灰色	最大径16.2cm 受部径14.8cm
1276	445図PL117	P13区	92 137 138	構築当初土	道路1	須恵器 皿	※12.2	※8.2	1.8	回転ナデ、外底面糸切り後一部ナデ	内外面　灰色	
1277	445図PL117	P13区	128 143	構築当初土	道路1	須恵器 蓋	△11.2	－	2.8	回転ナデ、天井部回転ケズリ後ツマミ貼付け	内外面　灰白色	最大径14.0cm 受部径12.6cm
1278	445図PL117	P13区	125 126 140	構築当初土	道路1	須恵器 高台付坏	※12.6	※8.2	5.4	回転ナデ、外底部静止糸切り後高台貼付け	内面　褐灰色 外面　灰色	
1279	445図	P13区	149	構築当初土	道路1	須恵器 坏	△12.7	6.8	4.0	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り	内外面　灰白色	
1280	445図	P13区	129 132	構築当初土	道路1	須恵器 高坏	－	－	△7.2	回転ナデ、柱部に切り目状２方向の透かし	内外面　灰黄色	
1281	445図	P13区	150	構築当初土	道路1	土師器 甕口縁部	※20.6	－	△5.3	口縁部横ナデ、内面頸部一部ハケ、以下ケズリ	内外面　黒褐色	
1282	445図	P13区	153	下層・粗砂層	河道6	須恵器 坏身	※15.0	－	△3.3	回転ナデ	内外面　灰色	
1283	445図	P13区	162	埋土中	河道6	土師器 低脚坏脚部	－	※7.9	△2.8	内外面横ナデ	内外面　オリーブ黒色	
1284	445図	P13区	152 154	流入崩落土	河道6	土師器 甕	※18.2	－	△15.0	内外面口縁部横ナデ、内面頸部以下ケズリ、外面ハケ、肩部に×状の施文	内面　にぶい黄橙色 外面　浅黄橙色	
1285	445図	P13区	100	粗砂層	河道6	弥生土器 甕口縁部	※21.6	－	△6.3	内外面口縁部横ナデ	内外面　にぶい黄褐色	
1291	445図	P13区	5	茶褐色粗砂層		緑釉陶器 皿	－	※6.4	△1.1	内外面横ナデ、外底面高台部ケズリ出し、内底面施釉	内面　オリーブ灰色 外面　灰色～オリーブ灰色	

表40　出土土器観察表(36)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
1292	446図	P13区	75	Ⅸ層上面	－	縄文土器 深鉢	※24.3	－	△6.6	内外面横方向の粗いナデ、指頭圧痕	内外面　明黄褐色	
1293	446図	P13区	175	Ⅸ層上面	－	縄文土器 深鉢口縁部	－	－	△4.2	内外面横方向の粗いナデ、外面口縁部下に押圧状の刻目突帯を貼付け	内面　褐色 外面　褐色～褐灰色	
1294	446図	P13区	176	Ⅸ層上面	－	縄文土器 深鉢 底部	－	－	△11.1	内外面横・斜め方向の粗条痕または擦痕、外底面付近に指頭圧痕	内外面　にぶい黄橙色	
1295	447図	P14区	230	盛土底面	道路1	須恵器 蓋	－	－	△2.2	回転ナデ、天井部回転ケズリ後ツマミ貼付け	内面　灰色～暗青灰色 外面　灰色	
1296	447図	P14区	201 204	褐灰色砂礫	道路1	須恵器 蓋	△14.5	－	2.6	回転ナデ、天井部回転糸切り後ツマミ貼付け	内外面　灰白色	紐径2.5cm
1297	447図	P14区	172 256 313	盛土中・粗砂上面	道路1	須恵器 蓋	△16.1	－	△2.6	回転ナデ、天井部回転ケズリ	内外面　灰白色	ヘラ記号
1298	447図	P14区	148	8盛土除去後	道路1	須恵器 坏	－	6.8	△3.3	回転ナデ、外底部回転糸切り	内面　にぶい黄橙色 外面　にぶい黄橙色～灰白色	
1299	447図	P14区	267	盛土中	道路1	須恵器 高台坏	－	9.2	△2.3	回転ナデ、外底部回転糸切り後高台貼付け	内面　灰色～にぶい黄色 外面　灰白色～黄灰色	
1300	447図	P14区	220	盛土底面	道路1	須恵器 高台坏	※11.8	8.0	4.2	回転ナデ、外底部回転糸切り後高台貼付け	内外面　灰色	
1301	447図	P14区	249	黄灰色～褐灰色砂礫	道路1	ミニチュア土器 甕	※8.1	※5.8	4.9	内外面口縁部横ナデ、体部内面ケズリ、体部外面ハケ、指頭圧痕	内外面　にぶい橙色	
1302	447図	P14区	196 200 206 243 ～ 245 260 300 311	盛土中・盛土上面・盛土底面・黄灰色砂礫・褐灰色砂礫	道路1	須恵器 甕	△12.1	－	△9.0	内外面口縁部ナデ、体部外面平行タタキ、体部内面青海波の当て具	内外面　灰色	
1303	447図	P14区	271	盛土中	道路1	須恵器 甕 口縁部	※15.8	－	△5.0	内外面口縁部ナデ、体部外面、平行タタキ、体部内面　青海波の当て具	内外面　灰色	
1304	447図 PL117	P14区	11	4層相当・上位礫層	道路1	須恵器 壺	※9.8	－	18.1	内外面回転ナデ、口縁部2条、体部上位に1条の凹線、外底部回転ケズリ	内外面　灰色	
1305	447図 PL117	P14区	109 187 284 288	盛土中・盛土底面・粗砂層(Ⅳ層相当)・粗砂層上面	道路1	須恵器 横瓶	※11.0	－	△22.4	内外面口縁部ナデ、体部外面十字状のタタキ、内面青海波の当て具	内外面　灰色	
1306	448図	P14区	114	盛土中	道路1外盛土	土師器 坏	※11.4	※6.5	4.7	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　浅黄橙色	
1307	448図 PL117	P14区	146	盛土中	条里41	土師器 坏	△11.2	6	3.7	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
1308	448図	P14区	113	粗朶層中	条里41	土師器 坏	※11.8	5.5	4.1	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　にぶい黄橙色	
1309	448図	P14区	126	盛土中	条里41	土師器 坏	－	※5.9	△3.0	回転ナデ、外底面回転糸切り	内面　にぶい黄橙色～明黄褐色 外面　灰黄色	
1310	448図 PL118	P14区	147 164	盛土中	条里41	土師器 高台付坏	※12.2	※8.2	5.0	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付け	内外面　灰褐色	
1311	448図	P14区	255 257	粗砂上面	河道6	須恵器 蓋	△15.6	－	2.5	回転ナデ、天井部回転ケズリ後摘み貼付け	内外面　灰白色	紐径4.8cm
1312	448図	P14区	177 184	褐灰色細砂層・粗砂層下面(法面部)	河道6	須恵器 坏	△12.7	5.9	4.0	回転ナデ、外底面回転ケズリ	内面　浅黄色 外面　灰色	
1313	448図 PL118	P14区	262	褐灰色細砂	河道6	土師器 甕	※19.8	－	△17.2	内面口縁部ハケ、頸部以下ケズリ・指頭圧痕、外面口縁部横ナデ、体部ハケ	内面　灰黄褐色 外面　にぶい黄橙色	
1314	448図	P14区	239	粗砂層②	河道6	土師器 甕	※14.6	－	△5.9	内面口縁部ハケ、頸部以下ケズリ、外面口縁部横ナデ、体部ハケ	内面　にぶい黄褐色～黄橙色 外面　黄橙色～灰白色	
1315	448図	P14区	339	Ⅸ層上灰色粗砂	杭群10	弥生土器 甕 口縁部	－	－	△7.3	内面ナデ・指頭圧痕、外面体部上位に櫛描状の平行線、下に刻み	内面　にぶい黄橙色 外面　にぶい黄色	
1316	448図	P14区	337	Ⅸ層中	杭群10	縄文土器 深鉢	※33.0	－	△9.6	内外面粗いナデ、口縁端部付近に指頭圧痕	内外面　黄褐色	
1317	448図	P14区	43 78 80 88 324	Ⅳ層	－	須恵器 高台坏	※13.2	※8.6	4.2	内外面回転ナデ、外面口縁部に凹線状の痕、外底面回転ヘラ切り後ケズリ	内外面　暗青灰色	
1318	448図	P14区	70 71	Ⅳ層	－	土師器 坏	※12.6	※6.6	4.7	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り後板目	内外面　にぶい黄橙色	両面赤彩
1319	448図	P14区	186	Ⅳ層	－	弥生土器 甕底部	－	5.9	7.3	内面縦方向のケズリ、外面縦方向のハケ	内外面　にぶい褐色	
1320	448図	P14区	217	Ⅶ(層)層相当	－	弥生土器 脚台付甕	－	11.4	8.5	内外面ナデ、内面脚台内部に一部ハケ	内外面　にぶい黄橙色	
1321	448図	P14区	151	Ⅸ層相当	－	縄文土器 鉢口縁部	－	－	△5.3	内外面横方向の粗いナデ、外面口縁端部やや下に刻目突帯貼付け	内面　明褐色～褐色 外面　にぶい橙色	
1322	448図	P14区	151	Ⅸ層相当	－	縄文土器 鉢口縁部	－	－	△5.3	内外面　ナデ後縦方向の連続する押圧、外面口縁部に刻目突帯貼付け	内外面　灰白色～褐色	
1323	449図	P15区	86	盛土下層	盛土32	須恵器 椀	－	※7.0	△2.2	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　灰色	
1324	449図	P15区	74	盛土(砂層)	盛土32	須恵器 坏	※8.6	－	3.1	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り	内外面　灰色	
1325	449図	P15区	104 115 128	盛土下層	盛土32	須恵器 長頸壺(胴部)	－	－	△13.1	回転ナデ、外底面回転糸切り	内面　灰黄色～オリーブ褐色 外面　灰白色～灰色	
1326	449図	P15区	95	盛土下層	盛土32	須恵器 甕 体部	－	－	△6.1	内面放射状の当て具、外面平行タタキ	内面　灰白色 外面　灰色	
1327	449図	P15区	110	盛土下層	盛土33	土師器 坏	※10.7	－	△3.2	回転ナデ	内面　灰褐色 外面　にぶい黄橙色～にぶい橙色	

表41　出土土器観察表（37）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量（cm）			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
1328	449図	P15区	67	盛土内	盛土33	土師器 高台坏	－	※6.4	△1.5	回転ナデ、外底面回転糸切り後高台貼付け	内外面　にぶい黄橙色	
1329	449図	P15区	73 121	盛土内	道路2	須恵器 高坏	△14.1	10.4	10.8	回転ナデ	内外面　灰白色	
1330	449図	P15区	198	盛土内	道路2	土師器 高台坏	－	－	△2.5	回転ナデ、外底面ナデ後高台貼付け	内外面　浅黄橙色	
1331	449図	P15区	131	上層	河道6	須恵器 高台坏	－	6.8	△2.3	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り後ケズリ	内外面　黄灰色	
1332	449図	P15区	192	南側Ⅶ層	集石4	土師器 甕	※14.4	－	△6.3	内外面口縁部横ナデ、指頭圧痕、体部外面ハケ、内面頸部以下ケズリ	内外面　オリーブ黒色	
1333	449図	P15区	206	Ⅶ層？	集石4	土師器 甕	※15.4	－	△6.6	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、内面頸部以下ケズリ	内面　暗褐色 外面　褐色	
1334	449図 PL98	P15区	232	Ⅸ層 (丸木舟上面)	－	縄文土器 深鉢	※23.6	－	△5.0	内外面横方向の粗いナデ	内面　暗オリーブ灰色～灰黄褐色 外面　暗灰色	
1335	449図 PL98	P15区	232	Ⅸ層 (丸木舟上面)	－	縄文土器 深鉢	－	－	△8.6	内外面横・斜め方向の条痕	内面　黄橙色～淡黄色 外面　にぶい黄橙色～黄橙色～褐灰色	
1336	449図 PL98	P15区	236	Ⅸ層 (丸木舟上面)	－	縄文土器 深鉢	－	－	△8.5	内外面縦横・斜め方向の条痕	内面　浅黄色～灰白色 外面　黄褐色～にぶい黄色	
1337	449図	P15区	232	Ⅸ層 (丸木舟上面)	－	縄文土器 深鉢	※24.0	－	△8.1	内面ナデ、指頭圧痕、外面横方向のハケ状の条痕	内面　灰色～暗灰色 外面　灰色	
1338	449図	P15区	109	Ⅳ層	－	土師器 坏	△11.0	－	3.7	回転ナデ、外底面回転ヘラ切り後ナデ	内外面　にぶい黄橙色	
1339	449図	P15区	221	北側Ⅵ層下 Ⅶ-4層上粗砂	－	弥生土器 甕	※14.7	－	△14.1	内面口縁部横ナデ、頸部以下ハケ・ケズリ、外面口縁端部に３条の凹線、外面体部縦ハケ	内外面　橙色	
1340	449図	P15区	200	南側Ⅷ-1層（細砂）	－	弥生土器 甕	※30.4	－	△11.5	内外面　縦・斜め方向のハケ、内面一部に指頭圧痕、外面頸部に指頭圧痕	内面　黄橙色～にぶい黄褐色 外面　明黄褐色～褐色～灰白色	
1341	449図	P15区	195	南側Ⅷ層上面	－	縄文土器 深鉢	※34.0	－	△12.2	内外面横・斜めの条痕または擦痕	内面　黄色～褐色 外面　褐色	
1342	449図	P15区	210	南側Ⅷ層	－	弥生土器 底部	－	※14.9	△15.4	内外面ハケ、内底面・体部に指頭圧痕	内面　黄色 外面　にぶい黄橙色	
1343	450図	P15区	231	Ⅸ層上面	－	縄文土器 深鉢口縁部	－	－	△6.7	内外面粗いナデ、外面口縁端部やや下に押圧状の刻目突帯貼付け	内外面　黄褐色	
1344	450図	P15区	223	Ⅸ層	－	縄文土器 深鉢口縁部	－	－	△6.6	内外面粗いナデ・指頭圧痕、外面口縁端部やや下に押圧状の刻目突帯貼付	内面　オリーブ褐色 外面　にぶい黄橙色	
1345	450図 PL98	P15区	230	Ⅸ層上面	－	縄文土器 深鉢	※33.8	－	△17.4	内外面粗いナデ、外面口縁端部やや下に切り目状の刻目突帯貼付け	内外面　明黄褐色	
1346	450図	P15区	215	Ⅸ層	－	弥生土器 底部	－	※8.8	△4.8	内外面粗いナデ	内面　黒褐色 外面　黄灰色	
1347	451図	P16区	126	2層	盛土32	須恵器 高坏	－	－	△8.2	内外面回転ナデ透かし	内外面　灰色	
1348	451図	P16区	123	－	土坑10	土師器 坏	△14.4	－	△4.4	回転ナデ	内外面　褐色	両面赤彩
1349	451図	P16区	123	－	土坑10	土師器 皿	△12.8	7.0	2.4	回転ナデ、外底面ヘラ切り	内外面　褐色	両面赤彩
1350	451図	P16区	66	－	6土坑	須恵器 甕	－	－	△7.1	回転ナデ、外面回転ナデ、カキメ	内面　灰白色 外面　黒色	
1351	451図	P16区	70	－	道路2	須恵器 長頸壺	－	－	△5.3	内面ナデ、シボリ、外面回転ナデ、１条以上の凹線	内外面　灰白色	
1352	451図	P16区	171　192	下層　最下層	河道6	土師器 甕	△16.3	－	△12.0	内面口縁部ハケ、頸部以下ケズリ・ハケ、外面口縁部横ナデ、体部ハケ	内外面　灰色	
1353	451図	P16区	186	5層	河道6	土師器 甕	△10.5	－	△5.0	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、体部内面　頸部以下ケズリ	内面　にぶい褐色 外面　にぶい黄橙色～にぶい褐色	
1354	451図	P16区	173	４層	河道6	土師器 高坏 坏部	※17.8	－	△5.9	内面坏部放射状のミガキ、一部横方向のハケ外面縦方向のハケ、ナデ	内面　青黒色 外面　黄褐色	
1355	451図	P16区	167	－	河道8	土師器 器台	－	－	△6.4	内面受け部横ナデ、台部ケズリ、外面横ナデ	内面　暗灰黄色 外面　にぶい黄色～黒褐色	
1356	451図	P16区	200	－	集石8	土師器 甕	△18.1	－	△10.0	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ・波状文、体部内面頸部以下ケズリ	内面　灰黄色 外面　にぶい黄色	
1357	451図	P16区	206	－	集石8	土師器 甕 口縁部	※16.2	－	5.4	内外面口縁部横ナデ、内面頸部以下ケズリ	内外面　灰白色～褐色	
1358	451図	P16区	199	－	集石8	土師器 高坏 脚部	－	7.3	△3.8	内面手づくね成形、一部ハケ、外面手づくね成形	内面　明黄褐色～黒褐色 外面　明黄褐色	
1359	451図	P16区	224	－	杭列31	土師器 小型壺体部	－	－	△7.9	内面体部ケズリ、外面体部ハケ	内面　灰黄色 外面　淡黄色	
1360	452図	P16区	98	Ⅳｄ層	－	須恵器 蓋	※16.8	－	△2.3	回転ナデ	内面 外面	
1361	452図	P16区	57	Ⅳa層	－	須恵器 高台坏	－	9.4	△2.8	回転ナデ、外底面高台貼付け	内面　灰白色 外面　灰色	
1362	452図	P16区	158	Ⅳｄ層	－	土師器 皿	△15.1	12.0	2.1	回転ナデ、外底面回転ケズリ	内外面　褐色	両面赤彩
1363	452図	P16区	69	Ⅳa層	－	土師器 坏	△11.9	8.4	2.7	回転ナデ、外底面回転ケズリ	内外面　にぶい黄橙色	
1364	452図	P16区	58	Ⅳa層	－	土師器 坏	△11.8	6.3	4.7	回転ナデ、外底面回転糸切り	内外面　明褐色	
1365	452図	P16区	12	Ⅳa層	－	土師器 甕	△19.0	－	△11.0	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、体部内面　頸部以下ケズリ	内面　淡黄色～灰黄色 外面　淡黄色	
1366	452図	P16区	194	Ⅴ層	－	土師器 甕	△14.6	－	△15.0	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、体部内面　頸部以下ケズリ、指頭圧痕	内面　明黄褐色 外面　浅黄色～黒褐色	

表42　出土土器観察表(38)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
1367	452図	P16区	223	Ⅴ層		土師器甕	△16.5	－	△14.6	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、体部内面　頸部以下ケズリ、指頭圧痕	内外面　浅黄色～黒褐色	
1368	452図	P16区	196	Ⅴ層		土師器甕	※25.6	－	△17.5	内外面口縁部横ナデ、体部外面ハケ、体部内面　頸部以下ケズリ、指頭圧痕	内面　明黄褐色～灰白色～黄灰色 外面　灰黄色～灰白色	
1369	452図	P16区	204	Ⅶ層		弥生土器甕底部か	－	8.0	△5.7	内面ケズリ、指頭圧痕、外面縦ハケ		
1370	453図 PL118	P16区	203	Ⅶ層		弥生土器甕	△14.8	9.8	29.3	内面ナデ、外面縦・斜め方向のミガキ、底部付近ハケ、底面に叢痕		

表43　製塩土器観察表

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			調整	色調	備考
				層位	遺構		口径	底径	器高			
1371	454図 PL118	P1区	337	Ⅰ層		製塩土器	－	－	△4.8	内面布目、一部工具痕、外面ナデ	橙色	外面に炭化物付着
1372	454図 PL118	P1区	440	Ⅳ層相当層		製塩土器	－	－	△4.3	内面布目が重なる、外面ナデ	内面　橙 外面　にぶい褐	外面に炭化物付着
1373	454図	P10区	781	第２次盛土	道路1	製塩土器	－	－	△2.8	内面細かな布目が重なる、外面ナデ、一部布目	内面　にぶい橙～橙 外面　にぶい橙	
1374	454図	P10区	666	第１次盛土	道路1	製塩土器	－	－	△3.0	内面細かな布目、外面ナデ、一部布目	内面　にぶい橙 外面　橙	
1375	454図	P10区	720		道路1	製塩土器	－	－	△3.0	内面僅かに布目、外面ナデ	淡赤橙	
1376	454図 PL118	P12区	109	Ⅳ1層		製塩土器	－	－	△5.9	内面斜め方向の布目、外面ナデ	内面　灰褐 外面　褐	外面に炭化物付着
1377	454図	P12区	110	Ⅳ-1層		製塩土器		－	△6.5	内面布目、外面ナデ	内面　褐色 外面　褐灰色	
1378	454図	P12区	131	Ⅳ層		製塩土器	※12.5	－	△4.5	内面僅かに布目、外面ナデ	内面　にぶい黄橙色 外面　黄褐色	
1379	454図 PL118	P2区	43	Ⅳ層相当層		製塩土器口縁部	※10.8	－	△4.3	内面僅かに布目、外面ナデ	内面　にぶい橙 外面　にぶい黄褐	
1380	454図 PL118	P10区	811	最上層	河道6	製塩土器	※12.5	－	△4.4	内面布目、外面ナデ、一部布目、口縁端部横方向のナデ	内面　にぶい黄橙 外面　灰黄褐～にぶい黄橙	外面～口縁端部内面に炭化物付着
1381	454図 PL118	P11区	430	第５次盛土	道路1	製塩土器底部	－	－	△5.2	内面布目、外面ナデ	内面　にぶい褐 外面　灰黄褐	

表44　土製品観察表(１)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			重量(g)	色調	備考
				層位	遺構		最大長	最大幅	最大厚			
239	378図	７区	7-525	盛土内	盛土8	土製品 土玉	3.1	3.1	2.9	26.0	外面　黒褐色	
336	385図	P7区	244	構築当初土	道路1	土製品 土玉	2.0	2.0	2.0	6.8	外面　暗灰黄色	
442	392図	P7区	576	埋土中	河道9	土製品 土玉	2.3	2.5	2.6	13.3	外面　橙色	
443	392図	P7区	585	埋土中	河道9	土製品 土玉	2.4	2.8	2.7	17.6	外面　にぶい黄橙色	
458	392図	P7区	638	－	Ⅵ層	土製品 土玉	2.6	2.7	2.5	14.7	外面　黒色	
459	392図	P7区	581	－	Ⅵ層	土製品 土玉	2.0	3.0	2.8	15.1	外面　灰黄褐色	
460	392図	P7区	587	－	Ⅵ層	土製品 土玉	2.3	2.0	2.3	8.8	外面　黒褐色～褐色	
596	400図	P9区	435	道路黄灰層	道路1	土師器 土製支脚	9.7	5.5	－	－	内外面　にぶい黄橙色	
664	405図	P9区	694	埋土	河道6(古)	土製品 土玉	2.5	3.1	2.8	20.1	内外面　暗灰黄色	
709	407図	P10区	628	第4・5次盛土	道路1	土製品 土製支脚	12.6	8.4	8.3	－	外面　にぶい褐色	
710	407図	P10区	398	第4・5次盛土	道路1	土製品 土錘	4.9	1.9	－	17.6	外面　褐灰色	
766	409図	P10区	613　643	第２次盛土	道路1	土製品 土製支脚	－	14.0	△10.8	－	内面　にぶい黄色～黒褐色 外面　にぶい黄橙色～褐灰色	
767	409図 PL111	P10区	584　647 612	第２次盛土	道路1	土製品 土製支脚	－	14.8	20.0	－	内外面　にぶい橙色	
768	409図	P10区	496	第２次盛土	道路1	土製品 土錘	4.6	1.4	－	8.3	外面　褐灰～灰白色	
769	409図	P10区	508	第２次盛土	道路1	土錘	3.4	2.5	－	19.1	外面　灰白色	
803	411図	P10区	768　769	第１次盛土	道路1 道路1外盛土	土製品 移動式竈	－	－	△30.8	－	内外面　橙色	
804	411図	P10区	762	－	撹乱	土製品 移動式竈	26.6	－	△8.2	－	内外面　橙色	
811	413図	P10区	8	－	道路1	土製品 土製支脚	－	－	△10.1	－	内外面　淡黄色	

表45　土製品観察表（２）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	挿図PL	地区名	取上番号	出土位置		種類	法量(cm)			重量(g)	色調	備考
				層位	遺構		最大長	最大幅	最大厚			
812	413図	P10区	8	－	道路1	土製品 土製支脚	－	－	△12.4	－	内外面　にぶい黄橙色	
1244	441図	P12区	526	粗砂層上面	河道6	土師器 甑形土器	－	△12.4	△7.9	－	内外面　灰黄褐色	
1274	446図	P13区	103	盛土中	道路1	土製品 土玉	4.0	4.0	4.0	53.0	外面　にぶい黄橙色	
1286	446図	P13区	180	埋土中	溝13	土製品 土錘	4.7	2.9	2.9	31.8	外面　灰褐色	
1287	446図	P13区	180	埋土中	溝13	土製品 土錘	4.1	3.2	3.3	36.8	外面　にぶい黄橙色	
1288	446図	P13区	180	埋土中	溝13	土製品 土玉	4.5	3.2	3.2	42.4	外面　にぶい黄褐色	
1289	446図	P13区	180	埋土中	溝13	土製品 土玉	3.6	1.9	2.2	0.01g	外面　灰黄褐色	
1290	446図	P13区	166	埋土中	溝13	土製品 土玉	3.2	3.5	3.5	33.1	外面　にぶい黄色	
1382	455図	P10区	1146	盛土中	畦畔4	土製品 土玉		3.7	3.5	44.25g	外面　黒色	
1383	455図	P11区	1489	下層(シルト層)	河道15	土製品 土玉	2.9	3.0	2.6	18.2g	外面　褐灰色	
1384	455図	P10区	W1005	Ⅶ層	－	土製品 土玉	2.8	3.8			外面　にぶい黄褐色	
1385	455図 PL118	P10区	86	－	道路1 側溝	土製品 土錘	4.1	1.2	1.1	3.89g	外面　にぶい黄褐色	
1386	455図 PL118	P10区	95	－	道路１ 側溝	土製品 土錘	4.4	1.1	1.1	4.5g	外面　黄褐色	
1387	455図	P11区	483	第５次盛土路面	道路1	土製品 土錘	4.5	1.5	1.5	9.8g	外面　褐灰色	
1388	455図 PL118	P10区	674	第１次盛土	道路1	土製品 土錘	3.0	2.5	2.5	17.59g	外面　灰白色	
1389	455図 PL118	P10区	674	第１次盛土	道路1	土製品 土錘	3.1	2.1	2.1	12.76g	外面　灰白色	
1390	455図	P6区	205	Ⅳ層	－	土製品 土錘	6.3	3.9	3.9	76g	外面　灰褐黄～黄灰色	
1391	455図	P11区	67	－	道路1 側溝	土製品 土錘	6.65	3.9	2.6	74.0g	外面　にぶい黄褐～黒色	
1392	455図 PL118	P10区	1186	敷葉・敷粗朶層	道路1	土製品 土錘	3.4	2.2	2.0	13.53g	外面　灰白～黒色	
1393	456図 PL118	P12区	692	下層(砂レキ層)	河道6	土製品 土錘	5.0	2.6	2.4	34.75g	外面　明黄褐～褐色	
1394	456図	P11区	67	－	道路1 側溝	土製品 土錘	7.5	4.7	4.3	110.0g	外面　黒色	
1395	456図	P11区	74	－	道路1 側溝	土製品 土錘	7.4	4.8	4.8	141.5g	外面　黄灰～黒色	
1396	456図 PL118	P11区	75	－	道路1 側溝	土製品 土錘	8.8	4.7	4.7	148.5g	外面　黒褐～黒色	
1397	456図 PL118	P11区	630	第4・5次盛土	道路1	土製品 土錘	7.6	4.9	4.9	155.5g	外面　黄灰～黒色	
1398	456図 PL118	P12区	263	第１次盛土	道路1	土製品 土錘	6.2	3.8	3.8	107.0g	外面　にぶい橙色	
1399	456図 PL118	P12区	352	第１次盛土	道路1	土製品 土錘	6.5	4.8	4.8	177.5g	外面　灰白～にぶい橙色	
1400	456図	P12区	285	第１次盛土	道路1	土製品 土錘	7.2	5.2	5.3	234.5g	外面　にぶい橙色	
1401	456図 PL118	P12区	268	第１次盛土	道路1	土製品 土錘	11.1	4.9	4.6	276.5g	外面　灰黄色	
1402	456図 PL118	P12区	270	第１次盛土	道路1	土製品 土錘	6.8	4.3	4.2	161.5g	外面　にぶい橙色	
1403	456図	P16区	91	盛土内	盛土32	土製品 土錘	7.5	3.4	3.4	88.75g	外面　灰白色	
1404	457図	P10区	340	盛土内	道路1 外盛土	土製品 権	2.6	3.2	-	28ｇ	外面　灰白色	

表46　木製祭祀具観察表（1）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W1	P1-W543	464図	P1区	溝２	埋土中	人形	△ 48.6	4.8	0.5		板目	IVA型式	
W2	P1-W380	464図PL119	P1区		Ⅴ層	人形	△ 41.6	5.1	0.6		板目	IVA型式	
W3	P1-W985	464図	P1区	溝２	埋土中	人形	△ 12.5	3.7	0.7		板目	Ⅳ類	
W4	P1-W379	464図	P1区	溝２	埋土中	人形	△ 33.9	5.5	0.6		板目	IVA型式	
W5	P1-W1448	464図	P1区	溝２	埋土中	馬形	15.4	3.1	0.8		板目	ⅡC類	
W6	P1-W1052	464図	P1区	溝２	埋土中	馬形	22.9	2.9	0.9		板目	ⅡBa型式	
W7	P1-W1196	464図	P1区	溝２	埋土中	馬形	18.6	3.0	0.6		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	
W8	P1-W939	464図PL129	P1区	溝２	埋土中	馬形	15.8	3.2	0.4		板目	ⅡDd型式	
W9	P1-W945	464図PL127	P1区	溝２	埋土中	馬形	21.7	3.5	0.9		板目	ⅢDc型式	
W10	P1-W995	464図PL130	P1区	溝２	埋土中	馬形	22.5	3.4	0.9		板目	ⅢDc型式	
W11	P1-W938	464図	P1区	溝２	埋土中	馬形	17.7	3.7	0.8		板目	ⅢD類	
W12	P1-W297	464図	P1区		Ⅳ層	刀形	△ 18.0	2.2	0.2		板目	AⅡ類	墨痕か？
W13	P1-W290	464図	P1区		Ⅳ層	刀形	△ 15.5	2.5	0.3		板目	不明	
W14	P1-W296	464図	P1区		Ⅳ層	刀形	△ 27.7	2.1	0.15		板目	AⅡ類	
W15	P1-W404	464図	P1区	溝２	埋土中	エブリ形	16.5	3.6	0.6		板目		
W16	P1-W936	464図PL133	P1区	溝２	埋土中	琴柱形	2.8	7.1	0.7		板目		
W17	P1-W1142	464図	P1区	溝２	埋土中	斎串	26.3	0.9	0.6		板目	BⅢ類	
W18	P1-W1050	464図	P1区	溝２	埋土中	斎串	33.6	1.7	0.55		板目	不明	
W19	P1-W1747	464図	P1区	溝２	埋土中	斎串	△ 15.2	1.2	0.7		柾目	E類	
W20	P1-W1030	464図	P1区	溝２	埋土中	斎串	15.6	0.7	0.4		板目	E類	
W21	P1-W618	465図	P1区		Ⅳ層	人形	△ 34.3	△ 3.7	0.5		板目	IA型式	切り込みなし
W22	P1-W1624	465図PL132	P1区		Ⅳ層	斎串	△ 39.4	2.7	0.4		板目	CI類	
W23	W10-1327	466図	10区	条里１	盛土内	人形	△ 13.5	4.5	0.7		板目	IV類	墨痕あり
W24	W10-145	466図	10区	条里１	盛土内	人形	△ 11.0	△ 2.3	△ 0.7	スギ	板目	IV類	墨痕あり
W25	W10-1659	466図	10区	条里１	盛土内	人形	△ 13.6	4.5	0.6	スギ	板目	IV類	墨痕あり
W26	W10-943	466図	10区	条里１	盛土内	人形	△ 11.7	4.1	0.7		板目	IV類	
W27	W10-1385	466図	10区	条里１	盛土内	人形	△ 17.1	△ 3.7	0.6		板目	IA型式	
W28	W10-946	466図	10区	条里１	盛土内	人形	△ 19.0	2.8	0.7	スギ	板目	IA型式	
W29	W10-1428	466図	10区	条里１	盛土内	人形	△ 33.2	4.7	0.8	スギ	板目		側面人形
W30	W10-1002	466図	10区		Ⅳ層	馬形	19.8	4.1	0.7	スギ	板目	ⅡBa型式	
W31	W10-1423	466図	10区	条里１	盛土内	馬形	18.3	3.0	0.7		板目	ⅡBc型式	
W32	W10-949	466図	10区	条里１	盛土内	馬形	20.6	3.3	0.6		板目	ⅢBc型式	
W33	W10-1571	466図	10区	条里１	盛土内	馬形	△ 21.5	3.5	0.8	スギ	板目	ⅢBc型式	
W34	W10-924	466図	10区	条里１	盛土内	刀形	△ 43.65	3.0	0.7		板目	A類	
W35	W10-643	466図	10区	条里１	盛土内	刀形	22.4	2.1	0.6	スギ	板目	AⅡ類	
W36	W10-1545	467図	10区	条里２	盛土内	舟形	22.5	2.4	1.3		板目	立体舟形A類	
W37	W10-1670	467図	10区	条里２	盛土内	舟形	21.2	5.15	2.2		板目	立体舟形A類	
W38	W10-1474	468図	10区		Ⅳ層	人形	△ 18.0	3.3	0.7		板目	IA型式	
W39	W10-1474	468図	10区		Ⅳ層	人形	△ 13.4	2.9	0.5	スギ	板目	IA型式	
W40	W10-996	468図	10区		Ⅳ層	人形	△ 17.6	4.4	0.6		板目	IV類	
W41	W10-1569	468図	10区		Ⅳ層	人形	△ 17.9	3.8	0.8	スギ	板目		側面人形
W42	W10-124	468図	10区		Ⅳ層	人形	51.6	5.7	0.5		板目	IVA型式	
W43	W10-1458	468図	10区		Ⅳ層	人形	41.8	△ 5.3	1.2		板目	IVA型式	
W44	W10-123	468図	10区		Ⅳ層	人形	43.7	5.6	1.5		板目	IVB型式	墨痕あり
W45	W10-1474	468図	10区		Ⅳ層	馬形	18.9	2.4	0.5		板目	ⅡAa型式	
W46	W10-319	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 9.3	△ 2.8	0.4	スギ	板目	IV類	
W47	W10-381	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 13.1	3.0	0.6		板目	IV類	
W48	W10-465	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 12.4	4.2	0.6	スギ	板目	IV類	
W49	W10-542	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 10.1	△ 3.2	0.4		板目	IV類	墨痕あり

表47　木製祭祀具観察表（２）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W50	W10-937	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 11.3	△ 2.7	0.4		板目	Ⅳ類	墨痕あり
W51	W10-102	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 7.6	3.3	0.4	スギ	板目	不明	
W52	W10-117	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 9.4	3.0	0.5	スギ	板目	不明	
W53	W10-368	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 9.1	2.1	0.4		板目	IA型式	墨痕あり
W54	W10-1109	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 12.6	2.4	0.7		柾目	IVA型式	
W55	W10-638	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 11.4	△ 1.7	0.3		板目	IA型式	
W56	W10-1069	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 11.2	1.9	0.4		板目	IA型式	
W57	W10-28	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 12.9	3.3	0.7	スギ	板目	IA型式	墨痕あり
W58	W10-36	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 17.8	△ 2.8	0.8	スギ	板目	IA型式	墨痕あり
W59	W10-461	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 16.2	3.9	0.7	スギ	板目	Ⅳ類	墨書あり
W60	W10-375	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 15.9	4.6	0.8		板目	IA型式	
W61	W10-893	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 31.4	△ 3.1	0.9		板目	Ⅳ類	
W62	W10-816	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 35.9	△ 3.4	1.1	スギ	柾目	IVA型式	
W63	W10-958	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 28.7	4.5	1.0		板目	IVA型式	
W64	W10-857	469図	10区		Ⅳ層	人形	△ 29.2	5.0	0.6	スギ	板目	IA型式	
W65	W10-28-1	470図	10区		Ⅳ層	人形	△ 24.0	4.8	0.5		板目	IVA型式	
W66	W10-1105	470図	10区		Ⅳ層	人形	△ 27.1	4.5	0.6		板目	IA型式	
W67	W10-960	470図	10区		Ⅳ層	人形	△ 25.1	3.9	0.8		板目	IVA型式	墨痕あり
W68	W10-1172	470図	10区		Ⅳ層	人形	△ 18.1	5.2	1.4	スギ	板目	IA型式	
W69	W10-832	470図	10区		Ⅳ層	人形	△ 19.0	5.0	0.9		板目	Ⅳ類	
W70	W10-1184	470図	10区		Ⅳ層	人形	△ 20.6	4.3	0.7		板目	Ⅳ類	
W71	W10-248	470図	10区		Ⅳ層	人形	44.2	5.3	1.3		板目	IVA型式	
W72	W10-583	470図	10区		Ⅳ層	人形	△ 25.7	3.9	0.8		板目	IVA型式	
W73	W10-609	470図	10区		Ⅳ層	人形	△ 33.4	5.5	1.0	スギ	板目	不明	
W74	W10-904,848	470図	10区		Ⅳ層	人形	46.4	4.8	0.9	スギ	板目	VB型式	墨痕あり
W75	W10-347	471図	10区		Ⅳ層	人形	△ 8.9	△ 2.3	0.4	スギ	板目	不明	
W76	W10-316	471図	10区		Ⅳ層	人形	△ 8.2	1.8	0.8		板目		側面人形
W77	W10-420	471図	10区		Ⅳ層	人形	△ 4.7	2.0	0.55		板目		側面人形
W78	W10-530	471図	10区		Ⅳ層	人形	△ 37.2	2.8	0.4		板目	IVB型式	
W79	W10-75,85,101,542	471図	10区		Ⅳ層	人形	61.6	10.6	0.9	スギ	板目	ⅡB型式	
W80	W10-286	472図	10区		Ⅳ層	馬形	19.8	4.4	0.7	スギ	板目	ⅡAa型式	
W81	W10-768	472図	10区		Ⅳ層	馬形	18.7	2.8	0.8		板目	ⅡAa型式	
W82	W10-1664	472図	10区		Ⅳ層	馬形	17.7	3.7	0.9	スギ	板目	ⅡAa型式	
W83	W10-1663	472図	10区		Ⅳ層	馬形	△ 20.5	3.1	1.1	スギ	板目	ⅡAa型式	
W84	W10-1047	472図	10区		Ⅳ層	馬形	18.0	2.7	0.8		板目	ⅡBa型式	
W85	W10-1048	472図	10区		Ⅳ層	馬形	27.45	3.8	0.7		板目	ⅡBa型式	墨痕あり
W86	W10-1114	472図	10区		Ⅳ層	馬形	14.6	3.5	0.7		板目	ⅡBa型式	
W87	W10-890	472図	10区		Ⅳ層	馬形	14.1	4.2	1.3	スギ	板目	ⅡBa型式	
W88	W10-634	472図	10区		Ⅳ層	馬形	14.3	2.7	0.6		板目	ⅡBa型式	
W89	W10-417	472図	10区		Ⅳ層	馬形	14.1	2.3	0.7	スギ	板目	ⅡBa型式	
W90	W10-1046	472図	10区		Ⅳ層	馬形	14.1	2.9	0.7		板目	ⅡBb型式	
W91	W10-956	472図	10区		Ⅳ層	馬形	26.3	3.6	0.5		板目	ⅡBc型式	墨痕あり
W92	W10-736	472図	10区		Ⅳ層	馬形	23.0	4.2	1.3		板目	ⅢBc型式	
W93	W10-1075	472図	10区		Ⅳ層	馬形	18.8	3.9	0.5	スギ	板目	ⅢDc型式	墨痕あり
W94	W10-838	472図	10区		Ⅳ層	馬形	20.7	4.2	1.0	スギ	板目	ⅢDc型式	
W95	W10-1535	472図	10区	条里２	盛土内	馬形	20.3	3.4	0.7	スギ	板目	ⅢDd型式	
W96	W10-1660	472図	10区		Ⅳ層	馬形	18.0	3.3	0.7		板目	ⅢBd型式	
W97	W10-585	472図	10区		Ⅳ層	馬形	△ 12.0	4.2	0.55		板目	Ⅲ類	墨痕あり（目）
W98	W10-220	472図	10区		Ⅳ層	馬形	20.9	6.1	1.1	スギ	板目	ⅢBa型式	

表48　木製祭祀具観察表（3）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W99	W10-404	472図	10区		Ⅳ層	馬形	△ 15.8	4.8	0.9		板目	ⅢDd型式	
W100	W10-928	472図	10区		Ⅳ層	馬形	18.3	3.1	0.4	スギ	板目	ⅡBd型式	
W101	W10-60	473図	10区		Ⅳ層	舟形	25.3	6.4	2.3	スギ	板目	立体舟形A類	
W102	W10-561	473図	10区		Ⅳ層	舟形	31.9	6.3	1.9		板目	立体舟形A類	
W103	W10-351	473図	10区		Ⅳ層	舟形	△ 30.5	5.4	4.0	スギ	板目	立体舟形A類	
W104	W10-682	473図	10区		Ⅳ層	舟形	28.1	3.6	0.8		板目	平面舟形A類	
W105	W10-708	473図	10区		Ⅳ層	舟形	16.4	3.85	1.0		板目	立体舟形A類	
W106	W10-839①	474図	10区		Ⅳ層	斎串	76.7	4.4	0.9		板目	BI類	
W107	W10-612	474図PL132	10区		Ⅳ層	斎串	41.4	3.1	1.6		板目	不明	
W108	W10-358	474図	10区		Ⅳ層	斎串	△ 17.2	2.9	0.7	スギ	板目	CI類	
W109	W10-7	475図	10区		Ⅳ層	人形	△ 10.3	3.8	0.5		板目	IV類	墨痕あり
W110	W10-1562	475図	10区		Ⅳ層	人形	△ 37.0	5.3	1.1		板目	IVA類	
W111	W10-10②	475図	10区		Ⅳ層	斎串	48.5	1.3	0.5		板目	E類	
W112	W10-6	475図	10区		Ⅳ層	馬形	△ 12.4	2.3	0.5		板目	ⅡAb型式	
W113	W10-8-①	475図	10区		Ⅳ層	馬形	△ 21.7	3.6	0.85		板目	ⅢDa型式	
W114	W10-1013	475図	10区		Ⅳ層	不明形代	15.0	4.1	0.5		板目		
W115	P2-W3	476図	P2区		Ⅳ層	人形	△ 13.8	△ 2.4	0.5		板目	IA型式	
W116	P2-W47	476図	P2区		Ⅳ層	人形	△ 11.4	2.6	0.6		板目	IA型式	
W117	P2-W354	476図	P2区		Ⅳ層	人形	△ 9.6	2.8	0.5		板目	IVA型式	
W118	P2-W63	476図PL120	P2区		Ⅳ層	人形	△ 17.5	4.2	0.5		板目	IA型式	
W119	P2-W46	476図PL128	P2区		Ⅳ層	馬形	12.1	3.5	0.9		板目	ⅡAa型式	
W120	P2-W302	476図	P2区		Ⅳ層	馬形	16.4	3.9	0.8		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	
W121	P2-W26	476図	P2区		Ⅳ層	馬形	23.8	△ 3.6	0.6		板目	ⅡAa型式	
W122	P2-W355	476図	P2区		Ⅳ層	馬形	22.3	5.0	1.0		板目	ⅡBa型式	
W123	P2-W256	476図	P2区		Ⅳ層	馬形	18.0	3.4	0.9		板目	ⅡBa型式	
W124	P2-W255	476図	P2区		Ⅳ層	馬形	17.9	2.9	0.7		板目	ⅡBa型式	
W125	P2-W66	476図	P2区		Ⅳ層	馬形	23.3	3.6	0.6		板目	ⅡBa型式	
W126	P2-W301	476図	P2区		Ⅳ層	馬形	24.7	6.2	1.9		柾目	ⅡAb型式	
W127	P2-W273	476図	P2区		Ⅳ層	舟形	25.75	3.6	2.3		柾目	立体舟形A類	
W128	P2-W231	476図	P2区		Ⅳ層	舟形	20.5	7.8	4.5		板目	立体舟形A類	
W129	P2-W222	476図	P2区		Ⅳ層	舟形	35.5	6.6	4.5		板目	立体舟形A類	
W130	P2-W670	476図	P2区		Ⅳ層	斎串	△ 20.6	1.5	0.6		板目	E類	
W131	P2-W695	476図	P2区		Ⅳ層	斎串	△ 25.7	1.6	0.3		板目	BⅢ類	
W132	P2-W20	476図	P2区		Ⅳ層	剣形	△ 28.9	2.2	1.4		板目		
W133	W9-35	477図	9区		Ⅳ層	人形	54.5	△ 6.6	△ 1.2		板目	IA型式	
W134	W9-55	477図	9区		Ⅳ層	馬形	15.0	2.2	0.5		板目	ⅡAa型式	
W135	W9-35	477図	9区		Ⅳ層	馬形	18.5	2.7	0.5		板目	ⅢDd型式	
W136	W9-54	477図	9区		Ⅳ層	馬形	24.7	4.9	0.8	スギ	柾目	ⅢDc型式	
W137	W8-390	478図	8区		Ⅳ層	馬形	△ 28.5	6.8	1.3		板目	ⅠAa型式	
W138	W8-180	478図	8区		Ⅳ層	馬形	13.9	3.3	0.6		板目	ⅡAa型式	
W139	W8-184	478図	8区		Ⅳ層	馬形	14.9	2.0	0.6		板目	ⅡAa型式	
W140	W8-126	478図	8区		Ⅳ層	馬形	14.0	1.8	0.4		板目	ⅡAa型式	
W141	W8-88, 92	479図	8区		Ⅳ層	人形	△ 23.0	3.5	0.7	スギ	板目	IA型式	
W142	W8-382	479図	8区		Ⅳ層	人形	22.9	3.7	0.9		板目	IA型式	
W143	W8-122	479図	8区		Ⅳ層	人形	△ 13.0	2.2	0.5		板目	IA型式	
W144	W8-88	479図	8区		Ⅳ層	人形	8.7	1.7	0.35	スギ	板目	IA型式	墨痕か？
W145	W8-140	479図	8区		Ⅳ層	人形	△ 15.5	2.9	0.9		板目	IA型式	
W146	W8-133	479図	8区		Ⅳ層	人形	△ 10.5	2.8	0.4	スギ	板目	ⅡA型式	
W147	W8-34	479図	8区		Ⅳ層	馬形	△ 15.3	2.9	1.1	スギ	柾目	ⅡAa型式	

表49　木製祭祀具観察表（４）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W148	W8-134	479図	8区		Ⅳ層	馬形	11.0	2.3	0.8		板目	ⅡAa型式	
W149	W8-24	479図	8区		Ⅳ層	馬形	16.3	3.0	0.8	スギ	板目	ⅡAa型式	
W150	W8-169	479図	8区		Ⅳ層	馬形	18.5	3.5	0.9		板目	ⅡAa型式	
W151	W8-87	479図	8区		Ⅳ層	馬形	16.4	3.5	0.6		板目	ⅡAa型式	
W152	W8-152	479図	8区		Ⅳ層	馬形	17.2	4.4	1.1		板目	ⅡBa型式	
W153	W8-2	479図	8区		Ⅳ層	馬形	13.9	2.5	0.7		板目	ⅡBa型式	
W154	W8-87	479図	8区		Ⅳ層	馬形	13.2	2.4	0.5	スギ	板目	ⅡBa型式	
W155	W8-171	479図	8区		Ⅳ層	馬形	12.9	2.0	0.5		板目	ⅡBa型式	
W156	W8-34	479図	8区		Ⅳ層	舟形	33.7	3.8	2.9		板目	立体舟形A類	
W157	W8-73	479図	8区		Ⅳ層	舟形	28.0	7.4	2.5		板目	立体舟形A類	
W158	W8-147	479図	8区		Ⅳ層	舟形	△ 27.1	2.8	2.1	スギ	板目	立体舟形A類	
W159	P3-W2855	480図	P3区	条里５	盛土内	人形	△ 15.2	2.6	0.5		板目	IA型式	
W160	P3-W1099	480図	P3区	条里５	盛土内	人形	△ 18.2	3.1	0.8		板目	IA型式	
W161	P3-W719	480図	P3区	条里５	盛土内	人形	△ 15.9	3.0	0.9		板目	IA型式	
W162	P3-W703	480図PL121	P3区	条里５	盛土内	人形	△ 10.0	4.2	0.4		板目	IA型式	
W163	P3-W2946	480図PL121	P3区	条里５	盛土内	人形	25.3	4.2	0.6		板目	IA型式	
W164	P3-W1902	480図	P3区	条里５	盛土内	人形	41.7	3.4	1.0		板目	IVB型式	
W165	P3-W2710	480図	P3区	条里６	盛土内	人形	△ 22.4	4.9	0.9		板目	IA型式	顔に墨痕あり
W166	P3-W2946	480図	P3区	条里５	盛土内	馬形	20.5	4.4	0.7		板目	ⅡAc/ⅡBa型式	
W167	P3-W2946	480図PL129	P3区	条里５	盛土内	馬形	17.8	3.6	0.7		板目	ⅡAc/ⅡBc型式	
W168	P3-W2840	480図	P3区	条里５	盛土内	馬形	20.7	3.4	0.8		板目	ⅢBa型式	
W169	P3-W2035	480図	P3区	条里６	盛土内	馬形	19.8	4.1	0.7		板目	Ⅲ類	
W170	P3-W2810	480図PL129	P3区	盛土２	盛土内	馬形	14.5	3.9	0.5		板目	ⅡBa型式	
W171	P3-W1575	480図	P3区	条里５	盛土内	斎串	37.6	0.7	0.5		板目	E類	
W172	P3-W1443	480図	P3区	条里５	盛土内	斎串	△ 12.9	1.5	0.6		板目	CI類	
W173	P3-W503	480図	P3区	条里５	盛土内	斎串	△ 10.6	1.9	0.8		板目	不明	
W174	P3-W580	480図	P3区	条里５	盛土内	斎串	27.5	1.4	0.9		板目	E類	
W175	P3-W1905	480図	P3区	条里５	盛土内	不明品	△ 11.8	3.0	1.8		板目		
W176	P3-W1607、W1379①	481図PL125	P3区	条里９	盛土内	人形	△ 55.0	8.0	1.0		板目	Ⅱb型式	
W177	P3-W1576	481図	P3区	条里８	盛土内	人形	△ 24.3	3.0	0.6		板目	IVA型式	
W178	P3-W825	481図	P3区	条里８	盛土内	人形	△ 16.2	3.1	0.8		板目	IV類	
W179	P3-W796	481図	P3区	条里８	盛土内	馬形	17.0	2.7	0.8		板目	ⅡAa型式	
W180	P3-W2242	481図	P3区	条里８	盛土底面	馬形	16.2	2.8	0.8		板目	ⅡAa型式	
W181	P3-W1340	481図	P3区	条里８	盛土内	馬形	17.1	2.7	0.7		板目	ⅡAa型式	
W182	P3-W2165	481図	P3区	条里１０	盛土内	馬形	20.8	3.7	1.4		板目	ⅡAa型式	
W183	P3-W1703	481図	P3区	条里８	盛土内	馬形	37.0	5.1	3.9		柾目	ⅡAa型式	
W184	P3-W1275	481図	P3区	条里８	盛土内	馬形	17.0	3.7	0.6		板目	ⅡAa型式	
W185	P3-W1939	481図	P3区	条里８	盛土内	馬形	15.15	3.0	0.6		板目	ⅡAa型式	
W186	P3-W2269	481図	P3区	条里９	盛土内	馬形	22.5	3.6	0.5		板目	ⅡBa型式	
W187	P3-W1531	481図	P3区	条里８	盛土内	馬形	14.9	2.3	0.5		板目	ⅡAa型式	
W188	P3-W1833	481図	P3区	条里８	盛土内	馬形	21.6	4.2	0.9		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	
W189	P3-W842	481図	P3区	条里１０	盛土内	馬形	15.8	2.7	0.6		板目	ⅠBa型式	
W190	P3-W1438	481図	P3区	条里１０	盛土内	馬形	19.2	3.1	1.0		板目	ⅡAb/ⅡBb型式	
W191	P3-W2197	481図	P3区	条里１０	盛土内	馬形	△ 14.6	2.3	0.7		板目	ⅡBa型式	
W192	P3-W2720	481図	P3区	条里９	盛土内	馬形	19.3	3.6	0.65		板目	ⅡDb型式	
W193	P3-W820	481図PL129	P3区	条里１０	盛土内	馬形	17.4	3.0	0.6		板目	ⅡCc型式	
W194	P3-W1295	481図PL129	P3区	条里８	盛土内	馬形	19.7	4.3	0.6		板目	ⅡBc型式	
W195	P3-W798	481図PL129	P3区	条里８	盛土内	牛形	15.6	4.2	0.6		板目		
W196	P3-W2953	481図	P3区	条里８	盛土内	斎串	△ 13.9	4.6	0.7		板目	不明	

表50　木製祭祀具観察表（5）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W197	P3-W2242	481図	P3区	条里８	盛土底面	斎串	△ 14.5	2.0	0.3		板目	CI類	
W198	P3-W2241	481図	P3区	条里８	盛土底面	斎串	△ 12.2	1.7	0.4		板目	BⅢ類	
W199	P3-W1808	482図	P3区	条里９	盛土内	舟形	22.4	3.0	1.3		板目	平面舟形BⅡ類	
W200	P3-W724	482図	P3区	条里９	盛土内	舟形	35.3	3.6	1.3		板目	平面舟形BⅠ類	
W201	P3-W1024	482図	P3区	条里８	盛土内	舟形	32.1	4.1	2.1		板目	立体舟形A類	
W202	P3-W978	482図	P3区	条里８	盛土内	舟形	25.2	4.8	1.3		板目	立体舟形A類	
W203	P3-W2264	482図	P3区	条里８	盛土内	舟形	37.0	5.3	3.0		板目	立体舟形A類	
W204	P3-W1018	482図	P3区	条里８	盛土内	舟形	43.2	3.5	4.1		柾目	立体舟形B類	
W205	P3-W1019	482図	P3区	条里８	盛土内	舟形	29.75	4.1	2.9		板目	立体舟形A類	
W206	P3-W1852	482図	P3区	条里８	盛土内	舟形	61.6	8.5	4.7		柾目	立体舟形A類	
W207	P3-W1025	483図	P3区		Ⅳ層	人形	△ 33.4	△ 7.3	1.15		板目	IA型式	
W208	P3-W38	483図	P3区		Ⅳ層	人形	△ 19.5	4.9	0.7		板目	不明	
W209	P3-W37	483図PL121	P3区		Ⅳ層	人形	△ 17.8	2.9	0.5		板目	IA型式	
W210	P3-W174	483図	P3区		Ⅳ層	人形	△ 24.9	4.0	0.8		板目	ⅡB型式	
W211	P3-W431	483図	P3区		Ⅳ層	舟形	26.1	5.4	3.5		板目	立体舟形B類	
W212	P3-W343	483図	P3区		Ⅳ層	舟形	18.4	6.5	3.2		柾目	立体舟形A類	
W213	P3-W185	483図	P3区		Ⅳ層	馬形	12.8	2.7	0.6		板目	ⅡAa型式	
W214	P3-W36	483図	P3区		Ⅳ層	馬形	16.8	3.0	0.7		板目	ⅡBa型式	
W215	P3-W325	483図	P3区		Ⅳ層	馬形	15.9	3.4	0.5		板目	ⅢAa型式	
W216	P3-W723	483図	P3区		Ⅳ層	馬形	35.3	3.7	0.9		板目	不明	
W217	P3-W399	483図	P3区		Ⅳ層	馬形	△ 15.3	△ 2.6	1.0		板目	不明	
W218	P3-W50	483図	P3区		Ⅳ層	斎串	△ 11.9	1.4	0.3		板目	BⅢ類	
W219	P3-W160	483図	P3区		Ⅳ層	斎串	△ 9.1	1.7	0.6		板目	CI類	
W220	P3-W2700	484図	P3区		Ⅴ層	人形	△ 16.8	4.5	1.1		板目	IA型式	
W221	P3-W2503	484図PL124	P3区		Ⅴ層相当	人形	△ 20.8	5.1	0.7		柾目	不明	
W222	P3-W2304	484図	P3区		Ⅴ層	馬形	25.6	2.9	1.5		板目	ⅡAa型式	
W223	P3-W2374	484図	P3区		Ⅴ層	馬形	13.9	3.5	0.8		板目	ⅡAa型式	
W224	P3-W2432	484図	P3区		Ⅴ層	馬形	19.2	4.3	0.7		板目	ⅡAa型式	
W225	P3-W2446	484図	P3区		Ⅴ層	舟形	24.9	4.4	2.6		柾目	立体舟形A類	
W226	P3-W2358	484図	P3区		Ⅴ層	舟形	33.65	5.3	4.1		板目	立体舟形B類	
W227	P3-W2299	484図	P3区		Ⅴ層	刀形	△ 27.5	2.5	0.3		板目	A類	
W228	P3-W2437	484図	P3区		Ⅴ層	斎串	21.0	2.3	0.7		板目	CI類	
W229	P4-W843	485図	P4区	条里１２	盛土内	人形	△ 13.1	2.0	0.4		板目	IA型式	
W230	P4-W1277	485図	P4区	条里１２	盛土内	人形	△ 12.4	2.85	0.4		柾目	IA型式	
W231	P4-W1340	485図PL121	P4区	条里１２	盛土内	人形	△ 10.8	2.6	0.4		板目	IA型式	
W232	P4-W1669	485図	P4区	条里１２	盛土内	人形	△ 7.9	2.8	0.8		板目	IV類	
W233	P4-W1660	485図	P4区	条里１２	盛土内	人形	△ 21.2	△ 4.2	△ 0.5		板目	IV類	
W234	P4-W1153	485図	P4区	条里１２	盛土内	馬形	19.4	2.8	1.1		板目	ⅡAa型式	
W235	P4-W1703①	485図	P4区	条里１２	盛土内	馬形	14.1	4.15	1.6		板目	ⅡAa型式	
W236	P4-W1137	485図	P4区	条里１２	盛土内	馬形	18.1	3.2	0.7		板目	ⅡAa型式	
W237	P4-W1340	485図	P4区	条里１２	盛土内	馬形	16.1	2.9	0.9		板目	ⅡAa型式	
W238	P4-W1141	485図	P4区	条里１２	盛土内	馬形	19.8	3.5	0.6		板目	ⅡAa型式	
W239	P4-W1040	485図	P4区	条里１２	盛土内	馬形	14.4	△ 3.0	△ 0.6		板目	ⅡAa型式	
W240	P4-W1132	485図	P4区	条里１２	盛土内	馬形	15.4	2.6	0.55		板目	ⅡBa型式	
W241	P4-W1138	485図PL129	P4区	条里１２	盛土内	馬形	16.9	2.7	0.65		板目	ⅡBa型式	
W242	P4-W1277	485図	P4区	条里１２	盛土内	馬形	12.1	2.7	0.6		板目	ⅡBa型式	
W243	P4-W1153	485図	P4区	条里１２	盛土内	馬形	20.0	3.9	0.7		板目	ⅡBa型式	
W244	P4-W1667	485図PL129	P4区	条里１２	盛土内	馬形	19.8	3.4	0.6		板目	ⅡBb型式	
W245	P4-W1703②	485図PL129	P4区	条里１２	盛土内	馬形	19.15	2.2	0.6		板目	ⅡBd型式	

表51　木製祭祀具観察表（６）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W246	P4-W1138	485図	P4区	条里１２	盛土内	馬形	20.4	3.5	0.7		板目	ⅢDc型式	
W247	P4-W1728	485図	P4区	条里１２	盛土内	鳥形	22.7	4.75	0.9		板目		
W248	P4-W1248	485図	P4区	条里１２	盛土内	舟形	28.8	5.7	2.4		板目	立体舟形A類	
W249	P4-W1223	485図	P4区	条里１２	盛土内	舟形	23.4	5.6	3.1		板目	立体舟形A類	
W250	P4-W766	486図	P4区	条里１３	盛土内	人形	△ 13.9	△ 2.9	△ 0.6		板目	IVA型式	
W251	P4-W775	486図PL147	P4区	条里１３	盛土内	馬形	△ 17.9	3.6	0.7		板目	ⅡC類	
W252	P4-W959	486図	P4区	条里１３	盛土内	馬形	15.65	3.45	0.7		板目	ⅡBa型式	
W253	P4-W776	486図	P4区	条里１３	盛土内	馬形	19.1	3.15	1.1		板目	ⅡBa型式	
W254	P4-W766	486図	P4区	条里１３	盛土内	馬形	20.55	3.75	0.8		板目	ⅡBa型式	
W255	P4-W775	486図	P4区	条里１３	盛土内	斎串	26.0	1.4	0.3		板目	BⅡ類	
W256	P4-W1763	486図PL132	P4区	条里１３	盛土内	斎串	39.1	3.0	1.1		板目	D類	
W257	P4-W1008	487図	P4区	条里１１	盛土内	人形	△ 13.4	3.0	0.6		板目	IA型式	
W258	P4-W613	487図PL121	P4区	条里１１	盛土内	人形	△ 13.8	3.4	0.8		板目	IA型式	
W259	P4-W1391	487図PL123	P4区	畦畔８	盛土内	人形	△ 36.3	4.1	0.6		板目	IVA型式	
W260	P4-W567	487図	P4区	条里１１	盛土内	人形	△ 23.6	4.0	0.7		板目	IVB型式	
W261	P4-W596	487図PL127	P4区	条里１１	盛土内	馬形	11.4	4.1	0.9		板目	ⅡAa型式	
W262	P4-W597	487図	P4区	条里１１	盛土内	馬形	15.8	2.5	0.55		板目	ⅡAa型式	
W263	P4-W598	487図	P4区	条里１１	盛土内	馬形	12.7	2.25	0.8		板目	ⅡAa型式	
W264	P4-W606	487図	P4区	条里１１	盛土内	馬形	18.5	3.4	1.0		柾目	ⅡBa型式	
W265	P4-W773	487図	P4区	条里１１	盛土内	馬形	19.95	4.1	1.2		板目	IAa型式	
W266	P4-W696	487図	P4区	条里１１	盛土内	舟形	32.1	5.5	3.4		板目	立体舟形A類	
W267	P4-W670	487図	P4区	条里１１	盛土内	舟形	35.3	4.4	3.0		柾目	立体舟形A類	
W268	P4-W725	487図	P4区	条里１１	盛土内	斎串	40.0	1.6	1.1		板目	E類	
W269	P4-W1015	488図	P4区		Ⅳ層	人形	△ 11.5	2.4	0.3		板目	IA型式	
W270	P4-W227	488図PL120	P4区		Ⅳ層	人形	△ 10.0	2.7	0.6		板目	IA型式	
W271	P4-W374	488図PL124	P4区		Ⅳ層	人形	14.3	4.5	0.6		板目		
W272	P4-W9	488図	P4区		Ⅲ層	人形	△ 6.1	△ 2.4	0.5		板目	Ⅰ類	
W273	P4-W389	488図	P4区		Ⅳ層	人形	△ 16.0	3.0	0.7		柾目	IA型式	
W274	P4-W163	488図PL122	P4区		Ⅳ層	人形	△ 21.8	4.55	0.85		板目	ⅡA型式	
W275	P4-W523	488図PL121	P4区		Ⅳ層	人形	△ 35.0	7.5	1.1		板目	IA型式	
W276	P4-W224	488図	P4区		Ⅳ層	馬形	23.4	3.4	0.9		板目	ⅡAa型式	
W277	P4-W18	488図	P4区		Ⅲ層	馬形	18.0	3.8	1.5		板目	ⅡAa型式	棒孔四カ所
W278	P4-W561	488図	P4区		Ⅳ層	馬形	15.5	2.7	1.3		板目	Ⅱ類	
W279	P4-W123	488図	P4区		Ⅳ層	馬形	22.1	4.4	0.7		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	
W280	P4-W301	488図	P4区		Ⅳ層	馬形	13.4	2.7	0.5		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	
W281	P4-W384	488図	P4区		Ⅳ層	馬形	19.1	4.8	2.3		板目	ⅡAa型式	棒孔四カ所
W282	P4-W1018	488図	P4区		Ⅳ層	馬形	17.3	4.3	1.2		板目	ⅡAb型式	
W283	P4-W50	488図	P4区		Ⅳ層	馬形	△ 18.2	4.2	0.6		板目	不明	
W284	P4-W621	488図	P4区		Ⅳ層	馬形	20.2	3.0	1.1		板目	ⅡBa型式	
W285	P4-W375	488図PL129	P4区		Ⅳ層	馬形	20.0	3.7	1.1		板目	ⅡDc型式	
W286	P4-W26	488図	P4区		Ⅲ層	馬形	20.3	2.7	0.6		板目	ⅡDc型式	
W287	P4-W373	488図PL130	P4区		Ⅳ層	馬形	20.7	2.7	0.8		板目	ⅢBa型式	
W288	P4-W522	488図	P4区		Ⅳ層	馬形	21.2	3.0	0.7		板目	ⅢDc型式	
W289	P4-W236	488図	P4区		Ⅳ層	馬形	23.7	3.2	0.5		板目	ⅢDd型式	
W290	P4-W338	488図PL132	P4区		Ⅳ層	斎串	61.1	3.2	1.9		板目	BⅢ類	棒状・大型品
W291	P4-W227	488図	P4区		Ⅳ層	斎串	△ 12.0	2.5	0.4		板目	BⅢ類	
W292	P4-W124	489図	P4区		Ⅳ層	鎌柄形	18.0	1.9	1.3		板目		
W293	P4-W570	489図	P4区		Ⅳ層	刀形	16.7	3.4	0.8		板目	不明	
W294	P4-W134	489図	P4区		Ⅳ層	不明	9.5	0.9	0.6		板目	不明	

表52　木製祭祀具観察表（7）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W295	P4-W1018	489図	P4区		Ⅳ層	舟形	24.6	5.1	3.8		柾目	立体舟形A類	
W296	P4-W1764	490図	P4区		Ⅴ層	人形	△ 14.4	2.5	0.5		板目	IA型式	
W297	P4-W1359	490図	P4区		Ⅴ層	人形	△ 18.3	4.2	0.6		板目	IA型式	
W298	P4-W1275	490図	P4区		Ⅴ層	馬形	21.7	3.7	0.8		板目	ⅠAa型式	
W299	P4-W1012	490図	P4区		Ⅴ層	馬形	15.6	2.9	0.6		板目	ⅡBa型式	
W300	P4-W1359	490図	P4区		Ⅴ層	馬形	21.0	4.0	1.2		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	
W301	P4-W1880	490図	P4区		Ⅵ層	馬形	15.4	2.7	0.6		板目	ⅡBa型式	
W302	P4-W381	490図 PL129	P4区		Ⅳ層	馬形	22.8	4.6	0.7		板目	ⅡBa型式	
W303	P4-W1553	490図	P4区		Ⅵ層	舟形	24.5	3.9	2.2		板目	立体舟形A類	
W304	P4-W1260	490図	P4区		Ⅴ層	舟形	38.0	6.5	2.8		板目	立体舟形B類	
W305	P4-W1539	490図 PL133	P4区		Ⅴ層	エブリ形	16.0	1.4	0.5		板目		
W306	P4-W1556	490図	P4区		Ⅴ層相当	刀形	18.8	2.3	0.8		板目	AI類	
W307	P4-W1023-②	490図	P4区		Ⅴ層	斎串	15.0	1.5	0.5		板目	AI類	
W308	P4-W1023-③	490図	P4区		Ⅴ層	斎串	△ 14.3	0.9	0.55		板目	E類？	
W309	P4-W1023-①	490図	P4区		Ⅴ層	斎串	13.1	1.0	0.9		板目	E類？	
W310	W7-224	491図	7区	条里１４・１５	盛土内	人形	△ 14.7	△ 1.8	0.5		板目	IA型式	
W311	W7-176	491図	7区	条里１５	盛土内	人形	△ 16.7	△ 2.4	0.8	スギ	板目	IVA型式	
W312	W7-92	491図	7区	条里１５	盛土内	人形	△ 15.7	2.6	0.6		板目	IVA型式	
W313	W7-618	491図	7区	条里１５	盛土内	人形	△ 20.5	2.9	0.7		板目	ⅡA型式	
W314	W7-574	491図	7区	条里１４	盛土内	人形	△ 24.2	3.8	0.6		板目	IV類	
W315	W7-591	491図	7区	条里１４	盛土内	人形	△ 14.9	5.0	0.55	スギ	板目	IV類	
W316	W7-207	491図	7区	盛土６	盛土内	人形	△ 13.8	2.7	0.4		板目	IA型式	
W317	W7-244	491図	7区	条里１４	盛土内	人形	△ 43.7	5.3	0.85		板目	VB型式	
W318	W7-498	491図	7区	盛土６	盛土内	馬形	17.3	3.5	0.3	スギ	板目	ⅢDd型式	
W319	W7-103	492図	7区	条里１４・１５	盛土内	人形	△ 18.2	2.2	0.7		板目	IA型式	
W320	W7-20	492図	7区	条里１４・１５	盛土下層	馬形	19.8	3.7	1.0		板目	IAb型式	
W321	W7-75	492図	7区	条里１４・１５	盛土内	馬形	17.7	2.0	0.4		板目	ⅡBc型式	
W322	W7-56-①	492図	7区	条里１４・１５	盛土内	馬形	13.3	2.3	0.7		板目	ⅡBa型式	
W323	W7-124	492図	7区		Ⅳ層	斎串	△ 17.6	2.7	0.2	スギ	板目	AI類	
W324	W7-160	492図	7区		Ⅳ層相当	斎串	△ 21.6	1.7	0.7		板目	AI類	
W325	W7-78	492図	7区	条里１４・１５	盛土内	人形	△ 15.25	△ 1.8	0.4		板目	不明	墨痕あり
W326	W7-77	492図	7区	条里１４・１５	盛土内	人形	△ 24.4	△ 2.7	0.7		板目	不明	墨痕あり
W327	W7-9	493図	7区		Ⅳ層	人形	△ 13.1	3.6	1.0	スギ	板目	IVA型式	
W328	W7-296	493図	7区		Ⅳ層	人形	△ 22.7	4.9	0.6		板目	IA型式	
W329	W7-334	493図	7区		Ⅳ層	馬形	15.8	2.7	0.7	スギ	板目	ⅡAa型式	
W330	W7-157	493図	7区		Ⅳ層	馬形	12.7	2.4	0.6		板目	ⅡBa型式	
W331	W7-93	493図	7区		Ⅳ層	馬形	13.1	2.35	0.55		板目	ⅡBa型式	
W332	W7-323	493図	7区		Ⅳ層	馬形	21.5	5.9	1.1	スギ	板目	ⅡBa型式	
W333	W7-481	493図	7区		Ⅳ層	馬形	15.8	2.8	0.5		板目	ⅡBc型式	
W334	W7-48	493図	7区		Ⅳ層	馬形	16.4	4.0	0.8		板目	ⅡBc型式	
W335	P5-W456	494図 PL119	P5区	条里１４	盛土内	人形	△ 36.3	5.5	0.9		板目	IA型式	女性像、墨痕あり
W336	P5-W613	494図 PL123	P5区	条里１４	盛土内	人形	△ 23.45	4.4	0.7		板目	IVA型式	
W337	P5-W303	494図 PL126	P5区	条里１４	盛土内	人形	△ 12.7	△ 2.6	△ 0.7		板目	IV類	墨痕あり
W338	P5-W125	494図	P5区	条里１４	盛土内	人形	△14.0	3.7	0.5		板目	IV類	
W339	P5-W484	494図	P5区	条里１４	盛土内	人形	△ 9.7	3.7	0.6		板目	不明	
W340	P5-W456	494図	P5区	条里１４	盛土内	馬形	17.7	3.3	1.0		板目	ⅡBa型式	
W341	P5-W454	494図	P5区	条里１４	盛土内	馬形	14.1	2.1	0.7		板目	ⅡAa型式	
W342	P5-W297	494図	P5区	条里１４	盛土内	馬形	18.2	2.6	1.0		板目	ⅡBb型式	
W343	P5-W813	494図	P5区	条里１４	盛土内	不明品	36.9	5.0	2.1		板目		

表53　木製祭祀具観察表（８）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W344	P5-W455①	494図	P5区	条里１４	盛土内	舟形	19.0	4.0	0.8		板目	平面舟形A類	
W345	P5-W306	495図	P5区	条里１５	盛土内	人形	△ 36.2	3.45	0.4		板目	IVA型式	
W346	P5-W752	495図PL121	P5区	条里１５	盛土内	人形	△ 31.2	△ 4.5	△ 1.0		板目	IA型式	
W347	P5-W438	495図	P5区	条里１５	盛土内	人形	△ 23.3	3.7	0.5		板目	IVA型式	
W348	P5-W301	495図PL125	P5区	条里１５	盛土内	人形	△ 13.5	△ 4.4	△ 0.7		板目	IV類	
W349	P5-W302	495図	P5区	条里１５	盛土内	馬形	△ 12.4	2.9	0.9		板目	不明	
W350	P5-W300	495図	P5区	条里１５	盛土内	馬形	△ 16.7	△ 3.7	△ 0.75		板目	ⅢDc型式	
W351	P5-W751	496図	P5区	条里１４・１５	盛土内	人形	△ 37.0	5.0	0.8		板目	IA型式	
W352	P5-W257	496図	P5区	条里１４・１５	盛土内	人形	△ 21.9	4.2	0.4		板目	IA型式	
W353	P5-W290	496図PL121	P5区	条里１４・１５	盛土内	人形	△ 30.1	3.6	0.5		板目	IA型式	
W354	P5-W320	496図PL123	P5区	条里１４・１５	盛土内	人形	△ 34.3	3.5	0.7		柾目	IVB型式	
W355	P5-W320	496図	P5区	条里１４・１５	盛土内	人形	△ 11.1	3.8	0.6		板目	IV類	
W356	P5-W290	496図	P5区	条里１４・１５	盛土内	人形	△ 11.6	3.8	0.5		板目	IV類	
W357	P5-W472	496図	P5区	条里１４・１５	盛土内	人形	△ 11.3	3.0	0.5		板目	IV類	
W358	P5-W709	496図	P5区	条里１４・１５	盛土内	人形	△ 10.1	△ 2.5	△ 0.6		板目	IV類	
W359	P5-W687	496図	P5区	条里１４・１５	盛土内	馬形	△ 26.5	△ 5.9	△ 1.0		板目	ⅡDa型式	
W360	P5-W462	496図	P5区	条里１４・１５	盛土内	馬形	33.2	6.55	1.9		板目	ⅠAa型式	
W361	P5-W472	496図	P5区	条里１４・１５	盛土内	馬形	17.1	2.7	0.6		板目	ⅡAa型式	
W362	P5-W709	496図	P5区	条里１４・１５	盛土内	馬形	13.5	2.1	0.7		板目	ⅡBa型式	
W363	P5-W481	496図	P5区	条里１４・１５	盛土内	馬形	18.2	3.0	0.5		板目	ⅡBa型式	
W364	P5-W630	496図	P5区	条里１４・１５	盛土内	舟形	32.3	4.9	4.7		柾目	立体舟形A類	
W365	P5-W483	497図	P5区	盛土９	盛土内	人形	14.5	3.2	0.9		板目	IA型式	
W366	P5-W334-②	497図PL125	P5区	盛土９	盛土内	人形	△ 10.75	△ 3.1	△ 0.6		板目	不明	
W367	P5-W334-①	497図	P5区	盛土９	盛土内	人形	△ 8.3	△ 2.7	△ 0.5		柾目	不明	
W368	P5-W271	497図	P5区	盛土７	盛土内	馬形	12.35	2.5	0.7		板目	ⅡAa型式	
W369	P5-W736	497図	P5区	盛土７	盛土内	馬形	17.2	2.0	0.7		板目	ⅡDa型式	
W370	P5-W491	497図	P5区	盛土９	盛土最下層	馬形	15.4	2.0	0.8		柾目	ⅡBa型式	
W371	P5-W503	497図	P5区	盛土９	盛土内	斎串	△ 14.4	3.2	0.5		板目	CⅠ類	
W372	P5-W103	498図	P5区		Ⅳ層	人形	△ 17.25	△ 2.5	△ 0.5		板目	IA型式	
W373	P5-W131	498図	P5区		Ⅳ層	人形	24.5	3.2	0.6		板目	ⅢA型式	
W374	P5-W105	498図	P5区		Ⅳ層	馬形	13.05	2.0	0.4		板目	ⅡBa型式	
W375	P5-W492	498図	P5区		Ⅳ層	馬形	13.3	2.6	0.5		板目	ⅡBc型式	
W376	P6-W468	499図	P6区	盛土１１	盛土内	人形	74.6	4.8	0.7		板目	IVA型式	
W377	P6-W469	499図	P6区	盛土１１	盛土内	人形	75.1	5.4	0.5		板目	IVA型式	
W378	P6-W470	499図	P6区	盛土１１	盛土内	人形	73.4	4.8	0.5		板目	IVA型式	
W379	P6-W543	499図PL123	P6区	盛土１１	盛土内	人形	△ 34.0	△ 5.9	△ 0.9		板目	IVA型式	
W380	P6-W473	499図	P6区	盛土１１	盛土内	人形	24.5	4.3	0.5		板目	IVB型式	
W381	P6-W630	499図	P6区	盛土１１	盛土内	馬形	22.8	△ 4.4	△ 0.5		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	墨書あり
W382	P6-W802	499図	P6区	盛土１１	盛土内	馬形	16.0	△ 3.2	0.6		板目	ⅡAa型式	
W383	P6-W815	499図PL128	P6区	盛土１１	盛土内	馬形	15.8	△ 3.2	1.0		板目	ⅡAa型式	
W384	P6-W508	499図	P6区	盛土１１	盛土内	馬形	15.7	4.2	0.5		板目	ⅡDa型式	
W385	P6-W769	499図	P6区	盛土１１	盛土内	舟形	28.0	4.6	1.0		板目	平面舟形A類	
W386	P6-W695	499図	P6区	盛土１１	盛土内	斎串	△ 23.7	1.4	0.7		板目	AⅡ類	
W387	P6-W821	499図	P6区	盛土１１	盛土内	刀形	30.3	1.9	0.5		板目	AⅡ類	
W388	P6-W490	499図	P6区	盛土１１	盛土内	斎串	32.9	1.2	0.6		板目	BⅠ類	
W389	P6-W369	499図	P6区	盛土１１	盛土内	斎串	△ 25.7	1.3	0.4		板目	E類	
W390	P6-W800	499図	P6区	盛土１１	盛土内	斎串	△ 17.9	△ 1.5	△ 0.8		板目	不明	
W391	P6-W181	499図	P6区	盛土１１	盛土内	琴柱	4.8	1.3	0.4		板目		
W392	P6-W605	500図	P6区	条里１６	盛土内	馬形	15.6	2.5	0.6		板目	ⅡBa型式	

表54　木製祭祀具観察表（9）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W393	P6-W528	500図	P6区	条里１６	盛土内	馬形	16.1	3.3	0.8		板目	ⅡAa型式	
W394	P6-W1041	500図	P6区	条里１６	盛土内	馬形	18.8	△ 2.9	1.0		板目	ⅠAa型式	
W395	P6-W1076	500図	P6区	条里１６	盛土内	馬形	12.8	2.1	0.5		板目	ⅡAa型式	
W396	P6-W299	500図	P6区	条里１６	盛土内	馬形	20.3	3.9	1.0		板目	ⅢDc型式	
W397	P6-W572	500図	P6区	条里１６	盛土内	舟形	16.0	2.3	2.0		板目	立体舟形A類	
W398	P6-W762	500図	P6区	条里１６	盛土内	斎串	△ 30.5	2.2	0.4		板目	不明	
W399	P6-W175	500図	P6区	条里１６	盛土内	斎串	16.8	1.4	0.4		板目	AI類	
W400	P6-W205	501図	P6区	盛土１４	盛土内	人形	△ 12.7	△ 3.6	△ 0.6		板目	Ⅰ類	
W401	P6-W1035	501図	P6区	盛土１５	盛土内	人形	△ 21.7	2.0	1.4		板目	不明	
W402	P6-W852	501図	P6区	盛土１５	盛土内	斎串	17.9	2.0	0.4		板目	B類	
W403	P6-W691	501図	P6区	盛土１４	盛土内	斎串	32.4	1.3	0.45		板目	E類	
W404	P6-W253	501図 PL128	P6区	盛土１４	盛土内	馬形	15.3	2.8	0.4		板目	ⅡAa型式	
W405	P6-W1015	501図	P6区	盛土１５	盛土内	馬形	15.0	2.2	0.9		板目	ⅡAa型式	
W406	P6-W749	502図	P6区	盛土１７	盛土内	馬形	22.2	2.7	0.8		板目	ⅡAa型式	
W407	P6-W1049	503図 PL119	P6区	河道６	上層	人形	31.3	4.8	0.5		板目	ⅠA型式	
W408	P6-W1111	503図 PL125	P6区	河道６	最上層	人形	△ 41.4	9.2	2.5		板目	不明	
W409	P6-W1009	503図	P6区	河道６	最上層	馬形	14.8	2.8	0.9		板目	ⅡCa型式	
W410	P6-W1000	503図	P6区	河道６	最上層	農具形	23.0	2.0	0.6		板目		エブリ形？
W411	P6-W1116	503図 PL133	P6区	河道６	最上層	武器形	△ 50.3	1.6	0.4		板目		
W412	P6-W1002	503図	P6区	河道６	最上層	刀形	35.9	1.9	0.6		板目	AI類	
W413	P6-W1005	503図	P6区	河道６	最上層	斎串	△ 50.5	2.4	0.5		板目	BⅢ類	
W414	P6-W36	504図 PL120	P6区		Ⅲ～Ⅳ層	人形	△ 19.7	3.6	0.4		板目	IA型式	
W415	P6-W141	504図	P6区		Ⅳ層	人形	△ 19.7	2.5	0.6		板目	IA型式	
W416	P6-W29	504図 PL129	P6区		Ⅳ～Ⅴ層	馬形	15.7	2.3	1.0		板目	ⅡBa型式	
W417	P6-W137	504図	P6区		Ⅳ層	馬形	15.4	2.1	1.1		板目	ⅡAa型式	
W418	P6-W937	504図	P6区		Ⅲ～Ⅳ層	舟形	△ 23.6	2.5	1.4		板目	立体舟形B類	
W419	P6-W757	504図 PL134	P6区		Ⅳ層	斧形	8.6	2.9	0.4		板目		
W420	P6-W90	504図	P6区		Ⅵ～Ⅴ層	斎串	△ 11.9	1.7	0.6		板目	CⅠ類	
W421	P6-W143	504図	P6区		Ⅳ層	斎串	△ 13.9	2.9	0.7		板目	CⅠ類	
W422	P6-W735	504図	P6区		Ⅳ層	斎串	△ 17.0	2.0	0.7		板目	BⅢ類	
W423	P6-W116	504図	P6区		Ⅳ層	斎串	△ 22.35	2.1	0.9		板目	BⅢ類	
W424	P6-W756	504図	P6区		Ⅳ層	斎串	29.3	3.1	0.6		板目	BⅢ類	
W425	P6-W786	505図 PL120	P6区		Ⅴ層	人形	△ 25.5	△ 5.8	0.7		板目	IA型式	
W426	P6-W907	505図	P6区		Ⅴ層	斎串	△ 34.2	△ 1.8	△ 0.4		板目	BⅢ類	
W427	P6-W940	505図	P6区		Ⅴ層	斎串	△ 42.0	2.6	0.8		板目	BⅢ類	
W428	P6-W247	505図	P6区		Ⅴ層	馬形	17.15	△ 2.8	△ 0.7		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	
W429	P6-W701	505図 PL128	P6区		Ⅴ層	馬形	31.8	4.0	1.1		板目	ⅡAa型式	
W430	P7-W189	506図	P7区	道路1	盛土内	人形	△ 35.5	△ 4.0	△ 0.9		板目	IVA型式	
W431	P7-W236	506図	P7区	道路1	盛土内	人形	△ 28.0	△ 2.9	△ 0.6		板目	IVA型式	
W432	P7-W143	506図 PL121	P7区	道路1	盛土内	人形	19.4	△ 1.3	△ 0.5		板目	IVA型式	
W433	P7-W143	506図	P7区	道路1	盛土内	人形	△ 11.7	△ 3.3	△ 0.8		板目	IA型式	
W434	P7-W191	506図	P7区	道路1	盛土内	馬形	14.9	2.2	0.8		板目	ⅡAa型式	
W435	P7-W134	506図 PL129	P7区	道路1	盛土内	馬形	19.7	3.15	0.7		板目	ⅡBa型式	
W436	P7-W143	506図 PL129	P7区	道路1	盛土内	馬形	13.8	1.8	0.8		板目	ⅡBc型式	
W437	P7-W284	506図 PL129	P7区	道路1	盛土内	馬形	12.3	2.0	0.8		板目	ⅡAc型式	
W438	P7-W39	506図	P7区	道路1	盛土内	馬形	18.3	△ 3.9	△ 0.9		板目	ⅡBa型式	
W439	P7-W171	506図	P7区	道路1	盛土内	馬形	21.0	3.8	0.8		板目	ⅡBa型式	
W440	P7-W136	506図	P7区	道路1	盛土内	馬形	16.6	3.7	0.5		板目	ⅢBa型式	
W441	P7-W143	506図	P7区	道路1	盛土内	鳥形	11.5	3.95	1.0		板目		

表55　木製祭祀具観察表(10)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W442	P7-W253	506図	P7区	道路1	盛土内	武器形	△ 17.5	1.2	0.4		板目		槍形、もしくは矛形
W443	P7-W169	506図PL133	P7区	道路1	盛土内	武器形	△ 21.8	1.0	0.4		板目		槍形、もしくは矛形
W444	P7-W79	507図	P7区	道路1道路外盛土	盛土内	人形	△ 17.1	3.5	0.5		板目	IVA型式	
W445	P7-W61	507図	P7区	道路1道路外盛土	盛土内	人形	△ 10.3	△ 2.3	△ 0.6		板目	IA型式	墨書あり
W446	P7-W117	507図	P7区	条里２０	盛土内	人形	△ 31.7	4.5	0.8		板目	IA型式	
W447	P7-W57	507図PL127	P7区	道路1道路外盛土	盛土内	馬形	21.7	3.4	0.8		板目	ⅢBd型式	
W448	P7-W1013	507図	P7区	条里２０	盛土内	不明形代	15.1	2.8	0.5		板目		
W449	P7-W836	508図	P7区	溝８	下層	人形	18.0	△ 2.6	△ 0.7		板目	IA型式	
W450	P7-W604	508図PL120	P7区	溝８	下層	人形	△ 14.5	△ 2.8	△ 0.7		板目	IA型式	
W451	P7-W493	508図PL122	P7区	溝８	下層	人形	△ 15.3	1.9	0.4		板目	IA型式	
W452	P7-W548	508図PL124	P7区	溝８	下層	人形	7.9	1.5	0.3		板目	不明	
W453	P7-W734	508図	P7区	溝８	上層	人形	△ 16.2	△ 3.9	△ 0.8		板目	IA型式	
W454	P7-W367	508図	P7区	溝８	上層	人形	△ 15.1	3.3	0.6		板目	IV類	
W455	P7-W361	508図PL123	P7区	溝８	上層	人形	△ 13.75	2.8	0.7		板目	IV類	
W456	P7-W359	508図PL125	P7区	溝８	上層	人形	△ 12.3	4.0	0.7		板目	IV類	
W457	P7-W370	508図PL123	P7区	溝８	上層	人形	△ 29.9	4.4	0.7		板目	IVA型式	
W458	P7-W545	508図PL127	P7区	溝８	下層	馬形	△ 20.0	3.4	1.0		板目	ⅡAa型式	
W459	P7-W455	508図	P7区	溝８	上層	馬形	20.0	3.1	0.6		板目	ⅡBa型式	
W460	P7-W375	508図	P7区	溝８	上層	馬形	21.3	3.5	0.7		板目	ⅡDc型式	
W461	P7-W556	508図	P7区	溝８	下層	馬形	△ 15.8	△ 4.3	△ 0.65		板目	ⅢDd型式	
W462	P7-W827	508図	P7区	溝８	下層	馬形	△ 8.8	2.2	0.5		板目	不明	
W463	P7-W581	508図	P7区	溝８	下層	舟形	27.8	3.6	2.2		板目	立体舟形C類	
W464	P7-W684	509図PL120	P7区	盛土２０	盛土内	人形	10.7	1.9	0.3		柾目	IA型式	
W465	P7-W653	509図PL124	P7区	河道６	上層	人形	△ 11.1	2.7	0.5		板目	IA型式	
W466	P7-W1146	509図	P7区	河道６	上層	人形	△ 20.0	△ 4.25	△ 0.9		板目	不明	
W467	P7-W725	509図	P7区	河道６	上層	馬形	14.8	2.9	0.6		板目	ⅡAa型式	
W468	P7-W1129	509図	P7区	河道６	上層	馬形	17.3	3.3	0.9		板目	ⅡAa型式	
W469	P7-W1120	509図	P7区	河道６	上層	斎串	36.7	1.9	0.4		板目	BⅢ類	
W470	P7-W763	509図	P7区	河道６	上層	斎串	△ 41.3	1.9	0.4		板目	BⅠ類？	
W471	P7-W741	509図	P7区	河道６	上層	舟形	25.9	4.2	1.4		柾目	立体舟形A類	
W472	P7-W2	510図	P7区		Ⅳ層	人形	△ 9.9	2.4	0.4		板目	IA型式	
W473	P7-W15	510図PL124	P7区		Ⅳ層	人形	9.3	△ 3.4	△ 0.8		板目	不明	
W474	P7-W699	510図PL119	P7区		Ⅴ層	人形	△ 13.8	△ 1.9	△ 0.4		板目	IVA型式	
W475	P7-W619	510図PL124	P7区		Ⅴ層	人形	17.3	3.0	0.6		板目	IA型式	
W476	P7-W25	510図	P7区		Ⅳ層	馬形	18.0	4.1	0.9		板目	不明	
W477	P7-W698	510図	P7区		Ⅴ層	馬形	16.9	1.9	0.6		板目	ⅡAa型式	
W478	P7-W714	510図PL127	P7区		Ⅴ層	馬形	15.7	1.9	0.8		板目	ⅡBa型式	
W479	P7-W293	510図	P7区		Ⅴ層	動物形	△ 18.4	2.7	0.3		板目		蛇形か？
W480	P7-W237	510図PL134	P7区		不明	エブリ形	△ 15.5	2.6	1.0		板目		
W481	P7-W622	510図PL134	P7区		Ⅴ層	斎串	18.2	1.6	0.5		板目	ＡⅠ類	
W482	P7-W665	510図	P7区		Ⅴ層	斎串	10.0	1.5	0.3		板目	ＡⅠ類	
W483	P8-W565	511図PL123	P8区	道路１	盛土内	人形	△ 31.2	4.0	0.7		板目	IA型式	
W484	P8-W185	511図PL126	P8区	道路１	盛土下層	人形	△ 11.4	5.0	0.65		板目	IV類	墨書あり
W485	P8-W188	511図PL126	P8区	道路１	盛土下層	人形	△ 12.5	4.7	0.6		板目	IV類	墨書あり
W486	P8-W189①	511図	P8区	道路１	盛土下層	人形	△ 12.9	3.85	0.8		板目	IV類	
W487	P8-W149	511図	P8区	道路１	盛土中層	人形	△ 11.8	4.2	0.7		板目	IV類	
W488	P8-W189	511図	P8区	道路１	盛土下層	人形	△ 17.6	5.2	0.6		板目	IV類	
W489	P8-W189②	511図	P8区	道路１	盛土下層	人形	△ 11.3	△ 3.3	0.6		板目	IV類	
W490	P8-W186	511図PL119	P8区	道路１	盛土下層	人形	△ 19.9	1.9	0.45		板目	IA型式	

表56　木製祭祀具観察表(11)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W491	P8-W235	511図	P8区	道路１	盛土最下層	牛形	△ 14.4	2.0	0.7		板目		
W492	P8-W85	512図	P8区	条里２２	盛土内	人形	△ 14.2	2.4	0.5		板目	ⅣA型式	
W493	P8-W115	512図	P8区	条里２２	盛土下層	人形	△ 10.6	5.9	0.5		板目	不明	墨痕あり
W494	P8-W73	512図	P8区	条里２１	盛土内	馬形	14.4	2.1	0.9		柾目	ⅡBa型式	
W495	P8-W102	512図 PL130	P8区	条里２２	盛土下層	馬形	△ 23.15	5.6	1.2		板目	ⅢBa型式	
W496	P8-W97	512図	P8区	条里２２	盛土下層	人形	△ 8.0	1.2	0.4		板目	不明	墨の表現あり
W497	P8-W287	513図	P8区	溝１０	下層	人形	△ 15.3	1.7	0.35		板目	IA型式	
W498	P8-W309	513図	P8区	溝１０	下層	人形	△ 17.8	2.9	0.5		板目	Ⅰ類	
W499	P8-W274	513図	P8区	溝１０	上層	斎串	△ 23.3	△ 2.9	△ 0.6		板目	BⅢ類	
W500	P8-W288	513図	P8区	溝１０	下層	馬形	17.0	3.2	0.55		板目	ⅡAa型式	
W501	P8-W299	513図	P8区	溝１０	上層	馬形	18.3	4.5	0.6		板目	ⅢDa型式	
W502	P8-W276	513図	P8区	溝１０	上層	舟形	16.0	2.7	1.8		柾目	立体舟形C類	
W503	P8-W551	514図 PL122	P8区		Ⅳ層	人形	△ 13.1	△ 4.9	0.4		板目	ⅡA型式	
W504	P8-W346	514図	P8区		Ⅳ層	人形	△ 10.1	2.6	0.5		板目	Ⅰ類	
W505	P8-W6	514図 PL121	P8区		Ⅳ層	人形	△ 22.7	5.0	0.8		板目	IA型式	墨書あり
W506	P8-W25	514図 PL125	P8区		Ⅳ層	人形	△ 18.2	4.2	0.4		板目		側面人形　墨書痕あり
W507	P8-W13	514図	P8区		Ⅳ層	斎串	23.7	1.5	0.6		板目	BⅢ類	
W508	P8-W301	514図 PL134	P8区		Ⅳ層	斎串	22.6	1.5	0.5		板目	BⅢ類	
W509	P8-W323	515図 PL122	P8区		Ⅴ層	人形	18.0	2.7	0.5		板目	ⅢA類	
W510	P8-W407	515図	P8区		Ⅶ層	人形	△ 11.6	3.2	0.7		板目	Ⅳ類	
W511	P8-W183	515図	P8区		不明	人形	△ 11.2	5.1	0.7		板目	Ⅳ類	墨書あり
W512	P8-W257	515図 PL125	P8区		Ⅴ層	人形	△ 11.15	△ 4.0	0.8		板目		側面人形　墨書あり
W513	P8-W376	515図	P8区		Ⅵ層	馬形	19.7	3.6	0.7		板目	ⅡAa型式	
W514	P8-W478	515図 PL133	P8区		Ⅶ層	エブリ形	11.0	1.95	0.5		板目		
W515	W5-170	516図	5区		Ⅳ～Ⅴ層	人形	△ 14.6	5.0	0.7		板目	IA型式	顔の表現
W516	W5-87	516図	5区		Ⅳ～Ⅴ層	馬形	17.2	2.9	0.5	スギ	板目	ⅡBa型式	墨書あり
W517	W5-155	516図	5区	条里２５	盛土	馬形	17.0	4.6	0.7	スギ	板目	ⅡAa型式	
W518	W5-88	516図	5区		Ⅳ～Ⅴ層	馬形	18.2	3.5	0.5		板目	ⅡBc型式	
W519	W5-81	516図	5区		Ⅳ～Ⅴ層	舟形	19.1	4.0	2.2		板目	立体舟形A類	
W520	W5-127	516図	5区		Ⅳ～Ⅴ層	舟形	37.1	5.9	2.3		板目	立体舟形A類	
W521	W5-108	516図	5区		Ⅳ～Ⅴ層	刀形	22.3	1.4	0.5	スギ	板目	AⅡ類	
W522	W5-130	516図	5区		Ⅳ～Ⅴ層	斎串	△ 27.0	2.7	0.5		板目	AⅠ類	
W523	W5-108	516図	5区		Ⅳ～Ⅴ層	斎串	29.8	1.0	0.7		板目	E類	
W524	W5-38	516図	5区		Ⅳ～Ⅴ層	斎串	29.5	1.3	0.6	スギ	板目	E類	
W525	W5-38	516図	5区		Ⅳ～Ⅴ層	斎串	29.1	1.0	0.5	スギ	板目	E類	
W526	W5-39	516図	5区		Ⅳ～Ⅴ層	斎串	△ 28.7	0.9	0.65	スギ	柾目	E類	
W527	W5-96	516図	5区		Ⅳ～Ⅴ層	斎串	49.2	2.8	0.7	スギ	柾目	BⅢ類	
W528	P9-W146	517図	P9区	道路１	盛土内	人形	△ 6.7	1.8	0.4		板目	Ⅰ類	
W529	P9-W361	517図	P9区	道路１	盛土内	人形	△ 9.7	2.9	0.6		板目	Ⅳ類	
W530	P9-W336	517図	P9区	道路１	盛土内	人形	△ 17.4	3.85	1.0		板目	Ⅳ類	
W531	P9-W147	517図	P9区	道路１	盛土内	馬形	15.05	1.9	0.7		板目	ⅠAa型式	
W532	P9-W599	517図	P9区	道路１	盛土内	馬形	16.2	2.9	0.6		板目	ⅡBa型式	
W533	P9-W262	517図 PL130	P9区	道路１	盛土内	馬形	17.6	2.7	0.7		板目	ⅢDa型式	
W534	P9-W360	517図	P9区	道路１	盛土内	舟形	34.3	5.7	2.3		柾目	立体舟形A類	
W535	P9-W419	517図	P9区	道路１	盛土内	舟形	23.8	3.3	0.55		板目	平面舟形A類	
W536	P9-W534	517図 PL134	P9区	道路１	盛土内	勾玉形	6.7	3.4	0.5		板目		
W537	P9-W380	517図	P9区	道路１	盛土内	斎串	24.1	0.9	0.5		柾目	E類	
W538	P9-W361	517図	P9区	道路１	盛土内	斎串	19.8	1.7	0.5		板目	AⅠ類	
W539	P9-W388	517図	P9区	道路１	盛土内	斎串	16.5	1.2	0.3		板目	AⅠ類	

表57　木製祭祀具観察表(12)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W540	P9-W384	517図	P9区	道路１	盛土内	斎串	△ 18.3	2.4	0.6		板目	ＣⅠ類	
W541	P9-W342	517図	P9区	道路１	盛土内	斎串	18.4	1.9	0.3		板目	B類	
W542	P9-W361	517図	P9区	道路１	盛土内	剣形	△ 40.1	2.5	0.9		板目		
W543	P9-W232	518図	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	人形	△ 20.3	3.5	0.6		板目	ⅣA型式	
W544	P9-W73	518図PL126	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	人形	18.0	3.1	0.6		板目	不明	墨書あり
W545	P9-W106	518図	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	人形	△ 10.4	3.1	0.6		板目	Ⅳ類	
W546	P9-W351	518図	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	斎串	△ 11.1	1.5	0.4		板目	BⅢ類	
W547	P9-W281	518図	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	斎串	21.1	1.3	0.3		板目	BⅡ類	
W548	P9-W203	518図	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	斎串	25.7	1.8	△ 0.55		板目	BⅡ類	
W549	P9-W228③	518図	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	斎串	27.4	1.0	0.55		板目	E類	
W550	P9-W228①	518図	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	斎串	28.5	1.0	0.5		板目	E類	
W551	P9-W228②	518図	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	斎串	28.0	1.0	0.5		板目	E類	
W552	P9-W96	518図	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	不明形代	23.9	2.1	0.8		板目	不明	
W553	P9-W270	518図PL128	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	馬形	22.4	2.4	0.6		板目	ⅡAa型式	
W554	P9-W191	518図	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	馬形	19.3	3.9	0.7		板目	ⅡDc型式	
W555	P9-W244	518図	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	舟形	22.1	2.9	1.0		板目	平面舟形A類	
W556	P9-W28	518図	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	舟形	25.1	4.1	1.0		板目	平面舟形A類	
W557	P9-W228	518図PL134	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	舟形	12.1	1.4	0.8		板目	立体舟形A類	
W558	P9-W154	518図	P9区	道路1道路外盛土	盛土内	斎串	△ 20.7	2.2	0.7		板目	不明	
W559	P9-W14	519図PL119	P9区	条里２５	盛土内	人形	25.7	4.1	0.55		板目	ⅡB型式	
W560	P9-W23	519図	P9区	条里２５	盛土内	人形	△ 9.9	△ 2.55	△ 0.35		板目	Ⅰ類	
W561	P9-W494	519図	P9区	条里２５	盛土内	馬形	△ 14.2	2.5	0.55		板目	ⅡBa型式	
W562	P9-W554	520図PL122	P9区	河道６	最上層	人形	△ 8.5	2.0	0.5		板目	ⅣA型式	
W563	P9-W653	520図	P9区	河道６	上層	人形	△ 9.2	2.6	0.4		板目	ⅣA型式	
W564	P9-W584	520図	P9区	河道６	最上層	人形	△ 15.7	3.7	0.6		板目	ⅡA型式	
W565	P9-W627	520図PL119	P9区	河道６	最上層	人形	△ 16.4	3.5	0.5		板目	ⅡA型式	
W566	P9-W613	520図PL122	P9区	河道６	最上層	人形	△ 18.8	4.2	0.7		板目	ⅡA型式	
W567	P9-W596	520図PL122	P9区	河道６	最上層	人形	△ 29.9	6.2	1.0		板目	ⅡA型式	
W568	P9-W608	520図	P9区	河道６	上層	馬形	15.5	2.6	0.6		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	
W569	P9-W626	520図	P9区	河道６	最上層	馬形	15.5	2.6	0.5		板目	ⅡBa型式	
W570	P9-W639	520図	P9区	河道６	上層	馬形	17.2	2.0	0.6		板目	ⅡBa型式	
W571	P9-W464	520図	P9区	河道６	最上層	舟形	17.15	3.2	1.4		板目	平面舟形BⅠ類	
W572	P9-W437	520図	P9区	河道６	上層	斎串	32.0	2.2	0.3		板目	BⅢ類	
W573	P9-W611	520図	P9区	河道６	上層	刀形	△ 25.2	1.4	0.5		板目	AⅡ類	
W574	P9-W643①	520図	P9区	河道６	最上層	斎串	△ 27.2	1.0	0.5		板目	E類	
W575	P9-W643②	520図	P9区	河道６	最上層	斎串	17.6	0.7	0.6		板目		
W576	P9-W615	520図	P9区	河道６	上層	斎串	17.7	1.9	0.4		板目	ＡⅠ類	
W577	P10-W1882	521図PL119	P10区	道路１	第１次盛土	人形	19.1	△ 1.6	0.25		板目	ⅣA型式	敷葉・敷粗朶層
W578	P10-W1702	521図PL119	P10区	道路１	第１次盛土	人形	19.8	1.9	0.4		板目	ⅣA型式	敷葉・敷粗朶層
W579	P10-W1705	521図PL119	P10区	道路１	第１次盛土	人形	△ 13.4	1.9	0.4		板目	ⅣA型式	敷葉・敷粗朶層
W580	P10-W538	521図PL124	P10区	道路１	第１次盛土	人形	18.0	1.8	0.3		板目	不明	敷葉・敷粗朶層
W581	P10-W970	521図	P10区	道路１	第１次盛土	人形	△ 12.9	1.8	0.6		板目	ⅣA型式	敷葉・敷粗朶層
W582	P10-W642	521図PL120	P10区	道路１	第１次盛土	人形	14.1	2.8	0.5		板目	IA型式	敷葉・敷粗朶層
W583	P10-W707	521図	P10区	道路１	第１次盛土	人形	△ 8.2	2.0	0.4		板目	IA型式	敷葉・敷粗朶層
W584	P10-W825	521図	P10区	道路１	第１次盛土	人形	△ 8.3	2.2	0.3		板目	ⅣA型式	敷葉・敷粗朶層
W585	P10-W829	521図	P10区	道路１	第１次盛土	人形	△ 5.6	2.2	0.6		板目	ⅣA型式	敷葉・敷粗朶層
W586	P10-W873	521図	P10区	道路１	第１次盛土	人形	△ 4.8	2.0	0.3		板目	ⅣA型式	敷葉・敷粗朶層
W587	P10-W834	521図	P10区	道路１	第１次盛土	人形	△ 5.0	2.5	0.4		板目	ⅣA型式	敷葉・敷粗朶層
W588	P10-W918	521図PL129	P10区	道路１	第１次盛土	馬形	11.8	1.8	0.4		板目	ⅡBa型式	敷葉・敷粗朶層

表58　木製祭祀具観察表(13)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W589	P10-W646	521図	P10区	道路1	第1次盛土	馬形	12.1	2.0	0.35		板目	ⅡBa型式	敷葉・敷粗朶層
W590	P10-W1732①	521図	P10区	道路1	第1次盛土	馬形	12.7	2.1	0.6		板目	ⅡBa型式	最下層
W591	P10-W647	521図	P10区	道路1	第1次盛土	馬形	11.85	2.1	0.6		板目	ⅡBa型式	敷葉・敷粗朶層
W592	P10-W1732②	521図	P10区	道路1	第1次盛土	馬形	12.5	1.6	0.5		板目	ⅡBa型式	最下層
W593	P10-W663	521図	P10区	道路1	第1次盛土	馬形	13.15	2.3	0.4		板目	ⅡBa型式	敷葉・敷粗朶層
W594	P10-W1706	521図	P10区	道路1	第1次盛土	馬形	△11.2	1.9	0.3		板目	ⅡBa型式	敷葉・敷粗朶層
W595	P10-W663	521図	P10区	道路1	第1次盛土	馬形？	10.2	2.1	0.4		板目	ⅡBa型式	敷葉・敷粗朶層
W596	P10-W931	521図	P10区	道路1	第1次盛土	馬形	△11.8	2.4	0.4		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	敷葉・敷粗朶層
W597	P10-W926	521図	P10区	道路1	第1次盛土	馬形	△5.5	2.0	0.5		板目	ⅡBa型式	敷葉・敷粗朶層
W598	P10-W687	521図	P10区	道路1	第1次盛土	馬形	17.2	3.0	0.3		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	敷葉・敷粗朶層
W599	P10-W707	521図	P10区	道路1	第1次盛土	馬形	△11.55	3.0	1.1		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	敷葉・敷粗朶層
W600	P10-W1777	521図	P10区	道路1	第1次盛土	馬形	18.0	3.0	1.0		板目	Ⅰ類	最下層
W601	P10-W683	521図	P10区	道路1	第1次盛土	馬形	17.1	3.0	0.9		板目	ⅡAa類	敷葉・敷粗朶層
W602	P10-W896	521図	P10区	道路1	第1次盛土	刀形	△25.3	1.3	0.4		板目	AⅠ類	敷葉・敷粗朶層
W603	P10-W693-②-1	521図	P10区	道路1	第1次盛土	刀形	21.9	1.7	0.4		板目	AⅠ類	敷葉・敷粗朶層
W604	P10-W693-②-2	521図	P10区	道路1	第1次盛土	刀形	21.7	1.5	0.2		板目	AⅠ類	敷葉・敷粗朶層
W605	P10-W679	521図PL132	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	22.1	1.6	0.5		板目	BⅢ類	敷葉・敷粗朶層
W606	P10-W988	521図PL132	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	△24.0	1.3	0.45		板目	BⅢ類	敷葉・敷粗朶層
W607	P10-W657	521図	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	27.65	1.1	0.35		板目	BⅢ類	敷葉・敷粗朶層
W608	P10-W647	521図PL132	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	27.18	1.15	0.3		板目	BⅡ類	敷葉・敷粗朶層
W609	P10-W705	521図	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	△31.3	1.2	0.6		板目	E類	敷葉・敷粗朶層
W610	P10-W663	521図PL132	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	27.2	0.6	0.5		板目	E類	敷葉・敷粗朶層
W611	P10-W658	521図	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	30.4	1.2	0.45		板目	BⅠ類	敷葉・敷粗朶層
W612	P10-W1002	521図	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	△25.5	1.1	0.5		板目	E類？	敷葉・敷粗朶層
W613	P10-W919	521図PL132	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	24.1	1.7	0.5		板目	CⅠ類	敷葉・敷粗朶層
W614	P10-W1733	521図	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	37.0	1.5	0.6		板目	BⅠ類	最下層
W615	P10-W676	522図	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	△19.8	2.1	0.6		板目	CⅠ類	敷葉・敷粗朶層
W616	P10-W687	522図	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	17.0	1.9	0.4		板目	AⅠ類	敷葉・敷粗朶層
W617	P10-W830	522図	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	△16.0	1.5	0.4		板目	A類	敷葉・敷粗朶層
W618	P10-W1890	522図	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	△4.0	0.6	0.3		板目	E類？	敷葉・敷粗朶層
W619	P10-W1888	522図	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	△10.5	0.5	0.3		板目	E類？	敷葉・敷粗朶層
W620	P10-W1883	522図	P10区	道路1	第1次盛土	斎串	△15.5	1.4	0.8		板目	E類？	敷葉・敷粗朶層
W621	P10-W913	522図	P10区	道路1	第1次盛土	不明形代	△18.7	1.6	0.9		板目		敷葉・敷粗朶層
W622	P10-W525	522図	P10区	道路1	第1次盛土	舟形	37.6	5.0	3.6		柾目	立体舟形B類	敷葉・敷粗朶層
W623	P10-W1775	522図	P10区	道路1	第1次盛土	舟形	29.3	2.85	0.75		板目	平面舟形A類	最下層
W624	P10-W1893	522図PL134	P10区	道路1	第1次盛土	琴柱形	4.4	1.6	0.9		板目		敷葉・敷粗朶層
W625	P10-W1898①	522図PL133	P10区	道路1	第1次盛土	琴柱形	4.6	1.7	0.8		板目		敷葉・敷粗朶層
W626	P10-W1897	522図PL134	P10区	道路1	第1次盛土	琴柱形	4.5	2.1	0.6		板目		敷葉・敷粗朶層
W627	P10-W1898②	522図	P10区	道路1	第1次盛土	琴柱形	△4.2	1.8	0.8		柾目		敷葉・敷粗朶層
W628	P10-W1891①	522図PL133	P10区	道路1	第1次盛土	琴柱形	3.7	1.7	0.5		板目		敷葉・敷粗朶層
W629	P10-W1034	522図	P10区	道路1	第1次盛土	琴柱形	△5.6	1.7	0.3		板目		
W630	P10-W1898③	522図	P10区	道路1	第1次盛土	琴柱形	4.9	△1.0	0.5		柾目		敷葉・敷粗朶層
W631	P10-W1892	522図	P10区	道路1	第1次盛土	琴柱形	4.3	1.0	0.5		板目		敷葉・敷粗朶層
W632	P10-W526	523図PL124	P10区	道路1	盛土内	人形	△7.7	2.5	0.3		板目	不明	
W633	P10-W1014	523図	P10区	道路1	盛土内	人形	△7.7	3.2	0.6		板目	不明	
W634	P10-W1105	523図	P10区	道路1	盛土内	馬形	16.45	4.1	1.1		板目	ⅡBc型式	
W635	P10-W421	523図PL133	P10区	道路1	第4・5次盛土	勾玉形	10.1	3.7	0.4		板目		
W636	P10-W529	523図	P10区	道路1	盛土内	舟形	12.3	3.6	2.1		柾目	平面舟形A類	
W637	P10-W1117	523図	P10区	道路1	盛土内	刀形？	△18.7	2.2	0.8		板目		

表59　木製祭祀具観察表（14）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W638	P10-W419	523図	P10区	道路１	第４・５次盛土	斎串	25.0	1.6	0.55		板目	BⅢ類	
W639	P10-W281	523図	P10区	道路１	第４・５次盛土	斎串	29.8	1.8	0.6		板目	BⅢ類	
W640	P10-W500	523図	P10区	道路１側溝	古側溝	斎串	△ 13.0	1.1	0.6		板目	E類	
W641	P10-W487	523図	P10区	道路１側溝	新側溝	人形	△ 11.3	0.9	0.6		板目	不明	
W642	P10-W170	524図PL124	P10区	道路1道路外盛土	粗朶層	人形	28.0	5.5	0.5		板目	不明	
W643	P10-W385①	524図PL122	P10区	道路1道路外盛土	盛土内	人形	15.8	3.1	0.45		板目	ⅡA型式	
W644	P10-W181	524図PL129	P10区	道路1道路外盛土	盛土内	馬形	11.5	1.7	0.5		板目	ⅡBa型式	
W645	P10-W181	524図	P10区	道路1道路外盛土	盛土内	馬形	11.7	2.1	0.4		板目	ⅡBa型式	
W646	P10-W347	524図	P10区	道路1道路外盛土	盛土内	馬形	14.2	2.0	0.6		板目	ⅡBa型式	
W647	P10-W76	524図PL127	P10区	道路1道路外盛土	盛土内	馬形	23.9	4.5	0.95		板目	ⅢDc型式	
W648	P10-W499	524図PL132	P10区	道路1道路外盛土	盛土内	斎串	35.35	1.1	0.6		板目	E類	
W649	P10-W175	524図	P10区	道路1道路外盛土	盛土内	斎串	15.7	1.2	0.5		板目	不明	
W650	P10-W77	524図	P10区	道路1道路外盛土	盛土内	斎串	△ 14.8	1.4	0.6		板目	E類	
W651	P10-W410	524図	P10区	道路1道路外盛土	盛土内	斎串	△ 21.4	0.8	0.6		板目	E類	
W652	P10-W491	525図	P10区	条里２８	盛土内	人形	△ 29.3	4.4	0.6		板目	IVA型式	
W653	P10-W107	525図PL126	P10区	条里２９	盛土内	人形	△ 10.8	4.2	0.55		板目	IV類	墨書あり
W654	P10-W92	525図	P10区	条里２９	盛土内	人形	△ 21.7	4.2	0.8		板目		側面人形
W655	P10-W477	525図	P10区	条里２７	盛土内	刀形	△ 23.3	2.5	△ 0.55		板目	A類	
W656	P10-W111	525図	P10区	条里２９	盛土内	馬形	18.5	3.7	0.6		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	
W657	P10-W845	526図PL120	P10区	河道１４	埋土中	人形	20.2	3.5	0.8		板目	IA型式	
W658	P10-W552	526図PL120	P10区	河道１４	埋土中	人形	24.95	3.5	0.6		板目	IA型式	
W659	P10-W547	526図PL124	P10区	河道１４	埋土中	人形	19.0	3.3	0.5		板目	不明	
W660	P10-W674	526図	P10区	河道１４	埋土中	人形	△ 13.3	3.3	0.7		板目	IA型式	
W661	P10-W551	526図	P10区	河道１４	埋土中	人形	24.0	3.6	0.7		板目	Ⅰ類	
W662	P10-W819	526図	P10区	河道１４	埋土中	馬形	20.0	4.2	0.8		板目	ⅡAa型式	
W663	P10-W210	526図	P10区	河道１４	埋土中	馬形	20.5	4.4	1.1		板目	ⅡAa型式	
W664	P10-W1643	526図	P10区	河道１４	埋土中	馬形	△ 19.6	3.6	0.5		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	
W665	P10-W437	526図	P10区	河道１４	埋土中	馬形	15.3	2.5	0.5		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	
W666	P10-W862	526図PL128	P10区	河道１４	埋土中	馬形	△ 16.3	2.2	0.5		板目	ⅡAa型式	
W667	P10-W654	526図	P10区	河道１４	埋土中	刀形	44.8	2.1	0.3		板目	AⅡ類	
W668	P10-W551	526図	P10区	河道１４	埋土中	刀形	39.9	2.2	0.4		板目	AⅠ類	
W669	P10-W748	526図	P10区	河道１３	埋土中	刀形	△ 33.0	2.3	0.4		板目	A類	
W670	P10-W674	526図	P10区	河道１４	埋土中	刀形	△ 21.5	1.9	△ 0.55		板目	不明	
W671	P10-W644	526図	P10区	河道１４	埋土中	刀形	△ 20.8	1.6	1.2		板目	AⅢ類	
W672	P10-W548	526図	P10区	河道１４	埋土中	斎串	36.1	1.5	0.4		板目	不明	
W673	P10-W674	526図	P10区	河道１３	埋土中	斎串	44.0	2.6	0.5		板目	BⅢ類	
W674	P10-W769	526図	P10区	河道１３	埋土中	斎串	23.1	2.2	0.8		板目	BⅢ類	
W675	P10-W668	526図	P10区	河道１４	埋土中	斎串	△ 18.05	1.8	0.5		板目	BⅢ類	
W676	P10-W851	526図	P10区	河道１４	埋土中	斎串	△ 23.3	1.7	0.4		板目	不明	
W677	P10-W868	526図	P10区	河道１４	埋土中	斎串	31.2	1.3	0.4		板目	BⅠ類	
W678	P10-W719	526図	P10区	河道１３	埋土中	斎串	21.8	2.3	0.3		板目	AⅠ類	
W679	P10-W674	526図PL132	P10区	河道１３	埋土中	斎串	△ 23.8	2.8	0.4		板目	AⅠ類	
W680	P10-W1711	526図	P10区	河道１４	埋土中	斎串	21.7	1.9	0.4		板目	AⅠ類	
W681	P10-W617	526図	P10区	河道１４	埋土中	斎串	△ 20.5	2.1	0.4		板目	AⅡ類	
W682	P10-W622	526図	P10区	河道１４	埋土中	斎串	29.7	2.7	0.5		板目	AⅠ類	
W683	P10-W812	526図	P10区	河道１４	埋土中	斎串	△ 24.4	1.7	0.55		板目	CⅠ類	
W684	P10-W1750	527図	P10区	河道１４	埋土中	斎串	△ 25.7	2.3	0.9		板目	BⅢ類	
W685	P10-W929	527図	P10区	河道１４	埋土中	斎串	△ 28.4	1.75	1.2		柾目	D類	
W686	P10-W1807	527図	P10区	河道１４	埋土中	斎串	52.4	1.9	0.7		板目	BⅠ類	

表60　木製祭祀具観察表(15)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W687	P10-W23	528図	P10区		Ⅳ層	馬形	15.2	2.2	0.8		板目	ⅡBa類	
W688	P10-W482	528図	P10区		Ⅳ層	馬形	13.9	2.2	0.4		板目	ⅡAa類	
W689	P10-W539	528図	P10区		Ⅴ層	馬形	14.2	2.3	1.0		板目	ⅡAa類	
W690	P10-W70③	528図	P10区		Ⅳ層	斎串	24.4	1.0	0.4		板目	BⅢ類	
W691	P10-W70④	528図	P10区		Ⅳ層	斎串	△17.6	0.8	0.4		板目	BⅢ類	
W692	P10-W70①	528図	P10区		Ⅳ層	斎串	△9.4	0.9	0.4		板目	BⅢ類	
W693	P10-W70②	528図	P10区		Ⅳ層	斎串	△5.3	0.8	0.4		板目	BⅢ類	
W694	W2-不明	529図	2区		Ⅳ層相当	人形	△16.1	3.4	0.4		板目	ⅠA型式	
W695	W2-119	529図	2区		Ⅳ層相当	斎串	24.8	3.0	0.3		板目	AⅠ類	
W696	W2-53	529図	2区		Ⅳ層相当	斎串	43.3	1.8	0.5		板目	BⅢ類	
W697	P11-W72	530図	P11区	道路1側溝	新側溝	斎串	37.6	2.1	1.6		板目		
W698	P11-W81	530図	P11区	道路1側溝	新側溝	斎串	31.6	1.85	0.5		板目	BⅢ類	
W699	P11-W78	530図	P11区	道路1側溝	新側溝	斎串	20.85	1.5	0.6		板目	BⅢ類	
W700	P11-W51	530図	P11区	道路1側溝	新側溝	斎串	14.0	2.4	0.5		板目	不明	
W701	P11-W448	530図PL124	P11区	道路1	第4・5次盛土	人形	△6.4	0.7	0.6		板目	Ⅰ類	
W702	P11-W767	530図	P11区	道路1	第4・5次盛土	斎串	63.6	1.2	0.8		板目	E類	
W703	P11-W743	530図PL134	P11区	道路1	盛土下層	鳥形	15.6	4.4	0.4		板目		
W704	P11-W361	531図PL126	P11区	道路1道路外盛土	盛土内	人形	14.4	1.8	2.1		板目		立体人形
W705	P11-W795	531図	P11区	道路1道路外盛土	盛土内	馬形	12.0	3.3	0.4		板目	ⅠAa型式	
W706	P11-W239	531図	P11区	道路1道路外盛土	盛土内	馬形	14.4	2.1	0.7		板目	ⅡAa型式	
W707	P11-W823	531図	P11区	道路1道路外盛土	盛土内	舟形	29.8	3.9	1.6		板目	立体舟形A類	
W708	P11-W450	531図	P11区	道路1道路外盛土	盛土内	舟形	34.5	4.4	1.4		板目	平面舟形A類	
W709	P11-W349	531図	P11区	道路1道路外盛土	盛土下面	斎串	△12.0	3.4	0.9		板目	CⅠ類	墨書あり
W710	P11-W220	531図	P11区	道路1道路外盛土	盛土下面	刀形	△19.8	1.5	0.7		板目	AⅠ類	
W711	P11-W815	531図	P11区	道路1道路外盛土	盛土内	刀形	△40.8	2.3	0.6		板目	AⅡ類	
W712	P11-W2222	532図PL119	P11区	河道16	埋土中	人形	△20.7	2.8	0.7		板目	ⅠA型式	
W713	P11-W1017	532図PL120	P11区	河道16	埋土中	人形	15.4	2.5	0.3		板目	ⅠA型式	
W714	P11-W1052	532図PL122	P11区	河道16	埋土中	人形	△16.2	2.4	0.5		板目	ⅣA型式	
W715	P11-W2252	532図PL122	P11区	河道16	埋土中	人形	△8.3	2.5	0.4		板目	ⅣA型式	
W716	P11-W2252	532図PL122	P11区	河道16	埋土中	人形	△8.55	1.7	0.5		板目	ⅣA型式	
W717	P11-W975	532図	P11区	河道16	埋土中	人形	△10.1	1.9	0.5		板目	ⅡA型式	
W718	P11-W908	532図PL129	P11区	河道16	埋土中	馬形	13.5	1.7	0.7		板目	ⅡBa型式	
W719	P11-W909	532図	P11区	河道16	埋土中	馬形	15.5	2.1	0.7		板目	ⅡBa型式	
W720	P11-W1030	532図PL127	P11区	河道16	埋土中	馬形	13.0	2.3	0.5		板目	ⅡBa型式	
W721	P11-W945	532図	P11区	河道16	埋土中	馬形	13.5	2.2	0.6		板目	ⅡBa型式	
W722	P11-W2252	532図PL129	P11区	河道16	埋土中	馬形	12.5	2.3	0.4		板目	ⅡBa型式	
W723	P11-W950	532図	P11区	河道16	埋土中	馬形	12.6	2.2	0.5		板目	ⅡBa型式	
W724	P11-W895	532図	P11区	河道16	埋土中	馬形	15.8	2.6	1.4		板目	ⅡBa型式	
W725	P11-W1014	532図	P11区	河道16	埋土中	馬形	14.3	2.3	0.5		板目	ⅡBa型式	
W726	P11-W935	532図PL134	P11区	河道16	埋土中	斧形	7.4	2.7	0.6		板目		
W727	P11-W895	532図	P11区	河道16	埋土中	刀形	14.7	1.4	0.55		板目	AⅢ類	
W728	P11-W1045	532図	P11区	河道16	埋土中	斎串	△17.8	1.3	0.45		板目	BⅢ類	
W729	P11-W1050	532図	P11区	河道16	埋土中	斎串	14.5	0.5	0.4		板目	BⅠ類	
W730	P11-W1062	532図	P11区	河道16	埋土中	斎串	△17.7	2.2	0.6		板目	A類	
W731	P11-W2251	532図	P11区	河道16	埋土中	斎串	22.1	1.9	0.4		板目	E類	
W732	P11-W1037	532図	P11区	河道16	埋土中	斎串	△27.0	1.9	0.6		板目	E類	
W733	P11-W1645 P11-W1753	533図	P11区	河道14	埋土中	人形	40.7	3.0	0.4		板目	ⅠA型式	
W734	P11-W1258	533図PL120	P11区	河道14	埋土中	人形	△27.4	4.6	0.7		板目	ⅠA型式	

表61　木製祭祀具観察表(16)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W735	P11-W1355	533図 PL120	P11区	河道１４	埋土中	人形	△ 18.8	2.8	0.5		板目	ＩA型式	
W736	P11-W1132	533図	P11区	河道１４	埋土中	人形	△ 19.6	4.3	0.4		板目	ＩA型式	
W737	P11-W695	533図 PL122	P11区	河道１４	埋土中	人形	13.3	2.3	0.5		板目	IVA型式	
W738	P11-W1201	533図 PL122	P11区	河道１４	埋土中	人形	△ 12.1	2.3	0.4		板目	IVA型式	
W739	P11-W508	533図 PL122	P11区	河道１４	埋土中	人形	△ 11.7	2.3	0.45		板目	IVA型式	
W740	P11-W1188	533図 PL124	P11区	河道１４	埋土中	人形	13.0	2.6	0.4		板目	ＩB型式？	小型品
W741	P11-W1245	533図	P11区	河道１４	埋土中	人形	△ 10.6	3.7	0.5		板目	ⅡB型式？	
W742	P11-W701	533図	P11区	河道１４	埋土中	人形	△ 13.0	2.3	0.5		板目	IVA型式	
W743	P11-W2234	533図	P11区	河道１４	埋土中	人形	△ 11.4	2.8	0.4		板目	IVA型式	
W744	P11-W648	533図 PL122	P11区	河道１４	埋土中	人形	△ 10.0	1.9	0.3		板目	IVA型式	
W745	P11-W723	533図	P11区	河道１４	埋土中	馬形	13.2	2.5	0.5		板目	ⅡBa型式	
W746	P11-W626	533図	P11区	河道１４	埋土中	馬形	13.0	2.3	0.5		板目	ⅡBa型式	
W747	P11-W651	533図 PL127	P11区	河道１４	埋土中	馬形	13.0	2.4	0.5		板目	ⅡBa型式	
W748	P11-W655	533図	P11区	河道１４	埋土中	馬形	13.8	2.4	0.6		板目	ⅡBa型式	
W749	P11-W1232	533図	P11区	河道１４	埋土中	馬形	10.9	1.7	0.3		板目	ⅡBa型式	
W750	P11-W537	533図 PL127	P11区	河道１４	埋土中	馬形	15.0	2.4	0.7		板目	ⅡBa型式	
W751	P11-W1239	533図 PL128	P11区	河道１４	埋土中	馬形	12.85	3.5	0.55		板目	ⅡAa型式	
W752	P11-W1383	533図	P11区	河道６	埋土中	馬形	22.4	2.95	0.95		板目	ⅡAa型式	
W753	P11-W2245	533図	P11区	河道１４	埋土中	馬形	26.2	2.3	1.0		板目	ⅡAa型式	
W754	P11-W1143	533図 PL128	P11区	河道１４	埋土中	馬形	23.8	3.8	1.0		板目	ⅡAa型式	
W755	P11-W1141	533図	P11区	河道１４	埋土中	馬形	24.9	5.4	1.0		板目	ⅡAa型式	
W756	P11-W906	533図 PL128	P11区	河道１４	埋土中	馬形	20.5	3.5	0.9		板目	ⅡAa型式	
W757	P11-W1131	533図 PL128	P11区	河道１４	埋土中	馬形	16.6	2.9	△ 0.6		板目	ⅡAa型式	
W758	P11-W1310	533図	P11区	河道１４	埋土中	馬形	15.5	3.0	0.9		板目	ⅡAa型式	
W759	P11-W1752	533図	P11区	河道１４	埋土中	馬形	17.95	3.45	0.75		板目	ⅡAa型式	
W760	P11-W1190	533図	P11区	河道１４	埋土中	馬形	16.6	4.1	0.6		板目	ⅡAa型式	
W761	P11-W2245	533図	P11区	河道１４	埋土中	馬形	14.5	1.8	0.85		板目	ⅡAa型式	
W762	P11-W1205	533図	P11区	河道１４	埋土中	馬形	11.4	2.8	1.0		板目	ⅡAa型式	
W763	P11-W1404	533図	P11区	河道１４	埋土中	馬形	15.6	3.2	1.1		板目	ⅡAa型式	
W764	P11-W705	533図	P11区	河道１４	埋土中	馬形	11.7	2.8	0.5		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	
W765	P11-W1130	533図	P11区	河道１４	埋土中	馬形	16.7	2.5	0.8		板目	ⅡAb型式	
W766	P11-W1224	534図 PL129	P11区	河道１４	埋土中	馬形	17.28	4.0	0.6		板目	ⅡBb型式	
W767	P11-W718	534図	P11区	河道１４	埋土中	馬形	17.7	2.5	0.6		板目	ⅡBb型式	
W768	P11-W489	534図 PL127	P11区	河道１４	埋土中	馬形	18.8	4.1	0.6		板目	ⅡBc型式	
W769	P11-W1210	534図	P11区	河道１４	埋土中	動物形	22.1	2.8	0.4		板目		蛇形か
W770	P11-W477	534図	P11区	河道１４	埋土中	舟形	26.0	4.2	0.9		板目	平面舟形A類	
W771	P11-W538	534図	P11区	河道１４	埋土中	舟形	18.4	3.4	1.9		板目	平面舟形BⅡ類	
W772	P11-W1400	534図	P11区	河道１４	埋土中	舟形	16.5	5.4	2.6		板目	立体舟形A類	
W773	P11-W2248	534図	P11区	河道１４	埋土中	鳥形	16.25	2.7	1.1		板目		
W774	P11-W990	534図	P11区	河道１４	埋土中	武器形	△ 26.8	1.8	0.65		板目		槍形、もしくは矛形
W775	P11-W1473	534図	P11区	河道１４	埋土中	武器形	△ 35.4	1.7	0.8		板目		槍形、もしくは矛形
W776	P11-W1095	534図	P11区	河道１４	埋土中	刀形	△ 48.4	3.4	0.4		板目	不明	
W777	P11-W1393	534図 PL132	P11区	河道１４	埋土中	刀形	48.9	2.2	0.4		板目	AⅡ類	
W778	P11-W1158	534図 PL132	P11区	河道１４	埋土中	刀形	42.4	2.2	0.4		板目	AⅡ類	
W779	P11-W910	534図	P11区	河道１４	埋土中	刀形	43.1	2.6	0.4		板目	AⅠ類	
W780	P11-W1498	534図	P11区	河道１４	埋土中	刀形	37.85	2.2	0.6		板目	AⅠ類	
W781	P11-W1318	534図	P11区	河道１４	埋土中	刀形	△ 36.3	2.0	0.3		板目	AⅡ類	
W782	P11-W902	534図	P11区	河道１４	埋土中	刀形	44.8	2.1	0.3		板目	AⅡ類	
W783	P11-W902	534図 PL132	P11区	河道１４	埋土中	刀形	42.9	1.4	0.3		板目	AⅡ類	

表62　木製祭祀具観察表(17)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W784	P11-W1275	534図	P11区	河道１４	埋土中	刀形	△ 22.2	2.8	0.5		板目	AⅡ類	
W785	P11-W979	534図	P11区	河道１４	埋土中	刀形	△ 17.9	2.4	0.6		板目	AⅢ類	
W786	P11-W479	534図	P11区	河道１４	埋土中	刀形	23.1	0.45	2.0		板目	不明	
W787	P11-W1258	534図	P11区	河道１４	埋土中	エブリ形	13.0	1.6	0.5		板目		
W788	P11-W1412	534図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	49.2	2.4	0.8		板目	BⅠ類	
W789	P11-W1183	534図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	50.1	1.7	0.4		板目	BⅠ類	
W790	P11-W1313	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	53.4	2.6	0.7		板目	BⅢ類	
W791	P11-W1156	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	△ 43.7	2.9	0.8		板目	BⅢ類	
W792	P11-W1227	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	31.0	1.5	0.4		板目	BⅢ類	
W793	P11-W1233	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	35.3	1.7	0.4		板目	BⅢ類	
W794	P11-W903	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	29.4	1.9	0.3		板目	BⅡ類	
W795	P11-W1416	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	△ 27.2	1.5	0.7		板目	E類？	
W796	P11-W1263	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	54.2	2.2	0.4		板目	E類	
W797	P11-W1166	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	37.8	1.5	0.36		板目	E類	
W798	P11-W1145	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	33.8	1.6	1.4		板目	E類	
W799	P11-W715	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	36.0	1.0	0.9		板目	E類	
W800	P11-W953	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	△ 27.4	1.2	0.6		板目	E類	
W801	P11-W902	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	17.7	0.7	0.3		板目	E類	
W802	P11-W1486	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	△ 26.9	0.85	1.45		板目	E類	
W803	P11-W1469	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	△ 20.1	1.2	0.4		板目	AⅠ類	
W804	P11-W1222	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	20.1	2.55	0.4		板目	AⅠ類	
W805	P11-W1458	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	22.3	2.3	0.6		板目	AⅠ類	
W806	P11-W1468	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	△ 13.6	2.4	0.4		板目	A類	
W807	P11-W1225	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	△ 12.85	2.4	0.75		板目	CⅠ類	
W808	P11-W1416	535図	P11区	河道１４	埋土中	斎串	34.2	1.2	0.7		板目	E類	
W809	P11-W943	535図	P11区	河道１４	埋土中	刀形	47.6	2.0	0.4		板目	不明	
W810	P11-W2245	535図	P11区	河道１４	埋土中	不明形代	△ 8.0	△ 1.5	0.6		板目		
W811	P11-W2248	535図	P11区	河道１４	埋土中	刀子形	13.1	2.1	1.3		板目		
W812	P11-W18②	536図	P11区		Ⅳ層	人形	△ 8.3	1.9	0.65		柾目	ⅠA型式	
W813	P11-W18	536図PL121	P11区		Ⅳ層	人形	△ 12.2	2.4	0.4		板目	ⅠA型式	
W814	P11-W2281	536図	P11区		Ⅴ層	人形	△ 13.1	2.2	0.5		板目	IVA型式	
W815	P11-W1070	536図	P11区		Ⅳ層	人形	△ 30.9	5.35	0.8		板目	IVA型式	
W816	P11-W2251	536図	P11区		Ⅳ層	人形	36.6	3.1	0.9		板目	IVA型式	
W817	P11-W96	536図	P11区		Ⅳ層	馬形	17.0	3.6	0.7		板目	ⅡAa型式	
W818	P11-W1588	536図PL133	P11区		Ⅴ層相当	琴柱形	3.2	2.3	0.7		板目		
W819	P12-W965	537図	P12区	道路１	第１次盛土	人形	△ 30.8	3.1	0.4		板目	IVA型式	
W820	P12-W962	537図	P12区	道路１	第１次盛土	人形	△ 11.5	2.4	0.65		板目	IVA型式	
W821	P12-W956	537図	P12区	道路１	第４次盛土	人形	△ 55.2	6.45	0.65		板目	Ⅱ類	
W822	P12-W987	537図	P12区	道路１	第１次盛土	馬形	16.3	2.0	0.5		板目	ⅠAa型式	
W823	P12-W973	537図PL128	P12区	道路１	第１次盛土	馬形	16.0	3.2	0.65		板目	Ⅱ類	
W824	P12-W976	537図	P12区	道路１	第１次盛土	馬形	17.3	3.9	0.4		板目	ⅡAa型式	
W825	P12-W987①	537図	P12区	道路１	第１次盛土	馬形	15.7	△ 1.6	0.3		板目	Ⅱ類	
W826	P12-W963	537図	P12区	道路１	第１次盛土	馬形	17.0	2.3	0.8		板目	ⅡBa型式	
W827	P12-W965	537図	P12区	道路１	第１次盛土	馬形	18.9	2.6	0.7		板目	ⅡBa型式	
W828	P12-W1024	537図	P12区	道路１	盛土内	馬形	21.3	3.0	0.65		板目	ⅡBc型式	
W829	P12-W1020	537図	P12区	道路１	盛土内	斎串	31.25	1.25	0.5		板目	E類	
W830	P12-W915	537図	P12区	道路１	第５次盛土	斎串	29.9	2.5	0.5		板目	BⅢ類	
W831	P12-W858	538図	P12区	道路１外盛土	盛土内	人形	△ 10.5	2.1	0.3		板目	Ⅰ類	
W832	P12-W870	538図	P12区	道路１外盛土	盛土内	人形	△ 11.05	2.45	0.4		板目	IVA型式	

表63　木製祭祀具観察表（18）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W833	P12-W694	538図	P12区	道路１外盛土	盛土内	人形	△ 27.0	3.9	0.8		板目	IVA型式	
W834	P12-W1005	538図	P12区	道路１外盛土	盛土内	斎串	24.0	1.8	0.9		板目	ＢⅠ類	
W835	P12-W685	538図	P12区	道路１外盛土	盛土内	斎串	△ 20.7	2.3	0.8		板目	ＢⅢ類	
W836	P12-W696	538図	P12区	道路１外盛土	盛土下面	馬形	22.5	3.5	0.6		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	
W837	P12-W607	539図	P12区	条里３６	盛土内	馬形	13.9	2.15	0.6		板目	ⅡAa型式	
W838	P12-W656	539図	P12区	条里３６	盛土下層	馬形	△ 16.85	△ 4.45	0.6		板目	不明	
W839	P12-W642	539図	P12区	条里３６	盛土内	斎串	△ 15.7	2.4	0.75		板目	ＣⅠ類	
W840	P12-W960	539図	P12区	条里３５	盛土内	人形	△ 7.8	2.5	0.5		板目	ⅠA型式	
W841	P12-W718	540図	P12区	条里３７	盛土内	人形	44.8	△ 5.1	0.6		板目	ⅠA型式	
W842	P12-W645	540図PL120	P12区	条里３７	盛土内	人形	23.2	3.8	0.45		板目	ⅠA型式	
W843	P12-W697	540図	P12区	条里３７	盛土内	馬形	19.1	3.8	0.9		板目	ⅡAa型式	
W844	P12-W681	540図	P12区	条里３７	盛土内	馬形	18.7	4.9	0.7		板目	ⅡBa型式	
W845	P12-W628	540図PL130	P12区	条里３７	盛土内	馬形	27.3	4.7	0.9		板目	ⅢDd型式	
W846	P12-W679	540図PL133	P12区	条里３７	盛土内	エブリ形	21.7	2.3	0.3		板目		
W847	P12-W632	541図	P12区	盛土２９	盛土内	人形	△ 17.8	3.8	0.6		板目	ⅠA型式	
W848	P12-W592	541図	P12区	盛土２９	盛土内	刀子形	18.9	2.0	0.9		柾目		
W849	P12-W632	541図	P12区	盛土２９	盛土内	斎串	△ 20.8	2.2	0.5		板目	ＢⅢ類	
W850	P12-W614	541図	P12区	盛土３０	盛土内	人形	△ 14.9	3.3	0.6		板目	ⅠA型式	
W851	P12-W611	541図	P12区	盛土３０	盛土内	人形	△ 11.2	2.2	0.6		板目	ⅠA型式	
W852	P12-W589	541図	P12区	盛土３０	盛土内	馬形	19.1	3.05	0.55		板目	ⅡCa型式	
W853	P12-W575	541図	P12区	盛土３０	盛土内	馬形	16.5	2.0	0.6		板目	ⅡBa型式	
W854	P12-W630	541図	P12区	盛土２９	盛土内	舟形	△ 30.4	2.6	1.5		板目	立体舟形A類	
W855	P12-W740	542図PL124	P12区	河道１４	埋土中	人形	△ 13.4	2.9	0.6		板目	不明	
W856	P12-W806	542図PL124	P12区	河道１４	埋土中	人形	△ 11.2	3.4	1.2		板目	不明	
W857	P12-W979	542図	P12区	河道１４	埋土中	人形	△ 12.4	5.2	0.8		板目	不明	
W858	P12-W746	542図PL127	P12区	河道１４	埋土中	馬形	25.1	2.4	0.7		板目	ⅠAa型式	
W859	P12-W753	542図	P12区	河道１４	埋土中	馬形	21.5	3.3	1.0		板目	ⅡAa型式	
W860	P12-W773	542図	P12区	河道１４	埋土中	馬形	21.3	2.3	0.5		板目	ⅡAa型式	
W861	P12-W785	542図PL128	P12区	河道１４	埋土中	馬形	21.4	2.4	0.85		板目	ⅡAa型式	
W862	P12-W755	542図	P12区	河道１４	埋土中	馬形	22.9	2.9	1.2		板目	ⅡAa型式	
W863	P12-W769	542図	P12区	河道１４	埋土中	馬形	△ 14.7	3.5	0.6		板目	ⅡAa型式	
W864	P12-W784	542図	P12区	河道１４	埋土中	馬形	33.4	5.2	1.1		板目	ⅡAa型式	
W865	P12-W1016	542図PL129	P12区	河道１４	埋土中	馬形	17.7	2.2	0.8		板目	ⅡAb型式	
W866	P12-W731	542図	P12区	河道１４	埋土中	馬形	25.0	7.2	2.4		板目	ⅡAa型式	
W867	P12-W757	542図	P12区	河道１４	埋土中	馬形	19.5	3.8	1.2		板目	ⅡBc型式	
W868	P12-W979	542図	P12区	河道１４	埋土中	馬形	21.7	5.2	0.9		板目	ⅠAa型式	
W869	P12-W760	542図PL134	P12区	河道１４	埋土中	斎串	30.7	1.9	0.6		板目	ＢⅢ類	
W870	P12-W748	542図	P12区	河道１４	埋土中	斎串	33.3	2.7	0.6		板目	ＢⅠ類	
W871	P12-W984	542図PL134	P12区	河道１４	埋土中	斎串	22.7	2.4	0.4		板目	ＡⅠ類	
W872	P12-W820	542図	P12区	河道１４	埋土中	斎串	23.3	2.2	0.6		板目	ＡⅠ類	
W873	P12-W808	542図	P12区	河道１４	埋土中	斎串	24.5	2.2	0.4		板目	ＡⅠ類	
W874	P12-W824	542図	P12区	河道１４	埋土中	斎串	16.7	9.5	0.5		板目	ＡⅠ類	
W875	P12-W775	542図	P12区	河道１４	埋土中	斎串	△ 15.4	2.0	0.5		板目	ＢⅢ類	
W876	P12-W1016	542図PL132	P12区	河道１４	埋土中	斎串	25.2	1.4	1.2		板目	不明	
W877	P12-W741	542図PL134	P12区	河道１４	埋土中	勾玉形	9.9	3.9	0.6		板目		
W878	P12-W431	542図	P12区	河道１４	埋土中	鏃形	7.0	1.1	0.6		板目		
W879	P12-W754	543図	P12区	河道１４	埋土中	刀形	△ 62.6	3.0	0.8		板目	ＡⅡ類	
W880	P12-W984	543図PL132	P12区	河道１４	埋土中	刀形	36.3	2.3	0.5		板目	ＡⅠ類	
W881	P12-W771	543図	P12区	河道１４	埋土中	刀形	△ 30.4	1.8	0.45		板目	ＡⅠ類	

表64　木製祭祀具観察表(19)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W882	P12-W732	543図 PL132	P12区	河道１４	埋土中	刀形	△ 38.5	2.5	0.9		板目	AⅢ類	
W883	P12-W771	543図	P12区	河道１４	埋土中	刀形	△ 31.25	2.5	0.3		板目	B類	
W884	P12-W918	543図	P12区	河道１４	埋土中	刀形	△ 24.3	2.3	0.7		板目	B類	
W885	P12-W1088	544図	P12区	河道１４	埋土中	人形	29.2	3.8	0.5		板目	ⅠA型式	
W886	P12-W1073	544図	P12区	河道１４	埋土中	人形	27.0	4.0	0.6		板目	ⅠA型式	
W887	P12-W726	544図	P12区	河道１４	埋土中	人形	24.4	△ 3.2	0.6		板目	ⅠA型式	
W888	P12-W1065	544図	P12区	河道１４	埋土中	馬形	19.2	2.7	1.2		板目	ⅡAa型式	
W889	P12-W1083	544図	P12区	河道１４	埋土中	馬形	14.3	2.1	0.8		板目	ⅡAa型式	
W890	P12-W1134	544図 PL133	P12区	河道１４	埋土中	エブリ形	19.1	1.6	0.4		板目		
W891	P12-W1089	544図	P12区	河道１４	埋土中	刀形	△ 36.3	2.1	0.4		板目	AⅡ類	
W892	P12-W1073	544図	P12区	河道１４	埋土中	刀形	△ 30.9	1.3	0.5		板目	AⅡ類	
W893	P12-W747	544図	P12区	河道１４	埋土中	斎串	55.9	2.3	9.2		板目	BⅢ類	
W894	P12-W1079	544図	P12区	河道１４	埋土中	斎串	39.4	1.5	0.5		板目	E類	
W895	P12-W1205	544図	P12区	河道１４	埋土中	斎串	19.8	2.6	0.6		板目	AⅠ類	
W896	P12-W1093	544図	P12区	河道１４	埋土中	斎串	△ 14.8	2.6	0.7		板目		
W897	P12-W834	544図	P12区	河道１４	埋土中	剣形/刀子形	△ 13.5	2.0	1.4		柾目		
W898	P12-W999	545図	P12区		Ⅳ層	人形	△ 30.5	4.5	0.6		板目	IVA型式	
W899	P12-W316	545図	P12区		Ⅳ層	馬形	18.6	2.3	0.8		板目	ⅡAa型式	
W900	P12-W74	545図	P12区		Ⅳ層	馬形	23.2	4.2	0.9		板目	ⅢBc型式	
W901	P12-W183	545図 PL128	P12区		Ⅳ層	馬形	22.0	4.5	0.9		板目	ⅡAa型式	
W902	P12-W901	545図	P12区		Ⅳ層	動物形	12.1	3.3	0.5		板目		馬形？
W903	P12-W211	545図	P12区		Ⅳ層	舟形	34.5	6.0	3.4		板目	立体舟形A類	
W904	P12-W191	545図	P12区		Ⅳ層	舟形	28.5	4.8	3.5		板目	立体舟形C類	墨書で目の表現
W905	P12-W296	545図	P12区		Ⅳ層	舟形	32.75	3.8	1.8		板目	平面舟形A類	
W906	P12-W199	545図	P12区		Ⅳ層	刀形	55.4	2.6	0.7		板目	AⅡ類	
W907	P12-W903	545図	P12区		Ⅳ層	斎串	18.7	2.5	0.5		板目	AⅠ類	墨書あり
W908	P12-W423	545図	P12区		Ⅳ層	斎串	28.8	1.8	0.6		板目	BⅠ類	
W909	P12-W290	545図	P12区		Ⅳ層	斎串	△ 11.1	2.3	0.6		板目	CⅠ類	
W910	P12-W691	545図	P12区		Ⅳ層	斎串	△ 13.2	1.1	0.5		板目	不明	
W911	P12-W783	546図	P12区		Ⅴ層	人形	14.1	△ 2.6	0.6		板目	ⅠA型式	
W912	P12-W794	546図 PL122	P12区		Ⅴ層	馬形	△ 16.4	4.55	1.2		板目	ⅠAa型式	
W913	P12-W616	546図	P12区		Ⅴ層	馬形	20.75	4.3	0.75		板目	ⅡAa型式	
W914	P12-W38	546図	P12区		Ⅴ層	斎串	△ 16.7	2.0	0.4		板目	AⅠ類	
W915	P12-W793	546図	P12区		Ⅴ層	斎串	△ 30.9	0.7	0.6		板目	E類？	題箋軸の軸棒の可能性あり
W916	P13-W1144	547図 PL124	P13区	道路１	盛土内	人形	△ 24.3	4.2	0.95		板目	ⅡB型式	
W917	P13-W1177	547図	P13区	道路１	盛土内	馬形	15.5	2.4	0.6		板目	ⅡAa型式	
W918	P13-W1190	547図	P13区	道路１	盛土内	馬形	15.6	1.95	0.9		板目	ⅡBa型式	
W919	P13-W1228	547図	P13区	道路１	盛土内	馬形	15.1	2.7	0.8		板目	ⅡBb型式	
W920	P13-W1304	547図	P13区	道路１	盛土内	鳥形	26.3	2.5	1.0		板目		
W921	P13-1190	547図	P13区	道路１	盛土内	斎串	22.0	1.1	0.4		板目	BⅢ類	
W922	P13-W1179	547図	P13区	道路１	盛土内	斎串	△ 11.4	1.4	0.4		板目	CⅠ類	
W923	P13-W627	548図	P13区	条里３８	盛土内	人形	△ 17.6	4.8	0.8		板目	IVA型式	
W924	P13-W718	548図 PL121	P13区	条里３８	盛土内	人形	△ 11.4	3.2	0.5		板目	ⅠA型式	
W925	P13-W1192	548図 PL130	P13区	条里３８	盛土内	馬形	19.5	3.3	0.7		板目	ⅢBa型式	
W926	P13-W974	548図	P13区	条里３８	盛土内	馬形	18.8	2.9	0.7		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	
W927	P13-W1170	548図	P13区	条里３８	盛土内	馬形	20.8	2.7	0.8		板目	ⅡAa/ⅡBa型式	
W928	P13-W739	548図	P13区	条里３８	盛土内	不明形代	△ 7.6	3.0	0.5		板目		
W929	P13-W721	548図	P13区	条里３８	盛土内	エブリ形	△ 11.6	2.6	1.0		板目		
W930	P13-W734	549図 PL125	P13区	盛土３１	盛土内	人形	50.0	△ 3.35	△ 1.0		板目	ⅡA型式	

表65　木製祭祀具観察表(20)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W931	P13-W814	549図	P13区	盛土３１	盛土内	人形	△ 9.2	3.5	0.6		板目	ⅠA型式	
W932	P13-W661	549図	P13区	盛土３１	盛土内	斎串	△ 16.3	2.9	0.7		板目	CⅠ類	
W933	P13-W272	549図	P13区	盛土３１	盛土内	馬形	14.5	2.8	0.7		板目	ⅡBa型式	
W934	P13-W827	549図	P13区	盛土３１	盛土内	馬形	16.4	3.0	0.5		板目	ⅡBa型式	
W935	P13-W1182	550図	P13区	河道６	上層	人形	26.35	4.85	0.9		板目	ⅠB型式	
W936	P13-W1381	550図	P13区	河道６	上層	斎串	△ 21.5	4.65	0.5		板目	CⅡ類	
W937	P13-W950	550図PL132	P13区	河道６	上層	斎串	24.7	2.7	0.5		板目	AⅠ類	
W938	P13-W35	551図PL119	P13区		Ⅳ層	人形	19.8	2.6	0.6		板目		側面人形　墨書あり
W939	P13-W28	551図PL122	P13区		Ⅳ層	馬形	25.0	3.8	0.9		板目	ⅡDa型式	
W940	P13-W70	551図	P13区		Ⅳ層	鳥形	19.1	4.7	1.0		板目		
W941	P13-W659	552図	P13区		Ⅴ層	馬形	16.4	2.6	0.8		板目	ⅡAa型式	
W942	P13-W731	552図	P13区		Ⅴ層	馬形	13.8	4.1	0.8		板目	ⅡBa型式	
W943	P13-W973	552図	P13区		Ⅴ層	斎串	△ 17.6	2.6	0.6		板目	CⅠ類	
W944	P13-W740	552図	P13区		Ⅴ層	斎串	△ 21.2	2.1	1.4		板目	AⅡ類	
W945	P13-W388	553図	P13区		不明	馬形	28.4	5.8	1.1		板目	ⅡAa型式	
W946	P14-W1044	554図	P14区	道路１	盛土内	人形	△ 11.3	2.7	0.4		板目	ⅠA型式	
W947	P14-W962	554図	P14区	道路１	盛土内	人形	△ 8.2	2.1	0.3		板目	ⅠA型式	
W948	P14-W909	554図	P14区	道路１	盛土内	人形	△ 8.4	2.5	0.4		板目	ⅠA型式	
W949	P14-W938	554図PL120	P14区	道路１	盛土内	人形	△ 8.6	2.4	0.9		板目	ⅠA型式	
W950	P14-W911	554図	P14区	道路１	盛土内	人形	△ 10.2	2.7	0.4		板目	ⅠA型式	
W951	P14-W988	554図	P14区	道路１	盛土内	人形	△ 7.9	2.5	0.6		板目	Ⅳ類？	墨書あり
W952	P14-W955	554図	P14区	道路１	盛土内	人形	△ 11.5	2.8	0.5		板目	Ⅳ類	墨書あり
W953	P14-W988	554図	P14区	道路１	盛土内	人形	△ 15.9	2.9	0.4		板目	Ⅳ類	
W954	P14-W897	554図PL125	P14区	道路１	盛土内	人形	△ 9.5	4.2	0.4		板目	Ⅳ類	
W955	P14-W961	554図	P14区	道路１	盛土内	馬形	23.8	3.6	0.8		板目	ⅡBa型式	
W956	P14-W918	554図	P14区	道路１	盛土内	馬形	19.05	3.3	0.6		板目	ⅡCa型式	
W957	P14-W1137	554図	P14区	道路１	盛土内	馬形	△ 16.0	3.7	0.8		板目	ⅡBc型式	
W958	P14-W1042	554図	P14区	道路１	盛土内	馬形	14.8	3.7	0.7		板目	ⅡBa型式	
W959	P14-W1012	554図	P14区	道路１	盛土内	馬形	12.0	1.9	0.4		板目	ⅡBa型式	
W960	P14-W871	554図PL130	P14区	道路１	盛土内	馬形	19.7	3.9	0.8		板目	ⅢBa型式	
W961	P14-W971	554図	P14区	道路１	盛土内	斎串	△ 19.9	3.5	0.4		板目	CⅡ類	人形の可能性あり
W962	P14-W916	554図PL134	P14区	道路１	盛土内	斎串	△ 45.0	2.1	0.9		板目	CⅠ類	
W963	P14-W911	554図	P14区	道路１	盛土内	斎串	△ 26.9	2.7	0.5		板目	CⅠ類	
W964	P14-W956 P14-W1134	554図PL132	P14区	道路１	盛土内	斎串	△ 71.6	2.7	0.7		板目	CⅠ類	
W965	P14-W1127	555図PL125	P14区	道路１外盛土	盛土内	人形	△ 20.5	4.2	0.8		柾目		側面人形
W966	P14-W1103	556図	P14区	河道１４	埋土中	馬形	18.6	3.5	0.9		板目	ⅡAa型式	
W967	P14-W1061	556図	P14区	河道１４	埋土中	馬形	16.3	2.5	1.1		板目	ⅡAa型式	
W968	P14-W1121	556図PL123	P14区	河道６	上層	人形	△ 15.8	3.3	0.4		板目	ⅣA型式	
W969	P14-W1163	556図PL132	P14区	河道６	上層	斎串	51.1	2.35	0.4		板目	BⅢ類	
W970	P14-W477	557図PL124	P14区		Ⅳ層	人形	△ 9.9	2.7	0.5		板目	ⅠA型式	
W971	P14-W325	557図	P14区		Ⅳ層	人形	8.8	2.7	0.6		板目	不明	
W972	P14-W179	557図	P14区		Ⅲ層	馬形	11.0	1.2	0.3		板目	ⅡAa型式	
W973	P14-W289	557図	P14区		Ⅳ層	馬形	15.8	2.8	0.6		板目	ⅡBa型式	
W974	P14-W179	557図	P14区		Ⅲ層	舟形	△ 16.4	2.4	0.6		板目	平面舟形BⅡ類	
W975	P14-W389	557図	P14区		Ⅳ層	舟形	△ 17.4	3.8	2.7		板目	立体舟形A類	
W976	P14-W80	557図	P14区		Ⅳ層	斎串	△ 11.6	1.4	0.4		板目	CⅠ類	
W977	P14-W9	557図	P14区		Ⅳ層	斎串	△ 45.7	2.5	0.7		板目	BⅢ類	
W978	P15-W142	558図PL129	P15区	盛土３２	盛土内	馬形	23.1	3.3	0.6		板目	ⅡBa型式	
W979	P15-W58	558図PL132	P15区	盛土３２	盛土内	斎串	32.8	2.8	1.0		板目	BⅢ類	

表66　木製祭祀具観察表(21)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W980	P15-W1318	558図	P15区	盛土３２	盛土下層	斎串	△ 19.5	3.0	0.5		板目	ＣⅠ類	
W981	P15-W955	558図	P15区	盛土３２	盛土下層	斎串	△ 18.4	3.5	0.5		板目	ＣⅡ類	
W982	P15-W1318	558図	P15区	盛土３２	盛土下層	斎串	△ 15.4	1.5	0.4		板目	ＣⅠ類	
W983	P15-W733	558図	P15区	盛土３４	盛土内	人形	△ 10.3	2.6	0.6		板目	ⅠＡ型式	
W984	P15-W1161	558図	P15区	盛土３２	盛土内	人形	△ 12.3	1.75	0.5		板目	ⅠＡ型式	
W985	P15- W1233	559図PL120	P15区	河道６	上層	人形	△ 33.7	6.4	1.1		板目	ⅠＡ型式	
W986	P15-W1103	559図PL124	P15区	河道６	上層	人形	10.9	4.9	0.4		板目	不明	
W987	P15-W1235	559図	P15区	河道６	上層	馬形	17.8	2.35	0.7		板目	ⅠＡa型式	
W988	P15-W1227	559図	P15区	河道６	上層	馬形	21.0	3.0	0.8		板目	ⅡＡa型式	
W989	P15-W1321	559図	P15区	河道６	上層	馬形	17.7	3.3	1.8		板目	ⅡＡa型式	
W990	P15-W1282	559図	P15区	河道６	上層	馬形	△ 13.0	2.55	0.6		板目	ⅡＡa型式	
W991	P15-W1101	559図	P15区	河道６	上層	馬形	13.1	2.2	0.45		板目	ⅡＢa型式	
W992	P15-W1204	559図	P15区	河道６	上層	馬形	19.6	3.7	0.7		板目	ⅡＡa/ⅡＢa型式	
W993	P15-W1486	559図	P15区	河道６	上層	舟形	20.5	5.8	3.0		柾目	立体舟形A類	
W994	P15-W1442	559図PL133	P15区	河道６	上層	エブリ形	14.5	2.1	0.6		板目		
W995	P15-W1224	559図PL134	P15区	河道６	上層	エブリ形	4.75	1.5	0.2		板目		
W996	P15-W1101	559図	P15区	河道６	上層	刀形	△ 26.1	2.5	0.5		板目	A類	
W997	P15-W1339	559図	P15区	河道６	上層	斎串	25.6	1.3	0.9		板目	E類	
W998	P15-W697	560図	P15区		Ⅳ層	斎串	△ 7.1	1.1	0.6		板目	ＣⅠ類	
W999	P15-W689	560図	P15区		Ⅴ層	人形	△ 10.6	2.7	0.5		板目	IVA型式	
W1000	P15-W864	560図	P15区		Ⅴ層	人形	△ 16.05	2.8	2.4		板目	IVA型式	
W1001	P15-W410	560図	P15区		Ⅴ層	人形	△ 19.4	4.3	0.7		板目	ⅠＡ型式	
W1002	P15-870	560図PL124	P15区		Ⅴ層	人形	△ 20.4	2.5	0.5		板目	ⅢＡ型式	
W1003	P15-W986	560図PL128	P15区		Ⅴ層	馬形	23.0	3.1	0.7		板目	ⅡＡa型式	
W1004	P15-W426	560図	P15区		Ⅴ層	馬形	14.0	2.3	0.9		板目	ⅡＡa型式	
W1005	P15-W812	560図	P15区		Ⅴ層	馬形	18.3	2.1	0.7		板目	ⅡＢa型式	
W1006	P15-W866	560図PL122	P15区		Ⅴ層	馬形	19.5	△ 3.75	△ 0.9		板目	ⅡＡb型式	
W1007	P15-W475	560図	P15区		Ⅴ層	馬形	18.7	4.1	△ 1.4		板目	ⅡＡb型式	
W1008	P15-W799	560図	P15区		Ⅴ層	馬形	19.0	2.7	1.1		板目	ⅡＢc型式	
W1009	P15-W519	560図	P15区		Ⅴ層	馬形	△ 17.7	3.9	△ 0.7		板目	ⅡＢc型式	
W1010	P15-W828	560図	P15区		Ⅴ層	馬形	14.25	3.1	0.6		板目	Ⅲ類	
W1011	P15-W467	560図	P15区		Ⅴ層	馬形	△ 16.15	3.25	0.45		板目	Ⅲ類	
W1012	P15-W698	560図PL132	P15区		Ⅴ層	斎串	29.1	2.7	0.7		板目	ＡⅠ類	
W1013	P15-W1027	560図	P15区		Ⅴ層	斎串	△ 26.9	1.8	0.6		板目	ＣⅠ類	
W1014	P15-W675	560図	P15区		Ⅴ層	斎串	△ 16.0	2.8	0.5		板目	ＣⅡ類	
W1015	P15-W1083	560図	P15区		Ⅴ層	刀子形	23.2	2.4	0.8		板目		
W1016	P15-W123	560図	P15区		Ⅴ層	不明形代	△ 20.7	△ 3.5	0.95		板目		
W1017	P16-W365	561図	P16区	盛土３５	盛土内	人形	13.1	2.65	0.55		板目	ⅠＡ型式	
W1018	P16-W355	561図PL125	P16区	盛土３５	盛土内	人形	11.1	3.0	0.7		板目		側面人形
W1019	P16-W486	561図	P16区	道路２	盛土内	人形	11.0	3.3	0.6		板目	ⅠＡ型式	
W1020	P16-W366	561図	P16区	盛土３５	盛土内	馬形	13.75	1.8	0.6		板目	ⅡＢa型式	
W1021	P16-W347	561図	P16区	条里４５	盛土内	舟形	49.9	△ 5.4	6.0		板目	立体舟形A類	
W1022	P16-W400	561図	P16区	道路２	盛土内	馬形	22.4	4.6	0.6		板目	ⅡＤc型式	
W1023	P16-W333	562図	P16区	盛土３２	盛土内	人形	8.5	2.0	0.4		柾目	ⅠＡ型式	
W1024	P16-W424	562図	P16区	盛土３２	盛土内	人形	△ 9.8	△ 0.9	0.4		板目	ⅠＡ型式	
W1025	P16-W416	562図	P16区	盛土３２	盛土内	人形	△ 8.35	2.05	0.4		板目	ⅠＡ型式	
W1026	P16-W467	562図PL120	P16区	盛土３２	盛土内	人形	△ 9.8	△ 1.4	0.3		板目	ⅠＡ型式	
W1027	P16-W312	562図	P16区	盛土３２	盛土内	人形	△ 10.8	2.1	0.5		板目	IVA型式	
W1028	P16-W420	562図	P16区	盛土３２	盛土内	人形	△ 12.95	2.6	0.4		板目	ⅠＡ型式	

表67　木製祭祀具観察表(22)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	分類	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ				
W1029	P16-W429	562図	P16区	盛土３２	盛土内	人形	△ 11.3	2.0	0.4		板目	ＩA型式	
W1030	P16-W428	562図	P16区	盛土３２	盛土内	人形	△ 9.8	2.5	0.4		柾目	IVA型式	
W1031	P16-W405	562図	P16区	盛土３２	盛土内	人形	△ 13.4	2.7	0.7		板目	IVA型式	
W1032	P16-W419	562図	P16区	盛土３２	盛土内	人形	△ 15.8	△ 3.5	0.5		板目	IVA型式	
W1033	P16-W457	562図PL125	P16区	盛土３２	盛土内	人形	△ 16.4	6.2	0.5		板目	不明	
W1034	P16-W308	562図PL123	P16区	盛土３２	盛土内	人形	62.35	4.2	0.6		板目	IVA型式	
W1035	P16-W386	562図	P16区	盛土３２	盛土内	馬形	15.7	3.95	0.8		板目	ⅡBa型式	
W1036	P16-W264	562図	P16区	盛土３２	盛土内	馬形	17.8	3.8	0.6		板目	ⅢDa型式	
W1037	P16-W309	562図	P16区	盛土３２	盛土内	馬形	18.8	3.1	0.4		板目	ⅢBc型式	
W1038	P16-W429	562図	P16区	盛土３２	盛土内	斎串	△ 13.5	1.7	0.8		板目	CⅡ類	
W1039	P16-W304	562図	P16区	盛土３２	盛土内	斎串	△ 7.9	2.8	0.4		板目	CⅡ類	
W1040	P16-W402	562図	P16区	盛土３２	盛土内	斎串	△ 17.7	1.4	0.4		板目	CⅠ類	
W1041	P16-W426	562図	P16区	盛土３２	盛土内	斎串	△ 10.4	2.1	0.6		板目	CⅠ類	
W1042	P16-W425 P16-W427	562図	P16区	盛土３２	盛土内	斎串	△ 30.6	1.8	0.6		板目	CⅠ類	
W1043	P16-W321	562図	P16区	盛土３２	盛土内	斎串	37.7	1.75	0.8		板目	E類？	
W1044	P16-W320	562図PL132	P16区	盛土３２	盛土内	斎串	52.3	2.1	0.4		板目	BⅣ類	
W1045	P16-W458	562図	P16区	盛土３２	盛土内	不明	△ 26.5	3.8	0.5		柾目		
W1046	P16-W452	563図	P16区	土坑９	埋土中	斎串	△ 62.9	1.5	0.3		板目	E類	
W1047	P16-W444	563図	P16区	土坑９	埋土中	斎串	17.1	1.8	0.4		板目	AⅡ類	
W1048	P16-W549	564図PL120	P16区		Ⅳ層	人形	13.6	2.6	0.4		板目	ＩA型式	
W1049	P16-W85	564図	P16区		Ⅳ層	人形	△ 15.6	2.93	0.5		板目	IVA型式	
W1050	P16-W119	564図PL123	P16区		Ⅳ層	人形	△ 36.0	4.0	0.8		板目	Ⅳ類	
W1051	P16-W217	564図PL125	P16区		Ⅳ層	人形	△ 12.7	4.8	0.7		板目	Ⅳ類	
W1052	P16-W49	564図	P16区		Ⅳ層	馬形	13.7	2.75	0.1		板目	Ⅳ類？	
W1053	P16-W323	564図	P16区		Ⅳ層	馬形	20.9	4.8	0.9		板目	ⅡAa型式	
W1054	P16-W28	564図	P16区		Ⅳ層	馬形	17.9	3.3	0.8		板目	ⅡAa型式	
W1055	P16-W141	564図	P16区		Ⅳ層	馬形	15.9	2.7	0.7		板目	ⅠBa型式	
W1056	P16-W138	564図	P16区		Ⅳ層	馬形	14.75	2.3	0.6		板目	ⅡBa型式	
W1057	P16-W152	564図PL127	P16区		Ⅳ層	馬形	10.2	1.9	0.6		板目	ⅢDa型式	
W1058	P16-W253	564図	P16区		Ⅳ層	馬形	14.1	2.2	0.6		板目	ⅢBb型式	
W1059	P16-W205,W219	564図	P16区		Ⅳ層	舟形	30.2	△ 4.7	2.5		柾目	立体舟形A類	
W1060	P16-W123	564図PL133	P16区		Ⅳ層	エブリ形	21.5	2.95	0.7		板目		
W1061	P16-W40	564図	P16区		Ⅳ層	エブリ形	△ 12.9	2.0	3.4		板目		
W1062	P16-W42	564図	P16区		Ⅳ層	刀形	39.95	2.5	1.05		板目	A類	
W1063	P16-W42	564図	P16区		Ⅳ層	刀形	33.0	2.2	0.4		板目	A類	
W1064	P16-W126	564図	P16区		Ⅳ層	刀形	△ 25.8	2.4	0.5		板目	A類	
W1065	P16-W284	564図	P16区		Ⅳ層	斎串	18.2	0.9	0.4		板目	E類	
W1066	P16-W199	564図PL133	P16区		Ⅳ層	斎串	△ 17.0	0.75	1.5		板目	CⅠ類	
W1067	P16-W555	564図	P16区		Ⅳ層	斎串	25.0	1.3	0.5		板目	BⅢ類	
W1068	P16-W469	564図	P16区		Ⅳ層	不明	△ 5.4	2.1	0.9		板目		

表68　木製品観察表（1）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ			
W1069	P1-W382	566図	P1区		Ⅳ層	連歯下駄	25.3	10.1	1.7		柾目	
W1070	P1-W977	566図	P1区	溝２	埋土中	連歯下駄	21.2	10.9	3.1		柾目	
W1071	P1-W401	566図	P1区	溝２	埋土中	円形曲物	13.6	△ 9.1	1.1		板目	
W1072	P1-W538	566図	P1区		Ⅳ層	円形曲物	△ 14.2	△ 7.3	0.7		柾目	
W1073	P1-W54	566図	P1区		Ⅳ層	栓蓋	4.8	5.7	2.3	マツ属複雑管束亜属	横木取り	
W1074	P1-W179	566図PL147	P1区		Ⅳ層	椀(刳物)	口径※ 12.0	底径※ 9.6	器高 4.5		縦木取り	
W1075	P1-W381	566図	P1区		Ⅳ層	杯(挽物)	口径※ 25.0	底径※ 18.2	器高 4.8	ケヤキ	柾目	漆器
W1076	P1-W1739	566図PL145	P1区	溝２	埋土中	皿(挽物)	口径※ 18.8	底径※ 15.0	器高 2.1		横木取り	漆器
W1077	P1-W1131	566図	P1区	溝２	埋土中	皿/杯(挽物)	口径 -	底径※ 13.2	器高 △ 2.1		横木取り	漆器
W1078	P1-W140	566図	P1区		Ⅳ層	皿(挽物)	口径※ 17.3	底径※ 13.0	器高 1.9	ケヤキ	縦木取り	漆器
W1079	P1-W571	566図	P1区		Ⅳ層	皿/杯(挽物)	口径 -	底径※ 14.3	器高 △ 1.5		横木取り	漆器
W1080	P1-W1531	566図	P1区	溝２	埋土中	皿(挽物)	口径※ 19.2	底径※ 15.8	器高 2.0	ケヤキ	横木取り	漆器・底部外面斜格子の線刻あり
W1081	P1-W946	566図	P1区		Ⅳ層	合子(挽物)	口径※ 21.0	底径※ 22.2	器高 9.7	ケヤキ		漆器
W1082	P1-W937	566図	P1区	溝２	埋土中	部材	14.3	△3.5	1.5		柾目	
W1083	P1-W1333	566図	P1区	溝２	埋土中	部材	△11.8	1.7	0.6		柾目	
W1084	P1-W443	566図	P1区	溝２	埋土中	付け木	8.5	1.0	6.0		板目	先端が炭化
W1085	P1-W446	566図	P1区	溝２	埋土中	不明品	△ 20.2	3.1	1.9		板目	
W1086	P1-W620	566図	P1区	溝２	埋土中	付け木	△ 14.8	1.85	1.0		板目	先端が炭化
W1087	P1-W471	566図	P1区	溝２	埋土中	付け木	31.5	1.6	1.0		板目	先端が炭化
W1088	P1-W1761	567図	P1区		Ⅳ層	部材	50.7	4.5	3.6		板目	
W1089	P1-W1474	567図PL151	P1区	溝２	埋土中	有頭棒状品	29.2	2.5	1.9		芯去	
W1090	P1-W124	567図	P1区		Ⅳ層	部材	43.6	17.0	2.0		板目	
W1091	P1-W522	567図	P1区		Ⅳ層	楔	11.5	6.2	4.0		板目	
W1092	W10-767	568図	10区	条里２	盛土内	木錘	△ 16.55	6.95	6.45		芯持ち材	
W1093	W10-234	568図PL140	10区		Ⅳ層	糸枠	19.9	1.3	1.7		柾目	
W1094	W10-824	568図	10区		Ⅳ層	横櫛	△ 3.5	△ 4.8	1.0			
W1095	W10-60	568図PL140	10区		Ⅳ層	経巻具	41.8	△10.6	3.3		追柾目	地機の部材
W1096	W10-1001	568図	10区		不明	連歯下駄	22.4	9.4	3.0			
W1097	W10-800	568図	10区	条里１	盛土内	連歯下駄	26.9	13.3	3.3	スギ	柾目	
W1098	W10-1004	568図	10区		不明	連歯下駄	27.3	11.4	2.4		板目	
W1099	W10-100	568図	10区		Ⅳ層	弓	123.2	2.1	1.7		芯持ち材	
W1100	W10-69	569図	10区		不明	円形曲物	43.7	43.8	1.0	スギ	柾目	漆塗り・樺皮結合
W1101	W10-W1552	569図	10区	条里２	盛土内	槽/盤(刳物)	34.7	△ 7.9	△ 5.3		縦木取り	
W1102	W10-848	569図	10区		Ⅳ層	栓蓋	口径 -	底径※ 9.9	器高 2.0	ヤマグワ	縦木取り	漆塗り
W1103	W10-232	569図	10区	条里２	盛土内	漆器	口径 -	底径 -	器高 △ 4.1		縦木取り	台付廻か
W1104	W10-670	569図	10区		Ⅳ層	椀(挽物)	口径 -	底径※ 18.3	器高 △ 2.4			漆器
W1105	W10-51	569図	10区		Ⅳ層	鉢(挽物)	口径 -	底径※ 13.7	器高 △ 4.3			漆器・轆轤目あり
W1106	W10-1069	569図PL151	10区		Ⅳ層	不明品	△6.3	1.2	0.8		板目	
W1107	W10-221	569図	10区		Ⅳ層	部材	26.0	8.3	6.2		柾目	
W1108	W10-1657	569図	10区	条里１	盛土内	部材	△31.6	4.4	2.5		板目	
W1109	W10-388	569図	10区		Ⅳ層	部材	16.6	△10.0	7.5		板目	車輪状
W1110	W10-68	569図	10区		Ⅳ層	鍬	15.5	8.4	4.2		板目	
W1111	W10-1540	569図	10区	条里２	盛土内	部材	60.7	4.1	1.1		板目	
W1112	P2-W155	570図	P2区		Ⅳ層	経巻具？	14.5	8.3	1.5		板目	
W1113	P2-W658	570図PL140	P2区		Ⅳ層	糸枠	10.9	2.4	0.8		板目	
W1114	P2-W704	570図	P2区		Ⅳ層	糸枠	20.7	1.6	1.4	スギ	板目	
W1115	P2-W343	570図	P2区		Ⅳ層	連歯下駄	24.6	△5.9	1.7		板目	
W1116	P2-W14	570図PL145	P2区		Ⅳ層	檜扇	△15.1	3.6	0.5		板目	

表69　木製品観察表（２）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ			
W1117	P2-W694	570図 PL145	P2区		Ⅳ層	楊扇	△11.0	2.7	0.4		板目	
W1118	P2-W661	570図	P2区		Ⅳ層	針状品	19.1	2.5	1.6		板目	
W1119	P2-W356	570図	P2区		Ⅳ層	把手付容器？	△17.6	△12.9	△6.3		板目	
W1120	P2-W673	570図	P2区		Ⅳ層	円形曲物	17.5	△17.7	0.9		板目	樺皮結合
W1121	P2-W158	570図	P2区		Ⅳ層	円形曲物	12.6	△9.8	0.7		板目	釘結合
W1122	P2-W657	570図	P2区		Ⅳ層	皿(挽物)	口径　-	底径※　13.0	器高　△ 1.5		横木取り	漆器
W1123	P2-W177	570図 PL151	P2区		Ⅳ層	部材	△25.9	2.5	1.6		柾目	
W1124	P2-W675	570図	P2区		Ⅶ層	有頭棒状品	△20.0	2.6	2.0		板目	
W1125	P2-W266	570図	P2区		Ⅳ層	棒状品	44.3	2.1	1.5		柾目	
W1126	P2-W661	570図	P2区		Ⅳ層	部材	27.5	4.6	3.3		柾目	木釘穴4箇所あり
W1127	P2-W22	570図	P2区		Ⅳ層	部材	27.0	5.0	2.1		板目	
W1128	W9-53	571図	9区		Ⅳ層	槽/盤(刳物)	14.1	8.1	3.0	スギ	柾目	
W1129	W9-65	571図	9区		Ⅳ層	杯・椀(挽物)	口径※　△ 8.9	底径※　△ 7.8	器高　1.8			漆器
W1130	W9-50	571図 PL151	9区		Ⅳ層	部材	19.3	2.7	1.2		柾目	
W1131	W9-69	571図	9区		Ⅳ層	木樋	△ 81.6	16.8	12.9		板目	炭化部分あり
W1132	W8-515	572図	8区		Ⅴ層	高足型田下駄	29.8	40.6	11.0	スギ		
W1133	W8-438	572図	8区		Ⅳ層	椀/槽(刳物)	口径※　24.6	底径※　6.2	器高　8.0		横木取り	
W1134	W8-125	572図	8区		Ⅳ層	皿(挽物)	口径　-	底径　-	器高　2.6	ケヤキ	柾目	漆器
W1135	W8-85	572図	8区		Ⅳ層	木鍬	△ 7.1	0.9	0.9		板目	
W1136	W8-118	572図	8区		Ⅳ層	匙	△ 16.3	△ 4.6	1.6		板目	
W1137	W8-372	573図	8区		Ⅳ層	部材	36.3	23.6	5.5		柾目	
W1138	W8-35	573図 PL151	8区		Ⅳ層	部材	△27.2	7.5	6.0		芯去	
W1139	W8-291	573図	8区		Ⅳ層	部材	57.5	4.8	3.0		柾目	
W1140	P3-W1727	574図	P3区	条里８	盛土内	篦	13.85	5.15	0.8	スギ	板目	
W1141	P3-W2695	574図 PL135	P3区		Ⅳ層	柄(鎌)	△35.3	2.6	1.9		芯去	
W1142	P3-W2450	574図	P3区		Ⅴ層	櫂	△51.7	8.7	1.9		柾目	
W1143	P3-W1198	574図	P3区	条里８	盛土内	枠型田下駄	△25.5	6.4	1.2		板目	
W1144	P3－W2789	574図	P3区	条里５	盛土内	板型田下駄	40.9	17.6	3.2		板目	
W1145	P3-W1038	574図	P3区	条里５	盛土内	枠型田下駄	48.3	△ 8.8	1.5	スギ	板目	転用材の可能性
W1146	P3-W300	574図	P3区		Ⅳ層	枠型田下駄	39.3	10.6	1.6		柾目	
W1147	P3-W1035	574図	P3区	条里５	盛土内	枠型田下駄	40.2	10.7	1.8		板目	
W1148	P3-W2883	574図	P3区	条里１０	盛土内	枠型田下駄	40.9	10.5	1.8		板目	
W1149	P3-W2919	574図	P3区	条里５	盛土内	板型田下駄	20.5	20.2	3.1		板目	
W1150	P3-W2260	574図	P3区	条里９	盛土内	枠型田下駄	37.5	9.1	1.1		板目	
W1151	P3-W2259	574図	P3区	条里９	盛土内	枠型田下駄	37.5	9.4	1.1		板目	
W1152	P3-W53	575図	P3区		Ⅳ層	高足型田下駄	△11.0	23.0	2.0		板目	
W1153	P3-W2694	575図	P3区		Ⅳ層	高足型田下駄	26.3	9.6	2.8		板目	
W1154	P3-W864	575図	P3区	条里８	盛土内	高足型田下駄	19.6	8.6	2.0		板目	
W1155	P3-W442	575図	P3区		Ⅳ層	高足型田下駄	31.3	4.2	2.5		板目	
W1156	P3-W2737	575図	P3区		Ⅳ層	高足型田下駄	38.0	5.6	2.6		板目	
W1157	P3-W47	575図	P3区		Ⅳ層	高足型田下駄	41.4	6.7	2.5		板目	
W1158	P3-W955	575図	P3区	条里８	盛土内	経巻具	17.2	15.1	2.1		板目	
W1159	P3-W674	575図	P3区	条里５	盛土内	紡織具？	△21.2	2.8	1.2		板目	枠の支え木か
W1160	P3-W2291	575図	P3区		Ⅳ～Ⅴ層	経送具？	50.5	11.3	1.8		板目	
W1161	P3-W135	575図 PL139	P3区		Ⅵ層	穂摘具	△8.7	6.2	1.2		柾目	
W1162	P3-W2509	575図 PL139	P3区		Ⅵ層	穂摘具	5.7	△12.3	0.7		柾目	
W1163	P3-W2976	576図	P3区	条里８	盛土内	田舟？	△28.2	△49.9	5.8		横木取り	
W1164	P3-W62	576図	P3区		Ⅴ層	ヤス	△28.1	1.3	1.2		芯去	
W1165	P3-W2670	576図	P3区		Ⅶ層	ヤス	15.8	0.7	0.6		柾目	
W1166	P3-W3078	576図	P3区		Ⅹ層	ヤス	△16.6	0.9	0.6		板目	

表70　木製品観察表（3）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ			
W1167	P3-W2208	576図	P3区	条里１０	盛土内	アカ取り？	△48.3	24.9	2.6		板目	
W1168	P3-W1021	576図	P3区		Ⅳ層	アカ取り	35.0	11.8	6.5	スギ	横木取り	
W1169	P3-W2268	576図PL142	P3区	条里９	盛土底面	アカ取り	34.6	9.9	2.9		縦木取り	
W1170	P3-W3093	576図	P3区		Ⅶ層	櫂	△46.6	12.5	1.7		板目	
W1171	P3-W2811	576図	P3区	条里５	盛土内	檜扇	△ 24.8	2.0	0.8		板目	刃物による割れあり
W1172	P3-W498	576図	P3区	条里５・６	盛土内	下駄	△ 14.8	7.1	1.6	カヤ	板目	
W1173	P3-W3116	577図PL142	P3区	盛土４	盛土内	弓	134.7	4.7	4.6	イヌガヤ	芯持ち材	漆塗り
W1174	P3-W2969	577図PL144	P3区	条里８	盛土内	連歯下駄	25.2	10.3	1.5		板目	
W1175	P3-W2625	577図	P3区	畦畔３	盛土内	容器(刳物)	口径　-	底径※　28.5	器高　△ 5.0		横木取り	
W1176	P3-W2968	577図	P3区	条里８	盛土内	椀(刳物)	口径※　12.5	底径※　7.6	器高　△ 6.2		横木取り	
W1177	P3-W2689	577図PL147	P3区		Ⅳ層	槽/盤(刳物)	△14.0	△5.0	1.1		横木取り	底部外面「×」線刻あり
W1178	P3-W367	577図	P3区		Ⅳ層	槽/盤(刳物)	43.3	△ 7.2	8.3	スギ	縦木取り	脚付き
W1179	P3-W3019	577図	P3区		Ⅴ層	皿(刳物)	△28.5	△13.6	1.4		横木取り	
W1180	P3-W3014	578図	P3区	条里８	盛土内	槽(容器)	△26.9	△11.9	1.9		縦木取り	
W1181	P3-W2192	578図PL151	P3区	条里１０	埋土	栓	17.4	7.8	3.3		板目	
W1182	P3-W3019	578図	P3区		Ⅴ層	部材	16.5	4.0	4.7		板目	
W1183	P3-W1056	578図	P3区	条里８	埋土	不明品	18.2	3.0	1.3		柾目	
W1184	P3-W45	578図PL151	P3区		Ⅳ層	部材	21.7	15.1	5.8		柾目	2点が組み合う
W1185	P3-W2933	578図	P3区	条里５	盛土内	不明品	19.4	△13.6	7.4		横木取り	
W1186	P3-W971	578図	P3区	条里８	盛土内	部材	△24.8	4.3	3.6		柾目	
W1187	P3-W46	578図	P3区		Ⅳ層	部材	12.3	21.7	2.3		板目	
W1188	P3-W1351	578図	P3区	条里８	盛土内	不明品	△35.0	△6.5	2.4		板目	
W1189	P3-W1178	578図	P3区	条里９	盛土内	不明品	15.3	4.1	0.8		板目	
W1190	P3-W566	578図	P3区		Ⅳ層	部材	19.5	7.5	1.6		板目	
W1191	P3-W471	579図	P3区	条里５	盛土内	建築部材	△176.6	28.0	7.6		柾目	
W1192	P3-W536	579図	P3区	条里５	盛土内	建築部材	86.4	13.2	1.5		柾目	
W1193	P3-W2955	579図	P3区	条里８	盛土内	部材	40.2	2.2	2.0		板目	
W1194	P3-W2135	579図	P3区		Ⅷ層	部材	△53.0	5.5	1.8		柾目	
W1195	P3-W2216	579図	P3区	条里１０	盛土内	部材	57.3	3.2	2.3		芯去	
W1196	P3-W1931	579図	P3区	条里８	盛土内	部材	△79.3	4.1	2.8		芯去	
W1197	P3-W2726	579図	P3区	条里１０	盛土内	建築部材？	△42.3	13.1	1.3		板目	
W1198	P3-W1628	579図	P3区	条里８	盛土内	不明品	24.9	△8.0	2.4		板目	
W1199	P3-W1657	579図	P3区	条里８	盛土内	不明品	△25.9	3.7	1.6		板目	
W1200	P3-W2293	579図	P3区		Ⅴ層	部材	19.6	3.7	1.1		板目	
W1201	P3-W129	579図	P3区		Ⅳ層	木とんぼ	3.0	△ 13.0	1.2	スギ	柾目	炭化部分あり
W1202	P4-W442	580図	P4区		Ⅳ層	杓子	18.2	△ 4.8	0.6	スギ	柾目	
W1203	P4-W1884	580図	P4区		Ⅷ層	ヤス	19.3	0.9	0.6		板目	
W1204	P4-W1024	580図	P4区	条里１２	盛土内	ヤス	11.0	0.6	0.5		板目	
W1205	P4-W851	580図	P4区	条里１３	盛土内	鋤柄	14.1	4.1	△1.0		芯持ち	
W1206	P4-W775	580図	P4区	条里１３	盛土内	鋤柄	18.6	3.9	3.0		芯持ち	
W1207	P4-W1873	580図	P4区		Ⅶ層	板型田下駄	43.9	△30.4	2.5		板目	
W1208	P4-W1730	580図	P4区		Ⅶ層	板型田下駄	32.3	22.3	2.1		板目	
W1209	P4-W1731	580図	P4区		Ⅶ層	板型田下駄	34.5	26.6	2.4		板目	
W1210	P4-W1376	580図	P4区	畦畔８	盛土内	板型田下駄	23.0	△15.6	2.1		板目	
W1211	P4-W1622	580図	P4区		Ⅵ層	板型田下駄	40.2	24.0	2.2		板目	
W1212	P4-W1844	581図	P4区	畦畔１２	盛土内	板型田下駄	50.0	△16.1	2.3		板目	
W1213	P4-W409	581図	P4区		Ⅳ層	枠型田下駄	46.0	16.3	2.6		板目	
W1214	P4-W1367①	581図	P4区		Ⅴ層	枠型田下駄	40.9	11.4	10.3		板目	
W1215	P4-W866	581図	P4区	条里１３	盛土内	枠型田下駄	44.0	14.5	2.2		柾目	

表71　木製品観察表（４）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ			
W1216	P4-W1728	581図	P4区	条里１２	盛土内	枠型田下駄	44.7	13.9	1.9		板目	裏面にも炭化部分あり
W1217	P4-W1199	581図	P4区	条里１２	盛土内	枠型田下駄	52.9	10.8	0.8		板目	
W1218	P4-W1063	581図	P4区	条里１２	盛土内	枠型田下駄	43.5	8.2	1.2		板目	
W1219	P4-W713	581図	P4区	条里１１	盛土内	枠型田下駄	44.1	11.3	1.2	スギ	板目	曲物転用・漆塗り
W1220	P4-W777	582図	P4区	条里１１	盛土内	枠型田下駄	△39.3	9.5	1.1		板目	曲物転用・漆塗り
W1221	P4-W1238	582図	P4区	条里１２	盛土内	板型田下駄	44.2	10.9	2.7		板目	
W1222	P4-W1028	582図	P4区	条里１２	盛土内	板型田下駄	48.2	10.7	2.6		追柾目	
W1223	P4-W1398	582図	P4区		Ⅴ層	板型田下駄	57.4	15.5	3.2		柾目	
W1224	P4-W1477	582図	P4区		Ⅴ層	板型田下駄	53.2	12.7	2.0		板目	
W1225	P4-W1456	582図	P4区		Ⅵ層	板型田下駄	34.2	△18.7	2.2		板目	
W1226	P4-W1272	582図	P4区		Ⅴ層	板型田下駄	47.5	16.2	1.7		板目	
W1227	P4-W1177	582図	P4区		Ⅴ層	板型田下駄	47.0	13.9	2.3		板目	
W1228	P4-W1647	582図	P4区	畦畔８	Ⅴ層	板型田下駄	25.1	14.5	1.7		板目	
W1229	P4-W1186	582図	P4区		Ⅴ層	板型田下駄	33.3	16.2	2.1		板目	
W1230	P4-W799	583図	P4区	条里１１	埋土	高足型田下駄	45.3	27.4		縦木：スギ 横木：スギ		
W1231	P4-W1367③	583図	P4区	畦畔８	Ⅴ層	枠型田下駄	△20.5	5.2	1.6		板目	
W1232	P4-W1181	583図	P4区		Ⅴ層	高足型田下駄	8.5	△22.5	3.8		板目	
W1233	P4-W1035	583図	P4区	条里１２	埋土	枠型田下駄	38.5	7.3	1.3		板目	
W1234	P4-W1409	584図	P4区		Ⅴ層	高足型田下駄	40.5	15.0	1.4		板目	
W1235	P4-W724	584図	P4区	条里１１	埋土	高足型田下駄	30.1	13.4	1.7		板目	
W1236	P4-W1362	584図	P4区		不明	木錘	15.05	6.6	6.75	ヤブツバキ	芯持ち材	
W1237	P4-W1352	584図	P4区	条里１２		経巻具	95.5	15.0	3.9	スギ	横木取り	地機の部材
W1238	P4-W928	584図 PL140	P4区	条里１３	盛土内	経巻具	16.7	15.4	2.1		柾目	
W1239	P4-W1710	584図	P4区		Ⅵ層	大型槽？	△39.7	△10.7	△7.2		横木取り	
W1240	P4-W639	585図	P4区	条里１１	盛土内	把手付槽	△ 41.1	△ 31.2	△ 9.0	スギ	横木取り	
W1241	P4-W1621	585図	P4区	－	Ⅵ層	把手付槽	△51.4	21.9	△10.9		横木取り	
W1242	P4-W1818	585図	P4区	畦畔１２	盛土内	舟	△140.6	△29.4	4.6		芯持ち丸太	
W1243	P4-W855	586図	P4区	条里１３	盛土内	舟	△65.9	△11.8	5.5		芯持ち丸太	
W1244	P4-W630	586図	P4区	条里１１	盛土内	舟	△50.3	△29.2	7.8		芯持ち丸太	楔5箇所あり
W1245	P4-W1118	586図 PL142	P4区	－	Ⅳ層	アカ取り	32.1	△8.7	2.5		横木取り	
W1246	P4-W1231	586図	P4区	条里１２	盛土内	アカ取り	30.7	△ 10.5	4.7	スギ	縦木取り	
W1247	P4-W872	586図 PL142	P4区	条里１３	盛土内	アカ取り	26.7	△13.6	1.7		横木取り	
W1248	P4-W1422	587図 PL142	P4区		Ⅴ層	アカ取り	36.3	△13.5	2.9		横木取り	
W1249	P4-W1874	587図 PL144	P4区		Ⅵ層	連歯下駄	26.0	△10.4	2.1		柾目	
W1250	P4-W1417	587図	P4区		Ⅴ層	槽/盤(刳物)	18.7	9.0	0.8		柾目	
W1251	P4-W1475	587図	P4区		Ⅴ層	槽/盤(刳物)	28.5	14.7	6.2	スギ	縦木取り	内面に炭化部分あり
W1252	P4-W690	587図 PL149	P4区	条里１１	盛土内	円形曲物	7.0	6.8	0.9		柾目	釘結合
W1253	P4-W1221	587図	P4区	条里１２	盛土内	円形曲物	9.8	9.4	0.9		板目	釘結合
W1254	P4-W1722	587図	P4区	条里１２	盛土内	蓋板	19.0	△ 8.2	0.6	スギ	柾目	
W1255	P4-W1145	587図	P4区	条里１１	盛土内	円形曲物	△41.2	△16.7	1.3		板目	樺皮結合
W1256	P4-W1099	588図	P4区	条里１２	盛土内	方形曲物	58.4	11.3	0.9	スギ	板目	樺皮結合
W1257	P4-W544	588図	P4区		Ⅳ層	円形曲物	45.6	△16.2	1.4		板目	樺皮結合・漆塗り
W1258	P4-W1893	588図	P4区		Ⅸ層	匙	△ 19.2	5.4	0.8		縦木取り	
W1259	P4-W1418	588図	P4区		Ⅴ層	栓	△14.9	7.5	4.2		柾目	
W1260	P4-W1540	588図	P4区		Ⅴ層	栓	9.3	5.2	2.3		芯去	
W1261	P4-W1008	588図	P4区	条里１１	盛土内	栓	8.4	8.1	3.3		追柾目	
W1262	P4-W50	588図	P4区		Ⅳ層	不明品	△ 7.1	2.4	0.6		板目	
W1263	P4-W1271	588図	P4区		Ⅴ層	不明品	54.9	15.1	3.1		板目	
W1264	P4-W723	588図	P4区	条里１１	埋土	部材	35.3	3.8	1.9		板目	

表72　木製品観察表(5)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ			
W1265	P4-W776	588図	P4区	条里１３	埋土	部材	△18.7	6.2	1.3		板目	
W1266	P4-W1216	588図	P4区	条里１２	埋土	部材	19.5	7.5	2.8		板目	
W1267	P4-W1247	588図	P4区	条里１２	埋土	部材	△27.5	4.8	1.0		柾目	
W1268	P4-W1703①	588図	P4区	条里１２	埋土	不明品	27.9	1.7	1.1		板目	
W1269	P4-W371	588図	P4区		Ⅳ層	不明品	△25.3	2.2	0.9		板目	
W1270	P4-W1140	588図	P4区	条里１２	埋土	不明品	25.1	2.8	1.5		板目	
W1271	P4-W794	589図	P4区		Ⅳ層	不明品	12.6	13.8	9.7		板目	
W1272	P4-W1367④	589図	P4区		Ⅴ層	部材	20.2	△14.2	3.4		板目	
W1273	P4-W1430	589図	P4区		Ⅴ層	組	△26.8	11.9	4.1		柾目	
W1274	P4-W1553	589図	P4区		Ⅵ層	部材	△50.3	2.7	1.4		追柾目	
W1275	P4-W404	589図	P4区		Ⅳ層	棒状品	32.5	1.2	1.1		追柾目	
W1276	P4-W374	589図	P4区		Ⅳ層	棒状品	20.6	2.1	1.7		板目	
W1277	P4-W617	589図	P4区	条里１１	盛土内	枠材	△22.2	2.1	1.4		芯去	
W1278	P4-W1556①	589図	P4区		Ⅵ層	有頭棒状品	△18.5	1.4	1.2		柾目	
W1279	P4-W1764	589図	P4区		Ⅴ層	部材	29.5	22.1	4.0		柾目	
W1280	P4-W1336	589図	P4区	条里１２	盛土内	玉状	2.7	2.7	0.9		板目	
W1281	P4-W1207	589図	P4区	条里１２	盛土内	柄(鎌？)	△31.2	7.0	2.7		芯持ち丸太	表面黒漆塗り
W1282	P4-W471	589図	P4区		Ⅳ層	不明品	△44.2	15.4	3.0		板目	
W1283	P4-W1198	590図	P4区	条里１２	盛土内	建築部材	△155.8	△11.8	1.0		板目	
W1284	P4-W1875	590図	P4区	畦畔８	盛土内	建築部材	171.4	18.0	2.6		板目	舷側板？
W1285	P4-W451	590図	P4区		Ⅳ層	建築部材	93.9	△20.3	4.2		追柾目	
W1286	P4-W786	590図	P4区	条里１１	盛土内	建築部材・壁板？	△130.0	14.0	2.0		柾目	側面に溝の彫り込み多数
W1287	P4-W1484	590図	P4区		Ⅴ層	部材	50.7	5.7	2.4		板目	
W1288	P4-W1711	590図	P4区	条里１３	盛土内	建築部材	△66.4	13.0	10.5		芯去	
W1289	P4-W1147	590図	P4区	条里１１	盛土内	部材	50.0	△11.7	2.5		横木取り	
W1290	W7-10	591図	7区		Ⅲ～Ⅳ層	杓子	26.0	5.8	1.4		板目	
W1291	W7-1000	591図	7区	条里１４	盛土内	高足型田下駄	44.0	3.5	2.3		板目	
W1292	W7-？	591図	7区	条里１５・盛土８	盛土内	不明品	14.4	△3.4	0.5		板目	
W1293	W7-600	591図	7区	盛土８	盛土内	部材	45.8	△15.7	2.4		板目	
W1294	W7-628	591図	7区	条里１４	盛土内	不明品	△45.9	△19.0	4.1		横木取り	内面全面炭化
W1295	P5-W295①	592図	P5区	盛土９	盛土内	工具柄	△102.0	3.8	3.0		板目	
W1296	P5-W727②	592図	P5区	盛土７	盛土内	工具柄	△10.0	2.4	0.9		板目	
W1297	P5-W745	592図	P5区	盛土７	盛土内	鋤柄	10.8	3.0	2.2		芯去	
W1298	P5-W194	592図	P5区	盛土７	盛土内	木錘	△8.8	6.2	5.8		芯持ち	
W1299	P5-W191	592図	P5区	盛土７	盛土内	木錘	△7.2	6.1	6.1		芯持ち	
W1300	P5-W860	592図	P5区	溝７	埋土中	板型田下駄	38.6	16.5	1.9		板目	
W1301	P5-W791	592図	P5区	土坑４	埋土中	板型田下駄	32.6	△18.7	2.2		板目	
W1302	P5-W804	592図	P5区	土坑４	埋土中	板型田下駄	26.0	23.7	2.3		板目	
W1303	P5-W708	592図	P5区	条里１５	盛土内	板型田下駄	39.0	18.9	2.6		追柾目	
W1304	P5-W317	592図	P5区	条里１４	盛土内	枠型田下駄	51.0	11.7	1.1	スギ	縦板目	曲物転用
W1305	P5-W32	592図	P5区	盛土９	盛土内	板型田下駄	47.0	13.5	2.0		板目	
W1306	P5-W862	593図	P5区		Ⅵ層	板型田下駄	43.2	15.5	1.7		板目	
W1307	P5-W316	593図	P5区	盛土９	埋土中	板型田下駄	40.5	15.4	1.7		板目	
W1308	P5-W688	593図	P5区		Ⅴ層	板型田下駄	36.5	19.6	2.1		板目	
W1309	P5-W823	593図	P5区	条里１４	盛土内	板型田下駄	35.5	18.8	2.6		板目	裏面全面炭化
W1310	P5-W624	593図	P5区	条里１４	盛土内	板型田下駄	60.3	18.5	1.8		板目	
W1311	P5-W474	593図	P5区	条里１４	盛土内	板型田下駄	50.7	10.0	2.2		板目	転用材か
W1312	P5-W149	593図	P5区		Ⅳ層	板型田下駄	35.1	17.6	1.9		板目	
W1313	P5-W399	593図	P5区	盛土７	盛土内	高足型田下駄	43.8	41.3	2.1		板目	

表73　木製品観察表（６）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ			
W1314	P5-W453	594図	P5区	条里１４・１５	盛土内	高足型田下駄	38.5	14.9	2.1		柾目	
W1315	P5-W746	594図	P5区	条里１５	盛土内	高足型田下駄	29.8	9.9	2.0		板目	
W1316	P5-W840	594図	P5区	条里１４	盛土内	横	46.9	9.0	7.2	スギ	縦木取り	
W1317	P5-W816	594図	P5区	溝７	埋土中	櫂	△ 49.3	11.4	△ 1.1		板目	
W1318	P5-W592	594図PL142	P5区	条里１４・１５	盛土内	アカ取り	△28.3	△10.7	3.2		横木取り	
W1319	P5-W479①	594図	P5区	条里１５	盛土内	楊扇	22.8	2.9	0.5		板目	
W1320	P5-W73-2	594図	P5区		不明	楊扇	△ 13.4	2.6	0.15		板目	
W1321	P5-W73-2	594図	P5区		不明	楊扇	△ 11.8	2.6	0.15		板目	
W1322	P5-W73-2	594図	P5区		不明	楊扇	△ 13.4	2.6	0.15		板目	
W1323	P5-W71	594図	P5区		Ⅳ層	楊扇	△ 8.2	△ 1.4	0.1	スギ	柾目	
W1324	P5-W71	594図	P5区		Ⅳ層	楊扇	△ 8.4	△ 1.6	0.1	スギ	柾目	
W1325	P5-W73-1	594図	P5区		Ⅳ層	楊扇	△ 13.2	△ 1.7	0.15	スギ	板目	
W1326	P5-W73-1	594図	P5区		Ⅳ層	楊扇	△ 14.0	△ 1.8	0.15	スギ	板目	墨書あり
W1327	P5-W73-1	594図	P5区		Ⅳ層	楊扇	△ 13.9	△ 1.7	0.20	スギ	板目	
W1328	P5-W318	594図	P5区	条里１４	盛土内	円形曲物	49.8	△12.3	1.0		追柾目	樺皮結合
W1329	P5-W767	594図	P5区	盛土７	盛土内	方形曲物	72.4	△11.8	1.4		板目	樺皮結合
W1330	P5-W260	595図	P5区	条里１４	盛土内	杯(挽物)	口径※　17.0	底径※　9.2	器高　3.9	ケヤキ	縦木取り	漆塗り、裏面「×」記号あり
W1331	P5-W549	595図	P5区	盛土９	盛土内	円形曲物	18.2	△16.0	1.0		板目	釘結合
W1332	P5-W143	595図PL147	P5区		Ⅳ層	鉢(刳物)	10.8	8.9	3.1		柾目	
W1333	P5-W117	595図	P5区		Ⅳ層	槽(刳物)	△23.4	△5.6	2.1		横木取り	
W1334	P5-W62	595図PL147	P5区		Ⅳ層	桶(刳物)	口径　-	底径　-	器高　26.5		縦木取り	
W1335	P5-W315	595図	P5区	盛土９	盛土内	容器	35.6	8.6	1.9		横木取り	
W1336	P5-W701	595図	P5区	条里１４	盛土内	容器	△28.3	△5.2	2.2		横木取り	
W1337	P5-W379	595図	P5区	盛土７	盛土内	把手	21.2	2.5	1.5		板目	
W1338	P5-W457	595図PL151	P5区	条里１４	盛土内	火鑽臼	△32.3	3.7	1.9		柾目	
W1339	P5-W279	595図	P5区	盛土７	盛土内	部材	△14.9	1.7	2.0		柾目	
W1340	P5-W336	595図	P5区	盛土９	盛土内	部材	14.7	1.8	0.9		板目	
W1341	P5-W12	596図PL135	P5区		Ⅳ層	鎌柄	△35.5	4.5	2.0		芯持ち	
W1342	P5-W271	596図	P5区	盛土７	盛土内	部材	△21.0	5.5	2.4		板目	
W1343	P5-W548	596図	P5区	条里１４・１５	盛土内	部材	19.6	3.1	2.2		柾目	
W1344	P5-W745	596図	P5区	盛土７	盛土内	有頭棒状品	21.5	2.0	1.3		芯去	
W1345	P5-W539	596図	P5区	盛土９	盛土内	不明品	13.5	9.4	8.8		芯持ち	
W1346	P5-W813	596図	P5区	条里１４	盛土内	棒状品	△39.5	3.3	2.0		芯去	
W1347	P5-W179	596図	P5区		Ⅳ層	部材	△32.6	3.4	1.2		板目	
W1348	P5-W458②	596図	P5区	条里１４	盛土内	部材	△43.9	4.0	2.1		板目	
W1349	P5-W405	596図	P5区	盛土７	盛土内	部材	△59.9	4.9	2.2		板目	
W1350	P5-W832	596図	P5区	条里１４	盛土内	建築部材(垂木)	△130.8	3.0	4.2		芯去	
W1351	P5-W783②	596図	P5区	盛土７	盛土内	棒状品	118.8	2.2	1.6		芯去	
W1352	P6-W1680	597図	P6区	河道７	埋土中	組合わせ平鋤	32.6	10.5	1.1		板目	
W1353	P6-W1484	597図PL138	P6区	盛土１８	盛土内	組合わせ平鋤	33.2	△9.4	1.4		板目	
W1354	P6-W1161	597図	P6区	河道６	埋土中	直柄平鍬	23.6	△ 7.8	1.5		板目	
W1355	P6-W1552	597図	P6区	盛土１８	盛土内	板型田下駄	22.0	19.7	1.6		板目	
W1356	P6-W1556	597図	P6区	盛土１８	盛土内	板型田下駄	29.2	17.3	2.4		板目	
W1357	P6-W1763	597図	P6区	盛土１８	盛土内	板型田下駄	33.8	20.4	2.5		板目	
W1358	P6-W1270	597図	P6区	杭群６		板型田下駄	37.6	△19.4	2.5		板目	
W1359	P6-W1748④	597図	P6区	盛土１８	盛土内	板型田下駄	31.7	△16.9	1.7		追柾目	
W1360	P6-W1035	597図	P6区	盛土１５	盛土内	板型田下駄	22.0	8.5	2.1		柾目	
W1361	P6-W1843	597図	P6区	盛土１８	盛土内	板型田下駄	24.4	△10.7	1.1		追柾目	
W1362	P6-W664	597図	P6区	盛土１１	盛土内	板型田下駄	36.2	15.7	1.9		柾目	

表74　木製品観察表（7）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ			
W1363	P6-W441	597図	P6区	条里１６	盛土内	板型田下駄	40.8	11.7	1.9		板目	
W1364	P6-W717	598図	P6区	盛土１７	盛土内	板型田下駄	35.7	13.0	1.6		板目	
W1365	P6-W1869	598図	P6区	盛土１８	盛土内	板型田下駄	36.4	13.4	2.0		板目	転用材
W1366	P6-W1190	598図	P6区	杭群６		板型田下駄	30.8	18.3	1.6		板目	
W1367	P6-W1748①	598図PL139	P6区	盛土１８	盛土内	穂摘具	△11.0	5.6	0.9		柾目	
W1368	P6-W1115	598図PL140	P6区	河道６	埋土中	経送具	50.5	9.2	1.4		板目	
W1369	P6-W1628	598図	P6区		Ⅴ～Ⅶ層	舟？	△57.4	△11.7	3.8		横木取り	
W1370	P6-W946	598図	P6区	盛土１８	盛土内	アカ取り	42.5	△ 15.8	7.2	スギ	縦板	
W1371	P6-W1230	598図	P6区	盛土１８	盛土内	鞘	△22.2	△5.7	1.2		横木取り	
W1372	P6-W1268	598図	P6区		不明	短甲	△ 9.3	△ 7.1	0.5	ヤマグワ	板目	漆塗り
W1373	P6-W947	598図PL151	P6区		Ⅲ～Ⅳ層	部材	11.9	3.6	1.5		板目	
W1374	P6-W1066	599図	P6区	条里１６	盛土内	槽？	△58.1	△13.7	7.5		横木取り	把手付大型品か
W1375	P6-W442	599図PL144	P6区	条里１６	盛土内	連歯下駄	25.5	11.6	1.7		追柾目	
W1376	P6-W853	599図	P6区	盛土１７・１５	盛土内	蓋板	11.6	△5.1	0.5		板目	
W1377	P6-W1353	599図	P6区	盛土１７	盛土内	円形曲物	33.7	△19.2	1.5		板目	樺皮結合
W1378	P6-W689	599図	P6区	盛土１７	盛土内	楕円形曲物	42.5	△ 14.0	2.3	スギ	板目	
W1379	P6-W1628	599図	P6区		Ⅴ～Ⅶ層	槽(刳物)	口径※　17.4	底径※　14.8	器高　△ 25.7		縦木取り	
W1380	P6-W933	599図	P6区	盛土１１	盛土内	椀(挽物)	口径　-	底径※　10.8	器高　△ 2.5		縦木取り	漆器
W1381	P6-W316	599図	P6区	河道６	盛土内	匙	△ 6.2	△ 9.5	0.5		縦木取り	両面漆塗り
W1382	P6-W1872	599図	P6区	盛土１８	盛土内	刀形木製品？	△38.6	3.6	1.5		板目	
W1383	P6-W1727①	599図	P6区	盛土１８	盛土内	不明品	△17.0	△9.6	1.3		板目	
W1384	P6-W1069	599図	P6区	条里１６	盛土内	部材	△19.4	3.3	1.1		柾目	
W1385	P6-W853	599図	P6区	盛土１５・１７	盛土内	部材	△30.7	2.2	1.2		柾目	
W1386	P6-W387	599図	P6区		Ⅳ～Ⅴ層	有頭棒状品	△33.3	3.9	3.2		板目	垂木か
W1387	P6-W1178	600図	P6区		Ⅴ層	部材	△49.9	5.3	1.7		板目	
W1388	P6-W1233	600図	P6区	盛土１８	盛土内	部材	△48.9	△3.7	1.1		柾目	
W1389	P6-W794	600図	P6区		Ⅳ～Ⅴ層	部材	44.6	3.6	3.0		追柾目	
W1390	P6-W921	600図	P6区	条里１６	盛土内	部材	54.0	3.6	2.9		柾目	
W1391	P6-W1555	600図	P6区	盛土１８	盛土内	部材	△37.2	5.0	2.8		芯去	
W1392	P6-W1194①	600図	P6区		Ⅴ層	不明品	△37.5	2.4	1.2		板目	
W1393	P6-W944 P6-W948	600図	P6区		Ⅲ～Ⅳ層	不明品	23.8	△20.0	△6.6		横木取り	
W1394	P6-W1719	600図	P6区	杭列１０		杭	△140.2	6.4	△6.0		芯去	建築部材転用
W1395	P6-W1438	601図	P6区	盛土１８	盛土内	腰掛	40.2	17.3	11.8	スギ	横木取り	把手付き
W1396	P6-w1206	601図	P6区	盛土１８	盛土内	建築部材	△47.5	11.5	1.5		柾目	
W1397	P6-W225	601図	P6区	盛土１３	盛土内	建築部材	△78.0	19.1	12.1		芯去	抉りあり
W1398	P6-W1849	601図	P6区	盛土１８	盛土内	建築部材	102.2	22.4	1.6		板目	
W1399	P7-W1096	602図PL138	P7区	杭列１１		斧膝柄	△ 22.6	5.1	4.8		芯持材	
W1400	P7-W147	602図	P7区	道路１	盛土内	板型田下駄	30.5	△12.2	2.2		板目	転用材の可能性あり
W1401	P7-W1139	602図	P7区	河道６	中層	板型田下駄	△44.5	18.0	2.0		板目	転用材の可能性あり
W1402	P7-W1201	602図PL139	P7区	河道６	最下層	穂摘具	11.0	4.1	0.9		柾目	
W1403	P7-W650	602図	P7区	盛土２０	盛土内	アカ取り	△22.0	△7.2	1.7		板目	
W1404	P7-W1156	602図	P7区	河道６	下層	盾	△ 115.9	△ 11.4	1.8		板目	
W1405	P7-W307	602図	P7区		Ⅴ層	刀形木製品	△12.2	2.7	△0.8		芯去	
W1406	P7-W193	602図	P7区	道路1側溝	下層	椀(挽物)	口径　-	底径※　5.7	3.0	カエデ属	横木取り	漆器
W1407	P7-W242	602図	P7区	条里１７	盛土内	方形曲物	△36.0	△16.1	0.6		板目	樺皮結合
W1408	P7-W655	602図PL148	P7区	河道６	埋土中	円形曲物	△32.4	△10.4	1.0		板目	樺皮結合
W1409	P7-W1006	602図	P7区	河道９	埋土中	槽(刳物)	△36.4	15.8	3.6		追柾目	
W1410	P7-W149	602図	P7区	道路１	盛土内	槽(刳物)	△50.1	△14.5	2.0		横木取り	
W1411	P7-W9	603図PL150	P7区		Ⅲ層	杓子	21.1	△4.5	1.2		板目	

表75　木製品観察表（８）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ			
W1412	P7-W848	603図	P7区	河道６	下層	部材	△44.3	2.7	2.5		芯持ち材	
W1413	P7-W871	603図	P7区	河道６	下層	脚(机？)	△26.4	△6.5	12.8		横木取り	
W1414	P7-W888	603図	P7区		Ⅵ層	不明品	△25.1	7.7	0.9		板目ヵ	
W1415	P7-W119	603図	P7区	条里２０	盛土内	不明品	10.4	5.4	4.0		芯去	
W1416	P8-W222	604図	P8区	道路1	盛土下層	板型田下駄	35.1	19.6	3.0		板目	
W1417	P8-W372	604図	P8区		Ⅳ層	枠型田下駄	44.9	△6.9	1.5		板目	
W1418	P8-W547	604図	P8区		Ⅵ層	高足型田下駄	34.1	11.8	2.2		柾目	
W1419	P8-W627	604図	P8区		Ⅵ層	穂摘具	△4.7	5.9	0.9		柾目	
W1420	P8-W143	604図PL144	P8区	道路1	中層上面	連歯下駄	23.1	9.0	1.7		板目	
W1421	P8-W627	604図	P8区		Ⅵ層	衣笠	21.4	1.8	4.5	イヌガヤ	芯持材	
W1422	P8-W224	604図	P8区	道路1	下層	槽/盤(刳物)	22.1	△6.5	-		横木取り	
W1423	P8-W355	604図	P8区		Ⅶ層	槽/盤(刳物)	△14.7	7.8	2.2		横木取り	
W1424	P8-W516	604図	P8区		Ⅴ層	方形曲物	35.1	15.3	1.0		板目	樺皮結合
W1425	P8-W381	604図	P8区		Ⅳ層	方形曲物	△31.0	△25.5	0.8		追柾目	樺皮結合
W1426	P8-W168	604図	P8区	道路1	盛土内	皿(挽物)	口径※　19.0	底径※　14.0	器高　1.6		縦木取り	漆器
W1427	P8-W66	604図PL150	P8区	道路1	盛土内	杓子	21.7	△3.7	1.0		板目	
W1428	P8-W283	605図	P8区	溝１０	上層	有頭棒状品	31.2	5.5	4.2		芯持材	
W1429	W5-153	606図	5区		Ⅲ層	蓋(挽物)	10.4	1.8				
W1430	W5-66	606図	5区	条里２６	盛土内	杓子	20.6	6.9	0.8	スギ	板目	
W1431	P9-W952	607図	P9区	河道１２	埋土中	櫂	△27.1	△8.7	1.5		板目	
W1432	P9-W170	607図	P9区	道路１道路外盛土	盛土内	枠型田下駄	44.5	10.3	1.3		板目	
W1433	P9-W762	607図	P9区	河道１２	埋土中	板型田下駄	39.9	13.8	1.4		板目	
W1434	P9-W447	607図	P9区	道路１	灰横粘質土	弓	△ 62.2	2.9	2.8	ケヤキ	横木取り	全面漆塗り
W1435	P9-W169	607図	P9区	道路１道路外盛土	盛土内	横櫛	4.0	5.1	0.95	イスノキ	板目	全面漆塗り
W1436	P9-98,P9-W41,P9-238	607図	P9区	道路１側溝、道路１、道路１道路外盛土		容器(刳物)	口径　-	底径　-	器高　△ 2.9		不明	
W1437	P9-W489	607図	P9区	道路１	盛土内	容器(挽物)	4.55	1.7	0.2			漆器
W1438	P9-W299	607図PL148	P9区	道路１道路外盛土	盛土内	円形曲物	17.3	△9.0	0.7		板目	樺皮結合
W1439	P9-W286 P9-W287	607図	P9区	条里２５	盛土内	円形曲物	16.1	16.15	0.9	スギ	板目	樺皮結合
W1440	P9-W137	607図	P9区	道路１道路外盛土	盛土内	円形曲物	24.4	△11.3	1.0		板目	釘結合・漆塗り
W1441	P9-W295 P9-W296	607図	P9区	道路１道路外盛土	盛土内	円形曲物	12.6	△10.4	0.7		板目	釘結合
W1442	P9-W95	607図	P9区	道路１道路外盛土	盛土内	円形曲物	13.4	△6.6	0.6		板目	釘結合・漆塗り
W1443	P9-W52	607図	P9区	９盛土	盛土内	円形曲物	30.2	△8.6	0.9		板目	樺皮結合・漆塗り
W1444	P9-W182	607図	P9区	道路１道路外盛土	盛土内	不明品	10.5	2.0	2.5		柾目	
W1445	P9-W152	607図	P9区	道路１道路外盛土	盛土内	不明品	8.5	3.3	0.6		板目	
W1446	P9-W677	608図PL140	P9区	河道１１	埋土中	経送具	△ 51.3	13.7	1.5		板目	
W1447	P9-W190	608図	P9区	道路１道路外盛土	盛土内	部材	△34.2	2.5	1.3		柾目	
W1448	P9-W773	608図	P9区	河道１２	埋土中	部材	40.5	2.8	2.2		板目	
W1449	P9-W536	608図	P9区	道路１	盛土内	部材	△11.0	3.4	1.2		板目	
W1450	P9-W458	608図	P9区	河道６	埋土中	部材	10.2	2.2	0.6		板目	
W1451	P9-W242	608図	P9区	道路１道路外盛土	盛土内	部材	8.5	3.3	1.0		板目	
W1452	P10-W1683	609図	P10区		Ⅶ～Ⅷ層	斧柄未成品	△42.6	28.2	5.6		芯持材	
W1453	P10-W589	609図	P10区	河道６	埋土中	斧膝柄	△20.4	5.7	3.3		芯持材	
W1454	P10-W449	609図	P10区	道路１	第1次盛土	工具柄	14.0	3.3	2.9	コナラ属アカガシ亜属	縦板目	鉄製工具の断面形状を残す
W1455	P10-W130	609図	P10区	道路１側溝	古側溝	木針	16.7	1.1	0.4		柾目	
W1456	P10-W1834	609図	P10区	盛土２５	盛土内	木針状	△17.0	1.0	0.9		板目	
W1457	P10-W1616	609図	P10区	盛土２５	盛土内	不明	10.6	2.9	△ 7.5		板目	
W1458	P10-W339	609図PL135	P10区	道路１	第４・５次盛土	横槌	△13.2	6.0	△5.4		芯持ち丸太	外面一部に漆？あり

表76　木製品観察表（9）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ			
W1459	P10-W224	609図 PL135	P10区	道路１道路外盛土	外盛土盛土内	竪杵/木錘	15.1	3.8	2.7		芯持ち材	
W1460	P10-W1331	609図	P10区		Ⅶ層	直柄又鍬未成品	△25.0	21.0	1.5		柾目	
W1461	P10-W1334	609図	P10区		不明	組み合わせ平鋤	△ 22.4	17.2	1.3	ヤマグワ	柾目	
W1462	P10-W1851	609図 PL138	P10区		Ⅷ層	組み合わせ平鋤	△27.1	10.0	1.2		板目	
W1463	P10-W583	609図	P10区		Ⅴ層以下	曲柄又鍬	△16.7	3.7	1.6		柾目	
W1464	P10-W879	610図	P10区	河道６	下層	曲柄平鍬	△ 75.8	7.0	1.9	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	柾目	
W1465	P10-W875	610図	P10区	河道６	下層	曲柄又鍬	△ 48.2	7.4	1.3	コナラ属アカガシ亜属	板目	
W1466	P10-W1289	610図	P10区	盛土２５	盛土内	穂摘具	△ 6.1	△ 4.7	1.2	ヤマグワ	柾目	
W1467	P10-W1286	610図	P10区	盛土２５	盛土内	穂摘具	△ 7.7	△ 5.2	1.0	ヤマグワ	柾目	端が炭化
W1468	P10-W1227	610図	P10区	土坑７	埋土中	穂摘具	△ 8.1	5.1	1.0	ケヤキ		炭化あり
W1469	P10-W1600	610図	P10区	盛土２５	盛土内	穂摘具	△10.1	△5.2	0.8		柾目	
W1470	P10-W1429	610図	P10区	盛土２５	盛土内	板型田下駄	32.4	△10.6	1.7		板目	裏面に擦痕(粗い)あり
W1471	P10-W1074	610図	P10区		Ⅶ層	板型田下駄	29.3	21.1	2.2		板目	
W1472	P10-W348	610図	P10区	道路１道路外盛土	盛土内	板型田下駄	△39.3	15.8	2.8		板目	
W1473	P10-W912	611図 PL140	P10区	道路１	第１次盛土	紡織具？	△10.0	1.6	1.5		板目	
W1474	P10-W912①	611図	P10区	道路１	盛土内	木針	△ 11.5	1.3	0.5	スギ	板目	
W1475	P10-W46	611図	P10区	道路１側溝	新側溝	糸枠	11.3	3.5	1.0	スギ	板目	紡織具
W1476	P10-W1024	611図 PL140	P10区		Ⅴ層以下	紡錘車	5.2	△4.2	2.4		板目	
W1477	P10-W608	611図	P10区	河道１４	最上層	木錘	14.9	6.9	6.5	ヤブツバキ	芯持ち材	
W1478	P10-W846	611図	P10区	河道１４	最上層	アカ取り	△29.7	△10.3	1.9		板目	
W1479	P10-W45	611図	P10区	道路１側溝	新側溝	連歯下駄	△ 19.9	16.8	8.6	スダジイ	縦木取り	
W1480	P10-W1460	611図 PL144	P10区	道路１道路外盛土	盛土内	連歯下駄	26.7	13.3	3.3		柾目	
W1481	P10-W1017	611図 PL145	P10区	道路１	第１次盛土	檜扇	△13.7	2.7	0.6		板目	要の孔に釘が遺存
W1482	P10-W701	611図	P10区	道路１	盛土内	檜扇	△ 24.1	1.6	0.5	スギ	板目	要の孔の釘に楔あり
W1483	P10-W1290	611図	P10区	盛土２５	盛土内	容器(刳物)	口径 -	底径 -	器高 △ 5.1		横木取り	
W1484	P10-W1298	611図	P10区	盛土２５	盛土内	容器(刳物)	口径 -	底径 -	器高 △ 4.2		縦木取り	
W1485	P10-W581	612図	P10区		Ⅶ層	高杯(杯部)	口径※ 17.3	底径 -	器高 4.6	ヤマグワ	柾目	
W1486	P10-W1251	612図	P10区	土坑７	埋土中	高杯(脚部)	5.7	15.5		ケヤキ		
W1487	P10-W1164	612図	P10区	盛土２５	盛土内	高杯(脚部)	口径 -	底径 -	器高 △ 9.5	ケヤキ		赤色塗彩
W1488	P10-W1080②	612図	P10区	道路１	第１次盛土	不明品	△7.8	2.6	0.6		柾目	全面漆り
W1489	P10-W1774	612図	P10区	道路１	第１次盛土	台付鉢(刳物)	12.0	10.0		本体：ヤマグワ 底板：スギ	縦木取り	漆塗り・３孔のうち２孔に栓あり
W1490	P10-W512	612図	P10区	条里２８	盛土内	杯(挽物)	口径 -	底径※ 14.0	器高 △ 1.5			漆器
W1491	P10-W687	612図	P10区	道路１	第１次盛土	椀(挽物)	口径 -	底径※ 13.5	器高 △ 2.0		縦木取り	漆器
W1492	P10-W409	612図 PL145	P10区	道路１	第４・５次盛土	椀(挽物)	口径 -	底径※ 7.8	器高 △ 3.3		縦木取り	漆器
W1493	P10-W353	612図 PL148	P10区	道路１道路外盛土	盛土内	円形曲物	△16.5	△11.2	0.7		柾目	樺皮結合
W1494	P10-W905	612図	P10区	道路１	第１次盛土	蓋板	△18.7	△10.0	0.8		板目	樺皮結合
W1495	P10-W161	612図	P10区	道路１道路外盛土	粗朶層	円形曲物	15.4	15.5	0.5	スギ		樺皮結合
W1496	P10-W65	613図	P10区		不明	円形曲物	16.25	16.0	0.4		板目	樺皮結合
W1497	P10-W516 P10-W507	613図 PL148	P10区	道路１道路外盛土	盛土内	円形曲物	△ 14.7	16.6	0.6		柾目	樺皮結合
W1498	P10-W500	613図 PL149	P10区	道路１側溝	古側溝	円形曲物	13.8	13.6	1.0		板目	釘結合
W1499	P10-W1631	613図	P10区	道路１道路外盛土	盛土内	円形曲物	口径※ △ 13.5	底径※ △ 14.0	器高 4.1	スギ	板目	釘結合・漆塗り
W1500	P10-W447①	613図	P10区	道路１	第１次盛土	円形曲物	9.2	△5.2	0.7		柾目	釘結合・漆塗り
W1501	P10-W167	613図	P10区	道路１道路外盛土	粗朶層	円形曲物	14.0	14.0	0.8	側板大：スギ 側板小：ヒノキ科		釘結合
W1502	P10-W490	613図	P10区	道路１側溝	新側溝	曲物(底板)	△ 29.6	30.5	1.0	底板：スギ 側板：スギ		釘結合
W1503	P10-W475	613図	P10区	条里２９	盛土内	楕円形曲物	※53.2	※32	0.9		板目	樺皮結合
W1504	P10-W1432	614図	P10区	盛土２５	盛土内	蓋板	15.4	△8.3	1.1		追柾目	
W1505	P10-W1813	614図	P10区	土坑７	埋土中	容器・桶？	25.3	14.3	1.0		柾目	目釘あり

表77　木製品観察表(10)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ			
W1506	P10-W341	614図	P10区	道路１	盛土内	杓子	22.1	△ 5.3	△ 0.75	スギ	板目	
W1507	P10-W1704	614図	P10区	道路１	第１次盛土	棒状品	△12.9	0.8	0.6		板目	
W1508	P10-W1387	614図	P10区	盛土２５	盛土内	栓	21.0	5.7	1.9		板目	
W1509	P10-W1833② 2/2	614図	P10区	盛土２５	盛土内	把手？	△22.8	2.4	2.6		縦木取り	
W1510	P10-W458	614図	P10区	道路１	第２次盛土	棒状品	33.1	1.6	1.2		板目	
W1511	P10-W464①	614図	P10区	道路１	第２次盛土	棒状品	△25.5	1.2	1.0		芯去	
W1512	P10-W1019①	614図	P10区	道路１	第１次盛土	不明品	△25.1	2.2	1.7		芯去	斎串の可能性もあり
W1513	P10-W423	614図	P10区	道路１	第４・５次盛土	不明品	21.1	1.5	1.0		柾目	
W1514	P10-W1467	614図	P10区	盛土２５	盛土内	不明品	△22.1	1.2	0.9		柾目	
W1515	P10-W686	614図	P10区	道路１	第１次盛土	不明品	△21.0	1.8	0.6		板目	
W1516	P10-W1654	614図 PL151	P10区	道路１	第１次盛土	火鑽臼	32.3	4.8	2.2		板目	
W1517	P10-W1800	614図	P10区		Ⅷ層以下	不明品	△15.8	2.3	1.5		柾目	
W1518	P10-W354	614図 PL140	P10区	道路１道路外盛土	盛土内	紡織具？	17.1	1.7	1.5		柾目	
W1519	P10-W1209	614図	P10区		Ⅶ層	不明品	11.2	1.3	1.4		柾目	
W1520	P10-W1709	614図	P10区	道路１	第１次盛土	不明品	△9.8	3.3	1.6		芯去	柄か
W1521	P10-W439	614図	P10区	河道６	上面	不明品	△15.8	3.1	2.6		追板目	
W1522	P10-W1127	614図	P10区		Ⅶ層	不明品	△19.1	4.4	1.1		追柾目	
W1523	P10-W1129	614図	P10区		Ⅶ層	不明品	△33.7	5.6	1.3		板目	
W1524	P10-W125	614図	P10区	道路１	盛土内	不明品	10.3	1.3	3.25	スギ	板目	
W1525	P10-W459	614図	P10区	道路１	第２次盛土	不明品	7.4	5.6	2.6	スギ	芯持ち材	
W1526	P10-W593	615図	P10区	河道６	埋土中	不明品	△25.9	△4.4	1.2		芯去	容器？鞘？
W1527	P10-W1375	615図	P10区	盛土２５	盛土内	不明品	△15.5	11.4	1.3		追柾目	
W1528	P10-W1494	615図	P10区	盛土２５	盛土内	不明品	41.8	4.7	1.5		板目	全面炭化
W1529	P10-W1189	615図	P10区	土坑７	埋土中	脚付台	△ 25.1	13.7	6.7		板目	
W1530	P10-W890	615図	P10区	河道６	下層	部材	41.4	7.9	1.6		板目	
W1531	P10-W568	615図	P10区	道路１	盛土内	部材	13.8	5.8	2.1		柾目	
W1532	P10-W967	615図	P10区	河道６	埋土中	部材	21.3	13.5	5.6		板目	
W1533	P10-W421	615図	P10区	道路１	第４・５次盛土	不明品	6.7	△3.3	1.3		板目	
W1534	P10-W421	615図	P10区	道路１	第４・５次盛土	不明品	8.7	△3.0	1.5		板目	
W1535	P10-W421	615図	P10区	道路１	第４・５次盛土	不明品	8.7	△3.7	1.5		板目	
W1536	P10-W385②	615図	P10区	道路１道路外盛土	盛土内	不明品	7.5	△2.4	0.3		板目	
W1537	P10-W1660	615図	P10区	盛土２５	盛土内	杭	△43.7	8.2	△3.7		板目	転用材
W1538	P10-W1196	615図	P10区	土坑７	埋土中	建築部材	122.6	15.6	1.8		板目	表面炭化
W1539	P10-W554	615図	P10区	河道６	埋土中	部材	41.3	4.7	2.2		芯持材	
W1540	P10-W1762	616図	P10区	盛土２５	埋土中	不明品	24.7	32.1	23.5		横木取り	断面「工」字形
W1541	P10-W1272	616図	P10区	盛土２５	盛土内	不明品	27.0	42.4	24.4		横木取り	断面「工」字形
W1542	P10-W1799	616図	P10区	土坑７	埋土中	建築材	△210.0	13.0	5.8		芯去	
W1543	W2-135	617図	2区	道路１側溝	埋土中	木錘	5.0	9.0	5.0		芯持ち材	
W1544	W2-36	617図	2区		Ⅲ層	糸枠	20.9	1.7	1.9	スギ	縦木取り	
W1545	W2-36①	617図	2区		Ⅲ層	楊扇	28.7	1.6	0.3	スギ	板目	
W1546	W2-36②	617図	2区		Ⅲ層	楊扇	△ 15.4	1.7	0.3	スギ	板目	
W1547	W2-36③	617図	2区		Ⅲ層	楊扇	△ 14.5	1.2	0.3	スギ	板目	
W1548	P11-W1674	618図 PL138	P11区		Ⅴ層相当	斧膝柄	△8.5	△8.7	2.2		芯持材	
W1549	P11-W570	618図	P11区		Ⅲ～Ⅳ層	農工具柄	△25.6	3.8	2.1		柾目	
W1550	P11-W326	618図	P11区	道路１側溝	古側溝	工具柄	13.7	2.7	2.6	アオキ	芯持ち材	
W1551	P11-W1269	618図	P11区	河道１４	埋土中	工具柄	△12.9	2.7	1.5		板目	
W1552	P11-W57	618図	P11区	道路１側溝	新側溝	横槌	22.4	6.2	6.1	ヤブツバキ	芯持ち材	農具
W1553	P11-W424	618図	P11区	道路１道路外盛土	盛土内	ヤス	22.7	0.7	0.6		柾目	
W1554	P11-W26	618図	P11区		Ⅳ層	ヤス	11.2	0.6	0.5		板目	

表78　木製品観察表(11)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ			
W1555	P11-W427	618図	P11区	道路１	第４・５次盛土	ヤス	△15.2	1.2	1.0		柾目	
W1556	P11-W1525	618図	P11区	河道６	埋土中	曲柄又鍬	△13.6	△9.5	1.7		板目	
W1557	P11-W1977	618図	P11区	河道１５	埋土中	組み合わせ平鋤	△ 31.2	16.9	2.4	スギ	板目	
W1558	P11-W1795	618図	P11区	河道１５	埋土中	組み合わせ平鋤	△ 39.4	△ 17.0	1.5	コナラ属アカガシ亜属	柾目	
W1559	P11-W1242	618図	P11区	河道１４	埋土中	鍬？	△ 25.2	15.6	1.1		板目	
W1560	P11-W2036	619図	P11区	河道１５	下層(粘土層)	鋤？	△ 37.6	20.5	2.2	スギ	板目	
W1561	P11-W1581	619図	P11区	河道６	上層	櫂？	△23.3	△4.6	1.3		板目	
W1562	P11-W741	619図PL135	P11区	道路１	第３次盛土	鋤柄	△4.3	12.5	4.2		芯持材	楔あり
W1563	P11-W1236	619図	P11区	河道１４	埋土中	臼	△ 11.4	23.7	7.1		縦木取り	
W1564	P11-W71	619図	P11区	道路１側溝	新側溝	横槌	△ 30.6	△ 6.4	△ 6.0	ヤブツバキ	芯持材	
W1565	P11-W885	619図	P11区	道路１	盛土内	縦杵	20.0	4.3	3.6		芯持材	木錘の可能性もあり
W1566	P11-W465	619図	P11区	道路１道路外盛土	盛土内	枠型田下駄	38.4	10.5	1.2		板目	
W1567	P11-W466	619図	P11区	道路１道路外盛土	盛土内	枠型田下駄	△43.2	10.3	1.5		板目	
W1568	P11-W764	619図	P11区	道路１	第３次盛土	高足型田下駄	19.0	6.7	1.0		板目	
W1569	P11-W1886	619図	P11区	河道６	上層	穂摘具	△6.9	△4.0	0.6		柾目	
W1570	P11-W2210	619図	P11区	杭列１４		櫂	49.0	△11.5	1.5		板目	
W1571	P11-W1571	620図	P11区	河道６	埋土中	櫂	△ 111.0	8.8	3.0	ケヤキ	柾目	
W1572	P11-W1558	620図	P11区	河道６	上層	刀形木製品	△ 50.0	4.5	1.5	コナラ属アカガシ亜属	板目	
W1573	P11-W620	620図	P11区	道路１道路外盛土	外盛土盛土内	連歯下駄	19.9	10.1	4.0		縦木取り	
W1574	P11-W325	620図	P11区	道路１側溝	古側溝	連歯下駄	22.0	9.3	4.6	クリ	縦木取り	指の跡へこみ
W1575	P11-W200	620図PL144	P11区	条里３０	盛土下層	連歯下駄	△20.4	8.8	1.4		追柾目	
W1576	P11-W618	620図	P11区	道路１道路外盛土	外盛土盛土内	檜扇	35.0	2.5	0.5		板目	
W1577	P11-W457	620図	P11区	道路１	第４・５次盛土	檜扇	30.5	1.7	0.3	スギ	板目	
W1578	P11-W781	620図	P11区	道路１	盛土内	檜扇	28.6	1.7	0.35	スギ	板目	
W1579	P11-W456	620図	P11区	道路１	第４・５次盛土	檜扇	△ 28.3	1.6	0.4	スギ	板目	
W1580	P11-W409-2	620図	P11区	道路１道路外盛土	盛土内	檜扇	△ 10.1	2.5	0.3		板目	
W1581	P11-W327	620図PL145	P11区	道路１道路外盛土	盛土内	檜扇	△14.5	2.0	0.4		板目	
W1582	P11-W409-1	620図	P11区	道路１道路外盛土	盛土内	檜扇	△ 7.3	1.5	0.2		板目	
W1583	P11-W202	620図PL145	P11区	条里３３	盛土内	桧扇	△7.2	2.7	0.6		板目	
W1584	P11-W432	620図	P11区	道路１道路外盛土	盛土内	檜扇	△ 14.85	1.65	0.35		板目	
W1585	P11-W460	620図	P11区	道路１	第４・５次盛土	檜扇	△ 24.3	1.7	0.3	スギ	板目	
W1586	P11-W569	620図	P11区		Ⅲ～Ⅳ層	檜扇	△ 18.4	1.2	0.4		板目	
W1587	P11-W1856	620図	P11区	河道６	上層	容器(刳物)	口径 -	底径※ 12.1	器高 △ 2.9		横木取り	
W1588	P11-W1845②	620図	P11区	河道１５	埋土中	容器(刳物)	口径 -	底径 -	器高 △ 2.4		横木取り	
W1589	P11-W2192	620図	P11区	盛土２８	盛土内	容器(刳物)	口径 -	底径 -	器高 △ 7.3		横木取り	
W1590	P11-W2310	621図	P11区	河道１５	下層	桶	△ 23.3	△ 12.6	3.5		縦木取り	
W1591	P11-W580	621図	P11区	河道６	上面	円形曲物	△16.9	△7.3	0.6		追柾目	樺皮結合
W1592	P11-W832 P11-W835	621図	P11区	道路１	盛土内	円形曲物	16.4	16.6	0.8	スギ	柾目	樺皮結合
W1593	P11-W453	621図	P11区	道路１道路外盛土	盛土下面	円形曲物	△12.4	△4.1	0.6		板目	釘結合・漆塗り
W1594	P11-W60	621図	P11区	道路１側溝	新側溝	円形曲物	13.6	△13.1	0.6		柾目	釘結合・漆塗り
W1595	P11-W63	621図	P11区	道路１側溝	新側溝	円形曲物	13.7	△12.9	0.9		追柾目	
W1596	P11-W422	621図	P11区	道路１道路外盛土	盛土内	円形曲物	12.3	△5.5	0.4		柾目	釘結合
W1597	P11-W58	621図	P11区	道路１側溝	新側溝	円形曲物	12.2	12.5	0.6		柾目	釘結合、白色付着物あり
W1598	P11-W350	621図PL149	P11区	道路１側溝	古側溝	円形曲物	12.4	11.9	0.6		板目	釘結合
W1599	P11-W402	621図	P11区	道路１道路外盛土	盛土下面	円形曲物	13.4	△7.0	0.5		板目	釘結合
W1600	P11-W108	621図	P11区	条里３３・道路1道路外盛土	盛土内	円形曲物	14.0	△ 6.9	0.7		板目	釘結合
W1601	P11-W780	621図	P11区	条里３３	盛土内	円形曲物	13.0	△6.4	0.8		板目	釘結合
W1602	P11-W405	621図PL149	P11区	道路１道路外盛土	盛土内	円形曲物	14.2	14.5	0.8		板目	釘結合

表79　木製品観察表(12)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ			
W1603	P11-W218	621図	P11区	道路１道路外盛土	外盛土下面	円形曲物	14.1	△7.7	0.7		追柾目	釘結合・漆塗り
W1604	P11-W761	621図PL149	P11区		Ⅳ層	円形曲物	17.8	△16.8	1.0		柾目	釘結合
W1605	P11-W612	621図	P11区	道路１側溝	古側溝	円形曲物	△19.7	△7.4	0.7		板目	釘結合
W1606	P11-W468	622図	P11区	道路１	盛土内	方形曲物	51.0	△ 12.7	0.7		板目	樺皮結合
W1607	P11-W462	622図	P11区	道路１	盛土内	方形曲物	51.2	△ 17.2	1.0	スギ	板目	樺皮結合
W1608	P11-W319	622図	P11区	道路１	盛土内	方形曲物	48.0	14.0	0.8		柾目	樺皮結合
W1609	P11-W417	622図	P11区	道路１	第４・５次盛土	円形曲物	△17.5	△7.3	△0.9		追柾目	
W1610	P11-W1713	622図	P11区		Ⅴ・Ⅵ層相当	匙	30.0	△ 7.0	1.1	イヌガヤ	柾目	
W1611	P11-W427	622図	P11区	道路１	第４・５次盛土	栓？	△9.4	△4.9	2.7		芯持材	
W1612	P11-W897	622図	P11区	河道１６	埋土中	不明品	△20.7	△6.9	2.5		芯持材	
W1613	P11-W35	622図	P11区		Ⅲ層	不明品	△17.7	6.0	1.2		板目	
W1614	P11-W43	622図	P11区	道路１側溝	新側溝	不明品	11.5	1.7	0.8		板目	
W1615	P11-W841①	622図	P11区	道路１	盛土下層	不明品	10.1	1.4	1.0		柾目	
W1616	P11-W752	622図	P11区	道路１	盛土下層	不明品	△17.6	1.8	1.8		柾目	
W1617	P11-W1422	623図	P11区	河道１４	埋土中	部材	32.0	7.4	1.7		柾目	
W1618	P11-W1747	623図	P11区		Ⅴ層相当	付け木	32.6	1.8	0.9		柾目	
W1619	P11-W1866	623図	P11区	河道１５	埋土中	付け木	27.6	0.9	0.6		板目	
W1620	P11-W1846	623図	P11区	河道１５	埋土中	付け木	22.1	1.7	1.0		板目	
W1621	P11-W1749	623図	P11区		Ⅴ・Ⅵ層相当	付け木	14.3	1.1	0.7		板目	
W1622	P11-W1940	623図	P11区	河道１５	埋土中	付け木	21.4	1.5	0.7		板目	
W1623	P11-W1783	623図	P11区	河道１５	埋土中	不明品	△18.8	2.6	2.4		板目	
W1624	P11-W1232	623図	P11区	河道１４	埋土中	不明品	15.4	2.5	1.7		板目	楔状
W1625	P11-W47	623図	P11区	道路１側溝	新側溝	不明品	△12.7	0.8	0.5		板目	
W1626	P11-W38	623図	P11区		Ⅲ層	不明品	△19.5	1.3	0.9		柾目	
W1627	P11-W744	623図	P11区	道路１	盛土内	不明品	20.0	1.9	1.2		板目	簪状
W1628	P11-W293	623図	P11区	道路１道路外盛土	盛土下面	不明品	△22.4	2.4	1.3		柾目	
W1629	P11-W286	623図	P11区	道路１側溝	古側溝	不明品	25.6	1.8	1.0		板目	
W1630	P11-W2280	623図	P11区		Ⅴ層以下	不明品	23.1	△1.9	0.4		板目	篦状
W1631	P11-W772①	623図	P11区	道路１側溝	新側溝	不明品	△33.3	1.4	1.2		板目	棒状
W1632	P11-W1762	623図	P11区	河道６	上層	不明品	△31.5	1.7	1.3		板目	棒状
W1633	P11-W521	623図	P11区	道路１	第５次盛土	部材	29.6	2.7	2.9		柾目	
W1634	P11-W841④	623図	P11区	道路１	第５次盛土	部材	△24.2	4.4	3.0		柾目	楔が遺存
W1635	P11-W1934	623図	P11区	河道１５	上面	不明品	△31.1	3.6	2.8		板目	有頭状
W1636	P11-W2252①	623図	P11区	河道１６	埋土中	不明品	△23.3	3.5	1.1		柾目	
W1637	P11-W1557	623図	P11区	河道６	上層	不明品	△ 12.6	4.6	1.6		板目	一部炭化
W1638	P11-W50	623図	P11区	道路１側溝	新側溝	不明品	△12.4	3.0	0.5		板目	
W1639	P11-W1689	624図	P11区	河道６	上層	不明品	26.5	20.6	22.3		柾目	断面「工」字形
W1640	P11-W396	624図	P11区	道路１道路外盛土	盛土内	不明品	14.0	10.1	△6.0		芯去	表面炭化
W1641	P11-W2179	624図	P11区	盛土２８	盛土内	農具未成品	△38.2	19.3	7.5		ミカン割材	
W1642	P11-W2357	624図	P11区	杭列１２		杭	△179.8	15.2	10.0		芯去	柱材を転用
W1643	P11-W2358	624図	P11区	杭列１２		杭	△161.6	11.6	10.4		芯去	柱材を転用
W1644	P11-W2160	624図	P11区	盛土２８	盛土内	垂木	△130.0	5.6	4.8		芯持材	樹皮が一部残る
W1645	P11-W1637	625図	P11区	木造構造物６		舟舷側板？	203.2	33.4	4.2		板目	建築部材？
W1646	P11-W1611	625図	P11区	河道６	上層	棒状品	43.6	3.0	1.8		板目	
W1647	P11-W1031	625図	P11区	河道１６	埋土中	部材	45.0	1.9	1.4		板目	
W1648	P12-W1180	626図	P12区	河道１８	下層	木針	11.2	1.0	0.7		芯去	
W1649	P12-W306	626図PL135	P12区		Ⅳ層	木針？	27.4	1.7	1.3		柾目	径1mmの孔4箇所あり
W1650	P12-W730	626図PL135	P12区		不明	横槌	16.7	3.5	3.3		芯持ち材	木錘の可能性もあり
W1651	P12-W1301	626図	P12区		Ⅵ層	鋤柄	10.5	2.6	2.5		芯持ち	

表80　木製品観察表(13)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ			
W1652	P12-W661	626図	P12区	条里３６	盛土内	鋤柄	△3.6	14.6	△3.3		芯持ち	
W1653	P12-W1648	626図	P12区		Ⅶ層	組み合わせ平鋤	34.0	14.5	2.2	スギ	柾目	
W1654	P12-W1601	626図	P12区		Ⅶ層	板型田下駄	29.9	22.0	1.9		板目	
W1655	P12-W1606	626図	P12区		Ⅶ層	板型田下駄	27.4	19.0	1.8		板目	
W1656	P12-W1602	626図	P12区		Ⅶ層	板型田下駄	32.1	19.1	3.3		柾目	
W1657	P12-W1610	626図	P12区		Ⅶ層	板型田下駄	40.6	20.5	1.9		板目	
W1658	P12-W1281	627図	P12区	溝１２	上層	板型田下駄	44.6	18.1	2.2		板目	
W1659	P12-W1009	627図	P12区		Ⅴ層	板型田下駄	34.3	18.6	2.0		板目	
W1660	P12-W874	627図	P12区	条里３５	上面粗朶層	枠型田下駄	52.2	12.7	1.7		板目	
W1661	P12-W930	627図	P12区	条里３５	下層	枠型田下駄	53.4	9.6	1.6		板目	
W1662	P12-W1310	627図	P12区		Ⅵ層	穂摘具	△11.1	6.0	1.0		柾目	
W1663	P12-W1120	627図	P12区	河道１８	下層	穂摘具	△7.3	4.2	0.7		柾目	鉄刀を装着す切り込みあり
W1664	P12-W1083	627図	P12区	河道６	上層	経巻具	23.9	12.7	2.0		板目	
W1665	P12-W1227	627図	P12区	溝１２	上層	牖	15.9	12.7	4.2		横木取り	紡織具
W1666	P12-W402	627図PL142	P12区		Ⅳ層	アカ取り	△34.3	11.6	2.1		板目	
W1667	P12-W1356	628図PL143	P12区	河道１８	下層	刀鞘	32.3	△8.2	2.6		柾目	組み合わせ式
W1668	P12-W1556	628図	P12区	河道１９	最下層	盾	△16.6	△10.9	1.0		板目	
W1669	P12-W685-1	628図	P12区	道路１外盛土	盛土内	檜扇	△ 23.0	1.2	0.4		柾目	
W1670	P12-W656	628図PL145	P12区	条里３６	盛土下層	檜扇	△19.7	2.3	0.4		板目	
W1671	P12-W685-2	628図	P12区	道路１外盛土	盛土内	檜扇	△ 31.5	1.15	0.38		柾目	
W1672	P12-W1793	628図	P12区	河道６	埋土中	連歯下駄	23.25	10.85	4.85		横木取り	
W1673	P12-W535 P12-W671	628図PL147	P12区	条里３６	Ⅳ層盛土内	槽/盤(刳物)	15.6	9.3	1.7		横木取り	
W1674	P12-W1066	628図	P12区	道路１	盛土内	槽/盤(刳物)	14.1	8.2	1.2		横木取り	
W1675	P12-W5	628図	P12区		Ⅳ層	槽/舟	58.9	△12.1	1.3		横木取り	
W1676	P12-W97	628図	P12区		不明	蓋	△ 6.7	△ 7.6	1.3		柾目	外面漆塗り
W1677	P12-W1291	628図	P12区		Ⅵ層	蓋板	7.7	△5.3	0.6		板目	
W1678	P12-W9	628図	P12区		Ⅲ～Ⅳ層	蓋板	8.3	△4.2	1.6		柾目	
W1679	P12-W4	628図	P12区		Ⅲ層	蓋板	8.3	△4.4	0.6		柾目	
W1680	P12-W1198	628図	P12区		Ⅵ層	容器？	△7.6	△4.2	1.0		不明	
W1681	P12-W910	629図	P12区	道路１	第５次盛土	椀(挽物)	口径※　11.7	底径※　8.5	器高　4.3	ケヤキ	板目	漆器
W1682	P12-W673	629図	P12区	条里３６	盛土下層	椀(挽物)	口径　-	底径※　7.4	器高　△ 3.9	モクレン属	横木取り	漆器
W1683	P12-W128 P12-W125	629図PL149	P12区		Ⅳ層	円形曲物	15.1	14.5	0.9		板目	釘結合・漆塗り
W1684	P12-W421	629図PL149	P12区		Ⅳ層	円形曲物	13.4	13.0	0.8		板目	釘結合
W1685	P12-W1200	629図	P12区	溝１２	埋土中	匙	△ 26.0	△ 5.3	△ 2.6	ヤマグワ	縦木取り	
W1686	P12-W1024	629図PL150	P12区	道路１	盛土内	杓子	27.1	7.0	1.3		板目	
W1687	P12-W724	629図	P12区	河道１４	埋土中	火鑽臼	△ 20.4	3.3	1.7		柾目	
W1688	P12-W680 P12-W724	629図PL151	P12区	条里３７ 河道１４		火鑽臼	△21.9	4.2	1.5		柾目	
W1689	P12-W321	629図	P12区		Ⅳ層	棒状品	△20.2	1.4	1.2		芯去	
W1690	P12-W902	629図	P12区		Ⅰ層	不明品	△16.7	6.5	2.0		芯去	
W1691	P12-W601	629図PL151	P12区	条里３６	盛土内	部材	20.2	4.5	1.7		板目	
W1692	P12-W262	629図	P12区	道路1側溝	埋土中	部材	17.7	5.1	3.7	スギ	縦木取り	紡織具？
W1693	P12-W1492	629図	P12区	河道１９	最下層	梯子	△45.3	12.0	2.2		板目	
W1694	P12-W716	629図	P12区		Ⅴ層	部材	△37.4	3.4	1.9		柾目	
W1695	P12-W1504	629図	P12区	河道１８	下層	柱材	△33.8	17.5	14.1		芯去	
W1696	P12-W203	630図	P12区		Ⅴ層	腰掛	34.8	△ 13.4	器高　17.20	モミ属	横木取り	樺皮紐の結合
W1697	P13-W1339	631図PL138	P13区	河道６	埋土中	斧膝柄	△25.1	13.4	2.8		芯持ち	
W1698	P13-W627	631図	P13区	条里３８	盛土内	枠型田下駄	△43.7	12.2	1.6		板目	
W1699	P13-W1157	631図	P13区	条里３８	盛土内	枠型田下駄	42.6	10.0	1.8		板目	

表81　木製品観察表（１４）

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			樹種	木取り	備考
				遺構	層位		長さ	幅	厚さ			
W1700	P13-W1459	631図 PL139	P13区	溝１３	埋土中	穂摘具	△11.4	5.6	1.1		柾目	
W1701	P13－W1150	631図 PL140	P13区	道路１	盛土内	糸枠	△ 7.2	△ 10.3	1.6	スギ	柾目	
W1702	P13-W75	631図	P13区	道路１	盛土内	糸枠	△6.9	2.3	0.5		柾目	
W1703	P13-W15	631図 PL130 PL144	P13区		Ⅲ～Ⅳ層	連歯下駄	22.2	10.3	2.1		追柾目	
W1704	P13-W532	631図 PL147	P13区		Ⅳ層	鉢(刳物)	18.2	△7.5	1.3		横木取り	
W1705	P13－W464	631図	P13区		不明	槽/盤(刳物)	19.3	10.6	3.5	スギ	横木取り	
W1706	P13-W1204	631図	P13区	条里３８	盛土内	容器(指物)	3.9	14.5	1.0		板目	
W1707	P13-W1204	631図	P13区	条里３８	盛土内	容器(挽物)	△1.7	△11.7	0.5		板目	漆器
W1708	P13－W1222	631図	P13区	河道６	盛土内	容器(指物)	17.9	20.2	△ 1.1		板目	
W1709	P13-W630	632図 PL149	P13区	条里３８	盛土内	円形曲物	13.5	13.2	0.7		追柾目	釘結合
W1710	P13-W1171	632図	P13区	条里３８	盛土内	方形曲物	△9.8	△35.3	0.9		板目	樺皮結合
W1711	P13-W627	632図	P13区	条里３８	盛土内	方形曲物	△4.1	10.3	0.5		板目	樺皮結合
W1712	P13-W1	632図	P13区		Ⅳ層	棒状品	△9.5	0.5	0.5		芯去	箸か
W1713	P13－W1498	632図	P13区		Ⅵ層	櫂	118.0	△ 12.3	2.3	スギ	板目	
W1714	P13-W1294	632図	P13区		Ⅵ層	妻壁板	△65.0	13.4	1.1		板目	
W1715	P13-W1297	632図	P13区		Ⅵ層	妻壁板	48.0	9.2	1.1		板目	
W1716	P13-W1469	632図	P13区		Ⅸ層	用途不明品	28.0	1.6	0.45	スギ	板目	炭化部分あり
W1717	P13-W863	632図	P13区	条里３８	盛土内	部材	31.0	9.5	3.9		追柾目	
W1718	P13-W4	632図	P13区		Ⅳ層	部材	17.2	10.0	3.0		柾目	
W1719	P13-W433	632図	P13区		Ⅳ層	部材	△25.9	3.9	1.4		板目	
W1720	P13－W84	632図	P13区		Ⅳ層	部材	3.3	1.8	1.4		横木取り	
W1721	P13－W611	632図	P13区	盛土３１	盛土内	不明品	△ 11.2	3.8	1.3		板目	
W1722	P13-W1367	633図	P13区		Ⅶ層	棒状品	51.3	1.9	1.4		追柾目	
W1723	P13-W1290	633図	P13区	溝１３	埋土中	建築部材	△77.6	6.6	3.7		板目	炭化部分あり
W1724	P13-W685	633図	P13区	条里３８	盛土内	部材	△72.5	4.4	4.0		板目	
W1725	P14-W1110	634図	P14区	河道６	埋土中	農工具柄	80.5	5.4	3.0		板目	
W1726	P14-W1298	634図	P14区		Ⅸ層	斧柄未成品	△ 13.3	15.6	6.5	ニシキギ属		炭化部分あり、樹皮付着
W1727	P14-W54	634図	P14区		Ⅳ層	枠型田下駄	39.9	9.8	1.9		柾目	
W1728	P14-W1241	634図	P14区		Ⅶ層	高杯	口径※ 19.7	底径 -	器高 △ 3.6		横木取り	
W1729	P14-W71	634図	P14区		Ⅲ層	円形曲物	8.7	△6.3	0.7		板目	釘結合・漆塗り
W1730	P14-W111	634図	P14区		Ⅳ層	円形曲物	△ 12.6	13.0	0.6		板目	釘結合・中央が炭化
W1731	P14-W872	634図	P14区	道路Ⅰ	盛土内	不明品	△ 18.9	△ 2.7	2.3		柾目	
W1732	P14-W770	634図	P14区	条里４２	盛土内	アカ取り	31.3	△9.0	1.4		横木取り	
W1733	P14-W1078	634図	P14区	河道６	埋土中	舟	△170.8	△18.2	1.7		横木取り	
W1734	P14-W847	634図	P14区		Ⅴ層	部材	△ 18.0	2.3	1.2		板目	
W1735	P14-W558	634図	P14区		不明	曲物	12.6	△ 2.3	0.7		板目	焼印あり
W1736	P14-W762	634図	P14区	条里４１	盛土内	部材	11.0	2.1	1.0		板目	
W1737	P15-W1018	635図 PL138	P15区		Ⅴ層	掛矢	49.1	16.3	10.5		芯持材	
W1738	P15-W715	635図	P15区		Ⅳ層	工具柄	14.7	1.9	1.3	スギ	縦木取り	
W1739	P15-W1083	635図	P15区		Ⅴ層	木針	9.0	0.6	0.5		芯去	
W1740	P15-W750	635図	P15区	盛土３２	盛土内	木針	8.3	1.1	0.4	スギ	板目	
W1741	P15-W960	635図	P15区	盛土３２	盛土内	枠型田下駄	△48.8	11.7	1.6		板目	田下駄を転用？
W1742	P15-W1593	635図	P15区		Ⅶ層	槽/盤(刳物)	△33.5	△10.2	1.6		横木取り	
W1743	P15-W1021	635図 PL148	P15区	盛土３３	盛土上層	円形曲物	15.6	14.6	0.5		柾目	樺皮結合
W1744	P15-W956	635図	P15区	盛土３２	盛土下層	円形曲物	△16.2	△6.3	0.6		板目	樺皮結合
W1745	P15-W1005	635図	P15区	盛土３３	盛土下層	円形曲物	16.3	17.1	0.8		板目	釘結合・漆塗り
W1746	P15-W32	635図	P15区	盛土３３	盛土層	円形曲物	△14.8	△9.9	0.8		板目	釘結合
W1747	P15-W928	635図 PL145	P15区	盛土３２	盛土下層	椀(挽物)	口径 -	底径※ 8.1	器高 2.4		縦木取り	漆器

表82　木製品観察表(15)

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置 遺構	出土位置 層位	器種	法量(cm) 長さ	法量(cm) 幅	法量(cm) 厚さ	樹種	木取り	備考
W1748	P15-W715	635図	P15区		不明	横櫛	8.5	2.4	1.3	イスノキ	板目	全面漆塗り
W1749	P15-W1339	635図	P15区	河道６	埋土中	横櫛	△ 7.5	2.9	1.3		板目	
W1750	P15-W779	635図	P15区		Ⅴ層	把手付槽？	△24.9	△4.7	1.9		追柾目	
W1751	P15-W757	635図	P15区		Ⅴ層	部材	24.7	1.2	0.5		柾目	
W1752	P15-W70	635図	P15区		Ⅳ層	部材	11.1	1.7	0.9		柾目	
W1753	P15-W1446	636図	P15区	河道６	中層	不明品	30.4	△8.0	2.7		板目	
W1754	P15-W1890	636図	P15区		Ⅷ層	部材	△22.3	6.2	3.7		板目	
W1755	P15-W1736	636図	P15区	木製構造物１１		部材	△30.3	5.4	2.9		板目	
W1756	P15-W1900	637図	P15区		不明	舟	△ 630.0	△ 68.0	△ 11.0		－	修復孔あり
W1757	P16-W225	638図	P16区		Ⅳ層	枠型田下駄	45.5	10.6	2.0		板目	
W1758	P16-W215	638図	P16区		Ⅳ層	穂摘具	5.9	△ 9.6	1.0	ヤマグワ	柾目	
W1759	P16-W415	638図	P16区	盛土３２	盛土内	穂摘具	7.6	10.8	1.1	コナラ属アカガシ亜属	柾目	鉄刃付き
W1760	P16-W572	638図PL142	P16区		Ⅴ層	アカ取り	△33.3	13.5	2.6		横木取り	
W1761	P16-W560	638図	P16区		Ⅳ層	槽(刳物)	23.4	△9.3	1.8		縦木取り	
W1762	P16-W281	638図PL145	P16区	盛土３２	盛土内	椀(挽物)	口径 -	底径 13.0	器高 △ 3.0		横木取り	漆器
W1763	P16-W423	638図PL144	P16区	盛土３２	盛土内	連歯下駄	△24.4	11.0	10.6		柾目	
W1764	P16-W426	638図	P16区	盛土３２	盛土内	不明品	△ 16.65	1.8	0.6		板目	
W1765	P16-W298	638図PL151	P16区		Ⅳ層	不明品	12.8	2.1	0.8		板目	
W1766	P16-W401	638図	P16区	道路２	盛土内	蓋板	8.9	5.0	0.5	スギ	板目	

表83　木簡観察表（１）

報告番号	PL番号	仮番号	木簡研究			シンボ番号	調査年度	出土地区	出土位置		出土層位等の時期	取上番号	釈文	法量（㎜）			樹種木取り	型式	保存処理
			36号	37号	38号				遺構	層位				長さ	幅	厚さ			
1	639図 PL154	54	—	—	二 (18)	24	2015	P1区	—	Ⅳ層相当層	10世紀代	P1-W750	・「八月廿四日（合点） ・「（合点）□ （合点）□□ □	(95)	33	9	スギ 板目	019	高級アルコール真空凍結
2	639図 PL154	72	—	—	—	—	2015	P 1区	—	Ⅳ層相当層	10世紀代	P1-w171	（合点）□□□□□┌　┘□□□〔廿六束カ〕	(191)	(14)	4	ヒノキ科 柾目	081	高級アルコール真空凍結
3	639図 PL154	70	—	—	—	—	2015	P 1区	溝２ (17流路)	Ⅳ層相当層下層	８世紀代	P1- w 932 a	□原□取七十五□勝マ□〔束カ〕 □五十□〔束カ〕	(117)	24	8	スギ 板目	081	高級アルコール真空凍結
4	639図 PL154	71	—	—	—	—	2015	P 1区	溝２ (17流路)	Ⅳ層相当層下層	８世紀代か	P1- w 932 b	□□□稲二百六□〔束カ〕	(123)	24	8	スギ 板目	081	高級アルコール真空凍結
5	639図 PL154	41	—	—	二 (19)	23	2015	P1区	—	Ⅳ層相当層下層	８世紀以降か	P1-W102	・「三度卅八束」 ・「二度□束〔廿カ〕」	127	25	4	スギ 柾目	011	高級アルコール真空凍結
6	640図 PL155	3	(４)	—	—	18	2013	10区	条里２	—	10世紀後半	W10-187 W10-253	・　・ 日置郷戸主「　」人解申正税稲 「　」〔件正税カ〕□□□束九月内将進上「　」 ・　・ 若過期限給罪進畢納□〔仍カ〕事注状以解 填納申所□田放手進上□〔期カ〕	(327)	(42)	7	スギ 板目	081	高級アルコール

表84　木簡観察表（2）

報告番号	PL番号	仮番号	木簡研究			シンボ番号	調査年度	出土地区	出土位置		出土層位等の時期	取上番号	釈文	法量（mm）			樹種木取り	型式	保存処理
			36号	37号	38号				遺構	層位				長さ	幅	厚さ			
7	641図 PL155	2	(5)	—	—	17	2013	10区	条里2	—	10世紀後半	W10-201 W10-253	・〔官カ東九月カ〕 ・□稲□□□内将進上 〔給カ〕 □□罪進納畢仍事注状以解　□□［　］ ・右件税正官稲東九月内将進上□□田弐枚 □　□　□　□　税　官　□	(234)	43	7	スギ板目	081	高級アルコール
8	642図 PL154	9	—	(9)	—	14	2013	10区	—	Ⅳ層	10世紀後半～11世紀前半	W10-411	・□人□□无上三□」〔界カ〕 ・□无量□聖　」	(153)	(16)	5	スギ板目	018	高級アルコール
9	642図 PL154	6	(3)	—	—	20	2013	10区	—	Ⅳ層	10世紀後半～11世紀前半	W10-50	「＜黒稲一石」	200	32	8	スギ板目	033	高級アルコール
10	642図 PL154	12	—	(8)		16	2013	10区	—	Ⅳ層	10世紀後半～11世紀前半	W10-855	〔納カ〕 □期限過由□	(177)	(32)	5	スギ板目	081	高級アルコール
11	642図 PL156	4	(6)	—	—	19	2013	10区	—	Ⅳ層	10世紀後半～11世紀前半	W10-187-2	石□□	(174)	(31)	5	スギ板目	081	高級アルコール
12	643図 PL165	11	—	(6)	—	15	2013	10区	—	Ⅳ層	10世紀後半～11世紀前半	W10-1451 W10-1457	「（符籙）	(303)	30	9	スギ板目	019	高級アルコール
13	643図 PL156	59	—	—	—	21	2013	10区	—	Ⅳ層	10世紀代	W10-439	□	(96)	(11)	2	スギ板目	081	高級アルコール真空凍結

表85　木簡観察表（３）

報告番号	PL番号	仮番号	木簡研究			シンボ番号	調査年度	出土地区	出土位置		出土層位等の時期	取上番号	釈文	法量（㎜）			樹種木取り	型式	保存処理
			36号	37号	38号				遺構	層位				長さ	幅	厚さ			
14	643図 PL156	60	—	—	—	22	2013	10区	—	Ⅳ層	10世紀後半～11世紀前半	W10-915	［　］	35	13	2	ヒノキ科柾目	081	高級アルコール真空凍結
15	644図 PL156	16	—	（7）	—	13	2013	8区	—	Ⅳ-1・2層	10世紀後半～11世紀前半	W8-103	嶋□（比カ）子三月廿三日	(149)	35	5	スギ板目	081	高級アルコール
16	644図 PL156	32	—	—	二（20）	25	2015	P3区	盛土２	—	10世紀後半	P3-W16	「勝部郷保長吉継」	193	22	6	スギ板目	051	高級アルコール真空凍結
17	644図 PL157	69	—	—	—	—	2015	P3区	条里５	盛土内	10世紀後半代	P3-w718	「角子	(81)	22	2	スギ板目	019	高級アルコール真空凍結
18	644図 PL165	48	—	—	二（21）	26	2015	P3区	—	Ⅳ層	10世紀後半	P3-W2704	「＜赤尾木」	250	30	5	ヒノキ板目	033	高級アルコール真空凍結
19	644図 PL156	5	（1）	—	—	9	2013	7区	条里14	—	10世紀後半	W7-139	「自此一段　嶋北古	(226)	29	9	ヒノキ板目	019	高級アルコール
20	644図 PL156	35	—	—	二（1）	27	2015	P5区	条里14・15	盛土上層	１０世紀後半	P5-W200	［　］	(98)	23	3	スギ板目	081	高級アルコール真空凍結
21	644図 PL156	13	—	（3）	—	11	2013	7区	—	Ⅳ層	10世紀後半～11世紀前半	W7-466a	□□七人＜	(121)	37	3	スギ板目	081	高級アルコール

表86　木簡観察表（４）

報告番号	PL番号	仮番号	木簡研究			シンポ番号	調査年度	出土地区	出土位置		出土層位等の時期	取上番号	釈文	法量（mm）			樹種木取り	型式	保存処理
			36号	37号	38号				遺構	層位				長さ	幅	厚さ			
22	645図 PL157	10	—	—	—	10	2013	7区	—	Ⅳ-2層	10世紀後半～11世紀前半	W7-299 W7-300	・□　□　□　□　　□　□ ・□□□不□□今□参向□□□ 八月廿二日［　］	(401)	(28)	6	スギ 板目	081	高級アルコール
23	645図 PL157	14	—	(10)	—	12	2013	7区	—	Ⅳ層	10世紀後半～11世紀前半	W7-466b	「［　］<	(319)	61	5	スギ 板目	019	高級アルコール
24	646図 PL156	57	—	—	—	28	2015	P 6	盛土14		10世紀代	P6-W204	「<赤稲」	232	19	6	スギ 板目	033	高級アルコール 真空凍結
25	646図 PL158	47	—	—	二(13)	29	2015	P7区	道路1外盛土	盛土内	10世紀後半	P7-W58	「□□（勝部カ）□□□□［　］□［（郷カ）　］ ［　］女［　］」	183	29	4	スギ 板目	011	高級アルコール 真空凍結
26	646図 PL157	1	(2)	—	—	8	2013	5区	—	Ⅳ-2層	10世紀後半～11世紀前半	W5-89	□戸田租一石」	(133)	24	6	スギ 板目	059	高級アルコール
27	646図 PL157	7	—	—	—	7	2013	5区	—	Ⅳ-2層	10世紀後半～11世紀前半	W5-116	「□□（人カ）	(120)	15	6	スギ 板目	061	高級アルコール

表87　木簡観察表（５）

報告番号	PL番号	仮番号	木簡研究			シンボ番号	調査年度	出土地区	出土位置		出土層位等の時期	取上番号	釈文	法量（㎜）			樹種木取り	型式	保存処理
			36号	37号	38号				遺構	層位				長さ	幅	厚さ			
28	646図 PL157	39	—	—	—	32	2015	P9区	道路1 外盛土	盛土内	10世紀後半	P9-W162-1	□ □□	(95)	(23)	2	スギ板目	081	高級アルコール真空凍結
29	646図 PL158	40	—	—	—	31	2015	P９区	道路1 外盛土	盛土内	10世紀後半	P9-W162-2	・・ □「　」	(143)	17	2	スギ板目	081	高級アルコール真空凍結
30	647図 PL158	64	—	—	—	—	2015	P10区	道路1	第４・５次盛土	10世紀代	P10-W423 ②	・・ ・「□□「　」	(87)	(7)	4	スギ板目	081	高級アルコール真空凍結
31	647図 PL158	63	—	—	—	—	2015	P10区	道路1	第４・５次盛土	10世紀代	P10-W423 ①	・・ ・「□□□□ ・「□□	(94)	(6)	4	スギ板目	081	高級アルコール真空凍結
32	647図 PL158	46	—	—	二（３）	33	2015	P10区	道路1	第４・５次盛土	10世紀後半～11世紀前半	P10-W276	□一石」	(152)	24	3	スギ板目	059	高級アルコール真空凍結
33	647図 PL158	74	—	—	—	—	2015	P10区	道路1	第４・５次盛土	10世紀代	P10-W422	・「　　」 ・「□□□□□□□〔和カ〕年「　」八□七「　」	285	28	5	スギ板目	011	高級アルコール真空凍結
34	647図 PL159	66	—	—	—	—	2015	P10区	道路1	第４・５次盛土	10世紀代	P10-W497	「く蘇民将来	(176)	45	8	スギ板目	039	高級アルコール真空凍結
35	647図 PL159	65	—	—	—	—	2015	P10区	道路1	第２次盛土	８世紀後半	P10-W464	□□□□　□	(83)	(9)	4	スギ板目	081	高級アルコール真空凍結

表88　木簡観察表（6）

報告番号	PL番号	仮番号	木簡研究			シンボ番号	調査年度	出土地区	出土位置		出土層位等の時期	取上番号	釈文	法量（㎜）			樹種木取り	型式	保存処理
			36号	37号	38号				遺構	層位				長さ	幅	厚さ			
36	647図 PL159	67	—	—	—	—	2015	P10区	道路1	盛土内		P10-W506	□ □［万カ］ □	80	16	6	スギ板目	081	高級アルコール真空凍結
37	648図 PL159	61	—	—	—	34	2015	P10区	道路1	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	7世紀末～8世紀初頃		□	(9)	(4)	2	不明広葉樹	091	高級アルコール真空凍結
38	648図 PL159	53	—	—	二(11)	40	2015	P10区	道路1	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	7世紀末～8世紀初頭	P10-W571	□□ □	(128)	38	6	スギ柾目	081	高級アルコール真空凍結
39	648図 PL159	51	—	—	二(9)	42	2015	P10区	道路1	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	7世紀末～8世紀初頭	P10-W639	・「〈土ア加无麻呂」 ・「〈表」〔俵〕	127	17	3	スギ板目	033	高級アルコール真空凍結
40	648図 PL159	55	—	—	—	39	2015	P10区	道路1	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	7世紀末～8世紀初頭	P10-W641	・「□□」 ・「□□」	108	14	3	スギ板目	051	高級アルコール真空凍結
41	648図 PL160	49	—	—	二(7)	37	2015	P10区	道路1	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	7世紀末～8世紀初頭	P10-W647	・×村三守□□□□□□ ・召□参出□□□	(194)	30	2	スギ板目	081	高級アルコール真空凍結
42	648図 PL159	50	—	—	二(8)	36	2015	P10区	道路1	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	7世紀末～8世紀初頭	P10-W656-1	□ □」	(188)	23	2	スギ柾目	011	高級アルコール真空凍結

表89　木簡観察表（７）

報告番号	PL番号	仮番号	木簡研究			シンボ番号	調査年度	出土地区	出土位置		出土層位等の時期	取上番号	釈文	法量（㎜）			樹種木取り	型式	保存処理
			36号	37号	38号				遺構	層位				長さ	幅	厚さ			
43	648図 PL160	56	—	—	二 (12)	35	2015	P10区	道路1	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	7世紀末～8世紀初頭	P10-W672	・□〔召カ〕皮田臣佐　服ア臣佐□□ ・□□〔官カ〕二今急	(164)	23	4	スギ 柾目	019	高級アルコール真空凍結
44	649図 PL160	52	—	—	二 (10)	41	2015	P10区	道路1	第1次盛土敷葉・敷粗朶層	7世紀末～8世紀初頭	P10-W567	「別□〔為カ〕此	(103)	38	5	スギ 板目	019	高級アルコール真空凍結
45	649図 PL160	33	—	—	二 (2)	32	2015	P10区	条里28	下面	10世紀後半	P10-W102	「須留女	(184)	24	6	スギ 柾目	019	高級アルコール真空凍結
46	649図 PL160	34	—	—	二 (14)	43	2015	P10区	道路1 外盛土	盛土内	10世紀後半	P10-W178	・「九月十五日苅　□□　□□廿四束　殿□〔料カ〕　貞吉卅二束　□□ □〔供カ〕田廿七　□□廿四束　□□卅束　真廿□□　□廿束 □□田　□□廿一束〔位カ〕　寛丸廿一束　□人　□□□□□」 ・「　二百十六束	380	35	5	スギ 板目	011	高級アルコール真空凍結
47	649図 PL161	58	—	—	—	—	2015	P10	道路1 外盛土	—	10世紀代	P10-W1520	「□□	(60)	25	9	スギ 板目	061	高級アルコール真空凍結

表90　木簡観察表（8）

報告番号	PL番号	仮番号	木簡研究			シンボ番号	調査年度	出土地区	出土位置		出土層位等の時期	取上番号	釈文	法量（㎜）			樹種木取り	型式	保存処理
			36号	37号	38号				遺構	層位				長さ	幅	厚さ			
48	649図 PL161	62	—	—	—	—	2015	P10区	道路1 外盛土	粗粟層	10世紀後半～11世紀前半	P10-W147	・・「冂冂 凵凵	(63)	23	6	スギ板目	061	高級アルコール真空凍結
49	650図 PL165	77	—	—	—	—	2015	P10区	条里28	—	10世紀代	P10-W474	「□承和十二年三月十七日奉書写般若多心経卅四巻〔糸カ〕 □□廣女宅 糸井廣成宅 □□□□□ 〔部鴨取宅カ〕	457	96	14	スギ板目	061	高級アルコール真空凍結
50	651図 PL161	42	—	—	二（4）	46	2015	P11区	道路1	盛土内	10世紀後半～11世紀前半	P11-W6	×段籾壱斛」	(119)	22	8	スギ板目	059	高級アルコール真空凍結
51	651図 PL161	31	—	—	二（6）	45	2015	P11区	道路1	盛土内	10世紀後半～11世紀前半	P11-W28	「＜伊佐子籾一石」	204	25	5	スギ板目	033	高級アルコール真空凍結
52	651図 PL161	68	—	—	—	—	2015	P11区	道路1	第4・5次盛土	9～10世紀	P11-W455	「冂 凵」	154	24	3	スギ板目	011	高級アルコール真空凍結

表91　木簡観察表（９）

報告番号	PL番号	仮番号	木簡研究			シンボ番号	調査年度	出土地区	出土位置		出土層位等の時期	取上番号	釈文	法量（㎜）			樹種木取り	型式	保存処理
			36号	37号	38号				遺構	層位				長さ	幅	厚さ			
53	651図 PL161	73	—	—	—	—	2015	P11区	道路1 新側溝	—	10～11世紀頃	P11-W48	「＜□□」	102	31	7	スギ 板目	032	高級アルコール真空凍結
54	651図 PL162	38	—	—	二（5）	44	2015	P11区	道路1 新側溝	—	10世紀後半～11世紀前半	P11-W779	「稲十七束 籾三石 □〔杯カ〕米一石五× 十一月十七日収	(165)	34	9	スギ 板目	011	高級アルコール真空凍結
55	651図 PL161	45	—	—	—	50	2015	P11区	道路1 外盛土	下面	10世紀後半	P11-W790	「＜□□」	145	18	2	スギ 板目	033	高級アルコール真空凍結
56	652図 PL162	36	—	—	二（16）	48	2015	P11区	道路1 外盛土	盛土内	10世紀後半	P11-W290	九月十八日前員七十一束　辻七十束 廿六横木田　穂一束四把　食料一束	(230)	32	5	ヒノキ 板目	081	高級アルコール真空凍結
57	652図 PL162	43	—	—	二（15）	49	2015	P11区	道路1 外盛土	粗朶層内	10世紀後半	P11-W247	「天慶十年	(96)	24	7	スギ 板目	061	高級アルコール真空凍結
58	652図 PL162	37	—	—	二（17）	47	2015	P11区	道路1 外盛土	上面	10世紀後半？	P11-W434	「長比子	(270)	37	6	スギ 板目	011	高級アルコール真空凍結

表92　木簡観察表(10)

報告番号	PL番号	仮番号	木簡研究			シンボ番号	調査年度	出土地区	出土位置		出土層位等の時期	取上番号	釈文	法量（mm）			樹種木取り	型式	保存処理
			36号	37号	38号				遺構	層位				長さ	幅	厚さ			
59	652図 PL162	75	—	—	—	—	2015	P11区	道路1 外盛土	下面	10世紀代	P11-W624	「冂 凵」	124	25	3	スギ 板目	081	高級アルコール真空凍結
60	652図 PL162	76	—	—	—	—	2015	P11区	河道14	最上層	7世紀後半	P11-W1257	□□□□	(93)	13	3	スギ 板目	081	高級アルコール真空凍結
61	652図 PL162	44	—	—	二 (22)	51	2015	P11区	—	Ⅳ層	10世紀後半～11世紀前半	P11-W573	〔木カ〕 □稈一石」	(128)	24	4	スギ 板目	059	高級アルコール真空凍結
62	653図 PL163	20	—	(12)	—	4	2013	2区	道路1	—	10世紀後半～11世紀前半	W2-96	「勝郷戸主□〔勝カ〕マ大麻呂	(98)	27	6	スギ 板目	019	高級アルコール
63	653図 PL163	19	—	(11)	—	6	2013	2区	道路1 側溝		10世紀後半～11世紀代	W2-112	「く□□子□〔籾カ〕九斗五升	188	30	7	スギ 板目	033	高級アルコール
64	653図 PL162	78	—	—	—	—	2014	2区	道路1 側溝	下面	10世紀代	W2-133	「冂 凵」	(131)	22	5	スギ 板目	061	高級アルコール真空凍結

表93　木簡観察表（11）

報告番号	PL番号	仮番号	木簡研究			シンボ番号	調査年度	出土地区	出土位置		出土層位等の時期	釈文	法量（㎜）			樹種木取り	型式	保存処理
			36号	37号	38号				遺構	層位			長さ	幅	厚さ			
65	653図 PL163	18	—	（5）	—	5	2013	2区	—	Ⅳ層	10世紀後半 ～11世紀前半	「殖女八人 西殿三人徳谷一人今位三人 即一人　男三人 少子一人 今位宅婦路師　預一人 男四人少子一人　目代二人 〔×大〕 已上十七人 少子二人大十五人 」取上番号　W２－11	147	138	8	スギ 板目	061	高級アルコール

報告番号	PL番号	仮番号	木簡研究			シンボ番号	調査年度	出土地区	出土位置		出土層位等の時期	取上番号	釈文	法量（㎜）			樹種木取り	型式	保存処理
			36号	37号	38号				遺構	層位				長さ	幅	厚さ			
66	653図 PL163	17	—	（1）	—	2	2013	2区	—	Ⅳ層	10世紀後半 ～11世紀前半	W2-40	「＜籾一石」	152	22	5	スギ 板目	033	高級アルコール
67	654図 PL163	8	—	(13)	—	1	2013	2区	—	Ⅲ層下面 ～Ⅳ層上面	10世紀後半 ～11世紀前半	W2-12	「＜赤稲一石	(135)	29	7	スギ 板目	039	高級アルコール
68	654図 PL163	15	—	（2）	—	3	2013	2区	—	Ⅲ層	11世紀代以降	W2-42	「＜□一石〔籾カ〕□□□」	207	21	5	スギ 板目	033	高級アルコール
69	654図 PL164	23	—	—	一 （2）	52	2014	P12区	道路1 外盛土	盛土内	10世紀後半	P12-W861	「□成道籾一石〔生カ〕」	193	36	4	スギ 板目	033	高級アルコール真空凍結
70	654図 PL164	27	—	—	一 （5）	54	2014	P13区	—	Ⅳ層上面	10世紀後半 ～11世紀前半	P13-W505	「下□□ □ □」	150	25	3	スギ 板目	051	高級アルコール真空凍結

表94　木簡観察表(12)

報告番号	PL番号	仮番号	木簡研究			シンポ番号	調査年度	出土地区	出土位置		出土層位等の時期	取上番号	釈文	法量（mm）			樹種木取り	型式	保存処理
			36号	37号	38号				遺構	層位				長さ	幅	厚さ			
71	654図 PL164	29	—	—	—	55	2014	P13区	—	Ⅳ層	10世紀後半～11世紀前半	P13-W509	□ ⌋	(87)	14	3	スギ板目	081	高級アルコール真空凍結
72	654図 PL164	25	—	—	—（1）	57	2014	P14区	条里41	盛土中	10世紀後半	P14-W646	可良无□□〔於カ〕□□□	(105)	50	4	スギ柾目	081	高級アルコール真空凍結
73	655図 PL164	26	—	—	—（3）	59	2014	P15区	盛土32	盛土下層	10世紀後半	P15-W851	「〈志保生靱」	124	22	3	スギ板目	033	高級アルコール真空凍結
74	655図 PL164	24	—	—	—（6）	58	2014	P15区	—	Ⅳ層下面	10世紀後半	P15-W1759	・「〈□□〔冬カ〕 ・「〈□□〔十カ〕 ・「〈□□	(91)	37	6	スギ板目	039	高級アルコール真空凍結
75	655図 PL164	21	—	—	—（4）	61	2014	P16区	—	Ⅳ層相当層	10世紀後半～11世紀前半	P16-W230	「蘇民□来子孫家	(166)	35	3	スギ板目	039	高級アルコール真空凍結

表95　墨書・墨画土器観察表

※は推定復元値、△は現存値を表す

報告番号		地区名	取上番号	出土位置	種別　器種	釈文	墨書記載位置		法量（ｃｍ）			備考
									口径	器高	底径	
1405	656図 PL166	Ｐ１区	Ｐ１－739	Ⅰ層	須恵器　高台杯	小原	外面	底面	-	△8.2	△2.2	
1406	656図 PL166	10区	10-9	礫包含層	土師器　杯	貴	内面		-	-	△6.0	
1407	656図 PL166	10区	10-１３７	ⅣB層	須恵器　杯	□　□	外面	底部	-	-	-	二文字分を確認
1408	656図 PL166	Ｐ４区	Ｐ４－232	条里１２	土師器　杯or皿	西　□	内面	見込	-	△7.8	△0.6	
1409	656図 PL166	Ｐ５区	Ｐ５－190	条里１４・１５	須恵器　皿	小原	外面	底面	※14.7	△10.3	3.0	
1410	656図 PL167	Ｐ８区	P8-18	道路１	須恵器　杯	東	外面	底部	-	7.0	△1.1	
1411	656図 PL166	P8区	P8-67	条里２２　上層	須恵器　杯		外面	底部	※11.8	-	4.8	
1412	656図 PL167	Ｐ８区	P8-115	条里２２　下層	須恵器　杯	東	外面	底部	※12.0	△7.2	4.5	
1413	656図 PL166	P10区	P10－565	道路１ 第２次盛土	須恵器　蓋	□□	内面	かえり付近	※13.6	-	1.4	
1414	656図 PL166	P10区	P10－629	道路１ 第２次盛土	須恵器　蓋	□長	内面	見込	※14.4	-	△1.6	印、郷ヵ
1415	656図 PL166	P10区	P10－650	道路１ 第２次盛土	須恵器　高台杯	小原	外面	高台内側	※12.2	8.4	3.7	
1416	656図 PL166	P10区	P10－568	道路１ 第２次盛土	須恵器　杯	□	内面	底部		△10.4	△2.5	十ヵ
1417	656図 PL167	P10区	P10-629	道路１	須恵器　坏	□□	外面	底部	-	△7.0	△1.0	福主ヵ
1418	656図	P10区	P10-1102	道路１	須恵器　高台坏	□□	外面	高台内側	※16.0	△10.6	5.6	
1419	656図 PL166	P10区	P10－836	道路１ 敷葉層	須恵器　高台杯	鎰	外面	高台内側	-	-	△2.4	
1420	656図 PL166	P10区	P10－92	道路１ 新側溝	須恵器　皿OR杯	中　□	外面	底面	-	-	-	
1421	656図 PL167	P10区	P10－401	道路１ 道路外盛土	土師器　皿	□　□	外面	底部	※14.2	-	△2.5	
1422	657図 PL167	P12区	P12－228	道路１側溝 下面	須恵器　杯	□	外面	底部			△1.3	横、黄ヵ
1423	657図	P12区	P12－257	道路１外盛土 下面	須恵器　杯	東	内面	見込	-	-	-	
1424	657図 PL167	P12区	P12－354	道路１側溝 埋土中	黒色土器　高台杯	□	外面	高台内側	-	-	△1.4	廣ヵ
1425	657図 PL167	P15区	P15－100	盛土３２ 盛土下層	須恵器　高台杯	東	外面	底部	13.4		4.9	101、102、126接合
1426	657図 PL167	P16区	P16－117	Ⅳ層相当層	須恵器　蓋	新□	内面	かえり付近	※13.8	-	2.0	二文字目平仮名か
1431	659図 PL168	Ｐ１区	Ｐ１－212	Ⅳ層相当層 下層	須恵器　蓋	墨画	内面	見込	-	-	△1.7	
1432	659図 PL168	Ｐ１区	Ｐ１－252	Ⅳ層相当層	須恵器　蓋	墨画	内面	見込	-	-	△1.3	
1433	659図 PL168	７区	７－350	Ⅳ層～盛土	須恵器　高台杯	墨画	外面	高台内側	-	△10.0	△1.4	
1434	659図 PL168	Ｐ５区	Ｐ５－163	条里１４・１５	須恵器　高台杯	墨画	外面	高台内側	-	△8.8	△2.0	
1435	659図 PL168	Ｐ５区	Ｐ５－290	条里１４ 埋土上層	須恵器　杯	墨画	内面	見込	-	△7.0	△1.6	
1436	659図	P10区	P10－612	道路１ 第２次盛土	須恵器　杯	墨画	外面	底部	-	△8.6	△2.3	
1437	659図 PL168	P10区	P10－649	道路１ 第２次盛土	須恵器　高台杯	墨画	外面	高台内側	※12.7	8.8	4.2	
1438	659図 PL168	P10区	P10－679 653、637	道路１ 第２次盛土	須恵器　蓋	墨画	内面	かえり付近	※14.4	-	△2.2	
1439	660図	Ｐ１区	Ｐ１-283-１	Ⅳ層相当層	須恵器　皿OR杯	-	外面	底部	-	-	-	絵あるいは文字
1440	660図	Ｐ１区	Ｐ１－288	Ⅳ層相当層	須恵器　高台杯	-	外面	高台内側	-	△8.0	△1.9	
1441	660図	P1区	Ｐ１－387	Ⅳ層相当層	須恵器　高台杯	-	外面	高台内側	-	-	-	
1442	660図	Ｐ１区	Ｐ１－477	Ⅳ層相当層	須恵器　高台杯	-	外面	高台内側	-	△8.4	△1.1	
1443	660図	Ｐ１区	Ｐ１－787	Ⅳ層相当層 下層	須恵器　高台杯	-	外面	高台内側	-	△9.8	△2.3	
1444	660図	Ｐ８区	Ｐ８－147	道路１	土師器　高台杯	-	内面	見込	-	△7.4	△2.2	
1445	660図	Ｐ９区	P9-499、 504、223	道路１外盛土	須恵器　高台坏	-	外面	高台内側	※12.8	8.6	4.0	
1446	660図	P10区	P10-4	道路１	須恵器　高台坏	-	外面	高台内側	※12.9	△8.7	3.8	
1447	660図	P10区	P10－621	道路１ 第４・５次盛土	須恵器　高台杯	-	内面	見込	-	△8.2	△2.7	
1448	660図	P10区	P10－730	道路１ 第２次盛土	須恵器　高台杯	-	外面	底部	※15.5	△11.8	6.0	

表96　刻書土器観察表

報告番号	PL番号	地区名	遺物番号	出土層位	種別　器種	釈文	刻書位置		法量(cm)			備考
									口径	器高	底径	
1427	658図 PL168	Ｐ４区	Ｐ４－210	条里12	土師器　坏	今位	内面	見込	12.0	4.8	3.9	
1428	658図 PL168	Ｐ７区	Ｐ７－18	道路１	土師器　坏	位	内面	見込	-	△5.5	△3.0	
1429	658図 PL168	Ｐ９区	Ｐ９－77	道路１ 改修土①	土師器　高台坏	□　□　□	外面	高台内側	※12.6	△6.8	△4.5	
1430	658図 PL168	Ｐ８区	Ｐ８－95	条里２２	土師器　坏		内面		※11.3	7.4	4.3	

表97　鉄製品・鞴羽口観察表

※は推定復元値、△は現存値を表す

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)			備考
				遺構	層位		長さ(口径)	幅(底径)	厚さ(器高)	
F1	P10-741	662図	P10区	道路１	第２次盛土	鉄鏃	5.9	2.5	0.3	方頭斧箭式
F2	7-183	662図	7区	－	Ⅳ層	穂摘具	7.5	0.7	0.2	木製の柄に装着
F3	7-152	662図	7区	条里１４・15		鎌	7.3	2.7	2.5	
F4	P9-387	662図	P9区	道路１		鎌	16.3	4.1	0.5	
F5	P8-261	662図	P8区	－	Ⅵ層	袋状鉄斧	△ 8.4	4.0	2.7	
F6	P9-520	662図	P9区	河道６		袋状鉄斧	9.9	4.2	1.7	有肩鉄斧
F7	P10-W859	662図	P10区	河道１４		刀子	△ 10.9	1.8	0.6	茎部に木質遺存
F8	P7-479	662図	P7区		Ⅳ層	鋤先	△ 15.4	3.3	0.9	U字形
F9	P11-1620	662図	P11区	河道１４	最上層	鋤先	△ 15.9	4.0	1.3	U字形
F10	P5-188	662図	P5区	条里１４		鋤先	22.3	12.9	0.7	U字形・完形品
F11	P15-118	663図	P15区	阿古山２４号墳	石室内	釘	△ 3.1	0.9	0.6	木質が付着
F12	P15-118	663図	P15区	阿古山２４号墳	石室内	釘	△ 3.8	1.1	0.65	木質が付着
F13	P15-119	663図	P15区	阿古山２４号墳	石室内	釘	△ 3.2	0.7	0.6	木質が付着
F14	P15-117	663図	P15区	阿古山２４号墳	石室内	釘	△ 3.0	0.85	0.51	木質が付着
F15	P15-117	663図	P15区	阿古山２４号墳	石室内	釘	△ 3.5	0.8	0.5	木質が付着
F16	P14-W41	663図	P14区		Ⅲ層	馬鍬	45.4	6.3	5.01	木柄に装着
F17	P11-55	663図	P11区		Ⅲ層	馬鍬	18.8	2.0	0.7	
F18	P12-124	663図	P12区		Ⅱ～Ⅳ層	不明品	△ 9.2	3.0	0.4	
F19	P12-60	663図	P12区		Ⅲ層	不明品	△ 8.7	6.3	0.9	鋳造品
F20	P13-22	663図	P13区		Ⅲ層	鍋	口径　20.1	厚さ　0.75	器高　11.1	五十川分類鍋A
1449	10-8	664図	10区		Ⅳ層相当	羽口	2.4	3.5	2.0	先端部破片
1450	P10-8	664図	P10区	道路１	第２次盛土	羽口	8.2	6.8	3.2	先端部～体部破片

表98　銅製品観察表

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)				備考
				遺構	層位		最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	
Br1	P3-131	665図	P3区		Ⅴ層	内行花文鏡	径　※8.0		0.2	16.5	破鏡
Br2	P7-539	665図	P7区	河道６		重圏文鏡	4.6		0.5	10.7	紐孔径４㎜
Br3	P11-938	665図	P11区	道路１	最下層	放射状区画珠文鏡	径　※6.6		0.2	10.4	
Br4	P10-14	665図	P10区	道路１		銅板	△ 4.8	△ 4.6	0.05	7.87	山岳模様が彫金
Br5	P11-773	665図	P11区	道路1道路外盛土	下面	鋲具	2.8	2.6	0.7	11.3	刺金のみ

表99　骨角器観察表

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	出土位置		器種	法量(cm)				備考
				遺構	層位		最大長	最大幅	最大厚	重さ(g)	
Bo1	P11-1215	666図PL171	P11区	河道６		骨鏃	15.1	1.1	0.5	7.9	
Bo2	P11-1216	666図PL171	P11区	河道６		骨鏃/ヤス	8.15	6.5	0.45	1.84	
Bo3	P11-1431	666図PL171	P11区		Ⅶ層	アワビオコシ	27.7	3.2	1.0	131.5	鹿角製

表100　玉製品・石器・ガラス観察表

遺物番号	取上番号	挿図PL	調査区	遺構	層位	器種	法量(cm)				石材	備考
							最大長	最大幅	最大厚	重さ(g)		
S1	P6-429	667図PL171	P6区	盛土１８		勾玉	3.4	2.3	1.05	10.3	滑石	孔径３㎜
S2	P7-475	667図PL171	P7区	河道６	Ⅴ層	勾玉	4.5	3.0	1.2	19.23	瑪瑙	孔径１～3.5㎜
S3	P7-474	667図PL171	P7区	河道６	Ⅴ層	勾玉	5.1	3.0	1.4	24.54	瑪瑙	孔径１～４㎜
S4	P7-498	667図PL171	P7区	河道６	Ⅴ層	勾玉	5.0	2.8	1.2	21.4	瑪瑙	孔径２～3.5㎜
S5	P11-1236	667図PL171	P11区	河道６	上層	管玉	2.4	0.7	0.7	1.84	蛇紋岩	
S6	10 - 172	668図PL171	10区		Ⅳ層	石鏃	2.8	1.4	0.4	1.5	サヌカイト	
S7	10-260	668図PL171	10区		Ⅳ層相当	石鏃	2.1	1.9	0.4	1.1	黒曜石	
S8	P1-107	668図PL171	P１区		Ⅳ層	石鏃	2.3	1.9	0.4	1.5	サヌカイト	
S9	P1-652	668図PL171	P１区		Ⅳ層	石核	2.5	2.1	1.4	7.4	玉髄	火打石未使用品か
S10	P7-133	668図PL171	P7区	道路１	盛土最上層	火打石	2.9	1.6	1.0	4.6	玉髄	
S11	P10-380	668図	P10区	道路１	第５次盛土	火打石	2.8	1.9	1.0	7.2	玉髄	
S12	P10-508	668図PL171	P10区	道路１	第２次盛土	石核	3.2	2.6	1.1	9.7	黒曜石	火打石か
S13	P10-624	668図PL171	P10区	道路１	第４・５次盛土	石核	9.4	8.1	6.3	532	黒曜石	
S14	P10-1165	668図	P10区	道路１	第１次盛土	火打石	3.4	2.9	1.5	12.9	玉髄	
S15	P11-1595	668図	P11区		Ⅶ層相当	磨石	9.0	4.4	3.3	217.2	安山岩	
S16	P11-1598	669図PL171	P11区	盛土２８	盛土	磨製片刃石斧	3.2	2.5	0.7	10.10	蛇紋岩	
S17	P9-702	669図	P9区		不明	石剣	△ 8.7	2.9	0.85	30.0	粘板岩	
S18	P10-1182	669図	P10区		Ⅷ層相当	太型蛤刃石斧	6.6	6.0	3.2	190.5	閃緑岩	
S19	P11-1572	669図	P11区	河道１５		太型蛤刃石斧	△ 7.5	6.1	5.9	292.5	玄武岩	
S20	P6-298	669図	P6区		Ⅶ層	石庖丁	△ 62.0	5.0	0.4	17.47	結晶片岩	
S21	P10-1065	669図	P10区	盛土２５	盛土中	石庖丁	△ 5.2	6.8	0.5	30.0	結晶片岩	
S22	P12-755	669図	P12区	河道１９	最下層	砥石	△ 6.0	3.3	2.5	55.79	細粒花崗岩	
S23	P10-964	669図	P10区	道路１	第１次盛土	砥石	6.4	2.8	2.4	78.0	細粒花崗岩	
S24	P1-425	669図	P1区	－	Ⅳ層	碁石	1.75	1.7	0.5	2.5	珪岩	
S25	P10-719	669図	P10区	道路１	第１次盛土	碁石	1.4	1.6	0.5	2.0	安山岩	
S26	P10-636	670図	P10区	道路１	第２次盛土	砥石	△ 8.1	6.9	6.2	290.0	凝灰岩	
S27	P9-400	670図	P9区		不明	環石	9.5	9.3	4.5	534.0	珪岩	
G１		667図	P10区	道路１	第１次盛土	小玉	0.2	0.3		0.1		

報告書抄録

ふりがな	あおやよこぎいせき
書名	青谷横木遺跡
副書名	一般国道９号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	ＸＸＸⅦ
シリーズ名	鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	67
編著者名	濵隆造、下江健太、福島雅儀、八峠興、原田克美、坂本嘉和、梅村大輔、百橋明穂、渡辺晃宏、保坂善真、割田克彦、門脇隆志
編集機関	鳥取県埋蔵文化財センター
所在地	〒 680 － 0151　鳥取県鳥取市国府町宮下 1260 番地　TEL（0857）27 － 6711
発行年月日	2018（平成 30）年３月 26 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あおやよこぎいせき 青谷横木遺跡	とっとりけんとっとりし 鳥取県鳥取市 あおやちょうあおや 青谷町青谷	31201	18-0478	35° 30′ 31″	134° 0′ 34″	20130405 ～ 20151225	14,884.9㎡	一般国道９号（鳥取西道路）の改築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
青谷横木遺跡	集　落	縄文時代	杭群、杭列	縄文土器、石器、木製品	・補修痕跡のある丸木舟が完形で出土
	集　落	弥生時代	盛土遺構、木造構造物、畦畔、石敷遺構、河道	弥生土器、石器、木製品、骨角器、玉類	
	古　墳 集　落	古墳時代	阿古山 24 号墳 盛土遺構、整地土、木造構造物、河道	土師器、須恵器、木製品、銅鏡、玉類	
	官　衙 交通遺跡 生産遺跡 祭祀遺跡	古　代	掘立柱建物跡、道路遺構、柱穴、条里遺構、盛土遺構、河道	土師器、須恵器、墨書・墨画土器、施釉陶器、製塩土器、権衡、木簡、木製祭祀具、木製品、獣骨、鉄製品、銅製品	・古代山陰道と考えられる道路遺構を条里遺構とセットで確認。 ・道路遺構では柳の街路樹を検出。 ・「女子群像」が描かれた板絵が出土。
	集　落	中・近世	石積遺構	陶磁器、鉄製品等	

要　約

青谷横木遺跡では縄文時代から中世に至る遺構や遺物を確認した。

縄文時代後･晩期では青谷平野に存在した潟湖での生業活動が窺え、丸木舟が完形で出土した。弥生時代から古墳時代にかけては、山裾に大規模な河道が形成され、護岸施設のあり方や出土遺物等からは山裾に小規模な集落が営まれていた可能性が高い。平野部には畦畔や水路が検出され、低湿地を利用した水田が営まれた。古墳時代後期では阿古山古墳 24 号墳を調査し、横穴式石室を持つ円墳であることが判明した。

飛鳥時代の７世紀末から８世紀初頭には古代山陰道と考えられる道路遺構が確認され、10 世紀後半の道路改修時には条里遺構が一体で構築されていることが判明した。また、道路の外側に築かれた道路外盛土では樹木列が検出され、10 世紀後半に街路樹として柳が植えられていたことが明らかになった。出土遺物では木簡や木製祭祀具が特筆され、２万点を超える木製祭祀具は大規模な律令的祭祀が執り行われたことを示唆し、木簡の内容からは官道沿いに官衙施設が造営されていたことが窺える。その他に、飛鳥時代の『女子群像』が描かれた板絵や山岳文様が描かれた銅板が出土し、国内のみならず東アジアにおける文化交流を示す資料といえる。

鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書67
一般国道９号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ＸＸＸⅦ

鳥取県鳥取市青谷町

青谷横木遺跡Ⅱ

遺物編

発　行　2018年３月26日
編　集　鳥取県埋蔵文化財センター
〒680－0151　鳥取市国府町宮下1260番地
電　話（0857）27－6711
発行者　鳥取県埋蔵文化財センター
印　刷　有限会社タクミコーポレーション
〒680－0911　鳥取市千代水１丁目85